

第 I 章 発掘調査の経過

第 1 節 調査に至るまでの経過

日本道路公団九州支社鹿児島工事事務所は、東九州自動車道(末吉財部IC～国分IC間)の建設を計画し、事業区域内の埋蔵文化財の有無について、鹿児島県教育委員会に照会した。

これを受けて、鹿児島県教育委員会、日本道路公団九州支社鹿児島工事事務所、鹿児島県立埋蔵文化財センターとの間で協議を行い、工事予定区内の埋蔵文化財の分布調査を行うこととした。分布調査は平成6年10月と平成7年5月に実施した。

その結果、工事予定区域内に13か所の遺物散布地や確認調査の必要な地点の所在することが判明した。そこで、再度協議を行い、平成8年4月から用地買収等の条件が整った区域を対象として、順次確認調査を実施することとなった。

確認調査は、桐木遺跡を平成8年4月22日～7月21日に、耳取遺跡を平成8年5月24日～7月5日と平成9年1月28日～1月29日に実施した。

確認調査の結果、旧石器時代から縄文時代晩期の遺物包含層が残存することが判明し、再協議を経て鹿児島県立埋蔵文化財センターが発掘調査を実施することとなった。

第 2 節 発掘調査の組織

平成8年度 確認調査

事業主体者 日本道路公団九州支社鹿児島工事事務所

調査主体者 鹿児島県教育委員会

企画・調整 鹿児島県教育庁文化財課

調査責任者

鹿児島県立埋蔵文化財センター 所長 吉元 正幸

調査企画者

次長兼総務課長	尾崎 進
主任文化財主事兼調査課長	戸崎 勝洋
主任文化財主事兼課長補佐	新東 晃一
主任文化財主事兼第三調査係長	池畑 耕一

調査担当者

文化財主事	宮田 栄二
〃	寺師 孝則
文化財研究員	寺原 徹
文化財調査員	松村 智行

事務担当者

主 査	成尾 雅明
主 査	前屋敷裕徳
主 事	追立ひとみ

平成9年度 本調査

事業主体者 日本道路公団九州支社鹿児島工事事務所

調査主体者 鹿児島県教育委員会

企画・調整 鹿児島県教育庁文化財課

調査責任者

鹿児島県立埋蔵文化財センター 所長 吉元 正幸

調査企画者

次長兼総務課長	尾崎 進
主任文化財主事兼調査課長	戸崎 勝洋
主任文化財主事兼課長補佐	新東 晃一
主任文化財主事兼第二調査係長	立神 次郎

調査担当者

文化財主事	宮田 栄二
〃	大保 秀樹

事務担当者

主 査	前屋敷裕徳
主 査	政倉 孝弘
主 事	追立ひとみ

平成10年度 本調査

事業主体者 日本道路公団九州支社鹿児島工事事務所

調査主体者 鹿児島県教育委員会

企画・調整 鹿児島県教育庁文化財課

調査責任者

鹿児島県立埋蔵文化財センター 所長 吉永 和人

調査企画者

次長兼総務課長	尾崎 進
主任文化財主事兼調査課長	戸崎 勝洋
主任文化財主事兼課長補佐	新東 晃一
主任文化財主事兼第二調査係長	立神 次郎

調査担当者

文化財主事	長野 眞一
〃	大保 秀樹
〃	濱崎 一富
〃	立部 剛

事務担当者

主 査	前屋敷裕徳
主 査	政倉 孝弘
主 事	溜池 佳子

平成11年度 本調査

事業主体者 日本道路公団九州支社鹿児島工事事務所

調査主体者 鹿児島県教育委員会

企画・調整 鹿児島県教育庁文化財課

調査責任者

鹿児島県立埋蔵文化財センター 所長 吉永 和人

調査企画者

次長兼総務課長	黒木 友幸
主任文化財主事兼調査課長	戸崎 勝洋
主任文化財主事兼課長補佐	新東 晃一
主任文化財主事兼第二調査係長	立神 次郎
主任文化財主事	長野 眞一

調査担当者(桐木遺跡)

主任文化財主事	長野 眞一
---------	-------

文化財主事 立部 剛
文化財研究員 宗岡 克英
文化財調査員 切通 雅子
(耳取遺跡)
主任文化財主事兼第二調査係長 立神 次郎
文化財主事 大保 秀樹
" 溝口 学
" 濱崎 一富
文化財研究員 今村 敏照
" 藤野 義久
" 山崎 克之
" 宇都 俊一
" 有馬 孝一
文化財調査員 松村 智行
" 徳田有希乃

事務担当者
総務係長 有村 貢
主 査 政倉 孝弘
主 事 溜池 佳子

平成12年度 本調査
事業主体者 日本道路公団九州支社鹿児島工事事務所
調査主体者 鹿児島県教育委員会
企画・調整 鹿児島県教育庁文化財課
調査責任者

鹿児島県立埋蔵文化財センター 所長 井上 明文
調査企画者
次長兼総務課長 黒木 友幸
主任文化財主事兼調査課長 新東 晃一
課長補佐 立神 次郎
主任文化財主事兼第二調査係長 彌榮 久志
主任文化財主事 長野 眞一

調査担当者(桐木B遺跡)
主任文化財主事 長野 眞一
文化財主事 溝口 学
文化財研究員 宇都 俊一
文化財調査員 栗山 葉子
(耳取遺跡)
文化財主事 大保 秀樹
" 松尾 勉
文化財研究員 西園 勝彦
文化財調査員 松本 信光

事務担当者
総務係長 有村 貢
主 査 政倉 孝弘
主 事 溜池 佳子

平成13年度 本調査
事業主体者 日本道路公団九州支社鹿児島工事事務所
調査主体者 鹿児島県教育委員会

企画・調整 鹿児島県教育庁文化財課
調査責任者 鹿児島県立埋蔵文化財センター 所長 井上 明文
調査企画者
次長兼総務課長 黒木 友幸
主任文化財主事兼調査課長 新東 晃一
課長補佐 立神 次郎
主任文化財主事兼第二調査係長 彌榮 久志
主任文化財主事 長野 眞一

調査担当者
文化財主事 鶴田 静彦
" 岩澤 和徳
" 山崎 省一
文化財研究員 永濱 功治
" 桑波田 武
文化財調査員 樋渡将太郎
" 立神 勇志

事務担当者
総務係長 前田 昭信
主 査 栗山 和己
主 事 池 珠美

第3節 発掘調査の経過

平成9年度は桐木遺跡を主体に、職員2名体制で4月21日～平成10年3月23日まで発掘調査を実施(実働200日間)し、主に国道10号線に面した北斜面(A～E-7～12区)を調査範囲とし、第Ⅹ層までを目標とした。なお、調査面積は約2,100㎡であった。

V層は縄文時代中期の遺物包含層で、瀬戸内系の縄文土器と貼り付け突帯をもつ尖底条痕文土器が大量に出土し、石鏃や石匙の石器類も大量に製作していた。VI層～VIII層は石坂式土器や塞ノ神式土器等の早期の遺物包含層で、広範囲に分布する傾向が窺えた。Ⅹ層からは草創期の隆線文土器や石鏃・礫群等が出土し、石鏃は剥片や碎片の存在から遺跡内で製作した可能性がある。また、遺跡内を国道10号線と平行に水道本管が通っており、調査と平行してこの移設準備も行った。

平成10年度は桐木遺跡の調査を継続し、職員4名体制で4月21日～平成11年3月23日まで調査を実施した(実働191日間)。調査面積は3,827㎡である。昨年の調査結果から、重複した遺物包含層が広範囲に広がる可能性が高いことが予想されるため、トレンチ調査も並行した。その結果、耳取遺跡に面した斜面(北斜面)に遺物包含層が集中し、重複する状況が判明した。他方、南側では時代・時期毎に個別の選地が認められ、大方の遺跡概要を把握できる結果が得られた。本調査は、前年度の調査区の掘り下げを継続しながら周辺へ調査範囲を拡張し、調査の進捗を目指した。

Ⅹ層の縄文時代草創期では集石遺構10基を検出し、ⅩI層からは草創期と重複しさらに東方向に展開を示す細石器石器群を検出した。

平成11年度は、桐木遺跡に職員4名、耳取遺跡に職員4名

の調査体制を組み4月21日から平成12年3月23日まで実施した(実働202日間)。

桐木遺跡では、国道10号線の耳取橋建設工事のため迂回路部分の調査が加わることとなった。

耳取遺跡の確認調査では3文化層の存在が確認されていたが、本調査で縄文時代晩期からナイフ形石器文化に至る11文化層の存在が明かとなった。加えて遺跡の範囲が拡大することとなり、調査期間の延長を余儀なくされた。そのため、12月に職員2名、平成12年1月に職員4名の体制強化を行い、調査体制の強化と調査の進展を図った。

VI層からは、ラッパ状に外に開いた口縁部に耳状取っ手(半月形)が貼り付けられた独特の大型の塞ノ神B式土器が出土している。VII層には縄文時代早期の押型文土器が広範囲に分布し、集石遺構と共に夥しい礫が発見された。X層からは南九州特有の幅広隆帯文土器が丸鑿型石斧や石鏃と共に出土し、桐木遺跡のX層土器との違いを展開していた。XI層・XII層は細石器石器群の包含層で、細石核形態の変遷が辿れそうな充実した資料が出土した。またXIII層では石器群が環状に残され、台形石器を大量に製作していた。

XVII層の剥片尖頭器石器群と平行する礫群が桐木、耳取両遺跡で確認され、礫群の構造・配置構成から有機的に展開した同時期の所産として取り扱った。調査終了直前には線刻礫が出土し、耳取ヴィーナスと命名した。

平成13年度の調査は、末吉財部IC~大隅ICのエリアを調査対象に取り込み、桐木B遺跡と呼称して調査を継続した。耳取遺跡では、XVII層を中心に調査を継続し、3遺跡の礫群総数は90基に達している。

調査体制は桐木B遺跡を職員4名で実施し、遺物包含層の把握と本調査を実施した。9月からは調査の終了した耳取遺跡の職員2名を合流し、遺跡面積は24,000㎡に達している。

平成14年度は桐木B遺跡の調査を実施し、職員7名を投入、平成15年3月で全ての調査を終了した。

第4節 整理・報告書作成の組織

平成14年度

事業主体者 日本道路公団九州支社鹿児島工事事務所

調査主体者 鹿児島県教育委員会

企画・調整 鹿児島県教育庁文化財課

作成責任者

鹿児島県立埋蔵文化財センター 所長 井上 明文

作成企画者

次長兼総務課長 田中 文雄

調査課長 新東 晃一

課長補佐 立神 次郎

主任文化財主事兼第二調査係長 彌榮 久志

主任文化財主事 長野 真一

作成担当者 (耳取遺跡)

文化財主事 大保 秀樹

文化財研究員 真鍋雄一郎

事務担当者

総務係長

主 査

主 事

前田 昭信

栗山 和己

池 珠美

平成15年度

事業主体者 日本道路公団九州支社鹿児島工事事務所

作成主体者 鹿児島県教育委員会

企画・調整 鹿児島県教育庁文化財課

作成責任者

鹿児島県立埋蔵文化財センター 所長 木原 俊孝

作成企画者

次長兼総務課長

調査課長

課長補佐

主任文化財主事兼第二調査係長

主任文化財主事

田中 文雄

新東 晃一

立神 次郎

彌榮 久志

長野 真一

作成担当者 (桐木遺跡)

主任文化財主事

文化財主事

〃

文化財研究員

(耳取遺跡)

文化財主事

文化財研究員

長野 真一

鶴田 静彦

吉井秀一郎

馬籠 亮道

大保 秀樹

真鍋雄一郎

事務担当者

総務係長

主 査

主 事

平野 浩二

福山恵一郎

池 珠美

平成16年度

事業主体者 日本道路公団九州支社鹿児島工事事務所

作成主体者 鹿児島県教育委員会

企画・調整 鹿児島県教育庁文化財課

作成責任者

鹿児島県立埋蔵文化財センター 所長 木原 俊孝

作成企画者

次長兼総務課長

調査課長

課長補佐

主任文化財主事兼第二調査係長

主任文化財主事

賞雅 彰

新東 晃一

立神 次郎

彌榮 久志

長野 真一

作成担当者 (桐木遺跡)

主任文化財主事

文化財主事

〃

〃

〃

文化財研究員

文化財調査員

〃

長野 真一

松尾 勉

八木澤一郎

岩戸 孝夫

元田 順子

馬籠 亮道

鮫嶋 伸吾

山元真美子

(耳取遺跡)

文化財主事 大保 秀樹

文化財研究員 真鍋雄一郎

事務担当者

総務係長 平野 浩二

主 査 福山恵一郎

主 事 竹ノ内有里

報告書作成検討委員会 平成16年12月27日所長他10名

報告書作成指導委員会 平成16年12月24日調査課長他4名

整理作業員

赤塚涼子, 有村貴子, 石坂きくえ, 伊藤ひとみ, 今西ゆかり, 今村智子, 岡島明子, 音堅晴美, 乙藤直美, 加藤明子, 仮屋涼子, 川野高子, 川畑淳子, 肝付まゆみ, 久保可代, 児玉さつ子, 小菌裕子, 小村幸子, 迫間洋子, 鮫嶋みどり, 猿川美和子, 猿渡初美, 砂田せつ子, 瀬戸口良子, 大王美代子, 高岡真由美, 竹之下ハルミ, 立野里沙, 徳重貴子, 長澤みどり, 永野愛子, 花野教子, 林江理子, 濱畑かつえ, 東国原ゆかり, 平岡増子, 藤田みどり, 堀切祥子, 宮原美子, 宮田麻衣子, 山下瑞恵, 雪松幸子

第5節 整理・報告書作成の経過

平成14年度から整理・報告書作成業務を開始し、14年度は耳取遺跡、15年度に桐木遺跡、耳取遺跡、16年度に桐木B遺跡を取り込み、桐木耳取遺跡として報告書作成に努めた。

指導者・協力者

日本道路公団九州支社

日本道路公団鹿児島島工事事務所

末吉町教育委員会

財部町教育委員会

阿部芳郎(明治大学文学部助教授)

安蒜政雄(明治大学文学部教授)

安斎正人(東京大学大学院人文社会系研究科助手)

泉 拓良(京都大学)

稲田孝司(岡山大学文学部教授)

大塚達郎(南山大学教授)

岡村道雄(独立行政法人奈良文化財研究所)

織笠 昭(東海大学文学部助教授) 故人

加藤真二(文化庁記念物課文化財調査官)

木崎康弘(熊本県装飾古墳館)

小田静夫(東京都教育委員会)

小畑弘己(熊本大学文学部助教授)

坂本嘉弘(大分県教育庁文化課)

佐藤宏之(東京大学大学院人文社会系研究科助教授)

白石浩之(愛知学院大学教授)

鈴木正博(早稲田大学文化遺産デジタルアーカイブ研究所
顧問)

高橋信武(大分県教育庁文化課)

橘 昌信(別府大学文学部教授)

藤野次史(広島大学文学部助教授)

峰 和治(鹿児島大学大学院医歯学総合研究科歯科応用解剖学分野助手)

助言者

阿部敬, 雨宮端生, 井ノ上秀文, 岩永哲夫, 岩永雅彦, 岩谷史記, 川道寛, 切通雅子, 倉元良文, 栗山葉子, 桑波田武志, 立神勇志, 立部剛, 堂込秀人, 萩原博文, 藤木聡, 古森政次, 松本茂, 吉留秀敏, 綿貫俊一

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

第1節 位置と特色

桐木遺跡は、曾於郡末吉町諏訪方字桐木に、そして耳取遺跡は、曾於郡財部町南俣字耳取に所在する。

二つの遺跡が所在する末吉町及び財部町は、県の北東部、大隅半島の最北端に位置する。財部町、末吉町は、両町が属する曾於郡の北部をなすと同時に、県境に位置し、宮崎県都城市と接している。鹿児島県北部から大隅半島北半部にかけてのこの地域の地形を概観すると、東西の山地とこれらに挟まれた低地帯から構成されていることが分かる。東西の山々は、東の鰐塚山地、西の高隈山地に連なり、いずれも九州山地の延長をなし、それらの間の低地帯は、都城盆地とその南の志布志湾及び鹿屋に向かうものである。さらに、こうした基盤の地形の上に、入戸火砕流堆積物の非溶結部が厚く堆積することで、いわゆるシラス台地が広く分布し、桐木耳取遺跡の位置する段丘もシラス台地に相当する。両町の河川はこの台地群をぬうように見られる。これらの諸河川は、財部町及び末吉町北部から東部にかけてを大淀川水系、末吉町中部から南部の境界付近にかけてを菱田側水系にそれぞれ属しており、これらの河川に沿うように集落や水田が散在する。地質は大部分がシラス、ボラなどの火山灰土壌となっている。年平均気温は15.8度、年降水量は2400mm程度である。

さて、桐木耳取遺跡は財部町及び末吉町の町境に位置し、西部の山地から東部の都城盆地に漸移する標高200～360mの丘陵性台地が卓越する地域である。この丘陵性台地は、大淀川水系に属する諸河川により侵食を受け、小台地群に分断されているが、桐木耳取遺跡は今別府川右岸に発達した同一の小台地群の一つに立地する。

◇遺跡を取り巻く地形・水文環境

まず、5万分の1地形図図幅の範囲において行った地形分類によって、遺跡のおかれた地形を概観すると、図幅中央をほぼ南北に走る山地があって、東側の都城盆地に傾く地域と西側の国分低地へ傾く地域を分かっている。南部は隣接する岩川図幅と同じく、西岸に高隈山地があり、その東に東へ傾く牧之原台地が付着し、西高東低の地形を形成している。(第1図)

まず山地は北部より南部に向かって、瓶臺山(543m)、黒石岳(524.7m)、白鹿岳(604m)、荒磯岳(538.7m)と標高500～600mの山々をもつ主として中生代後期から新生代前期になる小起伏山地が連なるが、瓶臺山や白鹿岳を中心とした山地には中起伏山地も見られる。これらの山地を九州を構成する大地形の枠組みの中で見ると、西南日本外帯西縁にあたる九州山地とひと続きの地質構造をもち、南の大隅半島側が大きく屈曲することによって、琉球外弧の北端をなすにいたった地域である。さらに九州山地の延長は、宮崎平野から南南西に続く都城盆地により、東側の鰐塚山地と西側の高隈山地に分けられ、本図幅に見られる山地群は西側の高隈山地から種子島・屋久島へと連なっていく。また、この山地群の西は、

火山フロント及び琉球内弧にある鹿児島地溝の東縁の断層崖によって明確に区分される。

次に山地群に付着するような形で分布するのが、丘陵地である。上述した山地群は約2.8～2.5万年前に噴出した入戸火砕流堆積物によって、その谷が埋められて緩傾斜の丘陵地形を形成したと思われる。さらに、この火砕流堆積物によって形成された台地も広範囲に分布する。この台地は本図幅中央部の山地群を境に、東西にいずれも約300m程の標高を示し、河川による侵食・開析が進んでいるが、その様相は東西で異なる。台地原面を比較的広く残す西側の台地(牧園・春山原・須川原・上野原)に対し、東側は台地を侵食した河谷の斜面が広い部分を占め、台地原面は局部的に残存するに過ぎない。近接する河谷との比高も西側では200～250mに達するのに対し、東側では100m未満であることが多い。

台地に小規模ながら付着するのが段丘面である。本分類では中位段丘面として取り扱った。大淀川水系に属する横市川、後川などが都城盆地の西縁をなす財部町市街地付近に集まる部分に比較的まとまって見出せる。これらは、いずれもシラス台地に多く見られる河成侵食段丘であると思われ、入戸火砕流堆積後、極めて短期間に形成されたであろうことが報告されているが、詳細は後述する。

最後に低地だが、台地や丘陵間の河谷沿いに見られる小規模な谷底平野を除けば、図幅西縁の国分低地が最大である。この低地を含めた始良カルデラ北縁地域には完新世段丘が認められるが、その詳細な地形発達史については、ここでは省略する。図幅東縁は、都城盆地西縁をなす低地が見られ、財部町市街地にあたる。

さて、以上の地形の概観をふまえて、桐木耳取遺跡周辺の地形に絞ってみると、遺跡は黒石岳、白鹿岳、荒磯岳といった山地群から、都城盆地に向かって下る小台地群や中位段丘面に移行する緩やかな斜面上に立地する。両遺跡は国道10号線によって分けられ、現在、別々の町に属しているものの、同一の台地上にあり、遺跡内の遺構、遺物の分布からもひと続きの遺跡であることが分かる。桐木耳取遺跡が立地する台地は、大淀川水系に属する今別府川と村山川によって挟まれており、いずれも東流して大淀川に合流することから、これらによって南北に分断され、東西の細長い形状をなす。遺跡周辺の地形の基盤をなすのは、山地の主体となっている四万十層群であると思われるが、入戸火砕流堆積物によって、その低所が埋積された。さらに、その後の侵食・開析過程によって、現在の地形を形成している。

この侵食・開析過程については、その大半が入戸火砕流堆積後、無植生のうちに、流水による激しい侵食・開析が極めて短期間のうちに行われたという説明がある。本地域でも、台地面のみならず、河成侵食段丘の段丘面や地形分類が表れにくい小規模な階段状の地形における平坦面などにおいて、シラス上位に後述する成層した二次シラスが、露頭や近辺の発掘調査で数多く確認された。加えて、二次シラスの上への

るローム層中に約2.2~2.3万年前の噴出物とされるSz-Tk6(桜島高峠6・P17)が見出せることは、少なくとも、このテフラの堆積までには、現地地形の大半が形成されたことが推察される。

このようにして、台地の分断や高密度の谷分布が本地域でも形成されたが、ここで現在の水系にも目を移してみたい。現在の大淀川水系の原型は前期更新世中葉から後半というかなり古い時期に想定されており、桐木耳取遺跡において確認されている最も古い遺物、遺構である後期旧石器時代以降の古水系は、現水系とほぼ同一の流行が想定できる。ただし、志布志湾に向かって南下する菱田川水系が末吉町内を大淀川と並行しており、両水系は末吉町、財部町の町境付近で分水界をなしている点に特徴がある。特に、桐木耳取遺跡より西方に約3kmの地点は、今別府川と菱田川水系に属する佳例川の最上流部にあたる。この部分については、過去河川の流路変更の可能性がある。菱田川水系に西方から流れる支流や谷については、水系図や接峰面図から見ても、そのまま今別府川に流れ込む方が自然である。おそらく、現在の菱田川水系の上流部は、今別府川に属していたが、その後の菱田川水系によって争奪されたものと思われる。河川争奪の時期の詳細は不明であるが、これまでの先行研究と合わせてみると、入戸火砕流の堆積がその契機であった可能性がある。この河川争奪の原因の一つとしては、侵食基準面すなわち海水面までの距離が考えられる。入戸火砕流堆積後、両河川の開析は旧河谷をなぞるようになされたものと思われるが、仮にこれが同じ速度で進んだとすると、菱田川の方が早く遺跡付近に到達するのは当然である。

さらに、桐木耳取遺跡の属する台地の北を流れる今別府川の縦断曲線を見ると、遺跡付近は同河川の遷移点になっていることに気づく。すなわち、緩やかに東流してきた今別府川が遺跡直下で蛇行するとともに隘路をなす。そして遺跡を通過したところで河川の勾配を増している。これは、後述する砂岩頁岩互層である四万十層群が基盤の高まりとして遺跡付近に見られることで、局地的な侵食基準面となっているためと考えられる。(第1図)

◇遺跡を取り巻く地質環境

地形上の特色は、本地域の地質の相違を反映している。遺跡周辺で見られる最も古い岩石は、砂岩頁岩互層からなる固結堆積物であり、中央部の山地の主体である。これらの岩石は、地質構造的には四万十帯に属し、秩父帯とともに九州山地の主体をなすが、九州南部において、西南日本外帯の構造が南北に急変し、広く南部九州の基盤となっている。四万十帯は北帯と南帯とに分かれるが、本地域に見られるものは、主に白亜紀~古代三紀からなる北帯である。こうした岩石は、第1図図幅南東部の台地を刻む河谷中にも小露頭が見られることにより、図幅南東部には基盤岩として広く分布することが予想される。特に桐木耳取遺跡北側は、この砂岩頁岩互層が基盤の高まりとして地表に露出している。これらの基盤の上に、入戸火砕流堆積物が台地を構成するのだ

が、基盤の高まりが見られる部分では火砕流の堆積が薄く、基盤の低所では厚く堆積しているのは言うまでもない。

現地地形を構成する入戸火砕流堆積物であるが、その大半は非溶結いわゆるシラスである。灰色~淡黄褐色を呈し、その上部は風化により黄褐色に変色していることがある。無層理で淘汰が悪く、軽石礫の他、多数の外来礫を含む。シラス下位においては、溶結凝灰岩に漸移する場合もある。また、シラス上部には成層した二次的な軽石・火山灰層(二次シラス)が認められることが多い。本遺跡及び周辺の遺跡においてもまた同様であった。これは、先述したように火砕流堆積直後、植生に覆われる前に、流水による激しい浸食・堆積が行われたためであると考えられている。

シラス上位、台地面の最上部を覆って、ローム層が分布する。台地面や平坦面においては、3~4mの厚さを示す。このローム層中には多数のテフラが確認される。桐木耳取遺跡においては、上位より、Sz-Ts(桜島大正・P1)、Sz-Bm(桜島文明・P3)、Kr-M(霧島御池)、K-Ah(鬼界アカホヤ)、Sz-Sy(桜島末吉・P11)、Sz-St(桜島薩摩・P14)、Tkn(高野)、Sz-Tk4(桜島高峠4・P15)、Sz-Tk6(桜島高峠・P17)といった9枚のテフラが確認されており、基本的層序に違いは見られない。詳細は層序の項を参照されたい。

なお、桐木耳取遺跡の層序に見られる特質の中で、本遺跡区層(Sz-St・P14)の下位にくるローム層について、顕著な点を2点触れておきたい。

その一つは、本遺跡区層(Sz-St・P14)の下位にくる厚い細粒火山灰層であるX I層である。本層は、腐植土層であるX層の下位に、非常に厚く堆積した細粒火山灰層であり、乾燥すると白色でガラス質の火山灰が主体であることが分かる。特に、桐木遺跡北半部より耳取遺跡にかけて顕著で、台地全体をブランケット状に覆っていることなどが野外で観察された。鏡下の観察においても多量の火山ガラスからなることが明瞭なため、シラスの火山灰の部分が二次的に堆積して形成されてきた層であるものと思われる。この地層は水流による淘汰は受けておらず、ラミナも不明瞭なため、近接する台地に何らかの原因で裸地が生じ、ここよりシラスが供給された風成層であると推定される。この層が顕著な箇所では、中間部にやや腐食した層が見られることから、2回に分けて火山灰の供給が行われた可能性もある。台地に裸地が生じた理由については、豪雨に伴う崖崩れや気候の寒冷化などが考えられるが、詳細は不明である。

ローム層中で顕著なもう一つの特徴として、暗色帯の形成があげられる。シラス台地上にSz-St直下の暗色帯の形成については、これまでの先行研究の中で、主に腐食の集積によるものとされている。腐食に関わる要因としては、植生、気候、母材の堆積に整理される。これらの要因が何らかの原因で崩れれば、結果として土壌の色調の違いとなるものと考えられる。

桐木耳取遺跡については、まずテフラ層の降下堆積が腐食の集積バランスを崩す要因としてあげられる。すなわち、テフラ層の降下による多量の火山細屑物やこれらによって増加

する風成塵によって腐食の集積のバランスがくずれ、結果として暗色帯が形成されないことになる。しかし、テフラ降下から時間が経過し、台地上の植物繁茂などにより、母材の供給量が良好になると腐食の集積バランスも良好になり、暗色帯が形成される。すなわち、P17, P16, P15, Tknという4枚のテフラ層では暗色帯が形成されず、その間に暗色帯が形成されている。具体的に耳取遺跡の層序で見ると、XⅤ層の暗色帯、XⅢ層下部の暗色帯、XⅡ層上部～XⅠ層下部の暗色帯が該当する。XⅡ層上部～XⅠ層下部の暗色帯と上位のXⅠ層上部の暗色帯の間には、該当する時期にテフラの記載が認められないので、暗色帯の形成を妨げた要因をテフラに求めることができない。Sz-St直下の黒色土壌層の形成を気候の寒冷化と大陸起源の広域風成塵に求める説明があるが、細屑物の供給が増加した要因は現在のところ不明である。いずれにしる周辺地域でのローム層中の暗色帯の対比をさらに進める必要があるものと思われる。

第2節 歴史的環境

耳取遺跡と桐木遺跡は、国道10号線を隔てて財部町南俣と末吉町通山に所在する。

末吉町の町名は「住吉から転化したもので、この地に住むによい国」といういわれがある。

古代に日向国が置かれたが、続日本紀に「元明天皇、和銅六年(西暦713年)、日向国から肝坏、贈於、大隅、始羅の四郡を割いて、始めて大隅国を置かれた」とある。この大隅国贈於郡に財部郷があり、その中に末吉は含まれる。

平安時代には島津荘ができ(島津というのは古の都城方面のこと)、鎌倉時代の武家政治の時代になると島津氏が守護及び惣地頭に任せられ、紆余曲折はあるものの約七百年に渡り領有することになる。

明治時代になり行政区分は都城県の贈於郡に属し、同6年に鹿児島県所管に移され、同20年には伊佐、大隅、贈於郡を6郡に分割して、末吉郷は東贈於となる。その後、同22年の市町村制施行により末吉村となり、大正11年10月1日に町制が実施され現在に至る。

財部町の町名は、日光神社に関連する古代「財日奉部」によるとする説がある。「財日奉部」は大和政権の勢力がおおよぶ数か所に、日所に適した処を選び、太陽信仰に基づく日所の祭りの祭祀や、日迎えを行っていた。「財日奉部」の「財部」に由来する地名は、国内にいくつかあったが、現在まで残っているのは本県の財部町だけで、最も古い地名である。

「日所」日光神社や白鹿岳周辺で行われたのではないかと考えられ、現在も日光神社に引き継がれている。

古代の行政区分では日向国諸郡財部郷に属し、その後は末吉町で前述した通りである。

明治4年の廃藩置県後は鹿児島県や宮崎県に属しながら、明治22年の市町村制施行により財部郷から財部村になり、大正15年に町制が実施され現在に至る。

昨今、全国的に市町村合併が行われつつあり、この両町も平成17年には大隅町と合併して曾於市を結成する予定である。

埋蔵文化財については、昭和58年に鹿児島県教育委員会が実施した大隅地区埋蔵文化財分布調査によって多くの遺跡が確認された。その後も、特殊農地整備事業や東九州自動車道建設に伴って、発掘調査が行われ多大な成果を挙げている。

旧石器時代の遺跡としては、末吉町南之郷の田代谷遺跡で剥片尖頭器が採集されただけであったが、桐木耳取遺跡に隣接する国道10号末吉インターチェンジ関連事業に伴う桐木遺跡(東九州自動車道建設に伴う桐木遺跡と区別するために、以後国土交通省桐木と記述する)の発掘調査では、ナイフ形石器文化期や細石刃文化期の遺構・遺物が出土し、注目を浴びている。財部町の九養岡遺跡では、ナイフ形石器文化期の三稜尖頭器とその製作に関する接合資料が確認され、三稜尖頭器製作技法を窺い知ることができた。この地域は桜島の火山灰と入戸火砕流が良好に堆積しており、旧石器時代の年代を決める鍵層となっている。

縄文時代では、草創期の遺跡として、国土交通省桐木遺跡で遺構・遺物、早期の遺跡として高篠坂遺跡・片蓋前遺跡・踊場遺跡・関山西遺跡・関山遺跡等で遺構・遺物が出土している。

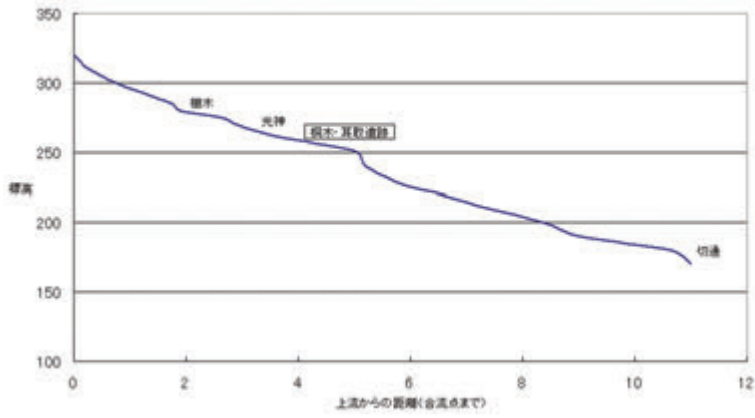
縄文時代晩期の遺跡としては、晩期の入佐式土器の標識遺跡である入佐遺跡が末吉町諏訪方に所在し、住居跡と多くの精製土器・粗製土器が見つかっている。その他長十塚遺跡・踊場遺跡・九日田遺跡・関山西遺跡・関山遺跡等が知られている。

古代から中世にかけての遺跡は、踊場遺跡・高篠遺跡・長十塚遺跡が知られる。踊場遺跡では、墨書土器と宗教的色彩の強い掘立柱建物跡を検出し、高篠遺跡では石帯や墨書土器から官衙的な位置づけが、「牧」の墨書土器や馬具、大量の焼き塩壺からは牧経営が推測される。











<参考文献>

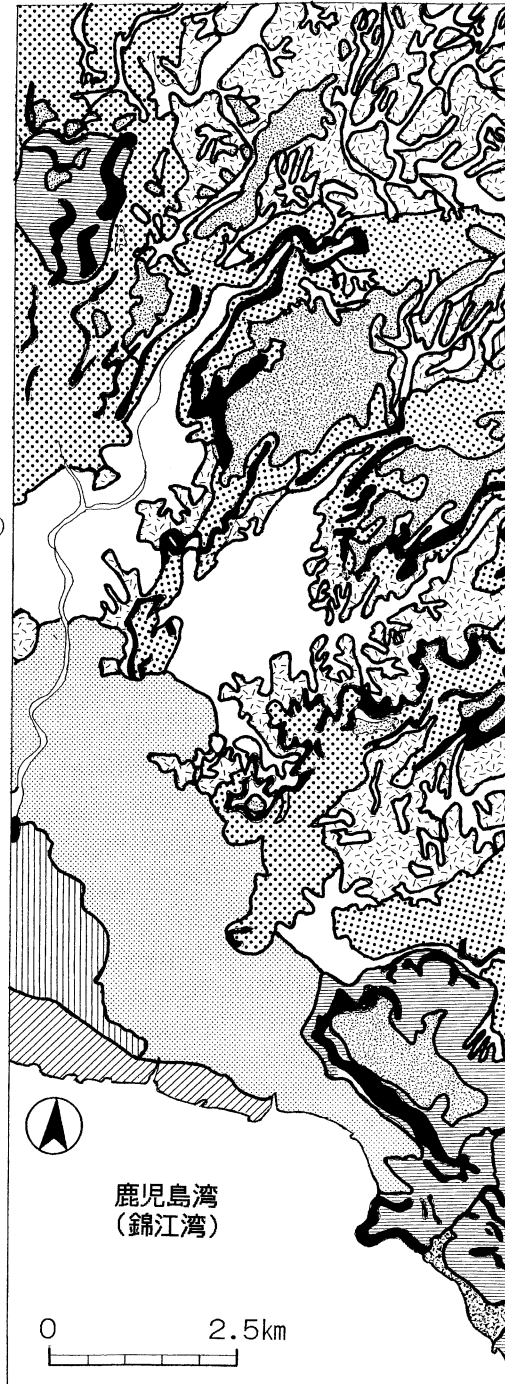
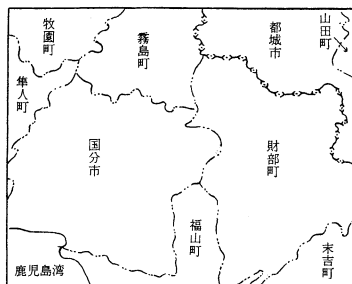
- 1 「末吉町郷土史」高木秀吉
- 2 「財部町郷土史」財部町郷土史編纂委員会 1997
- 3 「桐木遺跡」鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書75 2004
- 4 「踊場遺跡・九養岡遺跡・高篠遺跡」鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書71 2004
- 5 「高篠坂遺跡・永磯遺跡」鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書61 2003
- 6 「大隅地区埋蔵文化財分布調査概報-昭和58年度」鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書29 1984
- 7 「長十塚遺跡・石仏段遺跡」財部町埋蔵文化財発掘調査報告書1 1987
- 8 「九日田遺跡・供養之元遺跡・前原和田遺跡」鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書36 2002

今別府川河川縦断曲線

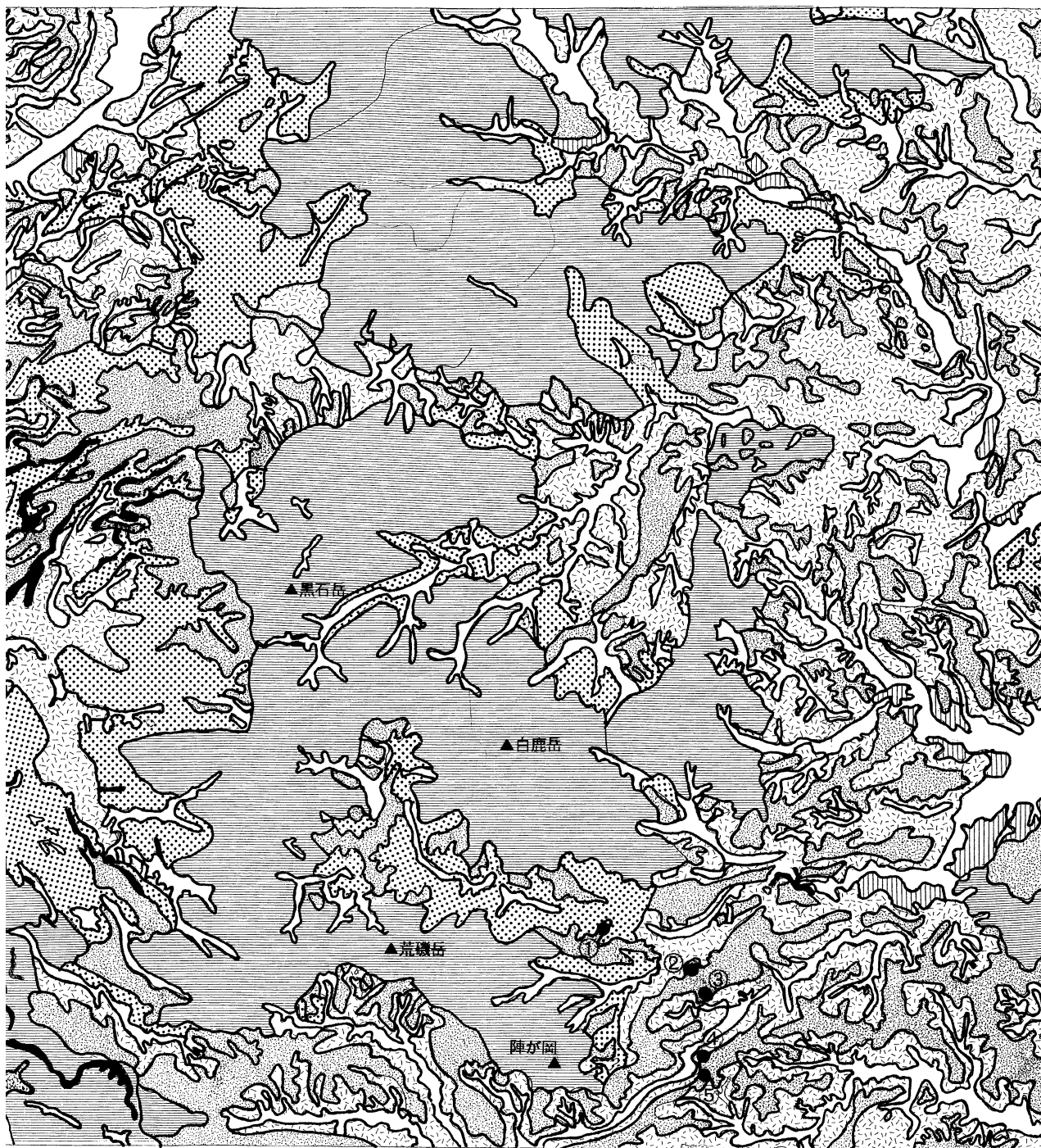


凡例

-  山地
-  丘陵
-  斜面
-  台地面 (高位段丘面)
-  中・低位段丘面
-  谷底平野
-  三角洲及び海岸平野
-  扇状地
-  人工地形
-  急崖



第1図 2遺跡の周辺の地形



地図中●印は遺跡の位置を表す

①:高篠遺跡 ②:九養岡遺跡 ③:踊場遺跡

④:耳取遺跡

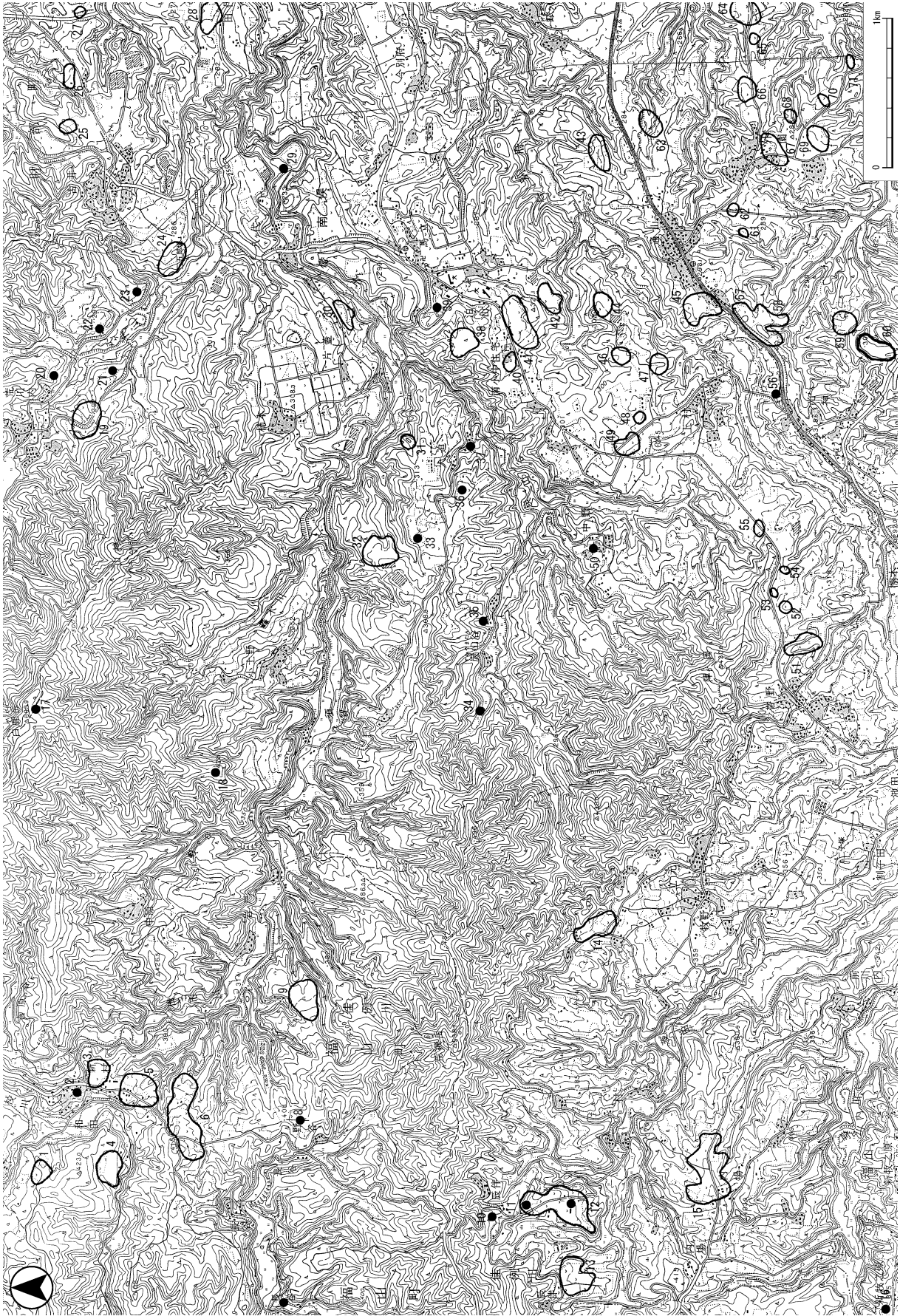
⑤:桐木遺跡

第1表 遺跡地名表(1)

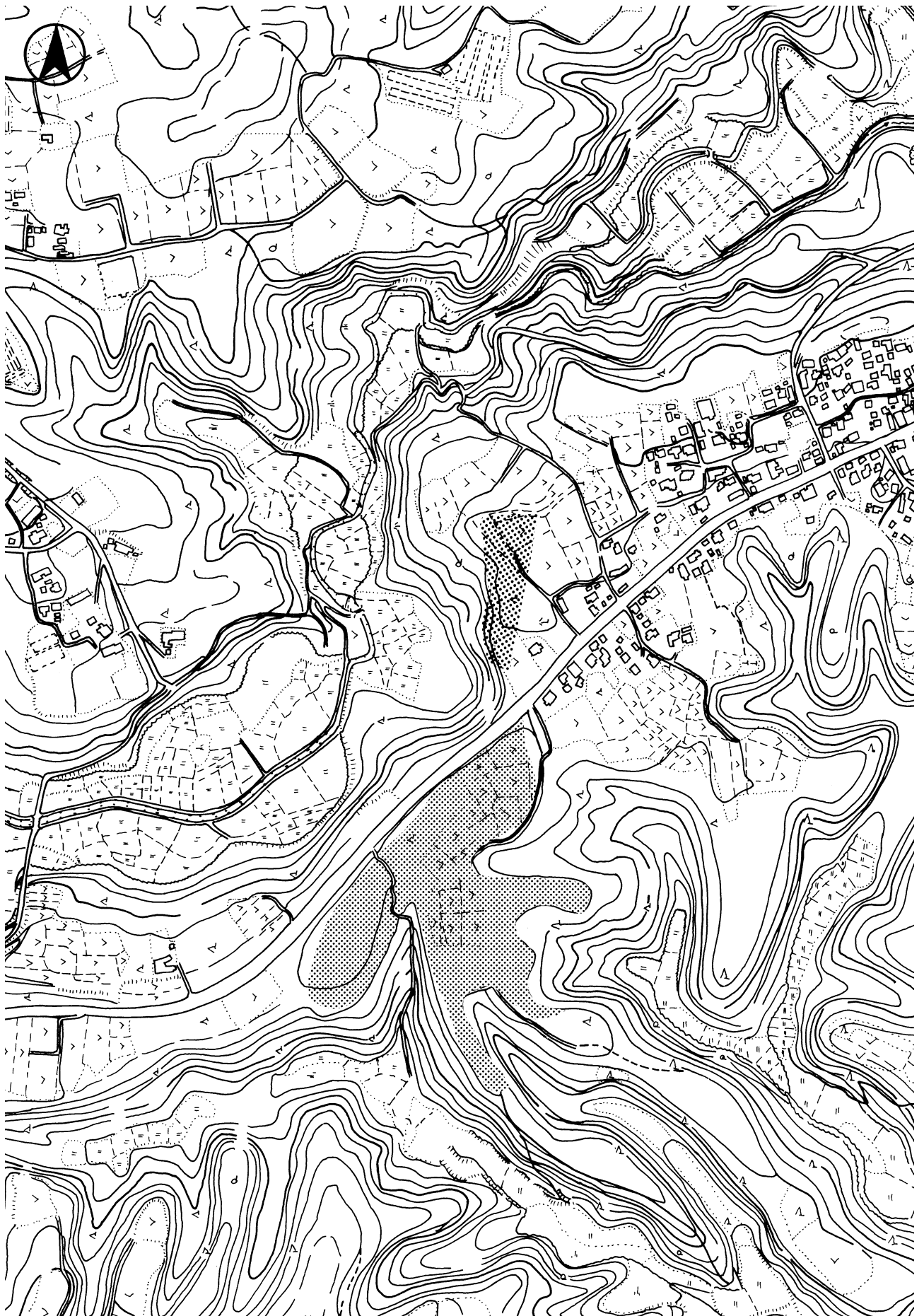
番号	遺跡名	所在地		地形	時代	遺物等	備考
1	小坂元A	福山町	比曾木野 小坂元		縄・古・歴	土器・成川式・土師器	
2	新村	"	" 新村	台地	縄(中)	岩崎式	
3	前原	"	" 前原	台地	縄・古・歴	土器・成川式・土師器	
4	城ヶ尾	"	" 城ヶ尾	台地	旧・縄・古	ナイフ形石器・塞ノ神式・成川式	H15.3 報告書
5	前原和田	"	" 前原和田	台地	旧・縄(早)	ナイフ形石器・押型文	H14.3 報告書
6	供養之元	"	" 供養之元	台地	縄・古	塞ノ神式・成川式	H14.3 報告書
7	長谷	"	" 長谷	台地	弥	大型石斧	
8	野谷下	"	" 野谷下		古・歴	成川式・土師器	
9	永磯	"	" 永磯	台地	旧・縄・歴	細石器・手向山式・土師器	H15.3 報告書
10	辰伴	福山町	佳例川 辰伴	台地	弥	土器	
11	栗ノ脇	"	" 栗ノ脇		縄	土器	
12	芹牟田	"	" 芹牟田		縄	土器	
13	赤松段	"	" 赤松段		縄	土器	
14	山神段	"	" 山神段		縄	土師器	
15	一本松	"	" 一本松	台地	縄(中・後)	阿高式・岩崎上層式・指宿式	H10 調査
16	花建原	"	下牧之原 花建原			須恵器	
17	黒棚城棚	財部町	南俣 天子馬場				
18	花平陣跡	"	" 丸鶴城ヶ原				
19	黒棚	"	北俣 黒棚	台地	縄(早)・歴	押型文・磨製石斧・土師器	
20	松峯	"	" 松峯	台地	歴	内黒土師器	
21	下戸越	"	" 下戸越	台地	歴	土師器	
22	柳ノ口	"	" 柳ノ口	台地	縄(前~後)	轟式・春日式・阿高式・指宿式・石鏃	
23	古井後ヶ谷	"	" 古井後ヶ谷	台地	縄		
24	西原	"	" 西原	台地	縄(早)・歴	押型文・土師器	
25	古井下原	"	" 古井下原	台地	歴	土師器	
26	宮後	"	" 宮後	台地	歴	土師器	
27	霧島迫B	"	" 霧島迫	台地	歴		
28	田代ノ上	"	南俣 田代ノ上	台地	縄・歴	土師器・須恵器	
29	久保谷	"	" 久保谷	台地	歴	土師器	
30	八ヶ代上	"	" 八ヶ代上	台地	縄(早・後)・歴	前平式・土師器	
31	高篠坂	"	" 高篠坂	台地	縄(早)	前平式・手向山式	H15.3 報告書
32	高篠	"	" 高篠	台地	古代	土師器・須恵器	H16.3 報告書
33	大迫A	"	" 大迫	台地	縄(早・前)	轟式・黒曜石	
34	炭山谷	"	" 井牧ヶ平俣迫	台地	縄・歴	石斧・土師器	
36	大迫B	"	" 大迫	台地	歴	土師器	
37	片蓋前	"	" 片蓋前	台地	縄(早・前)	押型文・塞ノ神B式・チャート	
35	炭山	"	" 炭山	台地	縄(後)・歴	指宿式・土師器	

第2表 遺跡地名表(2)

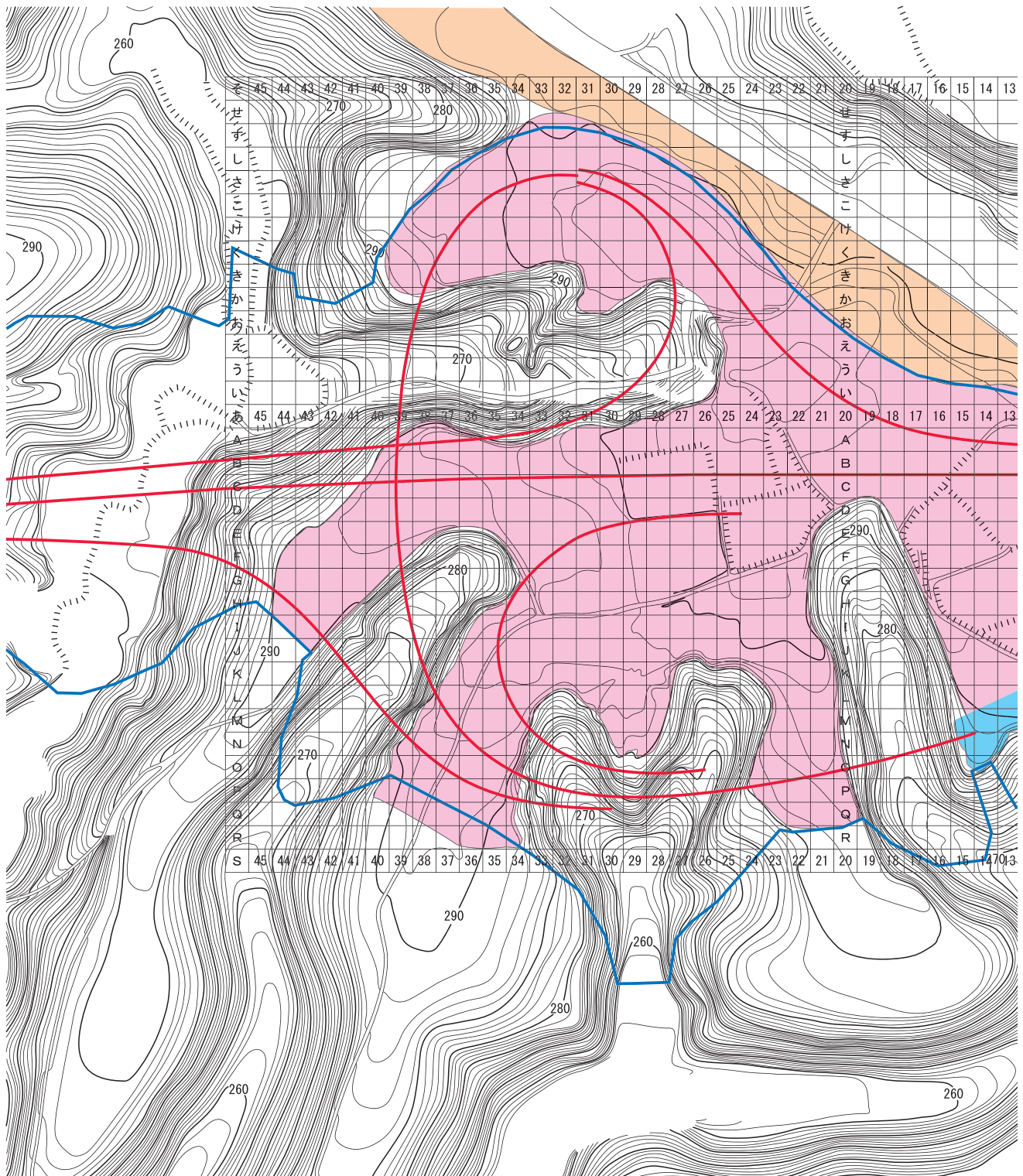
番号	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物等	備考
38	九養岡	〃 〃 九養岡	台地	旧・縄・歴	三稜尖頭器・手向山式・土師器	H16.3 報告書
39	馬立	〃 〃 馬立	台地	歴(奈良)	土師器・須恵器	
40	石仏段	〃 〃 石仏段	台地	縄(晩)・歴	黒色磨研土器・土師器	S61 調査
41	長十塚(城ヶ尾)	〃 〃 長十塚	台地	縄・歴	土器・石鏃・土師器・須恵器・土錘	S61 調査
42	踊場	〃 〃 踊場	台地	縄(早)・歴	塞ノ神式・土師器・須恵器	H16.3 報告書
43	王ヶ平	〃 〃 王ヶ平	台地	歴	土師器・須恵器	
44	九日田	〃 〃 九日田	台地	縄(早・後)・歴	石坂式・黒川式・土師器	H14.3 報告書
45	耳取	〃 〃 耳取	台地	旧・縄・歴	ナイフ形石器・吉田式・土師器・礫群	本報告書
46	前山2	〃 〃 前山	台地	縄(晩)・歴	黒色磨研土器・土師器	
47	前山1	〃 〃 前山	台地	歴	土師器	
48	芭蕉ヶ迫2	〃 〃 芭蕉ヶ迫	台地	縄・歴	石皿・敲石・土師器	
49	芭蕉ヶ迫1	〃 〃 芭蕉ヶ迫	台地	縄・歴	土器・土師器	
50	中野	〃 〃 中野	台地	歴	土師器・須恵器	
51	長田	〃 〃 長田	台地	縄・歴	土器・土師器	
52	梅田	〃 〃 梅田	台地	縄・歴	土器・土師器	
53	荷床2	〃 〃 荷床	台地	歴	土師器	
54	八畝	〃 〃 八畝	台地	縄・歴	土器・土師器	
55	荷床1	〃 〃 荷床	台地	歴	土師器	
56	野方	〃 〃 野方	台地	縄・歴	土器・土師器・内黒土師器	
57	桐木	末吉町 諏訪方 桐木	台地	旧・縄・歴	ナイフ形石器・船元式・土師器	本報告書
58	桐木B	〃 〃 桐木	台地	旧・縄・歴	塞ノ神式・深浦式・土師器・住居遺構	本報告書
59	関山西	〃 〃 関山西	台地	縄・弥・中世	土器・土師器・須恵器	H13 調査
60	関山	〃 〃 関山	台地	縄	土器	H13 調査
61	通山上川路	〃 深川 五位塚通山上川路	台地	縄(晩)・中世	夜臼式	S59 調査
62	真方入口	〃 〃 真方入口	台地	縄(前・晩)	轟式	S59 調査
63	中牛牧	〃 〃 中牛牧	台地	縄(晩)・古代	土師器	S61 調査
64	楠木岡C	〃 〃 楠木岡	台地	縄(晩)・古代	土師器	S61 調査
65	楠木岡B	〃 〃 楠木岡	台地	縄(晩)・古代	土師器	S61 調査
66	楠木岡A	〃 〃 楠木岡	台地	縄(晩)・古代	土師器	S61 調査
67	臼杵	〃 〃 臼杵	台地			
68	下ノ窪	〃 〃 五位塚下ノ窪	台地	縄(晩)・古代	入佐式・土師器	
69	四枝道	〃 〃 四枝道	台地	縄(晩)・古代	土師器	S61 調査
70	仮牧	〃 〃 五位塚仮牧	台地	古代	土師器・須恵器	S60 調査
71	五位塚渡り下	〃 〃 五位塚渡り下	台地	縄(早)	山形押型文	S60 調査



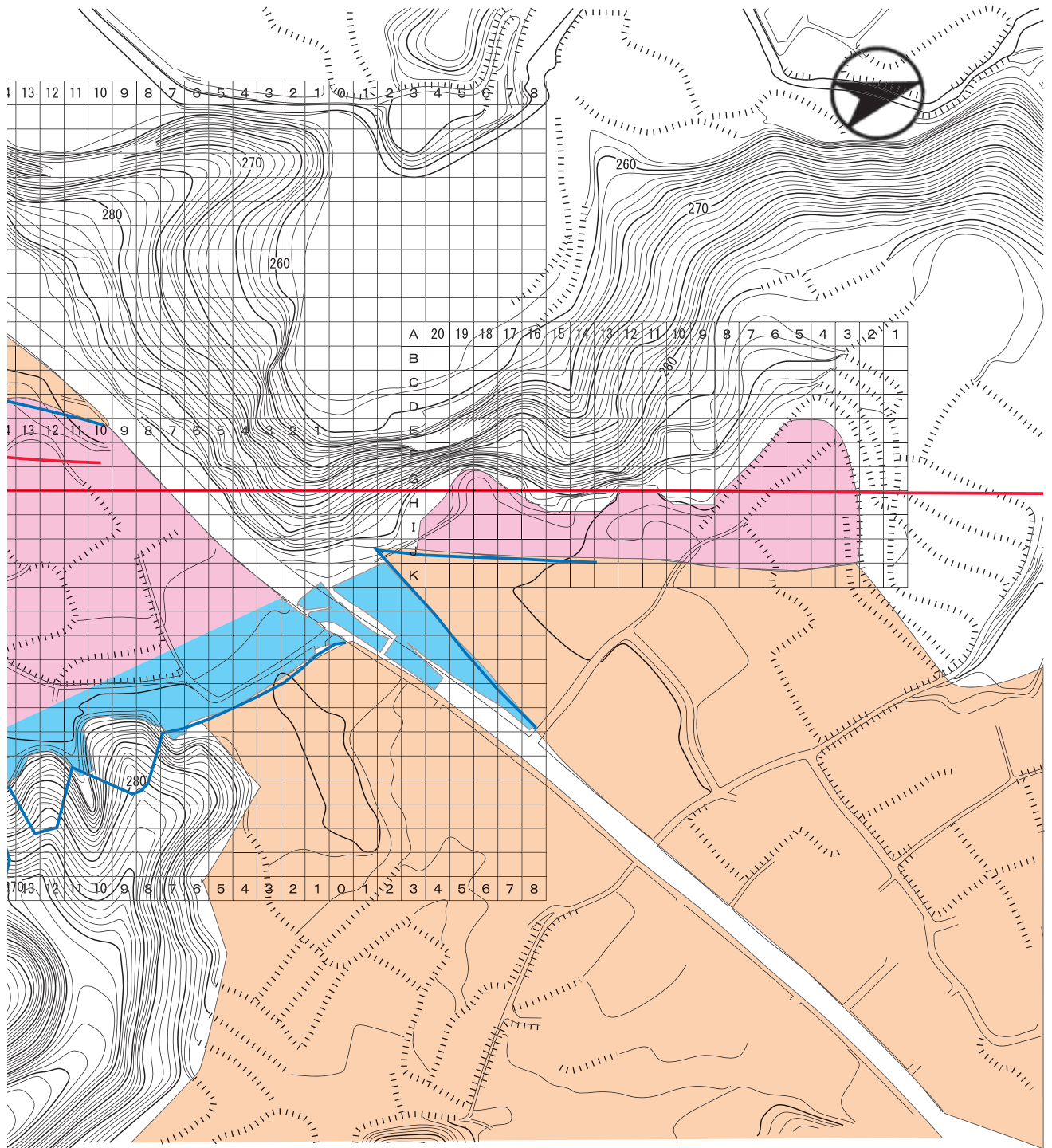
第2図 周辺遺跡地図



第3図 遺跡と周辺の地形 (1/6000)



第4図 周辺地形と調査区及びグリッド配置図 (1/2500)



- 桐木・耳取遺跡調査範囲
- 桐木遺跡(国土交通省)調査範囲
- 遺跡の広がりが予想される範囲

第三章 層位

第1節 遺跡の層位

本遺跡の基本的層序を柱状図で示し、層順・色調・判明しているテフラ・その年代・遺物包含層の時期等を併記した。遺跡内の良好なテフラの噴出源は、始良カルデラ、桜島、鬼界カルデラ、霧島系火山等に由来し、重要な年代判断の指標となった。国土交通省桐木遺跡(鹿児島県埋セ75・2004年)の報告では、より細分化した報告が成されているが、基本的層順区分は合致している。

- I層 暗褐色土 現表土。
- II層 黄白色軽石層(P-3, Sz-3) 0.5~1.0cm前後の軽石層で、文明ボラ(文明年間1471年)と呼称され、噴出源は桜島(P-3・Sz-Bm)である。平均的に50cmの堆積を見るが、保湿性の低さが耕作に不適切なことから、多くの耕作地で“ボラ抜き”と呼ばれる過酷な除去作業が農家により行われてきた。近年の発掘調査で“畠跡”の発見が報告される事例が増えてきたが、耕作中の畠をボラが直撃した様子が伝わってくる。踊場遺跡(鹿児島県埋セ71・2004)の畠もその事例である。
- III層 黒色土 遺跡全域で観察される。主に中世~古墳時代の遺物包含層。
- IVa層 黄褐色土 主に縄文時代晩期及び後期の遺物包含層でIVb層の腐植土と捉えている。国土交通省桐木遺跡ではIIIb層に組み込まれている。
- IVb層 黄褐色細粒軽石混硬質土 霧島御池テフラ(Kr-M, 約4200年)に比定される。本遺跡周辺の遺跡ではその堆積がよく観察される。国土交通省桐木遺跡のIV層に該当する。
- Va層 暗橙色土 Vb層の腐植土で主に縄文時代中期~前期の遺物包含層。本遺跡を特徴づける文化層の1つである。
- Vb層 通称アカホヤ火山灰層 遺跡全域に安定して堆積する。約6400年前の鬼界カルデラの噴出物。
- VIa層 黄褐色軽石混淡茶褐色土 縄文時代早期の遺物包含層。
- VIb層 黄褐色軽石層(P-11, Sz-Sy) 約7400年前の桜島の噴出物。
- VII層 明茶褐色土 縄文時代早期の遺物包含層。
- VIII層 黒褐色土 縄文時代早期の遺物包含層。
- IX層 黄白色火山灰(P-14, Sz-St) 薩摩火山灰で噴出源は桜島(約11000年前)。ほぼ全域に20~25cm程残され、上位は固結した火山灰、下位は3mm前後の軽石で構成され、縦方向にクラックが発達しブロック状の堆積を見せる。
- X層 黒褐色土 縄文時代草創期の遺物包含層。
- X I層 灰色シルト質細砂粒砂層 シラスの二次堆積(風成堆積物)。細石器文化期の遺物包含層。
- X II層 暗茶褐色軟質ローム 細石器文化期の遺物包含層

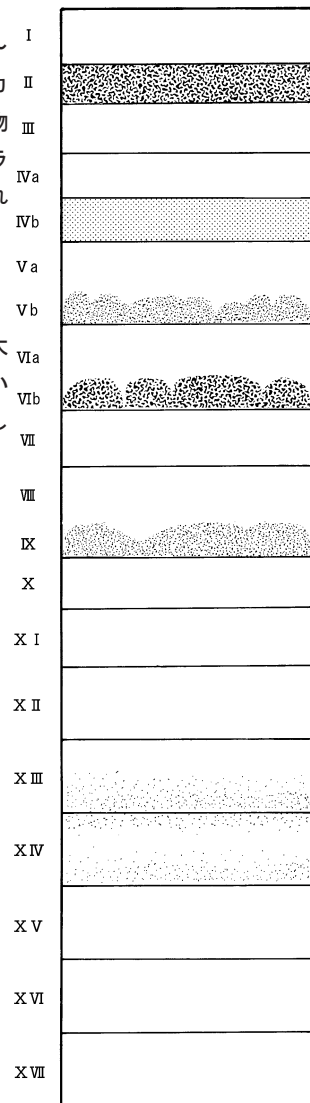
で、耳取での検出状況が注目される。

- X III層 黄色軽石混褐色土 台形石器や小型ナイフ形石器を主体とするナイフ形石器文化期の遺物包含層で、耳取調査区で確認している。国土交通省桐木遺跡のX II b層と対比できる。
- X IV層 暗褐色硬質土 旧石器時代の遺物包含層で、層中の上部及び下部付近に赤褐色パミス(P-15, Sz-Tk4)が点在する。
- X V層 暗褐色硬質土 旧石器時代の遺物包含層。
- X VI層 暗褐色硬質土 赤褐色パミス(P-17, Sz-Tk6)が層中に点在する。中部から下部に剥片尖頭器や台形石器等で構成するナイフ形石器文化期の遺物を包含する。
- X VII層 濁黄白色砂質土 上部はローム質を下部は砂質を帯びる。礫群を構成するナイフ形石器文化期の遺物包含層で、大型剥片尖頭器の存在が注目される。

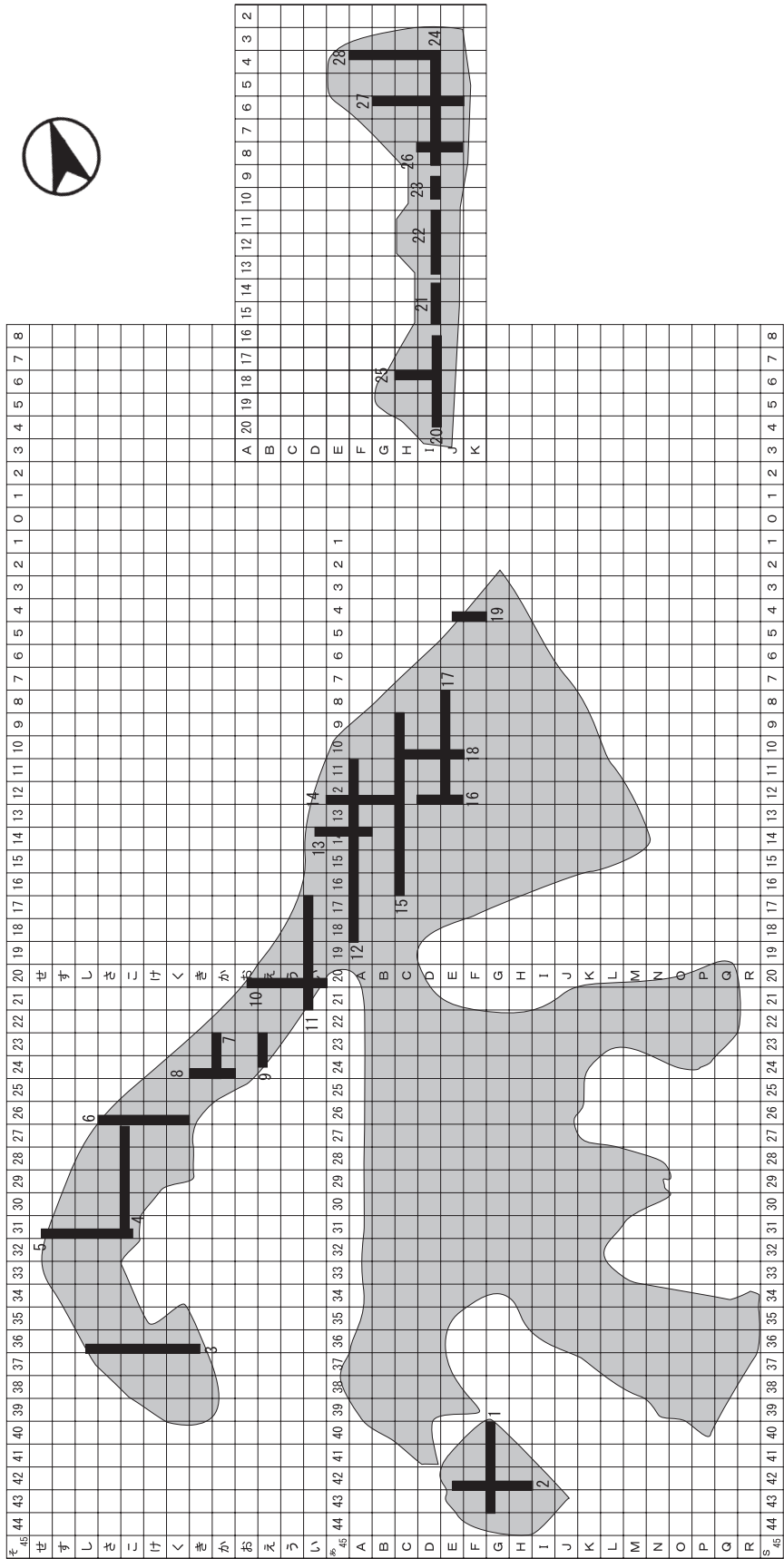
シラス 角礫混明黄白色

砂質土 約25000~28000年前の始良カルデラ起源の噴出物で、入戸火砕流(シラス)・ATと表示される遺跡の基盤層。

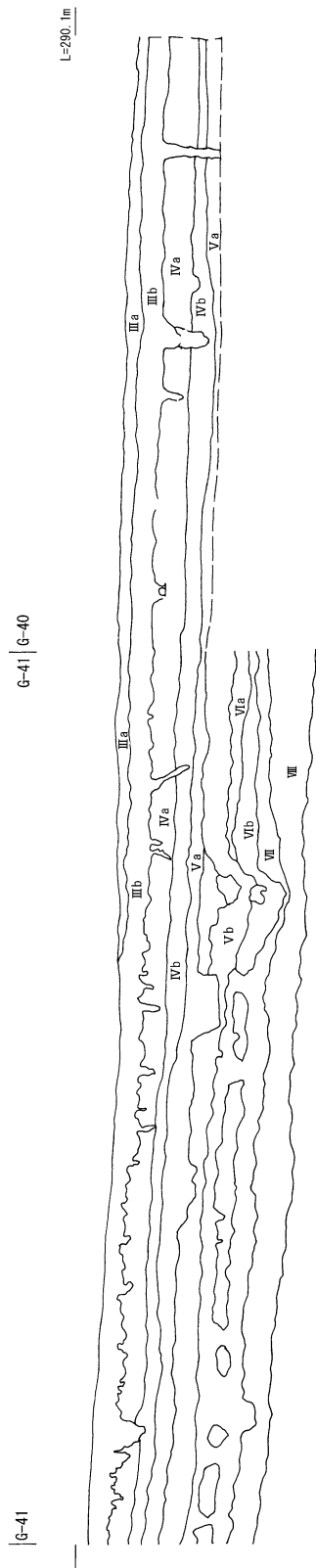
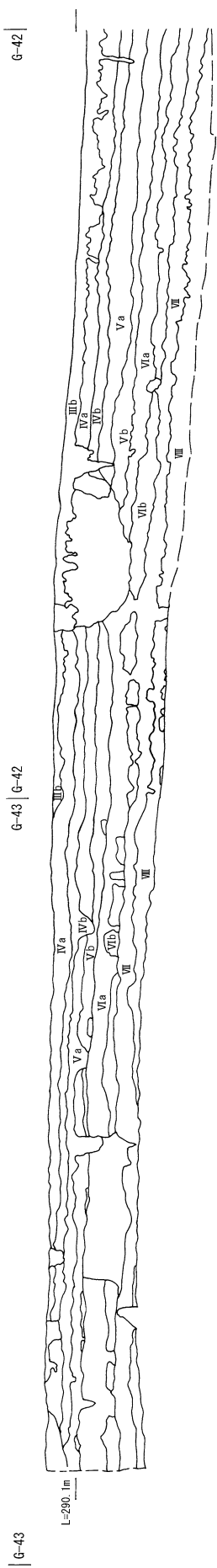
※ P=パミス=軽石 桜島の噴出物はP-1(大正3年)を基準に、新しいものから順に番号を付している。



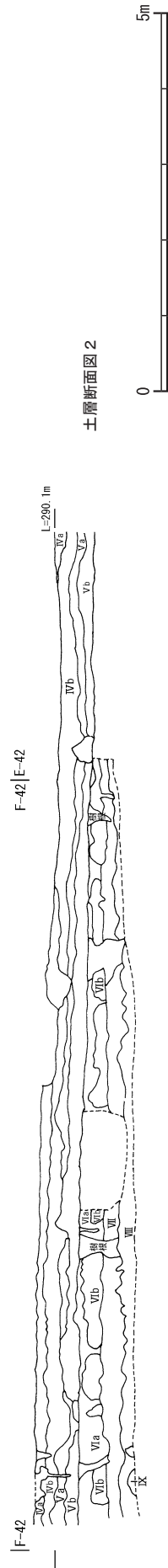
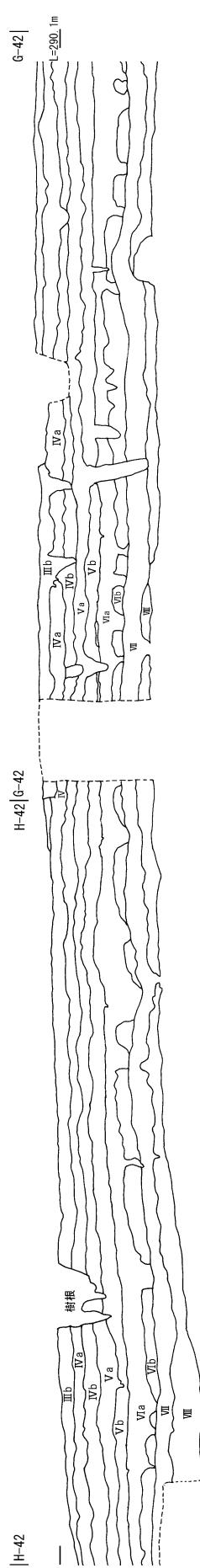
第5図 桐木耳取遺跡標準土層図



第6図 土層断面配置図 (1/3000)



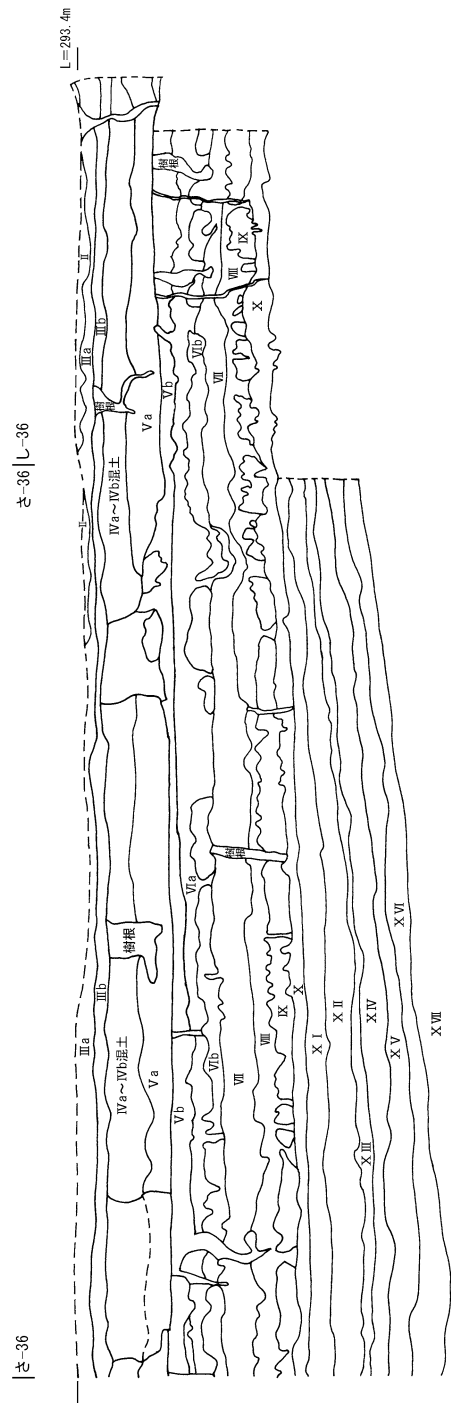
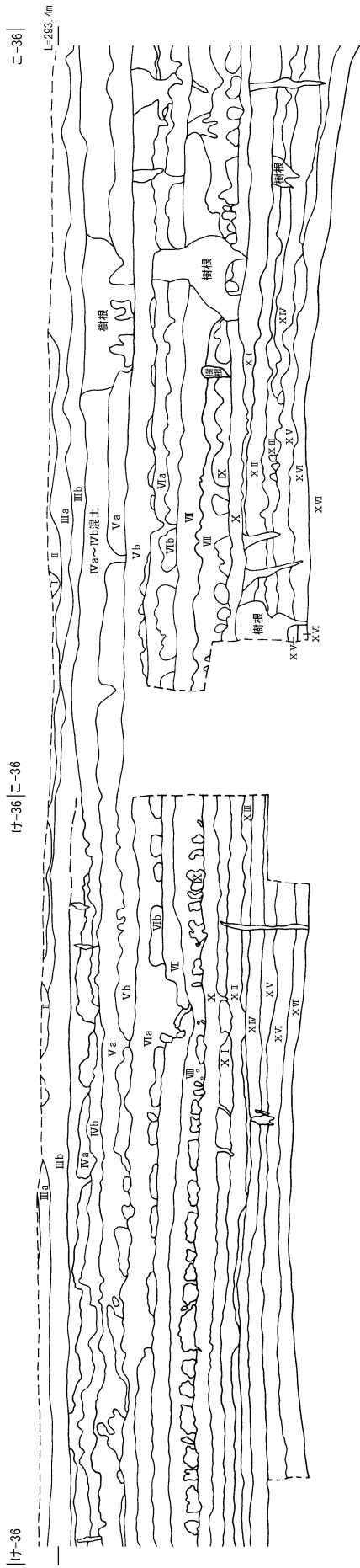
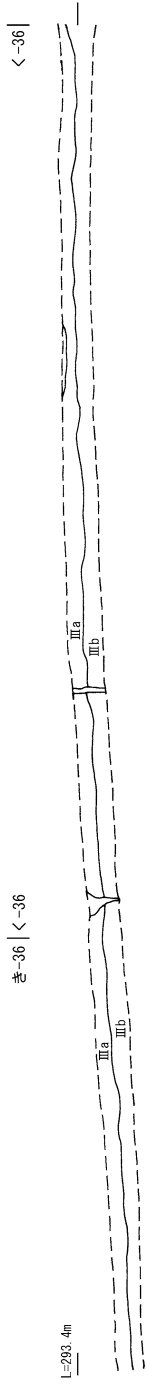
土層断面図 1



土層断面図 2



第 7 図 桐木調査区土層断面図 (1)

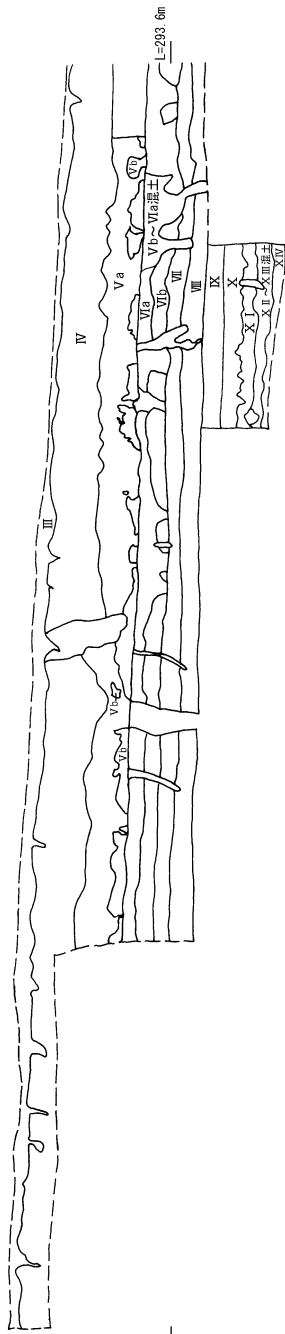


土層断面図3

第8図 桐木調査区土層断面図(2)



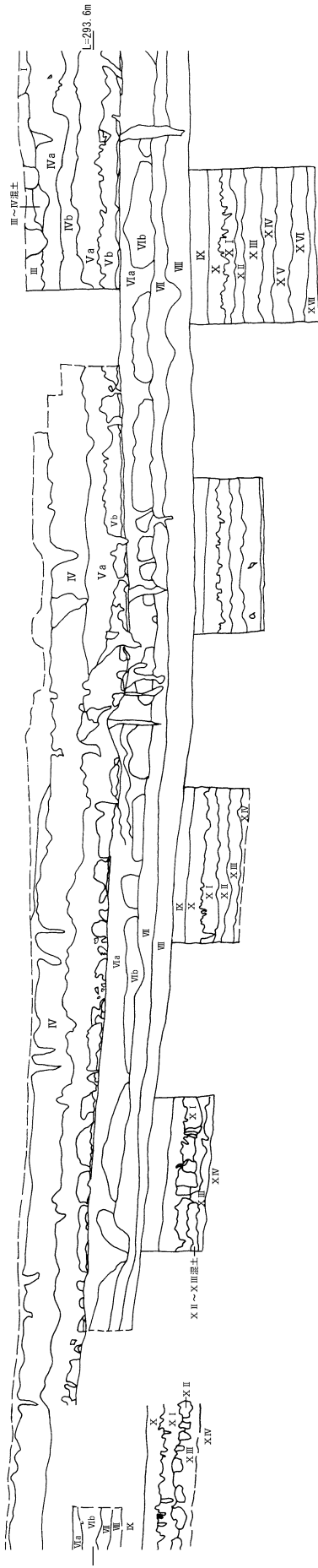
さ-32 | し-32



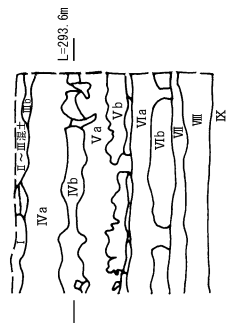
し-32

し-32 | す-32

す-32



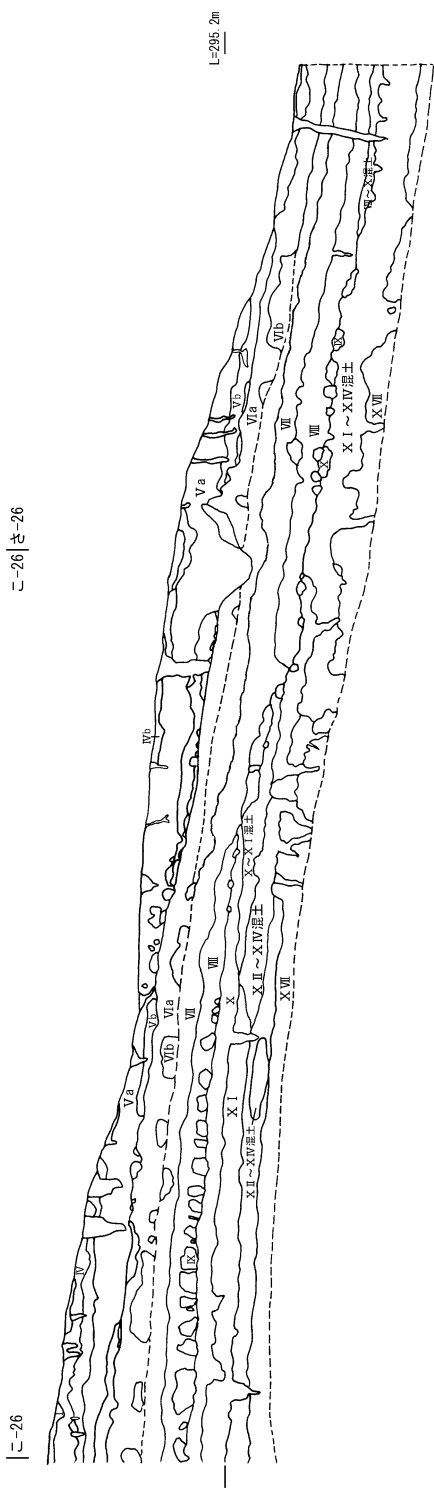
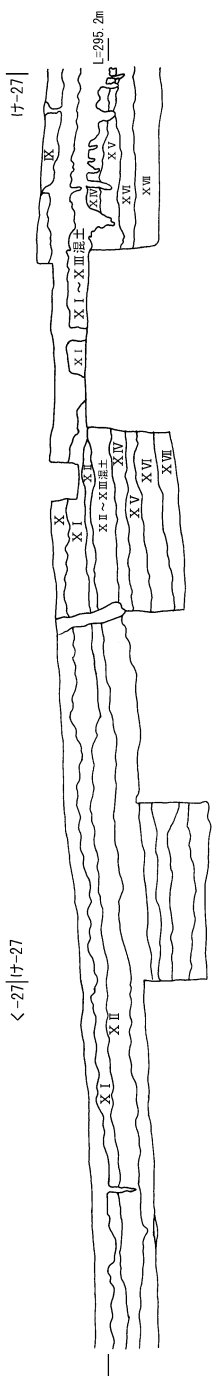
す-32 | せ-32



土層断面図 5



第10図 桐木調査区土層断面図 (4)



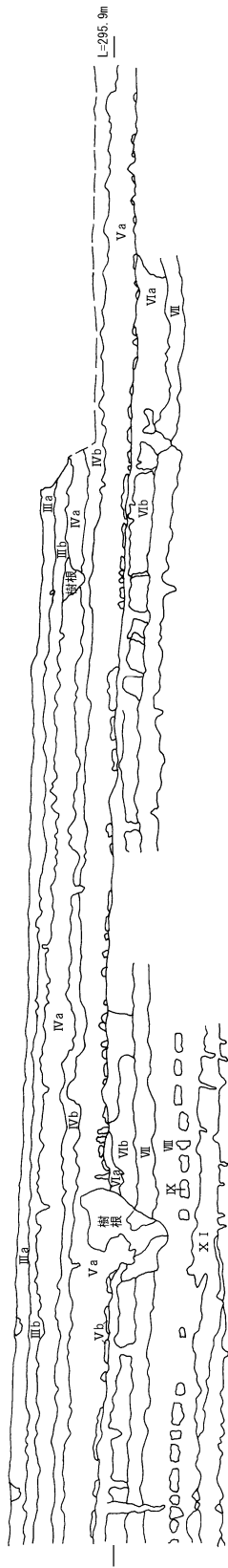
土層断面図 6



第11図 桐木調査区土層断面図 (5)

か-25 か-24

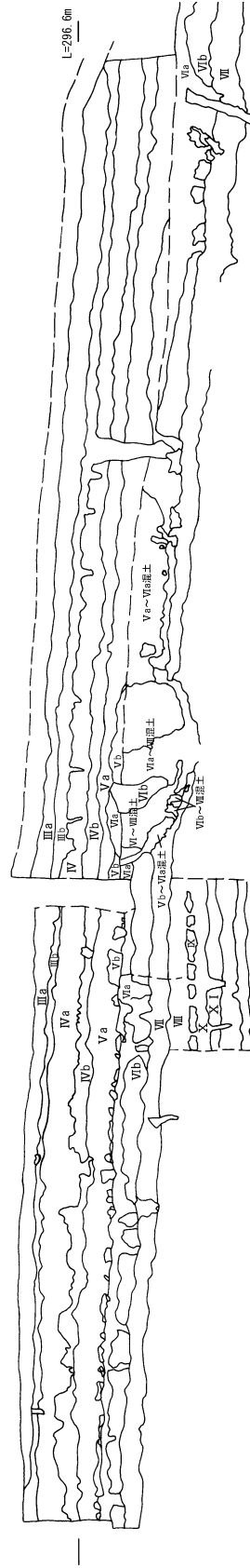
か-24|か-23



土層断面図 7

か-24

か-24|き-24



土層断面図 8

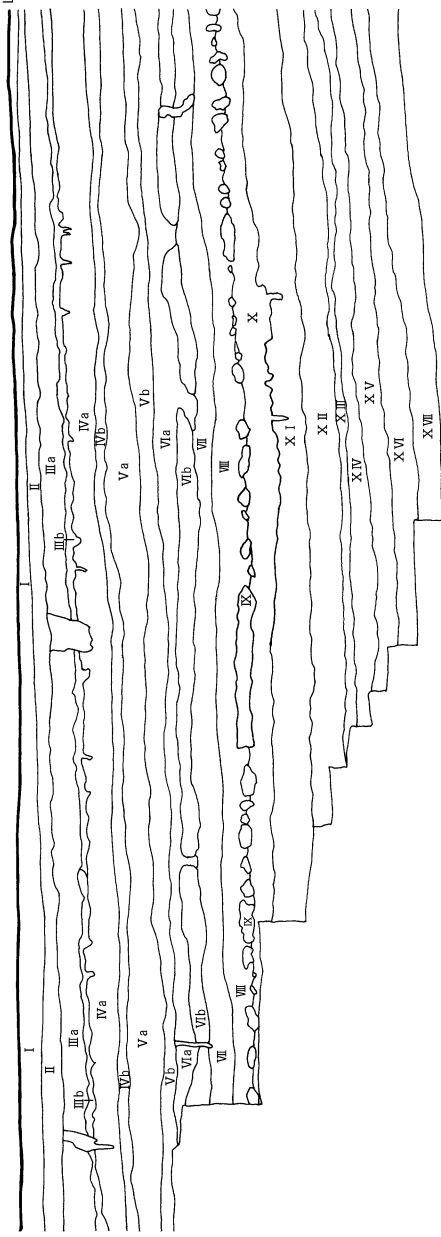


第12図 桐木調査区土層断面図 (6)

え-24|え-23

え-23|

L=298.0m

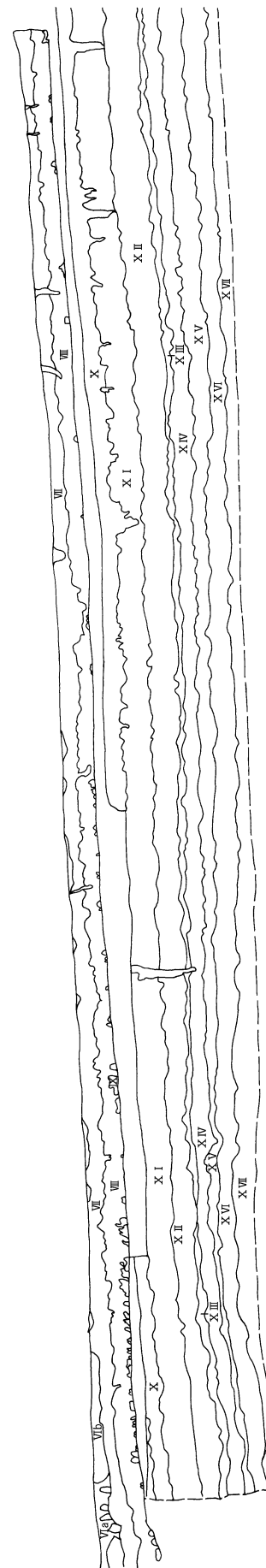


|え-22

え-22|え-21

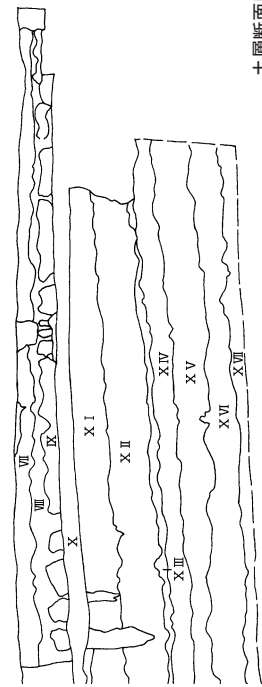
え-21|

L=298.0m



え-21|え-20

L=298.0m



土層断面図9

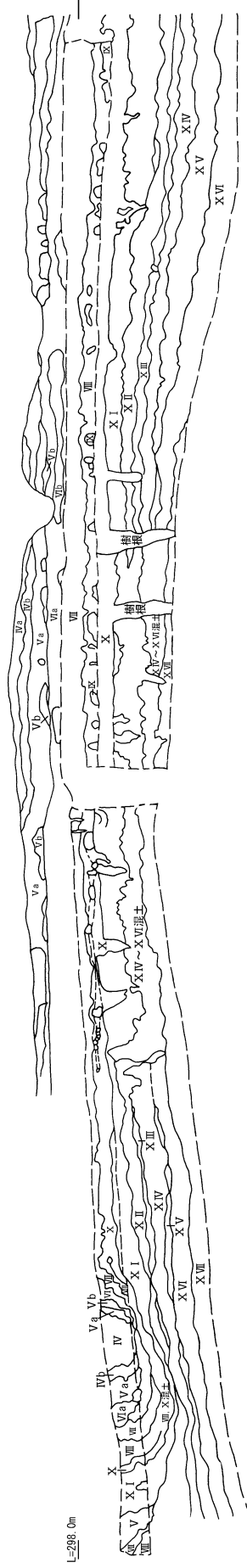


第13図 桐木調査区土層断面図(7)

|い-20

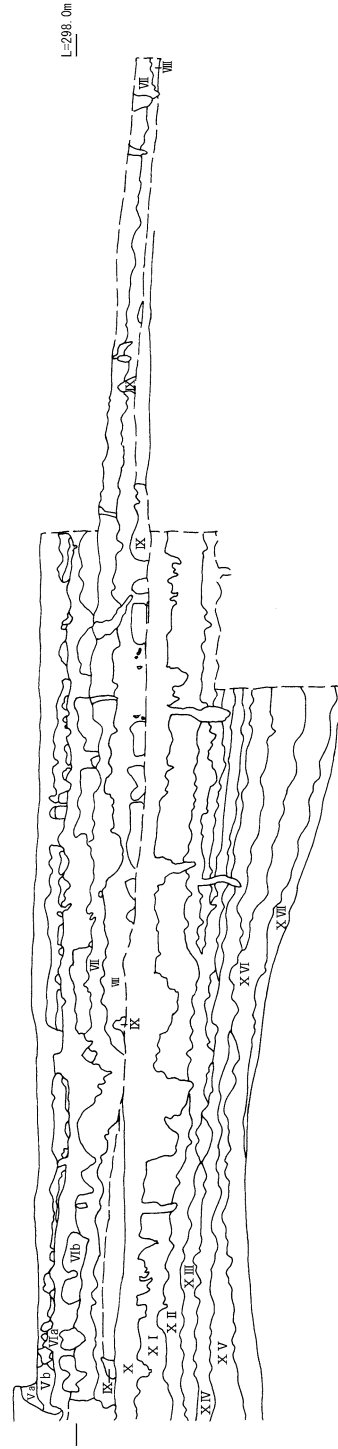
い-20|う-20

う-20



う-20|え-20

え-20|お-20



土層断面図10

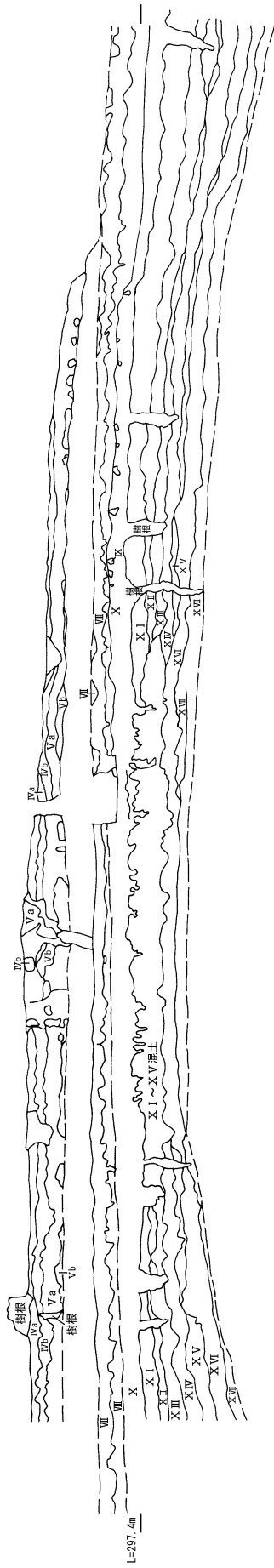


第14図 桐木調査区土層断面図(8)

い-21

い-21 | い-20

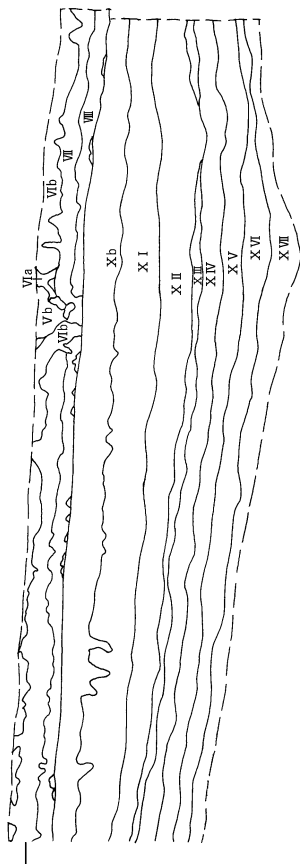
い-20 |



い-19

い-19 | い-18

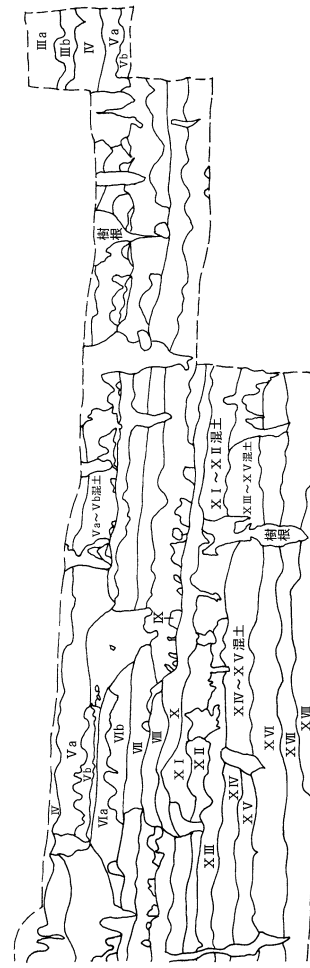
い-18 |



い-17

い-17 | い-16

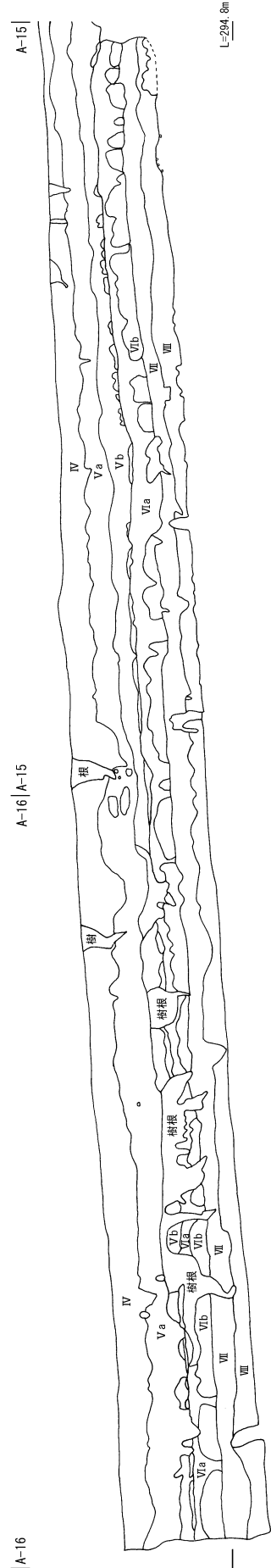
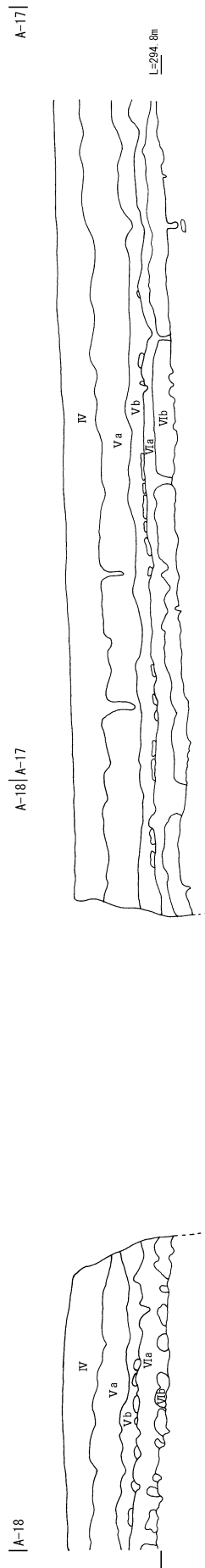
L=297.4m



土層断面図11

第15図 桐木調査区土層断面図 (9)

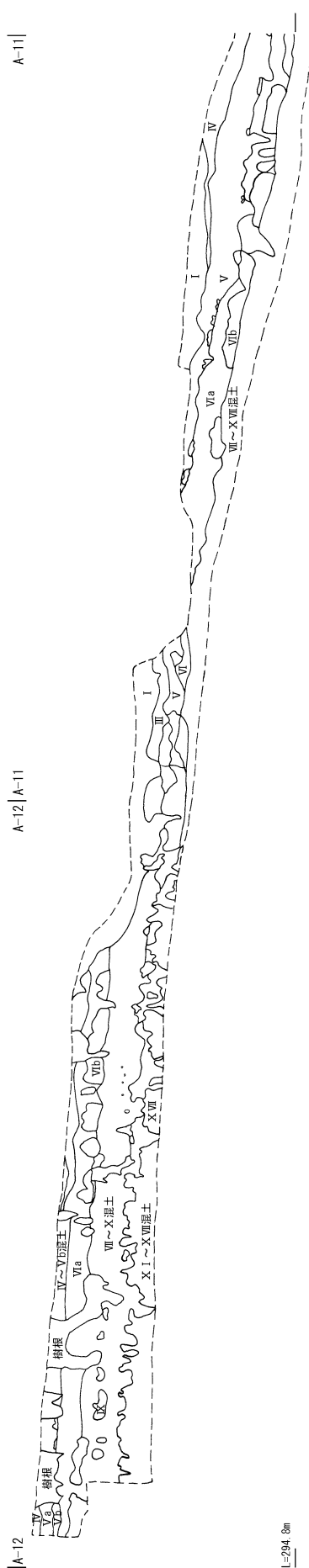
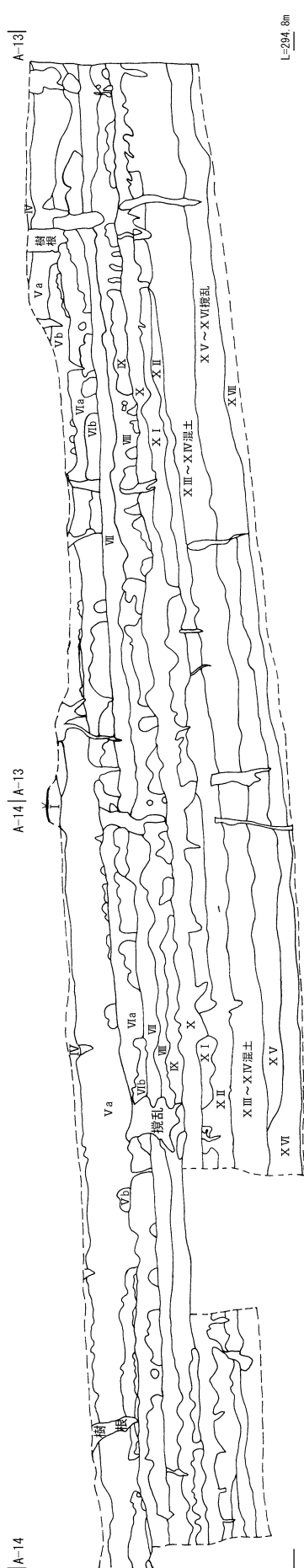




土層断面図12_1



第16図 桐木調査区土層断面図 (10)



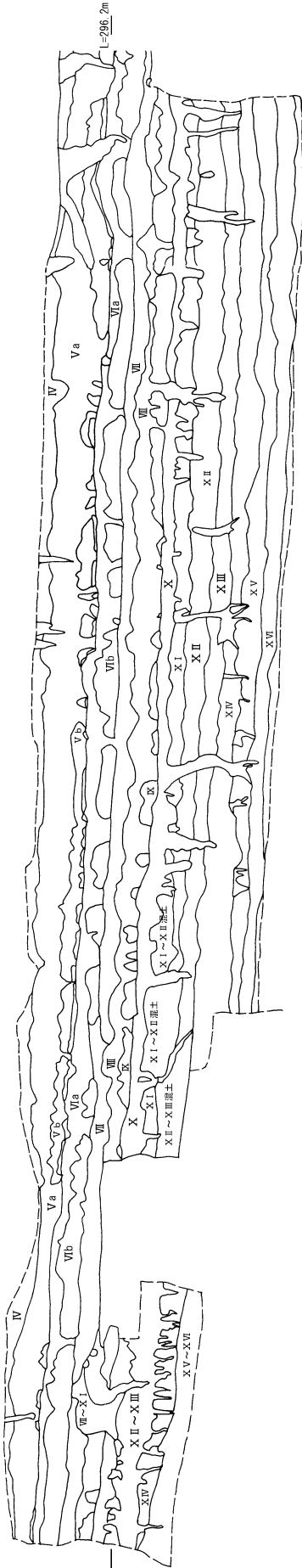
土層断面図12_2



第17図 桐木調査区土層断面図(11)

あ-14 | い-14

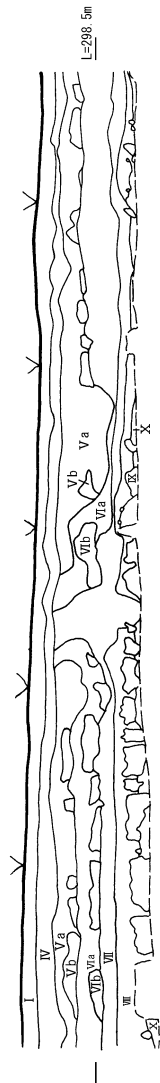
A-14 | あ-14



土層断面図13

B-12 | A-12

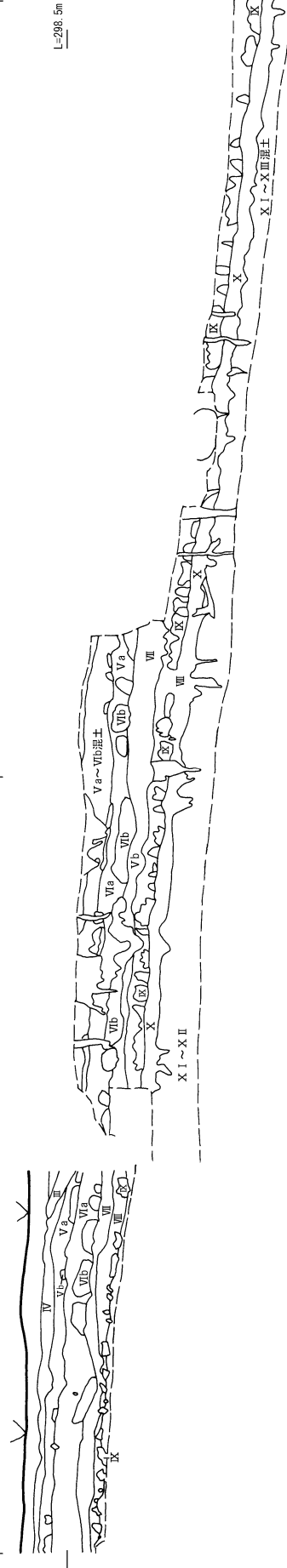
C-12 | B-12



| A-12

A-12 | あ-12

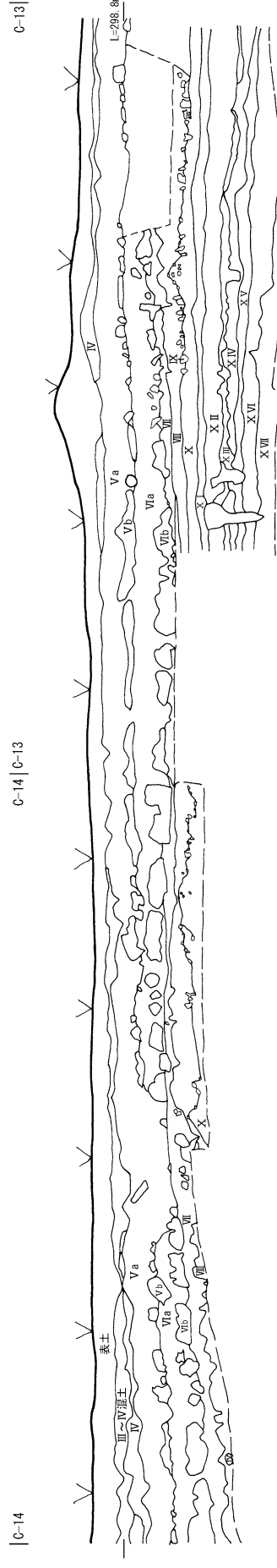
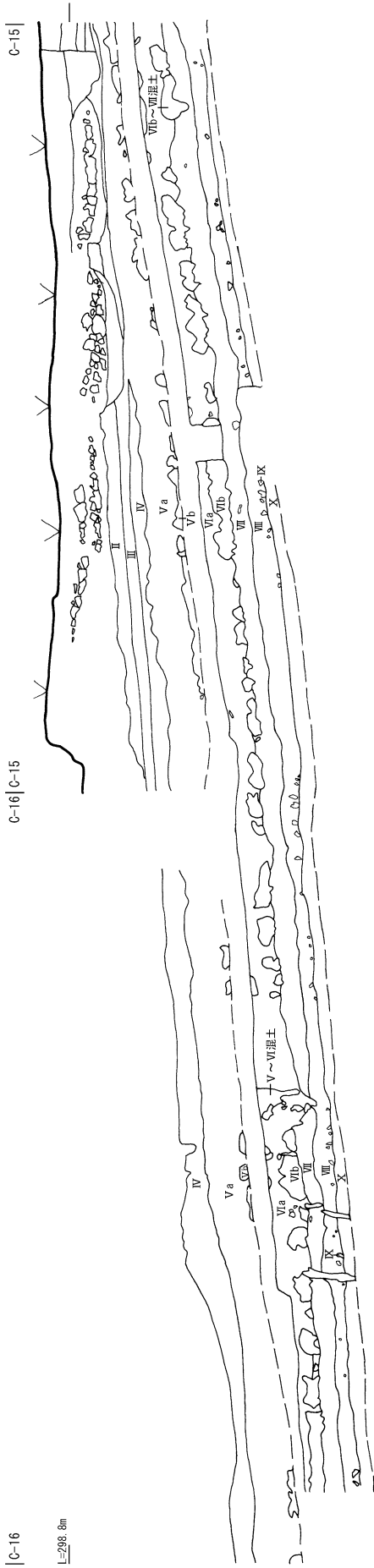
あ-12 |



土層断面図14



第18図 桐木調査区土層断面図 (12)



土層断面図15_1

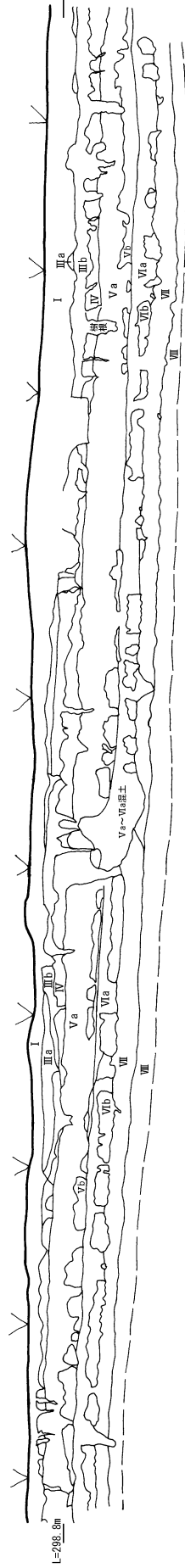


第19図 桐木調査区土層断面図 (13)

|C-12

C-12 | C-11

C-11 |

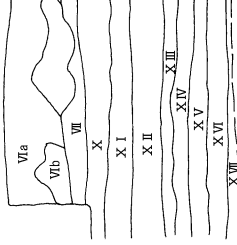
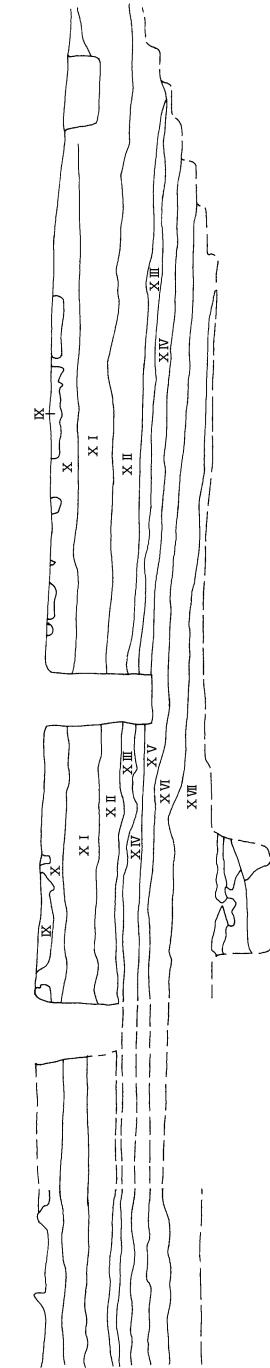


|C-10

C-10 | C-9

C-9 |

L=298.0m



土層断面图 15_2

F-12 | E-12

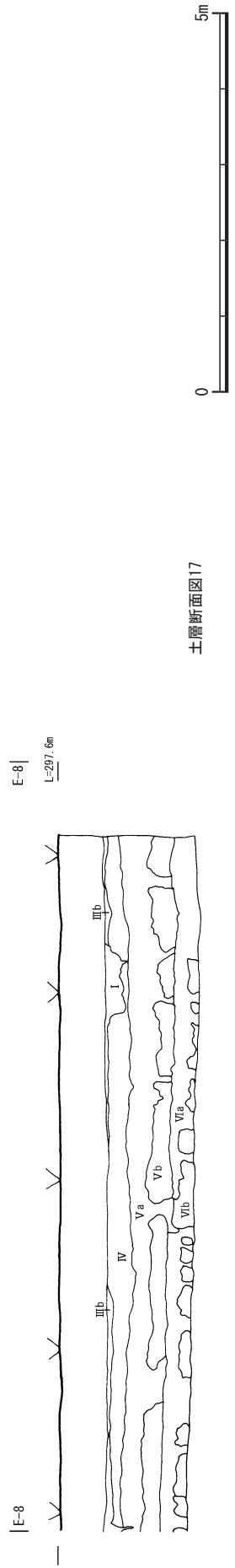
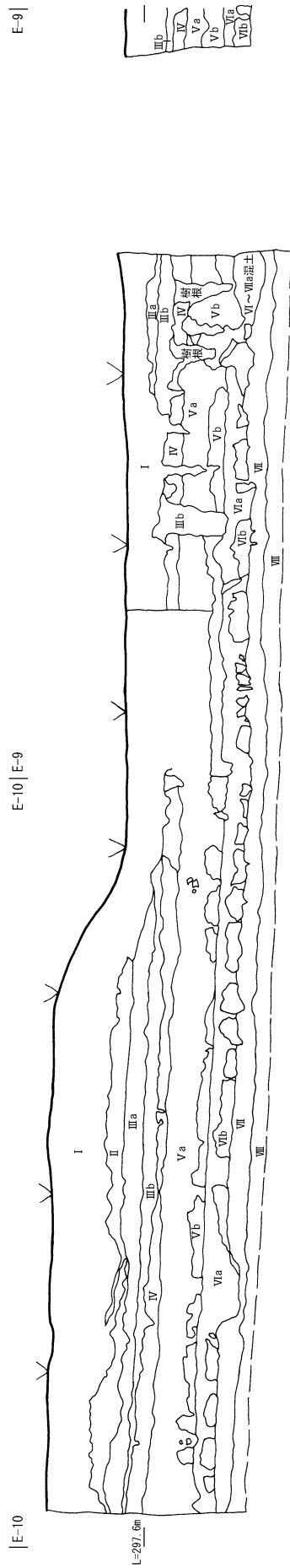
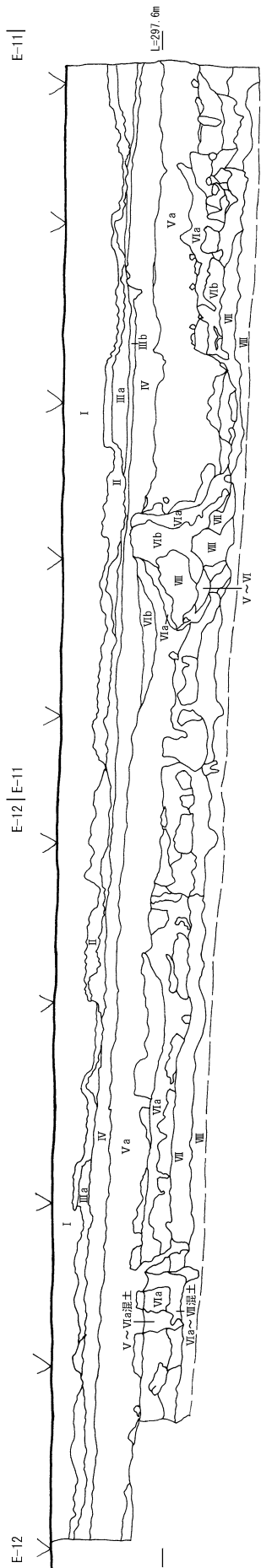
E-12 | D-12



土層断面图 16



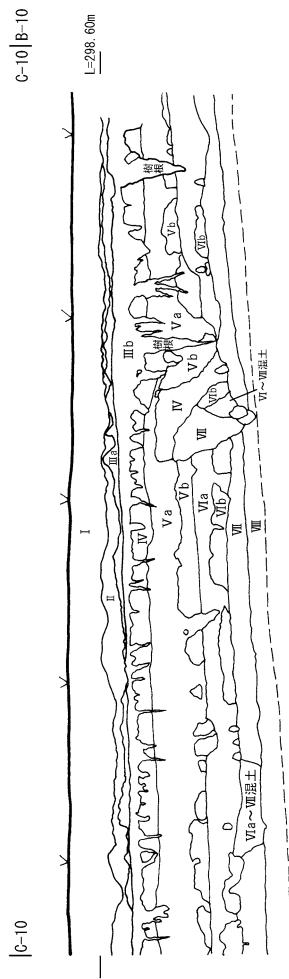
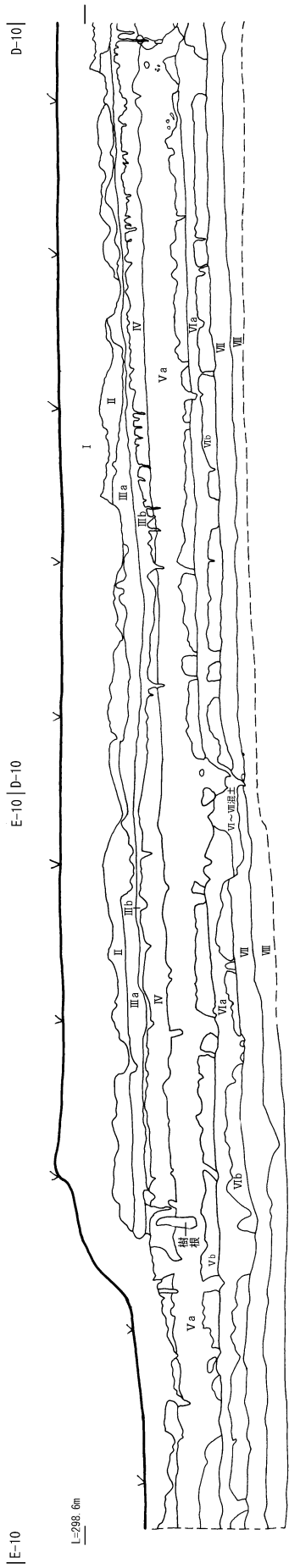
第20图 桐木調査区土層断面图 (14)



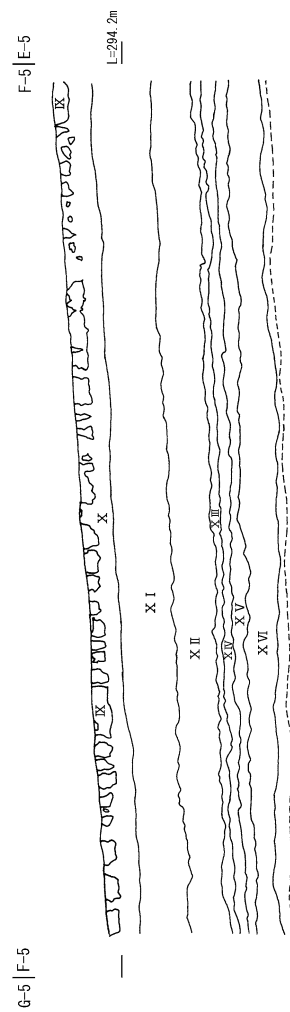
土層断面図17

第21図 桐木調査区土層断面図 (15)





土層断面図18



土層断面図19



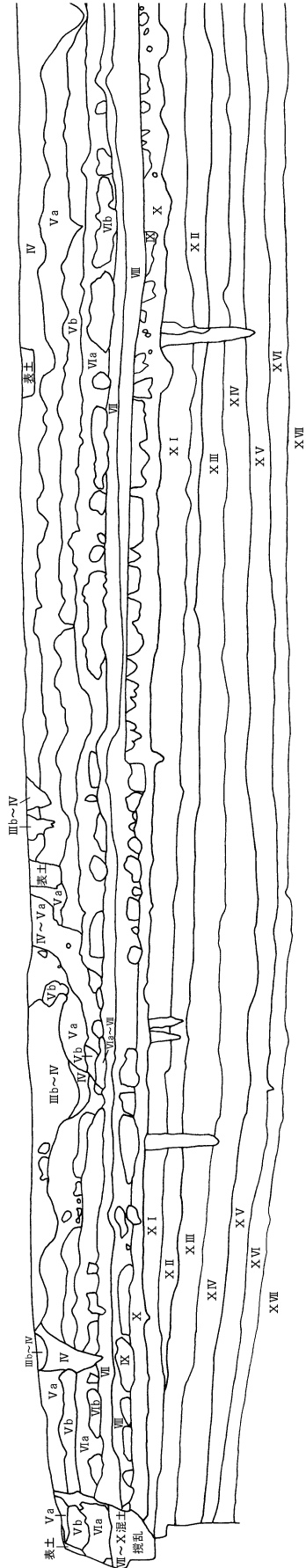
第22図 桐木調査区土層断面図 (16)

I-16|I-17

I-18

L=296.5m

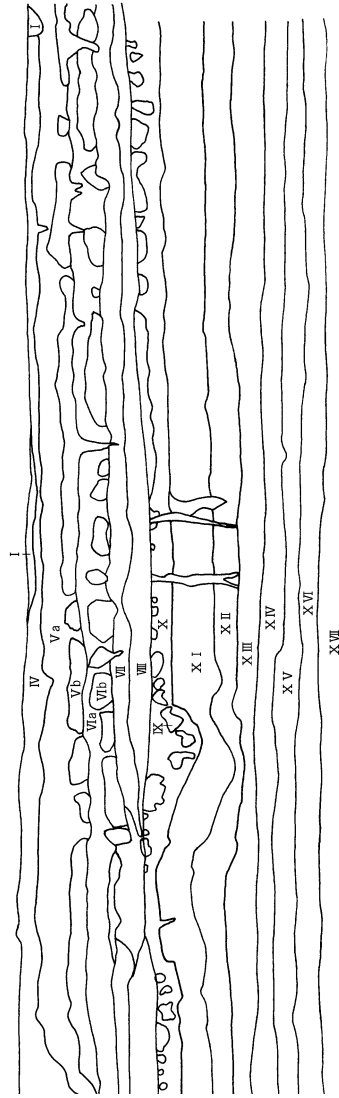
I-17|I-18



I-18|I-19

I-19|I-20

L=296.5m



土層断面図20



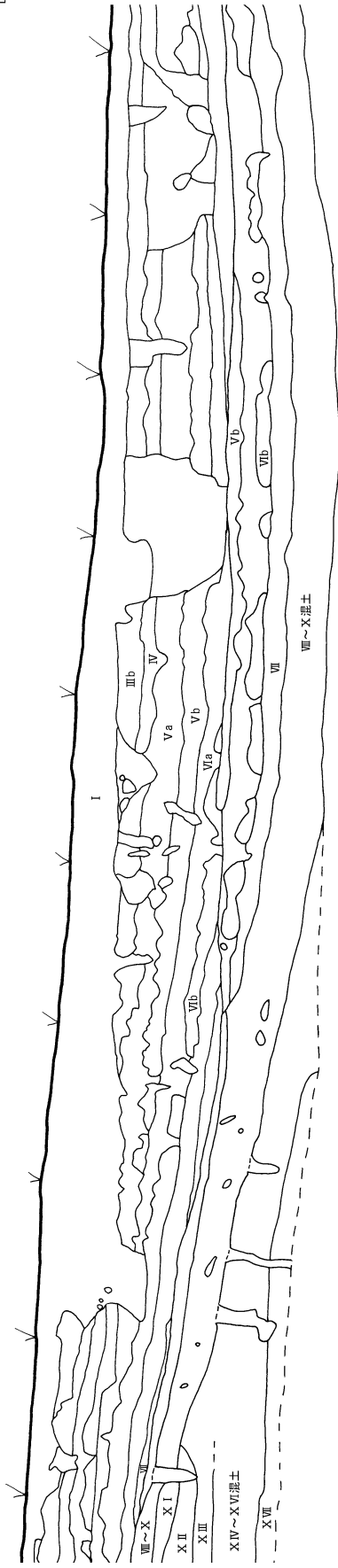
第23図 耳取調査区土層断面図(1)

|1-14

|1-14 |1-15

|1-15

L=295.5m



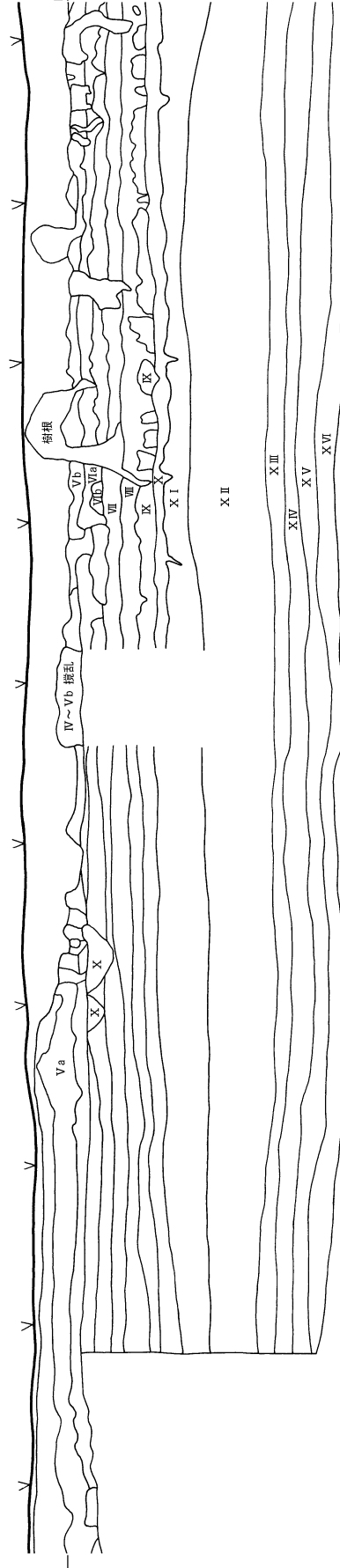
土層断面図21

|1-11

|1-11 |1-12

|1-12

L=295.5m



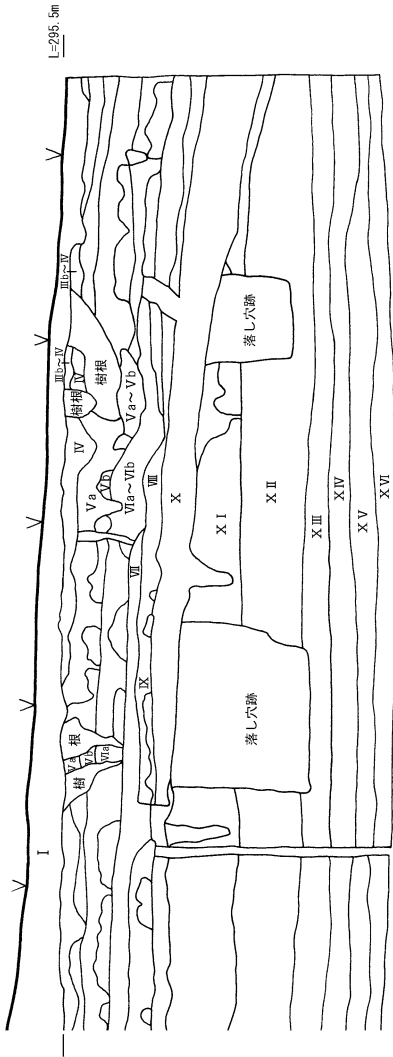
土層断面図22_1



第24図 耳取調査区土層断面図(2)

I-12 | I-13

I-13 | I-14

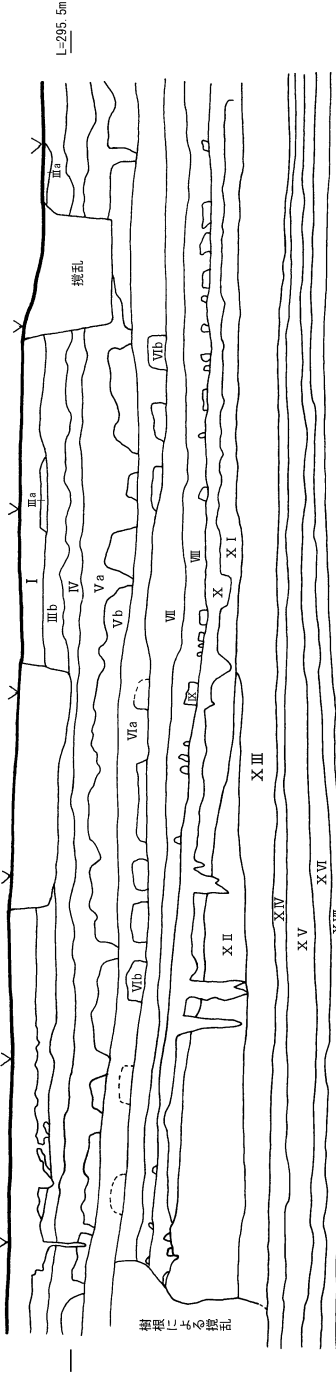


土層断面図22_2

I-9

I-9 | I-10

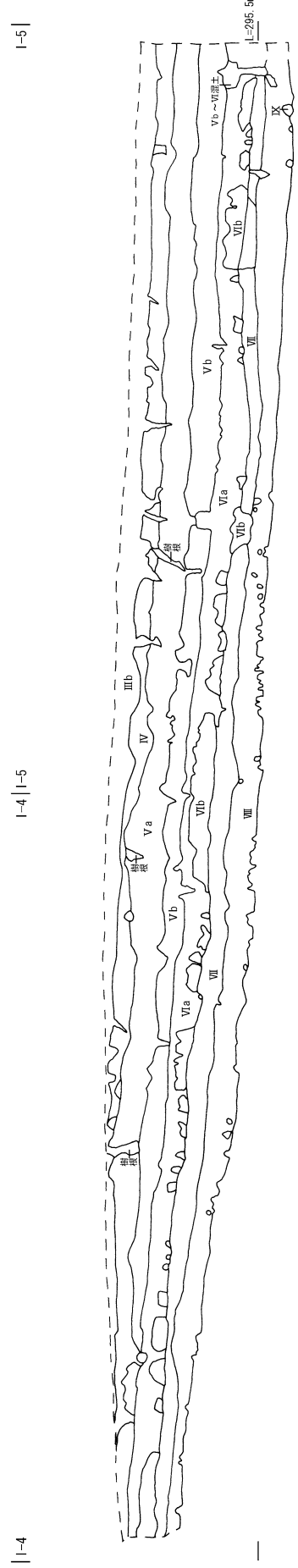
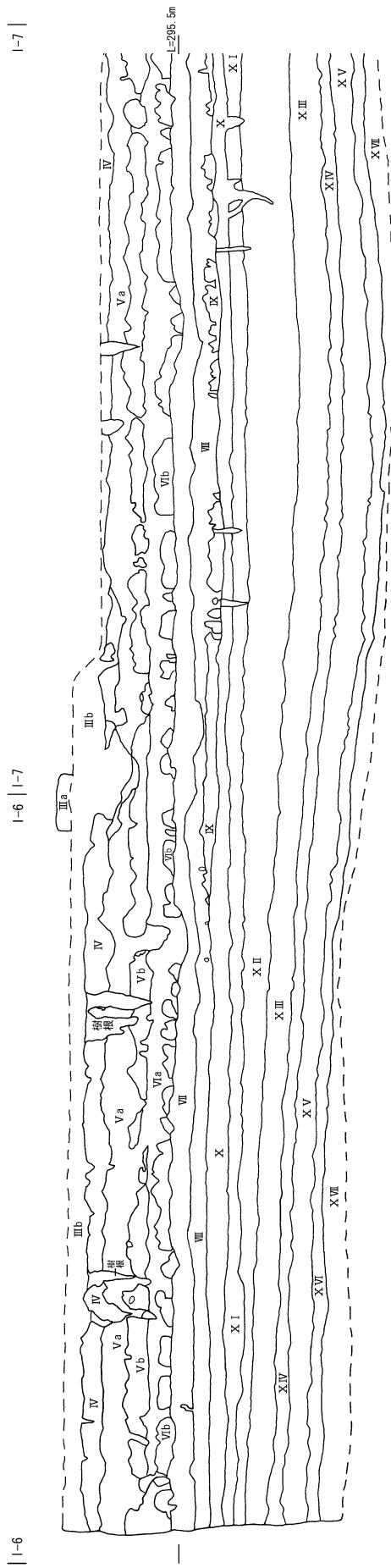
I-10 |



土層断面図23



第25図 耳取調査区土層断面図 (3)

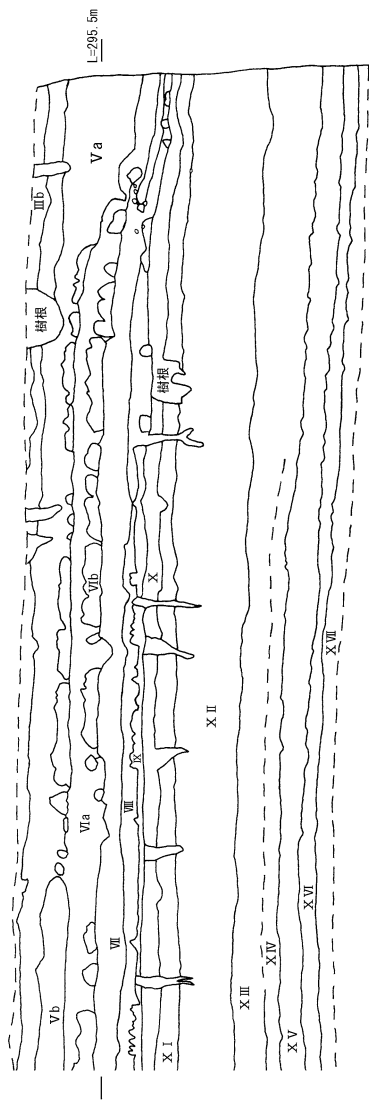


土層断面図24_1
0 5m

第26図 耳取調査区土層断面図(4)

I-7 | I-8

I-8 | I-9

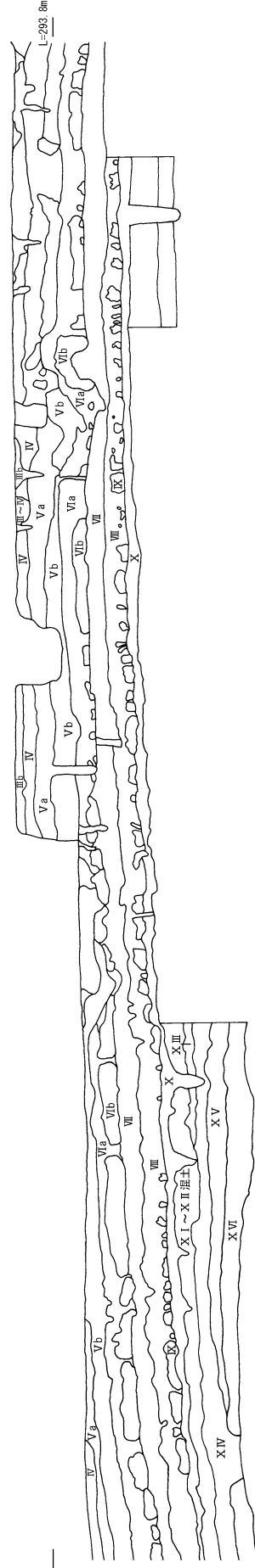


土層断面图24_2

H-18

H-18 | I-18

I-18



土層断面图25

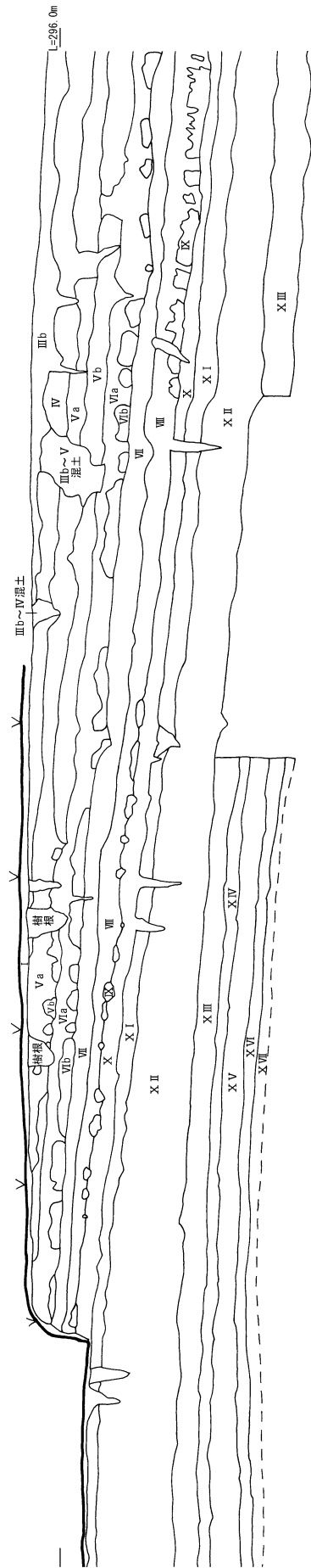


第27图 耳取調査区土層断面图 (5)

| I-8

I-8 | J-8

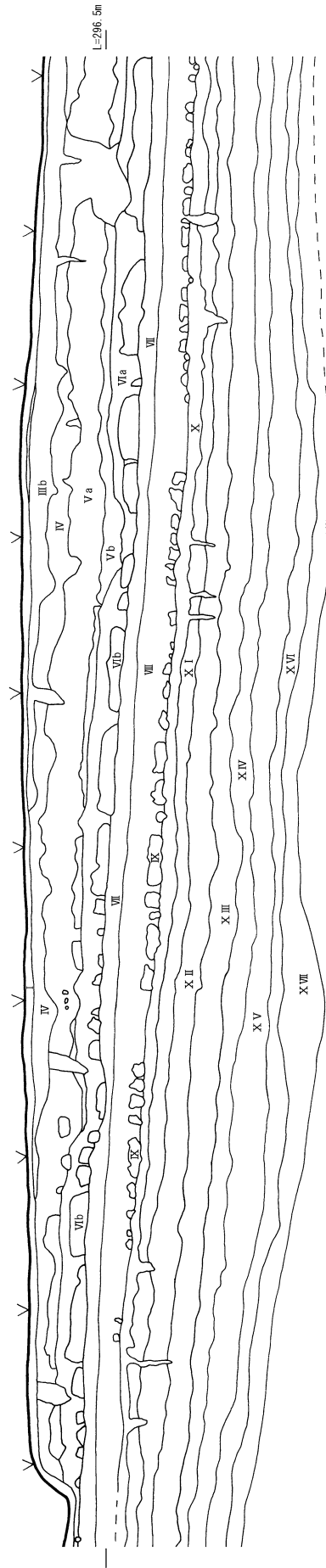
J-8 |



土層断面図26

G-6 | H-6

H-6 | I-6



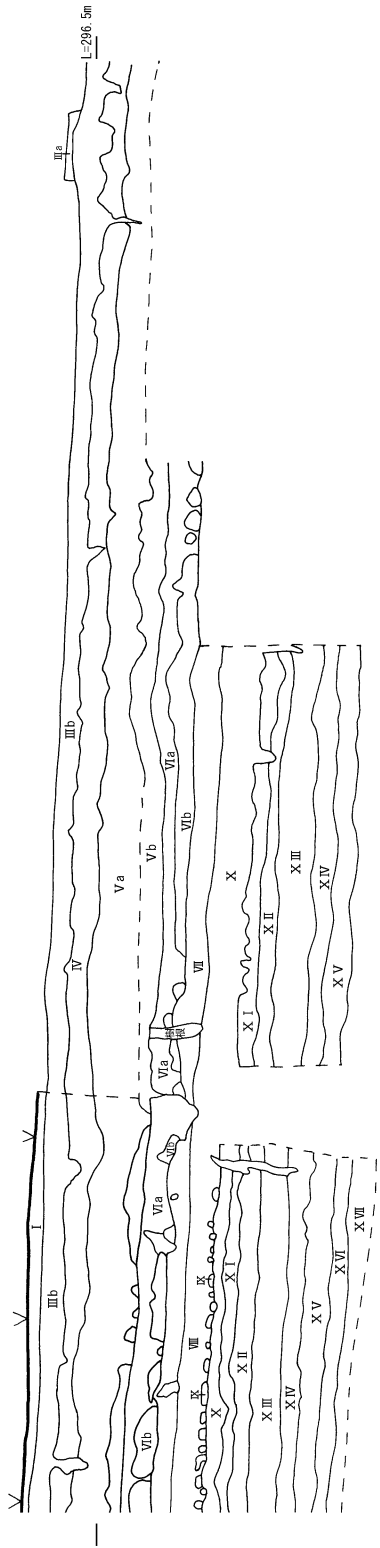
土層断面図27_1



第28図 耳取調査区土層断面図 (6)

I-6 | J-6

J-6 | K-6

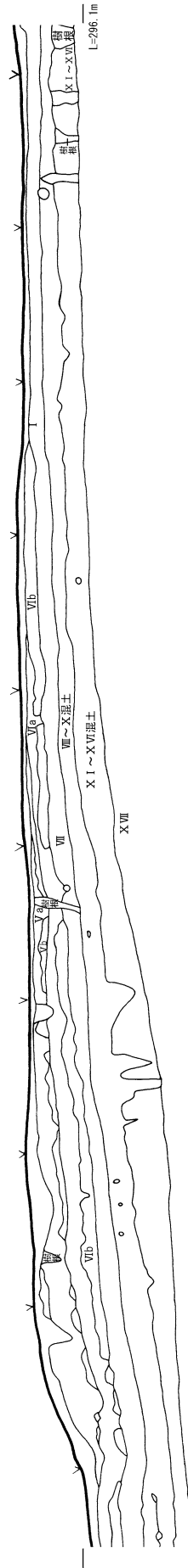


土層断面図27_2

| F-4

F-4 | G-4

G-4 |

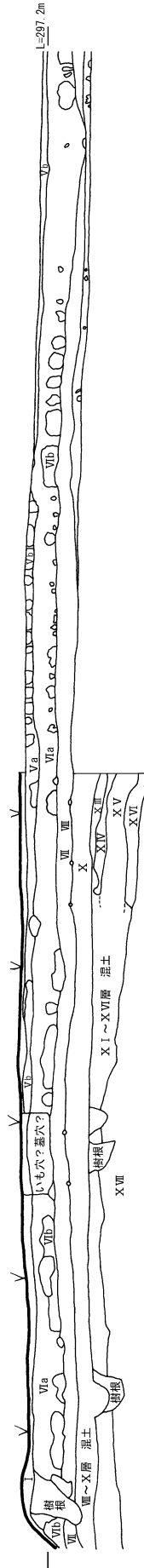


土層断面図28_1

| H-4

H-4 | I-4

I-4 |



土層断面図28_2



第29図 耳取調査区土層断面図 (7)

第IV章 ナイフ形石器第I文化層の調査

第1節 概要

ナイフ形石器第I文化層は、本遺跡の基本土層XVII層からXVI層の間に集中して出土し、一部の遺物については、発掘調査時点で、XV層、XIV層出土と取り扱ったものもある。XVII層以下の堆積物は、黄色軽石を含む黄色砂質火砕流堆積物、いわゆる始良入戸火砕流堆積物(シラス)に同定され、それらの互相堆積が確認される。

遺構・遺物は、XVII層上部の黄褐色ブロック混じり褐色土から、XVI層の橙色軽石混じり暗褐色土の間に出土する。なお、XVI層中のオレンジ軽石は、桜島起源のP17(SZ-17)軽石に比定される。したがって、本遺跡のナイフ形石器第I文化層は、始良入戸火砕流堆積後から桜島P-17の火山灰堆積の間で営まれたことになる。なお、XIV層中には、やはり桜島起源のP-15(SZ-15)のオレンジ軽石も確認されている。発掘調査では、XVII層、XVI層出土の石器群として区分して取り扱ったが、遺物集中の上下関係や石器組成・遺物の接合状況等を検討した結果、異なる文化層としての区分は困難であるとの結論に達した。そのため、本遺跡最古の文化層として一括して取り扱うこととし、“ナイフ形石器第I文化層”と呼称することとした。

桐木遺跡のE~J-1~6区を南端に、耳取遺跡のほぼ全域で遺構・遺物の存在が確認されている。

石器群は、ブロックを形成して分布することから、ブロックを設定し、その把握に努めた。なお、ブロックの設定に関しては、遺物集中を石材毎に把握し、平面的集中が認定できる最小単位を“ブロック”と呼んでいる。次に、ブロックの位置関係を平面的に検討した結果、ブロックの集中に一定のまとまりがあることを抽出でき、この単位を“エリア”と呼称した。

遺構は90基の礫群を確認し、その内訳は桐木遺跡12基、耳取遺跡78基となる。なお、平成15年度報告された隣接する“国土交通省桐木遺跡”でも12基が発見され、総数102基の礫群が存在したことになる。なお、国土交通省桐木遺跡では、礫群に隣接し7か所の遺物集中が検出されている。

桐木遺跡の礫群は、え-20区で1基(1号)、A~C-11~14区で7基(2~8号)、F~G-4~6区で4基(9~12号)検出している。残り78基(13~90号)の礫群は、耳取遺跡の台地縁先端部(浸食により形成された、遺跡西側に広がる谷を見下ろせる標高280mの台地西縁辺部)で発見されている。なお、谷部を流れる今別府川は、遺跡の西側を東流して大淀川に注いでいる。この谷が礫群の形成に深く関わった可能性が高く、桐木遺跡の礫群も、谷を見下ろせる範囲で造られていることから推測できる。

耳取遺跡の礫群は、17~20区の集中区と4~13区の集中区に二分される。この間には小さな谷状の縊れ地形で分断されたことが、二分された要因と推定される。

礫群の詳細な造営時期については、87号礫群がXVI層からXVII層へ漸移する面、1号・2号・68号・83号礫群の5基に

関しては、XVI層としているが、その判断が難しい。

また、I-10区からは34号礫群の近くで線刻礫が出土した。

第2節 遺構(礫群)

本遺跡礫群と同様の構造を成す礫群が、福山町前原和田遺跡XVI層で18基が発見されている。前原和田遺跡の礫群でも、礫群に伴い炭化物が多量に検出されていることから、本遺跡の調査にあたっては、前原和田遺跡の調査方法及び礫群の認定を踏襲し、炭化物との関係把握に努めた。前原和田遺跡での礫群認定は、礫と炭化物を密接不可分の関係即ちセットとして捉え、礫群の掌握に努めた。したがって、礫数の多少に関わらず炭化物が礫を取り巻き、それらが一定のエリアを確保すると認識できたものについては、1礫群と認定した。

一方、本遺跡固有の形態の、炭化物と掘り込み遺構だけのものも礫群遺構の一つとして認定した。炭化物及び分布の範囲を、網掛けとドットで以下の様に示した。①一番濃い網掛けは、炭化物による土壌汚染エリアを表示、②二番目の濃い網掛けは、炭化物集中域を表示、③薄い網掛けは、炭化物の分布範囲を表示した。また、ドットは2mm以上と認識できた個々の炭化物の位置を表示した。

なお、特記すべき礫群だけを記述し、礫群の形態は類型化を行い観察表に掲載した。

- I 類礫群 人為的皿状の掘り込みを伴う礫群で、礫の詰まり方でさらにA, B, Cに細分した。
 - I A 類 掘り込み遺構を伴い、礫がしっかり詰まっている。
 - I B 類 掘り込み遺構を伴い、礫が少ない。
 - I C 類 掘り込み遺構を伴い、礫は0~数個。
- II 類礫群 掘り込み遺構を検出できないが、礫の残存形状から掘り込み遺構が想定できる。
- III 類礫群 礫集中も無い礫群で礫の密粗でさらにA, Bに細分した。
 - III A 類 礫の中心が想定できる。
 - III B 類 散礫状態。

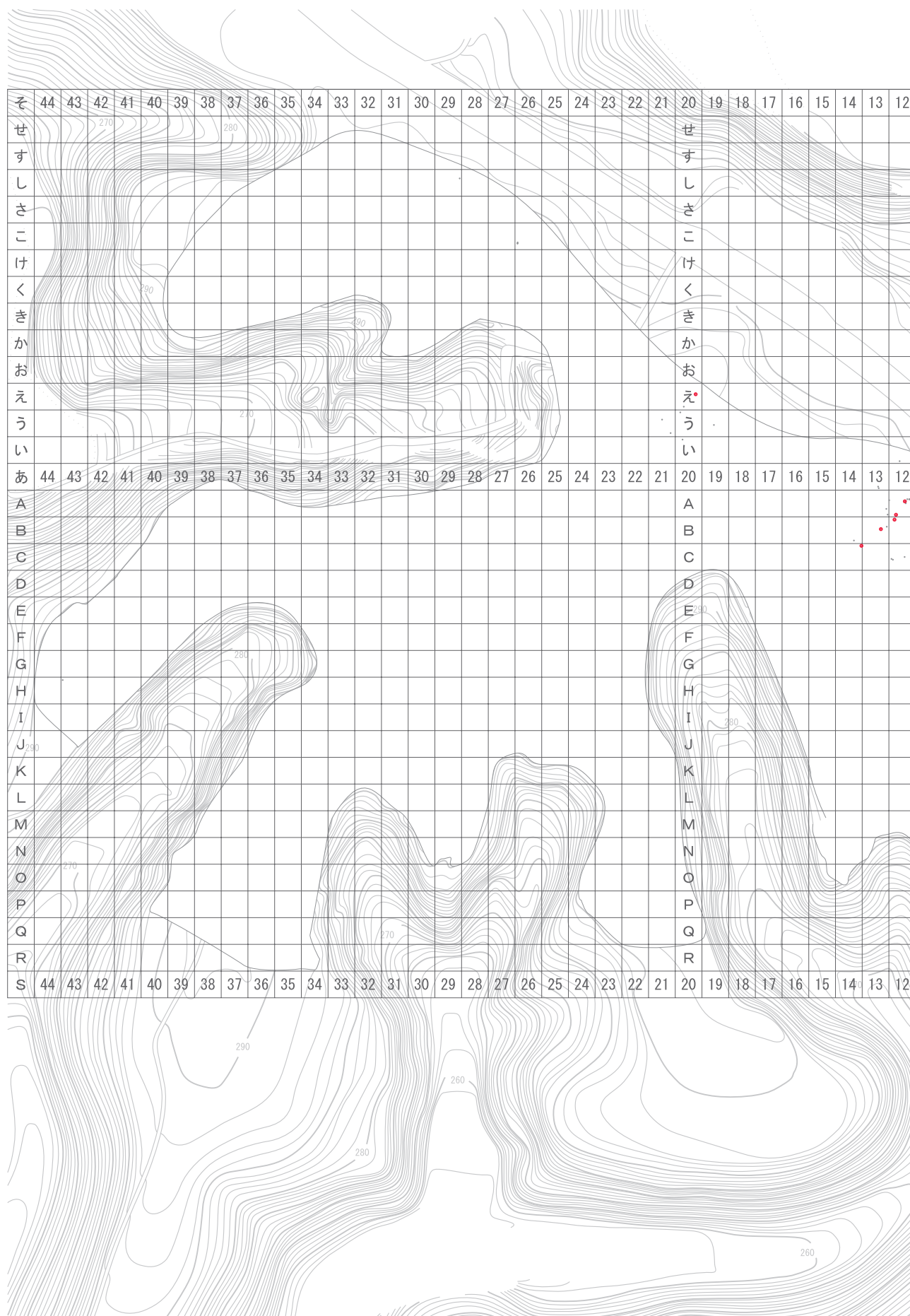
1 桐木遺跡

12基の礫群を検出した。7号礫群で浅い皿状の掘り込み遺構を確認したが、3号・5号・8号・10号・11号・12号礫群では明確な掘り込み遺構を検出していないが、礫の残存状況からは、遺構を伴った可能性が高い。

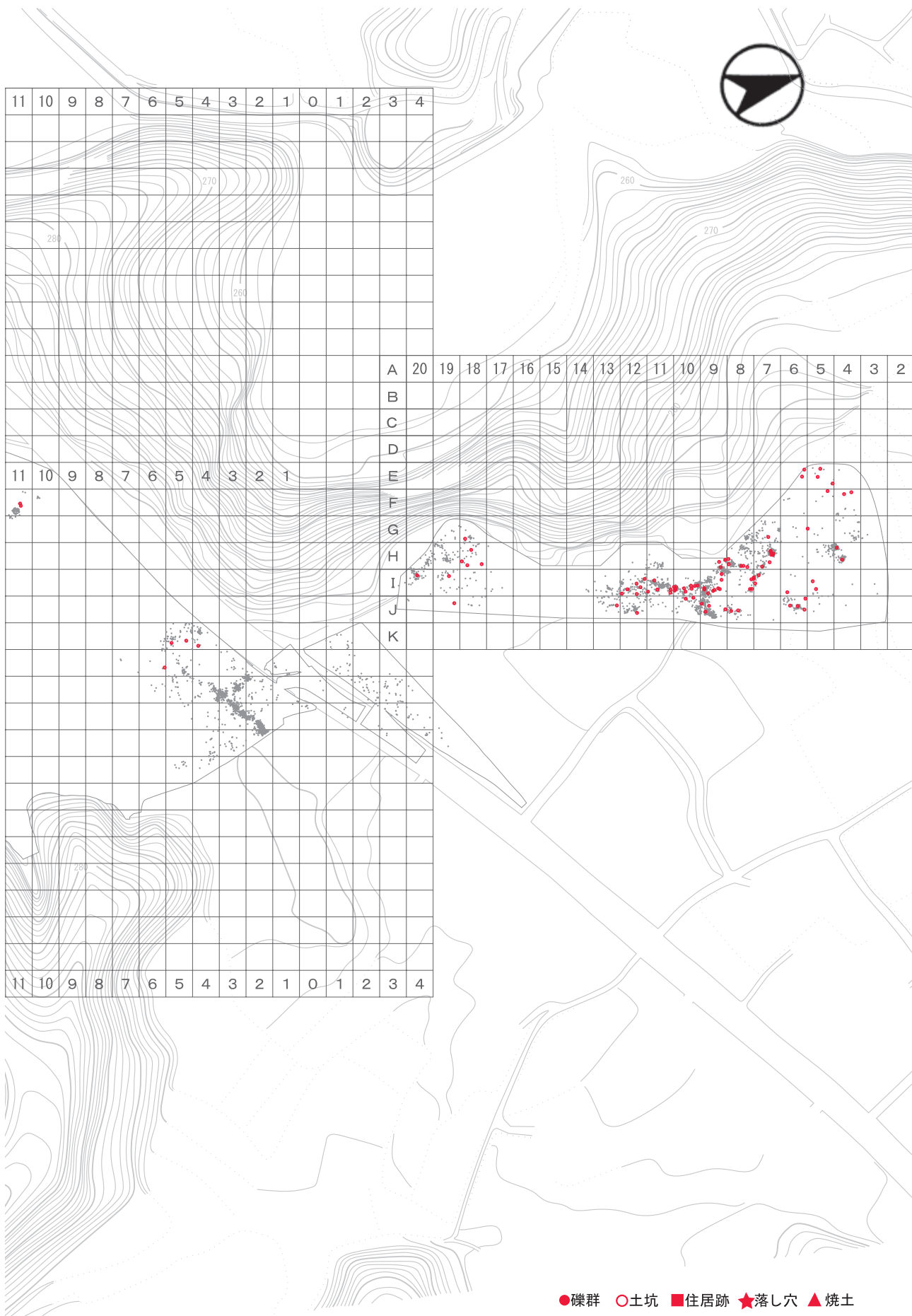
1号礫群は単独で検出したが、2号~8号礫群は今別府川を望める微高地のA~C-11~14区に形成され、9号~12号礫群は、国道10号線寄りのF・G-4~6区に形成されている。

3号礫群(第41図)

B-13区で検出した礫群で、掘り込み遺構は未確認。炭化物



第30図 第I文化層全体図 (1/2000)



● 礫群 ○ 土坑 ■ 住居跡 ★ 落とし穴 ▲ 焼土

を微量検出。構成礫は全て輝石安山岩で、3割程度が被熱している。分類はⅡ類。

5号礫群(第42図)

A-12区で検出した礫群で、掘り込み遺構は未確認。炭化物は米粒大のものが点在。8個で構成し7個が輝石安山岩、1個が安山岩である。全ての礫が被熱し、分類はⅡ類。

6号礫群(第42図)

A-12区で検出した礫群で、掘り込み遺構は無いと判断。礫は散在、炭化物は多数検出し、網掛けで表示し、ドット表示は2mm以上の炭化物で、分類はⅢB類。

7号礫群(第42図)

A-11区で検出した礫群で、浅い掘り込み遺構を確認。11個の礫で構成し、全て安山岩で、約半数が被熱するが、炭化物は確認できない。分類はⅠA類。

9号礫群(第43図)

G-6区で検出された礫群で、浅い掘り込み遺構を確認。表示した薄い網掛けは、礫群周辺にまばらに炭化物が確認された範囲で、構成礫は8割が輝石安山岩で、残りが安山岩である。19個の礫の内、2割程度が被熱していた。分類はⅠA類。

12号礫群(第44図)

F-4区で検出された礫群で、礫集中2か所と散礫で構成されている。掘り込み遺構は未確認。北側の散礫アの散逸状況は、中央の礫群イからの掻き出しとは考えられず、単独で機

能していた可能性が高い。炭化物も多数検出され、分類はⅡ類。

2 耳取遺跡

78基の礫群を検出した。14区から16区の小さな谷を挟んで両側の今別府川が見下ろせる場所に集中している。特に9区から12区は見晴らしの良い場所で、遺構も密集している。

XVI層下面での礫群検出が、86号から90号まで5基あるが、¹⁴C年代測定でのXVI層とXVII層の違いはさほどない。(付編参照)

13号礫群(第45図)

H-18区で検出した礫群で、深さ6cmの浅い掘り込み遺構の中に丁寧に礫を並べている。遺構内の礫は、拳大よりやや小さいもので、その北側に礫が散在している。2mm前後の炭化物が密に観察され、炭化物による汚染エリアが北側に広がる。分類はⅠA類。

14号礫群(第45図)

H-18区で検出し、13号礫群とは1mの距離を置く。一見、散礫の様相を呈すが、周辺土壌が炭化物により黒く汚染され、全ての礫が被熱し破砕していることから礫群と認定した。

17号礫群(第47図)

J-13区で検出し、径約28cm×28cm、深さ約10cmの掘り込み遺構内の礫と、散礫エリアで構成する。遺構内での炭化物検出は希薄で、散在している礫周辺で多く確認された。分類はⅠA類。

お-22|お-21
え-22|え-21

お-21|お-20
え-21|え-20

お-20|お-19
え-20|え-19

お-19|お-18
え-19|え-18



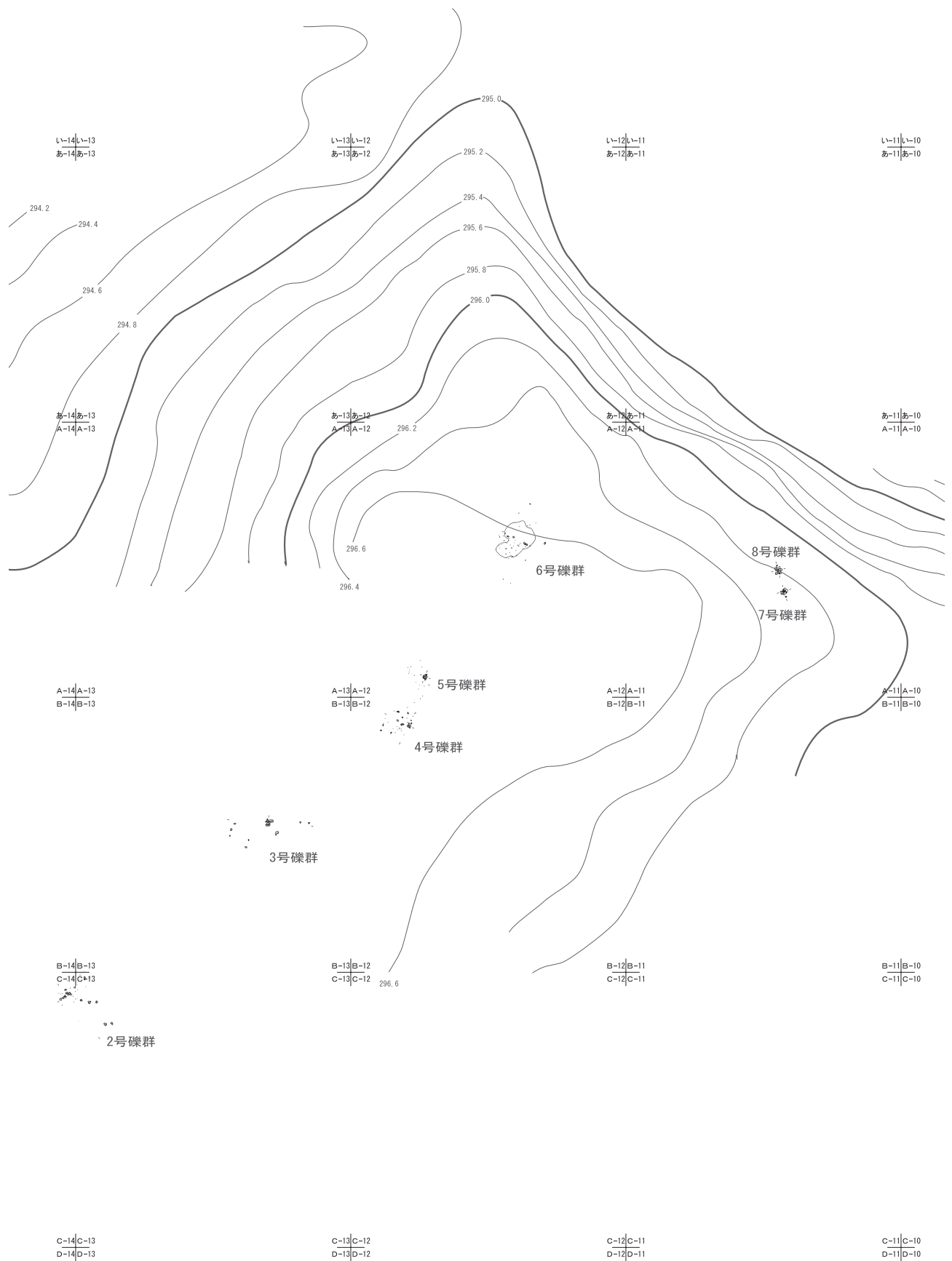
え-22|え-21
う-22|う-21

え-21|え-20
う-21|う-20

え-20|え-19
う-20|う-19

え-19|え-18
う-19|う-18

第31図 第Ⅰ文化層遺構配置図1 (1/200)



第32図 第I文化層遺構配置図2 (1/200)

E-7|E-6
F-7|F-6

E-6|E-5
F-6|F-5

E-5|E-4
F-5|F-4

E-4|E-3
F-4|F-3

F-7|F-6
G-7|G-6

F-6|F-5
G-6|G-5

F-5|F-4
G-5|G-4

F-4|F-3
G-4|G-3

G-7|G-6
H-7|H-6

G-6|G-5
H-6|H-5

G-5|G-4
H-5|H-4

G-4|G-3
H-4|H-3

第33図 第I文化層遺構配置図3 (1/200)

21号礫群(第50図)

I-12区で検出し、礫群が密集している区でもある。拳大の礫を約70個使用し、全てが被熱、掘り込み遺構は未確認。炭化物は非常に多く、礫の下に5mm以上の炭化物が付着する状況も確認されている。網掛けのやや濃い部分は、径5mm以上の炭化物が多数残されていた。

28号礫群(第55図)

I-11区で検出した。標高293.53mラインで、炭化物による汚染エリアと小礫3個を確認し、その状況を記録した。実測後の精査で、汚染エリアの下部に掘り込み遺構が存在することが確認され、検出の結果、93cm×67cm、深さ11cmの遺構が確認された。遺構内には礫はまばらに残され、埋土は周辺より密に炭化物を含んでいた。当初記録した汚染エリアと、その後検出した遺構を重ねて図示しているが、ほぼ重なることから一体の施設と認定できる。

29号礫群(第55図)

I-11区で検出し、28号礫群と近接し、その距離約1mである。発見当初は、破碎した礫1個と若干炭化物の汚染が見られる程度であったが、汚染部分をピンポールに因る探索で、下位に礫群があることが判明した。検出の結果、40cm×35cm、深さ約13cmの掘り込み遺構と、遺構内から約10cmの礫38個を確認した。

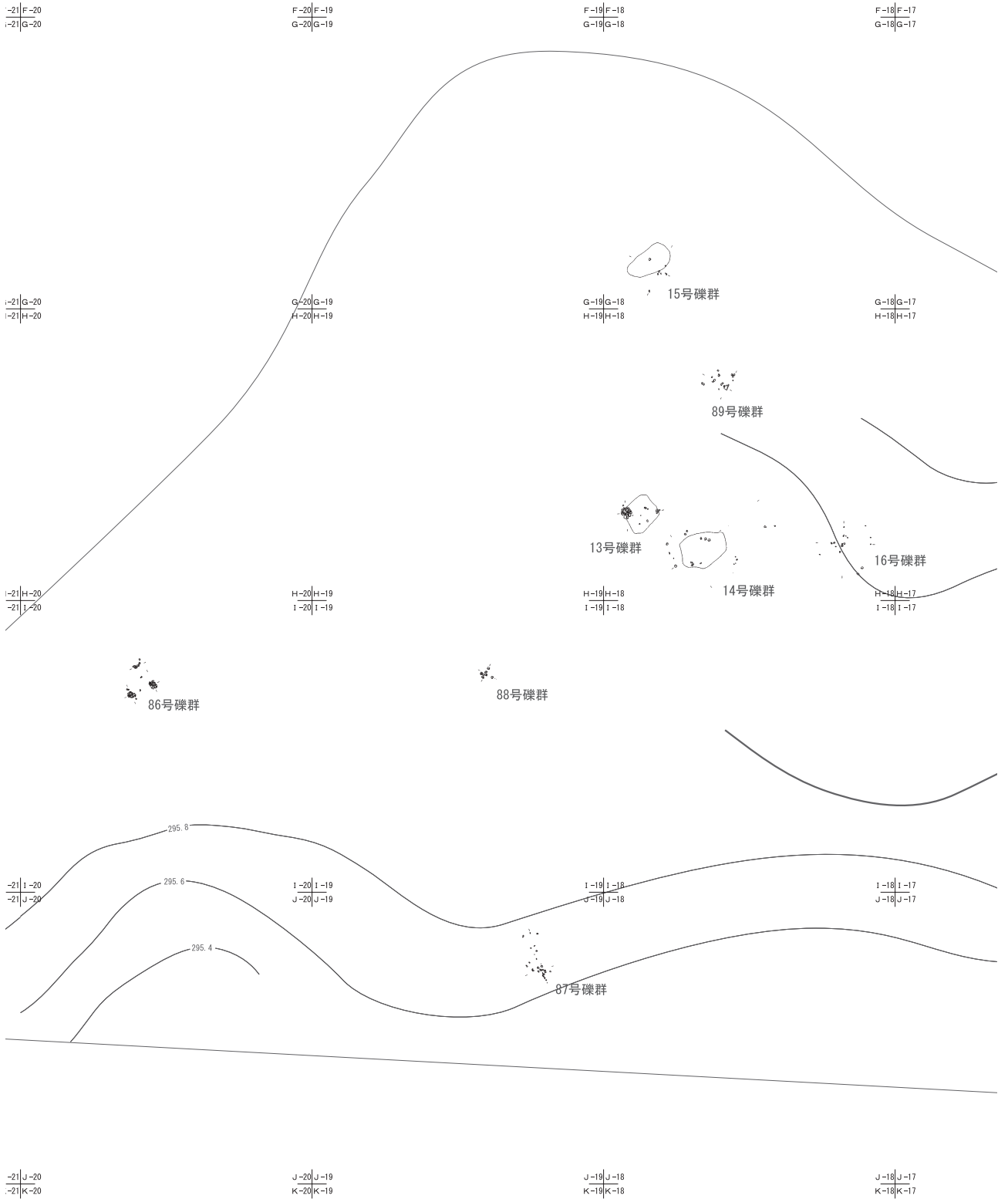
29号礫群の成果を基に、他の該当部分(炭化物汚染エリア)の再調査を実施した結果、見過ごしていた多くの礫群を確認することに成功した。印象深い礫群でもある。

32号礫群(第57図)

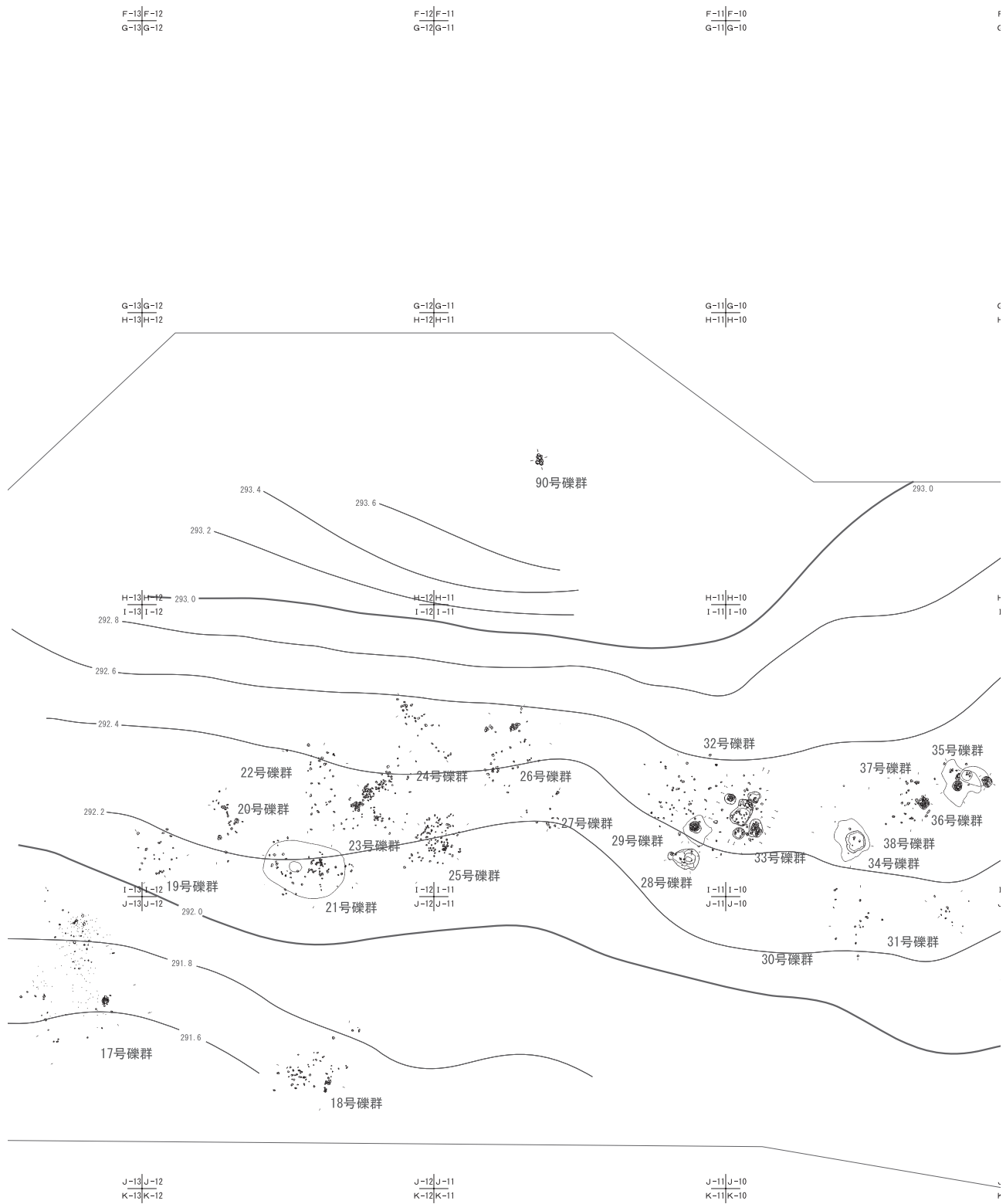
I-10・11区で検出した。径32cm×27cm、深さ7cm弱の掘り込み遺構をもち、遺構内からは10cm前後の礫11個が検出された。南側へ散逸した礫を伴う。炭化物は、2mm大を1個確認したのみである。分類はIA類。

33号礫群(第58図)

I-10区で検出した。5基の掘り込み遺構を伴う小礫群で構成されるが、⑤は32号礫群の掘り込み遺構の跡である。なお、32号礫群の調査時点では、①から④の遺構の存在は判明していなかった。32号礫群の調査後、周辺から破碎礫が確認されたことから、再度掘り下げを行い、33号礫群の検出に成功している。両礫群の検討では、32号礫群の検出が33号礫群より約4cm高くなる。①と④の掘り込み遺構は径約40cm×40cmで、浅い皿状を呈し、10個程度の礫が残される。②の掘り込み遺構は径約90cm×60cmで、2基の遺構が重なる様相が見られたが、検証するには至らなかった。③の掘り込み遺構は径約60cm×50cm、深さ20cmで、10cm前後の礫35個が残されていた。



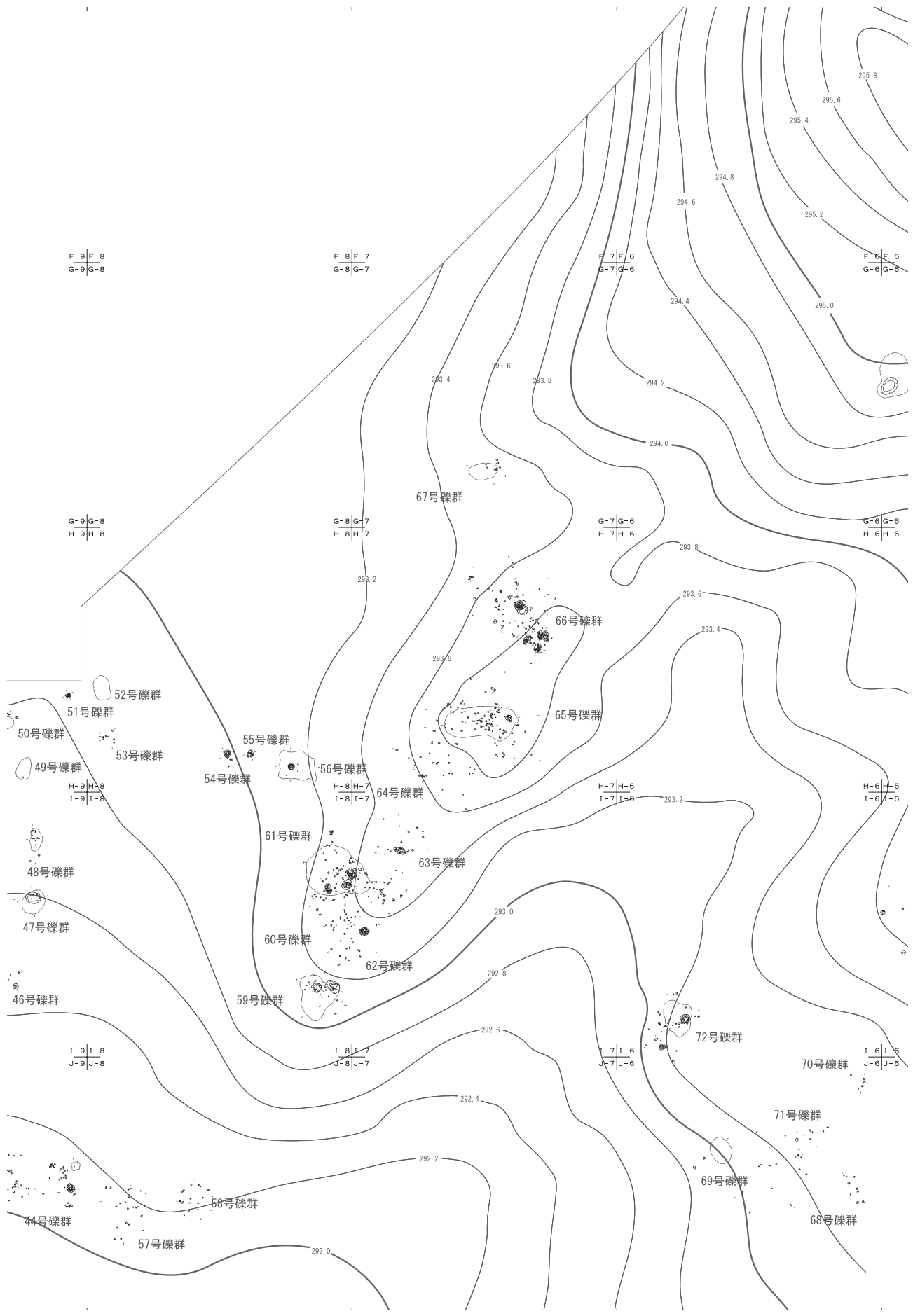
第34图 第I文化層遺構配置图4 (1/200)



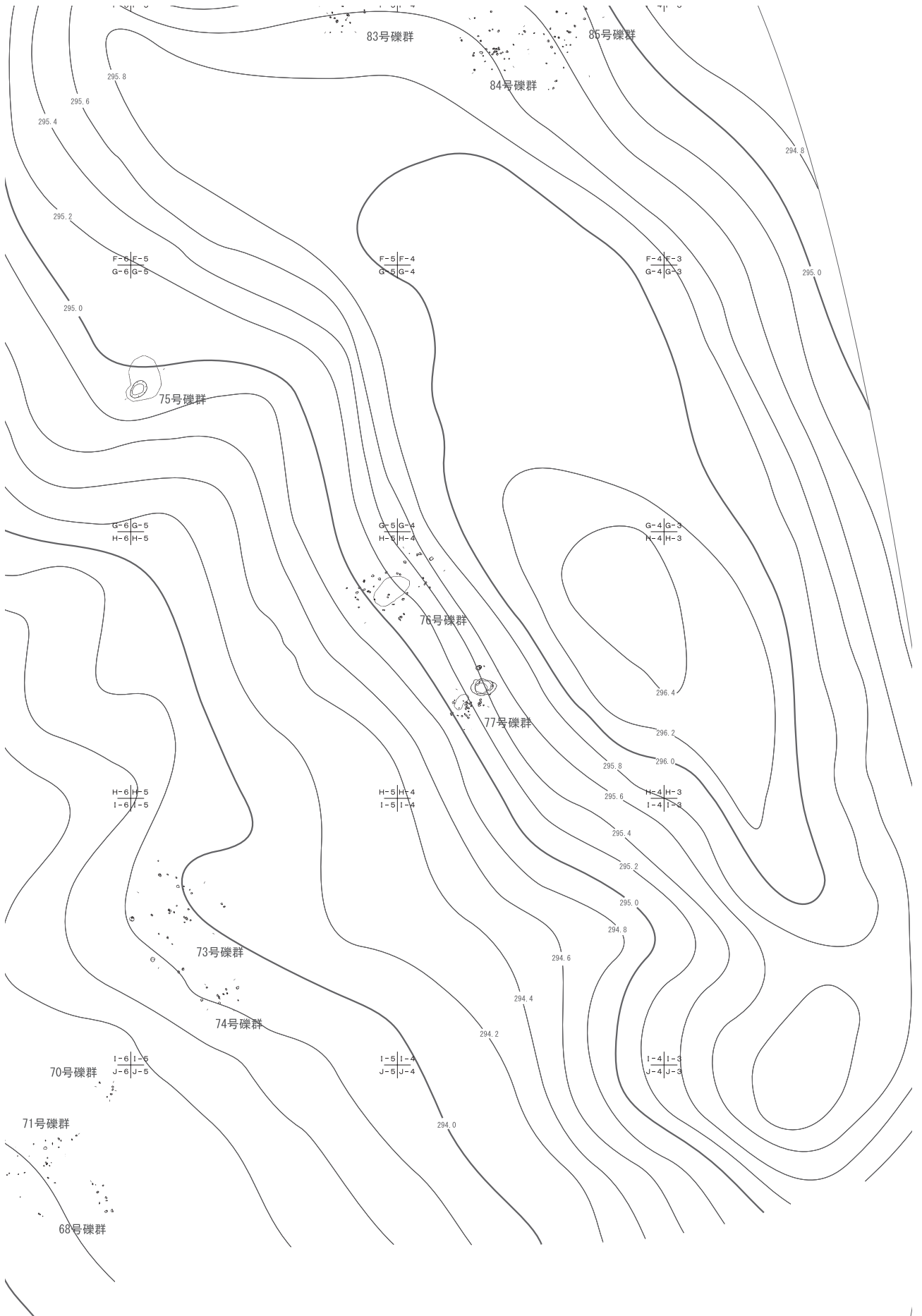
第35图 第I文化層遺構配置图5 (1/200)



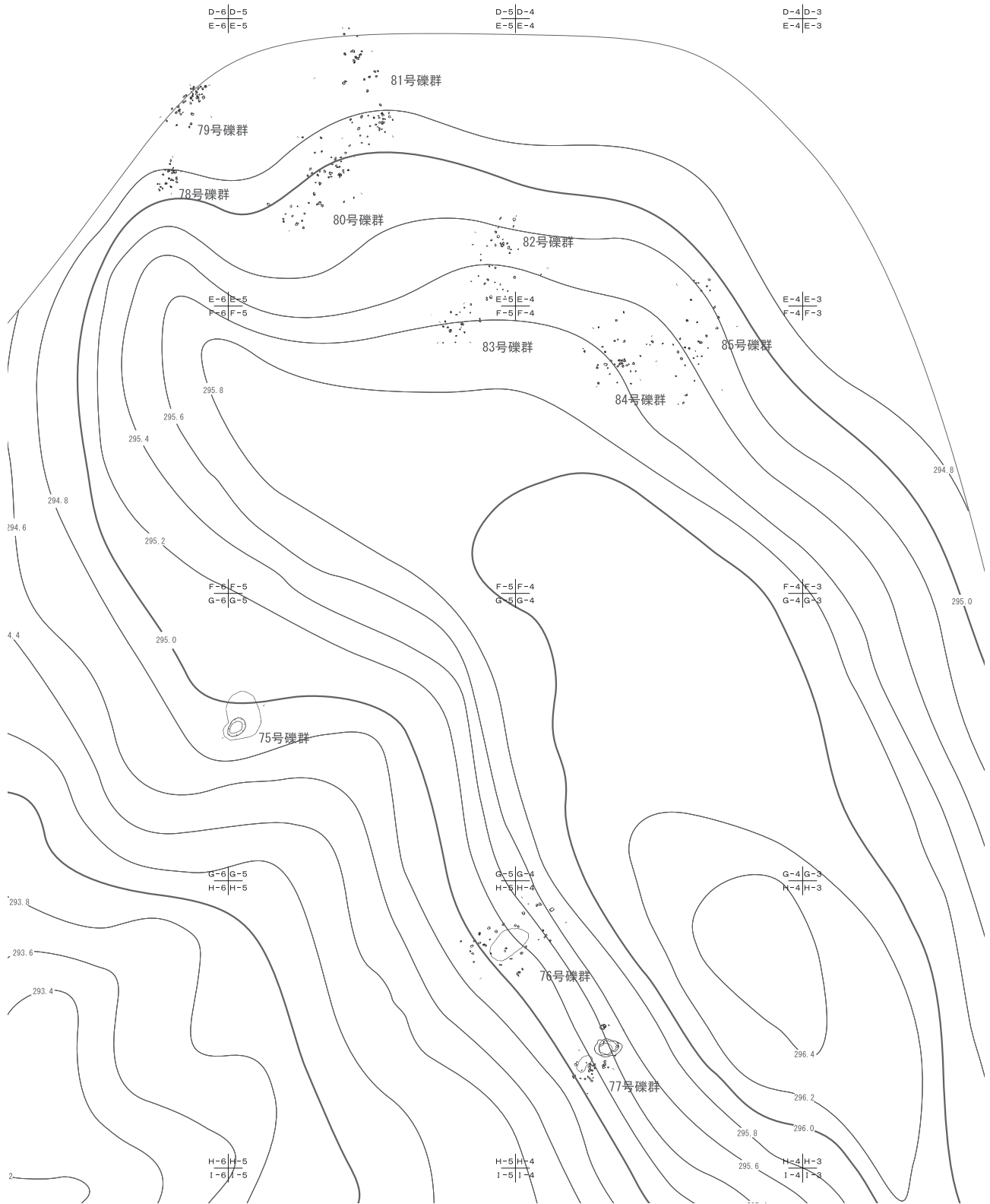
第36図 第I文化層遺構配置図6 (1/200)



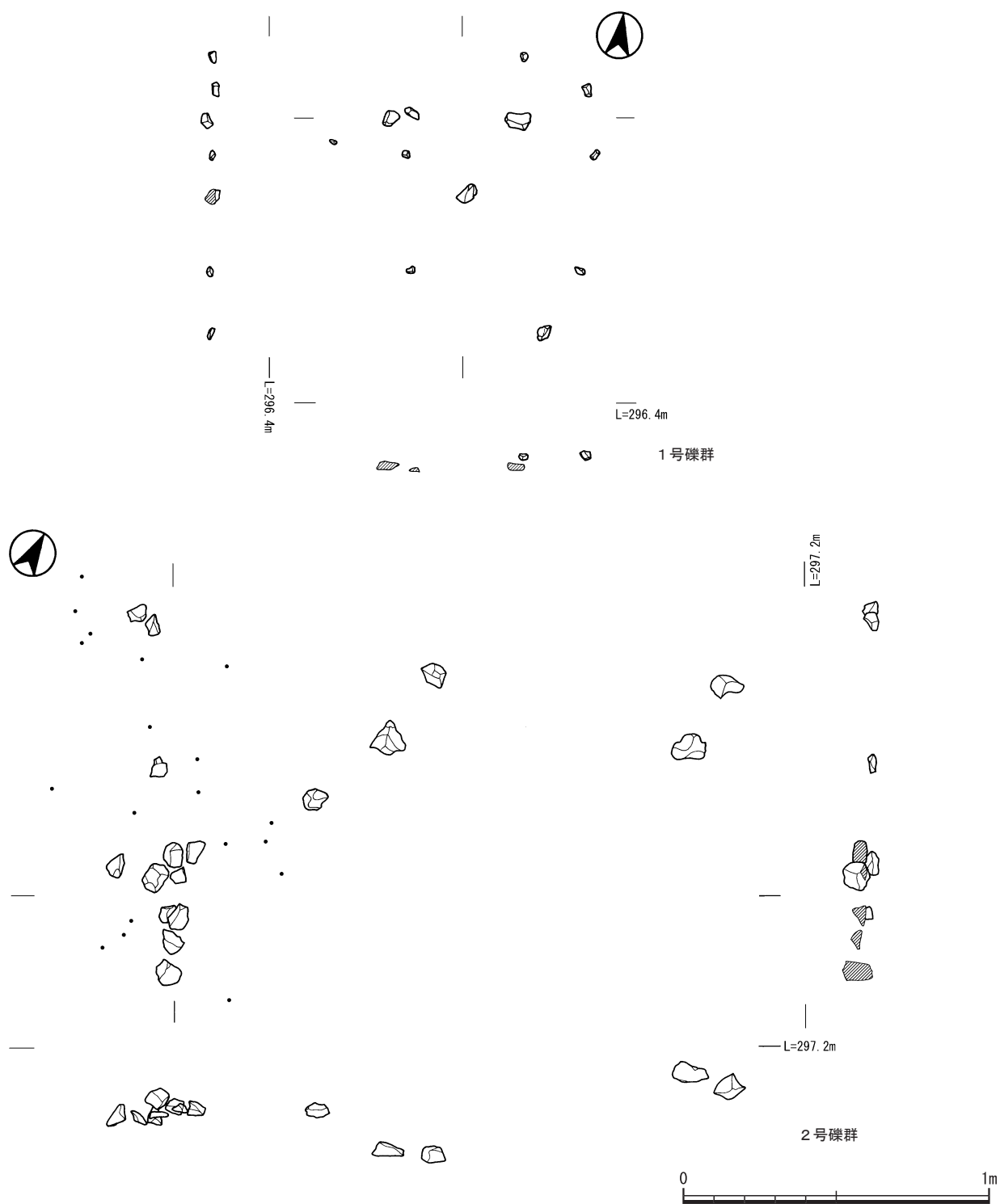
第37图 第I文化層遺構配置图7 (1/200)



第38図 第I文化層遺構配置図8 (1/200)



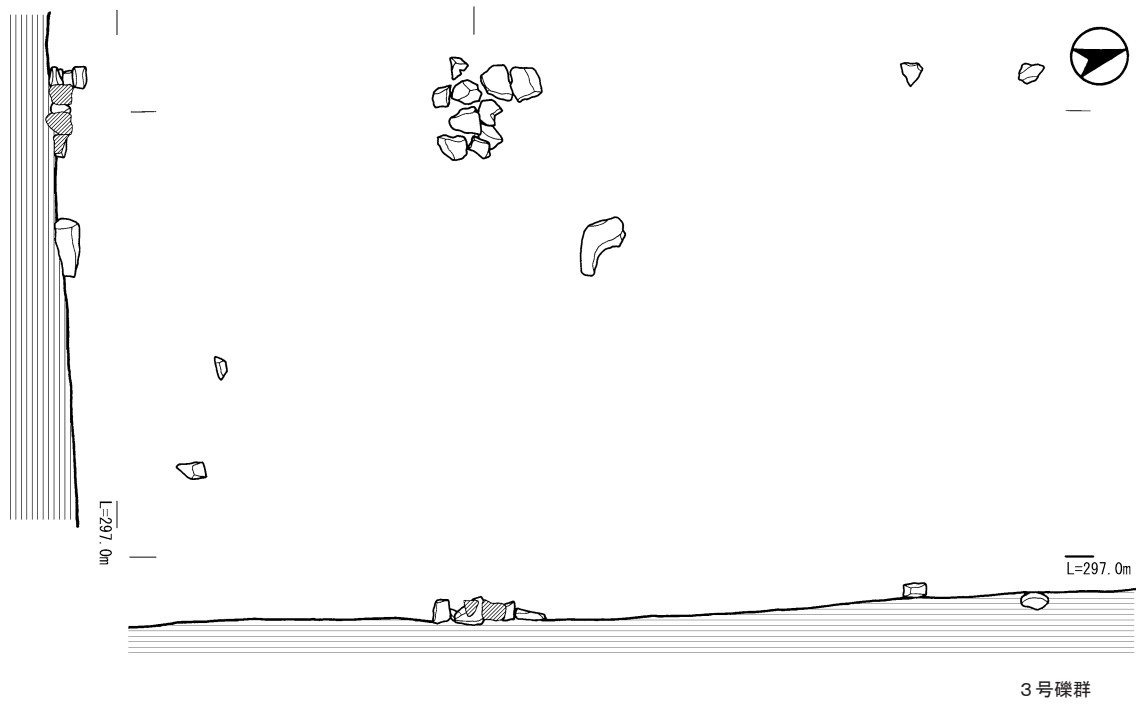
第39图 第I文化層遺構配置图9 (1/200)



第40図 X VII層遺構実測図 (1)

第3表 X VII～X VI層遺構観察表 (1)

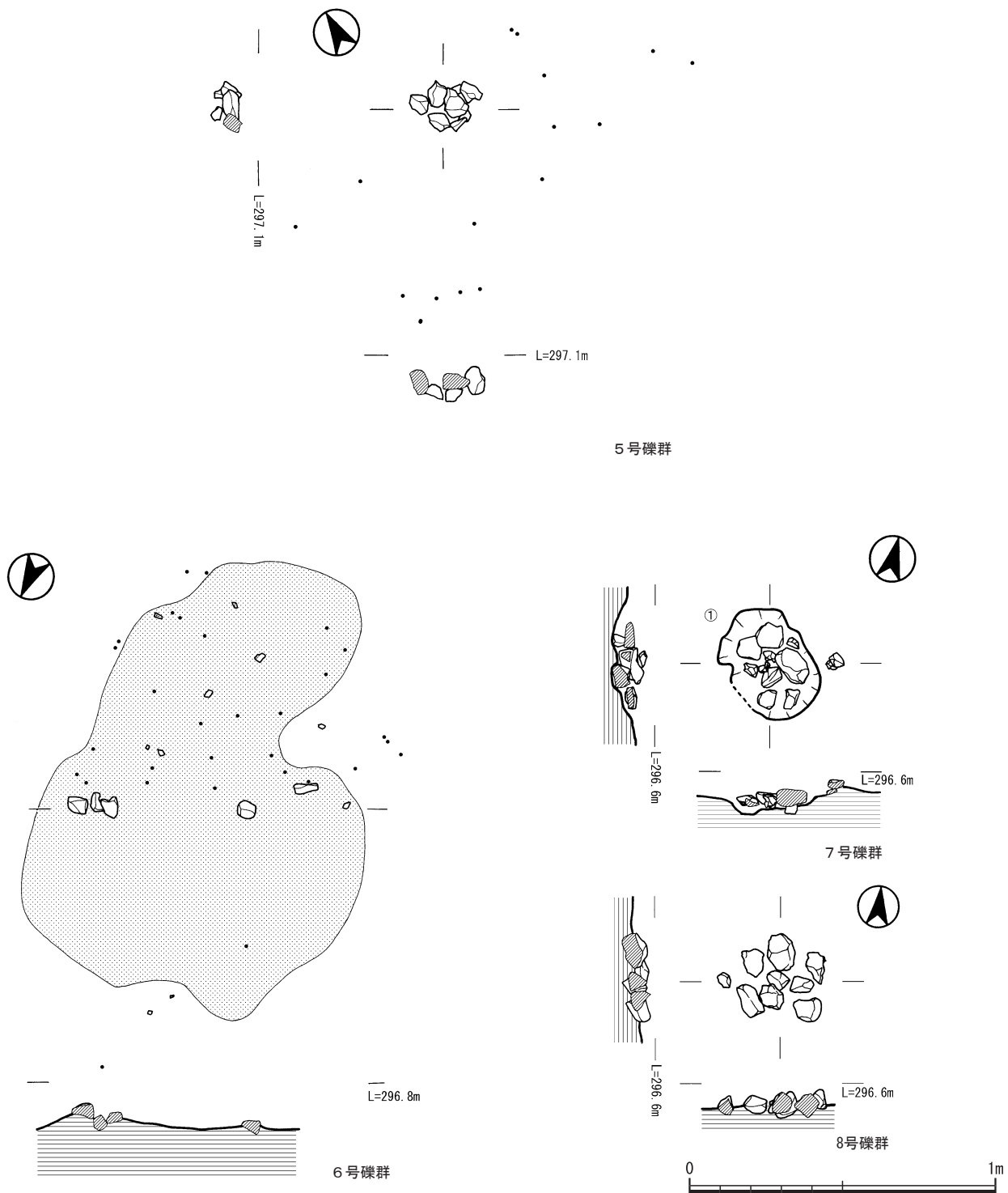
報告書 No	挿図No	類型	大きさ		炭化物範囲		構成礫				小礫群掘り込み				
			長径 (cm)	短径 (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	重量平 均值 (g)	被熱率 (%)	破碎率 (%)	石材	No	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	礫数
1	40	ⅢB	94	88	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2	40	ⅢB	208	126	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-



第41図 X VII層遺構実測図 (2)

第4表 X VII～X VI層遺構観察表 (2)

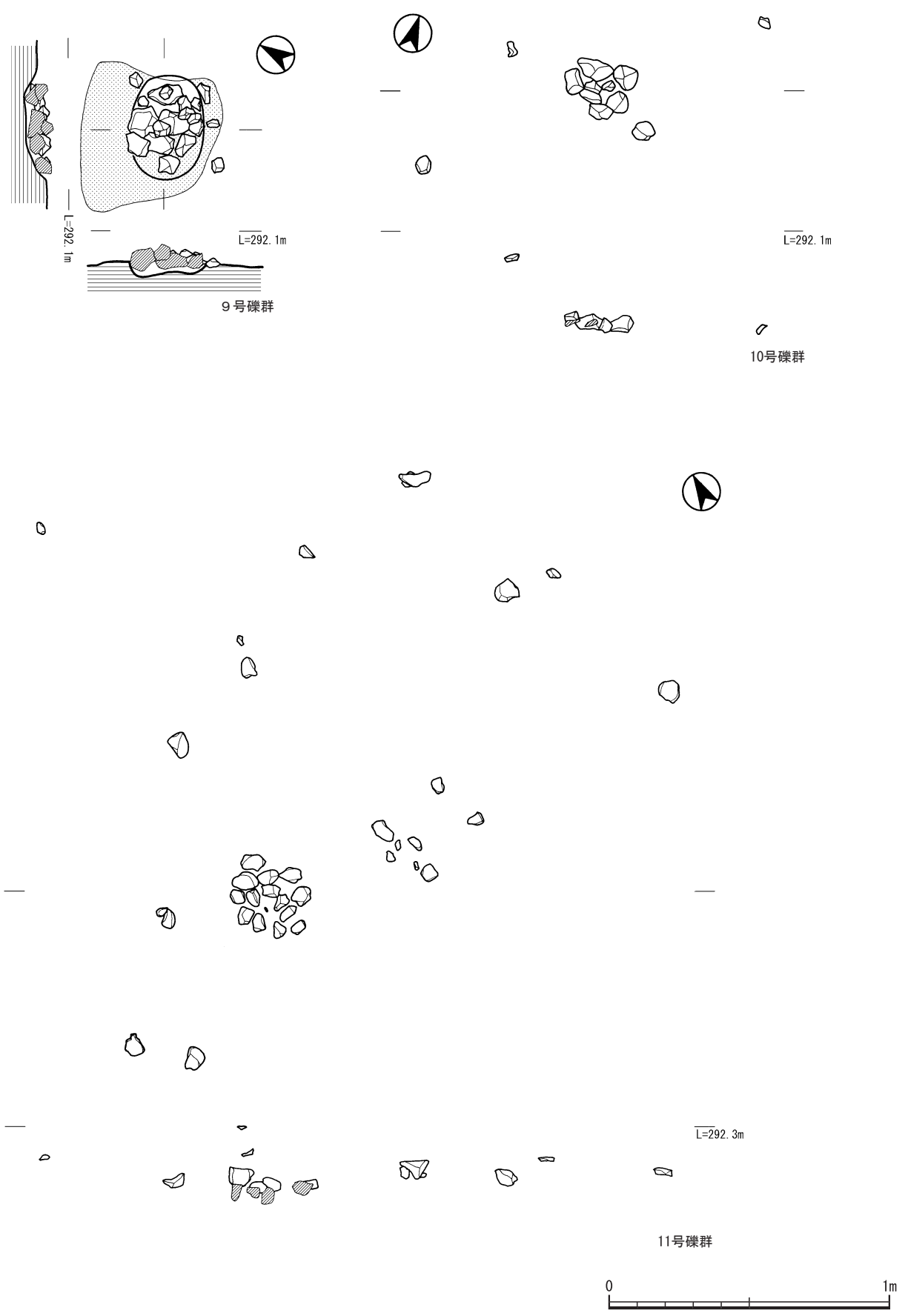
報告書 No	挿図No	類型	大きさ		炭化物範囲		構成礫				小礫群掘り込み				
			長径 (cm)	短径 (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	重量平 均値 (g)	被熱率 (%)	破碎率 (%)	石材	No	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	礫数
3	41	II	228	110	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4	41	III B	106	96	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	



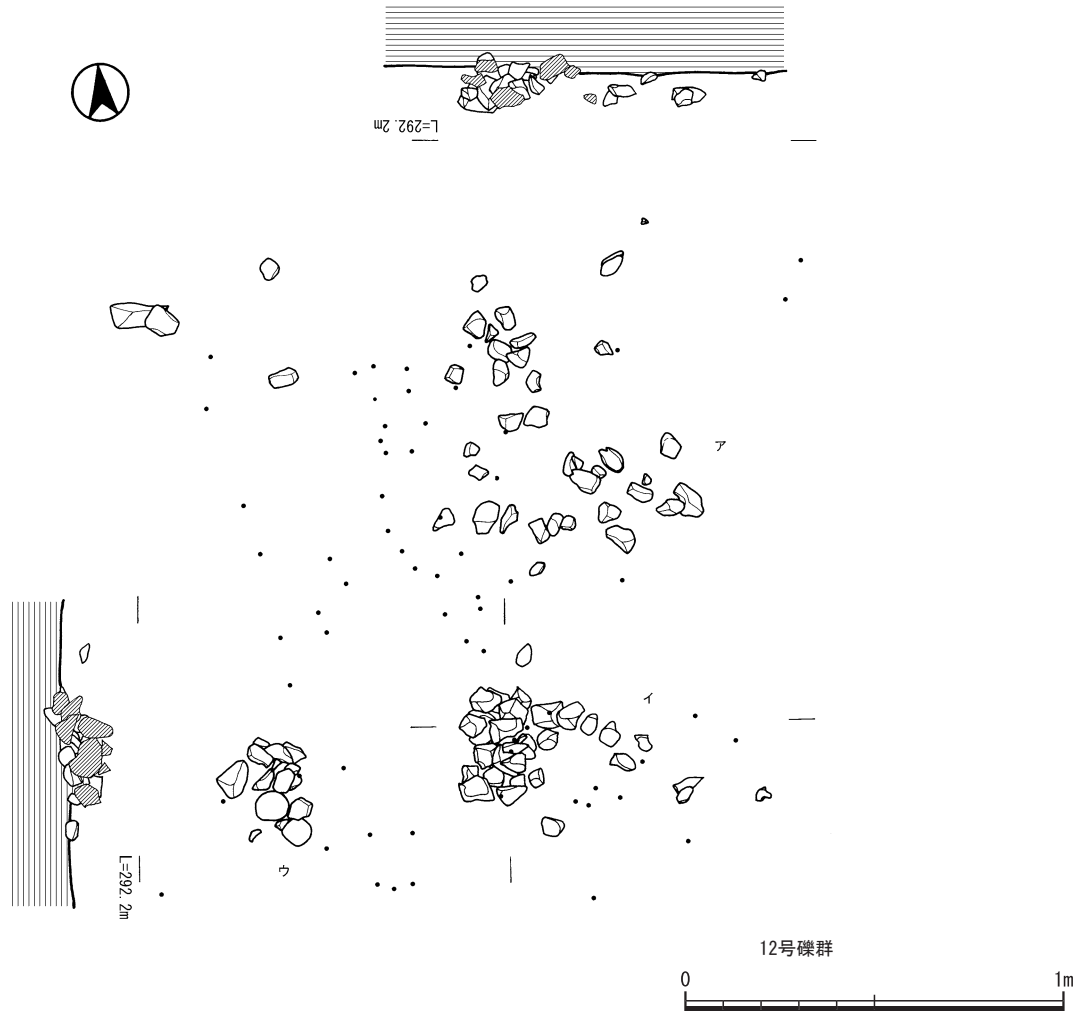
第42図 X VII層遺構実測図 (3)

第5表 X VII～X VI層遺構観察表 (3)

報告書 No	挿図No	類型	大きさ		炭化物範囲		構成礫				小礫群掘り込み				
			長径 (cm)	短径 (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	重量平 均值 (g)	被熱率 (%)	破碎率 (%)	石材	No	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	礫数
5	42	II	24	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6	42	III B	162	110	150	110	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7	42	I A	36	28	-	-	-	-	-	-	①	38	27	6	11
8	42	II	30	26	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-



第43图 X VII層遺構実測图 (4)



第44図 XVII層遺構実測図(5)

第6表 XVII～XVI層遺構観察表(4)

報告書 No	挿図No	類型	大きさ		炭化物範囲		構成礫				小礫群掘り込み				
			長径 (cm)	短径 (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	重量平均値 (g)	被熱率 (%)	破砕率 (%)	石材	No	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	礫数
9	43	I A	48	37	64	51	-	-	-	-	①	38	27	10	19
10	43	II	126	76	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
11	43	II	230	208	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
12	44	II	175	168	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
13	45	I A	134	70	138	112	120	100	100	頁岩(100%)	①	40	38	6	23
14	45	III B	200	184	172	124	229.56	100	100	輝石安山岩(66.7%), 頁岩(33.3%)	-	-	-	-	-
15	46	III B	108	80	158	88	67.43	100	100	輝石安山岩(28.6%), 砂岩(71.4%)	-	-	-	-	-
16	46	III B	172	176	-	-	8.67	100	100	頁岩(100%)	-	-	-	-	-

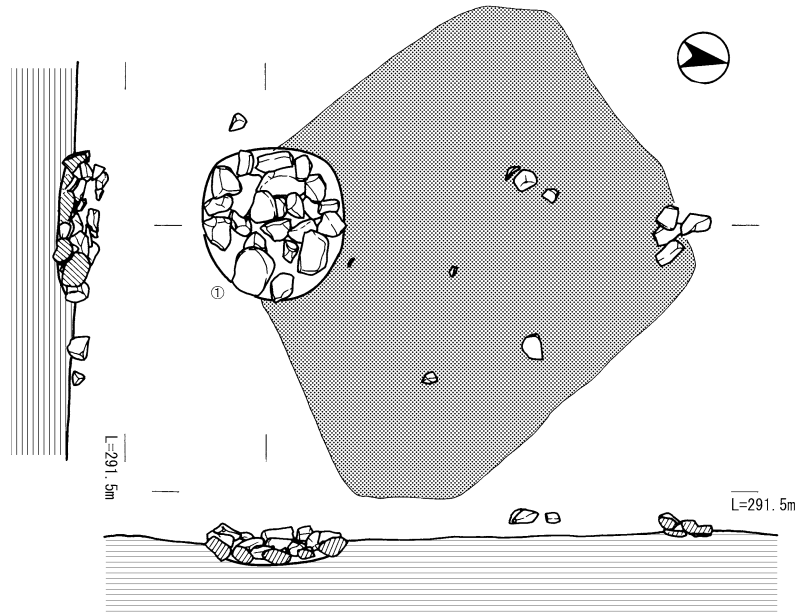
34号礫群(第59図)

I-10区の礫群集中区で検出した。XVII層上面で礫1個と炭化物による汚染エリアを確認し、炭化物汚染エリアのボーリング探査により、掘り込み遺構と少量の礫を検出した。遺構は85cm×77cmで深さ12cm、埋土は暗褐色砂質土で炭化物の小片を多量に含む。分類はI C類。

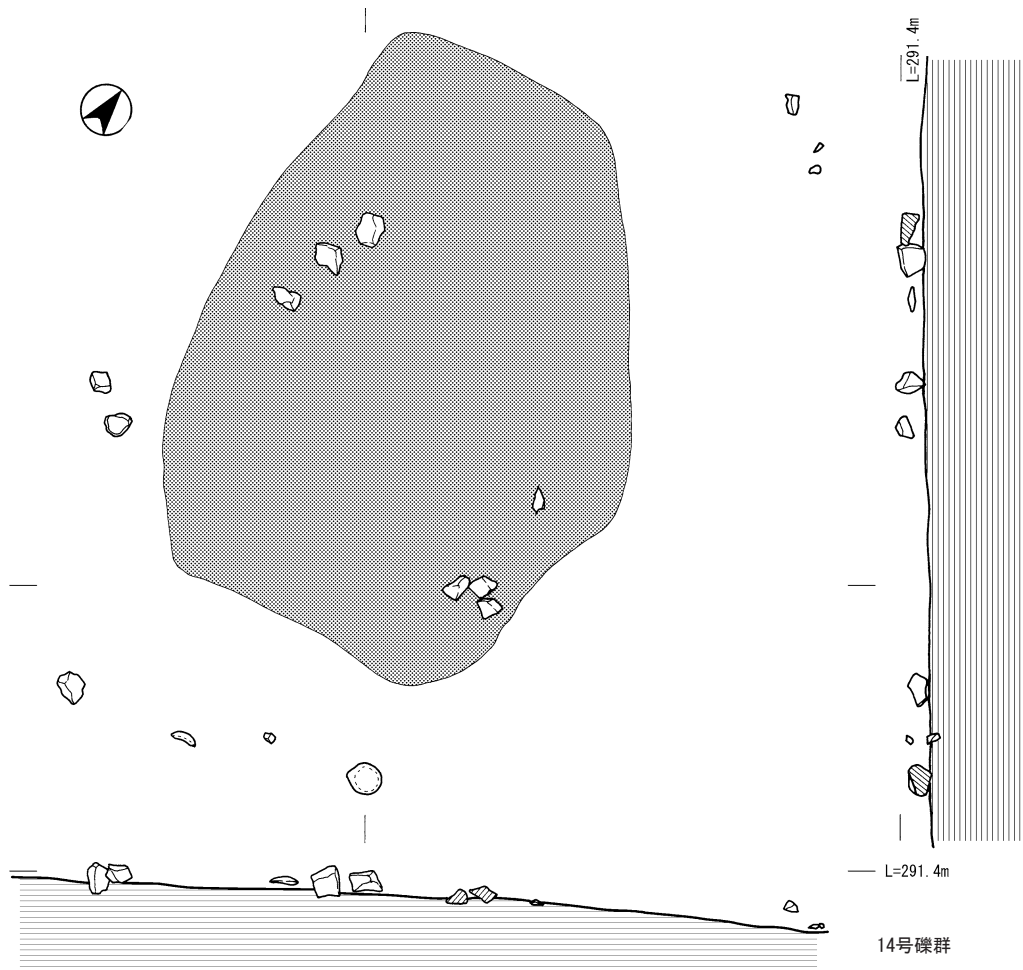
35号礫群(第59図)

I-10区の礫群集中区で検出した。遺構配置図では、36号

礫群と礫及び炭化物エリアが重なっているが、36号礫群が先行して検出されている。35号礫群と36号礫群の検出は、約10cmのレベル差があり、35号礫群が先行して使用されたと判断できる。掘り込み遺構は径38cm×36cm、深さ10cmで、礫13個を内包し、南側へ礫4個が散逸する。散逸礫周辺に炭化物汚染エリアがあり、その部分の掘り下げを試みたが、遺構等の施設は確認できなかった。



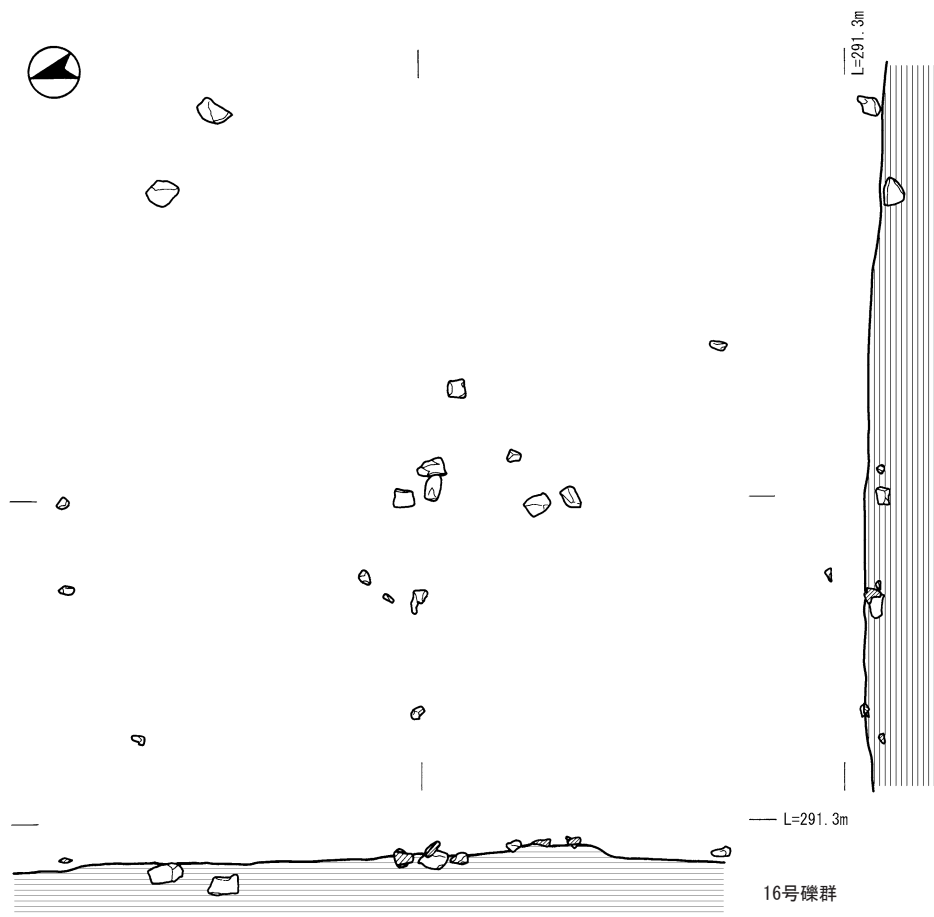
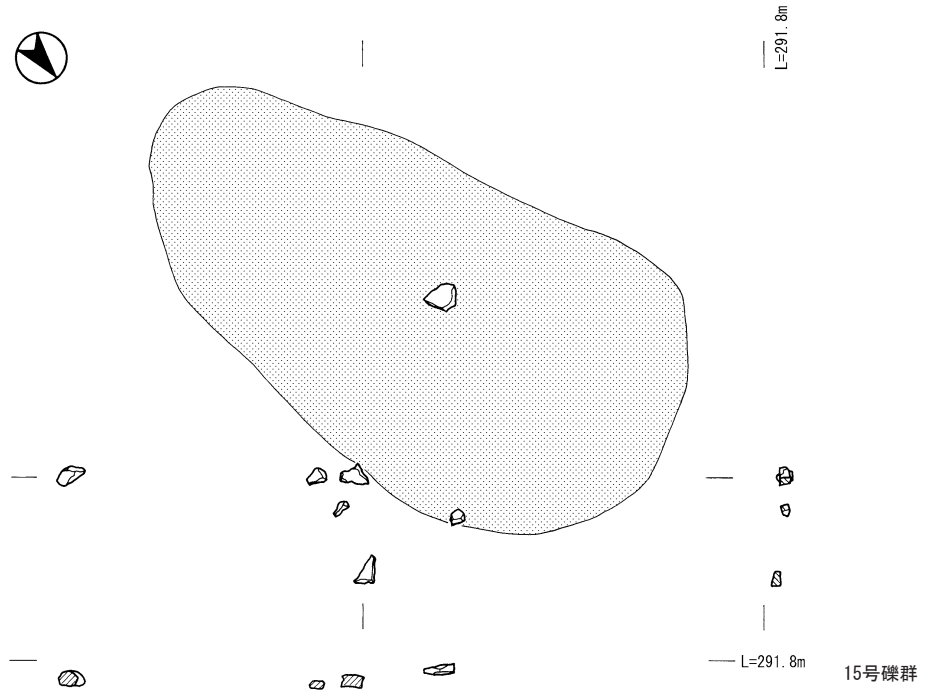
13号磔群



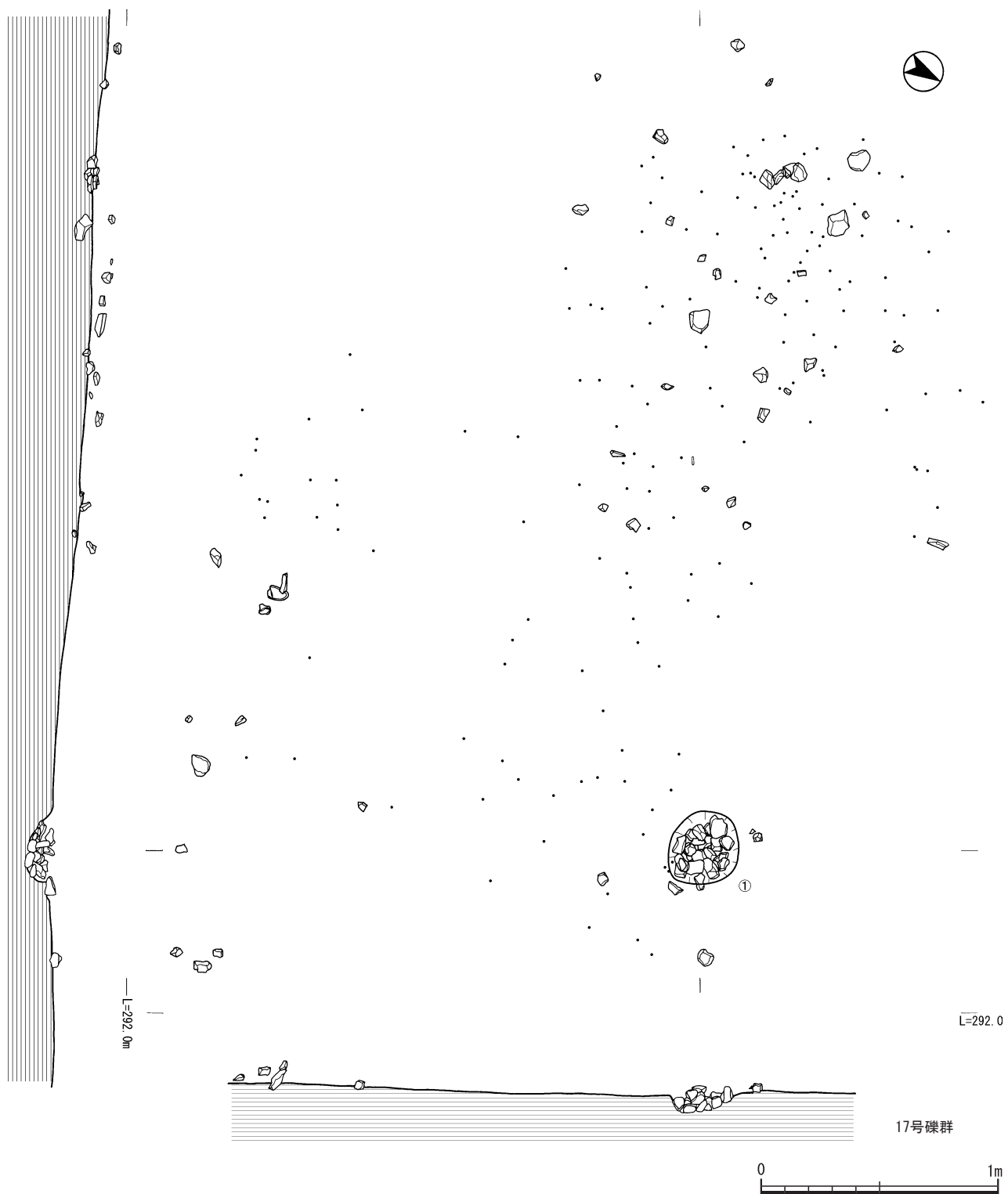
14号磔群



第45图 X VII層遺構実測图 (6)



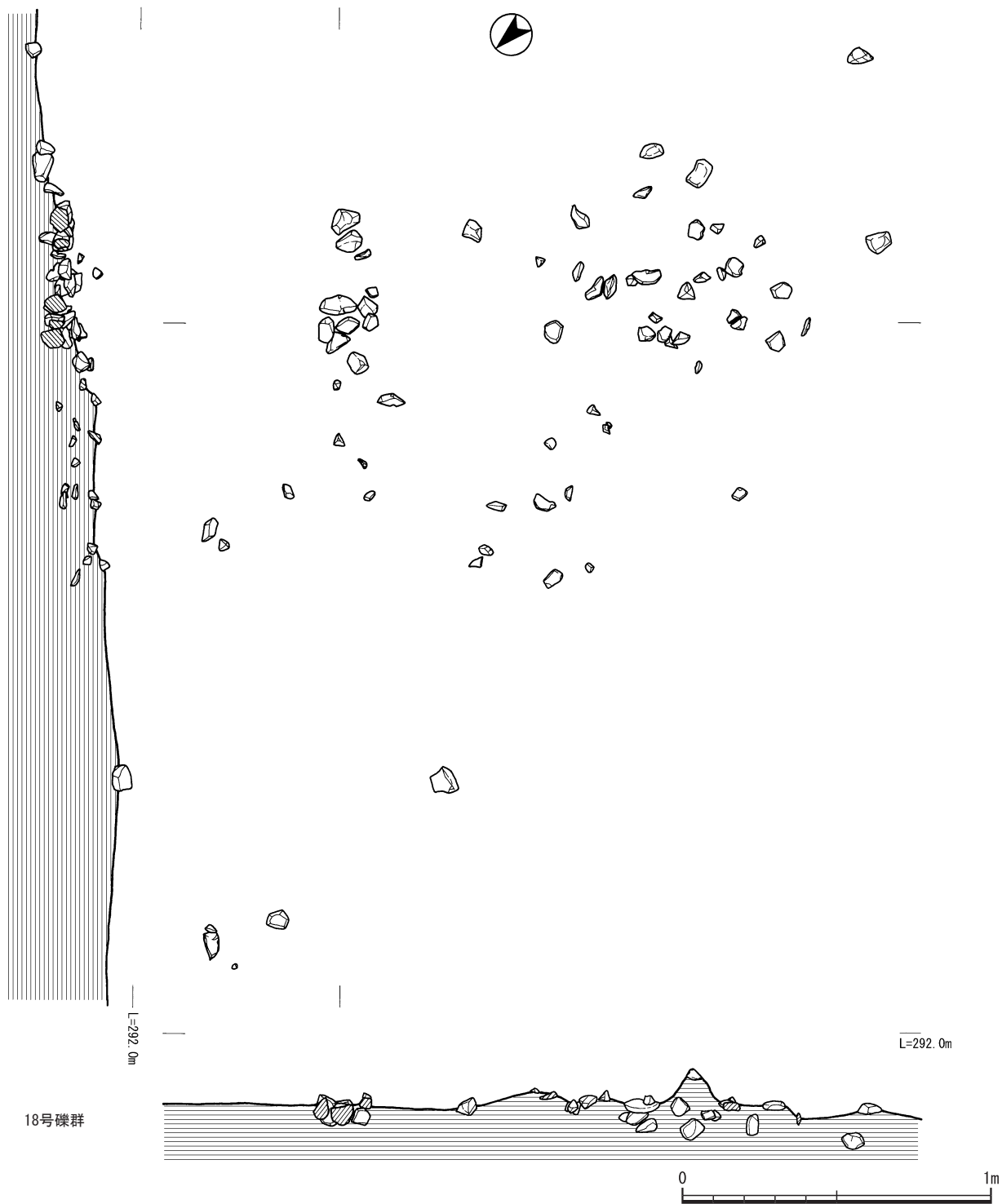
第46図 XⅦ層遺構実測図(7)



第47図 XVII層遺構実測図(8)

第7表 XVII~XVI層遺構観察表(5)

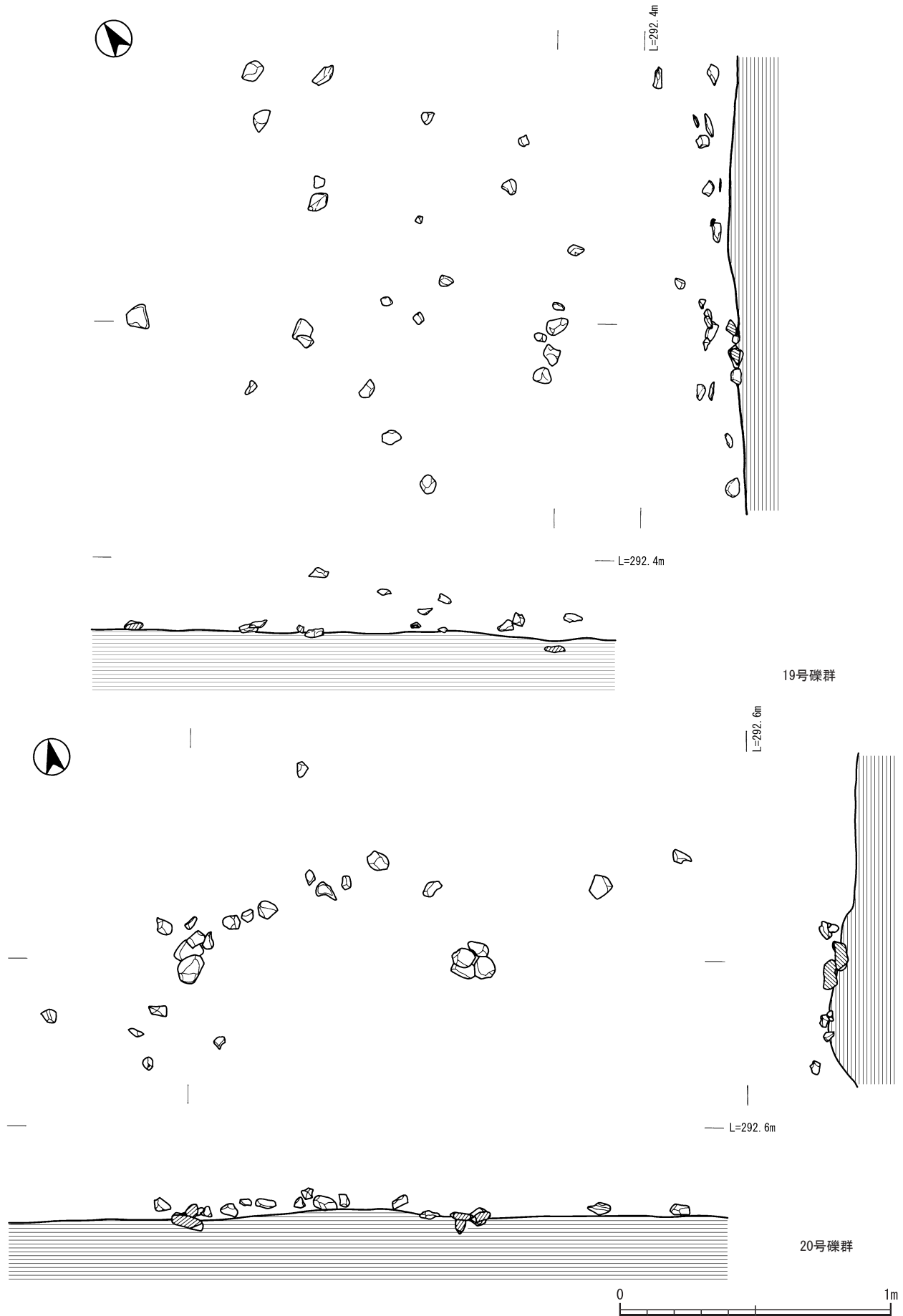
報告書 No	挿図No	類型	大きさ		炭化物範囲		構成礫			小礫群掘り込み					
			長径 (cm)	短径 (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	重量平 均値(g)	被熱率 (%)	破碎率 (%)	石材	No	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	礫数
17	47	IA	314	260	-	-	111.44	98.6	97.3	輝石安山岩(39.7%), 砂岩(38.4%), 頁岩(21.9%)	①	28	28	10	21



第48図 XVII層遺構実測図 (9)

第8表 XVII～XVI層遺構観察表 (6)

報告書 No	挿図No	類型	大きさ		炭化物範囲		構成礫			小礫群掘り込み					
			長径 (cm)	短径 (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	重量平 均值 (g)	被熱率 (%)	破碎率 (%)	石材	No	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	礫数
18	48	ⅢA	298	224	-	-	104.81	100	100	輝石安山岩 (47.8%), 砂岩 (37.3%), 頁岩 (14.9%)	-	-	-	-	-



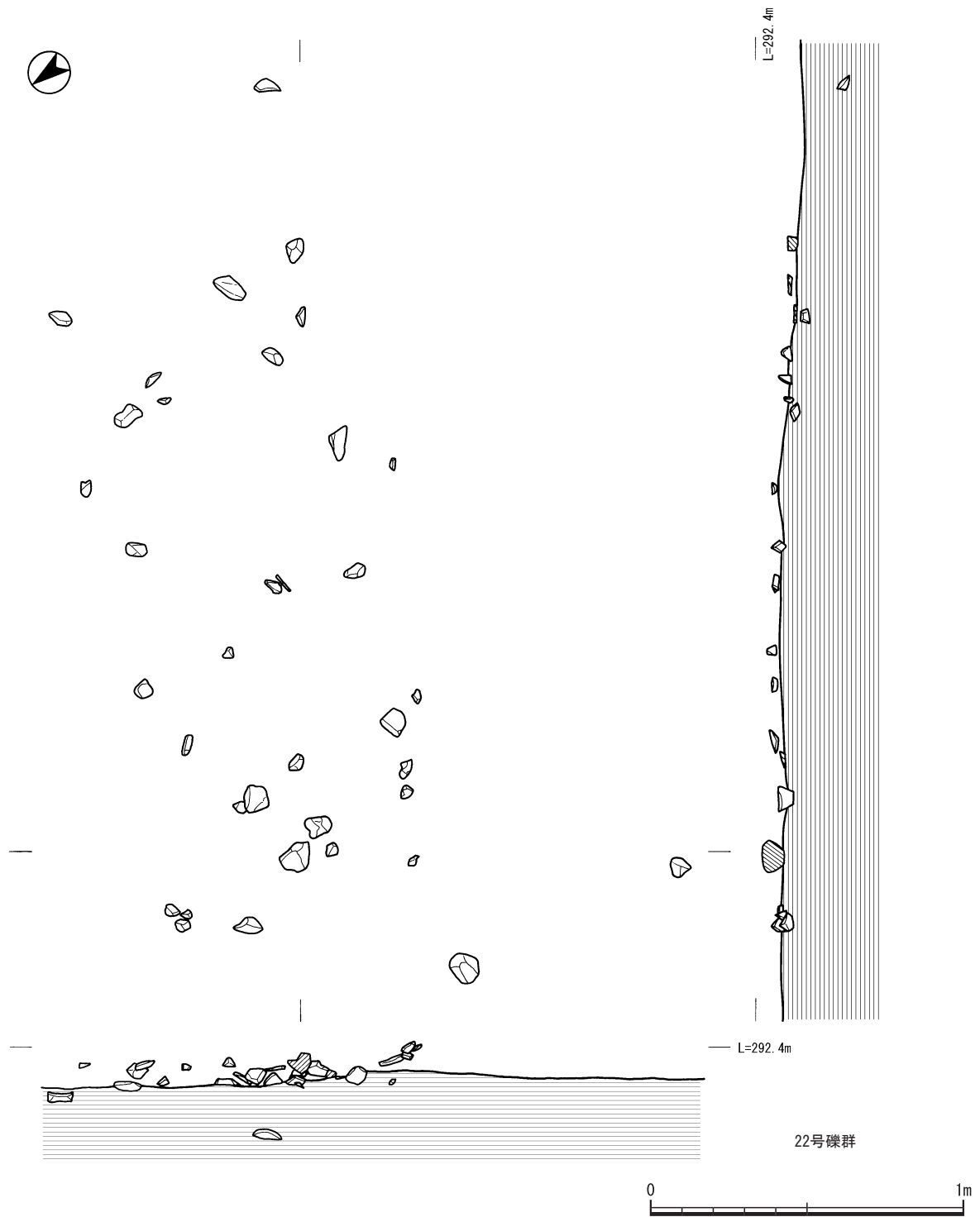
第49图 XVII層遺構実測図(10)



第50図 XVII層遺構実測図 (11)

第9表 XVII～XVI層遺構観察表 (7)

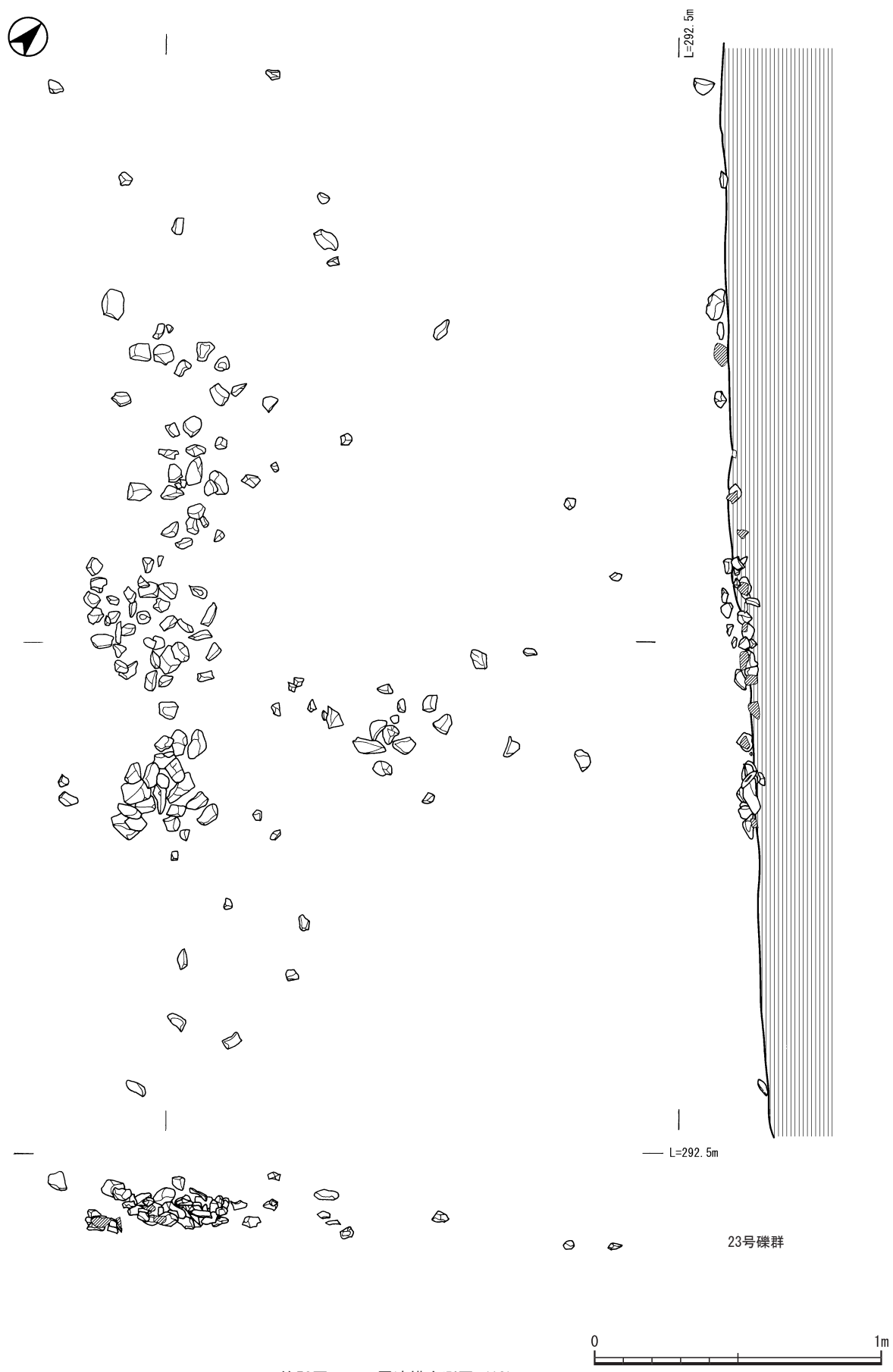
報告書 No	挿図No	類型	大きさ		炭化物範囲		構成礫				小礫群掘り込み				
			長径 (cm)	短径 (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	重量平 均值 (g)	被熱率 (%)	破碎率 (%)	石材	No	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	礫数
19	49	ⅢB	168	160	-	-	84.81	93.8	87.5	輝石安山岩 (50%), 砂岩 (19%), 頁岩 (31%)	-	-	-	-	-
20	49	ⅢA	242	116	-	-	181.39	100	93.1	輝石安山岩 (51.7%), 砂岩 (41.4%), 頁岩 (6.9%)	-	-	-	-	-
21	50	ⅢA	308	196	276	185	107.76	100	85.7	輝石安山岩 (52.4%), 砂岩 (23.8%), 頁岩 (16.7%), 不明 (7.1%)	-	-	-	-	-



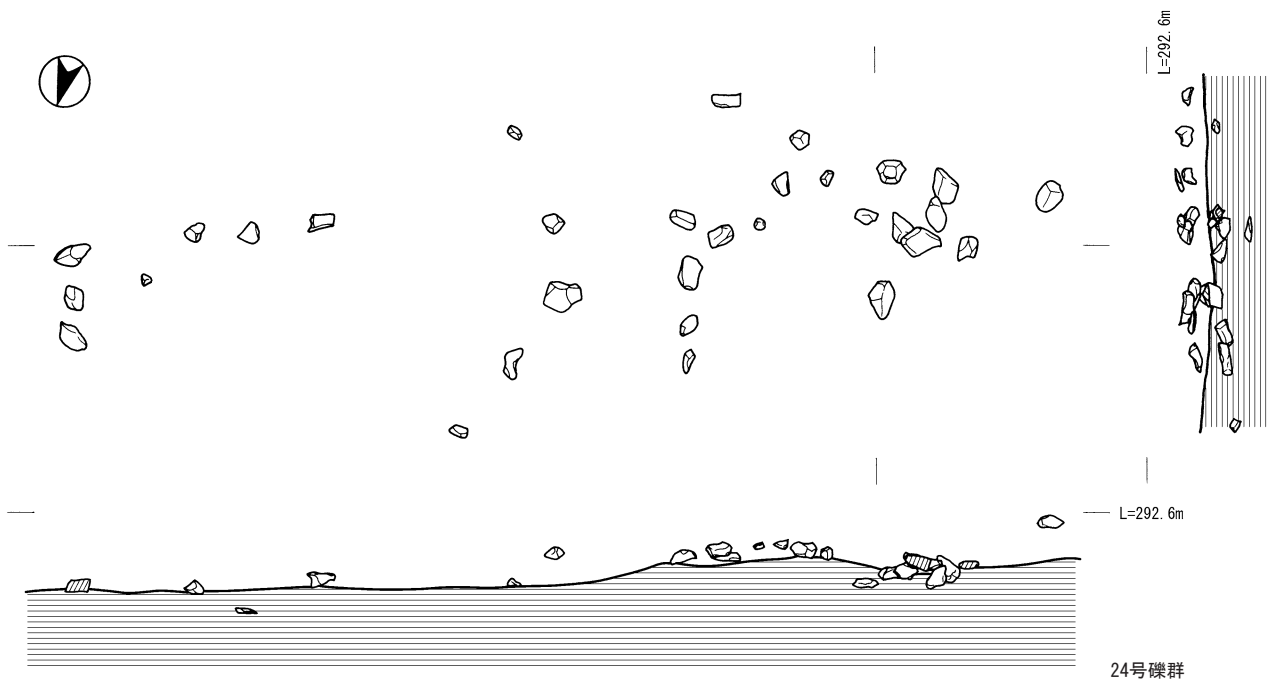
第51図 XVII層遺構実測図 (12)

第10表 XVII～XVI層遺構観察表 (8)

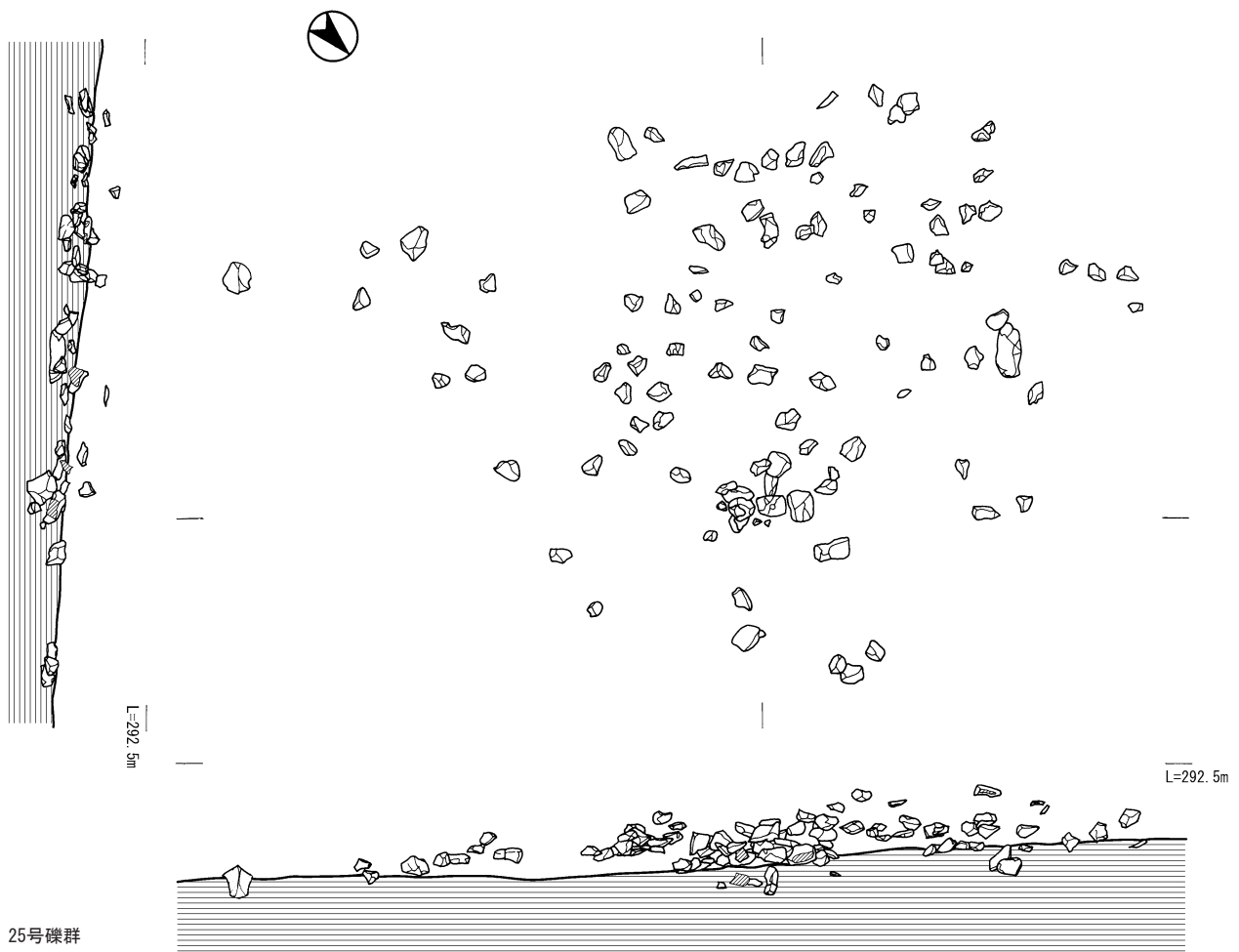
報告書 No	挿図No	類型	大きさ		炭化物範囲		構成礫				小礫群掘り込み				
			長径 (cm)	短径 (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	重量平 均值 (g)	被熱率 (%)	破碎率 (%)	石材	No	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	礫数
22	51	ⅢB	290	204	-	-	100.29	100	87.1	輝石安山岩 (48.4%), 砂岩 (41.9%), 頁岩 (9.7%)	-	-	-	-	-
23	52	Ⅱ	358	196	-	-	90.19	100	94.9	輝石安山岩 (35.1%), 砂岩 (27.7%), 頁岩 (37.2%)	-	-	-	-	-



第52図 XVII層遺構実測図 (13)



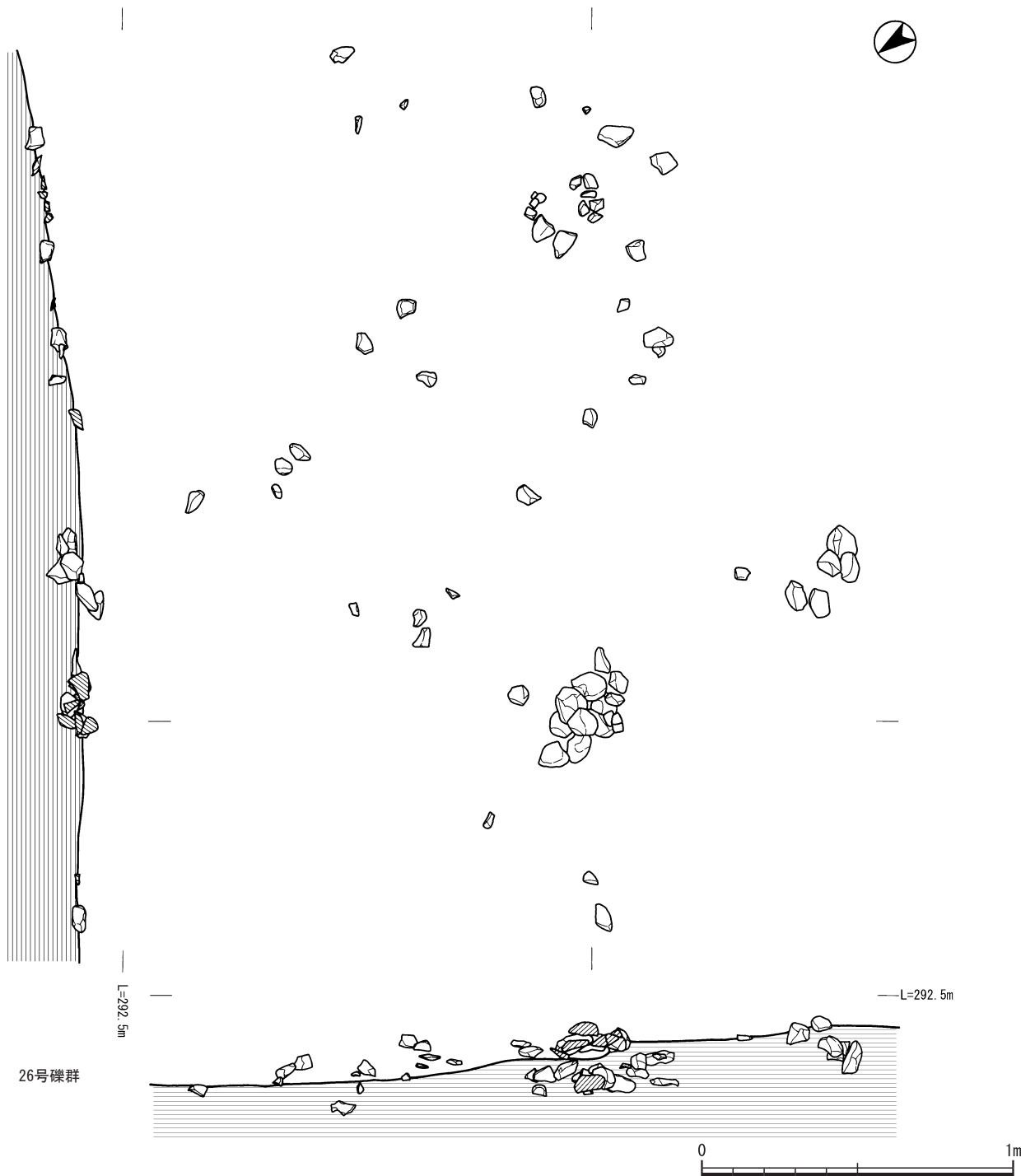
24号礫群



25号礫群



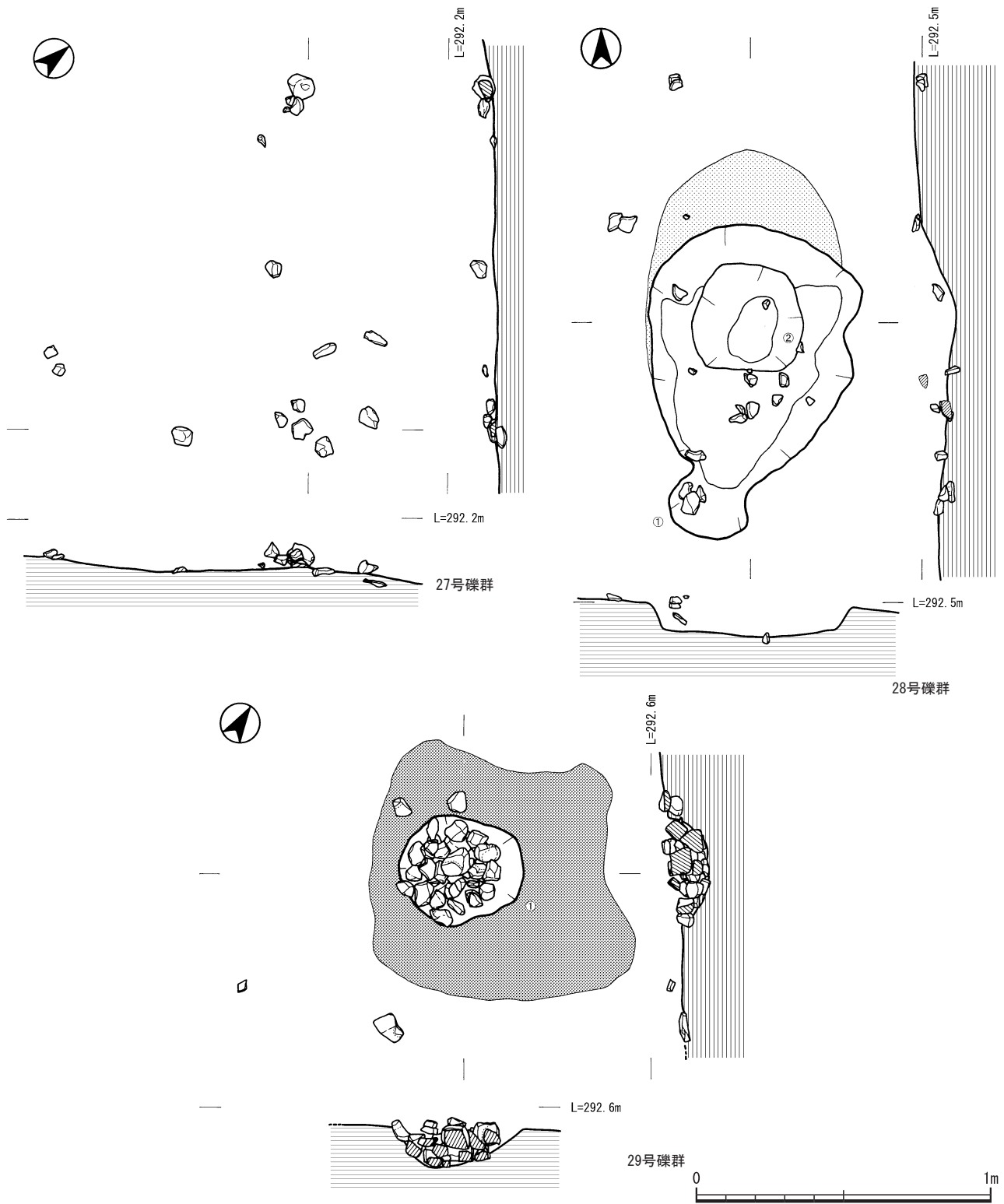
第53図 XVII層遺構実測図 (14)



第54図 XVII層遺構実測図 (15)

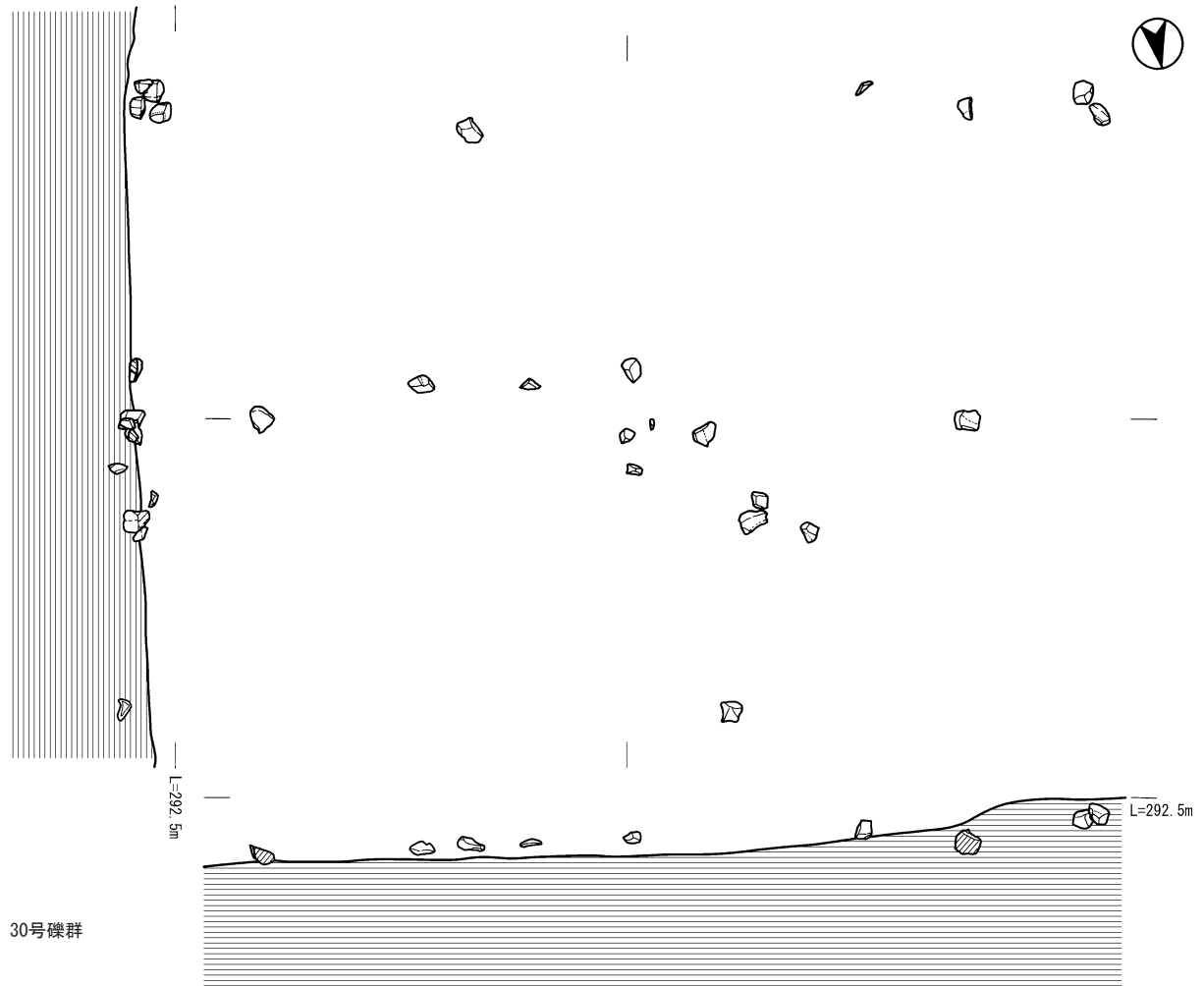
第11表 XVII～XVI層遺構観察表 (9)

報告書 No	挿図No	類型	大きさ		炭化物範囲		構成礫				小礫群掘り込み				
			長径 (cm)	短径 (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	重量平 均值 (g)	被熱率 (%)	破砕率 (%)	石材	No	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	礫数
24	53	ⅢB	264	102	-	-	98	100	88.9	輝石安山岩 (59.3%), 砂岩 (7.4%), 頁岩 (33.3%)	-	-	-	-	-
25	53	ⅢA	248	164	-	-	61.4	100	99	輝石安山岩 (18%), 砂岩 (61%), 頁岩 (21%)	-	-	-	-	-
26	54	Ⅱ	284	216	-	-	168.88	98.2	94.6	輝石安山岩 (48.2%), 砂岩 (33.9%), 頁岩 (17.9%)	-	-	-	-	-

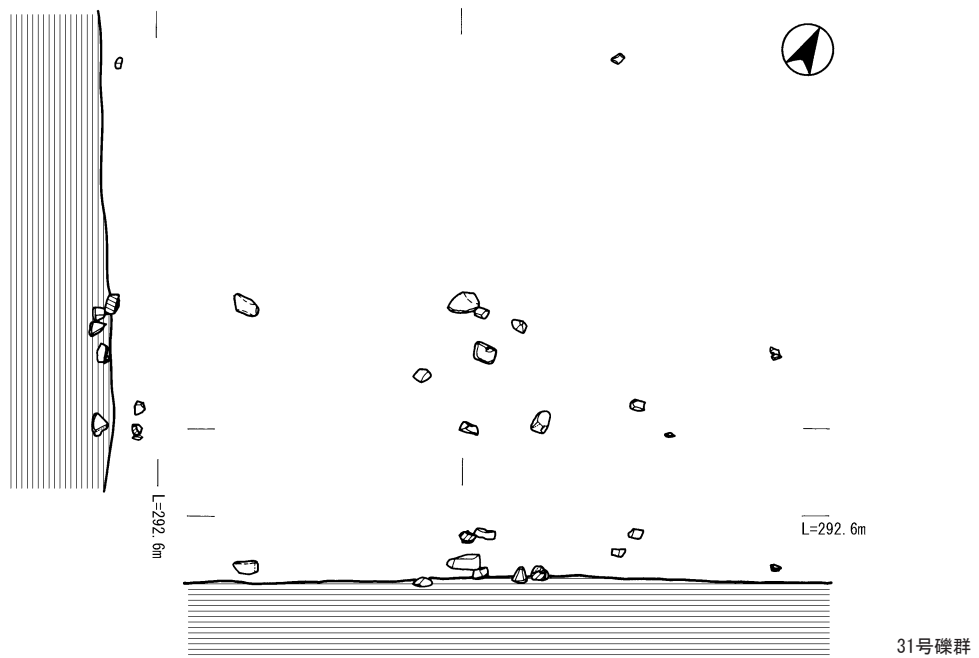


第12表 X VII～X VI層遺構観察表 (10)

報告書 No	挿図No	類型	大きさ		炭化物範囲		構成礫				小礫群掘り込み				
			長径 (cm)	短径 (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	重量平 均值 (g)	被熱率 (%)	破碎率 (%)	石材	No	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	礫数
27	55	ⅢB	130	116	-	-	116.63	100	93.8	輝石安山岩 (56.3%), 砂岩 (12.5%), 頁岩 (31.2%)	-	-	-	-	-
28	55	I B	150	70	95	66	220.86	100	97.2	輝石安山岩 (94.4%), 砂岩 (2.8%), 頁岩 (2.8%)	①	93	67	11	15
											②	42	37	11	2
29	55	I A	90	86	-	-	105	92	-	-	①	40	35	13	38



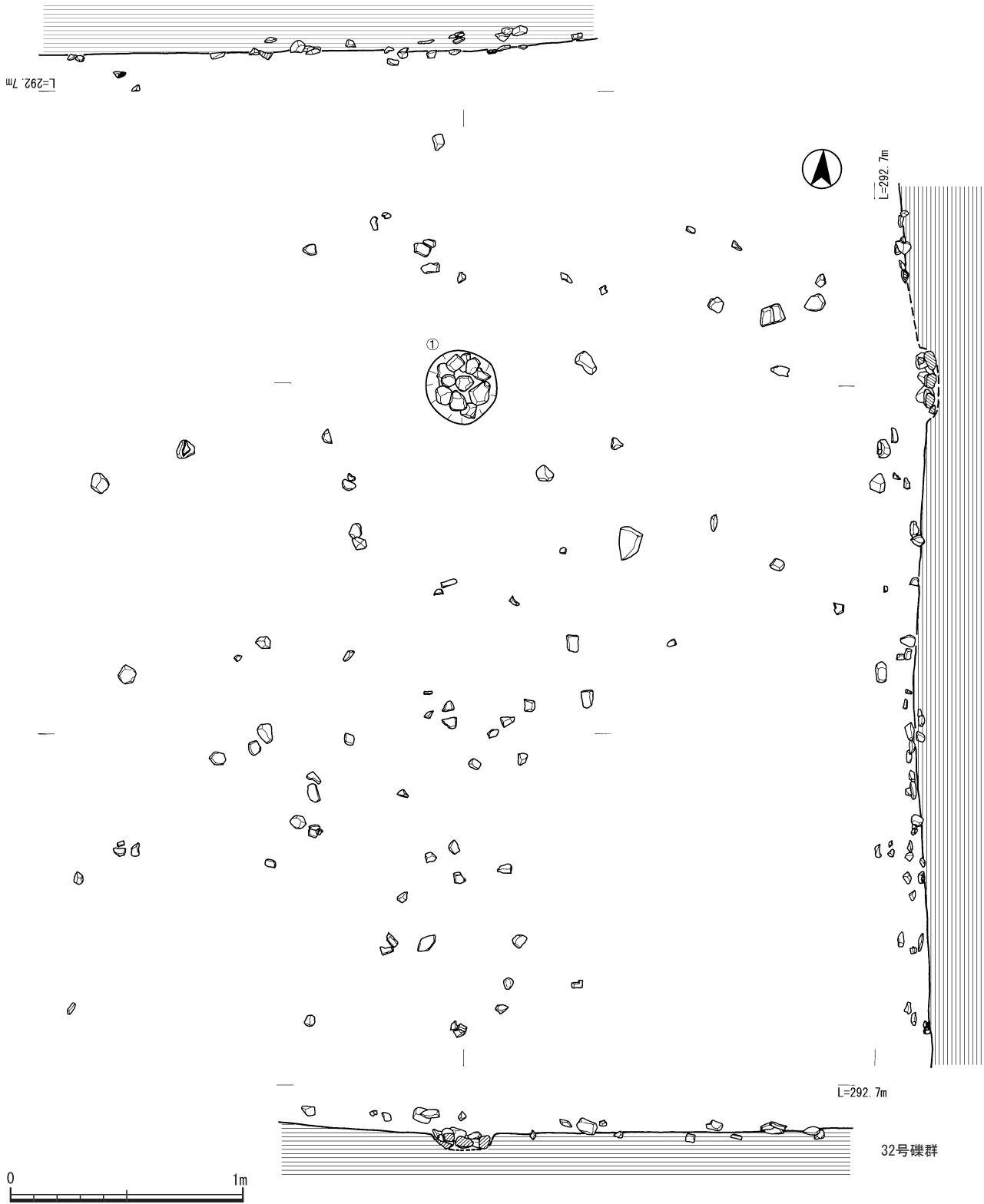
30号礫群



31号礫群



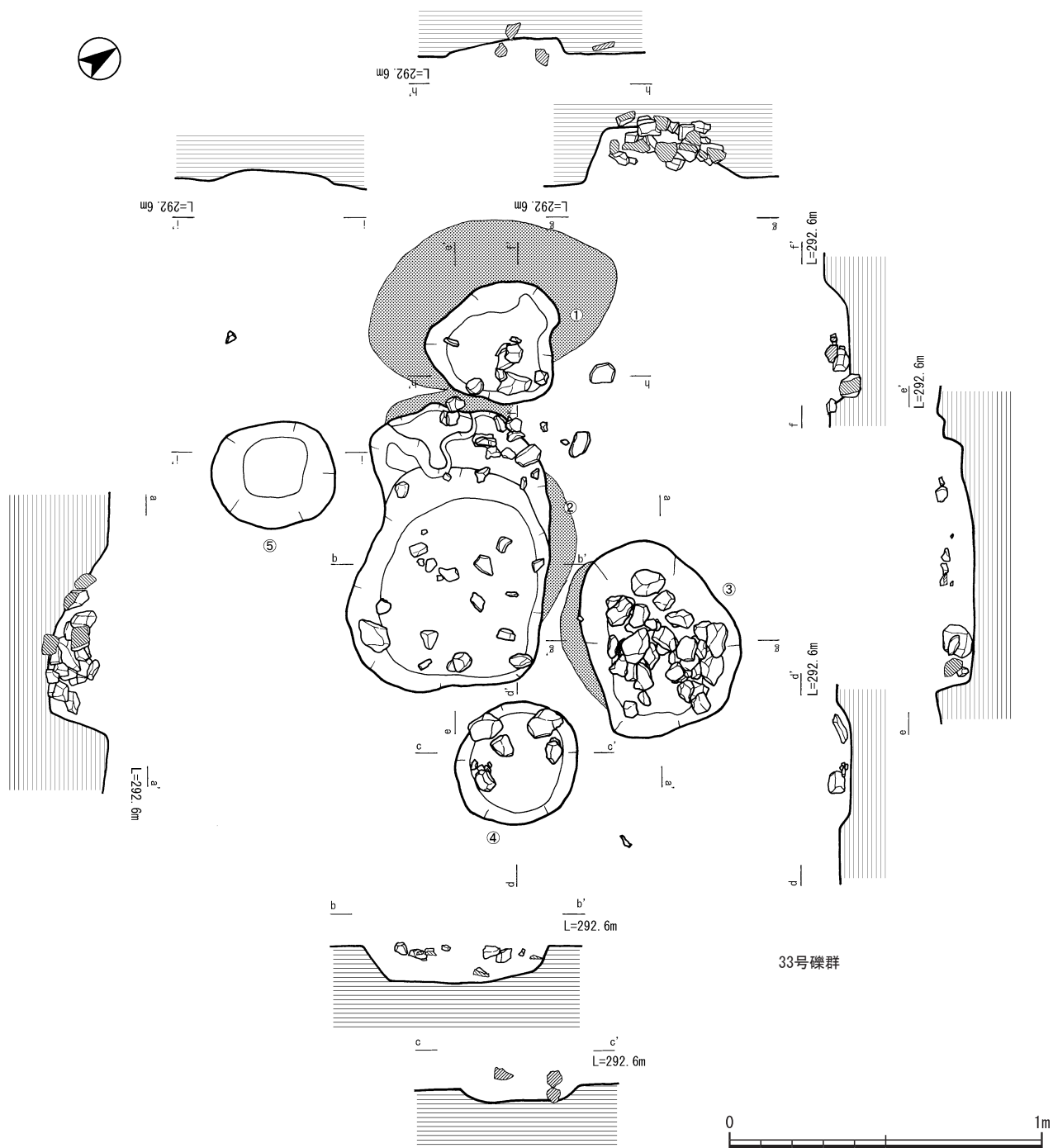
第56図 XVII層遺構実測図 (17)



第57図 X VII層遺構実測図 (18)

第13表 X VII～X VI層遺構観察表 (11)

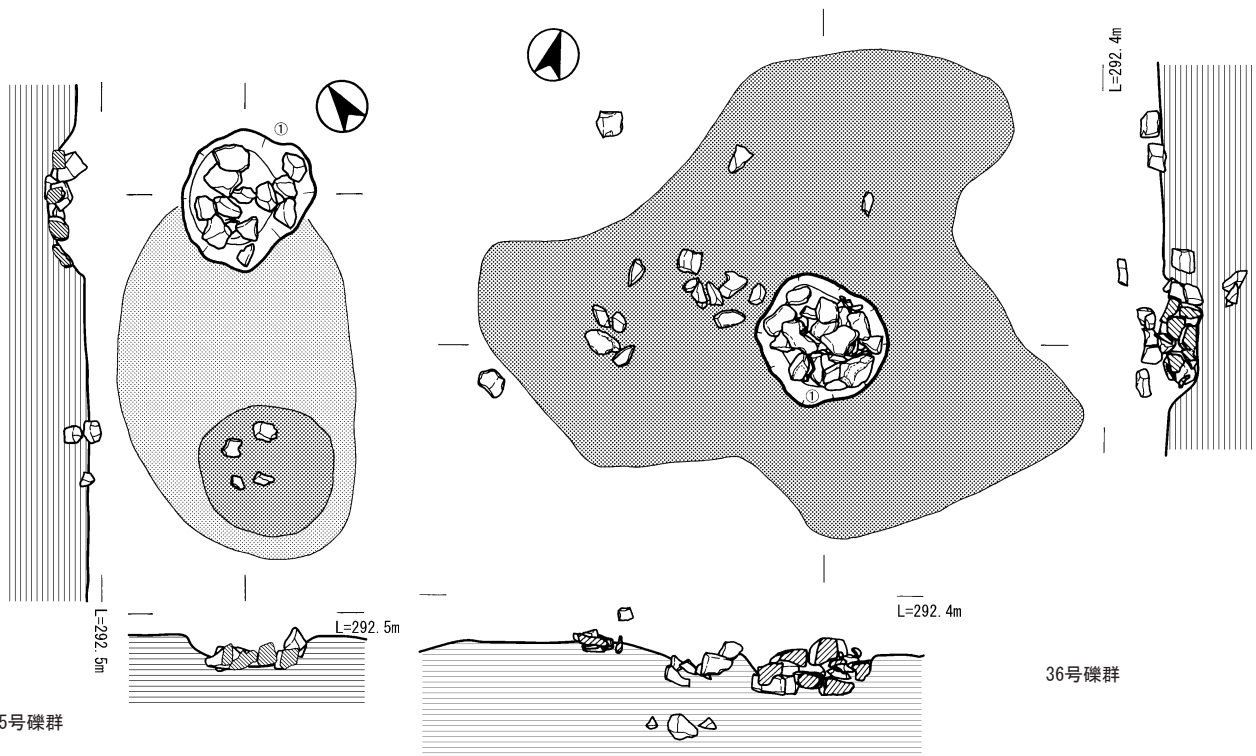
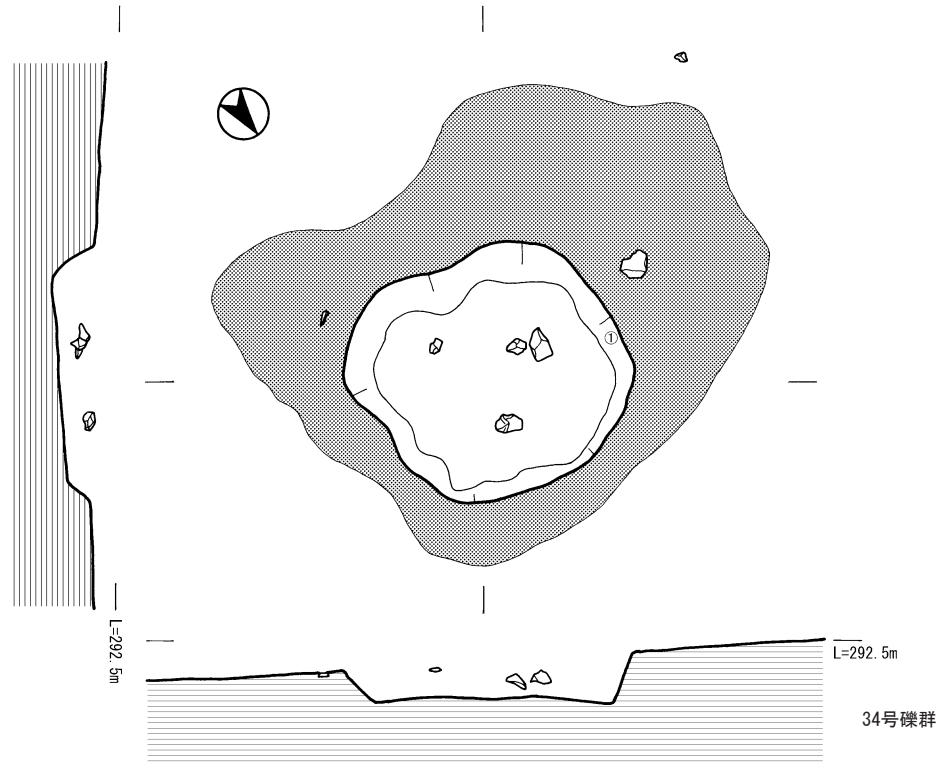
報告書 No	挿図No	類型	大きさ		炭化物範囲		構成礫				小礫群掘り込み				
			長径 (cm)	短径 (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	重量平 均值 (g)	被熱率 (%)	破碎率 (%)	石材	No	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	礫数
30	56	ⅢB	230	172	-	-	121.39	100	100	輝石安山岩 (65.2%), 砂岩 (34.8%)	-	-	-	-	-
31	56	ⅢB	144.8	102	-	-	75.89	100	100	輝石安山岩 (63.2%), 砂岩 (26.3%), 頁岩 (10.5%)	-	-	-	-	-
32	57	I A	390	335	-	-	114.61	97.3	94.6	輝石安山岩 (45.5%), 砂岩 (33.1%), 頁岩 (21.4%)	①	32	27	7	11



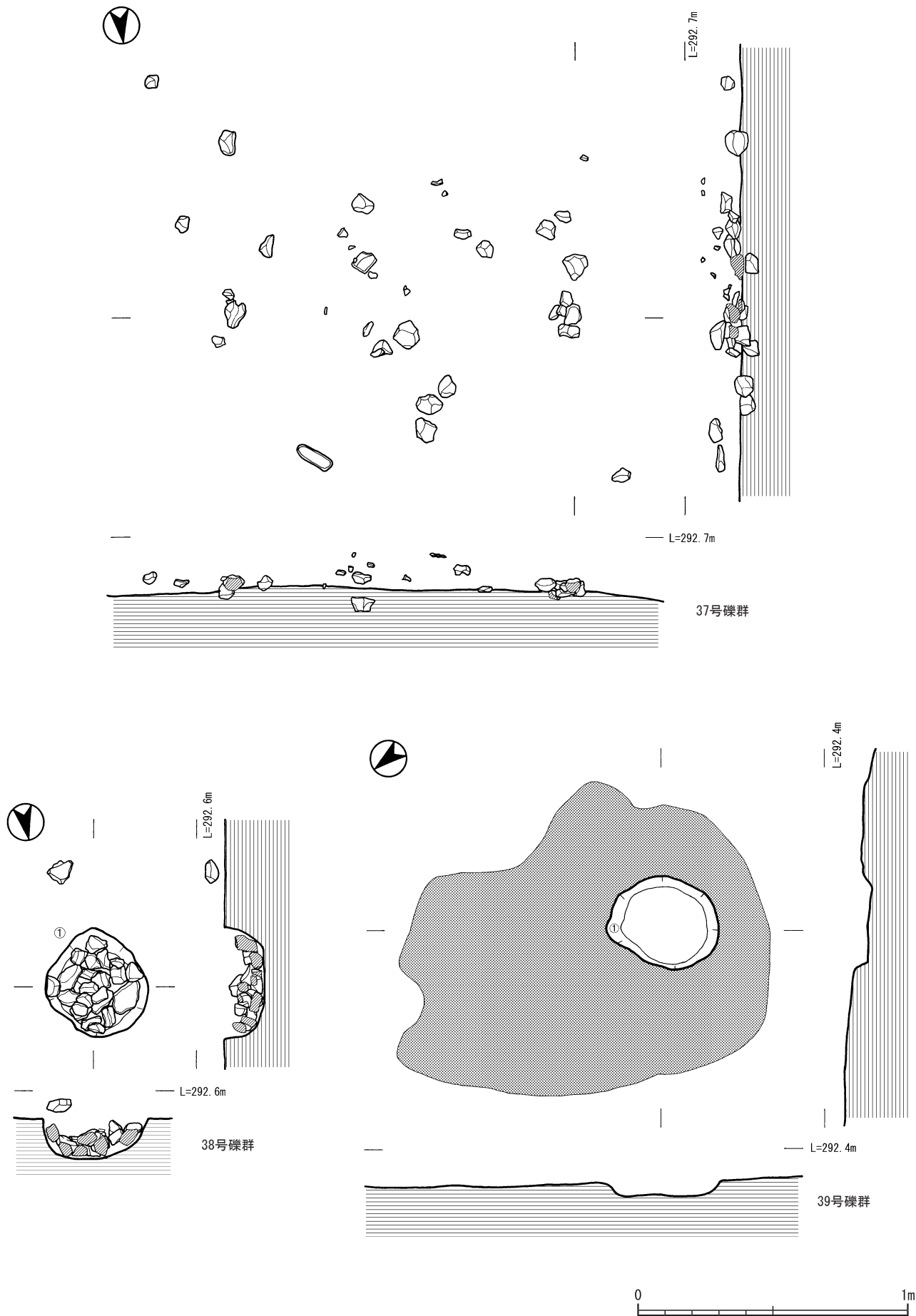
第58図 XVII層遺構実測図 (19)

第14表 XVII～XVI層遺構観察表 (12)

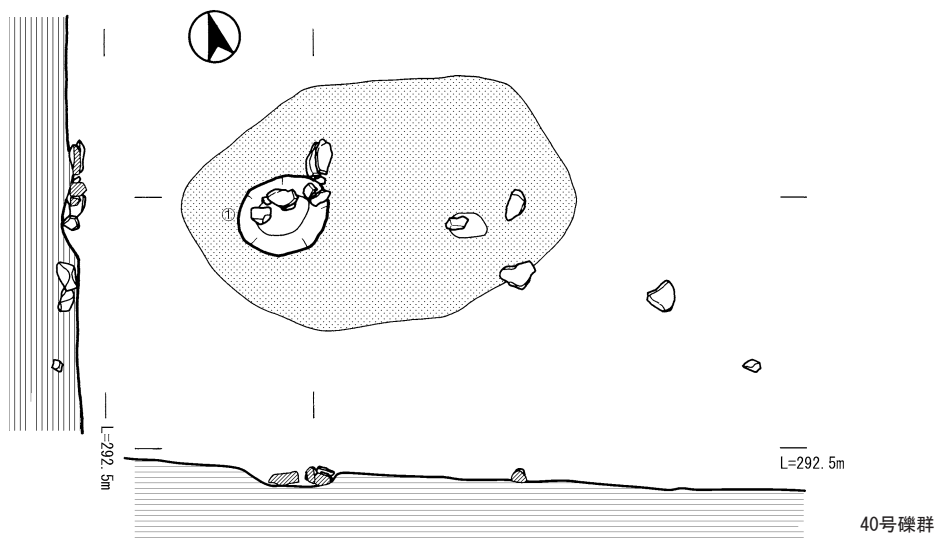
報告書 No	挿図No	類型	大きさ		炭化物範囲		構成礫				小礫群掘り込み				
			長径 (cm)	短径 (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	重量平 均值 (g)	被熱率 (%)	破砕率 (%)	石材	No	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	礫数
33	58	IA	164	158	174	112	156.58	100	97.7	輝石安山岩 (45.5%), 砂岩 (23.9%), 頁岩 (29.5%), 不明 (5.3%)	①	40	40	8	9
											②	90	60	12	35
											③	60	50	20	35
											④	40	40	6	10
											⑤	40	34	4	0



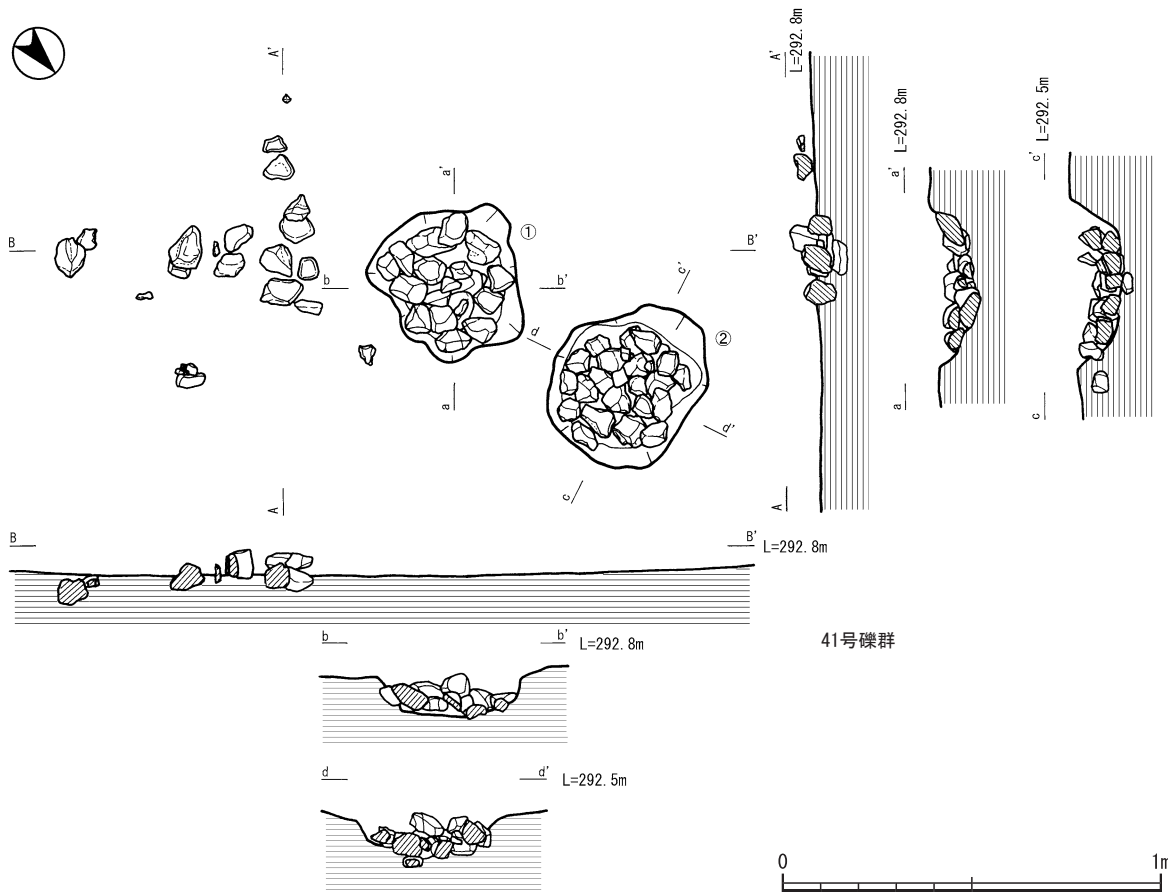
第59図 X VII層遺構実測図 (20)



第60図 XVII層遺構実測図 (21)



40号礫群



41号礫群

第15表 XVII～XVI層遺構観察表 (13)

報告書 No	挿図No	類型	大きさ		炭化物範囲		構成礫				小礫群掘り込み					
			長径 (cm)	短径 (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	重量平 均值 (g)	被熱率 (%)	破碎率 (%)	石材	No	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	礫数	
34	59	I C	101	97	146	122	52.4	100	100	輝石安山岩 (40%), 砂岩 (20%), 頁岩 (40%)	①	85	77	12	4	
35	59	I A	90	30	98	66	-	-	-	-	-	①	38	36	10	13
					36	34										
36	59	I A	106	76	162	120	-	-	-	-	①	34	34	8	25	
37	60	ⅢB	180	150	-	-	193.2	98.6	94.3	輝石安山岩 (61.4%), 砂岩 (22.9%), 頁岩 (15.7%)	-	-	-	-	-	
38	60	I A	66	38	-	-	-	-	-	-	①	40	38	14	23	
39	60	I C	-	-	146	114	-	-	-	-	①	42	34	6	0	

第61図 XVII層遺構実測図 (22)



第62図 XVII層遺構実測図 (23)

第16表 XVII～XVI層遺構観察表 (14)

報告書 No	挿図No	類型	大きさ		炭化物範囲		構成碟				小碟群掘り込み				
			長径 (cm)	短径 (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	重量平 均值 (g)	被熱率 (%)	破砕率 (%)	石材	No	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	碟数
40	61	IB	134	64	104	66	91.65	100	100	輝石安山岩 (64.7%), 砂岩 (5.9%), 頁岩 (29.4%)	①	24	20	4	6
41	61	IA	168	88	-	-	275.05	98.5	98.5	輝石安山岩 (81.8%), 砂岩 (15.2%), 頁岩 (3.0%)	①	42	40	12	20
											②	46	42	14	24
42	62	IB	256	224	202	144	114.11	100	100	輝石安山岩 (58.3%), 砂岩 (27.4%), 頁岩 (14.3%)	①	56	44	10	1
											②	64	50	6	2
											③	46	30	8	19



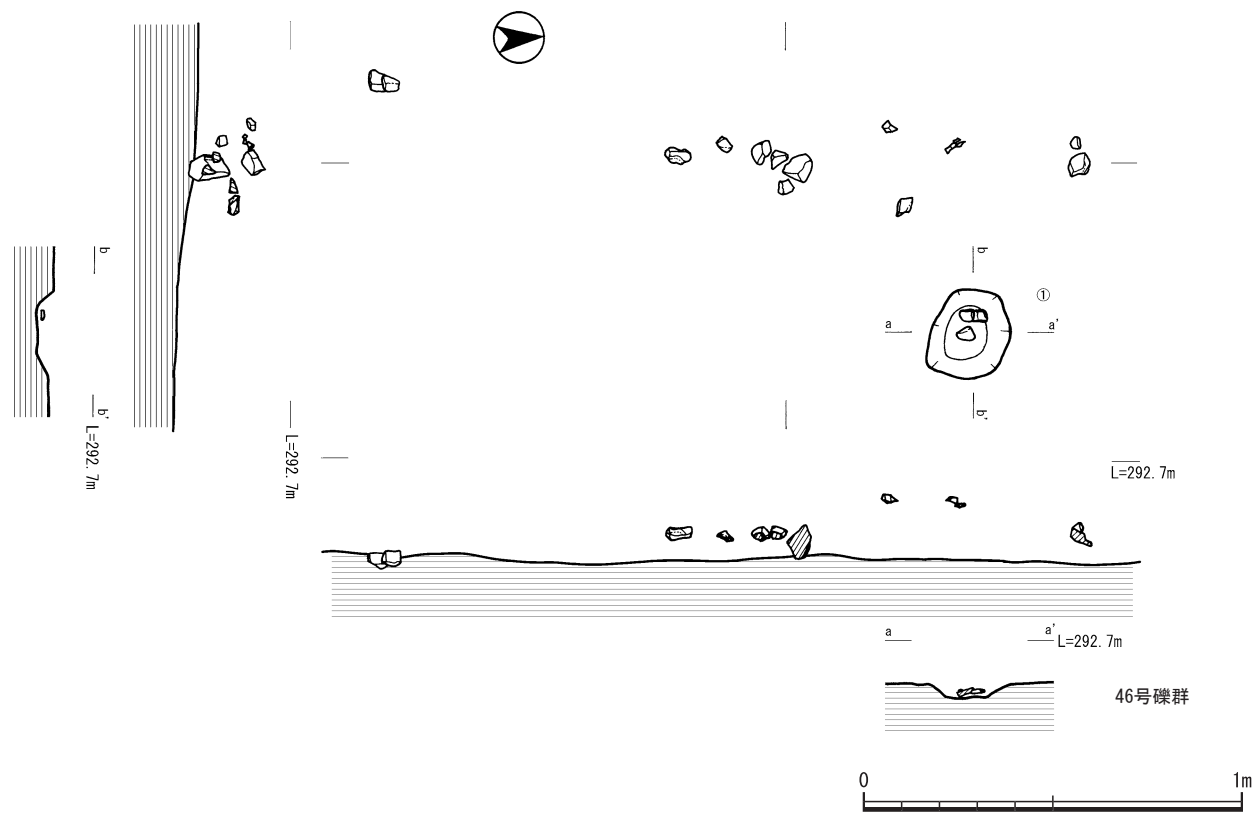
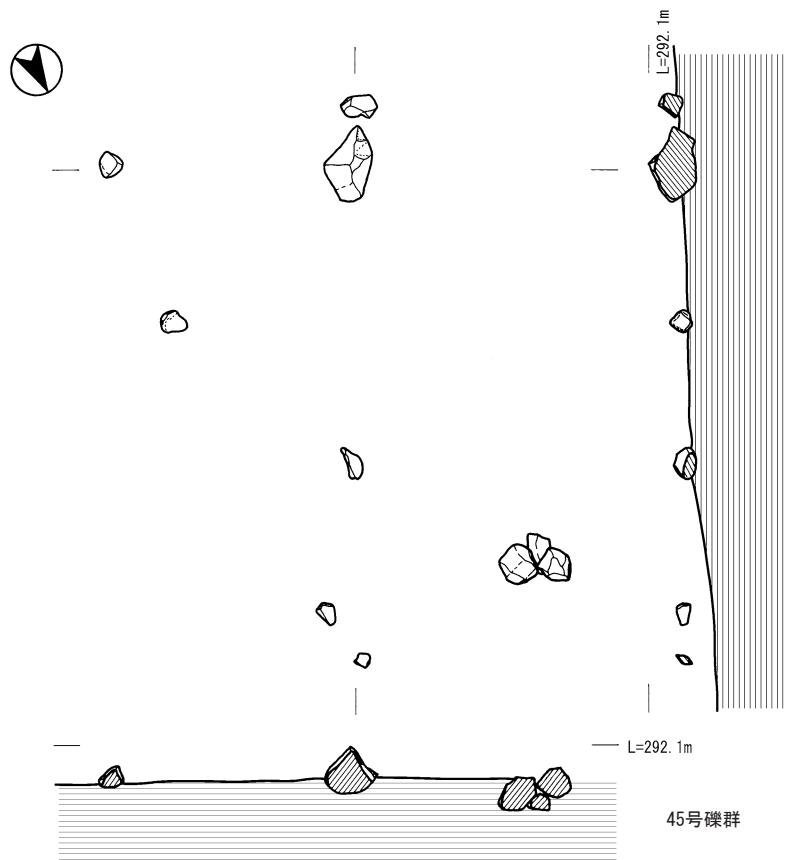
第63図 XVII層遺構実測図 (24)



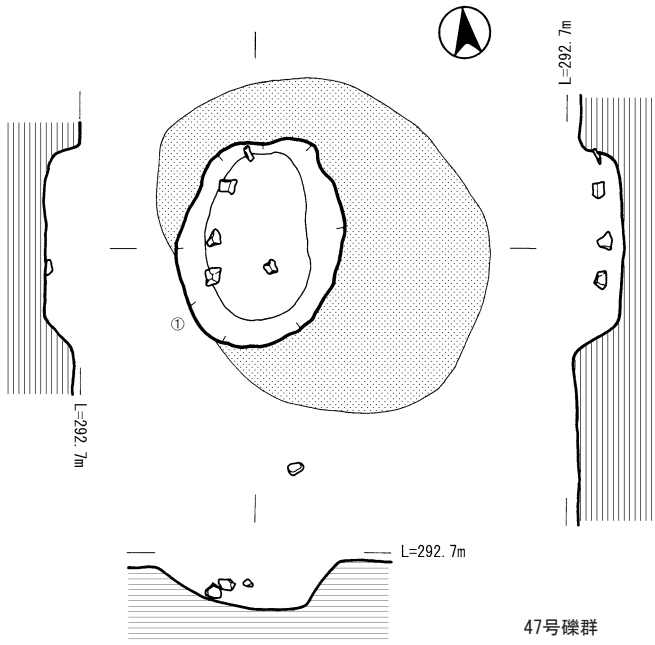
第64図 X VII層遺構実測図 (25)

第17表 X VII～X VI層遺構観察表 (15)

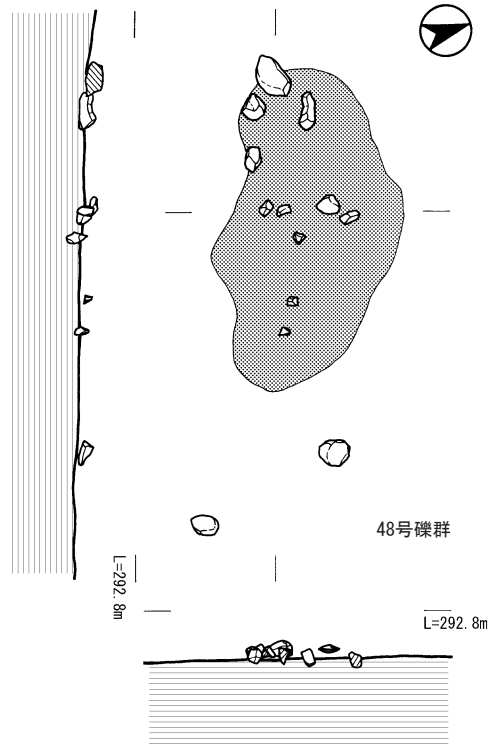
報告書 No	挿図No	類型	大きさ		炭化物範囲		構成碟				小碟群掘り込み				
			長径 (cm)	短径 (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	重量平 均值 (g)	被熱率 (%)	破砕率 (%)	石材	No	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	碟数
43	63	I B	326	180	-	-	119.52	100	93.5	輝石安山岩 (45.7%), 砂岩 (32.6%), 頁岩 (21.7%)	①	23	17	4	5
44	64	I A	290	176	36	36	100.21	100	100	輝石安山岩 (38.9%), 砂岩 (40.7%), 頁岩 (20.4%)	①	34	28	12	24



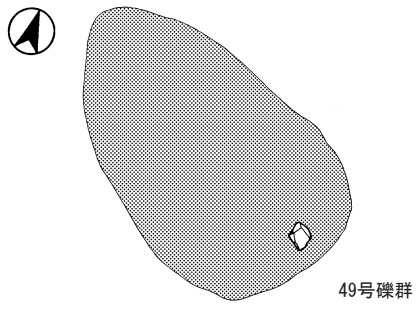
第65图 XVII層遺構実測図(26)



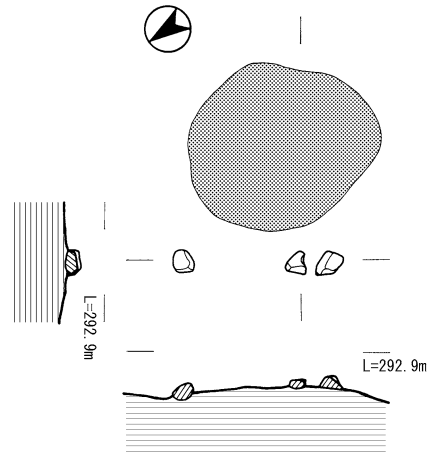
47号磔群



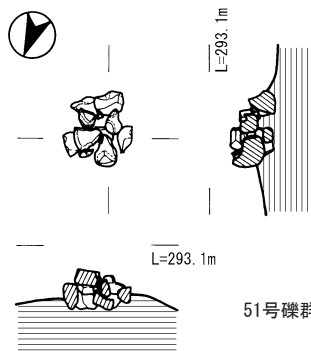
48号磔群



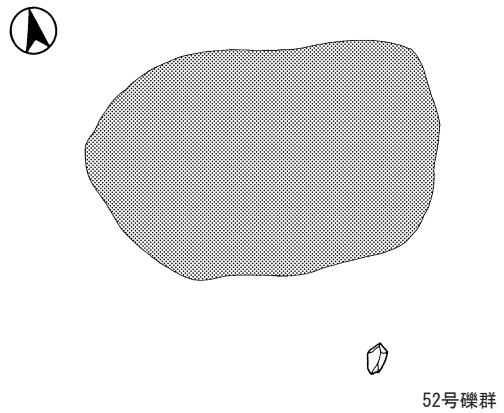
49号磔群



50号磔群



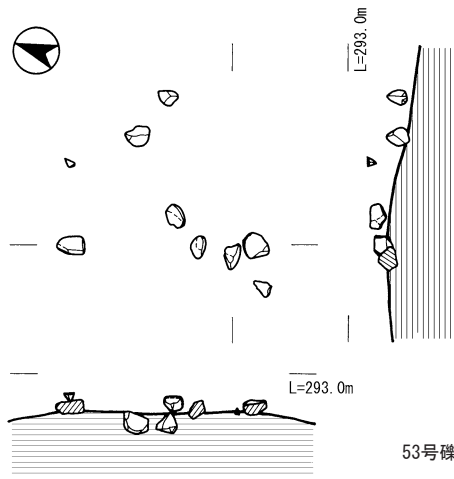
51号磔群



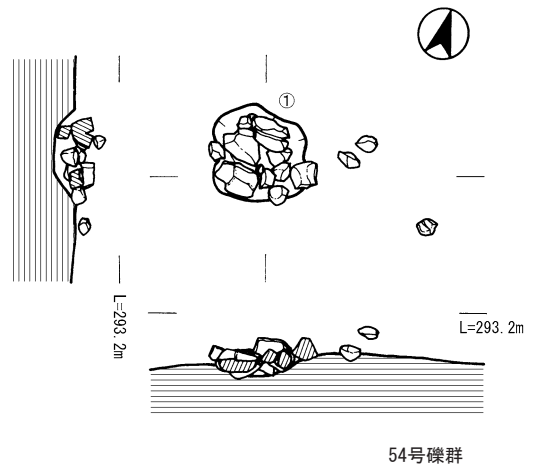
52号磔群



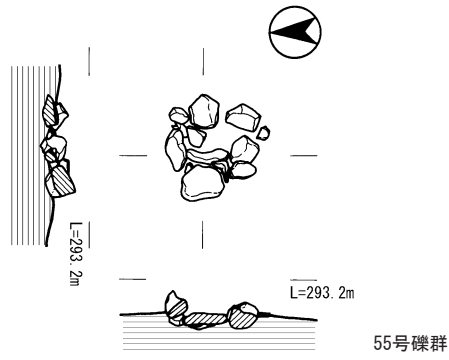
第66図 XVII層遺構実測図(27)



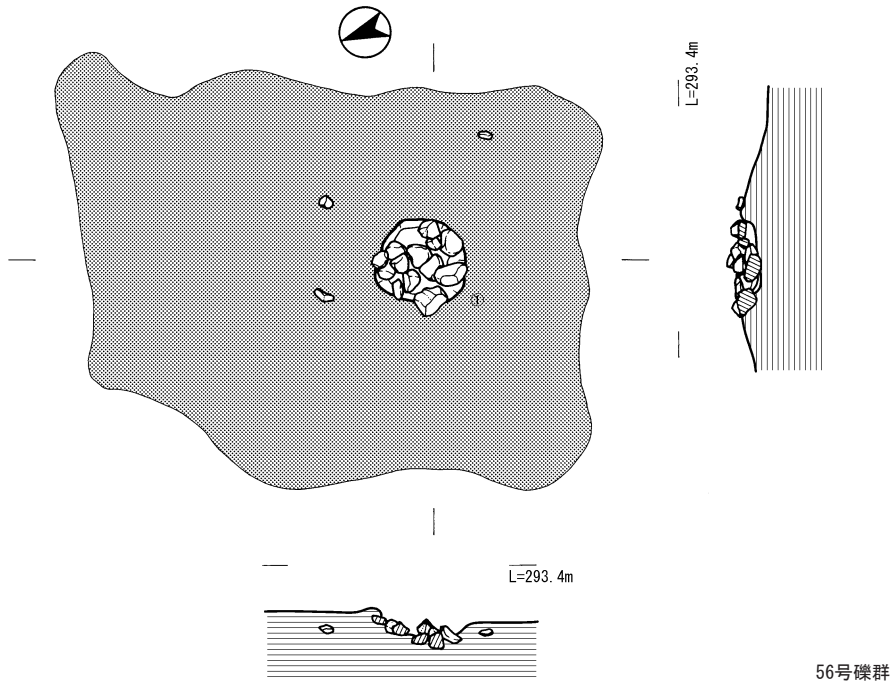
53号磔群



54号磔群



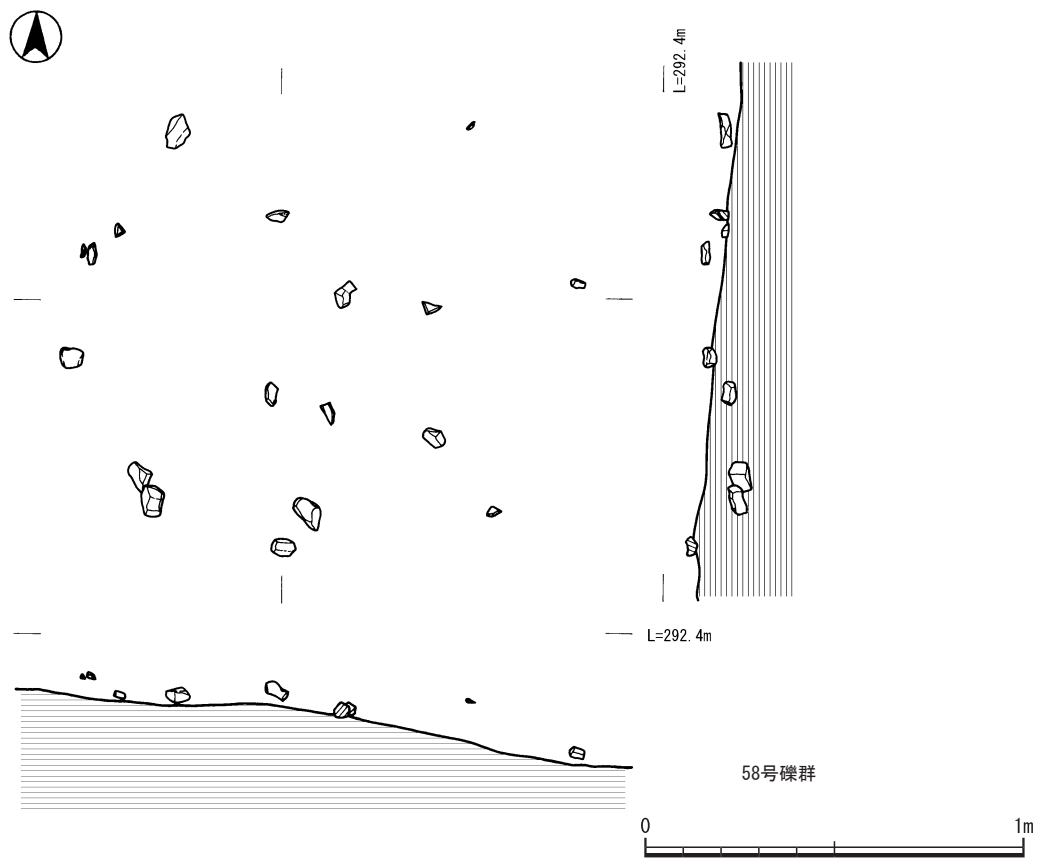
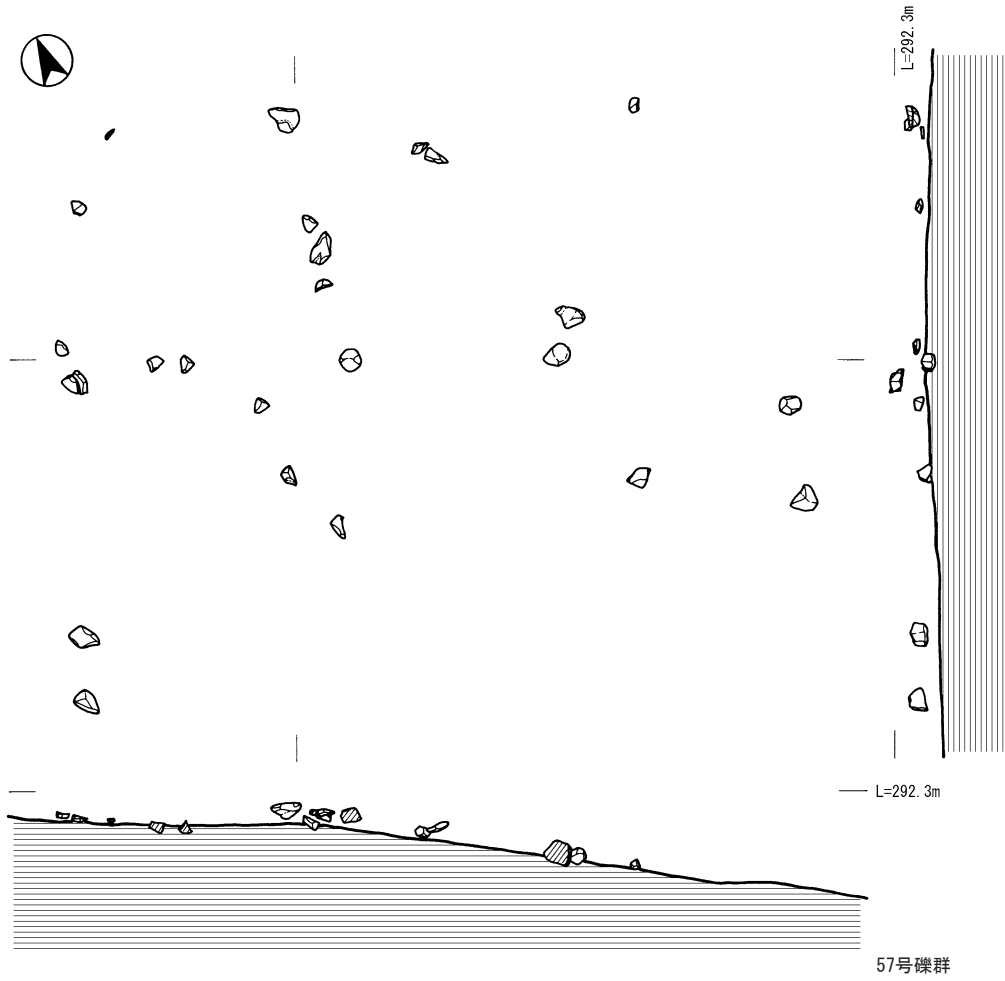
55号磔群



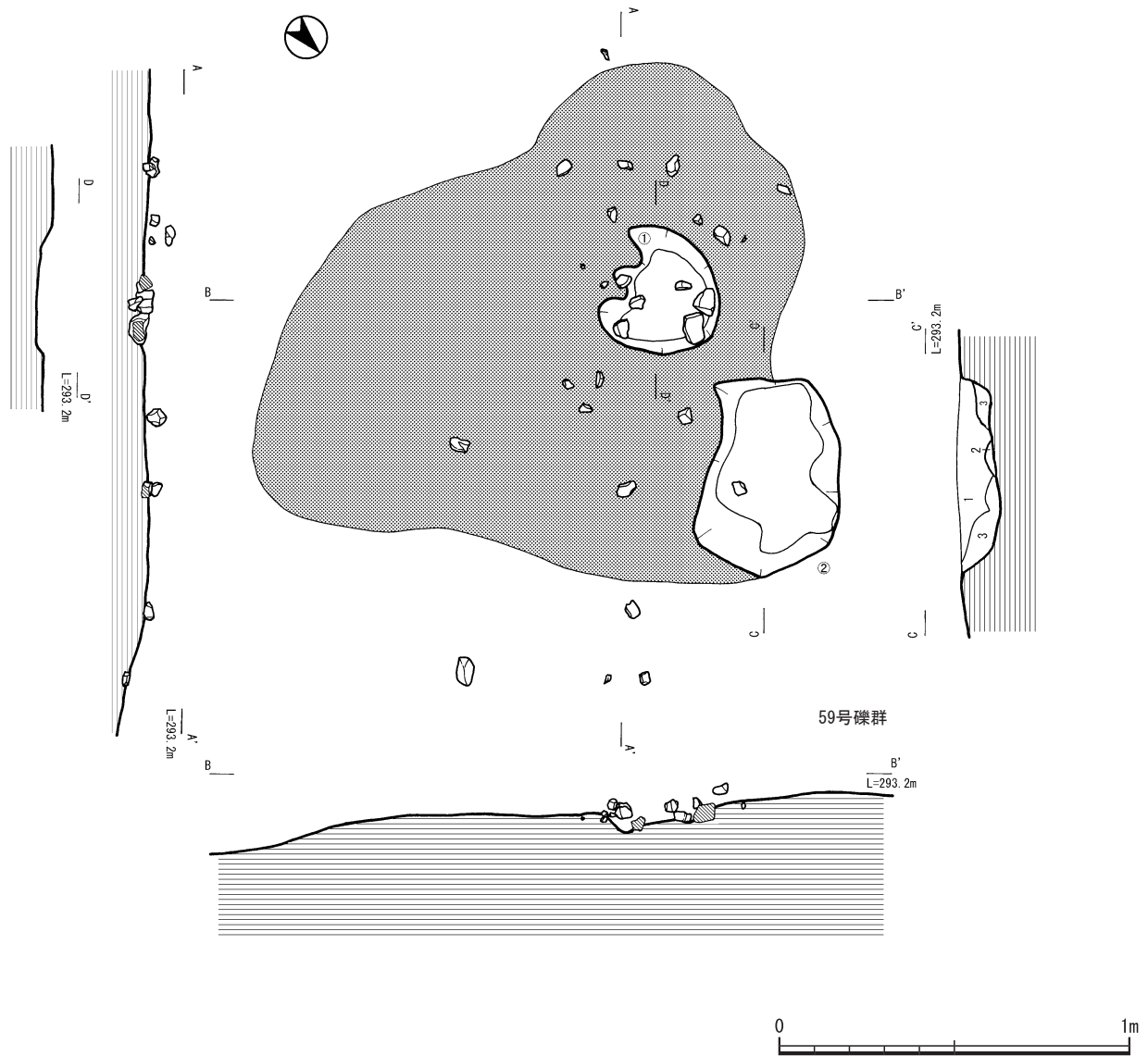
56号磔群



第67图 XVII層遺構実測図(28)



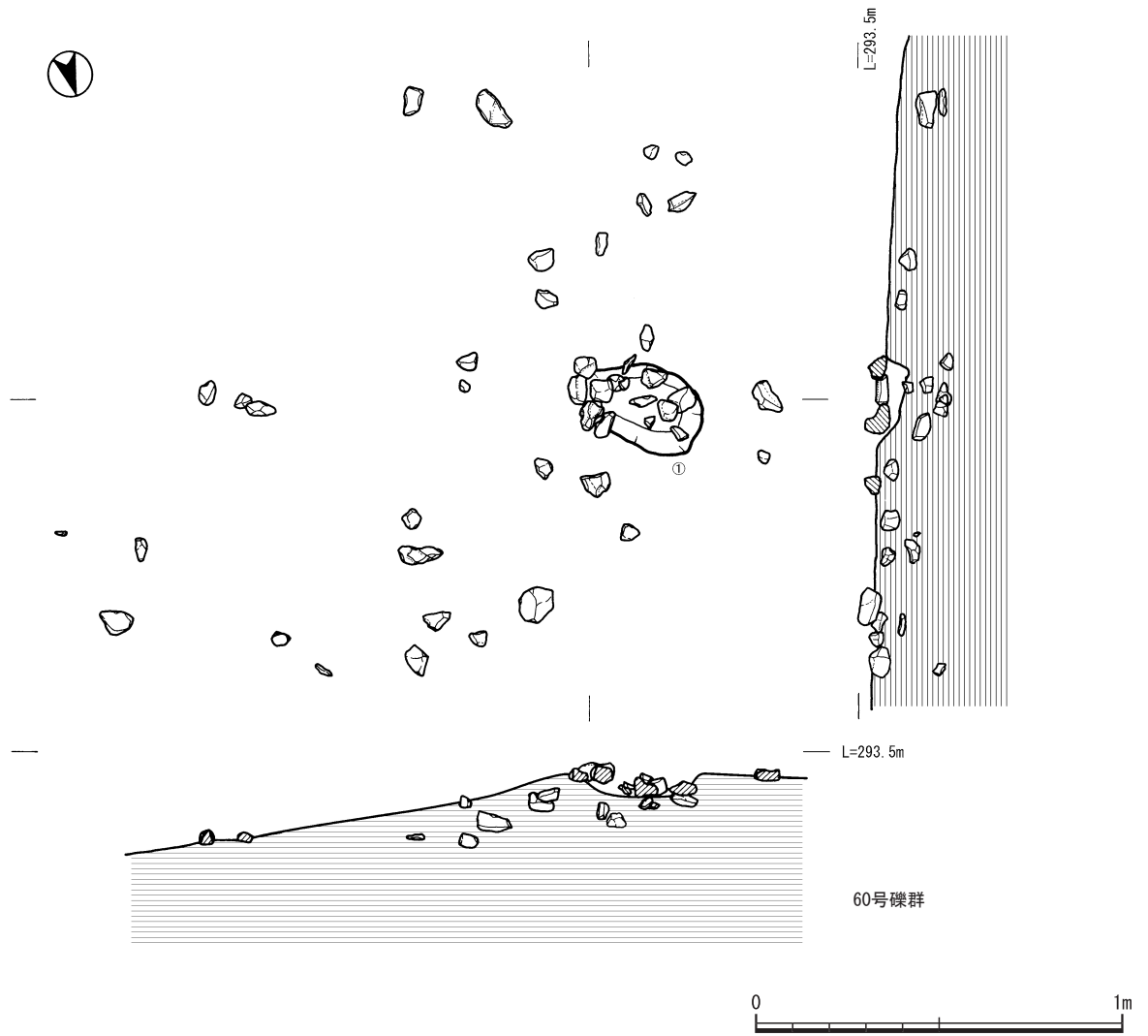
第68図 XVII層遺構実測図 (29)



第69図 X VII層遺構実測図 (30)

第18表 X VII～X VI層遺構観察表 (16)

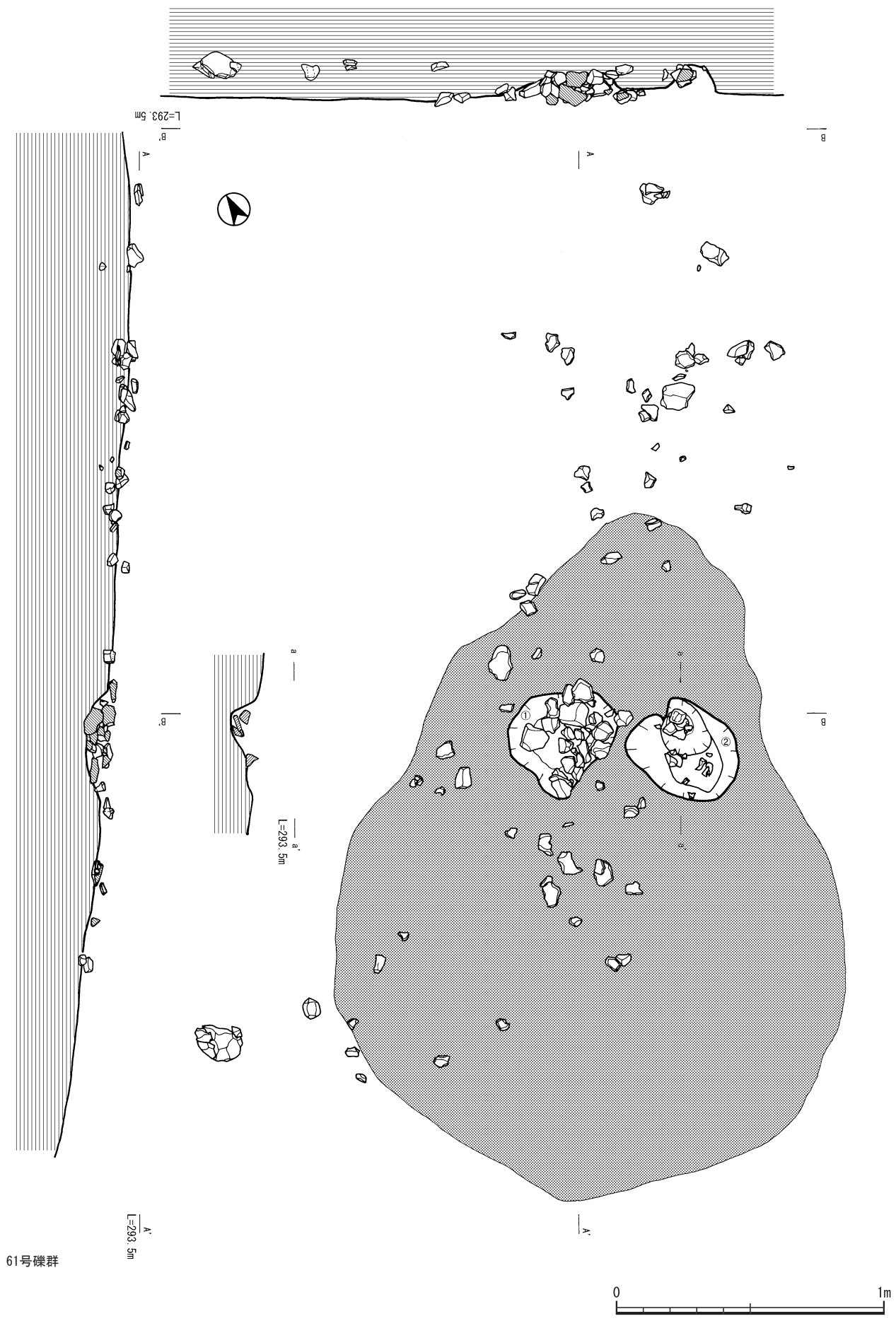
報告書 No	挿図No	類型	大きさ		炭化物範囲		構成礫				小礫群掘り込み				
			長径 (cm)	短径 (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	重量平 均值(g)	被熱率 (%)	破碎率 (%)	石材	No	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	礫数
45	65	ⅢB	152	126	-	-	348.95	100	95	輝石安山岩(80%), 頁岩(20%)	-	-	-	-	-
46	65	I B	188	68	-	-	61.56	100	100	輝石安山岩(56%), 砂岩(44%)	①	26	20	6	3
47	66	I B	88	26	98	78	26.71	100	100	輝石安山岩(42%), 砂岩(29%), 頁岩(29%)	①	56	42	12	5
48	66	ⅢB	126	44	86	48	87.27	100	100	輝石安山岩(27.3%), 砂岩(45.4%), 頁岩(27.3%)	-	-	-	-	-
49	66	ⅢB	-	-	86	54	-	-	-	-	-	-	-	-	-
50	66	ⅢB	44	6	51	45	100	100	80	輝石安山岩(40%), 砂岩(40%), 頁岩(20%)	-	-	-	-	-
51	66	Ⅱ	20	38	-	-	194.3	100	100	輝石安山岩(90%), 砂岩(10%)	-	-	-	-	-
52	66	ⅢB	-	-	92	60	180	100	100	砂岩(100%)	-	-	-	-	-
53	67	ⅢB	56	54	-	-	82.43	100	92.9	輝石安山岩(64.3%), 砂岩(21.4%), 頁岩(14.3%)	-	-	-	-	-
54	67	I A	60	32	-	-	152.67	100	100	輝石安山岩(83.3%), 砂岩(11.1%), 頁岩(5.6%)	①	26	24	6	12



第70図 X VII層遺構実測図 (31)

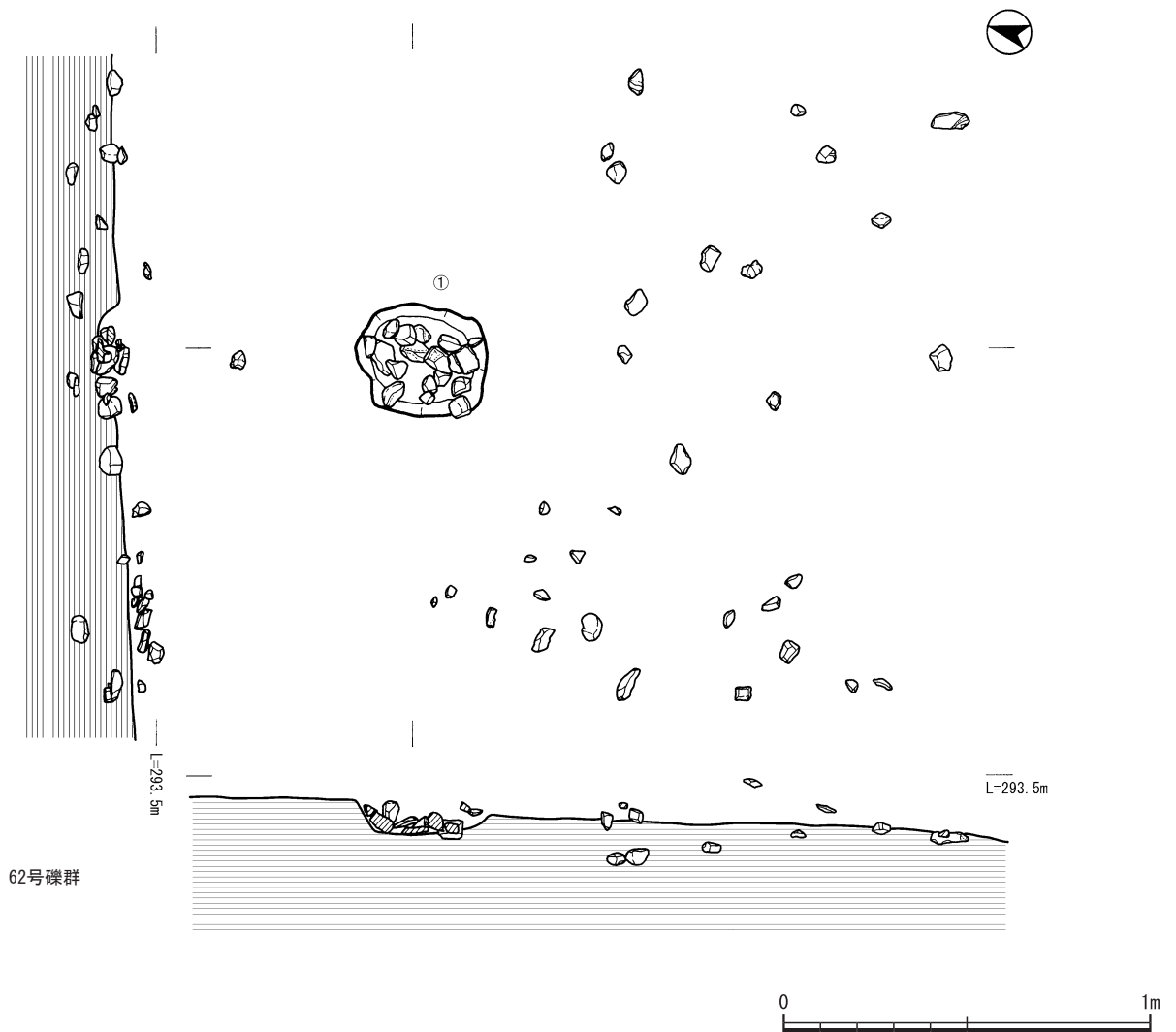
第19表 X VII～X VI層遺構観察表 (17)

報告書 No	挿図No	類型	大きさ		炭化物範囲		構成礫			小礫群掘り込み					
			長径 (cm)	短径 (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	重量平 均值 (g)	被熱率 (%)	破碎率 (%)	石材	No	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	礫数
55	67	II	28	28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
56	67	IA	46	44	142	100	109.44	100	100	輝石安山岩 (33.3%), 砂岩 (38.9%), 頁岩 (27.8%)	①	24	22	6	13
57	68	III B	164	200	-	-	85	100	100	輝石安山岩 (28%), 砂岩 (60%), 頁岩 (12%)	-	-	-	-	-
58	68	III B	138	118	-	-	107.17	94.4	100	輝石安山岩 (61.1%), 砂岩 (33.3%), 頁岩 (5.6%)	-	-	-	-	-
59	69	IB	152	96	174	136	138.47	100	100	輝石安山岩 (100%)	①	38	34	6	6
											②	56	38	14	1
60	70	IB	198	162	-	-	97.16	98.3	100	輝石安山岩 (67.4%), 砂岩 (18.6%), 頁岩 (14.0%)	①	32	24	6	15
61	71	IA	336	224	258	190	130.08	100	100	輝石安山岩 (44.9%), 砂岩 (30.5%), 頁岩 (24.6%)	①	40	38	8	25
											②	42	36	10	17
62	72	IA	202	172	-	-	136.91	95.7	91.3	輝石安山岩 (100%)	①	36	30	7	17
63	73	IB	200	176	-	-	126.35	100	100	輝石安山岩 (67.4%), 砂岩 (18.6%), 頁岩 (14%)	①	48	24	5	13
64	74	III B	244	178	-	-	87.43	100	100	輝石安山岩 (63.8%), 砂岩 (23.4%), 頁岩 (12.8%)	-	-	-	-	-
65	75	IB	310	278	276	126	107.1	100	100	輝石安山岩 (55.3%), 砂岩 (23.7%), 頁岩 (21.0%)	①	26	24	4	4
66	76	IA	252	230	265	197	149.46	99.36	97.5	輝石安山岩 (54.8%), 砂岩 (31.2%), 頁岩 (14.0%)	①	34	28	12	24
											②	41	33	6	1
											③	42	36	14	25
											④	28	26	10	10
											⑤	32	20	6	14



61号礫群

第71図 XVII層遺構実測図 (32)



第72図 XVII層遺構実測図(33)

36号礫群(第59図)

I-10区35号礫群の近くで検出した。38号礫群と同様のレベル位置で検出し、掘り込み遺構は径34cm×34cm、深さ8cmで、拳大の礫25個を内包していた。遺構周辺では、多数の炭化物と炭化物汚染エリアを確認している。

38号礫群(第60図)

I-10区で検出した。検出面が標高292.50mであるが、このレベルでは隣接する35号礫群(約2m)と36号礫群(約1m)は、その存在は知られていない。35号礫群とは約6cm、36号礫群とは約22cmの検出位置の高低差がある。従って、38号礫群が最も遅れて造られたと判断できる。掘り込み遺構は、径40cm×38cm、深さ14cmで、遺構内で23個の礫が密に残されていた。なお、炭化物の確認は微量である。

39号礫群(第60図)

I-9区で検出し、炭化物に汚染されたエリア内に径42cm×34cm、深さ6cmの浅い掘り込み遺構が確認された。遺構内

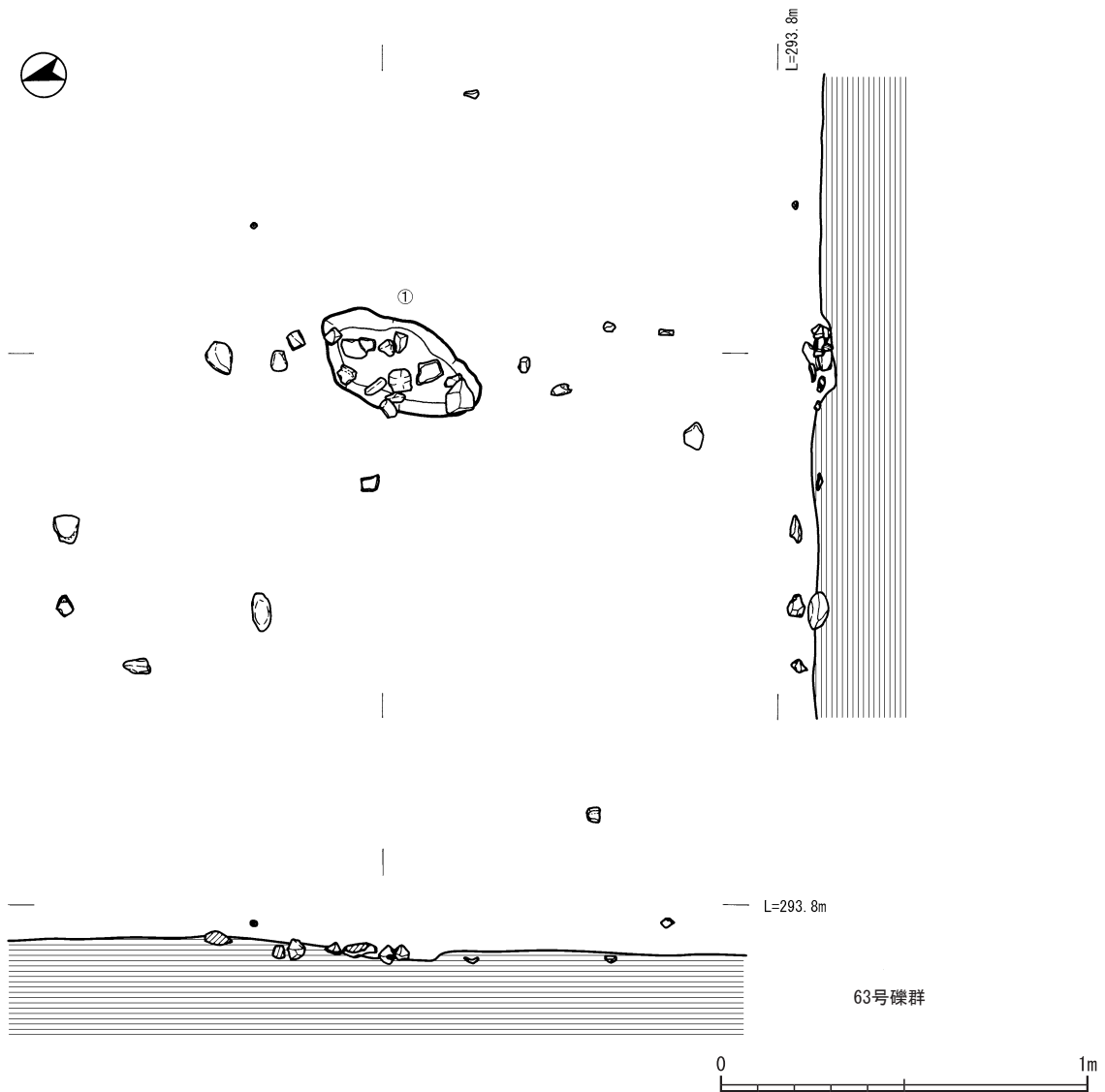
には礫も残されず、浅いが明確な皿状の掘り込みが確認できることから、礫群として取り扱い、遺構内の礫は運び出されたと想定している。分類はIC類。

41号礫群(第61図)

I-9区で検出した。小礫群①を検出した段階では、まだ小礫群②の存在は知られていない。(図版40の③段階)礫群①の調査終了後、周辺の掘り下げで段階で③の北側に礫群②を確認し、検出した。(図版40の④段階)その距離約10cmである。極めて類似した形態を呈し、拳大よりやや小さめの礫を内包していた。小礫群①の南側には、遺構内から掻き出されたと推測される礫が20個程散逸している。分類はIA類。

42号礫群(第62図)

J-9区で検出し、標高292.10mで炭化物汚染エリアと礫の散逸を確認した。その後、汚染エリアを精査・掘り下げを行い掘り込み遺構を確認し、検出した。小礫群①は径56cm×44cm、深さ10cmで、礫1個を含んでいた。小礫群②は径



第73図 X VII層遺構実測図 (34)

64cm×50cm、深さ6cmの浅い皿状を成す。小礫群③は径46cm×30cm、深さ8cm、礫19個が入っていた。礫は半数以上が輝石安山岩で全ての礫が被熱し破碎していた。

43号礫群(第63図)

J-9区で検出した。42号礫群同様、散逸した礫と微量の炭化物が確認された後、その下位から深さ約4cmで礫を含む皿状の掘り込み遺構を検出している。埋土は弱暗灰色を示すが、炭化物は非常に少ない。

44号礫群(第64図)

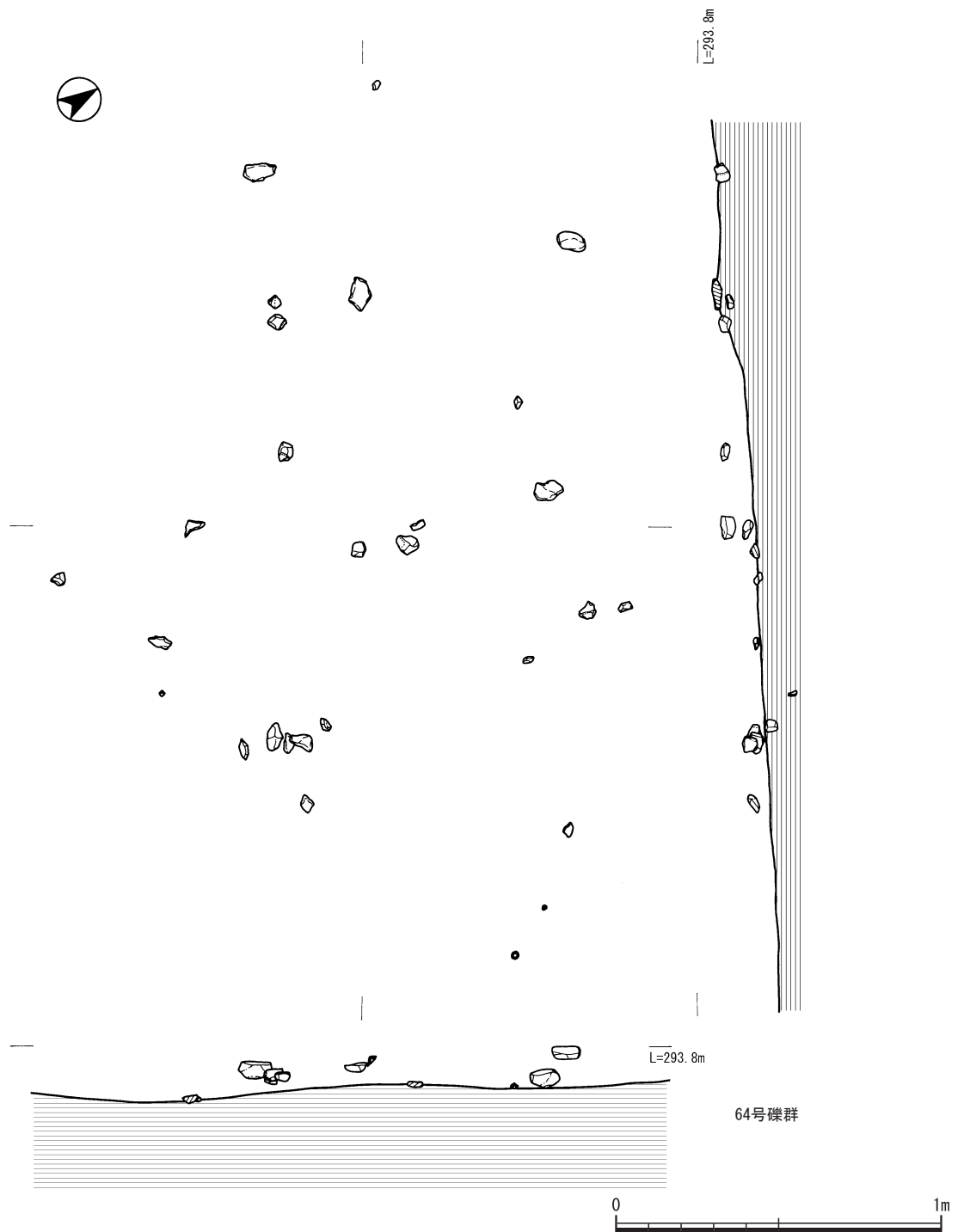
J-9区で検出し、掘り込み遺構は径34cm×28cm、深さ12cmで、拳大よりやや小さめの礫24個が密に詰まっていた。小礫群の西側と南側へ礫が散逸して広がり、西側に炭化物エリアが確認できる。

46号礫群(第65図)

I-9区で検出し、当初は標高292.50mで散礫状況を確認した程度であったが、その後の精査掘り下げにより、礫を伴う掘り込み遺構、径26cm×20cm、深さ6cmを検出した。炭化物は遺構内に1点と小礫群の南側1mの所に3点ほど検出した。

47号礫群(第66図)

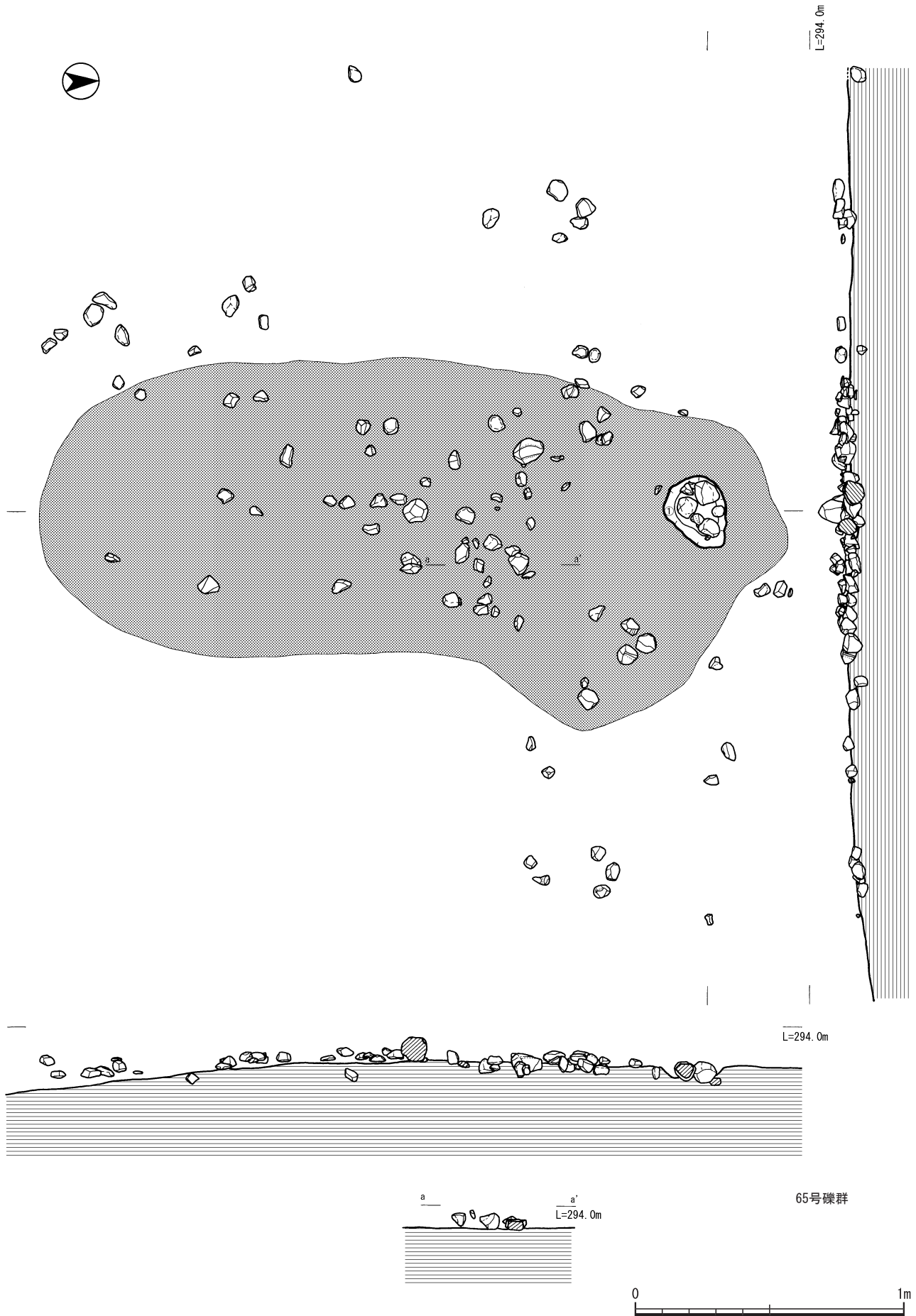
I-9区で検出した。この礫群も当初炭化物エリアだけ検出していたが、その下部より礫5個を含む掘り込み遺構、径56cm×42cm、深さ12cmを検出した。炭化物エリアは、10mm~2mm大の炭化物で、遺構内にも炭化物が確認された。全部の礫が被熱し破碎している。



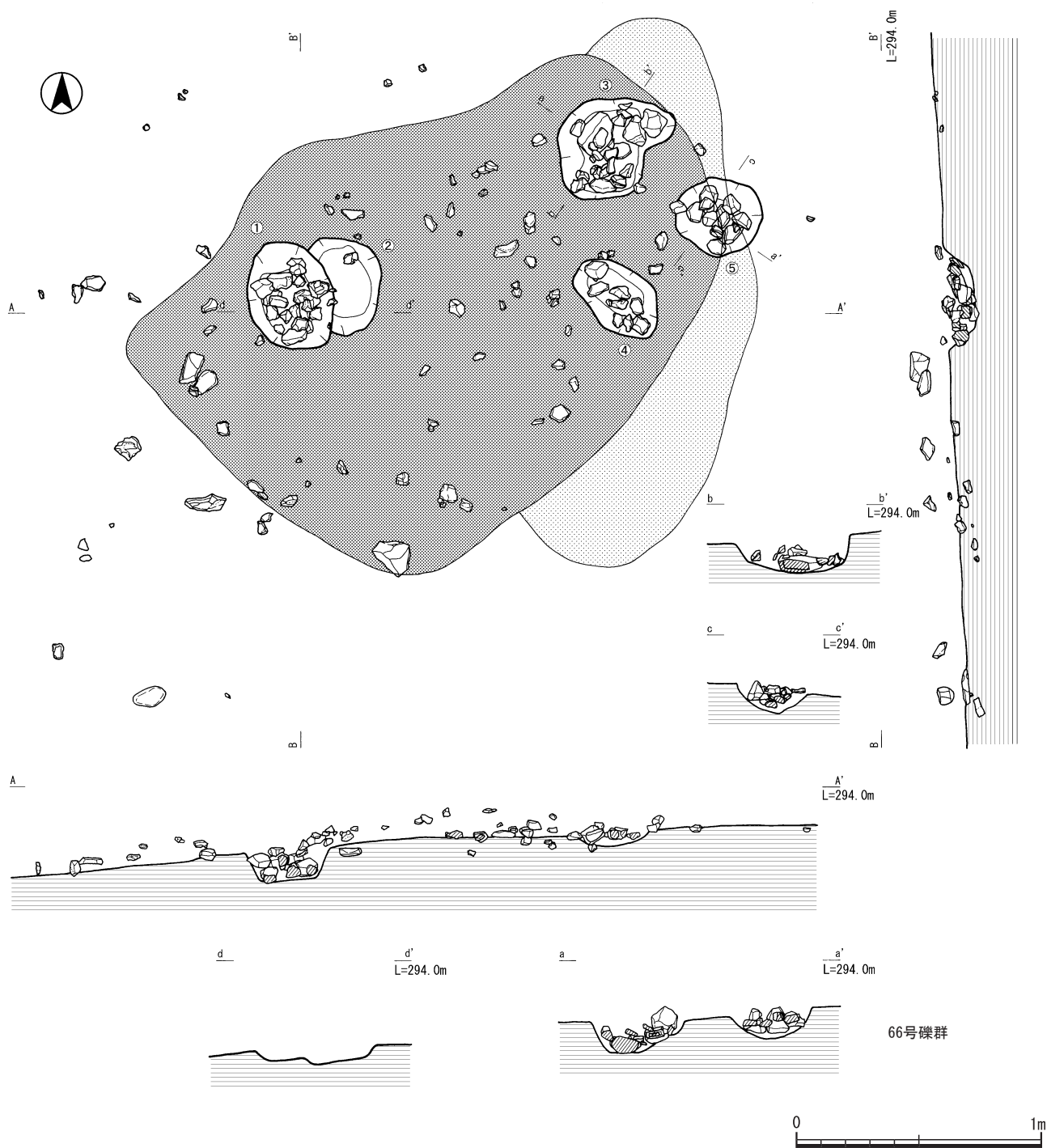
第74図 XVII層遺構実測図 (35)

第20表 XVII～XVI層遺構観察表 (18)

報告書 No	挿図No	類型	大きさ		炭化物範囲		構成礫				小礫群掘り込み				
			長径 (cm)	短径 (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	重量平 均值(g)	被熱率 (%)	破碎率 (%)	石材	No	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	礫数
67	77	ⅢB	82	62	108	64	43.17	100	100	輝石安山岩(16.7%), 頁岩(83.3%)	-	-	-	-	-
68	77	ⅢB	132	54	-	-	161.89	100	100	輝石安山岩(66.7%), 砂岩(22.2%), 頁岩(11.1%)	-	-	-	-	-
69	77	ⅢB	58	-	103	76	207.7	100	100	輝石安山岩(80%), 砂岩(20%)	-	-	-	-	-
70	77	ⅢB	60	52	-	-	95.87	100	93.3	輝石安山岩(66.7%), 砂岩(20%), 頁岩(13.3%)	-	-	-	-	-
71	78	ⅢB	314	310	-	-	115.16	100	93.8	輝石安山岩(59.4%), 砂岩(12.5%), 頁岩(28.1%)	-	-	-	-	-
72	79	I A	214	194	140	106	164.94	100	100	輝石安山岩(56.5%), 砂岩(19.3%), 頁岩(24.2%)	①	26	20	6	5
											②	36	34	10	12
73	80	ⅢB	304	254	-	-	294.7	100	100	輝石安山岩(78.8%), 砂岩(12.1%), 頁岩(9.1%)	-	-	-	-	-



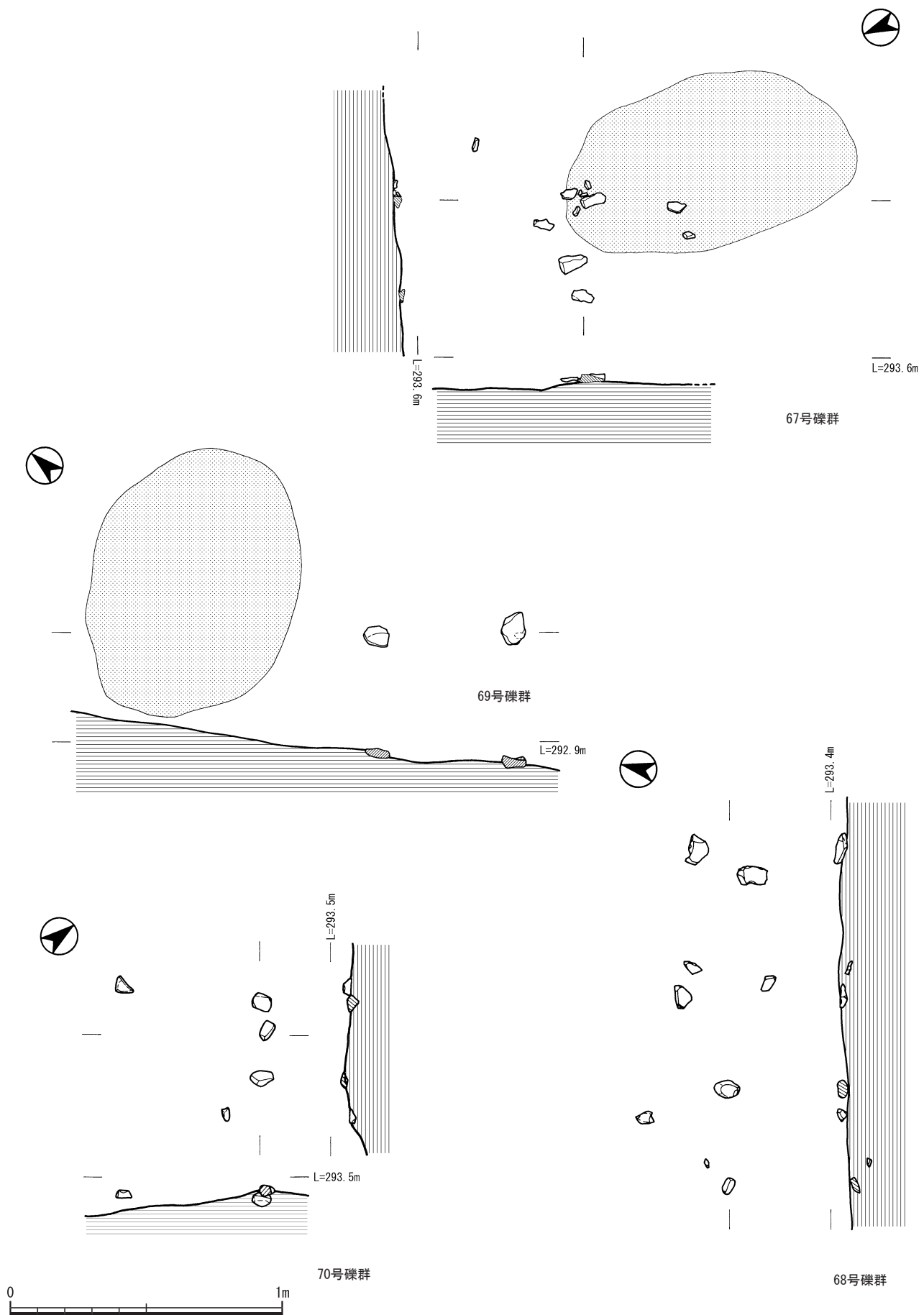
第75図 XVII層遺構実測図 (36)



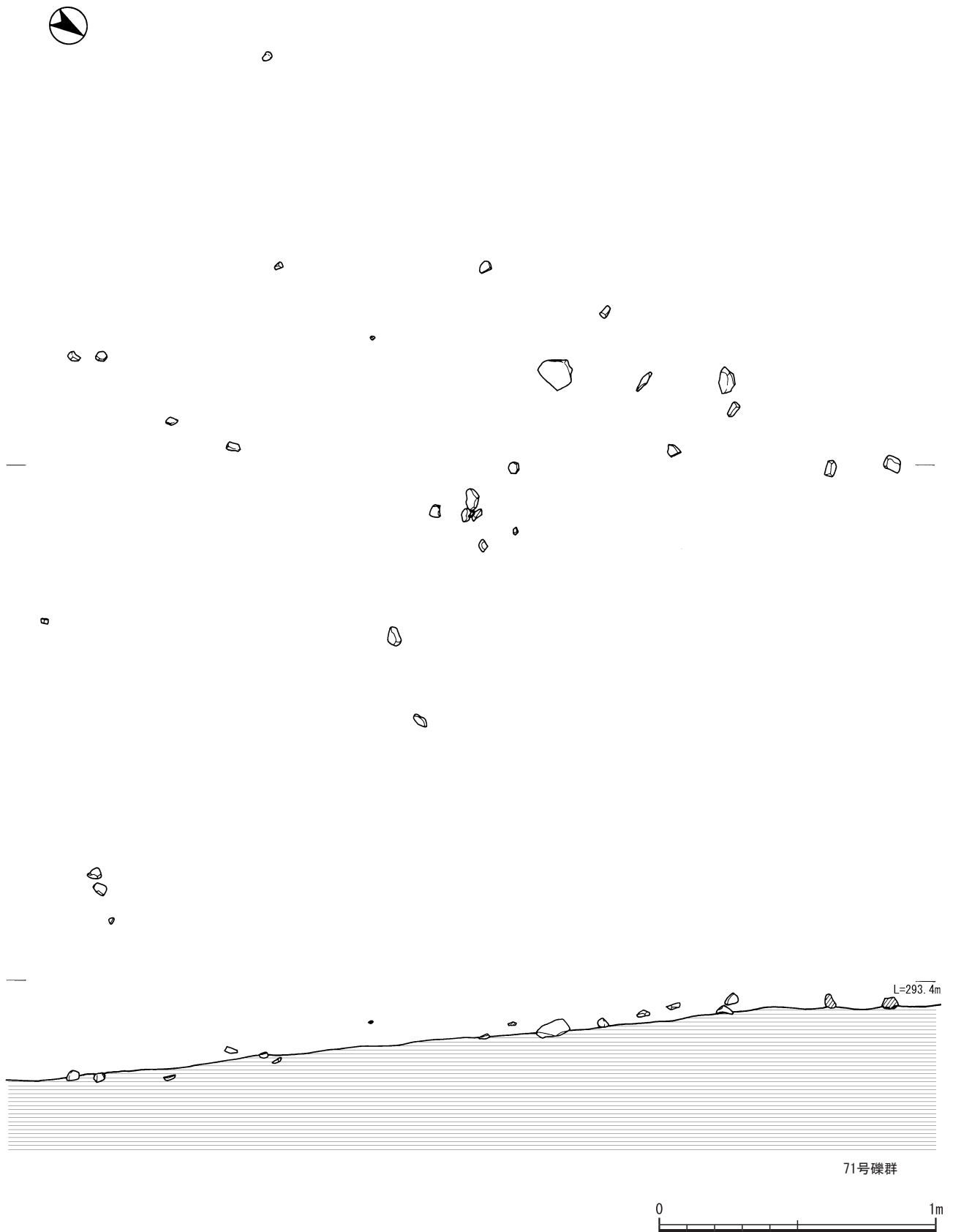
第76図 XVII層遺構実測図 (37)

第21表 XVII～XVI層遺構観察表 (19)

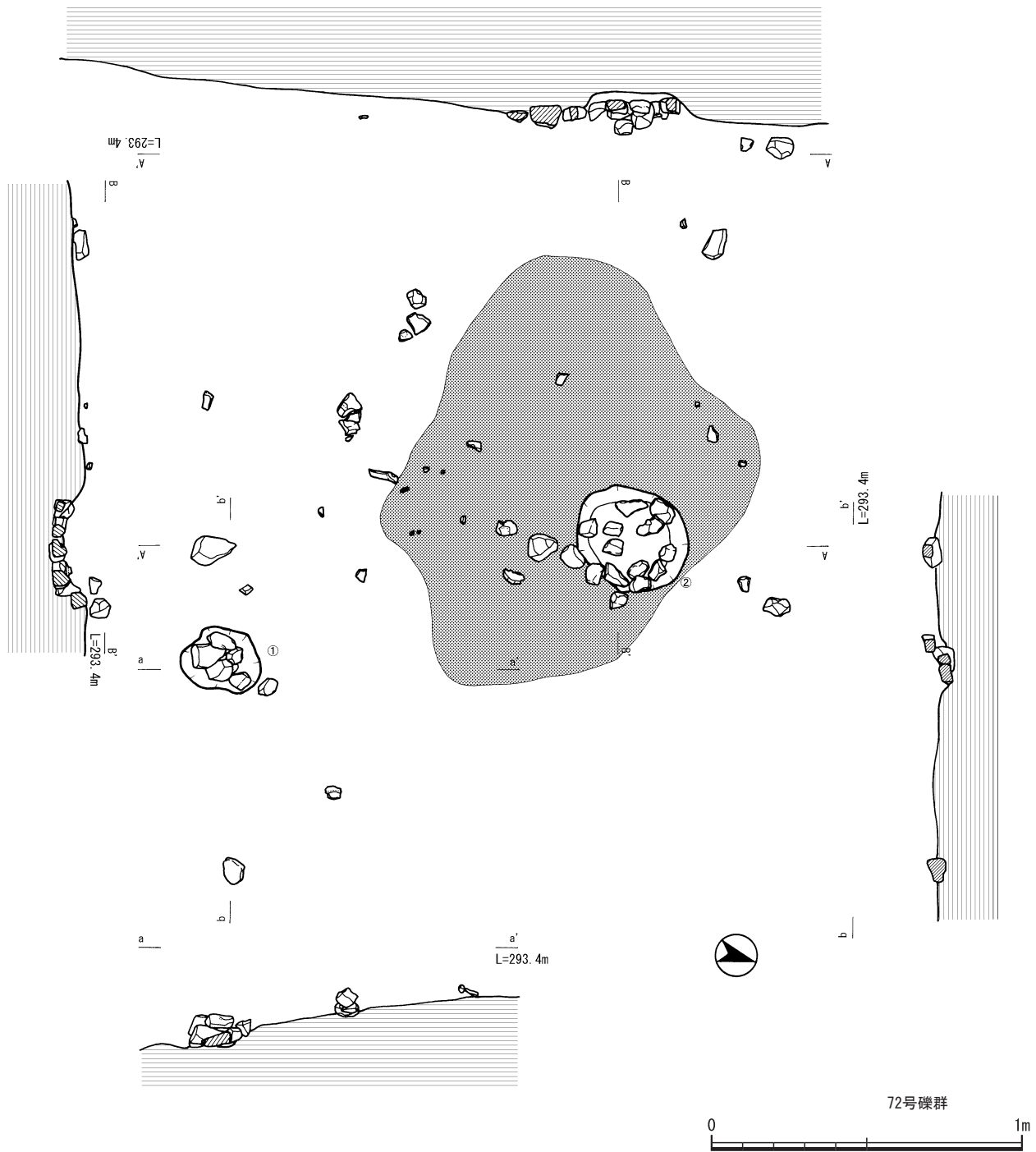
報告書 No	挿図No	類型	大きさ		炭化物範囲		構成礫				小礫群掘り込み				
			長径 (cm)	短径 (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	重量平 均值(g)	被熱率 (%)	破砕率 (%)	石材	No	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	礫数
74	81	ⅢB	136	124	-	-	244.58	100	100	輝石安山岩(83%), 頁岩(17%)	-	-	-	-	
75	81	I C	-	-	174	124	-	-	-	-	①	68	52	14	0
76	82	ⅢB	312	204	150	84	236.29	100	100	輝石安山岩(69%), 砂岩(16.7%), 頁岩(14.3%)	-	-	-	-	



第77図 XVII層遺構実測図 (38)



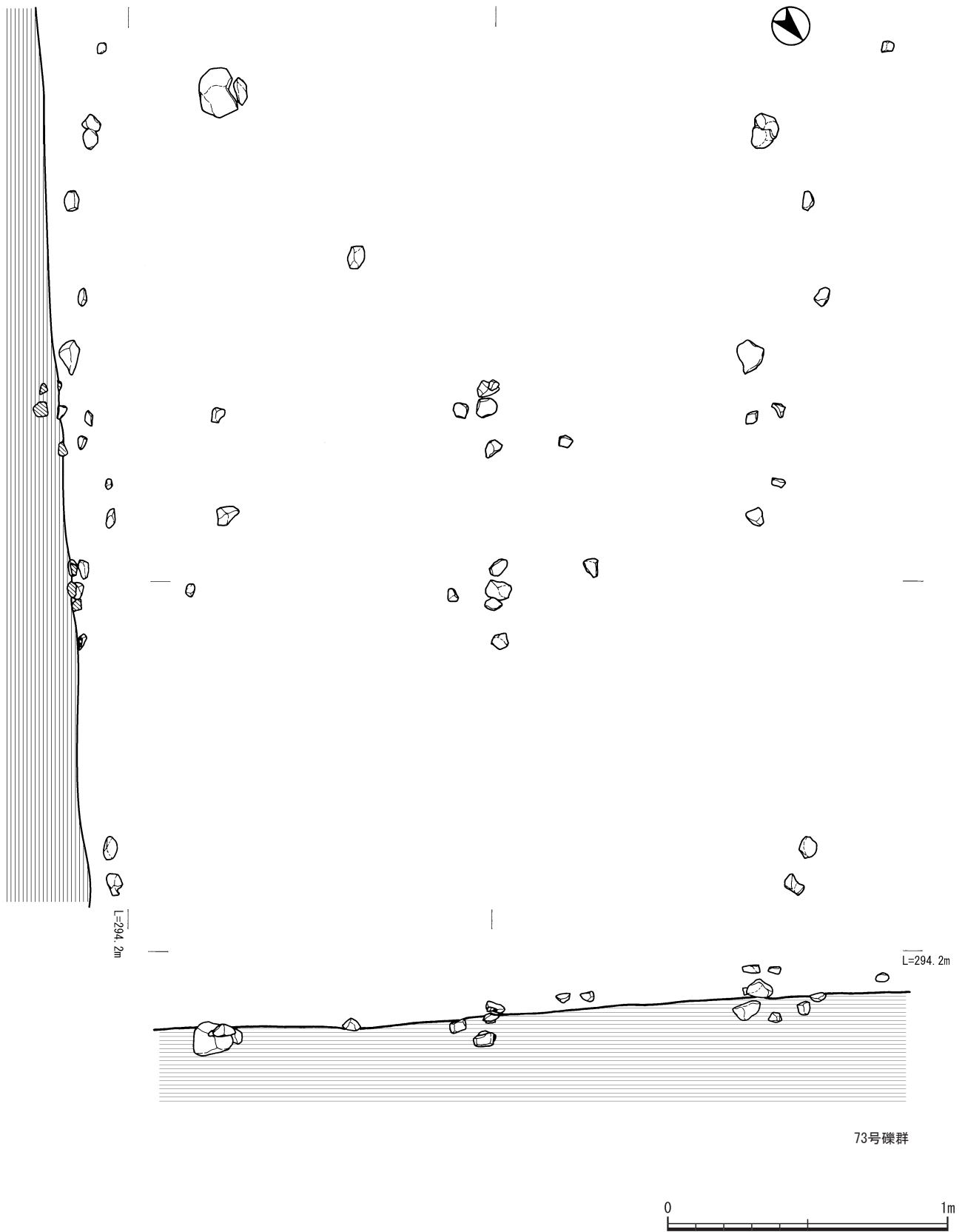
第78図 XVII層遺構実測図 (39)



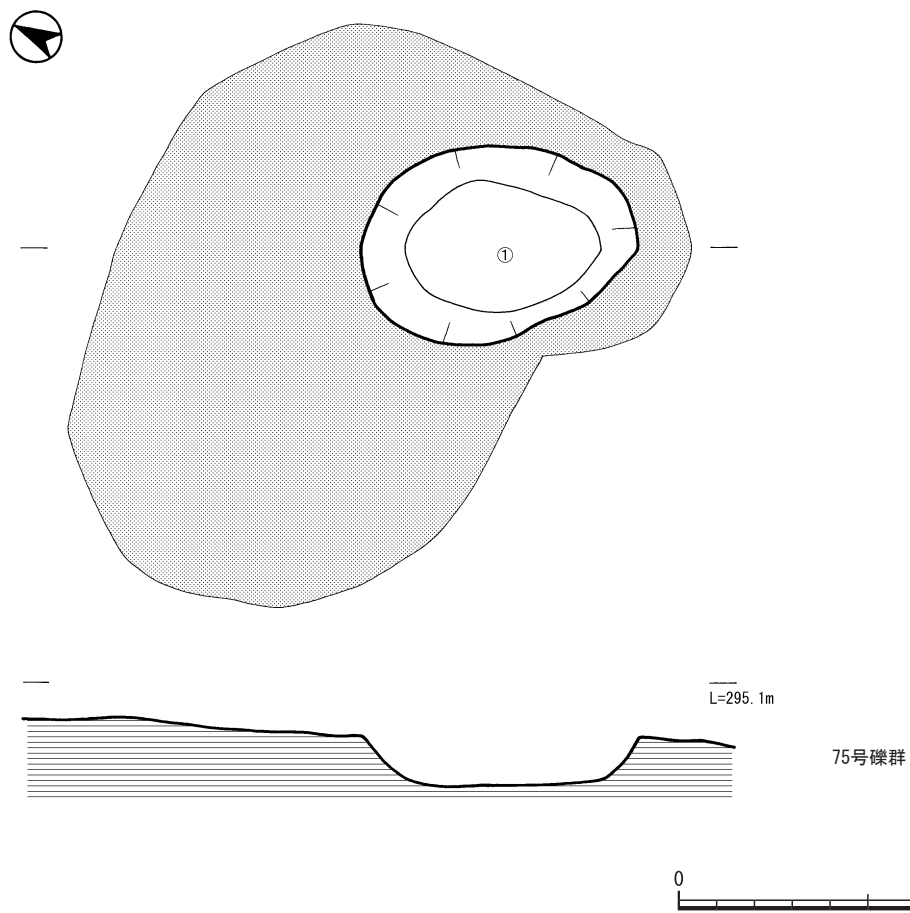
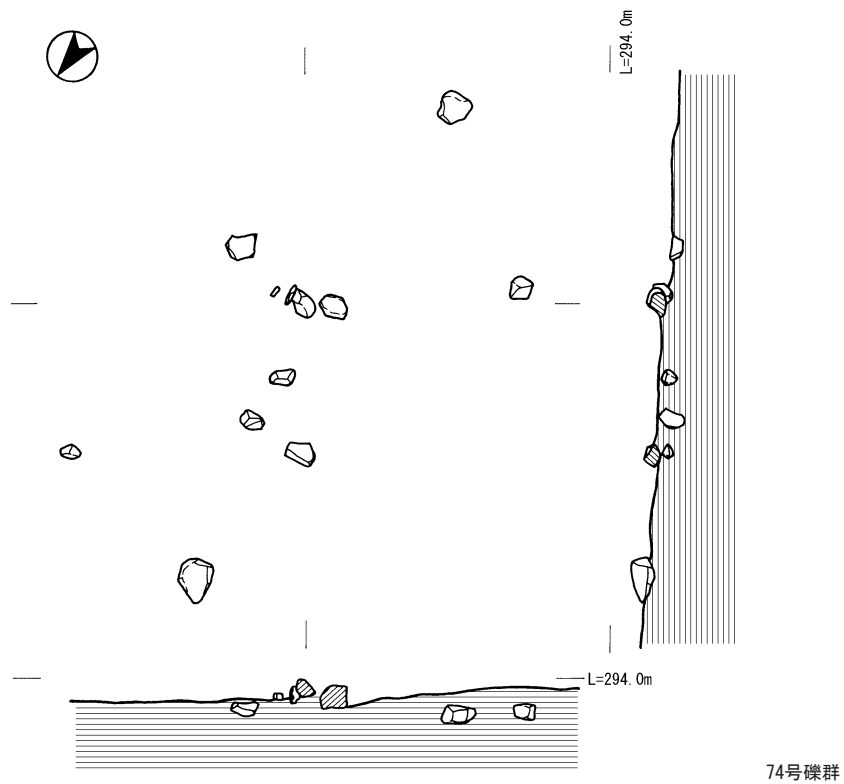
第79図 X VII層遺構実測図 (40)

第22表 X VII～X VI層遺構観察表 (20)

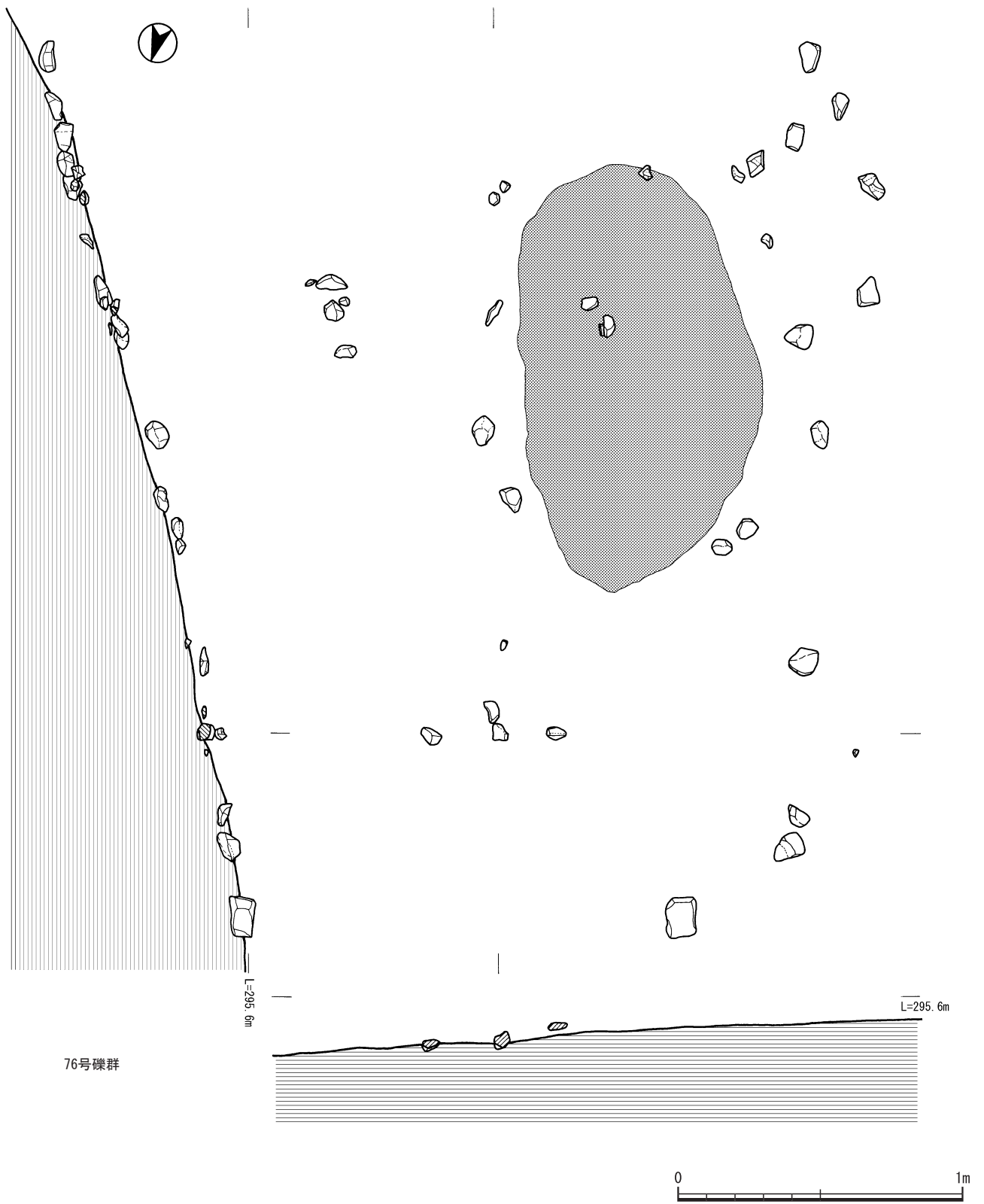
報告書 No	挿図No	類型	大きさ		炭化物範囲		構成礫				小礫群掘り込み				
			長径 (cm)	短径 (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	重量平 均值 (g)	被熱率 (%)	破碎率 (%)	石材	No	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	礫数
77	83	I C	244	110	48	44	310.77	100	100	輝石安山岩 (80.6%), 砂岩 (16.1%), 頁岩 (3.2%)	①	84	62	16	2
					64	32					②	16	14	3	2
78	84	III B	110	72	-	-	140.76	100	100	輝石安山岩 (72%), 砂岩 (28%)	-	-	-	-	-
79	84	III A	184	114	-	-	161.4	100	100	輝石安山岩 (67.5%), 砂岩 (2.3%), 頁岩 (30.2%)	-	-	-	-	-
80	85	III B	326	216	-	-	303.79	100	100	輝石安山岩 (78%), 砂岩 (14%), 頁岩 (8%)	-	-	-	-	-
81	86	III A	396	164	-	-	134.64	98.1	100	輝石安山岩 (79.2%), 砂岩 (5.7%), 頁岩 (15.1%)	-	-	-	-	-



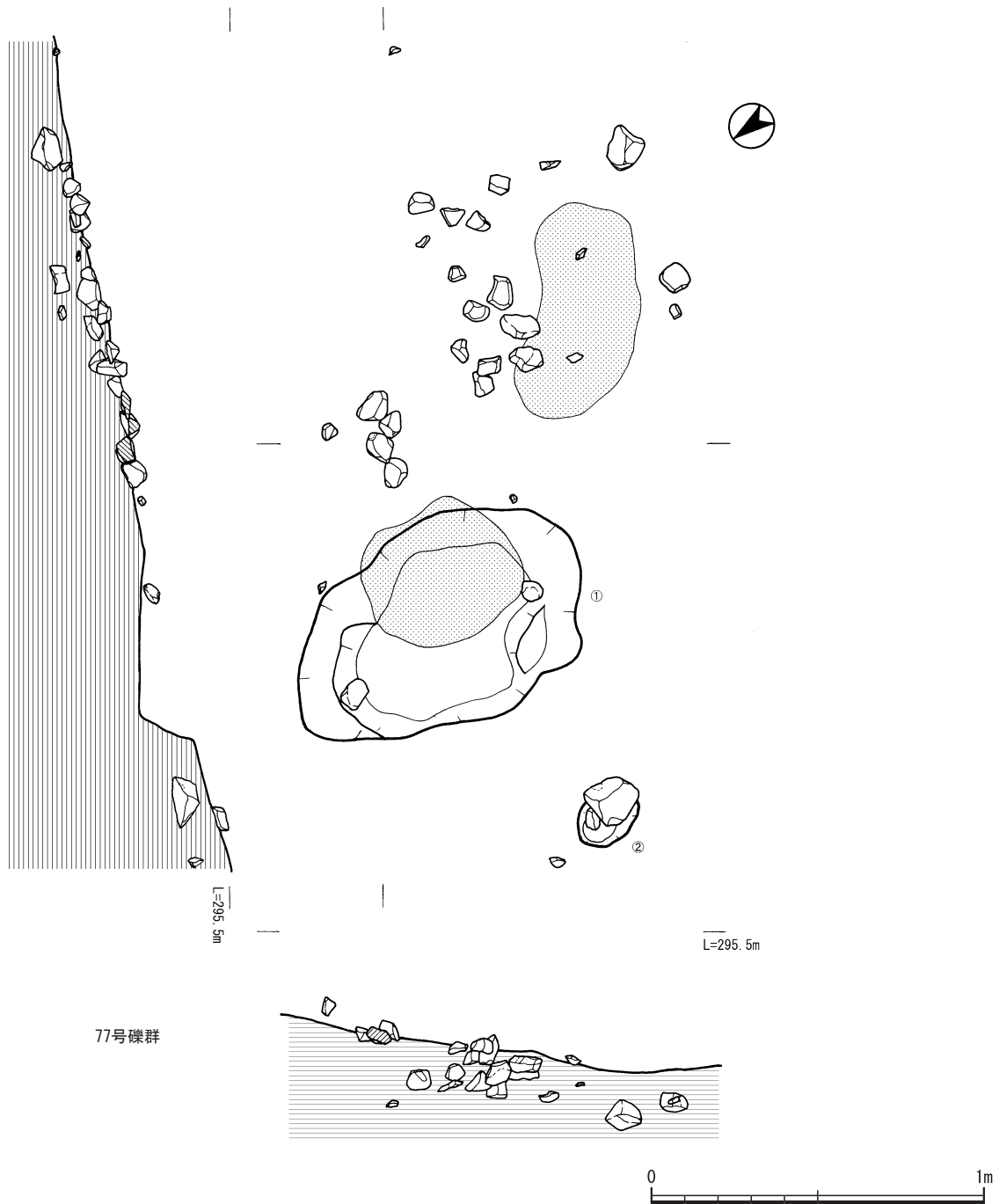
第80图 XVII層遺構実測図(41)



第81图 XVII層遺構実測図(42)



第82図 XVII層遺構実測図(43)



第83図 XVII層遺構実測図(44)

49号礫群(第66図)

H-9区で検出した。炭化物による汚染エリアと輝石安山岩1個で構成し、汚染エリア内の炭化物レベルが292.43mである。汚染エリアを半截し調査したが、下位に新たな遺構は確認できなかった。

52号礫群(第66図)

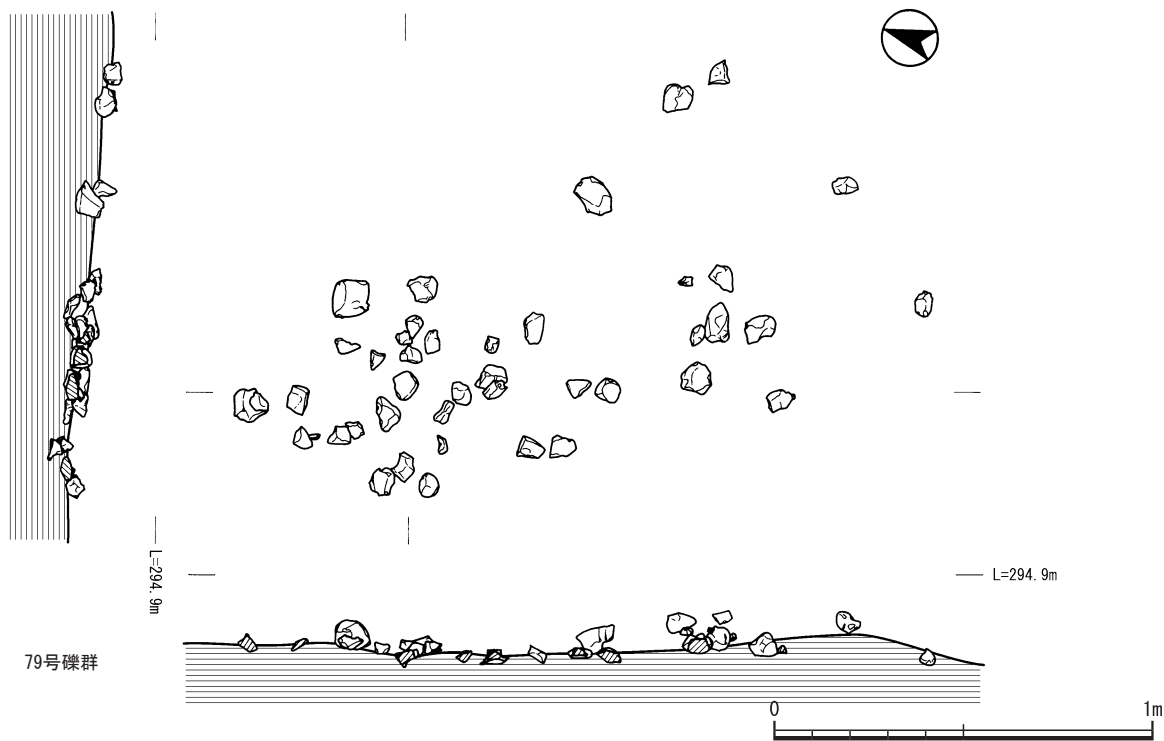
H-8区で検出した。49号と同様炭化物汚染エリアと輝石安山岩1個で構成し、礫の検出レベルは292.99mである。炭化物汚染エリアを半截したが、下位に遺構は存在しない。

54号礫群(第67図)

H-8区で55号礫群、56号礫群と同じ様な礫群3基が1m、1.5mの距離で並んで検出された。54号礫群の掘り込み遺構は、径26cm×24cm、深さ6cmで、礫12個が密に詰まっていた。全てが被熱し破碎していた。

55号礫群(第67図)

H-8区で検出し、54号礫群と56号礫群の間に位置する。55号礫群は径、28cm×28cmに集中するが、掘り込み遺構の確認には至っていないが、礫の残存状況からは、遺構が存在した可能性を強く感じさせる。全てが被熱し破碎し、炭化物はほとんど確認できなかった。



56号礫群 (第67図)

H-8区で検出し、礫13個を伴う掘り込み遺構は、径24cm×22cmで深さ6cmで、構成礫は輝石安山岩、砂岩、頁岩で、同じ様な割合で使用され全て被熱し破碎している。炭化物は小片が多く、網掛けの部分は若干濁る程度である。

59号礫群 (第69図)

I-8区で検出した。当初、小礫群①を標高293.15mで炭化物汚染エリアと共に検出した。①の掘り込み遺構は、径38cm×34cm、深さ6cmで、遺構内の礫は輝石安山岩で、全て被熱し破碎していた。汚染エリア内の炭化物は径10mm～2mm

のものが多い。実測終了後、汚染エリアを半截し、約5cm下位から小礫群②を検出した。②の掘り込み遺構は、径56cm×38cm、深さ14cmで、遺構内に礫を1個確認した。埋土は炭化物を多く含んだ濁黄灰色砂質土である。

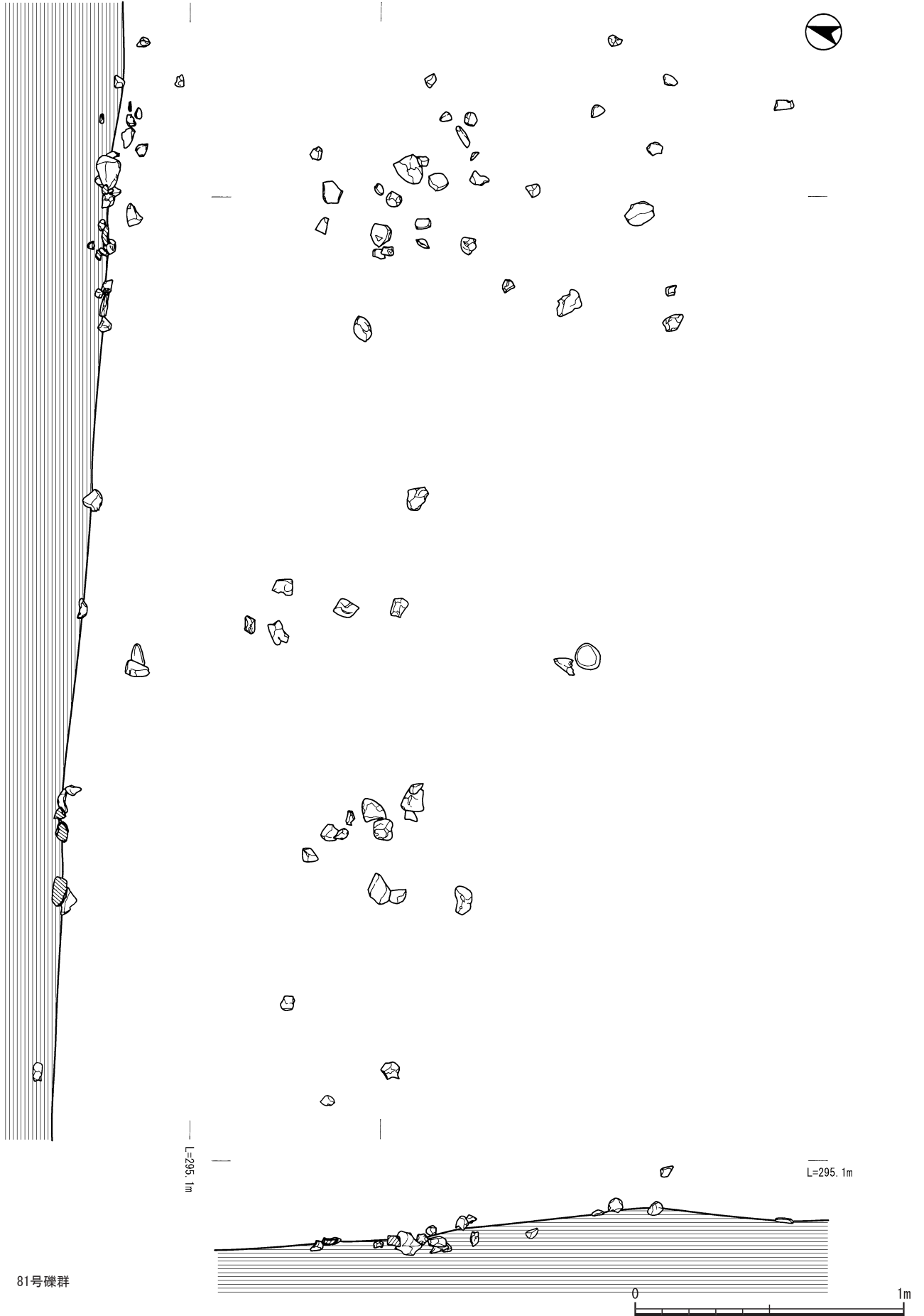
60号礫群 (第70図)

I-8区で検出した。礫15個を内包する掘り込み遺構は、径32cm×24cm、深さ6cmの浅い皿状を呈し、遺構内の礫全てが破碎している。炭化物は、2mm前後の小さな物が9点確認された。

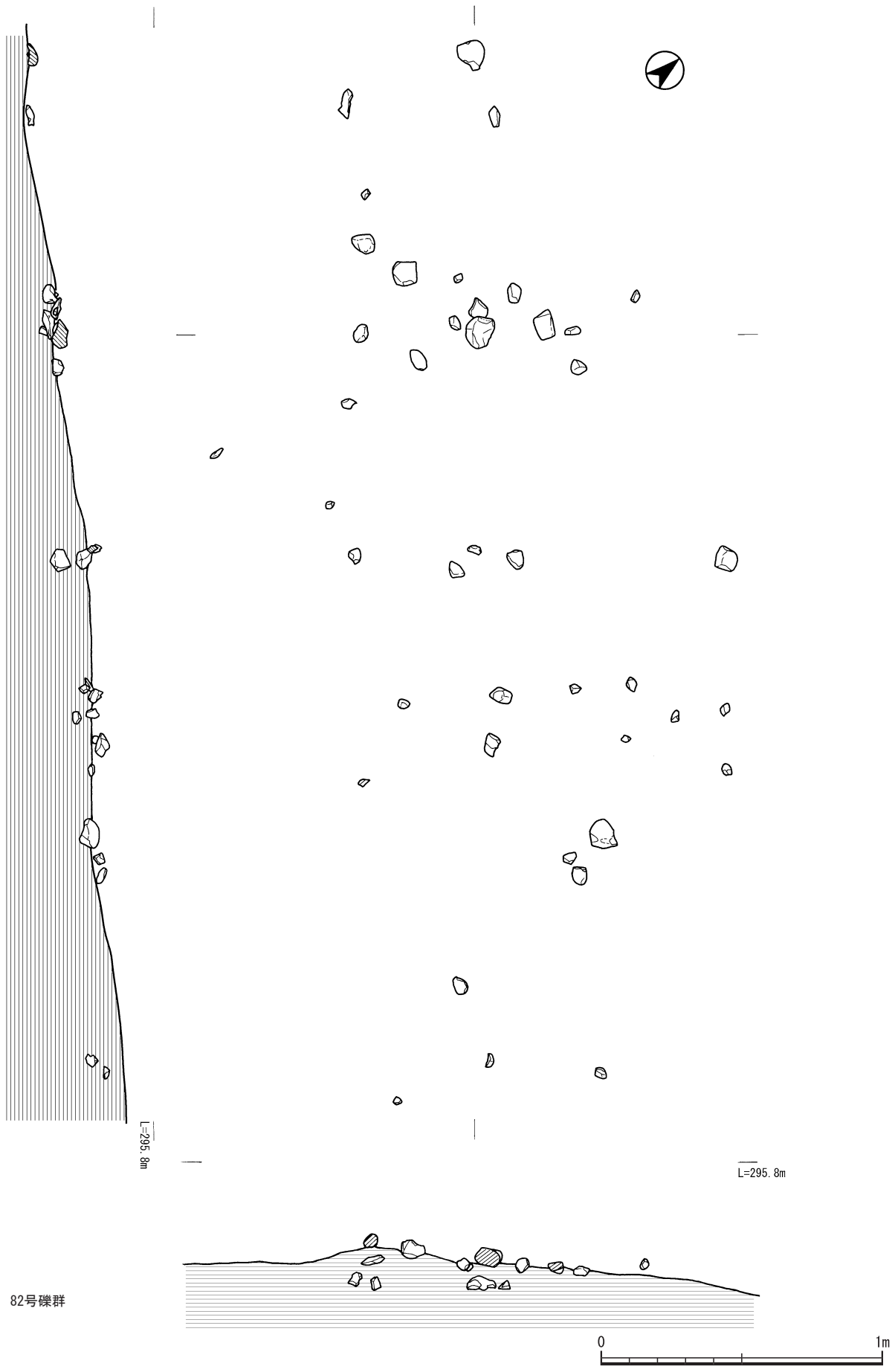
第84図 XⅦ層遺構実測図 (45)



第85図 XVII層遺構実測図 (46)

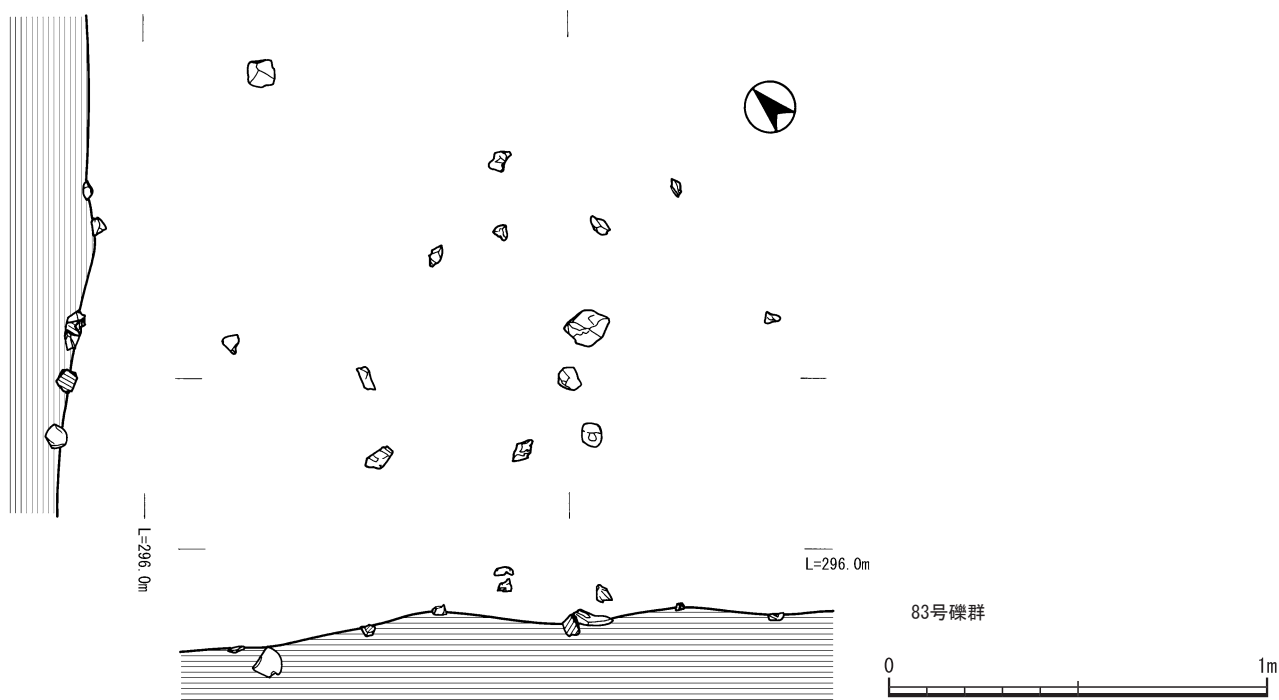


第86图 XVII層遺構実測图 (47)



82号礫群

第87图 X VII層遺構実測图 (48)



第88図 XVII層遺構実測図 (49)

第23表 XVII～XVI層遺構観察表 (21)

報告書 No	挿図No	類型	大きさ		炭化物範囲		構成礫				小礫群掘り込み				
			長径 (cm)	短径 (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	重量平 均值 (g)	被熱率 (%)	破砕率 (%)	石材	No	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	礫数
82	87	ⅢB	376	186	-	-	133.68	100	97.7	輝石安山岩 (63.6%), 砂岩 (20.5%), 頁岩 (15.9%)	-	-	-	-	-
83	88	ⅢB	146	126	-	-	116.93	100	100	輝石安山岩 (35.7%), 砂岩 (28.6%), 頁岩 (35.7%)	-	-	-	-	-
84	89	ⅢA	242	226	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
85	90	ⅢB	358	216	-	-	123.31	100	97.2	輝石安山岩 (50%), 砂岩 (44.4%), 頁岩 (5.6%)	-	-	-	-	-
86	91	Ⅱ	122	106	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
87	91	ⅢB	38	20	-	-	334.25	100	100	砂岩 (100%)	-	-	-	-	-
88	91	ⅢA	46	36	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
89	91	ⅢB	92	86	-	-	188.47	93.3	100	輝石安山岩 (53.3%), 砂岩 (20%), 頁岩 (26.7%)	-	-	-	-	-
90	91	Ⅱ	34	22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

61号礫群 (第71図)

1-7・8区で検出した。①の掘り込み遺構は、径40cm×38cm、深さ8cm、②が径42cm×36cm、深さ10cmで、周辺の炭化物汚染エリアと散逸した礫で構成される。小礫群①は礫数25個で、半数が輝石安山岩である。全ての礫が被熱し、破砕している。②の掘り方は、2段堀の可能性もある。

62号礫群 (第72図)

1-7区で検出し、微地形の尾根の部分に集中している礫群の一つである。掘り込み遺構、径36cm×30cm、深さ7cmの中に礫17個が含まれ、全て輝石安山岩で、9割が被熱し破砕していた。炭化物は遺構周辺で2点程、散逸礫周辺で10点ほど確認した。

63号礫群 (第73図)

1-7区で検出し、掘り込み遺構は径48cm×24cm、深さ5

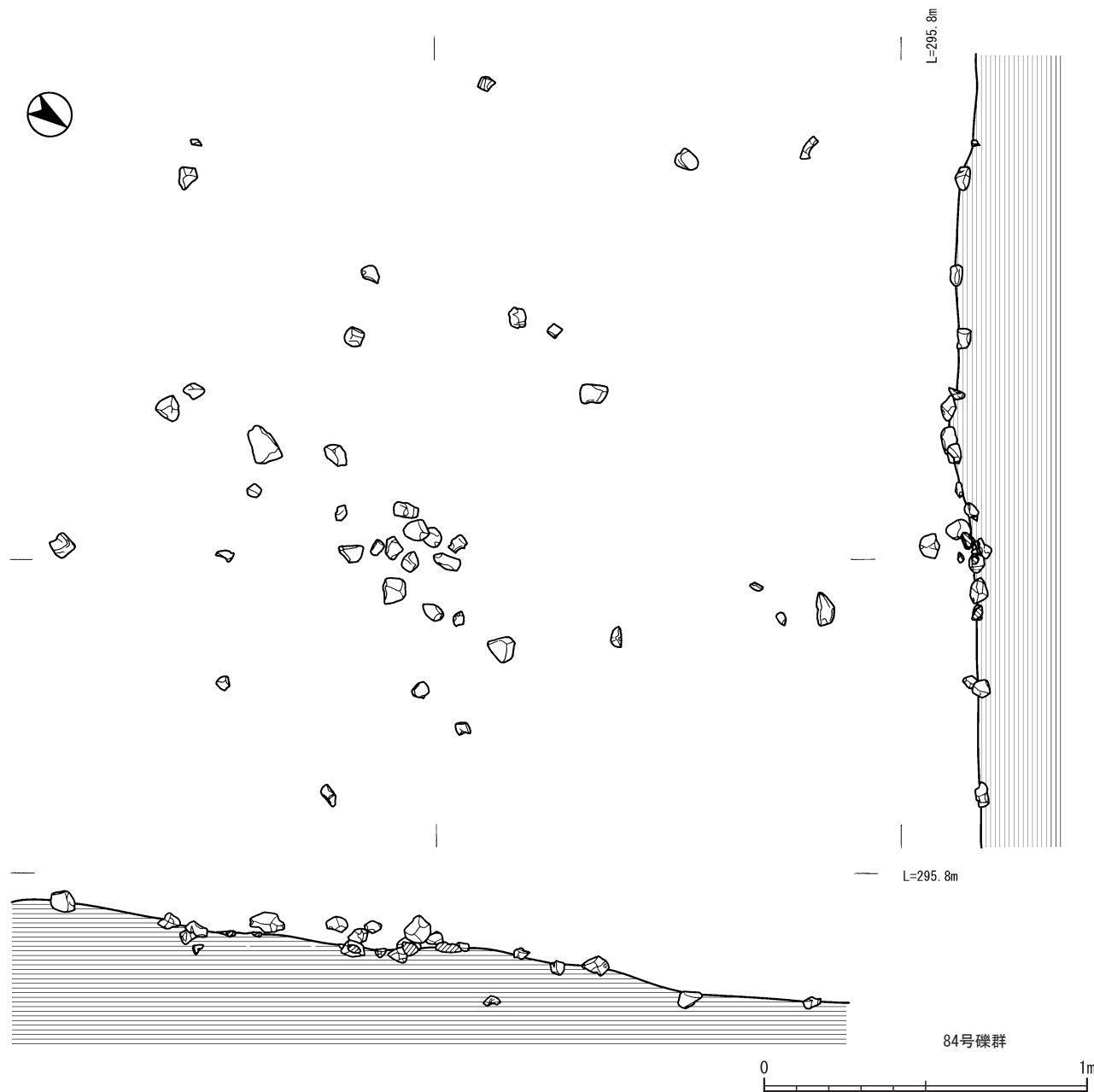
cmで、輝石安山岩13個が入っていた。炭化物は遺構内に数点検出した。周辺礫は地形の高い方と低い方の両方に散在している。

65号礫群 (第75図)

H-7区で検出し、径26cm×24cmで、深さ4cmの浅い掘り込み遺構を伴う。南側の傾斜方向へ炭化物の汚染エリアと礫が広がる。汚染エリア内では、2mm以上の炭化物を多数確認している。

66号礫群 (第76図)

H-7区で検出した。微地形の尾根に展開する礫群の中では、一番高い所にある礫群である。当初、散在礫と炭化物汚染エリアを検出し、その後の下層確認で、掘り込み遺構を伴う小礫群を検出した。小礫群①の遺構は径34cm×28cm、深さ12cmで24個の礫を密に含んでいた。①終了後、10cm下



位で新たに小礫群②を確認している。②は礫がほとんど入っておらず、小礫群①号で切られる。小礫群③は径42cm×36cm、深さ14cmで、中に25個の礫が詰まっており、中には15cm大の礫も使用していた。小礫群④は径28cm×26cm、深さ10cm、8cm前後の礫が10個詰まっていた。小礫群⑤は径32cm×20cm、深さ6cmで、礫14個を含む。周囲には礫が散在し、その中には大型石器も含まれていた。

72号礫群(第79図)

I-6区で検出し、I・J-5・6区の微地形の尾根部分に形成された一群である。小礫群①は径26cm×20cm、深さ6cmで5cm以上の礫が5個詰まっていた。炭化物は、周囲で数点が確認される。小礫群②は径36cm×34cm、深さ10cmで12個の礫が残され、最下面には炭化物の集中も確認される。炭

化物汚染エリアは、この②号小礫群の周囲に広がる。

75号礫群(第81図)

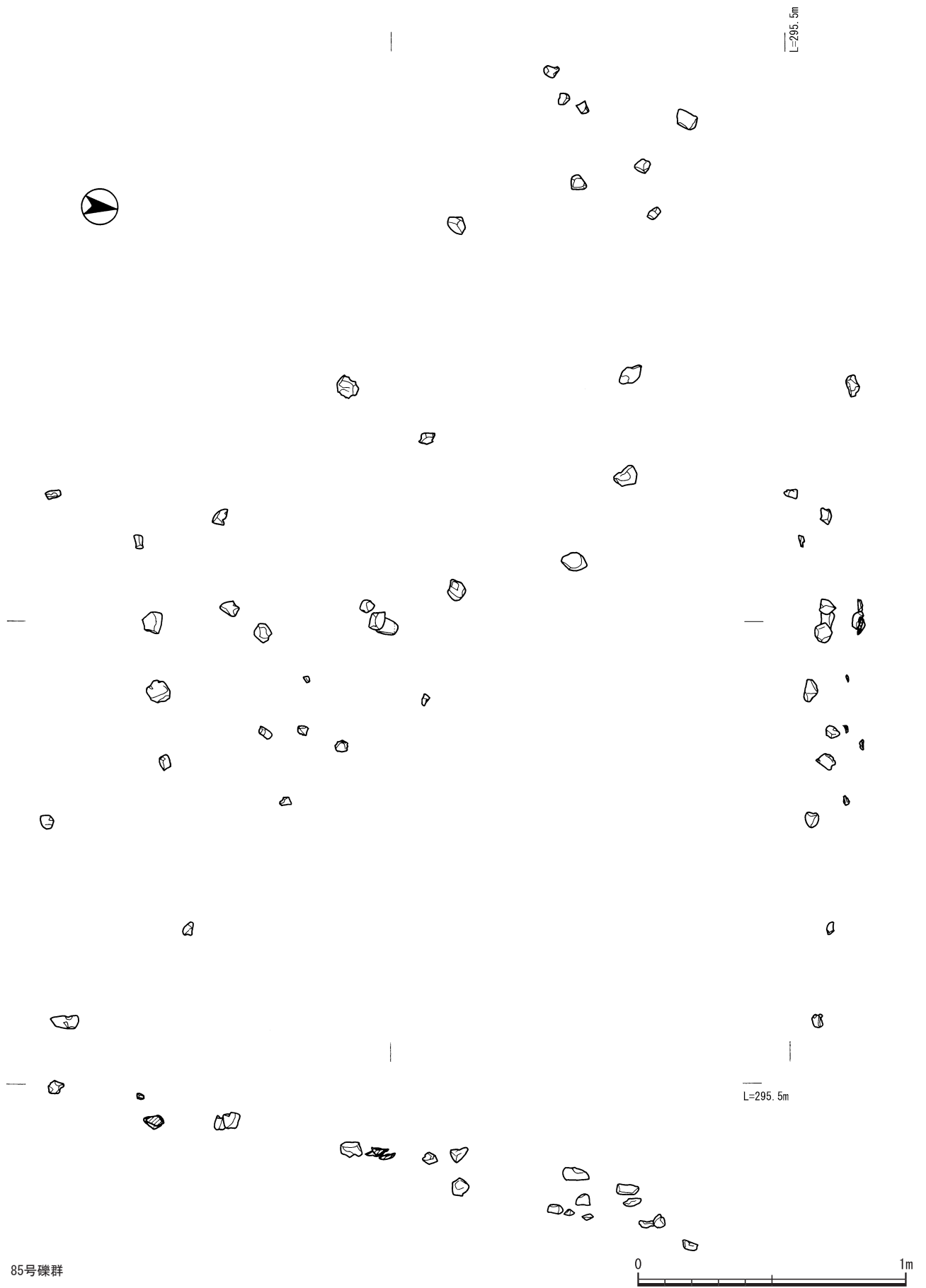
G-5区で検出し、炭化物汚染エリアを半截して掘り込み遺構を検出した。遺構①の埋土は暗茶褐色で、2mm～5mmの炭化物を多数含んでいる。

77号礫群(第83図)

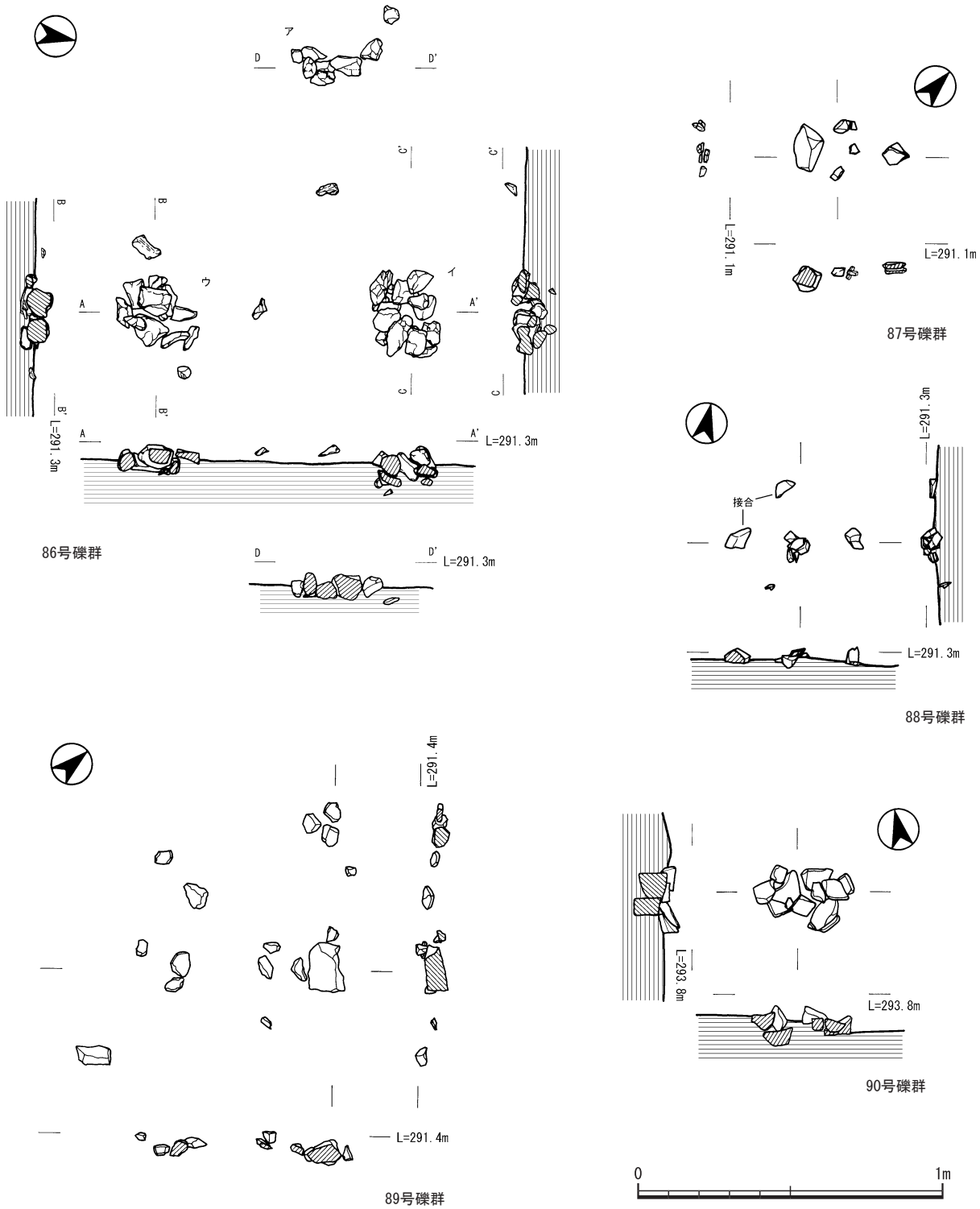
H-4区の傾斜のきつい場所で検出した。小礫群①は径84cm×62cm、深さ16cmで、礫2個を含む。傾斜側に礫が広がっており、掻き出された様相が窺える。

小礫群②は径16cm×14cm、深さ3cm、17cmの礫と5cm大の礫を含み、明確な掘り込み遺構は確認されていない。

第89図 XⅦ層遺構実測図(50)



第90图 XVII層遺構実測図 (51)



第91図 XVI層遺構実測図 (52)

86号礫群 (第91図)

1-20区のXVI層最下面で検出した。80cm程の距離に、3基が三角形に配置されている。小礫群アは礫8個で構成し、掘り込み遺構は確認できていない。小礫群イは礫15個で構成し、掘り込み遺構は確認していないが、礫の集合から存在

した可能性は高い。小礫群ウは礫12個で構成し、掘り込み遺構は確認していないが、小礫群同様存在していた可能性は高い。個々の礫群はそれぞれが良くまとまっており、独自に機能していた礫群と推測される。

第3節 礫接合資料(第92図～第140図)

1 礫接合状況(第92図)

XVII層で検出された礫群を構成する礫の接合作業を行った結果、272個体の遺構内及び遺構間で接合する資料が確認できた。その中から複数の遺構間で接合し、遺構の構成について検討可能と思われる良好な資料として32点を抽出した。これらの資料は同一遺構間で接合したものを中心に分類し、破損接合で具体的に示している。なお、資料の遺構間における接合状況は、第92図に示した。

遺構別に見ると、29号・32号礫群間と32号・33号礫群間で接合した資料が5点ずつ、22号・23号礫群間で接合した資料が3点、23号・25号礫群間と21号・25号礫群間それに82号・83号礫群間で接合した資料が2点ずつ確認できた。また、1点のみの確認となったのは23号・64号・66号礫群間、23号・66号礫群間、23号・65号礫群間、23号・33号礫群間、23号・32号・61号礫群間、18号・19号礫群間、65号・66号礫群間、35号・36号・37号礫群間、60号・62号礫群間、68号・71号礫群間、79号・81号礫群間、82号・83号礫群間、41号・63号礫群間で接合した資料である。

これらの資料を、32号礫群を中心とする第1群、23号礫群を中心とする第2群、その他のうち遺構間が近いものを第3群、遺構間が離れているものを第4群と分類して、遺構間の移動経緯について検討した。

2 接合資料第1群(第93図～第103図)

(1) 29号・32号礫群間接合資料

(No. 1～No. 5, 第93図～第96図)

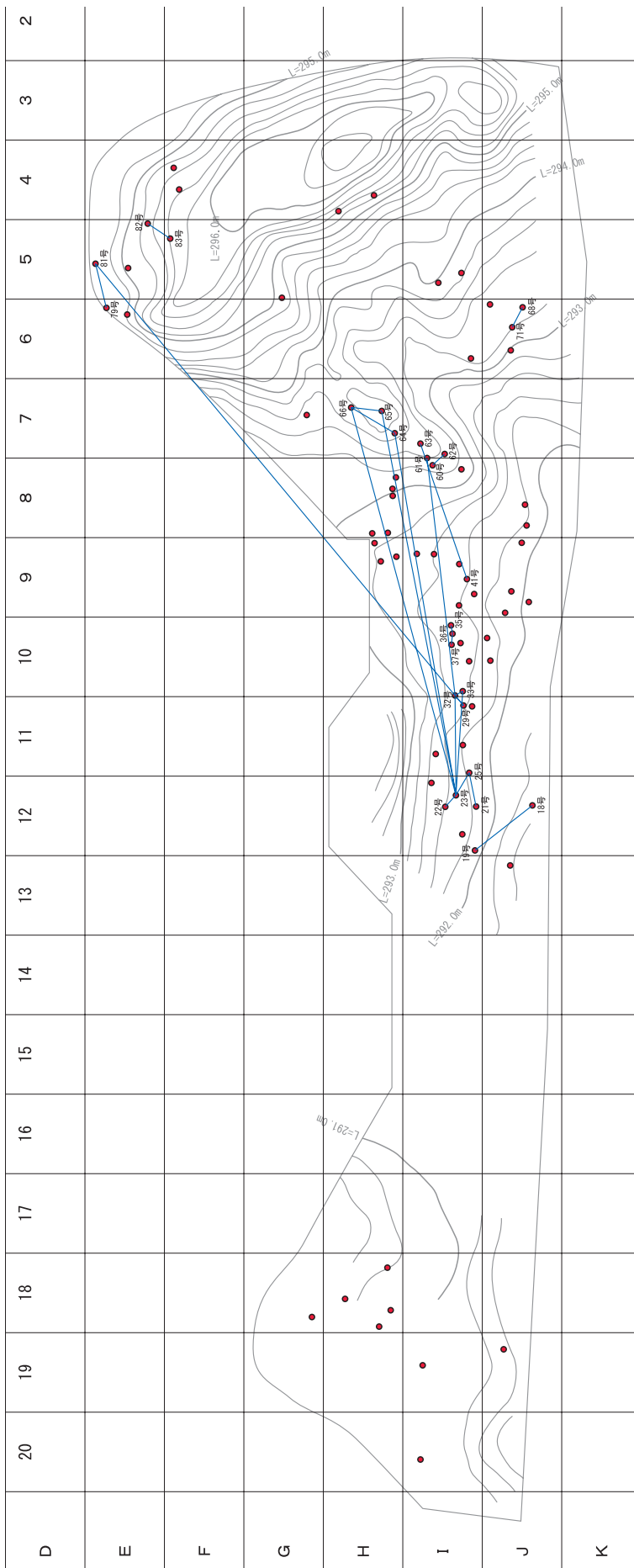
耳取遺跡中央部に近い、I-10区の32号礫群とI-11区の29号礫群間で接合した資料で、5点が確認できた。遺構間は約2m離れている。石材は、No. 1～No. 3が輝石安山岩、No. 4が砂岩、No. 5が頁岩である。接合資料を構成する礫は全て被熱している。

接合資料No. 1(第94図)

接合資料No. 1は、表面部で薄く剥離した礫1と礫2が32号礫群から、接合資料の総重量の6割以上を占める礫3が29号礫群から検出された。礫の細片化順序は、礫1が破損した後に礫2と礫3が破碎している。礫1と礫2は、32号礫群の掘り込み遺構を取り巻く散在礫として検出されている。他方礫3は、29号礫群の掘り込み遺構内の構成礫として遺構下部から検出されている。

接合資料No. 2(第95図)

接合資料No. 2は礫1が32号礫群から、接合資料の総重量の7割を占める礫2が29号礫群から検出された。礫1は、32号礫群で接合資料No. 1と



第92図 礫接合状況図

同じく掘り込み遺構を取り巻く散在磔として検出されているのに対し、磔2は、29号磔群の掘り込み遺構内の構成磔として、遺構壁にきっちりハマっている状態で検出されている。

接合資料No. 3 (第95図)

接合資料No. 3は磔1と磔2が32号磔群から、磔3が29号磔群から検出された。磔3は接合資料No. 3の総重量の5割強を占める。磔の細片化順序は、接合資料No. 1と同様、まず磔1が破損した後、磔2と磔3が破砕している。磔1と磔2は、32号磔群の掘り込み遺構を取り巻く散在磔として検出されている。他方磔3は、29号磔群の掘り込み遺構内の構成磔として検出されている。

接合資料No. 4 (第95図)

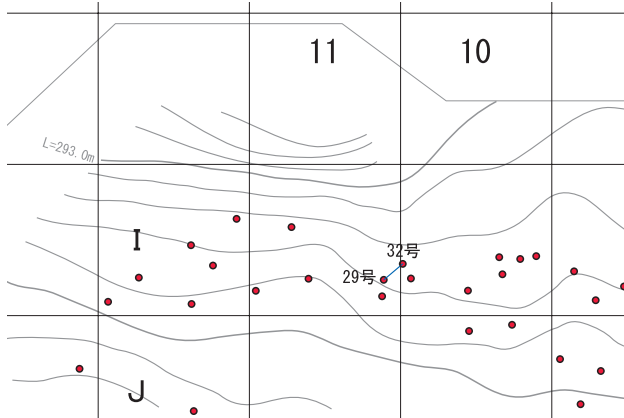
接合資料No. 4は磔1が32号磔群から、磔2が29号磔群から検出された。磔2の重量が接合資料全体の5割強を占めるが、磔の大きさとしては大差はない。磔1は、32号磔群で接合資料No. 1・No. 2同様、磔群の掘り込み遺構を取り巻く散在磔として検出されている。磔2は、29号磔群で接合資料No. 1と同じく、掘り込み遺構内の構成磔として、集中磔の下部から検出されている。

接合資料No. 5 (第96図)

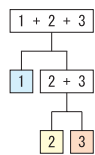
接合資料No. 5は9つの磔が接合できた資料であるが、そ

のうち磔1～磔7の7つが32号磔群から、接合資料総重量の5割以上を占める磔8と小片の磔9が29号磔群から検出された。磔1～磔7は、32号磔群の掘り込み遺構の南方向に4点、北方向に3点、いずれも掘り込み遺構を取り巻く散在磔として検出されている。磔9は、29号磔群で掘り込み遺構の南西方向へ約50cm離れた位置から、掘り込み遺構を取り巻く散在磔として検出されているが、磔8は磔群の掘り込み遺構内の構成磔として検出されている。磔の細片化順序は第96図に記載してある樹系図のとおりであるが、早くから破損したと思われる小片の磔9が29号磔群から検出された点が、これまでの接合資料ではみられなかった傾向である。

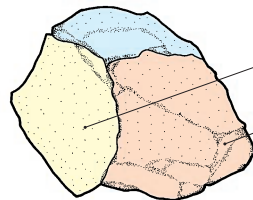
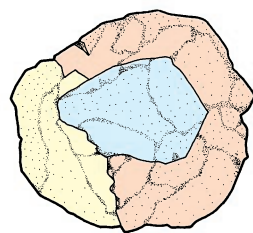
これら5点の接合資料で共通していることは、いずれも破砕した中でもっとも大きな磔が、29号磔群の掘り込み遺構内の構成磔として検出されていることである。接合資料を形成している磔は全て被熱しているが、磔表面及び接合面での明確な色調の変化はみられず、被熱による磔の使用頻度を検討することはできなかった。しかし、掘り込みの底面付近から再利用された磔が検出されていることから、周囲に散在する磔を再利用し、29号磔群が構築されたと理解できる。



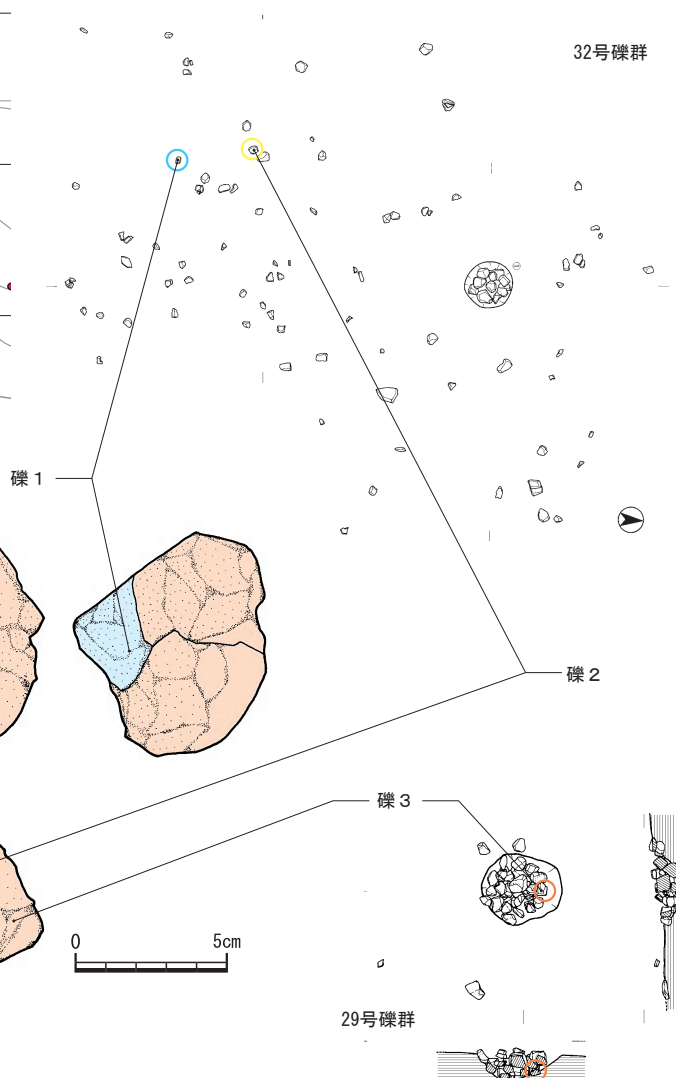
第93図 29号・32号磔群位置図



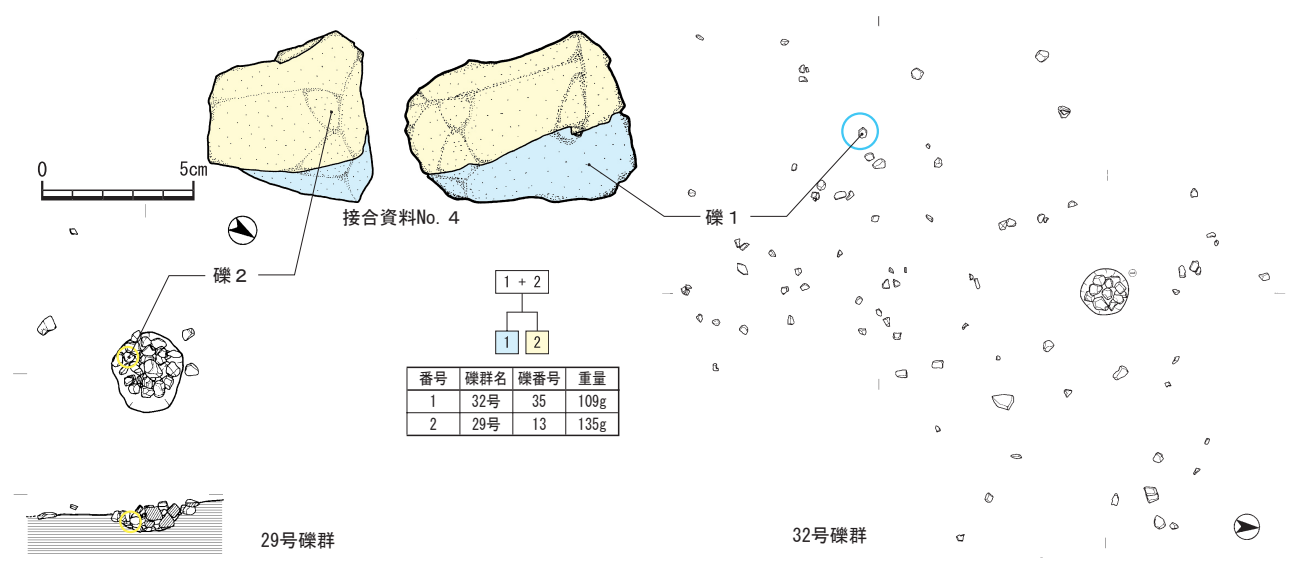
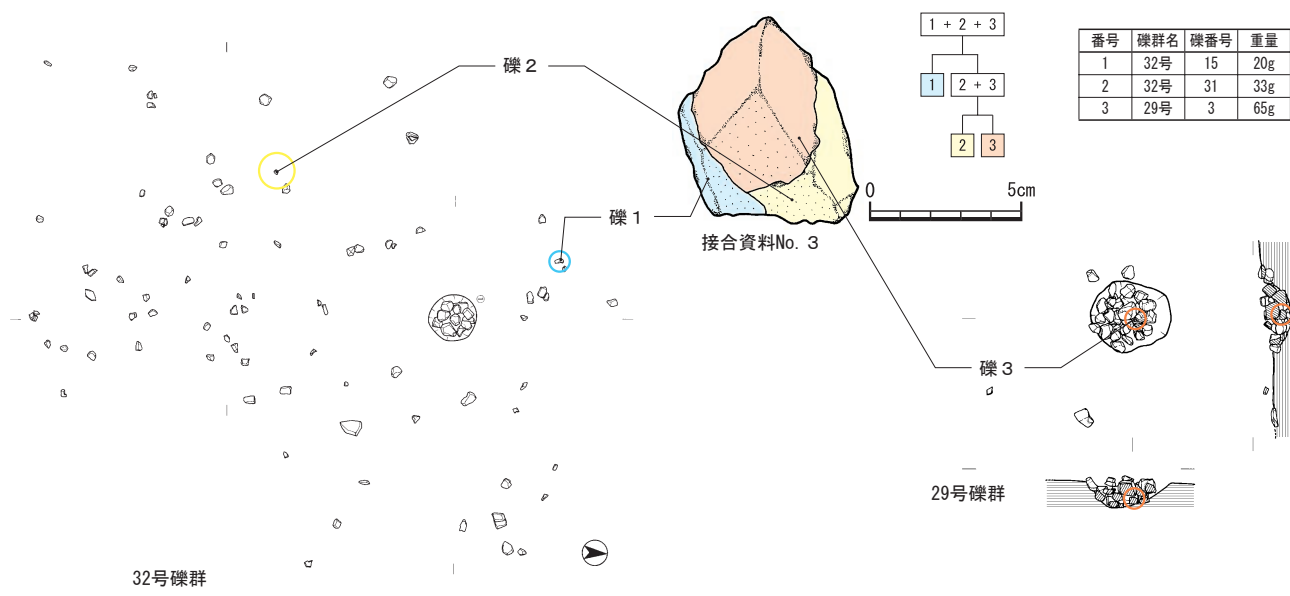
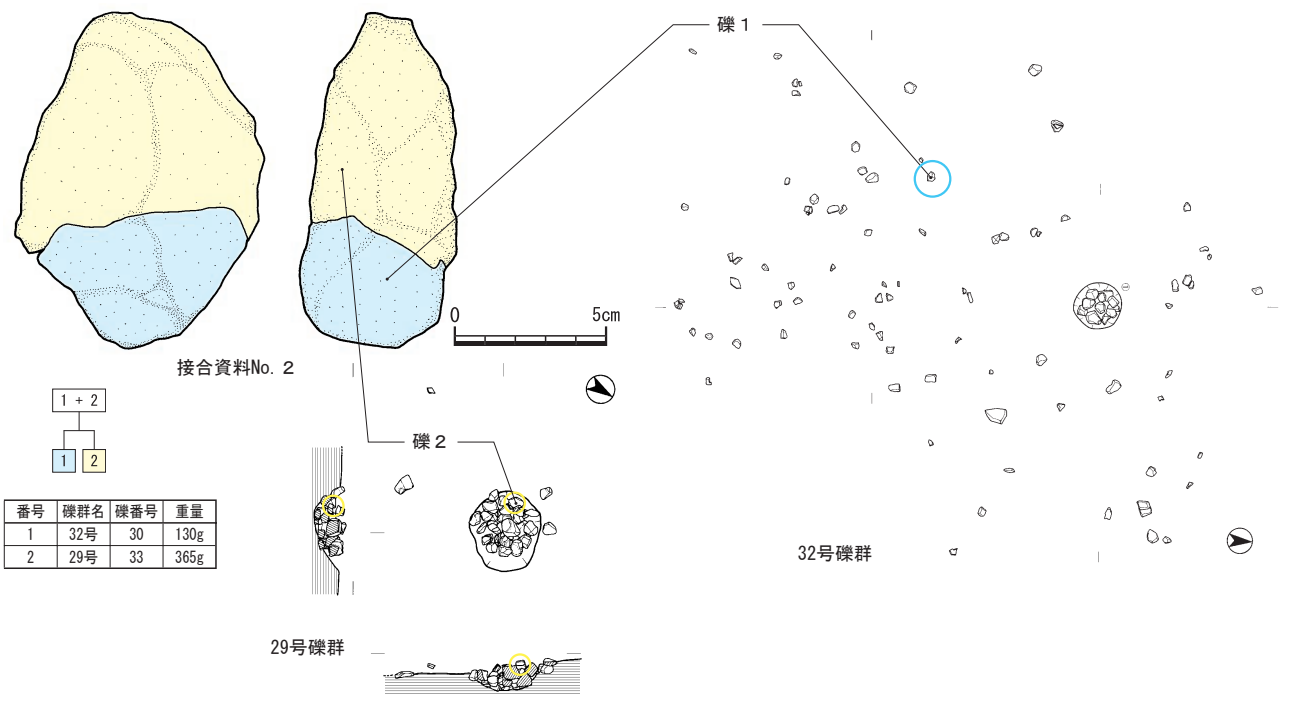
番号	磔群名	磔番号	重量
1	32号	88	35g
2	32号	34	70g
3	29号	24	210g



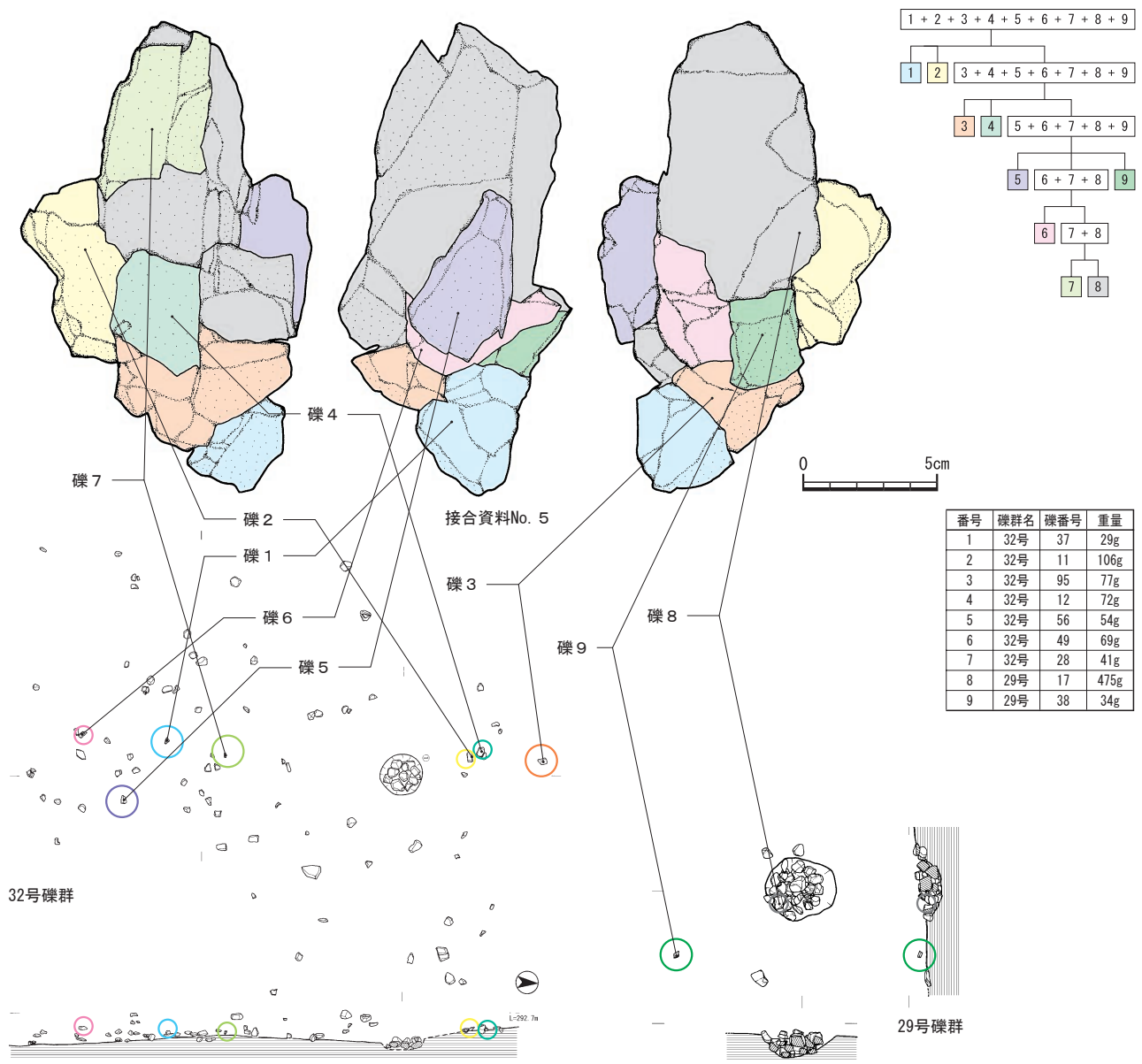
接合資料No. 1



第94図 接合資料No. 1 実測図及び構成磔検出状況図



第95図 接合資料No. 2～No. 4 実測図及び構成碟検出状況図



第96図 接合資料No. 5 実測図及び構成礫検出状況図

(2) 29号・32号・81号礫群間接合資料

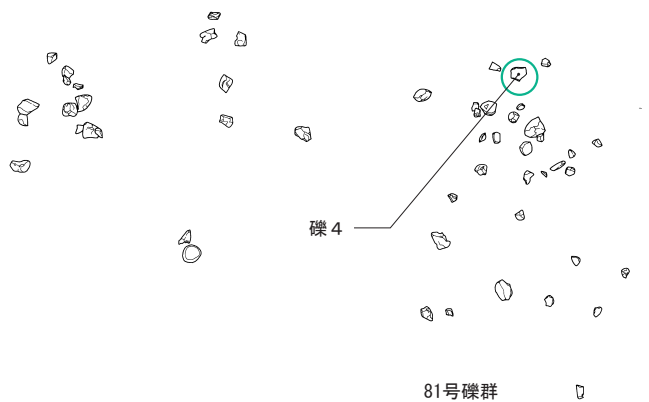
(No. 6, 第97図～第99図)

29号・32号礫群に加え、E-5区の81号礫群間で接合した資料で1点が確認された。石材は頁岩で、接合資料を構成する礫は全て被熱している。また、32号礫群と81号礫群は直線距離で70m弱離れている。

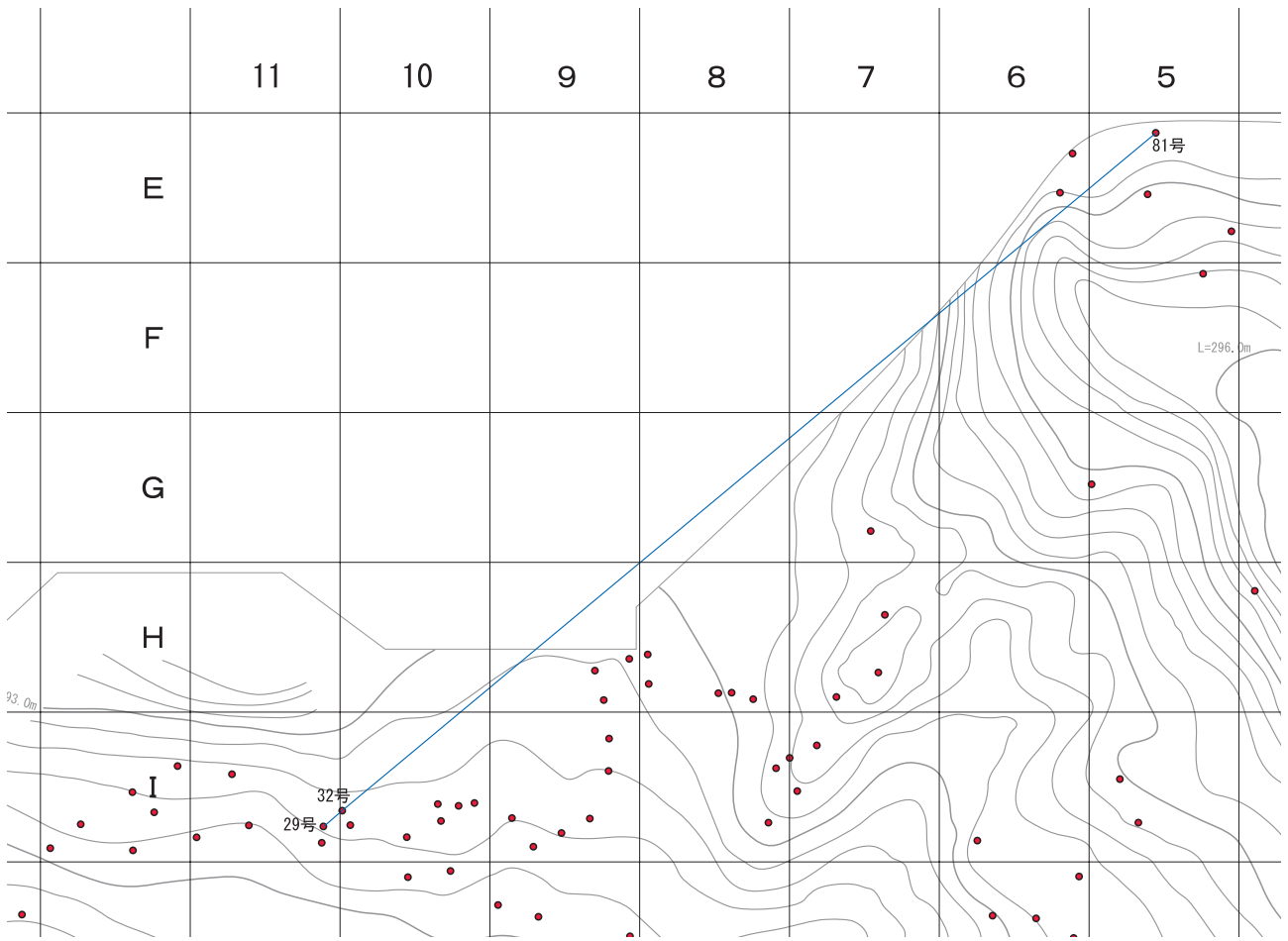
接合資料No. 6 (第97図～第99図)

接合資料No. 6は礫1と礫2が32号礫群から、礫3が29号礫群から、礫4が81号礫群から検出された。細片化順序は、まず礫4が破損し、次に礫1が破損、最後に礫2と礫3が破砕している。礫1と礫2は、32号礫群で礫群の掘り込み遺構の西方向と南方向に、掘り込み遺構を取り巻く散在礫として検出されている。礫3は、29号礫群で接合資料No. 3と同様、礫群の掘り込み遺構内の構成礫として検出されている。礫4は散在しているが、礫集中部の構成礫として検出されている。被熱部を比較してそれぞれの礫を観察してみると、礫1～礫3は黒みがかかった色調が強いのにに対して礫4はやや明

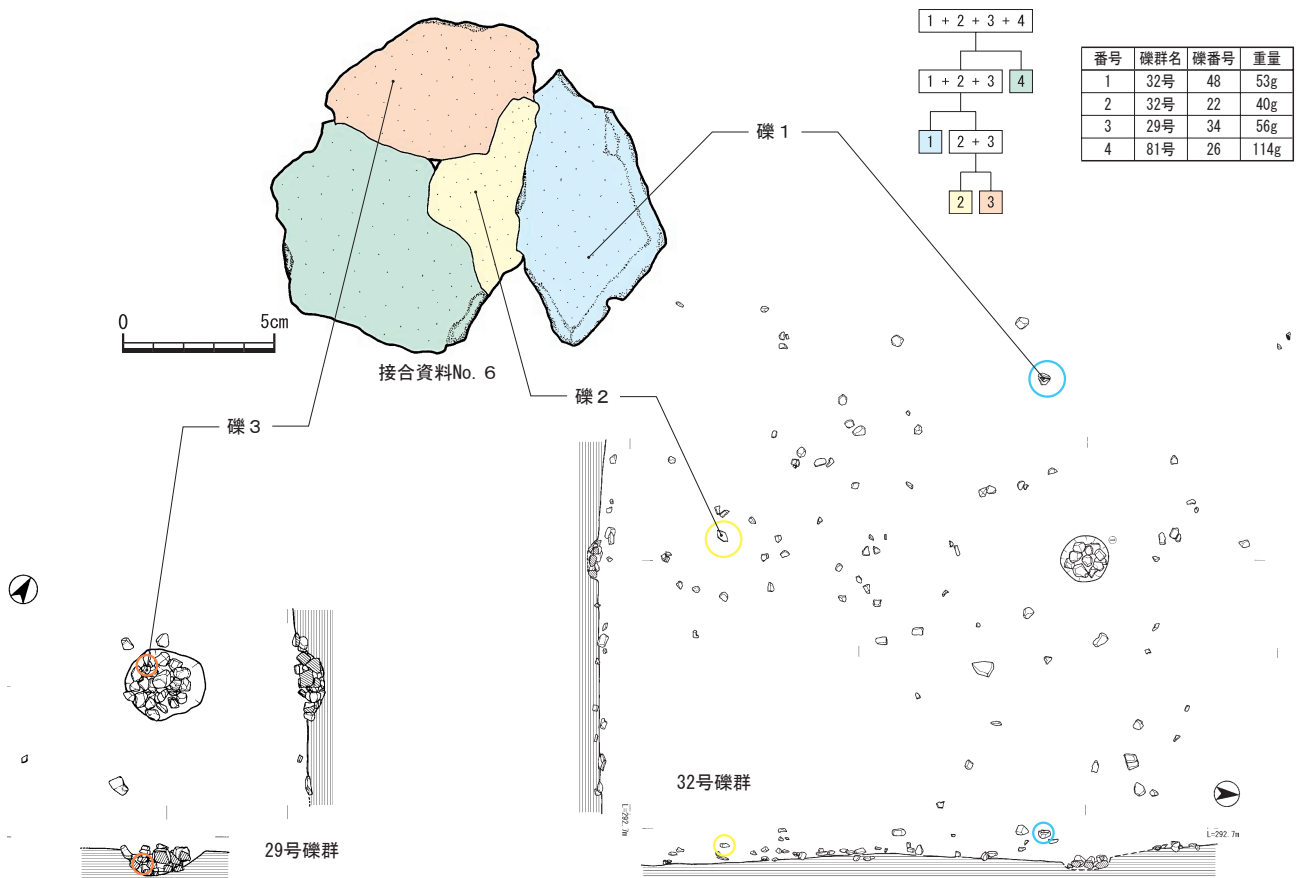
るく赤みがかかった色調であり、繰り返し被熱した可能性がある。礫1～礫3の検出状況は接合資料No. 1～No. 5の状況と共通しており、32号礫群で利用され破砕した礫3を、29号礫群で再利用したと考えられる。ただし、32号礫群と81号礫群の相関については、点数が少ないなど十分な資料が得られていないこともあり確認できなかった。



第97図 接合資料No. 6 構成礫検出状況図 (1)



第98图 29号・32号・81号碟群位置图



第99图 接合資料No. 6 実測図及び構成碟検出状況図 (2)

(3) 32号・33号礫群間接合資料

(No. 7～No. 11, 第100図～第103図)

1-10区の32号礫群と33号礫群間で接合した資料で、5点が確認できた。遺構間は約1mで隣接している。石材は、No. 7～No. 10が砂岩、No. 11が頁岩である。接合資料を構成する礫は全て被熱している。

接合資料No. 7(第101図)

接合資料No. 7は礫1が32号礫群から、礫2と礫3が33号礫群から検出された。礫の細片化順序は、まず礫1が破損したあとに礫2と礫3が破碎している。礫1は、32号礫群の掘り込み遺構を取り巻く散在礫として検出されている。礫2は、33号礫群の掘り込み遺構を取り巻く散在礫として検出されている。礫3は、上部ではあるが掘り込み遺構内の散在礫として、遺構壁にきっちりまはっている状態で検出されている。それぞれの礫を観察してみると表面は全て同じような色調だが、礫1と礫3の接合面において礫3に黒い変色が確認できるのに対し、礫1には変化がみられなかった。なお、礫2と礫3の接合面では色調の変化はみられなかった。

接合資料No. 8(第101図)

接合資料No. 8は礫1と礫2が32号礫群から、礫3が33号礫群から検出された。礫の細片化順序は、まず礫1が破損した後に礫2と礫3が破碎している。礫1は、32号礫群の掘り込み遺構の北方向、礫2は南方向の離れた位置からそれぞれ掘り込み遺構を取り巻く散在礫として検出されている。礫3は、33号礫群で掘り込み遺構の上位から掘り込み遺構内の散在礫として検出されている。いずれの礫も表面及び接合面での被熱による色調は同じで、特に変化はみられなかった。

接合資料No. 9(第102図)

接合資料No. 9は礫1と礫2が32号礫群から、礫3が33号礫群から検出された。礫の細片化順序は、まず礫1が破損した後に礫2と礫3が破碎している。礫1は、32号礫群で掘り込み遺構の西南西方向、礫2は南東方向の離れた位置からそれぞれ掘り込み遺構を取り巻く散在礫として検出されてい

る。礫3は、33号礫群で接合資料No. 7の礫3と同様、上位ではあるが掘り込み遺構内の散在礫として、遺構壁にきっちりまはっている状態で検出されている。接合資料No. 8と同様、いずれの礫も表面及び接合面での被熱による色調は同じで、特に変化はみられなかった。礫1と礫2の接合面がやや摩耗している。

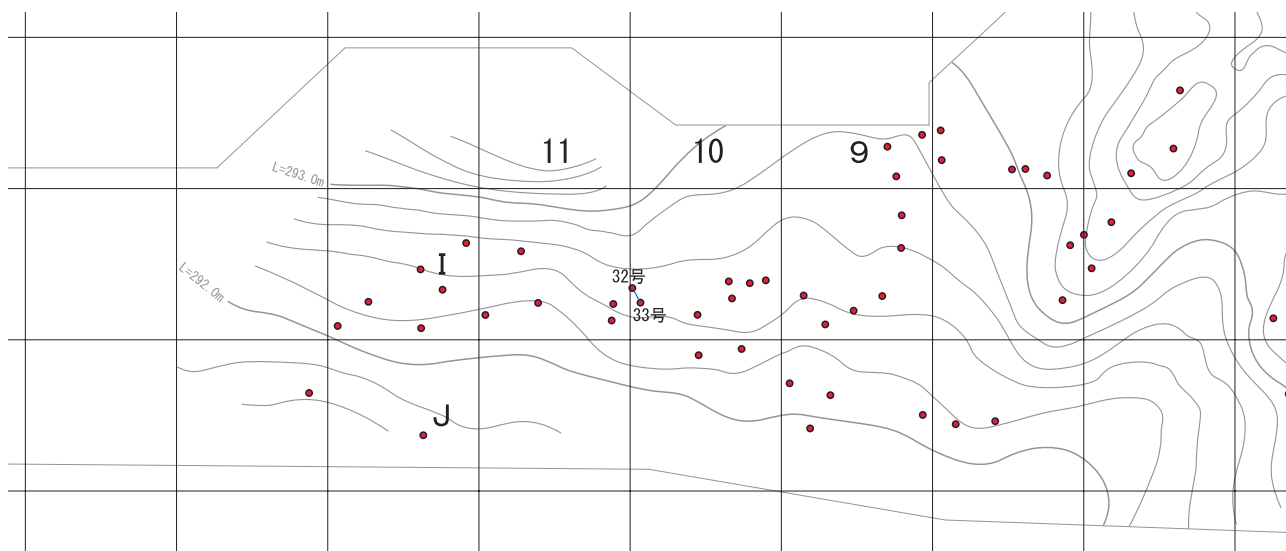
接合資料No. 10(第102図)

接合資料No. 10は礫1が32号礫群から、礫2が33号礫群から検出された。礫1は、32号礫群の掘り込み遺構を取り巻く散在礫として検出されている。礫2は、33号礫群で接合資料No. 9の礫3とほぼ同じ、掘り込み遺構内の散在礫として、遺構壁に近い位置で検出されている。それぞれの礫を観察してみるとどちらも被熱はしているが、礫2は礫1に比べ色調が濃く、礫1との接合面も表面と同じ濃い色調である。

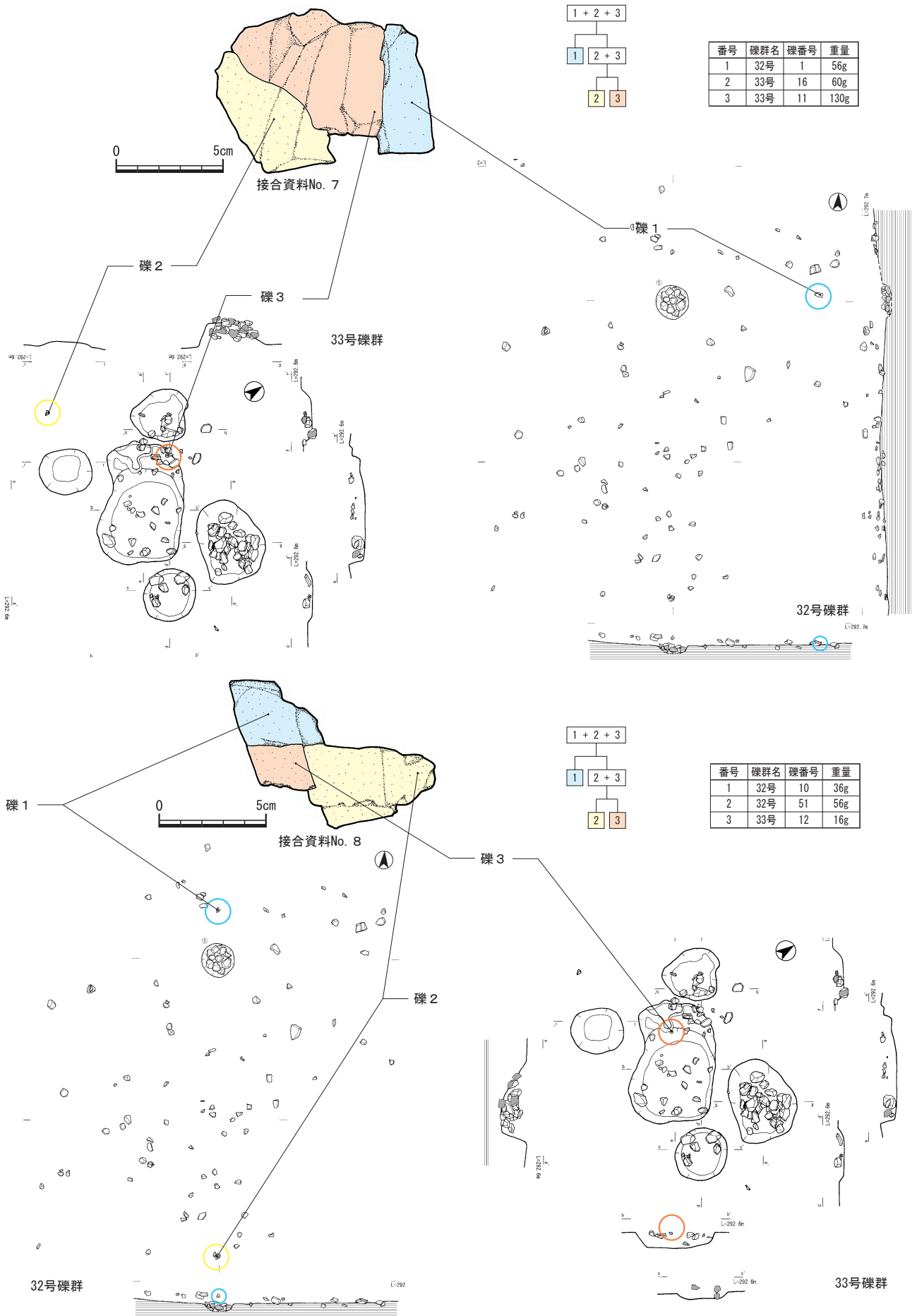
接合資料No. 11(第103図)

接合資料No. 11は礫1が33号礫群から、礫2が32号礫群から検出された。礫1は、33号礫群で掘り込み遺構のほぼ中心且つ上位から、掘り込み遺構内の散在礫として検出されている。礫2は、32号礫群で掘り込み遺構を取り巻く散在礫として検出されている。いずれの礫も表面及び接合面での被熱による色調は同じで、特に変化はみられなかった。礫1の一部はかなり濃い黒色に変色していて、さらに礫2との接合面には変色は見られないものの、接合面の先には黒色の変化がみられる。これらのことから礫1と礫2以外にも全体を構成する礫が存在したと思われ、礫1は礫2と破損する際は別の礫と接合してその後、破碎したものと考えられる。

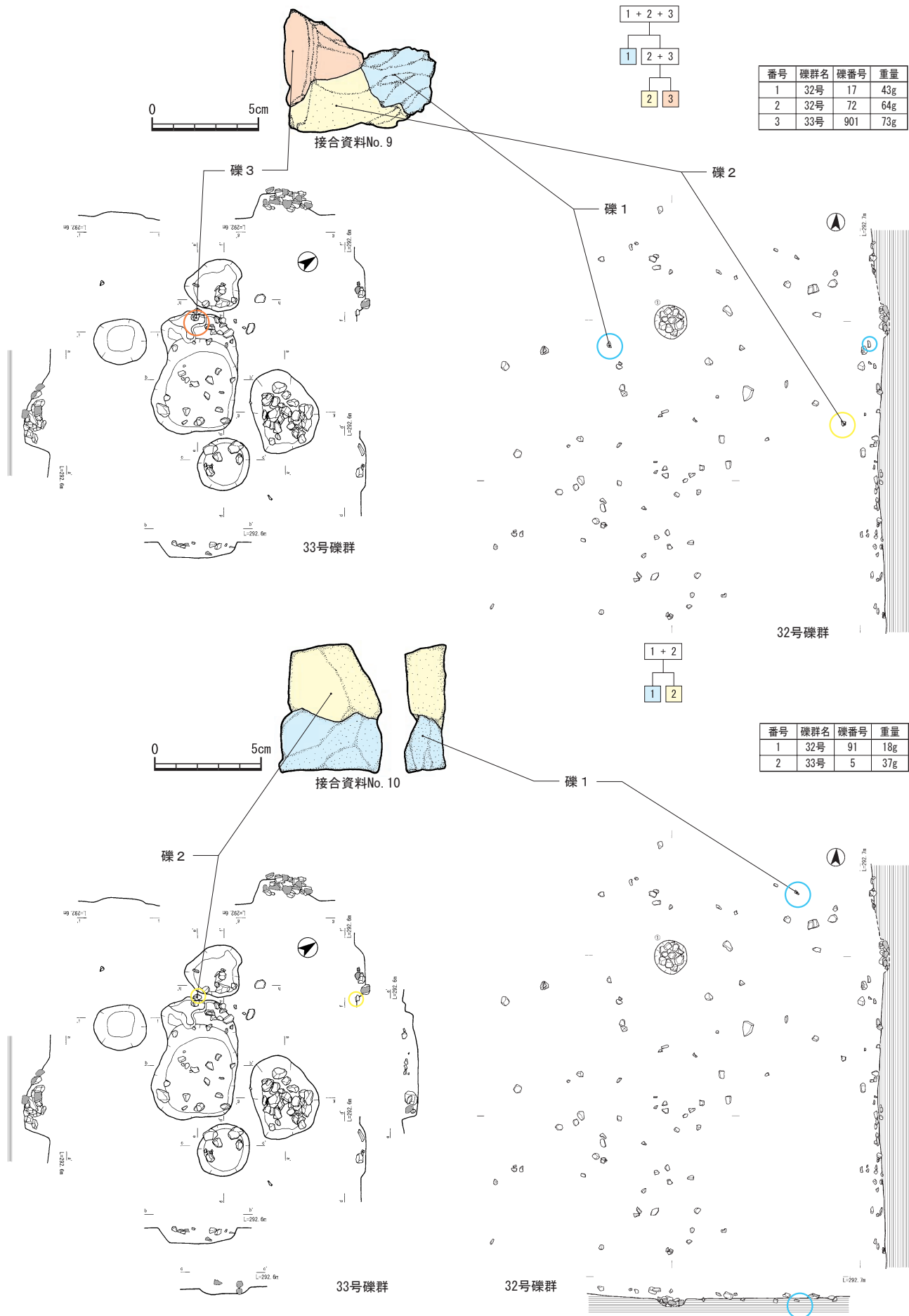
礫接合の判明した5点はいずれも、礫群に伴う散在礫として検出され、検出位置や破損状況に大きな違いが見い出せないことから、礫の接合関係からその先後関係を説明することは困難である。しかし、礫群の検出順位では、32号礫群が上位で検出され、その後下位から33号礫群が検出されていることから、33号礫群が先行したと認定した。



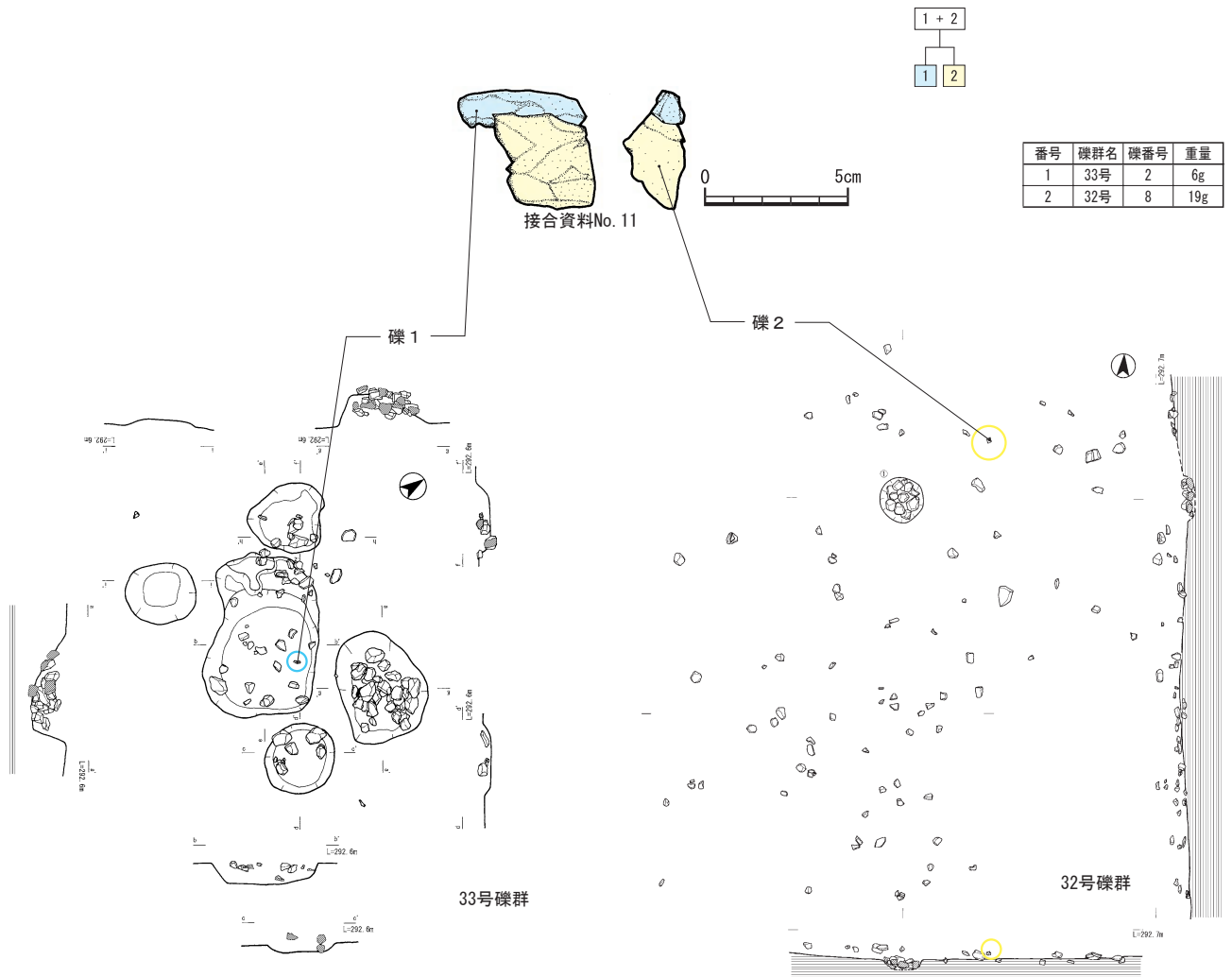
第100図 32号・33号礫群位置図



第101図 接合資料No. 7・No. 8実測図及び構成碟検出状況図



第102図 接合資料No. 9・No. 10実測図及び構成碟検出状況図



第103図 接合資料No. 11実測図及び構成礫検出状況図

3 接合資料第2群(第104図～第123図)

(1) 23号・25号礫群間接合資料

(No. 12・No. 13, 第105図・第106図)

耳取遺跡のほぼ中央部であるI-11区の25号礫群とI-12区の23号礫群間で接合した資料で、2点が確認できた。遺構間は約4m離れている。石材は2点とも砂岩で、接合資料を構成する礫は全て被熱している。

接合資料No. 12(第105図)

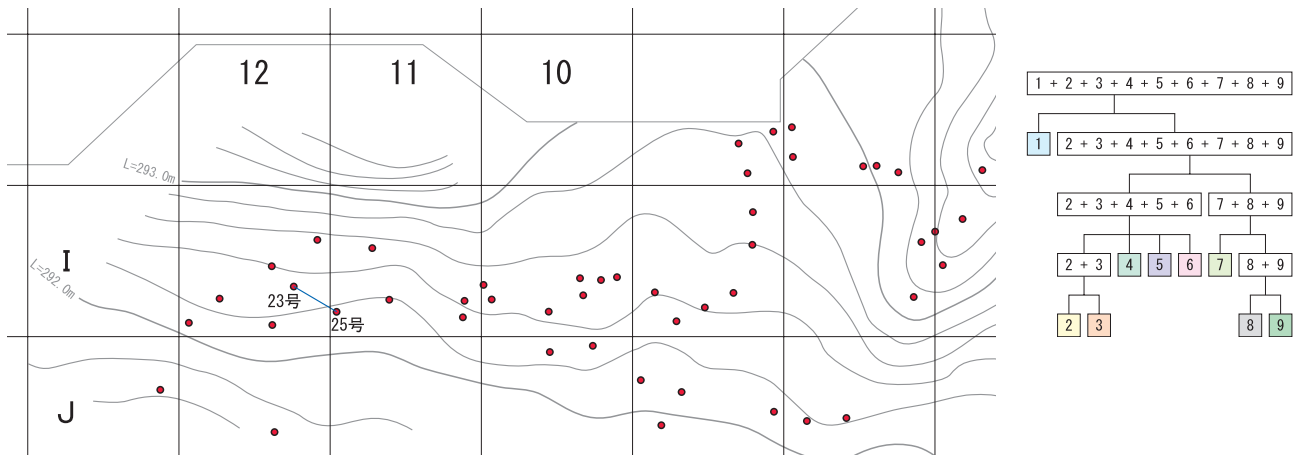
接合資料No. 12は9つの礫が接合できた資料であるが、そのうち礫1・礫4・礫6・礫7の4つが23号礫群から、礫2・礫3・礫5・礫8・礫9の5つが25号礫群から検出された。礫1・礫6は、23号礫群の遺構を取り巻く散在礫として、礫4・礫7は、小礫群の構成礫として検出されている。礫2・礫3・礫5・礫8は、25号礫群の周辺に近い位置に、礫9は、礫の集まりに近い位置に、それぞれ遺構を取り巻く散在礫として検出された。ただし、礫2・礫3・礫5・礫8はまとまっている。礫の細片化順序は、第105図に記載してある樹系図の通りであるが、礫1・礫4・礫5・礫7・礫9の破碎面にはさらに全体を形成する接合礫が存在したと思われる。また、礫1・礫3・礫4・礫7・礫9は接合面も表面と同様の色調であることから、破碎後に再度被熱したものと

考えられる。

接合資料No. 13(第106図)

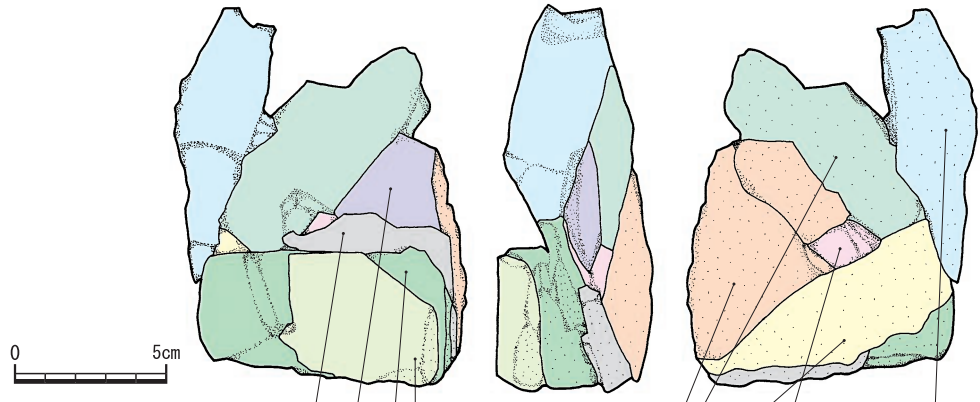
接合資料No. 13は礫1が23号礫群から、礫2が25号礫群から検出された。礫1は、23号礫群で小礫群の構成礫として検出されている。礫2は、25号礫群で遺構を取り巻く散在礫として検出されていて、接合資料No. 12の礫のまとまりからも離れている。接合資料No. 13も接合資料No. 12と同様に、接合面とは異なる破碎面にはさらに全体を形成する接合礫が存在すると思われる。また、それぞれの接合面も被熱しており、その色調が礫1と礫2では異なることから、破碎後にそれぞれの礫が再度被熱したものと考えられる。

これら2点の接合資料のうち、礫1は小礫群の構成礫として、礫2は集中が見られる位置から検出されるが、礫群を構成する礫の多くが全体的に散在している。また、いずれの接合資料も接合面以外の破碎面からさらに全体を構成する接合礫が存在すると思われる。さらに、接合資料を構成する礫によっては、破碎後さらに被熱した可能性もある。このことから礫の再利用の可能性については十分考えられるが、23号・25号礫群間の礫の移動方向や礫群の構成順序については確認できなかった。

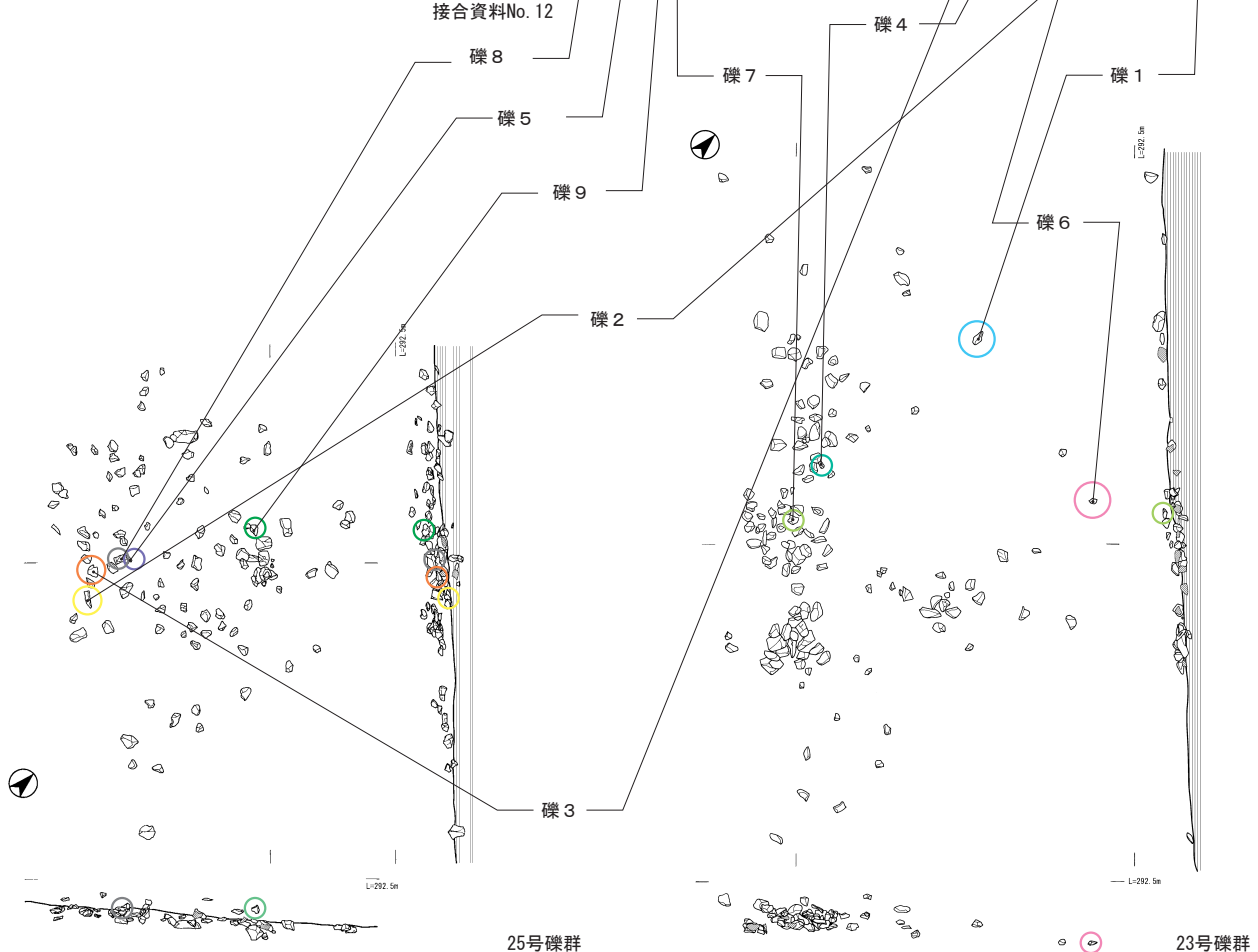


第104図 23号・25号碟群位置図

番号	碟群名	碟番号	重量
1	23号	99	109g
2	25号	106	40g
3	25号	57	47g
4	23号	116	78g
5	25号	102	13g
6	23号	97	22g
7	23号	70	32g
8	25号	55	60g
9	25号	42	103g



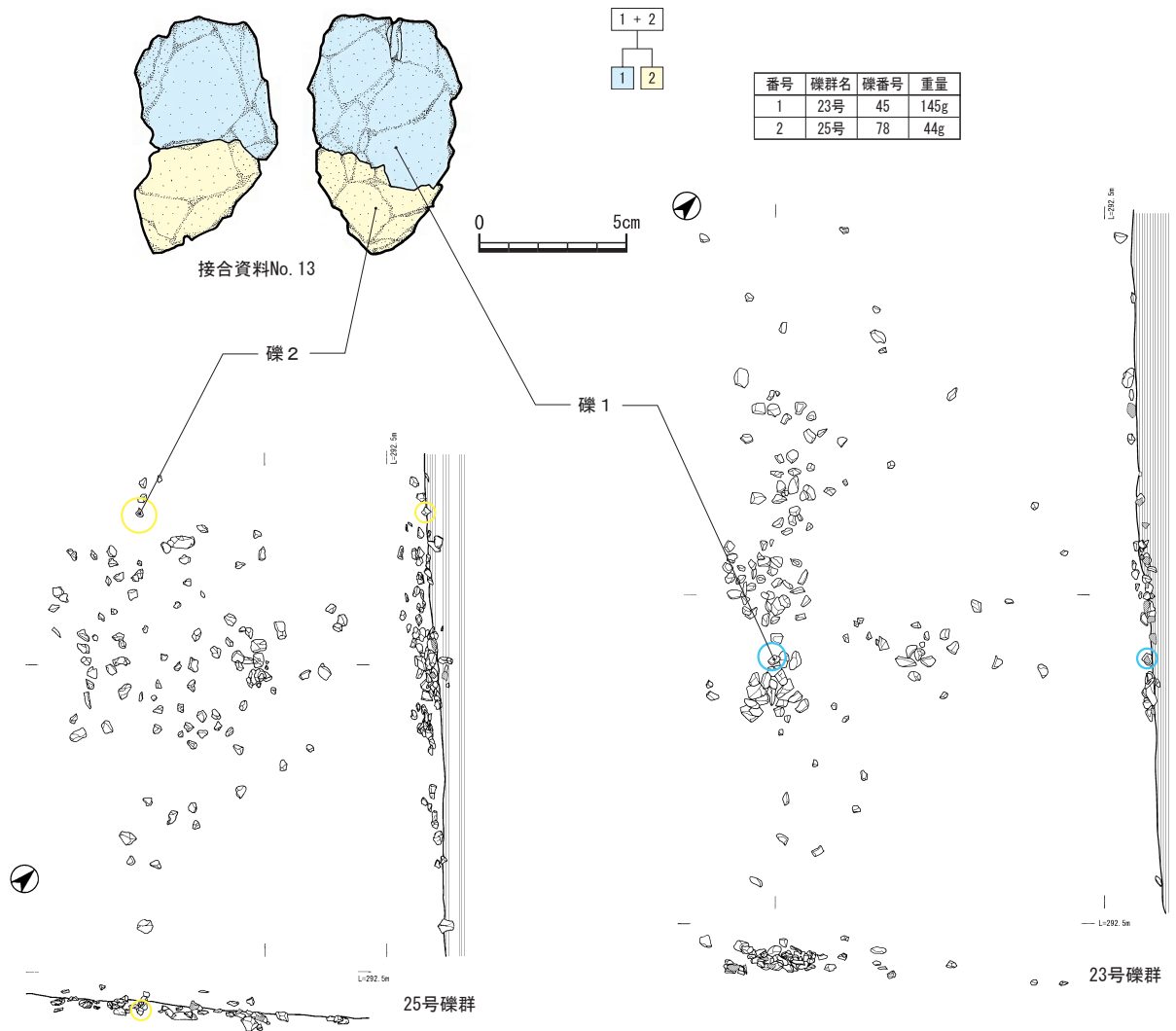
接合資料No. 12



25号碟群

23号碟群

第105図 接合資料No. 12 実測図及び構成碟検出状況図



第106図 接合資料No. 13実測図及び構成礫検出状況図

(2) 22号・23号礫群間接合資料

(No. 14～No. 16, 第107図～第109図)

1-12区の22号礫群と23号礫群間で接合した資料で、3点が確認できた。遺構間は約2m離れている。石材は、No. 14が輝石安山岩、No. 15・No. 16が砂岩である。接合資料を構成する礫は全て被熱している。

接合資料No. 14(第107図)

接合資料No. 14は礫1が23号礫群から、礫2～礫4が22号礫群から検出された。礫の細片化順序は、まず、礫1が破損した後に礫2が破損し、最後に礫3と礫4が破碎している。礫1は、23号礫群で遺構を取り巻く散在礫として検出されている。礫2・礫3・礫4は、22号礫群で遺構を取り巻く散在礫としてまとまった状態で検出されている。全体を観察すると、礫2・礫3の接合面以外の破損面とさらに接合して全体を形成する接合礫が存在すると思われる。礫の表面と接合面の色調の変化は特にみられない。

接合資料No. 15(第107図)

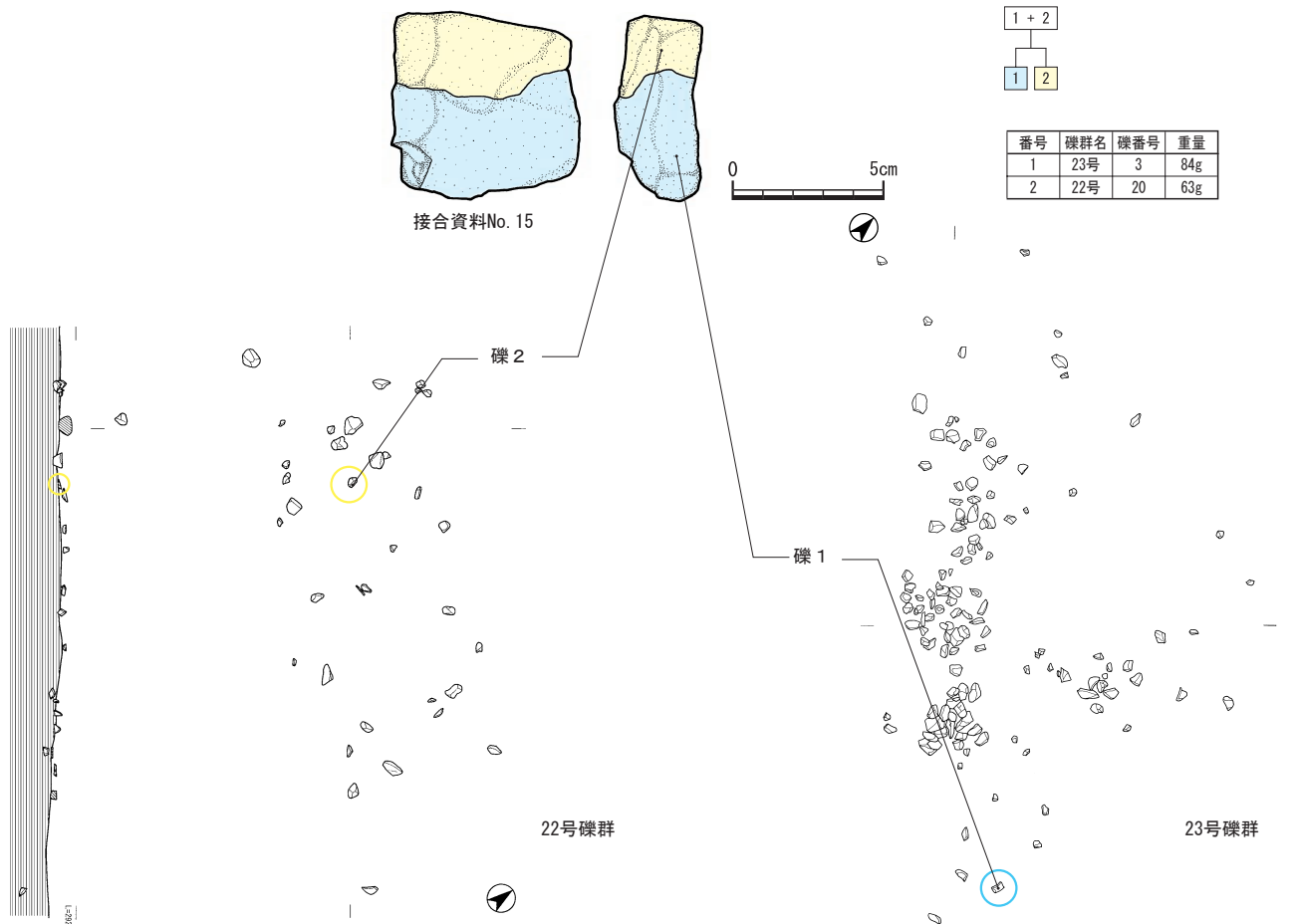
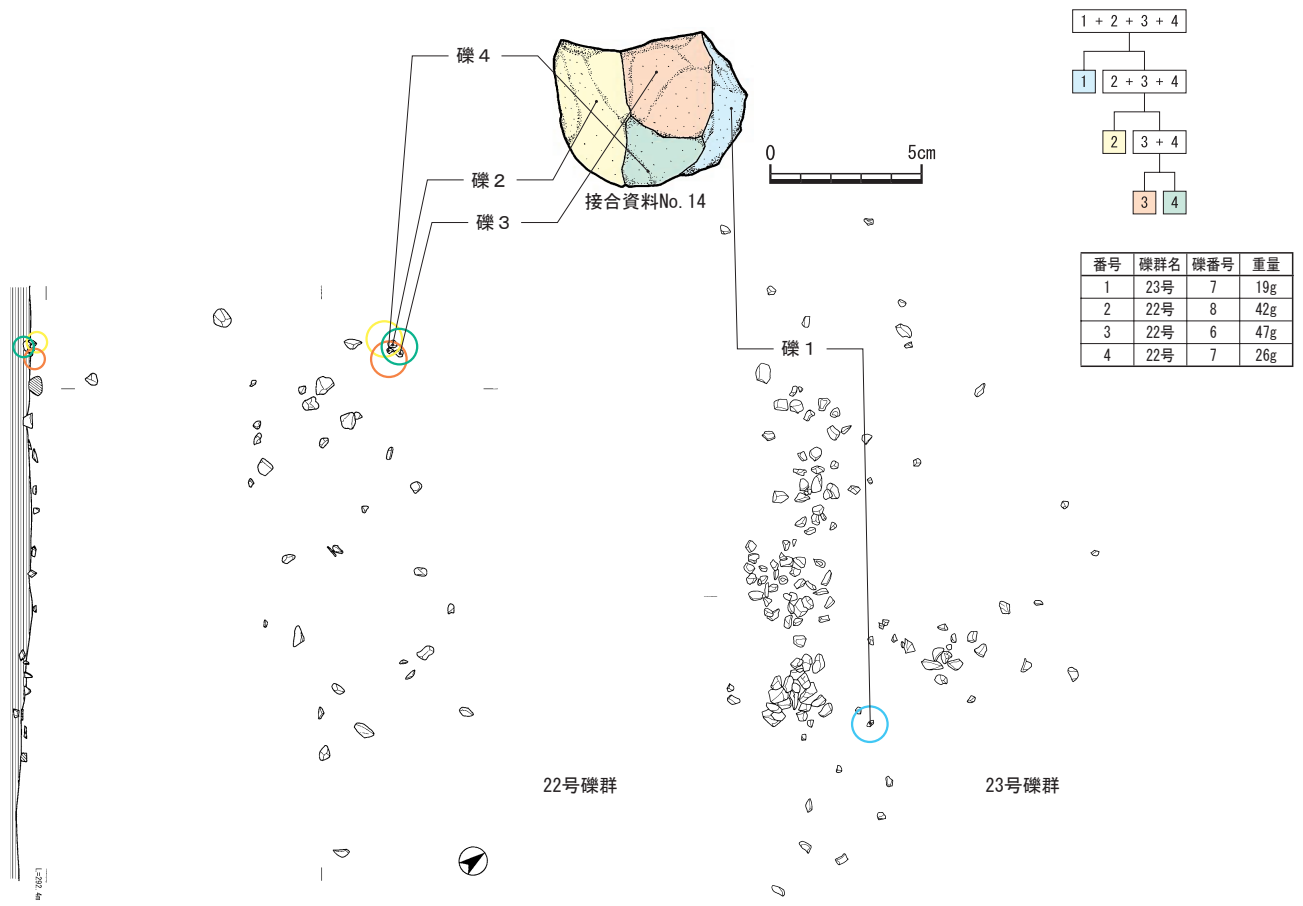
接合資料No. 15は礫1が23号礫群から、礫2が22号礫群から検出された。礫1は、23号礫群で遺構を取り巻く散在礫として検出されている。礫2は、22号礫群で遺構を取り巻く散

在礫として検出されている。接合資料No. 14と同様、接合資料No. 15も礫1・礫2の接合面以外の破損面には、さらに接合して全体を形成する礫が存在すると思われる。色調は、礫の表面と接合面ともに礫1の方が赤みがかった。

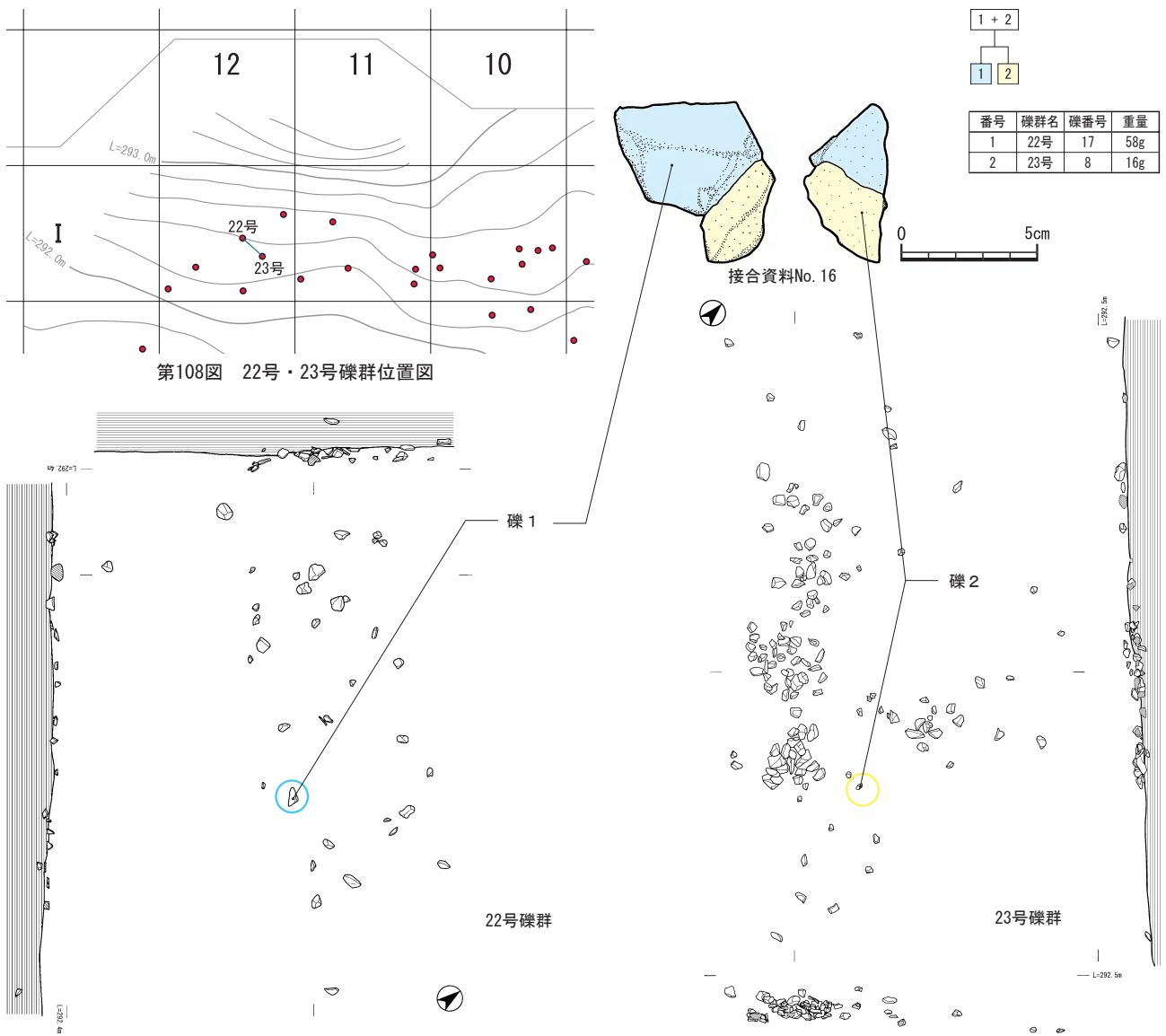
接合資料No. 16(第109図)

接合資料No. 16は礫1が22号礫群から、礫2が23号礫群から検出された。礫1は、22号礫群の礫集中部から少し離れた位置に遺構を取り巻く散在礫として検出されている。礫2は、23号礫群の周辺部から遺構を取り巻く散在礫として検出されている。接合資料No. 14・No. 15と同様、接合資料No. 16も、礫1・礫2の接合面以外の破損面にさらに接合して、全体を形成する礫が存在すると思われる。礫の表面と接合面の色調の変化はみられない。

これら3点の接合資料は、いずれも4～5cm大の礫で、接合面以外の破損面から、さらに全体礫を構成する接合礫の存在が予測される。検出状況も礫が全体的に飛散した状態である。また、接合資料を構成する礫によっては破碎後、更に被熱したと思われるものもあるので、礫の再利用の可能性は十分考えられるが礫の移動については確認できなかった。



第107図 接合資料No. 14・No. 15実測図及び構成碟検出状況図



第108図 22号・23号碟群位置図

第109図 接合資料No. 16実測図及び構成碟検出状況図

(3) 21号・25号碟群間接合資料

(No. 17・No. 18, 第110図・第111図)

接合資料No. 17とNo. 18は、23号碟群から検出した碟から構成されたものではないが、23号・25号碟群間接合資料と同じ区の碟群間において接合したことから碟の移動についての資料になると判断し第2群に分類した。確認できた資料は2点、I-11区の25号碟群とI-12区の21号碟群間で接合し、遺構間は約4m離れている。石材はNo. 17が砂岩、No. 18が頁岩で、接合資料を構成する碟は全て被熱している。

接合資料No. 17(第111図)

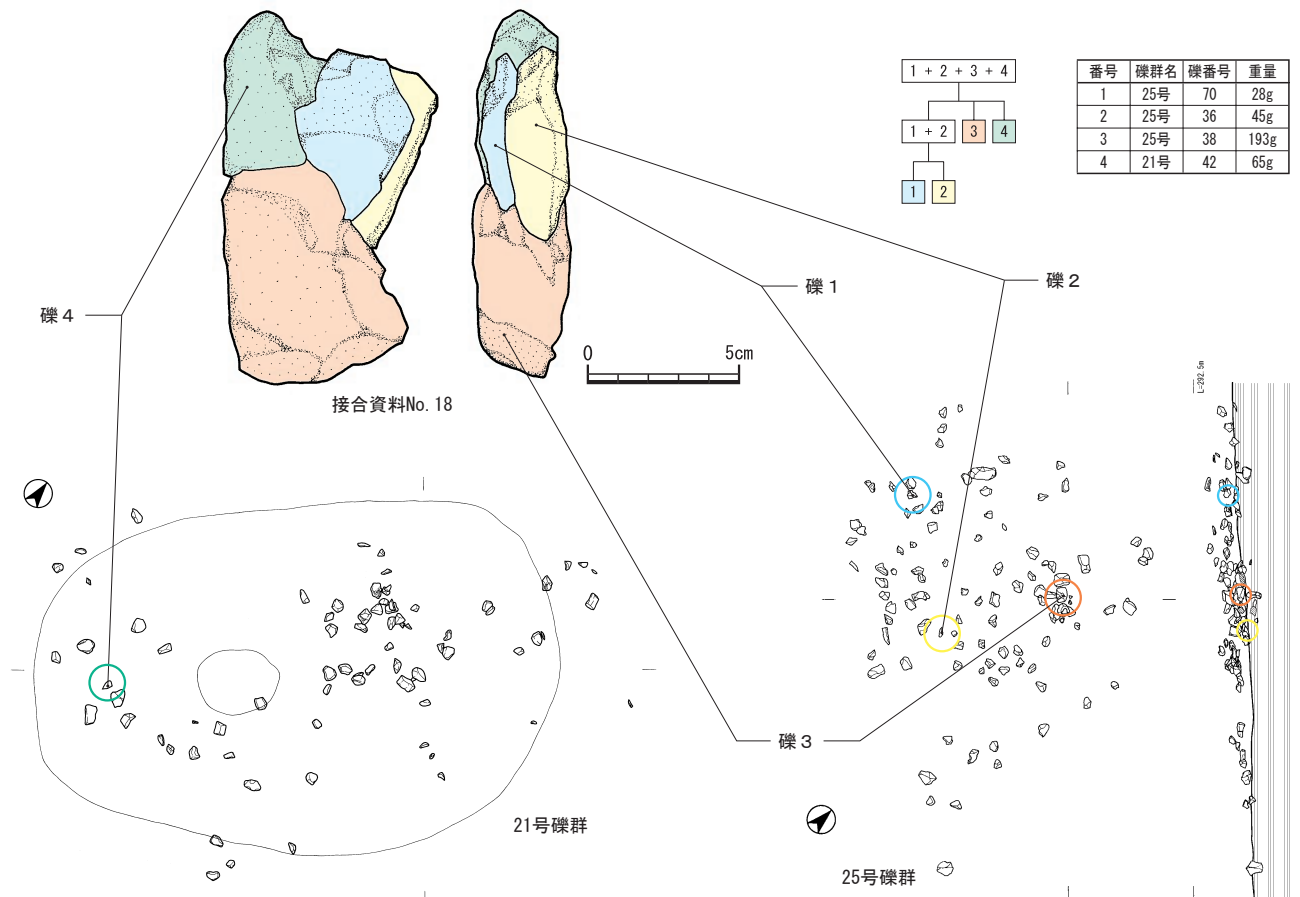
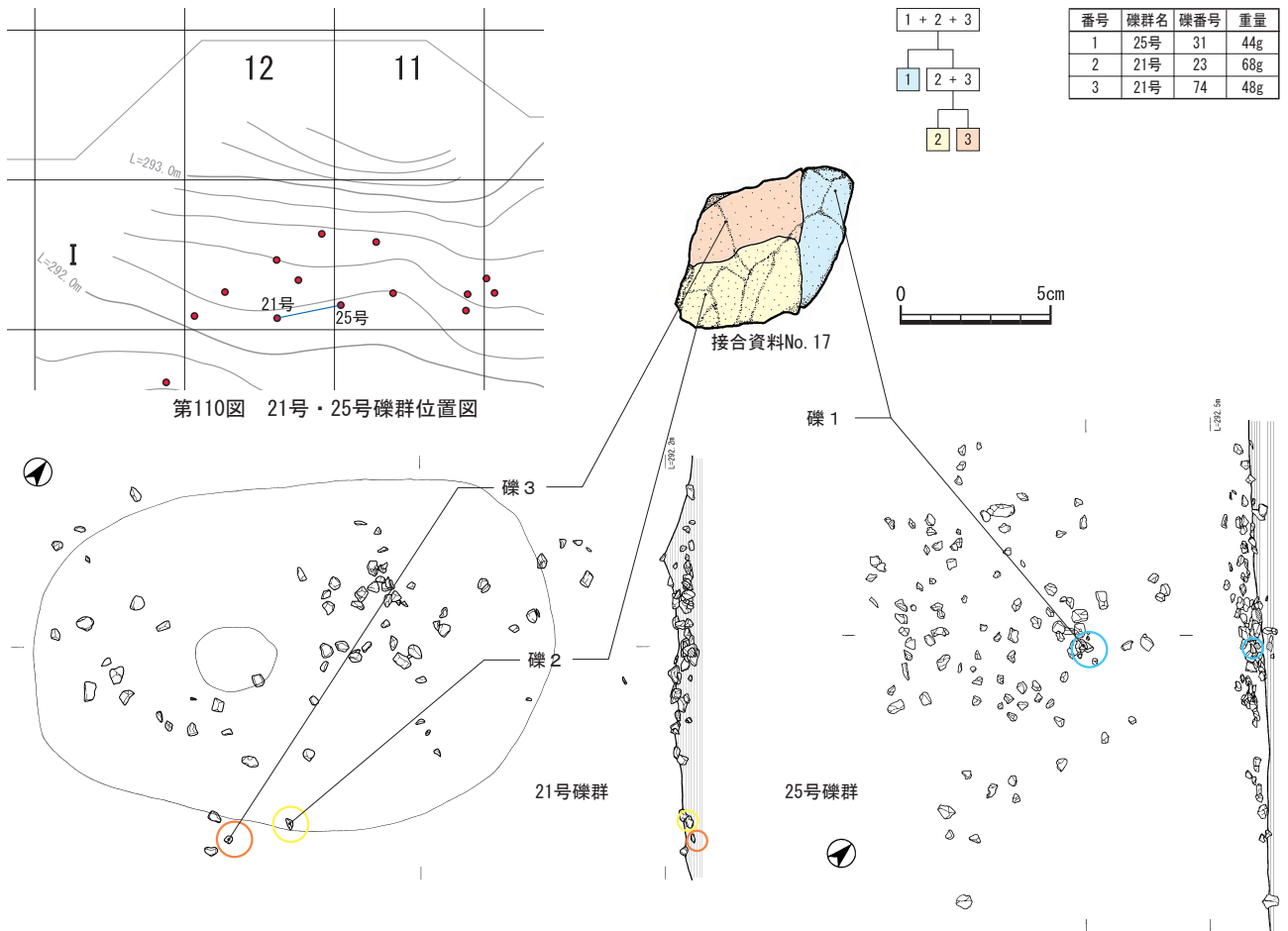
接合資料No. 17は碟1が25号碟群から、碟2と碟3が21号碟群から検出された。碟の細片化順序は、まず碟1が破損した後に碟2と碟3が破砕している。碟1は、25号碟群で遺構の碟集中部に散在碟として検出されている。碟2・碟3は、21号碟群で共に遺構の散在碟として検出されている。碟1～碟3の接合面以外の破損面には、更に接合し全体を形成する碟が存在すると思われる。碟の表面と接合面の被熱に伴う色

調については特に変化はみられない。

接合資料No. 18(第111図)

接合資料No. 18は碟4が21号碟群から、碟1～碟3が25号碟群から検出された。碟の細片化順序は、まず碟3と碟4が破損し、次に碟1と碟2が破砕している。碟4は、21号碟群で遺構の散在碟として検出されている。碟1・碟2は、25号碟群で共に遺構の散在碟として検出されているが、碟3は接合資料No. 17の碟1と同様、碟群の碟集中部に散在碟として検出されている。碟1～碟3の接合面以外の破損面には、更に接合し全体を形成する碟が存在すると思われる。碟の表面と接合面は、あまり強く被熱していないと思われ、色調の変化も特にみられない。

これら2点の接合資料から共通していることは、いずれも破砕した碟が25号碟群の碟集中部から検出されている点である。特に、どちらの接合資料でも碟集中部にきっちりまっている状態で検出されていることから、21号碟群で利用した碟を25号碟群で再利用したと考えられる。



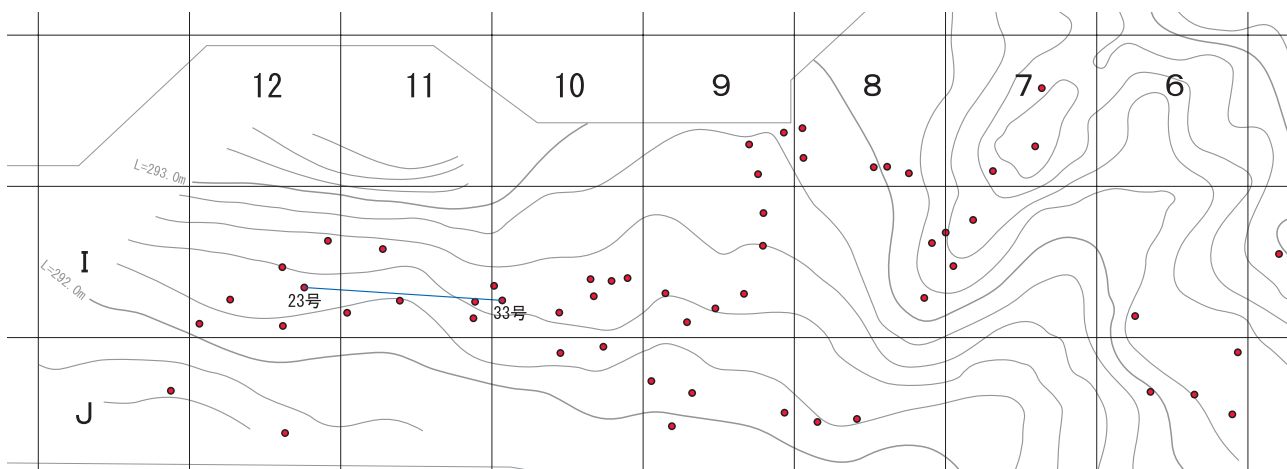
(4) 23号・33号礫群間接合資料(No. 19, 第112図・第113図)
 I-10区の33号礫群とI-12区の23号礫群間で接合した資料で、1点が確認できた。遺構間は約14m離れている。石材は輝石安山岩である。接合資料を構成する礫は全て被熱している。

接合資料No. 19(第113図)

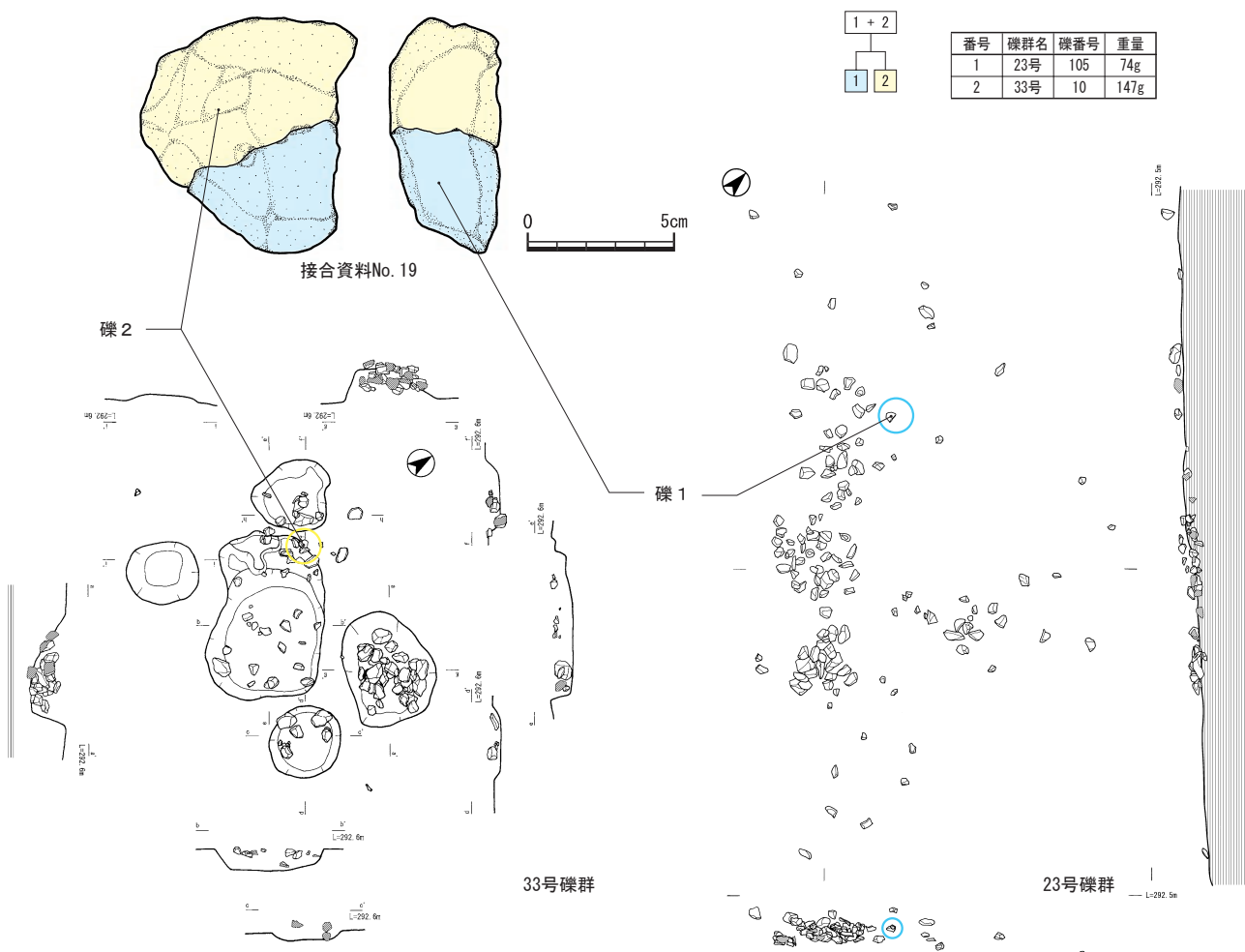
接合資料No. 19は礫1が23号礫群から、礫2が33号礫群から検出された。礫1は、23号礫群の遺構を取り巻く散在礫として検出されている。礫2は、33号礫群で上位ではあるが掘

り込み遺構内の散在礫として、遺構壁に近い位置で検出されている。接合資料の接合面以外の破損面には、更に接合し全体を形成する礫が存在すると思われる。色調は、表面・接合面共に礫2の方が黒みが濃く赤みがかったところもみられるが、再被熱による変色かどうかは確認できなかった。

接合資料は1点ではあるが、No. 19の礫2が接合資料No. 7～No. 11の33号礫群から検出された礫とほぼ同じ位置に検出されたことから、23号礫群で利用した礫を33号礫群で再利用したものと考えられる。



第112図 23号・33号礫群位置図



第113図 接合資料No. 19実測図及び構成礫検出状況図

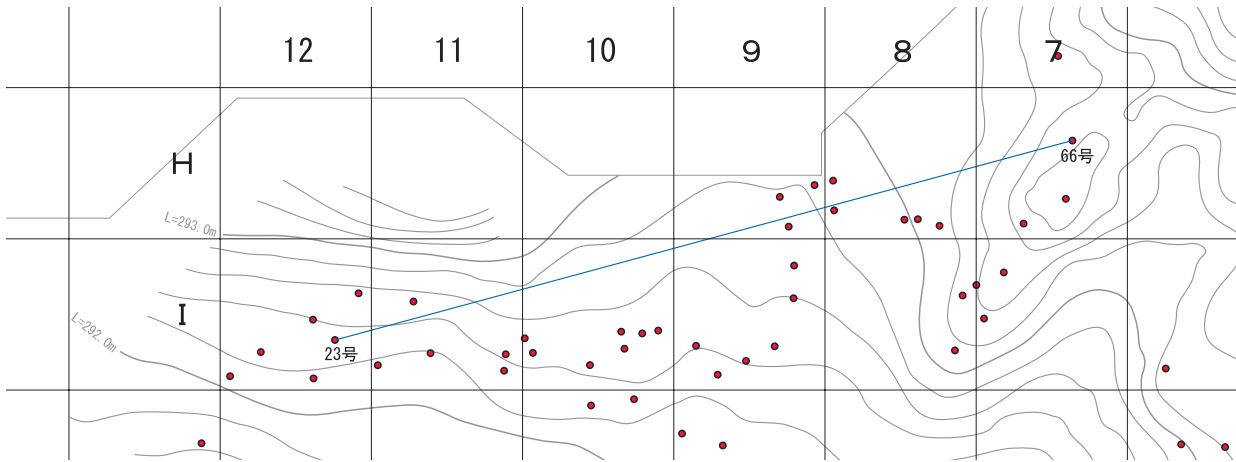
(5) 23号・66号礫群間接合資料(No. 20, 第114図・第115図)
I-12区の23号礫群とH-7区の66号礫群間で接合した資料で、1点が確認できた。遺構間は約50m離れている。石材は砂岩である。接合資料を構成する礫は全て被熱している。

接合資料No. 20(第115図)

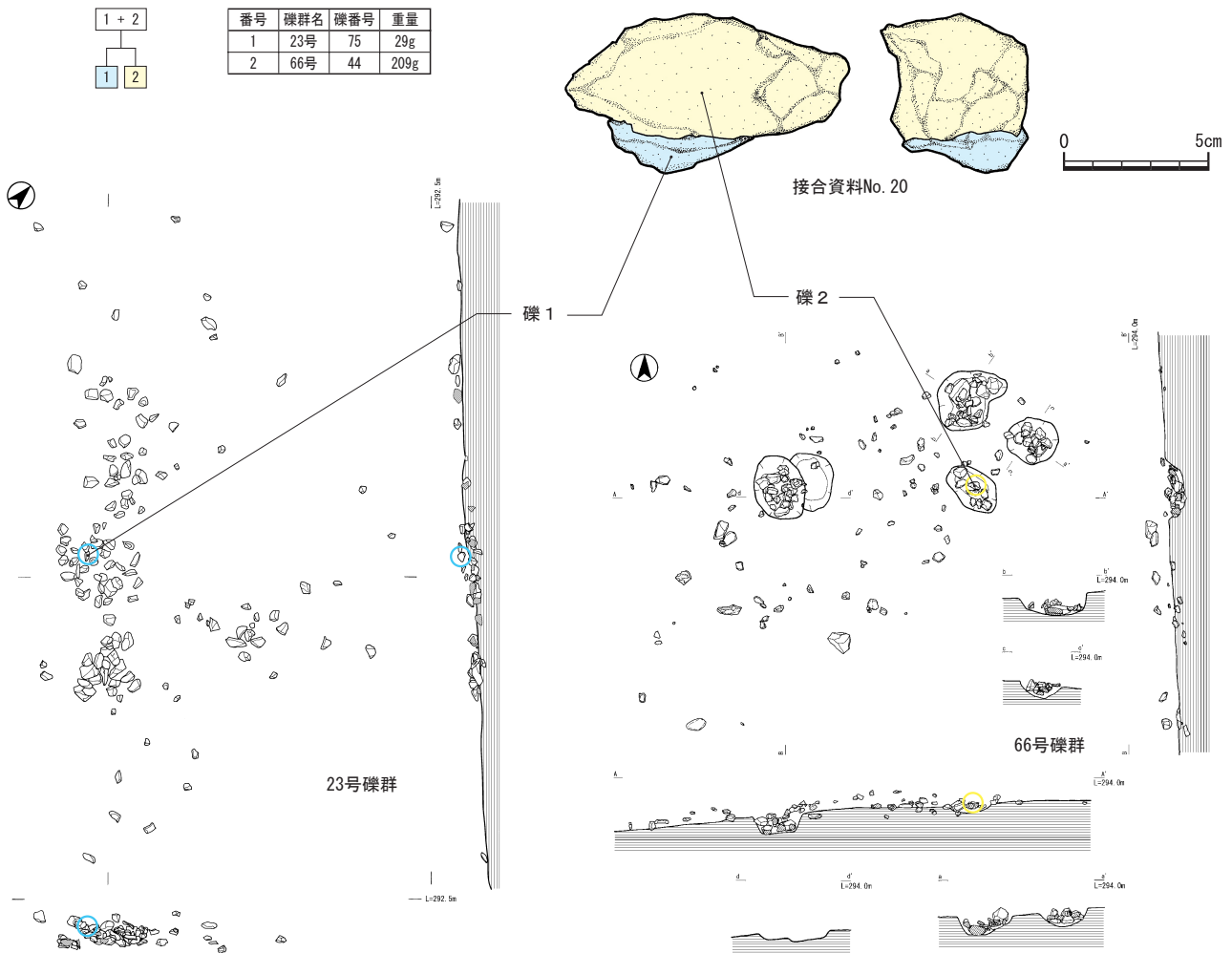
接合資料No. 20は礫1が23号礫群から、礫2が66号礫群から検出された。礫1は、23号礫群の中心に近い小礫群の上部から遺構を取り巻く散在礫として検出されている。礫2は、

66号礫群の掘り込み遺構中央の下位から、掘り込み遺構内の構成礫として検出されている。この接合資料に更に接合する礫の存在については不明である。接合面と表面の色調についても特に変化はみられない。

礫1は薄く剥離した小片で、礫2の重量は接合資料全体の9割近くを占める。また、礫2が掘り込み遺構下部から検出されていることから、23号礫群で利用され破砕した礫2を66号礫群で再利用したと考えられる。



第114図 23号・66号礫群位置図



第115図 接合資料No. 20実測図及び構成礫検出状況図

(6) 23号・64号・66号礫群間接合資料

(No. 21, 第116図～第118図)

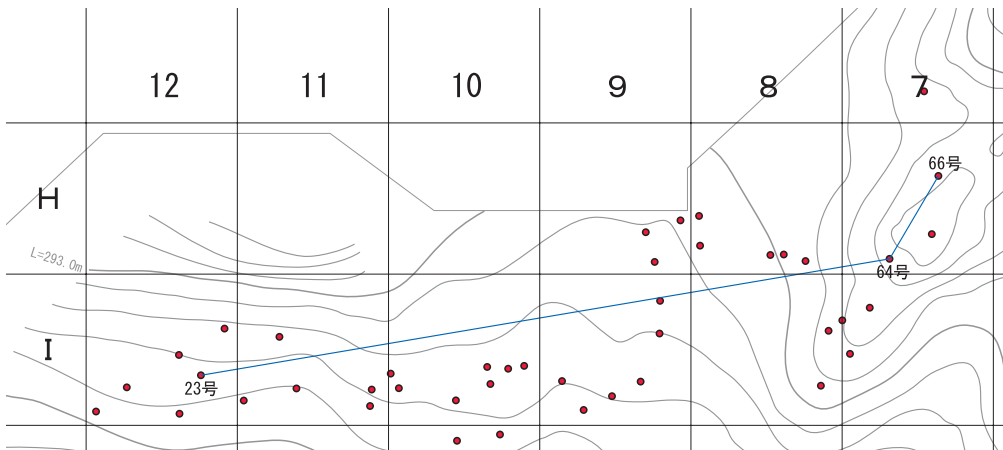
I-12区の23号礫群とH-7区の64号礫群・66号礫群間で接合した資料で、1点が確認できた。64号礫群・66号礫群との遺構間は約6m離れている。石材は砂岩である。接合資料を構成する礫は全て被熱している。

接合資料No. 21(第117図・第118図)

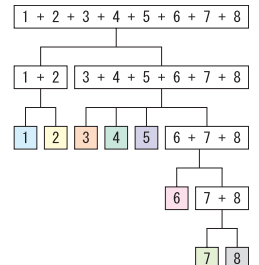
接合資料No. 21は礫2・礫3が23号礫群から、礫5が64号礫群から、礫1・礫4・礫6～礫8が66号礫群から検出された。礫2・礫3は、23号礫群の礫集中部から少し離れた位置から遺構を取り巻く散在礫として検出されている。礫5は、64号礫群の周辺部から遺構を取り巻く散在礫として検出され

ている。礫4は、66号礫群の掘り込み遺構を取り巻く散在礫として検出されているが、礫1・礫6～礫8は、いずれも掘り込み遺構内の構成礫として検出されている。礫1・礫2・礫7・礫8の接合面以外の破損面からは、更に接合し全体を形成する礫が存在すると思われる。接合資料は全体的によく被熱しており、接合面での色調の差はあまりない。

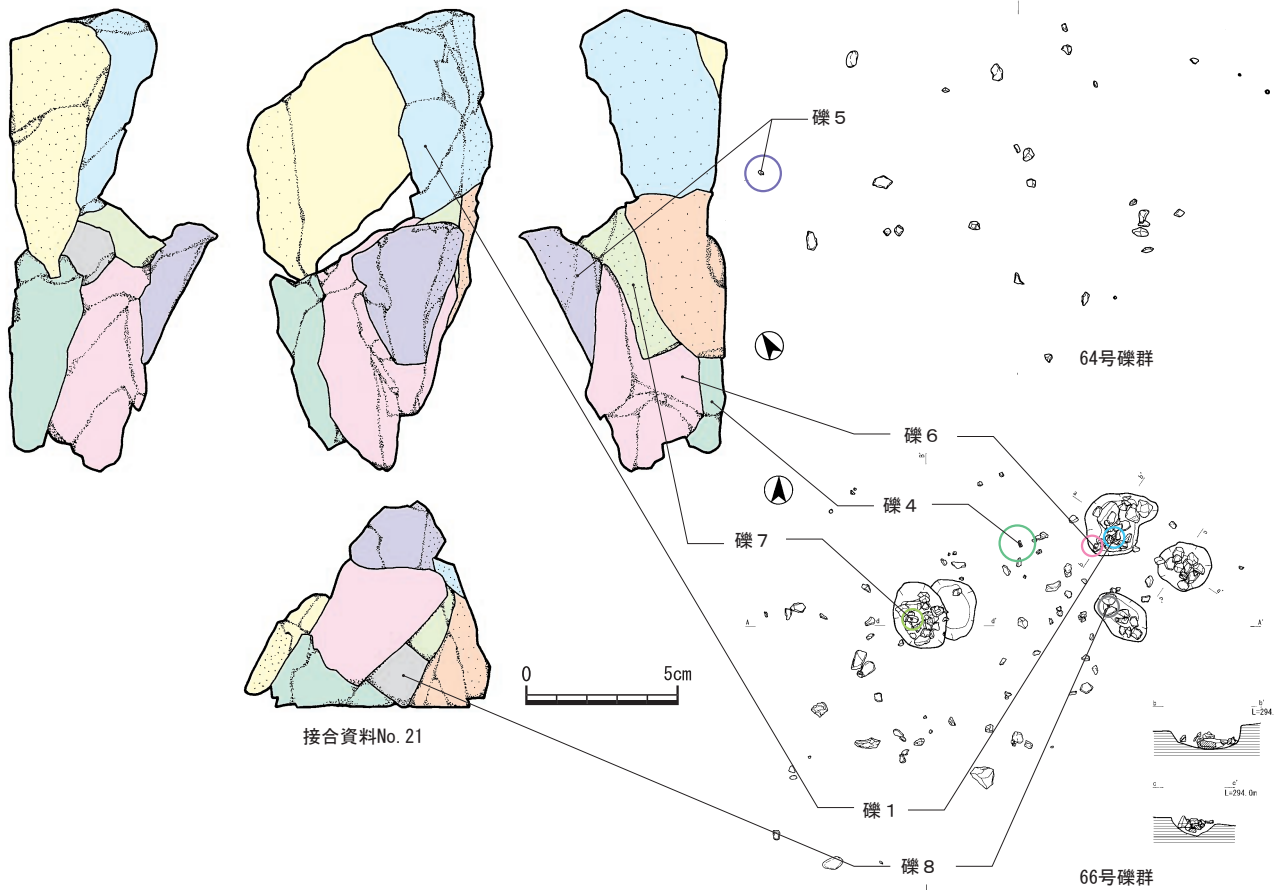
接合資料No. 21の礫の検出状況からは、礫の再利用や遺構間の移動方向について確認できなかった。しかし、23号礫群で検出された礫が集中部から離れた位置にあることと、66号礫群から検出された礫のほとんどが掘り込み遺構内の構成礫であることから、23号礫群で利用され破砕した礫を66号礫群で再利用したと考えられる。



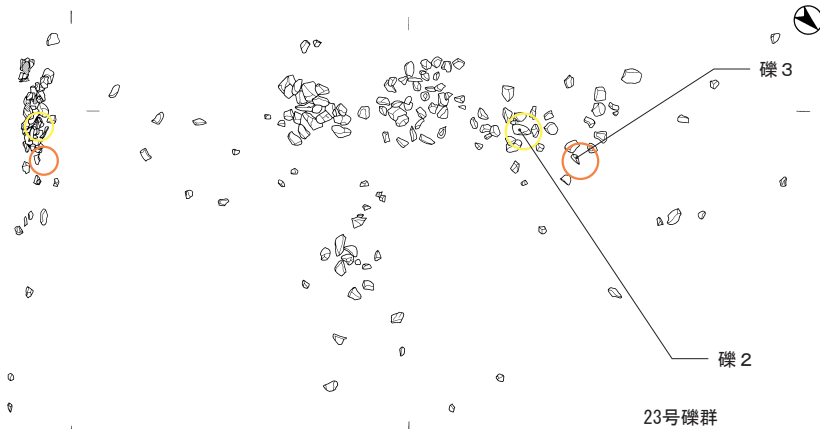
第116図 23号・64号・66号礫群位置図



番号	礫群名	礫番号	重量
1	66号	4	85g
2	23号	120	105g
3	23号	108	26g
4	66号	28	39g
5	64号	33	24g
6	66号	100	90g
7	66号	53	35g
8	66号	103	39g



第117図 接合資料No. 21実測図及び構成礫検出状況図(1)



第118図 接合資料No. 21実測図及び構成礫検出状況図(2)

(7) 23号・65号礫群間接合資料(No. 22, 第119図・第120図)

I-12区の23号礫群とH-7区の65号礫群間で接合した資料で、1点が確認できた。遺構間は約50m離れている。石材は頁岩である。接合資料を構成する礫は全て被熱している。

接合資料No. 22(第120図)

接合資料No. 22は礫1～礫8が23号礫群から、礫9が65号礫群から検出された。礫1は、23号礫群で小礫群の上部で検出されているが、礫2～礫8は、遺構を取り巻く散在礫として検出されている。ただし、礫2・礫5・礫7・礫8と礫3・礫4・礫6はそれぞれまとまった状態である。礫9は、65号礫群の掘り込み遺構を取り巻く散在礫として検出されている。接合資料中央部に空白部が残ることから、更に全体を形成する礫が存在すると思われる。あまり強く被熱しておらず、礫2がやや黒っぽく見える以外は大きな変化はない。接合面の色調も特に変化はみられない。

接合資料No. 22の検出状況だけでは、遺構間の礫の移動について考察することは難しいが、同じH-7区検出の接合資料No. 20・21と比較した結果、23号礫群で利用された礫を65号礫群で再利用したことによる礫の移動と考えられる。

(8) 23号・32号・61号礫群間接合資料

(No. 23, 第121図・第122図)

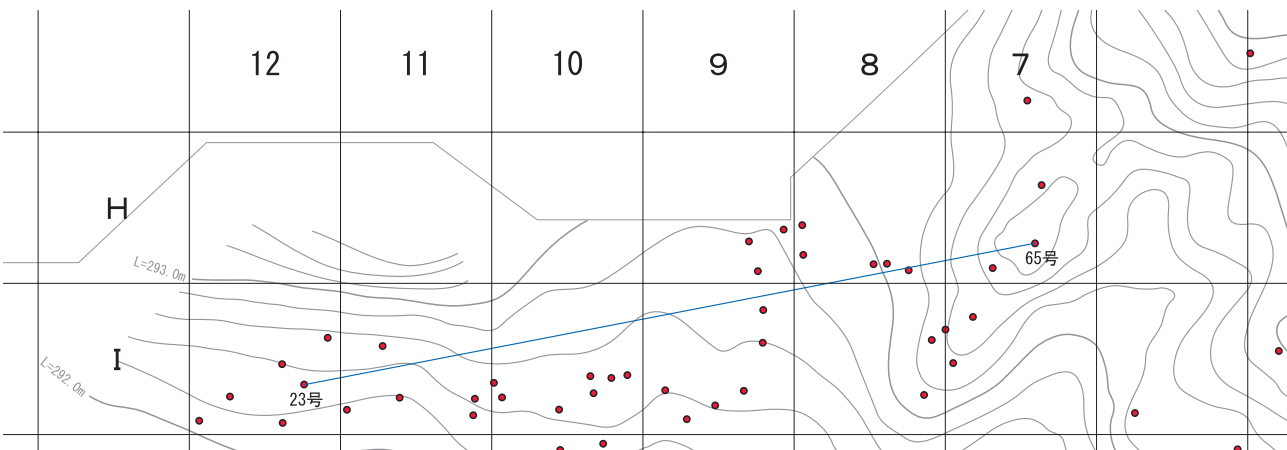
I-12区の23号礫群とI-10・11区の32号礫群、H-7・8区の61号礫群間で接合した資料で、1点が確認できた。遺構間は

23号礫群と32号礫群間が約13m、32号礫群と61号礫群間が約30m離れている。石材は頁岩である。接合資料を構成する礫は全て被熱している。

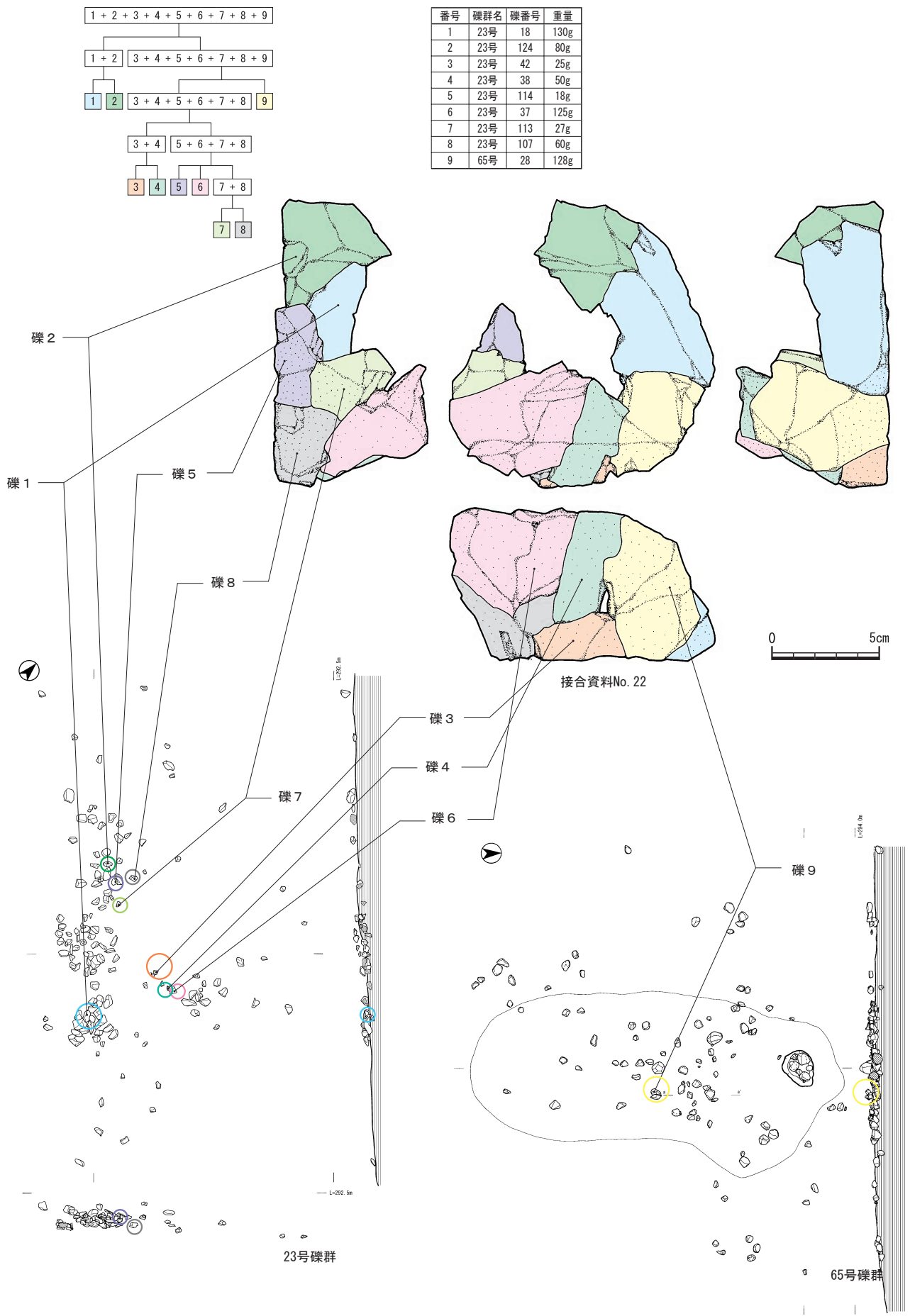
接合資料No. 23(第122図)

接合資料No. 23は礫2が23号礫群から、礫1が32号礫群から、礫3～礫5が61号礫群から検出された。礫の細片化順序は、まず礫1・礫2のグループと礫3～礫5のグループに二分し、礫1と礫2、礫3・礫4と礫5がそれぞれ破碎している。礫1は、32号礫群の掘り込み遺構を取り巻く散在礫として検出されている。礫2は、23号礫群の遺構を取り巻く散在礫として検出されている。礫3・礫4は、61号礫群の遺構を取り巻く散在礫として検出されているが、接合資料No. 23の6割近い重量を占める礫5は、掘り込み遺構内の構成礫として検出されている。礫3と礫4は隣り合って検出されているので、散在後破碎したものと考えられる。接合資料を観察すると、更に接合して全体を形成する他の礫が存在が予測される。接合面の色調は特に変化はみられない。

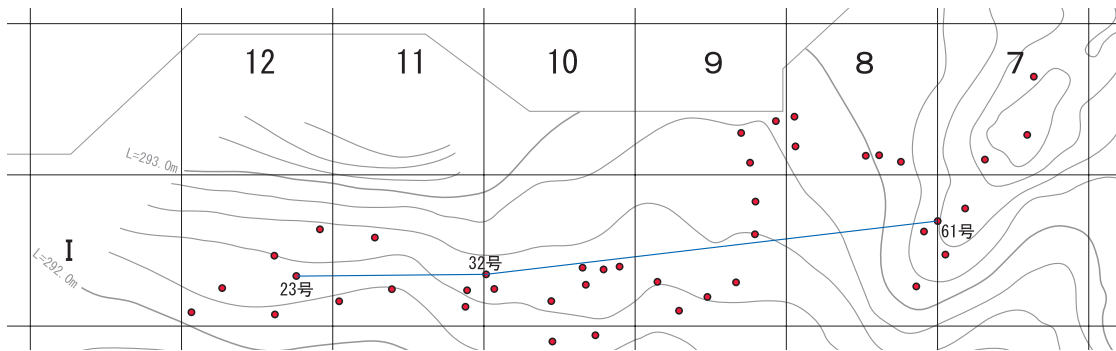
23号礫群と32号礫群で検出された礫1・礫2は、礫集中部及び掘り込み遺構から離れており、飛散しているため礫の移動については確認できない。しかし、最も大きい礫5が61号礫群の掘り込み遺構から検出されていることから、礫3～礫5の接合礫を23号礫群もしくは32号礫群で利用した後に61号礫群で再利用したと考えられる。



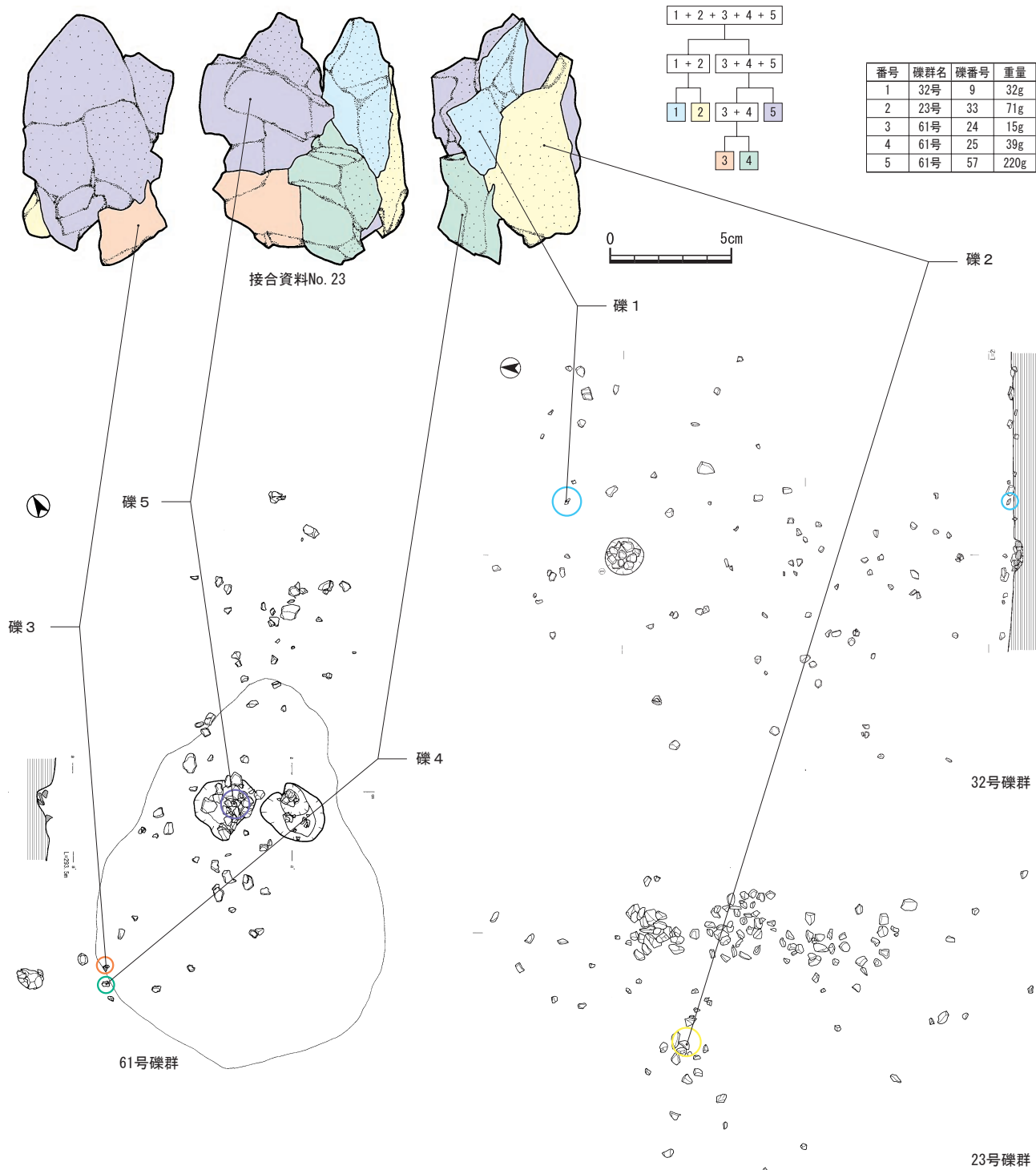
第119図 23号・65号礫群位置図



第120図 接合資料No. 22実測図及び構成碟検出状況図



第121図 23号・32号・61号碟群位置図



第122図 接合資料No. 23実測図及び構成碟検出状況図

(9) 65号・66号礫群間接合資料(No. 24, 第123図・第124図)

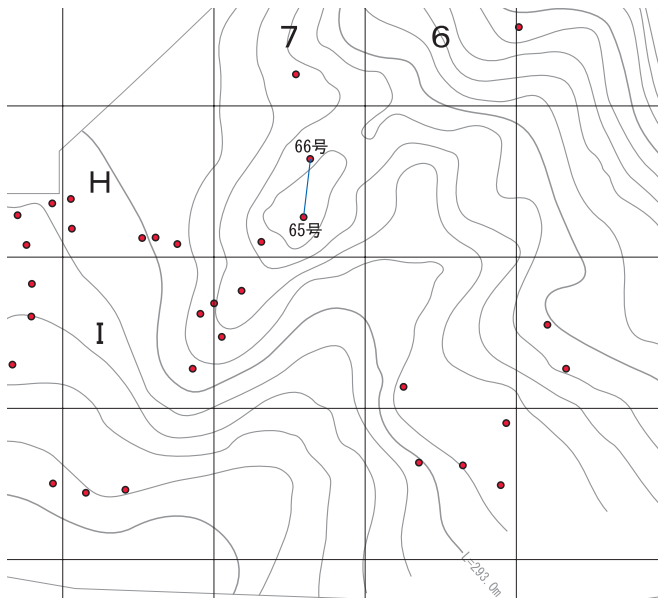
H-7区の65号礫群と66号礫群間で接合した資料で、1点
が確認できた。遺構間は約4m離れている。石材は頁岩であ
る。接合資料を構成する礫は全て被熱しているがあまり強い
ものではなく、接合面の色調は特に変化していない。

接合資料No. 24(第124図)

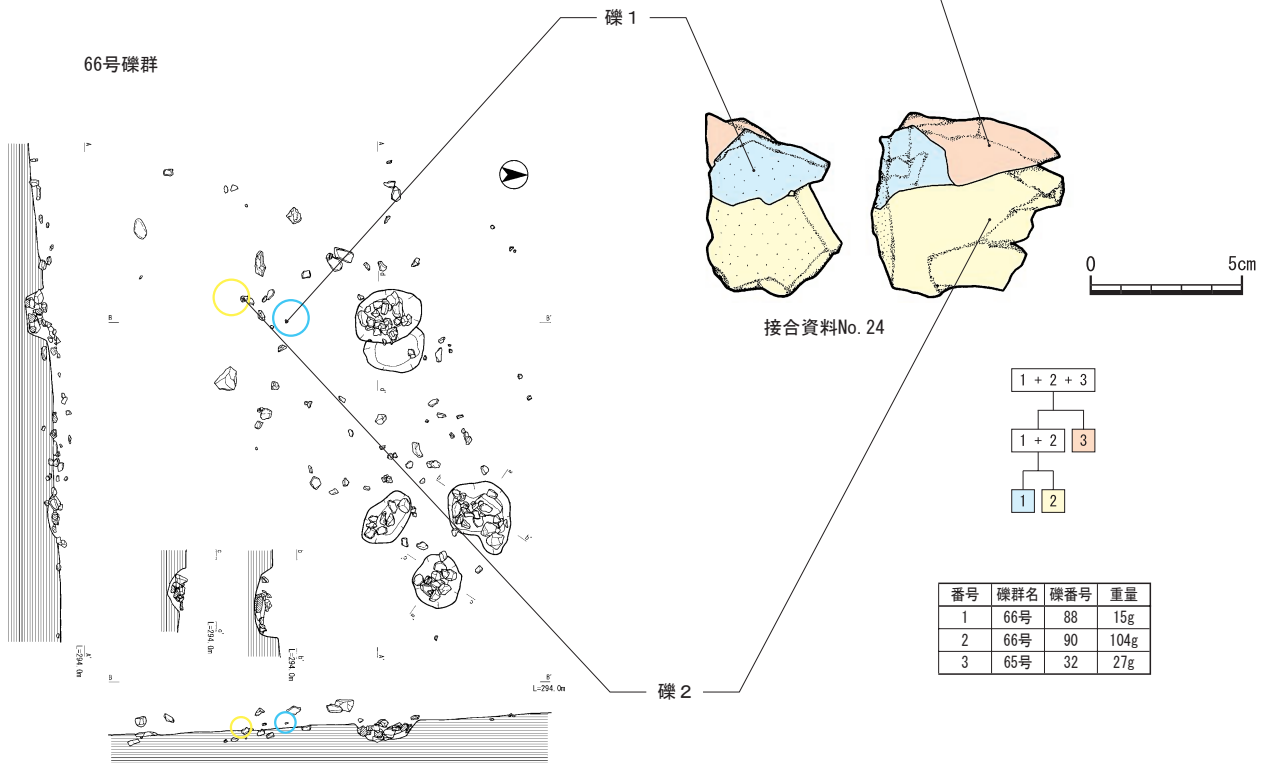
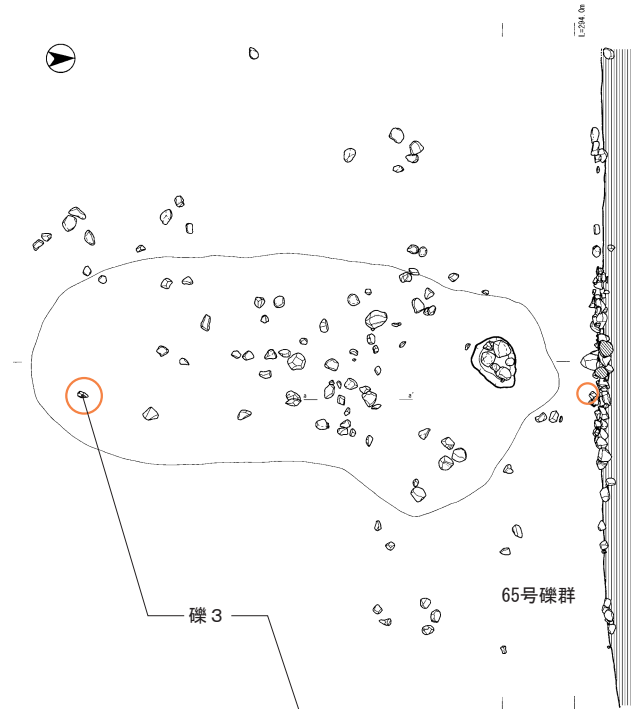
接合資料No. 24は礫1と礫2が66号礫群から、礫3が65号
礫群から検出された。礫の細片化順序は、まず礫1と礫2の
接合礫と礫3が破損し、その後礫1と礫2が破碎している。

礫1と礫2は、66号礫群の掘り込み遺構を取り巻く散在礫
として検出されている。礫3は、65号礫群の掘り込み遺構を
取り巻く散在礫として検出されている。接合資料を観察する
と、礫1～礫3の中に新に接合する礫と、礫2から接合して
全体を形成する他の礫が存在すると思われる。

接合資料No. 24では、礫1～礫3がいずれも礫群の掘り込
み遺構から離れた位置に飛散した状態で検出されており、礫
群間の礫の移動については確認できなかった。



第123図 65号・66号礫群位置図



第124図 接合資料No. 24実測図及び構成礫検出状況図

4 接合資料第3群(第125図～第139図)

(1) 35号・36号・37号礫群間接合資料

(No. 25, 第125図～第127図)

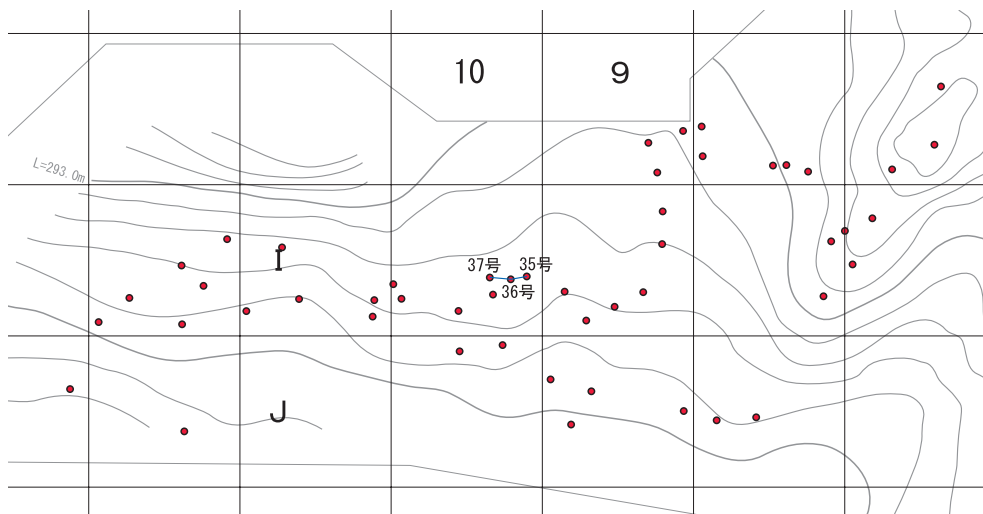
I-10区の35号礫群・36号礫群・37号礫群間で接合した資料で、1点が確認できた。遺構間は端にある35号礫群と37号礫群間が約3mで、3つの礫群ともそれぞれ隣接している。石材は頁岩である。接合資料を構成する礫は全て被熱しているが、あまり強いものではなく接合面の色調は特に変化していない。

接合資料No. 25(第126図・第127図)

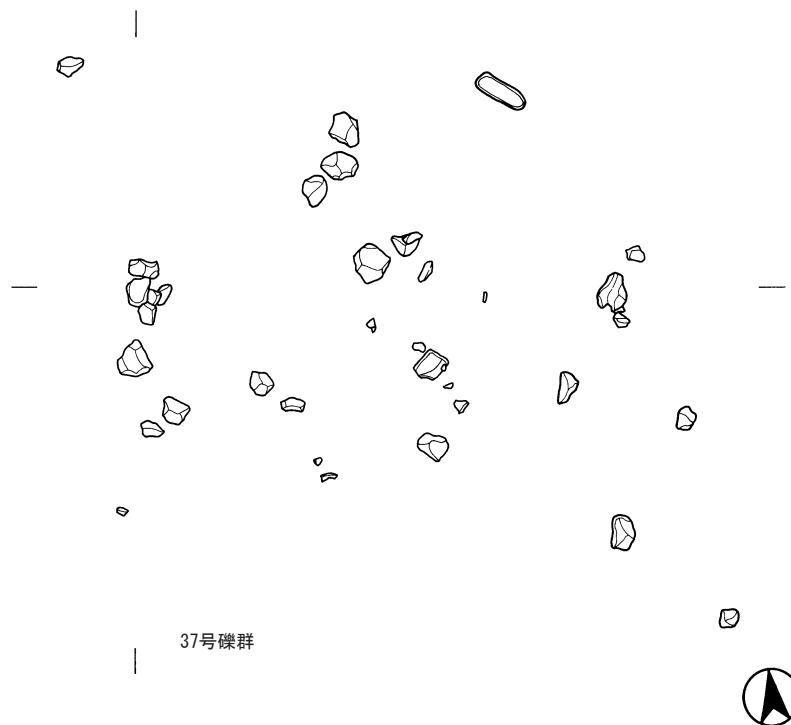
接合資料No. 25は礫1が36号礫群から、礫2が35号礫群から、礫3と礫4が37号礫群から検出された。礫の細片化順序は、まず礫1と礫3、礫2と礫4の二つに破損し、その後

それぞれが破砕している。礫1は、36号礫群の掘り込み遺構内の上位から、掘り込み遺構内の構成礫として検出されている。礫2は、35号礫群の掘り込み遺構内の構成礫として検出されている。礫3と礫4は、37号礫群のさらに周辺から検出されていてかなり散在した状態と思われる。接合資料No. 25はかなり破損が激しく、他にこの資料に接合する構成礫の存在については不明である。

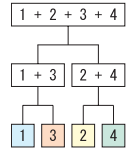
35号礫群と36号礫群で、礫1と礫2がそれぞれ掘り込み遺構内の構成礫として検出されたことと、礫の細片化順序から、37号礫群で破砕した礫を35号礫群と36号礫群で再利用したと考えられる。しかし、35号礫群と36号礫群の礫群形成順序については確認できなかった。



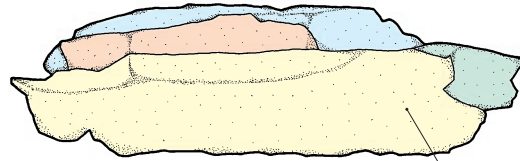
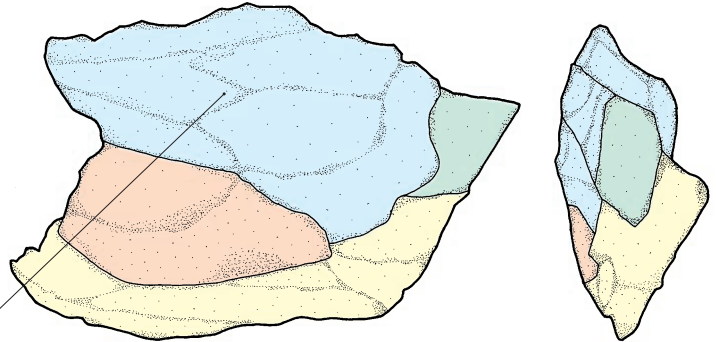
第125図 35号・36号・37号礫群位置図



第126図 接合資料No. 25構成礫検出状況図



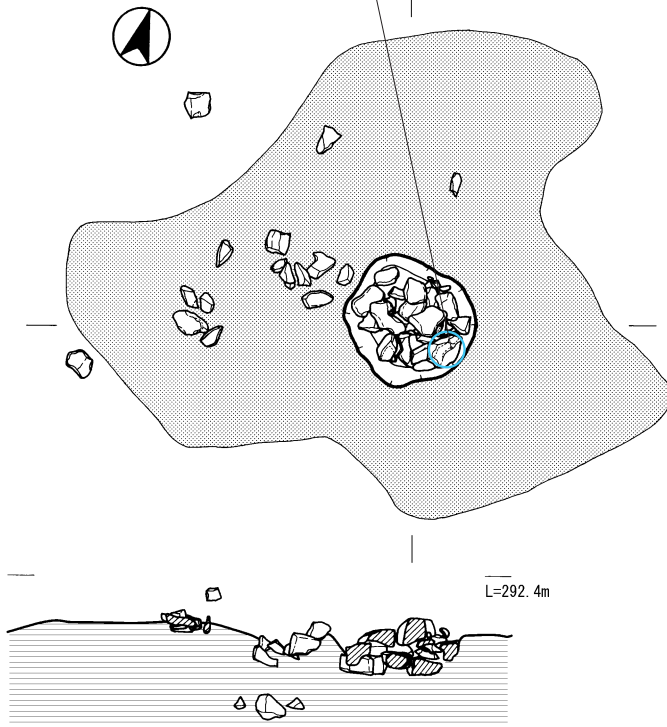
番号	碟群名	碟番号	重量
1	36号	1	320g
2	35号	18	242g
3	37号	50s	75g
4	37号	2s	104g



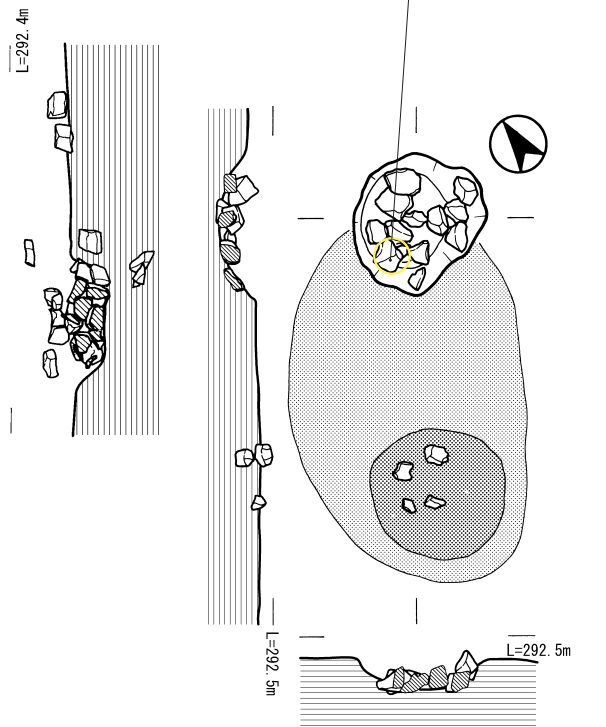
碟 1

接合資料No. 25

碟 2



36号碟群



35号碟群

第127図 接合資料No. 25実測図及び構成碟検出状況図

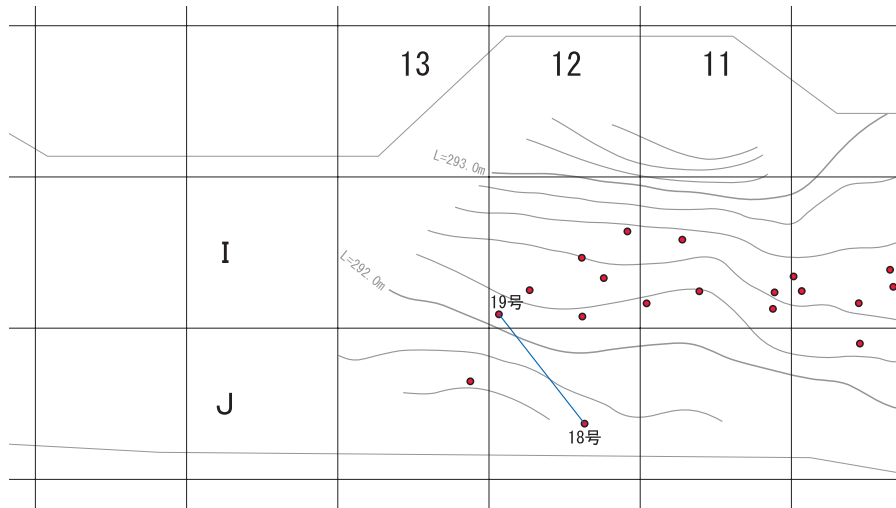
(2) 18号・19号礫群間接合資料(No. 26, 第128図・第129図)
 J-12区の18号礫群とI-12区の19号礫群間で接合した資料で、1点が確認できた。遺構間は約10m離れている。石材は輝石安山岩である。接合資料を構成する礫は全て被熱しているが、あまり強いものではなく、接合面の色調は特に変化していない。

接合資料No. 26(第129図)

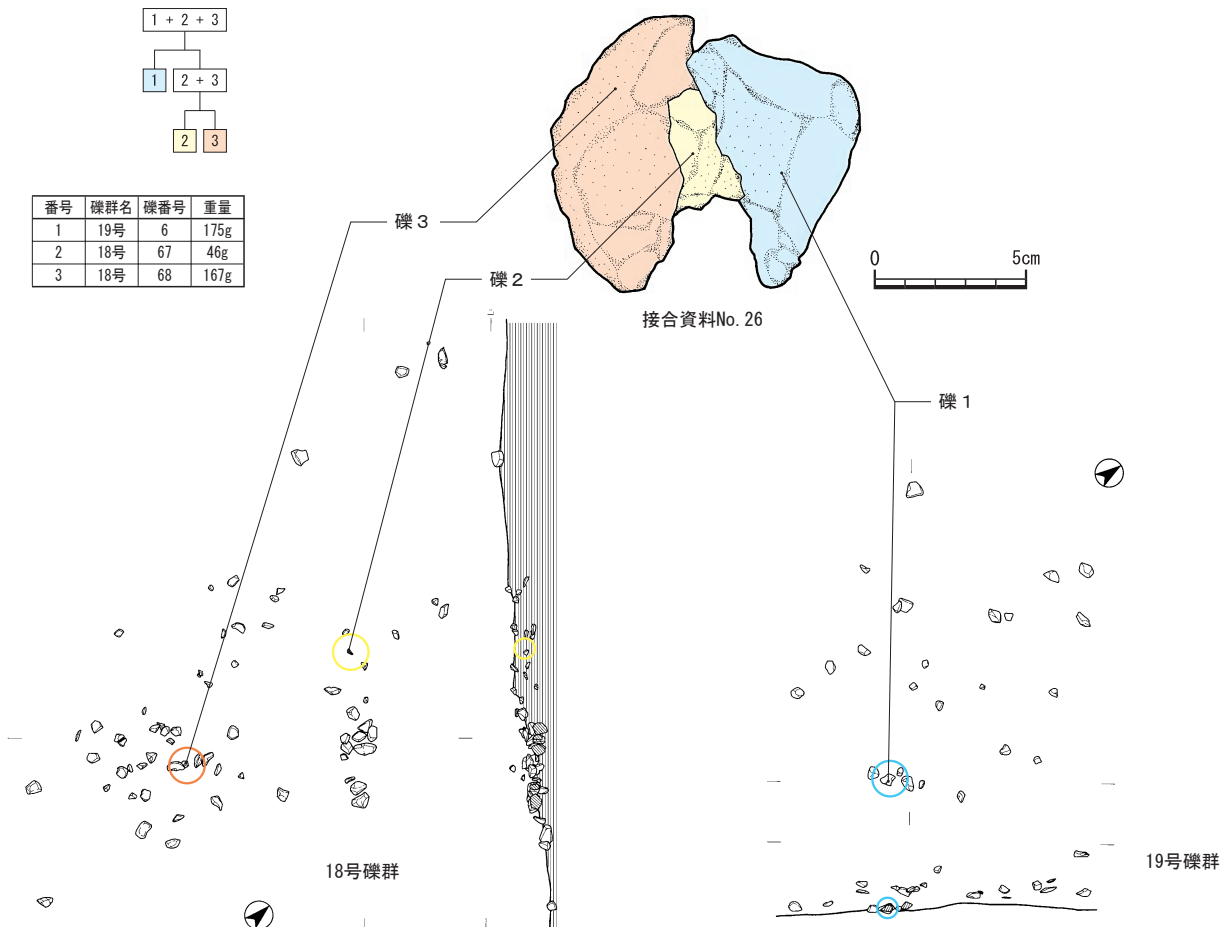
接合資料No. 26は礫1が19号礫群から、礫2と礫3が18号礫群から検出された。礫の細片化順序は、まず礫1が破損

し、その後礫2と礫3が破碎している。礫1は、19号礫群で礫のまとまりの中から、遺構を取り巻く散在礫として検出されている。礫2と礫3は、18号礫群で礫のまとまりから離れた位置から、遺構を取り巻く散在礫として検出されている。接合資料の観察からは、更に接合し全体を形成する他の礫が存在すると思われる。

接合資料No. 26では、礫1～礫3がいずれも飛散した状態で検出されているため、遺構間の礫の移動については確認できなかった。



第128図 18号・19号礫群位置図



第129図 接合資料No. 26実測図及び構成礫検出状況図

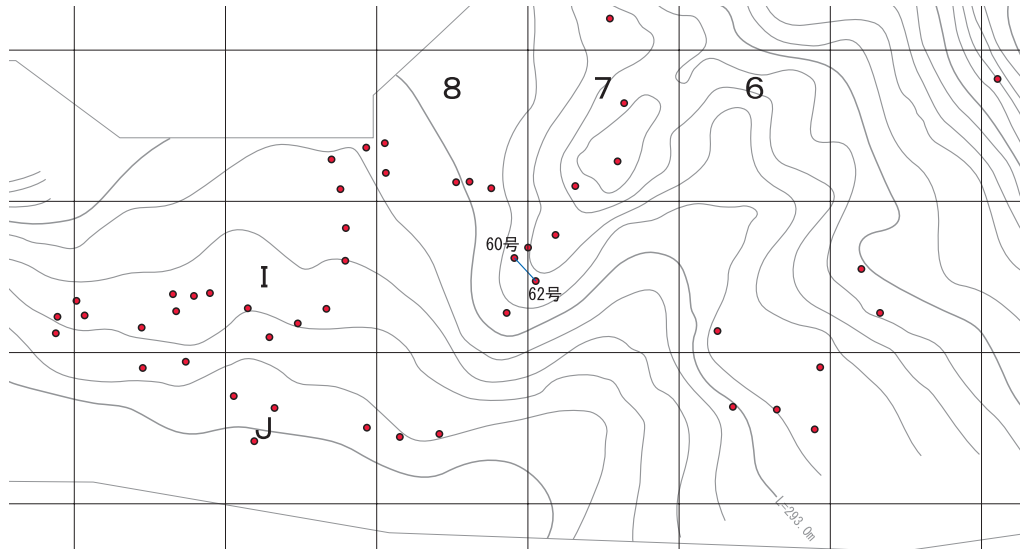
(3) 60号・62号礫群間接合資料(No. 27, 第130図・第131図)
 1-8区の60号礫群と1-7区の62号礫群間で接合した資料で、1点が確認できた。遺構間は約2m離れている。石材は砂岩である。接合資料を構成する礫は全て被熱している。

接合資料No. 27(第131図)

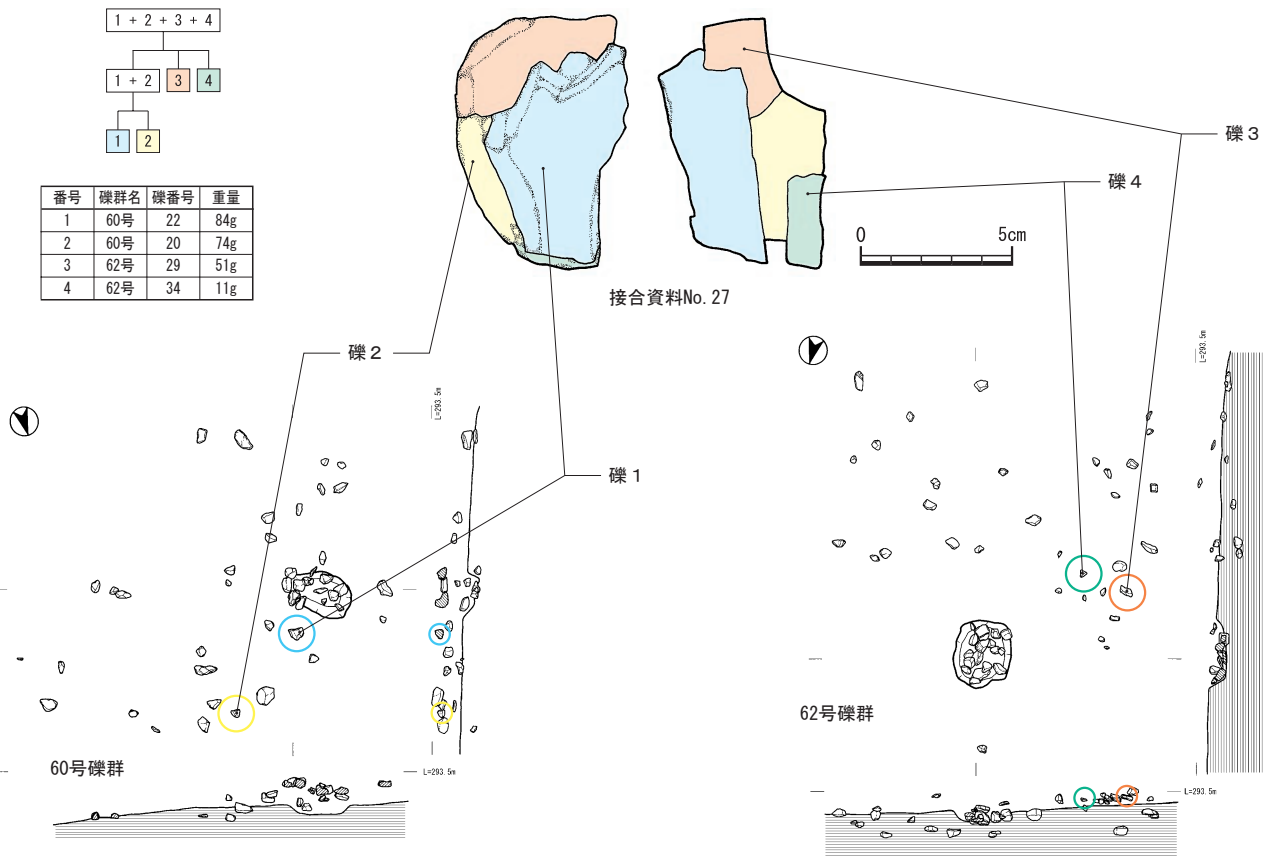
接合資料No. 27は礫1と礫2が60号礫群から、礫3と礫4が62号礫群から検出された。礫の細片化順序は、まず礫3と礫4が破損し、その後礫1と礫2が破砕している。しかし、それぞれの破砕面に更に接合する他の礫が存在すると思われる。礫1が先に破損し、その後礫2から礫4が破砕した可能

性もある。礫1は60号礫群の掘り込み遺構の近く、礫2は少し離れた位置に、それぞれ掘り込み遺構を取り巻く散在礫として検出されている。礫3と礫4は、62号礫群の掘り込み遺構近くに掘り込み遺構を取り巻く散在礫として検出されていて、お互いの位置もかなり近い。

60号礫群の掘り込み遺構内の礫は、遺構外へややばらけているのに対し、62号礫群の掘り込み遺構内の礫は充実しているように見えるが、礫の再利用による礫群形成順序については確認できなかった。



第130図 60号・62号礫群位置図



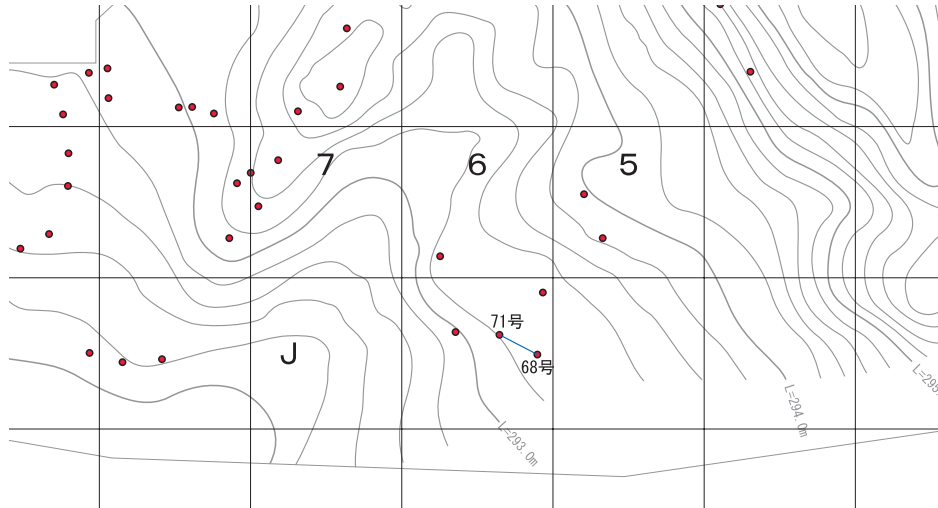
第131図 接合資料No. 27実測図及び構成礫検出状況図

(4) 68号・71号礫群間接合資料(No. 28, 第132図・第133図)
 J-6区の68号礫群・71号礫群間で接合した資料で、1点が確認できた。遺構間は約3m離れている。石材は輝石安山岩である。接合資料を構成する礫は全て被熱している。

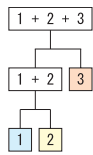
接合資料No. 28(第133図)

接合資料No. 28は礫1と礫2が68号礫群から、礫3が71号

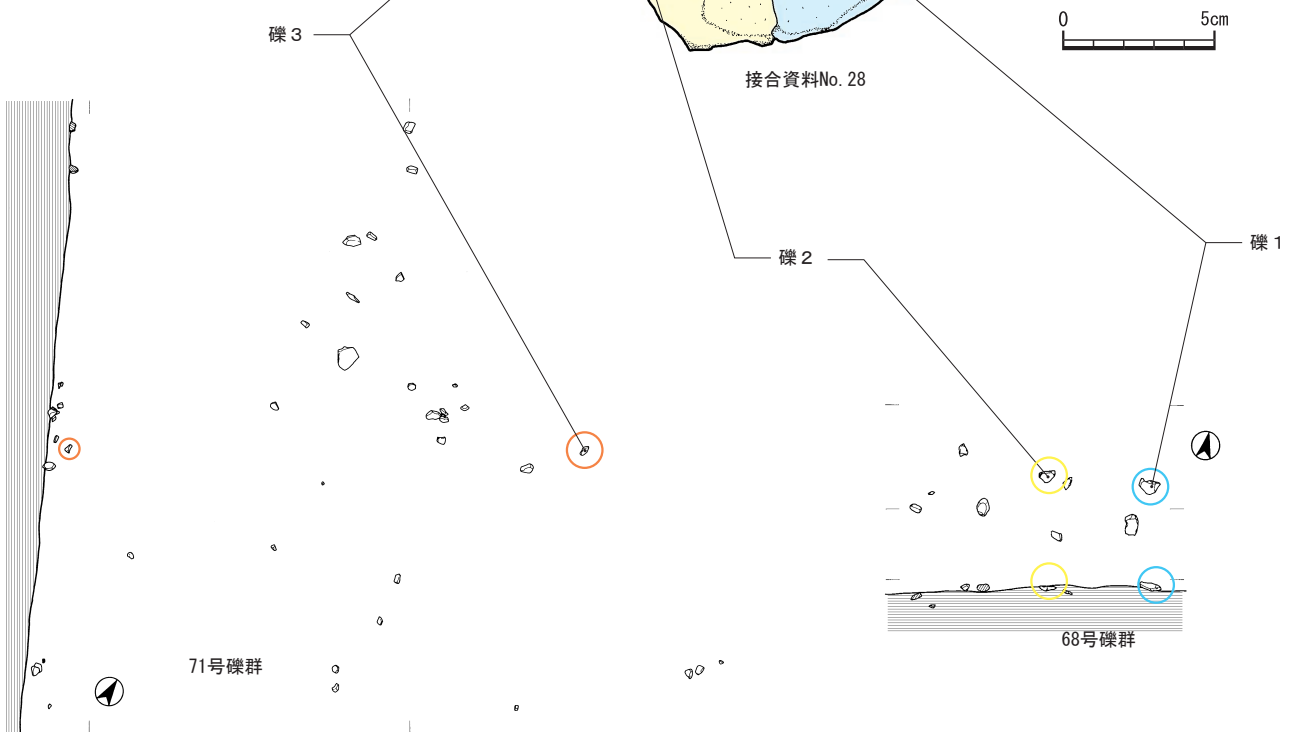
礫群から検出された。礫の細片化順序は、まず礫3が破損しその後、礫1と礫2が破砕している。また、接合資料No. 28の裏面には、更に接合する可能性がある。しかし、68号礫群・71号礫群ともに散石状態に近く、礫も遺構を取り巻く散在礫として検出されていることから、遺構間の礫の移動については確認できなかった。



第132図 68号・71号礫群位置図



番号	礫群名	礫番号	重量
1	68号	1	255g
2	68号	5	96g
3	71号	26	44g



第133図 接合資料No. 28実測図及び構成礫検出状況図

(5) 82号・83号礫群間接合資料

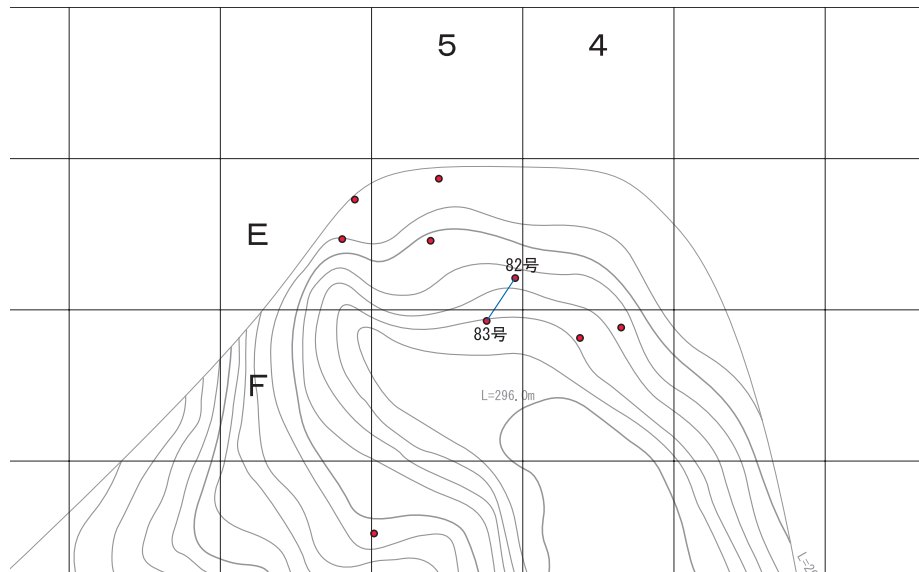
(No. 29・No. 30, 第134図～第137図)

E-5区の82号礫群・F-5区の83号礫群間で接合した資料で、2点が確認できた。遺構間は約4m離れている。石材は2点とも頁岩である。接合資料を構成する礫は全て被熱している。

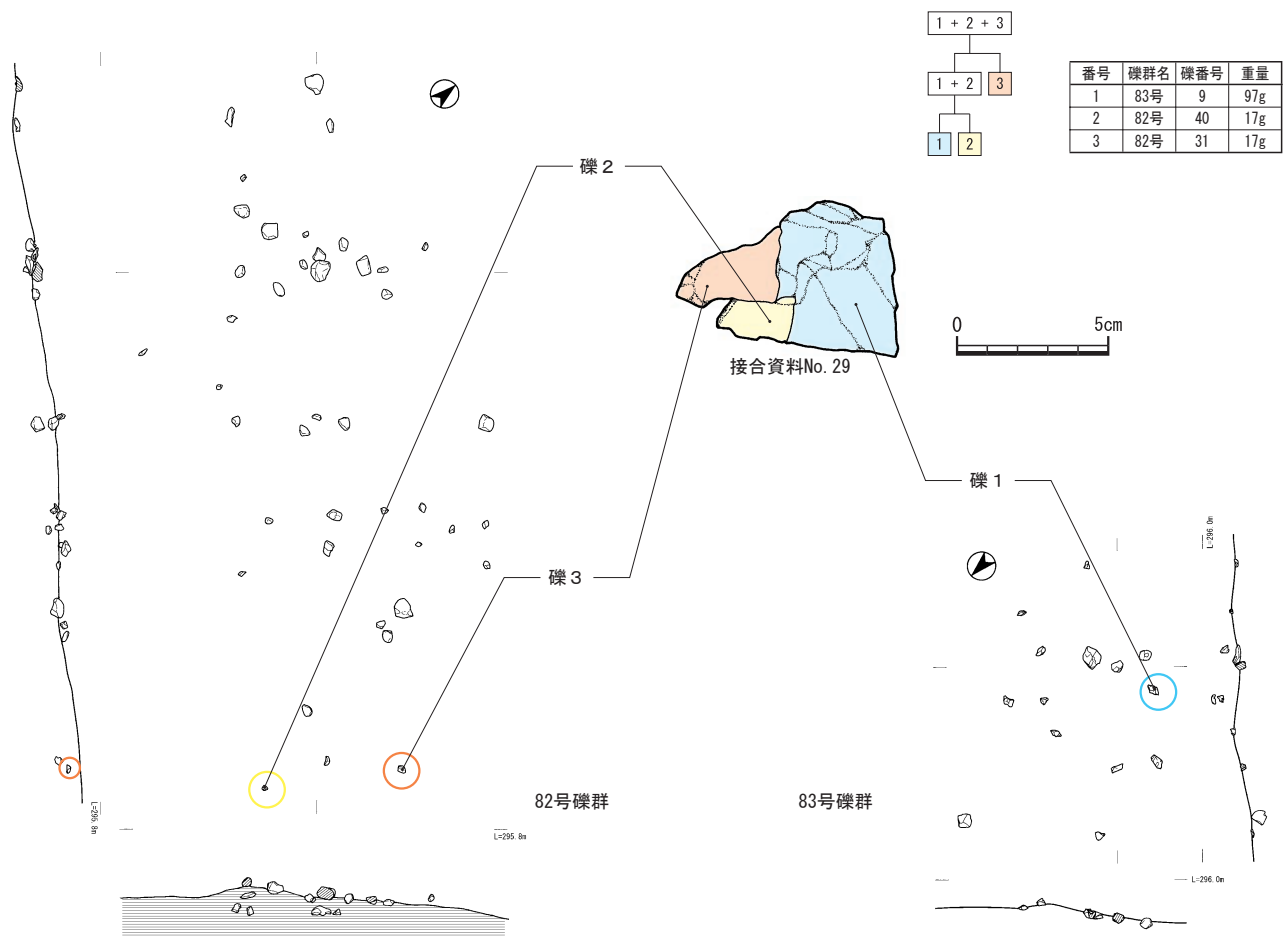
礫群から検出された。礫の細片化順序は、まず礫3が破損しその後、礫1と礫2が破碎している。また、破碎面からは、更に接合する他の礫があると思われる。礫1は、83号礫群の遺構を取り巻く散在礫として検出されている。礫2と礫3は共に、82号礫群の遺構を取り巻く散在礫として検出されている。被熱による接合面の色調は特に変化していない。

接合資料No. 29(第135図)

接合資料No. 29は礫1が83号礫群から、礫2と礫3が82号



第134図 82号・83号礫群位置図

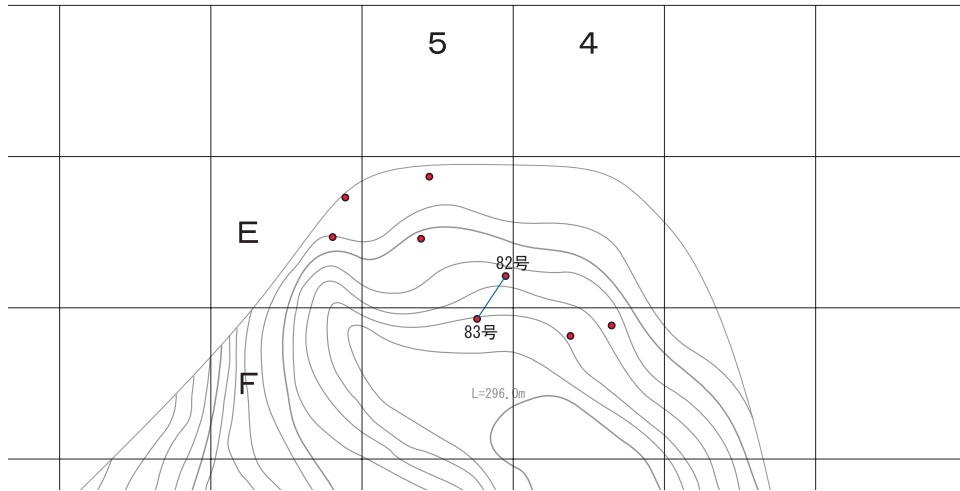


第135図 接合資料No. 29実測図及び構成礫検出状況図

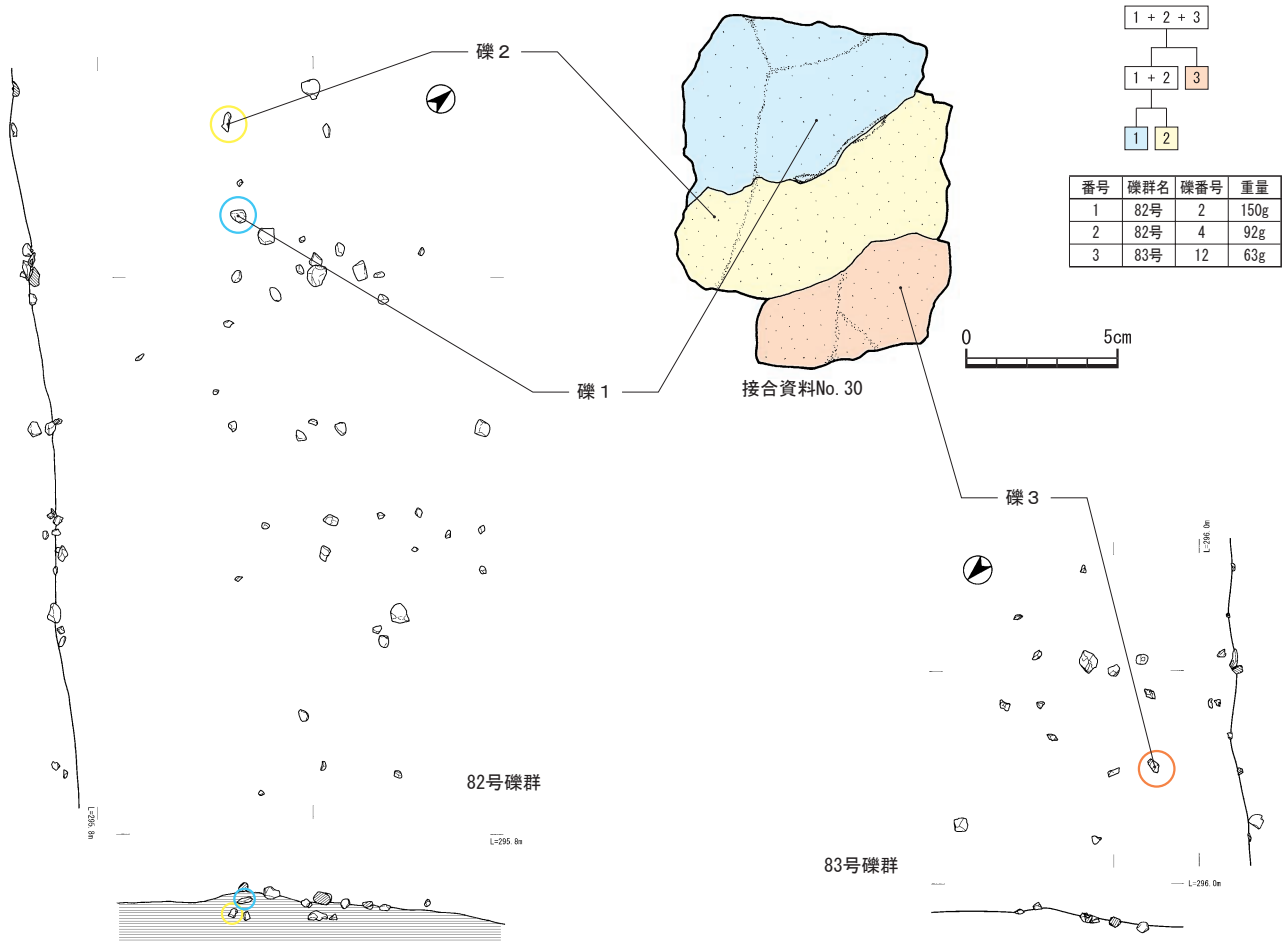
接合資料No. 30(第137図)

接合資料No. 30は磔1と磔2が82号磔群から、磔3が83号磔群から検出された。磔の細片化順序は、まず磔3が破損しその後、磔1と磔2が破砕している。また、裏面には更に接合して全体を形成する他の磔があると思われる。磔1と磔2は共に、82号磔群の中央部から遺構を取り巻く散在磔として検出されている。磔3は、83号磔群の遺構を取り巻く散在磔として検出されている。被熱による接合面の色調の変化は特にみられない。

これら2点の接合資料は、いずれも遺構を取り巻く散在磔として検出されているので詳細はつかめない。接合資料No. 29の7割以上の重さをしめる磔1が、83号磔群で検出されていることから、82号磔群で利用された磔が83号磔群で再利用された可能性もあるが、接合資料No. 30では大きい磔片である磔1と磔2が82号磔群で検出されていることから接合資料No. 29の仮説とは反対の可能性が出てくるので、遺構間の磔の移動について、磔の検出状況からは確認できなかった。



第136図 82号・83号磔群位置図



第137図 接合資料No. 30実測図及び構成磔検出状況図

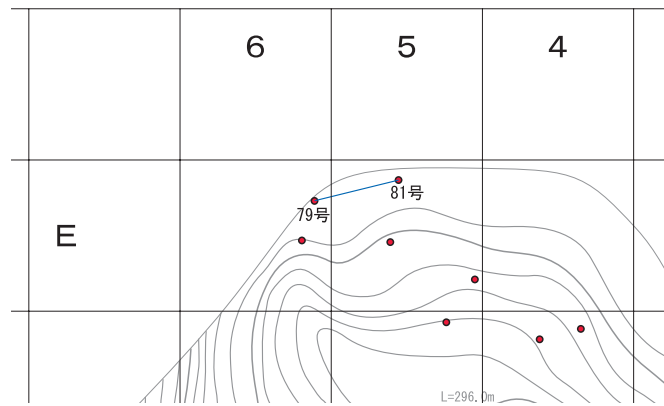
(6) 79号・81号礫群間接合資料(No. 31, 第138図・第139図)

E-6区の79号礫群・E-5区の81号礫群間で接合した資料で、1点が確認できた。遺構間は約6m離れている。石材は頁岩である。接合資料を構成する礫は全て被熱している。

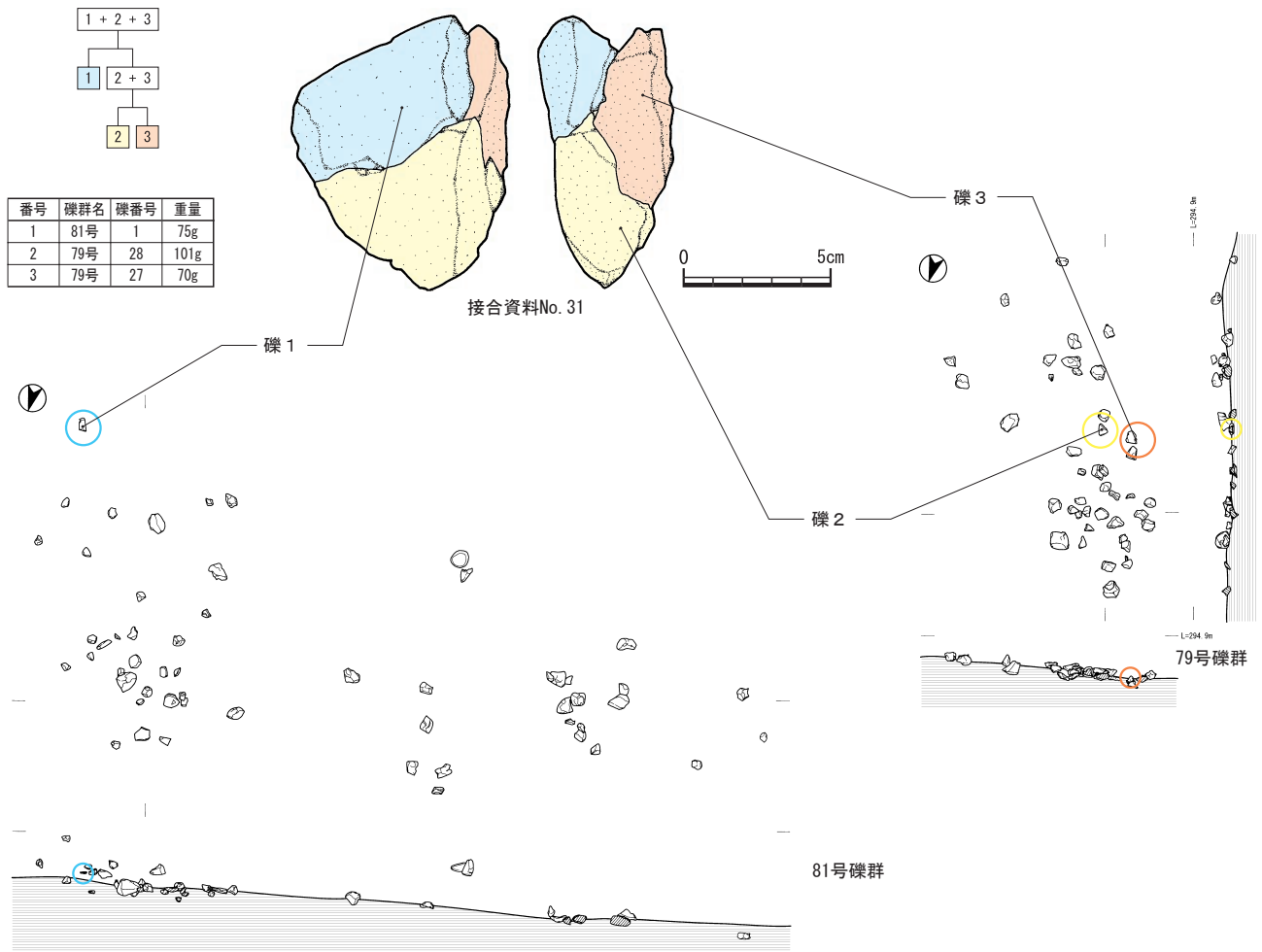
接合資料No. 31(第139図)

接合資料No. 31は礫1が81号礫群から、礫2と礫3が79号礫群から検出された。礫の細片化順序は、まず礫1が破損しその後、礫2と礫3が破砕している。また、礫1と礫3の間には、更に接合して全体を形成する他の礫があると思われる。礫1は、81号礫群の遺構を取り巻く散在礫として検出さ

れている。礫2と礫3は、79号礫群の中心部から遺構を取り巻く散在礫として検出されている。礫2と礫3はお互いすぐ近くで検出されていることから、散在した後で破砕した可能性もある。また、礫3が黒ずんだ色調であるのに対し、礫1と礫2は若干明るい黄土色をしている。なお、礫1と礫2の色調は変わらず、接合面も変化はみられない。このことから礫1と礫2は、礫3の破損後、更に別の場所で被熱したと思われる。しかし、81号礫群で破損した礫が、79号礫群で再利用されたのかについては検出状況からは確認できなかった。



第138図 79号・81号礫群位置図



第139図 接合資料No. 31実測図及び構成礫検出状況図

5 接合資料第4群(第140図・第141図)

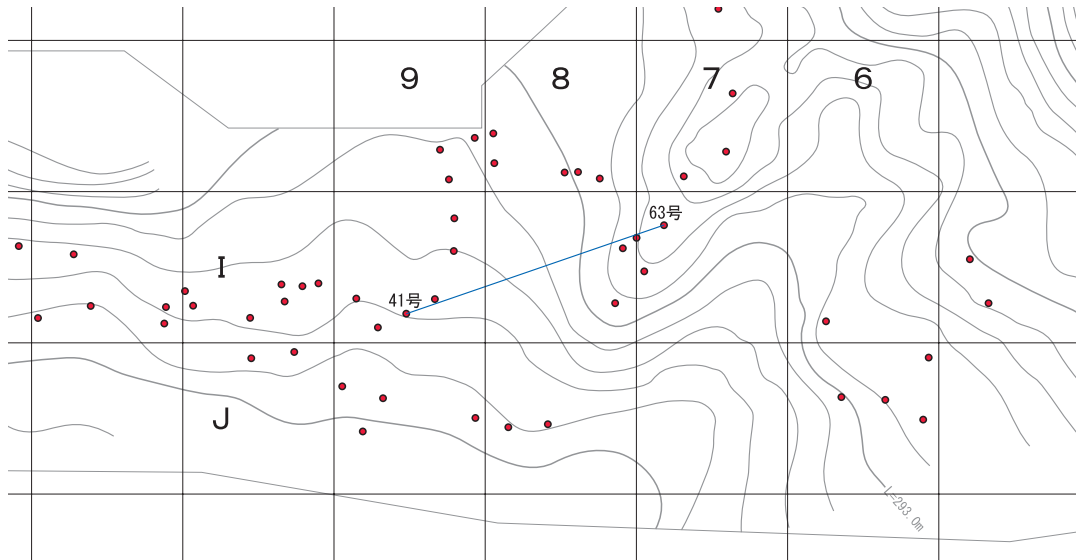
(1) 41号・63号礫群間接合資料(No. 32, 第140図・第141図)

1-9区の41号礫群と1-7区の63号礫群間で接合した資料で、1点が確認できた。遺構間は約18m離れている。石材は輝石安山岩である。接合資料を構成する礫は全て被熱している。

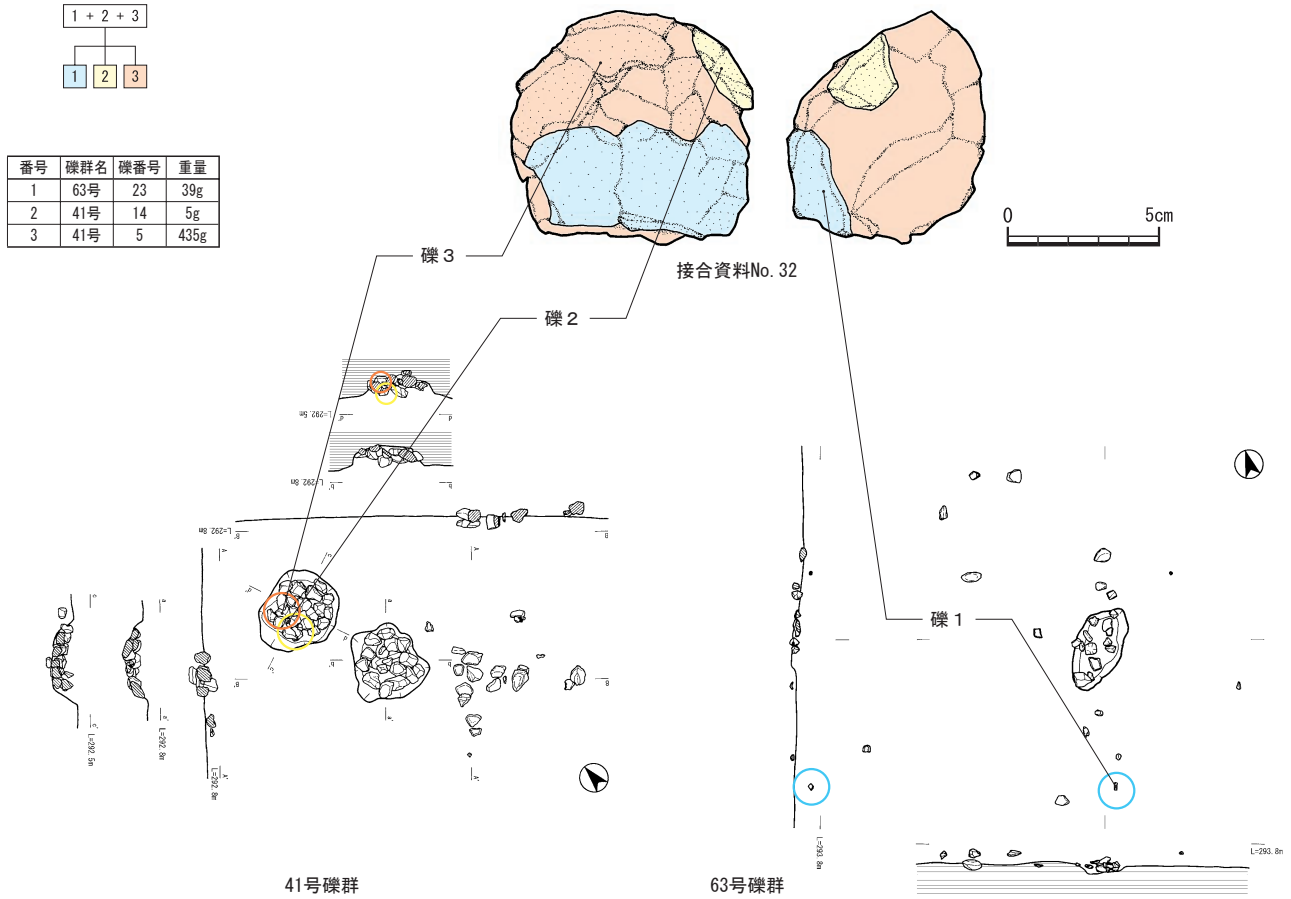
接合資料No. 32(第141図)

接合資料No. 32は礫1が63号礫群から、礫2と礫3が41号礫群から検出された。礫の細片化順序は、まず礫1が破損

し、その後、礫2と礫3が破碎している。礫1は、63号礫群で掘り込み遺構を取り巻く散在礫として検出されている。礫2と接合資料の9割の重さを占める礫3は、41号礫群の掘り込み遺構内の構成礫として掘り込み遺構下部から、構成礫にきっちりハマっている状態で検出されている。なお、礫2は礫3の直上から検出されている。これらのことから、63号礫群で利用され破碎した礫を、41号礫群で再利用したと考えられる。



第140図 41号・63号礫群位置図



第141図 接合資料No. 32 実測図及び構成礫検出状況図

第4節 遺物

1 石器群の概要

ナイフ形石器第Ⅰ文化層に該当する石器群は、XⅥ層～XⅦ層の間に集中して出土した。一部、XⅣ層～XⅤ層出土資料を含む。総数約2900点に達している。

本書で取り扱った器種は、剥片尖頭器、ナイフ形石器、台形様石器、角錐状石器、搔器、削器、尖頭状石器、二次加工痕のある剥片、微細剥離痕のある剥片、楔形石器、石核、剥片、ブランディングチップ、チップ、ハンマーストーン、敲石、細石核、細石刃、磨石、石皿である。ナイフ形石器については、切出形、台形様石器の細分を加え、刃潰し加工の部位により基部加工、部分加工、一側縁加工、二側縁加工、両側縁加工と呼んだ。

なお、微細剥離痕のある剥片については、従来使用痕のある剥片などと呼ばれたものと同義である。剥片の周縁に微細な剥離痕が連続的に観察されるものを包括したが、使用痕の認定に慎重を期す観点から、名称を分けて取り扱った。

石材については肉眼の特徴に基づく分類を基本とし、以下のような基準に基づいた。

黒曜石Ⅰ類(OB1)

光を通さない漆黒色で、白色の斑晶を含む。茶色の流理が散見されるものもある。上牛鼻、平木場、宇都、野下、八房側等の原産地資料に類似する。

黒曜石Ⅱ類(OB2)

光を通し、不純物を多量に含む一群である。三船、日東、五女木、小川内、芳ヶ野、荒平、小浜、長谷、小国等の原産地資料に類似する。肉眼的な特徴に基づき、以下のように細分した。

OB2A：基調色は鉛色から黒色までを呈し、白色の不純物を均等に含むもの。

OB2B：ガラスが潰れたような不純物を含むもの。不純物の大きさにはばらつきがある。

OB2C：球状の不純物と黒色の角柱状の不純物を含む。基調がやや白濁したものも含まれる。

OB2D：基調がやや緑がかり、灰色の流理がみられるもの。

白色で大きめの不純物を含む。

黒曜石Ⅲ類(OB3)

不純物が少ない良質の黒曜石で鉛色～黒色を基調とする。まれに乳白色を基調とするものもある。自然面は擦りガラス状を呈するものが多く、小礫が多い。上青木、桑ノ木津留の原産地資料やいわゆる霧島系の黒曜石に類似する。肉眼的特徴によって以下のように細分した。

OB3A：透明度が高く鉛色を基調としているもの。

OB3B：黒を基調とし、ほとんど光を通さないもの。

OB3C：乳白色を基調とするもの。

OB3D：梨肌を基調とするもの。

玉髓Ⅰ類(CC1)

基調がおおむね白色を呈するもの。

玉髓Ⅱ類(CC2)

基調がおおむね赤色を呈するもの。鉄石英を含む。

チャートⅠ類(CH1)

珪質が強く半透明で不純物は含まないもの。

チャートⅡ類(CH2)

珪質はやや弱く半透明な色調を呈するもの。

チャートⅢ類(CH3)

珪質がやや弱く不透明で節理が発達するもの。

水晶Ⅰ類(CR1)

無色透明で不純物を含まないもの。

水晶Ⅱ類(CR2)

白色でやや節理が発達するもの。

頁岩Ⅰ類(SH1)

黒色で節理が発達しない良質の硬質頁岩を包括する。色調や光沢の有無によって以下のように細分した。

SH1A：粒状感が極めて弱く、全く光沢がないもの。

SH1B：粒状感が極めて弱く、やや光沢があるもの。

SH1C：粒状感が極めて弱く、風化面が白色または淡褐色を帯び、白色～暗褐色の斑文がみられるもの。

SH1D：粒状感が極めて弱く、やや光沢があり、風化面が暗茶褐色を呈するもの。

頁岩Ⅱ類(SH2)

珪質頁岩を包括する。材質や光沢によって以下のように細分した。

SH2A：粒状感がなく、油脂光沢が強いもの。

SH2B：粒状感がなく、油脂光沢がほとんど無いもの。

SH2C：粒状感があり、油脂光沢がほとんど無いもの。

SH2D：やや粗雑で節理が発達するもの。

頁岩Ⅲ類(SH3)

いわゆるシルト質頁岩を包括する。

SH3A：節理が無く、風化面が白色～茶褐色の色調を呈するもの。

SH3B：節理が無く、白色の細かい流離がみられるもの。

頁岩Ⅳ類(SH4)

節理が発達する粗雑な頁岩を包括する。

SH4A：淡青灰色で風化面は鈍い赤褐色を帯びる。

SH4B：灰白色で粒状性が粗いもの。

SH4C：網目状の流理が見られるもの。粒状性は弱い。

SH4D：節理や流理が発達しブロック状に破碎するもの。

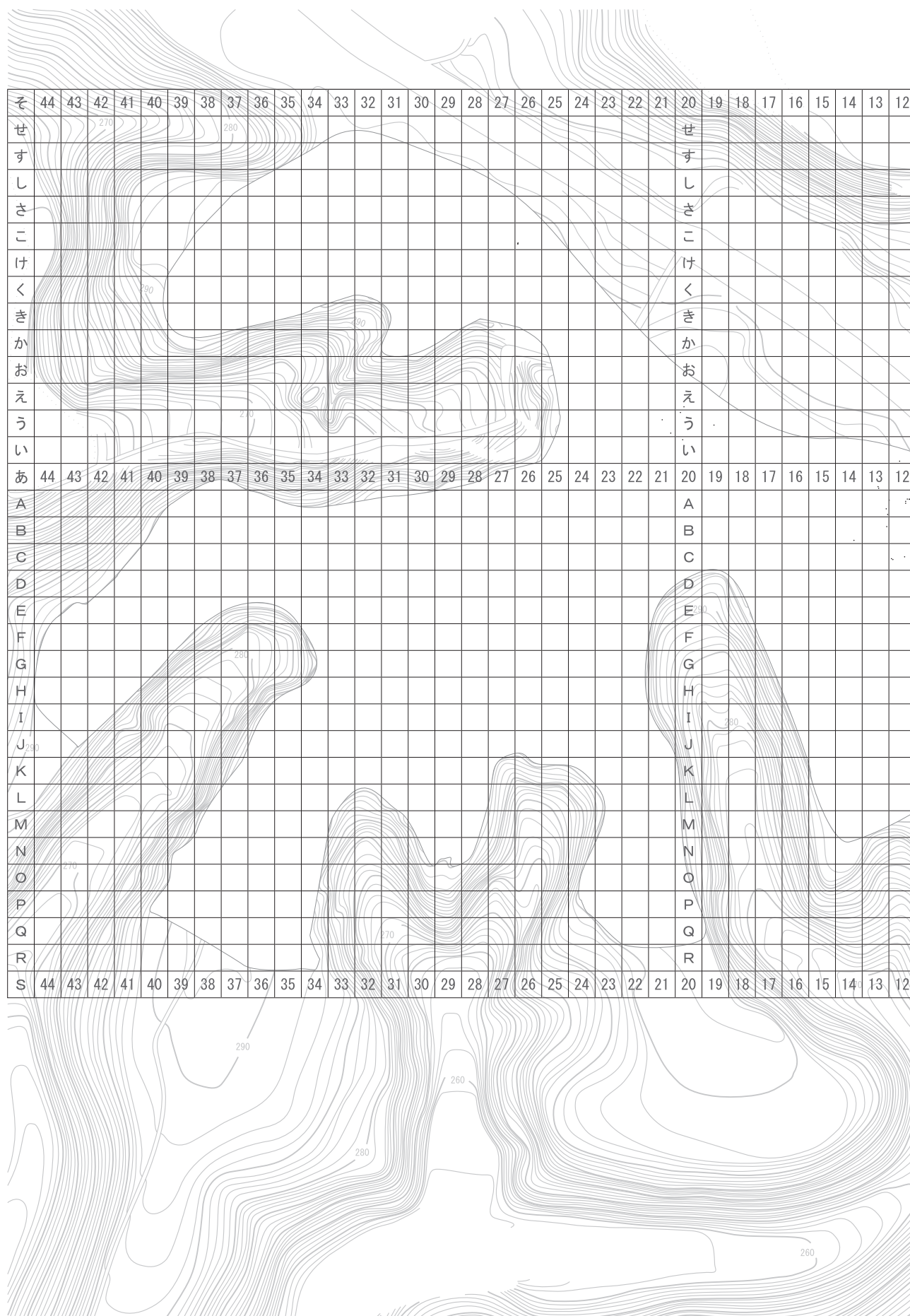
砂岩(SA)

やや明るめの黄褐色を呈するものが多く、粒子の粗いものから細かいものまで存在する。細分は行わなかった。

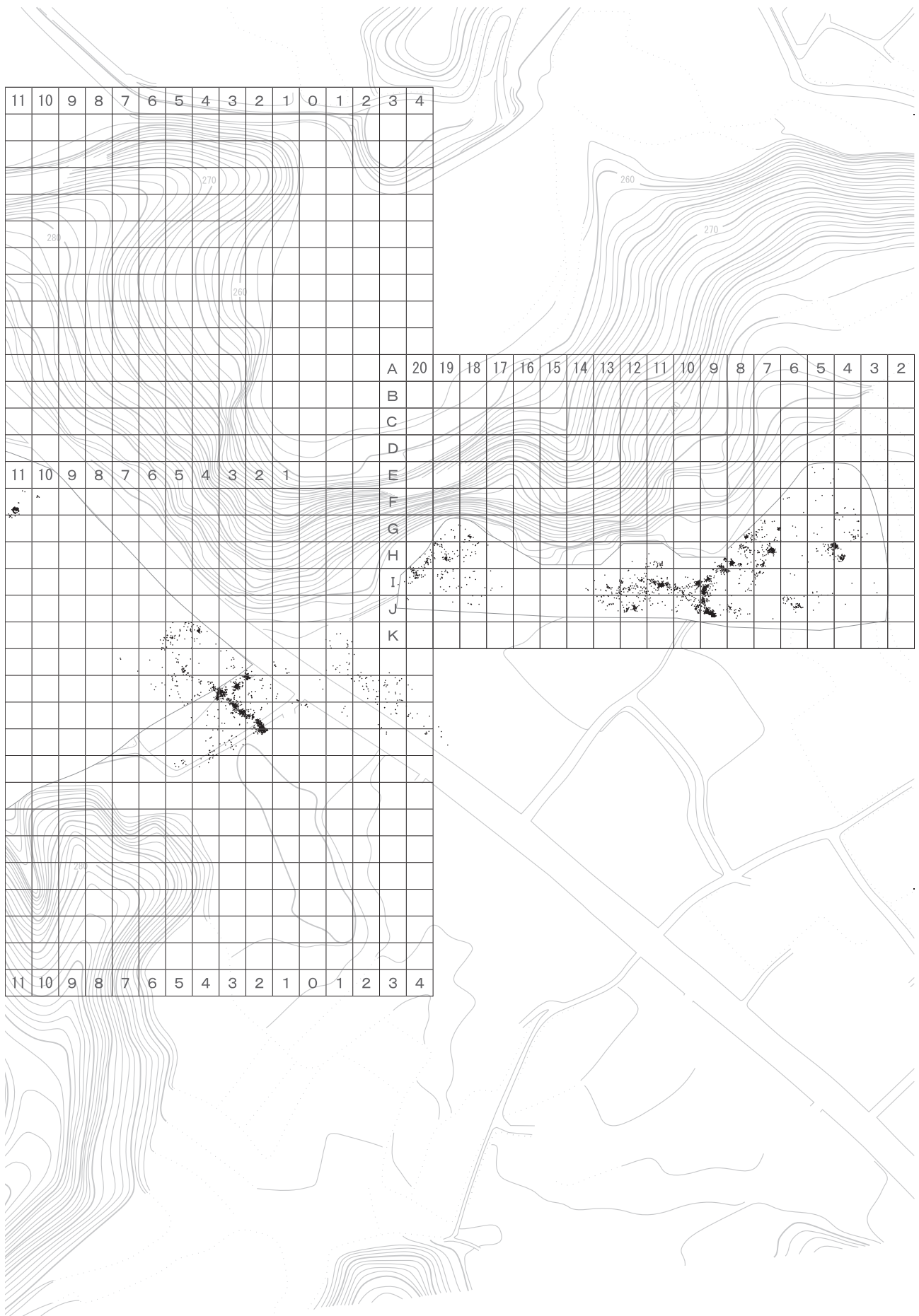
調査段階では、XⅣ層中にP-15、XⅥ層中にP-17の桜島起源のオレンジ軽石の分布が確認されている。

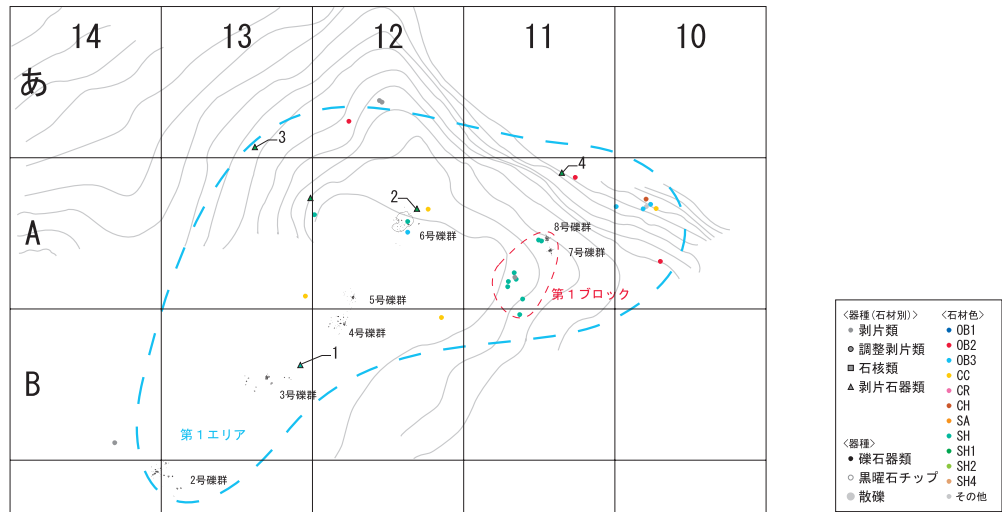
遺構は90基の礫群、遺物は剥片尖頭器、台形様石器を主体とするナイフ形石器群で、遺跡の西側に広がる谷を見下ろす台地の先端部で出土している。

出土遺物の分布状況は遺構群と密接な関係を示し、礫群と平面的に重複しながら展開する。なお、石器群の掲載にあたっては、石器群が集中して出土していることからその集中の最小単位を「ブロック」と呼び、相互に近接するブロック

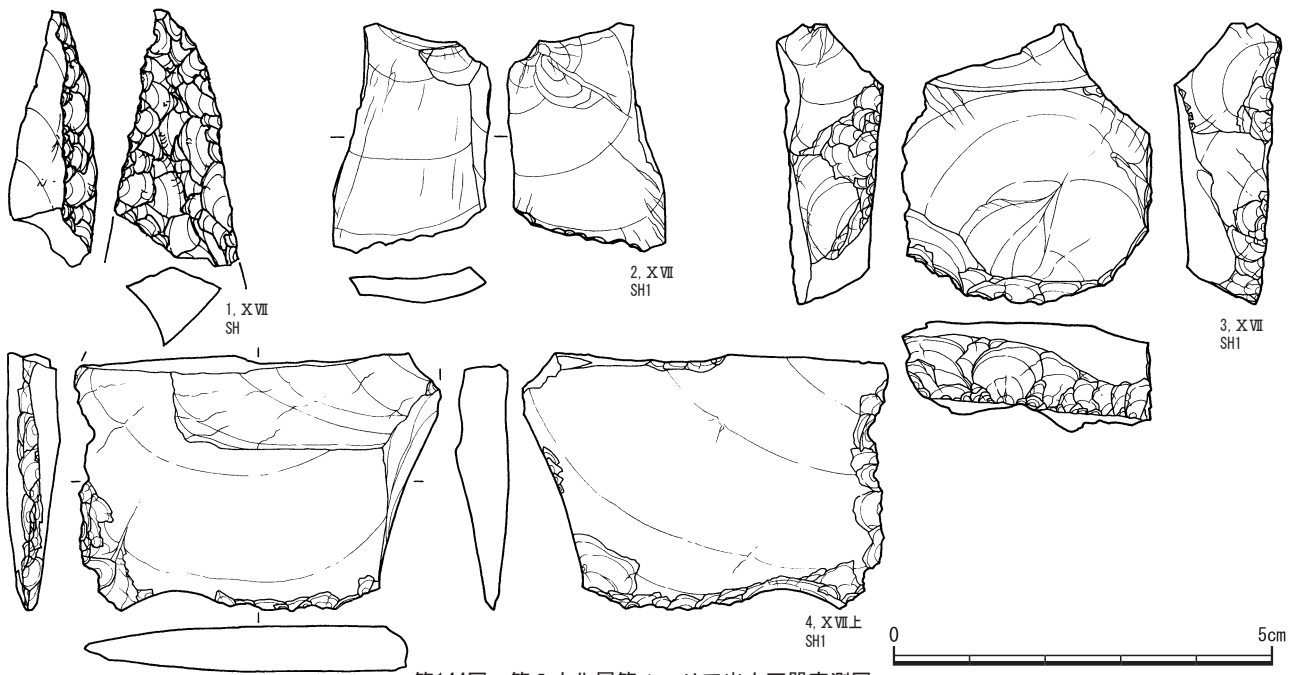


第142図 第I文化層遺物出土状況図

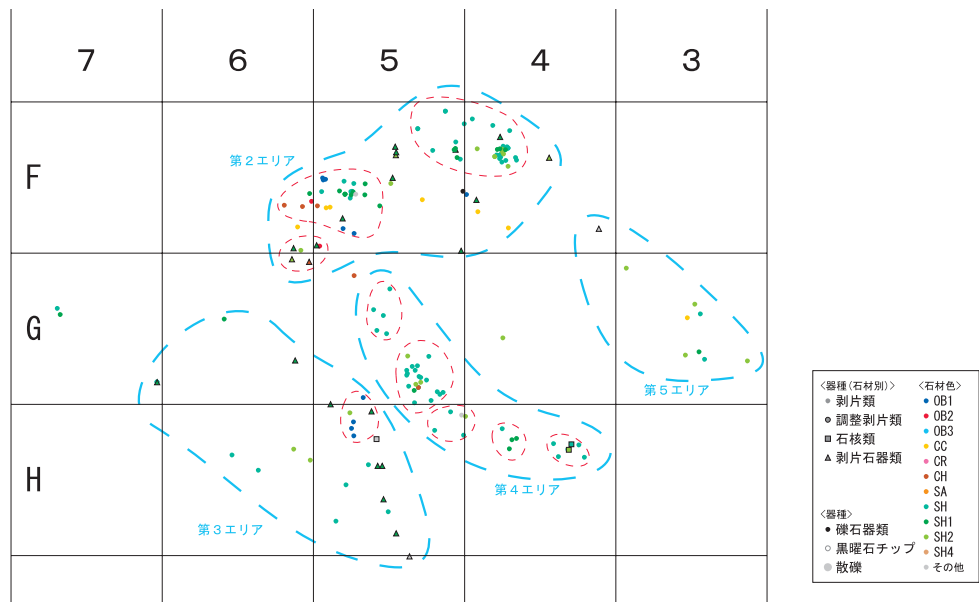




第143図 第I文化層第1エリア石器出土状況図



第144図 第I文化層第1エリア出土石器実測図



第145図 第I文化層第2エリア～第5エリア配置図

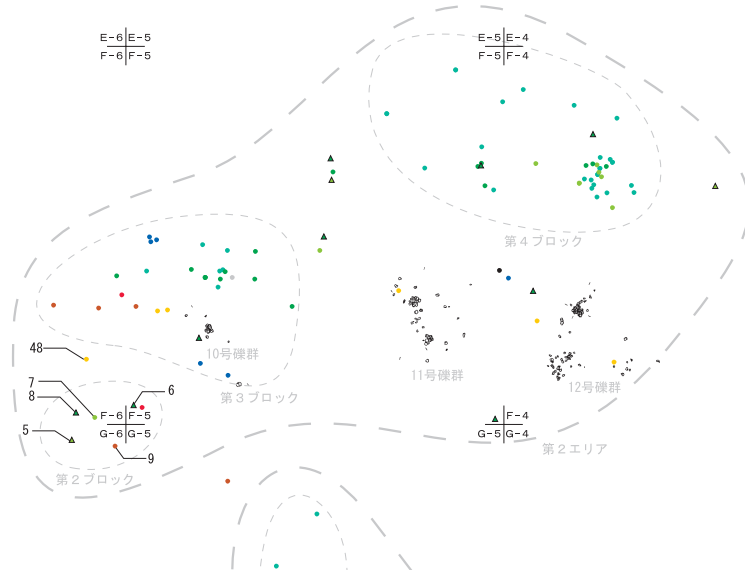
E-7|E-6
F-7|F-6

E-6|E-5
F-6|F-5

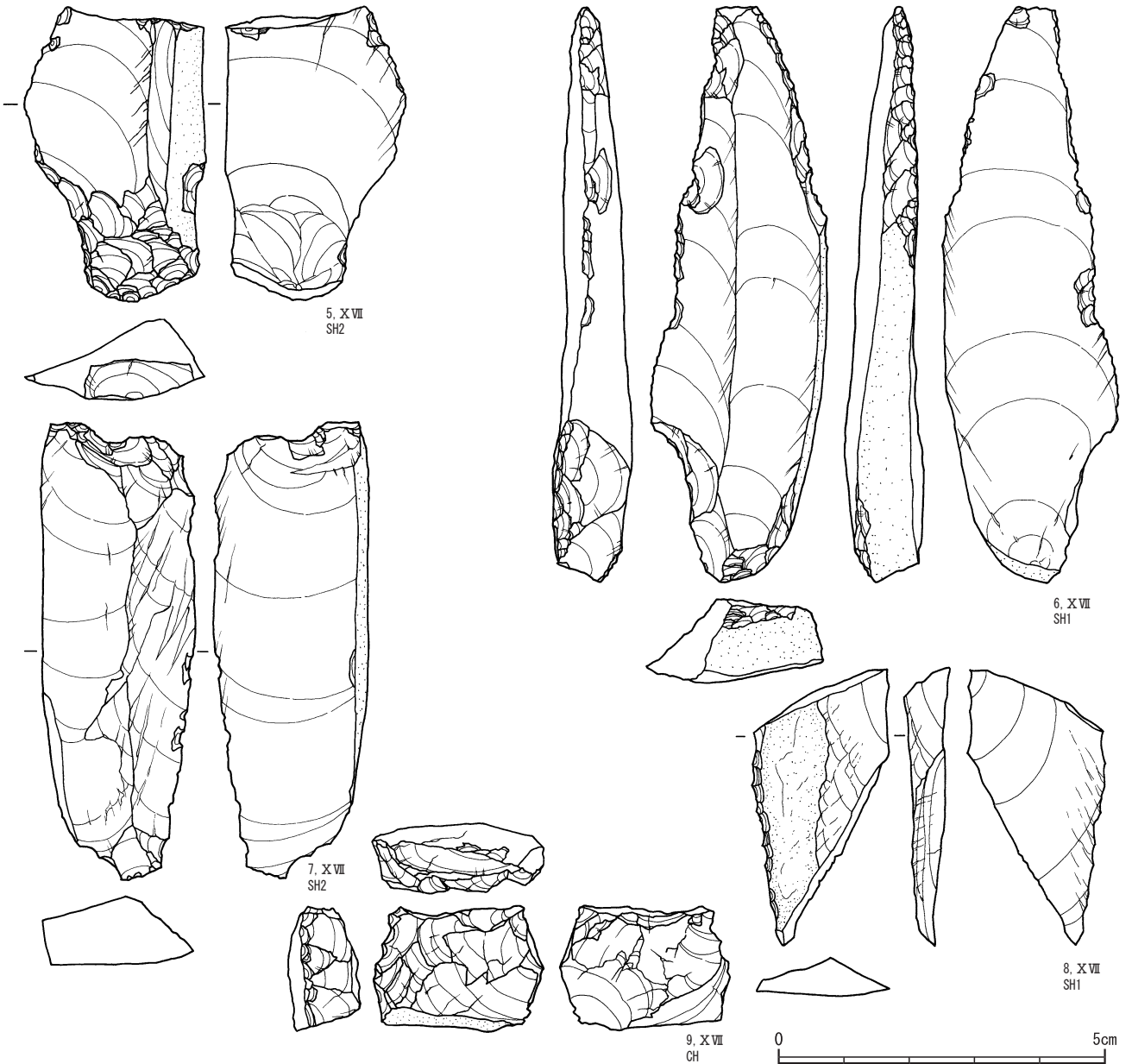
E-5|E-4
F-5|F-4

E-4|E-3
F-4|F-3

F-7|F-6
G-7|G-6



第146図 第I文化層第2エリア第2ブロック石器出土状況図



第147図 第I文化層第2エリア第2ブロック出土石器実測図

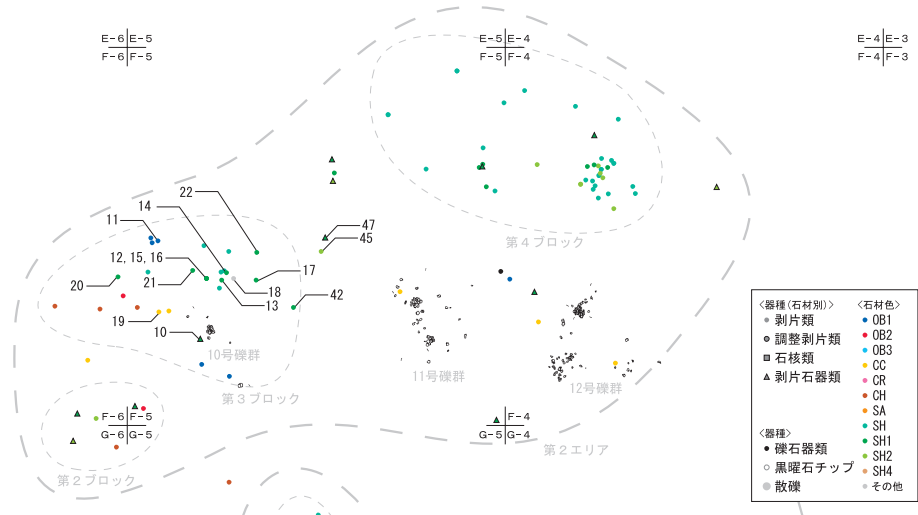
E-7|E-6
F-7|F-6

E-6|E-5
F-6|F-5

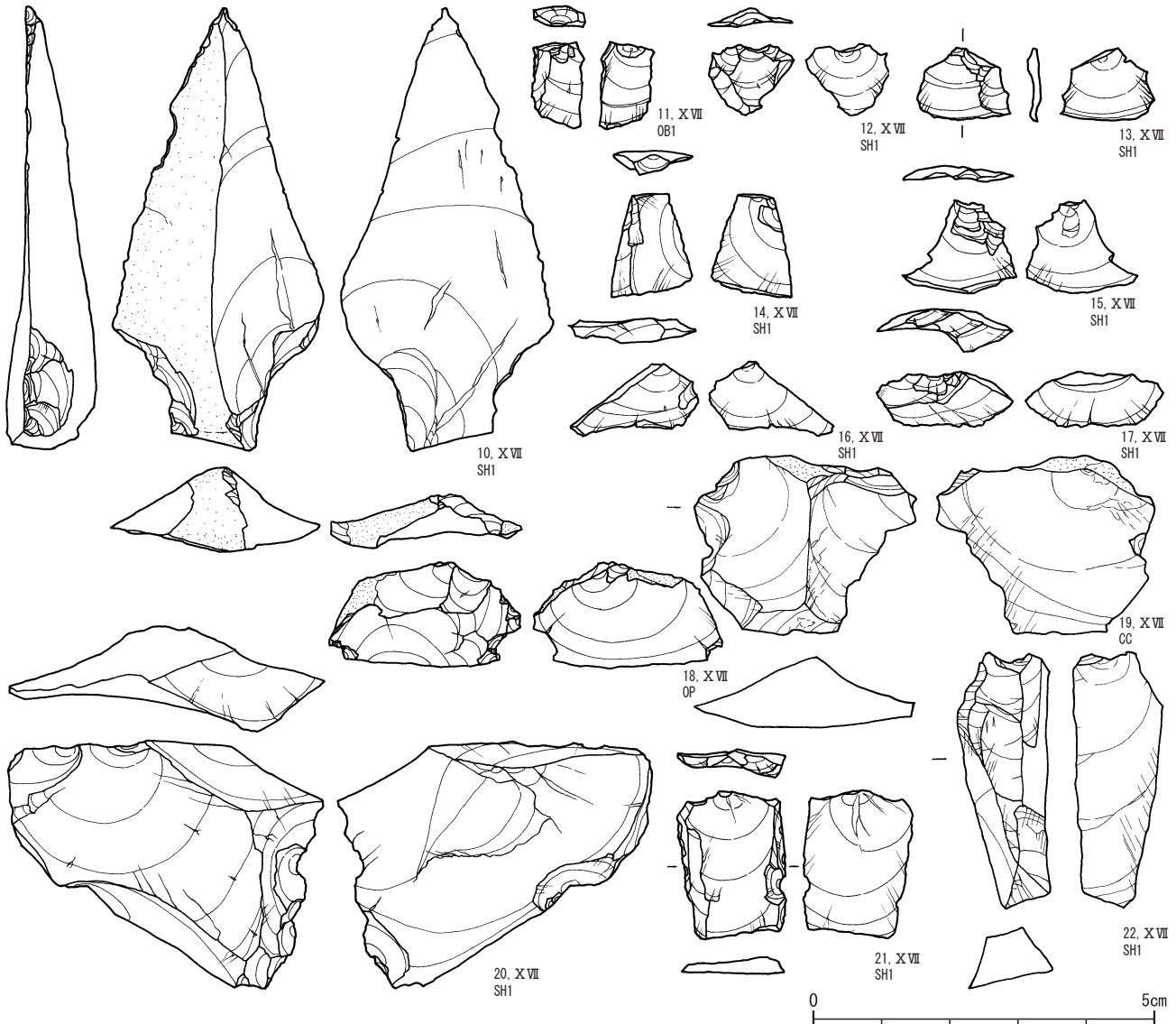
E-4|E-3
F-4|F-3

F-7|F-6
G-7|G-6

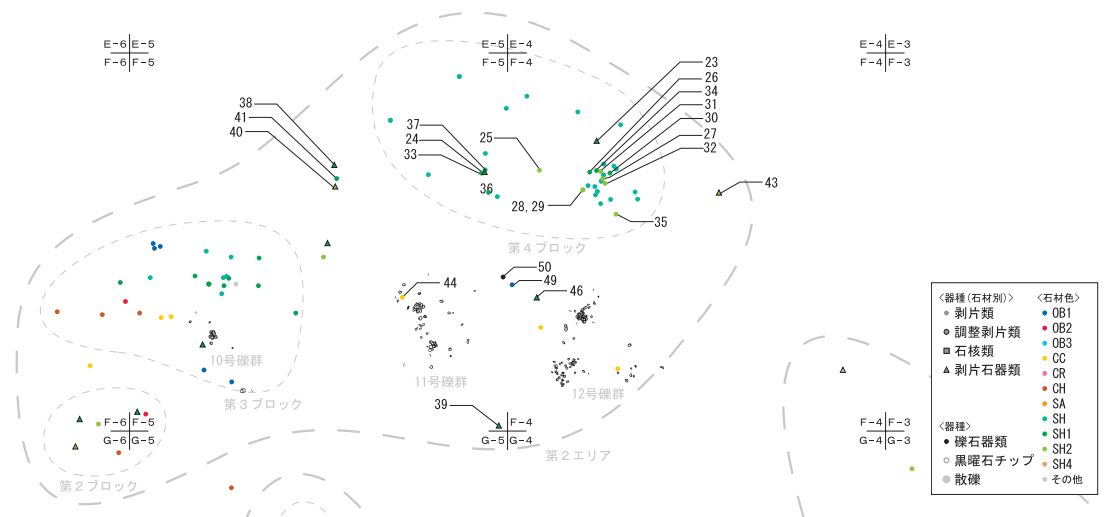
F-4
G-5|G-4



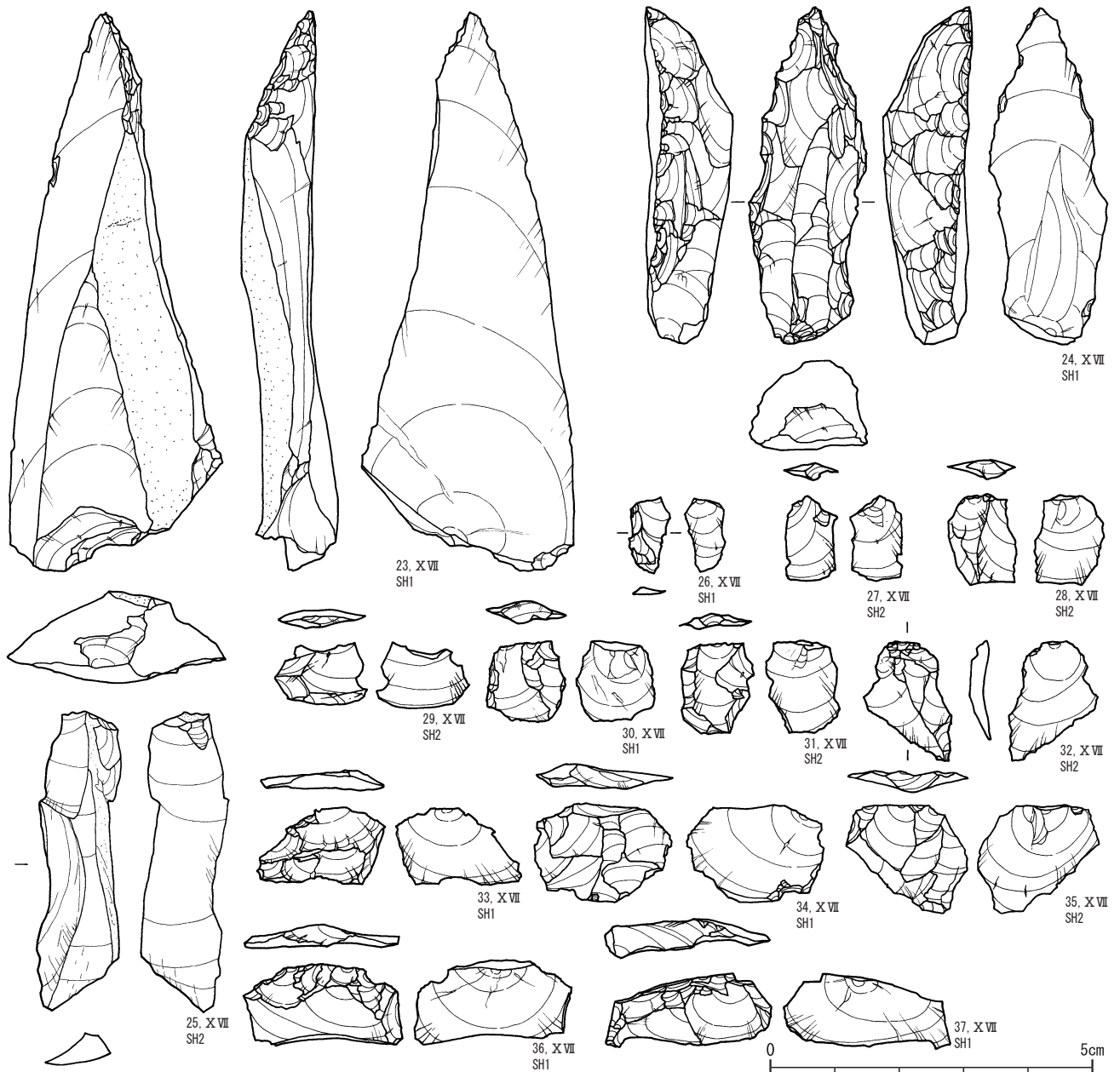
第148図 第I文化層第2エリア第3ブロック石器出土状況図



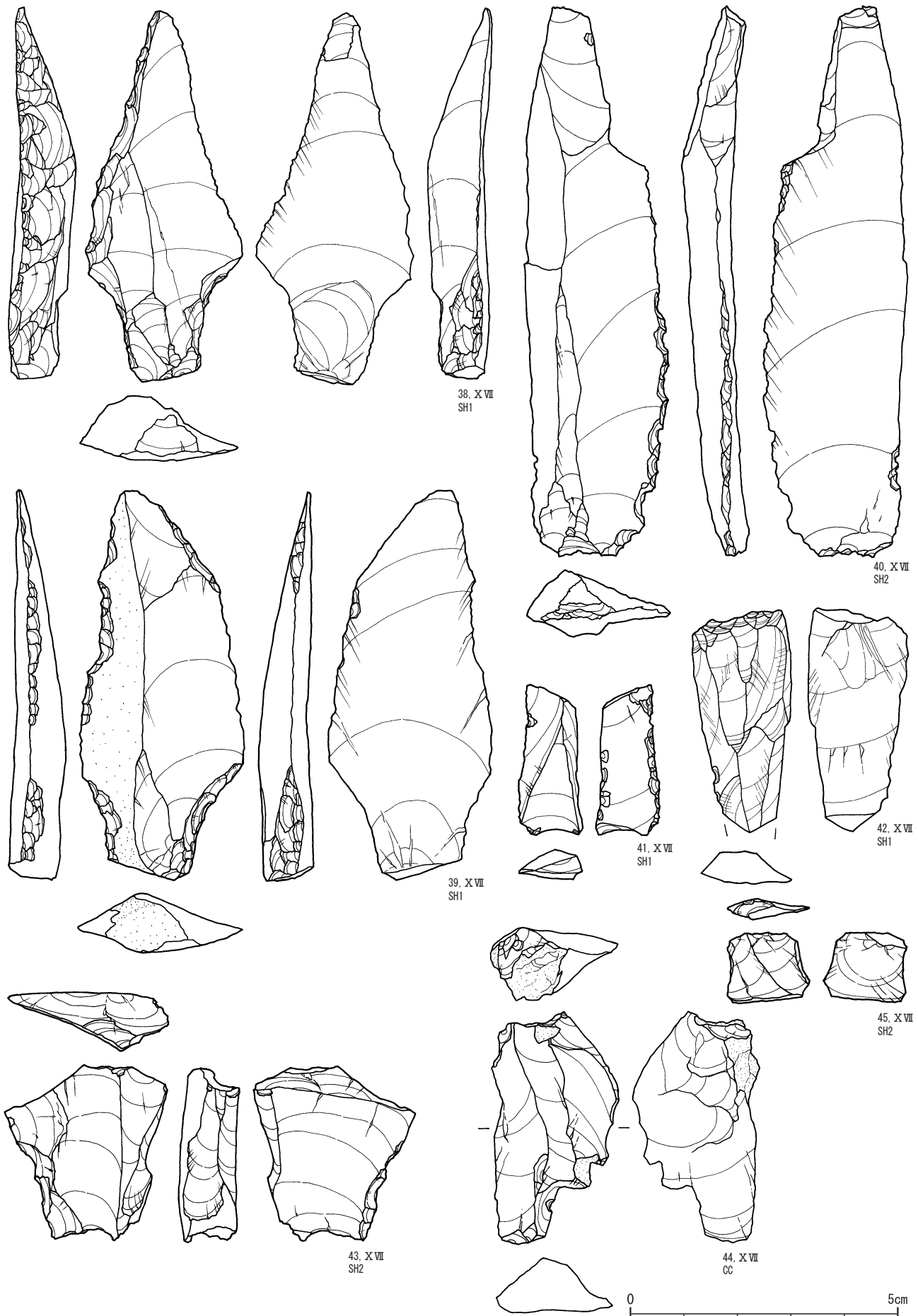
第149図 第I文化層第2エリア第3ブロック出土石器実測図



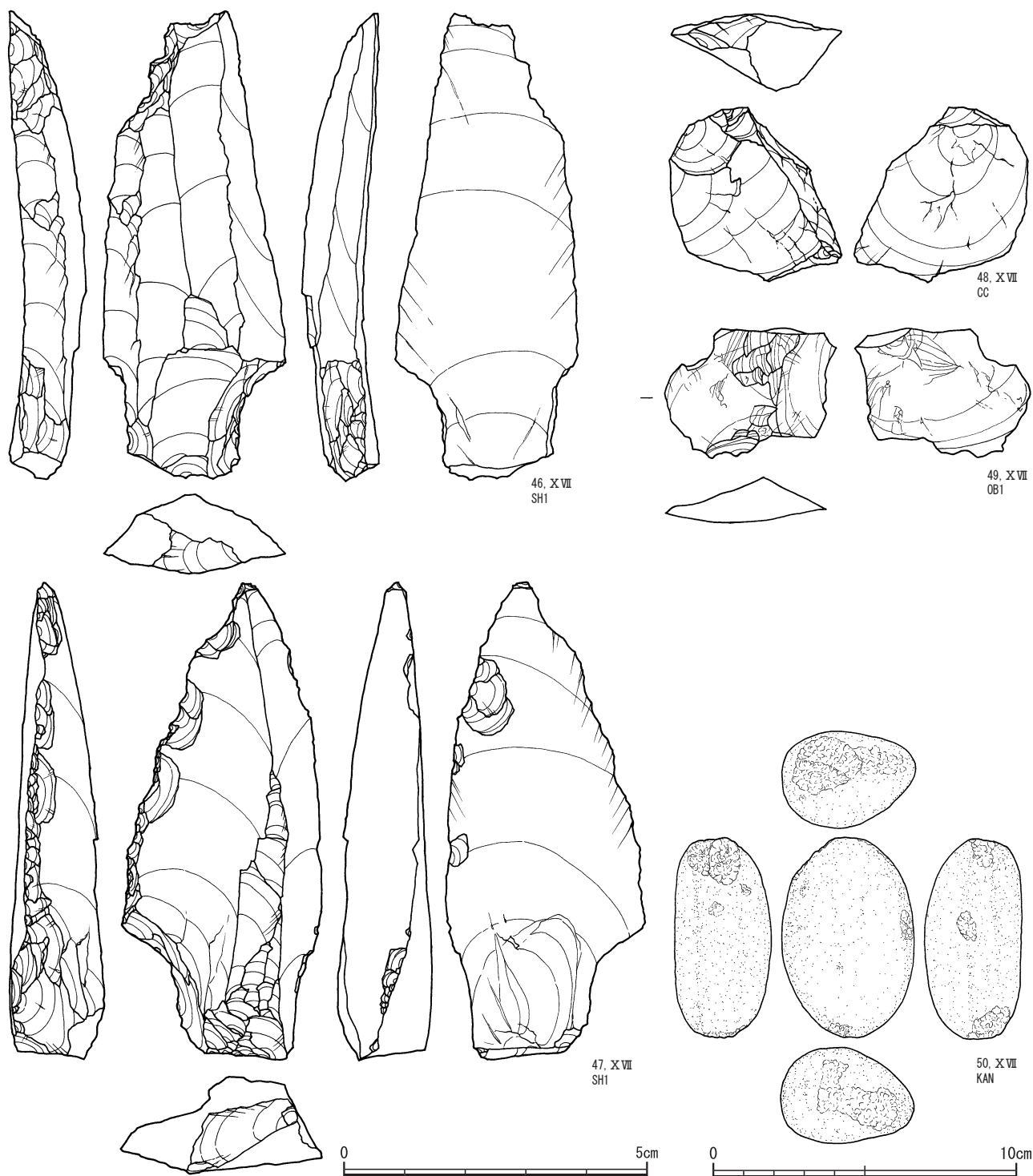
第150図 第I文化層第2エリア第4ブロック石器出土状況図



第151図 第I文化層第2エリア第4ブロック出土石器実測図



第152図 第I文化層第2エリアブロック外出土石器実測図(1)



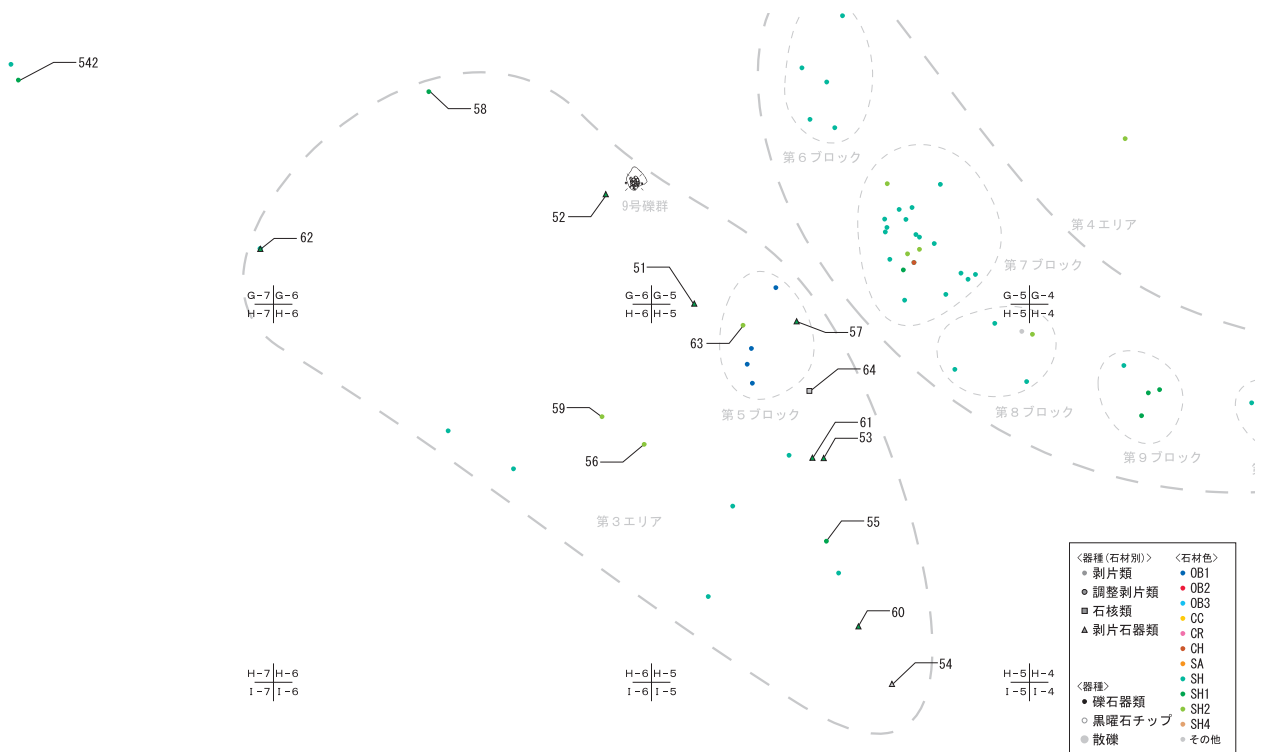
第153図 第I文化層第2エリアブロック外出土石器実測図(2)

第24表 第I文化層第1エリア出土石器観察表

標本No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)	接合No
144 1	A01	B00	角錐状石器	-	SH	34.1	16.6	11.9	3.8	○68302(B-13/XVII)	-
144 2	A01	B00	微細剥離痕剥片	-	SH1	30.5	21.1	5.4	3.0	◎24234(A-12/XVII)	-
144 3	A01	B00	削器	-	SH1	37.3	33.3	14.8	16.8	◎24229(あ-13/XVII)	-
144 4	A01	B00	削器	-	SH1	34.1	48.5	7.3	14.8	◎21248(A-11/XVII上)	-

第25表 第I文化層第2エリア出土石器観察表(1)

標本No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)	接合No
147 5	A02	B02	剥片尖頭器	-	SH2	45.2	27.9	12.6	12.6	○63509(G-6/XVII)	-
147 6	A02	B02	剥片尖頭器	-	SH1	88.5	27.2	13.1	26.4	○63511(F-5/XVII)	-
147 7	A02	B02	縦長剥片	-	SH2	70.2	24.2	10.9	19.5	○63508(F-6/XVII)	-
147 8	A02	B02	微細剥離痕剥片	-	SH1	42.3	21.4	7.4	4.3	○63507(F-6/XVII)	-
147 9	A02	B02	削器	-	CH	19.3	26.3	11.0	6.4	○63510(G-6/XVII)	-
149 10	A02	B03	剥片尖頭器	-	SH1	65.1	31.4	12.7	13.5	○63526(F-5/XVII)	-
149 11	A02	B03	剥片	-	OB1	13.0	8.3	3.4	0.3	○63497(F-5/XVII)	-
149 12	A02	B03	剥片	-	SH1	10.7	12.5	3.0	0.2	○63523(F-5/XVII)	-
149 13	A02	B03	剥片	-	SH1	10.9	14.1	2.0	0.2	○63524(F-5/XVII)	-
149 14	A02	B03	剥片	-	SH1	15.3	12.0	3.8	0.5	○63573(F-5/XVII)	-
149 15	A02	B03	剥片	-	SH1	13.8	16.5	2.6	0.3	○63523(F-5/XVII)	-
149 16	A02	B03	剥片	-	SH1	11.1	18.4	3.9	0.5	○63523(F-5/XVII)	-
149 17	A02	B03	剥片	-	SH1	8.4	20.4	6.5	0.5	○63521(F-5/XVII)	-



第154図 第I文化層第3エリア石器出土状況図

の集中単位を「エリア」と呼称する。「エリア」の認定にあたっては石材別の分布や周辺の微地形、遺構の分布状況、石器の接合状況等を総合的に勘察したが、「エリア」の認定については作業上の便宜的な設定であることを断っておく。

なお、各遺物の出土層位や所属ブロックは図番号や観察表に記載した。

2 遺物

第1エリア

桐木遺跡A~C-10~14区で、第1ブロックを取り巻く広いエリア(30m四方)で、第1ブロックの周辺からは、2号~8号の計7基の礫群が検出され、石器群と濃密な関係を示している。

頁岩I類、玉髄等が確認できるが、掲載した石器は全て頁岩I類を使用している。

第1エリアの1は角錐状石器の先端部で、背部は両方向から繰り返し整形した入念な加工が見られる。3は頁岩I類を第26表 第I文化層第2エリア出土石器観察表(2)

探跡No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)	接合No
149	18	A02	B03	剥片	-	OP	15.8	28.0	8.1	2.1	○63522(F-5/XVII)	-
149	19	A02	B03	剥片	-	CC	26.4	32.2	11.5	7.6	○63514(F-5/XVII)	-
149	20	A02	B03	剥片	-	SH1	36.4	46.3	15.7	15.7	○63499(F-6/XVII)	-
149	21	A02	B03	剥片	-	SH1	22.0	16.3	4.5	1.1	○63516(F-5/XVII)	-
149	22	A02	B03	剥片	-	SH1	37.7	13.4	10.6	3.6	○63520(F-5/XVII)	-
151	23	A02	B04	ナイフ形石器	-	SH1	87.0	33.2	14.5	29.5	○63431(F-4/XVII)	-
151	24	A02	B04	角錐状石器	-	SH1	52.5	18.7	14.2	12.6	○63473(F-5/XVII)	-
151	25	A02	B04	剥片	-	SH2	46.8	13.9	5.0	2.6	○63466(F-4/XVII)	-
151	26	A02	B04	剥片	-	SH1	11.6	6.5	1.5	0.1	○63449(F-4/XVII)	-
151	27	A02	B04	剥片	-	SH2	13.4	8.3	2.9	0.2	○63447(F-4/XVII)	-
151	28	A02	B04	剥片	-	SH2	14.2	11.1	3.3	0.3	○63453(F-4/XVII)	-
151	29	A02	B04	剥片	-	SH2	10.4	14.6	3.1	0.3	○63453(F-4/XVII)	-
151	30	A02	B04	剥片	-	SH1	12.7	12.4	3.8	0.3	○63440(F-4/XVII)	-
151	31	A02	B04	剥片	-	SH2	14.6	11.7	2.7	0.3	○63438(F-4/XVII)	-
151	32	A02	B04	剥片	-	SH2	18.8	14.0	3.5	0.5	○63445(F-4/XVII)	-
151	33	A02	B04	剥片	-	SH1	12.2	19.6	3.4	0.6	○63472(F-5/XVII)	-
151	34	A02	B04	剥片	-	SH1	15.3	21.5	4.1	1.1	○63448(F-4/XVII)	-

使用し、板状の厚手の剥片の腹面を正面とした削器で3面に刃部を形成する。なお、左側面では、逆方向の刃部が造られる。4も頁岩I類を使用し、扁平な剥片の3面を削器として用いている。

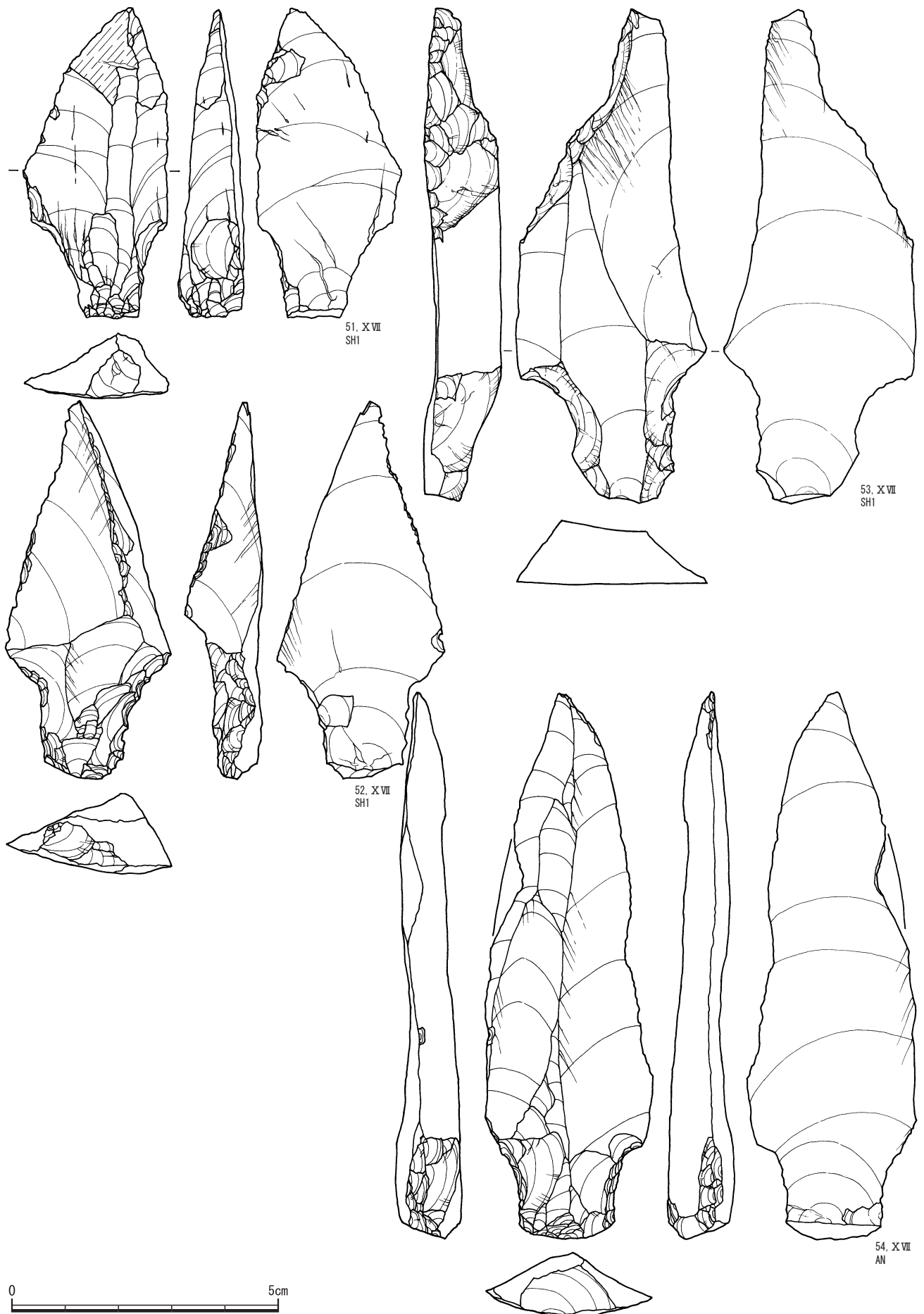
第2エリア

第2エリアから第5エリアは、桐木遺跡の北端F~H-3~7区に集中して分布し、9号~12号の4基の礫群と分布を一にする。10号礫群に接し、その中間部に第2・第3ブロックが、11号・12号礫群が、第4ブロック接する位置に形成される。地形からは、礫群より若干高い外側に石器群が残される状態で検出されている。第4エリアの第6~第10ブロックは弧状に並ぶ状況がみられるが、第6ブロックと第3エリアの中間部に9号礫群が設けられている。

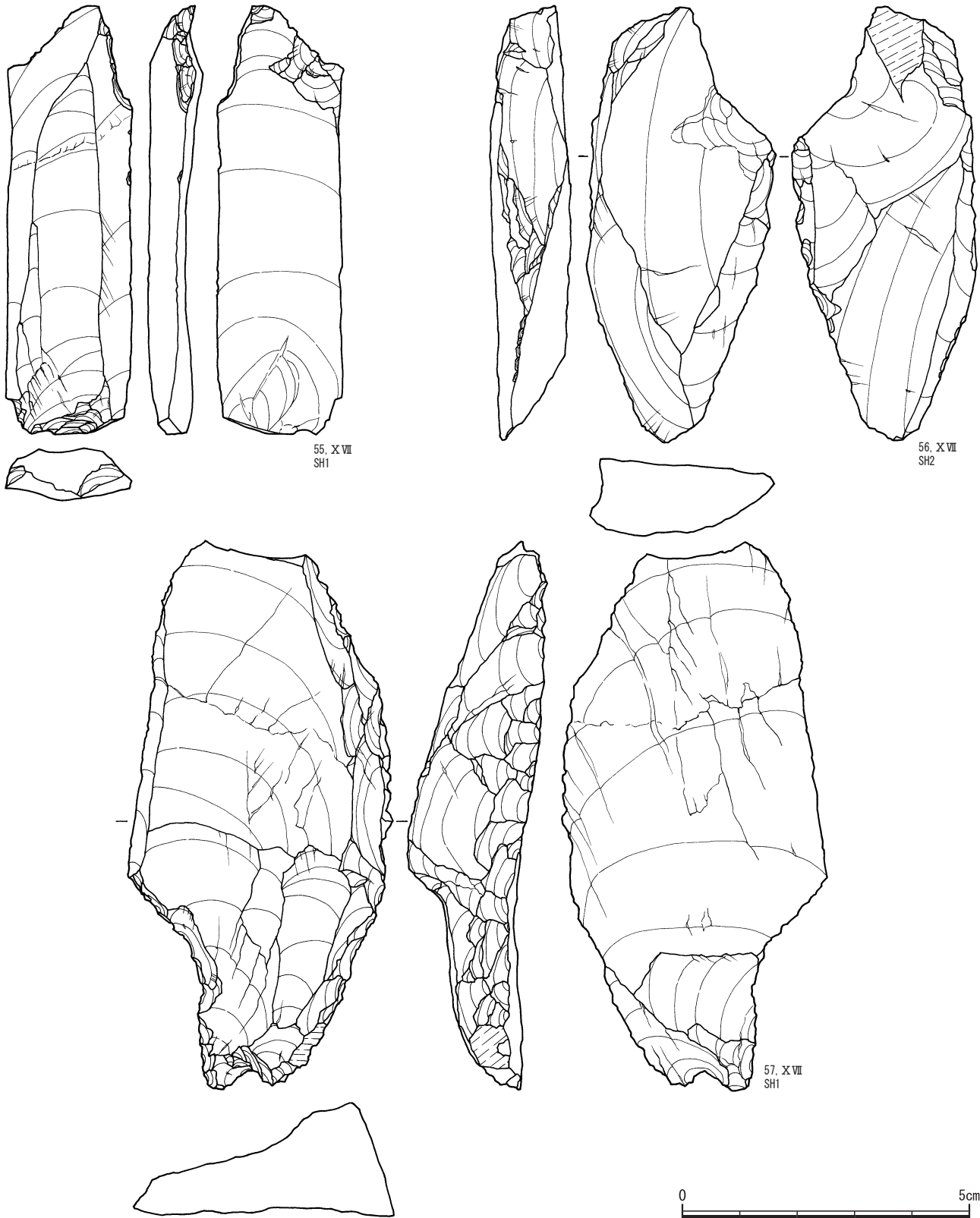
石器群は第2~第4の3ブロックで構成され、使用石材は頁岩(頁岩I類、頁岩II類)を主体とし、黒曜石I類、玉髄等が数点含まれる。

第2ブロックの2点の剥片尖頭器(5・6)と縦長剥片(7)を第27表 第I文化層第2エリア出土石器観察表(3)

探跡No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)	接合No
151	35	A02	B04	剥片	-	SH2	17.0	19.0	3.6	0.7	○63462(F-4/XVII)	-
151	36	A02	B04	剥片	-	SH1	13.3	24.6	4.0	1.0	○63467(F-5/XVII)	-
151	37	A02	B04	剥片	-	SH1	11.9	26.1	6.4	1.3	○63569(F-5/XVII)	-
152	38	A02	B00	剥片尖頭器	-	SH1	69.7	29.7	12.4	17.3	○63488(F-5/XVII)	-
152	39	A02	B00	剥片尖頭器	-	SH1	73.1	30.9	11.4	19.4	○63533(F-5/XVII)	-
152	40	A02	B00	削器	-	SH2	103.3	27.2	12.8	25.4	○63490(F-5/XVII)	-
152	41	A02	B00	微細剥離痕剥片	-	SH1	28.3	12.2	5.9	1.9	○63489(F-5/XVII)	-
152	42	A02	B00	剥片	-	SH1	41.9	18.9	8.4	5.8	○63529(F-5/XVII)	-
152	43	A02	B00	剥片尖頭器	-	SH2	32.9	30.5	11.3	9.8	○63465(F-4/XVII)	-
152	44	A02	B00	剥片	-	CC	43.4	23.9	13.9	9.5	○63532(F-5/XVII)	-
152	45	A02	B00	剥片	-	SH2	13.3	15.9	4.2	0.6	○63530(F-5/XVII)	-
153	46	A02	B00	剥片尖頭器	-	SH1	77.1	30.4	13.4	25.7	○63468(F-4/XVII)	-
153	47	A02	B00	剥片尖頭器	-	SH1	79.0	33.2	16.3	35.1	○63531(F-5/XVII)	-
153	48	A02	B00	剥片	-	CC	29.1	28.9	13.0	6.8	○63506(F-6/XVII)	-
153	49	A02	B00	剥片	-	OB1	21.5	29.2	7.7	3.5	○63469(F-4/XVII)	-
153	50	A02	B00	ハンマー	-	KAN	66.5	44.1	32.1	131.0	○63470(F-5/XVII)	-



第155図 第I文化層第3エリア出土石器実測図(1)



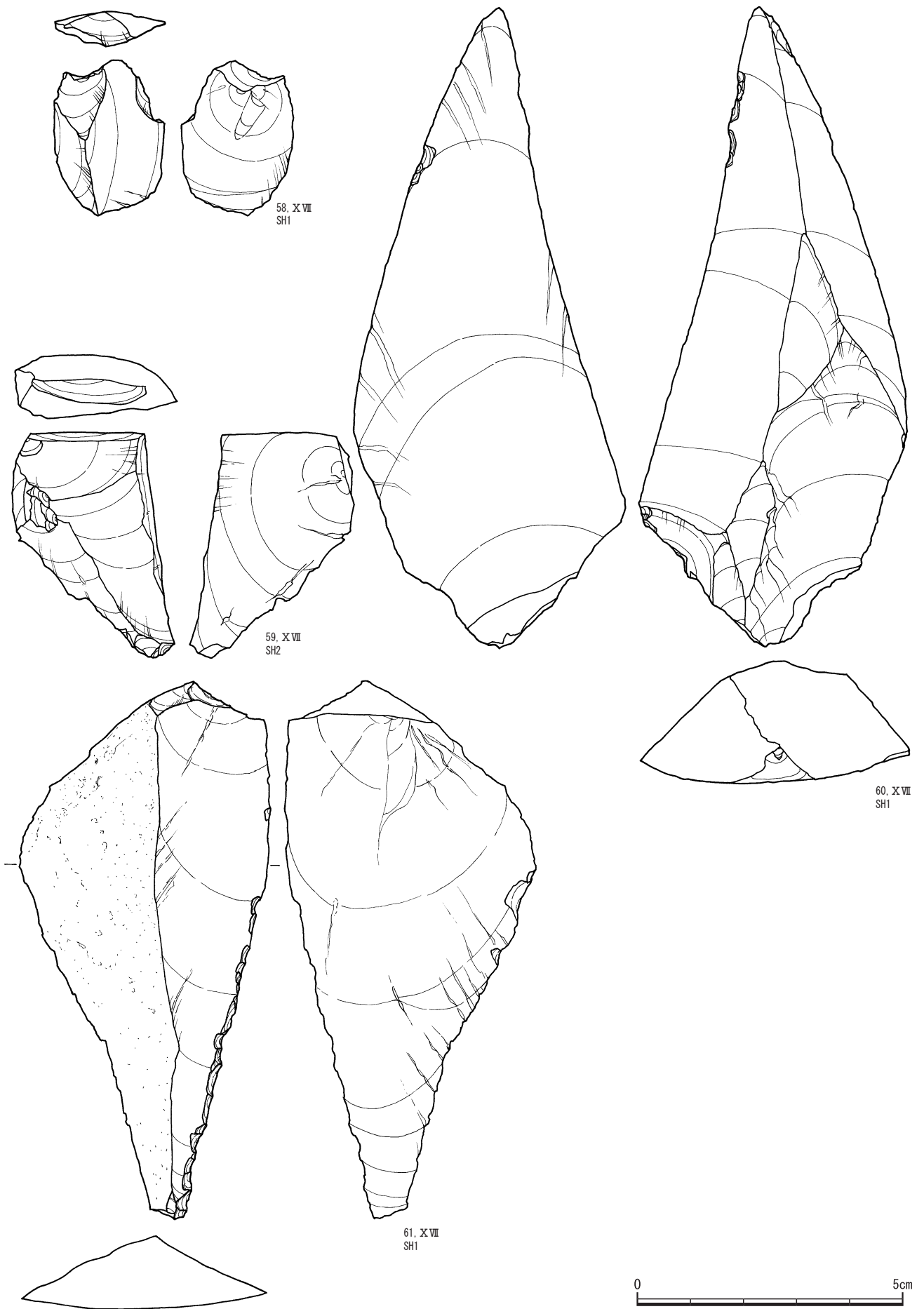
第156図 第I文化層第3エリア出土石器実測図(2)

は同一の石材を用い、共に側縁の一部に礫面を残すことから、石核を共有する可能性が高い。6は打面から右側縁に礫面をそのまま残し、先端部の両面に刃潰し加工を行っている。なお、先端部を欠損するが、円礫素材の状態を良く残している。5の背面基部は、挿入を意図したとみられる打面方向からの小剥離が繰り返されている。9はチャートを使い、

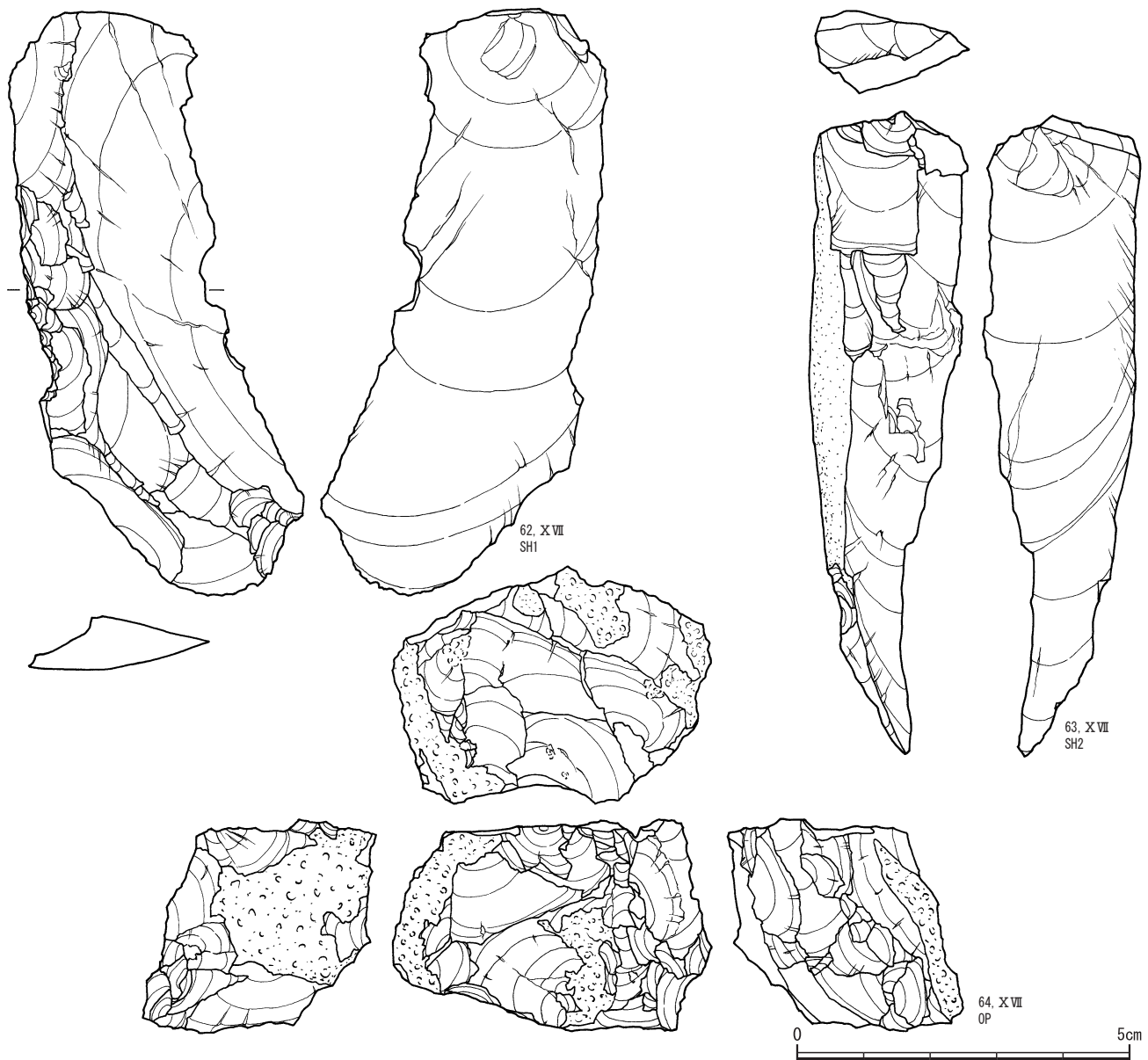
左側縁を削器に加工している。

第3ブロック10の剥片尖頭器も、打面から左側縁に連続した礫面を残し、加工は基部を中心に行い、左側縁先端部にわずかに刃潰しがみられる。

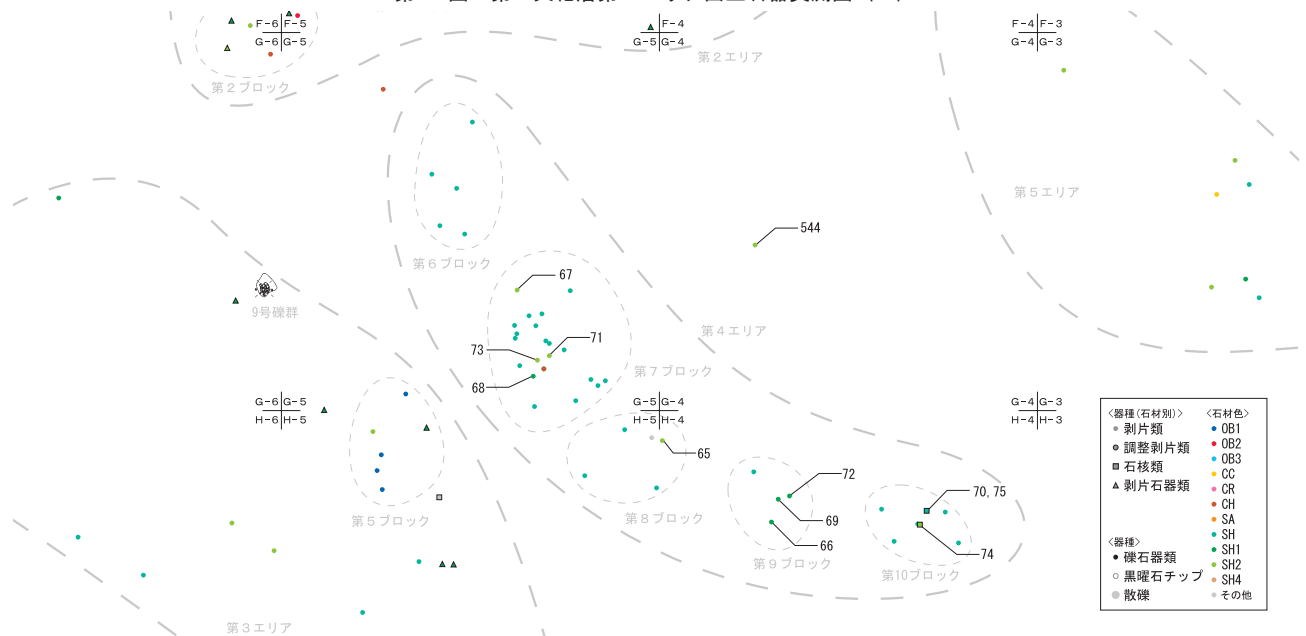
第4ブロックでは、先端部加工のナイフ形石器(23)と(24)の角錐状石器を確認でき、2点とも頁岩I類を使用する。



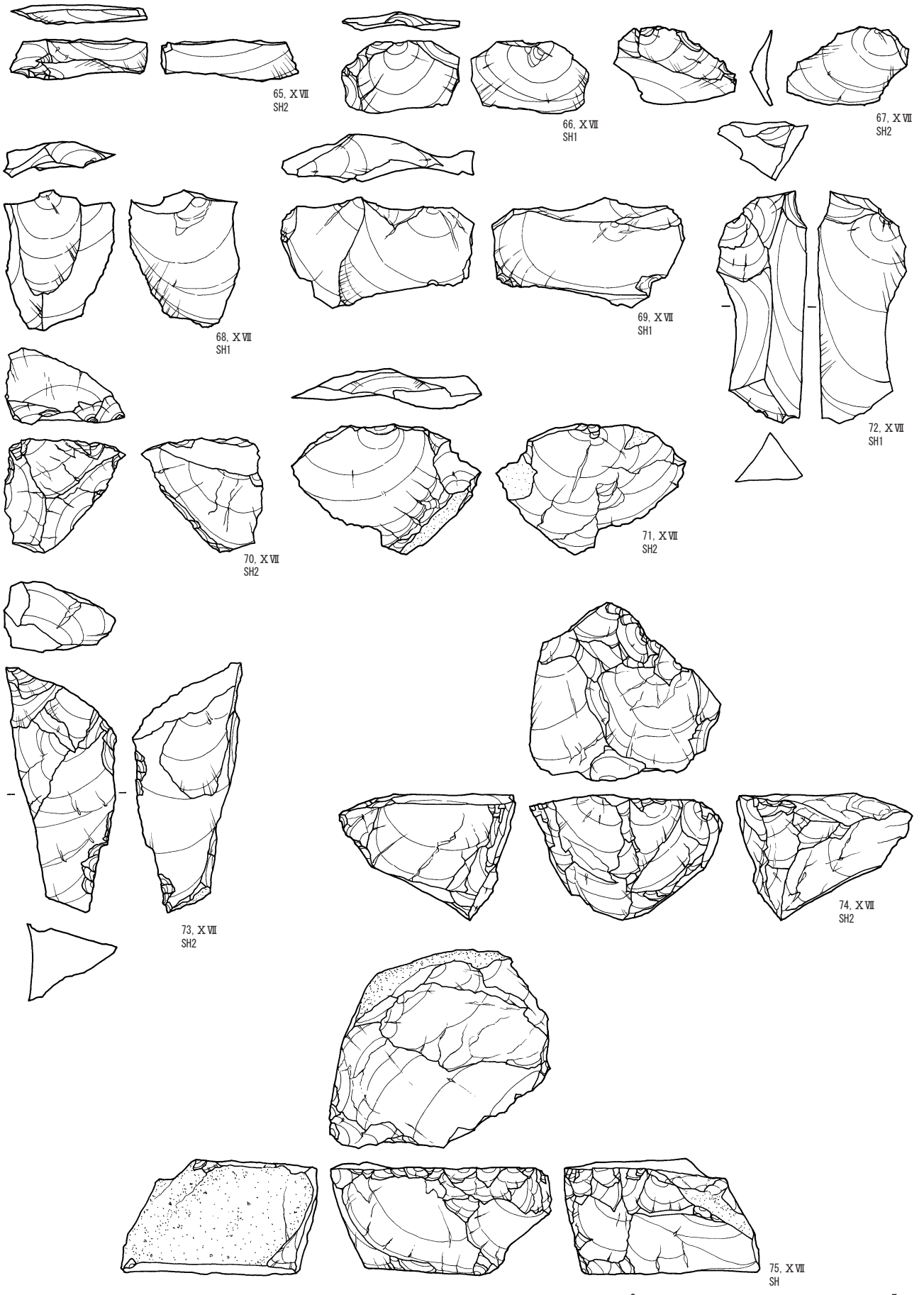
第157図 第I文化層第3エリア出土石器実測図(3)



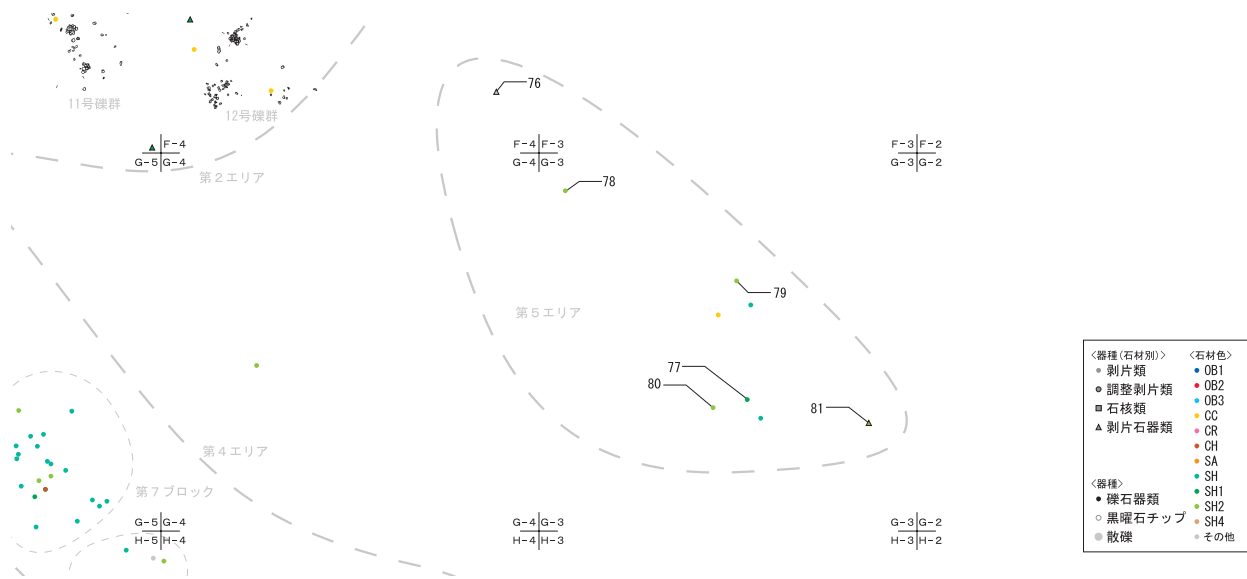
第158図 第I文化層第3エリア出土石器実測図(4)



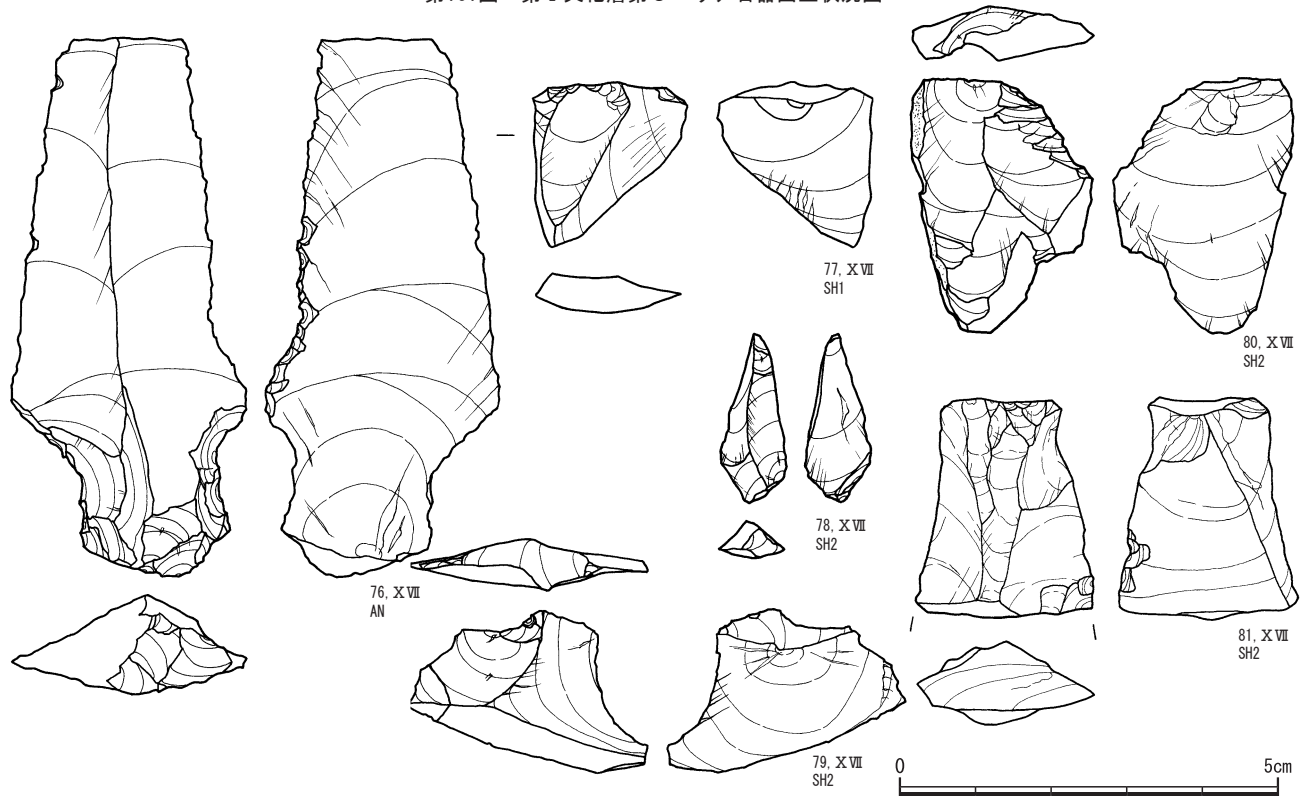
第159図 第I文化層第4エリア石器出土状況図



第160図 第I文化層第4エリア出土石器実測図



第161図 第I文化層第5エリア石器出土状況図



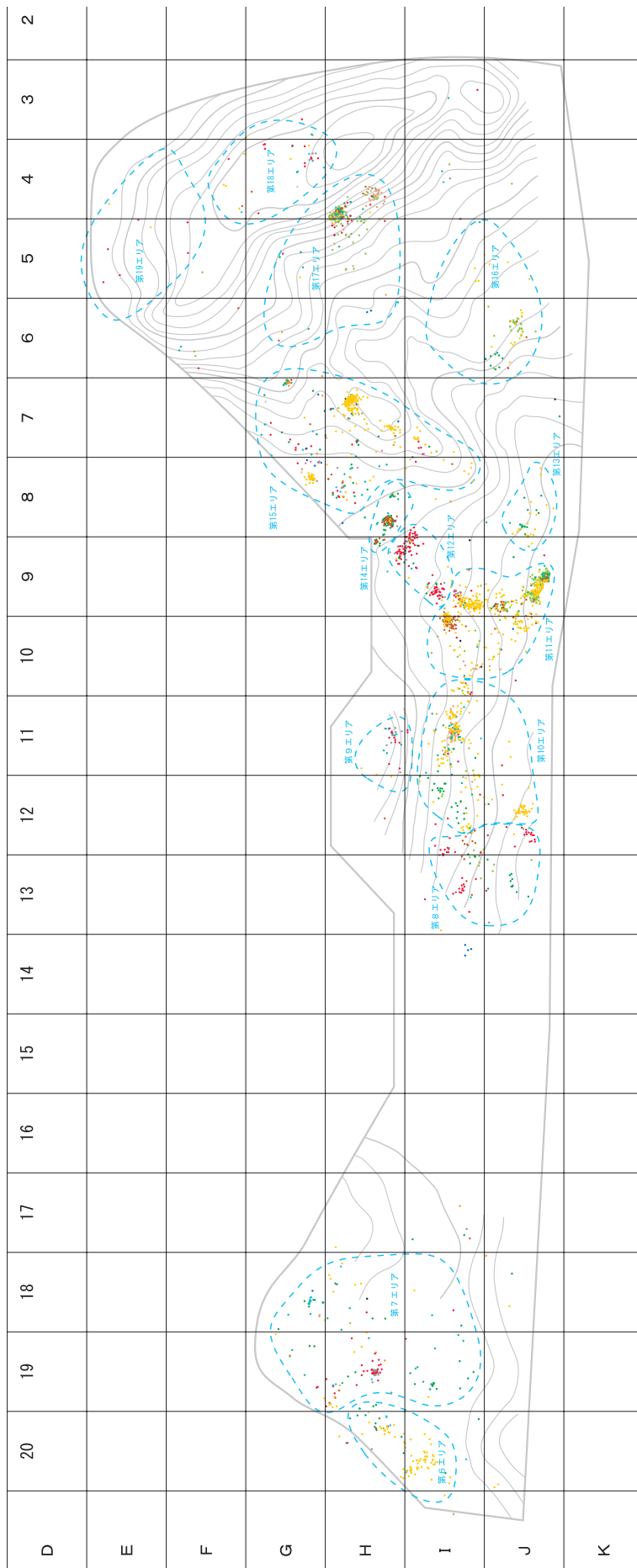
第162図 第I文化層第5エリア出土石器実測図

第28表 第I文化層第3～第5エリア出土石器観察表(1)

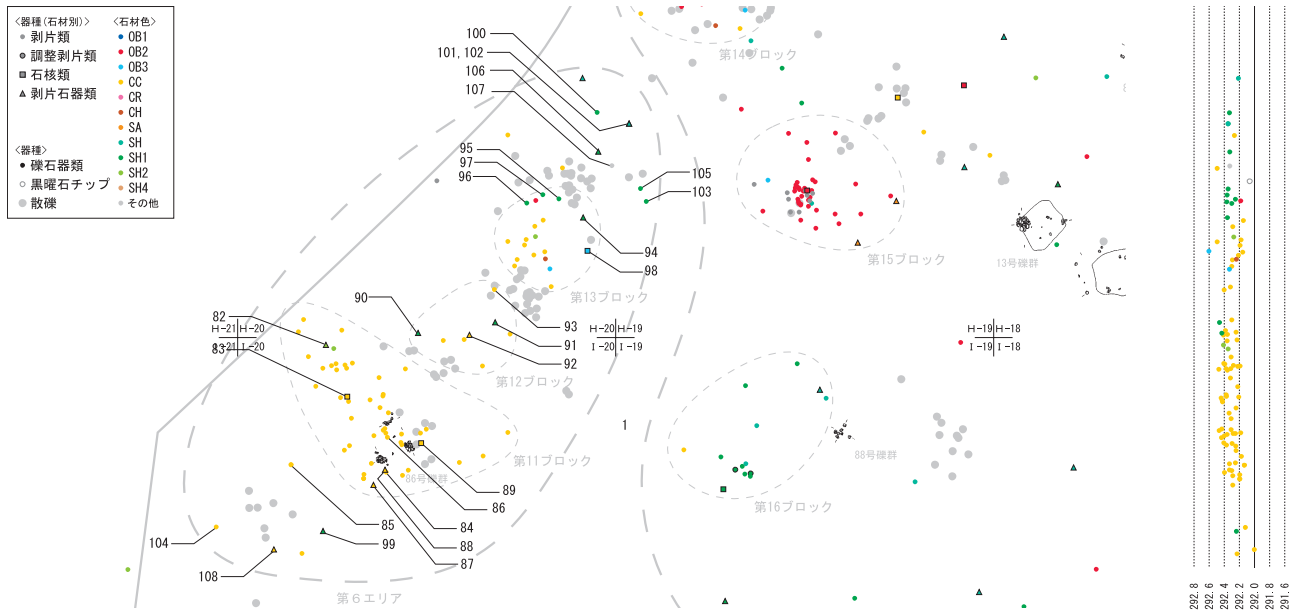
探跡No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)	接合No
155	51	A03	B00	剥片尖頭器	-	SH1	58.4	27.5	12.5	15.3	○67503(G-5/XVII)	-
155	52	A03	B00	剥片尖頭器	-	SH1	71.1	31.7	15.3	19.4	○67504(G-6/XVII)	-
155	53	A03	B00	剥片尖頭器	-	SH1	93.0	36.3	14.9	39.2	○67469(H-5/XVII)	-
155	54	A03	B00	剥片尖頭器	-	AN	103.1	32.1	12.5	30.1	○67477(I-5/XVII)	-
156	55	A03	B00	削器	-	SH1	74.9	22.4	9.4	18.1	○67474(H-5/XVII)	-
156	56	A03	B00	剥片	-	SH2	75.9	32.5	14.4	32.8	○67510(H-6/XVII)	-
156	57	A03	B05	剥片尖頭器	-	SH1	95.8	46.4	24.7	67.8	○67462(H-5/XVII)	-
157	58	A03	B00	剥片	-	SH1	29.5	21.4	6.9	3.5	○67511(G-6/XVII)	-
157	59	A03	B00	剥片	-	SH2	42.7	31.2	12.2	13.2	○67509(H-6/XVII)	-
157	60	A03	B00	二次加工後剥片	基部加工	SH1	120.8	51.3	23.4	95.4	○67476(H-5/XVII)	-
157	61	A03	B00	削器	-	SH1	101.6	47.6	16.5	52.9	○67470(H-5/XVII)	-
158	62	A03	B00	削器	-	SH1	88.5	43.3	14.6	23.2	○67505(G-7/XVII)	-
158	63	A03	B05	縦長剥片	-	SH2	96.6	23.9	12.7	21.8	○67463(H-5/XVII)	-
158	64	A03	B05	石核	-	OP	32.1	48.2	36.0	59.8	○67467(H-5/XVII)	-
160	65	A04	B08	剥片	-	SH2	8.1	25.8	3.9	0.9	○67457(H-4/XVII)	-
160	66	A04	B09	剥片	-	SH1	13.8	22.2	3.7	0.7	○63565(H-4/XVII)	-

第29表 第I文化層第3～第5エリア出土石器観察表(2)

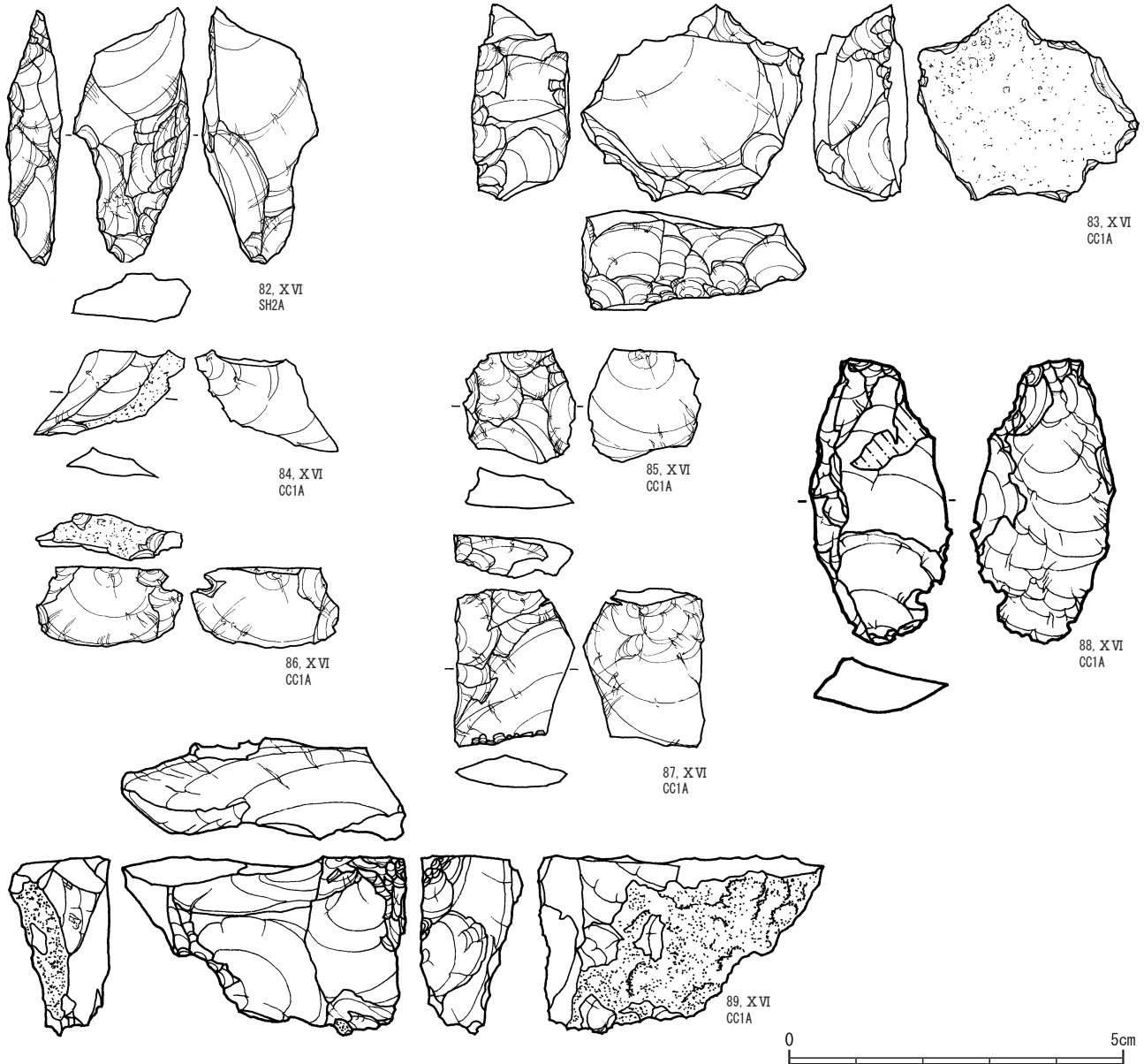
探跡No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)	接合No
160	67	A04	B07	剥片	-	SH2	15.0	22.9	5.0	1.0	○67491(G-5/XVII)	-
160	68	A04	B07	剥片	-	SH1	25.8	20.8	6.9	2.7	○67484(G-5/XVII)	-
160	69	A04	B09	剥片	-	SH1	20.8	36.2	9.3	4.6	○63567(H-4/XVII)	-
160	70	A04	B10	剥片	-	SH2	21.6	22.9	14.6	3.8	○63557(H-4/XVII)	-
160	71	A04	B07	剥片	-	SH2	24.7	35.6	7.8	4.3	○67499(G-5/XVII)	-
160	72	A04	B09	剥片	-	SH1	43.6	16.7	11.2	5.4	○63568(H-4/XVII)	-
160	73	A04	B07	剥片	-	SH2	46.8	20.7	13.5	11.5	○67486(G-5/XVII)	-
160	74	A04	B10	石核	-	SH2	23.6	36.2	33.5	22.5	○63558(H-4/XVII)	-
160	75	A04	B10	石核	-	SH	21.4	41.4	37.3	45.9	○63557(H-4/XVII)	-
162	76	A05	B00	剥片尖頭器	-	AN	71.5	31.2	13.4	20.4	○63544(F-4/XVII)	-
162	77	A05	B00	剥片	-	SH1	22.1	20.8	6.8	2.3	○63553(G-3/XVII)	-
162	78	A05	B00	剥片	-	SH2	22.6	9.0	5.2	0.6	○63545(G-3/XVII)	-
162	79	A05	B00	剥片	-	SH2	21.7	31.7	7.1	2.5	○63547(G-3/XVII)	-
162	80	A05	B00	剥片	-	SH2	33.9	24.0	7.4	3.7	○63554(G-3/XVII)	-
162	81	A05	B00	剥片	-	SH2	29.7	23.9	11.3	7.4	○63550(G-3/XVII)	-



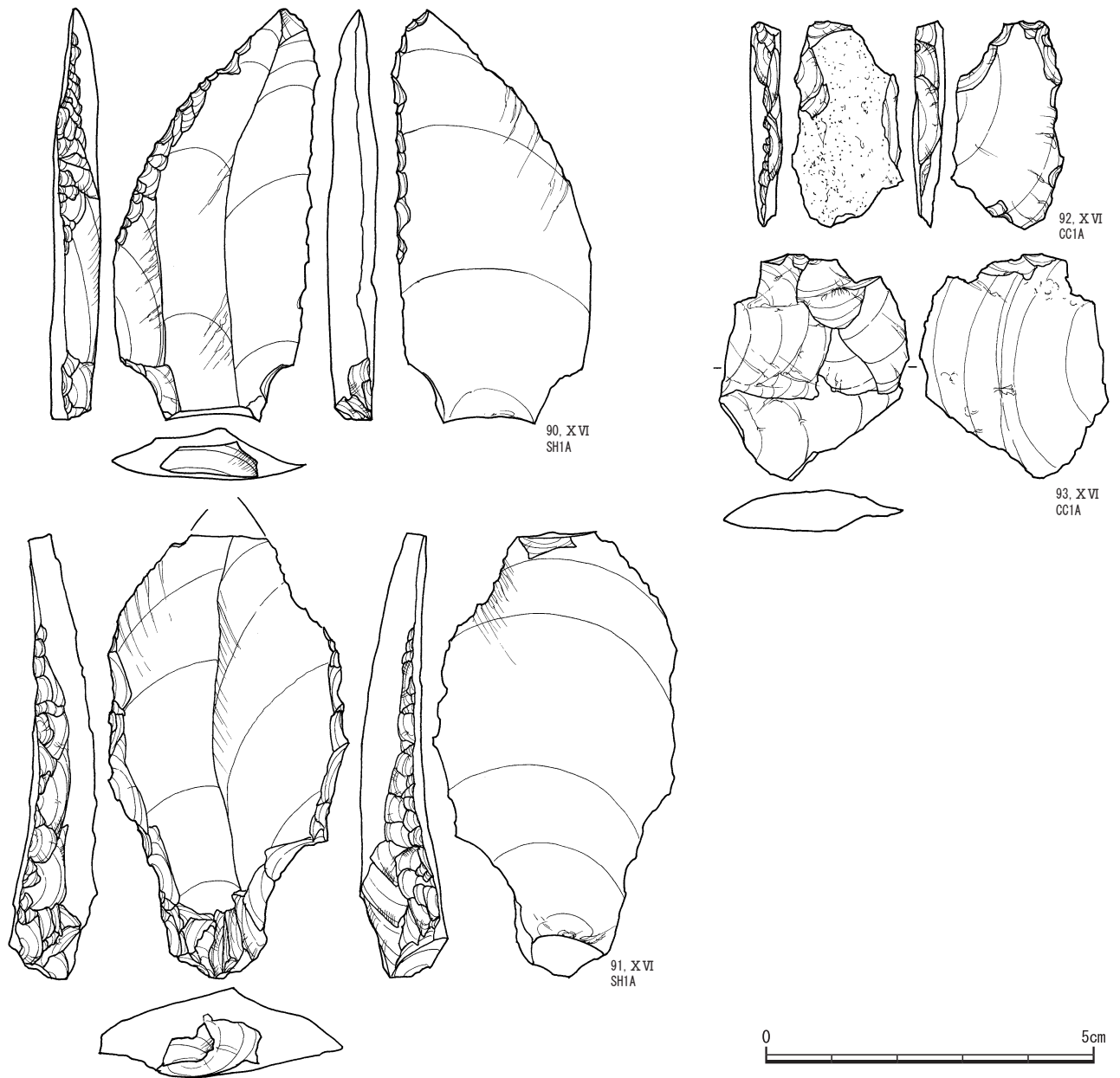
第163図 第I文化層第6～第19エリア配置図



第164図 第I文化層第6エリア石器出土状況図



第165図 第I文化層第6エリア第11ブロック出土石器実測図



第166図 第I文化層第6エリア第12ブロック出土石器実測図

ナイフ形石器からは素材剥片の形状がよく観察できる。角錐状石器は厚手の剥片素材を用い、基部を除き、両側縁から先端部に腹面からの加工に集中している。背面頂部への数回の剥離が側縁加工に先行しているが、素材剥片の形状及び剥離面を多く残している。特に、基部は素材剥片の打面をそのまま残している。25以外の剥片はその形状からブランディングチップとみられ、先の第3ブロックを含めて石器製作が行われた可能性を示している。

ブロック外出土の43は剥片尖頭器の基部と判断し、その他、剥片尖頭器(38・39・46・47)4点と縦長剥片をそのまま使用した削器(40)を確認できる。剥片尖頭器はいずれも左側縁部に刃潰し加工を行い、基部の造り出しは明確で、47の基部は挿入を意識したと想定されるリッジ調整が認められる。基部加工はいずれも明瞭に行い、38の刃潰し加工と46の先端部を急角度で行っている以外は、素材剥片の形状を活かしている。39の打面から左側縁は礫面が残り、第3ブロックの剥

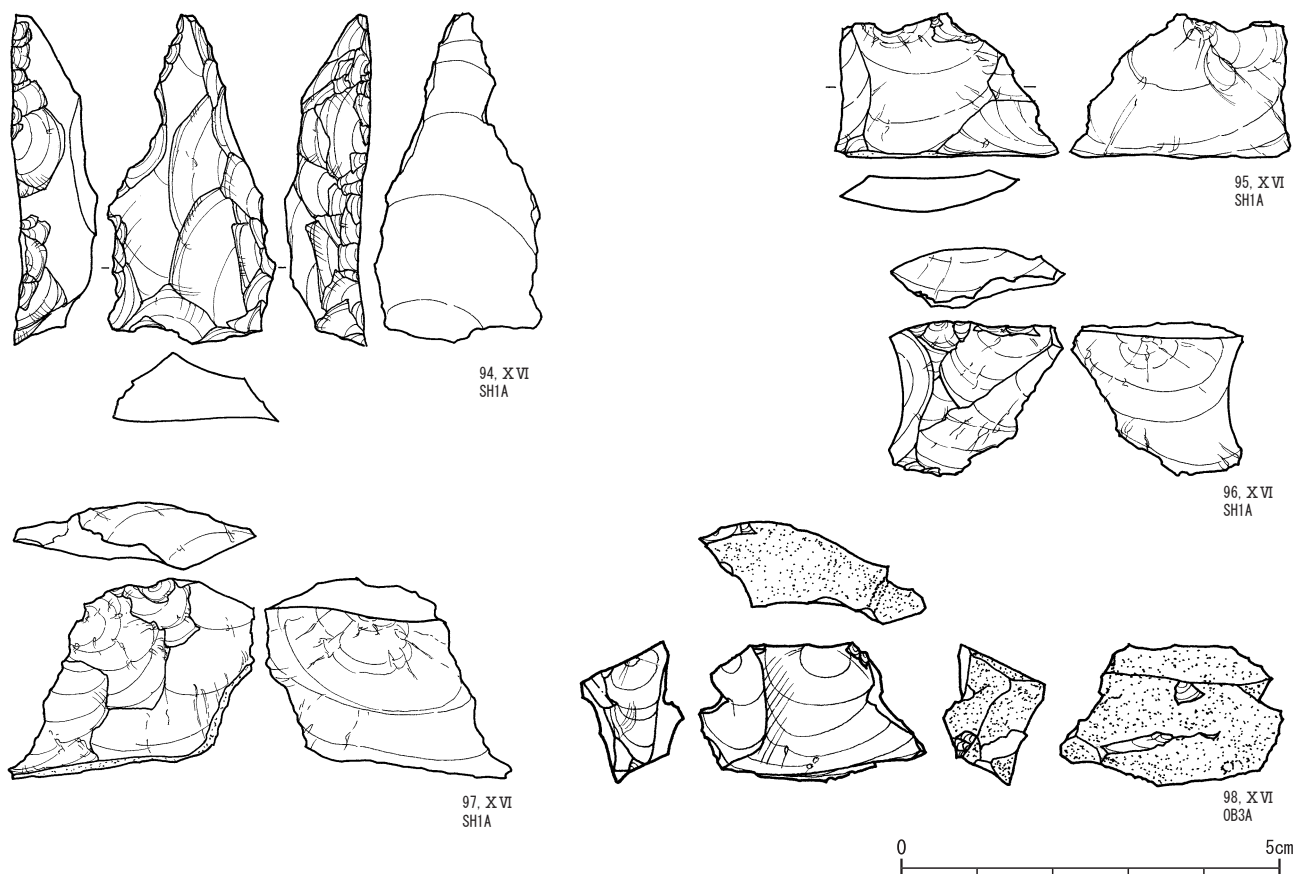
片尖頭器(10)と同一母岩を共有する可能性が高い。

50のハンマーの存在は、二次加工の作業が想定でき興味深い。

第3エリア

5点の剥片尖頭器(51~54・57)と5点の素材剥片(56・60~63)、削器(55)、石核1点(64)を確認できる。

剥片尖頭器(57)は先端部を欠くが10.2cmと大型で、基部と先端部が加工されるが素材剥片の形状を留めている。打面は除去し、また基部の腹面加工は、挿入を意図したものであろう。53の基部と左側縁部は大きく急角度の加工が行われ、特に先端部は個性的な形状に仕上げている。54が最も素材剥片の形状を残し、シンメトリーな素材選択を見ることができ。52の稜線の小剥離は、他に例を見ない個性的なものである。51・52・54の背面基部の打面側からの小剥離は、挿入を意図したリッジ調整剥離とみられる。55は端正な形状の剥片を使用したもので、先端部にそれぞれ逆方向からの剥離が



第167図 第I文化層第6エリア第13ブロック出土石器実測図

認められる。二次加工のある剥片60は12cm、剥片61は10cmと、剥片尖頭器の素材要因を満たし、同一の石核から取り出されたと判断される。

第4エリア

第6～第10の5ブロックが弧状を成して構成し、石材は頁岩が占める。

定型的石器の出土は確認できないが、横長の不定形剥片が見られ、2点の石核(74・75)からは、66や71等の不定形剥片が取り出されたとみられる。

第5エリア

76の剥片尖頭器は安山岩を用い、素材剥片の形状を活かし、基部の造り出しに終始している。他の不定形剥片は、全て頁岩である。

第4エリアの66・67、第5エリアの79等の剥片は、プランティングチップの可能性もあり、これらのエリアでは、剥片尖頭器等の大型石器を製作していたことを想定しても良さそうである。

第6エリア

耳取遺跡H・I-19～21区で、第11～第13の3ブロックで構成される。石材の主体は玉髓であり、大型石器は頁岩Ⅱ類が中心となる。なお、第11ブロックに接し、3基の小礫群で構成される86号礫群が形成されている。

第11ブロックの82は個性的なナイフ形石器で、素材剥片の形状を活かし、一側縁に腹面方向からの刃潰し加工と基部を造り出し、狸谷型ナイフ形石器類似に仕上げている。83は円形状を呈す搔器とみられ、扁平な礫面を底面にほぼ全周に刃

部を形成している。

第12ブロックの90・91は剥片尖頭器、第13ブロックの94はドリルと判断している。剥片尖頭器(90)は素材の形状を活かしながら基部と左側縁に、同じく91は基部から両側縁下半部に加工を集中している。なお、91の背面基部の小剥離による調整はリッジ調整と見られる。94のドリルは破損した剥片尖頭器の先端部を再利用したもので、破損後、腹面方向から再加工を行っている。先端部と基部左端部に微細な剥離を施し突出させている。

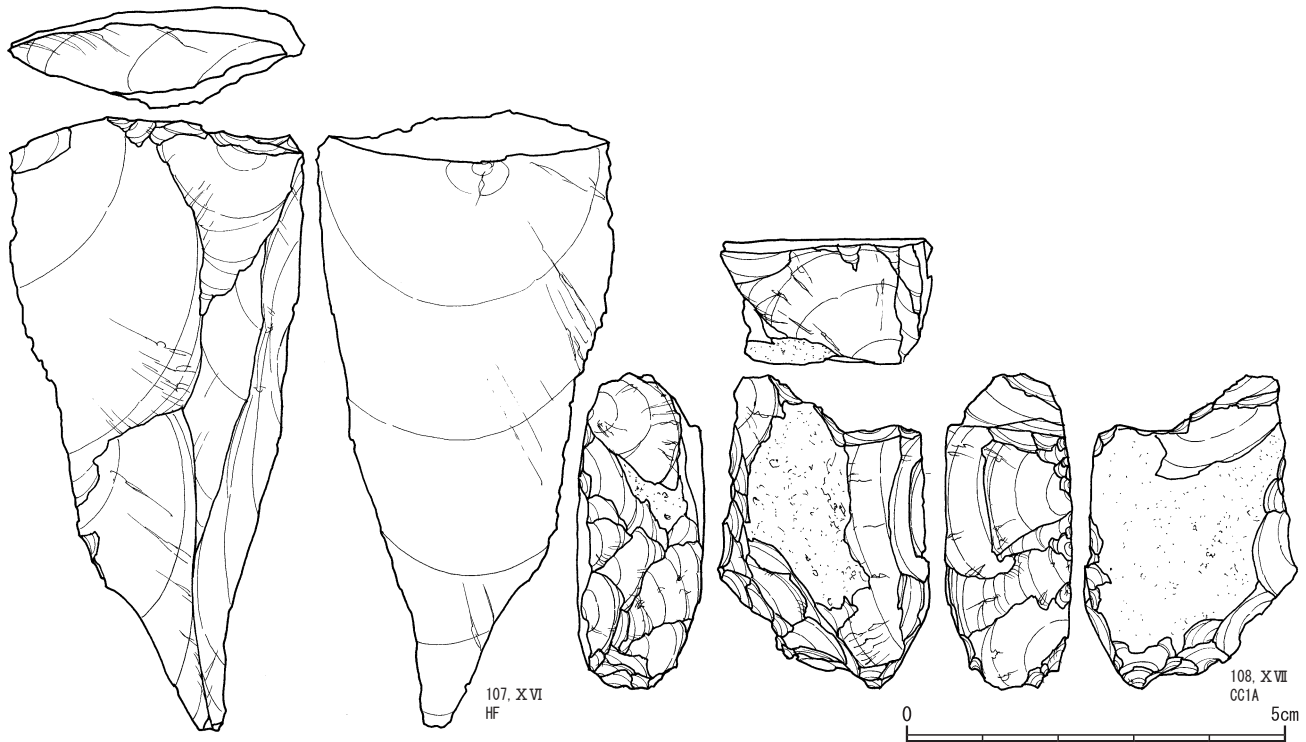
ブロック外出土の99は剥片を横方向に用いた台形様石器で、両側縁と底面に入念な刃潰し加工が見られ、打面が入念に取り除かれる。101・102は先端部を欠くが10cmを越す大型の剥片尖頭器で、平坦打面の石核から剥ぎ取られている。101は厚手の剥片で素材に重量があり、先端部の両側縁に刃潰し加工を行っているが、素材の形状を大きく変えていない。なお、基部背面はリッジ調整剥離が見られる。102も基部と先端部の一部を加工しただけで、素材の形状を活かした利用を行っている。106は欠損した剥片尖頭器の一部と見られる。100と107は、やや小振りな素材剥片で、100は均整のとれた縦長剥片である。

第7エリア

耳取遺跡G～I-18・19区で、第14～第17の4ブロックで構成される。玉髓・頁岩・黒曜石Ⅱ類等の石材使用がみられ、大型石器は頁岩が主体を占める。なお、このエリア内には、13号～16号・88号・89号の6基の礫群が形成され、87号礫群が隣接している。



第168図 第I文化層第6エリア出土石器実測図(1)



第169図 第I文化層第6エリア出土石器実測図(2)

第14ブロックの111は玉髓の石核で、分割礫素材で不定形剥片を量産したとみられる。

第15ブロックの114とエリア出土6点の内の4点(128・130・131・134)の剥片尖頭器は、いずれも先端部を欠損しており、欠損率が高い。また、第15ブロックの112は欠損した剥片尖頭器の先端部とみられ、これまた欠損事例の多い傾向を補強する。

剥片尖頭器(126)は厚手の素材剥片を用い、重量のある製品を作り出している。130を始め、ほぼ全てに基部の挿入を意識したリッジ調整が背面に認められる。131の刃潰し加工は特に急角度で、基部と刃部とが直線状を成していない。127の基部方向は欠損しているが、左側縁部には明瞭な刃潰し加工が残される。134の基部は、打面部を完全に除去した数少ない事例である。

第17ブロックの121・122は角錐状石器としたが、121は小型ナイフ形石器の可能性も考えられ、判断が難しい。

ブロック外出土の138は円形搔器である。127・132・137はナイフ形石器、129は二次加工のある剥片である。ナイフ形石器(127)は打面部を折断している。

第30表 第I文化層第6エリア出土石器観察表(1)

種別No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)	接合No
165	82	A06	B11	ナイフ形石器	-	SH2A	38.4	17.6	8.7	5.0	▲2646(H-20/XVI)	-
165	83	A06	B11	搔器	-	CC1A	29.8	33.3	15.2	14.7	▲2707(H-20/XVI)	No. 01
165	84	A06	B11	剥片	-	CC1A	15.4	21.5	6.0	1.0	▲2617(H-20/XVI)	No. 02
165	85	A06	B00	剥片	-	CC1A	17.1	17.0	6.0	1.9	▲2611(H-20/XVI)	-
165	86	A06	B11	剥片	-	CC1A	12.3	22.3	7.3	1.3	▲2622(H-20/XVI)	No. 01
165	87	A06	B11	微細剥離痕剥片	-	CC1A	23.9	18.4	6.7	2.3	▲2614(H-20/XVI)	-
165	88	A06	B11	二次加工痕剥片	-	CC1A	43.0	21.9	11.0	7.9	▲2705(H-20/XVI)	-
165	89	A06	B11	石核	-	CC1A	26.9	43.1	15.6	15.1	▲2626(H-20/XVI)	-
166	90	A06	B12	剥片尖頭器	-	SH1A	63.4	30.7	8.0	15.2	▲2656(H-20/XVI)	-
166	91	A06	B12	剥片尖頭器	-	SH1A	68.3	37.5	13.9	25.5	▲2666(H-20/XVI)	-
166	92	A06	B12	ナイフ形石器	-	CC1A	32.0	17.4	5.2	2.9	▲2658(H-20/XVI)	-
166	93	A06	B12	剥片	-	CC1A	34.4	29.0	9.1	6.9	▲2667(H-20/XVI)	-
167	94	A06	B13	ドリル	-	SH1A	43.8	22.3	11.6	9.0	▲2685(H-20/XVI)	No. 03
167	95	A06	B13	剥片	-	SH1A	19.3	29.4	5.5	3.5	▲2683(H-20/XVI)	-

140・141は台形様石器で、2点とも玉髓を石材とする。台形様石器(140)は、特に右側縁に平坦剥離状の加工が認められ、腹面基部にも剥離が及び、基部は薄く尖られる。141は丈の短い不定形剥片の形状を活かし、両側縁から基部の3面に入念な整形が認められる。155の石核からは、152・156等の幅広の不定形剥片が取り出され、小型石器の素材に給されたと見られる。一方、第16ブロックの120の石核からは、5～6cm程のやや幅広剥片を計画的に剥ぎ取る意志が見て取れる。

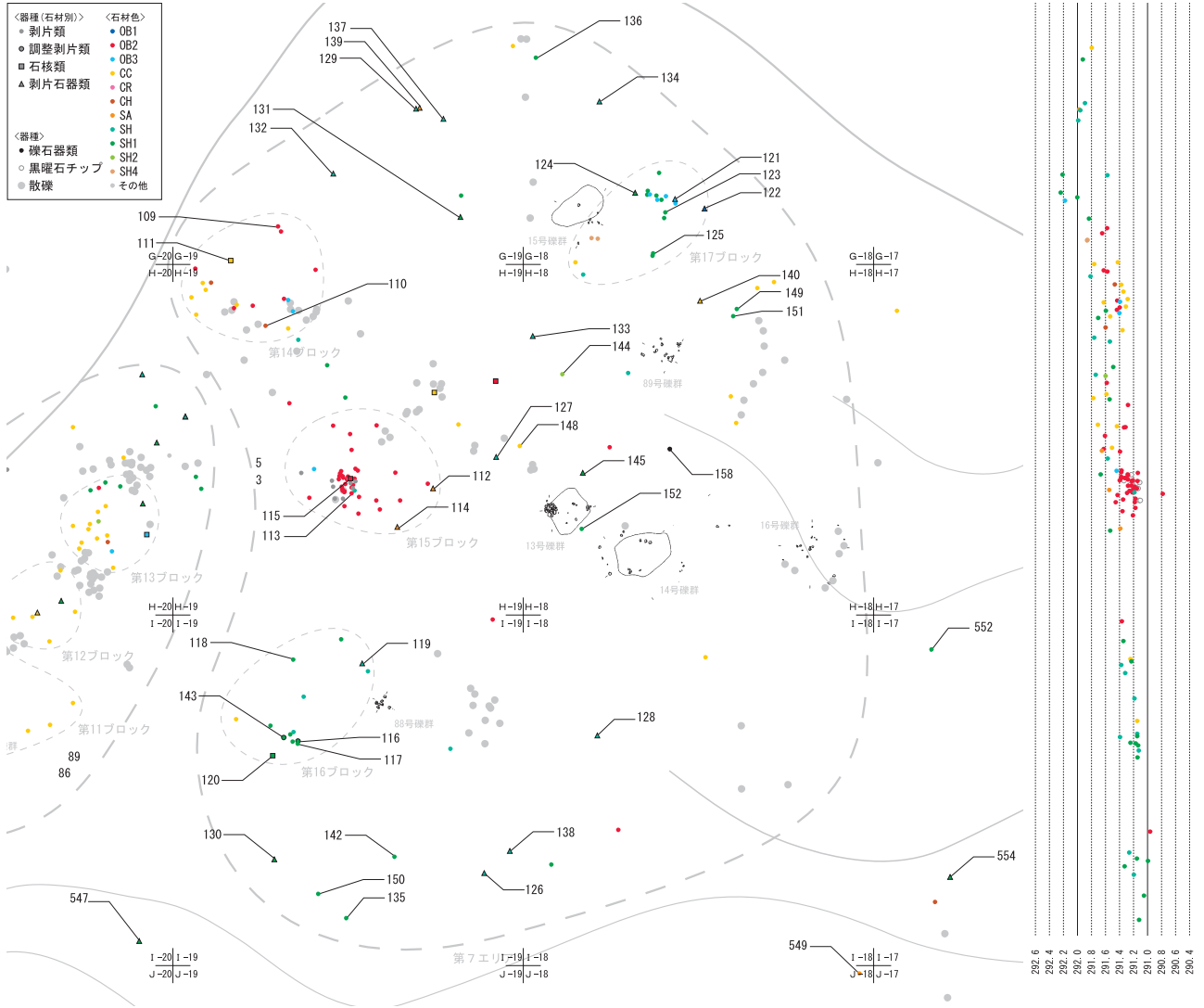
第8エリア

耳取遺跡I・J-12・13区で、第18～第22の5ブロックで構成される。黒曜石Ⅱ類が3ブロックに、頁岩が1ブロックに集中する。なお、このエリア内には、17号・19号の2基の礫群が形成されている。

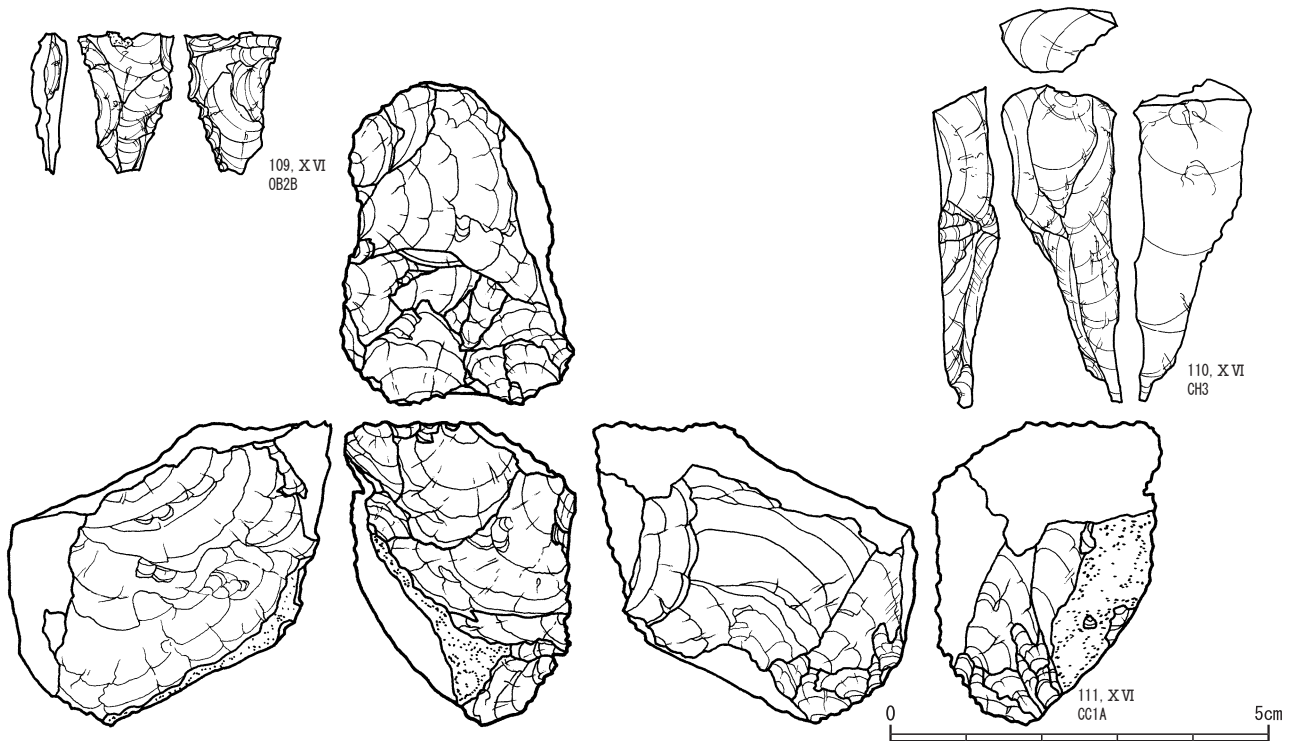
159の剥片尖頭器は打面転移の認められる厚手の剥片を素材に、基部から左側縁に急角度のブランティングを行い、素材の形状を大きく変えている。なお、先端部と背部と対峙する腹面にも調整剥離が及んでいる。また、打面を完全に除去している。161は両側縁部に両面から調整剥離が認められる

第31表 第I文化層第6エリア出土石器観察表(2)

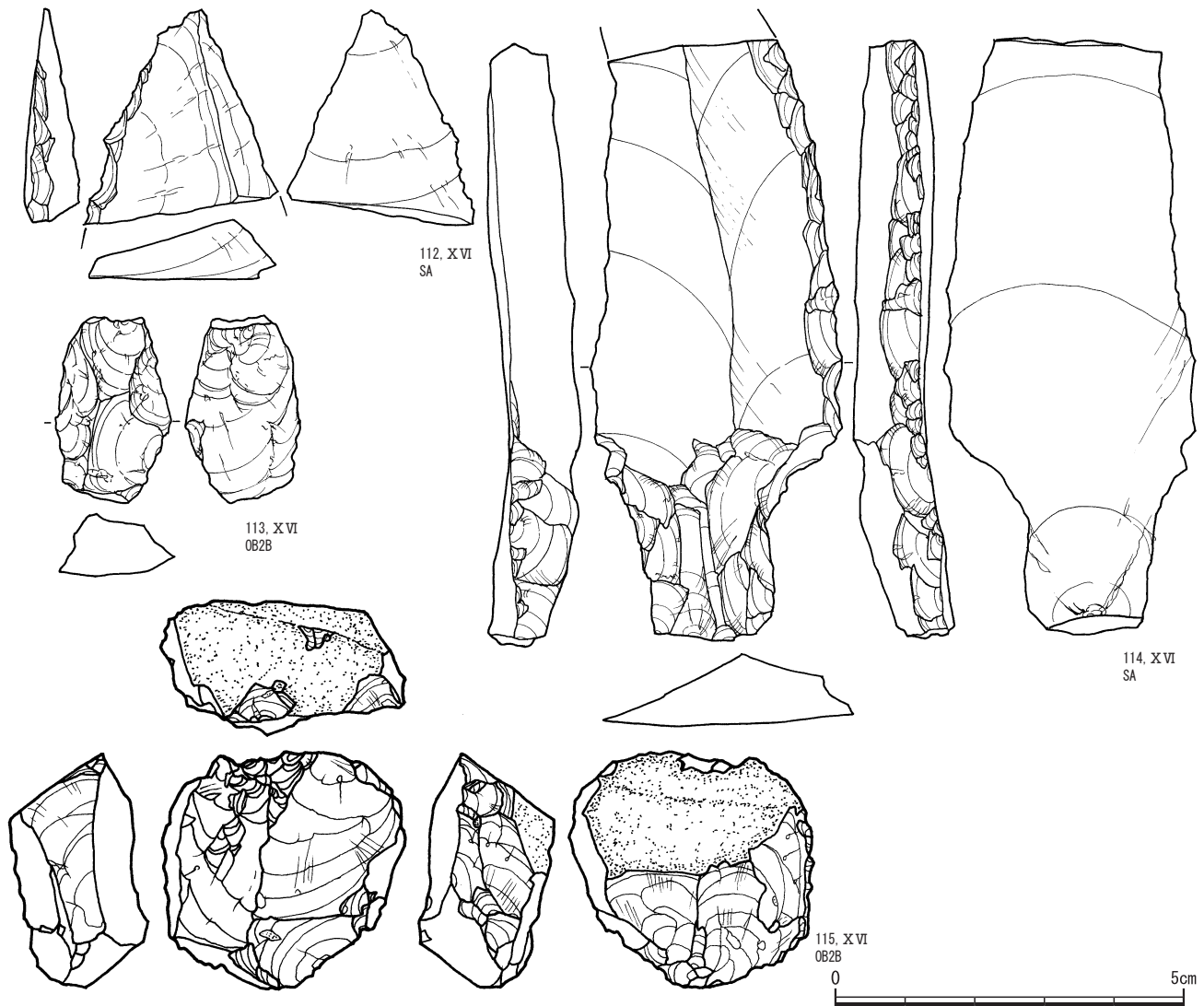
種別No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)	接合No
167	96	A06	B13	剥片	-	SH1A	20.4	22.9	8.2	2.9	▲2680(H-20/XVI)	-
167	97	A06	B13	剥片	-	SH1A	26.7	32.8	9.1	5.1	▲2682(H-20/XVI)	-
167	98	A06	B13	石核	-	OB3A	19.0	29.8	13.8	4.1	▲2711(H-20/XVI)	-
168	99	A06	B00	台形様石器	-	SH1A	18.7	21.2	5.4	1.5	▲2612(H-20/XVI)	-
168	100	A06	B00	縦長剥片	-	SH1A	73.9	22.3	11.3	11.8	▲2695(H-20/XVI)	-
168	101	A06	B00	剥片尖頭器	-	SH1	94.3	39.6	16.9	51.7	▲2701(H-19/XVI)	-
168	102	A06	B00	剥片尖頭器	-	SH3A	107.3	34.3	16.3	36.4	▲20315(H-19/XVI)	-
168	103	A06	B00	縦長剥片	-	SH1A	33.4	26.2	7.2	4.7	▲2702(H-19/XVI)	No. 04
168	104	A06	B00	剥片	-	CC1A	16.6	14.1	6.2	0.7	▲2609(H-20/XVI)	-
168	105	A06	B00	縦長剥片	-	SH1A	30.7	21.7	4.5	2.8	▲2699(H-19/XVI)	No. 04
168	106	A06	B00	剥片尖頭器	-	SH1A	28.5	29.1	10.0	9.1	▲2697(H-20/XVI)	No. 03
169	107	A06	B00	剥片	-	HF	81.8	39.6	13.6	30.3	▲2698(H-20/XVI)	-
169	108	A06	B00	二次加工痕剥片	-	CC1A	41.7	28.4	16.9	24.1	▲2607(H-20/XVI)	No. 01



第170図 第I文化層第7エリア石器出土状況図



第171図 第I文化層第7エリア第14ブロック出土石器実測図



第172図 第I文化層第7エリア第15ブロック出土石器実測図

が、下半部が欠損し器種の認定が難しいが、黒曜石Ⅱ類を石材とすることから、小型石器の可能性が考えられる。160はやや厚手の不定形剥片に加工を施す。

第9エリア

耳取遺跡H-11区で、第23ブロックを含むエリアである。エリア内には90号礫群が確認されている。

石材は黒曜石Ⅱ類で構成するが、それをういた石器は確認されない。剥片(180)は、玉髄である。

第10エリア

耳取遺跡I・J-9~11区で、第24~第31の8ブロックで構成し、石材は玉髄と頁岩が主体を占め、黒曜石Ⅱ類と黒曜石Ⅲ類も混じる。第24・25ブロックは玉髄主体、第26・27ブロックは頁岩主体、第28~31ブロックは、玉髄と頁岩が拮抗する。なお、18号・21号~29号・32号・33号の12基の礫群がエリア内に形成されている。

石器組成では台形様石器の比率が高く、第24ブロックの181、第27ブロックの189、第31ブロックの213、ブロック外の219・220の5点が出土している。181と220は素材剥片の右側縁の折断面を、213は打面をそのまま右側縁として利用し、左側縁部に刃潰し加工を施している。また、213の背面

には平坦剥離が観察される。189は扁平な剥片を素材とし、両側縁から基部にかけて入念に仕上げ、背面の平坦剥離は著しい。

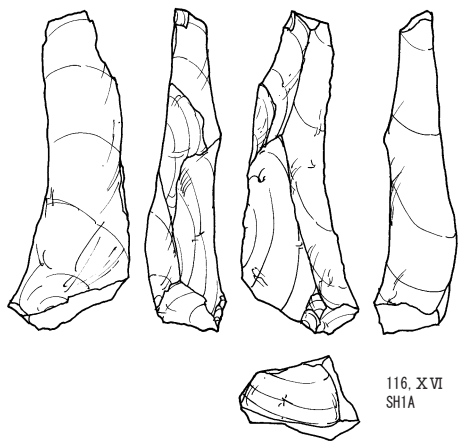
剥片尖頭器(201)は打面方向を刃部とし、抉りの浅い基部加工と、打面除去を目的とした入念な先端部加工が見られる。なお、基部底面の平坦な剥離面は、石核の素材面と見られる。第25ブロックの185は削器、ブロック外の221は円形の搔器と判断される。

石核の存在が目され、チャート・玉髄・頁岩が使用され、232・234等の小型不定形剥片を取り出したことが想定される。これらのことから、台形様石器等の素材剥片剥ぎ取りから製品加工までの製作が行われた可能性がある。

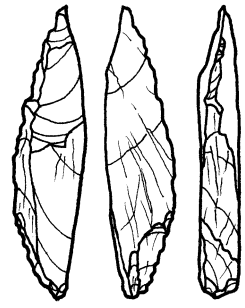
第11エリア

耳取遺跡I・J-9・10区で、第32~第37の6ブロックで構成され、石材は玉髄と頁岩が主体を占める。第33・第35ブロックは玉髄、第37ブロックは頁岩主体で、他の3ブロックは両者が拮抗して混在している。なお、30号・31号・34号~38号・41号~43号・45号の11基の礫群がエリア内に形成され、46号の1基の礫群が隣接する。

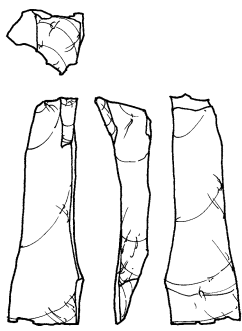
台形様石器の比率が高く、第34・35ブロックでは石器組成



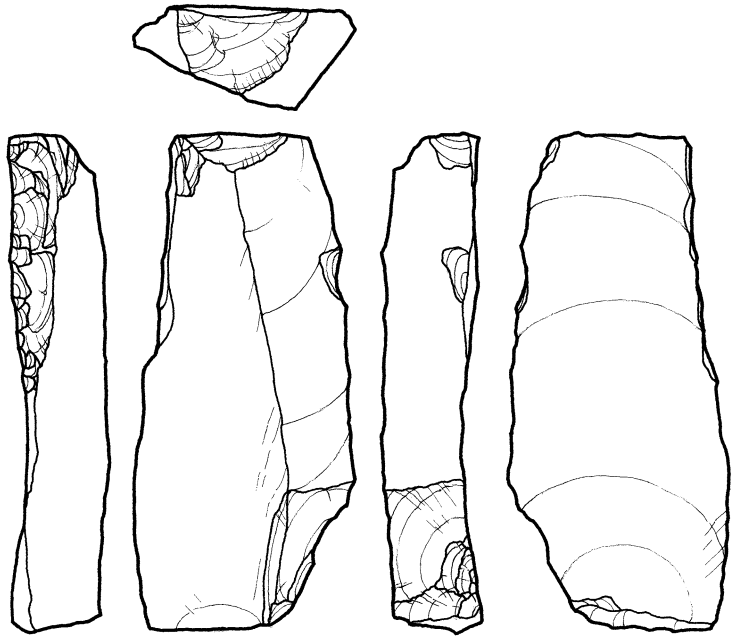
116. XVI
SH1A



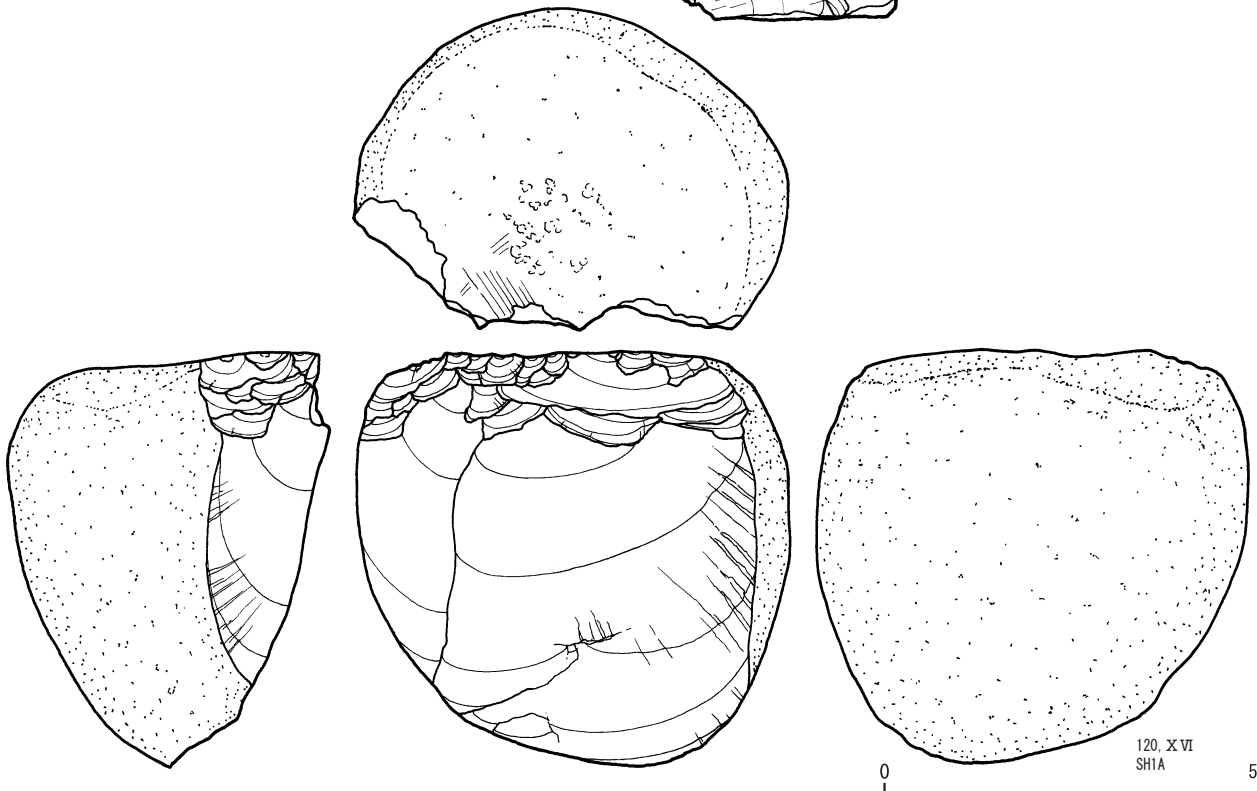
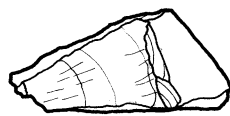
117. XVI
SH1A



118. XVI
SH1A



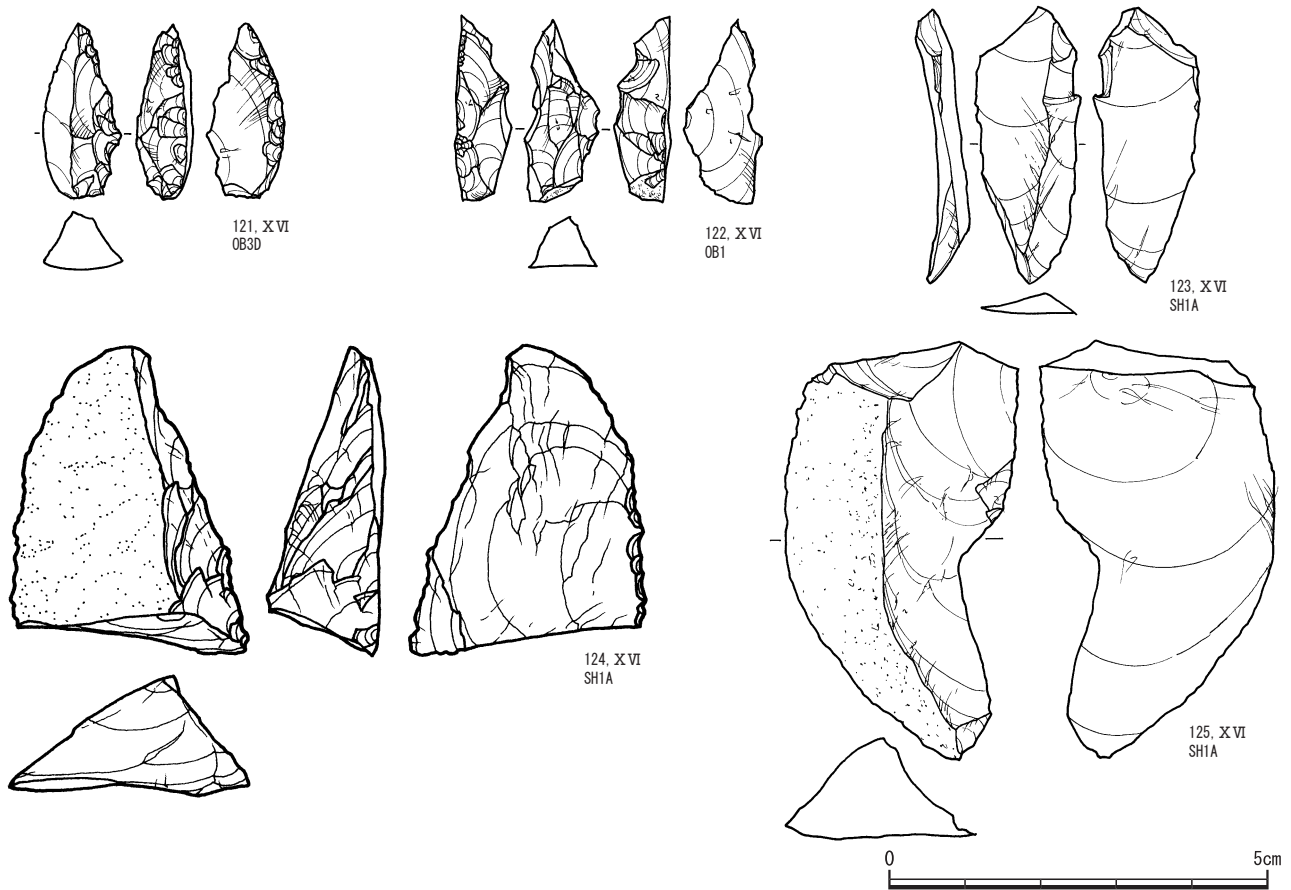
119. XVI
SH3B



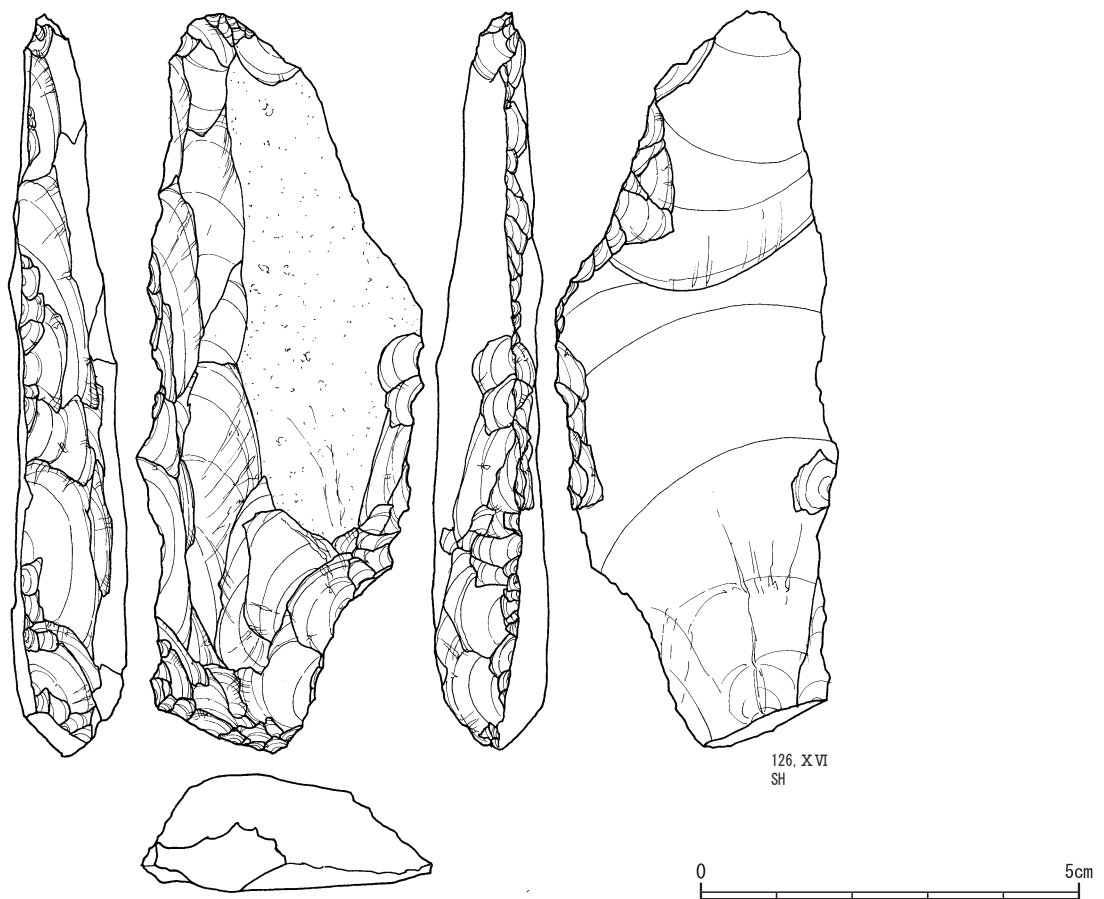
120. XVI
SH1A



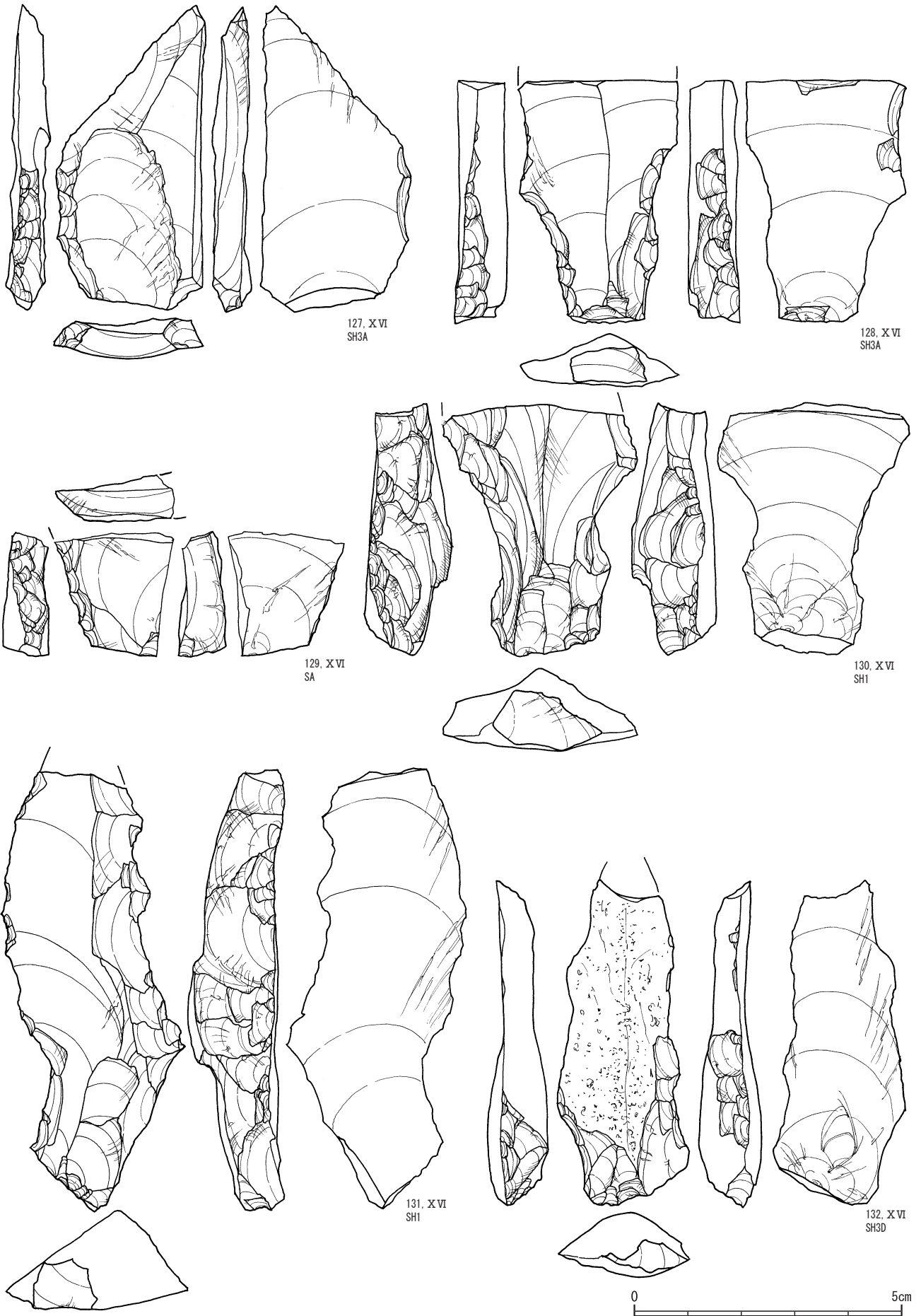
第173図 第I文化層第7エリア第16ブロック出土石器実測図



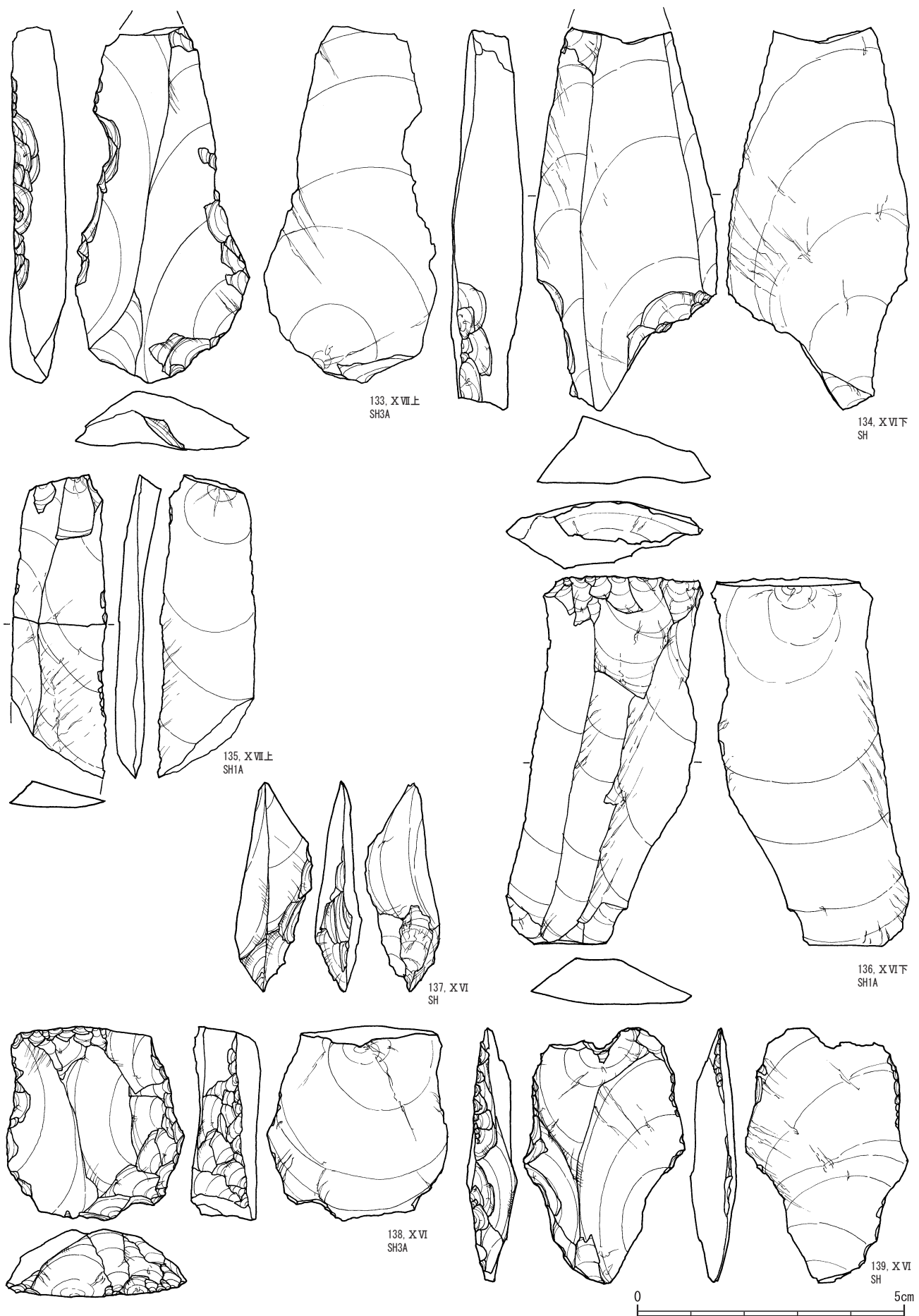
第174図 第I文化層第7エリア第17ブロック出土石器実測図



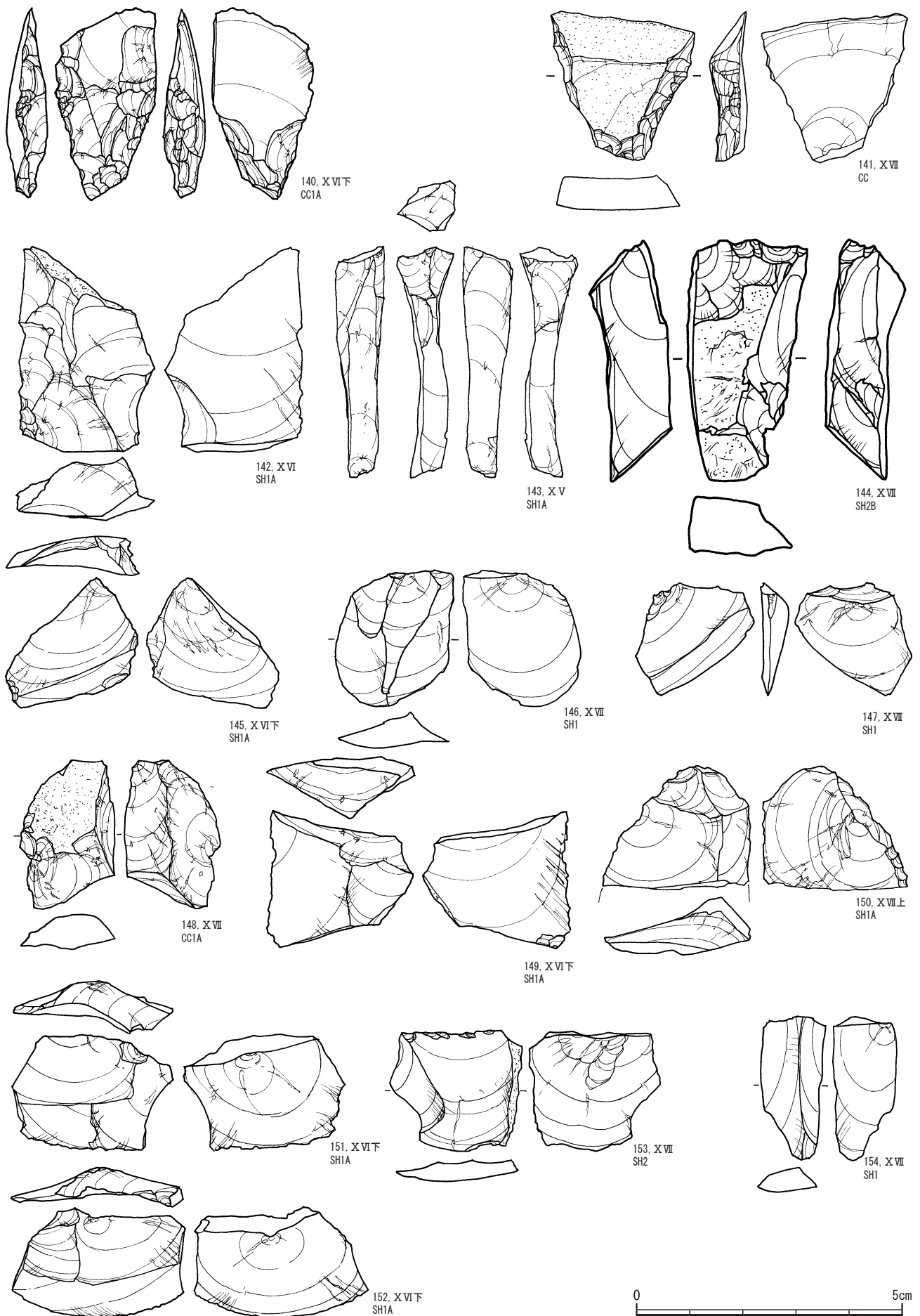
第175図 第I文化層第7エリア出土石器実測図(1)



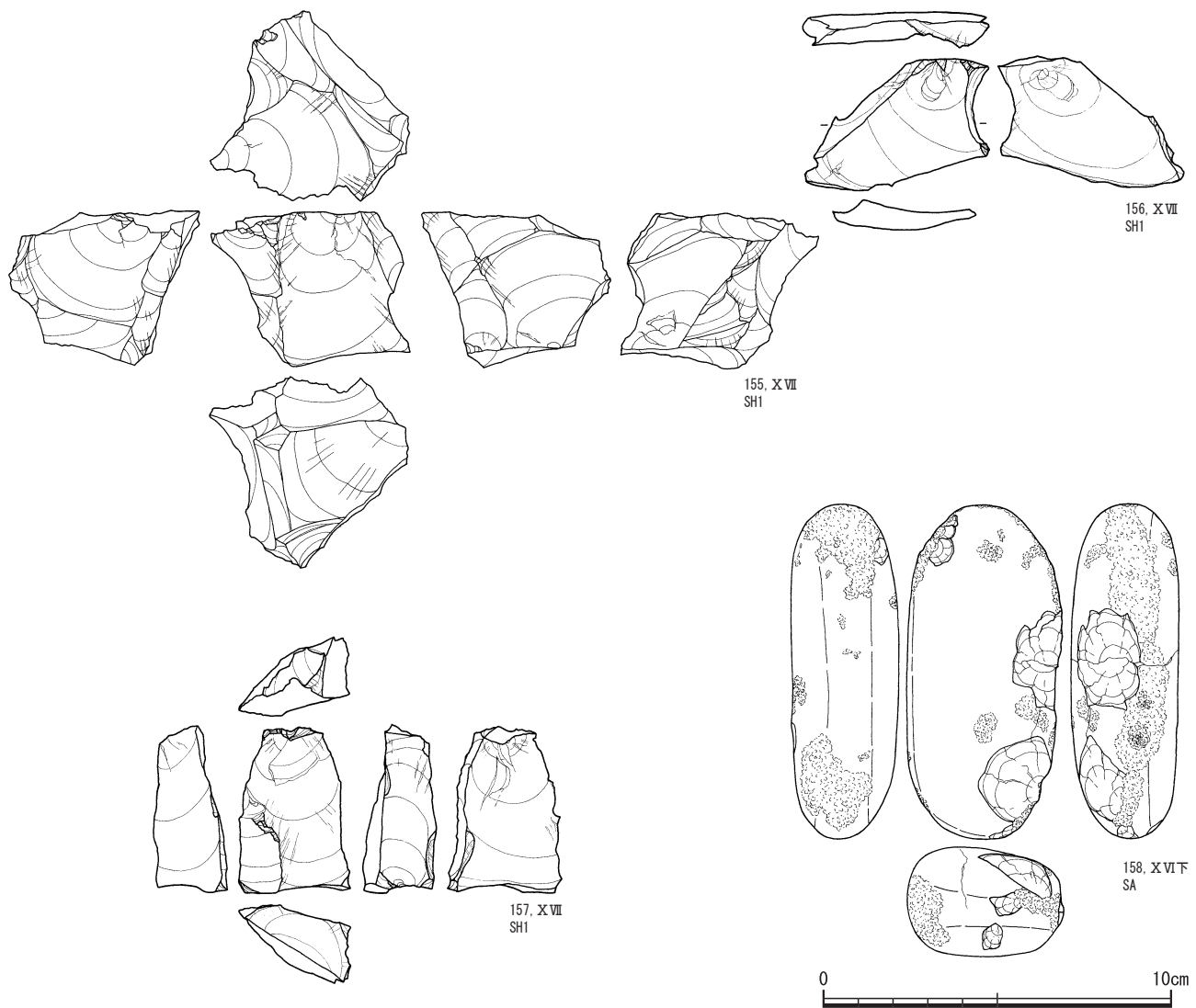
第176図 第I文化層第7エリア出土石器実測図(2)



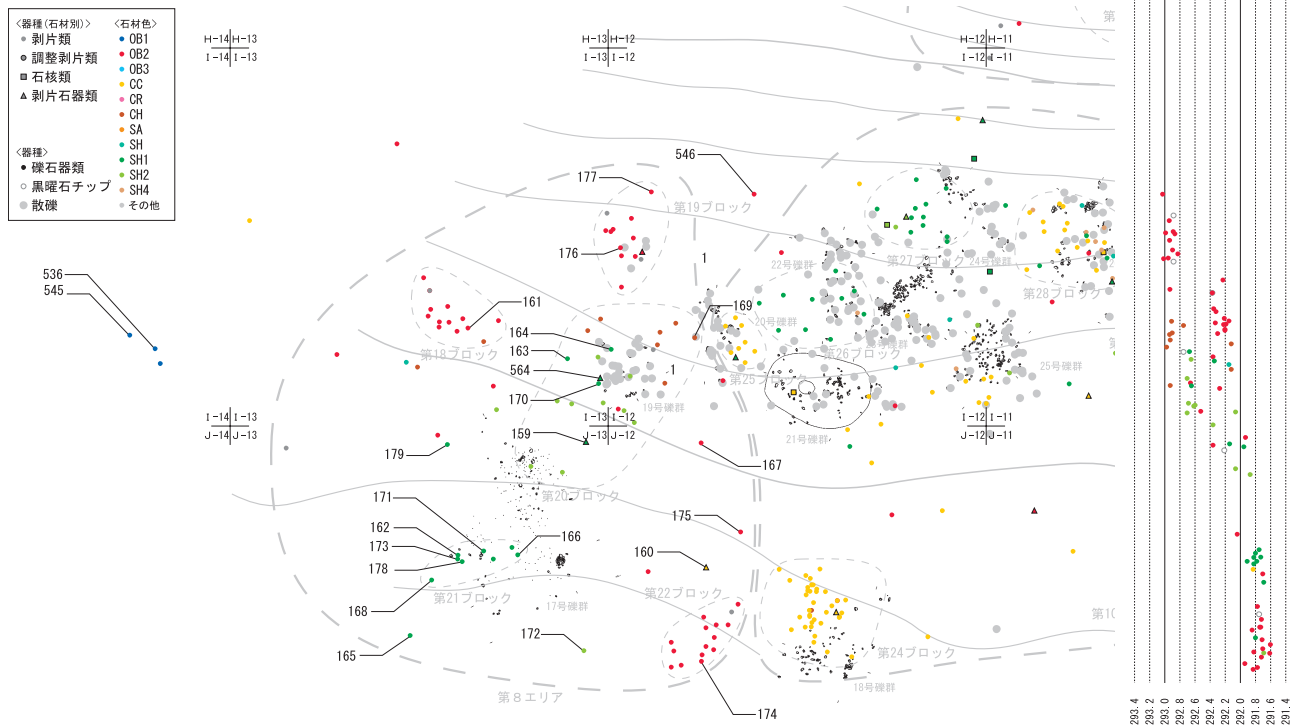
第177図 第I文化層第7エリア出土石器実測図(3)



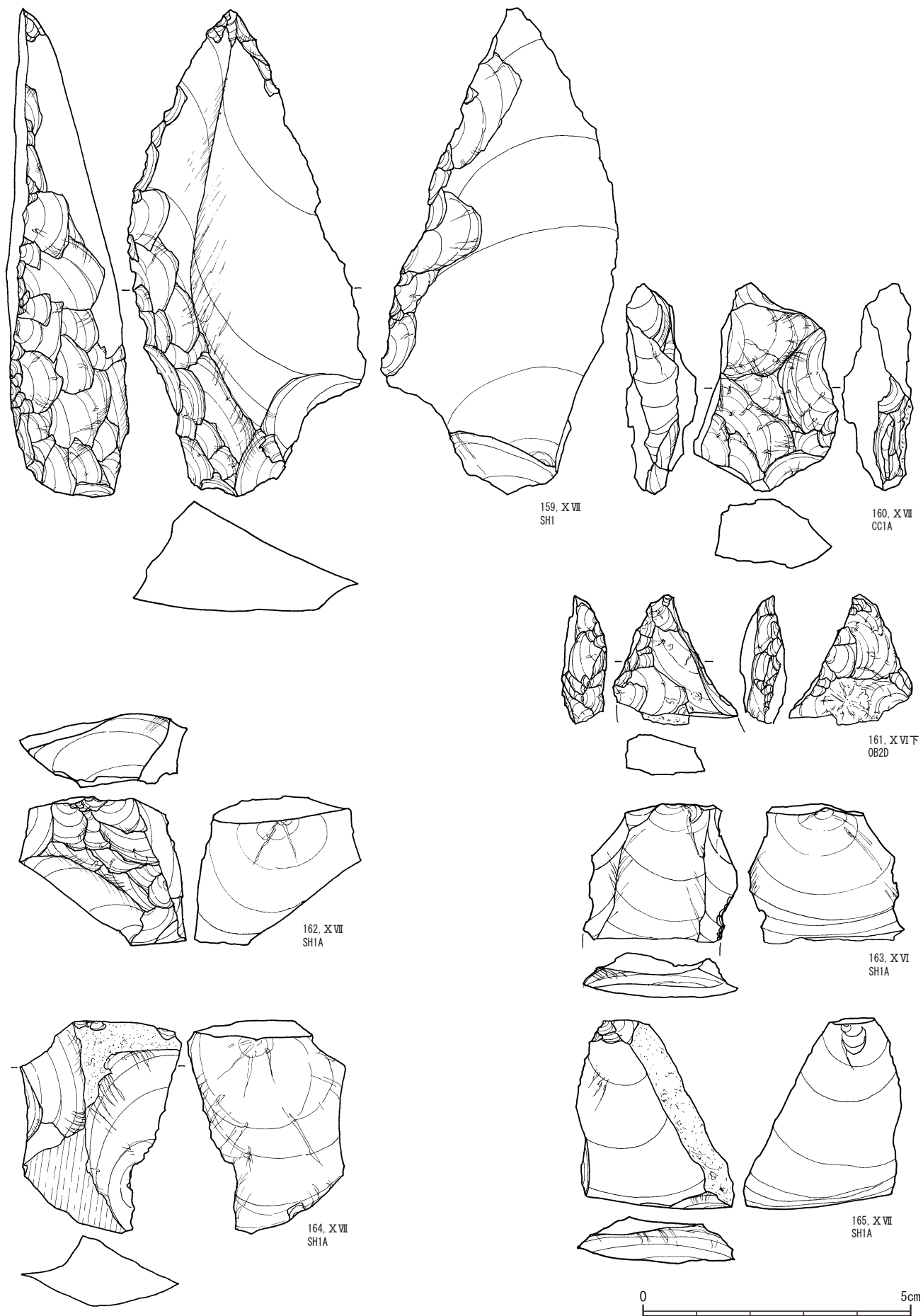
第178図 第I文化層第7エリア出土石器実測図(4)



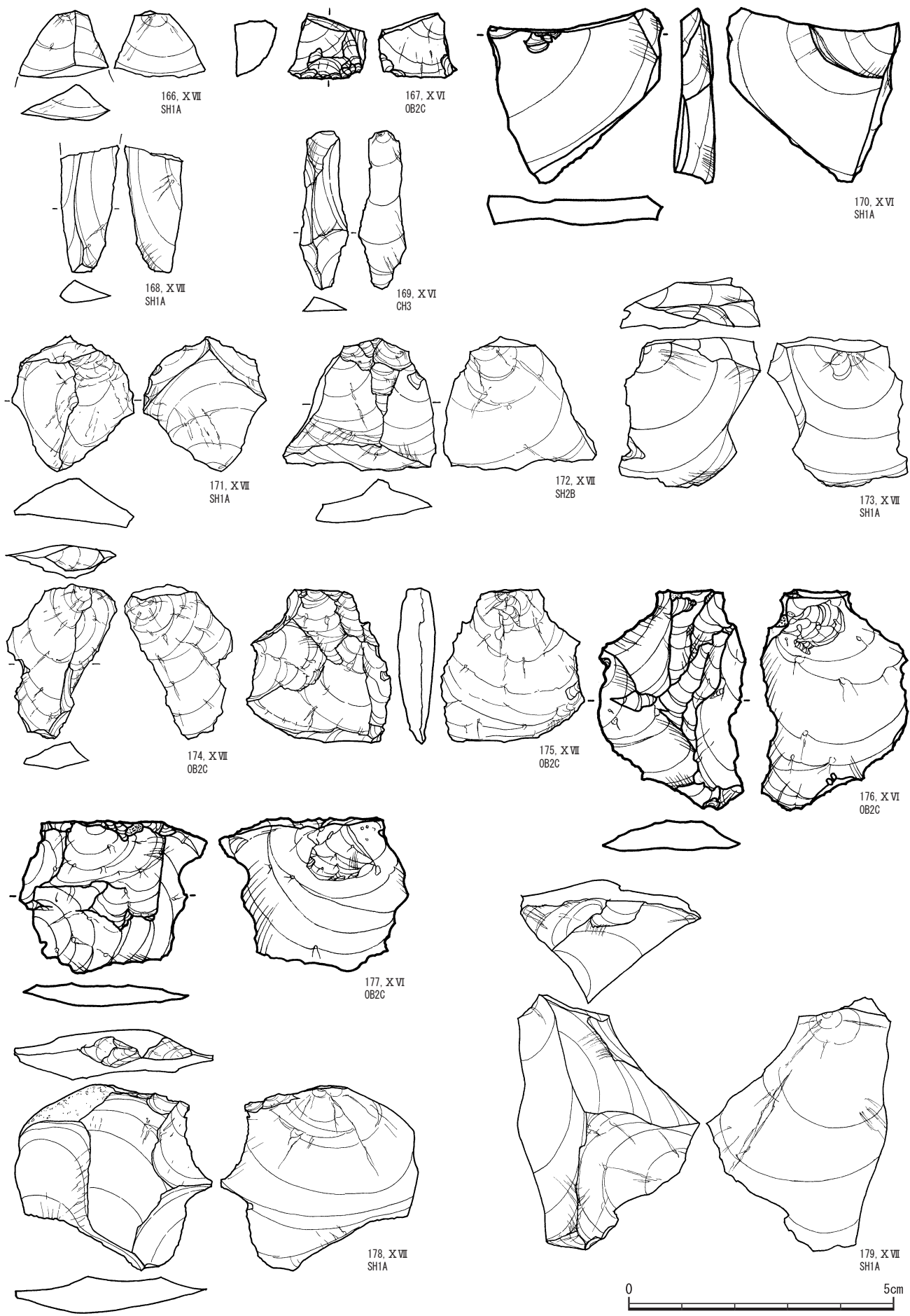
第179図 第I文化層第7エリア出土石器実測図(4)



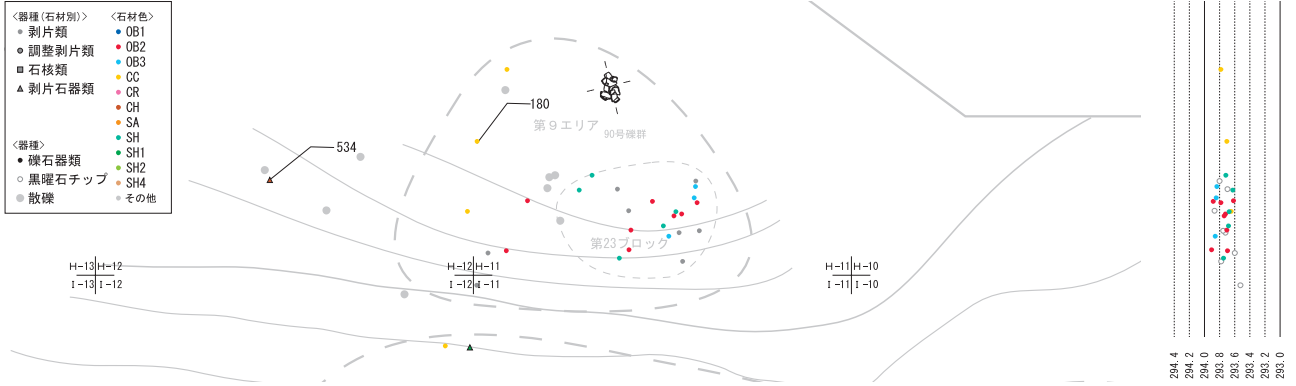
第180図 第I文化層第8エリア石器出土状況図



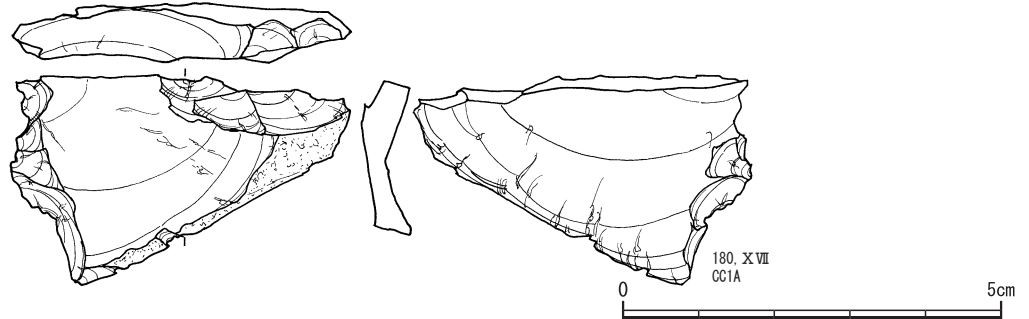
第181図 第I文化層第8エリア出土石器実測図(1)



第182図 第I文化層第8エリア出土石器実測図(2)



第183図 第I文化層第9エリア石器出土状況図



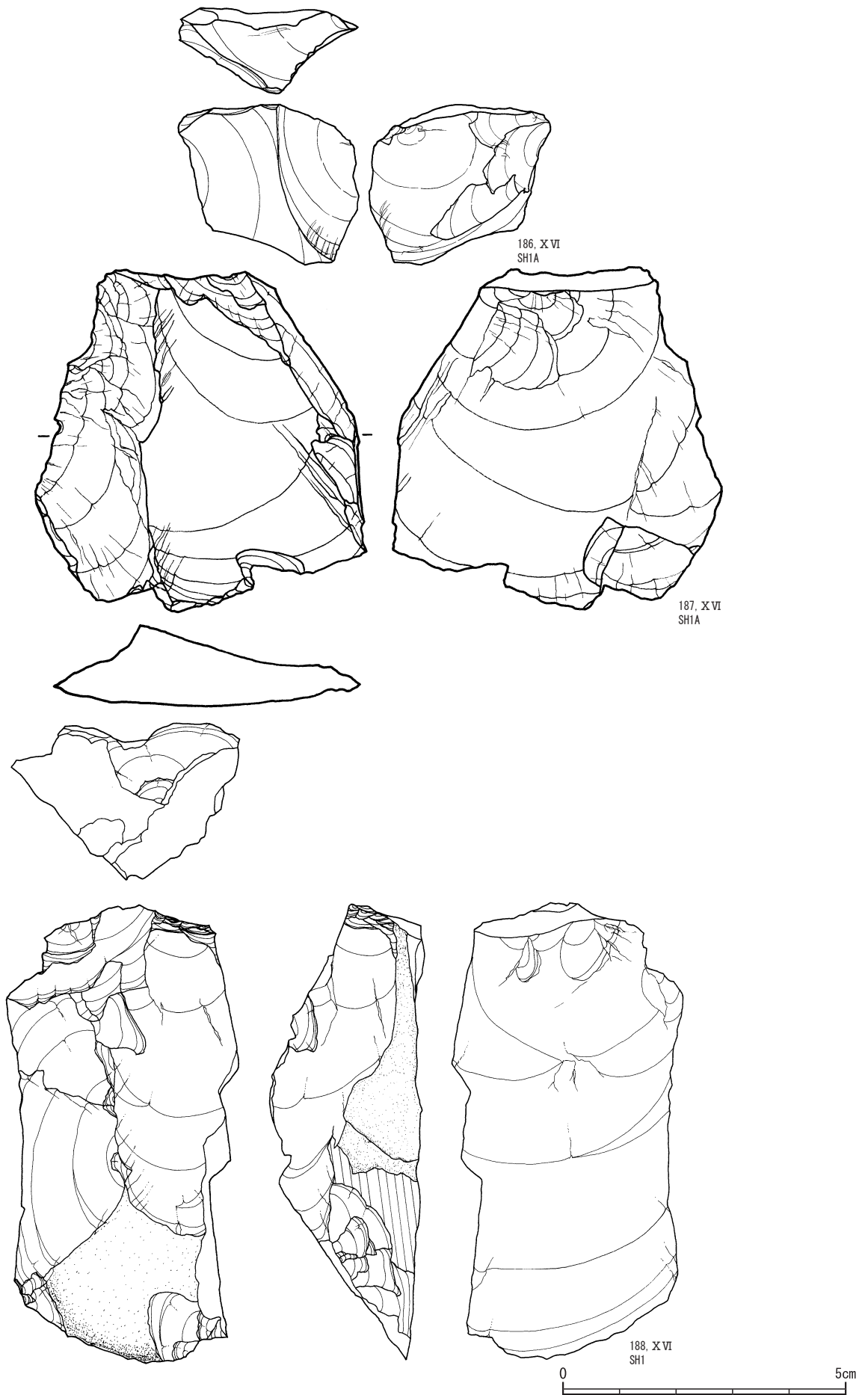
第184図 第I文化層第9エリア出土石器実測図

第32表 第I文化層第7～第9エリア出土石器観察表(1)

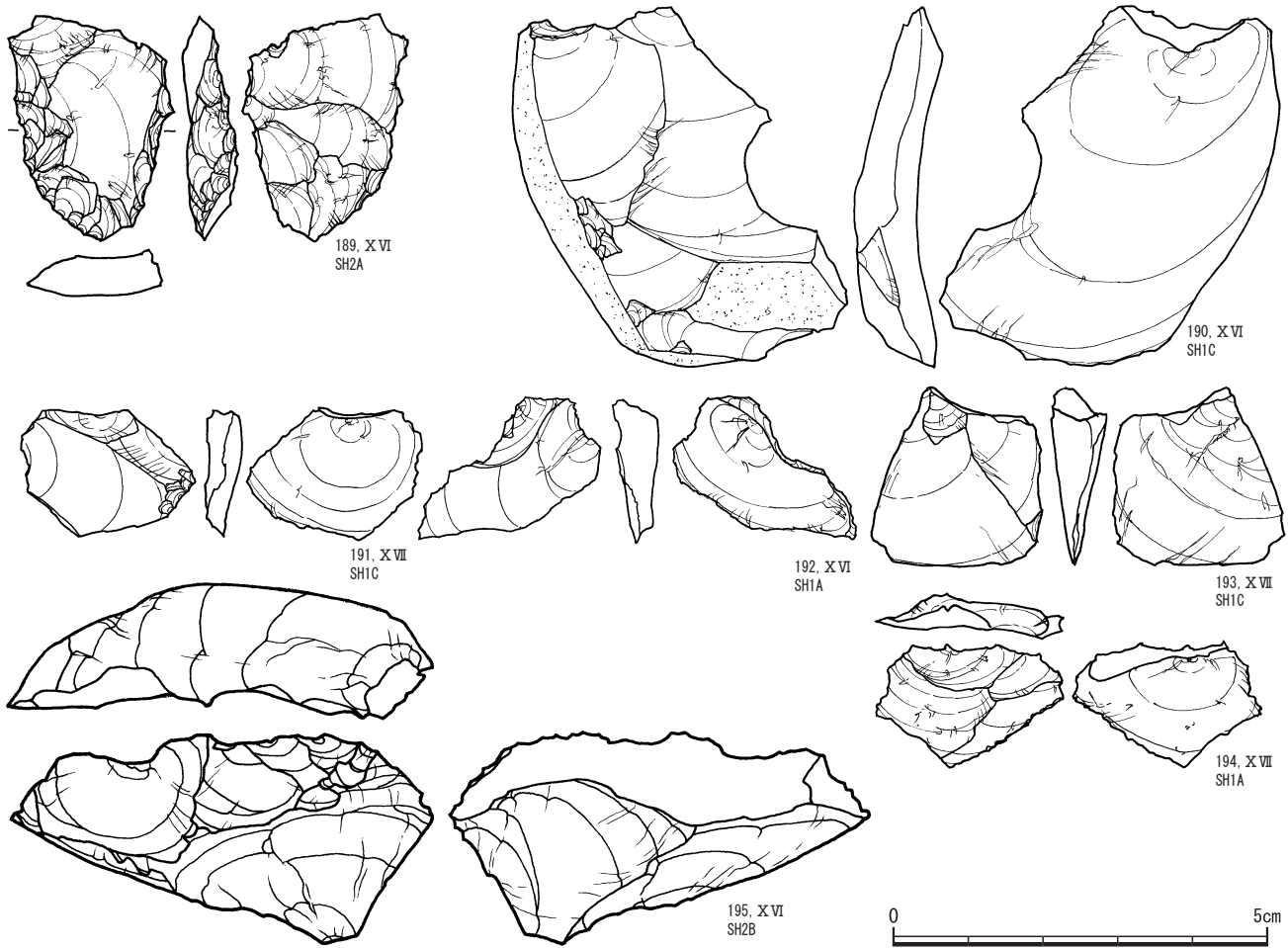
種別No	図No	エリア	フロッグ	分類L2	分類L3	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)	接合No
171	109	A07	B14	剥片	-	OB2B	18.9	13.0	5.1	0.9	▲8016 (G-19/XVI)	-
171	110	A07	B14	剥片	-	CH3	42.6	15.7	9.1	3.9	▲8028 (H-19/XVI)	-
171	111	A07	B14	石核	-	CC1A	40.5	31.0	43.1	49.1	▲8018 (G-19/XVI)	-
172	112	A07	B15	剥片尖頭器	-	SA	31.0	27.0	8.8	4.8	▲8046 (H-19/XVI)	-
172	113	A07	B15	剥片	-	OB2B	27.1	16.7	9.1	3.6	▲8054 (H-19/XVI)	No.10
172	114	A07	B15	剥片尖頭器	-	SA	85.8	36.4	13.7	38.6	▲8050 (H-19/XVI)	-
172	115	A07	B15	石核	-	OB2B	34.2	35.5	19.7	21.4	▲8057 (H-19/XVI)	No.10
173	116	A07	B16	剥片	-	SH1A	43.0	11.2	11.4	4.5	▲4480 (I-19/XVI)	-
173	117	A07	B16	剥片	-	SH1A	15.4	21.5	5.7	2.2	▲4489 (I-19/XVI)	No.06
173	118	A07	B16	剥片	-	SH1A	30.6	10.2	8.8	1.6	▲4486 (I-19/XVI)	No.06
173	119	A07	B16	二次加工痕剥片	側縁加工	SH3B	66.3	29.7	14.0	28.2	▲8080 (I-19/XVI)	No.08
173	120	A07	B16	石核	-	SH1A	55.2	57.7	42.9	175.5	▲4479 (I-19/XVI)	No.07
174	121	A07	B17	角錐状石器	-	OB3D	23.3	10.6	7.8	1.4	▲6850 (G-18/XVI)	-
174	122	A07	B17	角錐状石器	-	OB1	24.6	10.6	7.8	1.3	▲6353 (G-18/XVI)	-
174	123	A07	B17	剥片	-	SH1A	36.4	14.3	7.4	2.2	▲6350 (G-18/XVI)	-
174	124	A07	B17	微細剥離痕剥片	-	SH1A	41.4	31.7	16.3	12.0	▲6342 (G-18/XVI)	-
174	125	A07	B17	剥片	-	SH1A	55.4	31.3	14.8	18.0	▲6354 (G-18/XVI)	-
175	126	A07	B00	剥片尖頭器	-	SH	97.6	37.7	15.9	56.5	▲6440 (I-19/XVI)	-
176	127	A07	B00	ナイフ形石器	-	SH3A	57.6	28.4	7.8	10.5	▲8045 (H-19/XVI)	-
176	128	A07	B00	剥片尖頭器	-	SH3A	45.6	30.2	10.1	13.9	▲8086 (I-18/XVI)	-
176	129	A07	B00	二次加工痕剥片	-	SA	23.3	21.8	9.0	5.7	▲8012 (G-19/XVI)	-
176	130	A07	B00	剥片尖頭器	-	SH1	47.3	36.1	15.7	25.9	▲6444 (I-19/XVI)	-
176	131	A07	B00	剥片尖頭器	-	SH1	82.5	33.9	18.8	35.8	▲8015 (G-19/XVI)	-
176	132	A07	B00	ナイフ形石器	-	SH3D	60.9	24.9	12.3	14.6	▲8013 (G-19/XVI)	-
177	133	A07	B00	削器	側縁加工	SH3A	67.2	32.5	11.3	14.6	▲8280 (H-18/XVII上)	-
177	134	A07	B00	剥片尖頭器	-	SH	71.9	34.4	13.8	29.6	▲8192 (G-18/XVI下)	-
177	135	A07	B00	縦長剥片	-	SH1A	56.9	18.7	8.8	6.1	▲14823 (I-19/XVII上)	No.09
177	136	A07	B00	縦長剥片	-	SH1A	69.4	37.3	12.9	24.6	▲8193 (G-18/XVI下)	-
177	137	A07	B00	ナイフ形石器	-	SH	39.2	14.3	9.0	3.2	▲8010 (G-19/XVI)	No.05
177	138	A07	B00	搔器	-	SH3A	36.7	34.1	13.0	15.2	▲6441 (I-19/XVI)	-
177	139	A07	B00	削器	-	SH	47.9	30.7	9.7	9.5	▲8011 (G-19/XVI)	No.05
178	140	A07	B00	台形様石器	-	CC1A	36.3	19.3	8.0	4.6	▲8187 (H-18/XVI下)	-
178	141	A07	B00	台形様石器	-	CC	28.3	27.6	7.3	4.5	▲14号検群9 (H-18/XVII)	-
178	142	A07	B00	剥片	-	SH1A	38.8	26.1	12.1	8.2	▲6439 (I-19/XVI)	No.09
178	143	A07	B00	剥片	-	SH1A	43.3	11.0	9.9	3.2	▲4478 (I-19/XVI)	No.06
178	144	A07	B00	剥片	-	SH2B	45.8	22.9	15.9	14.5	▲8281 (H-18/XVII)	-

第33表 第I文化層第7～第9エリア出土石器観察表(2)

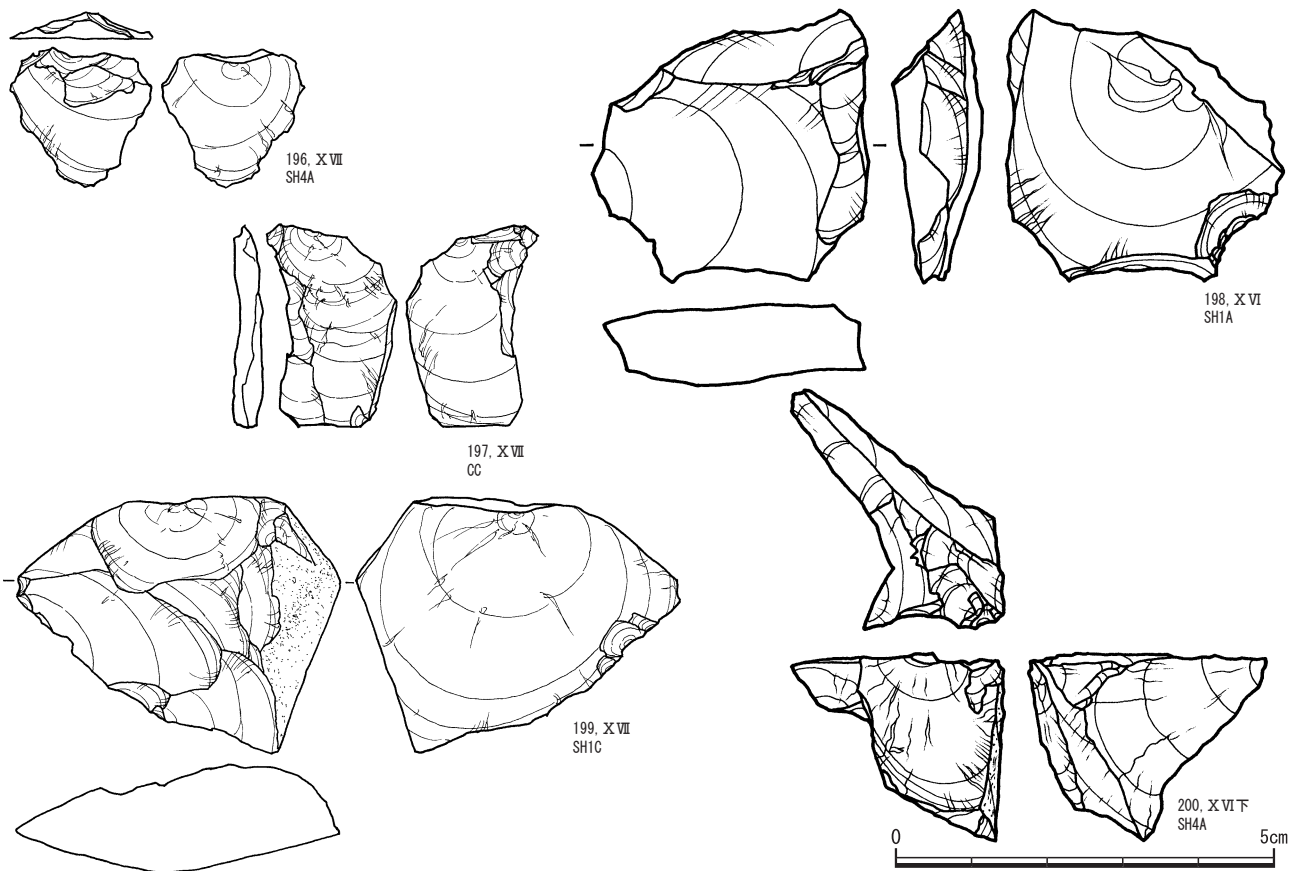
種別No	図No	エリア	フロッグ	分類L2	分類L3	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)	接合No
178	145	A07	B00	二次加工痕剥片	-	SH1A	24.7	25.1	7.6	2.9	▲8182 (H-18/XVI下)	-
178	146	A07	B00	剥片	-	SH1	38.5	33.4	7.6	4.0	▲14号検群6 (H-18/XVII)	No.45
178	147	A07	B00	剥片	-	SH1	21.4	22.1	5.5	2.0	▲13号検群2 (H-18/XVII)	-
178	148	A07	B00	剥片	-	CC1A	28.1	18.2	7.1	3.2	▲8282 (H-19/XVII)	-
178	149	A07	B00	剥片	-	SH1A	26.0	28.0	11.9	6.2	▲8194 (H-18/XVI下)	-
178	150	A07	B00	剥片	-	SH1A	23.5	27.5	11.1	5.2	▲14822 (I-19/XVII上)	-
178	151	A07	B00	剥片	-	SH1A	22.1	30.6	10.1	4.0	▲8195 (H-18/XVI下)	-
178	152	A07	B00	剥片	-	SH1A	21.0	33.0	7.7	3.2	▲8181 (H-18/XVI下)	-
178	153	A07	B00	剥片	-	SH2	22.7	24.9	4.5	2.7	▲14号検群3 (F-18/XVII)	-
178	154	A07	B00	剥片	-	SH1	27.2	12.2	6.1	1.7	▲14号検群5 (H-18/XVII)	No.45
179	155	A07	B00	石核	-	SH1	45.2	57.1	55.0	105.1	▲14号検群1 (H-18/XVII)	No.45
179	156	A07	B00	剥片	-	SH1	38.1	53.7	10.7	12.6	▲14号検群2 (H-18/XVII)	No.45
179	157	A07	B00	剥片	-	SH1	48.3	33.2	23.1	28.4	▲14号検群4 (H-18/XVII)	No.45
179	158	A07	B00	ハンマー	-	SA	96.5	45.1	31.9	203.0	▲8184 (H-18/XVI下)	-
181	159	A08	B20	剥片尖頭器	-	SH1	91.1	44.5	23.2	72.8	▲14880 (J-13/XVII)	-
181	160	A08	B00	二次加工痕剥片	-	CC1A	39.3	27.1	13.4	11.8	▲14864 (J-12/XVII)	-
181	161	A08	B18	二次加工痕剥片	-	OB2D	24.6	23.2	8.7	3.3	▲11375 (I-13/XVI下)	-
181	162	A08	B21	剥片	-	SH1A	28.0	31.2	14.0	9.8	▲14882 (J-13/XVII)	-
181	163	A08	B20	剥片	-	SH1A	26.3	29.4	8.5	6.1	▲11380 (I-13/XVI)	-
181	164	A08	B20	剥片	-	SH1A	40.1	29.7	14.4	11.3	▲7080 (I-12/XVII)	-
181	165	A08	B00	剥片	-	SH1A	36.0	29.8	9.0	7.8	▲14873 (J-13/XVII)	-
182	166	A08	B21	剥片	-	SH1A	12.8	17.4	7.0	1.1	▲14868 (J-13/XVII)	-
182	167	A08	B00	剥片	-	OB2C	12.5	15.1	8.1	1.3	▲14771 (J-12/XVI)	-
182	168	A08	B00	剥片	-	SH1A	24.0	11.3	5.9	1.2	▲14872 (J-13/XVII)	No.14
182	169	A08	B20	剥片	-	CH3	30.2	9.2	3.7	0.8	▲6922 (I-12/XVI)	-
182	170	A08	B20	剥片	-	SH1A	33.2	33.0	8.1	7.9	▲6911 (I-13/XVI)	-
182	171	A08	B21	剥片	-	SH1A	25.6	23.5	9.7	4.1	▲14870 (J-13/XVII)	-
182	172	A08	B00	剥片	-	SH2B	25.5	29.1	8.7	5.5	▲14865 (J-13/XVII)	-
182	173	A08	B21	剥片	-	SH1A	28.5	26.6	9.9	5.9	▲14871 (J-13/XVII)	-
182	174	A08	B22	剥片	-	OB2C	29.5	20.5	6.5	2.2	▲14793 (J-12/XVII)	-
182	175	A08	B00	剥片	-	OB2C	29.1	27.3	7.4	4.9	▲14773 (J-12/XVII)	-
182	176	A08	B19	剥片	-	OB2C	42.0	28.2	8.6	6.8	▲6900 (I-12/XVI)	-
182	177	A08	B19	剥片	-	OB2C	29.4	36.0	7.8	5.5	▲6893 (I-12/XVI)	-
182	178	A08	B21	剥片	-	SH1A	35.2	37.5	9.7	8.9	▲14883 (J-13/XVII)	-
182	179	A08	B00	剥片	-	SH1A	48.2	35.1	23.6	19.6	▲14881 (J-13/XVII)	-
184	180	A09	B00	剥片	-	CC1A	27.8	44.9	8.1	7.5	▲5688 (H-11/XVII)	-



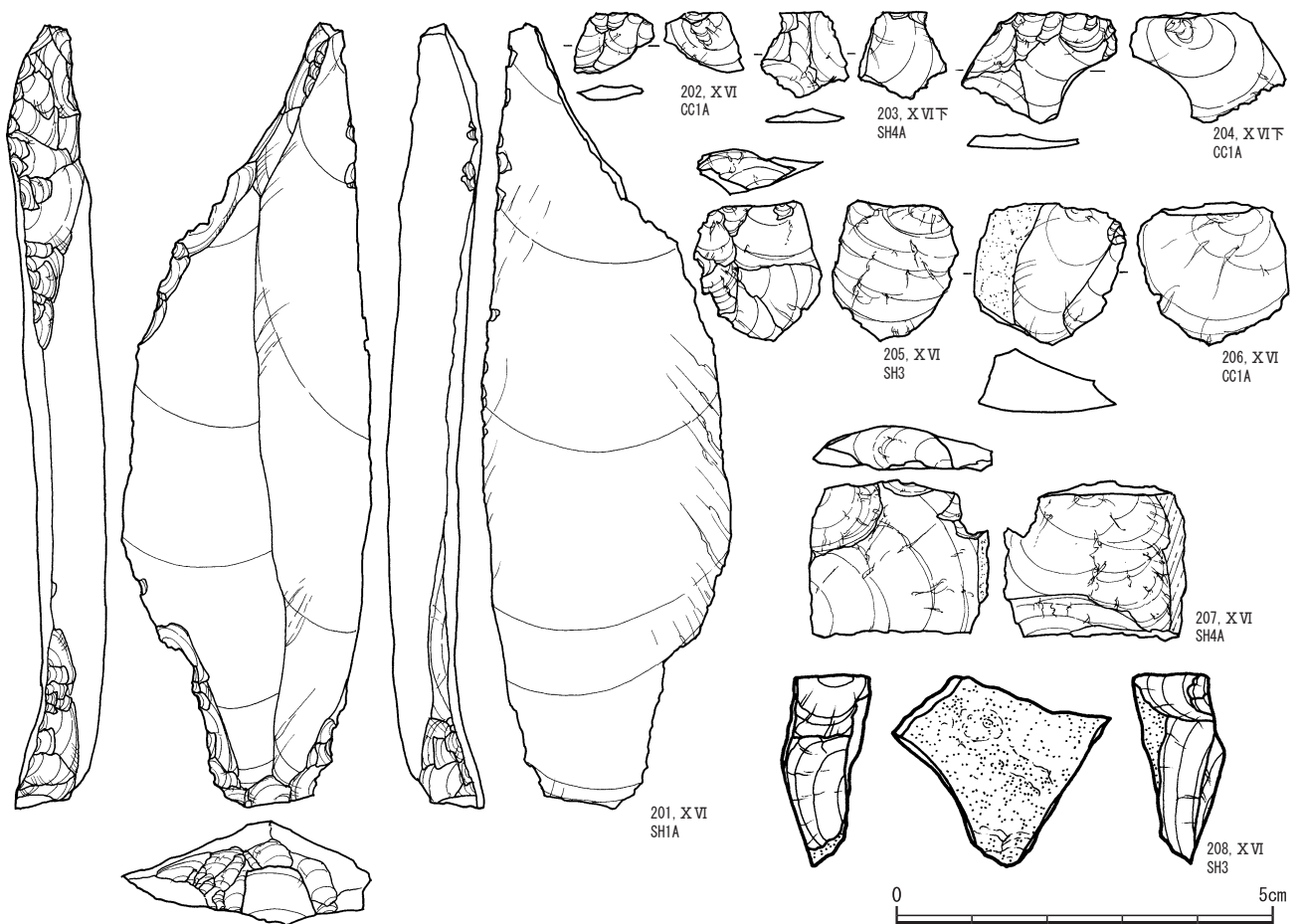
第188図 第I文化層第10エリア第26ブロック出土石器実測図



第189図 第I文化層第10エリア第27ブロック出土石器実測図



第190図 第I文化層第10エリア第28ブロック出土石器実測図



第191図 第I文化層第10エリア第29ブロック出土石器実測図

の主体を成す。

第32ブロックの237は背面に礫面を残し、不定形剥片の両側縁に粗い剥離を加えている。240は底面を含む3面に刃潰し加工を行い、246は打面をそのまま右側縁に、背面は左側縁から平坦剥離を繰り返している。

第33ブロックの255はやや強引であるが、台形様石器に含めた。分厚い背面を稜線に沿って小剥離を繰り返し、削平に努めている。

第34ブロックの262は節理面を右側縁に、263では先行した剥離面を活かし、左側縁にブランディングが集中する。

第35ブロックには7点の台形様石器が集中し、277・278では打面を底面に、他の5点(274~276・279・280)は打面を側縁に設けている。274・276・280の打面は折断で除去し、275では丁寧な加工、277では打点部分の除去が認められる。281も

台形様石器を指向したとみられる。278の側縁加工は背面は腹面から、腹面は背面から入念に行い、底面の3面に及んでいる。

第32ブロックの247は軸が長く造られるが、台形様石器に帰属する可能性が高い。

第36ブロックの284・287、第37ブロックの294も台形様石器で、284では背面基部に、287では刃部に削平調整が認められる。

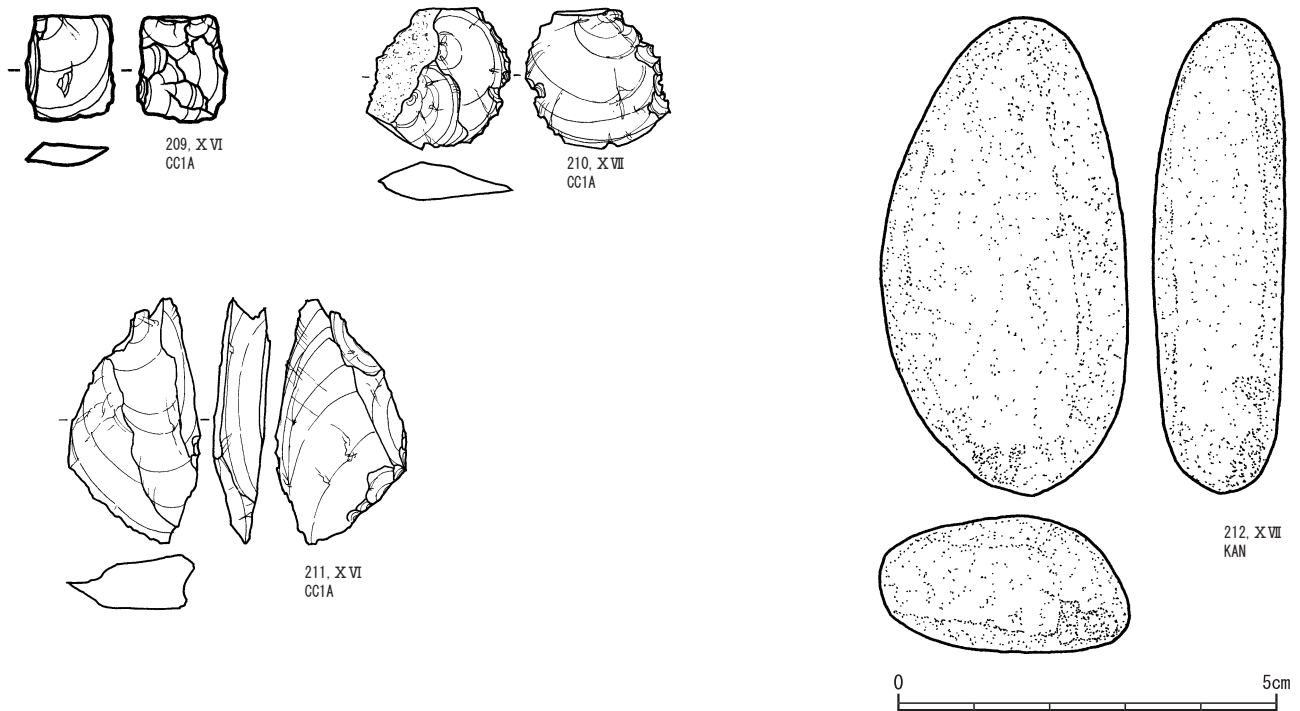
ブロック外出土の312の右側縁は節理面で構成し、右側縁下位から基部、左側縁は腹面から入念に整形され、背面の整形は体部中央部まで達している。なお、この資料は石核との接合が確認され、左側縁にブランディングチップ1点の接合も確認されている。313も第37ブロック308との接合が確認され、308の背面と313の腹面が接合している。両側縁及び底面

第34表 第I文化層第10エリア出土石器観察表(1)

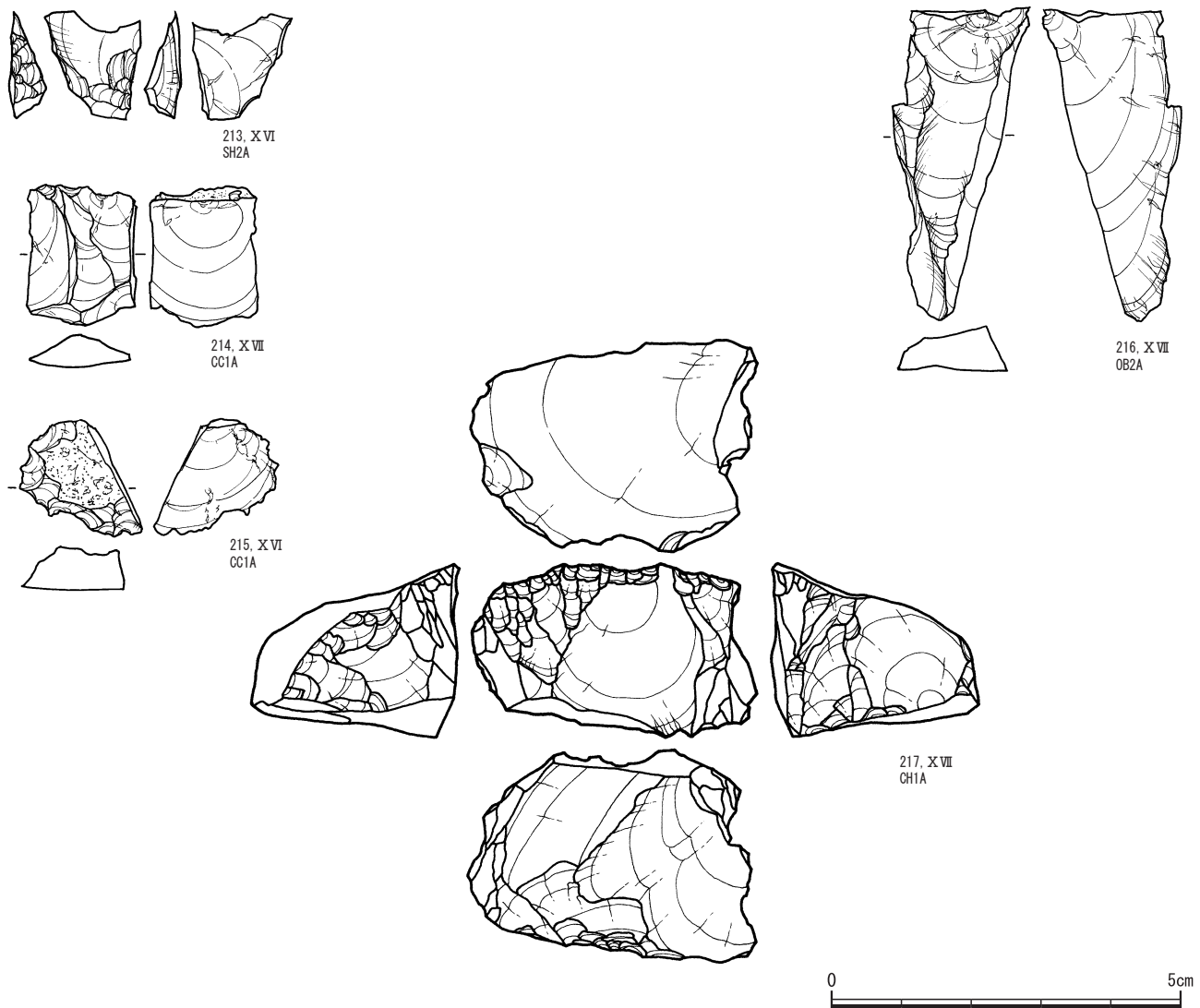
種別No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)	接合No
186	181	A10	B24	台形様石器	-	CC1A	22.0	16.0	8.2	2.5	▲14796(J-12/XVII)	-
186	182	A10	B24	剥片	-	CC1A	17.3	19.4	7.5	2.3	▲14850(J-12/XVII)	-
186	183	A10	B24	剥片	-	CC1A	15.2	10.5	2.5	0.2	▲14778(J-12/XVII)	-
186	184	A10	B24	剥片	-	CC1A	52.1	19.5	15.5	5.6	▲14774(J-12/XVII)	-
187	185	A10	B25	削器	-	SH1A	34.2	43.3	14.5	20.2	▲6935(I-12/XVI)	-
188	186	A10	B26	剥片	-	SH1A	28.5	32.3	15.3	9.7	▲6944(I-12/XVI)	-
188	187	A10	B26	剥片	-	SH1A	60.8	58.6	15.2	46.6	▲6929(I-12/XVI)	-
188	188	A10	B26	剥片	-	SH1	80.9	41.1	27.9	75.5	▲6930(I-12/XVI)	-
189	189	A10	B27	台形様石器	-	SH2A	30.6	22.4	4.2	4.2	▲6952(I-12/XVI)	No. 20
189	190	A10	B27	剥片	-	SH1C	48.3	45.6	12.2	15.0	▲6961(I-12/XVI)	No. 15
189	191	A10	B27	剥片	-	SH1C	17.9	23.7	5.2	1.2	▲6966(I-12/XVI)	No. 13
189	192	A10	B27	剥片	-	SH1A	19.2	24.6	6.4	1.5	▲6955(I-12/XVI)	-
189	193	A10	B27	剥片	-	SH1C	23.9	23.2	7.7	2.9	▲6960(I-12/XVI)	-
189	194	A10	B27	剥片	-	SH1A	16.9	25.4	6.3	1.4	▲6957(I-12/XVI)	-

第35表 第I文化層第10エリア出土石器観察表(2)

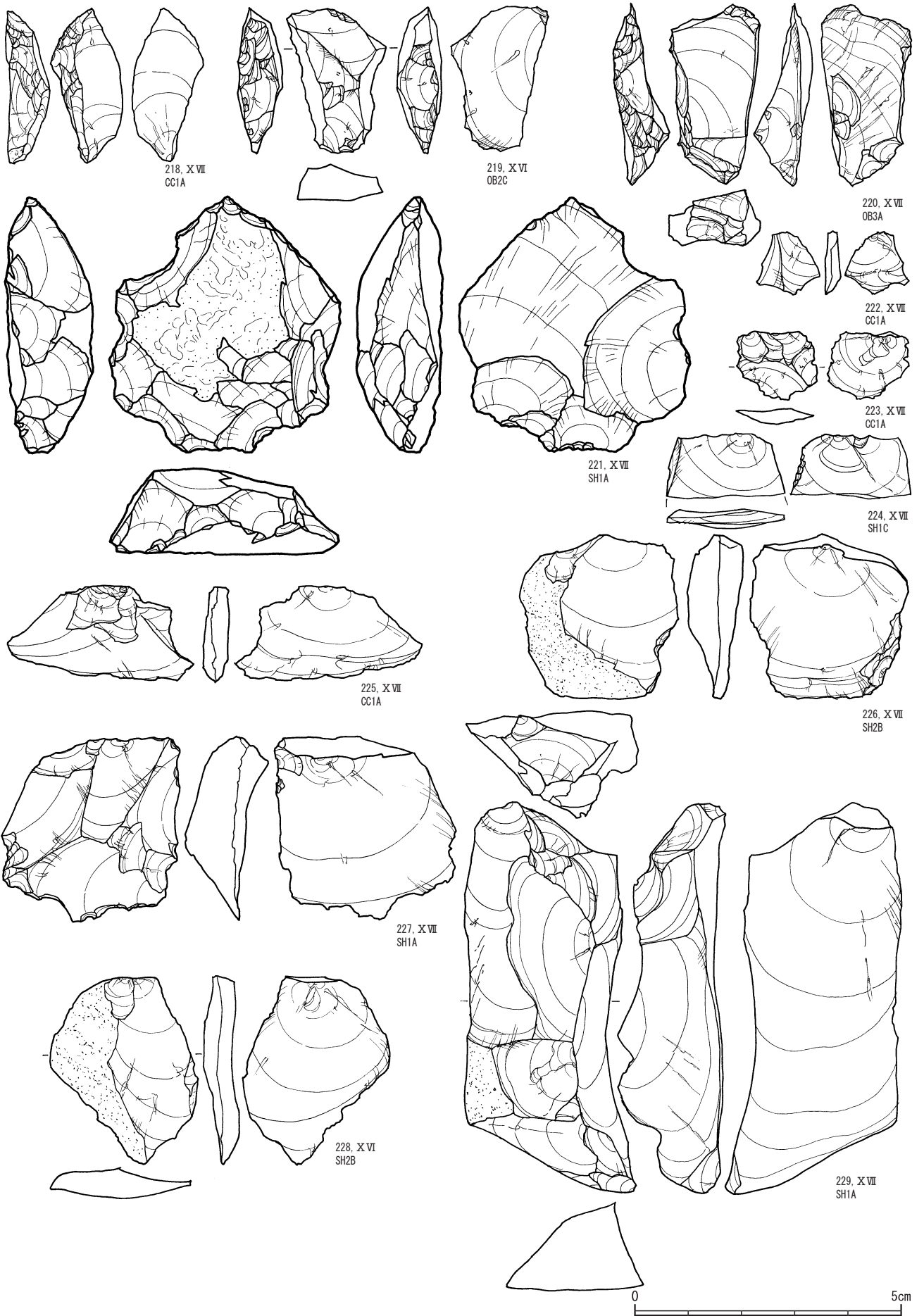
種別No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)	接合No
189	195	A10	B27	石核	-	SH2B	28.7	56.5	18.4	18.3	▲6954(I-12/XVI)	No. 12
190	196	A10	B28	剥片	-	SH4A	18.5	19.1	3.8	0.7	▲11387(I-11/XVII)	-
190	197	A10	B28	剥片	-	CC	26.8	17.4	4.3	1.5	▲6993(I-11/XVII)	-
190	198	A10	B28	二次加工後剥片	-	SH1A	36.1	37.1	12.3	13.7	▲11388(I-11/XVI)	-
190	199	A10	B28	剥片	-	SH1C	34.0	43.1	14.3	15.7	▲7009(I-11/XVII)	-
190	200	A10	B28	剥片	-	SH4A	25.2	31.9	32.1	8.7	▲11389(I-11/XVII下)	-
191	201	A10	B29	剥片尖頭器	-	SH1A	104.7	33.4	14.1	31.6	▲7021(I-11/XVI)	-
191	202	A10	B29	剥片	-	CC1A	8.2	10.7	2.1	0.1	▲11412(I-11/XVI)	-
191	203	A10	B29	剥片	-	SH4A	11.8	11.9	2.4	0.3	▲11397(I-11/XVII下)	-
191	204	A10	B29	剥片	-	CC1A	14.8	20.9	3.3	0.6	▲11401(I-11/XVII下)	-
191	205	A10	B29	剥片	-	SH3	19.0	16.9	6.4	1.3	▲11426(I-11/XVI)	-
191	206	A10	B29	剥片	-	CC1A	19.2	20.3	8.8	3.6	▲7073(I-11/XVI)	-
191	207	A10	B29	剥片	-	SH4A	21.5	24.4	6.2	2.9	▲11404(I-11/XVI)	-
191	208	A10	B29	剥片	-	SH3	25.6	29.3	25.8	6.4	▲11405(I-11/XVI)	-



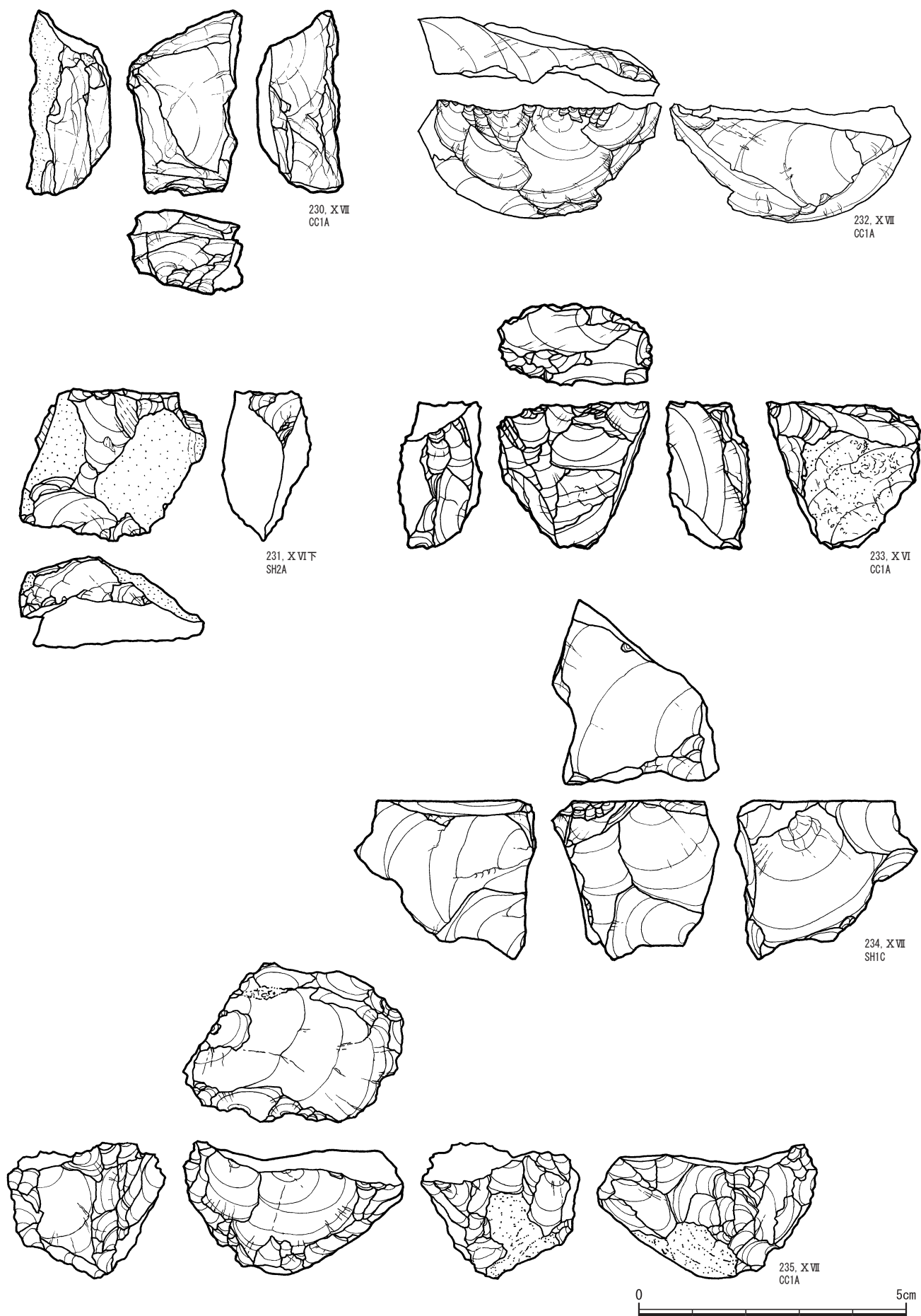
第192図 第I文化層第10エリア第30ブロック出土石器実測図



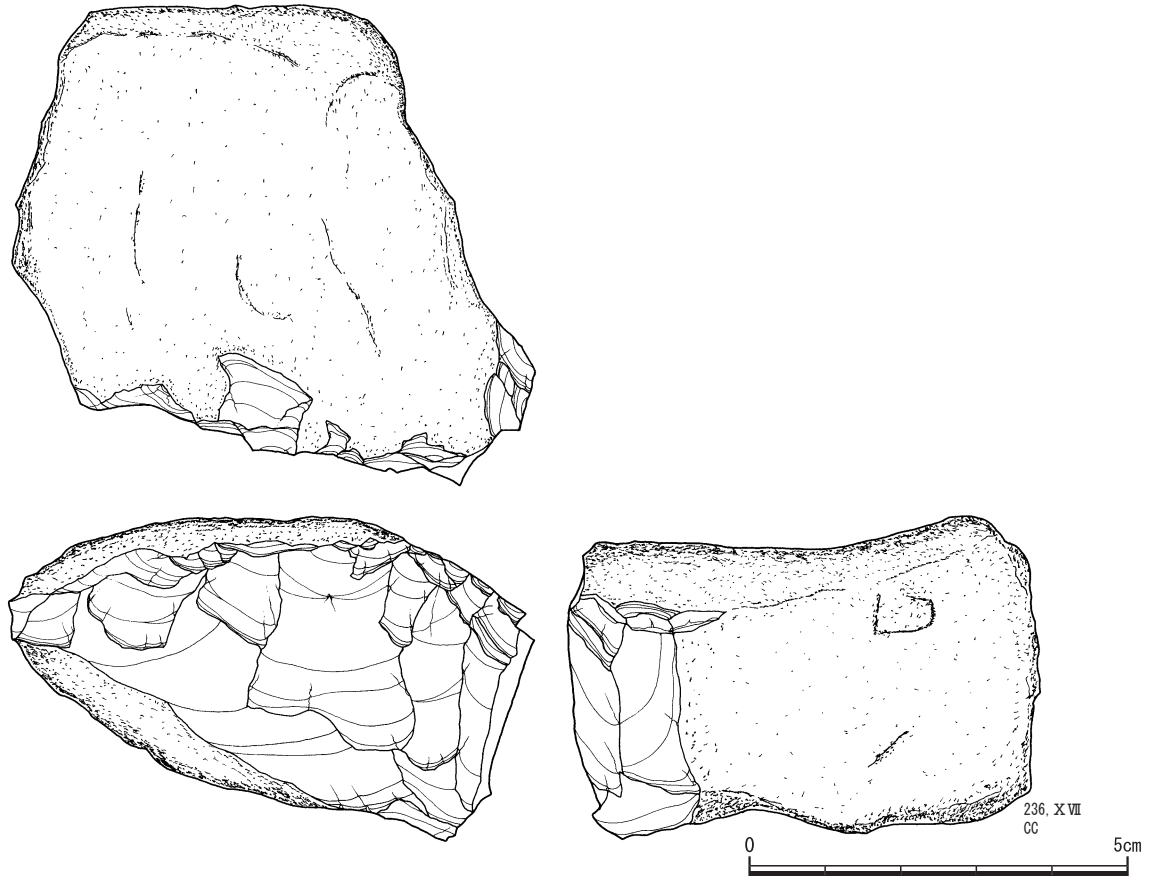
第193図 第I文化層第10エリア第31ブロック出土石器実測図



第194図 第I文化層第10エリア出土石器実測図(1)



第195図 第I文化層第10エリア出土石器実測図(2)



第196図 第I文化層第10エリア出土石器実測図(3)

の整形は入念に行い、右側縁は両面からの剥離で鋭利な稜をなし、基部は尖る。

238・264・265・283はナイフ形石器の破損品とみられる。255は不定形であるが、台形様石器と判断した。

線刻礫の320は“耳取ヴィーナス”と呼称したものである。シルト質頁岩の円礫に平滑な剥離面を設け、剥離面を正面に、山形に膨らんだ下半部を腹部に、線刻面を背部に想定している。下縁部の女性器想定部は、素材礫の節理部をV字に削りだし、V字の両面は平滑に加工している。背部は深く刻んだ17本の刻線と多数の擦痕が残され、手ずれによる光沢も鮮やかである。最大長52.3mm、最大幅39.1mm、最大厚24.6mm、重量56.7gである。

324はハンマーと台石を兼ね備えている。

接合資料の成果もあり、台形様石器主体の石器製作が認められる。

第36表 第I文化層第10エリア出土石器観察表(3)

編目No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)	接合No
192 209	A10	B30	剥片	-	CC1A	14.5	12.2	4.5	0.6	▲11561(1-11/XVI)	-
192 210	A10	B30	剥片	-	CC1A	18.7	19.1	6.7	1.5	▲14817(1-11/XVII)	-
192 211	A10	B30	微細剥離痕剥片	-	CC1A	32.5	17.6	7.8	3.3	▲11564(1-11/XVI)	-
192 212	A10	B30	ハンマー	-	KAN	63.6	33.0	18.5	52.0	▲18203(1-11/XVII)	-
193 213	A10	B31	台形様石器	-	SH2A	15.3	14.4	5.6	0.8	▲11575(1-10/XVI)	-
193 214	A10	B31	剥片	-	CC1A	20.4	15.8	6.5	1.8	▲14802(1-10/XVII)	-
193 215	A10	B31	二次加工痕剥片	-	CC1A	16.8	18.0	6.9	1.7	▲11573(1-10/XVII)	-
193 216	A10	B31	剥片	-	OB2A	44.7	20.1	8.8	4.6	▲18698(1-10/XVII)	-
193 217	A10	B31	石核	-	CH1A	25.3	41.2	30.8	29.7	▲14801(1-10/XVII)	-
194 218	A10	B00	ナイフ形石器	-	CC1A	28.9	13.6	8.6	2.4	▲6984(1-11/XVII)	-
194 219	A10	B00	台形様石器	-	OB2C	27.4	18.5	8.8	3.7	▲14763(J-11/XVI)	-
194 220	A10	B00	台形様石器	-	OB3A	34.2	17.1	10.9	3.6	▲14764(1-11/XVII)	-
194 221	A10	B00	搔器	-	SH1A	48.1	43.8	16.6	32.2	▲6965(1-12/XVII)	-
194 222	A10	B00	剥片	-	CC1A	11.9	12.1	3.2	0.4	▲6978(1-11/XVII)	-

第12エリア

耳取遺跡H・1-8・9区で、第38・第39の2ブロックで構成され、黒曜石Ⅱ類が多用されている。なお、47号～49号の3基の礫群を含み、50号礫群が隣接する。

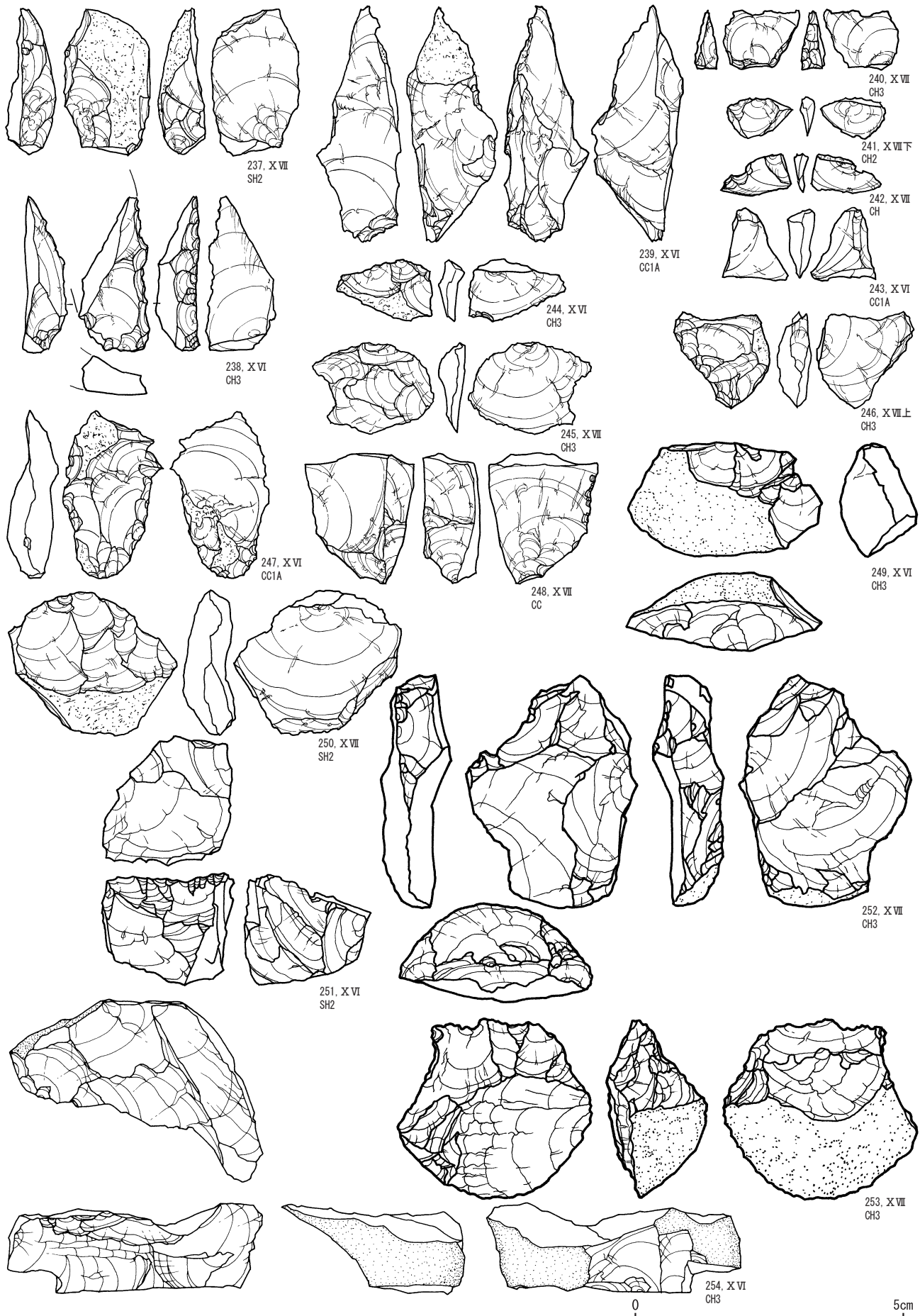
7点(325～327・332～334・336)の規格性のあるナイフ形石器が主体を占める。いずれもノ字形の剥片を素材とし、刃潰し加工は基部付近に集中している。台形様石器を主体とした第11エリアに隣接しているが、台形様石器は1点も含まず、石材構成にも違いがみられる。

7点のナイフ形石器は平坦面で構成する打面をそのまま残し、基部加工と共に背面基部のリッジ調整に徹し、腹面への調整剥離は皆無である。また、336以外の刃潰し加工は全て腹面からのみ実施されている。なお、335・336は接合する。

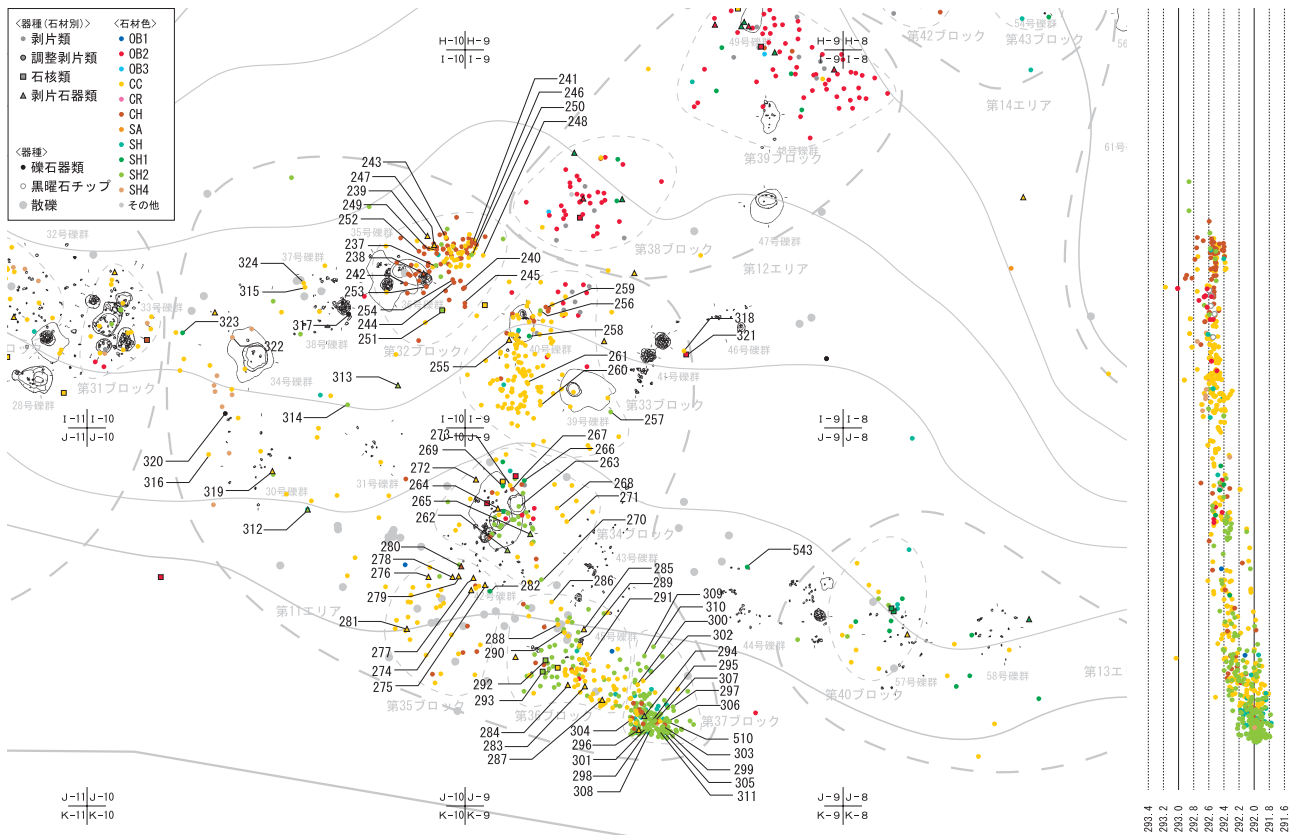
331・346の石核からは、ナイフ形石器のノ字形剥片の剥離技術は想定されず、素材剥片の持ち込みが想定される。

第37表 第I文化層第10エリア出土石器観察表(4)

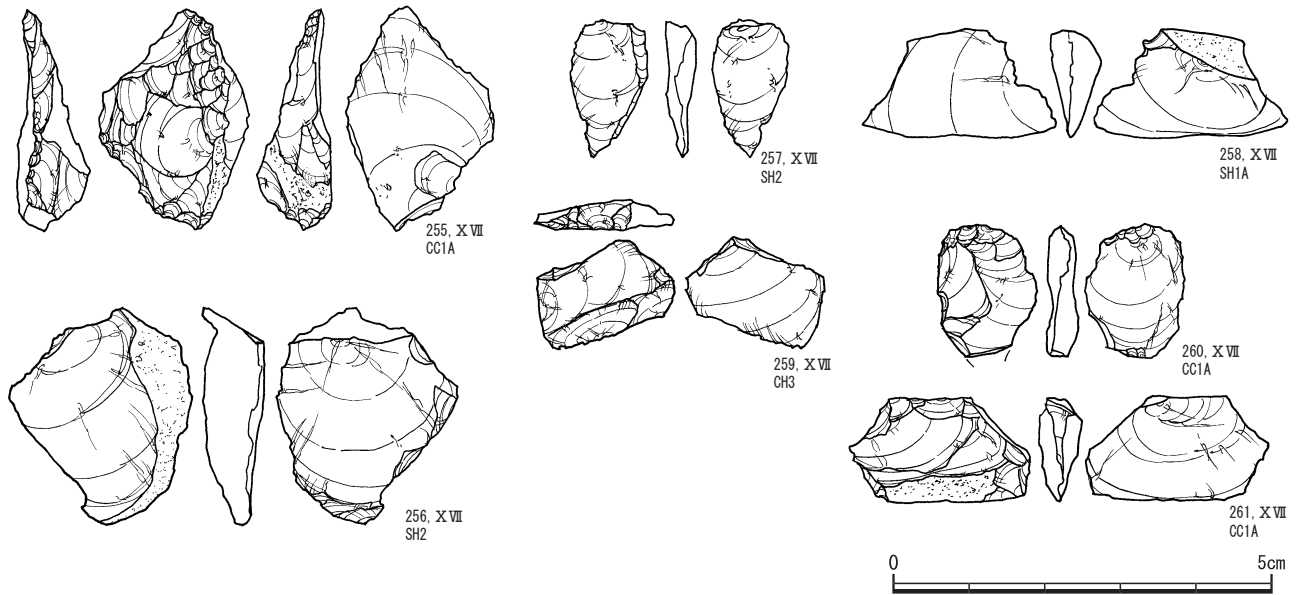
編目No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)	接合No
194 223	A10	B00	剥片	-	CC1A	12.8	15.5	4.2	0.6	▲14768(1-12/XVII)	-
194 224	A10	B00	剥片	-	SH1C	12.3	22.7	3.9	0.9	▲11383(1-11/XVII)	-
194 225	A10	B00	剥片	-	CC1A	17.9	35.1	5.2	2.5	▲6974(1-12/XVII)	-
194 226	A10	B00	剥片	-	SH2B	31.2	29.9	10.8	7.4	▲6976(1-11/XVII)	-
194 227	A10	B00	削器	-	SH1A	34.5	34.3	15.9	12.9	▲11384(1-12/XVII)	No. 14
194 228	A10	B00	剥片	-	SH2B	35.7	27.9	7.0	4.4	▲6982(1-12/XVI)	-
194 229	A10	B00	剥片	-	SH1A	73.7	33.3	20.4	38.1	▲14770(J-12/XVII)	-
195 230	A10	B00	二次加工痕剥片	-	CC1A	35.0	21.8	16.2	10.2	▲14761(J-11/XVII)	-
195 231	A10	B00	剥片	-	SH2A	28.3	17.0	17.4	17.2	▲11390(1-11/XVII下)	No. 18
195 232	A10	B00	剥片	-	CC1A	22.4	45.2	14.9	7.4	▲14769(J-12/XVII)	-
195 233	A10	B00	石核	-	CC1A	27.9	29.1	15.7	13.7	▲11566(1-11/XVI)	-
195 234	A10	B00	石核	-	SH1C	30.3	31.6	34.9	28.4	▲7079(1-11/XVII)	No. 13
195 235	A10	B00	石核	-	CC1A	25.3	41.5	30.1	25.1	▲14807(1-11/XVII)	-
196 236	A10	B00	石核	-	CC	43.1	69.7	63.7	198.1	▲6945(1-12/XVII)	-



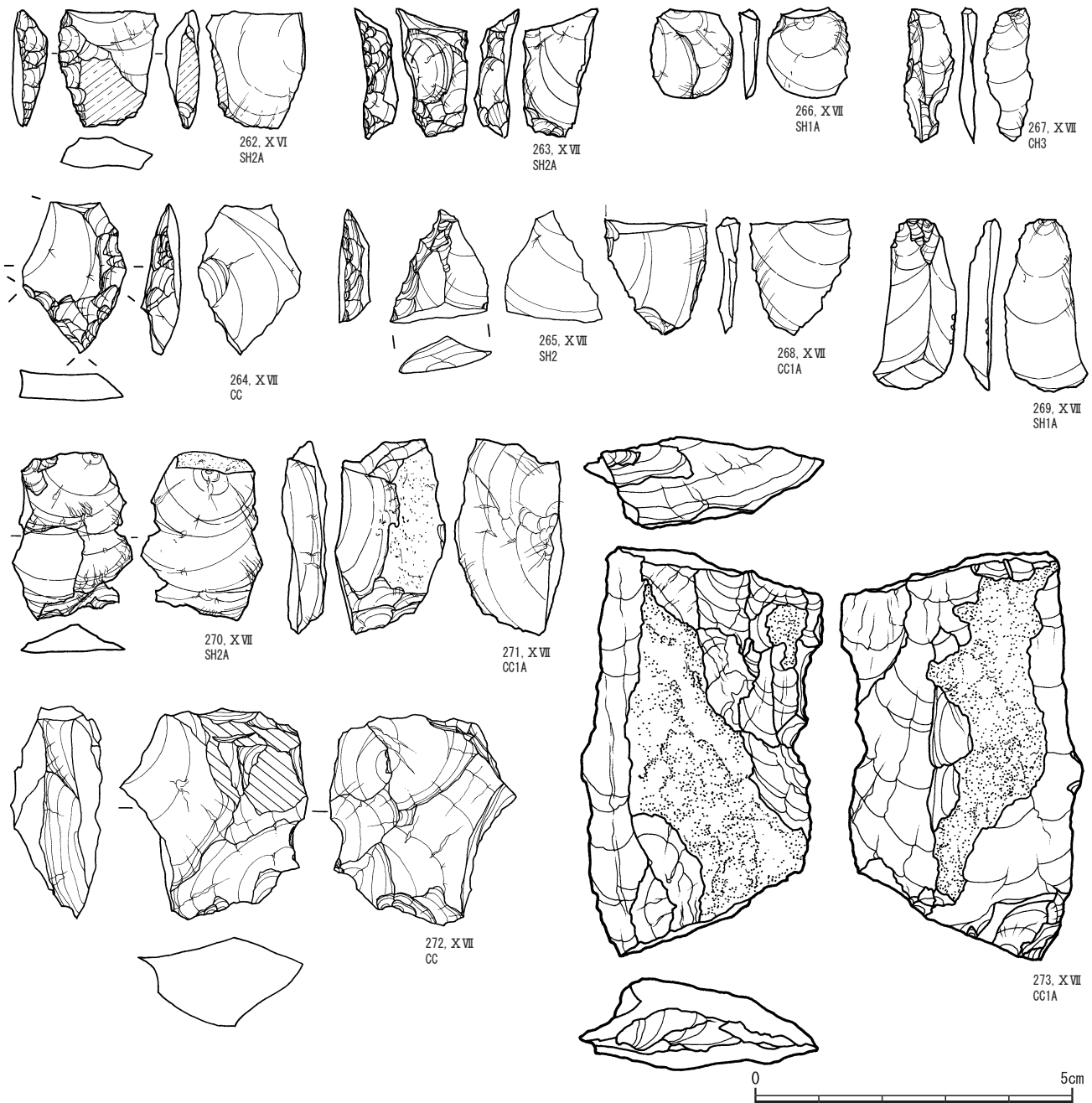
第197図 第I文化層第11エリア第32ブロック出土石器実測図



第198図 第I文化層第11エリア石器出土状況図



第199図 第I文化層第11エリア第33ブロック出土石器実測図



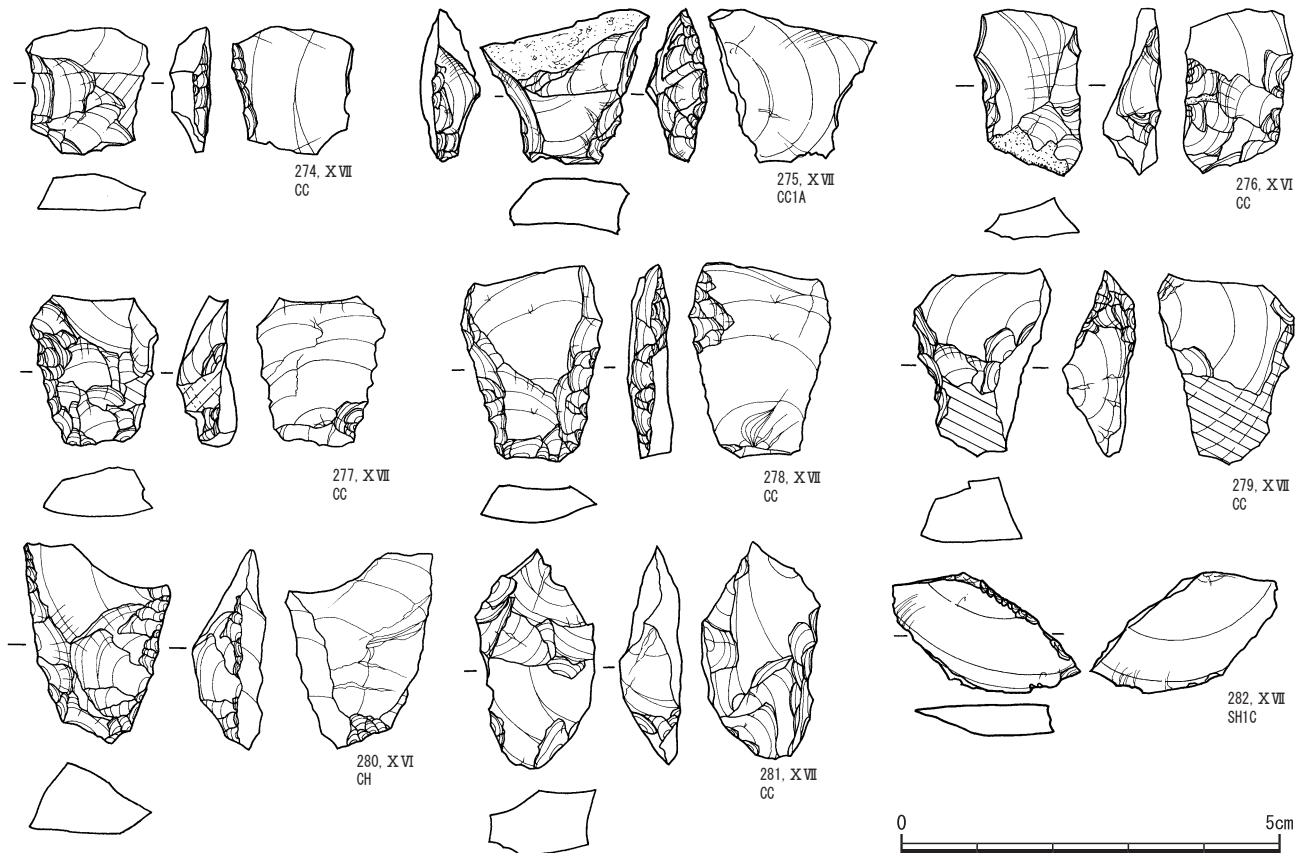
第200図 第I文化層第11エリア第34ブロック出土石器実測図

第38表 第I文化層第11エリア出土石器観察表(1)

標本No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)	接合No
197	237	A11	B32	台形縁石器	-	SH2	27.6	16.6	9.1	4.5	▲15654(1-10/XVII)	No. 28
197	238	A11	B32	ナイフ形石器	-	CH3	29.0	13.3	8.5	2.2	▲15660(1-10/XVI)	-
197	239	A11	B32	角錐状石器	-	CC1A	44.2	15.9	17.3	6.9	▲15648(1-10/XVI)	-
197	240	A11	B32	台形縁石器	-	CH3	11.5	14.2	4.7	0.6	▲18457(1-10/XVII)	-
197	241	A11	B32	剥片	-	CH2	7.9	12.4	2.9	0.2	▲18597(1-9/XVII下)	-
197	242	A11	B32	チップ	-	CH	7.5	13.2	2.9	0.2	▲18478(1-10/XVII)	-
197	243	A11	B32	剥片	-	CC1A	13.8	12.4	5.3	0.5	▲15647(1-10/XVI)	-
197	244	A11	B32	剥片	-	CH3	11.9	18.3	5.1	0.6	▲15635(1-10/XVI)	-
197	245	A11	B32	剥片	-	CH3	17.4	23.1	5.2	1.5	▲15630(1-9/XVII)	-
197	246	A11	B32	台形縁石器	-	CH3	18.2	18.4	6.6	1.7	▲18581(1-9/XVII上)	-
197	247	A11	B32	台形縁石器	-	CC1A	31.3	18.7	9.8	4.0	▲15646(1-10/XVI)	-
197	248	A11	B32	チップ	-	CC	24.6	20.6	10.9	4.8	▲18220(1-9/XVII)	-
197	249	A11	B32	剥片	-	CH3	21.6	36.4	15.0	10.8	▲15645(1-10/XVII)	-
197	250	A11	B32	剥片	-	SH2	27.1	31.5	10.0	7.8	▲18448(1-9/XVII)	No. 28
197	251	A11	B32	石核	-	SH2	21.3	24.9	24.5	11.3	▲15631(1-10/XVI)	No. 28
197	252	A11	B32	二次加工産剥片	-	CH3	43.5	32.5	13.6	13.9	▲15653(1-10/XVII)	-
197	253	A11	B32	剥片	-	CH3	34.0	36.5	18.8	20.0	▲15658(1-10/XVII)	-
197	254	A11	B32	剥片	-	CH3	17.0	47.6	34.2	17.9	▲15636(1-10/XVI)	-

第39表 第I文化層第11エリア出土石器観察表(2)

標本No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)	接合No
199	255	A11	B33	台形縁石器	-	CC1A	29.8	19.8	10.1	4.0	▲15599(1-9/XVII)	-
199	256	A11	B33	剥片	-	SH2	28.9	24.2	8.5	4.0	▲15483(1-9/XVII)	No. 28
199	257	A11	B33	剥片	-	SH2	18.2	10.3	4.2	0.6	▲15472(1-9/XVII)	No. 28
199	258	A11	B33	剥片	-	SH1A	14.6	25.8	6.9	1.6	▲15597(1-9/XVII)	-
199	259	A11	B33	剥片	-	CH3	14.9	18.5	4.3	0.8	▲15587(1-9/XVII)	-
199	260	A11	B33	剥片	-	CC1A	18.0	13.4	4.5	0.9	▲15616(1-9/XVII)	-
199	261	A11	B33	剥片	-	CC1A	14.0	24.4	5.9	1.5	▲15614(1-9/XVII)	-
200	262	A11	B34	台形縁石器	-	SH2A	18.8	15.9	5.8	1.6	▲15544(J-9/XVI)	-
200	263	A11	B34	台形縁石器	-	SH2A	20.5	12.1	7.3	1.1	▲15701(J-9/XVII)	No. 25
200	264	A11	B34	ナイフ形石器	-	CC	23.9	16.4	6.6	2.1	▲15734(J-9/XVII)	-
200	265	A11	B34	ナイフ形石器	-	SH2	17.8	15.4	5.2	1.0	▲15728(J-9/XVII)	-
200	266	A11	B34	剥片	-	SH1A	14.5	13.2	3.5	0.6	▲15693(J-9/XVII)	No. 29
200	267	A11	B34	剥片	-	CH3	21.2	7.9	3.0	0.3	▲15691(J-9/XVII)	-
200	268	A11	B34	剥片	-	CC1A	18.5	16.2	4.0	0.8	▲15699(J-9/XVII)	-
200	269	A11	B34	剥片	-	SH1A	27.4	13.3	6.0	1.4	▲15690(J-9/XVII)	-
200	270	A11	B34	剥片	-	SH2A	26.8	19.4	7.2	2.6	▲15714(J-9/XVII)	No. 16
200	271	A11	B34	剥片	-	CC1A	31.1	17.4	7.3	3.2	▲15698(J-9/XVII)	-
200	272	A11	B34	二次加工産剥片	-	CC	33.5	29.6	14.6	12.0	▲15747(J-9/XVII)	-



第201図 第I文化層第11エリア第35ブロック出土石器実測図

第13エリア

耳取遺跡J-8・9区で、第40ブロックを中心に構成し、頁岩と玉髓が主体を占める。エリア内には44号・57号・58号の礫群が含まれている。

第40ブロック349の台形様石器1点とブロック外出土の357のナイフ形石器が確認できる。台形様石器(349)の左側縁は先行する剥離面で、右側縁は調整剥離が繰り返され、基部では両面に調整剥離が加えられている。また、石核が確認

され、354は分割礫の分割面を打面に、355は頂部を挟み交互に、356も類似の剥片剥離が観察される。また、355・356では剥片の接合が確認されている。

第40ブロックの350・351はその形状から、ブランディングチップの可能性が高い。

第14エリア

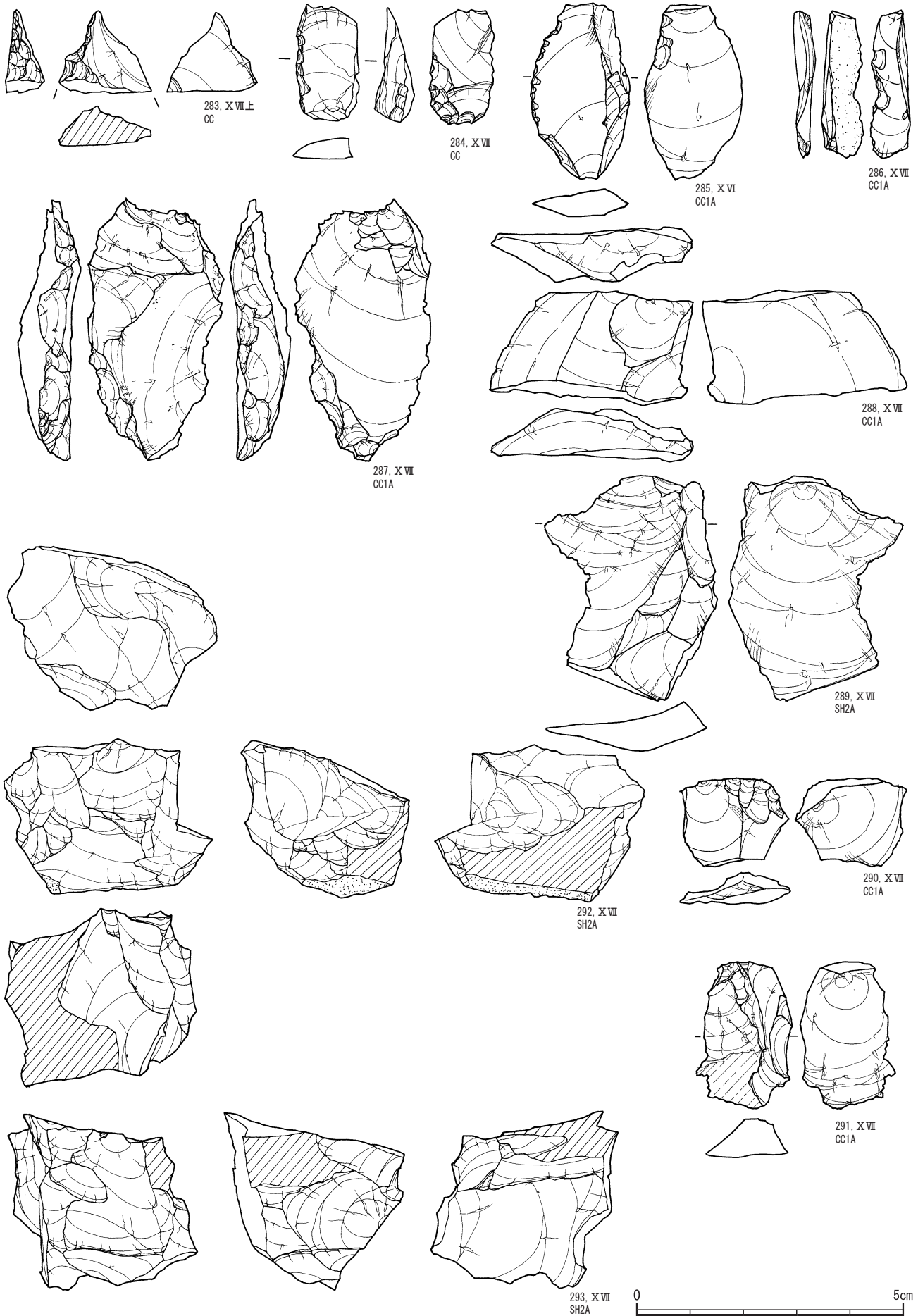
耳取遺跡H-1-8区で、第41～第43の3ブロックで構成される。石材は頁岩を主体とする。なお、51号～55号の礫群が

第40表 第I文化層第11エリア出土石器観察表(3)

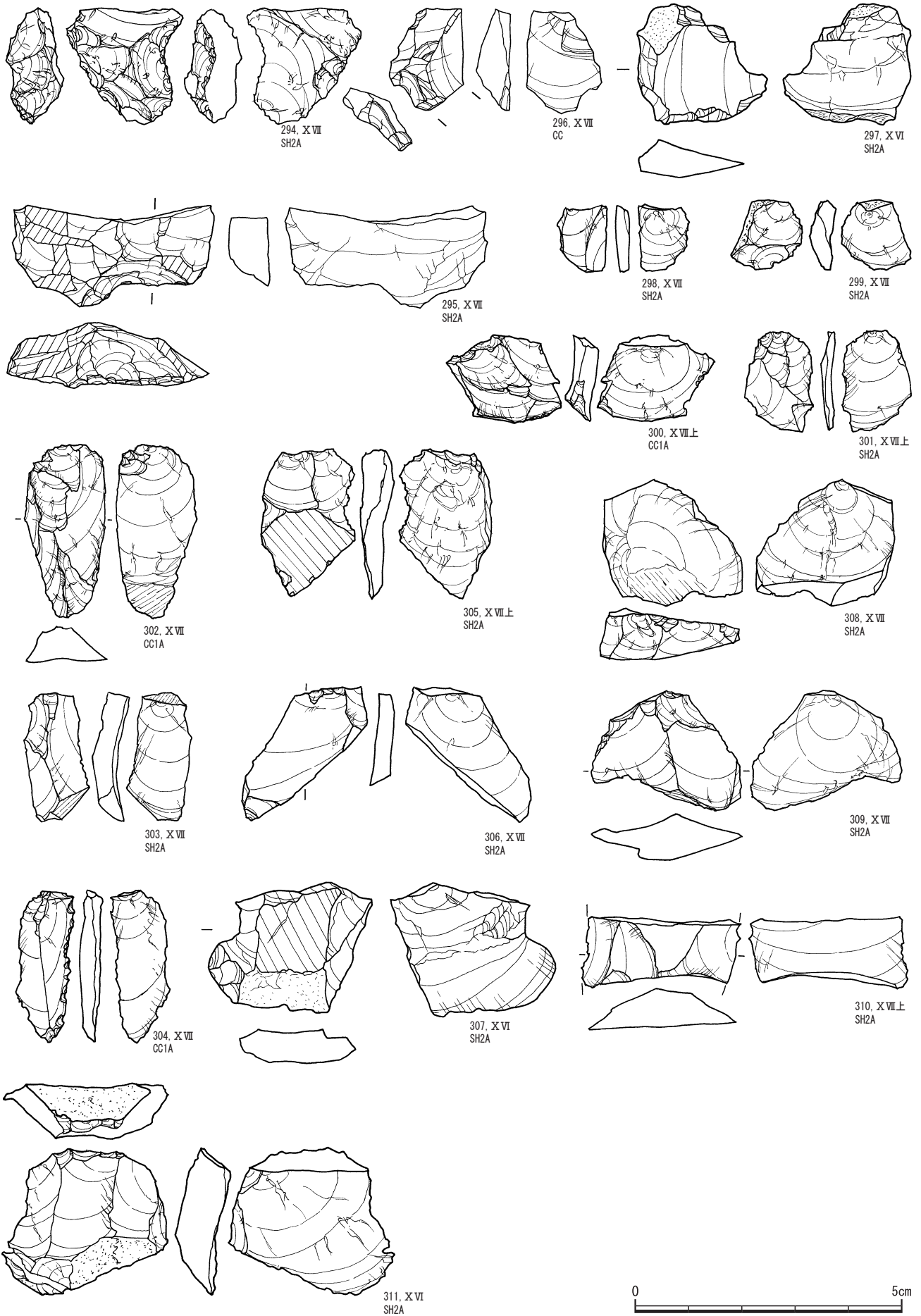
種別	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)	接合No
200	273	A11	B34	剥片	-	CC1A	64.7	38.7	14.8	30.5	▲18495(J-9/XVII)	-
201	274	A11	B35	台形様石器	-	CC	17.1	16.3	5.6	1.4	▲15834(J-9/XVII)	-
201	275	A11	B35	台形様石器	-	CC1A	20.4	22.2	8.1	2.6	▲18708(J-9/XVII)	-
201	276	A11	B35	台形様石器	-	CC	21.8	14.6	7.9	1.8	▲15798(J-10/XVII)	-
201	277	A11	B35	台形様石器	-	CC	20.1	17.2	8.1	2.0	▲15742(J-9/XVII)	-
201	278	A11	B35	台形様石器	-	CC	26.0	19.0	6.3	2.4	▲15805(J-10/XVII)	-
201	279	A11	B35	台形様石器	-	CC	25.3	18.2	9.8	3.0	▲15743(J-10/XVII)	-
201	280	A11	B35	台形様石器	-	CH	26.0	19.7	9.9	3.3	▲15744(J-10/XVI)	-
201	281	A11	B35	台形様石器	-	CC	28.9	15.8	8.4	3.0	▲15835(J-10/XVII)	-
201	282	A11	B35	剥片	-	SH1C	16.2	24.9	6.7	1.6	▲15837(J-9/XVII)	-
202	283	A11	B36	ナイフ形石器	-	CC	15.1	17.1	7.5	1.0	▲18831(J-9/XVII上)	-
202	284	A11	B36	台形様石器	-	CC	21.6	12.4	7.7	1.7	▲15773(J-9/XVII)	-
202	285	A11	B36	微細剥離痕剥片	-	CC1A	33.1	18.6	5.1	2.6	▲18657(J-9/XVI)	-
202	286	A11	B36	剥片	-	CC1A	27.9	7.6	4.3	0.7	▲15715(J-9/XVII)	-
202	287	A11	B36	台形様石器	-	CC1A	49.3	25.7	12.0	13.5	▲18681(J-9/XVII)	-
202	288	A11	B36	剥片	-	CC1A	21.7	38.6	10.6	7.5	▲18487(J-9/XVII)	-
202	289	A11	B36	剥片	-	SH2A	42.3	32.8	12.0	9.9	▲18908(J-9/XVII)	No. 20
202	290	A11	B36	剥片	-	CC1A	16.7	21.0	6.1	1.6	▲15720(J-9/XVII)	-
202	291	A11	B36	剥片	-	CC1A	27.8	18.1	8.0	3.8	▲18689(J-9/XVII)	-
202	292	A11	B36	石核	-	SH2A	29.7	39.5	30.9	32.1	▲15831(J-9/XVII)	No. 16
202	293	A11	B36	石核	-	SH2A	33.4	35.3	33.7	37.9	▲15770(J-9/XVII)	No. 16
203	294	A11	B37	台形様石器	-	SH2A	22.0	21.6	11.1	3.9	▲18666(J-9/XVII)	-
203	295	A11	B37	削器	-	SH2A	19.3	38.2	12.6	6.7	▲18960(J-9/XVII)	No. 19
203	296	A11	B37	挟入石器	-	CC	19.4	14.3	6.6	1.3	▲18882(J-9/XVII)	-
203	297	A11	B37	剥片	-	SH2A	22.9	24.2	8.6	4.6	▲18641(J-9/XVI)	-
203	298	A11	B37	剥片	-	SH2A	12.7	9.8	2.9	0.4	▲19065(J-9/XVII)	-

第41表 第I文化層第11エリア出土石器観察表(4)

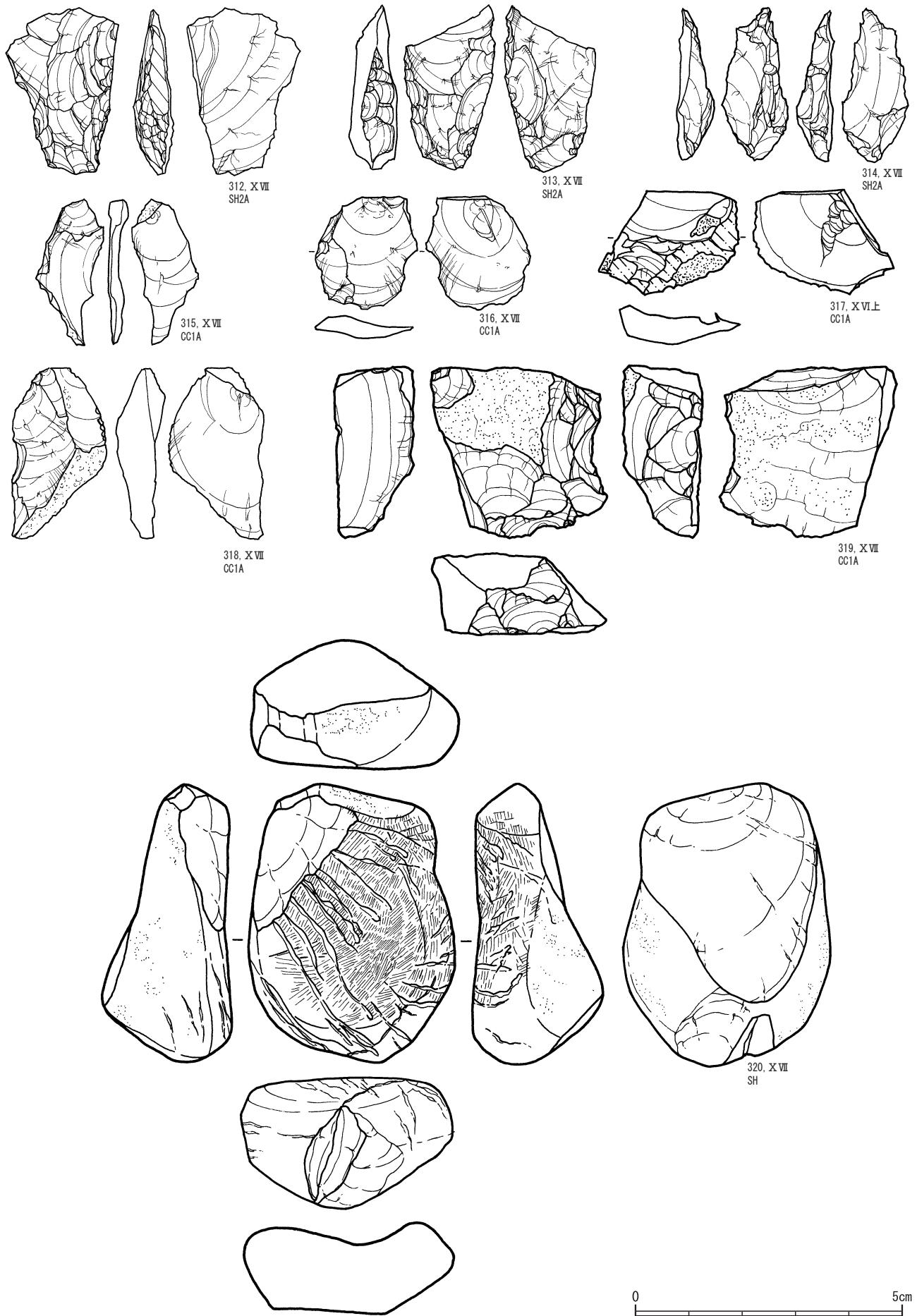
種別	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)	接合No
203	299	A11	B37	剥片	-	SH2A	13.4	13.2	5.2	0.7	▲19061(J-9/XVII)	-
203	300	A11	B37	剥片	-	CC1A	16.5	22.3	6.5	1.4	▲18835(J-9/XVII上)	-
203	301	A11	B37	剥片	-	SH2A	19.2	13.2	2.9	0.5	▲18851(J-9/XVII上)	-
203	302	A11	B37	剥片	-	CC1A	32.8	15.4	8.2	2.8	▲18675(J-9/XVII)	-
203	303	A11	B37	剥片	-	SH2A	24.1	12.4	7.2	1.1	▲18987(J-9/XVII)	-
203	304	A11	B37	剥片	-	CC1A	28.8	11.4	4.6	1.1	▲18879(J-9/XVII)	-
203	305	A11	B37	剥片	-	SH2A	28.3	17.7	6.6	2.5	▲18861(J-9/XVII上)	No. 16
203	306	A11	B37	剥片	-	SH2A	25.5	23.7	7.0	2.1	▲18900(J-9/XVII)	No. 17
203	307	A11	B37	剥片	-	SH2A	25.4	31.2	6.6	4.9	▲18643(J-9/XVI)	-
203	308	A11	B37	剥片	-	SH2A	23.9	26.2	9.9	5.1	▲18884(J-9/XVII)	No. 21
203	309	A11	B37	剥片	-	SH2A	22.7	28.5	9.0	4.3	▲18940(J-9/XVII)	No. 16
203	310	A11	B37	剥片	-	SH2A	13.7	30.0	8.0	2.8	▲18803(J-9/XVII上)	No. 17
203	311	A11	B37	剥片	-	SH2A	27.6	31.3	10.7	6.8	▲18642(J-9/XVI)	-
204	312	A11	B00	台形様石器	-	SH2A	31.6	21.4	7.8	4.2	▲15560(J-10/XVII)	No. 20
204	313	A11	B00	台形様石器	-	SH2A	31.3	17.3	9.3	4.7	▲15572(1-10/XVII)	No. 21
204	314	A11	B00	剥片	-	SH2A	28.9	12.7	7.4	1.5	▲15571(1-10/XVII)	No. 16
204	315	A11	B00	剥片	-	CC1A	27.5	12.7	4.0	0.7	▲15666(1-10/XVII)	-
204	316	A11	B00	剥片	-	CC1A	21.5	19.8	5.3	1.6	▲14758(J-10/XVII)	-
204	317	A11	B00	剥片	-	CC1A	20.0	26.7	8.2	3.3	▲15351(1-10/XVI上)	-
204	318	A11	B00	剥片	-	CC1A	32.4	18.1	9.5	3.4	▲15471(1-9/XVII)	-
204	319	A11	B00	二次加工痕剥片	-	CC1A	32.3	33.6	15.7	18.4	▲15557(J-10/XVII)	-
204	320	A11	B00	線刻礫	-	SH	52.9	39.6	24.7	56.7	▲15723(1-10/XVII)	-
205	321	A11	B00	石核	-	OB2A	16.8	24.8	20.8	1.3	▲15582(1-9/XVII)	-
205	322	A11	B00	剥片	-	SH4A	28.9	55.2	30.3	32.3	▲15884(1-10/XVII)	-
205	323	A11	B00	剥片	-	SH1A	39.0	42.4	40.0	33.3	▲15576(1-10/XVI)	-
205	324	A11	B00	敲石	-	SA	135.3	53.5	26.9	281.6	▲18186(1-10/XVII)	-



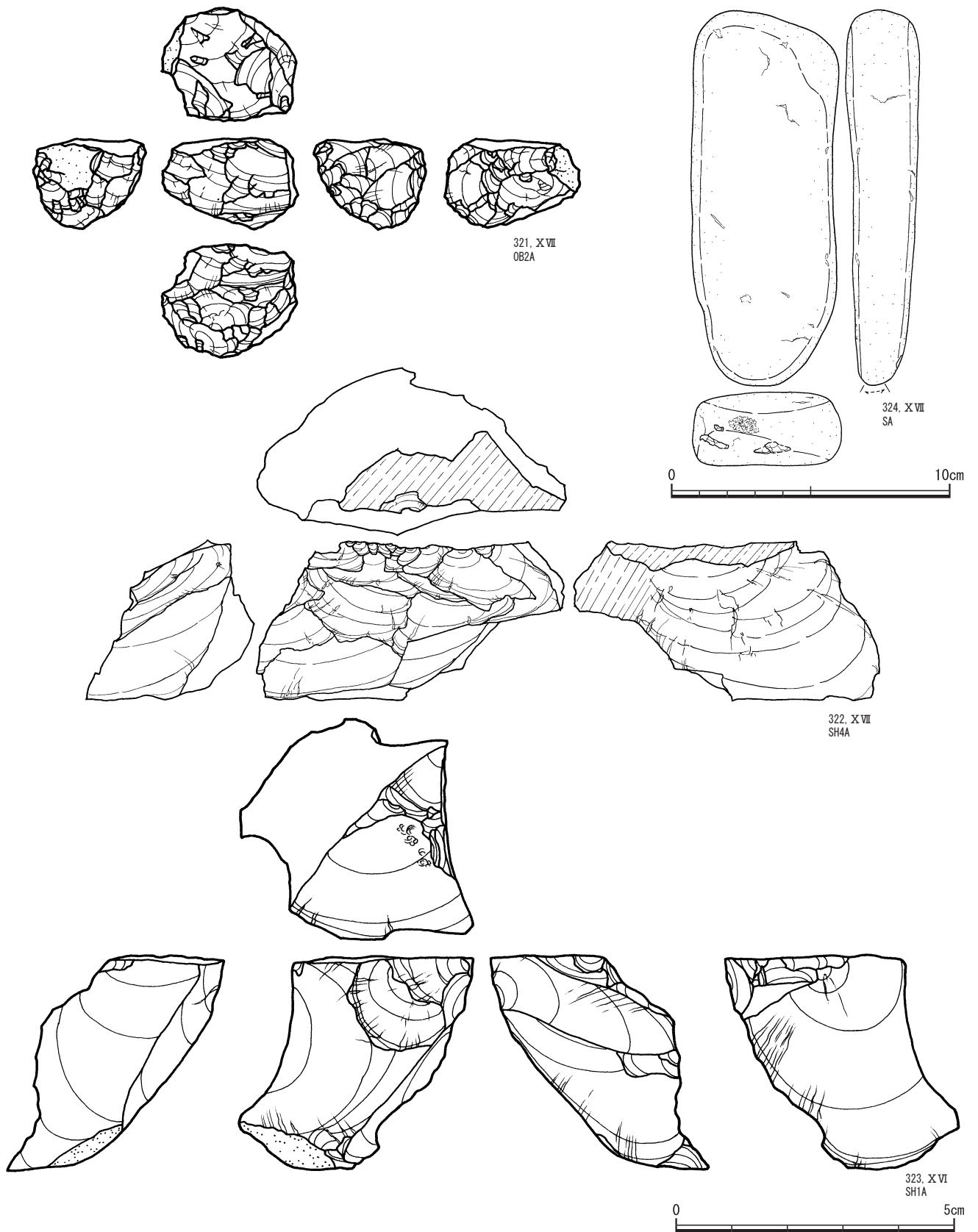
第202図 第I文化層第11エリア第36ブロック出土石器実測図



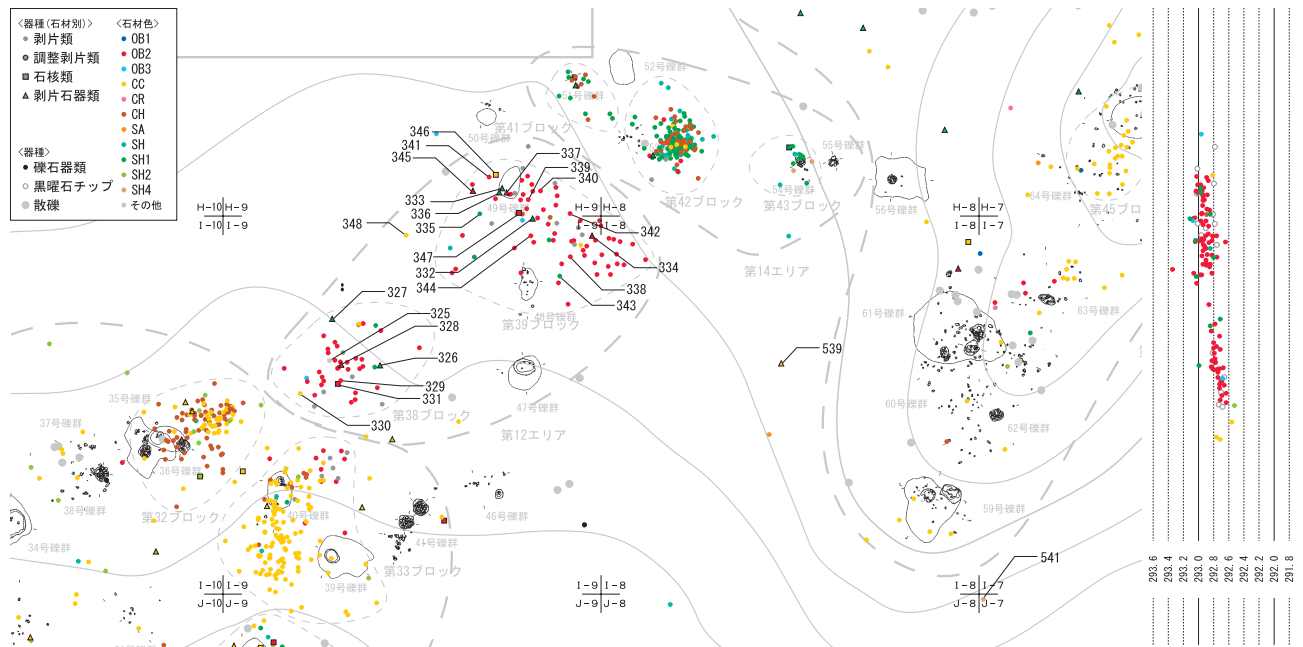
第203図 第I文化層第11エリア第37ブロック出土石器実測図



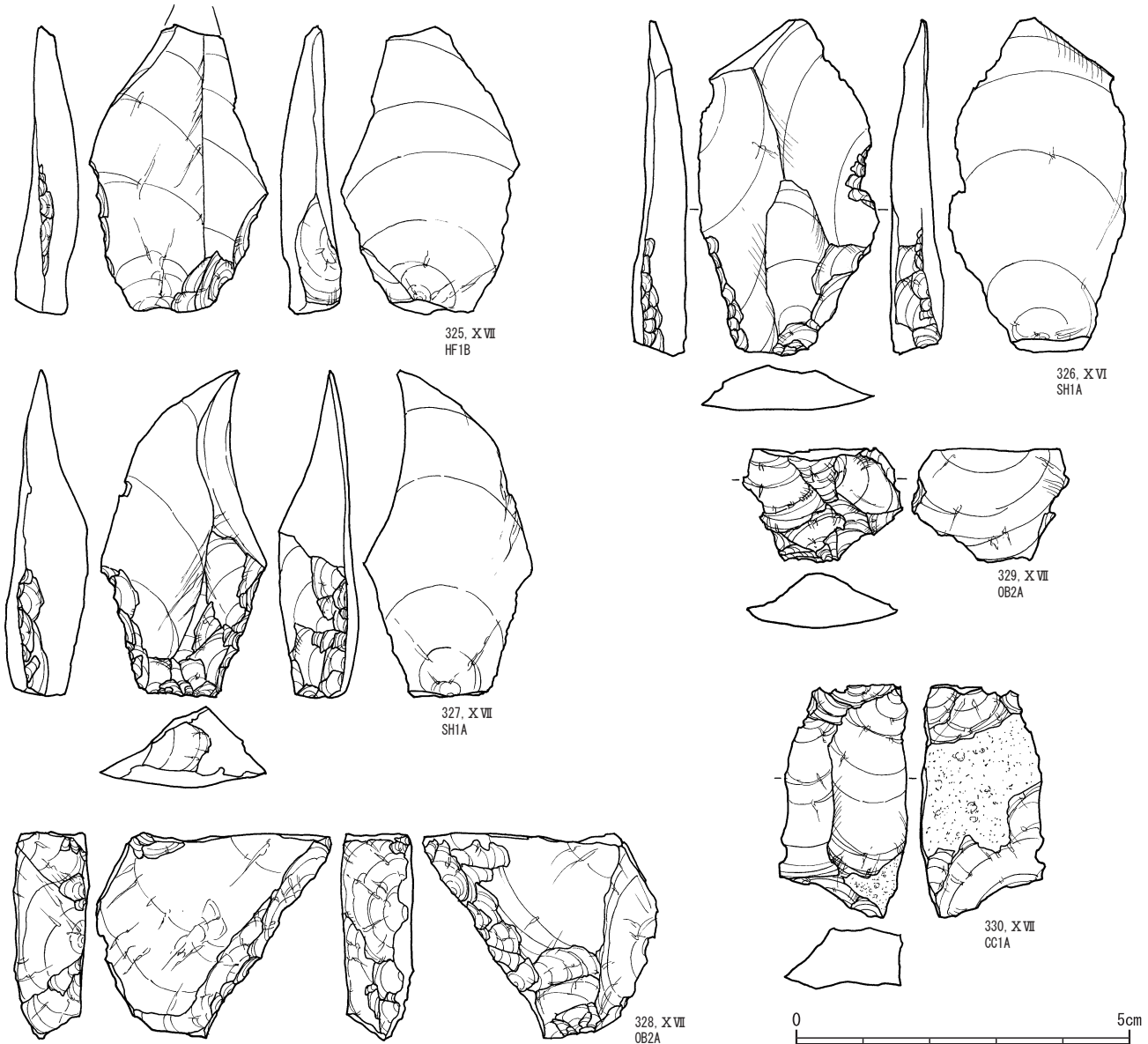
第204図 第I文化層第11エリア出土石器実測図(1)



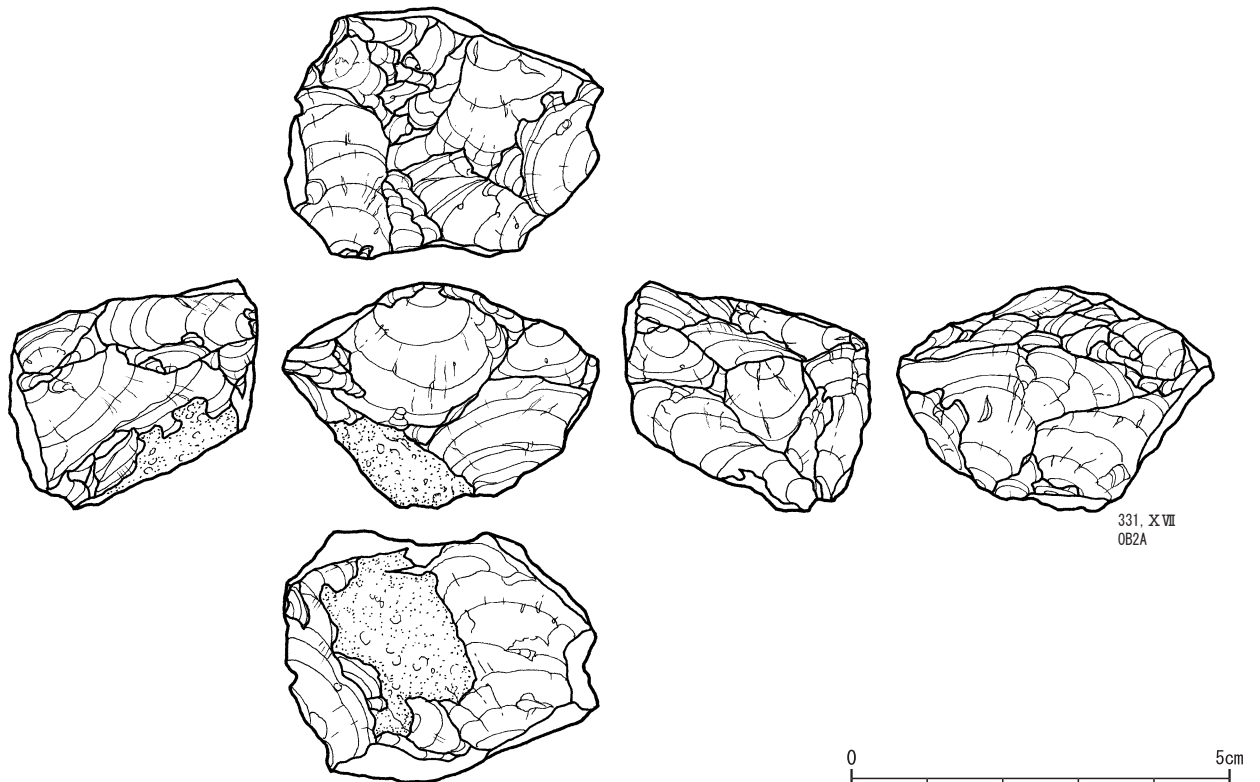
第205図 第I文化層第11エリア出土石器実測図(2)



第206図 第I文化層第12エリア石器出土状況図



第207図 第I文化層第12エリア第38ブロック出土石器実測図(1)



第208図 第I文化層第12エリア第38ブロック出土石器実測図(2)

エリア内に形成されている。

第42ブロックの369がナイフ形石器の基部、370が台形様石器の破損品、第41ブロックの364が削器の可能性はある以外は明確な石器は確認できない。389・392等の安定した石核の存在、365・366等の類型化した剥片の存在、374・375等のブランディングチップの可能性が存在することから、定型的石器の確認は少ないが石器製作が行われた可能性は高いと判断できる。

第15エリア

耳取遺跡G~I-6~8区で、第44~第47の4ブロックで構成する。第47ブロックが頁岩、他は玉髄で構成される。なお、56号・59号~64号・66号・67号の9基の礫群が、エリア内に形成されている。

台形様石器4点(395・396・421・422)、剥片尖頭器11点(410・428~437)、基部加工ナイフ形石器3点(423~425)、削器6点(426・427・440・442・443・444)と豊富な石器を含んでいる。

第46ブロックの395の台形様石器は、接合が確認されている。ブロック外出土の422は、右側縁は両面から細かい調整

第42表 第I文化層第12エリア出土石器観察表(1)

種別No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)	接合No
207	325	A12	B38	ナイフ形石器	-	HF1B	43.4	27.0	9.4	8.0	▲15434(1-9/XVII)	-
207	326	A12	B38	ナイフ形石器	-	SH1A	50.4	26.9	8.5	8.9	▲15439(1-9/XVI)	-
207	327	A12	B38	ナイフ形石器	-	SH1A	49.4	25.6	12.4	10.8	▲15423(1-9/XVII)	-
207	328	A12	B38	二次加工産剥片	-	OB2A	31.0	35.5	11.1	13.1	▲15577(1-9/XVII)	No. 32
207	329	A12	B38	剥片	-	OB2A	17.3	23.8	8.0	2.5	▲15445(1-9/XVII)	No. 31
207	330	A12	B38	剥片	-	CC1A	35.1	18.9	10.0	6.7	▲15456(1-9/XVII)	-
208	331	A12	B38	石核	-	OB2A	30.2	42.1	33.6	38.6	▲15446(1-9/XVII)	No. 31
209	332	A12	B39	ナイフ形石器	-	SH1A	41.2	25.5	9.0	5.5	▲16838(1-9/XVI下)	-
209	333	A12	B39	ナイフ形石器	-	SH1	53.0	22.8	12.1	8.5	▲16864(H-9/XVII)	-
209	334	A12	B39	ナイフ形石器	-	OB2A	31.2	29.4	12.5	8.0	▲16821(1-9/XVI下)	-
209	335	A12	B39	ナイフ形石器	-	SH1A	17.7	16.5	4.5	0.7	▲15405(H-9/XVII)	No. 33
209	336	A12	B39	ナイフ形石器	-	SH1A	35.6	22.7	9.0	5.9	▲16865(H-9/XVII)	No. 33

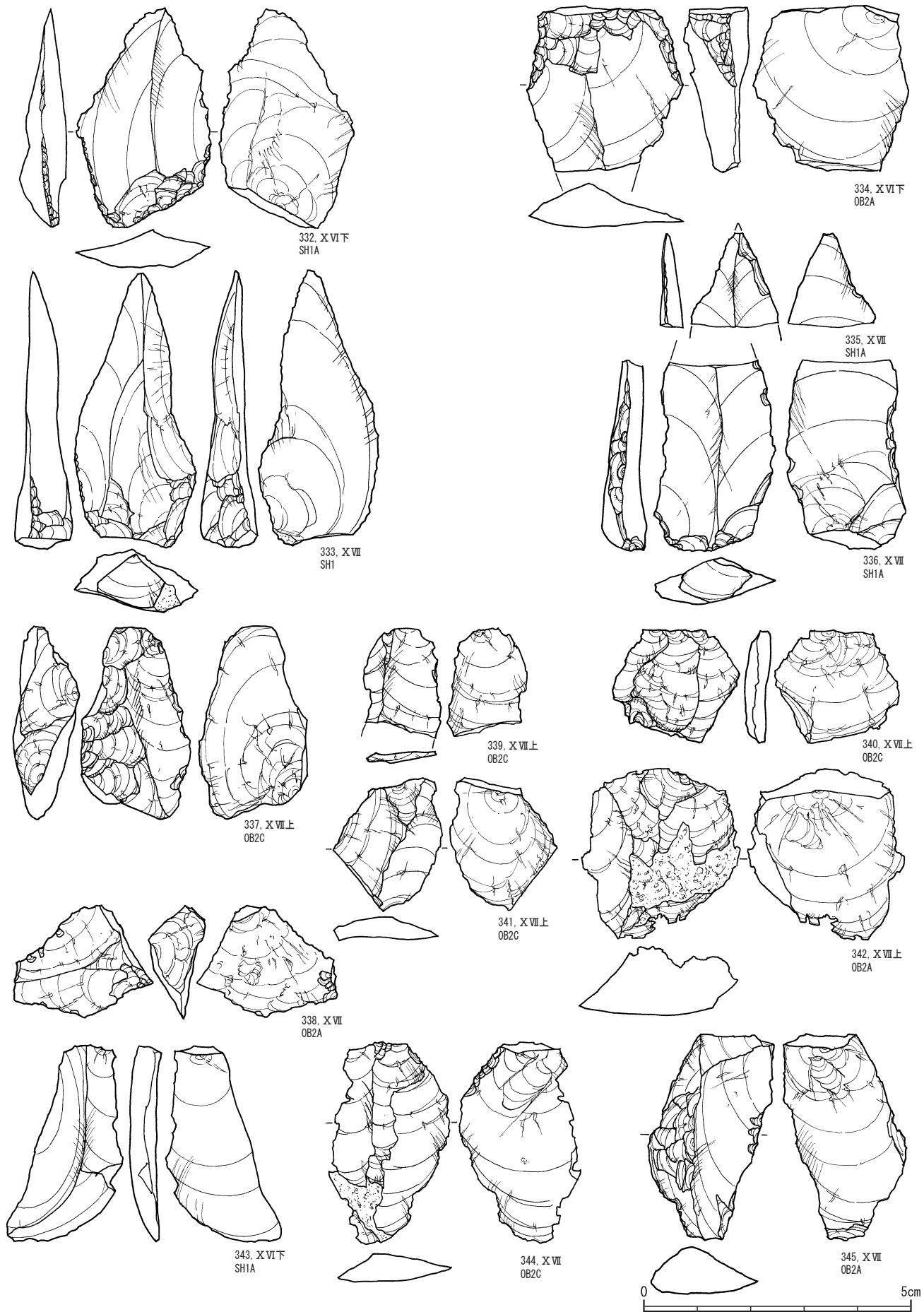
剥離が加えられ、左側縁は背面にのみ整形が見られ、打面が大きく変わることはない。

大型剥片尖頭器の存在が特徴で、基部のみの410と先端部を欠く436を含み、435・437は10cmを越し重量もある。410は厚手の剥片を素材に、基部作出は腹面からを専らとし、最終的には背面基部の削平を行っている。428は先端の一部と、基部の挟りだしは左側縁に終始し、右側は腹面に2回の剥離で留めている。429・430は素材剥片の形状及び加工状況が類似し、仕上がりも相似形を成している。431の基部は、尖り気味に打面方向からの調整剥離で仕上げている。434の基部の挟りは浅い。435の背部は右側縁に設け、急角度の加工が見られる。436の先端部の剥離は先行する剥離面で、基部から左側縁に急角度の加工を行っている。437に関しては、横剥ぎの剥片を素材に、特に腹面に周辺から整形剥離を繰り返し、形状の調整を行いながら仕上げている。基部は両面及び底面からも実施し、鋭利に仕上げている。

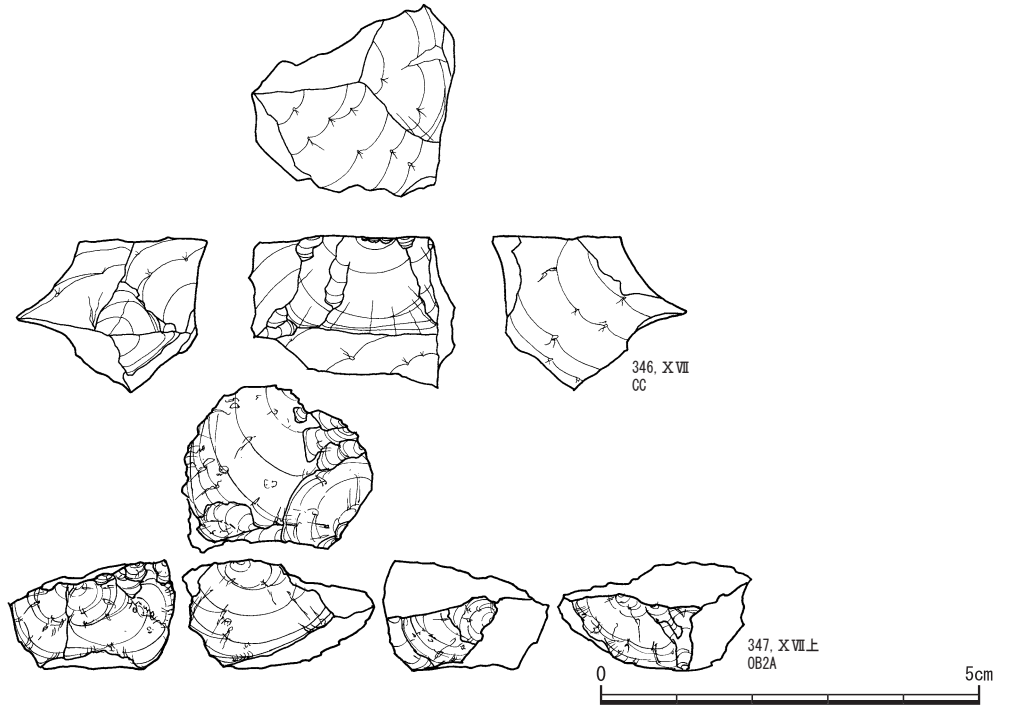
426・427は削器と判断しているが個性的な形状を呈している。2点とも腹面からの整形で、基部の背面にリッジ調整が見られることから、挿入されていた可能性も高い。基部加工

第43表 第I文化層第12エリア出土石器観察表(2)

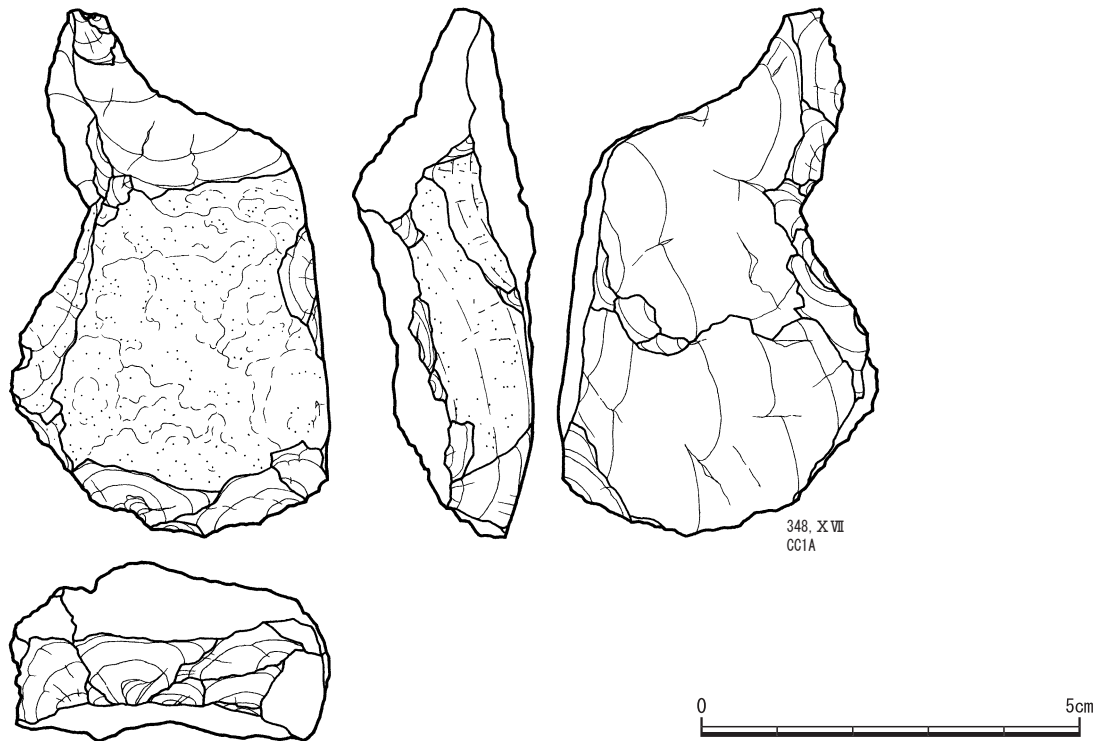
種別No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)	接合No
209	337	A12	B39	削器	-	OB2C	36.3	20.6	12.7	7.4	▲16863(H-9/XVII上)	-
209	338	A12	B39	剥片	-	OB2A	21.0	26.5	10.9	2.8	▲18224(1-9/XVII)	-
209	339	A12	B39	剥片	-	OB2C	20.3	15.2	3.6	0.9	▲16917(H-9/XVII上)	-
209	340	A12	B39	剥片	-	OB2C	21.4	23.5	5.1	2.2	▲16856(H-9/XVII上)	-
209	341	A12	B39	剥片	-	OB2C	24.9	20.3	4.9	1.9	▲16923(H-9/XVII上)	-
209	342	A12	B39	剥片	-	OB2A	32.2	29.5	13.8	11.7	▲16827(H-9/XVII上)	-
209	343	A12	B39	剥片	-	SH1A	36.8	21.8	6.3	2.8	▲16815(1-9/XVII下)	-
209	344	A12	B39	剥片	-	OB2C	37.8	22.9	6.3	3.7	▲16834(1-9/XVII)	-
209	345	A12	B39	微細剥離産剥片	-	OB2A	38.9	23.3	8.6	7.0	▲15402(H-9/XVII)	-
210	346	A12	B39	石核	-	CC	20.3	27.5	25.4	11.4	▲15403(H-9/XVII)	-
210	347	A12	B39	石核	-	OB2A	14.7	25.6	22.3	7.0	▲16866(H-9/XVII上)	-
211	348	A12	B00	剥片	-	CC1A	70.0	42.6	24.0	59.6	▲15415(1-9/XVII)	-



第209図 第I文化層第12エリア第39ブロック出土石器実測図(1)



第210図 第I文化層第12エリア第39ブロック出土石器実測図(2)



第211図 第I文化層第12エリア出土石器実測図

の3点(423~425)のナイフ形石器も特徴的で、423は、石核480との接合が確認されている。この3点についても、基部の背面への調整剥離が実施されている。石核や剥片も存在し、接合資料も確認できることから、小型石器の製作が行われたと判断できる。

418・420・438の縦長剥片が散見されるが、その規格から剥片尖頭器の素材から除かれたものと思われる。442・443は削器と判断している。

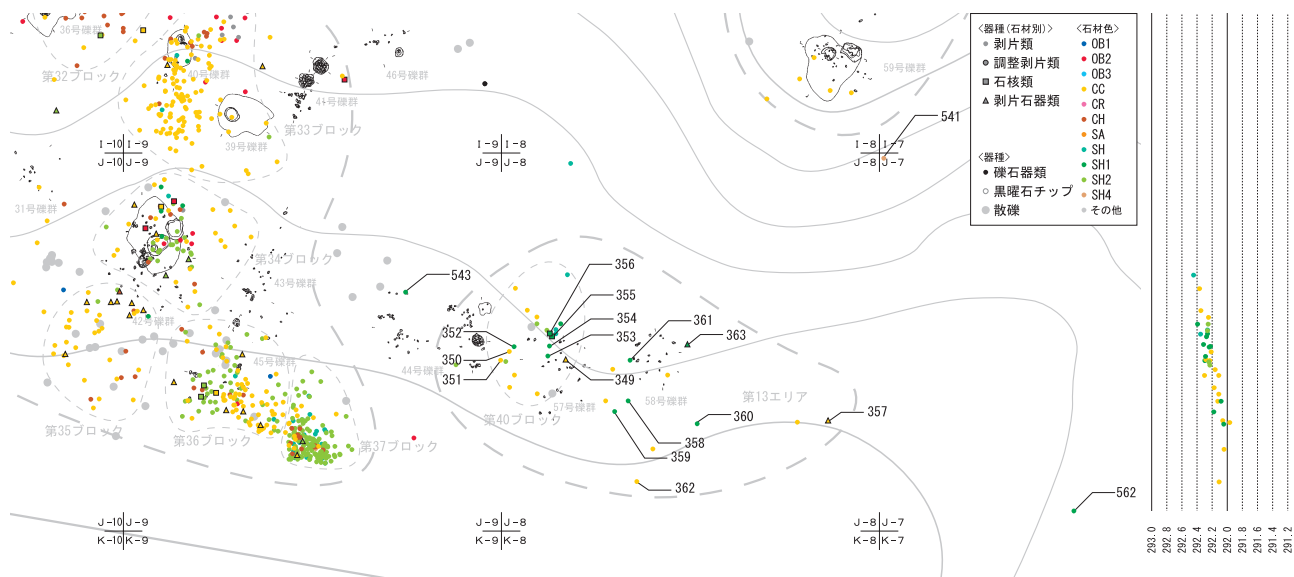
481は最大長16.2cm, 最大幅7.6cm, 左側面の先端部に楕

状剥離と見られる上方向から下方向の剥離面が観察できる。あまりにも大型となることから、彫器との認定に苦慮するところである。

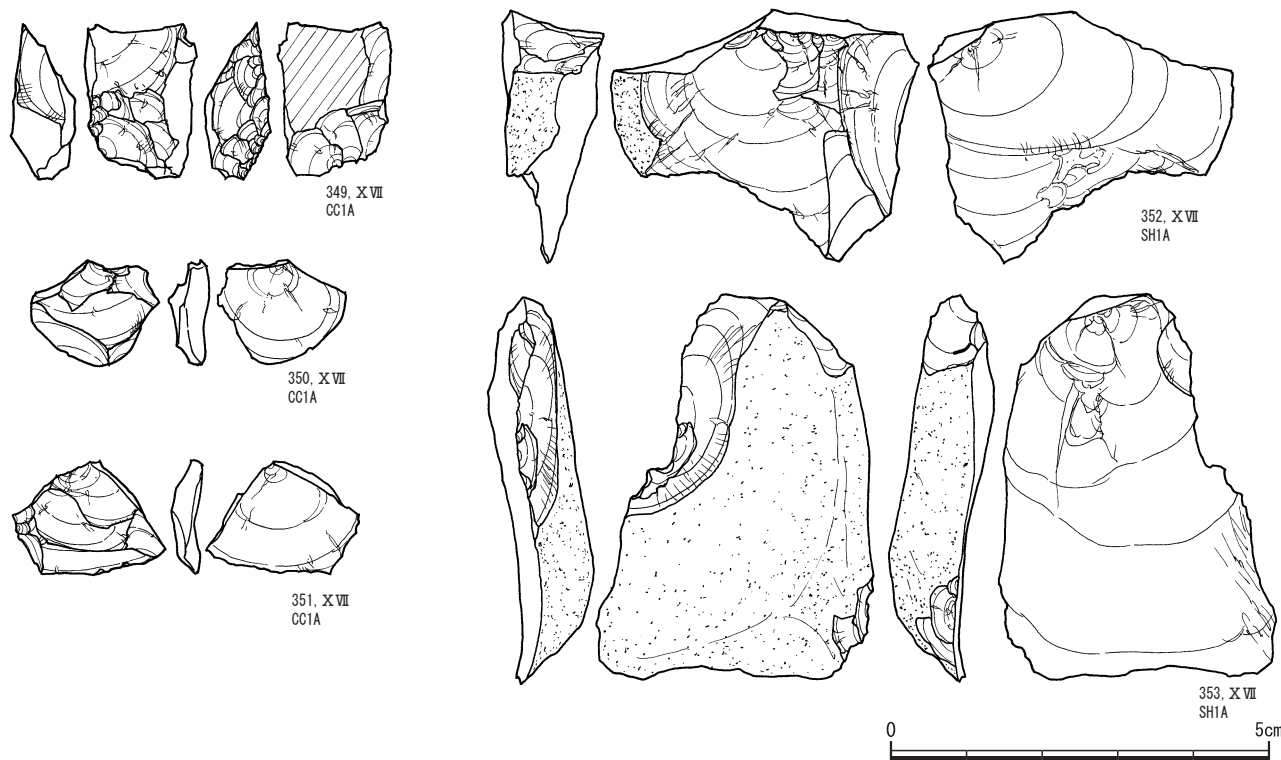
479・480の石核の存在、448・450・451等の不定形剥片の存在やナイフ形石器423と石核480の接合例から、基部加工ナイフ形石器等の石器製作が行われていたと考えられる。

第16エリア

耳取遺跡I・J-5・6区で、第48・第49の2ブロックで構成される。主要石材は頁岩である。なお、68号~74号の7基



第212図 第I文化層第13エリア石器出土状況図



第213図 第I文化層第13エリア第40ブロック出土石器実測図(1)

の礫群がエリア内に形成されている。

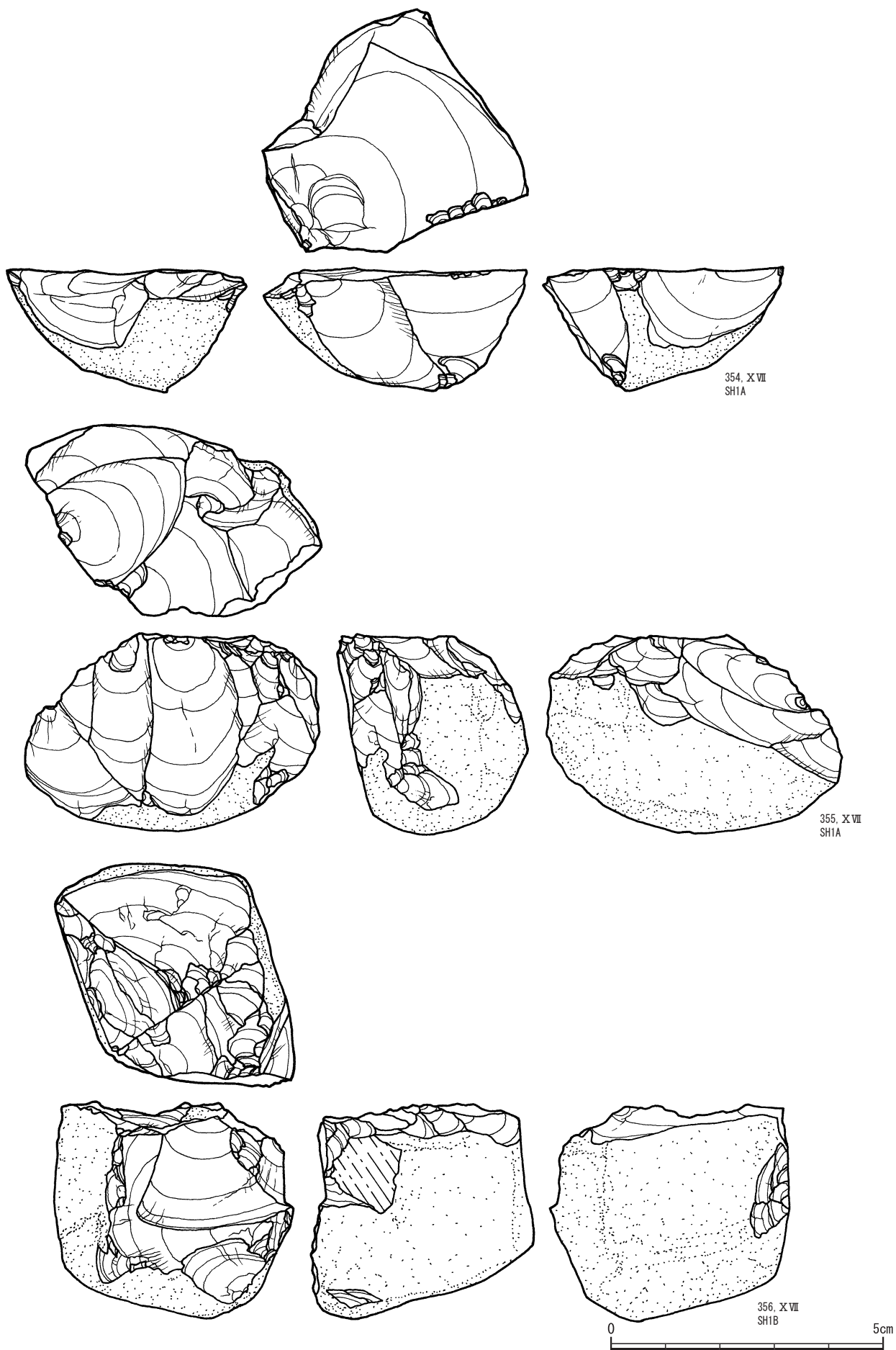
3点の台形様石器(482・485・486)と492のナイフ形石器が抽出できる。台形様石器482は素材剥片のバルブ除去と右側縁の調整剥離が目立つ。485は素材を横位に486は縦位に用い、軸の長い形状に仕上がっている。ナイフ形石器(492)は、ノ字状の剥片の基部と先端部に調整剥離が意識されている。

493は二次加工のある剥片とした。

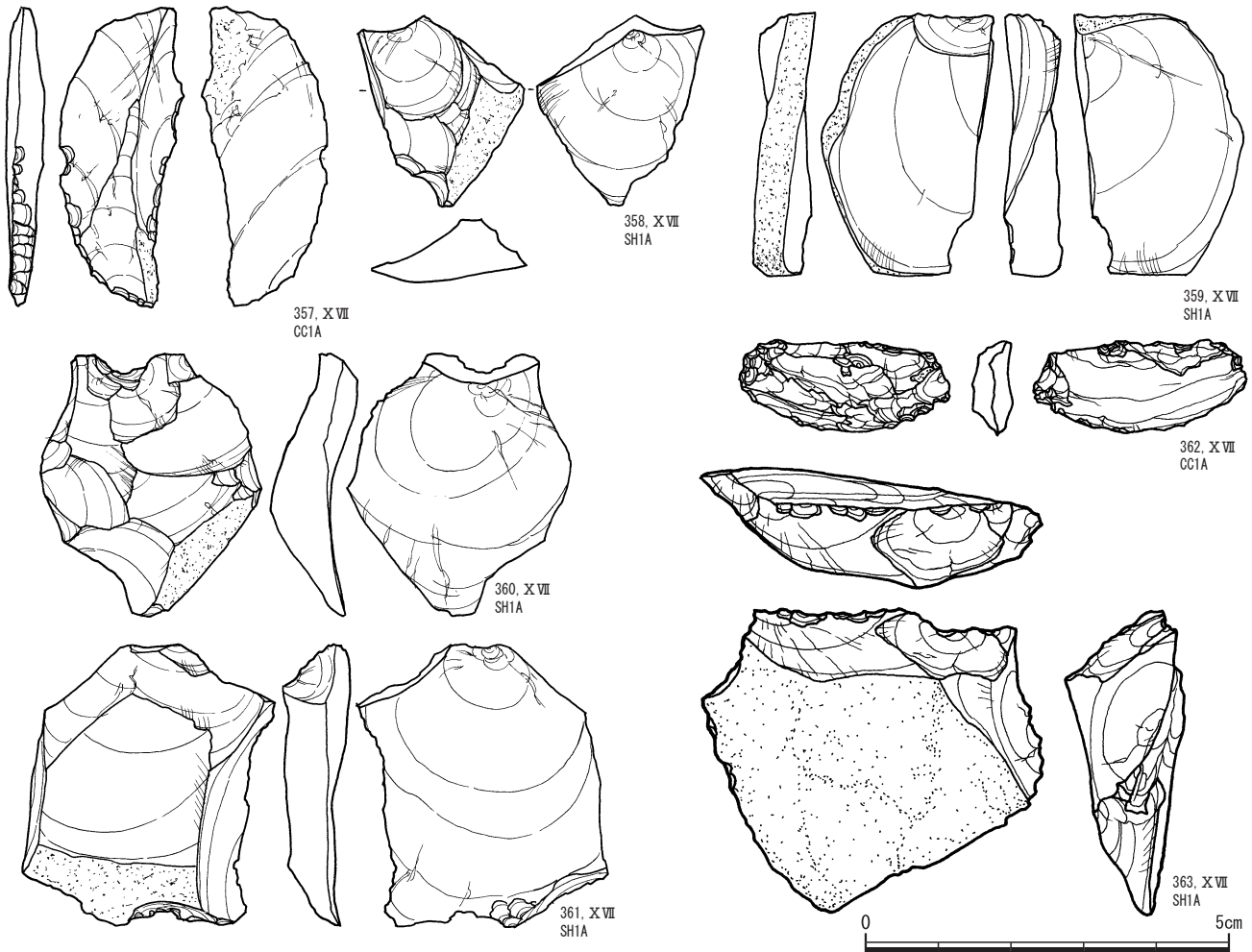
第17エリア

耳取遺跡G・H-4～6区で、第50・第51の2ブロックで構成される。石材は、頁岩を主体に玉髓と黒曜石Ⅱ類が若干含まれる。なお、75号～77号礫群がエリア内に含まれる。

第50ブロックの台形様石器(501)は打面方向を刃部に設定



第214図 第I文化層第13エリア第40ブロック出土石器実測図(2)



第215図 第I文化層第13エリア出土石器実測図

し、右側縁を大きく抉り出している。ブロック外出土の520は不定形剥片の底面と右側縁に、腹面から急角度の刃部形成が認められる。514・523等の石核や504・509等の存在からは台形様石器等の小型石器が製作された可能性がある。

第18エリア

耳取遺跡F～H-3～5区で、第52ブロックを中心に構成する。

2点の台形様石器(524・525)と剥片等で構成される。524は剥片を横位に用い、端部は折断で除去し、腹面からの細かい剥離で仕上げている。525は分厚い剥片を素材とし、腹面から加工を加えている。

第19エリア

ブロック等の集中は見られない。エリア内に78号～85号の8基の礫群が形成されている。

534の剥片尖頭器は基部の造り出しと、先端部の加工が特徴的で、基部は腹面からの整形剥離で鋭く整形され、先端部

第44表 第I文化層第13エリア出土石器観察表(1)

種別No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)	接合No
213	349	A13	B40	台形様石器	-	CC1A	20.6	15.3	9.0	3.0	▲18922(J-8/XVII)	-
213	350	A13	B40	剥片	-	CC1A	13.9	17.2	5.6	0.8	▲18910(J-8/XVII)	-
213	351	A13	B40	剥片	-	CC1A	15.1	20.5	4.4	1.1	▲18912(J-9/XVII)	-
213	352	A13	B40	剥片	-	SH1A	33.5	40.6	13.7	11.7	▲18909(J-8/XVII)	No. 29
213	353	A13	B40	剥片	-	SH1A	51.3	36.9	14.2	20.7	▲18914(J-8/XVII)	-
214	354	A13	B40	石核	-	SH1A	23.0	48.7	45.1	41.0	▲18921(J-8/XVII)	-
214	355	A13	B40	石核	-	SH1A	36.7	54.5	35.6	79.2	▲18920(J-8/XVII)	No. 29
214	356	A13	B40	石核	-	SH1B	40.2	44.4	41.3	100.1	▲18919(J-8/XVII)	No. 30

も同様な加工を行っている。

エリア外

538は二側縁加工ナイフ形石器、539は台形様石器、540は削器と見られる。550の石核からは打面転移を読みとれ、不定形剥片及び小石刃が取り出され、553・554等の剥片に残る先行する剥離面からは、計画的な剥片剥離が読みとれる。547からは、計画的な剥片剥離技術の存在も考えられる。

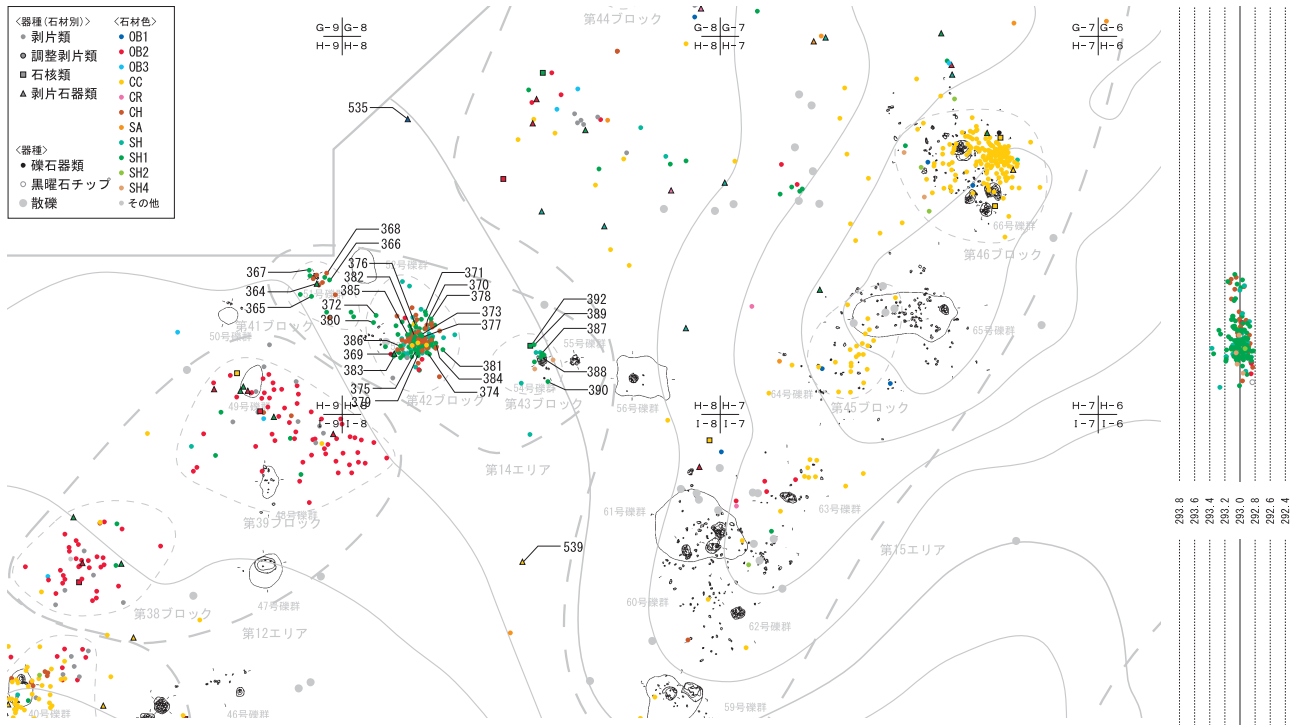
555の棒状ハンマーは、頭部と底面に敲打痕や押圧痕が明瞭に残されている。

556は基部加工ナイフ形石器である。

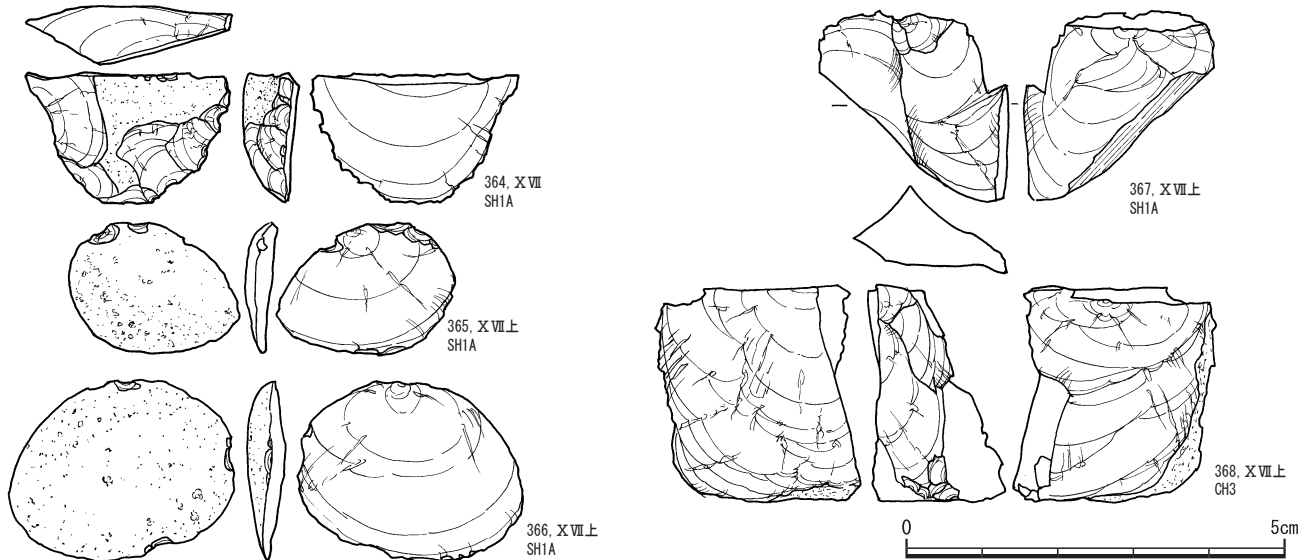
剥片尖頭器557・559の背面は2枚の剥離面で構成され、三角形の横断面を形成する。557は基部と右先端部の調整が特に入念で、腹面からと稜上から行い、559は入念な基部整形と先端部を僅かに整形する。558は基部のみの加工で、剥片尖頭器を意識したと思われる。560は基部と先端部を僅かに整形するが、剥片尖頭器のもたらした結果と思われる。562

第45表 第I文化層第13エリア出土石器観察表(2)

種別No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)	接合No
215	357	A13	B00	ナイフ形石器	-	CC1A	41.4	17.5	5.6	3.1	▲18972(J-8/XVII)	-
215	358	A13	B00	剥片	-	SH1A	26.4	23.2	11.2	3.3	▲19235(J-8/XVII)	No. 29
215	359	A13	B00	剥片	-	SH1A	36.1	23.5	8.8	6.0	▲18924(J-8/XVII)	-
215	360	A13	B00	剥片	-	SH1A	36.2	31.1	12.2	8.0	▲18927(J-8/XVII)	-
215	361	A13	B00	剥片	-	SH1A	39.1	34.6	9.5	11.3	▲18932(J-8/XVII)	-
215	362	A13	B00	剥片	-	CC1A	13.0	29.6	5.8	2.0	▲18933(J-8/XVII)	-
215	363	A13	B00	削器	-	SH1A	42.1	47.2	16.9	30.4	▲18931(J-8/XVII)	-

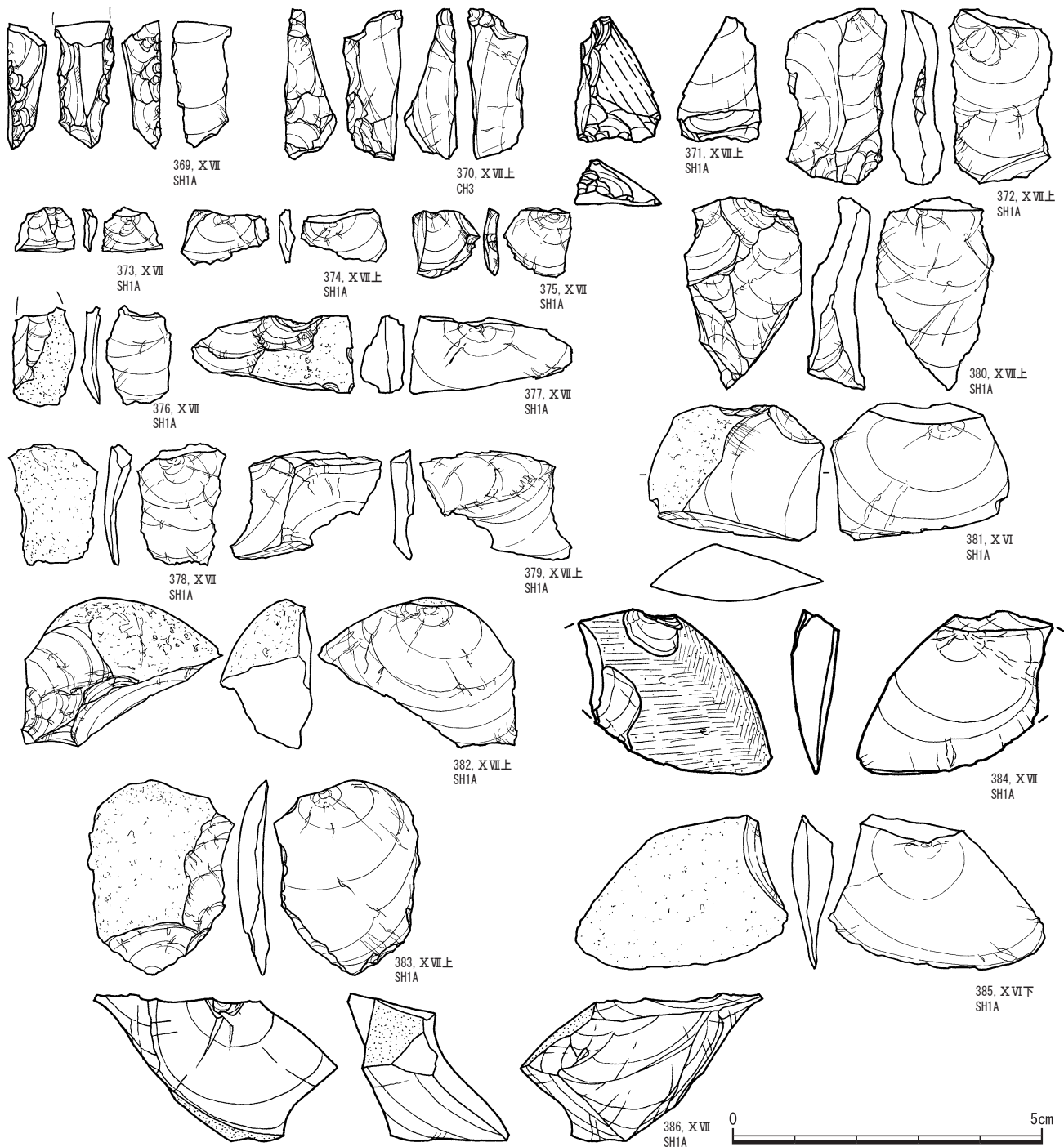


第216図 第I文化層第14エリア石器出土状況図



第217図 第I文化層第14エリア第41ブロック出土石器実測図

は素材剥片，564は破損品を再加工した小型の剥片尖頭器であるが，先端部の形状は彫器としての特徴を呈している。561は剥片尖頭器の破損品で，表面の色調から被熱した印象を受ける。563は砂岩を用いた素材剥片である。566は台形様石器，567は基部加工ナイフ形石器とみられる。



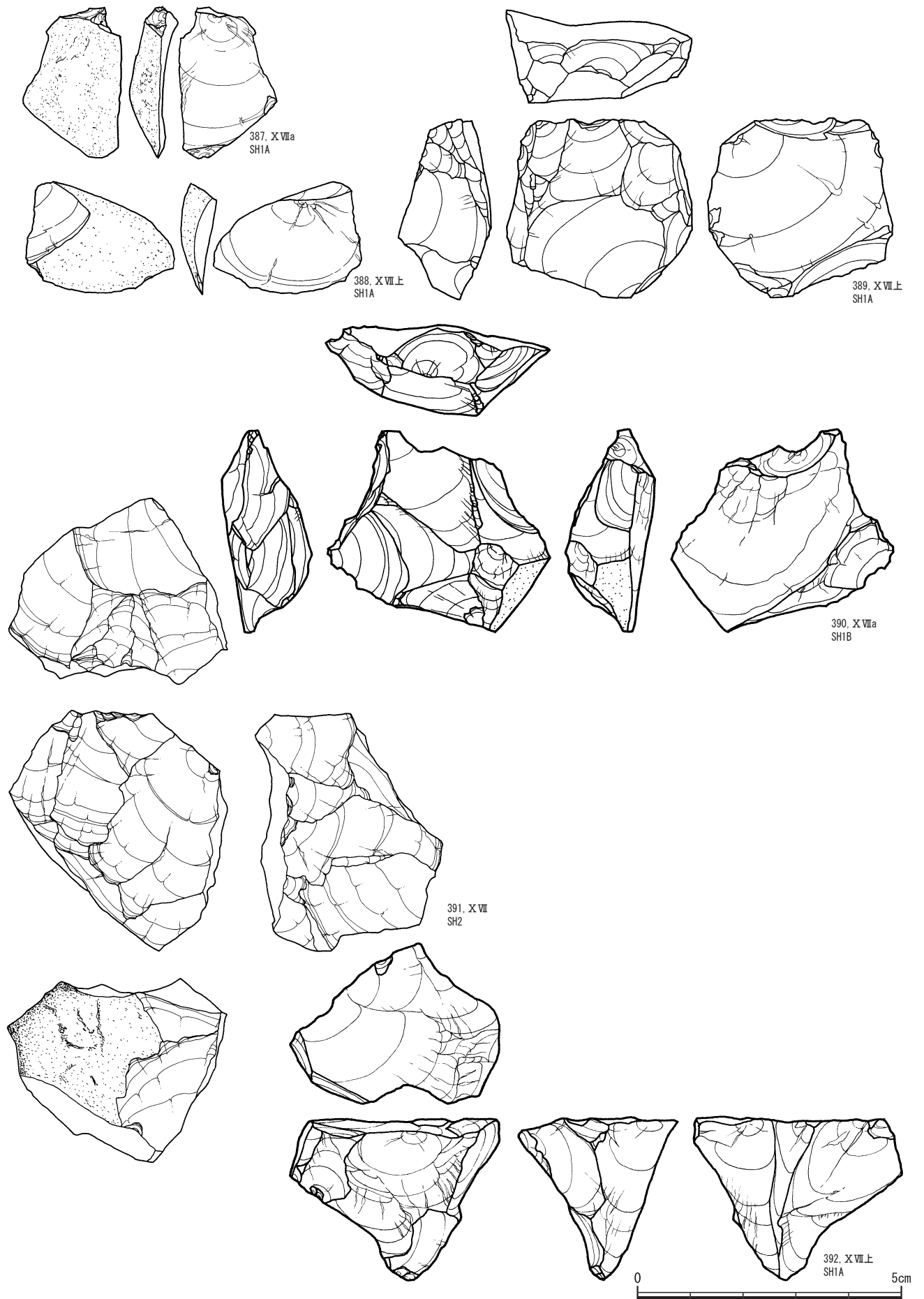
第218図 第I文化層第14エリア第42ブロック出土石器実測図

第46表 第I文化層第14エリア出土石器観察表(1)

種別No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)	接合No
217	364	A14	B41	削器	-	SH1A	17.4	27.7	8.0	3.1	▲16873(H-9/XVII)	-
217	365	A14	B41	剥片	-	SH1A	17.7	23.9	4.5	1.4	▲16870(H-9/XVII上)	No. 34
217	366	A14	B41	剥片	-	SH1A	24.1	30.0	5.3	4.1	▲16880(H-9/XVII上)	No. 34
217	367	A14	B41	剥片	-	SH1A	25.2	25.4	17.1	5.0	▲16876(H-9/XVII上)	-
217	368	A14	B41	剥片	-	CH3	28.7	27.1	18.4	11.8	▲16879(H-9/XVII上)	-
218	369	A14	B42	ナイフ形石器	-	SH1A	20.4	9.9	6.6	1.4	▲17175(H-8/XVII)	-
218	370	A14	B42	台形核石器	-	CH3	24.5	9.9	8.6	1.9	▲16914(H-8/XVII上)	No. 36
218	371	A14	B42	削器	-	SH1A	20.6	13.8	7.7	1.5	▲16912(H-8/XVII上)	-
218	372	A14	B42	剥片	-	SH1A	28.4	16.9	8.6	3.2	▲16886(H-8/XVII上)	No. 37
218	373	A14	B42	剥片	-	SH1A	7.5	10.1	2.7	0.1	▲17156(H-8/XVII)	-
218	374	A14	B42	剥片	-	SH1A	8.7	14.0	2.7	0.2	▲16895(H-8/XVII上)	-
218	375	A14	B42	剥片	-	SH1A	11.4	11.1	2.7	0.3	▲16892(H-8/XVII)	-
218	376	A14	B42	剥片	-	SH1A	16.3	10.7	3.4	0.4	▲16907(H-8/XVII)	-
218	377	A14	B42	剥片	-	SH1A	12.8	26.6	7.3	2.1	▲16943(H-8/XVII)	-
218	378	A14	B42	剥片	-	SH1A	19.9	14.4	4.6	0.9	▲17102(H-8/XVII)	-

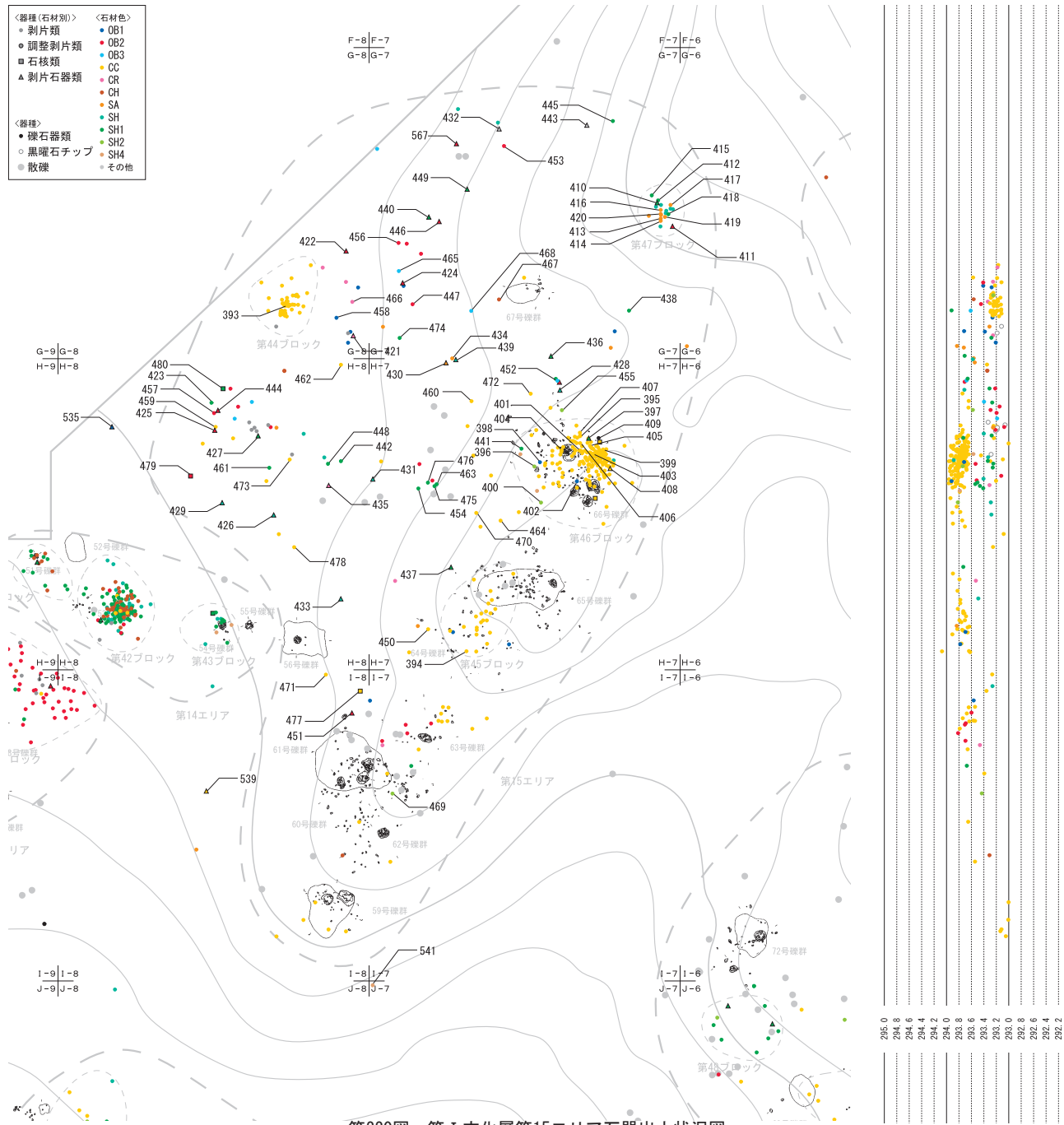
第47表 第I文化層第14エリア出土石器観察表(2)

種別No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)	接合No
218	379	A14	B42	剥片	-	SH1A	17.9	24.7	4.1	1.0	▲16893(H-8/XVII上)	No. 37
218	380	A14	B42	剥片	-	SH1A	31.4	19.2	10.3	4.0	▲16887(H-8/XVII上)	No. 37
218	381	A14	B42	剥片	-	SH1A	22.4	29.1	9.5	6.6	▲16810(H-8/XVI)	-
218	382	A14	B42	剥片	-	SH1A	24.5	32.4	15.1	9.3	▲16901(H-8/XVII上)	-
218	383	A14	B42	剥片	-	SH1A	31.7	23.9	5.4	3.7	▲16889(H-8/XVII上)	-
218	384	A14	B42	剥片	-	SH1A	27.2	31.6	8.1	5.0	▲17113(H-8/XVII)	No. 34
218	385	A14	B42	剥片	-	SH1A	25.4	35.2	6.9	4.3	▲16903(H-8/XVI下)	No. 34
218	386	A14	B42	剥片	-	SH1A	24.1	39.3	24.1	10.7	▲17173(H-8/XVII)	No. 35
219	387	A14	B43	剥片	-	SH1A	28.9	18.8	9.4	3.5	▲18604(H-8/XVIIa)	-
219	388	A14	B43	剥片	-	SH1A	21.3	28.3	7.0	3.1	▲16807(H-8/XVII上)	No. 34
219	389	A14	B43	石核	-	SH1A	34.2	35.3	17.8	22.1	▲16804(H-8/XVII上)	-
219	390	A14	B43	剥片	-	SH1B	38.8	42.4	17.6	23.0	▲18606(H-8/XVIIa)	-
219	391	A14	B43	石核	-	SH2	45.8	41.6	35.4	61.3	▲54号機群1(H-8/XVII)	-
219	392	A14	B43	石核	-	SH1A	31.0	41.4	30.7	20.5	▲16803(H-8/XVII上)	No. 37

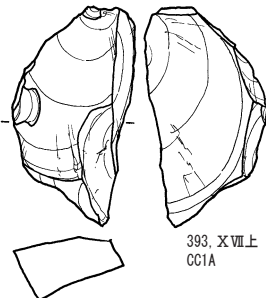


第219図 第I文化層第14エリア第43ブロック出土石器実測図

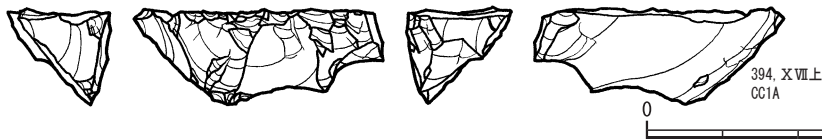
- | | |
|-----------|-------|
| 〈器種(石材別)〉 | 〈石材色〉 |
| ● 剥片類 | ● OB1 |
| ● 調整剥片類 | ● OB2 |
| ■ 石核類 | ● OB3 |
| ▲ 剥片石器類 | ● CC |
| | ● CR |
| | ● CH |
| | ● SA |
| | ● SH |
| ● 礫石器類 | ● SH1 |
| ● 黒曜石チップ | ● SH2 |
| ● 散礫 | ● SH4 |
| | ● その他 |



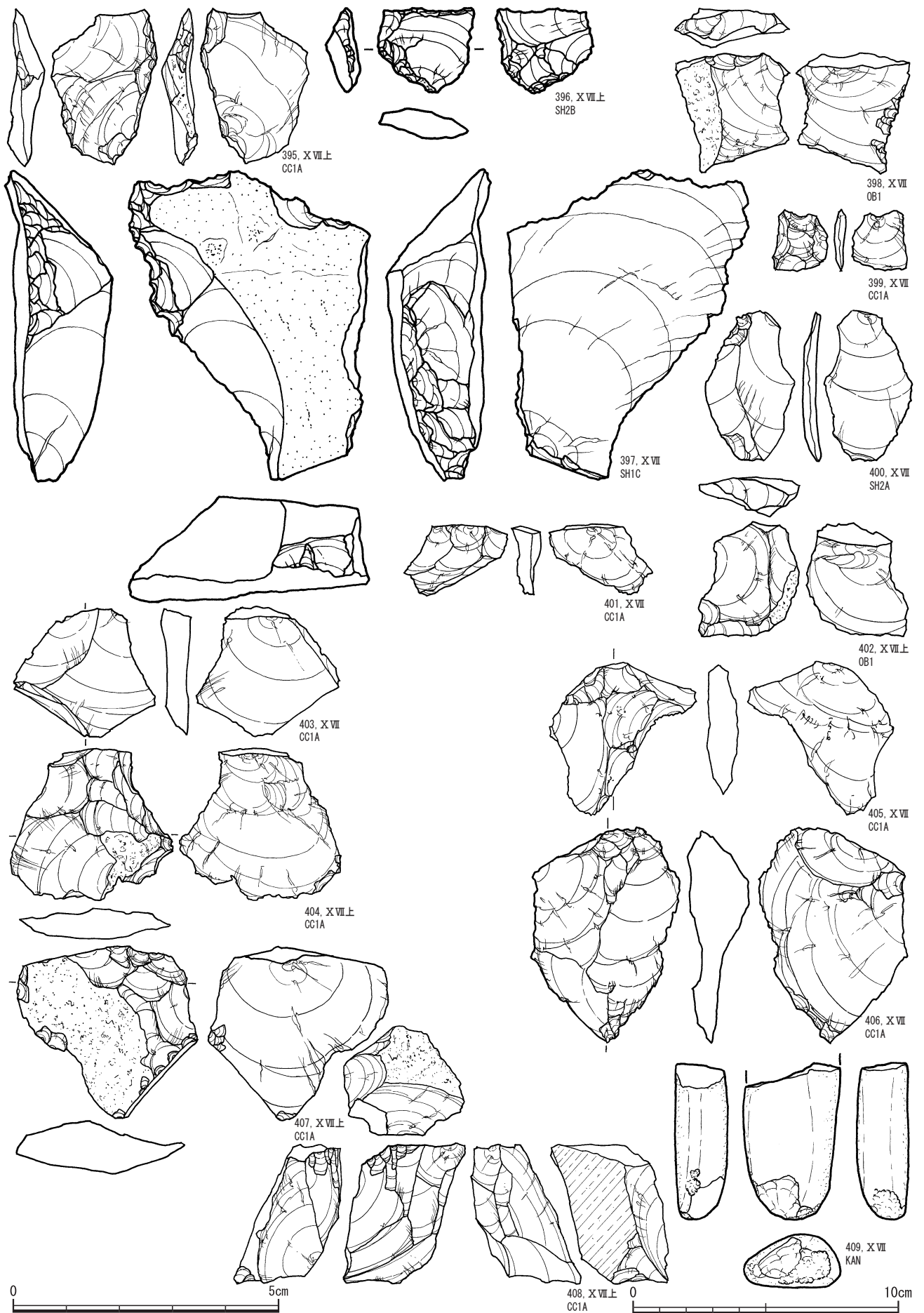
第220図 第I文化層第15エリア石器出土状況図



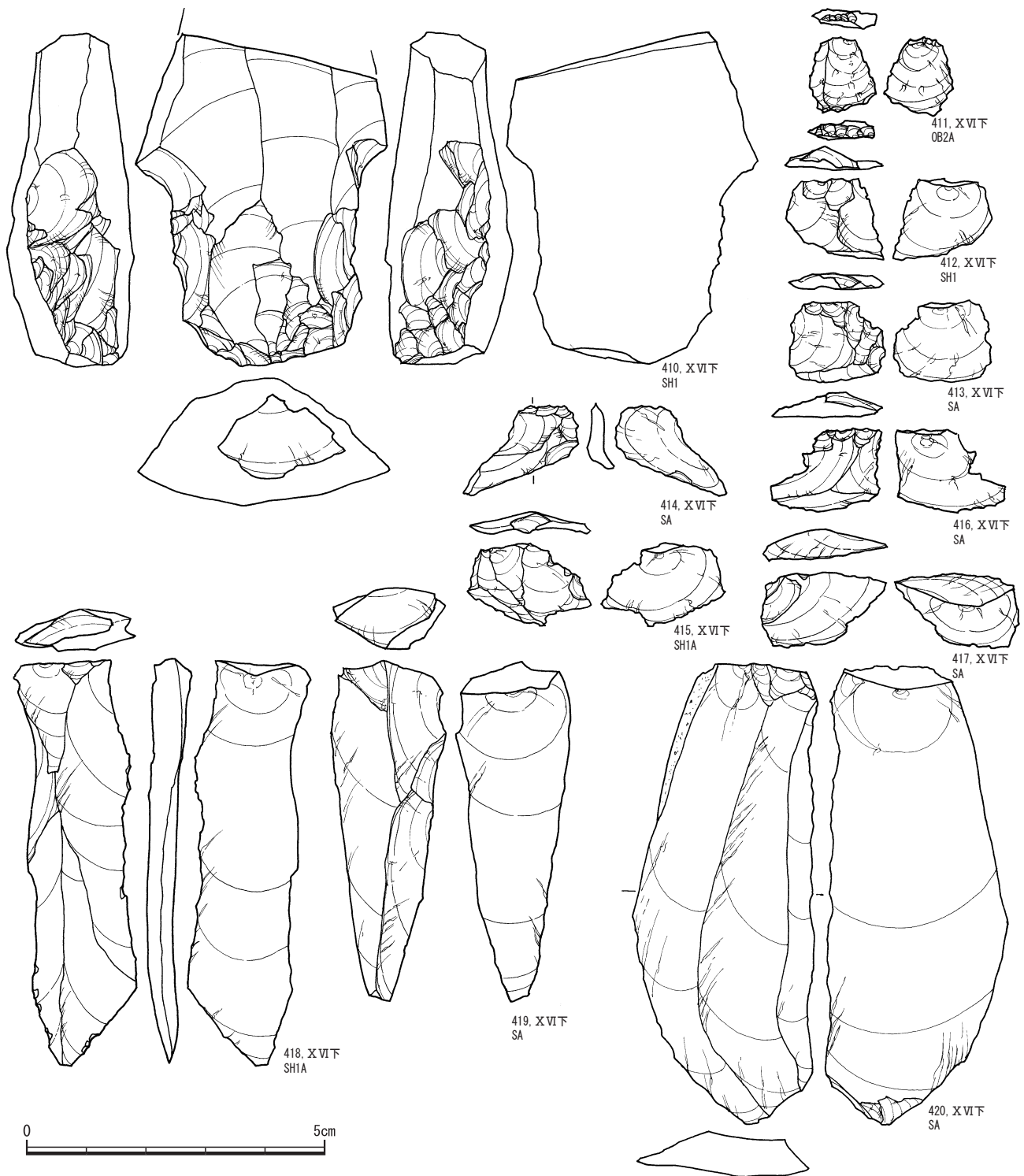
第221図 第I文化層第15エリア第44ブロック出土石器実測図



第222図 第I文化層第15エリア第45ブロック出土石器実測図



第223図 第I文化層第15エリア第46ブロック出土石器実測図



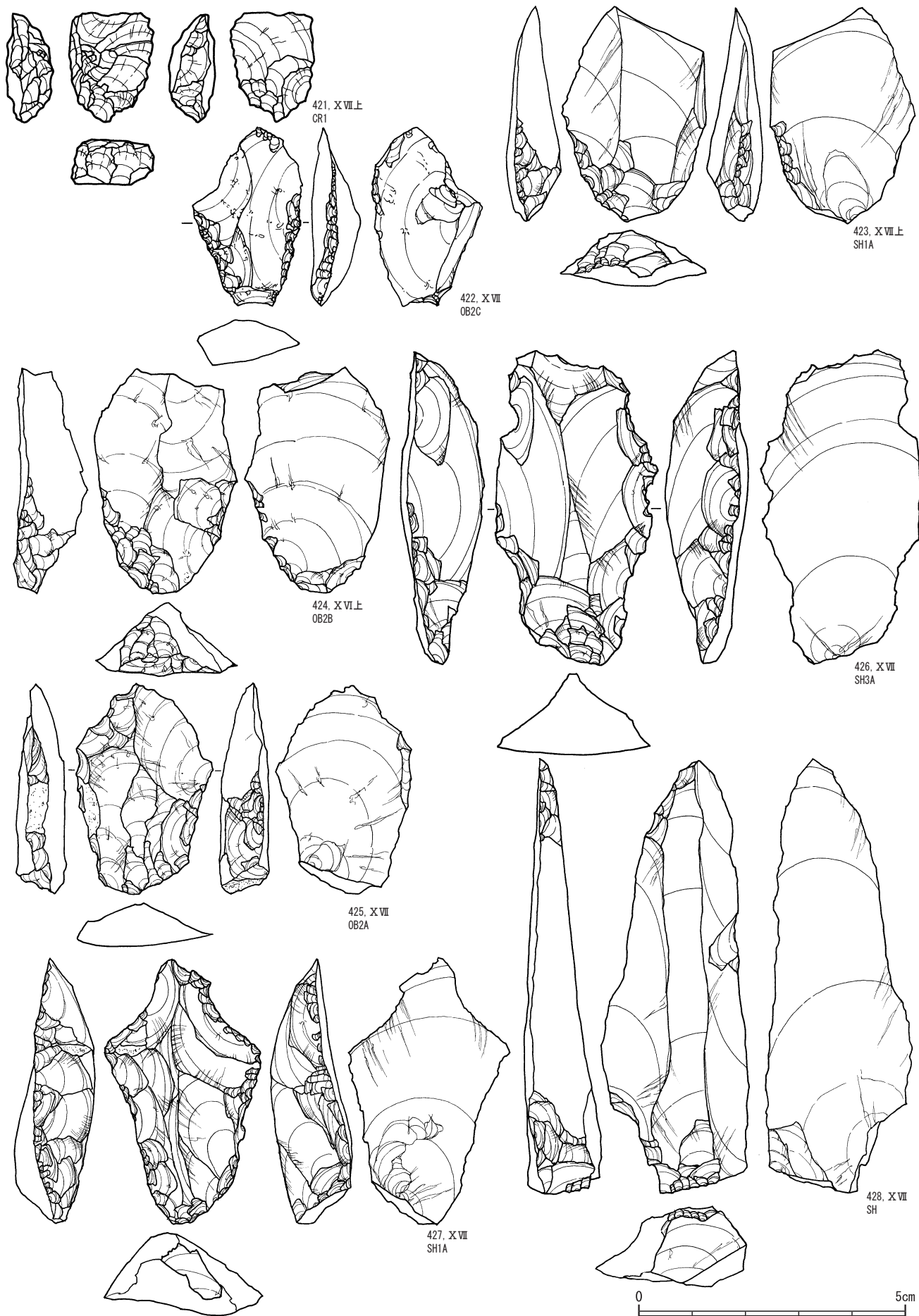
第224図 第I文化層第15エリア第47ブロック出土石器実測図

第48表 第I文化層第15エリア出土石器観察表(1)

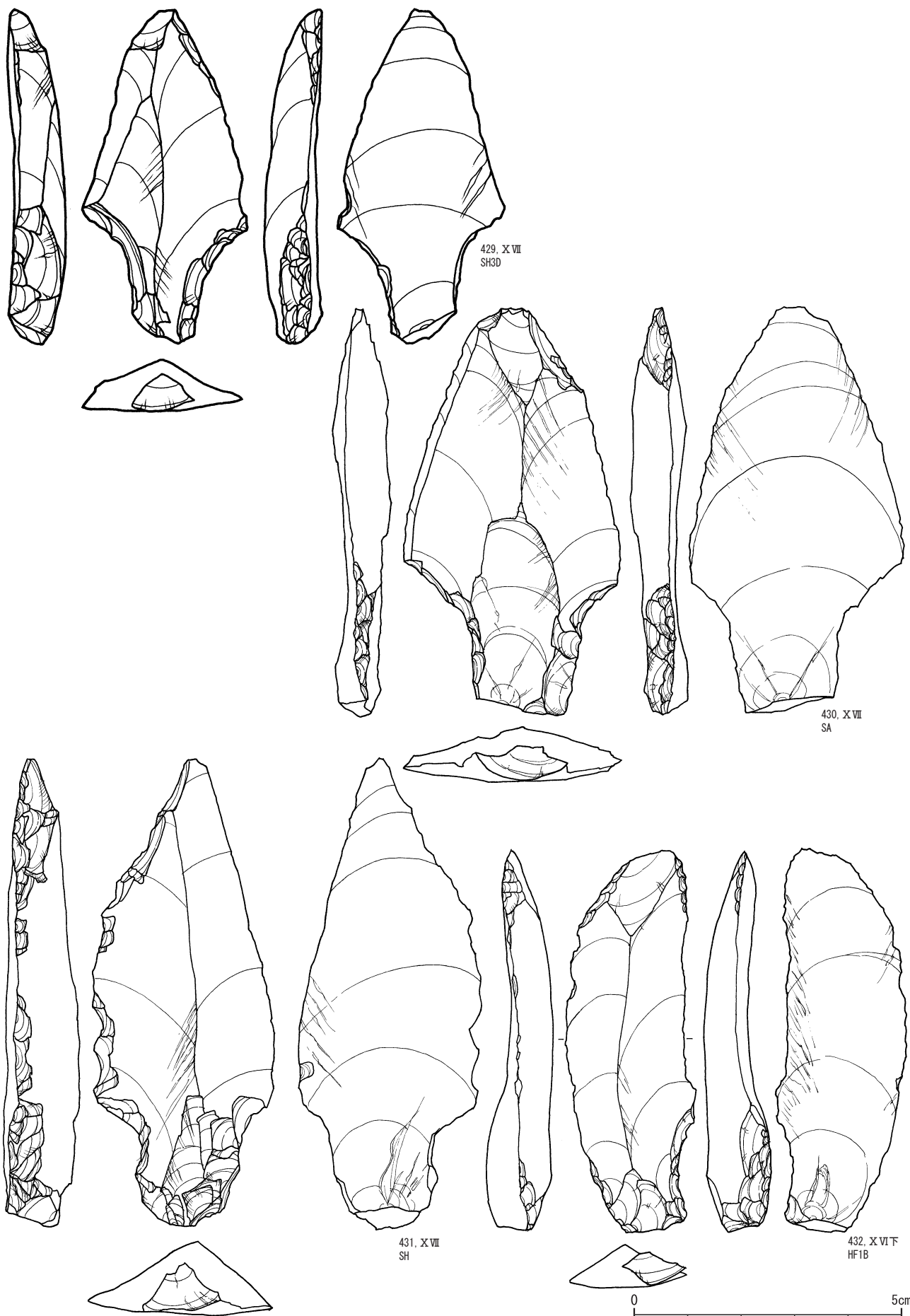
標本No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)	接合No
221	393	A15	B44	剥片	-	CC1A	29.3	16.5	8.0	3.3	▲14340(G-8/XVII上)	-
222	394	A15	B45	剥片	-	CC1A	13.0	33.3	14.3	4.3	▲17072(H-7/XVII上)	-
223	395	A15	B46	台形礫石器	-	CC1A	29.4	20.6	7.2	2.3	▲16789(H-7/XVII上)	No. 39
223	396	A15	B46	台形礫石器	-	SH2B	16.4	18.8	7.0	1.3	▲14284(H-7/XVII上)	-
223	397	A15	B46	削器	-	SH1C	58.7	45.8	20.2	42.8	▲19029(H-7/XVII)	No. 15
223	398	A15	B46	微細剥離痕剥片	-	OB1	23.0	21.6	7.6	2.4	▲16765(H-7/XVII)	-
223	399	A15	B46	剥片	-	CC1A	11.4	10.6	2.5	0.2	▲19236(H-7/XVII)	-
223	400	A15	B46	剥片	-	SH2A	28.5	16.8	3.8	1.2	▲16762(H-7/XVII)	-
223	401	A15	B46	剥片	-	CC1A	13.5	19.7	5.8	0.9	▲19172(H-7/XVII)	-
223	402	A15	B46	剥片	-	OB1	21.5	19.4	7.7	2.6	▲14286(H-7/XVII上)	-
223	403	A15	B46	剥片	-	CC1A	24.7	27.3	6.8	3.7	▲19152(H-7/XVII)	-
223	404	A15	B46	剥片	-	CC1A	28.8	30.6	7.9	4.7	▲16792(H-7/XVII上)	-

第49表 第I文化層第15エリア出土石器観察表(2)

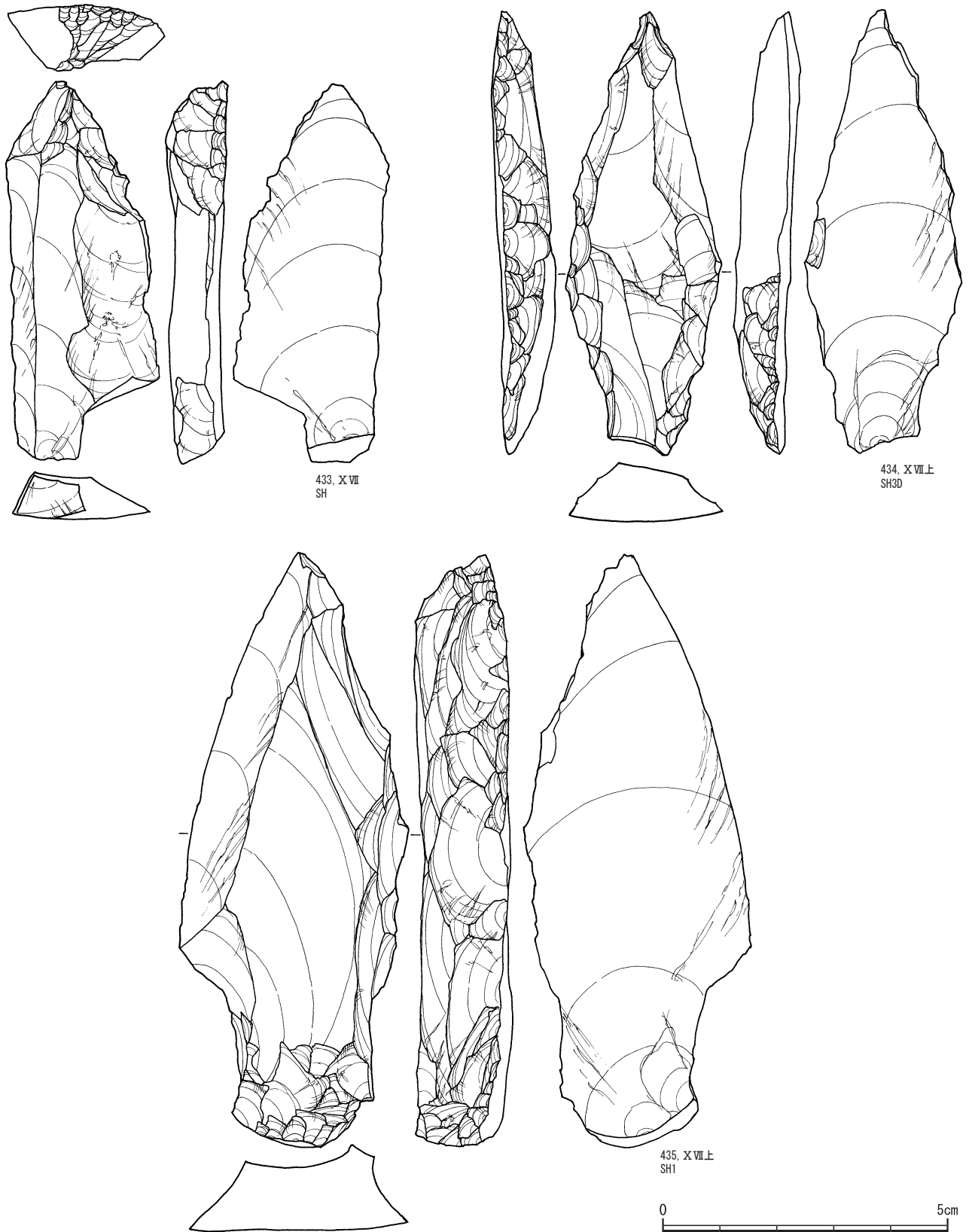
標本No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)	接合No
223	405	A15	B46	剥片	-	CC1A	29.0	27.7	6.7	3.3	▲19168(H-7/XVII)	-
223	406	A15	B46	剥片	-	CC1A	40.8	28.2	12.5	9.2	▲19216(H-7/XVII)	-
223	407	A15	B46	剥片	-	CC1A	33.0	34.2	9.9	7.1	▲16790(H-7/XVII上)	-
223	408	A15	B46	石核	-	CC1A	26.5	22.4	20.9	7.1	▲14294(H-7/XVII上)	-
223	409	A15	B46	ハンマー	-	KAN	59.5	37.3	20.9	56.7	▲19028(H-7/XVII)	-
224	410	A15	B47	剥片尖頭器	-	SH1	55.9	42.4	21.6	54.7	▲13894(G-7/XVI下)	-
224	411	A15	B47	二次加工痕剥片	-	OB2A	13.5	11.9	3.5	0.5	▲13892(G-7/XVI下)	-
224	412	A15	B47	剥片	-	SH1	13.9	16.8	4.3	0.6	▲13942(G-7/XVI下)	-
224	413	A15	B47	剥片	-	SA	14.0	16.6	3.0	0.5	▲13891(G-7/XVI下)	-
224	414	A15	B47	剥片	-	SA	15.3	18.9	3.8	0.6	▲13948(G-7/XVI下)	-
224	415	A15	B47	剥片	-	SH1A	14.2	21.0	4.0	0.7	▲13895(G-7/XVI下)	-
224	416	A15	B47	剥片	-	SA	14.2	18.7	4.5	0.7	▲13889(G-7/XVI下)	-



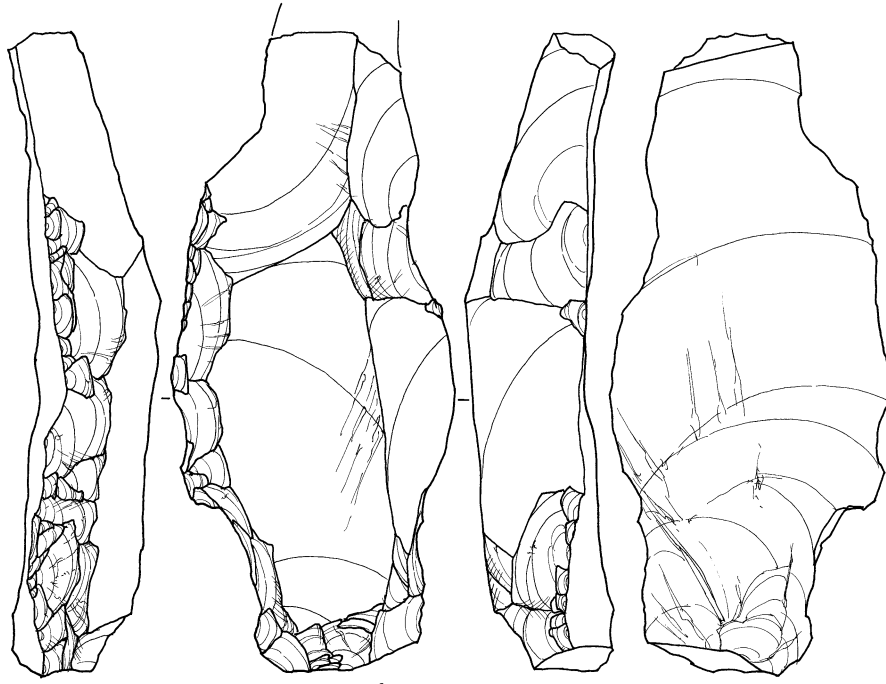
第225図 第I文化層第15エリア出土石器実測図(1)



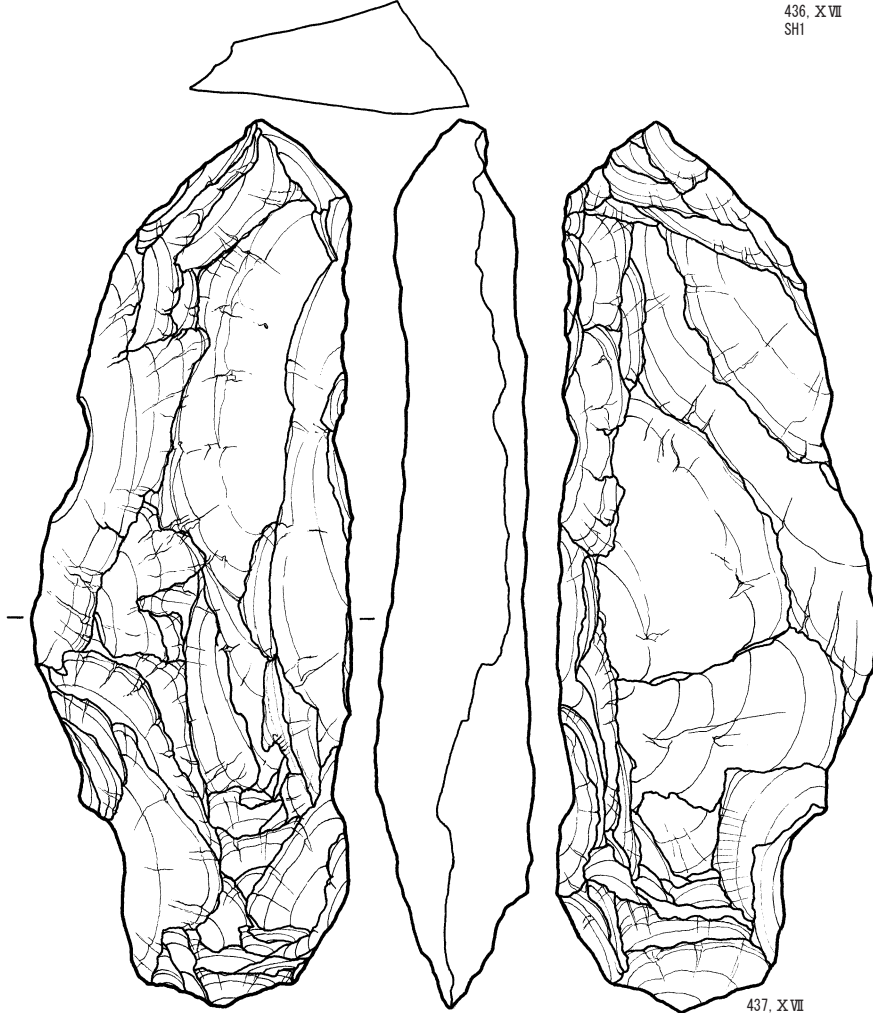
第226図 第I文化層第15エリア出土石器実測図(2)



第227図 第I文化層第15エリア出土石器実測図(3)



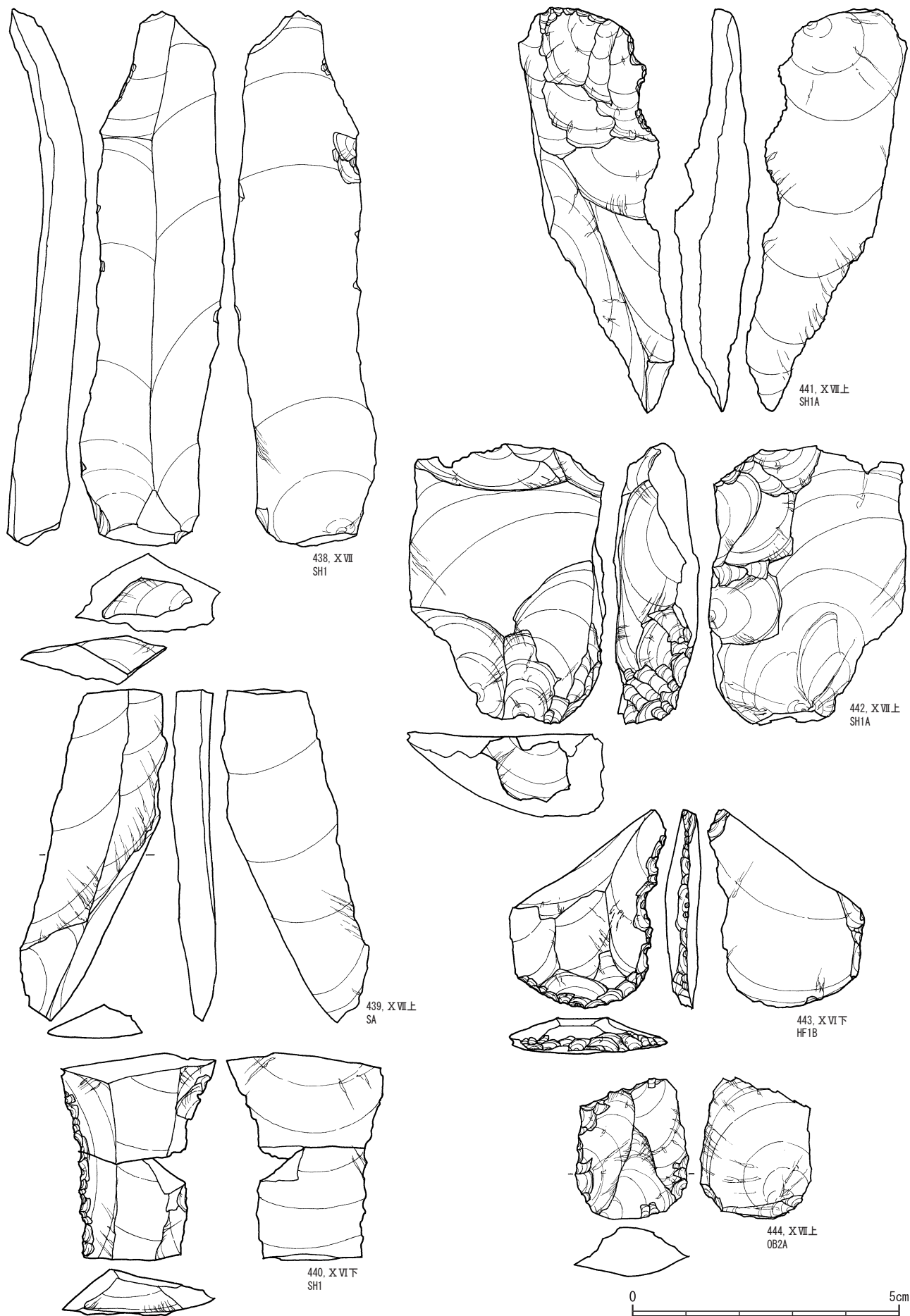
436, X VII
SH1



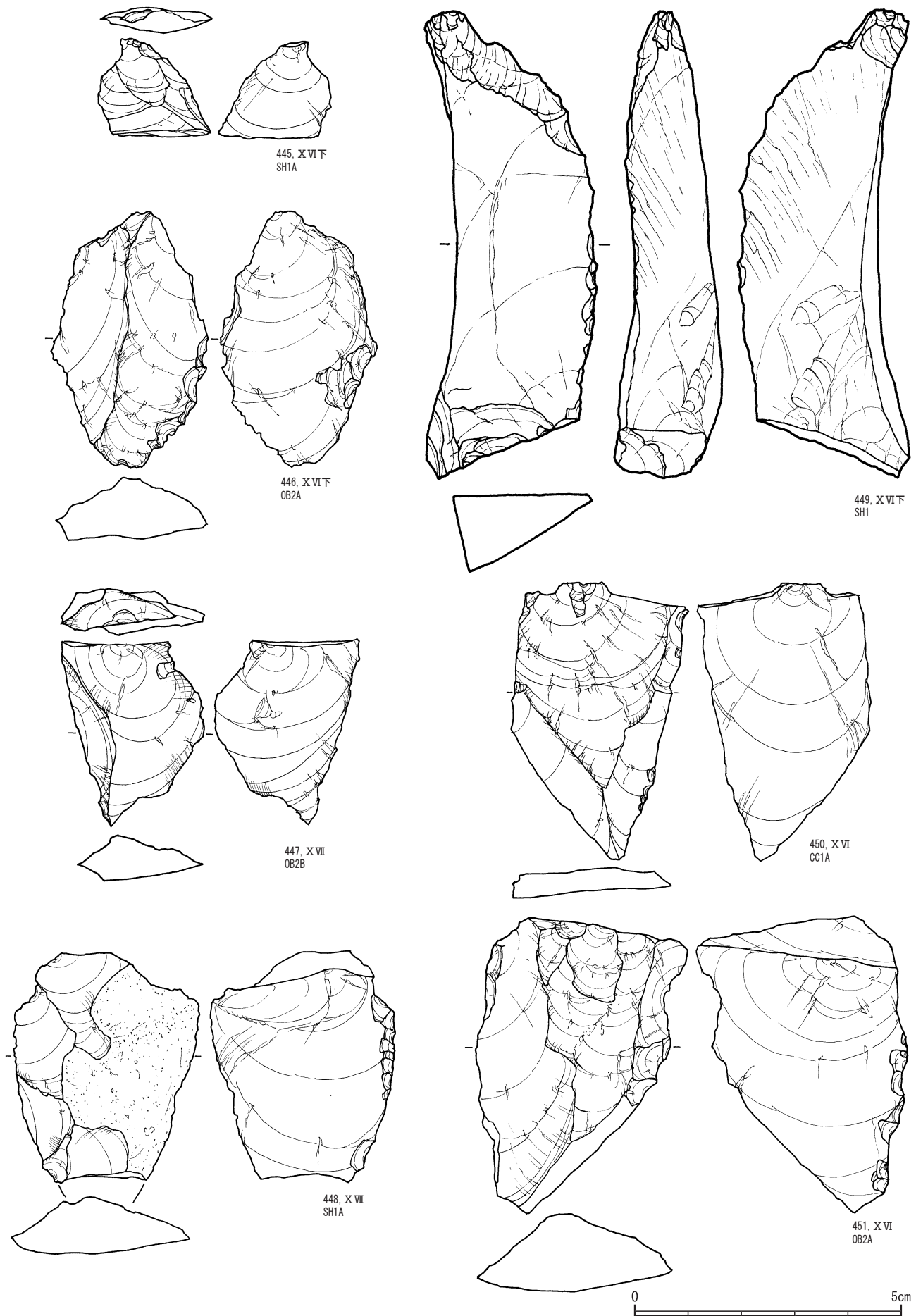
437, X VII
SH1



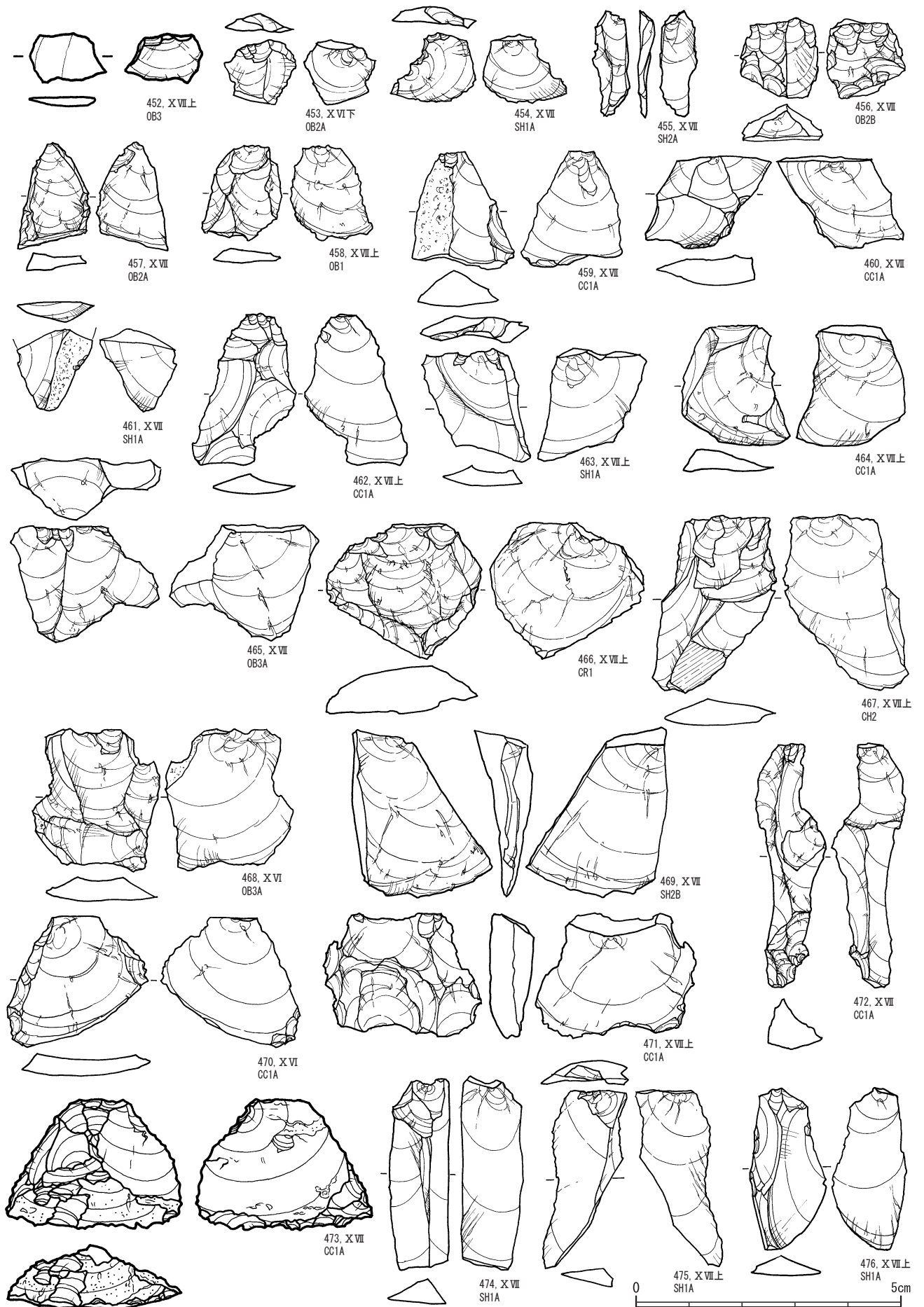
第228図 第I文化層第15エリア出土石器実測図(4)



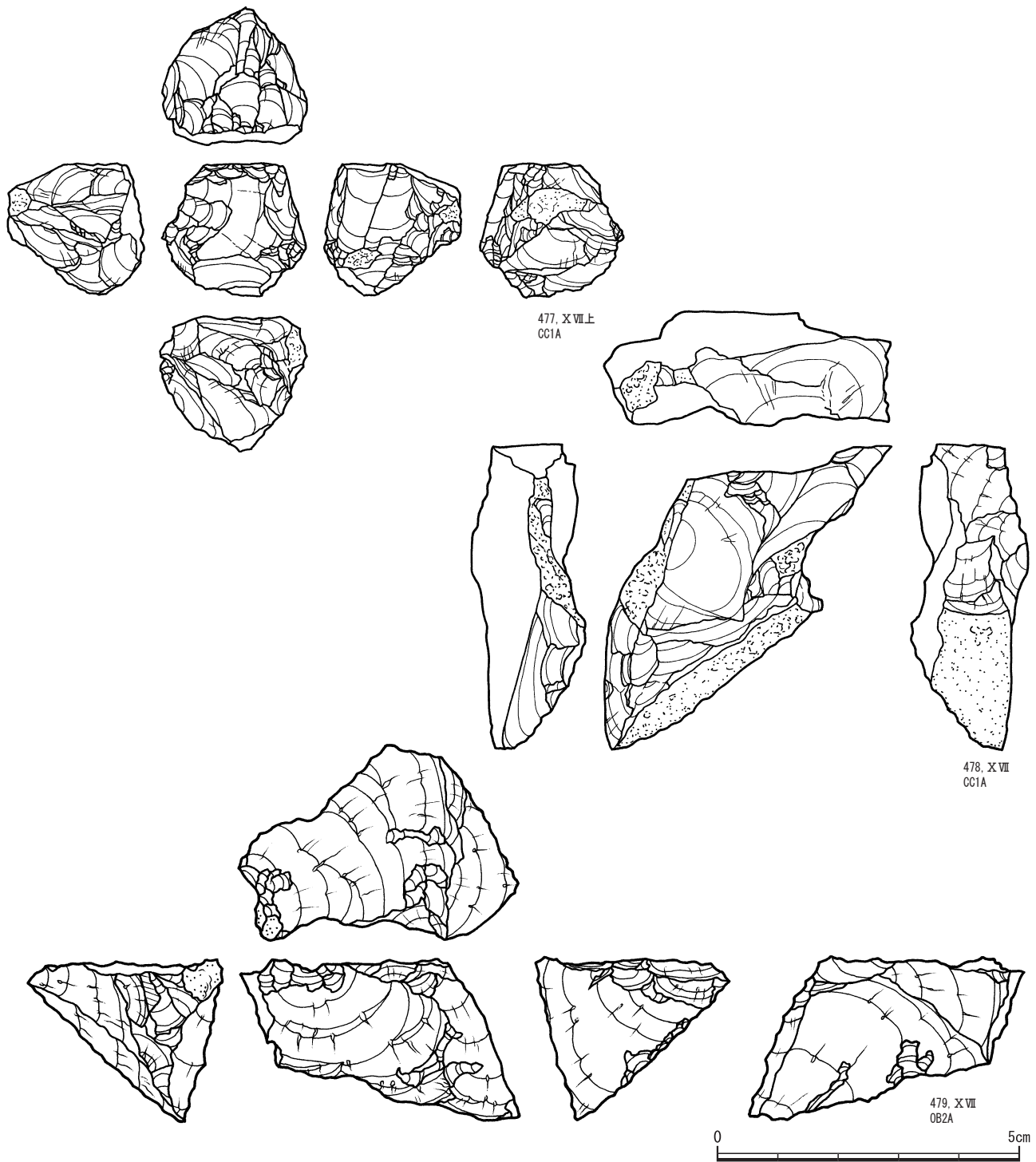
第229図 第I文化層第15エリア出土石器実測図(5)



第230図 第I文化層第15エリア出土石器実測図(6)



第231図 第I文化層第15エリア出土石器実測図(7)



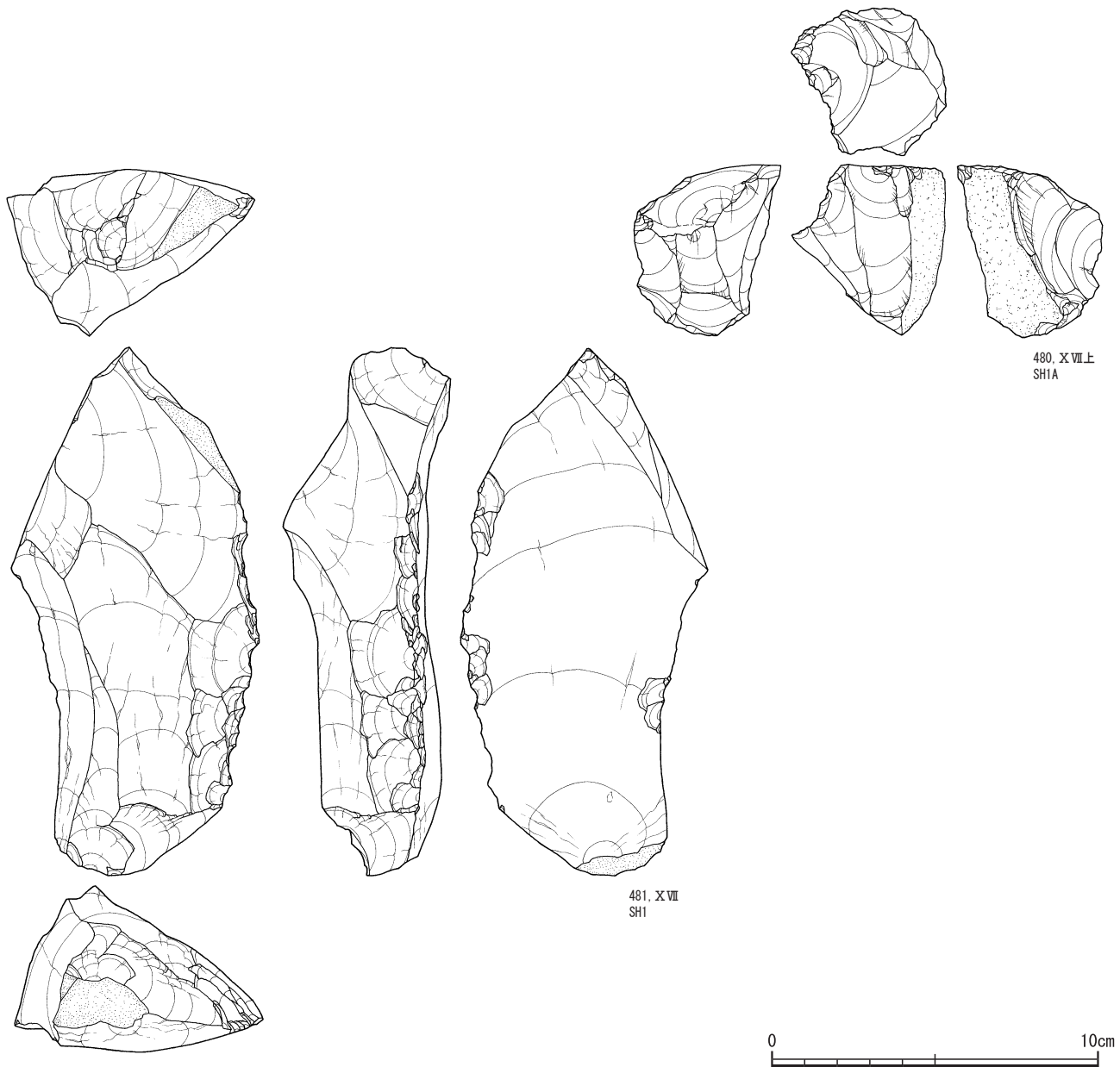
第232図 第I文化層第15エリア出土石器実測図(8)

第50表 第I文化層第15エリア出土石器観察表(3)

標本No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)	接合No
224	417	A15	B47	剥片	-	SA	12.8	21.1	5.6	0.7	▲13883(G-7/XVI下)	-
224	418	A15	B47	縦長剥片	-	SH1A	68.2	20.9	7.3	7.2	▲13886(G-7/XVI下)	-
224	419	A15	B47	縦長剥片	-	SA	57.3	19.4	10.6	8.5	▲13946(G-7/XVI下)	-
224	420	A15	B47	縦長剥片	-	SA	77.2	30.8	-	25.3	▲13890(G-7/XVI下)	-
225	421	A15	B00	台形縁石器	-	CR1	20.8	16.2	8.9	3.1	▲14188(G-8/XVII上)	-
225	422	A15	B00	台形縁石器	-	OB2C	33.8	21.0	9.5	-	▲13914(G-8/XVII)	-
225	423	A15	B00	ナイフ形石器	-	SH1A	40.7	27.4	10.7	9.2	▲14220(H-8/XVII上)	No. 38
225	424	A15	B00	ナイフ形石器	-	OB2B	42.6	27.4	14.0	10.9	▲14179(G-7/XVI上)	-
225	425	A15	B00	ナイフ形石器	-	OB2A	39.3	25.7	9.6	8.8	▲14224(H-8/XVII)	-
225	426	A15	B00	削器	基部加工	SH3A	59.2	30.1	16.0	21.3	▲14231(H-8/XVII)	-
225	427	A15	B00	削器	基部加工	SH1A	50.4	30.6	15.8	15.3	▲14239(H-8/XVII)	-
225	428	A15	B00	剥片尖頭器	-	SH	81.6	27.7	14.8	26.8	▲14277(H-7/XVII)	-
226	429	A15	B00	剥片尖頭器	-	SH3D	62.9	31.6	11.4	16.7	▲14228(H-8/XVII)	-
226	430	A15	B00	剥片尖頭器	-	SA	76.1	40.5	11.3	23.5	▲14273(H-7/XVII)	-

第51表 第I文化層第15エリア出土石器観察表(4)

標本No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)	接合No
226	431	A15	B00	剥片尖頭器	-	SH	88.4	34.4	14.5	34.4	▲14256(H-7/XVII)	-
226	432	A15	B00	ナイフ形石器	-	HF1B	72.0	24.7	12.7	15.9	▲13900(G-7/XVI下)	-
227	433	A15	B00	剥片尖頭器	-	SH	66.7	27.6	11.9	20.3	▲14260(H-8/XVII)	-
227	434	A15	B00	剥片尖頭器	-	SH3D	78.1	27.8	11.6	20.3	▲14317(H-7/XVII上)	-
227	435	A15	B00	剥片尖頭器	-	SH1	104.4	40.6	17.6	82.3	▲14252(H-8/XVII上)	-
228	436	A15	B00	剥片尖頭器	-	SH1	85.2	37.2	20.5	52.6	▲14275(G-7/XVII)	-
228	437	A15	B00	剥片尖頭器	-	SH1	118.1	43.1	21.5	94.2	▲14268(H-7/XVII)	-
229	438	A15	B00	縦長剥片	-	SH1	100.7	27.2	14.9	22.8	▲14167(G-7/XVII)	-
229	439	A15	B00	縦長剥片	-	SA	62.8	28.1	9.4	9.6	▲14318(G-7/XVII上)	-
229	440	A15	B00	削器	側縁加工	SH1	39.2	29.6	9.0	8.1	▲13908(G-7/XVI下)	-
229	441	A15	B00	縦長剥片	-	SH1A	75.8	30.5	14.4	12.8	▲16793(H-7/XVII上)	-
229	442	A15	B00	削器	-	SH1A	52.6	37.3	16.2	33.9	▲14254(H-8/XVII上)	-
229	443	A15	B00	削器	-	HF1B	37.4	29.6	7.1	6.4	▲13897(G-7/XVI下)	-



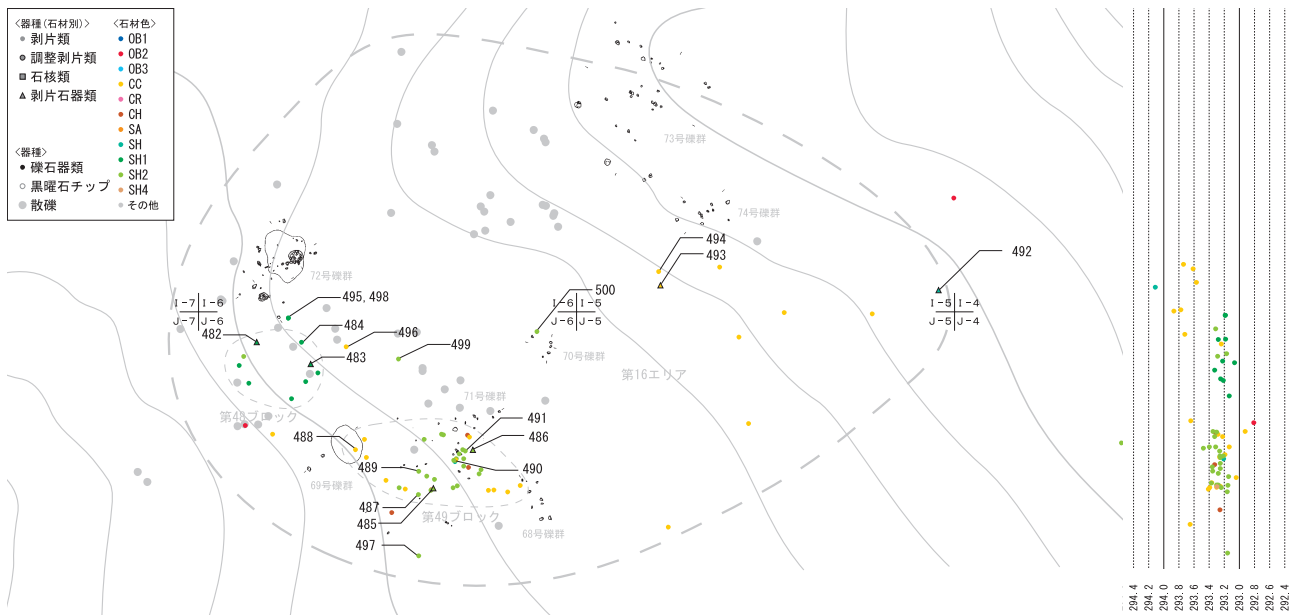
第233図 第I文化層第15エリア出土石器実測図(9)

第52表 第I文化層第15エリア出土石器観察表(5)

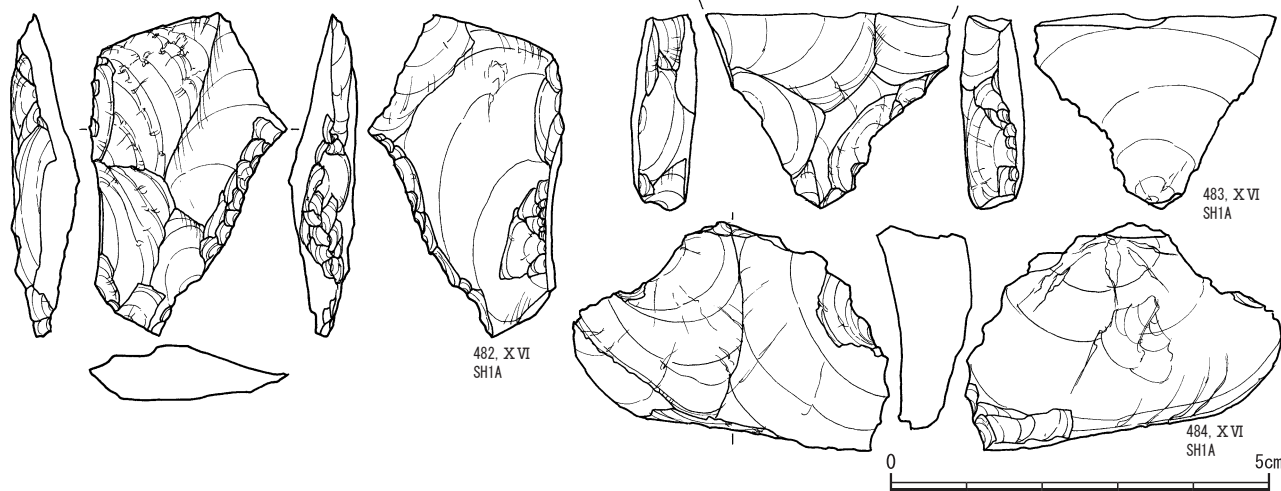
標記No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)	接合No
229	444	A15	B00	削器	-	OB2A	26.8	21.0	10.4	5.4	▲14221(H-8/XVII上)	-
230	445	A15	B00	剥片	-	SH1A	18.5	21.3	5.1	1.2	▲13896(G-7/XVI下)	-
230	446	A15	B00	二次加工痕剥片	-	OB2A	48.2	29.6	14.2	14.8	▲13907(G-7/XVI下)	-
230	447	A15	B00	剥片	-	OB2B	35.0	27.4	9.0	5.9	▲14177(G-7/XVII)	-
230	448	A15	B00	微細剥離痕剥片	-	SH1A	43.6	34.9	13.2	17.4	▲14251(H-8/XVII)	-
230	449	A15	B00	微細剥離痕剥片	-	SH1	88.2	32.7	20.6	44.4	▲13905(G-7/XVI下)	-
230	450	A15	B00	剥片	-	CC1A	52.5	32.8	7.6	8.8	▲17066(H-7/XVI)	-
230	451	A15	B00	削器	側縁加工	OB2A	55.8	39.8	18.8	27.6	▲16797(I-8/XVI)	-
231	452	A15	B00	剥片	-	OB3	9.7	14.9	2.6	0.2	▲14330(H-7/XVII上)	-
231	453	A15	B00	剥片	-	OB2A	12.4	13.6	3.8	0.3	▲13901(G-7/XVI下)	-
231	454	A15	B00	剥片	-	SH1A	13.2	15.9	4.3	0.4	▲14263(H-7/XVII)	-
231	455	A15	B00	剥片	-	SH2A	20.2	7.2	3.4	0.3	▲19182(H-7/XVII)	-
231	456	A15	B00	剥片	-	OB2B	15.2	15.0	7.2	1.5	▲13910(G-7/XVII)	-
231	457	A15	B00	剥片	-	OB2A	20.7	13.7	5.4	1.0	▲14222(H-8/XVII)	-
231	458	A15	B00	剥片	-	OB1	18.2	15.7	3.3	0.8	▲14186(G-8/XVII上)	-
231	459	A15	B00	剥片	-	CC1A	22.1	19.3	7.1	2.2	▲14223(H-8/XVII)	-
231	460	A15	B00	剥片	-	CC1A	17.6	24.0	5.0	1.6	▲15878(H-7/XVII)	-
231	461	A15	B00	剥片	-	SH1A	15.9	14.7	4.0	0.6	▲14233(H-8/XVII)	-
231	462	A15	B00	剥片	-	CC1A	28.7	19.6	4.2	1.4	▲14248(H-8/XVII上)	-

第53表 第I文化層第15エリア出土石器観察表(6)

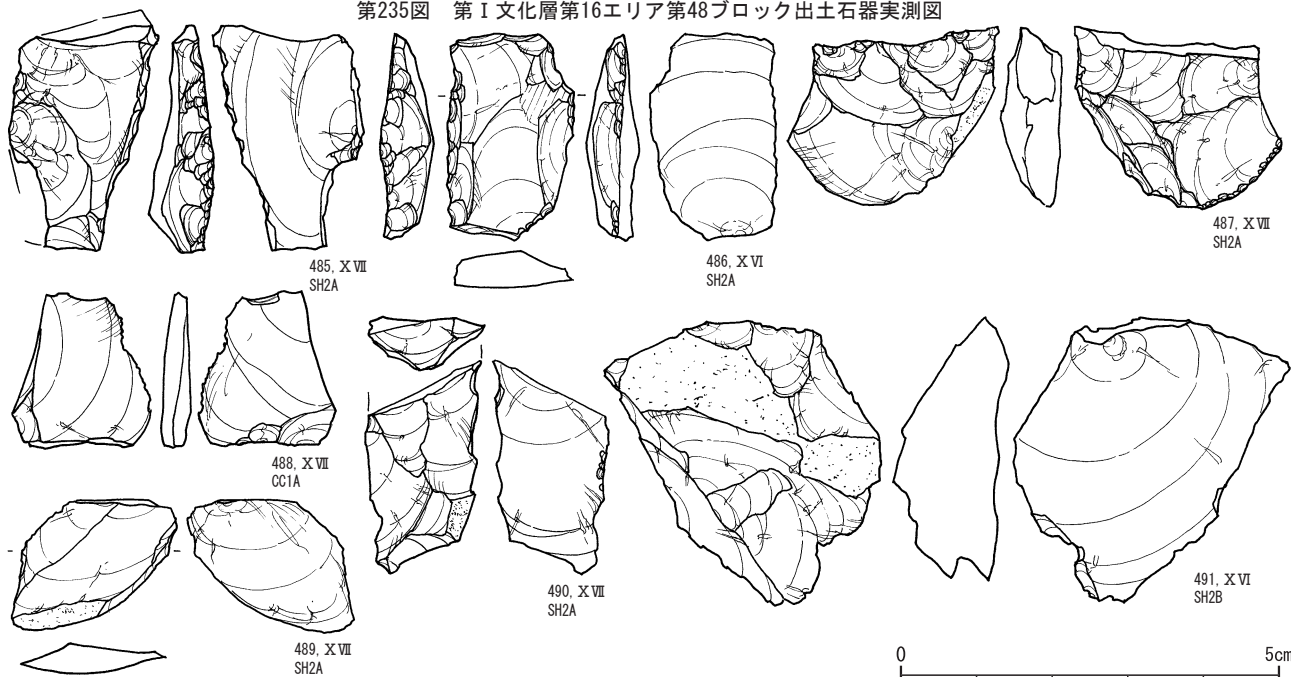
標記No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)	接合No
231	463	A15	B00	剥片	-	SH1A	21.6	20.8	5.3	1.4	▲14265(H-7/XVII上)	-
231	464	A15	B00	剥片	-	CC1A	23.0	20.7	7.5	2.2	▲14271(H-7/XVII上)	-
231	465	A15	B00	剥片	-	OB3A	22.1	28.3	12.0	4.4	▲13913(G-7/XVII)	-
231	466	A15	B00	剥片	-	CR1	26.0	29.3	9.9	6.7	▲14183(G-8/XVII上)	-
231	467	A15	B00	剥片	-	CH2	33.4	23.9	5.4	3.3	▲14172(G-7/XVII上)	-
231	468	A15	B00	剥片	-	OB3A	26.9	24.3	5.7	2.8	▲14174(G-7/XVII)	-
231	469	A15	B00	剥片	-	SH2B	32.3	26.9	11.2	6.0	▲19223(I-7/XVII)	-
231	470	A15	B00	剥片	-	CC1A	24.8	26.5	6.9	3.1	▲14267(H-7/XVII)	-
231	471	A15	B00	剥片	-	CC1A	23.7	30.5	8.7	5.0	▲16796(I-8/XVII上)	-
231	472	A15	B00	剥片	-	CC1A	46.4	14.1	9.6	2.8	▲15879(H-7/XVII)	-
231	473	A15	B00	剥片	-	CC1A	25.0	33.7	12.6	7.6	▲18533(H-8/XVII)	-
231	474	A15	B00	縦長剥片	-	SH1A	36.7	12.0	5.6	2.3	▲14182(G-7/XVII)	-
231	475	A15	B00	縦長剥片	-	SH1A	33.6	16.5	4.8	1.3	▲14320(H-7/XVII上)	-
231	476	A15	B00	剥片	-	SH1A	30.9	14.2	4.8	1.7	▲14264(H-7/XVII上)	-
232	477	A15	B00	石核	-	CC1A	22.4	24.1	22.7	12.0	▲17088(I-8/XVII上)	-
232	478	A15	B00	剥片	-	CC1A	50.6	47.9	19.3	24.2	▲14258(H-8/XVII)	-
232	479	A15	B00	石核	-	OB2A	27.1	46.7	32.8	22.6	▲14225(H-8/XVII)	-
233	480	A15	B00	石核	-	SH1A	52.7	47.5	45.6	89.9	▲14218(H-8/XVII上)	No. 38
233	481	A15	B00	二次加工痕剥片	-	SH1	162.1	76.1	51.4	487.5	▲66号破群24(H-7/XVII)	-



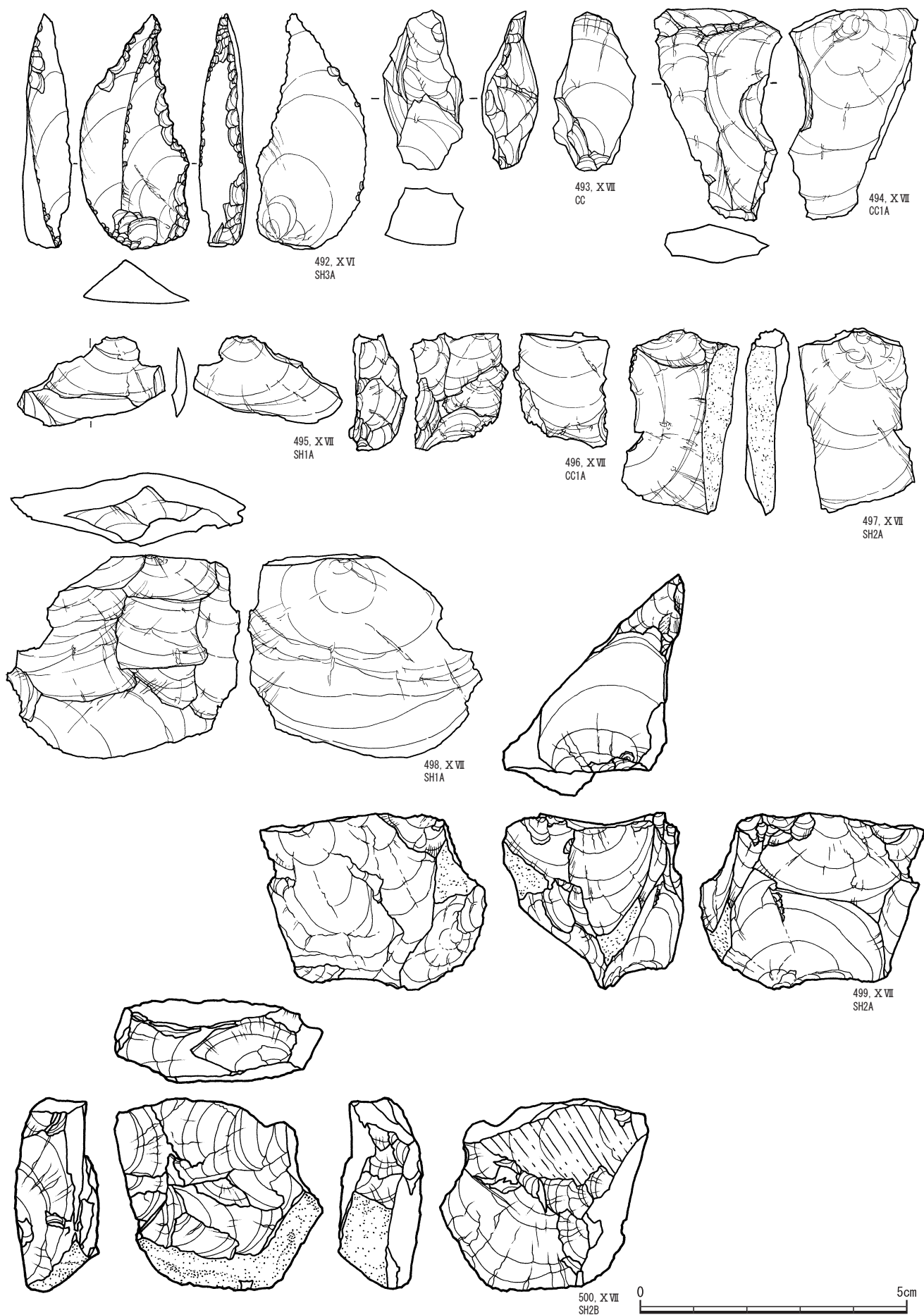
第234図 第I文化層第16エリア石器出土状況図



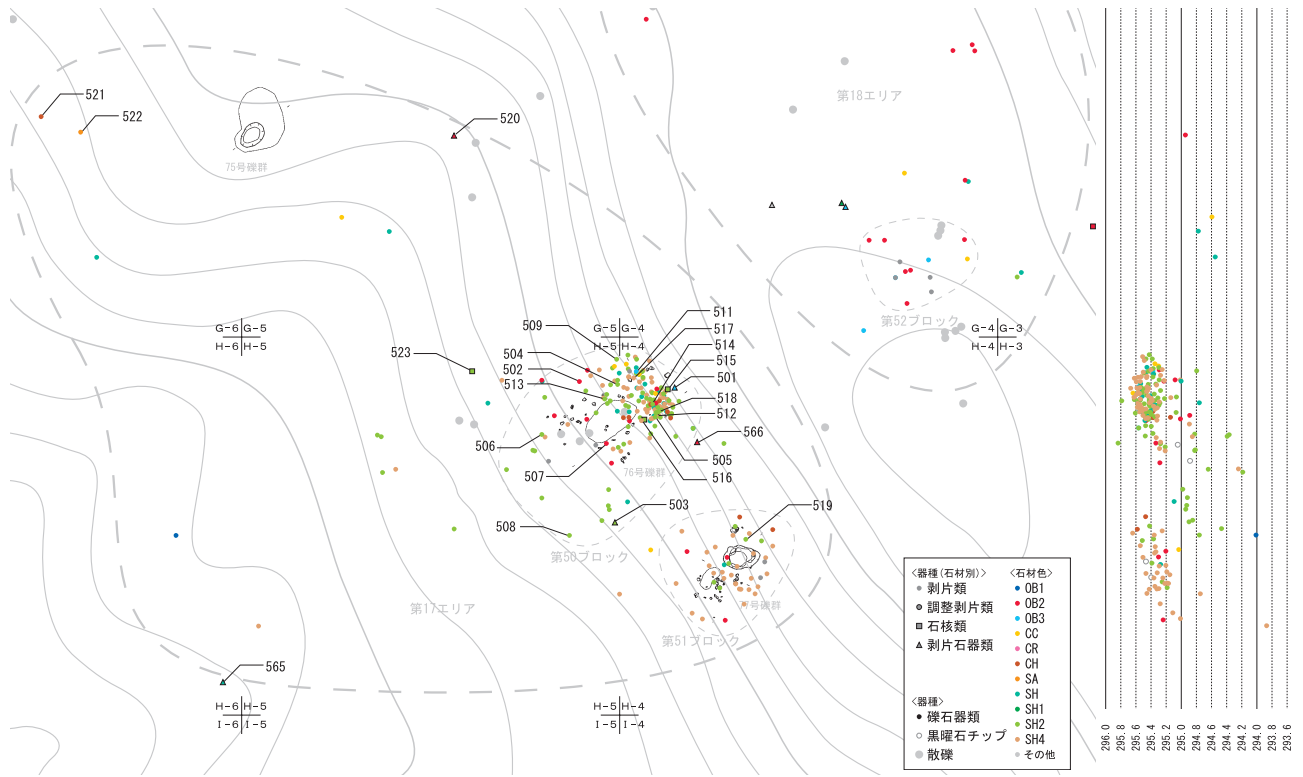
第235図 第I文化層第16エリア第48ブロック出土石器実測図



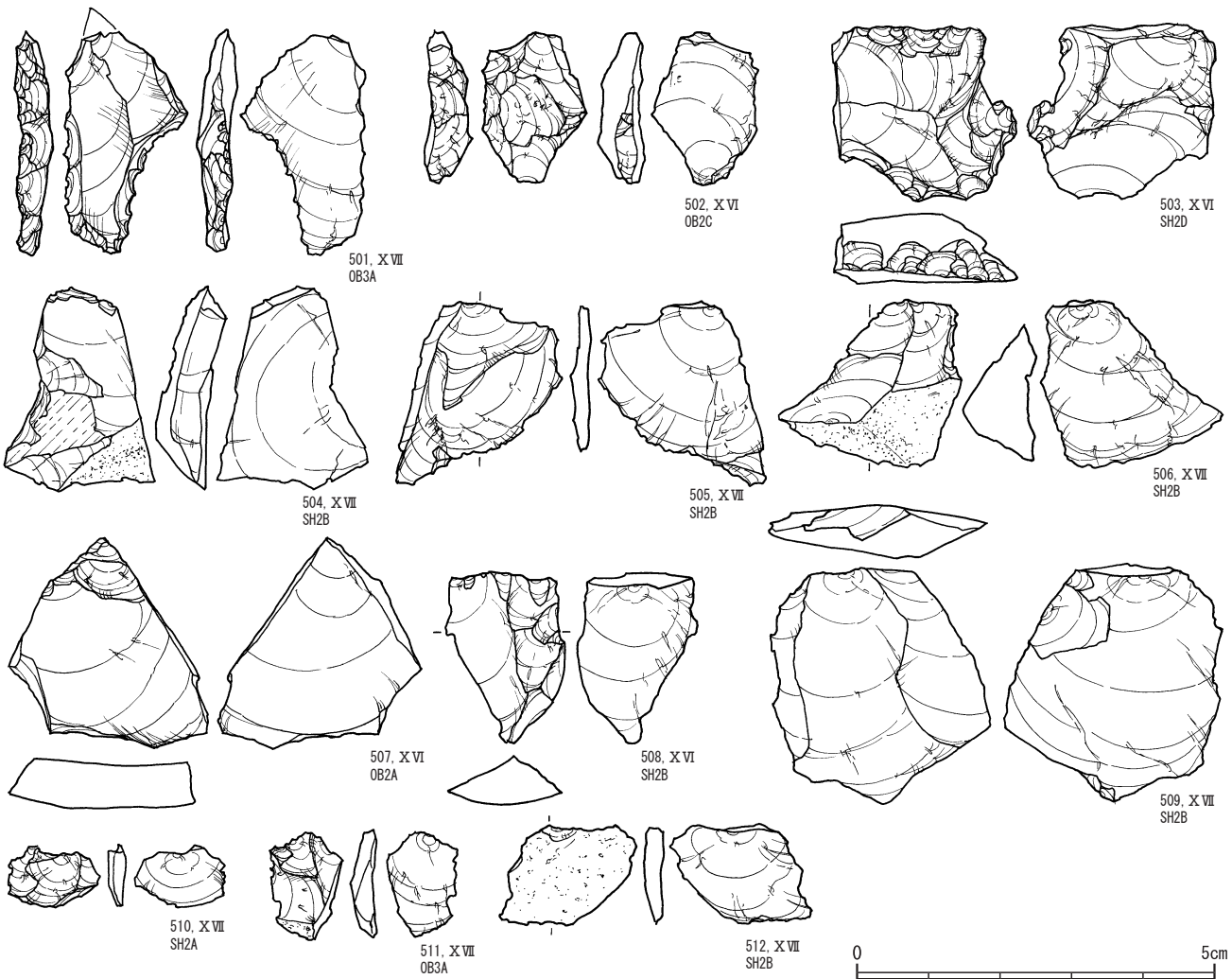
第236図 第I文化層第16エリア第49ブロック出土石器実測図



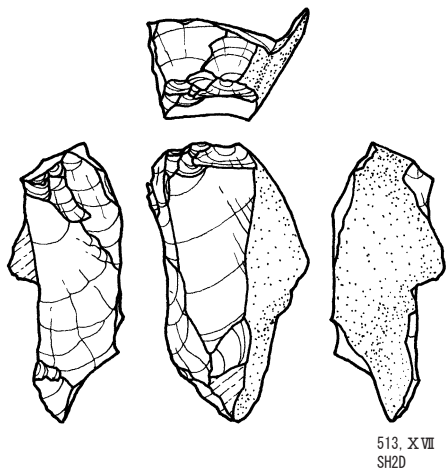
第237図 第I文化層第16エリア出土石器実測図



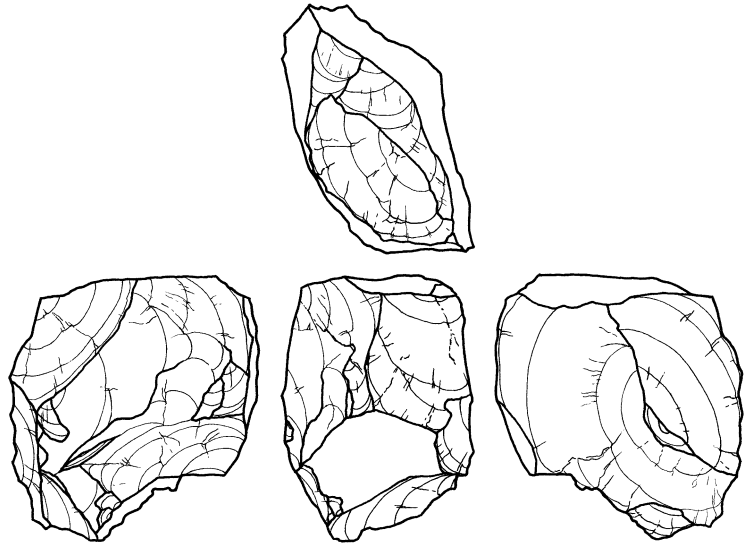
第238図 第I文化層第17エリア石器出土状況図



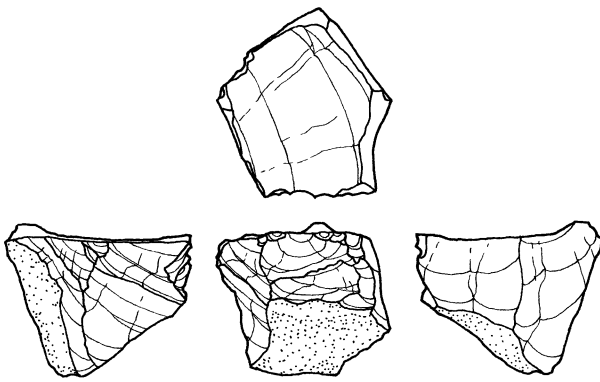
第239図 第I文化層第17エリア第50ブロック出土石器実測図(1)



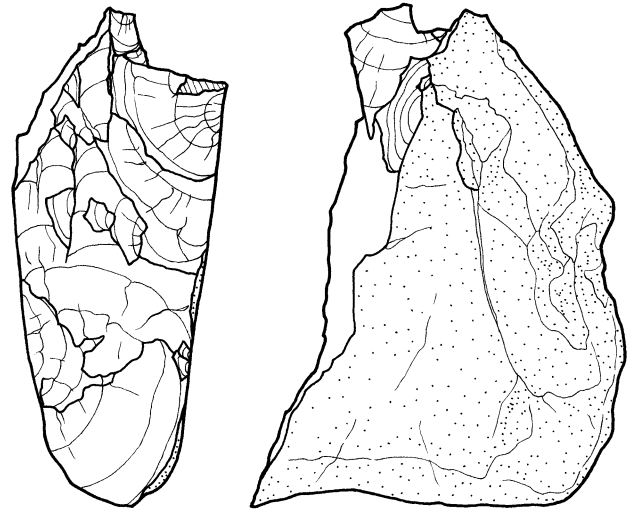
513. X VII
SH2D



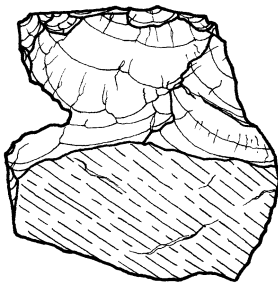
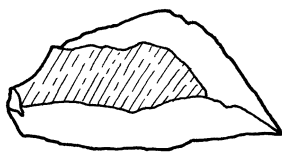
514. X VII
SH2B



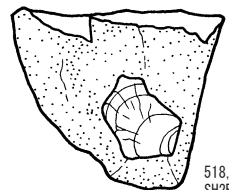
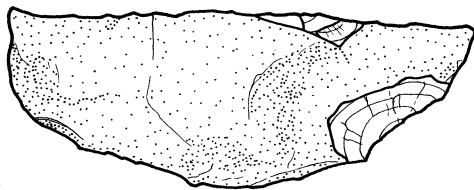
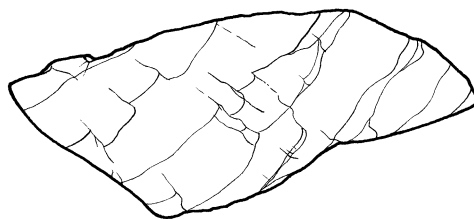
515. X VII
SH2D



517. X VII
SH4C



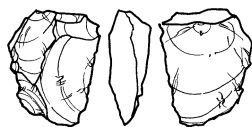
516. X VII
SH4A



518. X VII
SH2B



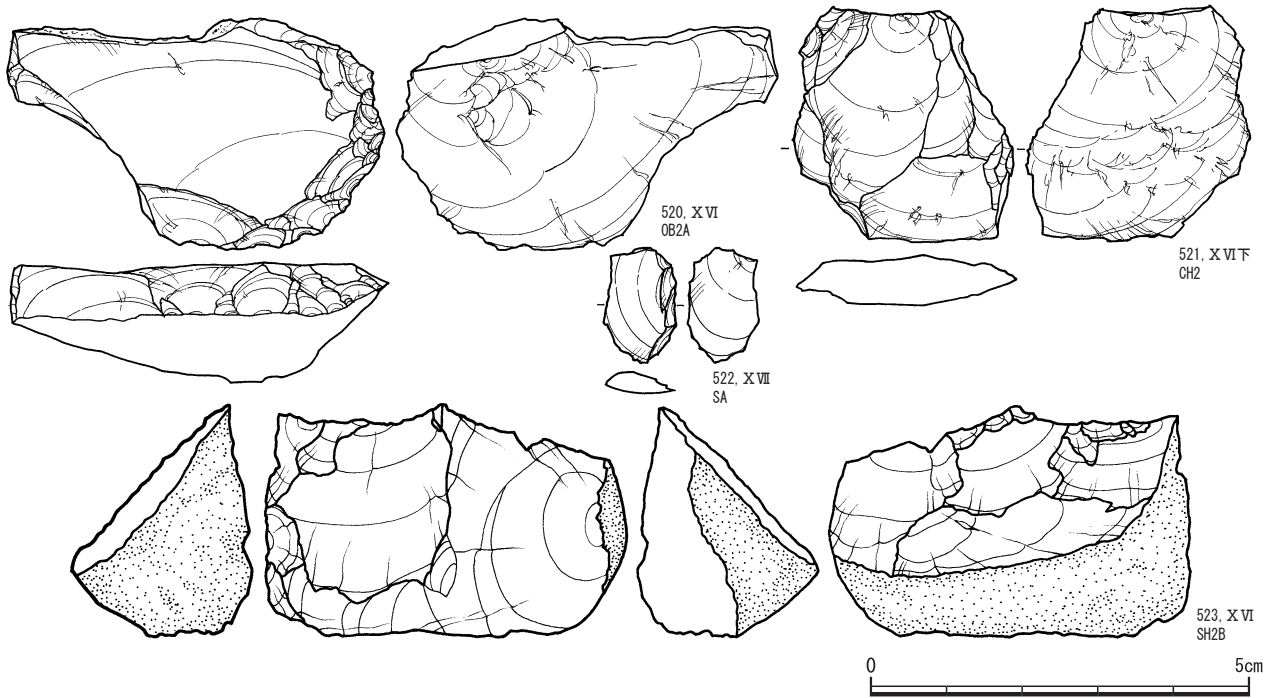
第240図 第I文化層第17エリア第50ブロック出土石器実測図(2)



519. X VII
SH2B



第241図 第I文化層第17エリア第51ブロック出土石器実測図



第242図 第I文化層第17エリア出土石器実測図

第54表 第I文化層第16～第19エリア出土石器観察表(1)

種別No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)	接合No
235	482	A16	B48	台形核石器	-	SH1A	42.8	26.1	9.3	8.1	▲18271(J-6/XVI)	No. 44
235	483	A16	B48	削器	基部加工	SH1A	26.0	32.2	8.9	5.3	▲18279(J-6/XVI)	-
235	484	A16	B48	剥片	-	SH1A	30.2	42.0	12.6	11.7	▲18278(J-6/XVI)	-
236	485	A16	B49	台形核石器	-	SH2A	29.9	20.2	8.9	3.8	▲18811(J-6/XVII)	-
236	486	A16	B49	台形核石器	-	SH2A	27.5	17.0	7.4	3.3	▲18295(J-6/XVI)	-
236	487	A16	B49	剥片	-	SH2A	24.3	27.6	8.4	5.0	▲18809(J-6/XVII)	No. 43
236	488	A16	B49	剥片	-	CC1A	20.7	18.4	4.2	1.0	▲18805(J-6/XVII)	-
236	489	A16	B49	剥片	-	SH2A	17.8	22.3	4.5	1.5	▲18614(J-6/XVI)	No. 43
236	490	A16	B49	剥片	-	SH2A	28.5	15.5	7.4	2.1	▲18818(J-6/XVII)	-
236	491	A16	B49	剥片	-	SH2B	37.9	36.7	15.6	16.5	▲18296(J-6/XVI)	-
237	492	A16	B00	ナイフ形石器	-	SH3A	44.4	20.8	9.4	5.9	▲18310(I-5/XVI)	-
237	493	A16	B00	二次加工痕剥片	-	CC	29.9	15.7	10.8	4.3	▲18313(I-5/XVII)	-
237	494	A16	B00	剥片	-	CC1A	39.8	24.5	8.1	5.6	▲18314(I-5/XVII)	-
237	495	A16	B00	剥片	-	SH1A	16.6	28.1	3.7	1.1	▲18995(J-6/XVII)	No. 44
237	496	A16	B00	剥片	-	CC1A	21.9	18.2	11.1	3.4	▲18996(J-6/XVII)	-
237	497	A16	B00	剥片	-	SH2A	34.8	22.0	8.5	4.9	▲18808(J-6/XVII)	-
237	498	A16	B00	剥片	-	SH1A	38.4	44.2	14.0	15.9	▲20227(J-6/XVII)	-
237	499	A16	B00	石核	-	SH2A	33.4	34.3	41.8	29.1	▲18292(J-6/XVII)	No. 43
237	500	A16	B00	石核	-	SH2B	36.4	39.5	16.0	25.1	▲18616(J-6/XVII)	-
237	501	A17	B50	ナイフ形石器	-	OB3A	30.9	17.7	5.7	2.4	▲18997(H-4/XVII)	-
239	502	A17	B50	剥片	-	OB2C	21.7	15.2	7.0	1.5	▲18366(H-5/XVI)	-
239	503	A17	B50	削器	-	SH2D	24.7	26.5	10.0	5.5	▲18348(H-5/XVI)	-
239	504	A17	B50	剥片	-	SH2B	28.6	21.2	10.0	3.5	▲19015(H-5/XVII)	No. 42
239	505	A17	B50	剥片	-	SH2B	26.0	23.7	4.9	1.9	▲19005(H-4/XVII)	-
239	506	A17	B50	剥片	-	SH2B	23.7	25.7	10.5	3.7	▲19132(H-5/XVII)	-
239	507	A17	B50	剥片	-	OB2A	29.7	28.7	7.4	5.9	▲18342(H-5/XVI)	-

第56表 第I文化層エリア外出土石器観察表(1)

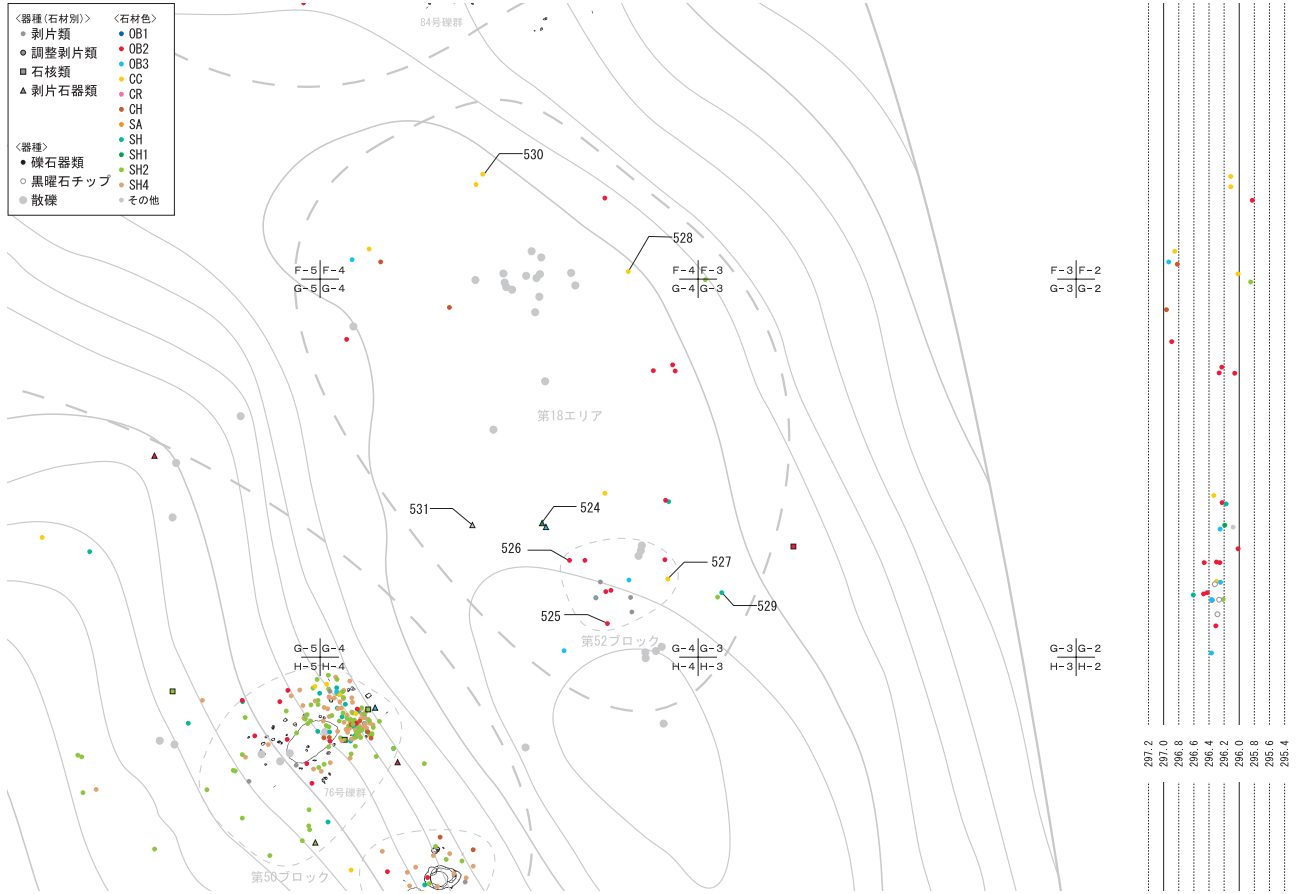
種別No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)	接合No
247	534	A00	B00	剥片尖頭器	-	CH1	78.1	30.8	15.3	21.9	▲7077(H-12/XVI)	-
247	535	A00	B00	削器	-	OB1	36.7	26.8	11.5	6.5	▲14316(H-8/XVII上)	-
247	536	A00	B00	剥片	-	OB1	20.2	17.6	9.2	2.7	▲6623(I-14/XVI)	-
247	537	A00	B00	微細剥離痕剥片	-	SA	38.8	15.9	7.5	4.0	▲5113(I-17/XVI)	-
248	538	A00	B00	ナイフ形石器	-	CC	24.8	10.4	6.6	4.3	●8949(C-26/XVII)	-
248	539	A00	B00	台形核石器	-	CC1A	24.3	15.9	9.7	3.6	▲15872(I-8/XVII)	-
248	540	A00	B00	削器	-	OB2C	24.8	17.1	6.4	2.3	▲13878(F-6/XVII下)	-
248	541	A00	B00	剥片	-	SH4	35.6	30.0	8.2	4.2	▲17090(J-7/XVII)	-
248	542	A00	B00	剥片	-	SH1	19.6	31.7	5.1	2.0	○63505(G-7/XVII)	-
248	543	A00	B00	剥片	-	SH1A	23.2	27.6	6.6	2.7	▲18661(J-9/XVII)	-
248	544	A00	B00	剥片	-	SH2	18.5	21.7	4.4	3.4	○63543(G-4/XVII)	-
248	545	A00	B00	剥片	-	OB1	18.6	20.5	7.0	1.7	▲6624(I-14/XVI)	-
248	546	A00	B00	剥片	-	OB2C	20.2	18.7	5.2	1.5	▲6927(I-12/XVII)	-
248	547	A00	B00	削器	削縁加工	SH1A	41.1	34.6	11.4	16.8	▲14821(I-20/XVII上)	-
248	548	A00	B00	剥片	-	SH	20.9	27.7	38.1	12.04	▲13870(F-6/XVII上)	No. 40
248	549	A00	B00	剥片	-	SA	20.2	29.2	11.9	7.1	▲14619(H-18/XVI)	-
248	550	A00	B00	石核	-	SH	37.7	41.5	37.9	58.35	▲13868(F-6/XVII上)	No. 40

第55表 第I文化層第16～第19エリア出土石器観察表(2)

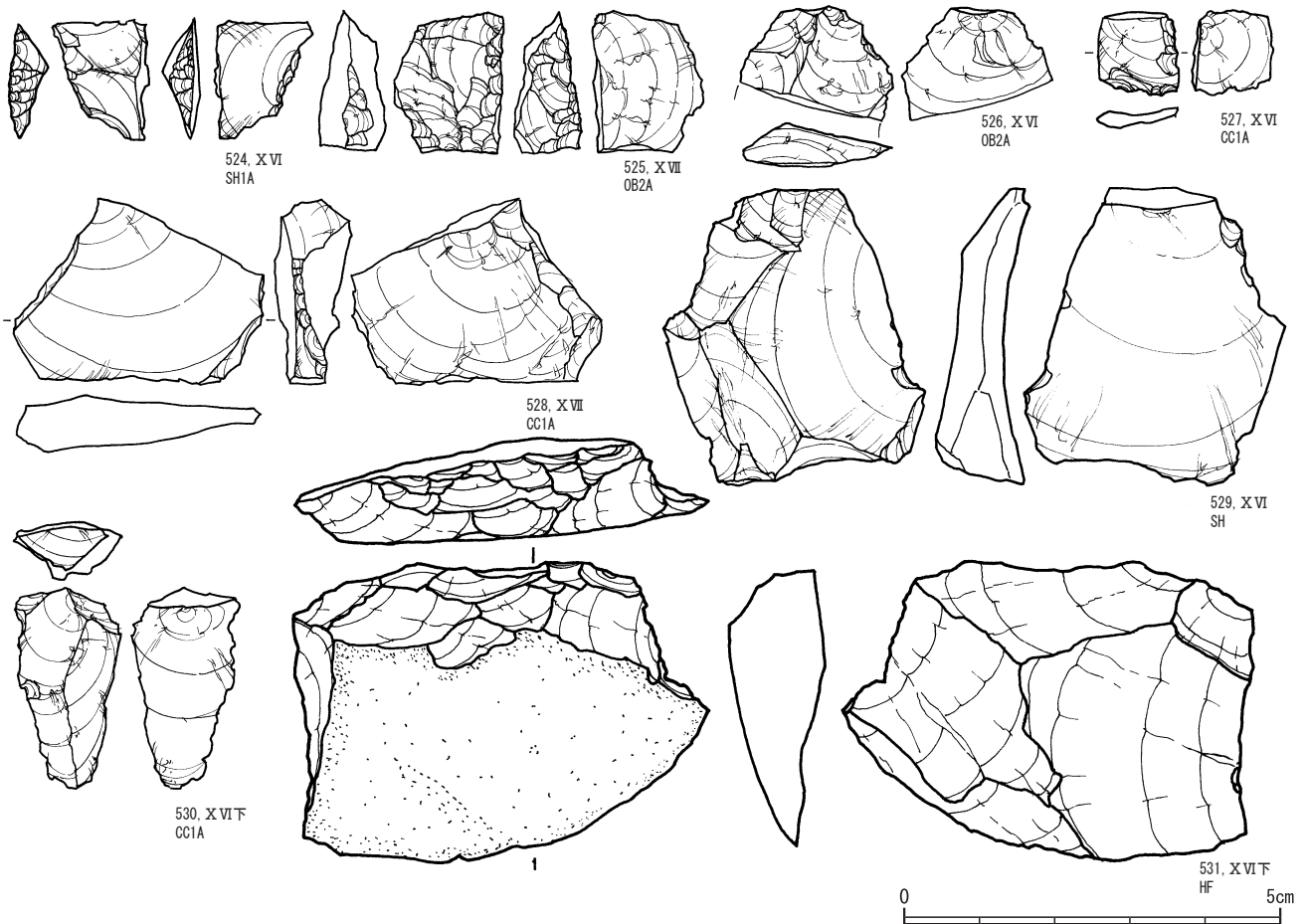
種別No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)	接合No
239	508	A17	B50	剥片	-	SH2B	24.1	17.1	7.3	2.1	▲18351(H-5/XVI)	-
239	509	A17	B50	剥片	-	SH2B	33.5	30.8	7.7	6.7	▲19014(H-5/XVII)	No. 42
239	510	A11	B37	調整剥片	-	SH2A	8.8	12.9	2.7	0.2	▲19058(J-9/XVII)	No. 20
239	511	A17	B50	剥片	-	OB3A	14.8	10.0	4.0	0.4	▲19116(H-4/XVII)	-
239	512	A17	B50	剥片	-	SH2B	14.2	20.1	3.0	0.8	▲19003(H-4/XVII)	-
240	513	A17	B50	剥片	-	SH2D	37.3	21.6	15.1	9.5	▲19017(H-5/XVII)	-
240	514	A17	B50	石核	-	SH2B	35.4	25.7	33.1	29.7	▲18395(H-4/XVII)	No. 41
240	515	A17	B50	石核	-	SH2D	20.4	23.3	25.2	11.2	▲18998(H-4/XVII)	-
240	516	A17	B50	剥片	-	SH4A	36.5	36.5	18.7	17.2	▲19007(H-4/XVII)	-
240	517	A17	B50	剥片	-	SH4C	66.8	49.8	28.7	90.8	▲19011(H-4/XVII)	-
240	518	A17	B50	剥片	-	SH2B	24.1	62.1	27.8	35.1	▲19004(H-4/XVII)	-
241	519	A17	B51	剥片	-	SH2B	15.7	12.5	5.8	1.2	▲19024(H-4/XVII)	-
242	520	A17	B00	削器	-	OB2A	30.8	50.6	16.2	20.8	▲17054(G-5/XVI)	-
242	521	A17	B00	剥片	-	CH2	31.3	29.9	7.0	6.5	▲13881(G-6/XVII下)	-
242	522	A17	B00	剥片	-	SA	15.4	9.7	3.3	0.5	▲13880(G-6/XVII)	-
242	523	A17	B00	石核	-	SH2B	30.8	48.1	30.9	22.2	▲18359(H-5/XVI)	-
244	524	A18	B00	台形核石器	-	SH1A	15.9	13.3	5.5	1.1	▲13603(G-4/XVI)	-
244	525	A18	B52	台形核石器	-	OB2A	19.0	15.0	9.3	2.2	▲17047(G-4/XVII)	-
244	526	A18	B52	剥片	-	OB2A	15.2	20.2	6.1	1.4	▲13601(G-4/XVI)	-
244	527	A18	B52	剥片	-	CC1A	11.5	11.0	3.1	0.4	▲13607(G-4/XVI)	-
244	528	A18	B00	剥片	-	CC1A	24.9	33.4	10.5	6.1	▲17053(F-4/XVII)	-
244	529	A18	B00	剥片	-	SH	39.8	35.0	12.8	10.7	▲13205(G-3/XVI)	-
244	530	A18	B00	剥片	-	CC1A	26.9	14.6	7.9	2.2	▲13611(F-4/XVII下)	-
244	531	A18	B00	二次加工痕剥片	-	HF	40.2	55.0	14.5	28.4	▲13604(G-4/XVII下)	-
246	532	A19	B00	石核	-	CC1A	30.6	22.0	17.2	11.3	▲13835(E-4/XVII下)	-
246	533	A19	B00	剥片	-	SH1	40.2	22.5	9.5	3.8	▲85号群群(F-4/XVII)	-

第57表 第I文化層エリア外出土石器観察表(2)

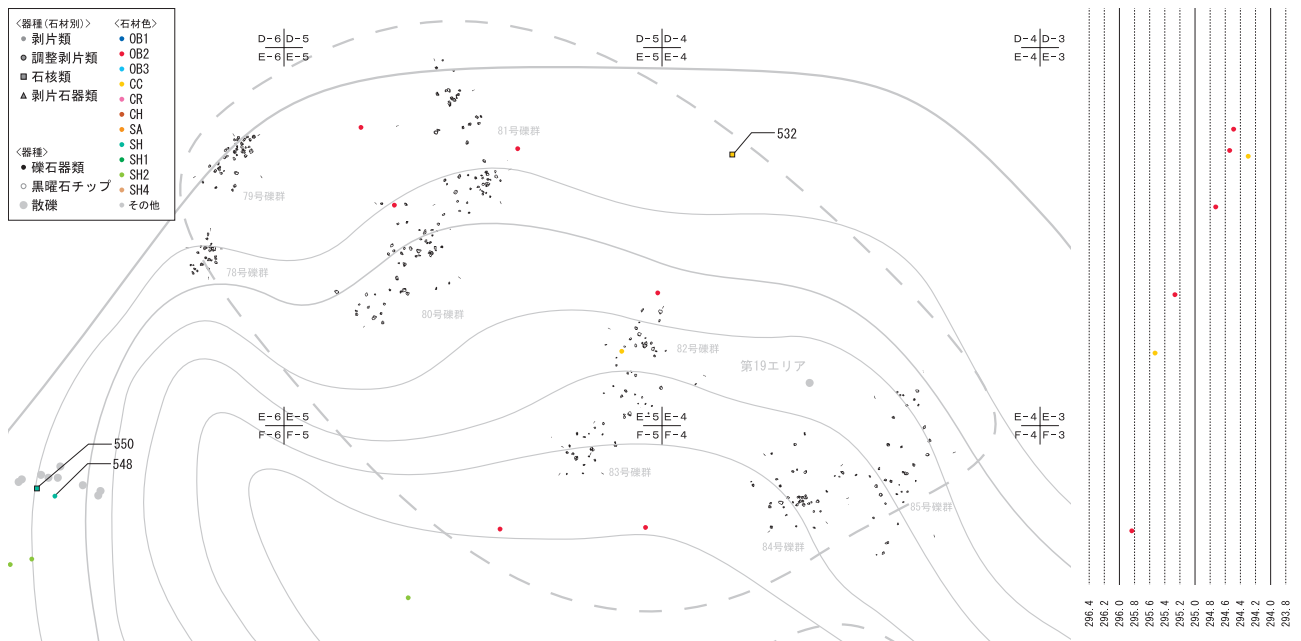
種別No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)	接合No
249	551	A00	B00	剥片	-	CH2	34.6	24.1	8.2	4.8	▲13879(F-6/XVII下)	-
249	552	A00	B00	剥片	-	SH1A	47.3	44.5	9.1	15.5	▲10884(I-17/XVI)	-
249	553	A00	B00	剥片	-	SH1A	34.2	18.4	18.5	32.2	▲14827(J-18/XVII上)	-
249	554	A00	B00	剥片	-	SH1A	50.3	35.0	57.9	65.9	▲5115(I-17/XVI)	-
249	555	A00	B00	ハンマー	-	KAN	64.0	31.7	26.0	83.6	▲18994(J-7/XVI)	-
250	556	A00	B00	ナイフ形石器	-	CR	42.3	22.5	5.1	4.8	▲一括(-/XVII)	-
250	557	A00	B00	剥片尖頭器	-	SH1	89.0	27.9	15.2	30.4	▲一括(-/XVII)	-
250	558	A00	B00	剥片尖頭器	-	SH	79.2	23.0	10.6	17.6	▲一括(-/XVII)	-
250	559	A00	B00	剥片尖頭器	-	SH	97.0	42.6	15.8	54.6	▲一括(-/XVII)	-
251	560	A00	B00	ナイフ形石器	-	SH1	68.6	21.1	12.5	12.3	▲一括(-/XVII)	-
251	561	A00	B00	剥片尖頭器	-	SH3	82.1	29.2	10.8	13.9	▲一括(-/XVII)	-
251	562	A00	B00	剥片	-	SH1	69.4	35.8	19.0	21.9	▲18993(J-7/XVI)	-
251	563	A00	B00	剥片	-	SA	102.0	32.0	17.0	36.7	▲一括(-/XVII)	-
251	564	A00	B00	剥片尖頭器	-	SH1	41.0	21.2	8.4	6.1	▲4843(I-13/XV)	-
251	565	A00	B00	ナイフ形石器	-	SH	40.1	23.3	11.5	9.4	▲18142(H-6/XVII上)	-
251	566	A00	B00	台形核石器	-	OB2	23.6	18.6	7.5	2.4	▲16409(H-4/XIV)	-
251	567	A00	B00	ナイフ形石器	-	OB2	31.2	19.8	8.3	3.3	▲13904(G-7/XVII下)	-



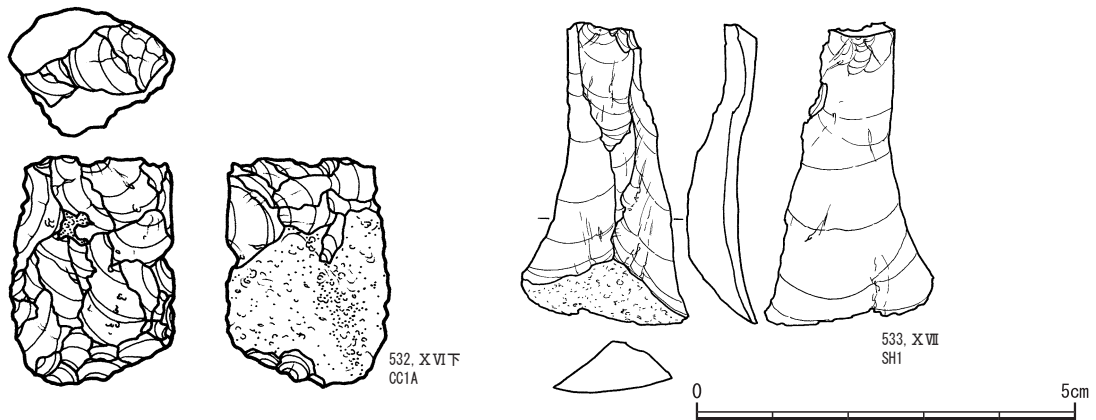
第243図 第I文化層第18エリア石器出土状況図



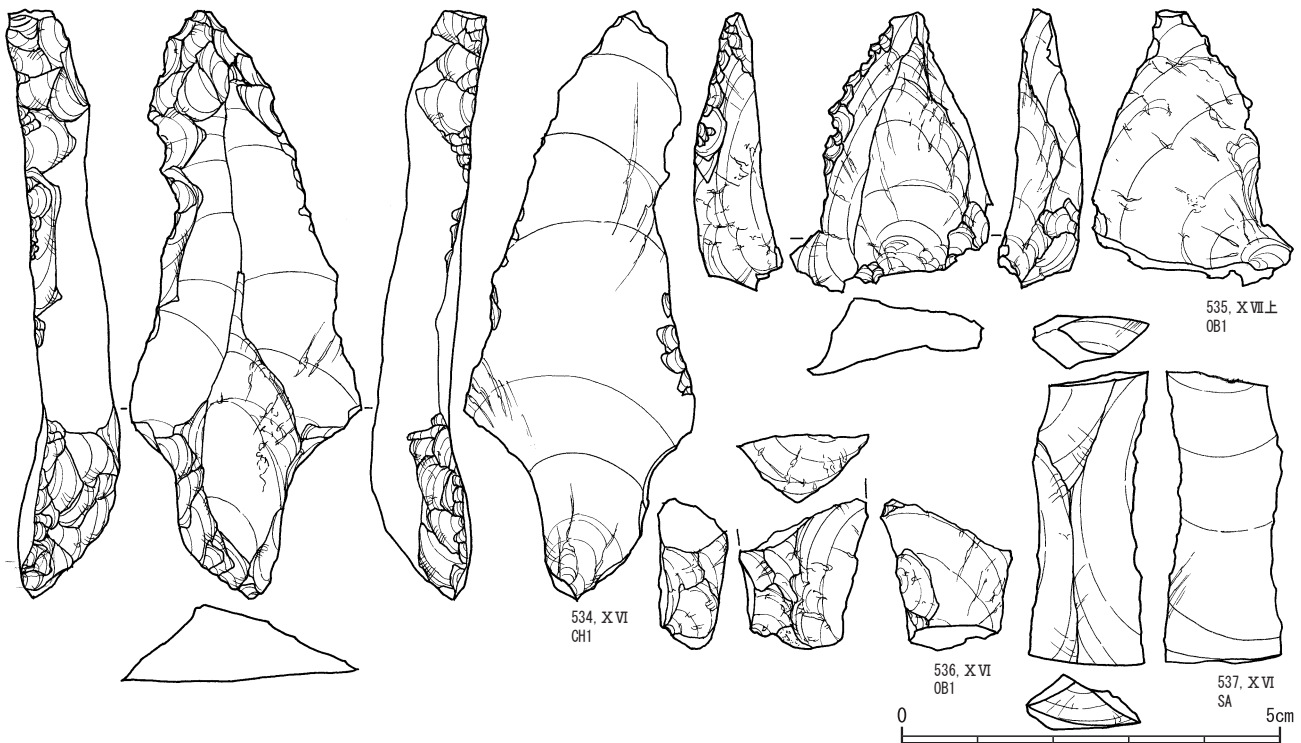
第244図 第I文化層第18エリア出土石器実測図



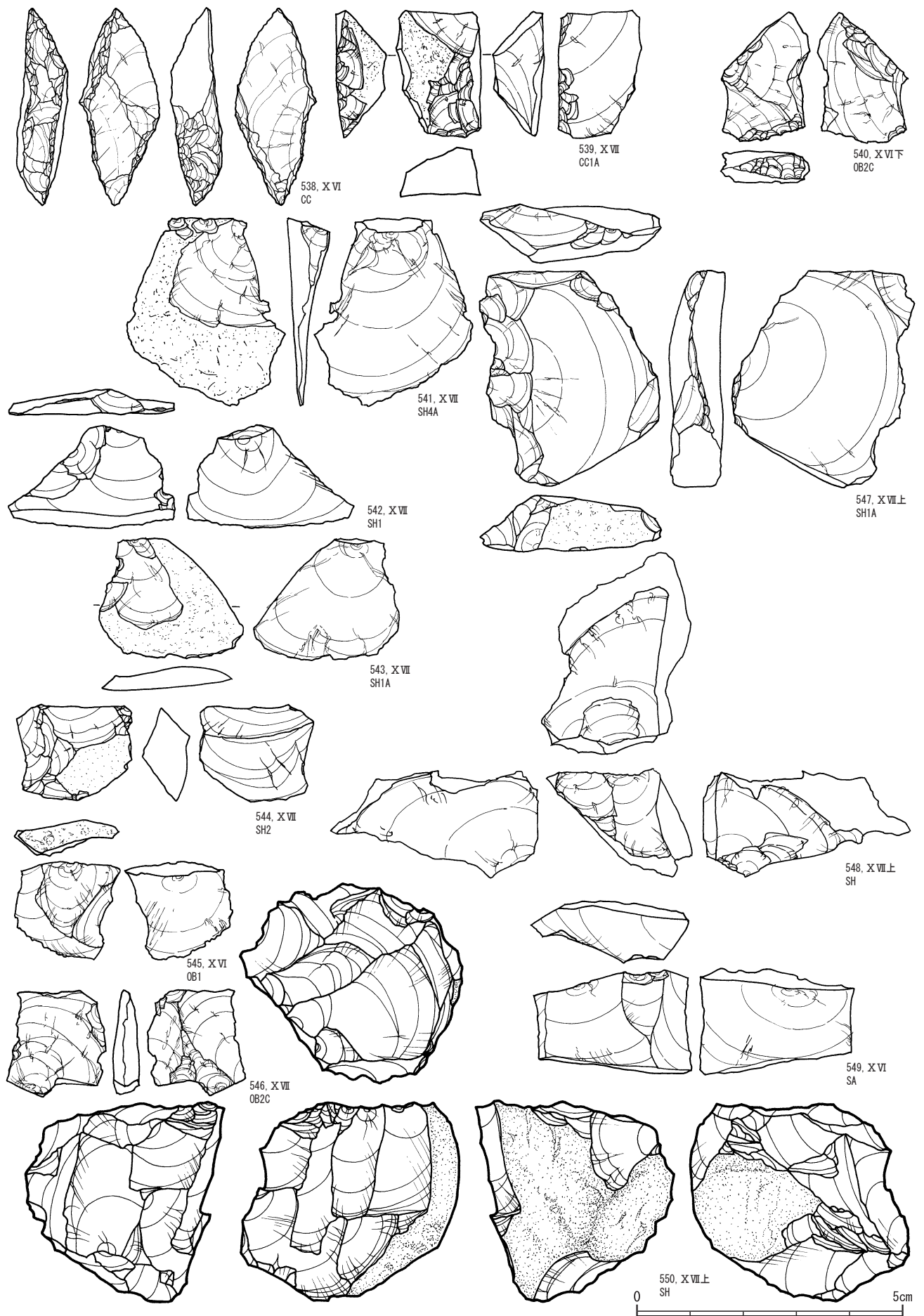
第245図 第I文化層第19エリア石器出土状況図



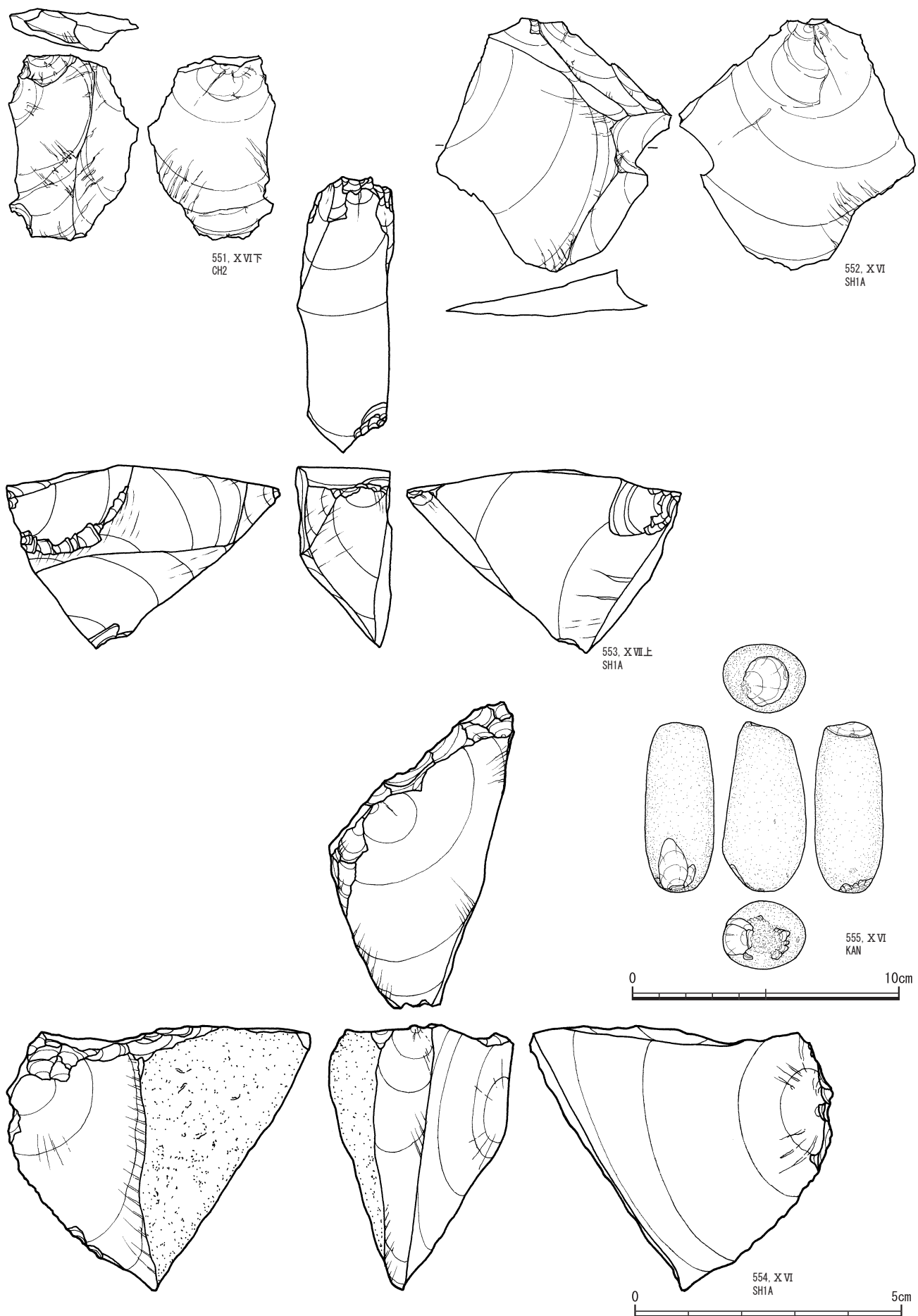
第246図 第I文化層第19エリア出土石器実測図



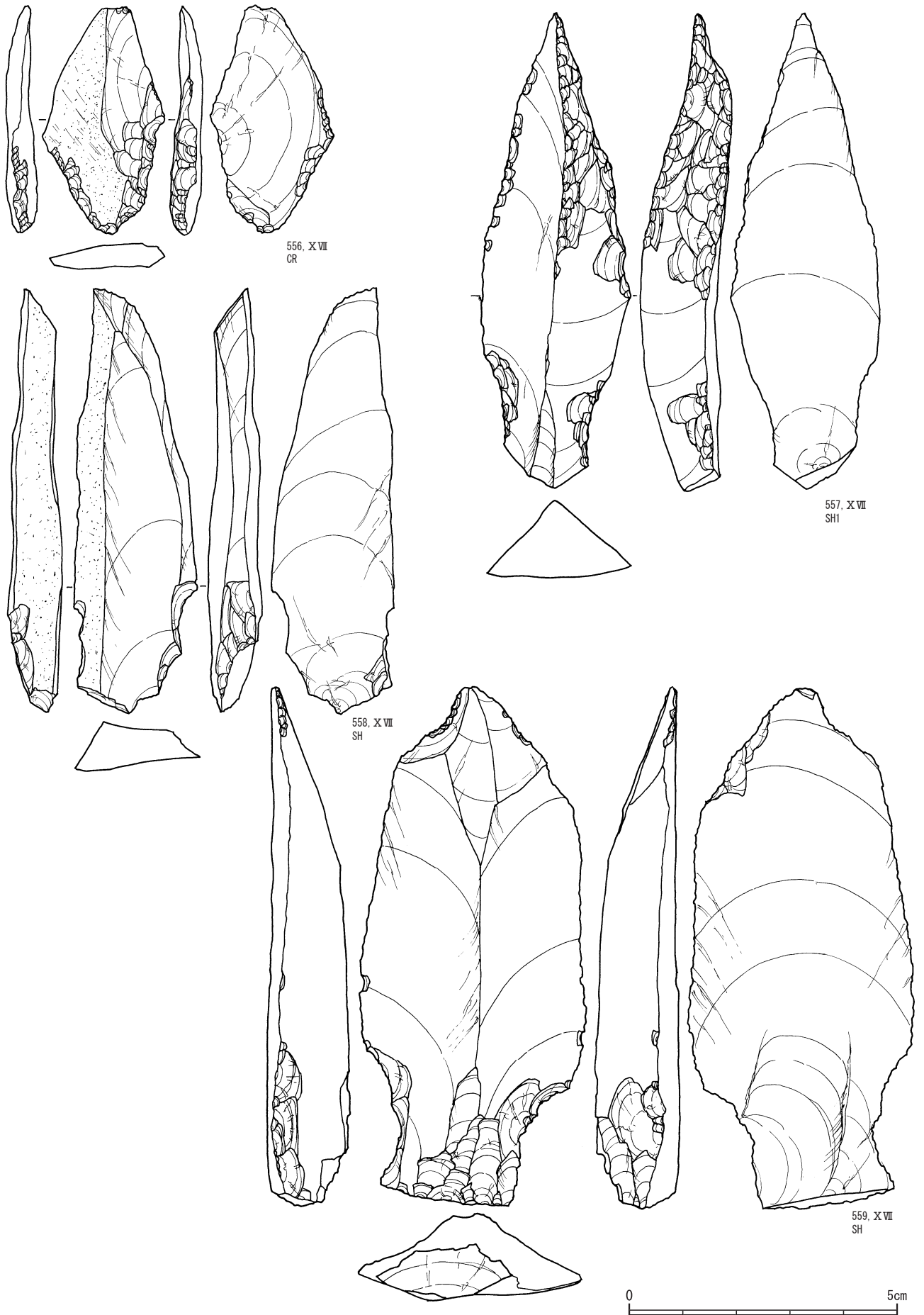
第247図 第I文化層エリア外出土石器実測図(1)



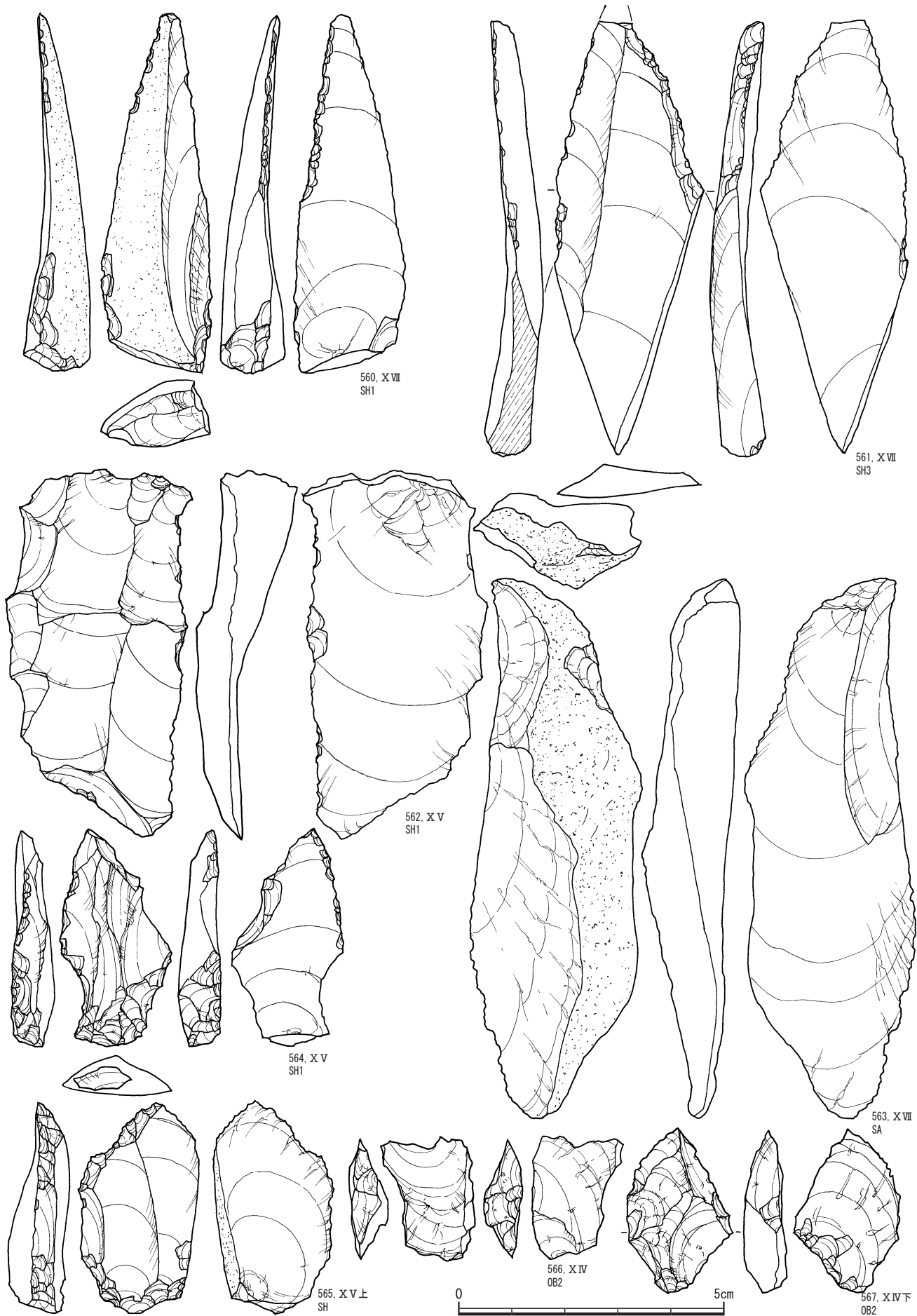
第248図 第I文化層エリア外出土石器実測図(2)



第249図 第I文化層エリア外出土石器実測図(3)



第250图 第I文化層一括石器実測図(1)



第251图 第I文化層一括石器実測図(2)

第5節 接合資料(第252図～297図)

1 石材別接合状況(第252図)

接合作業を行った結果、163個体の接合資料を確認し、剥離過程の検討可能な資料が得られた。接合の相関関係を検証した結果、XVII層からXIV層の4層間の接合、ブロック間の接合が確認された。これらの接合関係は、同一母岩接合、破損石器接合で具体的に示している。なお、石材別接合状況は第252図に示した。

接合状況から石器の器種毎の特徴が現れている。剥片尖頭器の接合資料が乏しいのに対し、台形様石器製作を示す具体的接合、剥片剥離工程を示す石核と剥片の接合が確認されている。取り出された剥片の多くが不定型な横広剥片で、台形様石器の素材剥片獲得を目的としたことが想定できる内容である。したがって、台形様石器を主体とした小型石器の製作資料が接合資料の大半を占めると言える。

石材は玉髄・頁岩が大半を占め、黒曜石・チャートと、極少数だが水晶・砂岩がみられる。出土区域によって石器製作技術に特徴がみられるが、石材によっても限定される可能性がある。以下、石材別の分布状況を述べる。

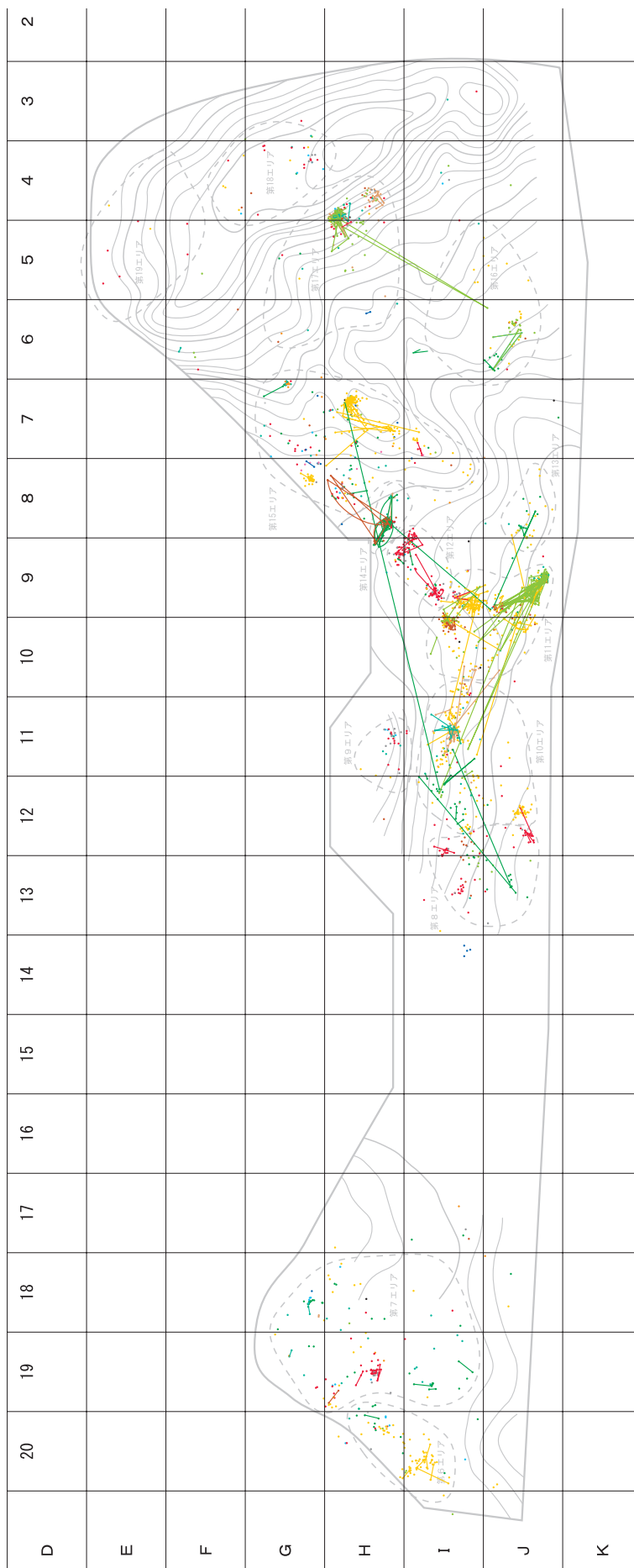
玉髄は50個体の接合資料が確認されたが、接合状況はエリアによって異なる。第6エリアの第11ブロックから第13ブロック、および第7エリアの第14ブロック、第10エリアから第11エリアの第24・25・28～36ブロック、第13エリアの第40ブロック、第15エリアの第44ブロックではブロック内接合に限定される。それに対して、第15エリアでは第45ブロックと第46ブロックにおいてブロック間接合がみられる。

頁岩はⅠ類(硬質頁岩)とⅡ類(珪質頁岩)の2種において、分布状況が大きく異なる。

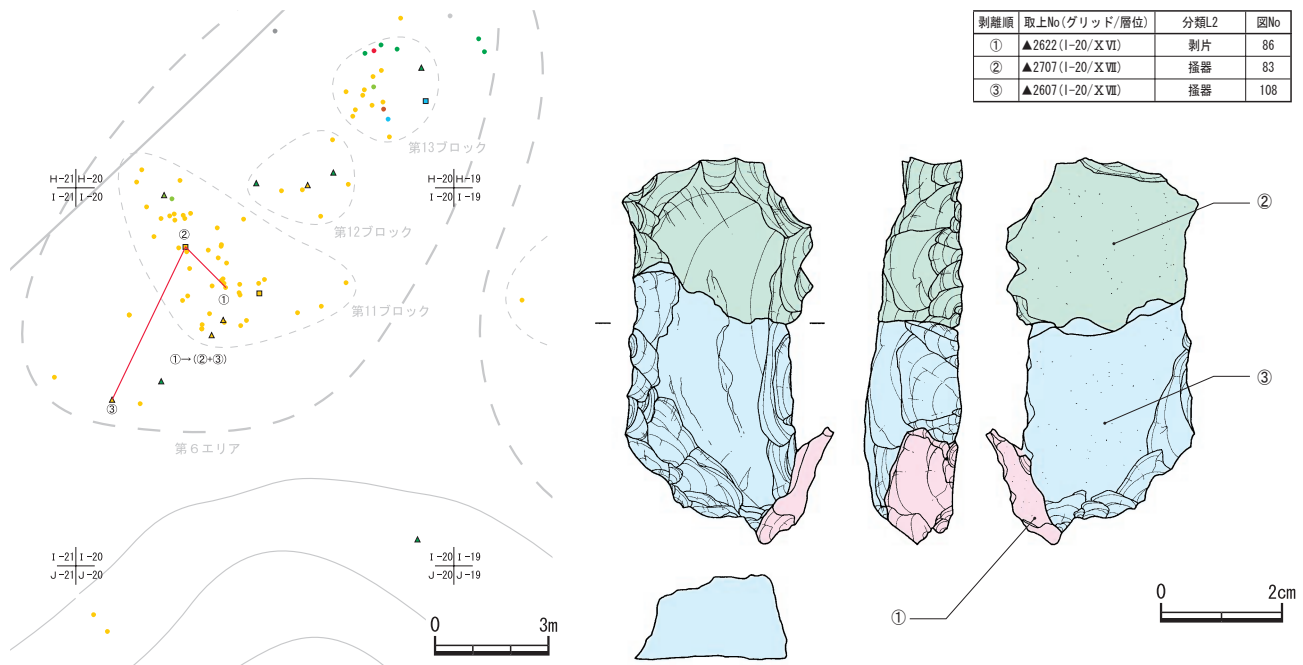
頁岩Ⅰ類は29個体を確認した。主に第7エリアと第16エリアに分布し、このうち第41～43ブロックでは、接合資料No. 37により、ブロック間での石材移動についての関係が窺える。

頁岩Ⅱ類は、ブロック間の接合資料が数多く確認できた。このうち第11エリアの第34・36・37ブロック間では、同一母岩による台形様石器製作目的の接合資料が多く確認できた。

特に接合資料No. 16は、2点の石核を含む30点もの接合資料であるが、資料は第34・36・37の3ブロックに分布し、同一母岩と思われる接合資料No. 17もブロックを共有する。また、接合資料No. 18・20・21も同じく3ブロックを共有するが、資料に含まれる台形様石器が、ともに剥離作業が行われたと思われる第36ブロックから約20m離れた第10エリアの第27・29ブロックで出土して

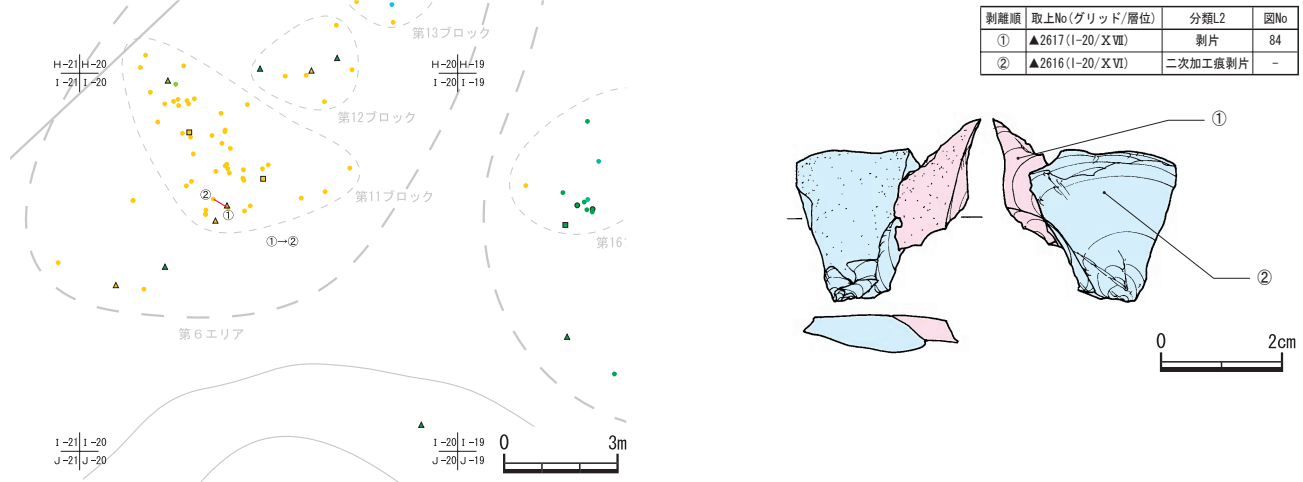


第252図 第I文化層石材別接合状況図



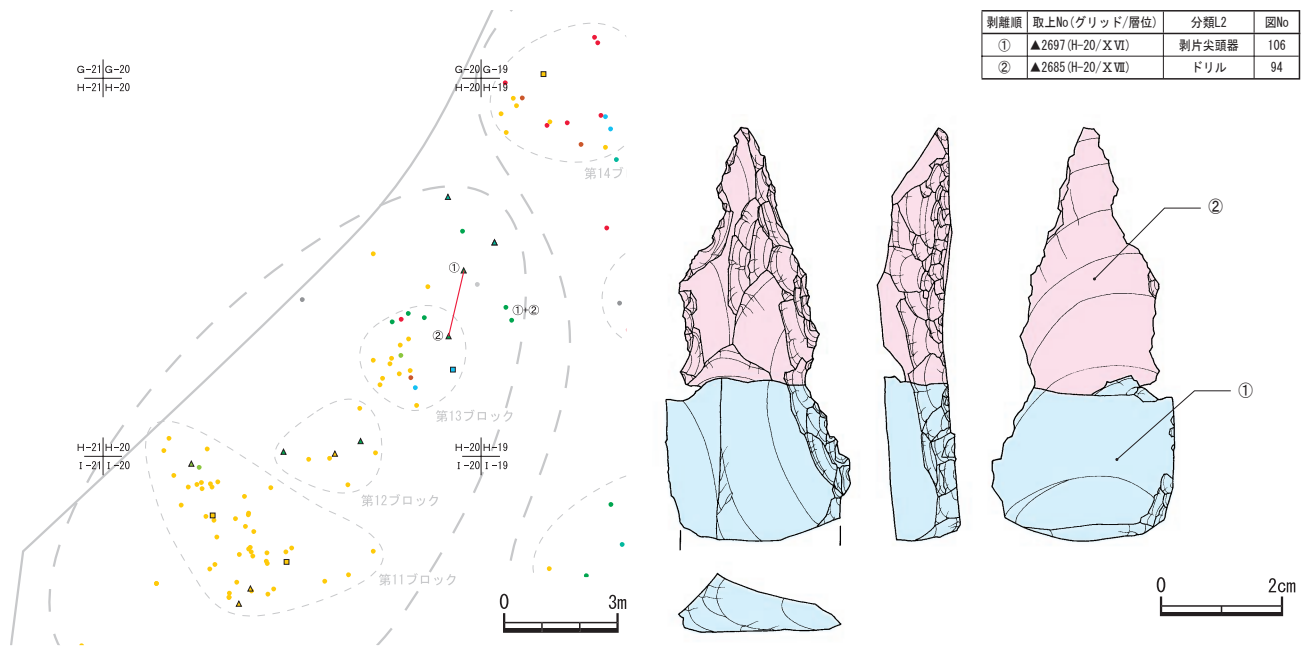
剥離順	取上No(グリッド/層位)	分類L2	図No
①	▲2622 (I-20/XVI)	剥片	86
②	▲2707 (I-20/XVII)	搔器	83
③	▲2607 (I-20/XVII)	搔器	108

第253図 第I文化層接合資料No. 1 実測図及び接合状況図



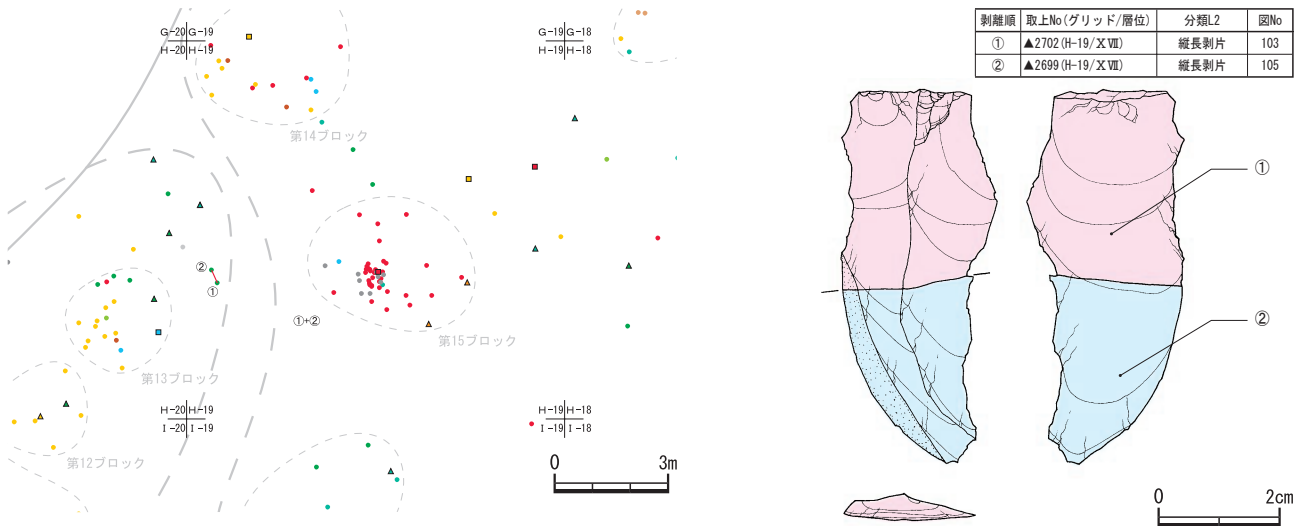
剥離順	取上No(グリッド/層位)	分類L2	図No
①	▲2617 (I-20/XVII)	剥片	84
②	▲2616 (I-20/XVI)	二次加工痕剥片	-

第254図 第I文化層接合資料No. 2 実測図及び接合状況図



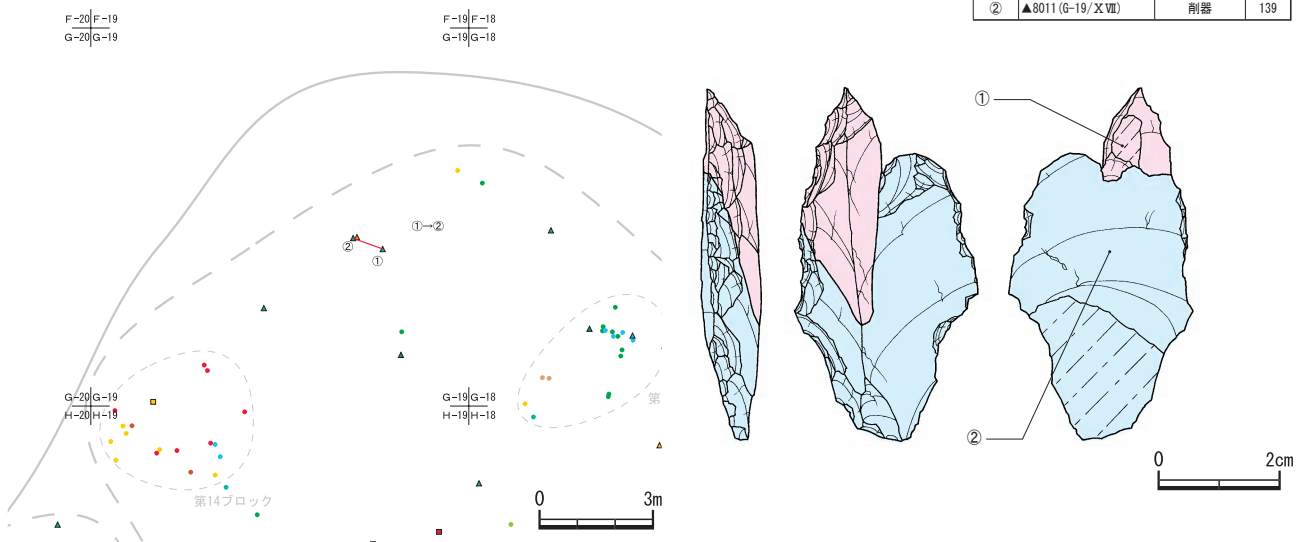
剥離順	取上No(グリッド/層位)	分類L2	図No
①	▲2697 (H-20/XVI)	剥片尖頭器	106
②	▲2685 (H-20/XVII)	ドリル	94

第255図 第I文化層接合資料No. 3 実測図及び接合状況図



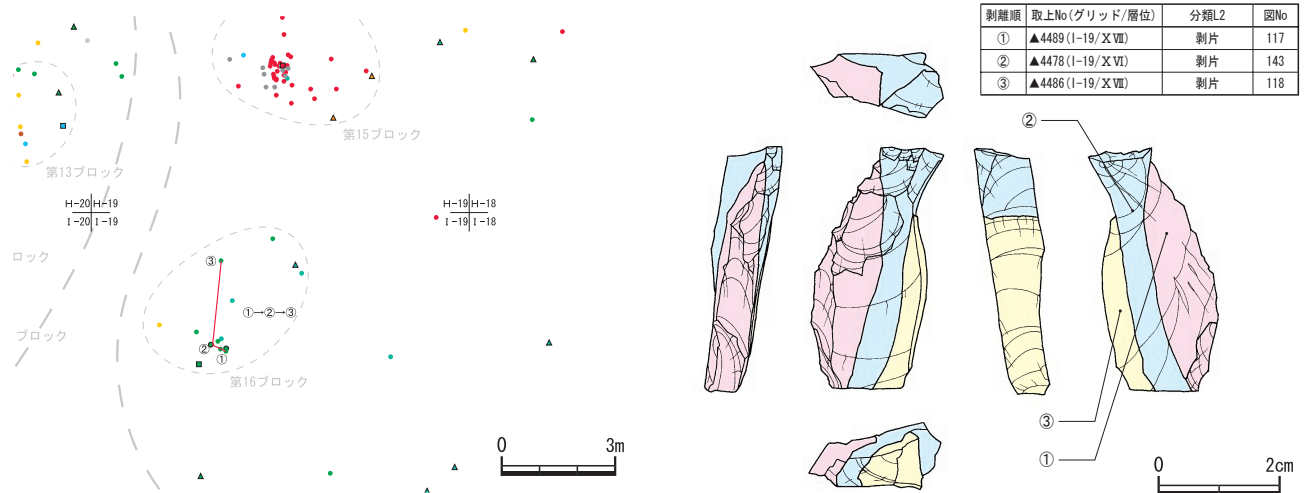
剥離順	取上No(グリッド/層位)	分類L2	図No
①	▲2702(H-19/XVII)	縦長剥片	103
②	▲2699(H-19/XVII)	縦長剥片	105

第256図 第I文化層接合資料No. 4実測図及び接合状況図



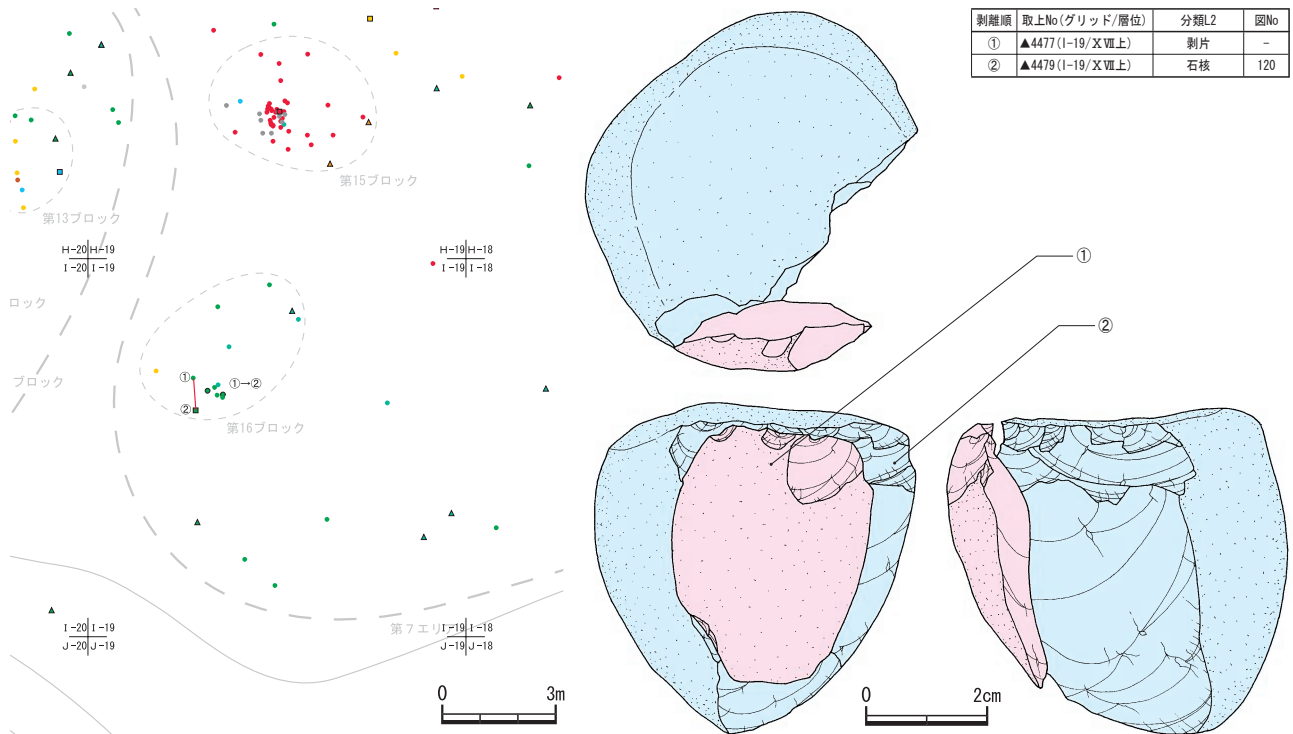
剥離順	取上No(グリッド/層位)	分類L2	図No
①	▲8010(G-19/XVII)	ナイフ形石器	137
②	▲8011(G-19/XVII)	削器	139

第257図 第I文化層接合資料No. 5実測図及び接合状況図

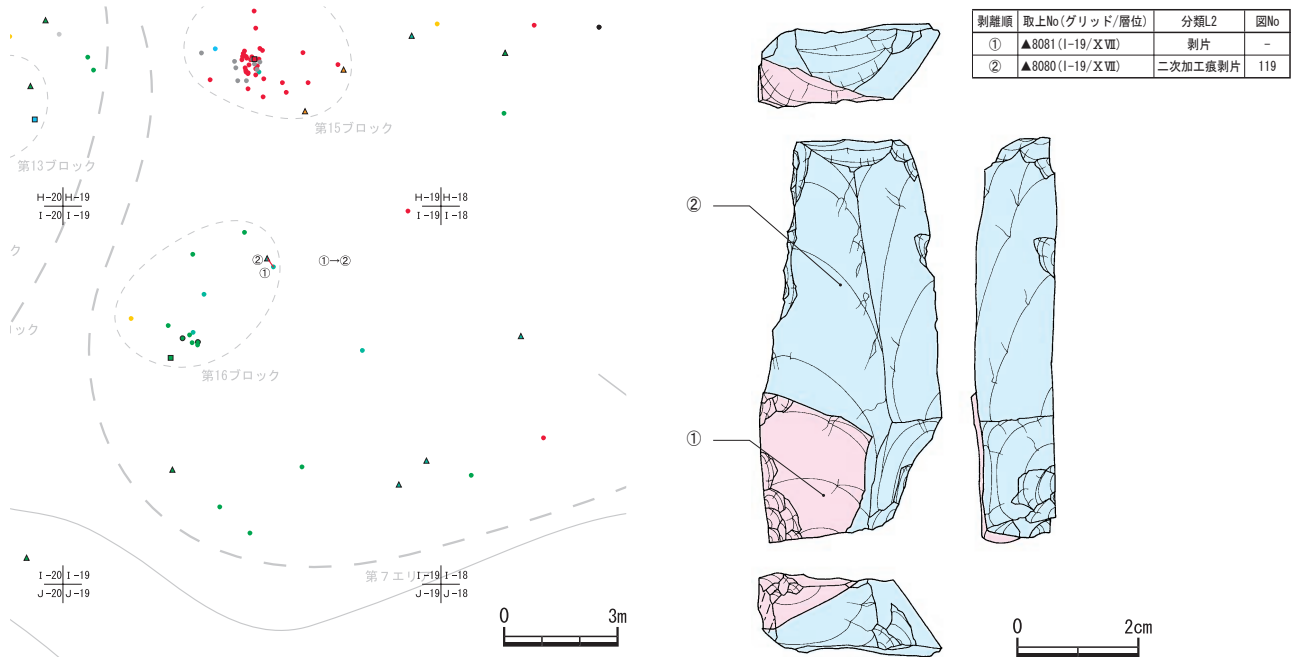


剥離順	取上No(グリッド/層位)	分類L2	図No
①	▲4489(I-19/XVII)	剥片	117
②	▲4478(I-19/XVI)	剥片	143
③	▲4486(I-19/XVII)	剥片	118

第258図 第I文化層接合資料No. 6実測図及び接合状況図



第259図 第I文化層接合資料No. 7 実測図及び接合状況図



第260図 第I文化層接合資料No. 8 実測図及び接合状況図

いる。

そのほか、節理に富む粗雑な頁岩が、主に耳取遺跡4・5区に第50ブロックを形成している。接合資料No. 41では礫面を打面に設定し、未調整のまま剥片剥離作業を重ねているが、個体によっては節理に沿った分割面を打面とした剥離作業が認められる。

チャートは4個体で接合を確認した。そのうち接合資料No. 36は、3カ所に渡って石材の移動がみられた。第42ブロックで剥片剥離作業が行われたと思われるが、ブロック内からの出土遺物にくらべて、比較的大きく破砕した剥片

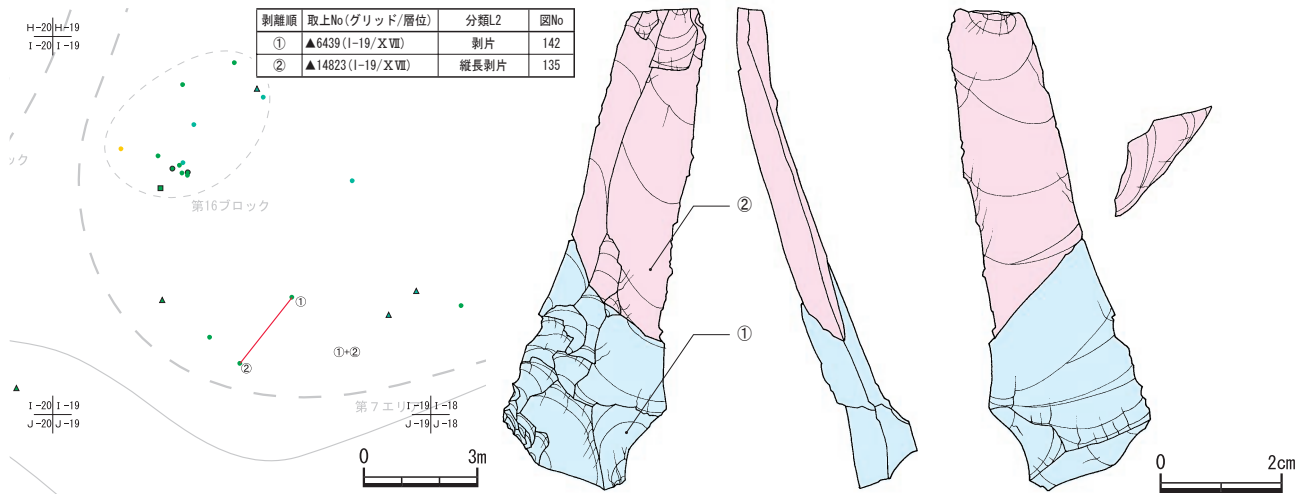
(③・⑫・⑧・⑪)はブロック外やエリア外から出土している。また接合資料No. 36と頁岩I類の接合資料No. 33・34・37は第41・42・43ブロックを共有している。

黒曜石は23個体の接合資料を確認した。規模の小さいブロックを形成し、石材の分布がその中で終始するため、石材の移動が極めて少ないのが特徴である。

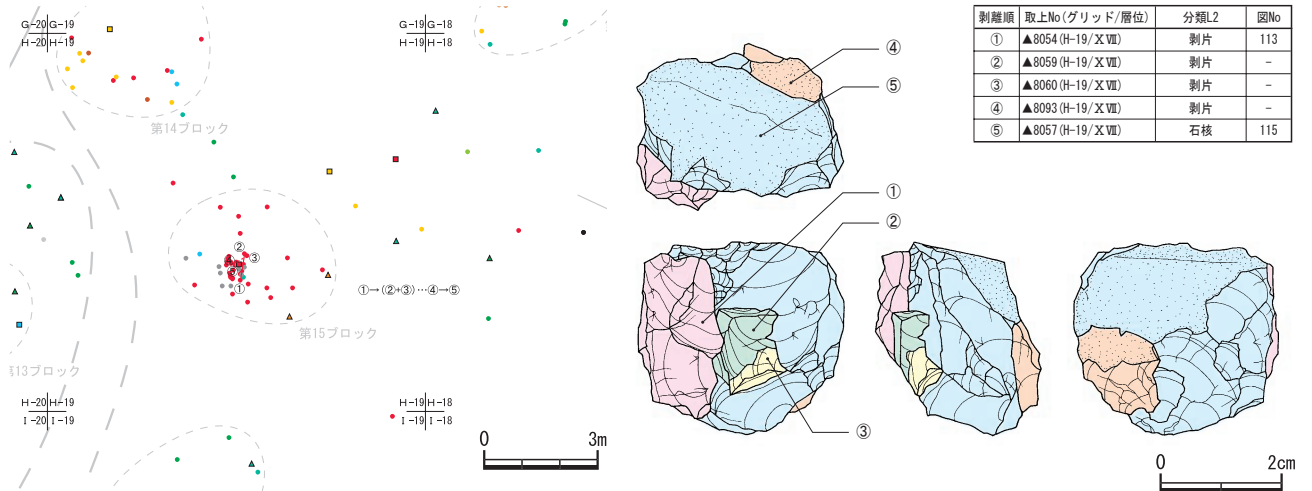
2 接合資料(第253図～第297図)

接合資料No. 1(第253図) [CC1A]

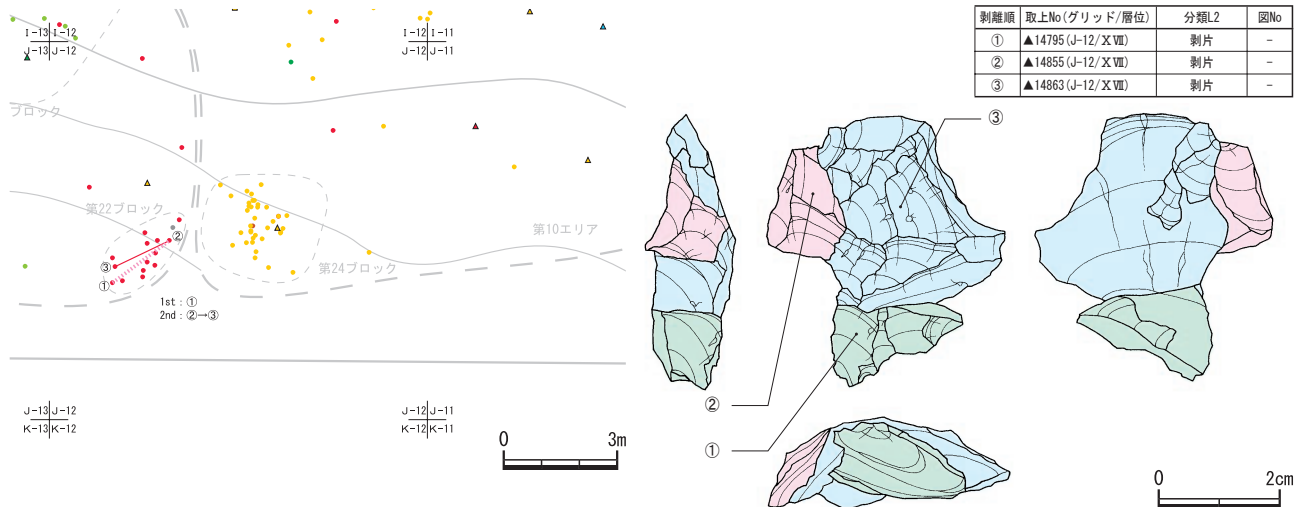
(②+③)を搔器とすると①は刃部整形剥片、(②+③)を石核とすると①は剥片となる。本遺跡の事例ではこの規格の剥片



第261図 第I文化層接合資料No. 9実測図及び接合状況図



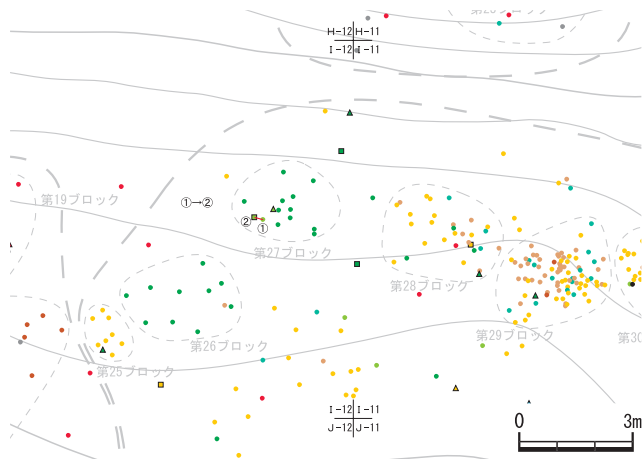
第262図 第I文化層接合資料No. 10実測図及び接合状況図



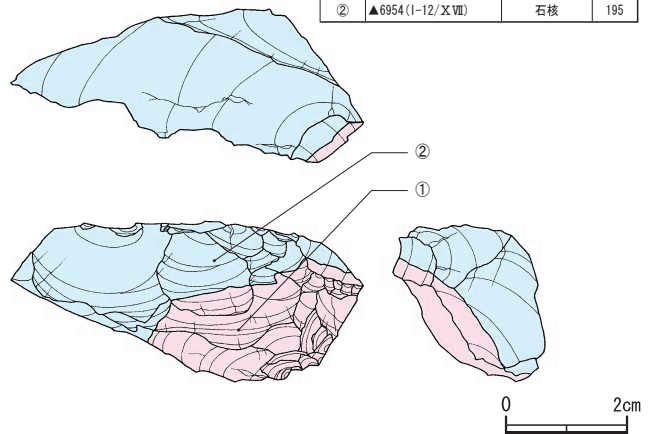
第263図 第I文化層接合資料No. 11実測図及び接合状況図

を素材とする石核は抽出しづらいことから、搔器作出の刃部整形剥片と判断したい。②と③の破断面には流理による空洞がみられ、左側縁の剥離の際に破断したらしい。②には破断面に剥離がみられることから、再加工を試みたと思われる。接合資料No. 2 (第254図) [CC1A]
二次加工痕剥片と剥片の接合資料である。①は先行する剥片で二次加工痕剥片②は右側縁と基部、左側縁の一部に加工

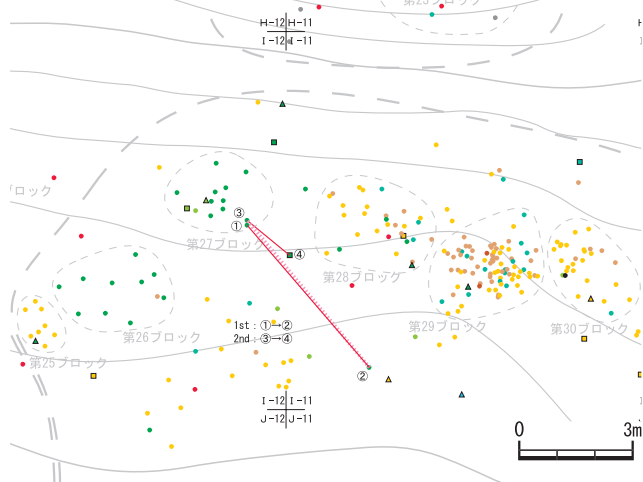
が施されるが、目的とした器種は明らかでない。接合資料No. 3 (第255図) [SH1A]
剥片尖頭器のリダクションを示す資料である。腹面からの刃潰し加工を行っている途中で三分割以上に破断したものとみられ、その後、どちらの破断面にも調整が加えられ、②はドリルと再生している。



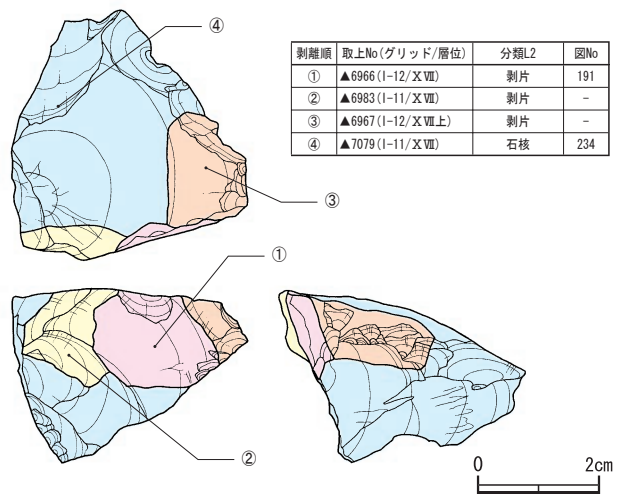
第264図 第I文化層接合資料No. 12実測図及び接合状況図



剥離順	取上No(グリッド/層位)	分類L2	図No
①	▲6953 (I-12/XVII)	剥片	-
②	▲6954 (I-12/XVII)	石核	195



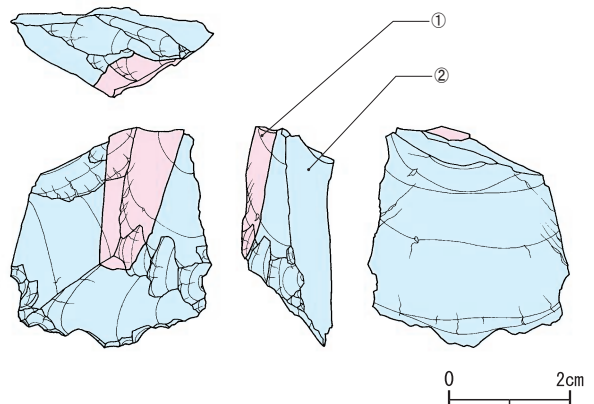
第265図 第I文化層接合資料No. 13実測図及び接合状況図



剥離順	取上No(グリッド/層位)	分類L2	図No
①	▲6966 (I-12/XVII)	剥片	191
②	▲6983 (I-11/XVII)	剥片	-
③	▲6967 (I-12/XVII上)	剥片	-
④	▲7079 (I-11/XVII)	石核	234



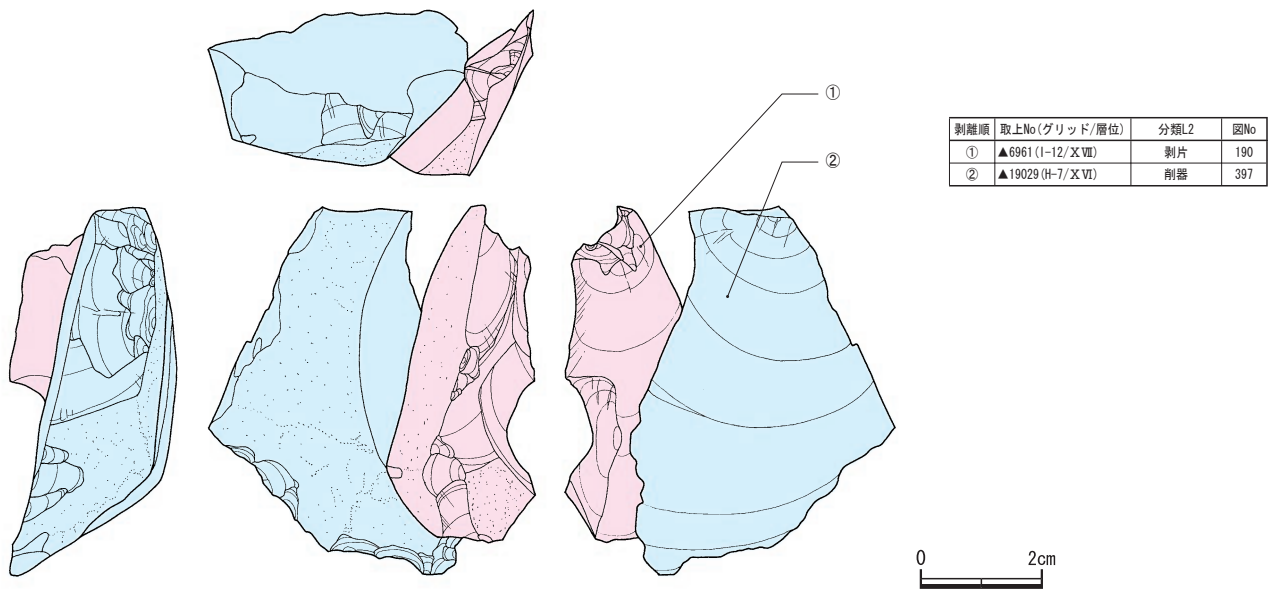
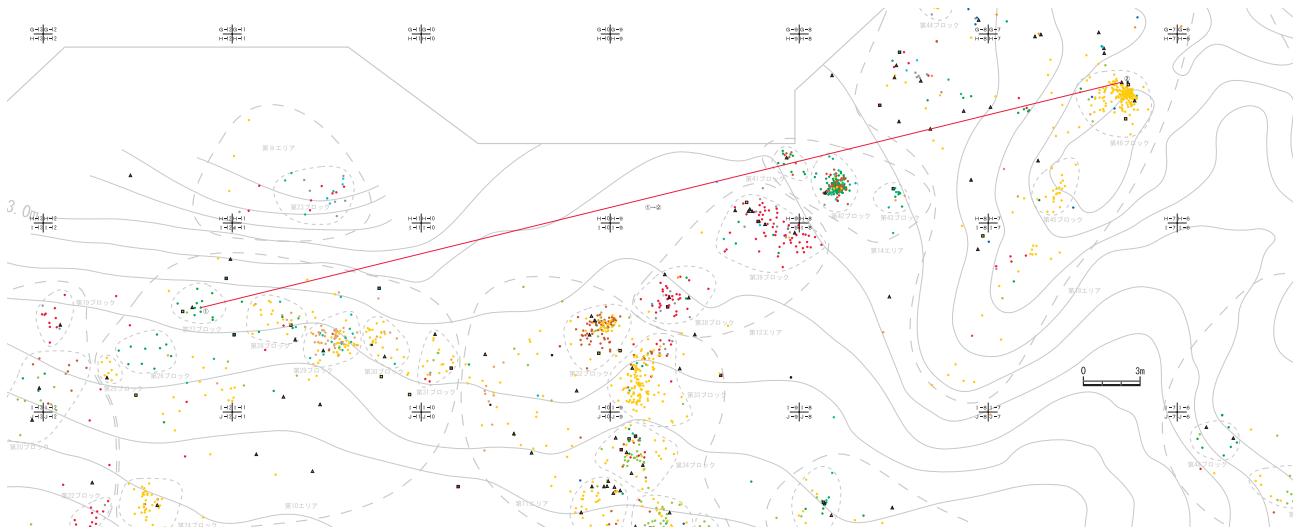
第266図 第I文化層接合資料No. 14実測図及び接合状況図



剥離順	取上No(グリッド/層位)	分類L2	図No
①	▲14872 (J-13/XVI)	剥片	168
②	▲11384 (I-12/XVII)	削器	227

接合資料No. 4 (第256図) [SH1A]
 折断された縦長剥片の接合資料である。同一打面からの連続した縦長剥片採取の際に得られた剥片と思われるが、背面

中心部からの加撃で折断されている。
 接合資料No. 5 (第257図) [SH]
 二側縁加工ナイフ形石器製作過程でのリダクションを示す



剥離順	取上No(グリッド/層位)	分類L2	図No
①	▲6961 (I-12/XVII)	剥片	190
②	▲19029 (H-7/XVI)	削器	397

第267図 第I文化層接合資料No.15実測図及び接合状況図

資料である。縦長剥片の側縁部の刃潰し加工段階で、節理に沿って破断したものと思われる。②は破断後、先端部に調整剥離を加え削器として再生している。

接合資料No. 6 (第258図) [SH1A]

槓状剥離状の剥片の接合資料である。剥片の下縁を打面にして連続剥離を行っているが、底面は偶発的な破断の可能性もある。どの剥片も剥離後の調整はみられない。

接合資料No. 7 (第259図) [SH1A]

円礫の平滑な礫面を打面にした石核の接合資料である。①は初期の段階の剥離による剥片であり、それ以降の剥片剥離作業を続けるうちに剥離が伸びなくなったため、廃棄されたと思われる。

接合資料No. 8 (第260図) [SH3B]

先行する剥片①と二次加工痕剥片②の接合資料である。平坦打面の石核から剥ぎ出された縦長剥片である。②の二次加工痕剥片は、ナイフ形石器あるいは剥片尖頭器を目指した二次加工痕が両側縁に残されているが、先端部の欠落で放棄したと思われる。

接合資料No. 9 (第261図) [SH1A]

切断された縦長剥片の接合資料である。背面に、打点を上下に移しながら連続して縦長剥片を得ていた痕跡を残す。切断面から、節理に圧力がかかった結果の破断と考えられる。

接合資料No. 10 (第262図) [OB2B]

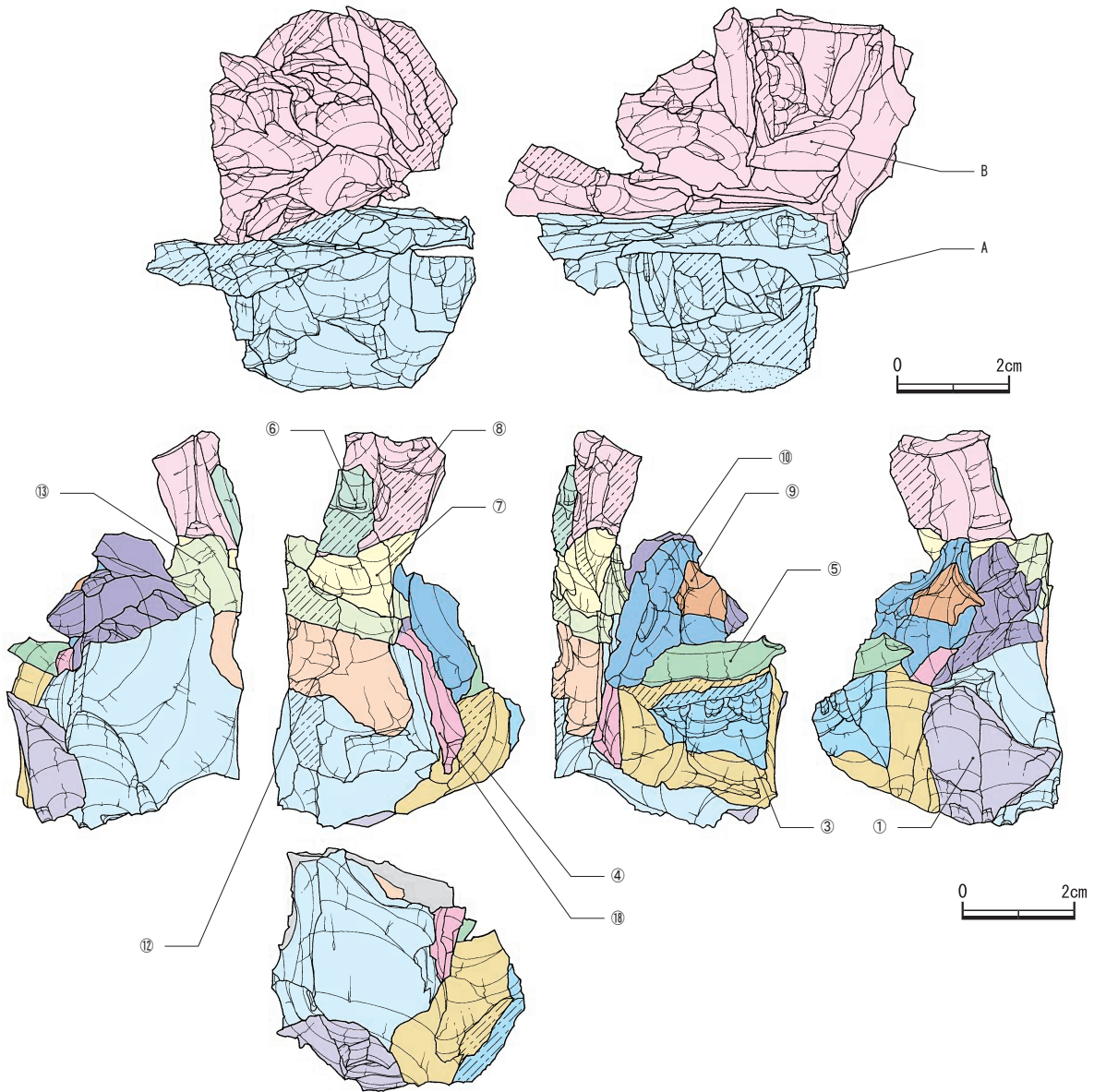
平坦な礫面を打面にした石核と剥片の接合資料である。素材は不純物を多く含む黒曜石である。①→(②+③)と連続剥離しているが、そのうち(②+③)は腹面からの圧力で折断されている。④は晶子のため剥離が伸びていない。その後も剥片剥離は行われているが、良好な剥片は得られなかったとみられる。

接合資料No. 11 (第263図) [OB2C]

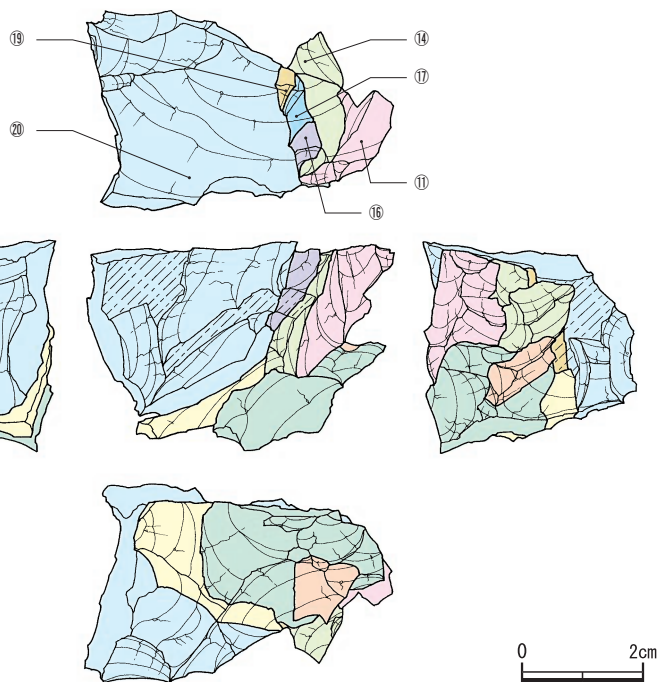
剥片素材の石核に剥片剥離を行った接合資料である。①は③の背面を打面として剥離されているのに対して②は腹面の下部を打面に剥離され、背面からの圧力で折断された部分である。折断が偶発的なものであるかは不明である。

接合資料No. 12 (第264図) [SH2B]

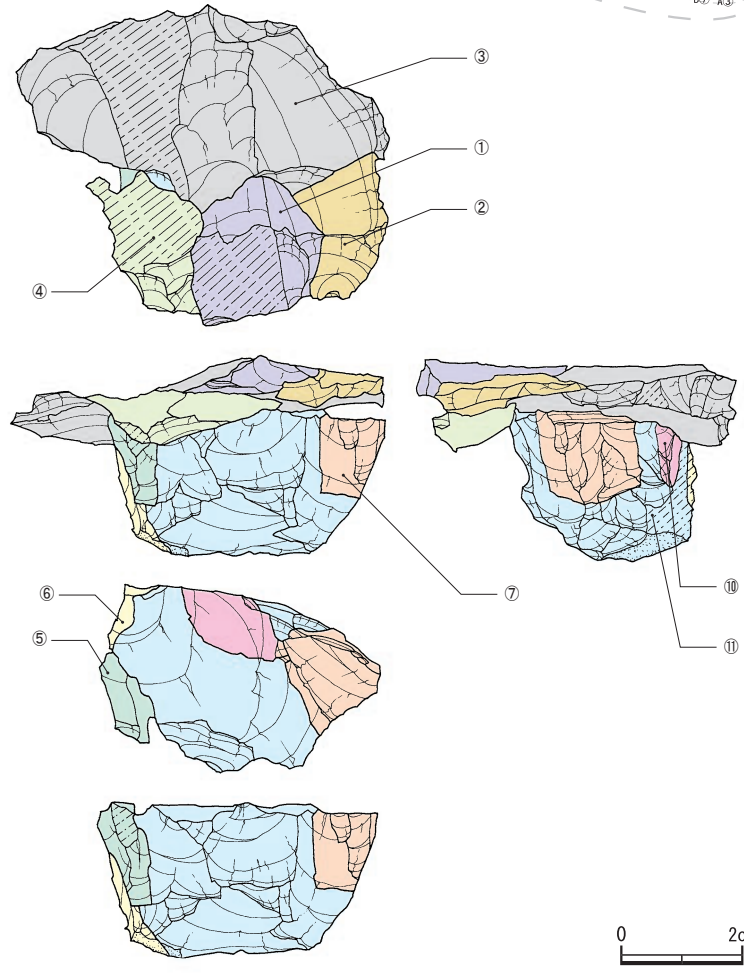
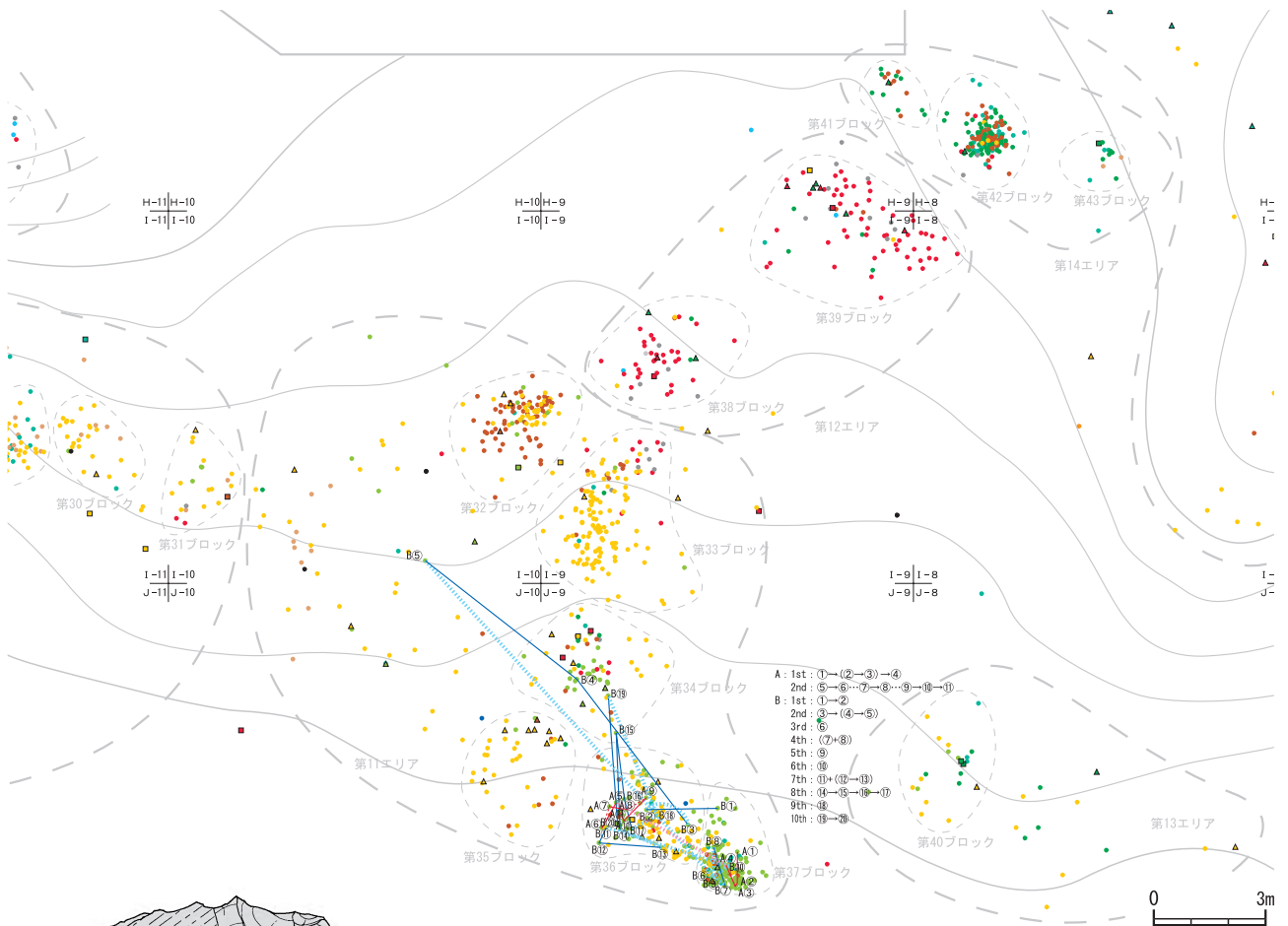
剥片素材の石核の平坦面を打面に①を剥離しているが、それ以前は、上方からの連続剥離が行われていたことが窺え



剥離順	取上No(グリッド/層位)	分類L2	図No
B①	▲15762 (J-9/XVII)	剥片	-
B②	▲18940 (J-9/XVII)	剥片	309
B③	▲18869 (J-9/XVII上)	剥片	-
B④	▲15738 (J-9/XVII)	剥片	-
B⑤	▲15571 (I-10/XVII)	剥片	314
B⑥	▲18667 (J-9/XVI)	剥片	-
B⑦	▲19064 (J-9/XVII)	剥片	-
B⑧	▲18838 (J-9/XVII)	剥片	-
B⑨	▲19067 (J-9/XVII)	剥片	-
B⑩	▲18644 (J-9/XVII)	剥片	-
B⑪	▲15845 (J-9/XVII)	剥片	-
B⑫	▲15778 (J-9/XVII)	剥片	-
B⑬	▲18649 (J-9/XVII)	剥片	-
B⑭	▲15882 (J-9/XVII)	剥片	-
B⑮	▲15714 (J-9/XVI下)	剥片	270
B⑯	▲15756 (J-9/XVII上)	剥片	-
B⑰	▲15768 (J-9/XVII)	剥片	-
B⑱	▲18690 (J-9/XVII)	剥片	-
B⑲	▲15709 (J-9/XVII)	剥片	-
B⑳	▲15770 (J-9/XVII)	石核	293

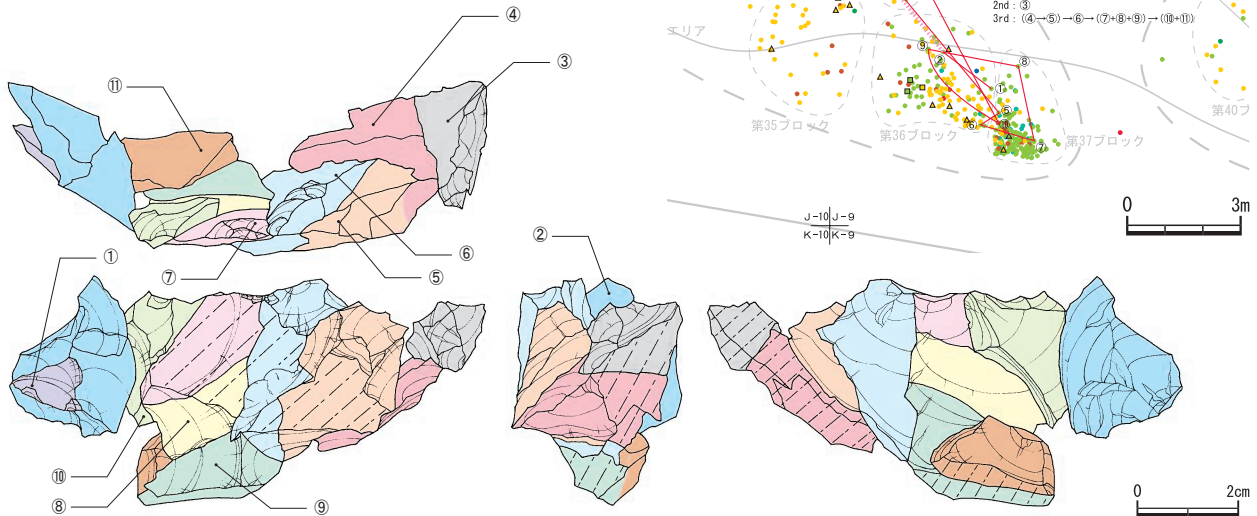
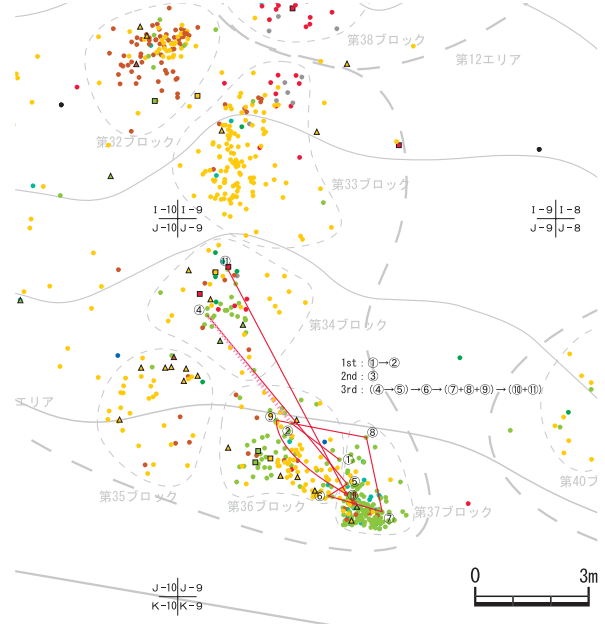


第268図 第I文化層接合資料No.16実測図及び接合状況図

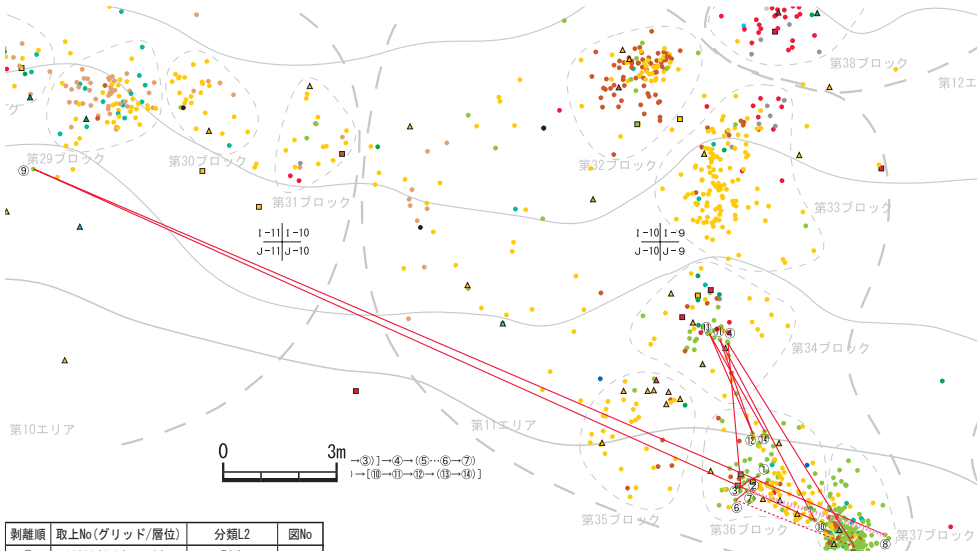


剥離順	取上No(グリッド/層位)	分類L2	図No
A①	▲18792 (J-9/XVII)	剥片	-
A②	▲18861 (J-9/XVII)	剥片	305
A③	▲18967 (J-9/XVII)	剥片	-
A④	▲18889 (J-9/XVII)	剥片	-
A⑤	▲15751 (J-9/XVII)	剥片	-
A⑥	▲15776 (J-9/XVI)	剥片	-
A⑦	▲15750 (J-9/XVII)	剥片	-
A⑧	▲15755 (J-9/XVII)	剥片	-
A⑨	▲15760 (J-9/XVII上)	剥片	-
A⑩	▲15769 (J-9/XVII)	剥片	-
A⑪	▲15831 (J-9/XVII上)	石核	292

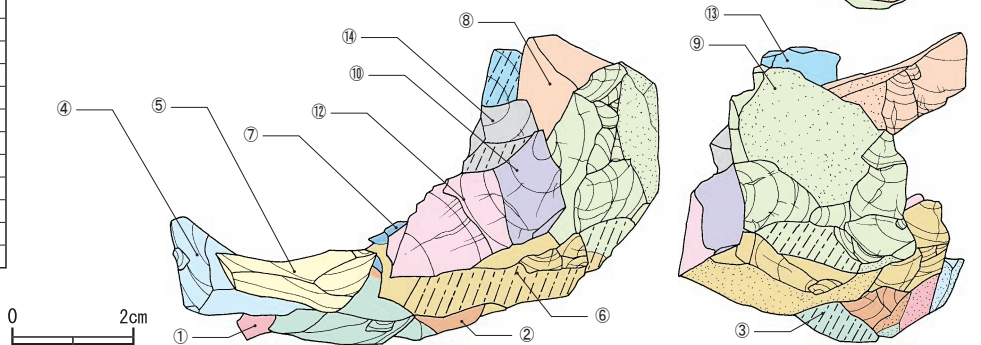
剥離順	取上No(グリッド/層位)	分類L2	図No
①	▲18676 (J-9/XVII)	剥片	-
②	▲18769 (J-9/XVII)	剥片	-
④	▲15737 (J-9/XVII)	剥片	-
⑤	▲18837 (J-9/XVII)	剥片	-
⑥	▲18939 (J-9/XVII)	剥片	-
⑦	▲18900 (J-9/XVII)	剥片	306
⑧	▲18803 (J-9/XVI)	剥片	310
⑨	▲15759 (J-9/XVI)	剥片	-
⑩	▲19073 (J-9/XVII)	剥片	-
⑪	▲15538 (J-9/XVII)	剥片	-



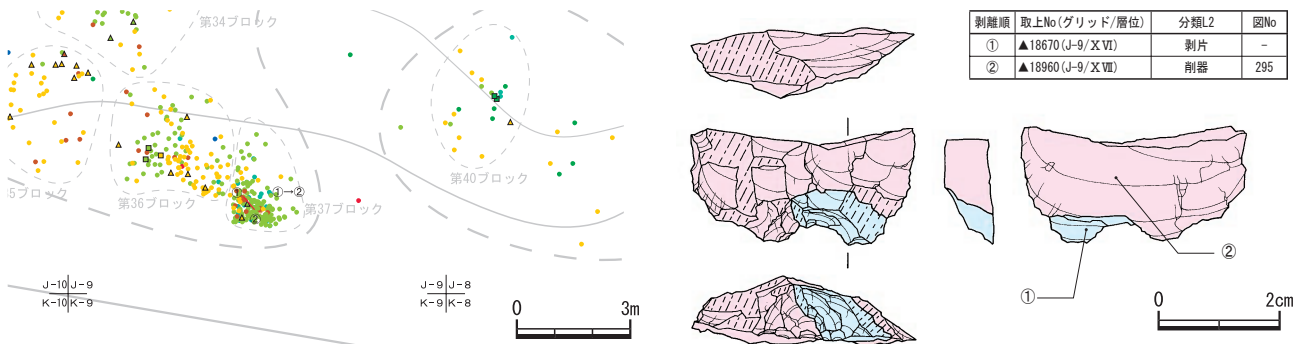
第269図 第I文化層接合資料No.17実測図及び接合状況図



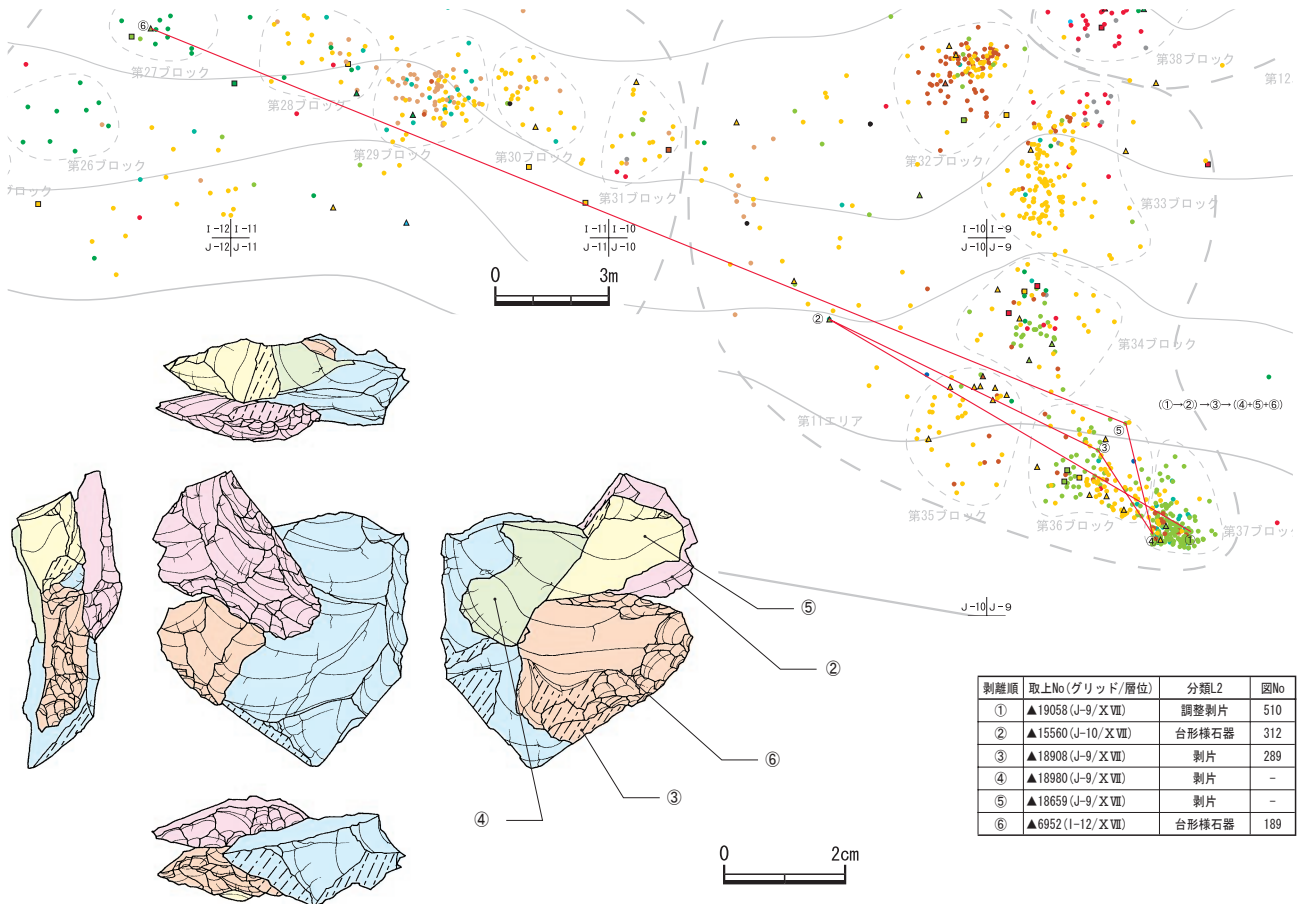
剥離順	取上No(グリッド/層位)	分類L2	図No
①	▲18209 (J-9/XVII上)	剥片	-
②	▲15767 (J-9/XVII)	剥片	-
③	▲15771 (J-9/XVII)	剥片	-
④	▲15710 (J-9/XVII)	剥片	-
⑤	▲19062 (J-9/XVII)	剥片	-
⑥	▲15775 (J-9/XVII)	剥片	-
⑦	▲15838 (J-9/XVII)	剥片	-
⑧	▲18906 (J-9/XVII上)	剥片	-
⑨	▲11390 (I-11/XVII)	剥片	231
⑩	▲18777 (J-9/XVII)	剥片	-
⑪	▲15729 (J-9/XVII)	剥片	-
⑫	▲15721 (J-9/XVII)	剥片	-
⑬	▲15705 (J-9/XVII)	剥片	-
⑭	▲15717 (J-9/XVII)	剥片	-



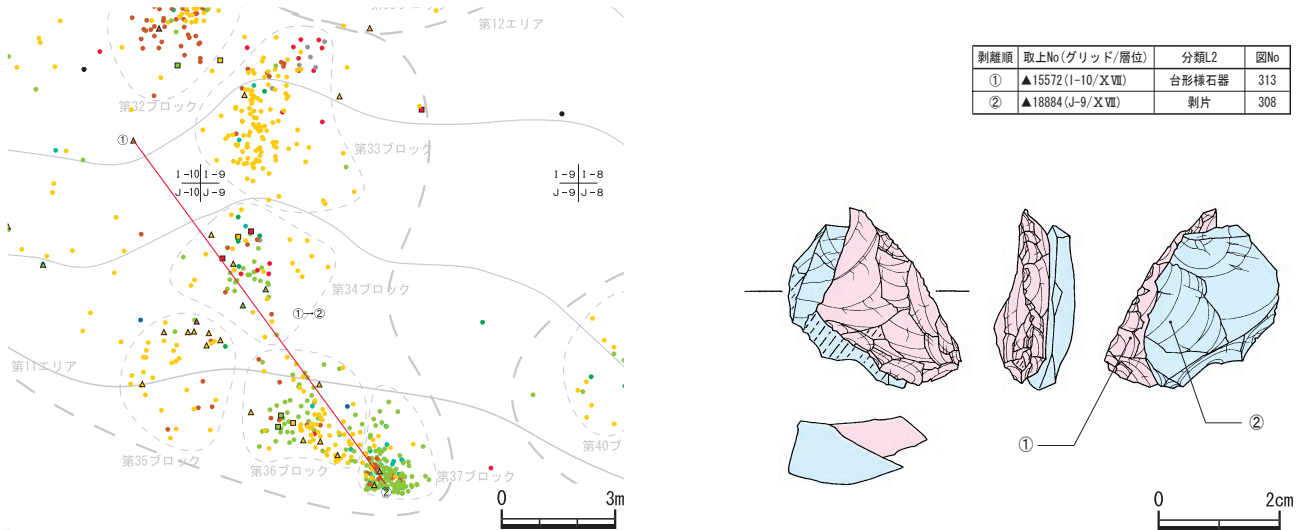
第270図 第I文化層接合資料No.18実測図及び接合状況図



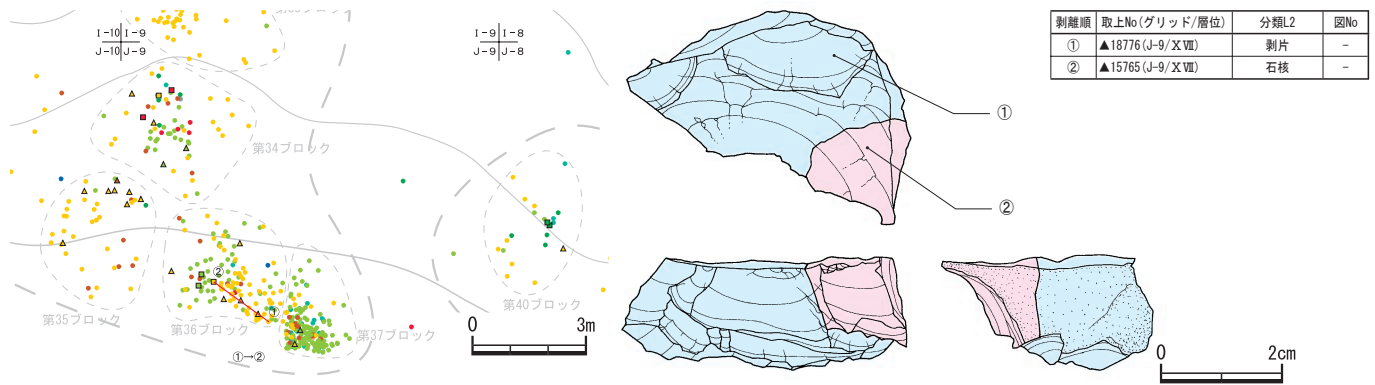
第271図 第I文化層接合資料No. 19実測図及び接合状況図



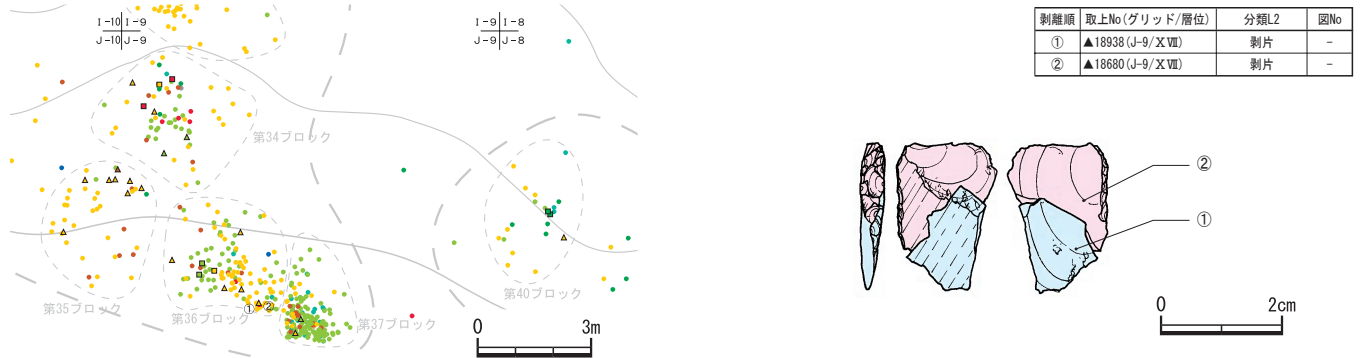
第272図 第I文化層接合資料No. 20実測図及び接合状況図



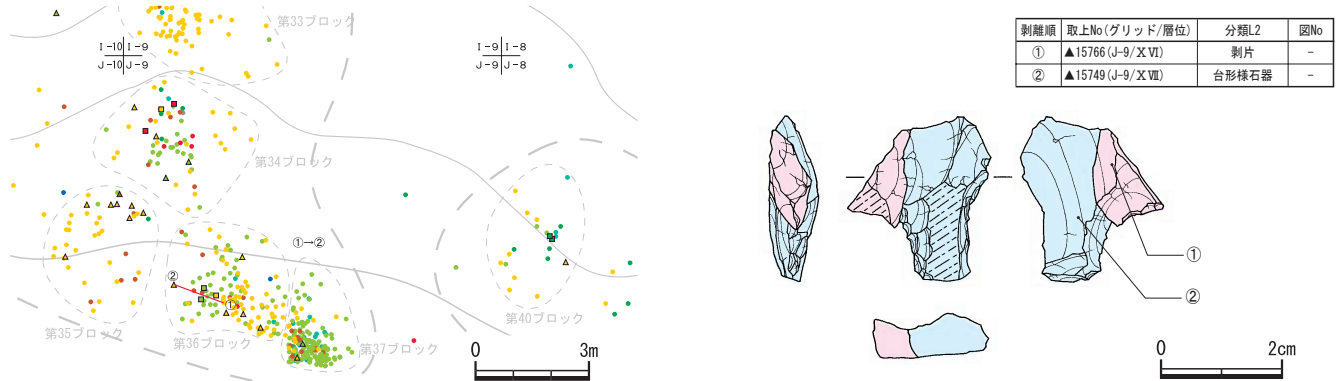
第273図 第I文化層接合資料No. 21実測図及び接合状況図



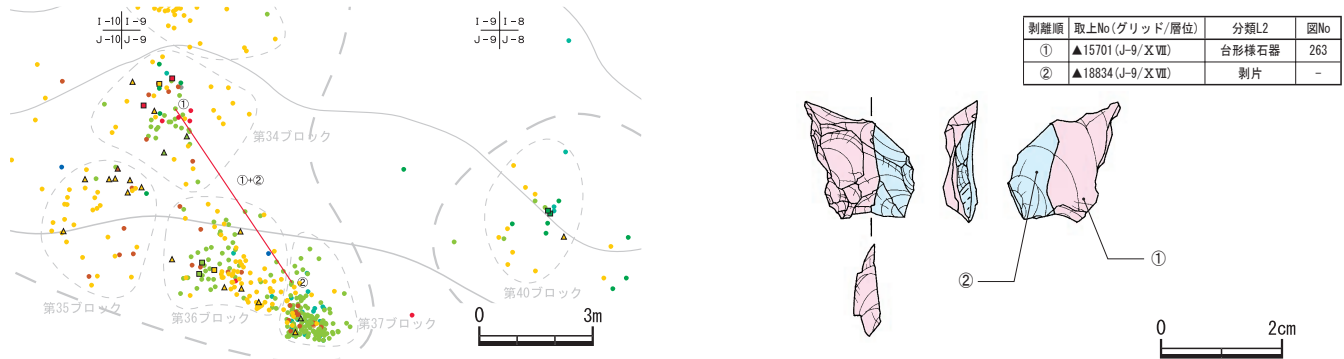
第274図 第I文化層接合資料No. 22実測図及び接合状況図



第275図 第I文化層接合資料No. 23実測図及び接合状況図



第276図 第I文化層接合資料No. 24実測図及び接合状況図



第277図 第I文化層接合資料No. 25実測図及び接合状況図

る。①は作業面再生剥片の可能性もあるが、それ以後の剥片剥離は行われていない。

接合資料No. 13(第265図) [SH1C]

打面転移を繰り返した石核の接合資料である。①・②の作業面を打面に移して③を剥離している。剥片はほぼ同じ形状で先行の剥離痕もそれに等しいことから、横広不定形剥片獲

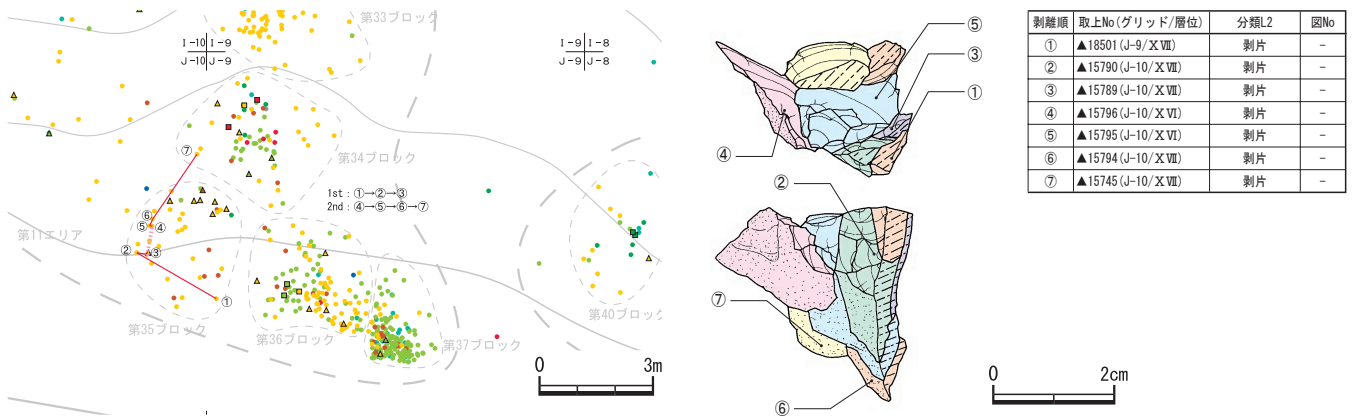
得を目的とした一連の剥片剥離作業の過程といえる。

接合資料No. 14(第266図) [SH1A]

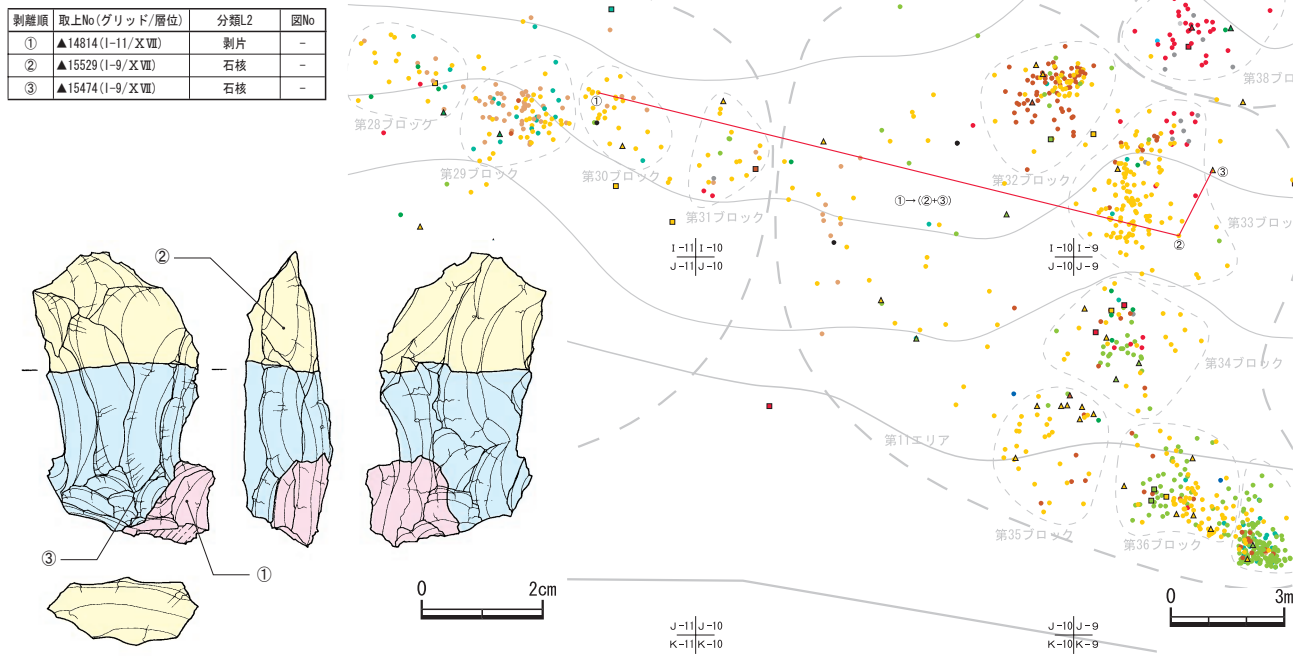
削器②と先行する剥片①の接合資料である。

接合資料No. 15(第267図) [SH1C]

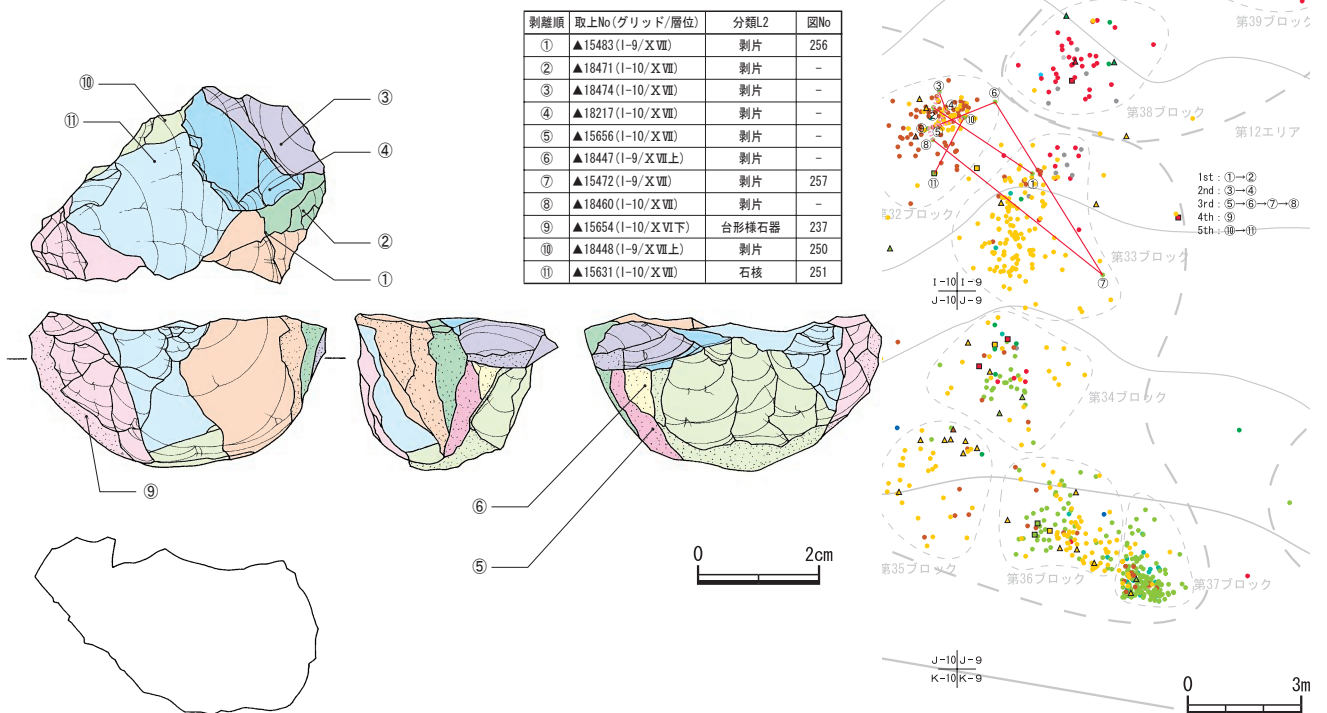
削器と剥片の接合資料である。2点は、①が先行した剥離で②が後続する。②の打面は平坦面で石核素材の分割面とみ



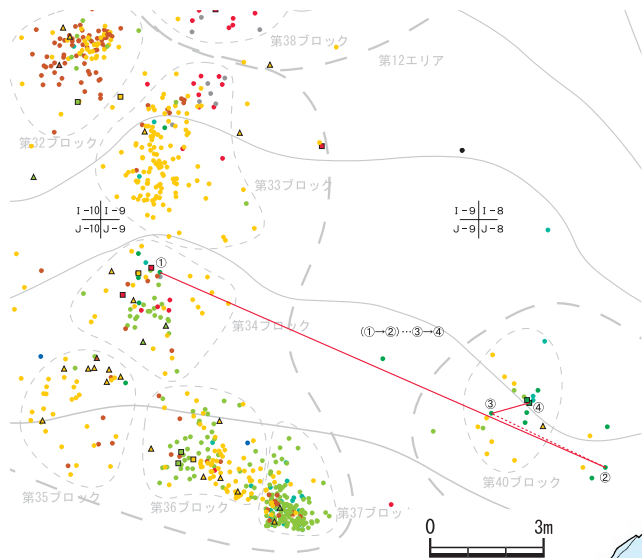
第278図 第I文化層接合資料No. 26実測図及び接合状況図



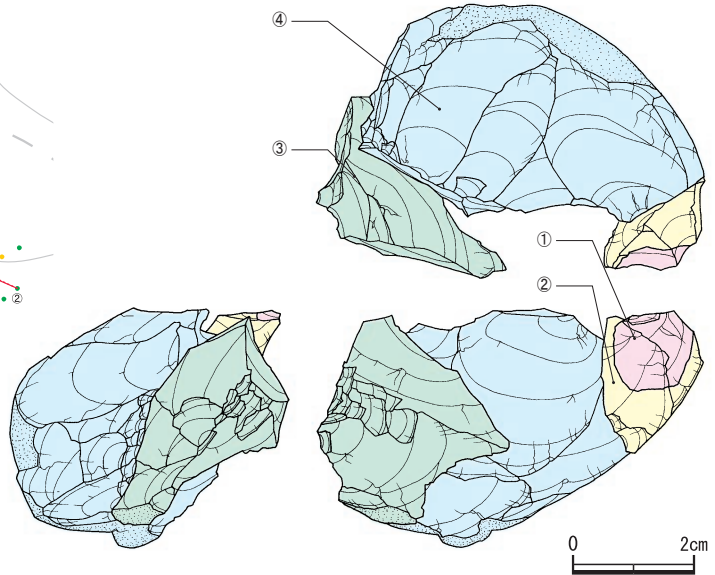
第279図 第I文化層接合資料No. 27実測図及び接合状況図



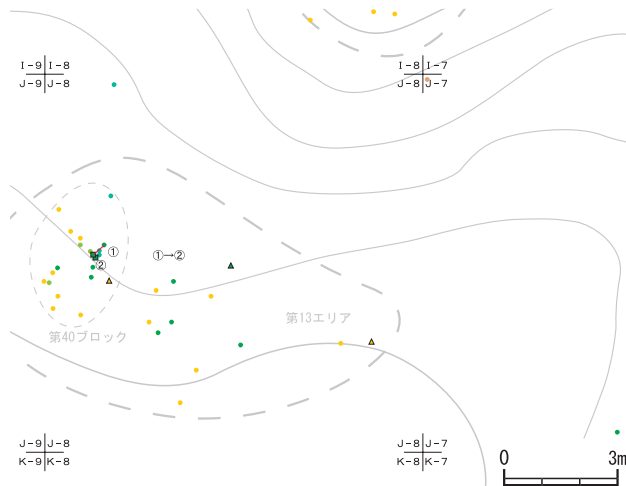
第280図 第I文化層接合資料No. 28実測図及び接合状況図



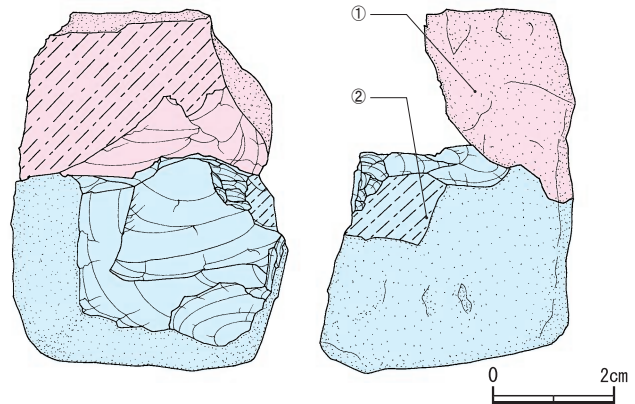
剥離順	取上No(グリッド/層位)	分類L2	図No
①	▲15693 (J-9/XVII上)	剥片	266
②	▲19235 (J-8/XVII)	剥片	358
③	▲18909 (J-8/XVII)	剥片	352
④	▲18920 (J-8/XVI下)	石核	355



第281図 第I文化層接合資料No. 29実測図及び接合状況図



剥離順	取上No(グリッド/層位)	分類L2	図No
①	▲16959 (J-8/XVII)	剥片	-
②	▲18919 (J-8/XVII)	石核	356



第282図 第I文化層接合資料No. 30実測図及び接合状況図

られるが、①の場面では打面調整を行った痕跡がある。②は剥離後下縁を中心に調整剥離がなされている。また①は先の剥離以前に横広剥片採取の痕跡を残す。

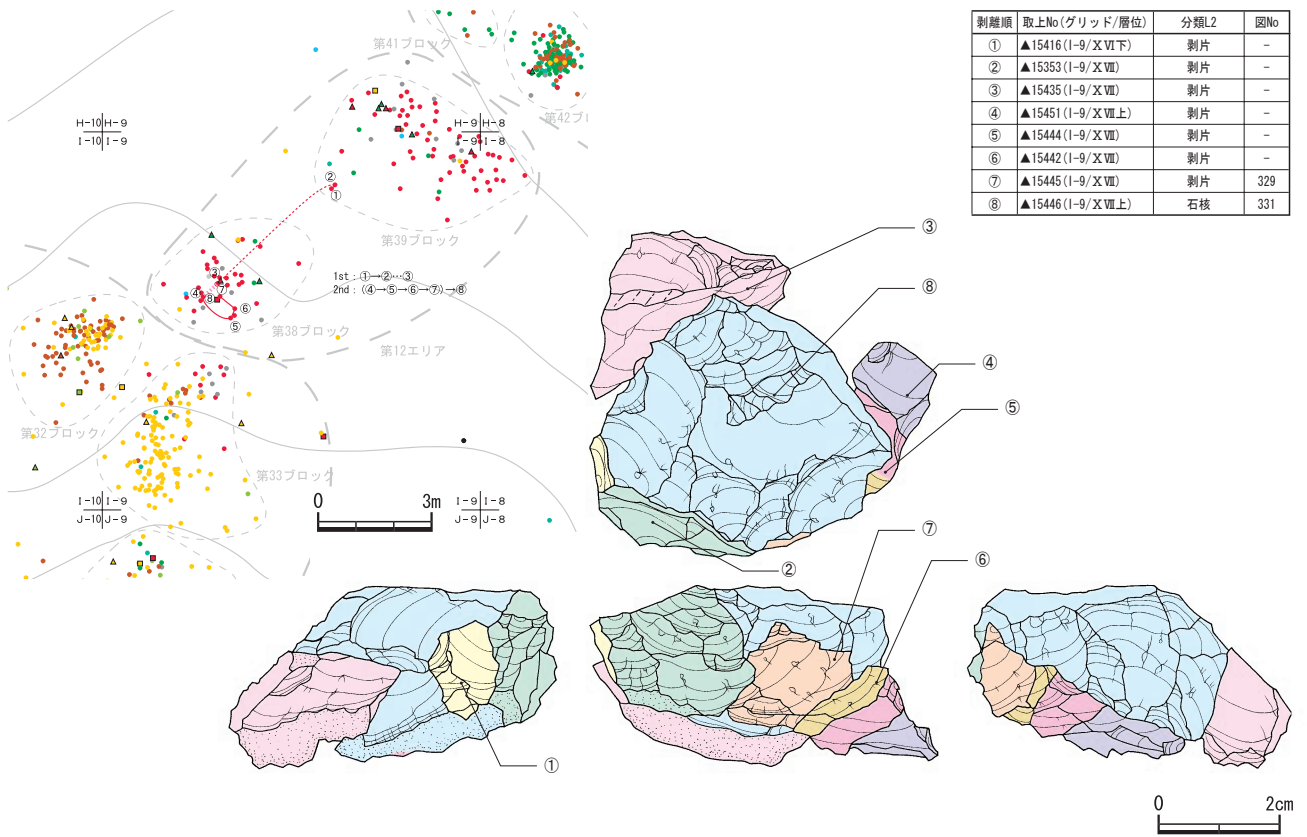
接合資料No. 16(第268図) [SH2A]

2点の石核の接合資料で、節理によりAとBに分割される。分割したAとBは独自の剥片剥離を展開することになる。Aは節理に沿って打面転移と連続剥離を繰り返している。①から④にかけては、節理に沿って正面手前から奥への剥離により、薄い縦長剥片を得たと思われる。そのうち③は背面からの加撃で折断されている。⑤以降は節理面を打面にして打面の周縁部の剥片剥離を続けた結果、⑪は丈の短い円柱状石核として残されている。最終段階の剥片は階段状剥離が多いが、小型の台形様石器を目的とした剥片剥離だったと思われる。⑪は同一打面からの数回の剥離の後、廃棄されて

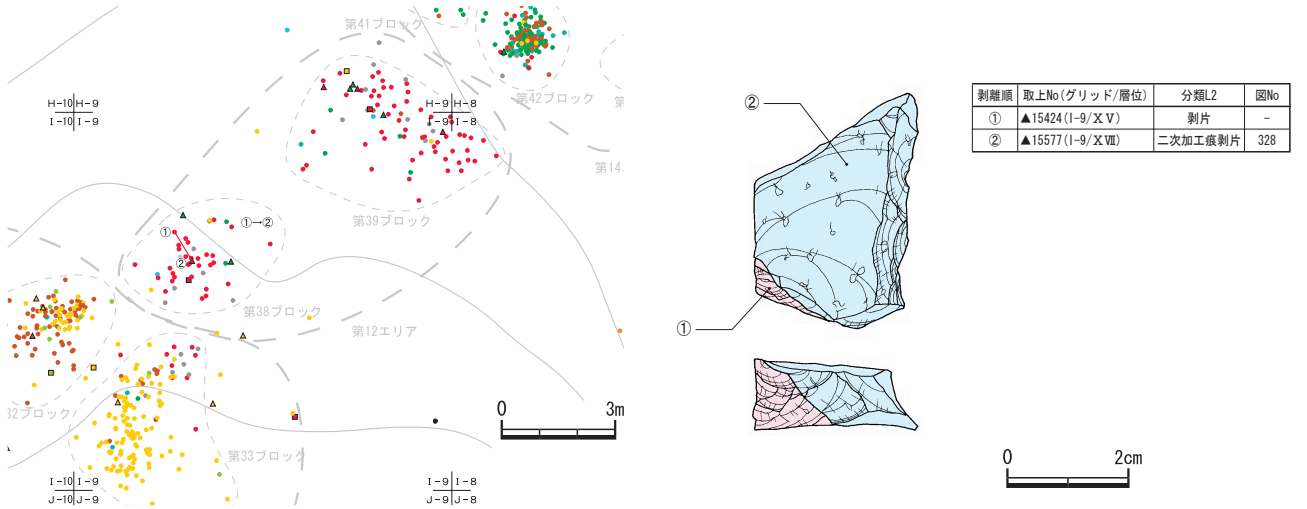
いる。Bは①～⑩で正面と左右両側面を作業面とし、打面を主に上下に移しながら剥片剥離を続けた接合資料である。初期段階がやや大型を目的とした剥片獲得に対して、⑪以降は小型化して行く。はじめに右側面を作業面として裏面または下面からの剥離を行い、次に、左側面を作業面として打面を展開しながら剥片剥離を行っている。その後、正面を作業面とした剥離が行われている。剥離後調整された剥片は折断されたものが多い。なお実測後に3点が接合している。

接合資料No. 17(第269図) [SH2A]

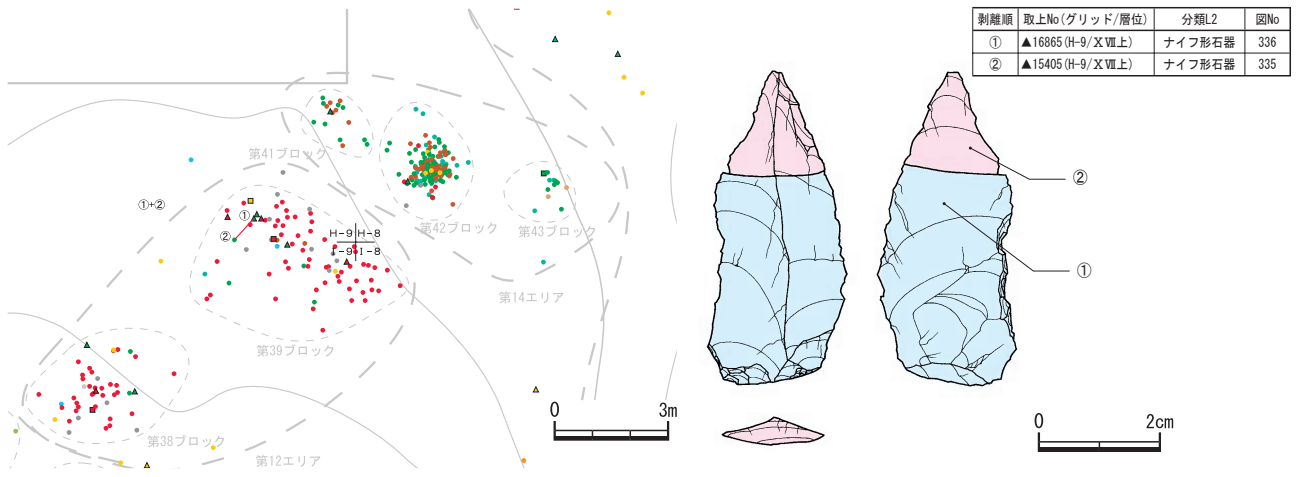
連続剥離がみられる接合資料である。素材は節理に富み、剥離の際に節理面で脱落する等、全体として良好な剥片は得られていない。一旦①→②を、左側面を打面にして剥離した後、打面を正面に移して一括を剥離している。その後打面を上面に移して④以降を連続的に剥離している。



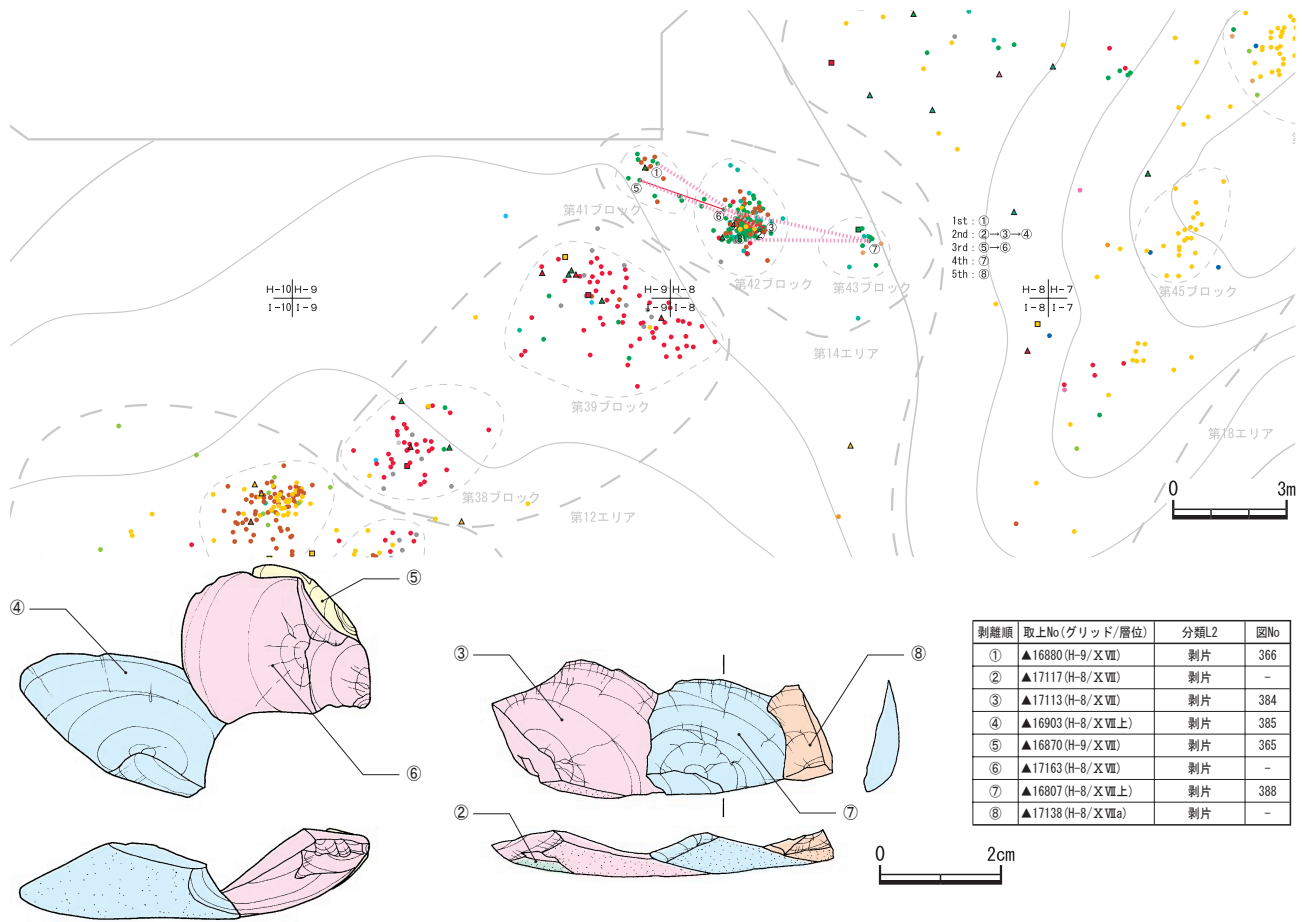
第283図 第I文化層接合資料No. 31実測図及び接合状況図



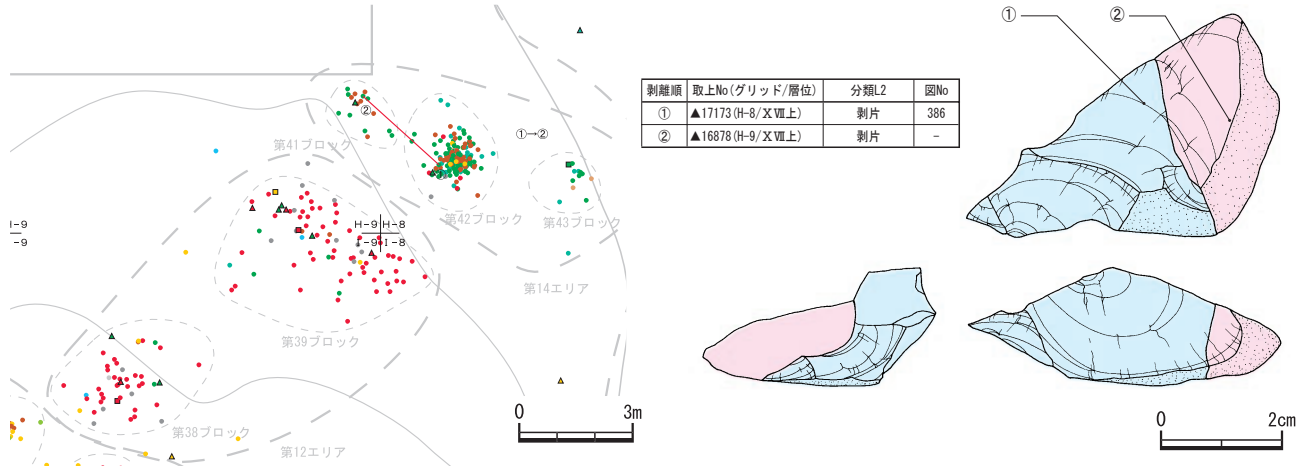
第284図 第I文化層接合資料No. 32実測図及び接合状況図



第285図 第I文化層接合資料No. 33実測図及び接合状況図



第286図 第I文化層接合資料No. 34実測図及び接合状況図



第287図 第I文化層接合資料No. 35実測図及び接合状況図

接合資料No. 18(第270図) [SH2A]

節理を利用するため、打面を転回しながら連続剥離を行ったと思われる接合資料である。まず、左側面を打面に[①+(②→③)]を節理に沿って剥離し、得られた縦長剥片を折断して石器製作に利用したものと思われる。次に、⑧→⑨を半割し、⑧→⑨では節理面を打面に、横長剥片を得ている。一方、[⑩→⑪→⑫→(⑬→⑭)]は打面を移しながら、剥片剥離作業を続けている。

接合資料No. 19(第271図) [SH2A]

削器と剥片との接合資料である。素材は節理面に富む頁岩である。①の剥離後、さらに剥離を重ねて挿入状の刃部を形

成している。

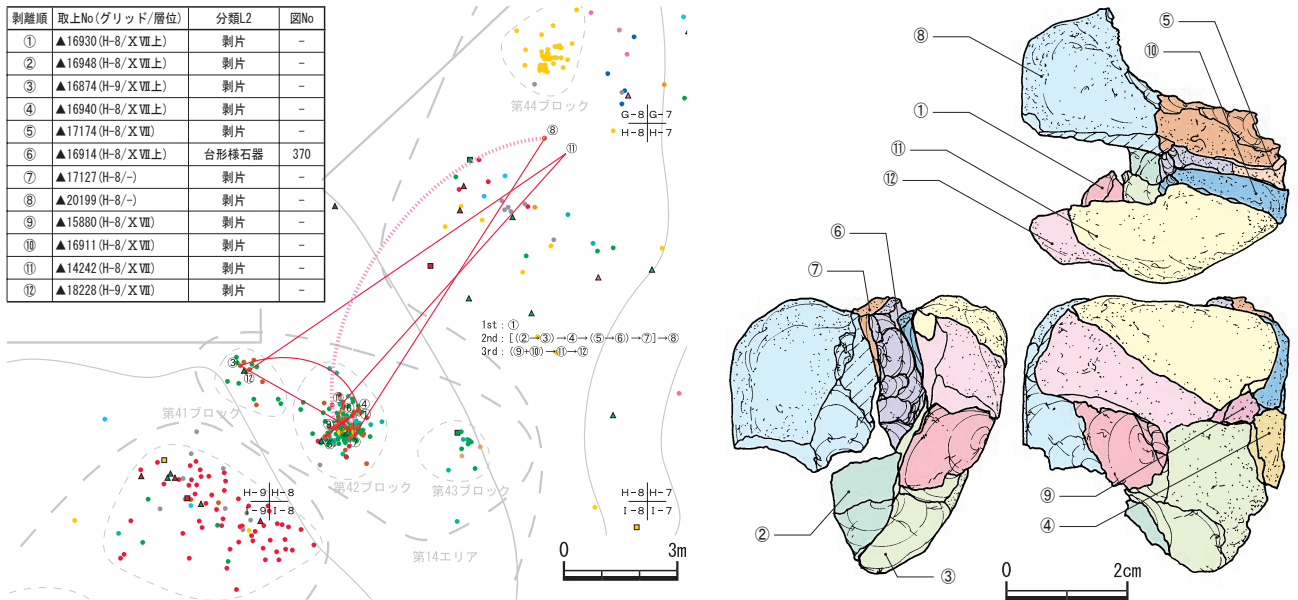
接合資料No. 20(第272図) [SH2A]

台形様石器と剥片の接合資料で、台形様石器2点を含んでいる。単一打面から3回剥離を行い、そのうちの②と⑥の2点から台形様石器を製作している。②は剥片の頭部を節理面で折断したうえで、台形様石器に調整しているが、その際に①(実測後に接合したブランティングチップ)を剥離している。(④+⑤+⑥)は背面からの加撃で破断されたとみられる。

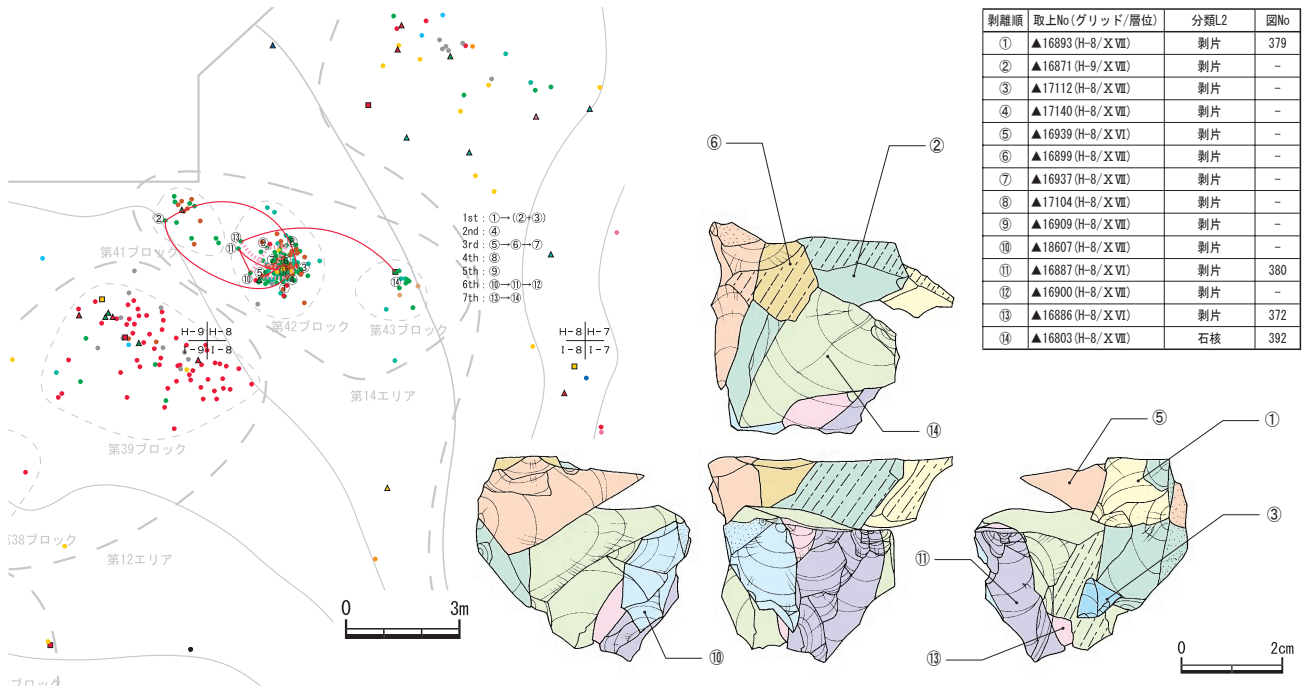
接合資料No. 21(第273図) [SH2A]

台形様石器と剥片の接合資料である。②は左側面からの圧力により節理面で分割されている。No. 21は接合資料No. 16～

剥離順	取上No(グリッド/層位)	分類L2	図No
①	▲16930(H-8/XVII上)	剥片	-
②	▲16948(H-8/XVII上)	剥片	-
③	▲16874(H-9/XVII上)	剥片	-
④	▲16940(H-8/XVII上)	剥片	-
⑤	▲17174(H-8/XVII)	剥片	-
⑥	▲16914(H-8/XVII上)	台形様石器	370
⑦	▲17127(H-8/-)	剥片	-
⑧	▲20199(H-8/-)	剥片	-
⑨	▲15880(H-8/XVII)	剥片	-
⑩	▲16911(H-8/XVII)	剥片	-
⑪	▲14242(H-8/XVII)	剥片	-
⑫	▲18228(H-9/XVII)	剥片	-



第288図 第I文化層接合資料No. 36実測図及び接合状況図



第289図 第I文化層接合資料No. 37実測図及び接合状況図

20・15と同一石材による資料であり、同一母岩の可能性もある。

接合資料No. 22(第274図) [CC1A]

石核の同一打面から連続して剥離した様子がみられる接合資料である。少なくとも同一打面から3回の剥離がみられ、その最後の剥離が①である。石核調整剥片とみられるが、その後同一打面からの剥離はみられない。

接合資料No. 23(第275図) [CC1A]

台形様石器を目的に側縁部の調整を行っていたところ、偶発的に破断した接合資料である。素材は連続剥離された不定形の横広剥片である。

接合資料No. 24(第276図) [CC1A]

台形様石器の調整の過程を示す接合資料である。②は右側縁の打瘤部分を挟り気味に調整し、下部に自然面あるいは節

理面を基部として、左側縁に調整剥離が施されている。①は調整剥離の途中で脱落したものと思われる。

接合資料No. 25(第277図) [SH2A]

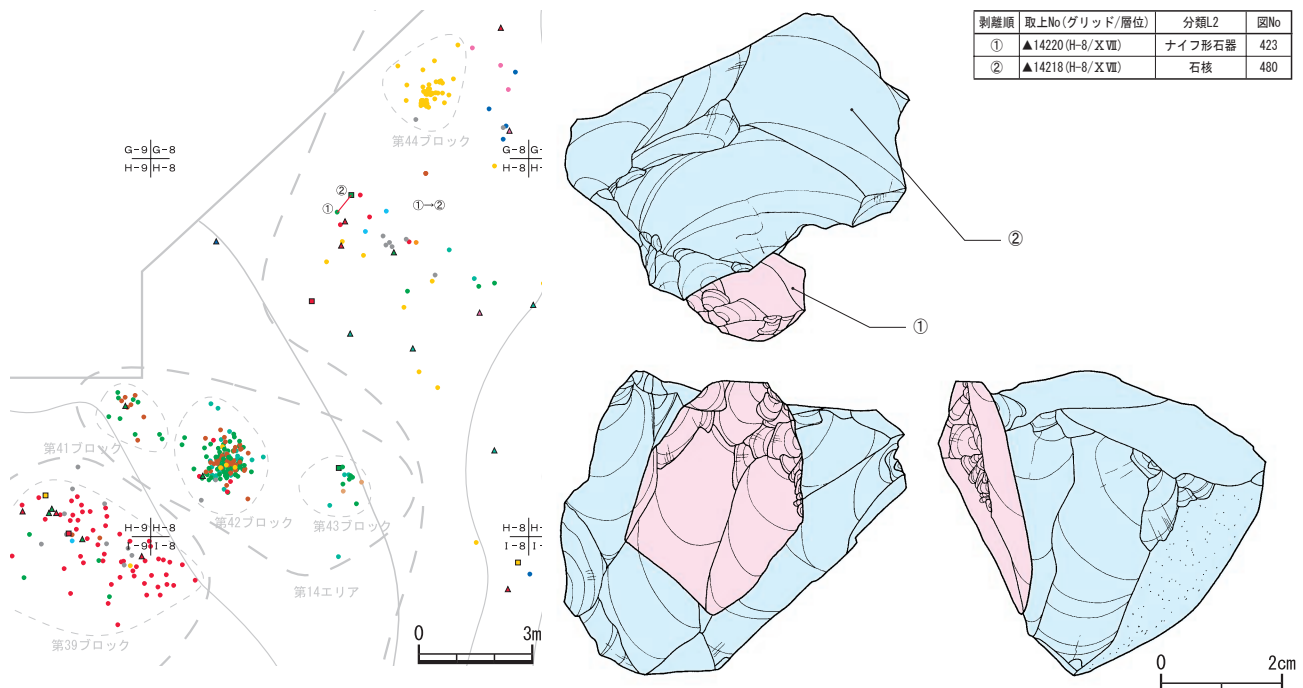
台形様石器の整形段階で、偶発的に破断したものと思われる接合資料である。剥片を横位に利用して台形様石器を製作するにあたり、基部の調整する際に節理によって破断したものとみられる。

接合資料No. 26(第278図) [CC1A]

折断剥片を含む接合資料である。石核素材は自然面を残す分割碟で、分割面を打面に①から剥離が始められている。③と④の間では打面再生が行われている。また⑥と⑦は折断されているが、意図的であるかは明確ではない。

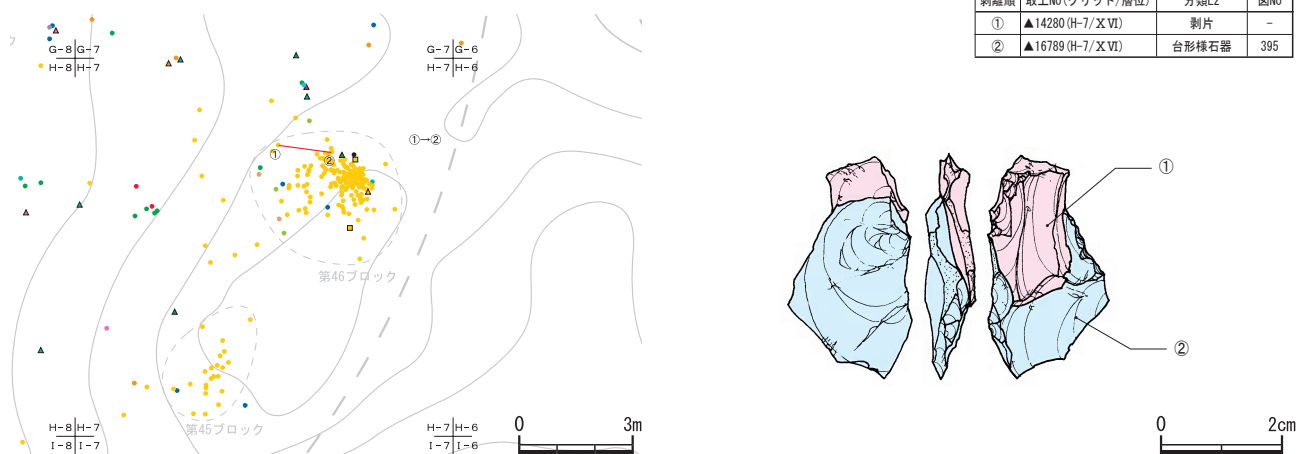
接合資料No. 27(第279図) [CC]

石核と剥片の接合資料である。流理の多い玉随の剥片素材



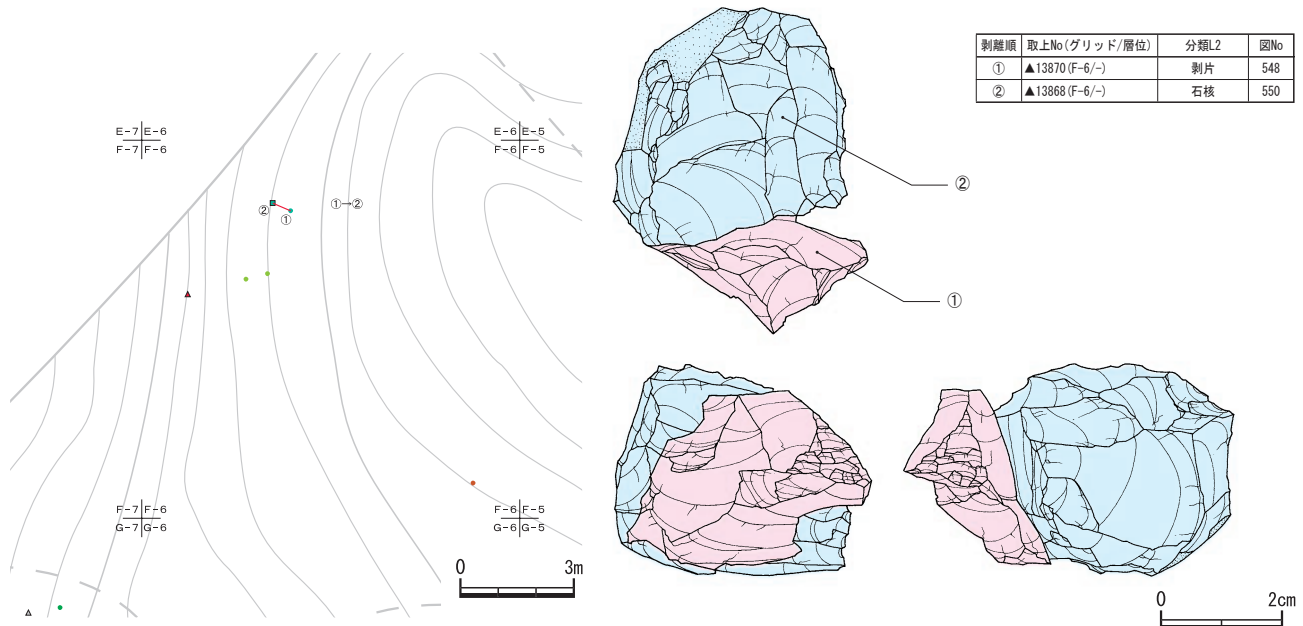
剥離順	取上No(グリッド/層位)	分類L2	図No
①	▲14220 (H-8/XVII)	ナイフ形石器	423
②	▲14218 (H-8/XVII)	石核	480

第290図 第I文化層接合資料No. 38実測図及び接合状況図



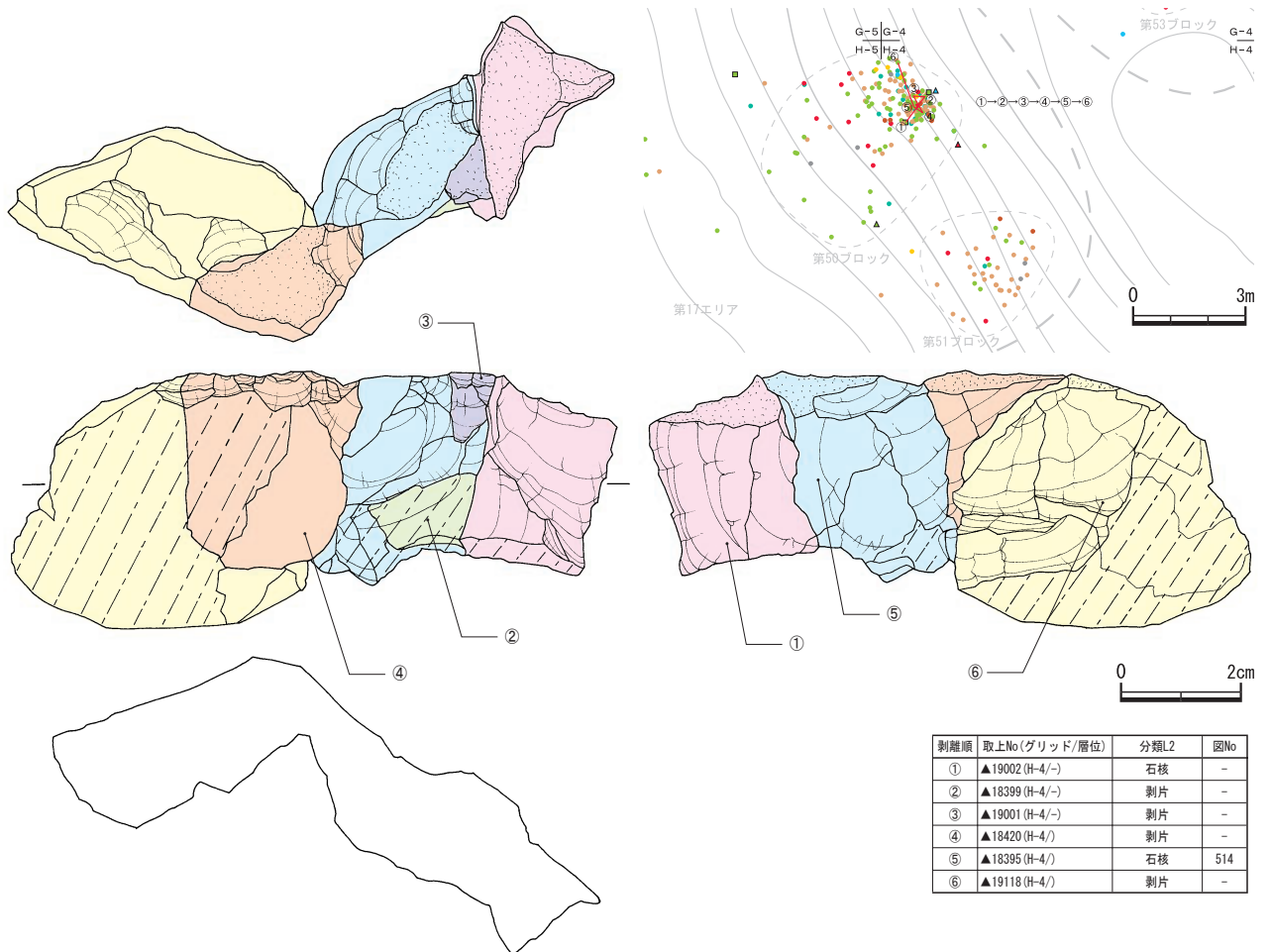
剥離順	取上No(グリッド/層位)	分類L2	図No
①	▲14280 (H-7/XVI)	剥片	-
②	▲16789 (H-7/XVI)	台形稜石器	395

第291図 第I文化層接合資料No. 39実測図及び接合状況図

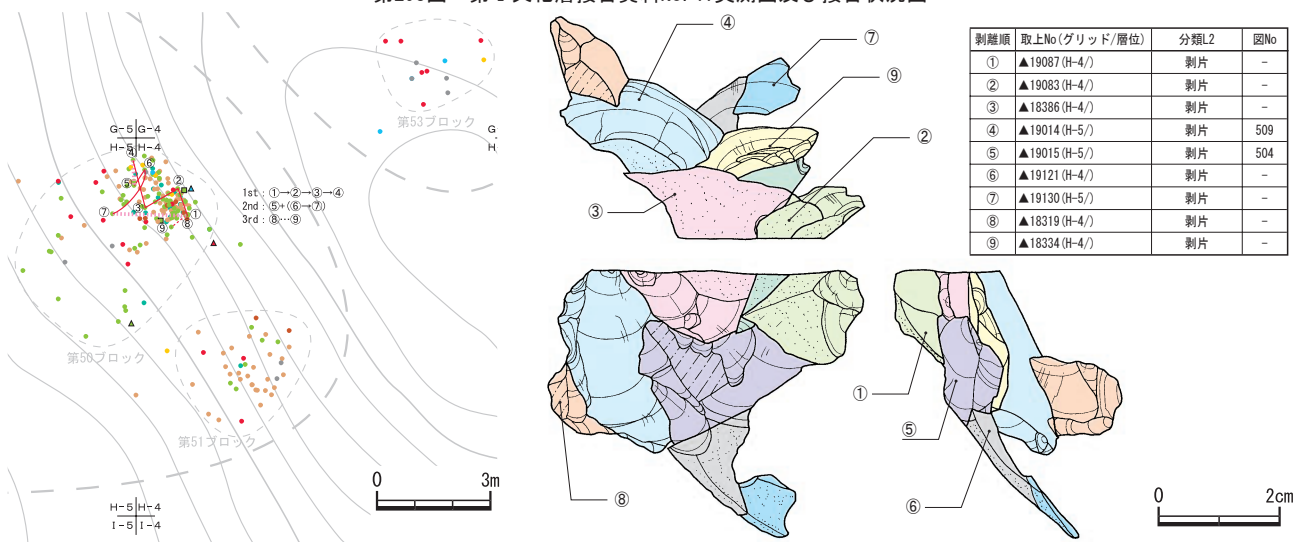


剥離順	取上No(グリッド/層位)	分類L2	図No
①	▲13870 (F-6/-)	剥片	548
②	▲13868 (F-6/-)	石核	550

第292図 第I文化層接合資料No. 40実測図及び接合状況図



第293図 第I文化層接合資料No. 41実測図及び接合状況図



第294図 第I文化層接合資料No. 42実測図及び接合状況図

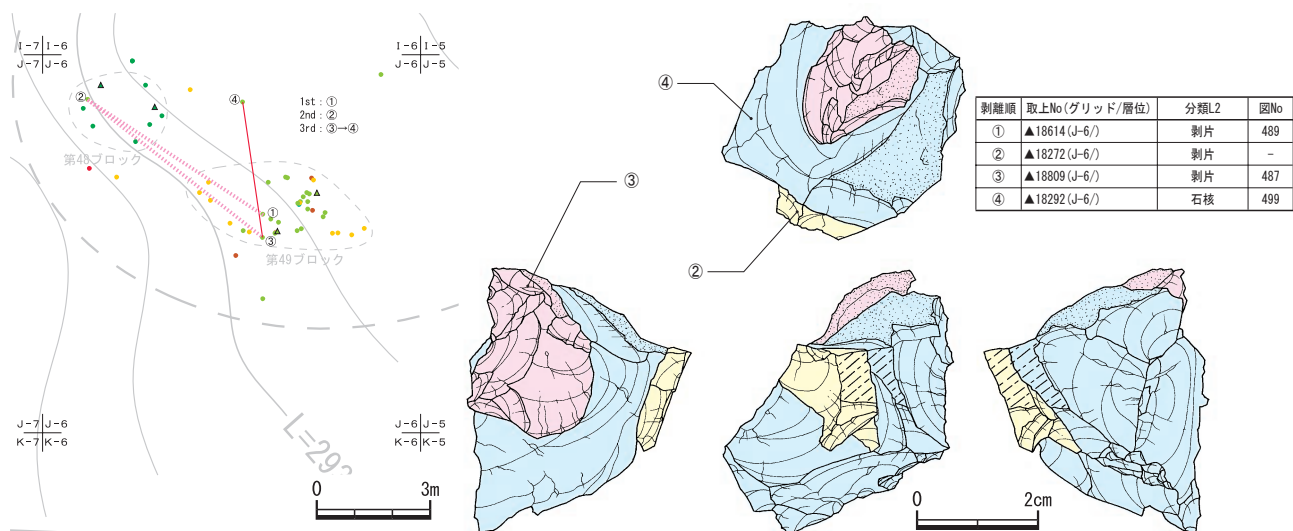
の石核の周縁を剥離していたところ、偶発的に破断したものと思われる。

接合資料No. 28(第280図) [SH2]

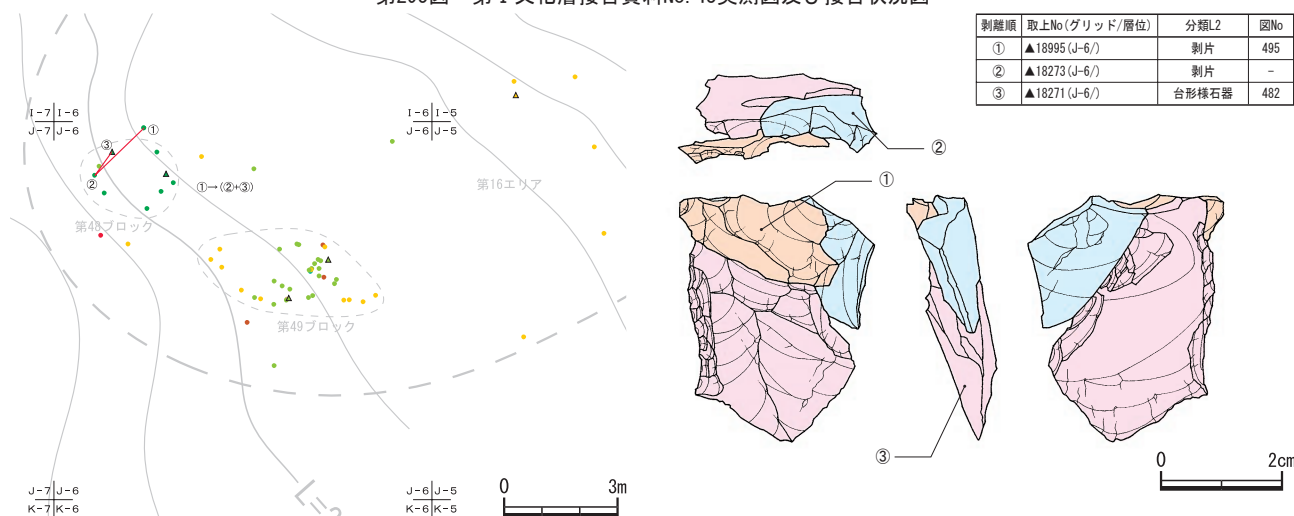
半割された円礫の分割面を打面にして、剥片剥離を続けた接合資料である。礫面の残る作業面から①・②を剥離し、その後、③・④を剥離しているが、この剥離は打面調整剥離と見られ、⑤等の剥離が継続する。

接合資料No. 29(第281図) [SH1A]

打面転移を繰り返しながら不定形剥片を採取した石核の接合資料である。礫面を残した円礫を素材に、①から③までは連続して同一打面からの剥離がみられる。なお、③は打面再生剥片と判断できそうである。その後は、稜線打面に沿って交互剥離が進行している。残された剥離面からは、不定形の横広剥片を獲得していたと見られる。



第295図 第I文化層接合資料No. 43実測図及び接合状況図



第296図 第I文化層接合資料No. 44実測図及び接合状況図

接合資料No. 30(第282図) [SH1B]

自然礫を二分割し、その分割面を剥離作業面として利用した石核2点の接合資料である。2点は複数の打面転移を行いながらそれぞれ横長剥片を得ているが、節理等の影響をうけ、良好な剥片を量産できないまま数力所を打面に試行した後、廃棄されている。

接合資料No. 31(第283図) [OB2A]

打面転移しながら剥片剥離を行った接合資料である。素材は晶子に富む黒曜石で底面に自然面を残す。基本的に打面は平坦に調整された上面を利用し、作業面は打面を軸にしたときの周縁で、右回りに打点をずらしながら剥離が行われている。ただ(④→⑤→⑥→⑦)のほかに数回打面を側縁部に設定し、右方向からの左にむけて行った剥離や、底面を打面にした痕跡がみられる。③はどの段階で剥離されたかは不明だが、大きさから作業面再生剥片の可能性はある。

接合資料No. 32(第284図) [OB2A]

二次加工痕剥片と剥片との接合資料である。素材は不純物に富む黒曜石である。①は、②の周縁の調整中に剥離されたものである。

接合資料No. 33(第285図) [SH1A]

縦長剥片素材のナイフ形石器の接合資料である。破断した時期については明らかではない。

接合資料No. 34(第286図) [SH1A]

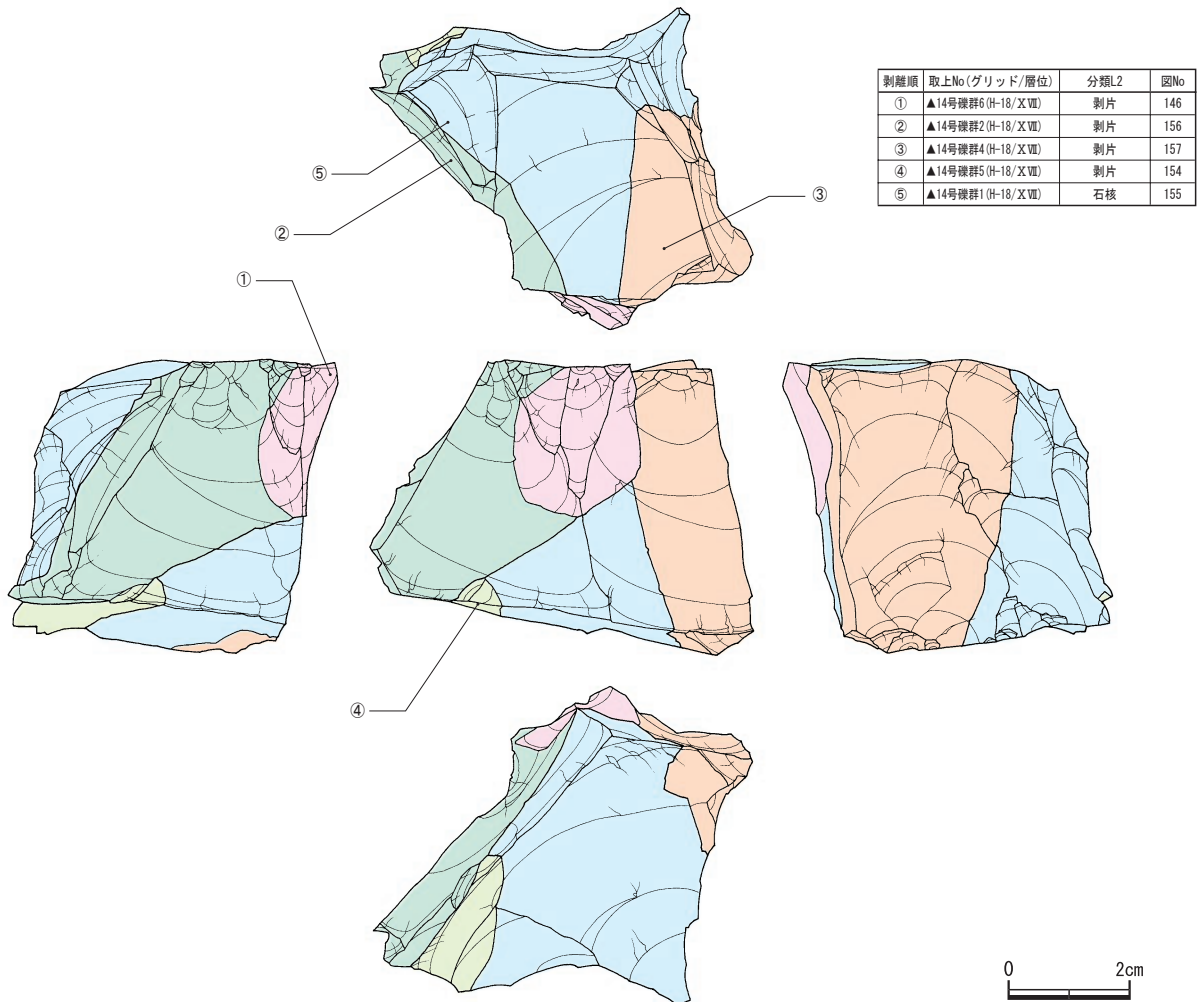
円礫を分割し、その分割面を打面にして剥離を行った接合資料である。図の2点の資料は実測後に接合した。①(実測後に接合)の剥離面を打面にして円礫の先端部を分割し、その分割面を利用して②以降の剥片剥離を行っている。各剥片は礫皮面を持ち、未調整であるため、接合状況から石核調整の際の剥片とも考えられるが、ほぼ同一の形状から、目的剥片の可能性もある。

接合資料No. 35(第287図) [SH1A]

礫面を残す石核(①+②)から、横広剥片を継続的に剥離している時点で、偶発的に石核が破断したとみられる。従って、石核の破断品の接合資料と判断する。

接合資料No. 36(第288図) [CH3]

節理に富むチャートが素材の接合資料である。①は先行して分割された剥片素材の石核からの剥片とも考えられる。その後主に右側縁の自然面を打面に剥離が続けられるが、そのうち②と⑥は腹面中央部からの加撃で折断されている。台形



第297図 第I文化層接合資料No. 45実測図

様石器目的剥片採取のための一連の作業かとみられるが、⑧の直前の剥離は粗さが目立つ。その後打面を移して剥離が行われ、そのうち⑨と⑩は打点から2分割されている。⑪と⑫は破断した可能性もある。

接合資料No. 37(第289図) [SH1A]

打面再生を行った石核の接合資料である。節理を打面にして①以降の連続剥離を行っているが良好な剥片は得られなかったとみられる。そこで(②+③)が脱落したあとの節理面を打面にして剥片剥離を行い、その剥離面を打面にして再度剥片剥離を行っている。また⑫を剥離後、石核の下面を打面にして⑬を剥離している。なお実測後に5点が接合している。

接合資料No. 38(第290図) [SH1A]

石核と基部加工ナイフ形石器の接合資料である。円礫を分割したと思われ、分割面を打面として、剥片剥離を開始し、打点位置を変えながら連続して剥離を行っている。上面からの剥片が縦長剥片を指向した傾向は窺えるのに対して、打面転移による側縁や下縁を打面とした剥離は横広の不定形剥片が取り出されている。①以降も縦長剥片の剥離や打面転移による剥片剥離作業が続けられている。

接合資料No. 39(第291図) [CC1A]

先行する剥片①と台形様石器②の接合資料である。2点共礫打面の石核から剥離された横広の不定形剥片である。

接合資料No. 40(第292図) [SH]

分割礫素材の石核②と打面形成の目的で剥ぎ出した剥片①の接合資料である。礫を分割した後、更に①を大きく剥ぎ取り、②の打面とする工程を経ている。②の剥離作業は、打面と正面作業で行われ、打面転移を適宜繰り返していたと思われる。

接合資料No. 41(第293図) [SH2B]

礫面を打面に分割された剥片の接合資料で、素材は角礫の下面を粗く分割して得た板状の石核である。剥片の背面には下方を打面にして剥離した痕跡のみみられるが、残存する剥片は全て同一打面を利用している。

接合資料No. 42(第294図) [SH2B]

礫面を取り除きながら剥離作業を進めたと思われる接合資料である。平坦な礫面を打面にして①以降の連続剥離を行っているが、節理のために良好な剥片は得られていない。⑤と⑥は節理で分割されているが、⑥と⑦は右側縁からの加撃で剥離されている。

接合資料No. 43(第295図) [SH2A]

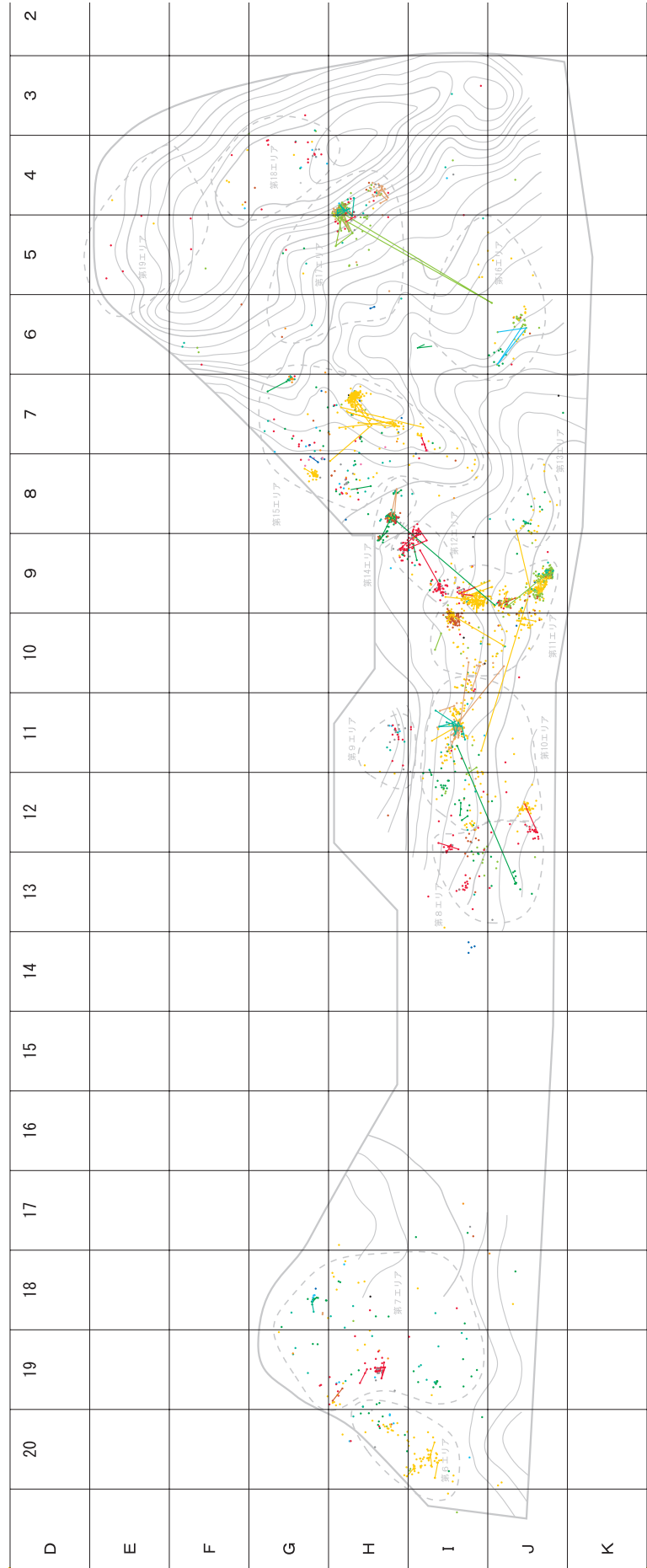
石核と剥片の接合資料である。②は剥離後に腹面からの圧力で折断されている。③は左側縁からの加撃で剥離されたとと思われるが、節理が大部分を占めるため剥離方向は明確ではない。①は実測後に接合した。

接合資料No. 44(第296図) [SH1A]

台形様石器と整形剥片の接合資料である。①に対して(②+③)は打点をやや右に移して剥離されている。その後、②は③の左側縁の調整剥片として、打面からやや左にずらした方向からの加撃により、除去されている。

接合資料No. 45(第297図) [SH1]

剥片と石核の接合資料である。もともとは大型の石核であったと思われるが、打面転移を繰り返して利用した結果、上下に大きな剥離による平坦面を持ち、①・②は上面を③…④・⑤は下面を打面にして剥片剥離を行っていることが窺えるが、④獲得後に廃棄されたものと思われる。



第298図 第I文化層非実測接合遺物接合状況図

第V章 ナイフ形石器第II文化層の調査

第1節 概要

ナイフ形石器文化期第II文化層は、桐木耳取遺跡のXⅢ層に該当する。XⅢ層は黄色軽石混ざりの褐色土で、特に耳取遺跡で安定した層堆積を成している。XⅢ層中の黄色軽石は、科学分析の結果、燃島に由来するテフラに同定される(付編参照)。

この文化層からは、3基の礫群と大量の石器等が検出された。礫群は桐木遺跡で1基、耳取遺跡で2基検出したのみで遺物量に対して非常に少ない。耳取遺跡では、第I文化層と同じ場所を利用しているが、桐木遺跡では南側の谷に面して礫群を成し、第I文化層とは異なる場所を利用している。

第2節 遺構(礫群)

1 桐木遺跡

1号礫群

1号礫群は、さ-38区で検出された。長軸105cm×短軸70cmの範囲の中に約30個の小礫で構成されている。礫はほとんど破碎しており、2個に被熱した痕跡が見受けられる。炭化物については確認できていないが、同色の褐色土のため検出できなかった可能性もある。

2 耳取遺跡

2号礫群

2号礫群はH・I-19区(第3節2、第5エリア)で検出された。長軸46cm×短軸43cmで、礫7個で構成されている。礫は拳大の大きさで、全て輝石安山岩を利用している。礫群に伴う掘り込み遺構は無く、炭化物は確認できなかった。また、礫も被熱した痕跡は認められなかった。

礫の大きさを揃え、並べて置いたという印象の礫群である。この位置は、台形石器の製作に関連すると考えられる環状ブロックの中に相当する。環状ブロックの東半分は調査区外の私有地に伸びていると推測され、礫群の存在も予想される。礫群分類では、ⅢA類とした。

3号礫群

3号礫群はH-5区で検出された。長軸175cm×短軸75cmで、礫31個で構成されている。約7割が輝石安山岩で、約2割が砂岩、1割が粘板岩である。その内、約16パーセントが被熱していた。礫群に伴う掘り込み遺構は無く、炭化物は中心部と思われる付近に2mm程度のものが微量に確認できたが、その出土状況を図示するには至らなかった。礫群分類ではⅢA類とした。

第3節 遺物

1 石器群の概要

ナイフ形石器第II文化層は、第XⅢ層を遺物包含層とする石器群で、耳取遺跡を中心に検出され、大きく3ユニットで把握することができる。

特に、耳取遺跡のH~J-17~21区の間では、遺物が環状に検出され、第3エリアから第7エリアに区分して把握することとした。第3エリアは環状分布の南端に相当し、I・J-20・21区に分布する。第4エリアはI-19・20区、第5エリアが環状分布の頂部に相当し、H・I-18~20区に分布する。第7エリアは環状の北端に相当し、I・J-18・19区、第6エリアは第5エリアと第7エリアに挟まれたI-18区に分布する。

この環状を構成するエリアからは、台形石器や石核・素材剥片等が大量に出土し、台形石器の製作址と認定できる。

次に、H・I-7・8区に15~16mの距離に連なる第11エリア、そのやや北方向に位置する第12エリア、さらに、I・J-4・5区に第13・14エリアが分布する。

第11エリアでは、頁岩を主体とした台形石器の製作が確認され、第12エリアでは大量の小型ナイフ形石器が集中的に出土している。また、第13エリアからはナイフ形石器、第14エリアからはナイフ形石器や台形石器が出土しているが、具体的にエリアの性格を特徴付けるだけの資料に乏しい。

なお、エリア認定や石材の分類基準については、第I文化層に準じた。

2 石器

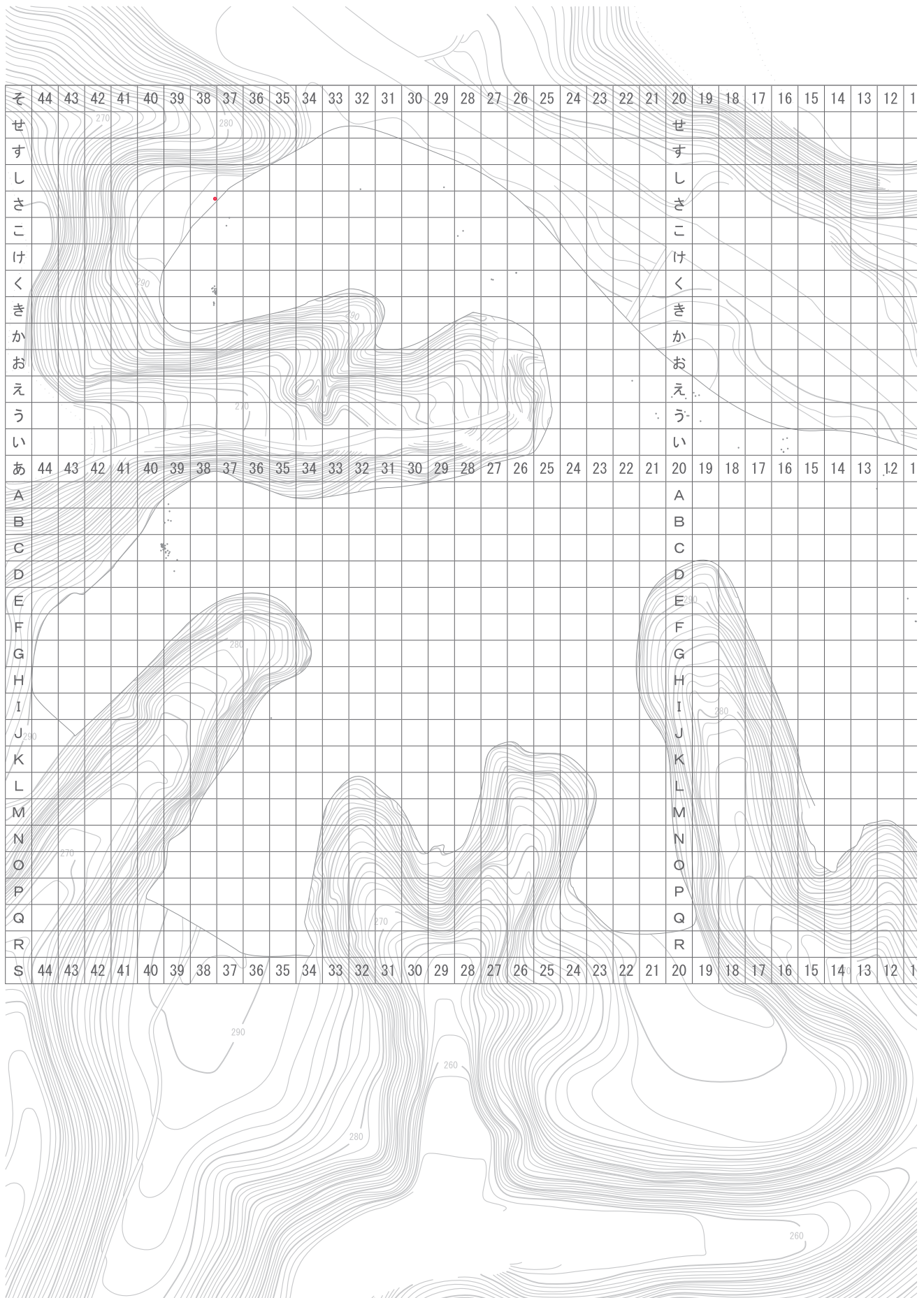
第3エリア

環状ブロックの南端に相当するエリアで、第3~第7ブロックの計5ブロックで構成され、黒曜石Ⅲ類が石材の主体を占める。第3ブロックは黒曜石Ⅲ類のみ、第4ブロックは黒曜石Ⅲ類に黒曜石Ⅱ類、第5ブロックからは黒曜石Ⅱ類に加えチャートが加わる。

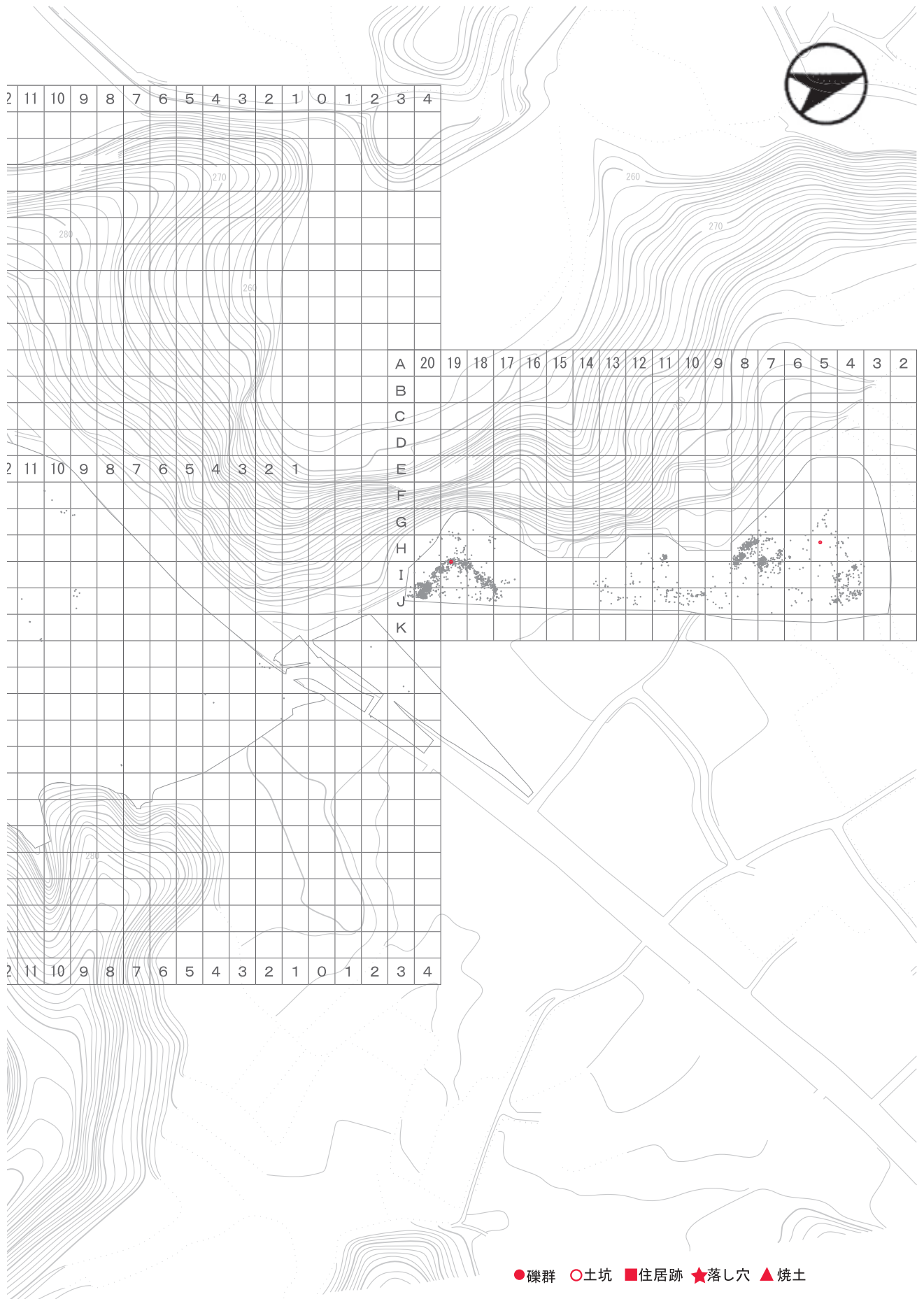
このエリアでは台形石器の製作が確認され、第3ブロックで4点、第5ブロックで11点、第6ブロックで4点、第7ブロックで28点、ブロック外で7点の計54点が確認できる。また、多数の石核、素材剥片さらに2点のハンマーも抽出できる。その他、台形石器以外では、21の小型ナイフ形石器1点と若干の二次加工剥片がみられる。

台形石器は不定形の小型剥片を素材に、剥片を横位に用い、打面が石器の側縁部に設定されている。1や2・26等の刃部は丸刃を、25や28等では直線状の刃部を、3や91は弯曲した刃部を持つが、素材剥片の形状に左右された結果とみられ、素材の形状をそのまま活かした石器製作技術と評価できる。なお、252のような斜刃は少ないようである。また、素材の形状をそのまま活かしているものに、24・28・31・93・104・116・133等が見出せる。

1は両側縁と基部(底面)の3面に刃潰し加工を施している



第299図 第II文化層全体図 (1/2000)



サ-39|サ-38
シ-39|シ-38

サ-38|サ-37
シ-38|シ-37

サ-37|サ-36
シ-37|シ-36

シ-39|シ-38
サ-39|サ-38

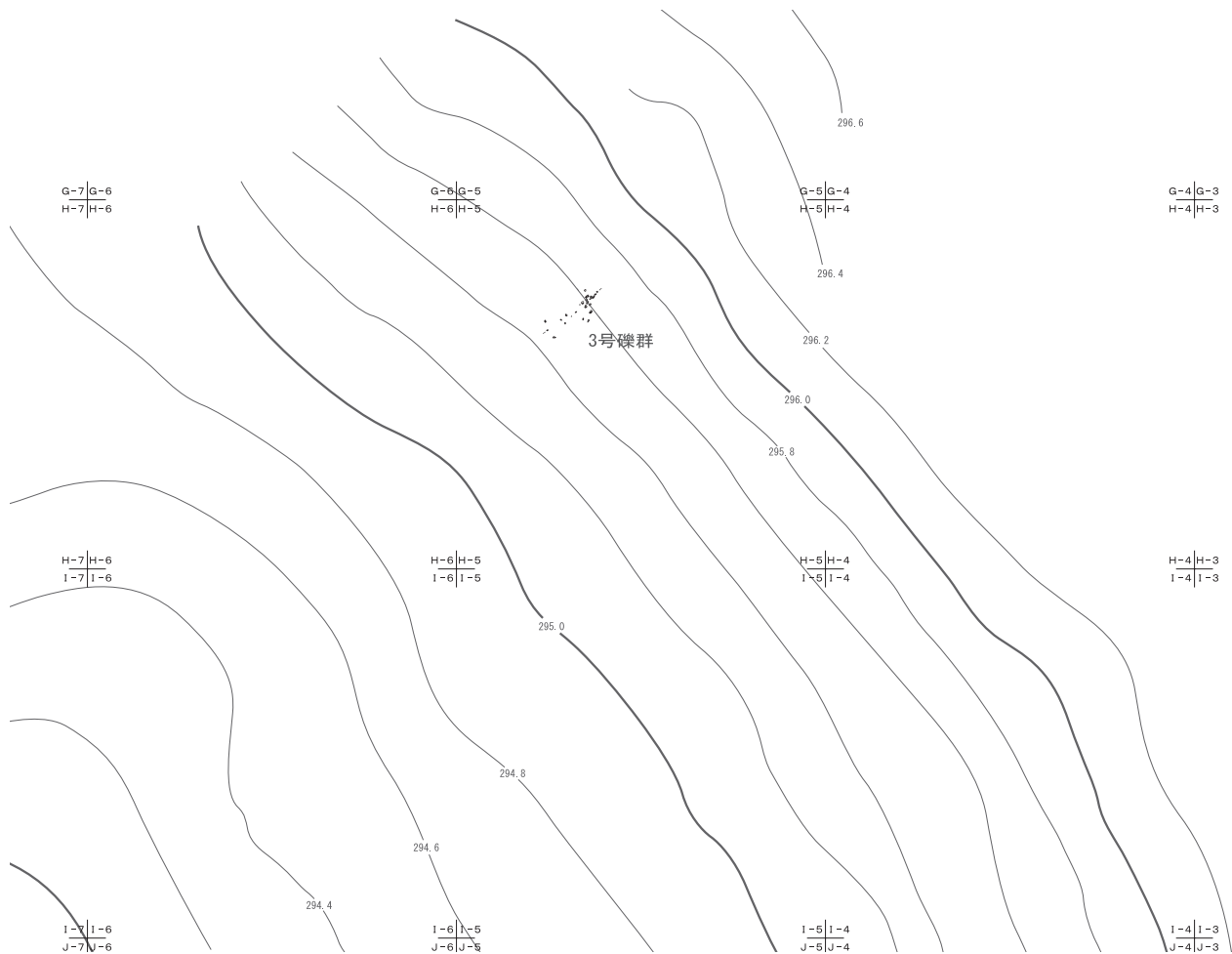
シ-38|シ-37
サ-38|サ-37

シ-37|シ-36
サ-37|サ-36



1号礫群

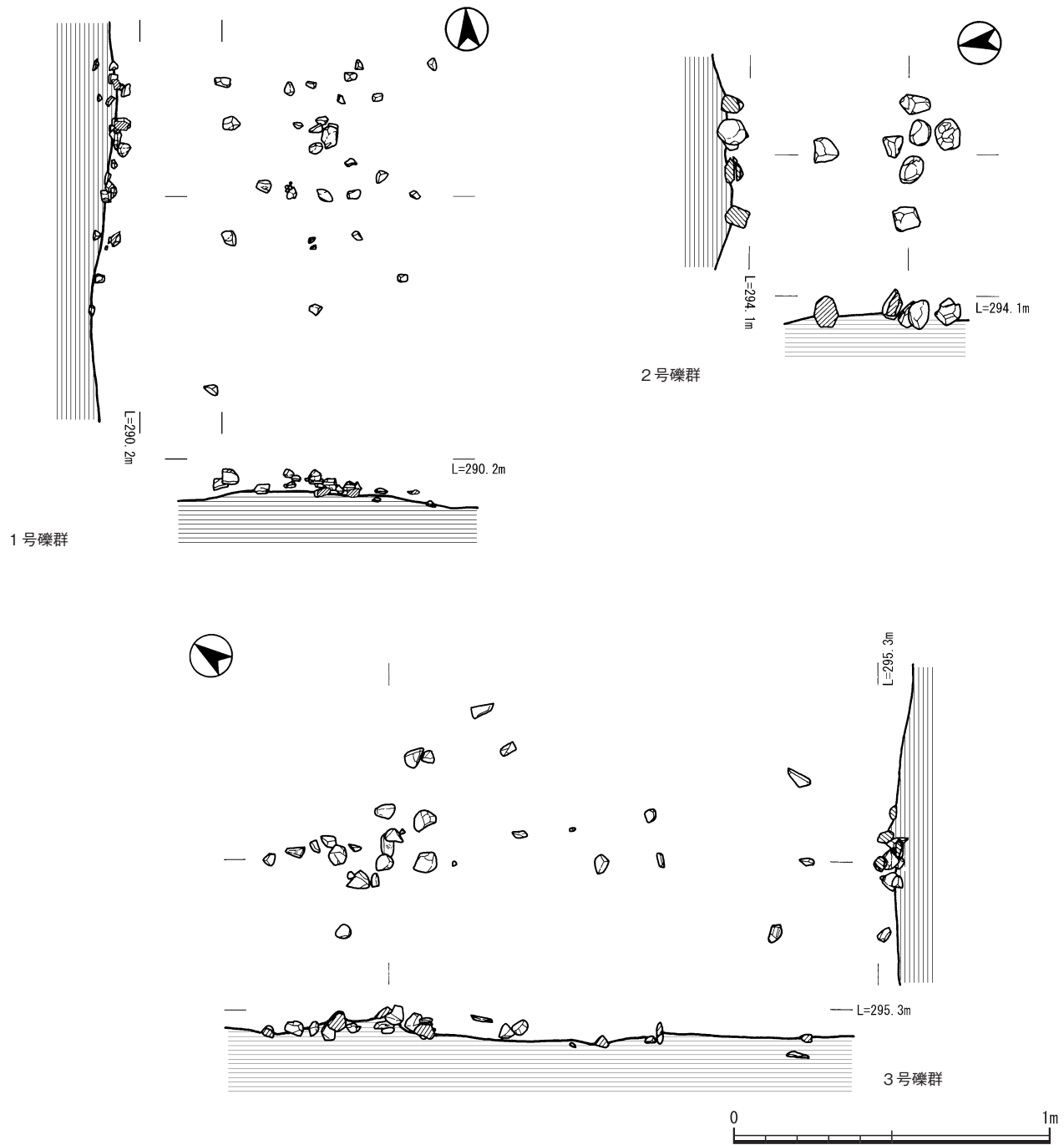
第300図 第Ⅱ文化層遺構配置図1 (1/200)



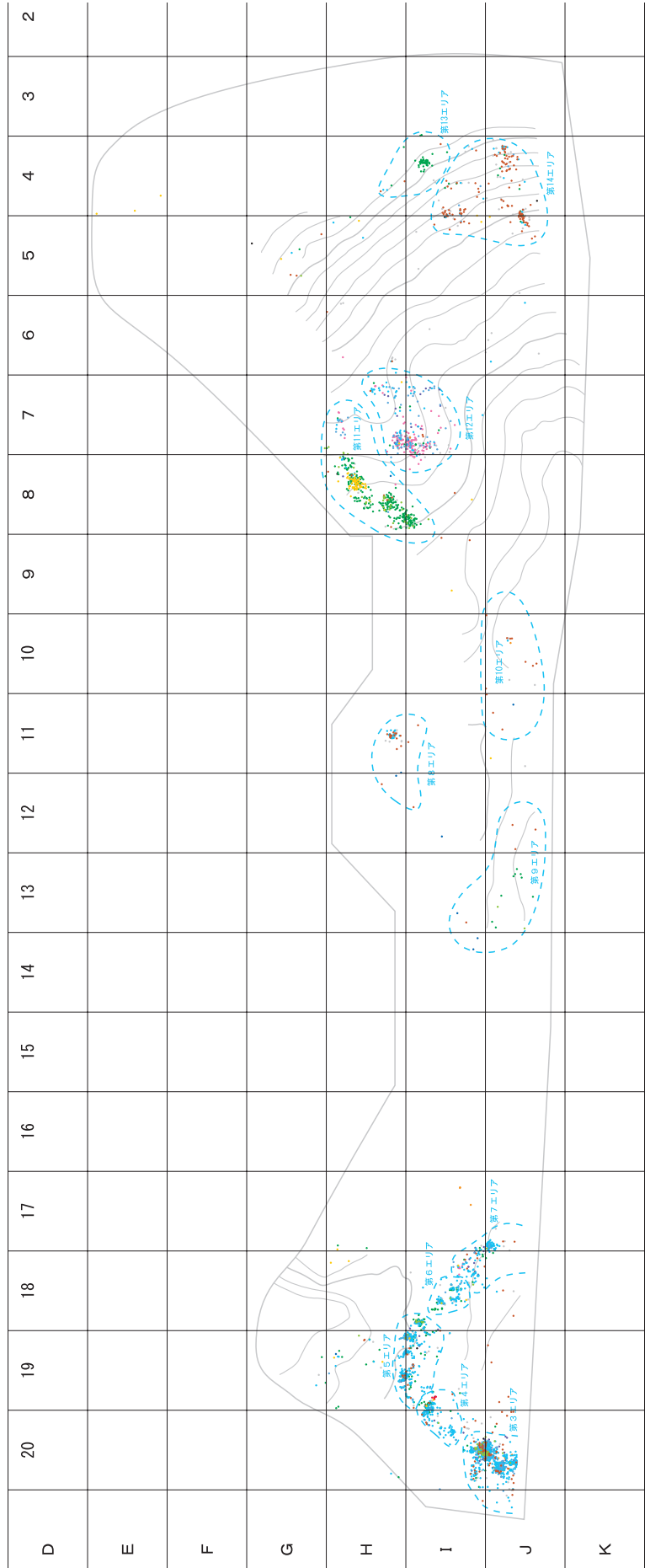
第301図 第Ⅱ文化層遺構配置図2 (1/200)



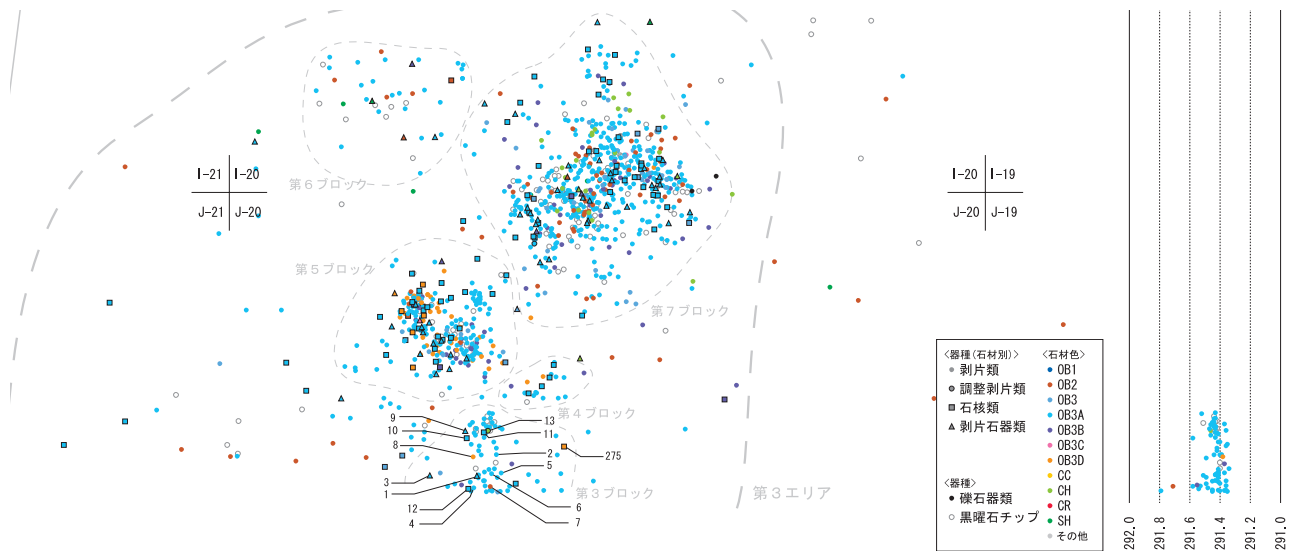
第302図 第II文化層遺構配置図3 (1/200)



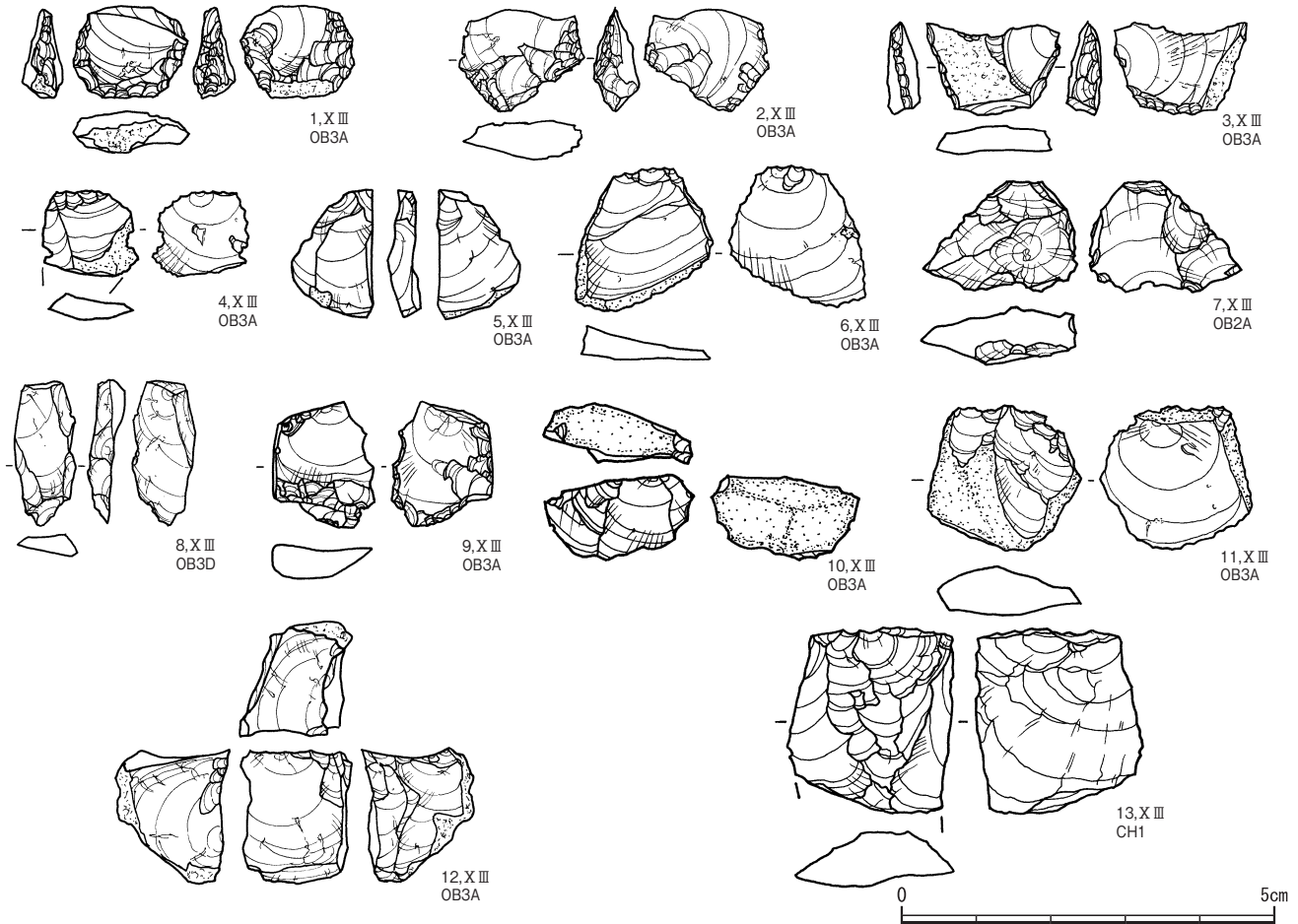
第303図 第II文化層遺構実測図 (1/20)



第304図 第Ⅱ文化層第3～第14エリア配置図



第305図 第II文化層第3エリア第3ブロック石器出土状況図



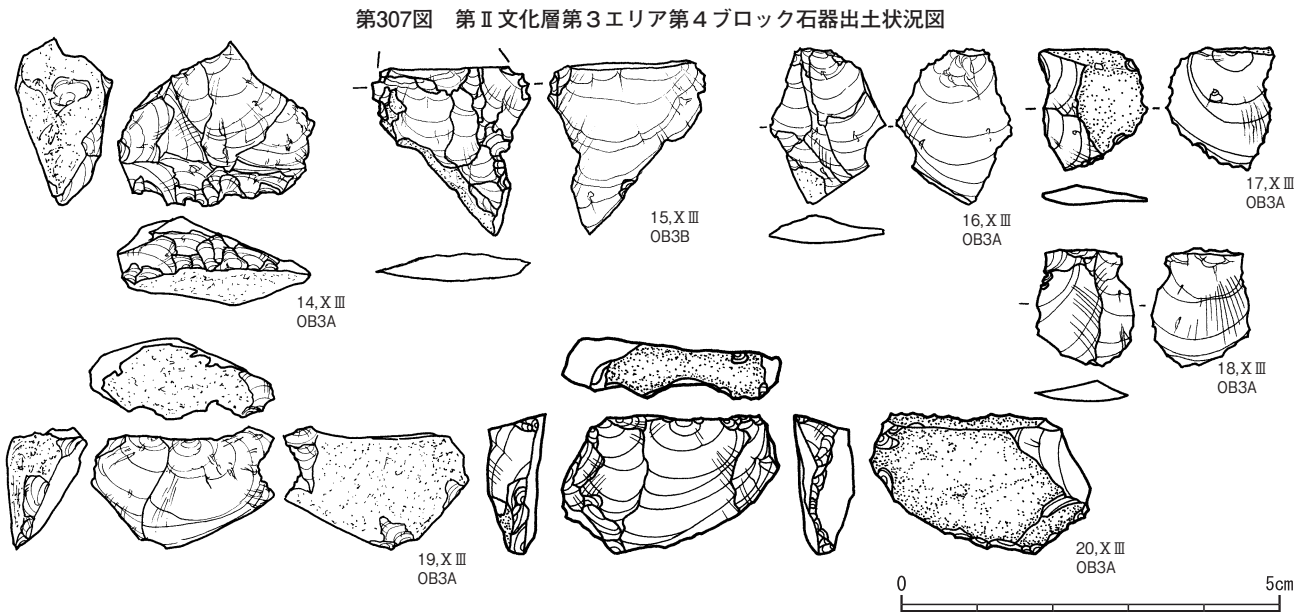
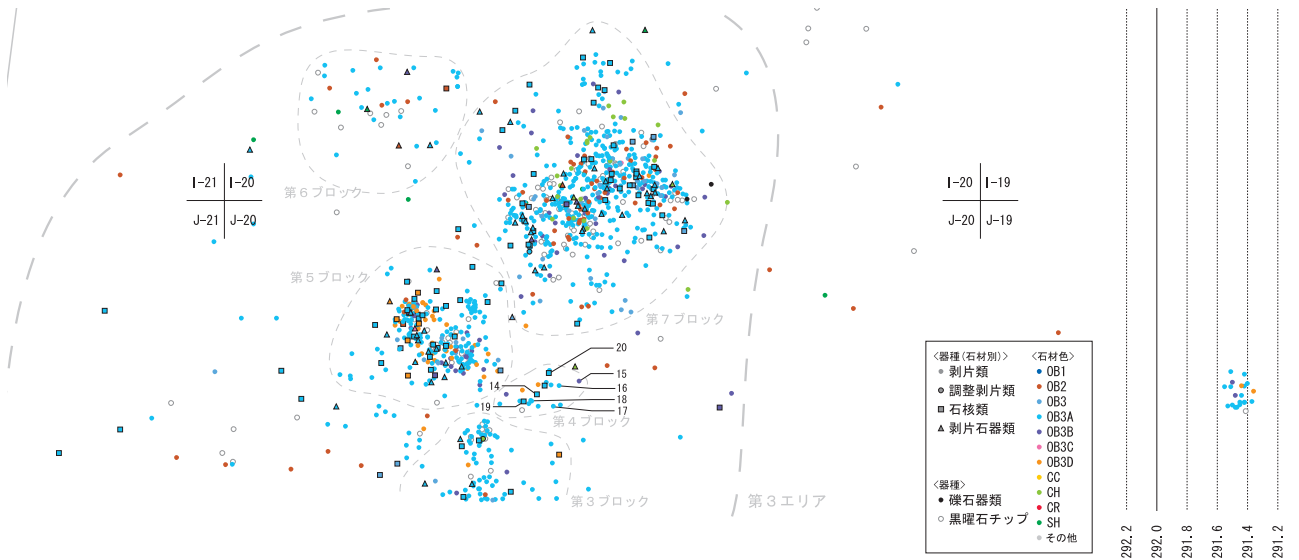
第306図 第II文化層第3エリア第3ブロック出土石器実測図

が、このように3面を加工する比率が高く、3・25~31・92・110・113・117・119・253~256等で確認できる。特に、基部の刃潰し加工は、厚みを減じる意図が感じ取れ、1・116・256等では背面、28・31・253等では腹面、26・27・30・110・113・119・254・255等では背面・腹面の両面に施している。また、2・3・25の3点は、横位に用いた素材剥片の直線部を充分に活かして横長の刃部を造り出している。1・3・28・92・99・112等の様に礫面を残す事例が27点

と、総数の半数を占めている。

台形石器以外の器種は極めて少なく、21の小型ナイフ形石器のみである。

石核は、分割あるいは先行した剥離面を打面とするものと、角礫素材の平坦な礫面を打面とするものと大きく二分される。前者は12・72・74・80・86・98・221・225・230~233・241・247で、他は後者が75%以上を占めている。なお、両石核からの剥片剥離は非調整剥離で、寸詰まりの不定



形剥片が取り出されている。

12の打面は打面形成による分割面かあるいは先行した剥離面なのか明らかでないが、3面で剥離作業が行われ、先行した左側面では打面転移が認められる。247の打面は先行した剥離面で、激しく打面転移を繰り返している。86では稜上からの交互剥離が観察される。石核の主体を成す角礫素材の事例では、著しい打面転移は認められず、同一方向からの剥離作業が繰り返されている。なお、この石核に多用される素材は扁平で且つ小型の角礫が一般的と言える。この石核から生産された剥片は、軸の短い不定形剥片が主体で、台形石器の素材剥片としての規格は充分備えている。台形石器の製作にこの小型の礫面を持つ石核が用いられたことは、先に記した台形石器の一部に礫面が残ることとも合致する。

249と250の棒状ハンマーには、使用の痕跡が色濃く残されている。

第4エリア

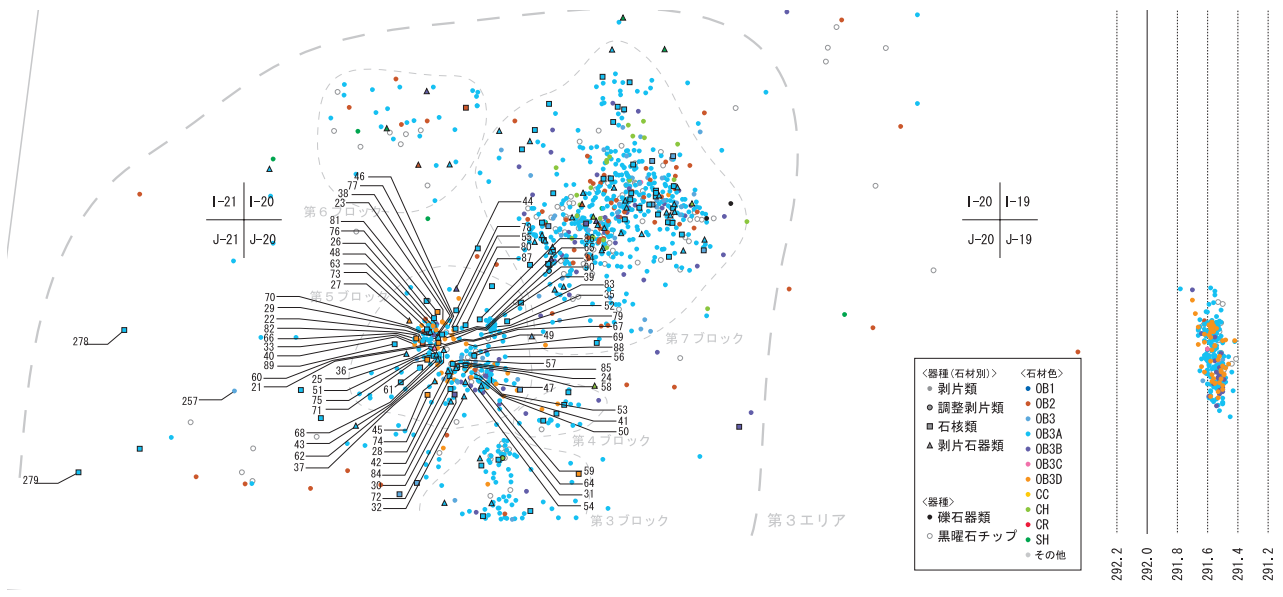
第8と第9ブロックで構成し、黒曜石Ⅲ類を主体に少量の黒曜石Ⅱ類・頁岩・玉髄が含まれる。

第58表 第Ⅱ文化層第3エリア出土石器観察表(1)

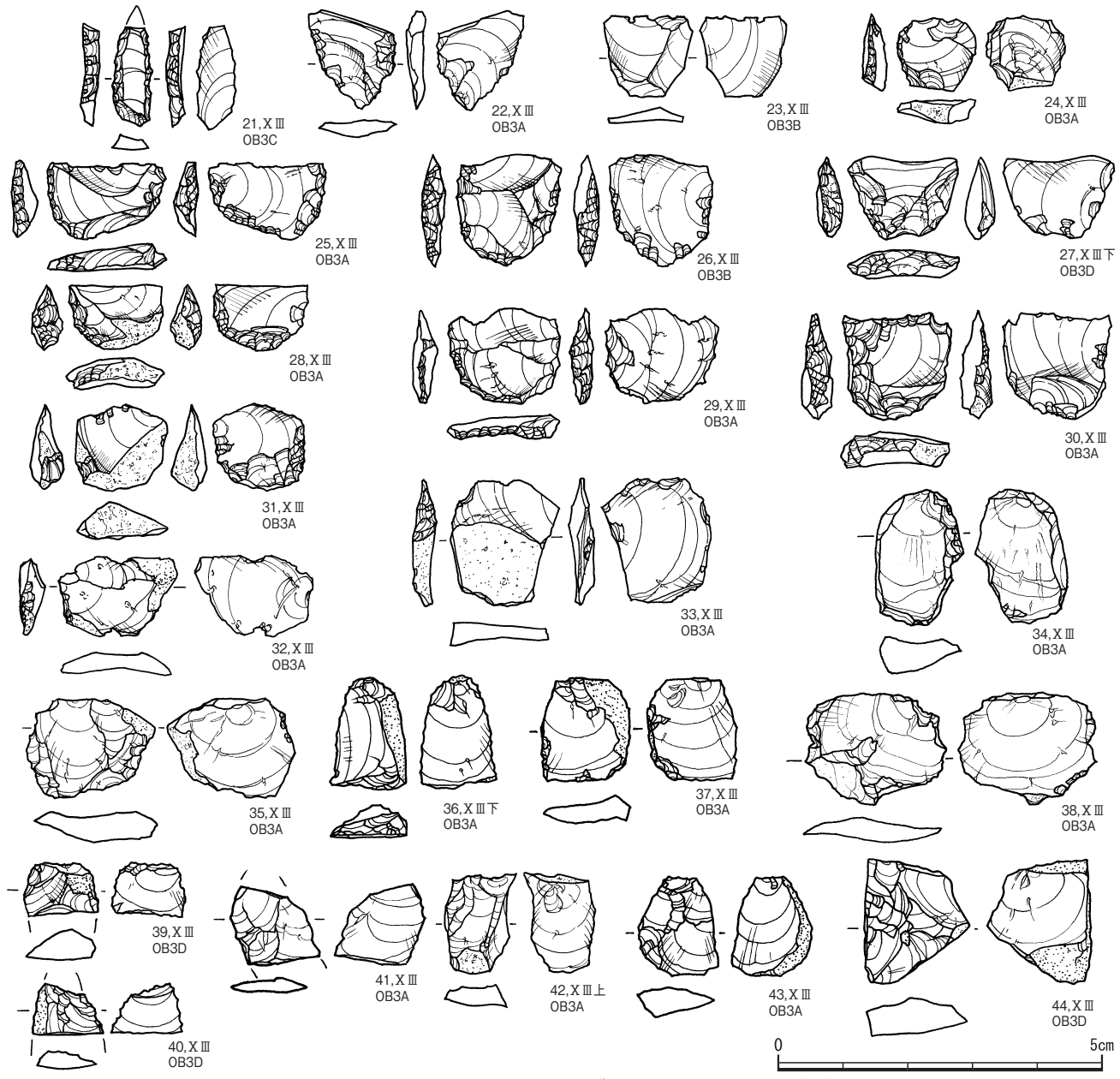
標本No	図No	エリア	ブロック	分類L2	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)	接合No
306	1	A03	B03	台形石器	OB3A	12.6	15.5	5.7	1.0	▲14940(J-20/X III)	-
306	2	A03	B03	台形石器	OB3A	13.9	16.8	6.3	0.9	▲14983(J-20/X III)	-
306	3	A03	B03	台形石器	OB3A	12.5	18.0	4.8	0.8	▲14968(J-20/X III)	-
306	4	A03	B03	剥片	OB3A	11.7	13.1	2.8	0.4	▲15023(J-20/X III)	-
306	5	A03	B03	剥片	OB3A	17.4	11.4	4.5	1.5	▲15009(J-20/X III)	No.01
306	6	A03	B03	剥片	OB3A	19.2	18.5	8.5	0.9	▲14975(J-20/X III)	-
306	7	A03	B03	剥片	OB2A	15.1	20.6	8.0	1.6	▲15024(J-20/X III)	-
306	8	A03	B03	剥片	OB3D	19.6	8.7	5.2	0.5	▲14985(J-20/X III)	-
306	9	A03	B03	台形石器	OB3A	17.0	13.8	0.0	1.0	▲14987(J-20/X III)	-
306	10	A03	B03	石核	OB3A	11.5	20.0	8.4	1.0	▲14941(J-20/X III)	No.15

第59表 第Ⅱ文化層第3エリア出土石器観察表(2)

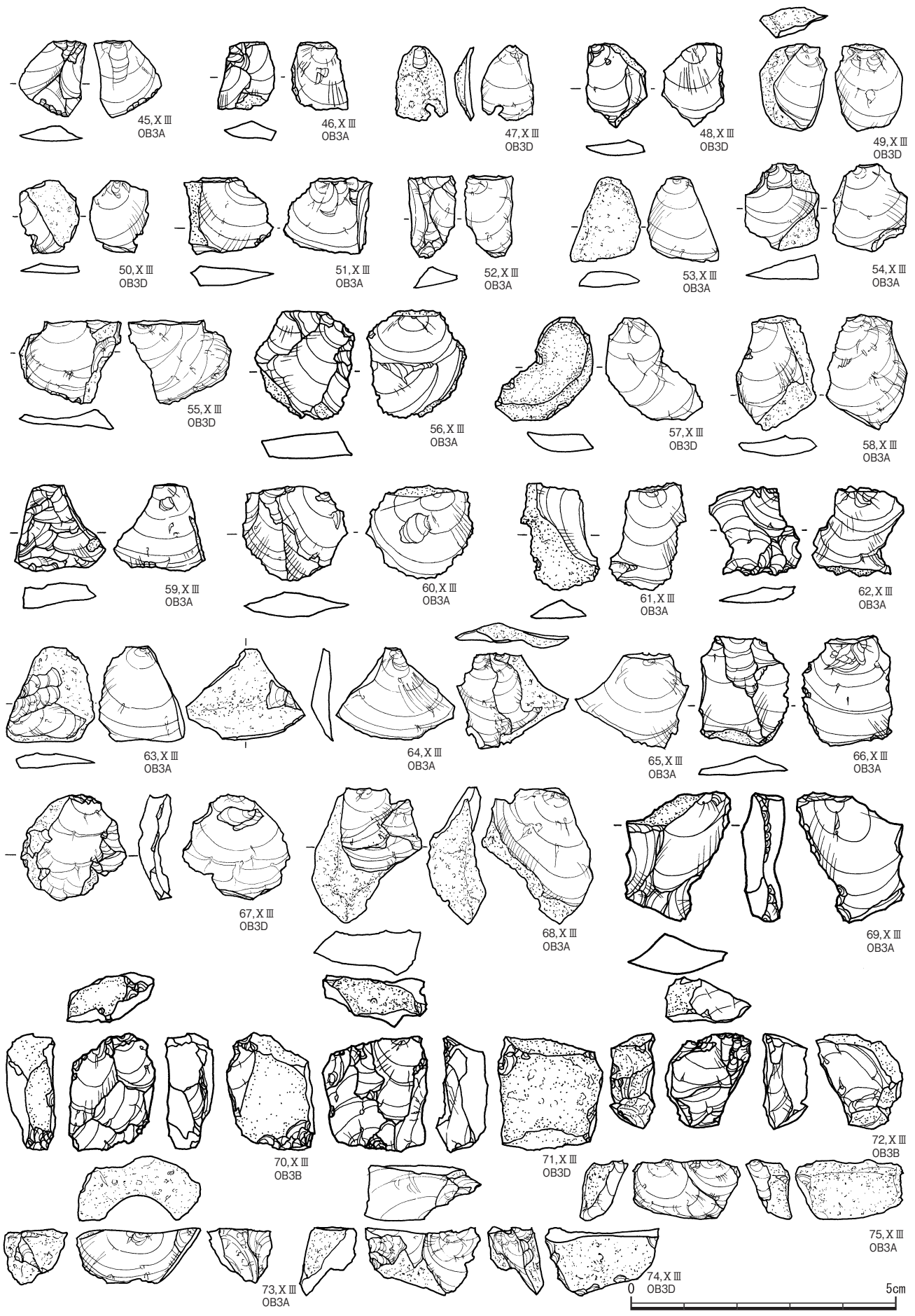
標本No	図No	エリア	ブロック	分類L2	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)	接合No
306	11	A03	B03	剥片	OB3A	19.5	20.6	10.4	2.5	▲14991(J-20/X III)	-
306	12	A03	B03	石核	OB3A	18.2	15.1	15.3	3.9	▲15022(J-20/X III)	No.01
306	13	A03	B03	剥片	CH1	25.1	22.7	10.8	4.5	▲14945(J-20/X III)	-
308	14	A03	B04	石核	OB3A	21.8	26.2	13.0	4.2	▲14478(J-20/X III)	No.02
308	15	A03	B04	剥片	OB3B	23.2	21.0	3.6	1.4	▲11872(J-20/X III)	-
308	16	A03	B04	剥片	OB3A	20.7	15.6	3.6	0.9	▲11869(J-20/X III)	-
308	17	A03	B04	剥片	OB3A	16.5	14.6	2.9	0.5	▲14480(J-20/X III)	-
308	18	A03	B04	剥片	OB3A	16.0	13.3	3.5	0.5	▲14476(J-20/X III)	-
308	19	A03	B04	石核	OB3A	16.4	24.6	10.9	3.2	▲14613(J-20/X III)	-
308	20	A03	B04	石核	OB3A	18.9	29.4	8.1	3.2	▲14481(J-20/X III)	-



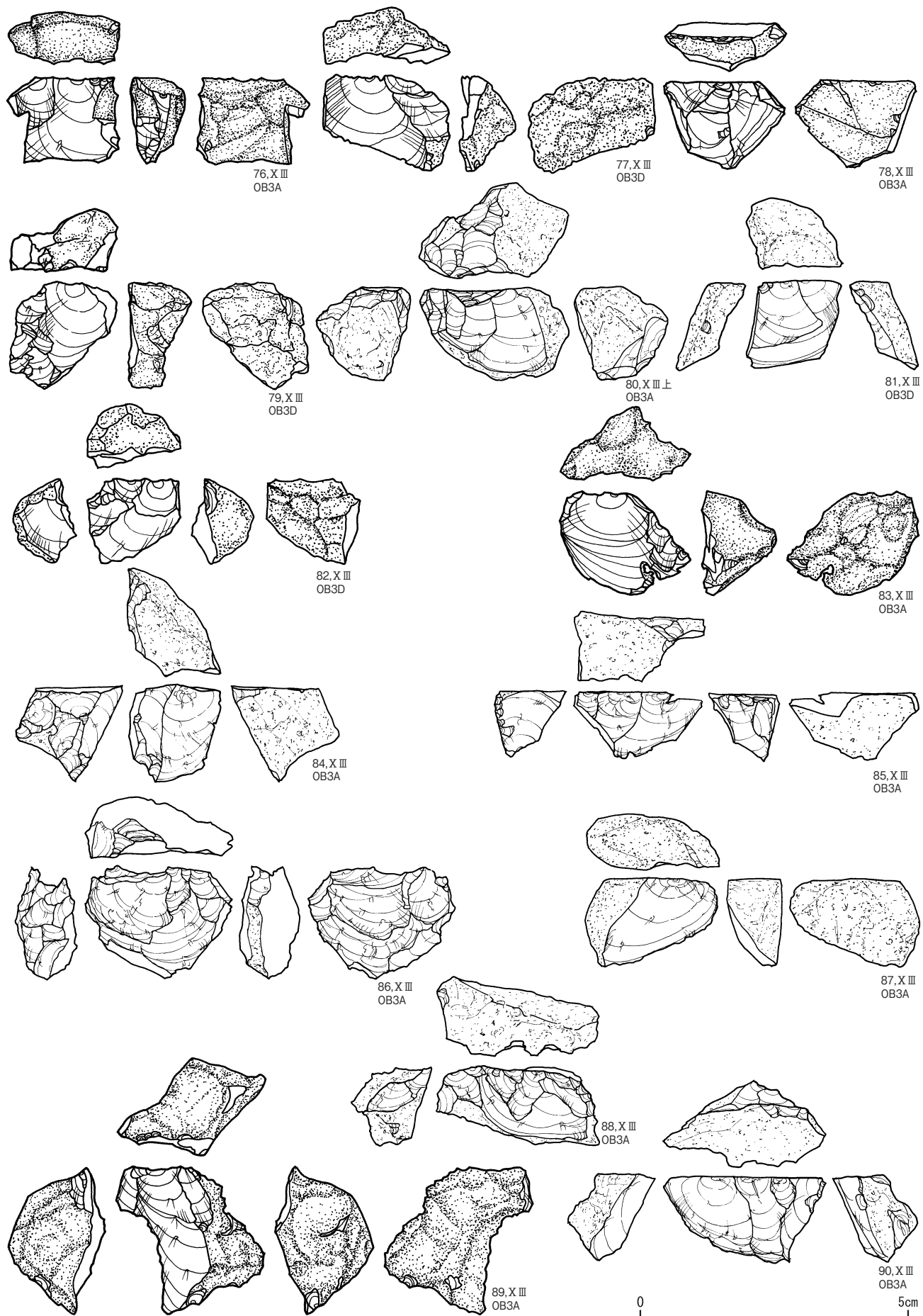
第309図 第Ⅱ文化層第3エリア第5ブロック石器出土状況図



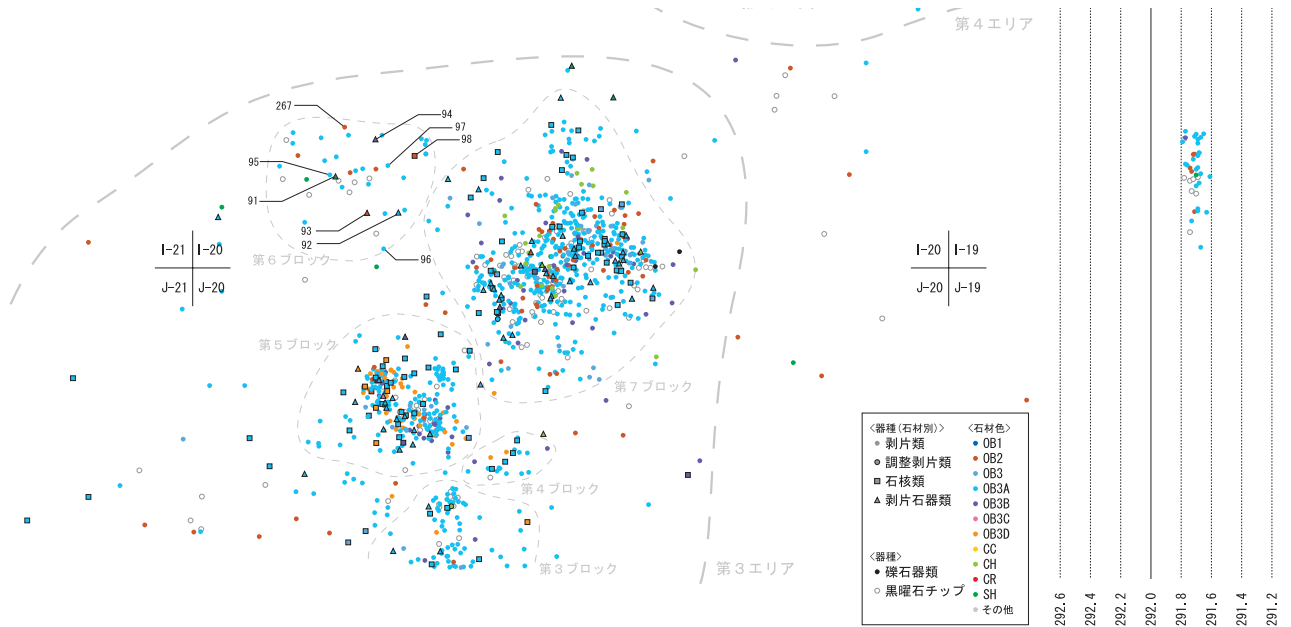
第310図 第Ⅱ文化層第3エリア第5ブロック出土石器実測図(1)



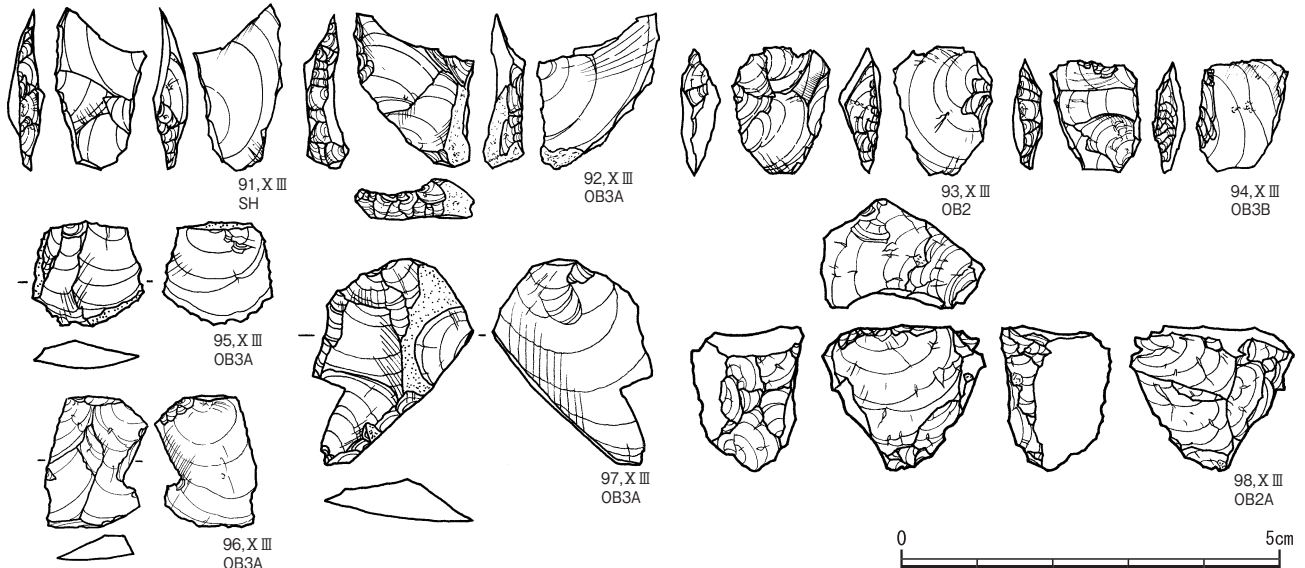
第311図 第Ⅱ文化層第3エリア第5ブロック出土石器実測図(2)



第312図 第II文化層第3エリア第5ブロック出土石器実測図(3)



第313図 第Ⅱ文化層第3エリア第6ブロック石器出土状況図



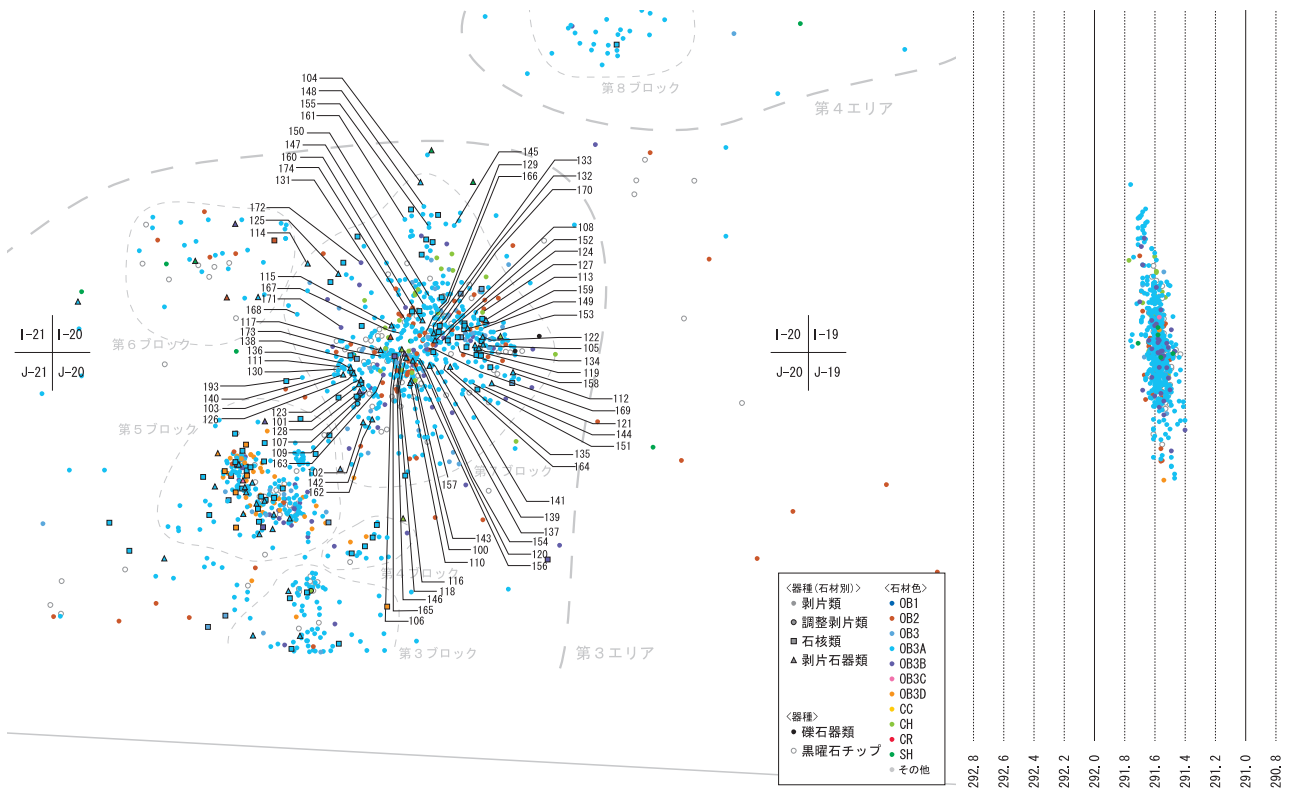
第314図 第Ⅱ文化層第3エリア第6ブロック出土石器実測図

第60表 第Ⅱ文化層第3エリア出土石器観察表 (3)

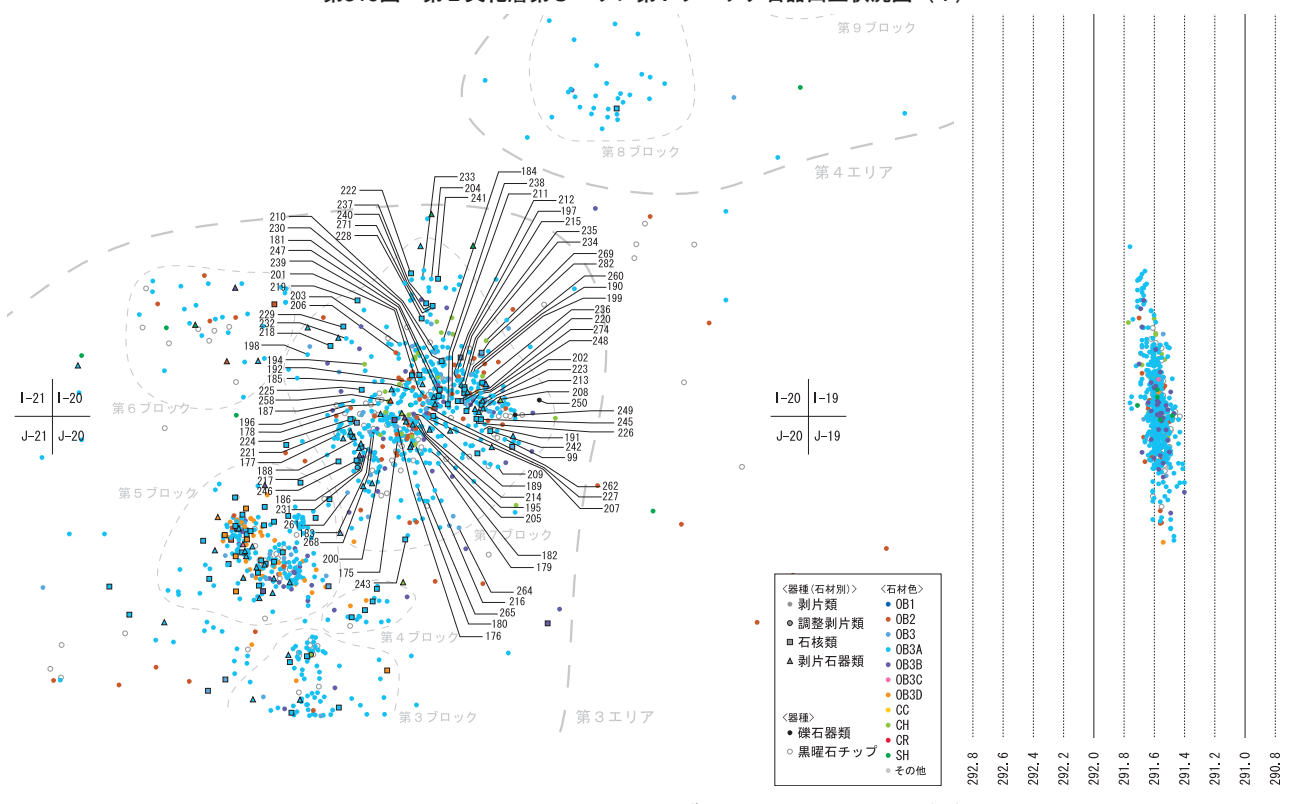
種目No	図No	エリア	ブロック	分類L2	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)	接合No
310	21	A03	B05	ナイフ形石器	OB3C	16.3	6.3	3.3	0.4	▲14425(J-20/XⅢ)	-
310	22	A03	B05	台形石器	OB3A	15.6	13.7	3.2	0.1	▲12203(J-20/XⅢ)	-
310	23	A03	B05	剥片	OB3B	12.6	13.6	2.9	0.3	▲14709(J-20/XⅢ)	No.18
310	24	A03	B05	台形石器	OB3A	11.7	12.4	4.1	0.6	▲14435(J-20/XⅢ)	-
310	25	A03	B05	台形石器	OB3A	12.2	18.4	4.3	0.7	▲14426(J-20/XⅢ)	-
310	26	A03	B05	台形石器	OB3B	17.4	16.2	3.9	1.1	▲11779(J-20/XⅢ)	-
310	27	A03	B05	台形石器	OB3D	12.9	17.4	4.2	0.9	▲11755(J-20/XⅢ下)	-
310	28	A03	B05	台形石器	OB3A	10.4	14.8	5.0	0.7	▲14601(J-20/XⅢ)	-
310	29	A03	B05	台形石器	OB3A	14.8	17.7	4.1	0.9	▲14416(J-20/XⅢ)	-
310	30	A03	B05	台形石器	OB3A	16.6	17.0	5.1	1.2	▲14442(J-20/XⅢ)	-
310	31	A03	B05	台形石器	OB3A	13.7	14.4	5.5	0.9	▲12239(J-20/XⅢ)	No.11
310	32	A03	B05	台形石器	OB3A	12.7	18.4	4.3	-	▲11796(J-20/XⅢ)	No.10
310	33	A03	B05	台形石器	OB3A	19.4	17.2	4.0	0.8	▲14420(J-20/XⅢ)	-
310	34	A03	B05	剥片	OB3A	20.9	14.5	3.7	1.5	▲12268(J-20/XⅢ)	-
310	35	A03	B05	二次加工微剥片	OB3A	15.6	20.0	3.8	1.2	▲11840(J-20/XⅢ)	-

第61表 第Ⅱ文化層第3エリア出土石器観察表 (4)

種目No	図No	エリア	ブロック	分類L2	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)	接合No
310	36	A03	B05	微細剥離微剥片	OB3A	17.7	12.1	4.2	0.8	▲11757(J-20/XⅢ下)	-
310	37	A03	B05	剥片	OB3A	16.1	14.2	-	0.9	▲12228(J-20/XⅢ)	-
310	38	A03	B05	剥片	OB3A	17.5	21.5	3.9	1.3	▲12275(J-20/XⅢ)	-
310	39	A03	B05	剥片	OB3D	8.7	11.6	4.9	0.4	▲14592(J-20/XⅢ)	-
310	40	A03	B05	剥片	OB3D	7.9	11.3	2.7	0.2	▲12205(J-20/XⅢ)	-
310	41	A03	B05	剥片	OB3A	12.6	14.2	2.9	0.3	▲14453(J-20/XⅢ)	-
310	42	A03	B05	剥片	OB3A	15.6	11.2	3.5	0.6	▲11790(J-20/XⅢ上)	-
310	43	A03	B05	剥片	OB3A	15.6	12.6	4.4	0.7	▲14429(J-20/XⅢ)	-
310	44	A03	B05	剥片	OB3D	19.4	16.4	9.1	1.8	▲14642(J-20/XⅢ)	No.17
311	45	A03	B05	微細剥離微剥片	OB3A	14.7	13.0	-	0.5	▲11792(J-20/XⅢ)	-
311	46	A03	B05	剥片	OB3A	13.2	10.9	3.4	0.5	▲14403(J-20/XⅢ)	-
311	47	A03	B05	剥片	OB3D	14.3	10.1	3.9	0.4	▲11819(J-20/XⅢ)	-
311	48	A03	B05	剥片	OB3D	16.0	12.0	5.0	0.6	▲14639(J-20/XⅢ)	No.07
311	49	A03	B05	剥片	OB3D	16.8	12.9	6.0	0.9	▲14434(J-20/XⅢ)	-
311	50	A03	B05	剥片	OB3D	13.8	11.3	2.5	0.3	▲11800(J-20/XⅢ)	-



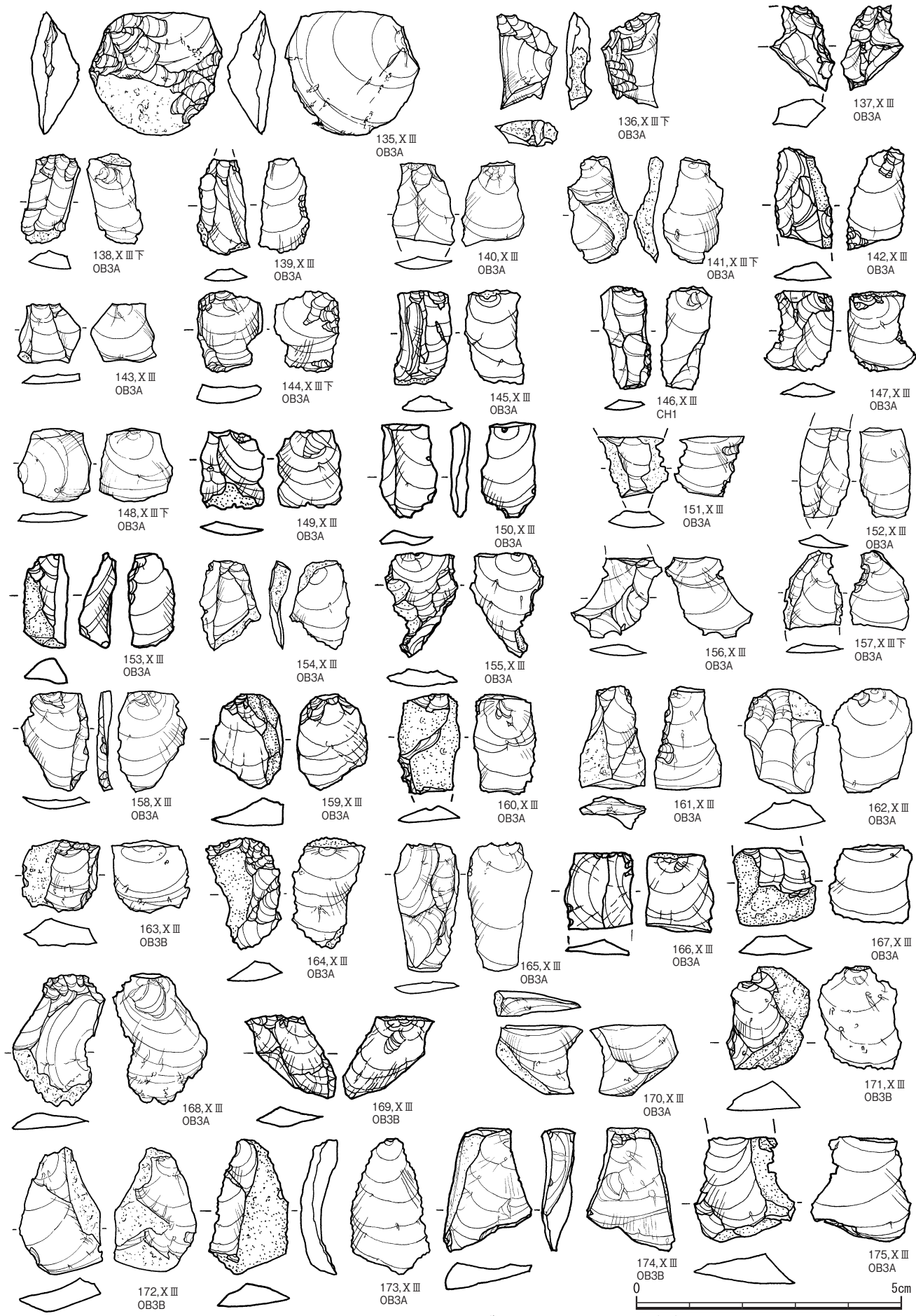
第315図 第Ⅱ文化層第3エリア第7ブロック石器出土状況図(1)



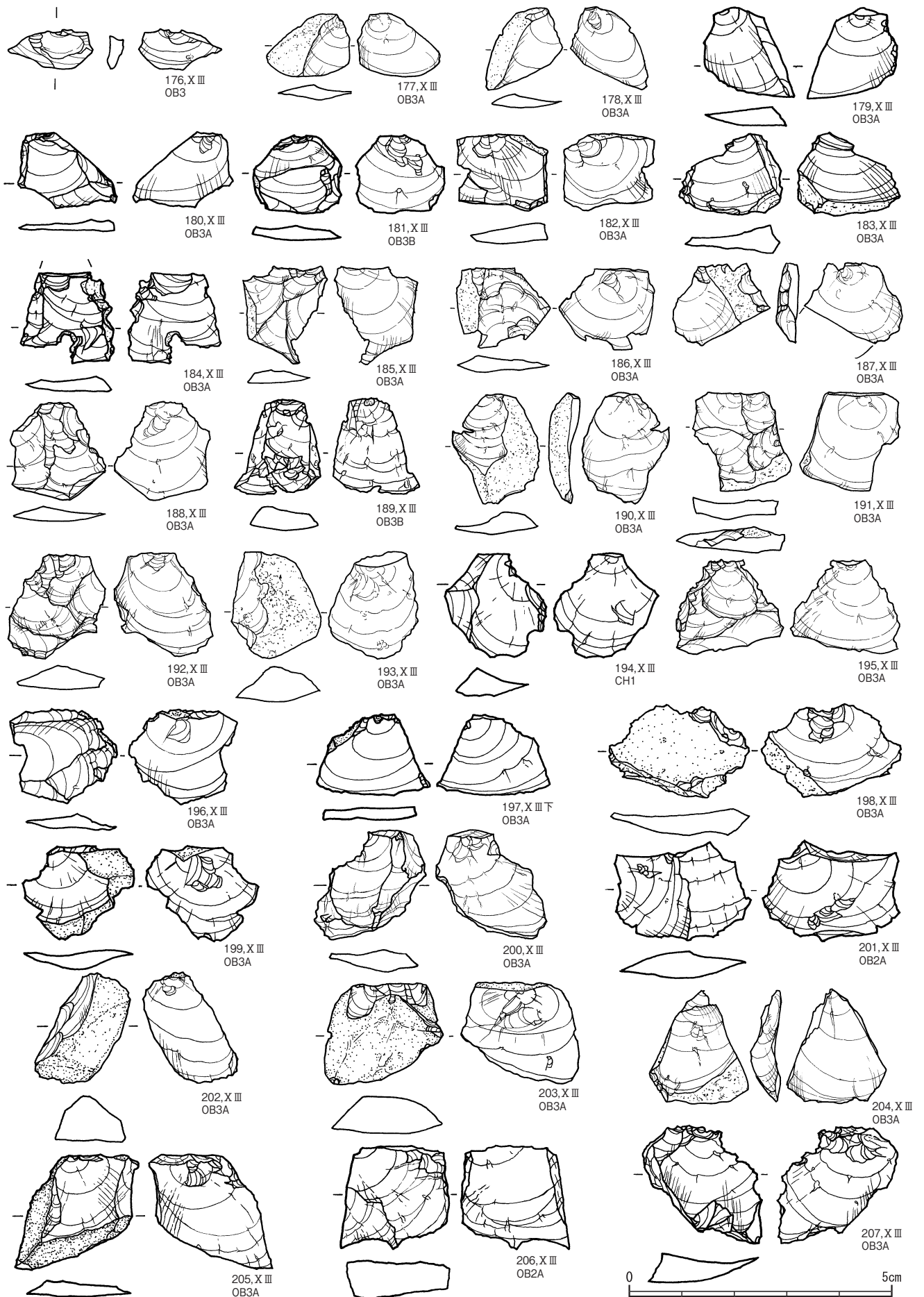
第316図 第Ⅱ文化層第3エリア第7ブロック石器出土状況図(2)



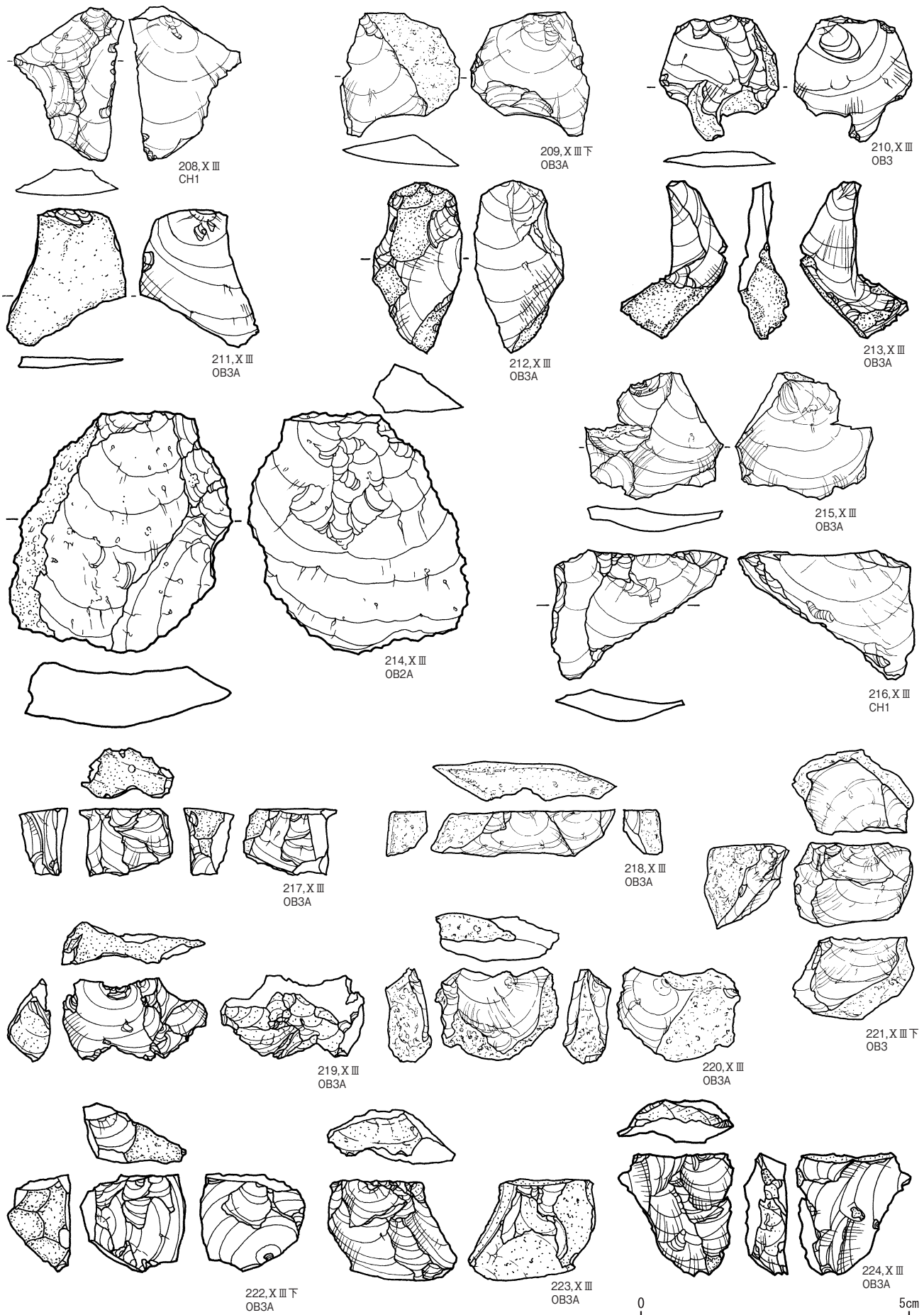
第317図 第Ⅱ文化層第3エリア第7ブロック出土石器実測図(1)



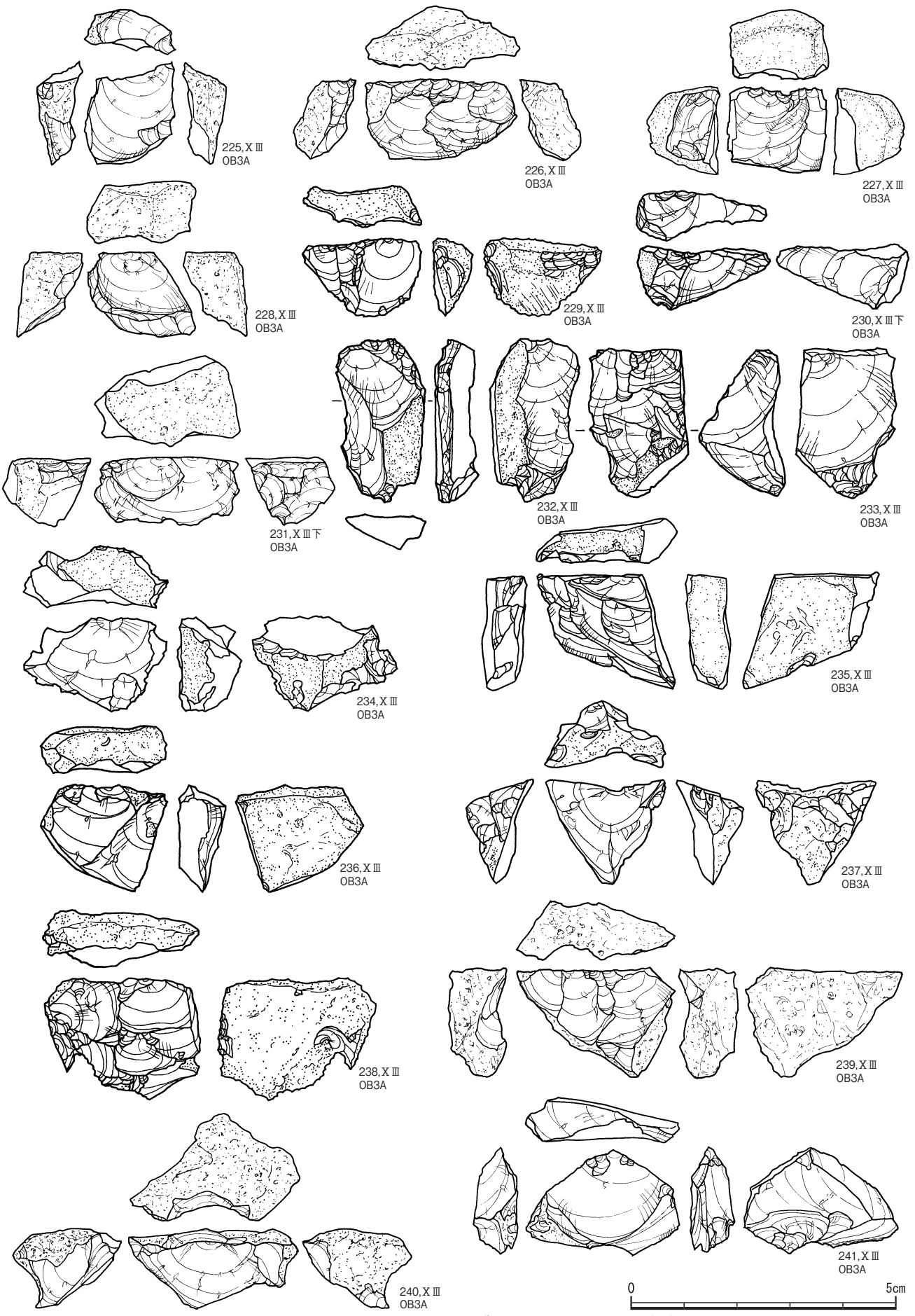
第318図 第Ⅱ文化層第3エリア第7ブロック出土石器実測図(2)



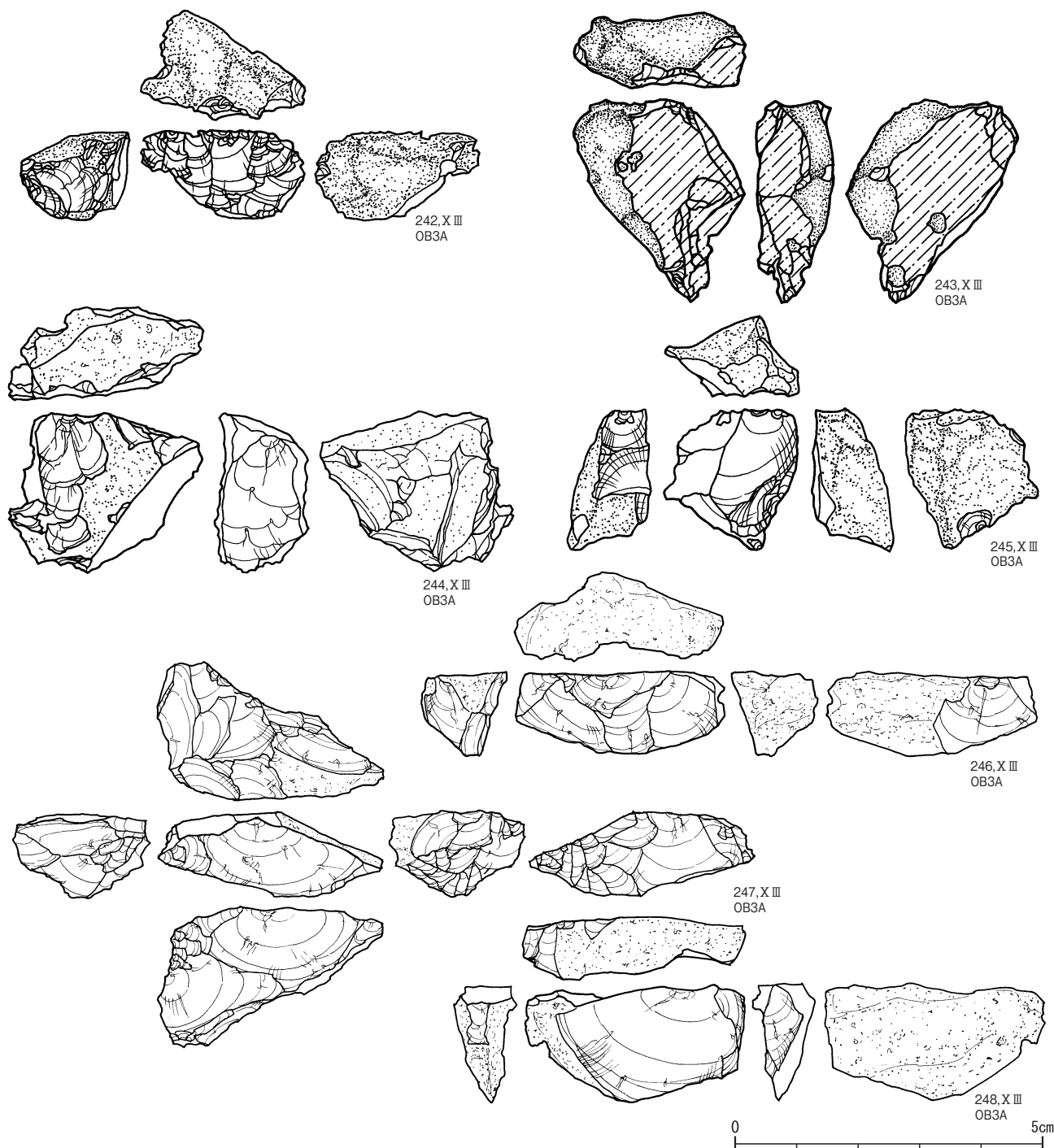
第319図 第Ⅱ文化層第3エリア第7ブロック出土石器実測図(3)



第320図 第Ⅱ文化層第3エリア第7ブロック出土石器実測図(4)



第321図 第Ⅱ文化層第3エリア第7ブロック出土石器実測図(5)



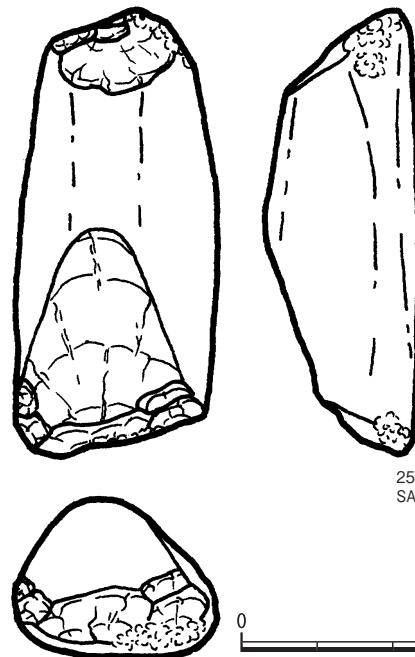
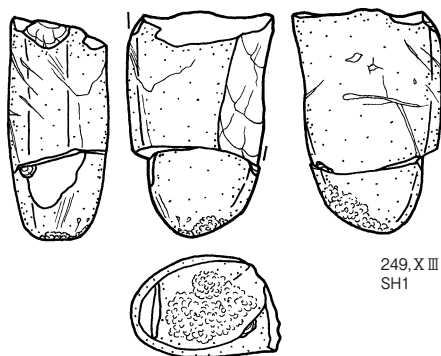
第322図 第Ⅱ文化層第3エリア第7ブロック出土石器実測図(6)

第62表 第Ⅱ文化層第3エリア出土石器観察表(5)

種目No	図No	エリア	ブロック	分類L2	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)	接合No
311	51	A03	B05	剥片	OB3A	14.7	16.9	4.1	0.9	▲12222(J-20/XⅢ)	-
311	52	A03	B05	剥片	OB3A	15.8	9.4	3.9	0.5	▲12292(J-20/XⅢ)	-
311	53	A03	B05	剥片	OB3A	16.3	13.7	4.0	0.7	▲12251(J-20/XⅢ)	-
311	54	A03	B05	二次加工剥片	OB3A	16.8	14.3	4.5	1.1	▲11801(J-20/XⅢ)	-
311	55	A03	B05	剥片	OB3D	16.1	19.6	4.2	1.2	▲12267(J-20/XⅢ)	-
311	56	A03	B05	剥片	OB3A	20.6	19.1	4.0	1.9	▲11827(J-20/XⅢ)	No.09
311	57	A03	B05	剥片	OB3D	19.6	18.5	5.0	1.3	▲14644(J-20/XⅢ)	No.12
311	58	A03	B05	剥片	OB3A	21.9	15.5	6.0	1.4	▲11803(J-20/XⅢ)	-
311	59	A03	B05	剥片	OB3A	16.7	17.4	4.6	1.2	▲14470(J-20/XⅢ)	-
311	60	A03	B05	剥片	OB3A	17.9	20.5	6.5	1.5	▲14594(J-20/XⅢ)	-
311	61	A03	B05	剥片	OB3A	20.5	14.7	4.2	0.7	▲12207(J-20/XⅢ)	-
311	62	A03	B05	剥片	OB3A	17.2	17.5	4.3	0.1	▲14427(J-20/XⅢ)	-
311	63	A03	B05	剥片	OB3A	18.2	16.4	5.0	0.9	▲12280(J-20/XⅢ)	No.05
311	64	A03	B05	剥片	OB3A	17.6	22.6	4.3	0.9	▲12257(J-20/XⅢ)	-
311	65	A03	B05	剥片	OB3A	18.1	21.6	5.0	0.8	▲12284(J-20/XⅢ)	-

第63表 第Ⅱ文化層第3エリア出土石器観察表(6)

種目No	図No	エリア	ブロック	分類L2	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)	接合No
311	66	A03	B05	剥片	OB3A	21.2	17.3	5.1	1.3	▲12204(J-20/XⅢ)	-
311	67	A03	B05	剥片	OB3D	20.0	20.4	6.5	1.3	▲14595(J-20/XⅢ)	-
311	68	A03	B05	剥片	OB3A	25.9	21.2	11.3	3.3	▲12225(J-20/XⅢ)	-
311	69	A03	B05	微細剥片	OB3A	24.9	20.5	8.5	2.3	▲14447(J-20/XⅢ)	-
311	70	A03	B05	石核	OB3B	22.4	16.9	9.6	2.9	▲12279(J-20/XⅢ)	No.18
311	71	A03	B05	石核	OB3D	21.7	20.0	10.0	3.1	▲11770(J-20/XⅢ)	No.04
311	72	A03	B05	石核	OB3B	18.2	16.6	8.8	2.1	▲11794(J-20/XⅢ)	-
311	73	A03	B05	石核	OB3A	10.7	23.7	12.4	2.3	▲14414(J-20/XⅢ)	-
311	74	A03	B05	石核	OB3D	13.0	21.6	11.0	2.0	▲11793(J-20/XⅢ)	No.04
311	75	A03	B05	石核	OB3A	11.5	20.5	9.3	1.7	▲12224(J-20/XⅢ)	-
312	76	A03	B05	石核	OB3A	16.5	21.4	10.6	3.0	▲11776(J-20/XⅢ)	No.34
312	77	A03	B05	石核	OB3D	18.0	24.0	10.8	-	▲11782(J-20/XⅢ)	No.17
312	78	A03	B05	石核	OB3A	16.5	22.8	9.4	2.9	▲11781(J-20/XⅢ)	No.05
312	79	A03	B05	石核	OB3D	20.2	20.0	12.1	3.3	▲11785(J-20/XⅢ)	No.07
312	80	A03	B05	石核	OB3A	17.6	28.1	17.7	7.1	▲11789(J-20/XⅢ上)	-



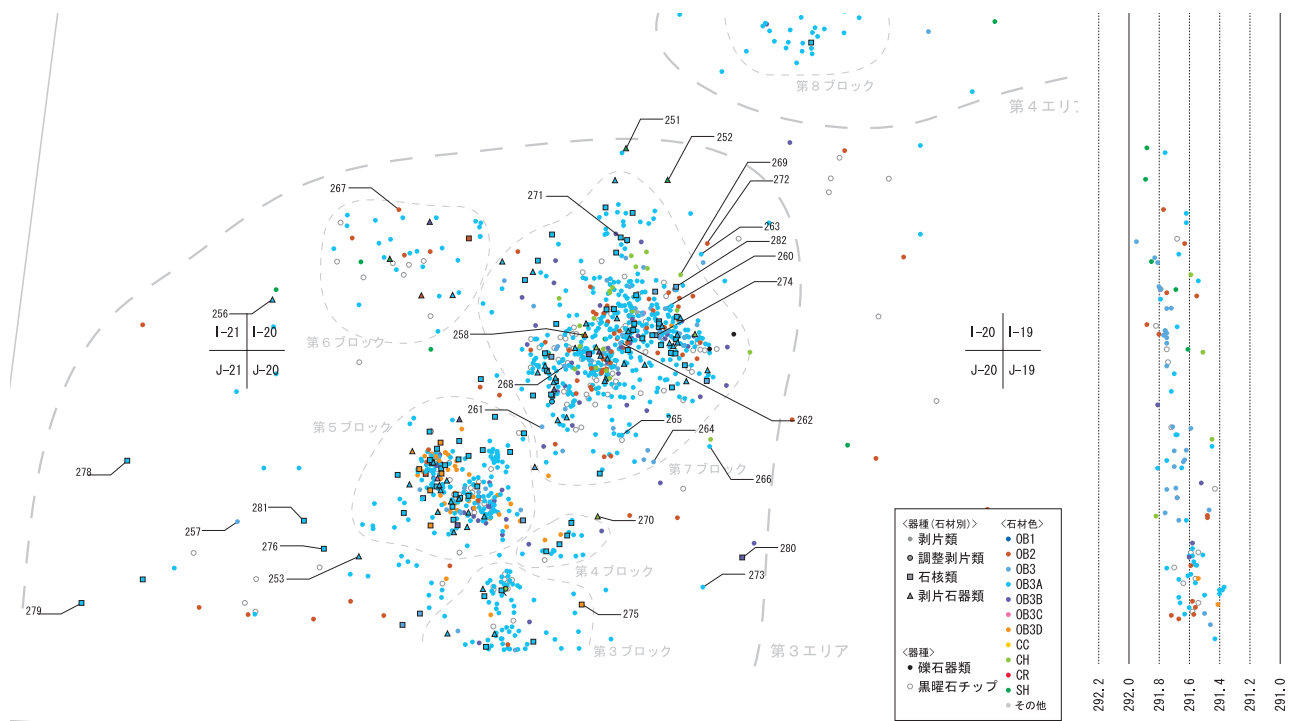
第323図 第Ⅱ文化層第3エリア第7ブロック出土石器実測図(7)

第64表 第Ⅱ文化層第3エリア出土石器観察表(7)

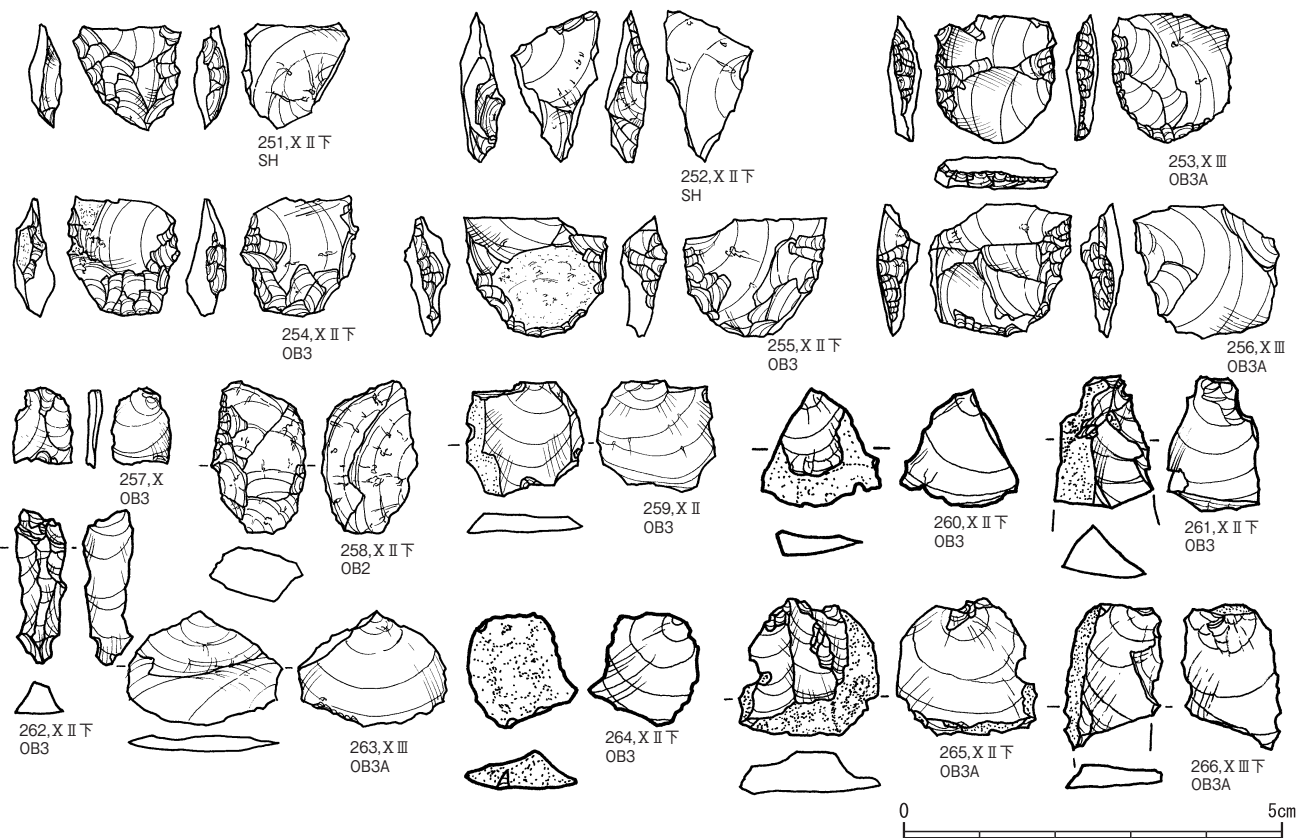
種目No	図No	エリア	ブロック	分類L2	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)	接合No
312	81	A03	B05	石核	OB3D	16.6	18.0	13.1	2.8	▲11777(J-20/XⅢ)	No.14
312	82	A03	B05	石核	OB3D	16.2	17.8	12.1	2.1	▲14597(J-20/XⅢ)	-
312	83	A03	B05	石核	OB3A	19.6	24.9	14.3	3.2	▲11844(J-20/XⅢ)	No.09
312	84	A03	B05	石核	OB3A	18.5	17.4	20.4	4.2	▲14441(J-20/XⅢ)	No.08
312	85	A03	B05	石核	OB3A	12.8	24.3	13.6	2.5	▲12234(J-20/XⅢ)	No.16
312	86	A03	B05	石核	OB3A	21.2	27.7	11.8	5.6	▲11837(J-20/XⅢ)	-
312	87	A03	B05	石核	OB3A	16.7	24.4	10.5	4.0	▲11836(J-20/XⅢ)	-
312	88	A03	B05	石核	OB3A	15.1	30.6	15.2	4.3	▲11806(J-20/XⅢ)	-
312	89	A03	B05	石核	OB3A	27.7	28.0	18.4	5.9	▲14421(J-20/XⅢ)	-
312	90	A03	B05	石核	OB3A	16.4	30.5	16.1	4.7	▲11783(J-20/XⅢ)	-
314	91	A03	B06	台形石器	SH	22.2	12.0	5.0	1.0	▲12170(I-20/XⅢ)	-
314	92	A03	B06	台形石器	OB3A	20.9	16.3	6.1	1.1	▲12005(I-20/XⅢ)	-
314	93	A03	B06	台形石器	OB2	17.2	13.3	5.4	1.0	▲12000(I-20/XⅢ)	-
314	94	A03	B06	台形石器	OB3B	15.0	12.3	4.1	0.7	▲11989(I-20/XⅢ)	-
314	95	A03	B06	剥片	OB3A	13.8	14.8	3.7	0.5	▲12401(I-20/XⅢ)	-
314	96	A03	B06	微細剥離剥片	OB3A	17.6	13.6	3.4	0.7	▲12002(I-20/XⅢ)	-
314	97	A03	B06	剥片	OB3A	27.4	21.4	8.0	2.5	▲11990(I-20/XⅢ)	No.28
314	98	A03	B06	石核	OB2A	19.4	21.9	15.2	4.4	▲12008(I-20/XⅢ)	-
317	99	A03	B07	台形石器	OB3A	14.7	10.4	4.6	0.4	▲11955(J-20/XⅢ)	-
317	100	A03	B07	台形石器	OB3A	14.0	9.6	3.5	0.3	▲11932(J-20/XⅢ下)	-
317	101	A03	B07	台形石器	OB3A	10.7	7.7	4.4	0.3	▲12598(J-20/XⅢ)	-
317	102	A03	B07	台形石器	OB3A	10.4	14.2	4.2	0.3	▲12423(J-20/XⅢ下)	-
317	103	A03	B07	台形石器	OB3A	10.2	9.6	6.3	0.4	▲12427(J-20/XⅢ下)	-
317	104	A03	B07	台形石器	OB3A	15.1	9.6	4.9	0.7	▲12101(I-20/XⅢ)	-
317	105	A03	B07	台形石器	OB3A	10.9	13.6	3.5	0.5	▲14742(I-20/XⅢ)	No.37
317	106	A03	B07	台形石器	OB3B	15.2	10.1	5.6	0.7	▲14705(J-20/XⅢ)	-
317	107	A03	B07	台形石器	OB3A	13.7	10.9	4.0	0.5	▲14579(J-20/XⅢ)	-
317	108	A03	B07	台形石器	OB3A	13.3	13.9	4.5	0.7	▲14551(I-20/XⅢ)	-
317	109	A03	B07	台形石器	OB3A	14.6	16.6	5.6	1.0	▲11911(J-20/XⅢ下)	-
317	110	A03	B07	台形石器	OB3A	14.4	15.8	5.1	1.0	▲12581(J-20/XⅢ)	-
317	111	A03	B07	台形石器	OB3A	16.8	16.4	4.2	0.7	▲14707(J-20/XⅢ)	No.33
317	112	A03	B07	台形石器	OB3A	15.9	15.5	4.5	0.8	▲11956(J-20/XⅢ)	-
317	113	A03	B07	台形石器	OB3A	14.4	16.4	6.7	1.2	▲12380(I-20/XⅢ)	-
317	114	A03	B07	台形石器	OB3A	14.4	15.7	5.7	1.0	▲12012(I-20/XⅢ)	-
317	115	A03	B07	台形石器	OB3A	17.3	15.3	3.8	0.7	▲12511(I-20/XⅢ)	-
317	116	A03	B07	台形石器	OB3A	13.8	17.7	6.1	1.0	▲12550(J-20/XⅢ)	No.33
317	117	A03	B07	台形石器	OB3A	16.0	18.2	4.9	1.1	▲12344(I-20/XⅢ下)	-
317	118	A03	B07	台形石器	OB3B	13.2	15.0	5.1	1.0	▲14546(J-20/XⅢ)	-
317	119	A03	B07	台形石器	OB3A	16.3	16.2	5.8	1.3	▲12525(I-20/XⅢ)	-
317	120	A03	B07	台形石器	OB3A	14.0	18.2	3.9	0.7	▲12546(J-20/XⅢ)	No.28
317	121	A03	B07	台形石器	OB3A	13.3	14.6	3.6	0.5	▲12306(J-20/XⅢ)	-
317	122	A03	B07	台形石器	OB3A	15.5	17.3	4.2	0.9	▲14517(I-20/XⅢ)	-
317	123	A03	B07	台形石器	OB3A	16.9	17.2	4.2	1.0	▲11912(J-20/XⅢ下)	-
317	124	A03	B07	二次加工剥片	OB3A	18.8	11.7	4.5	0.6	▲12064(I-20/XⅢ)	-
317	125	A03	B07	剥片	OB3A	15.4	12.6	4.9	0.9	▲12019(I-20/XⅢ下)	-
317	126	A03	B07	二次加工剥片	OB3A	19.0	14.2	5.8	0.7	▲12334(J-20/XⅢ下)	-
317	127	A03	B07	台形石器	CH1	16.5	16.2	4.8	1.2	▲12383(I-20/XⅢ)	-
317	128	A03	B07	二次加工剥片	OB3B	18.2	23.2	4.9	1.1	▲12597(J-20/XⅢ)	-

第65表 第Ⅱ文化層第3エリア出土石器観察表(8)

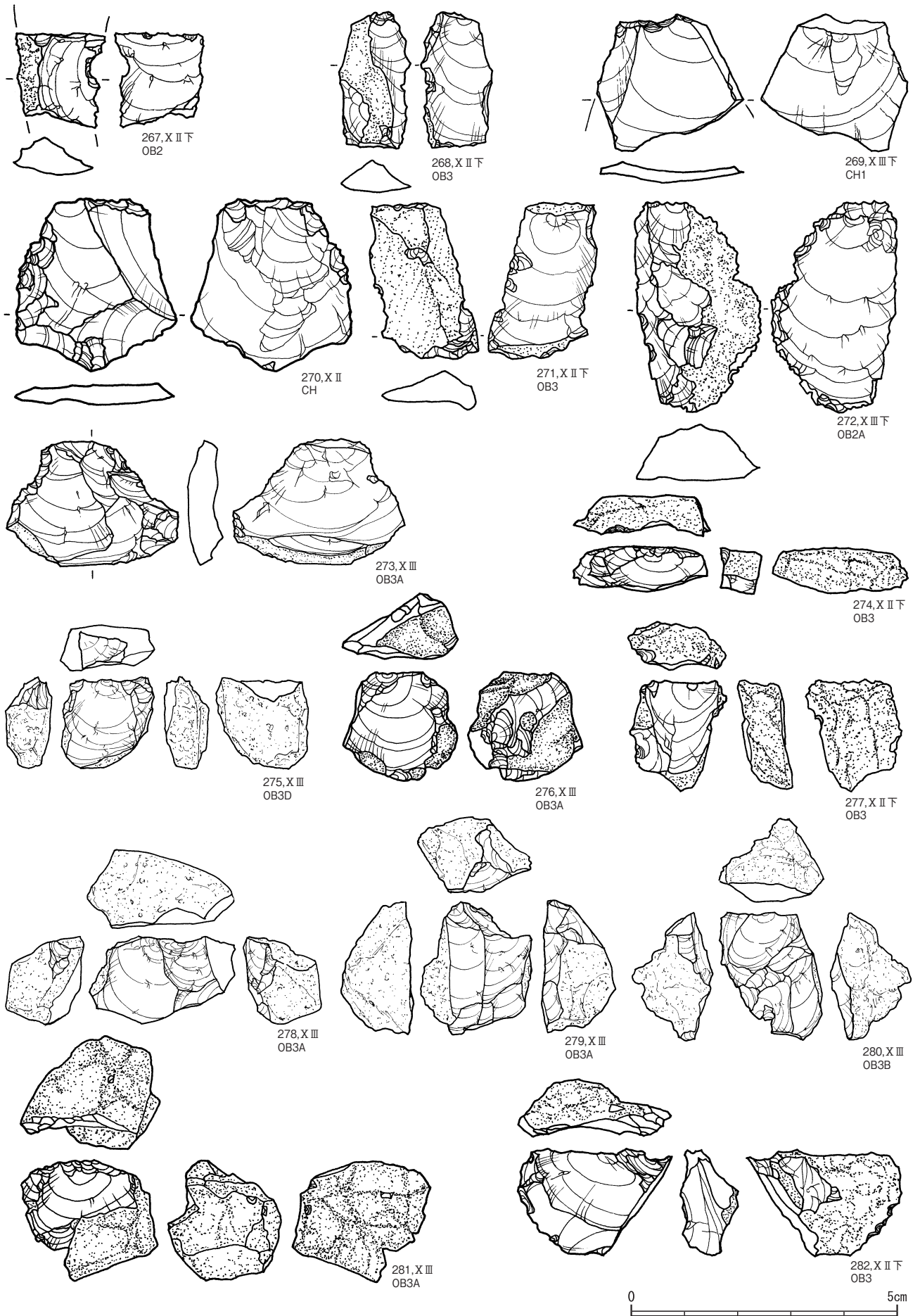
種目No	図No	エリア	ブロック	分類L2	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)	接合No
317	129	A03	B07	剥片	OB3A	20.3	14.9	7.1	1.2	▲14497(I-20/XⅢ)	No.28
317	130	A03	B07	剥片	OB3A	14.4	21.7	6.3	1.2	▲14718(J-20/XⅢ)	No.36
317	131	A03	B07	剥片	OB3A	13.4	20.8	4.7	0.8	▲14677(I-20/XⅢ)	-
317	132	A03	B07	二次加工剥片	OB3A	22.8	17.9	9.7	2.9	▲12495(I-20/XⅢ)	No.26
317	133	A03	B07	台形石器	OB3A	22.0	17.1	6.2	1.6	▲12517(I-20/XⅢ)	-
317	134	A03	B07	二次加工剥片	OB3A	36.7	14.6	6.8	2.1	▲12527(I-20/XⅢ)	No.32
318	135	A03	B07	台形石器	OB3A	23.7	25.6	9.6	4.1	▲11939(J-20/XⅢ)	-
318	136	A03	B07	二次加工剥片	OB3A	18.0	11.3	5.1	0.9	▲12426(J-20/XⅢ下)	-
318	137	A03	B07	二次加工剥片	OB3A	16.2	12.0	5.0	0.6	▲12542(J-20/XⅢ)	-
318	138	A03	B07	剥片	OB3A	17.2	10.8	4.1	0.6	▲12428(J-20/XⅢ下)	-
318	139	A03	B07	剥片	OB3A	18.2	9.8	3.5	0.5	▲14728(J-20/XⅢ)	-
318	140	A03	B07	剥片	OB3A	16.3	12.0	2.7	0.3	▲11917(J-20/XⅢ)	-
318	141	A03	B07	剥片	OB3A	20.1	11.5	5.7	0.7	▲11943(J-20/XⅢ下)	-
318	142	A03	B07	二次加工剥片	OB3A	19.6	11.2	3.7	0.7	▲11901(J-20/XⅢ)	-
318	143	A03	B07	剥片	OB3A	11.3	12.6	-	1.5	▲14713(J-20/XⅢ)	-
318	144	A03	B07	二次加工剥片	OB3A	15.5	12.6	-	0.6	▲11948(J-20/XⅢ下)	No.37
318	145	A03	B07	剥片	OB3A	18.0	11.4	3.5	0.5	▲12103(I-20/XⅢ)	-
318	146	A03	B07	剥片	CH1	19.8	9.9	5.3	0.5	▲12551(I-20/XⅢ)	-
318	147	A03	B07	剥片	OB3A	15.3	13.3	3.9	0.6	▲14499(I-20/XⅢ)	-
318	148	A03	B07	剥片	OB3A	14.1	14.0	3.3	0.5	▲12404(I-20/XⅢ下)	-
318	149	A03	B07	剥片	OB3A	14.8	12.7	2.7	0.3	▲12476(I-20/XⅢ)	-
318	150	A03	B07	剥片	OB3A	18.3	10.5	4.0	0.5	▲14492(I-20/XⅢ)	-
318	151	A03	B07	剥片	OB3A	11.6	13.3	3.0	0.4	▲12532(J-20/XⅢ)	-
318	152	A03	B07	剥片	OB3A	17.1	9.7	2.5	0.3	▲14552(I-20/XⅢ)	-
318	153	A03	B07	剥片	OB3A	18.0	9.2	7.4	0.7	▲12052(I-20/XⅢ)	-
318	154	A03	B07	剥片	OB3A	16.9	11.6	4.2	0.4	▲14685(J-20/XⅢ)	-
318	155	A03	B07	剥片	OB3A	19.9	14.1	3.7	0.7	▲12107(I-20/XⅢ)	-
318	156	A03	B07	剥片	OB3A	15.4	16.7	2.7	0.4	▲14689(J-20/XⅢ)	-
318	157	A03	B07	剥片	OB3A	15.3	11.3	2.8	0.3	▲12420(J-20/XⅢ下)	-
318	158	A03	B07	剥片	OB3A	19.2	13.3	3.2	0.4	▲12523(I-20/XⅢ)	-
318	159	A03	B07	二次加工剥片	OB3A	18.4	13.6	6.0	1.0	▲12065(I-20/XⅢ)	No.31
318	160	A03	B07	二次加工剥片	OB3A	19.1	12.1	3.6	0.7	▲12414(I-20/XⅢ)	No.37
318	161	A03	B07	剥片	OB3A	19.7	12.9	4.0	0.8	▲12118(I-20/XⅢ)	-
318	162	A03	B07	剥片	OB3A	19.9	15.3	5.9	1.2	▲12294(J-20/XⅢ)	-
318	163	A03	B07	剥片	OB3B	13.9	15.0	5.5	1.0	▲11925(J-20/XⅢ)	-
318	164	A03	B07	剥片	OB3A	21.2	14.0	4.7	1.0	▲12536(J-20/XⅢ)	-
318	165	A03	B07	剥片	OB3A	24.4	12.3	2.8	0.8	▲14733(J-20/XⅢ)	-
318	166	A03	B07	剥片	OB3A	15.3	13.1	-	0.6	▲14535(I-20/XⅢ)	No.25
318	167	A03	B07	剥片	OB3A	15.2	15.9	-	1.0	▲12513(I-20/XⅢ)	No.25
318	168	A03	B07	剥片	OB3A	24.9	18.0	3.3	1.3	▲12016(I-20/XⅢ)	-
318	169	A03	B07	剥片	OB3B	15.8	17.4	3.9	0.7	▲14550(I-20/XⅢ)	-
318	170	A03	B07	剥片	OB3A	13.7	16.8	5.0	0.8	▲14532(I-20/XⅢ)	-
318	171	A03	B07	剥片	OB3B	19.8	15.9	7.0	1.6	▲14585(I-20/XⅢ)	-
318	172	A03	B07	剥片	OB3B	23.5	15.8	6.1	1.7	▲12024(I-20/XⅢ)	-
318	173	A03	B07	剥片	OB3A	25.9	15.2	7.2	1.2	▲12037(I-20/XⅢ)	-
318	174	A03	B07	剥片	OB3B	23.5	16.8	6.7	1.9	▲14502(I-20/XⅢ)	-
318	175	A03	B07	剥片	OB3A	20.2	19.2	6.7	1.9	▲12580(J-20/XⅢ)	-
319	176	A03	B07	剥片	OB3	8.0	16.0	3.6	0.2	▲14719(J-20/XⅢ)	-



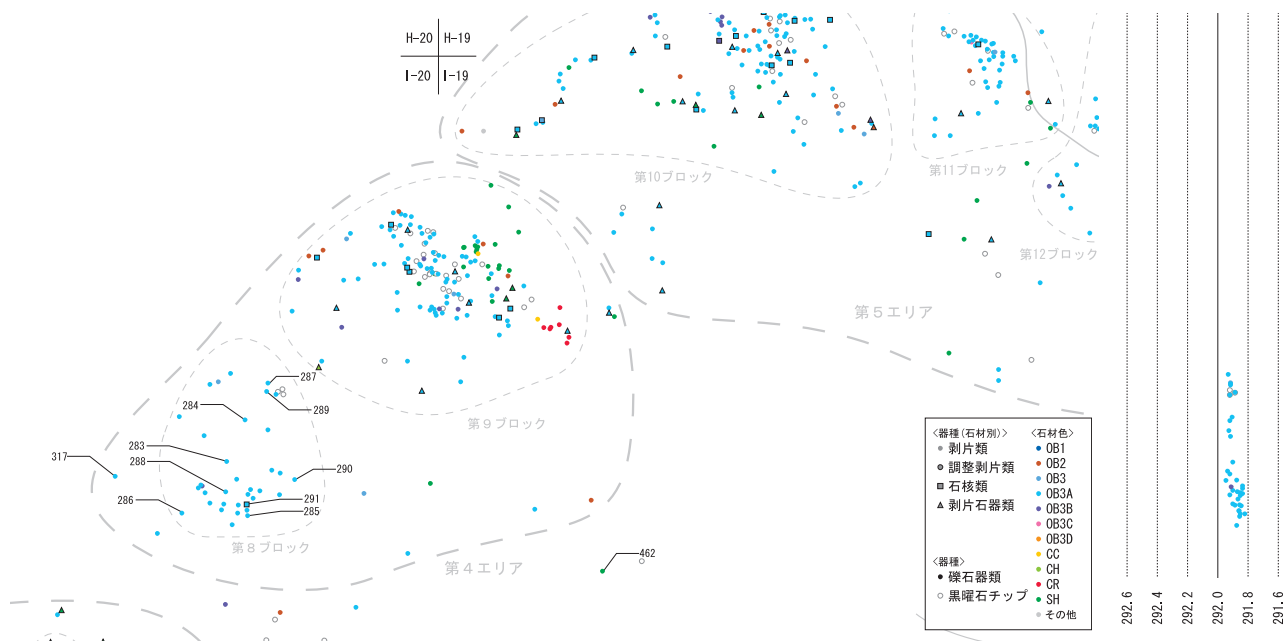
第324図 第Ⅱ文化層第3エリアブロック外石器出土状況図



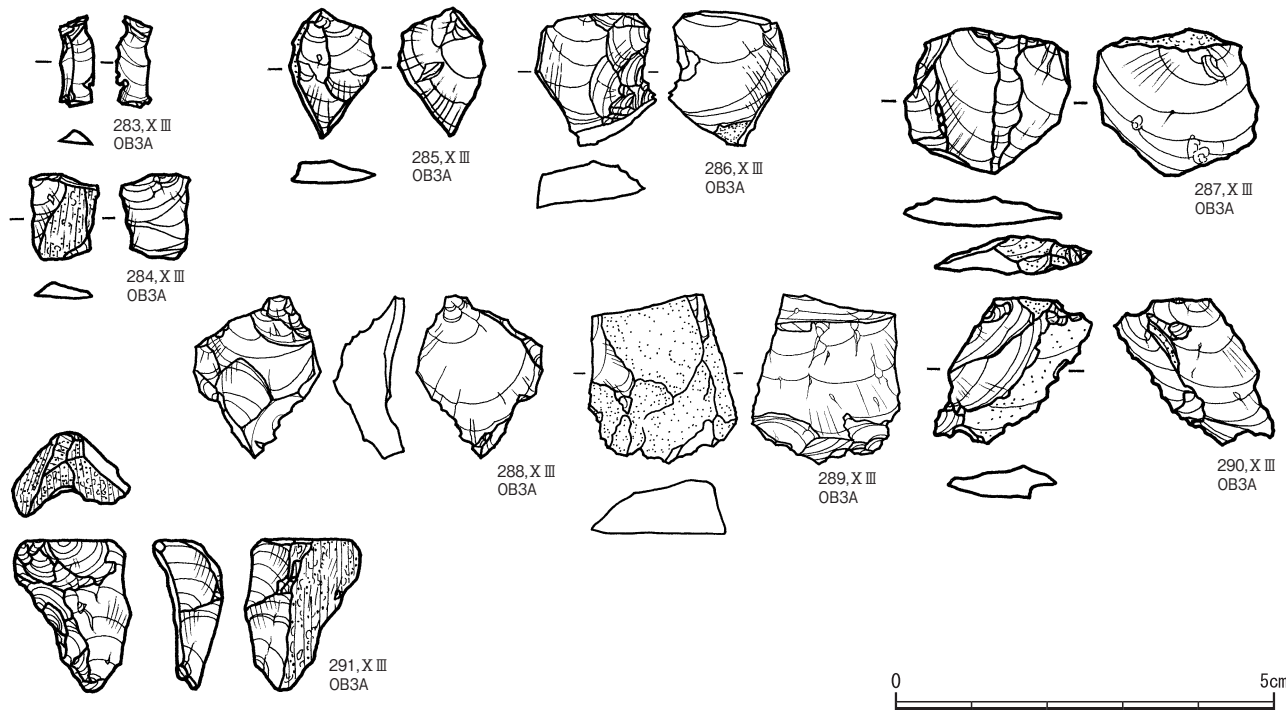
第325図 第Ⅱ文化層第3エリアブロック外出土石器実測図(1)



第326図 第Ⅱ文化層第3エリアブロック外出土石器実測図(2)



第327図 第Ⅱ文化層第4エリア第8ブロック石器出土状況図



第328図 第Ⅱ文化層第4エリア第8ブロック出土石器実測図

第8ブロックには製品は確認されず、素材剥片(287・288)と石核(291)が残されている。第9ブロックでは10点の台形石器と素材剥片、石核が認められる。ブロック外で台形石器1点(316)が加わる。

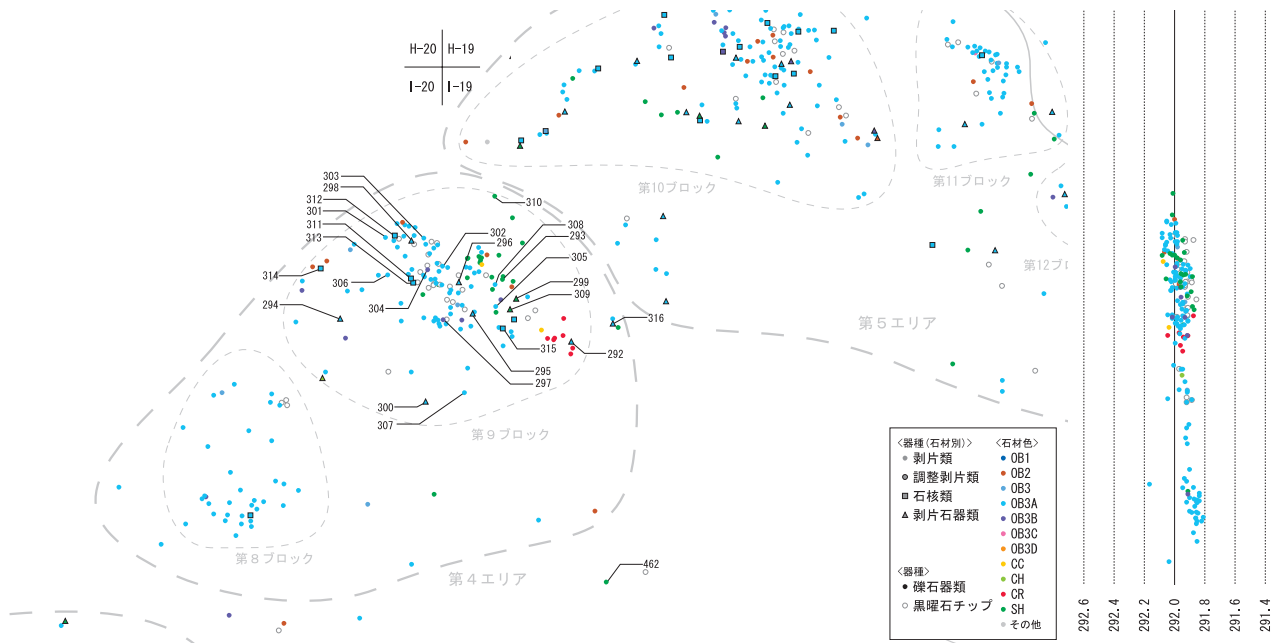
第9ブロックの台形石器は、先の第3エリアと同種のもの(294・297)と若干長軸を意識した形状のもの(298～300・309)が存在する。298・300では素材を縦方向に、299では横方向にして加工を加え、台形様石器的な形状をなしている。298はやや縦長の不定形剥片の形状を活かして右側縁に、299は横長剥片を縦位に用い打面除去を主に、309はレンズ状剥片を縦位にし両側縁に二次加工を加え仕上げている。292・293

は基部の整形が進行し、逆三角形の形状を成している。293は打面転移の見られる素材を横位に用い、打面を大きく除去している。

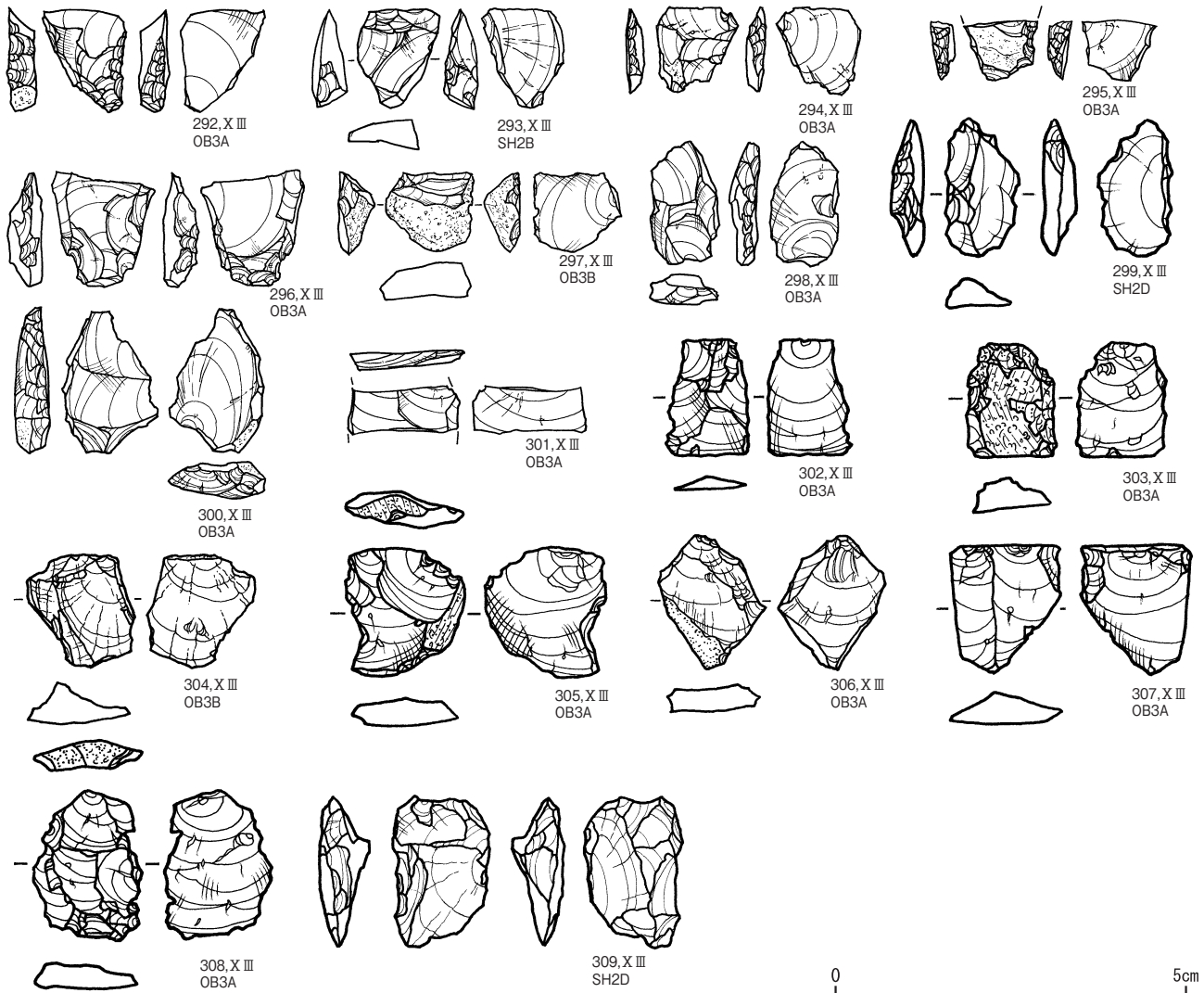
石核の素材は角礫で、第3エリアの特徴と同一で形状や剥離技術に変異は認められない。

第5エリア

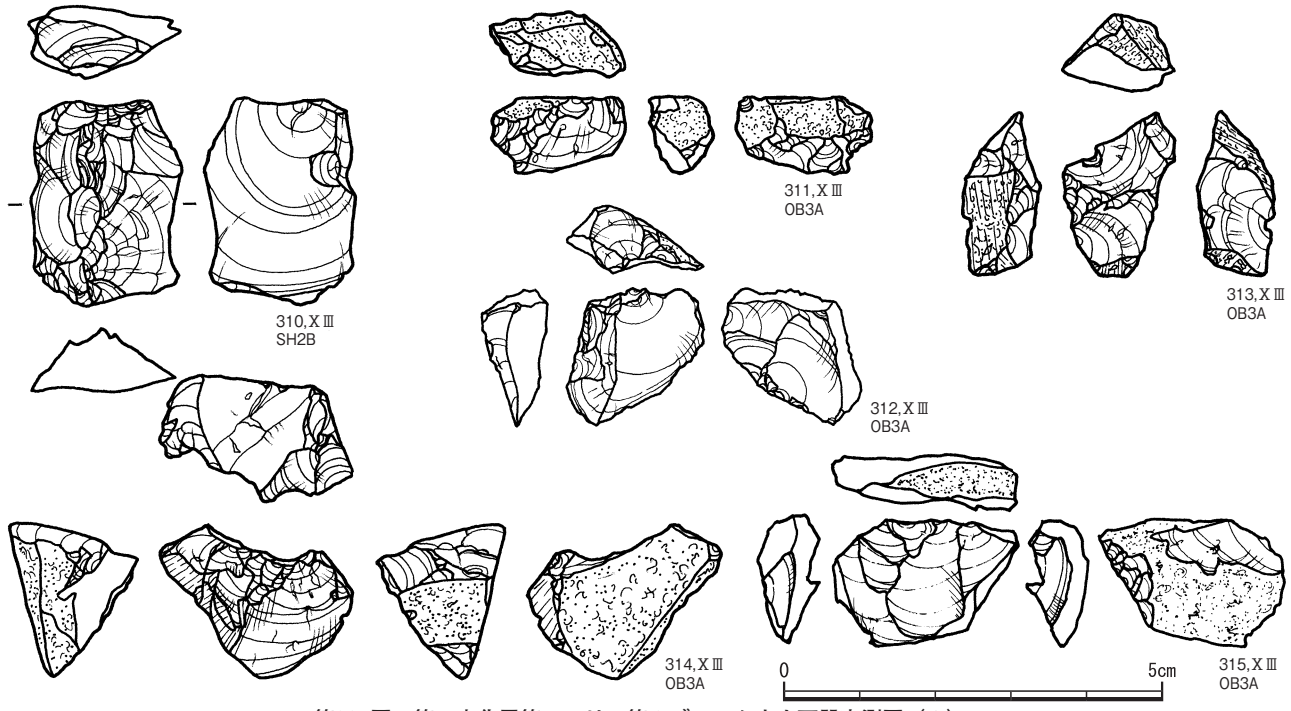
第10～第13の4ブロックで構成し、南側の第10ブロックから北側の第14ブロックが弧状に展開する状況を観察できる。石材は黒曜石Ⅲ類を主体に、第12ブロックは単独、第13ブロックでは頁岩が加わり、他では黒曜石Ⅱ類がわずかに含まれる。



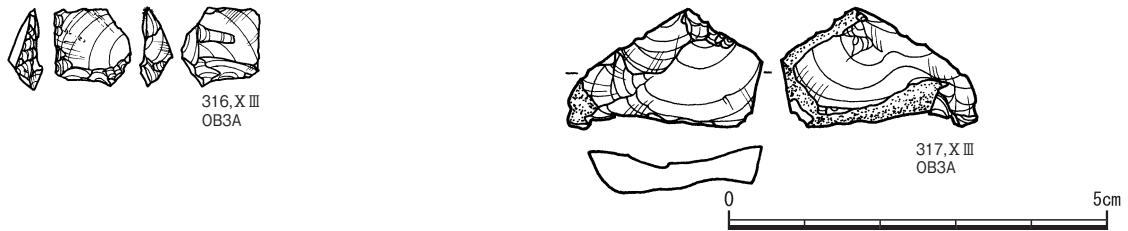
第329図 第Ⅱ文化層第4エリア第9ブロック石器出土状況図



第330図 第Ⅱ文化層第4エリア第9ブロック出土石器実測図(1)



第331図 第Ⅱ文化層第4エリア第9ブロック出土石器実測図(2)



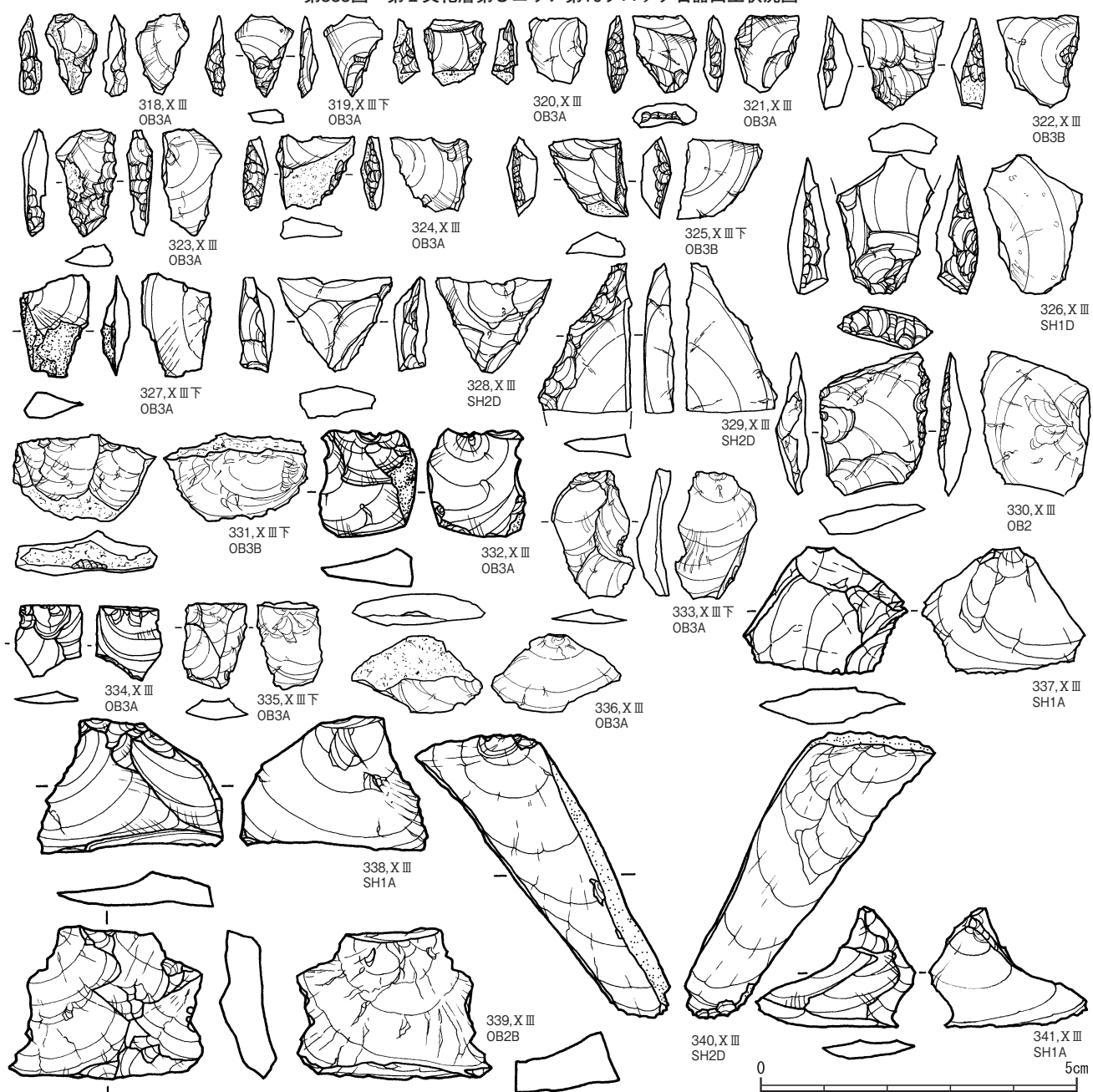
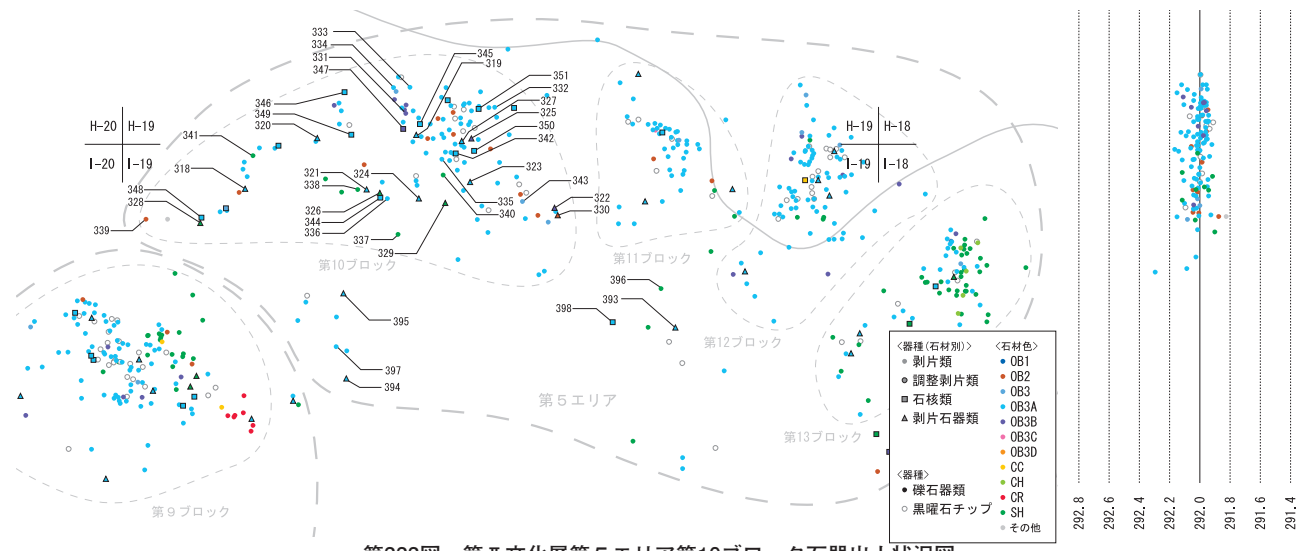
第332図 第Ⅱ文化層第4エリアブロック外出土石器実測図

第66表 第Ⅱ文化層第3エリア出土石器観察表(9)

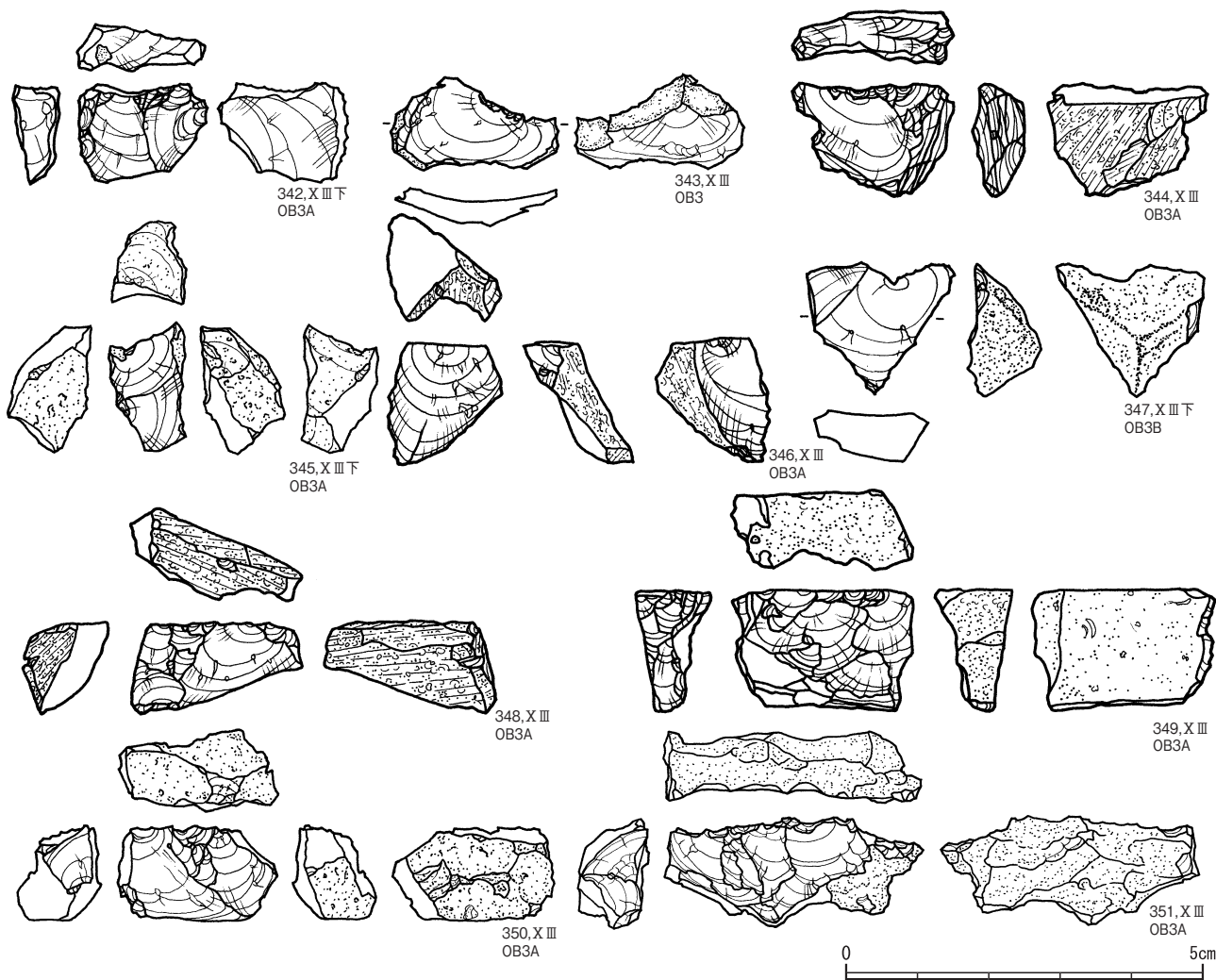
標本No	図No	エリア	ブロック	分類L2	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)	接合No
319	177	A03	B07	剥片	OB3A	12.3	16.0	3.5	0.5	▲12567(J-20/XⅢ)	-
319	178	A03	B07	剥片	OB3A	15.9	14.9	3.0	0.4	▲12563(I-20/XⅢ)	-
319	179	A03	B07	剥片	OB3A	17.5	17.4	4.2	1.0	▲12583(J-20/XⅢ)	-
319	180	A03	B07	剥片	OB3A	14.6	19.3	2.7	0.5	▲12584(J-20/XⅢ)	-
319	181	A03	B07	剥片	OB3B	15.3	17.2	3.1	0.7	▲14507(I-20/XⅢ)	-
319	182	A03	B07	剥片	OB3A	14.9	17.5	4.0	1.0	▲14687(J-20/XⅢ)	-
319	183	A03	B07	剥片	OB3A	16.1	19.8	5.7	1.5	▲14580(J-20/XⅢ)	-
319	184	A03	B07	剥片	OB3A	17.5	17.9	4.0	0.9	▲12123(I-20/XⅢ)	-
319	185	A03	B07	剥片	OB3A	18.8	16.1	2.4	0.6	▲12509(I-20/XⅢ)	-
319	186	A03	B07	剥片	OB3A	15.7	18.3	3.6	0.7	▲12596(J-20/XⅢ)	-
319	187	A03	B07	剥片	OB3A	15.8	18.7	4.6	0.8	▲12161(I-20/XⅢ)	No.36
319	188	A03	B07	剥片	OB3A	18.9	18.5	3.1	1.0	▲11913(J-20/XⅢ)	-
319	189	A03	B07	剥片	OB3B	18.4	16.7	4.4	1.0	▲14548(I-20/XⅢ)	-
319	190	A03	B07	剥片	OB3A	21.5	16.8	6.2	1.3	▲12472(I-20/XⅢ)	No.31
319	191	A03	B07	剥片	OB3A	19.1	19.2	4.7	1.4	▲12308(J-20/XⅢ)	-
319	192	A03	B07	剥片	OB3A	19.9	19.0	5.0	1.5	▲12508(I-20/XⅢ)	-
319	193	A03	B07	剥片	OB3A	20.6	17.2	8.0	1.9	▲11849(J-20/XⅢ)	No.27
319	194	A03	B07	剥片	CH1	20.1	20.2	4.9	1.1	▲12165(I-20/XⅢ)	-
319	195	A03	B07	剥片	OB3A	18.1	21.0	5.2	1.1	▲12041(J-20/XⅢ)	-
319	196	A03	B07	剥片	OB3A	18.3	20.9	3.9	0.9	▲12153(I-20/XⅢ)	-
319	197	A03	B07	剥片	OB3A	15.6	21.8	3.4	0.8	▲12393(I-20/XⅢ下)	-
319	198	A03	B07	剥片	OB3A	18.0	26.9	5.7	1.9	▲12014(I-20/XⅢ)	-
319	199	A03	B07	剥片	OB3A	18.5	21.7	4.0	0.8	▲12384(I-20/XⅢ)	-
319	200	A03	B07	剥片	OB3A	20.9	21.3	5.0	1.5	▲11904(J-20/XⅢ)	No.24
319	201	A03	B07	剥片	OB2A	19.4	26.4	-	1.9	▲14534(I-20/XⅢ)	-
319	202	A03	B07	剥片	OB3A	21.2	18.3	10.0	2.8	▲12415(I-20/XⅢ)	-
319	203	A03	B07	剥片	OB3A	19.4	22.7	9.5	2.8	▲14500(I-20/XⅢ)	-
319	204	A03	B07	剥片	OB3A	21.9	19.1	6.1	-	▲12108(I-20/XⅢ)	No.29
319	205	A03	B07	剥片	OB3A	22.0	23.8	-	1.7	▲14692(J-20/XⅢ)	-
319	206	A03	B07	剥片	OB2A	20.0	20.9	11.2	3.1	▲12145(I-20/XⅢ)	-
319	207	A03	B07	剥片	OB3A	22.4	23.3	9.9	2.3	▲14684(J-20/XⅢ)	-
320	208	A03	B07	微細剥離成剥片	CH1	28.9	21.0	9.5	2.4	▲12376(I-20/XⅢ)	-
320	209	A03	B07	剥片	OB3A	23.3	22.4	7.0	2.4	▲12304(J-20/XⅢ下)	-
320	210	A03	B07	剥片	OB3	23.7	22.1	3.7	1.2	▲12467(I-20/XⅢ)	-

第67表 第Ⅱ文化層第3エリア出土石器観察表(10)

標本No	図No	エリア	ブロック	分類L2	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)	接合No
320	211	A03	B07	剥片	OB3A	25.8	22.4	2.7	0.9	▲14531(I-20/XⅢ)	-
320	212	A03	B07	剥片	OB3A	32.4	16.9	6.6	3.4	▲14512(I-20/XⅢ)	-
320	213	A03	B07	剥片	OB3A	29.5	20.4	9.7	2.0	▲14520(I-20/XⅢ)	No.19
320	214	A03	B07	剥片	OB2A	45.5	41.5	10.5	19.2	▲14558(J-20/XⅢ)	-
320	215	A03	B07	剥片	OB3A	24.0	25.9	8.4	2.0	▲12471(I-20/XⅢ)	-
320	216	A03	B07	剥片	CH1	24.4	33.1	7.6	3.8	▲11933(J-20/XⅢ)	-
320	217	A03	B07	石核	OB3A	12.7	17.6	9.2	1.2	▲12599(J-20/XⅢ)	No.35
320	218	A03	B07	石核	OB3A	9.0	34.5	7.6	2.0	▲12018(I-20/XⅢ)	-
320	219	A03	B07	石核	OB3A	15.7	27.0	8.3	2.3	▲12026(I-20/XⅢ)	-
320	220	A03	B07	石核	OB3A	17.6	23.1	8.8	2.9	▲14528(I-20/XⅢ)	-
320	221	A03	B07	石核	OB3	15.9	22.3	16.0	5.1	▲12338(J-20/XⅢ下)	-
320	222	A03	B07	石核	OB3A	18.5	19.9	12.0	2.9	▲12111(I-20/XⅢ下)	-
320	223	A03	B07	石核	OB3A	19.2	23.9	10.4	3.5	▲12487(I-20/XⅢ)	-
320	224	A03	B07	石核	OB3A	23.0	21.6	8.5	2.9	▲12337(J-20/XⅢ)	-
321	225	A03	B07	石核	OB3A	19.2	17.3	8.5	2.3	▲12160(I-20/XⅢ)	-
321	226	A03	B07	石核	OB3A	15.4	28.9	12.0	4.4	▲12044(J-20/XⅢ)	-
321	227	A03	B07	石核	OB3A	16.4	19.0	13.5	4.6	▲14683(I-20/XⅢ)	No.37
321	228	A03	B07	石核	OB3A	16.3	20.5	12.7	3.6	▲12119(I-20/XⅢ)	No.33
321	229	A03	B07	石核	OB3A	15.0	22.5	7.8	1.7	▲12167(I-20/XⅢ)	-
321	230	A03	B07	石核	OB3A	12.5	25.2	9.7	1.8	▲12389(I-20/XⅢ下)	No.28
321	231	A03	B07	石核	OB3A	13.2	27.6	17.1	5.2	▲11910(I-20/XⅢ下)	-
321	232	A03	B07	石核	OB3A	31.0	17.3	8.6	3.0	▲12020(I-20/XⅢ)	No.20
321	233	A03	B07	剥片	OB3A	28.7	19.3	16.6	4.6	▲12109(I-20/XⅢ)	No.22
321	234	A03	B07	石核	OB3A	18.2	27.7	12.4	3.9	▲14514(I-20/XⅢ)	-
321	235	A03	B07	石核	OB3A	22.3	26.0	8.8	3.8	▲12490(I-20/XⅢ)	No.26
321	236	A03	B07	石核	OB3A	20.5	24.4	9.3	4.0	▲12475(I-20/XⅢ)	No.30
321	237	A03	B07	石核	OB3A	19.9	23.0	13.0	2.3	▲12461(I-20/XⅢ)	-
321	238	A03	B07	石核	OB3A	23.3	30.1	11.1	5.2	▲12521(I-20/XⅢ下)	No.19
321	239	A03	B07	石核	OB3A	20.9	29.8	11.3	4.4	▲14505(I-20/XⅢ)	-
321	240	A03	B07	石核	OB3A	15.4	32.2	20.7	5.9	▲12399(I-20/XⅢ)	-
321	241	A03	B07	石核	OB3A	20.2	29.3	8.6	3.3	▲12106(I-20/XⅢ)	No.22
322	242	A03	B07	石核	OB3A	14.8	27.0	18.0	5.1	▲12307(J-20/XⅢ)	-
322	243	A03	B07	石核	OB3A	33.3	28.3	13.0	8.6	▲11898(J-20/XⅢ)	-
322	244	A03	B07	石核	OB3A	26.2	31.7	15.6	10.0	▲11848(J-20/XⅢ)	-



第334図 第Ⅱ文化層第5エリア第10ブロック出土石器実測図(1)



第335図 第Ⅱ文化層第5エリア第10ブロック出土石器実測図(2)

台形石器の製作は同様で、25点が抽出できる。

318・319は丸刃で、前者は両側縁の調整がそのまま基部まで行われ、後者は右側縁を折断面で活かし左側縁に加工が集中し、結果、基部が尖る形状を呈している。2点とも小型の素材を選択し、319の基部は両面に調整を施している。他の台形石器は全て素材を横位に使い、323・326・395は基部まで調整加工が及び、尖り気味となる。特に、326では、腹面から整然とした調整剥離が観察される。同様の調整を395

第68表 第Ⅱ文化層第3エリア出土石器観察表(11)

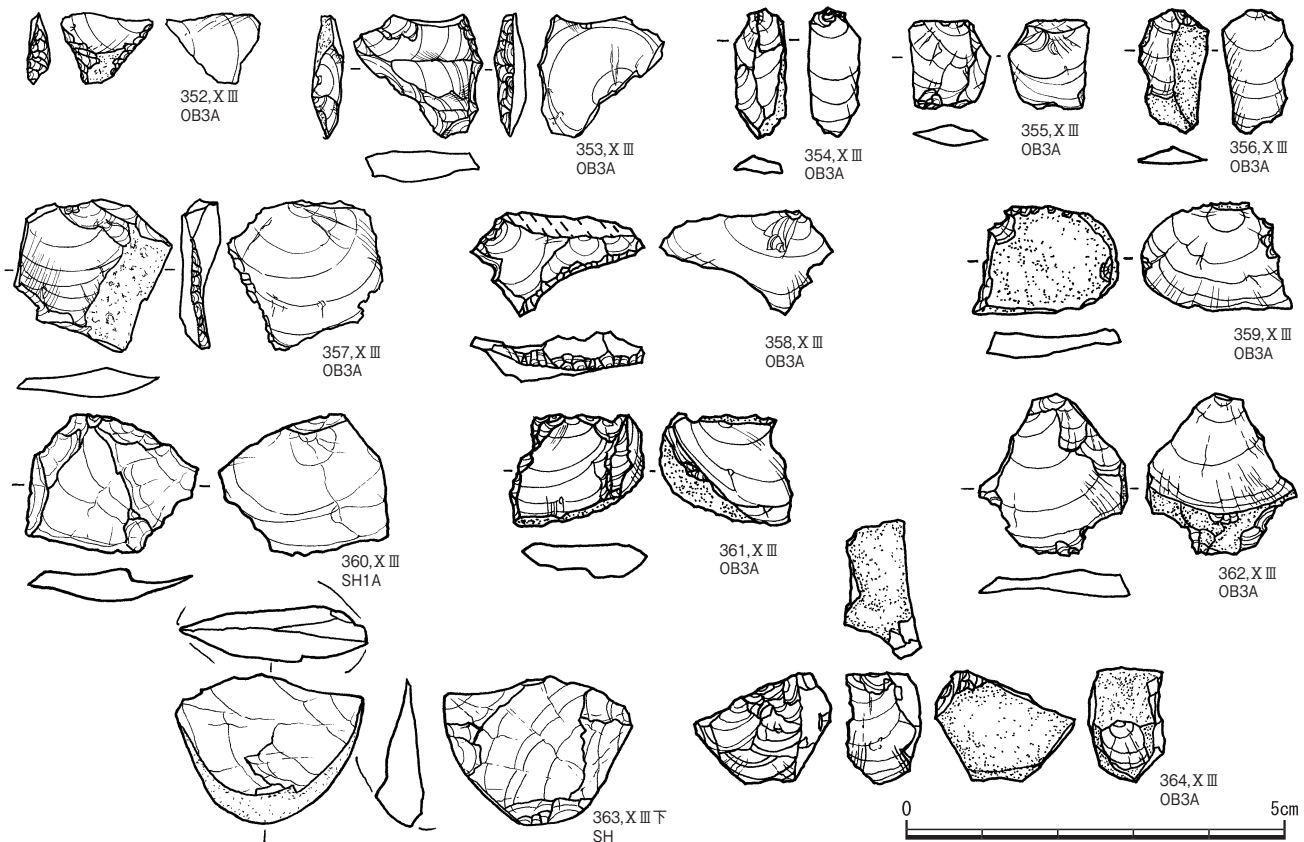
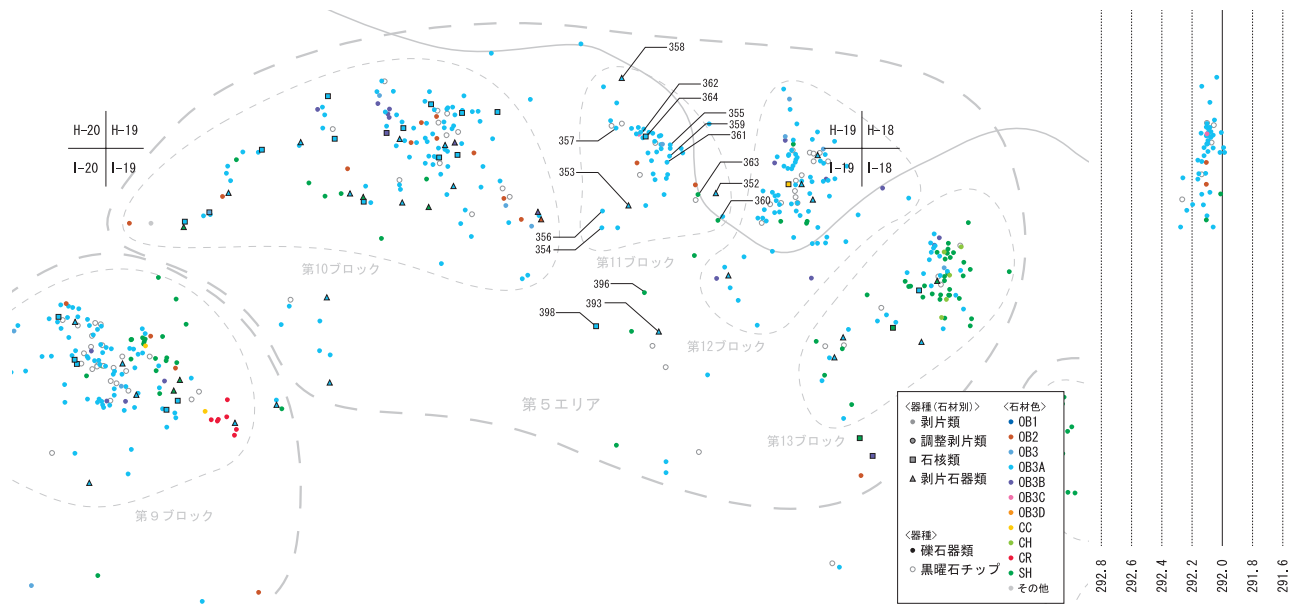
標本No	図No	エリア	ブロック	分類L2	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)	接合No
322	245	A03	B07	石核	OB3A	23.0	21.9	13.9	4.6	▲12528(J-20/XⅢ)	-
322	246	A03	B07	石核	OB3A	14.0	34.5	14.2	5.2	▲12424(J-20/XⅢ)	-
322	247	A03	B07	石核	OB3A	14.0	36.9	22.4	6.8	▲12072(I-20/XⅢ)	-
322	248	A03	B07	石核	OB3A	19.2	35.9	10.4	5.7	▲12045(I-20/XⅢ)	No.29
323	249	A03	B07	ハンマー	SH1	29.9	20.1	13.6	9.0	▲12484(I-20/XⅢ)	-
323	250	A03	B07	ハンマー	SA	59.9	27.5	21.1	41.4	▲11728(I-20/XⅢ)	-
325	251	A03	B00	台形石器	SH	14.1	14.3	4.8	0.9	▲12099(I-20/XⅡ下)	-
325	252	A03	B00	台形石器	SH	20.2	11.9	5.9	1.0	▲12095(I-20/XⅡ下)	-
325	253	A03	B00	台形石器	OB3A	17.3	16.0	4.6	1.2	▲14920(J-20/XⅢ)	-
325	254	A03	B00	台形石器	OB3	16.2	15.8	5.7	1.0	▲11788(J-20/XⅡ下)	-
325	255	A03	B00	台形石器	OB3	15.8	19.1	6.3	1.3	▲11864(J-20/XⅡ下)	-
325	256	A03	B00	台形石器	OB3A	17.8	19.5	5.8	1.7	▲11968(I-20/XⅢ)	-
325	257	A03	B00	剥片	OB3	10.3	8.2	2.0	0.1	▲11513(J-20/X)	-
325	258	A03	B00	台形石器	OB2	20.3	12.9	-	1.3	▲12150(I-20/XⅡ下)	-
325	259	A03	B00	剥片	OB3	15.0	15.9	2.5	0.6	▲11795(J-20/XⅡ)	-
325	260	A03	B00	剥片	OB3	15.8	15.8	3.0	0.5	▲12074(I-20/XⅡ下)	-
325	261	A03	B00	剥片	OB3	18.0	12.4	8.2	1.3	▲11856(J-20/XⅡ下)	-
325	262	A03	B00	剥片	OB3	20.7	7.1	5.2	0.4	▲12131(I-20/XⅡ下)	-
325	263	A03	B00	剥片	OB3A	15.6	19.8	5.3	0.7	▲12087(I-20/XⅢ)	-

でも観察でき、調整剥離は背面の奥まで進行している。また、323・326・367の3点は主軸を長く設定している。318～320・352・393等は特に、素材剥片の選択段階から小型化の傾向を見て取れる。352の素材剥片は、折断剥片の先端部を選択した可能性が高い。327・330は素材剥片の打面はそのまま一側縁に活かしている。366の右側縁は折断面が活かされる。

329・371は削器の可能性が高い。

第69表 第Ⅱ文化層第3エリア出土石器観察表(12)

標本No	図No	エリア	ブロック	分類L2	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)	接合No
325	264	A03	B00	剥片	OB3	15.2	14.9	5.4	0.7	▲11882(J-20/XⅡ下)	-
325	265	A03	B00	剥片	OB3A	18.4	18.8	7.6	2.0	▲11890(J-20/XⅡ下)	No.27
325	266	A03	B00	剥片	OB3A	19.4	13.4	-	-	▲11878(J-20/XⅢ下)	No.25
326	267	A03	B00	剥片	OB2	18.1	17.0	8.0	2.2	▲11987(I-20/XⅡ下)	-
326	268	A03	B00	剥片	OB3	25.7	13.7	7.5	2.0	▲11922(J-20/XⅡ下)	-
326	269	A03	B00	剥片	CH1	26.0	27.8	7.8	3.0	▲12083(I-20/XⅢ下)	-
326	270	A03	B00	微細調整剥片	CH	32.7	30.6	7.2	5.8	▲11873(J-20/XⅡ)	-
326	271	A03	B00	剥片	OB3	29.6	20.7	7.5	3.0	▲12120(I-20/XⅡ下)	-
326	272	A03	B00	剥片	OB2A	40.1	23.9	11.0	10.0	▲12088(I-20/XⅢ下)	-
326	273	A03	B00	剥片	OB3A	23.9	32.6	6.9	4.2	▲14958(J-20/XⅢ)	-
326	274	A03	B00	石核	OB3	8.9	25.7	8.1	1.8	▲12055(I-20/XⅡ下)	-
326	275	A03	B00	石核	OB3D	17.3	17.6	9.0	2.9	▲14952(J-20/XⅢ)	-
326	276	A03	B00	石核	OB3A	20.8	21.8	12.6	3.7	▲14919(J-20/XⅢ)	No.03
326	277	A03	B00	石核	OB3	21.3	18.3	10.6	3.0	▲11823(J-20/XⅡ下)	-
326	278	A03	B00	石核	OB3A	16.7	27.6	14.9	5.1	▲11743(J-20/XⅢ)	-
326	279	A03	B00	石核	OB3A	25.2	21.1	14.2	5.7	▲14906(J-20/XⅢ)	-
326	280	A03	B00	石核	OB3B	24.2	19.5	15.4	-	▲11724(J-20/XⅢ)	No.21
326	281	A03	B00	石核	OB3A	23.0	26.2	21.5	9.4	▲11748(J-20/XⅢ)	-
326	282	A03	B00	石核	OB3	20.3	29.2	11.2	4.0	▲12076(I-20/XⅡ下)	-

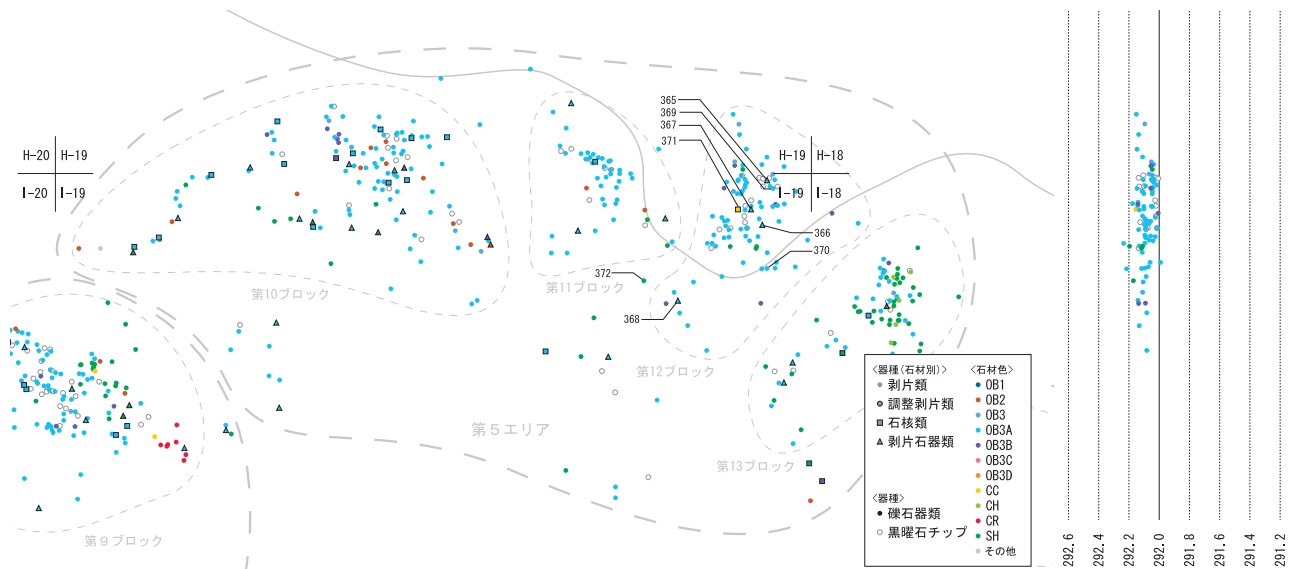


第70表 第Ⅱ文化層第4エリア出土石器観察表(1)

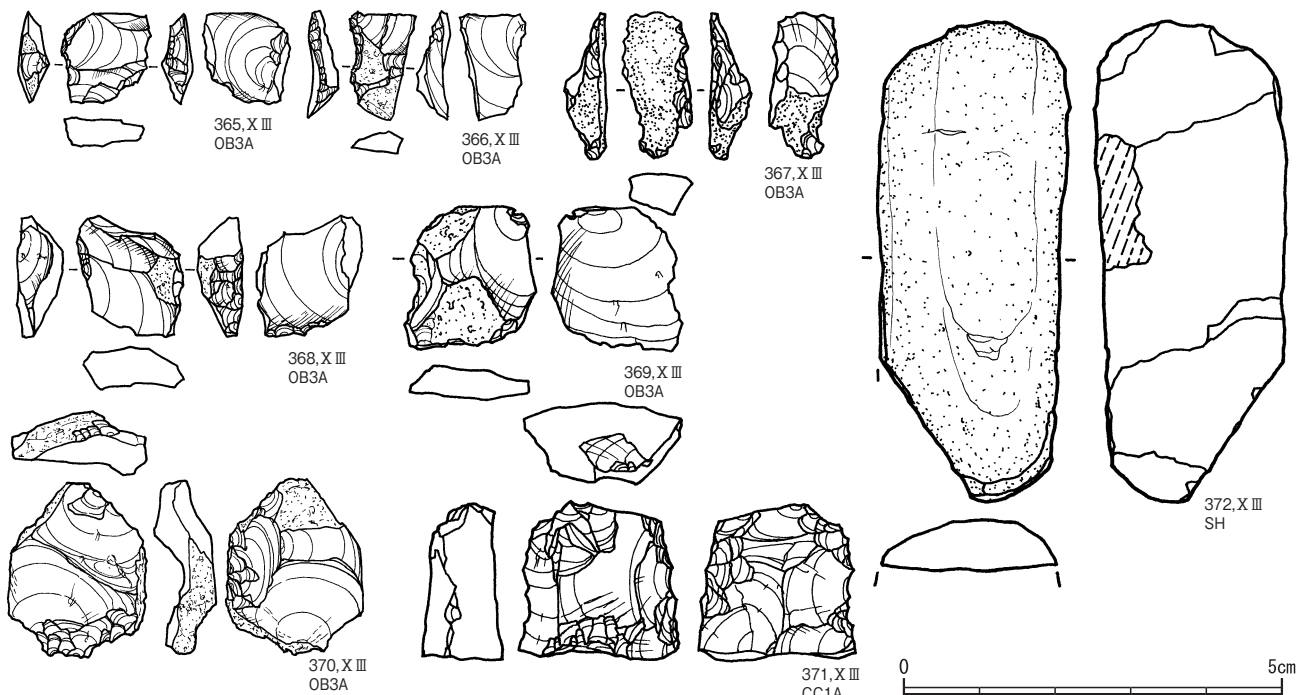
挿入No	図No	エリア	ブロック	分類L2	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)	接合No
328	283	A04	B08	剥片	OB3A	12.2	5.1	2.0	0.1	▲3464(I-20/X III)	-
328	284	A04	B08	剥片	OB3A	11.7	9.6	2.9	0.2	▲3755(I-20/X III)	-
328	285	A04	B08	剥片	OB3A	17.3	11.8	3.2	0.5	▲3456(I-20/X III)	-
328	286	A04	B08	剥片	OB3A	18.0	16.2	9.0	1.6	▲3467(I-20/X III)	-
328	287	A04	B08	剥片	OB3A	19.7	22.0	5.5	1.8	▲3757(I-20/X III)	-
328	288	A04	B08	剥片	OB3A	21.7	17.0	9.6	1.4	▲3462(I-20/X III)	-
328	289	A04	B08	剥片	OB3A	22.7	19.8	7.2	2.9	▲3758(I-20/X III)	-
328	290	A04	B08	剥片	OB3A	19.8	21.4	5.0	1.1	▲3446(I-20/X III)	-
328	291	A04	B08	石核	OB3A	20.4	15.7	9.6	1.5	▲3454(I-20/X III)	-
330	292	A04	B09	台形石器	OB3A	14.8	12.3	4.6	0.6	▲3821(I-19/X III)	-
330	293	A04	B09	台形石器	SH2B	14.4	11.9	5.2	0.7	▲4077(I-19/X III)	-
330	294	A04	B09	台形石器	OB3A	12.7	12.2	2.9	0.3	▲3745(I-20/X III)	-

第71表 第Ⅱ文化層第4エリア出土石器観察表(2)

挿入No	図No	エリア	ブロック	分類L2	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)	接合No
330	295	A04	B09	台形石器	OB3A	8.8	10.8	3.7	0.3	▲3914(I-19/X III)	-
330	296	A04	B09	台形石器	OB3A	16.7	14.9	5.3	0.9	▲3850(I-19/X III)	No.40
330	297	A04	B09	台形石器	OB3B	11.5	12.7	5.5	0.6	▲3884(I-19/X III)	-
330	298	A04	B09	台形石器	OB3A	18.0	10.0	4.6	0.7	▲3725(I-20/X III)	-
330	299	A04	B09	台形石器	SH2D	19.7	11.0	5.2	0.7	▲3828(I-19/X III)	-
330	300	A04	B09	台形石器	OB3A	20.8	13.7	5.3	1.2	▲3769(I-20/X III)	-
330	301	A04	B09	剥片	OB3A	7.0	16.4	3.1	0.3	▲3731(I-20/X III)	-
330	302	A04	B09	剥片	OB3A	17.0	12.4	2.6	0.3	▲3856(I-19/X III)	-
330	303	A04	B09	剥片	OB3A	16.7	13.2	4.4	1.1	▲3864(I-20/X III)	-
330	304	A04	B09	剥片	OB3B	16.5	15.7	6.3	1.0	▲3777(I-20/X III)	-
330	305	A04	B09	剥片	OB3A	19.0	17.7	4.0	1.0	▲3794(I-19/X III)	-
330	306	A04	B09	剥片	OB3A	19.4	15.6	5.5	1.2	▲3734(I-20/X III)	-



第338図 第Ⅱ文化層第5エリア第12ブロック石器出土状況図



第339図 第Ⅱ文化層第5エリア第12ブロック出土石器実測図

石核は348・351・399等から、礫面を持つ角礫素材が多用途され、非調整剥片剥離が基盤と判断される。なお、391・392の石核は頁岩である。

372のハンマーは損傷が激しく、縦方向に分割破損している。

第6エリア

第14～第16の3ブロックで構成し、黒曜石Ⅲ類に頁岩が追従する。

9点(400・408～411・420・422・424・426)の台形石器を抽出し、他は台形石器製作に関わる剥片と石核である。

400は腹面が湾曲した剥片を縦方向に用い、腹面からの刃潰し加工で主軸を縦長に仕上げている。410は打面部分を折断した形状を大きく変えることなく、腹面から整然と刃潰し加工を行い、基部にも及んでいる。411は側縁に礫面部を活

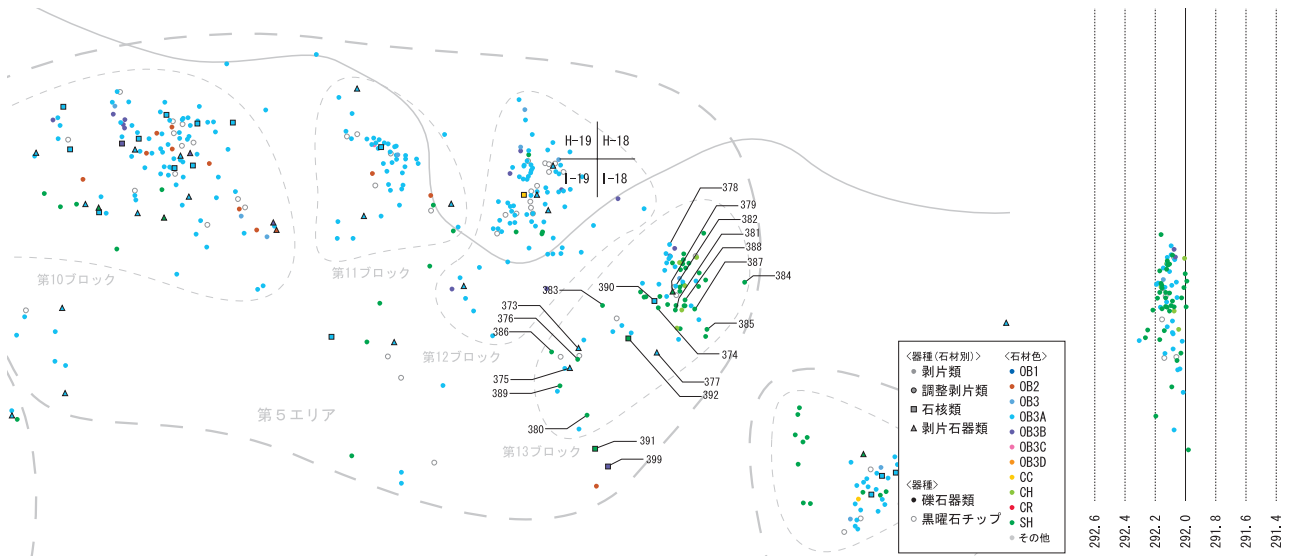
かし、調整を最小限に押さえている。420・422は、素材剥片の選択段階から小型化の傾向がみられる。424は礫面打面を活かし、背面を主に整形隔離を行っている。426は打面転移の見られる素材を用い、素材の形状を保っている。

石核素材はこれまでと同様、礫面を持つ角礫素材で正面を作業対象とし、背面への剥離作業を行わないものが主流をなしている。436は稜上から交互に剥片剥離を行った、数少ない事例の一つである。

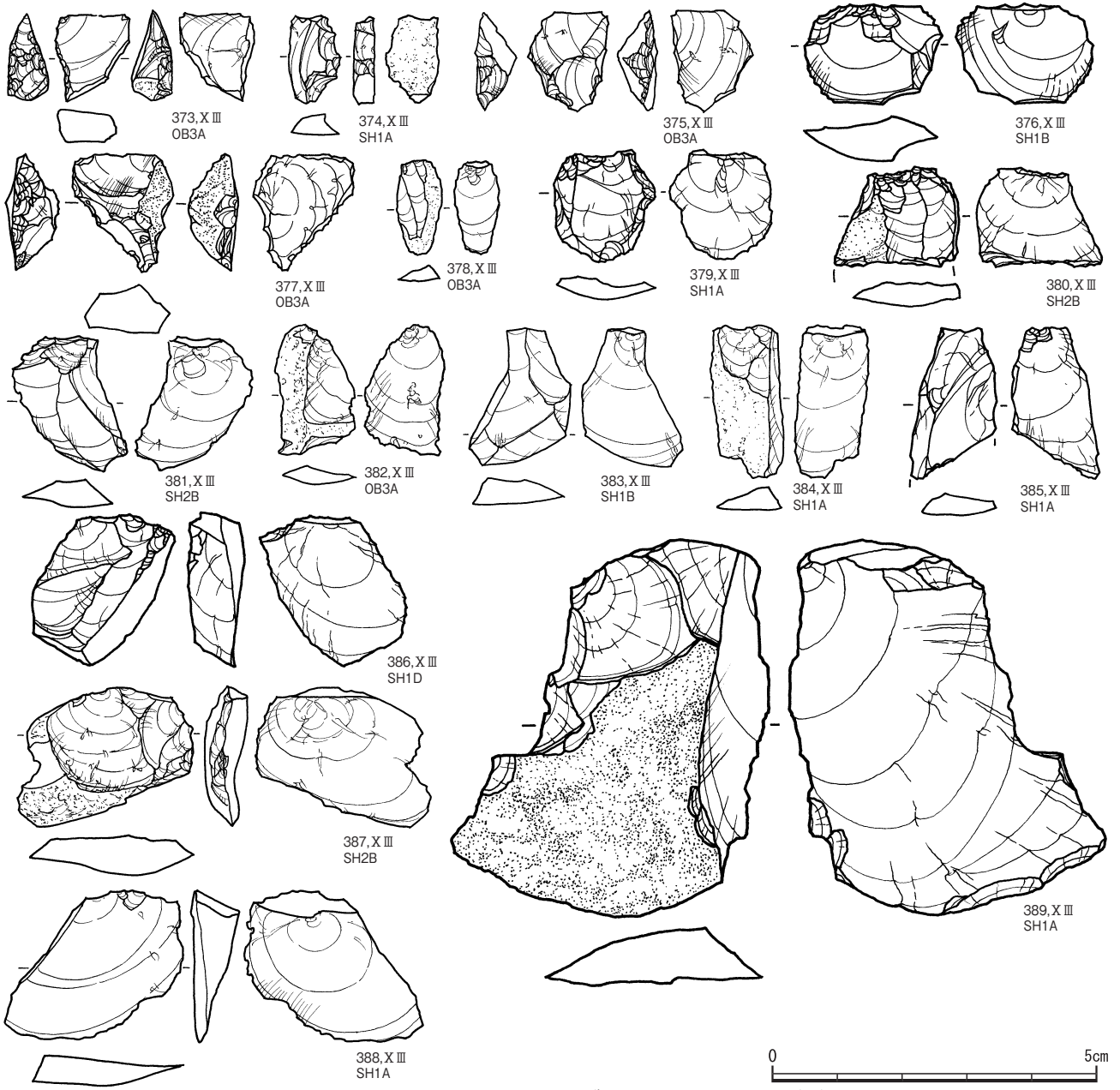
第7エリア

第17～第19の3ブロックで構成し、黒曜石Ⅲ類が主体であることは同じである。3ブロックは、台形石器(11点)の製作を濃厚に示す資料を含んでいるが、ブロック外からは縦長剥片関連の資料が認められる。

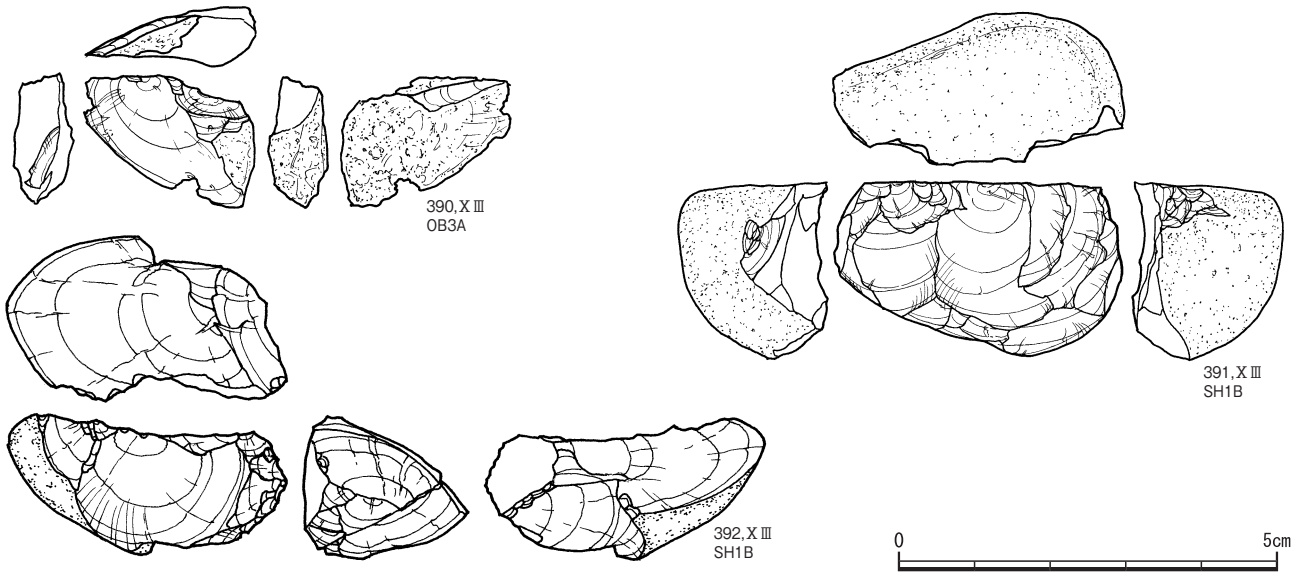
439は、小型剥片を折断した打面と端部に微細な調整剥離



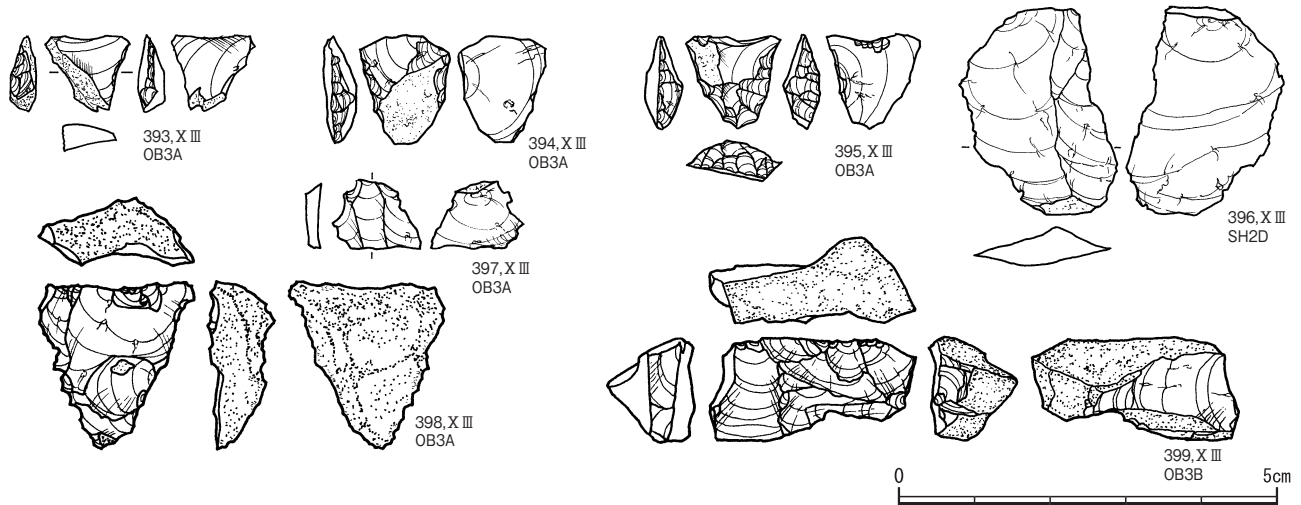
第340図 第Ⅱ文化層第5エリア第13ブロック石器出土状況図



第341図 第Ⅱ文化層第5エリア第13ブロック出土石器実測図(1)



第342図 第II文化層第5エリア第13ブロック出土石器実測図(2)



第343図 第II文化層第5エリアブロック外出土石器実測図

第72表 第II文化層第4エリア出土石器観察表(3)

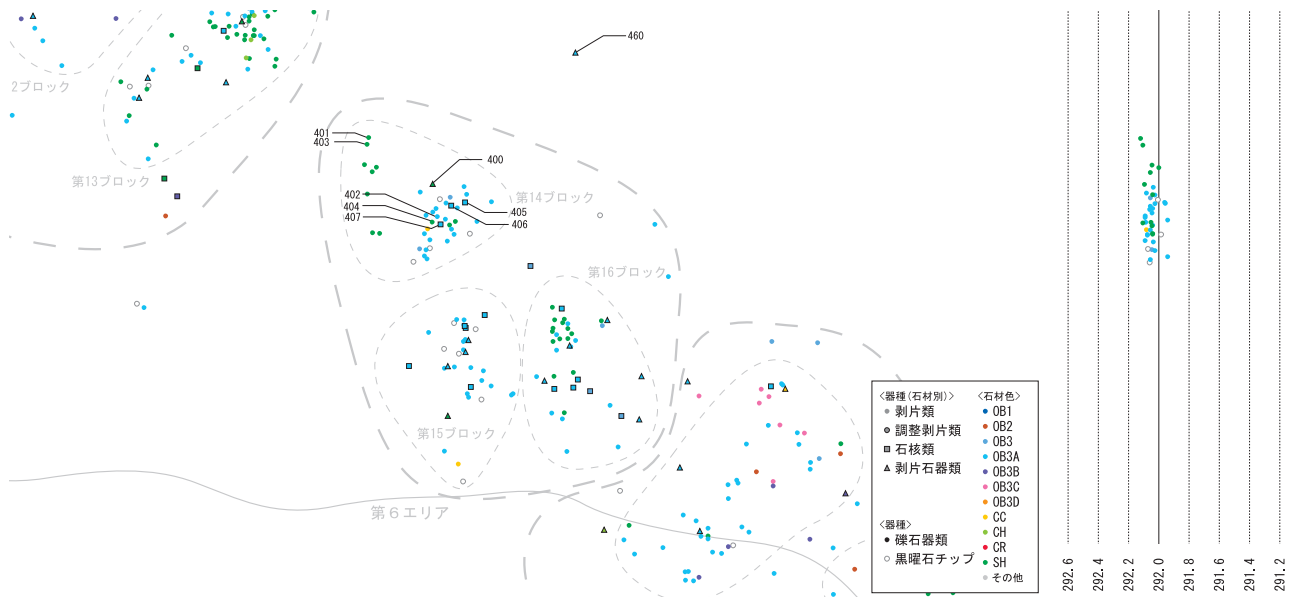
標頭No	図No	エリア	ブロック	分類L2	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)	接合No
330	307	A04	B09	剥片	OB3A	18.9	16.2	5.0	1.2	▲3789(I-19/X III)	-
330	308	A04	B09	剥片	OB3A	21.5	15.7	4.0	1.1	▲3797(I-19/X III)	-
330	309	A04	B09	台形石器	SH2D	21.8	14.4	7.9	1.8	▲4078(I-19/X III)	-
331	310	A04	B09	剥片	SH2B	27.8	20.4	9.9	5.8	▲3712(I-19/X III)	-
331	311	A04	B09	石核	OB3A	10.6	18.3	8.9	1.4	▲3773(I-20/X III)	-
331	312	A04	B09	石核	OB3A	18.3	18.7	9.0	1.5	▲3901(I-20/X III)	No.40
331	313	A04	B09	石核	OB3A	22.0	15.2	10.6	2.0	▲3726(I-20/X III)	-
331	314	A04	B09	石核	OB3A	20.7	26.1	17.3	4.9	▲3739(I-20/X III)	-
331	315	A04	B09	石核	OB3A	17.2	24.8	8.5	-	▲3793(I-19/X III)	No.38
332	316	A04	B00	台形石器	OB3A	10.5	10.6	4.7	0.4	▲3806(I-19/X III)	-
332	317	A04	B00	剥片	OB3A	16.1	26.2	6.2	1.8	▲3426(I-20/X III)	-

第73表 第II文化層第5エリア出土石器観察表(1)

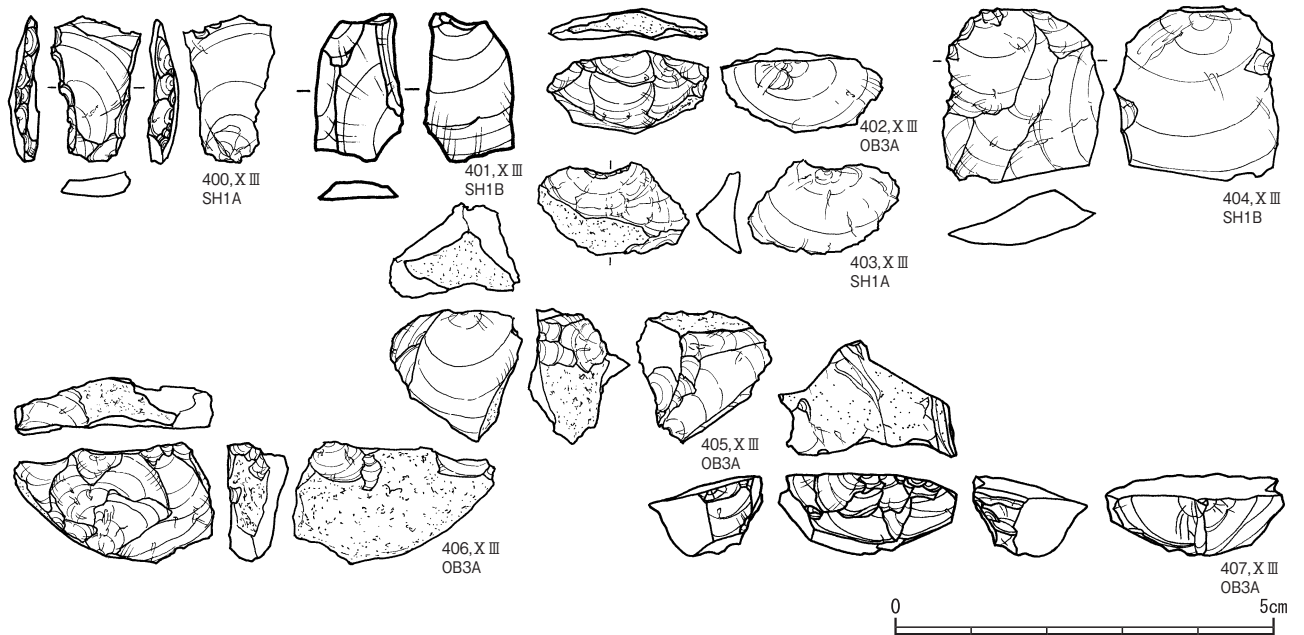
標頭No	図No	エリア	ブロック	分類L2	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)	接合No
334	318	A05	B10	台形石器	OB3A	12.9	8.6	3.8	0.2	▲3707(I-19/X III)	-
334	319	A05	B10	台形石器	OB3A	13.1	9.5	3.4	0.2	▲6854(H-19/X III下)	-
334	320	A05	B10	台形石器	OB3A	10.6	9.8	4.3	0.4	▲4057(H-19/X III)	-
334	321	A05	B10	台形石器	OB3A	12.4	10.3	3.7	0.4	▲4062(I-19/X III)	-
334	322	A05	B10	台形石器	OB3B	14.8	13.1	5.7	0.8	▲5893(I-19/X III)	-
334	323	A05	B10	台形石器	OB3A	17.0	9.7	4.3	0.5	▲5879(I-19/X III)	-
334	324	A05	B10	台形石器	OB3A	12.0	13.0	4.3	0.4	▲5876(I-19/X III)	-
334	325	A05	B10	台形石器	OB3B	12.9	13.7	5.0	0.6	▲6459(H-19/X III下)	-
334	326	A05	B10	台形石器	SH1D	22.3	15.7	6.8	1.8	▲3700(I-19/X III)	-
334	327	A05	B10	台形石器	OB3A	16.6	11.3	4.0	0.5	▲6458(H-19/X III下)	-
334	328	A05	B10	台形石器	SH2D	15.3	18.5	5.7	1.2	▲3711(I-19/X III)	-
334	329	A05	B10	削器	SH2D	23.8	14.6	5.0	1.4	▲5877(I-19/X III)	No.42
334	330	A05	B10	台形石器	OB2	23.1	17.5	5.4	1.4	▲5891(I-19/X III)	-
334	331	A05	B10	剥片	OB3B	14.1	23.0	7.3	1.6	▲6875(H-19/X III下)	-

第74表 第II文化層第5エリア出土石器観察表(2)

標頭No	図No	エリア	ブロック	分類L2	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)	接合No
334	332	A05	B10	剥片	OB3A	17.4	15.9	4.2	1.4	▲5865(H-19/X III)	-
334	333	A05	B10	剥片	OB3A	20.3	13.0	5.6	0.7	▲6471(H-19/X III下)	-
334	334	A05	B10	剥片	OB3A	11.9	10.7	2.0	0.2	▲5855(H-19/X III)	-
334	335	A05	B10	剥片	OB3A	14.2	10.5	3.3	0.4	▲6859(I-19/X III下)	-
334	336	A05	B10	剥片	OB3A	12.6	20.7	5.2	0.8	▲4064(I-19/X III)	-
334	337	A05	B10	剥片	SH1A	20.2	26.0	6.8	2.7	▲4065(I-19/X III)	-
334	338	A05	B10	剥片	SH1A	21.5	29.9	6.0	3.7	▲4061(I-19/X III)	No.39
334	339	A05	B10	剥片	OB2B	24.3	31.0	9.2	4.8	▲4076(I-19/X III)	-
334	340	A05	B10	剥片	SH2D	45.8	39.8	13.0	10.4	▲5874(I-19/X III)	No.42
334	341	A05	B10	剥片	SH1A	19.2	25.3	5.0	1.2	▲3704(I-19/X III)	No.39
335	342	A05	B10	石核	OB3A	14.2	18.5	6.9	1.5	▲6450(I-19/X III下)	-
335	343	A05	B10	剥片	OB3	13.5	24.0	5.5	0.9	▲5895(I-19/X III)	-
335	344	A05	B10	石核	OB3A	16.1	22.8	7.7	2.0	▲4063(I-19/X III)	-
335	345	A05	B10	石核	OB3A	18.2	11.0	12.1	1.5	▲6853(H-19/X III下)	-
335	346	A05	B10	石核	OB3A	17.7	16.4	15.7	1.3	▲4051(H-19/X III)	-
335	347	A05	B10	石核	OB3B	18.9	21.1	10.6	2.4	▲6467(H-19/X III下)	-
335	348	A05	B10	石核	OB3A	13.3	24.5	12.4	2.0	▲4074(H-19/X III)	-
335	349	A05	B10	石核	OB3A	17.5	26.1	11.0	4.2	▲4081(H-19/X III)	-
335	350	A05	B10	石核	OB3A	13.4	23.0	12.1	3.3	▲5870(H-19/X III)	-
335	351	A05	B10	石核	OB3A	15.5	36.5	10.3	4.0	▲5864(H-19/X III)	-
337	352	A05	B11	台形石器	OB3A	9.4	12.6	3.3	0.2	▲5913(I-19/X III)	-
337	353	A05	B11	台形石器	OB3A	16.3	16.9	4.4	0.9	▲5971(I-19/X III)	-
337	354	A05	B11	剥片	OB3A	17.3	7.2	2.6	0.2	▲5982(I-19/X III)	-
337	355	A05	B11	剥片	OB3A	12.1	10.9	3.0	0.4	▲6803(H-19/X III)	-
337	356	A05	B11	剥片	OB3A	16.5	9.6	3.0	0.3	▲5972(I-19/X III)	-
337	357	A05	B11	二次加工剥片	OB3A	19.9	20.8	5.6	1.6	▲5906(H-19/X III)	-
337	358	A05	B11	二次加工剥片	OB3A	14.1	23.1	7.0	0.8	▲5904(H-19/X III)	-
337	359	A05	B11	剥片	OB3A	14.6	20.1	4.0	0.9	▲5911(I-19/X III)	-



第344図 第Ⅱ文化層第6エリア第14ブロック石器出土状況図



第345図 第Ⅱ文化層第6エリア第14ブロック出土石器実測図

を加えている。449では素材剥片の形状をそのままに、腹面方向から3面に丁寧な刃潰しを施している。441・458は、基部方向を尖らし逆三角形に仕上げている。448も基部を意識した剥離が見られる。451・459・460は扁平な素材の主軸を縦長に設け、一側縁を主に調整加工を施している。

452・455等の石核はこれまでと同様で、小型の角礫素材選択が読みとれる。

ブロック外の469は二側縁加工ナイフ形石器で、打点方向を先端部としている。ブロック外出土の475・478・479等からは、縦長剥片を剥離する指向がみられる。平坦打面の石核から剥片剥離が行われたことが読みとられ、頭部調整が行われたとみられる。

第8エリア

黒曜石Ⅱ類に黒曜石Ⅲ類が加わる。

石核2点(483・484)と剥片を採取しているが、石器が確認できていない。484は礫面打面で、全周が作業対象となる。

第9エリア

頁岩が散在して構成する。

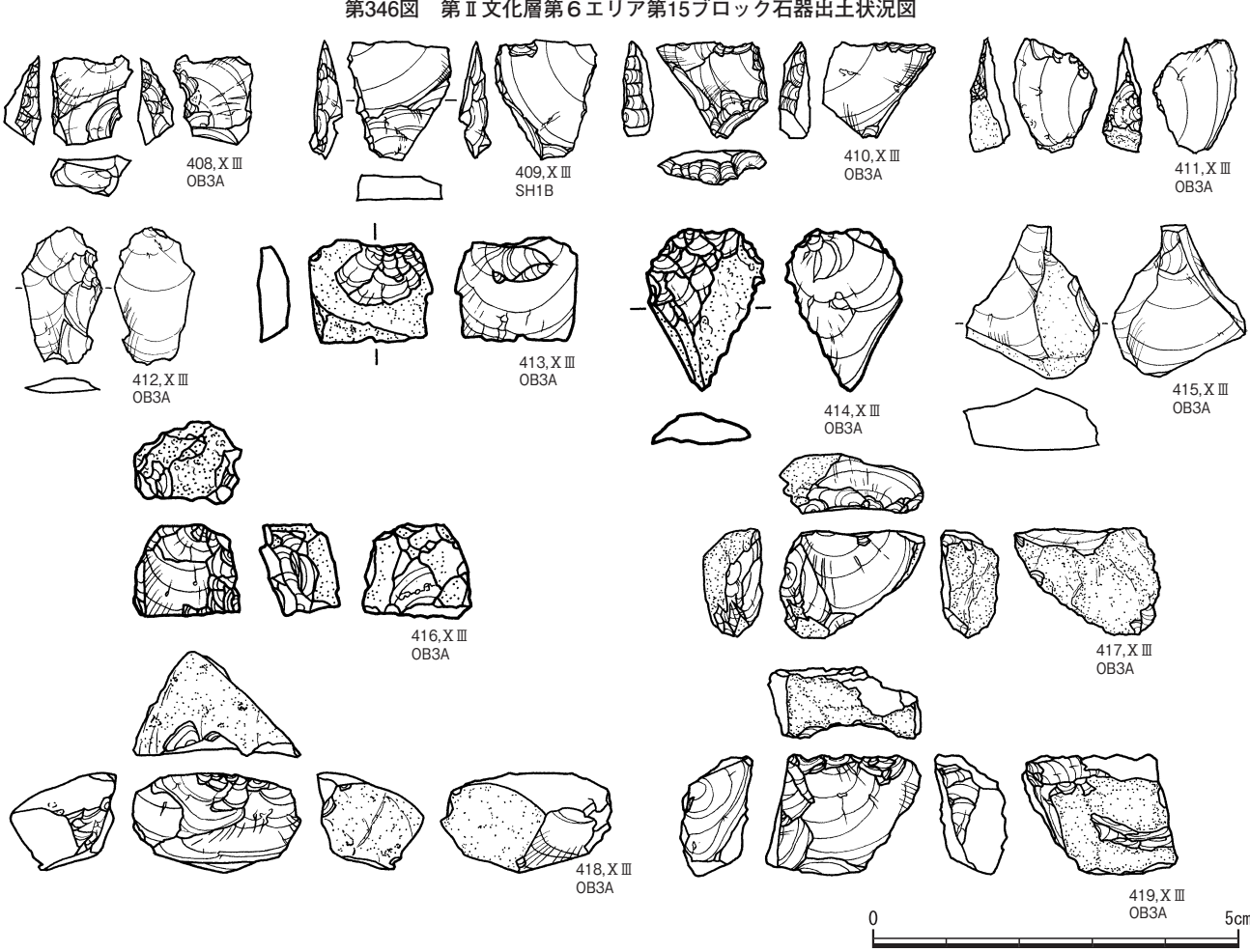
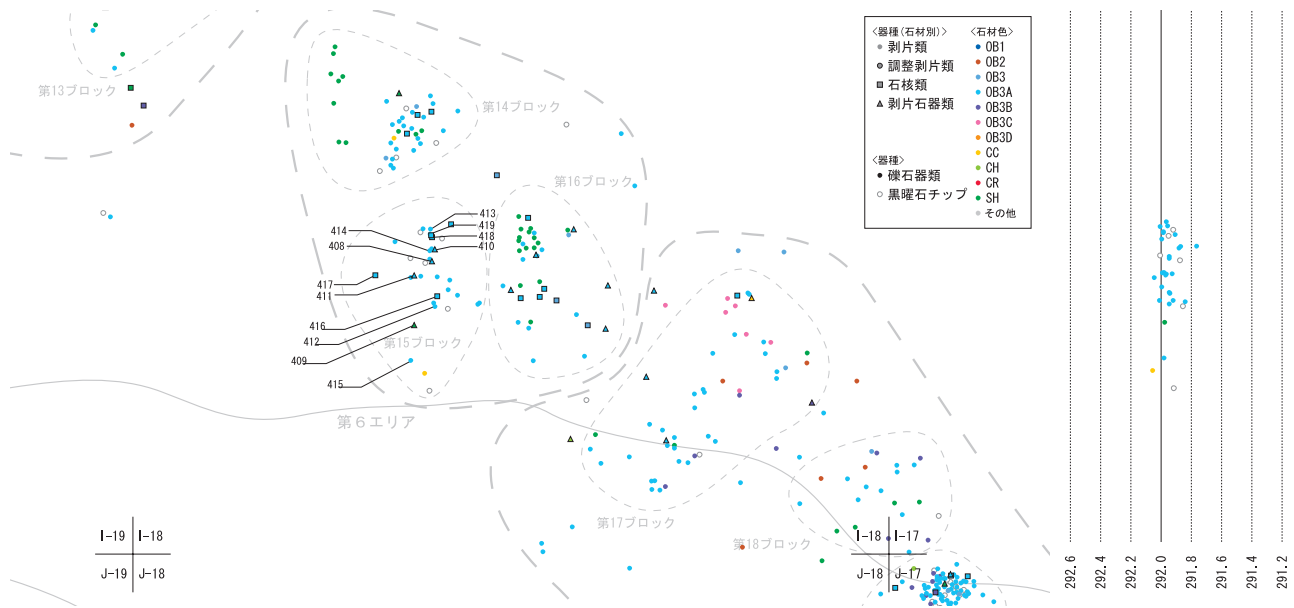
485は角錐状石器の基部と見られるが、他に明確な石器は出土していない。剥片488からは、打面転移が認められる。

第10エリア

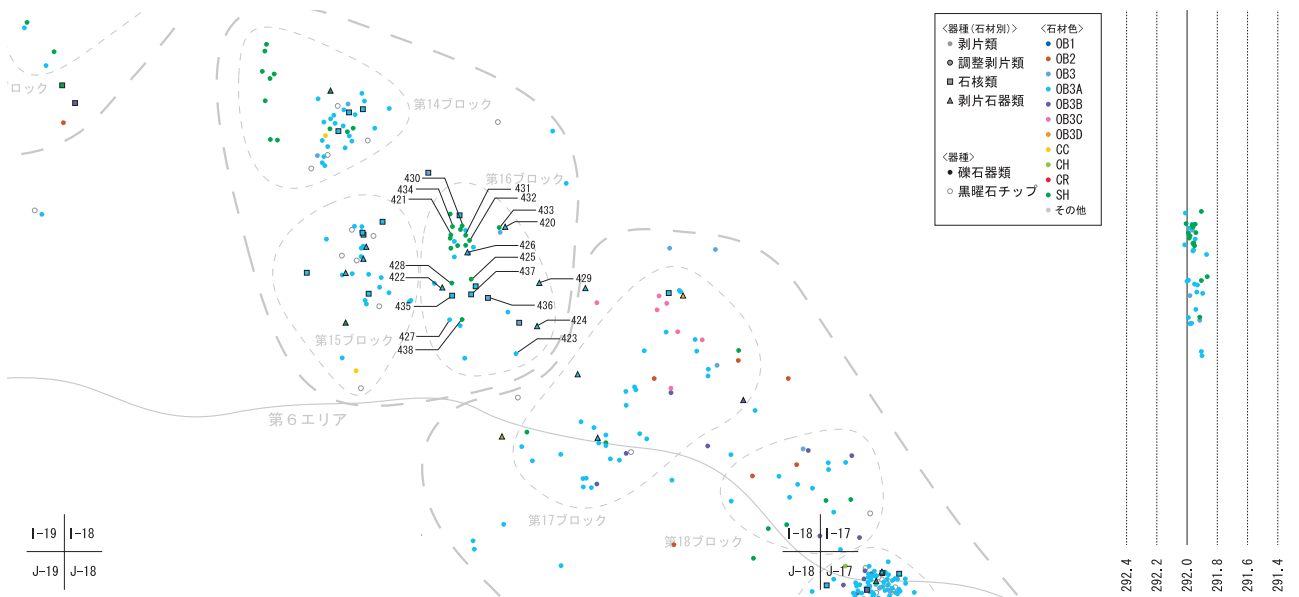
台形石器492が1点確認され、剥離方向の異なる小型の素材剥片を選択している。刃部は打面方向に設け、丁寧な調整剥離は3面に及び刃部の小剥離は刃部調整の可能性もある。

第11エリア

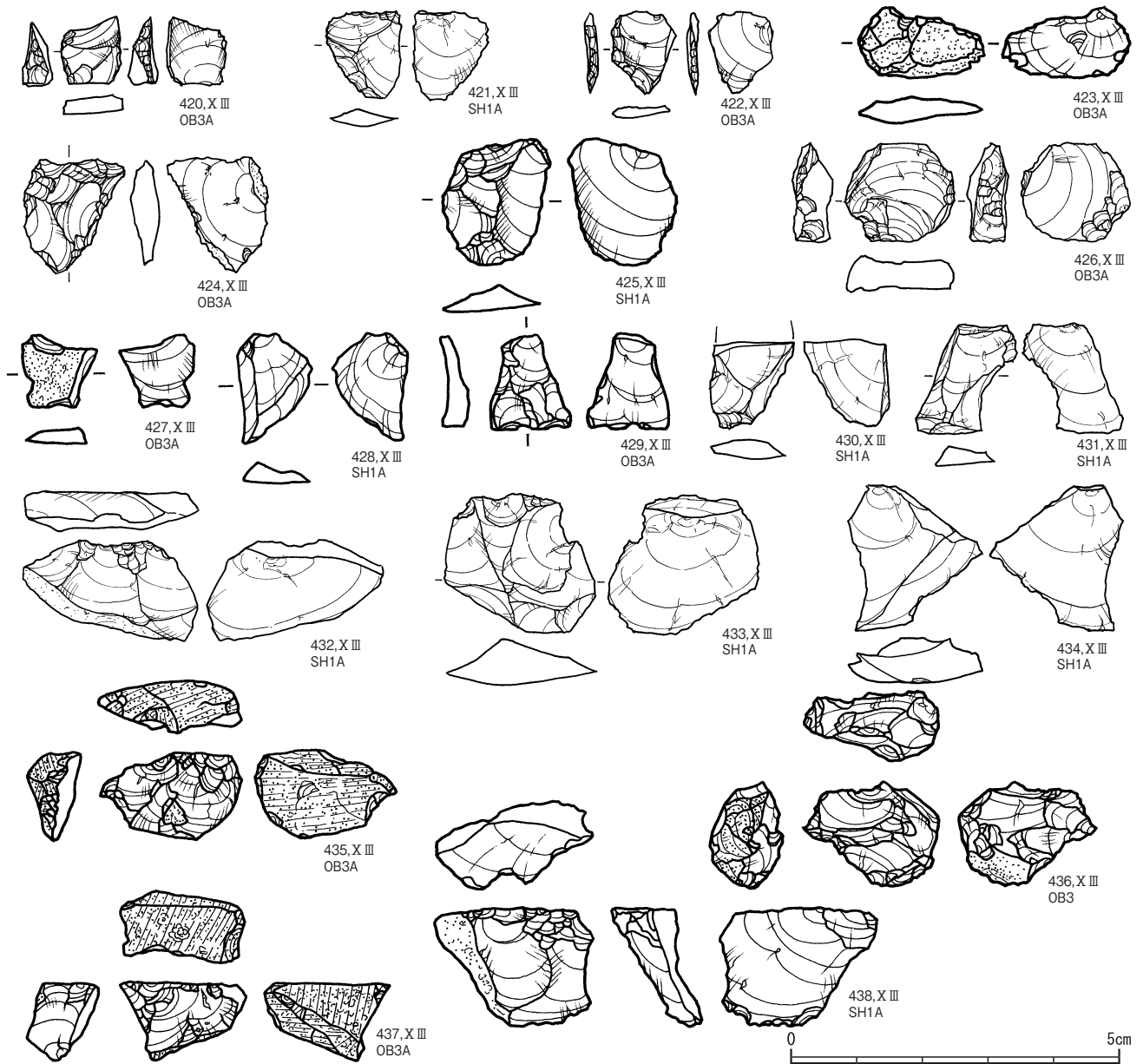
第21～第27の7ブロックで構成し、頁岩と玉髓が主要石材を占める。台形石器製作に関わるエリアで、環状ブロックエ



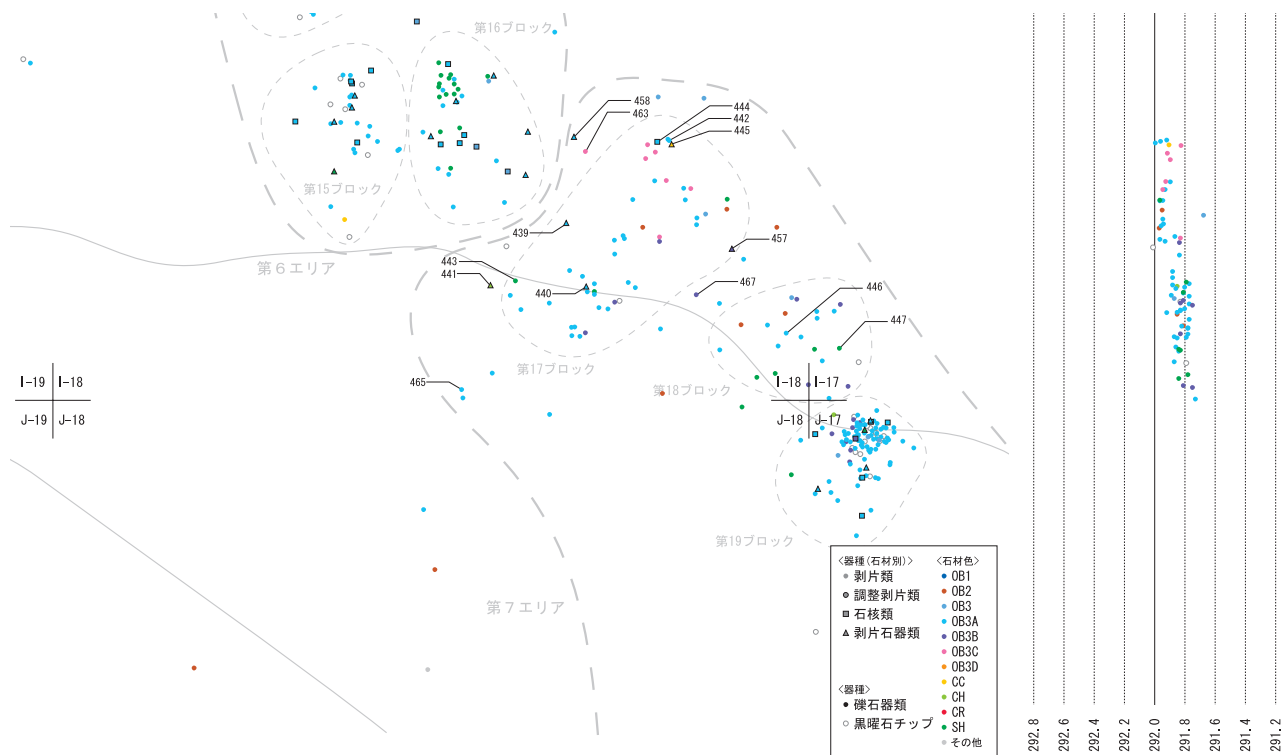
第347図 第Ⅱ文化層第6エリア第15ブロック出土石器実測図



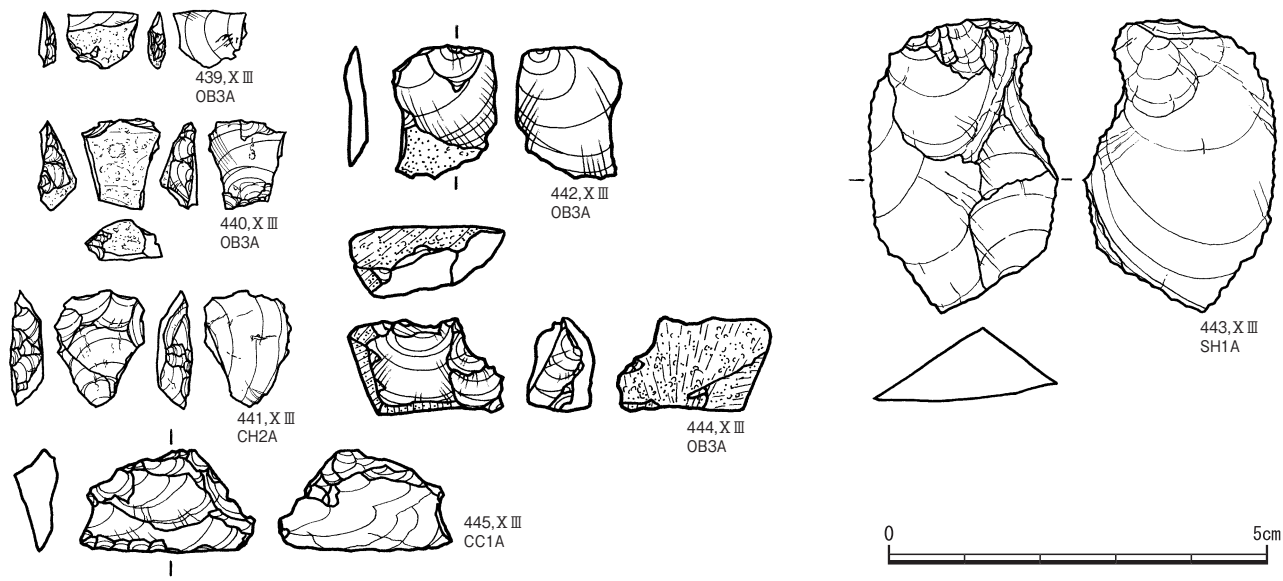
第348図 第II文化層第6エリア第16ブロック石器出土状況図



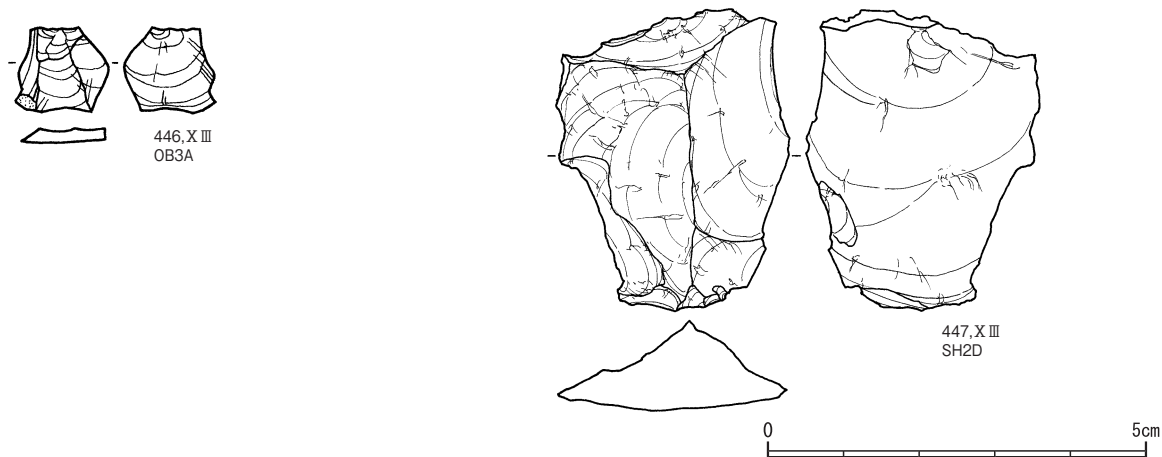
第349図 第II文化層第6エリア第16ブロック出土石器実測図



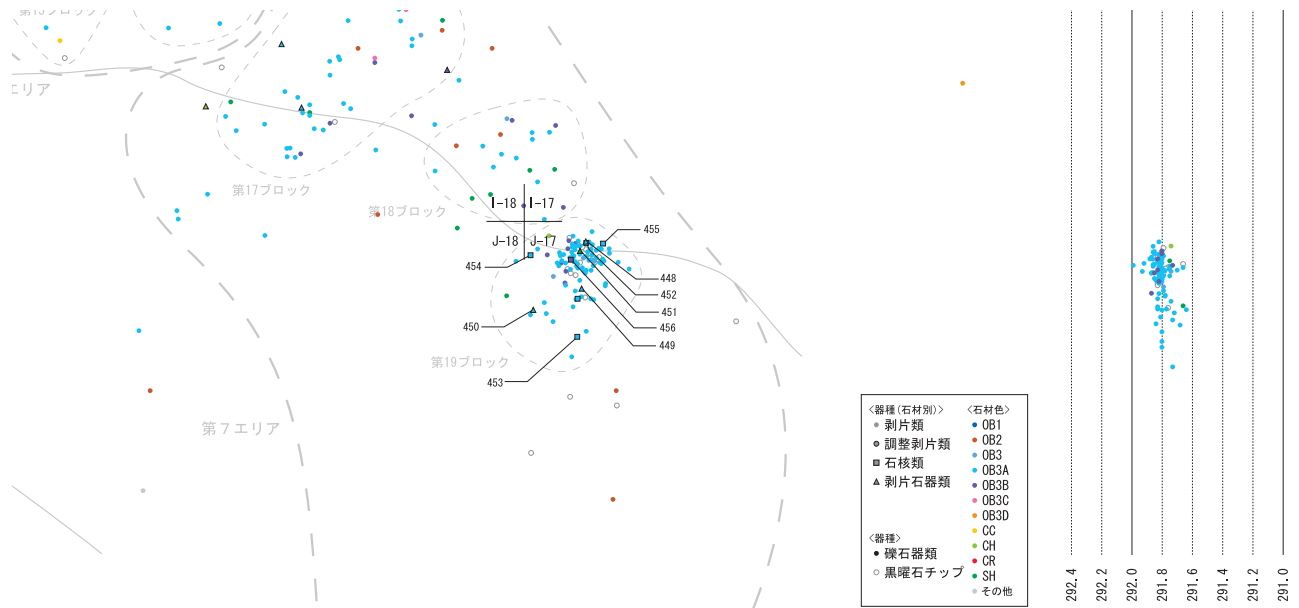
第350図 第Ⅱ文化層第7エリア第17・第18ブロック石器出土状況図



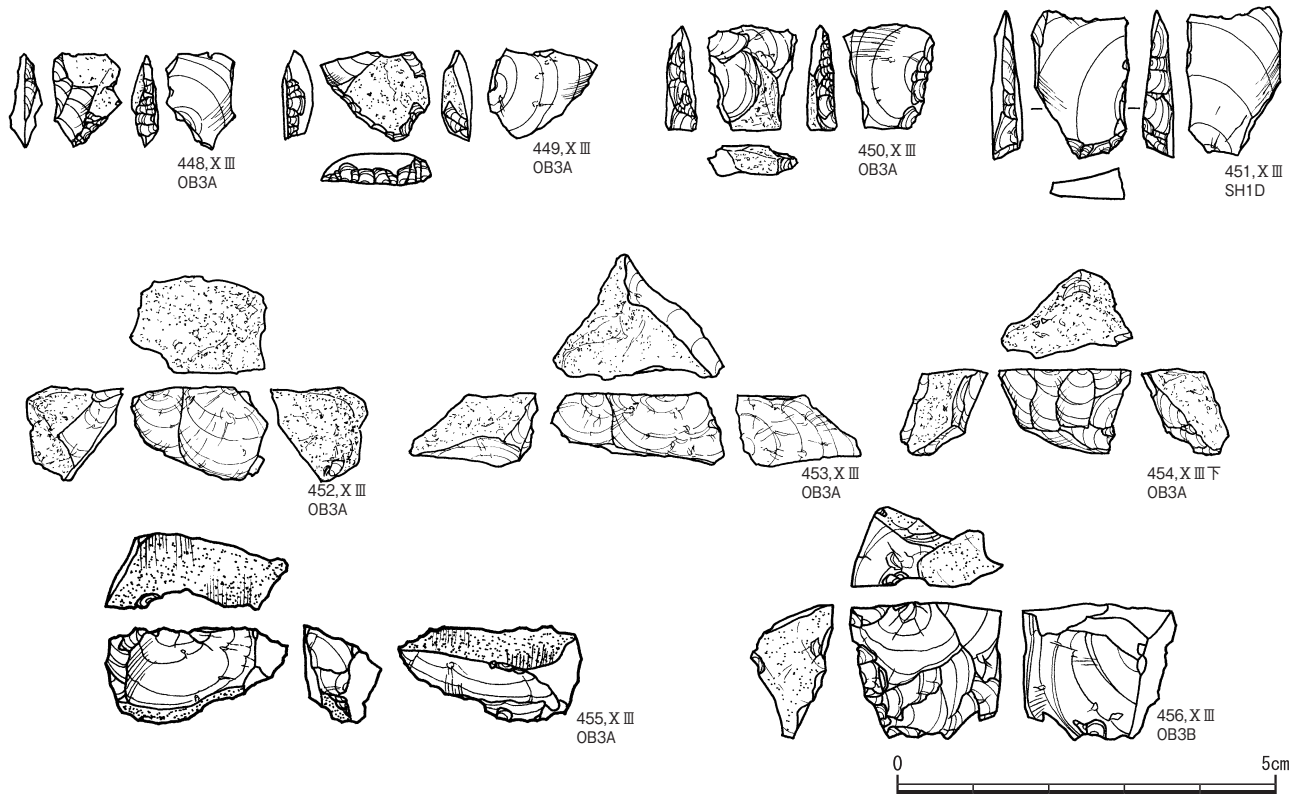
第351図 第Ⅱ文化層第7エリア第17ブロック出土石器実測図



第352図 第Ⅱ文化層第7エリア第18ブロック出土石器実測図



第353図 第Ⅱ文化層第7エリア第19ブロック石器出土状況図



第354図 第Ⅱ文化層第7エリア第19ブロック出土石器実測図

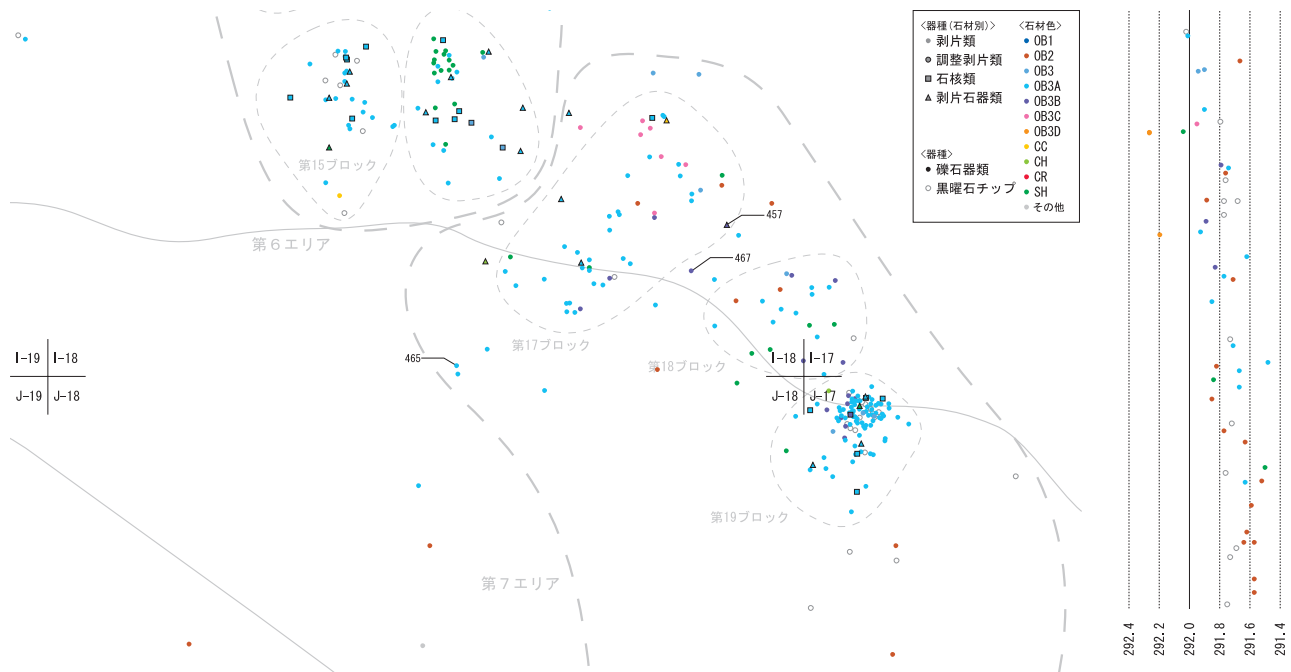
リアと異なる点は、使用石材に帰結する。この第11エリアから第12エリアの配置は、一見弧状を想起させる。

25点の台形石器が認められ、493・501・538・567～569・576・626等は打面転移を繰り返す剥片剥離による剥片を用いたもので、背面で先行する剥離面が交差するため体部中央部が肥厚する傾向がみられる。537・539・540・601等は同一方向から剥ぎ取られた剥片を横位に使用し、537・539・601は打面を活かし、540は大きく除去している。

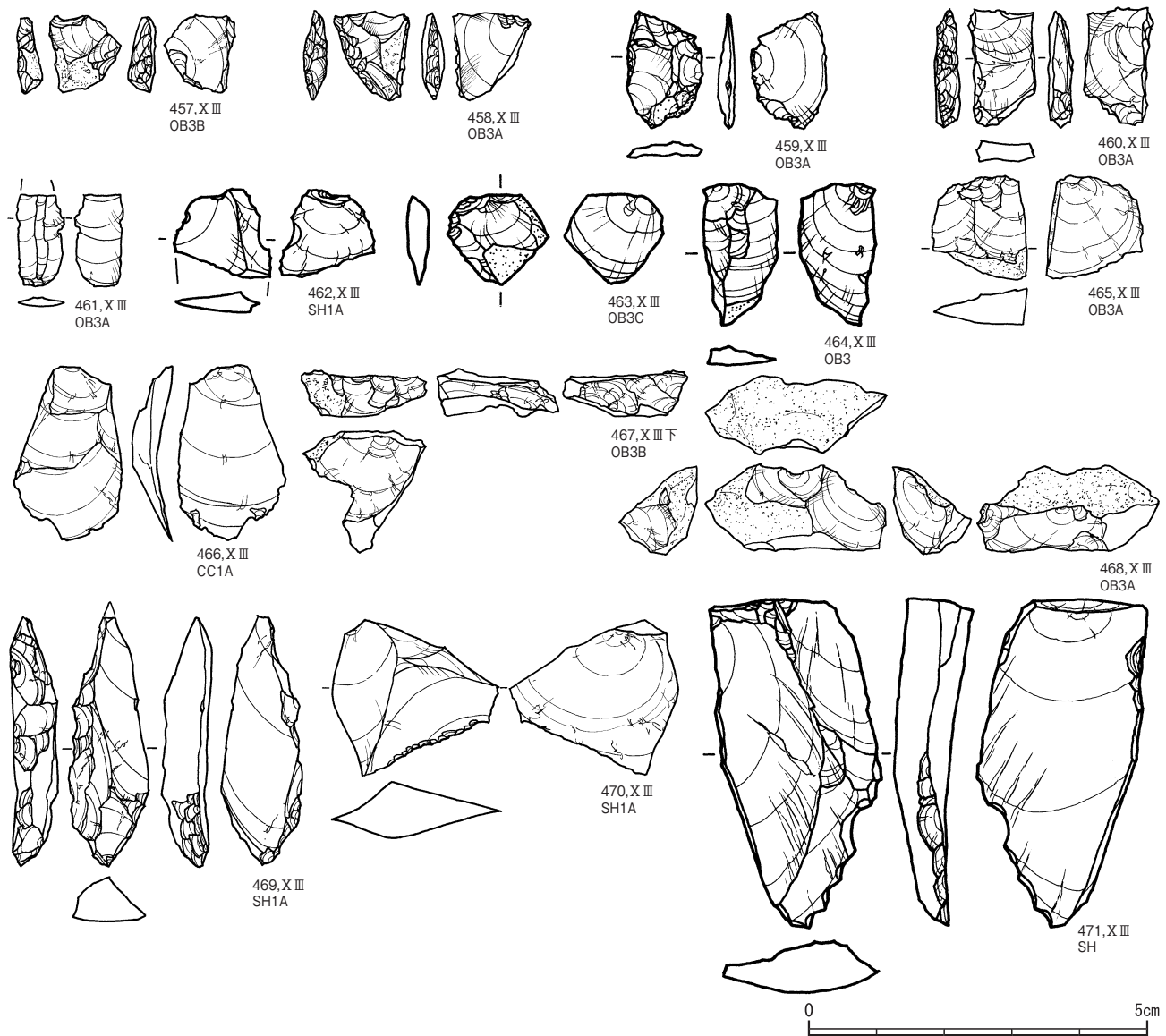
494の側縁調整は基部まで及び、495は主軸を長く設け、右側縁は折断面を利用している。主軸を長く設けた事例に、

504・535・537～539・569・601がある。502・503・534は調整剥離が基部まで及び、基部は鋭く尖る。536の右側縁部の内湾した剥離面は先行した剥離で、腹面の基部調整は奥まで及んでいる。569の打面は大きく除去され、弯曲する。568は素材の形状がそのまま活かされる。576の刃部は素材の形状により大きく内湾し、背面の調整は平坦剥離が見られる。602は両面に礫面を残すことから、基石状の原礫が素材と思われる。

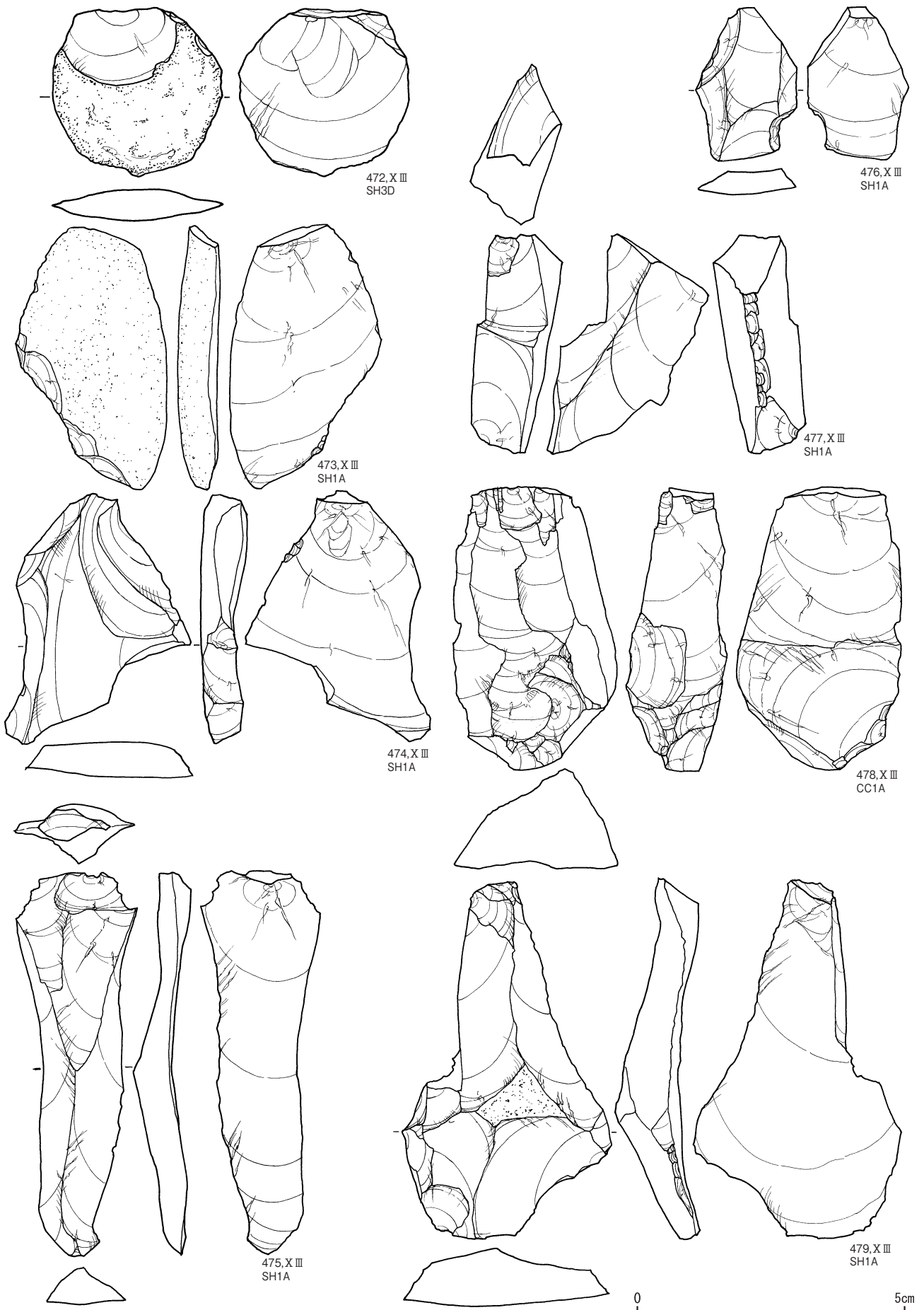
574・590は角錐状石器の形状を呈しているが、剥片ないしは調整剥片の可能性もあり判然としない。595は小型二側縁



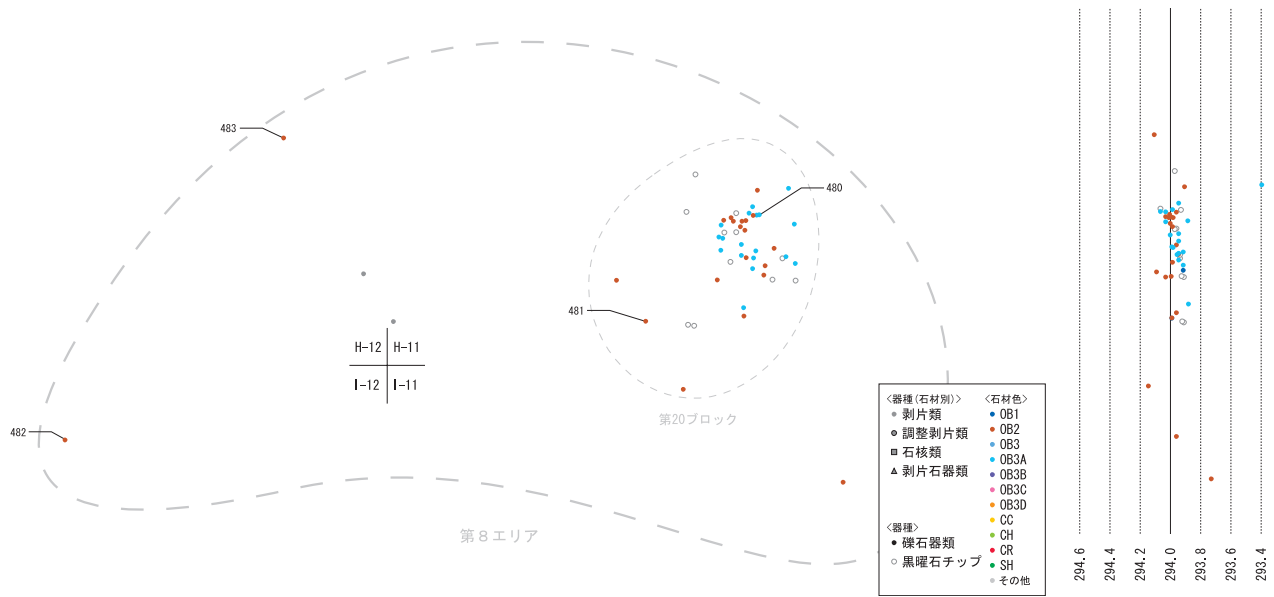
第355図 第Ⅱ文化層第7エリア石器出土状況図



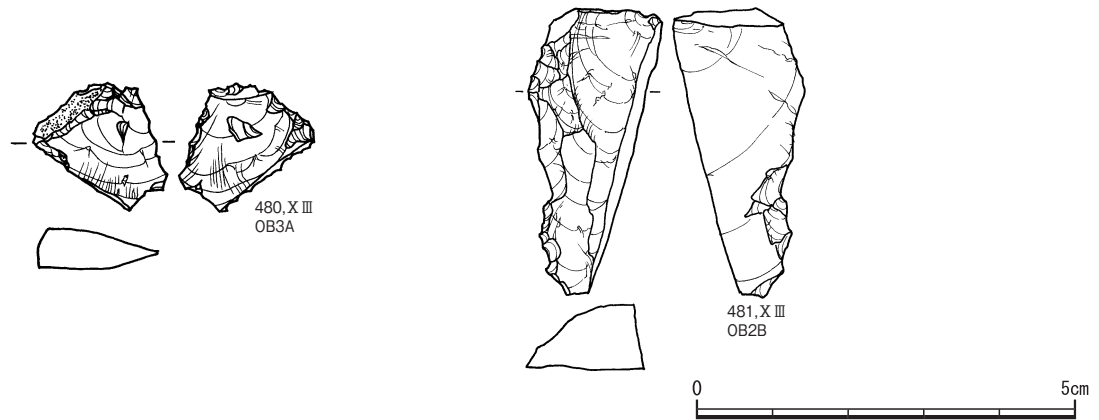
第356図 第Ⅱ文化層第7エリアブロック外出土石器実測図(1)



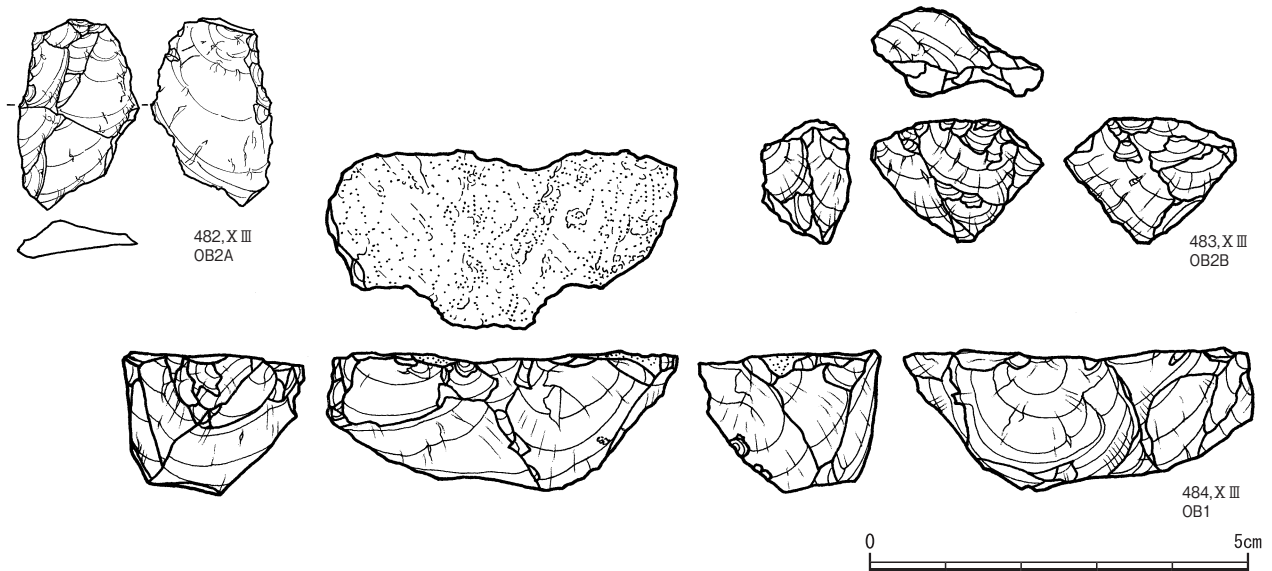
第357図 第Ⅱ文化層第7エリアブロック外出土石器実測図(2)



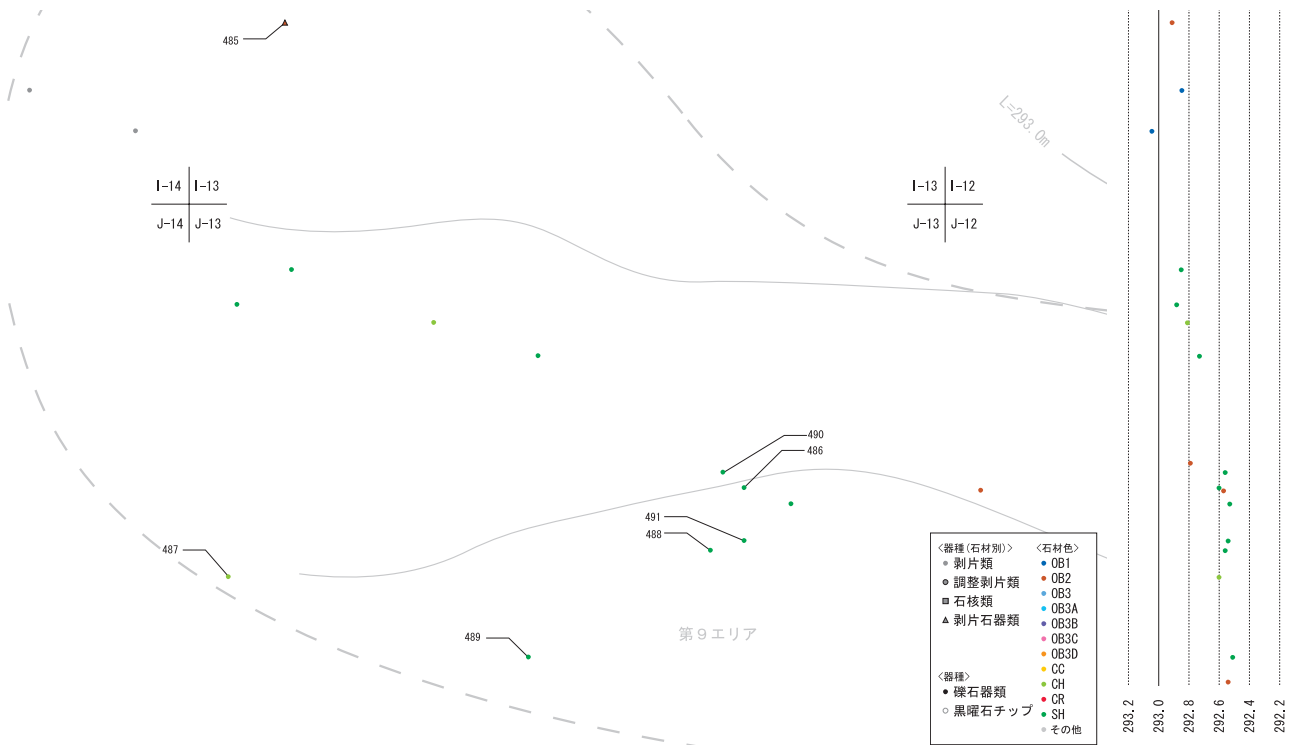
第358図 第Ⅱ文化層第8エリア第20ブロック石器出土状況図



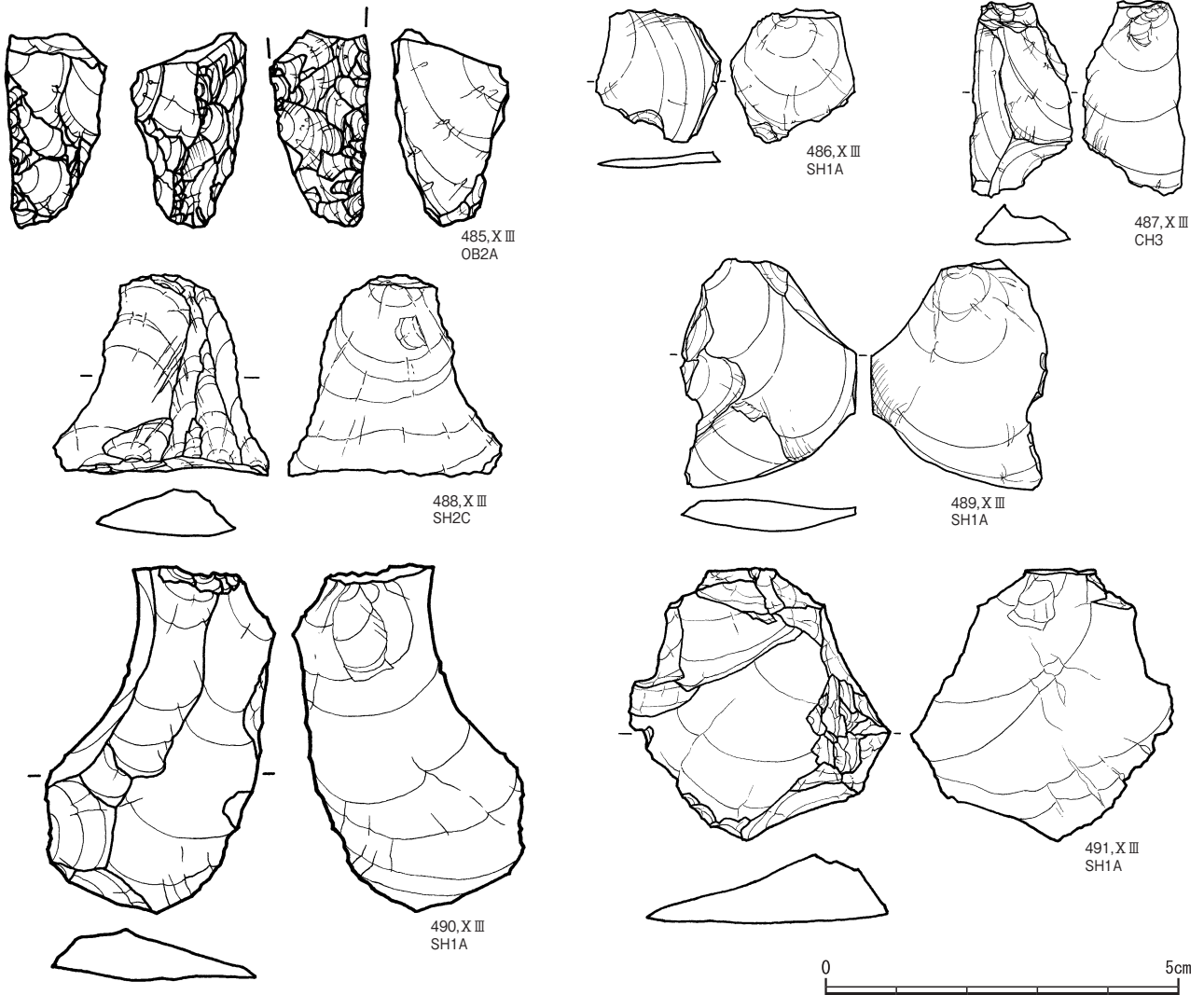
第359図 第Ⅱ文化層第8エリア第20ブロック出土石器実測図



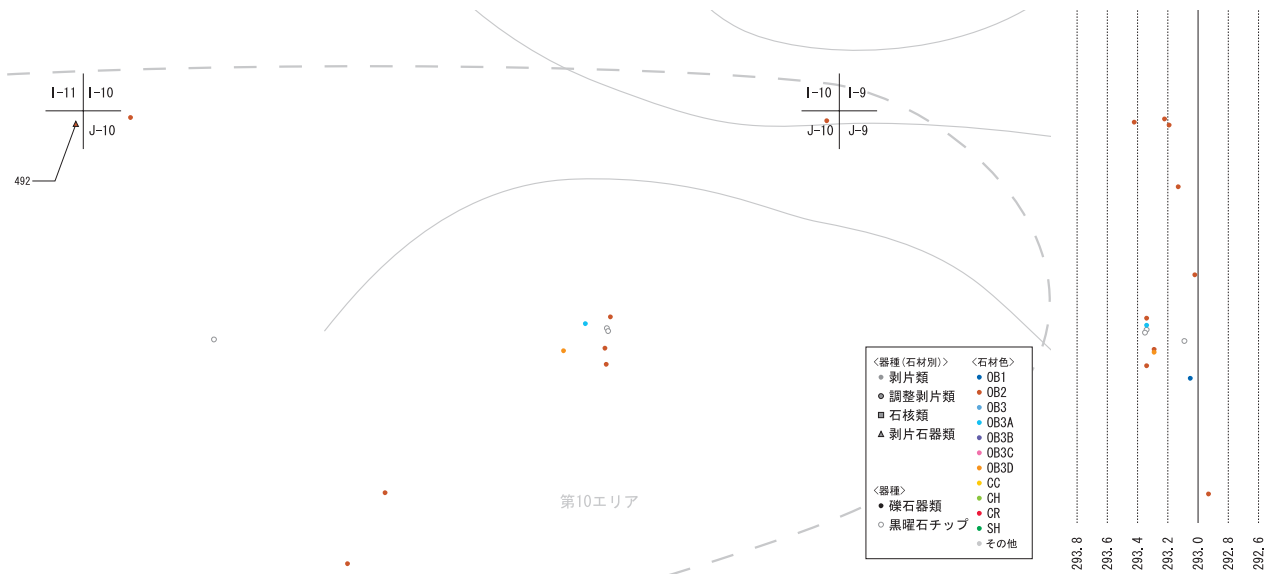
第360図 第Ⅱ文化層第8エリア出土石器実測図



第361図 第Ⅱ文化層第9エリア石器出土状況図



第362図 第Ⅱ文化層第9エリア出土石器実測図



第363図 第Ⅱ文化層第10エリア石器出土状況図



第364図 第Ⅱ文化層第10エリア出土石器実測図

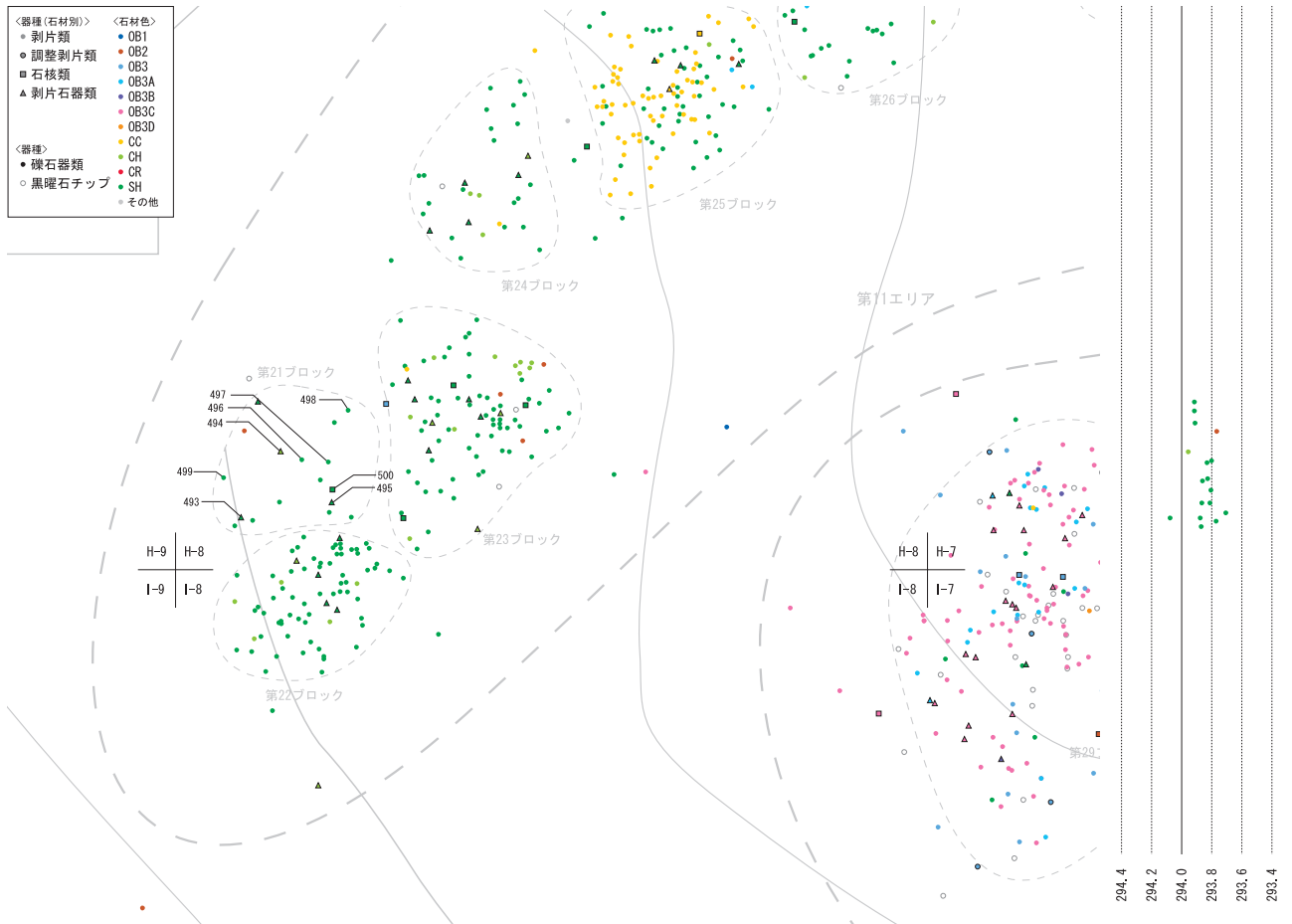


第75表 第Ⅱ文化層第5エリア出土石器観察表(3)

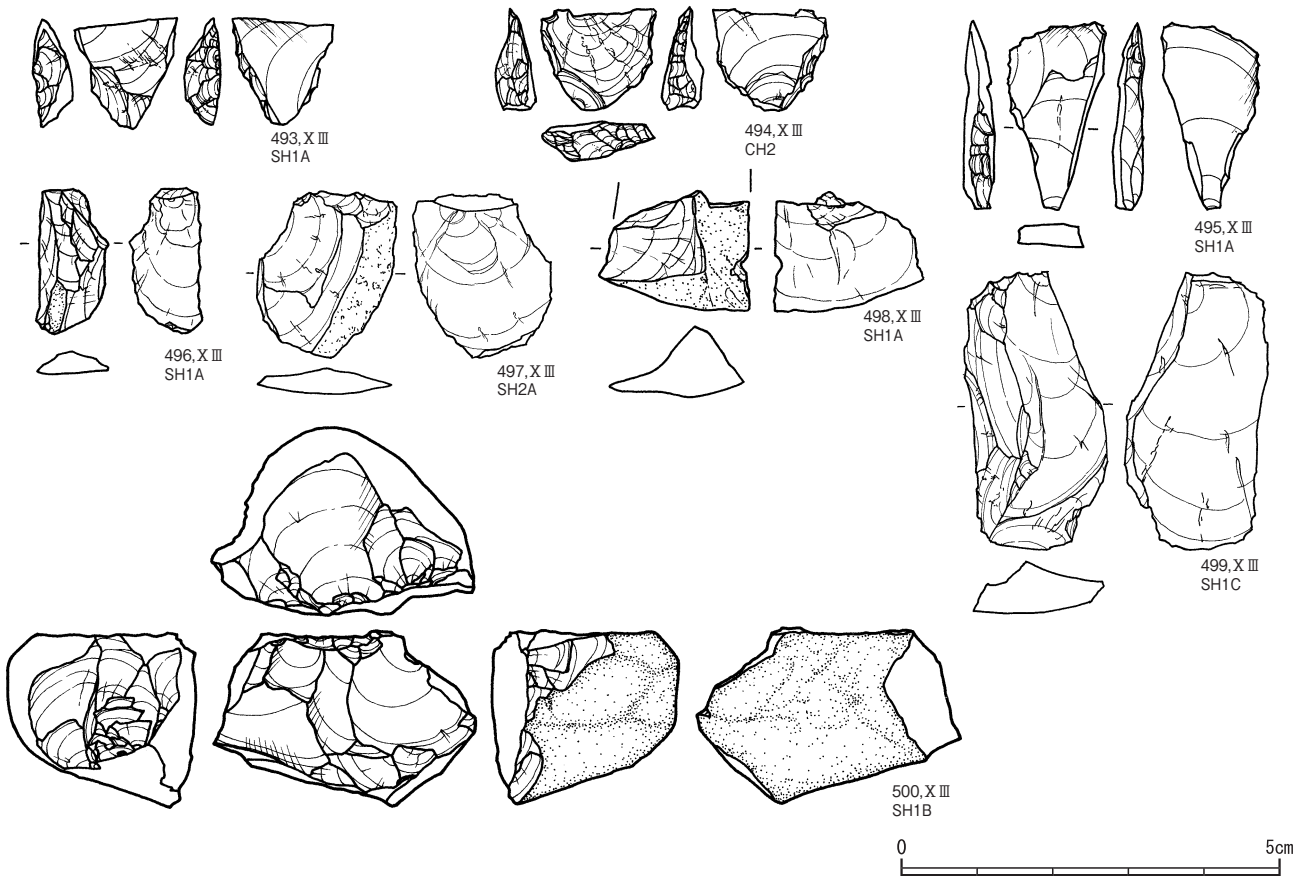
採回No	図No	エリア	フロック	分類L2	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)	接合No
337	360	A05	B11	剥片	SH1A	19.0	22.7	5.0	1.7	▲5985(I-19/XⅢ)	No.39
337	361	A05	B11	剥片	OB3A	15.1	17.8	7.5	1.3	▲5914(I-19/XⅢ)	-
337	362	A05	B11	剥片	OB3A	21.5	20.1	7.0	1.7	▲6491(H-19/XⅢ)	-
337	363	A05	B11	剥片	SH	19.9	25.2	6.7	2.9	▲6808(I-19/XⅢ下)	No.43
337	364	A05	B11	石核	OB3A	14.9	18.7	18.8	2.2	▲6490(H-19/XⅢ)	-
339	365	A05	B12	台形石器	OB3A	12.3	11.8	4.3	0.4	▲6429(I-19/XⅢ)	-
339	366	A05	B12	台形石器	OB3A	14.3	8.9	4.4	0.3	▲6421(I-19/XⅢ)	-
339	367	A05	B12	台形石器	OB3A	19.5	9.4	6.0	0.7	▲6420(I-19/XⅢ)	-
339	368	A05	B12	台形石器	OB3A	16.2	14.2	6.4	1.1	▲5944(I-19/XⅢ)	No.44
339	369	A05	B12	剥片	OB3A	19.4	17.6	4.5	1.2	▲6426(I-19/XⅢ)	-
339	370	A05	B12	二次加工剥片	OB3A	23.5	18.4	8.5	1.8	▲6407(I-19/XⅢ)	-
339	371	A05	B12	削器	CC1A	21.0	21.1	11.0	5.0	▲5935(I-19/XⅢ)	-
339	372	A05	B12	ハンマー	SH	64.0	25.8	8.2	17.3	▲5970(I-19/XⅢ)	No.43
341	373	A05	B13	台形石器	OB3A	13.8	11.7	6.5	0.8	▲5959(I-19/XⅢ)	No.47
341	374	A05	B13	ナイフ形石器	SH1A	13.7	8.4	3.5	0.4	▲6023(I-18/XⅢ)	-
341	375	A05	B13	台形石器	OB3A	15.7	12.8	6.7	0.9	▲5961(I-19/XⅢ)	-
341	376	A05	B13	剥片	SH1B	15.8	21.6	6.1	1.7	▲6003(I-19/XⅢ)	No.45
341	377	A05	B13	台形石器	OB3A	18.2	15.9	8.6	1.7	▲6015(I-18/XⅢ)	-
341	378	A05	B13	剥片	OB3A	14.6	7.2	3.3	0.3	▲6047(I-18/XⅢ)	-
341	379	A05	B13	二次加工剥片	SH1A	17.1	16.1	3.2	0.8	▲6029(I-18/XⅢ)	-
341	380	A05	B13	剥片	SH2B	15.6	19.7	3.7	1.3	▲5997(I-19/XⅢ)	-
341	381	A05	B13	剥片	SH2B	20.9	18.4	5.5	1.3	▲6021(I-18/XⅢ)	-
341	382	A05	B13	剥片	OB3A	20.4	12.5	3.0	0.5	▲6841(I-18/XⅢ)	-
341	383	A05	B13	剥片	SH1B	21.7	15.8	4.8	1.3	▲6007(I-18/XⅢ)	No.45
341	384	A05	B13	剥片	SH1A	23.8	11.7	3.6	1.0	▲6054(I-18/XⅢ)	-
341	385	A05	B13	剥片	SH1A	23.6	13.8	3.8	1.2	▲6011(I-18/XⅢ)	-
341	386	A05	B13	剥片	SH1D	23.4	23.0	9.2	3.6	▲5995(I-19/XⅢ)	-
341	387	A05	B13	剥片	SH2B	21.7	27.3	6.8	2.9	▲6017(I-18/XⅢ)	-
341	388	A05	B13	剥片	SH1A	23.5	27.9	7.8	2.9	▲6019(I-18/XⅢ)	-
341	389	A05	B13	剥片	SH1A	58.3	49.2	11.5	24.3	▲5996(I-19/XⅢ)	-
342	390	A05	B13	石核	OB3A	17.4	22.7	8.2	1.8	▲6024(I-18/XⅢ)	-
342	391	A05	B13	石核	SH1B	23.3	38.3	20.2	22.4	▲5999(I-19/XⅢ)	No.45
342	392	A05	B13	石核	SH1B	18.9	37.3	22.1	10.0	▲6002(I-18/XⅢ)	No.45
343	393	A05	B00	台形石器	OB3A	10.2	11.2	3.7	0.2	▲5977(I-19/XⅢ)	-
343	394	A05	B00	台形石器	OB3A	14.2	11.9	4.6	0.5	▲3811(I-19/XⅢ)	-
343	395	A05	B00	台形石器	OB3A	12.8	12.6	5.1	0.6	▲3818(I-19/XⅢ)	-
343	396	A05	B00	剥片	SH2D	27.8	21.1	6.2	2.5	▲5901(I-19/XⅢ)	-
343	397	A05	B00	剥片	OB3A	9.1	12.4	2.5	0.2	▲4070(I-19/XⅢ)	-
343	398	A05	B00	石核	OB3A	22.4	20.8	9.2	2.4	▲5974(I-19/XⅢ)	-
343	399	A05	B00	石核	OB3B	13.9	27.6	11.9	2.9	▲6001(I-18/XⅢ)	-

第76表 第Ⅱ文化層第6エリア出土石器観察表

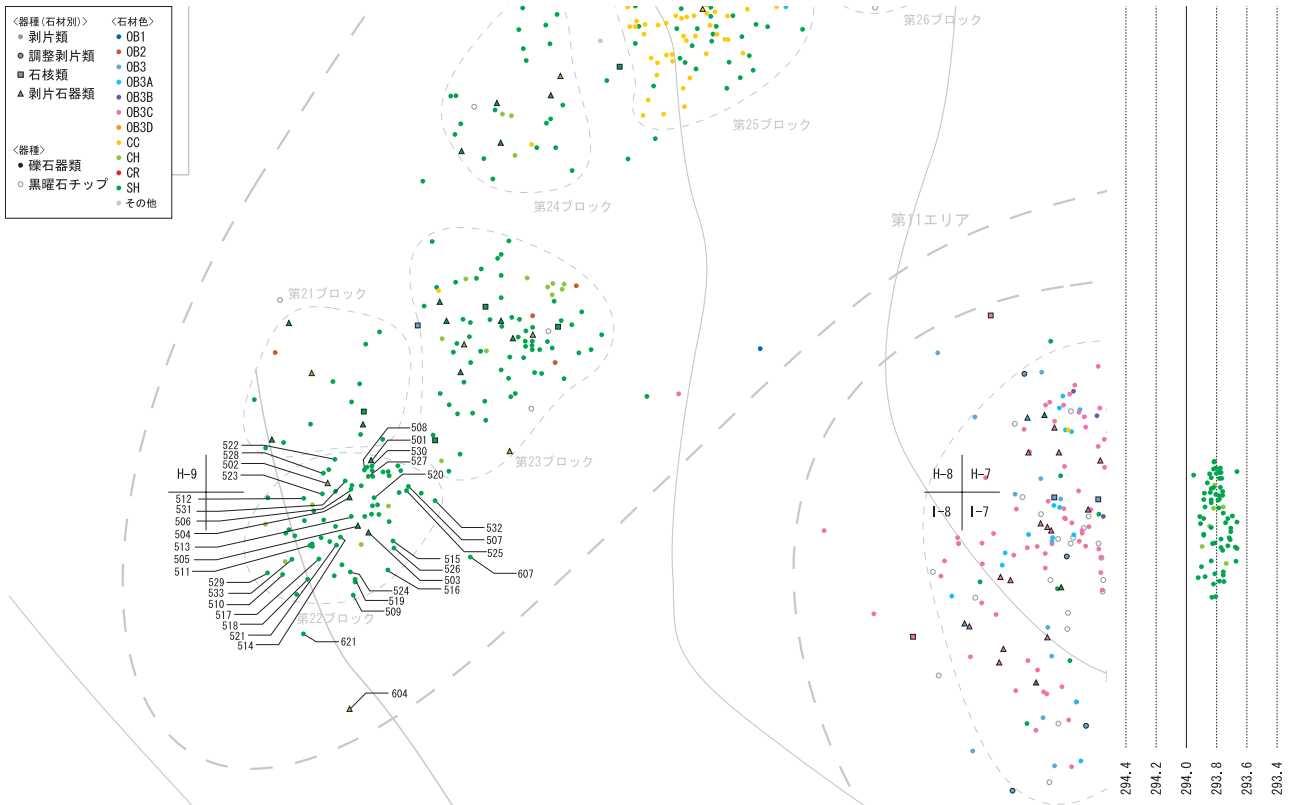
採回No	図No	エリア	フロック	分類L2	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)	接合No
345	400	A06	B14	台形石器	SH1A	19.6	12.2	4.3	0.9	▲6084(I-18/XⅢ)	-
345	401	A06	B14	剥片	SH1B	20.0	12.1	3.9	0.7	▲5066(I-18/XⅢ)	-
345	402	A06	B14	剥片	OB3A	11.3	21.5	4.3	0.7	▲6076(I-18/XⅢ)	-
345	403	A06	B14	剥片	SH1A	12.8	20.2	5.2	1.1	▲5065(I-18/XⅢ)	-
345	404	A06	B14	剥片	SH1B	23.3	22.0	6.1	3.0	▲6068(I-18/XⅢ)	-
345	405	A06	B14	石核	OB3A	17.5	18.0	13.6	2.3	▲6081(I-18/XⅢ)	No.46
345	406	A06	B14	石核	OB3A	16.4	26.9	8.2	2.4	▲6078(I-18/XⅢ)	-
345	407	A06	B14	石核	OB3A	11.1	23.8	15.3	2.2	▲6074(I-18/XⅢ)	-
347	408	A06	B15	台形石器	OB3A	12.4	11.0	5.1	0.5	▲4689(I-18/XⅢ)	-
347	409	A06	B15	台形石器	SH1B	16.6	14.1	4.7	0.8	▲4365(I-18/XⅢ)	-
347	410	A06	B15	台形石器	OB3A	13.2	15.6	4.5	0.7	▲4731(I-18/XⅢ)	-
347	411	A06	B15	台形石器	OB3A	15.7	11.6	5.6	0.7	▲4694(I-18/XⅢ)	No.48
347	412	A06	B15	剥片	OB3A	19.0	11.2	0.3	0.5	▲4364(I-18/XⅢ)	-
347	413	A06	B15	剥片	OB3A	14.5	17.0	5.6	1.2	▲5062(I-18/XⅢ)	-
347	414	A06	B15	剥片	OB3A	22.4	16.3	4.9	1.2	▲4729(I-18/XⅢ)	No.47
347	415	A06	B15	剥片	OB3A	21.0	18.6	9.0	2.7	▲4366(I-18/XⅢ)	No.47
347	416	A06	B15	石核	OB3A	13.3	15.2	11.3	1.9	▲4362(I-18/XⅢ)	-
347	417	A06	B15	石核	OB3A	14.8	20.2	8.4	1.9	▲4369(I-18/XⅢ)	-
347	418	A06	B15	石核	OB3A	13.9	23.6	14.8	2.7	▲6375(I-18/XⅢ)	-
347	419	A06	B15	石核	OB3A	16.7	21.5	10.2	2.9	▲6307(I-18/XⅢ)	-
349	420	A06	B16	台形石器	OB3A	10.6	9.4	4.8	0.4	▲6087(I-18/XⅢ)	-
349	421	A06	B16	剥片	SH1A	13.8	11.7	3.3	0.4	▲6372(I-18/XⅢ)	-
349	422	A06	B16	台形石器	OB3A	12.6	10.0	2.3	0.2	▲4352(I-18/XⅢ)	-
349	423	A06	B16	剥片	OB3A	11.2	19.9	4.0	0.8	▲4341(I-18/XⅢ)	-
349	424	A06	B16	台形石器	OB3A	17.8	15.6	4.6	1.0	▲4337(I-18/XⅢ)	-
349	425	A06	B16	剥片	SH1A	19.7	16.9	4.8	1.2	▲4684(I-18/XⅢ)	-
349	426	A06	B16	台形石器	OB3A	15.3	16.8	6.6	1.5	▲6843(I-18/XⅢ)	-
349	427	A06	B16	剥片	OB3A	11.4	11.8	2.7	0.3	▲4347(I-18/XⅢ)	-
349	428	A06	B16	剥片	SH1A	16.7	11.9	3.5	0.5	▲4353(I-18/XⅢ)	-
349	429	A06	B16	剥片	OB3A	14.9	12.8	4.0	0.5	▲4339(I-18/XⅢ)	-
349	430	A06	B16	剥片	SH1A	13.5	13.3	3.6	0.6	▲6096(I-18/XⅢ)	-
349	431	A06	B16	剥片	SH1A	17.0	15.5	4.0	0.6	▲6094(I-18/XⅢ)	-
349	432	A06	B16	剥片	SH1A	15.5	27.1	6.4	2.6	▲6093(I-18/XⅢ)	No.39
349	433	A06	B16	剥片	SH1A	21.4	23.2	7.5	3.1	▲6088(I-18/XⅢ)	No.39
349	434	A06	B16	剥片	SH1A	22.4	20.5	7.2	1.8	▲6097(I-18/XⅢ)	-
349	435	A06	B16	石核	OB3A	13.8	21.9	8.6	1.8	▲4351(I-18/XⅢ)	-
349	436	A06	B16	石核	OB3	16.2	21.3	11.5	2.8	▲4348(I-18/XⅢ)	-
349	437	A06	B16	石核	OB3A	12.2	19.4	11.3	1.9	▲4350(I-18/XⅢ)	-
349	438	A06	B16	剥片	SH1A	18.4	24.3	14.2	3.0	▲4346(I-18/XⅢ)	-



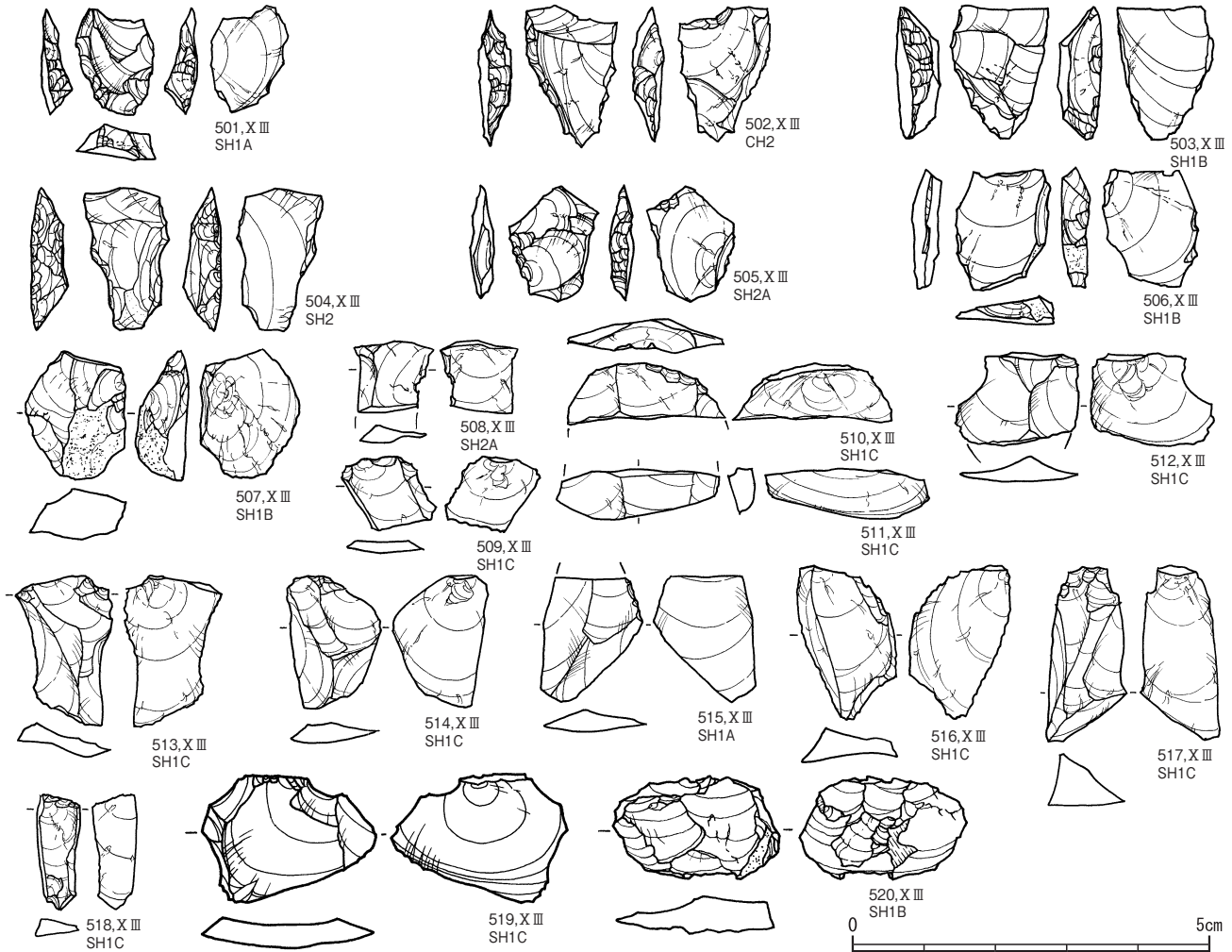
第365図 第Ⅱ文化層第11エリア第21ブロック石器出土状況図



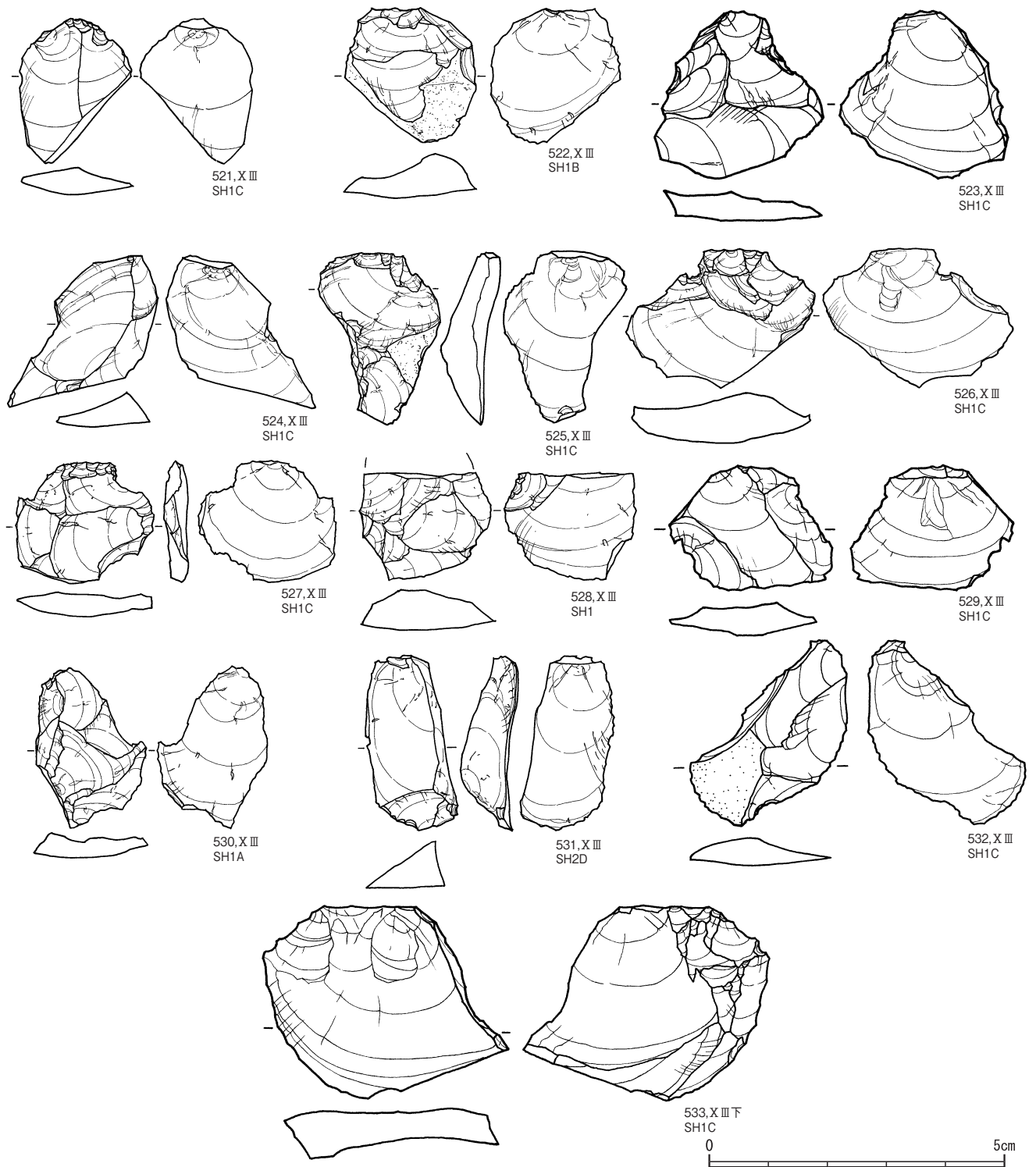
第366図 第Ⅱ文化層第11エリア第21ブロック出土石器実測図



第367図 第Ⅱ文化層第11エリア第22ブロック石器出土状況図



第368図 第Ⅱ文化層第11エリア第22ブロック出土石器実測図(1)



第369図 第Ⅱ文化層第11エリア第22ブロック出土石器実測図(2)

加工ナイフ形石器の基部、600は天地が判然としないが、ナイフ形石器である。

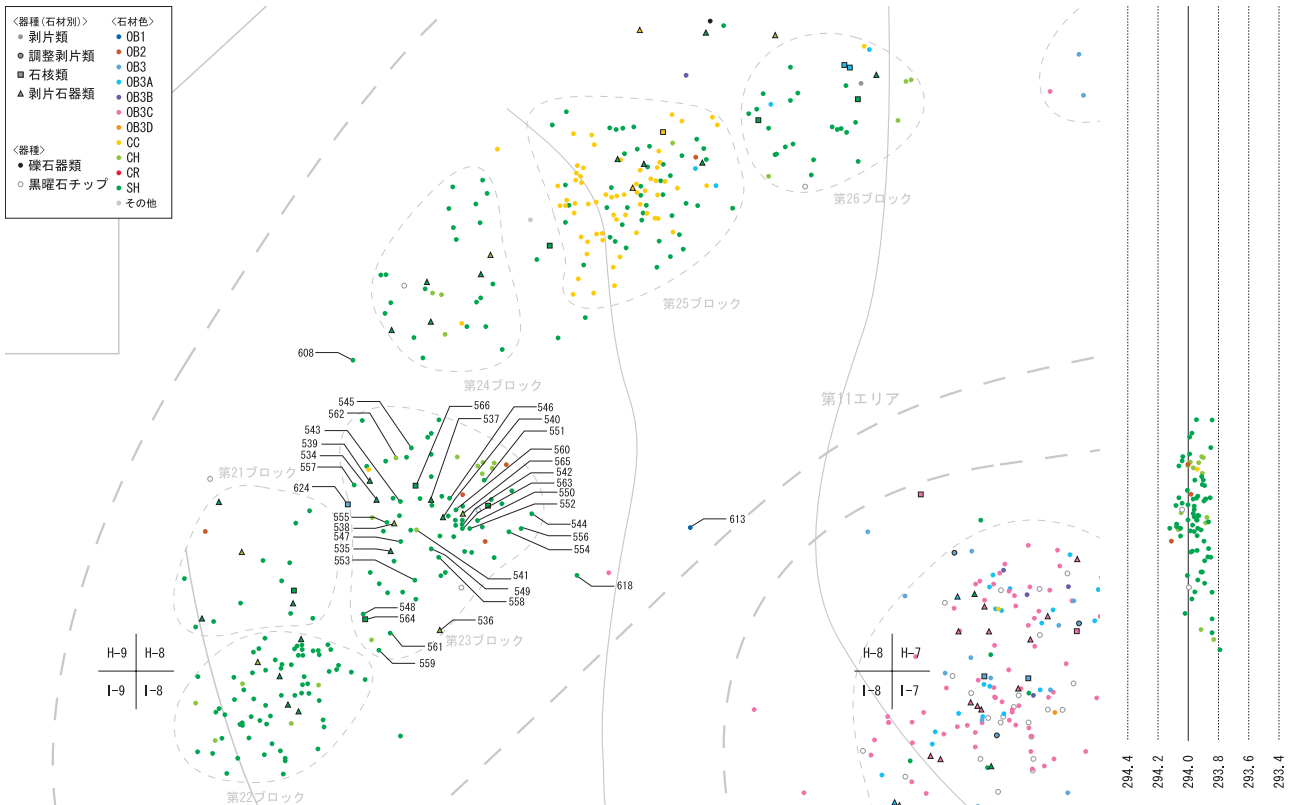
500の石核は円礫素材で、打面転移が認められ、先行する剥離面を打面とし丈の短い不定形剥片を取り出している。564・565・588は円礫素材で、打面は礫面が使用される。566・589では打面転移を繰り返している。残された石核の数は少ないが、521～523等の剥片は、台形石器の素材剥片の要因を満たしていると言える。また、625のハンマーの存在及びその損傷からも、石器製作が行われたと判断できる。

第12エリア

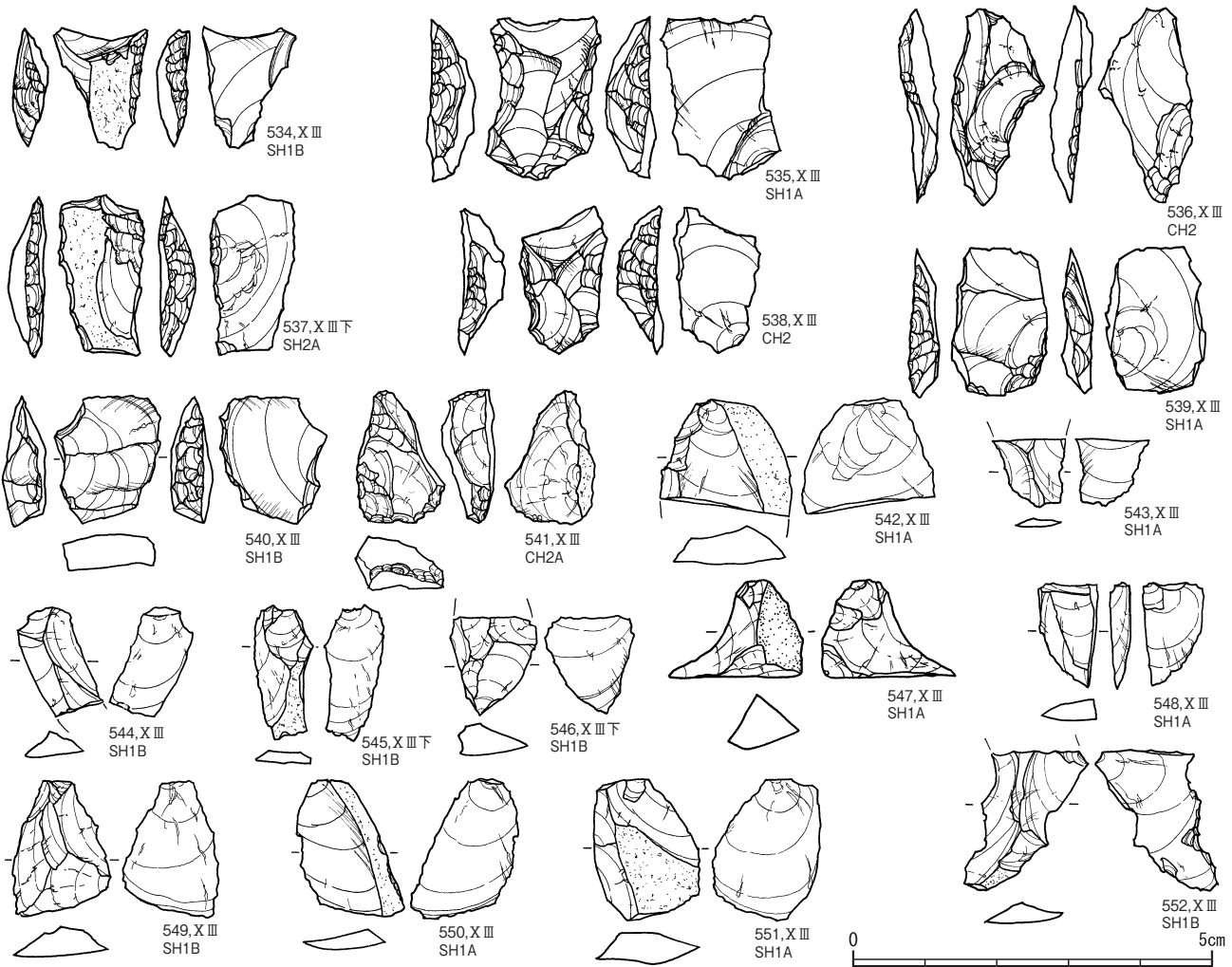
第28・第29の2ブロックで構成し、黒曜石ⅢC類、頁岩等の石材が見られ、中でも黒曜石ⅢC類の比率が高い。

最大の特徴は、33点の小型ナイフ形石器の存在である。第28ブロックに12点、第29ブロックに7点、ブロック外で14点が確認できる。

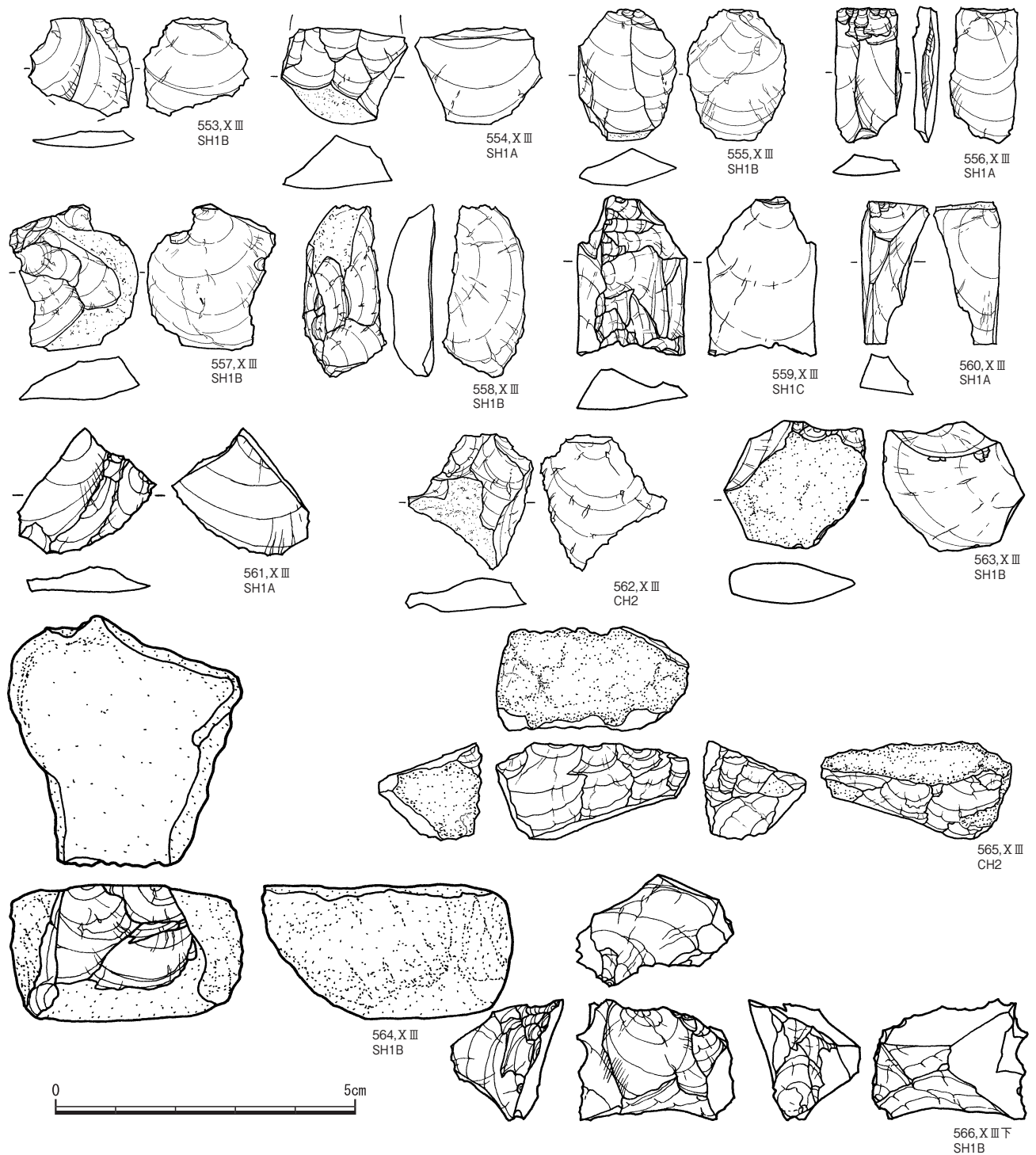
小型ナイフ形石器は最小で9～11mm、最大でも20mm程の範囲に集約できる。これらの小型ナイフ形石器の背面及び腹面に残る剥離面からは、縦方向の剥片剥離をベースに、連続



第370図 第Ⅱ文化層第11エリア第23ブロック石器出土状況図



第371図 第Ⅱ文化層第11エリア第23ブロック出土石器実測図(1)



第372図 第Ⅱ文化層第11エリア第23ブロック出土石器実測図(2)

した剥離が行われたものとみられる。634は両側縁を丁寧に基部から先端部のほぼ全周に微細な調整剥離を行い、基部の腹面でも同様の加工が認められる。同じような調整剥離が全周で確認できるものに630・680・684がある。次に、基部加工が腹面まで及んでいるものに677・687・689・692があり、基部加工を意識したものに628・631・635・673・676~679・681~686・691・694がある。素材剥片剥離はおおむね同一方向に行われているが、678・682では打面転移が認められる。685は、横剥ぎ剥片を使用した数少ない事例である。

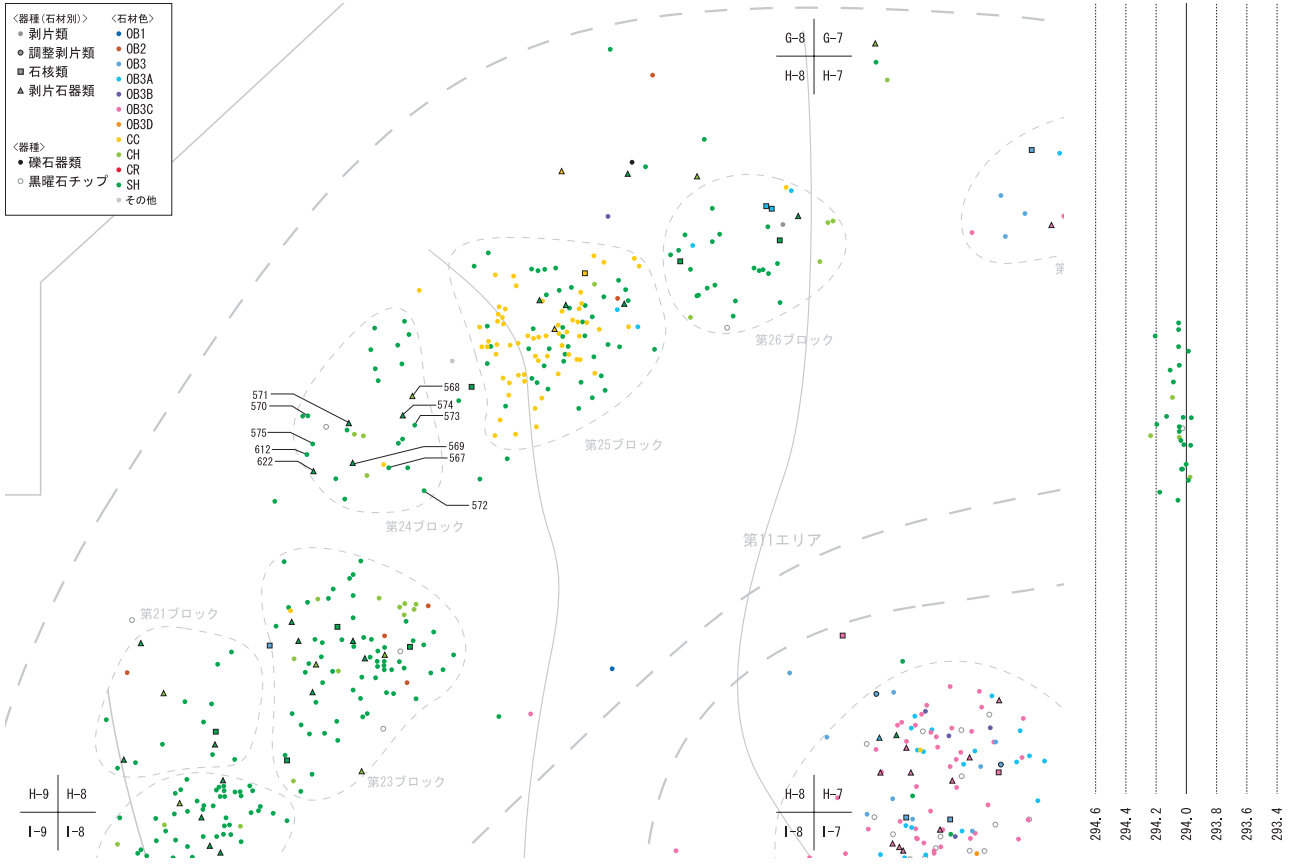
640・641の2点は台形石器で、素材剥片の形状を大きく変

えることなく造り出している。

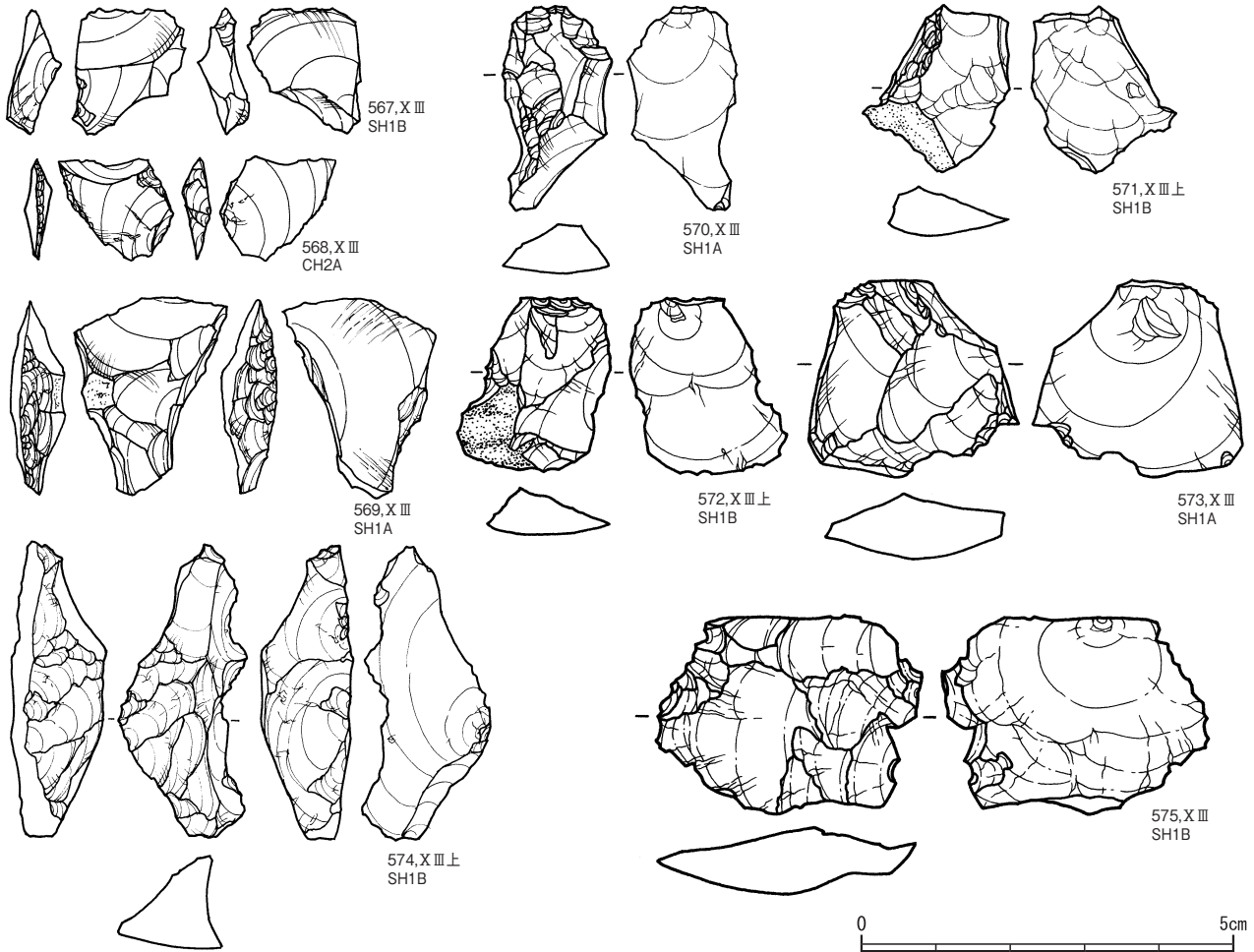
723・724・726の石核剥離面からは、幅広で不定型な剥片が取り出されており、711・714・716等の丈の短い幅広不定形剥片が対応すると思われる、これらは台形石器の製作に関する一連の資料とも考えられる。一方、654・660・703・706・708等の剥片がその形状から小型ナイフ形石器の素材剥片の対象と想定される。しかし、それらに対応する石核は、エリア内の資料からが認定することが難しい。

第13エリア

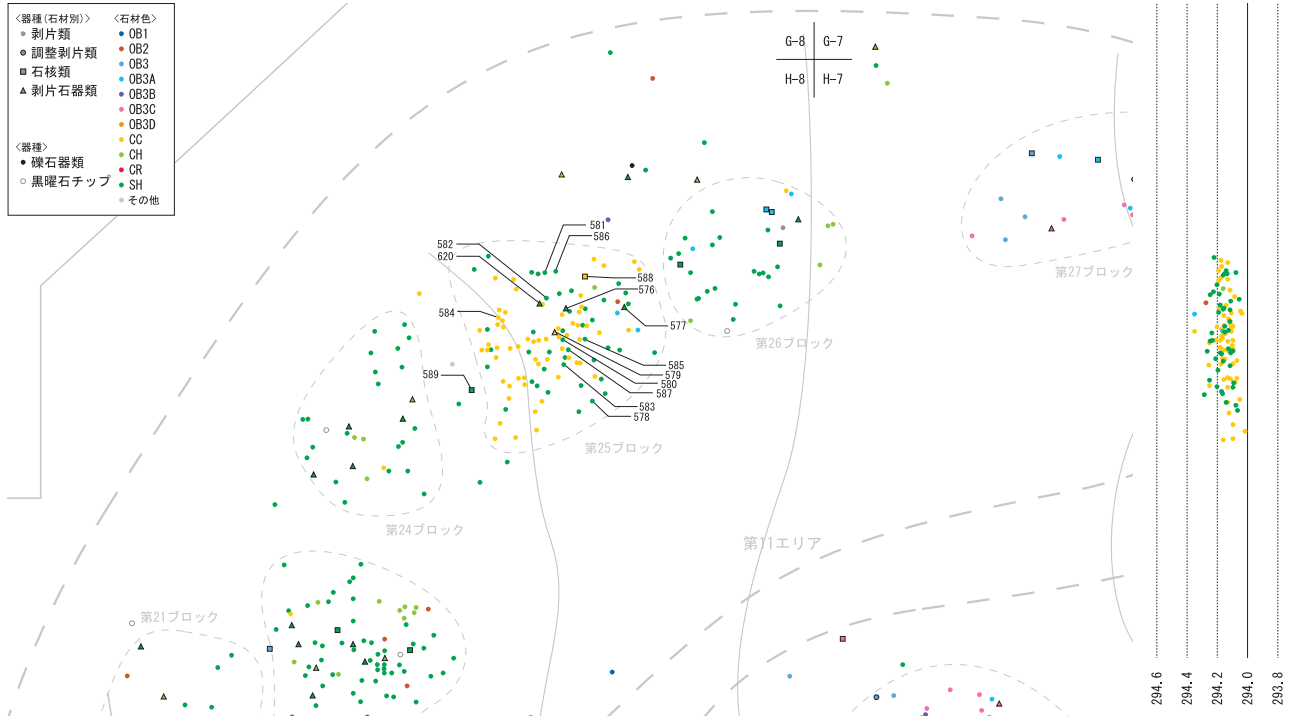
頁岩主体で構成される。ナイフ形石器2点(727・728)と二



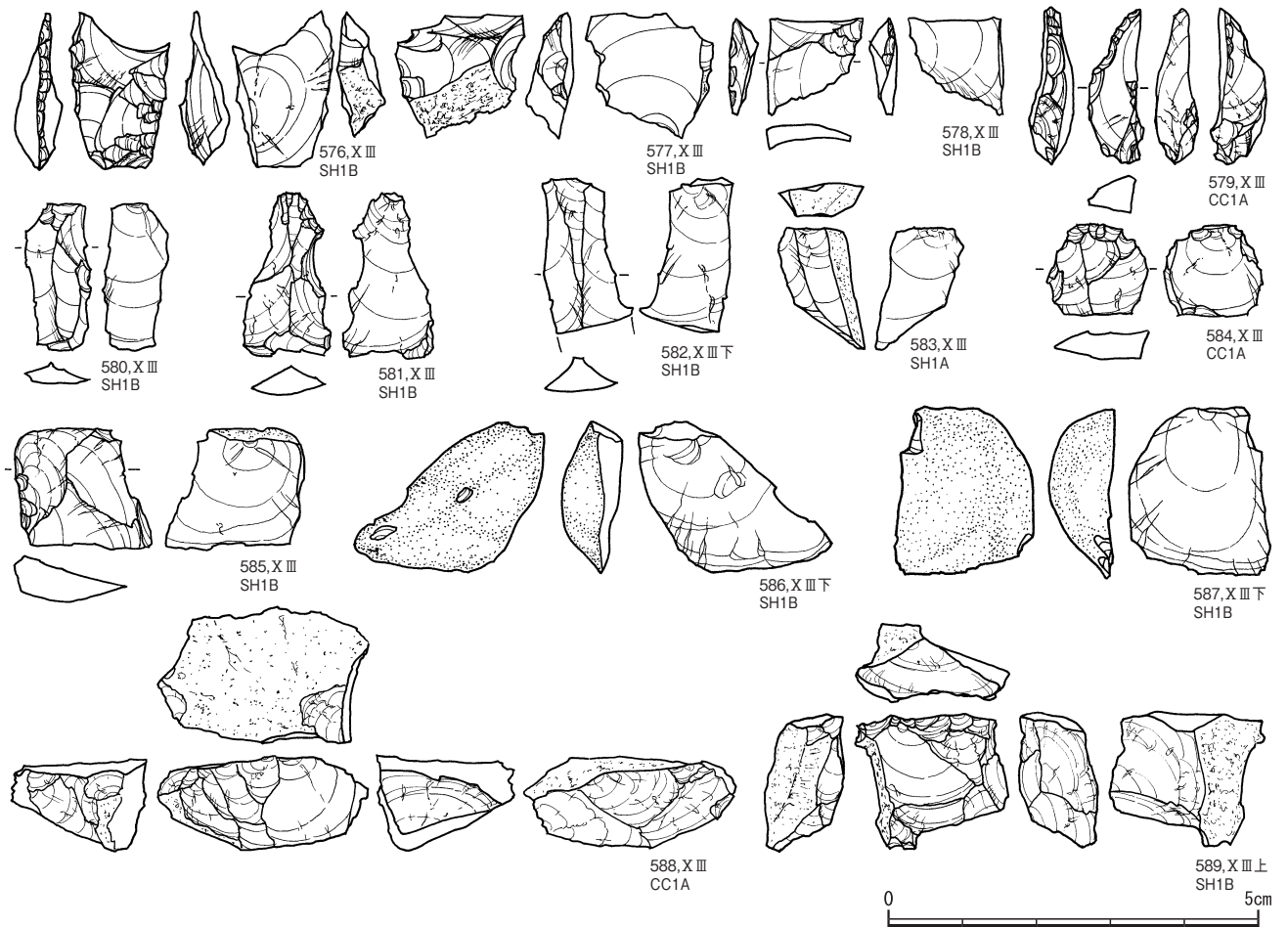
第373図 第II文化層第11エリア第24ブロック石器出土状況図



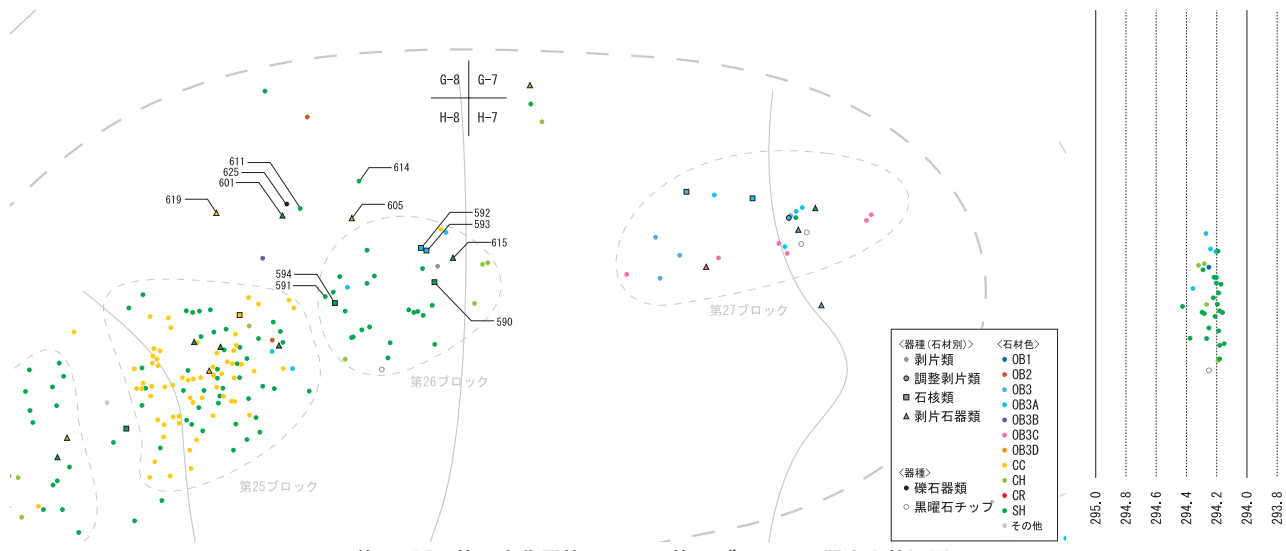
第374図 第II文化層第11エリア第24ブロック出土石器実測図



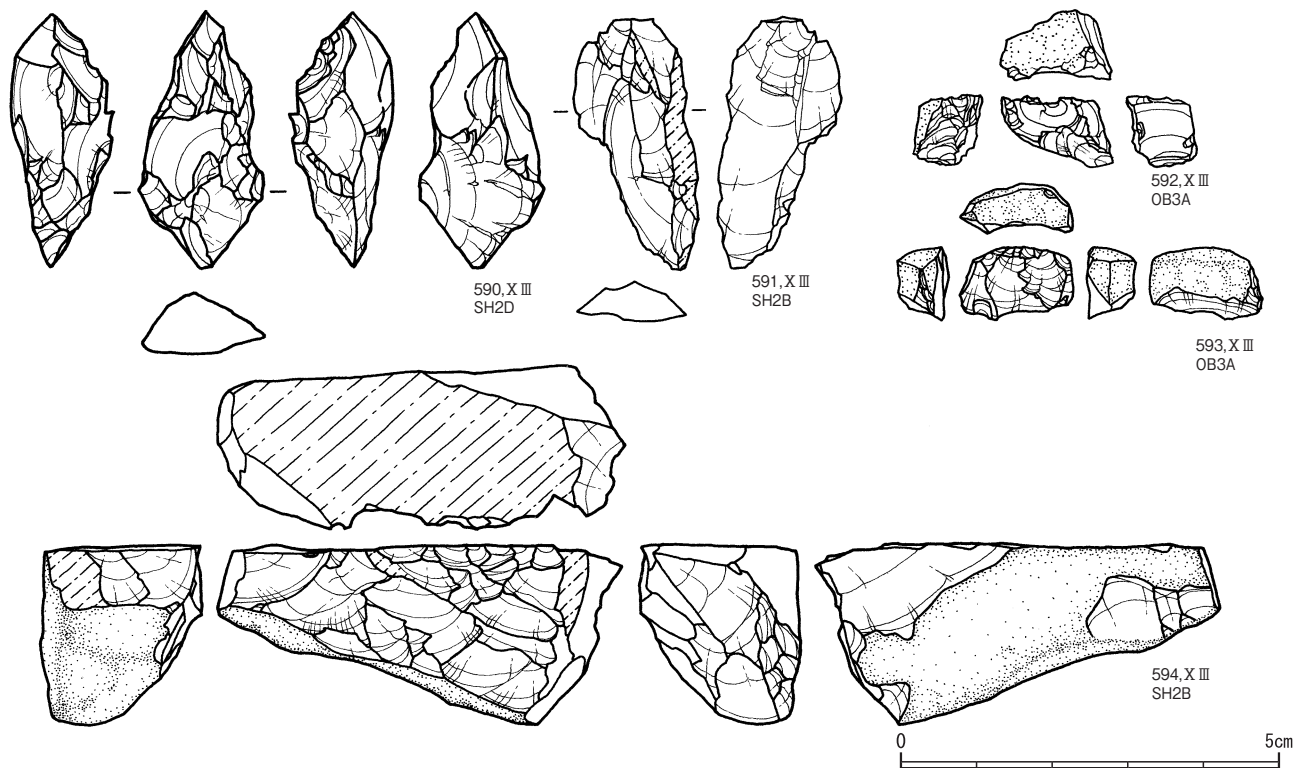
第375図 第Ⅱ文化層第11エリア第25ブロック石器出土状況図



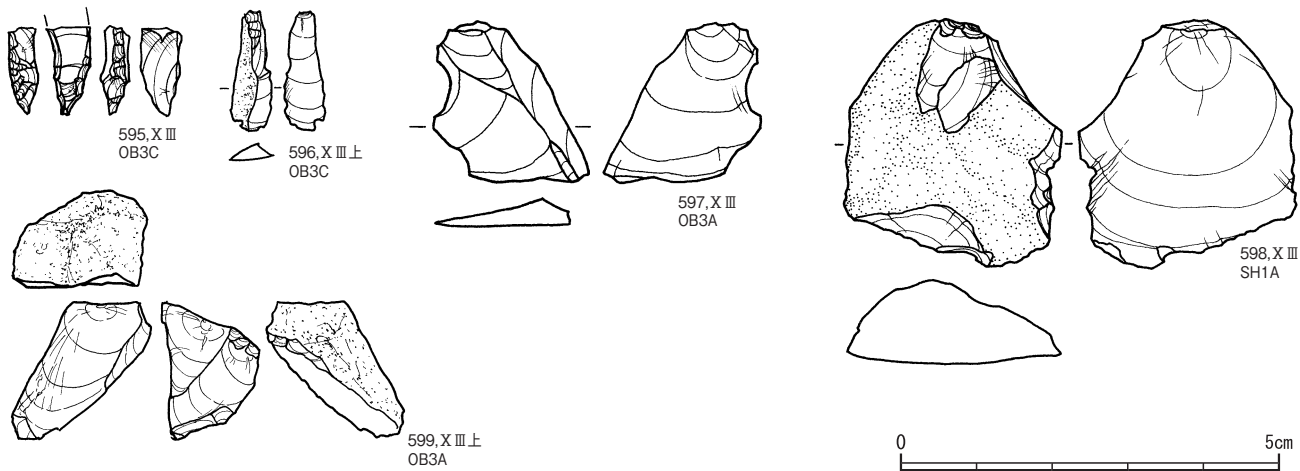
第376図 第Ⅱ文化層第11エリア第25ブロック出土石器実測図



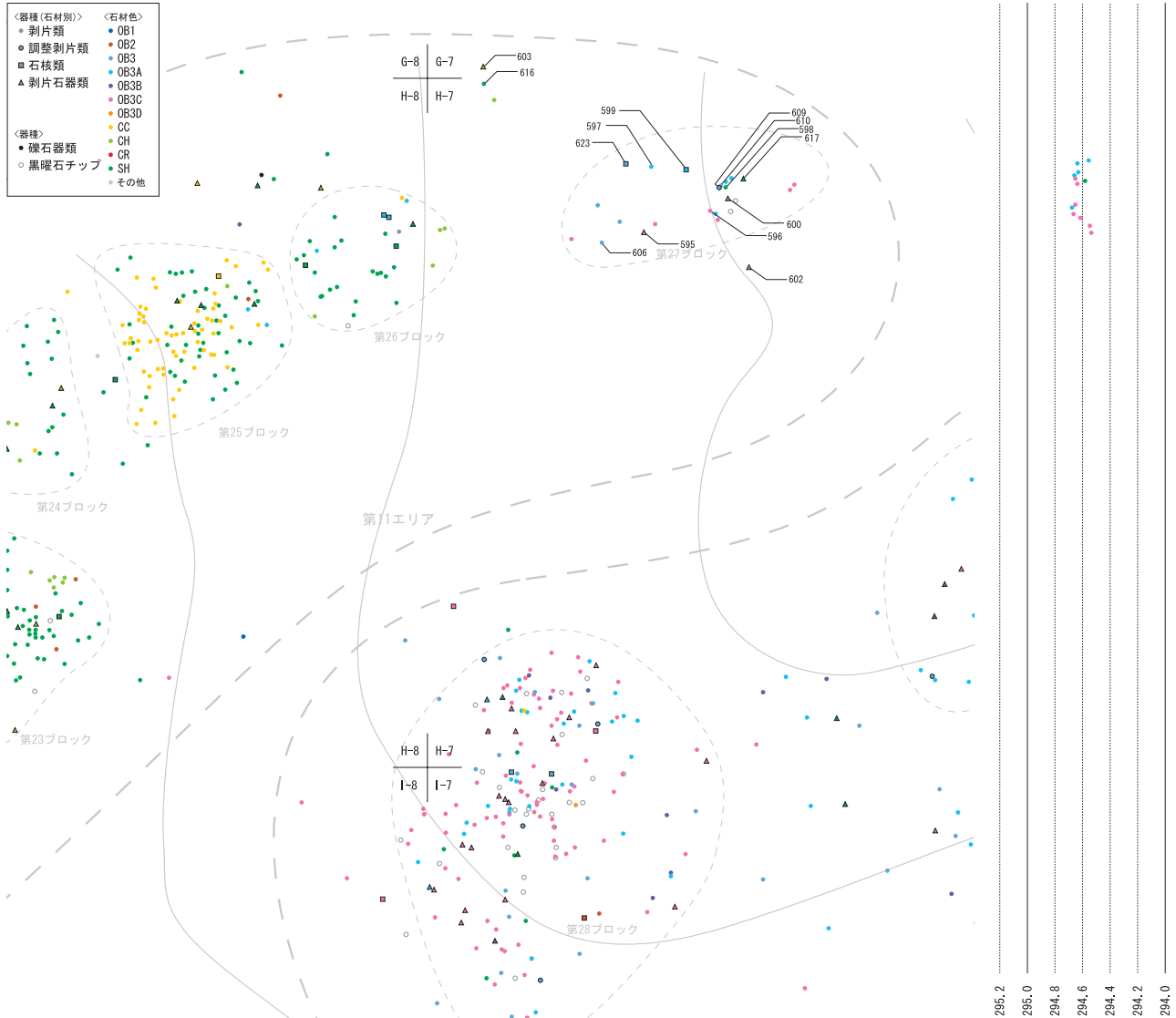
第377図 第Ⅱ文化層第11エリア第26ブロック石器出土状況図



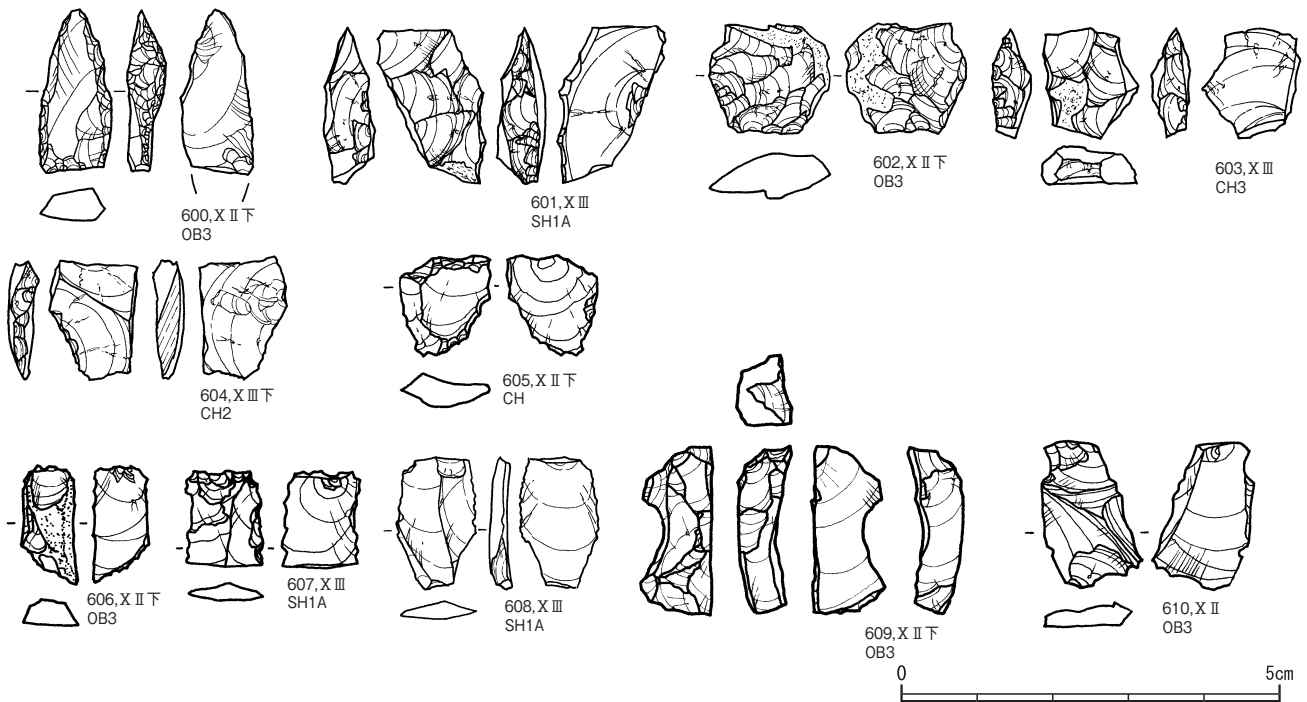
第378図 第Ⅱ文化層第11エリア第26ブロック出土石器実測図



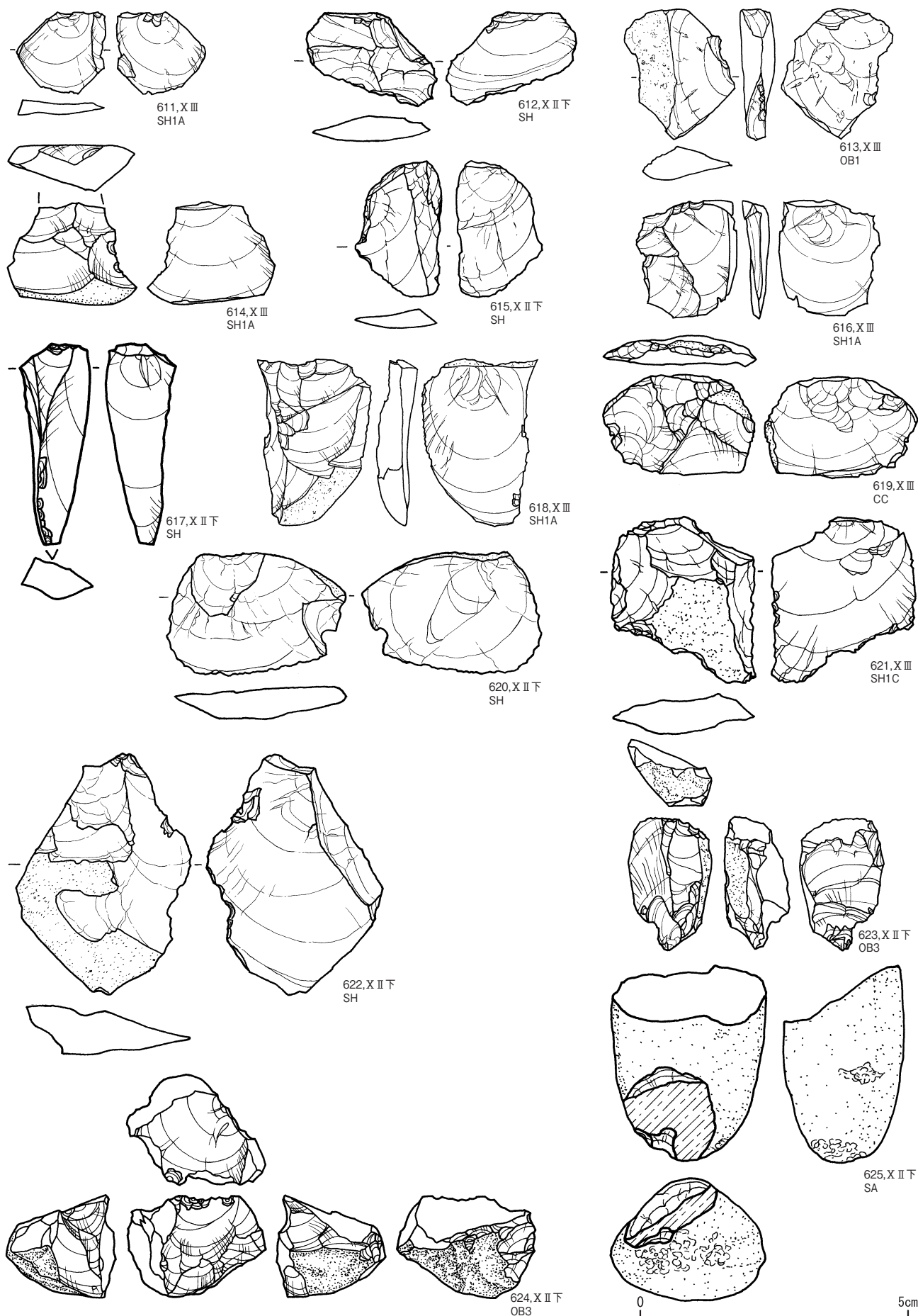
第379図 第Ⅱ文化層第11エリア第27ブロック出土石器実測図



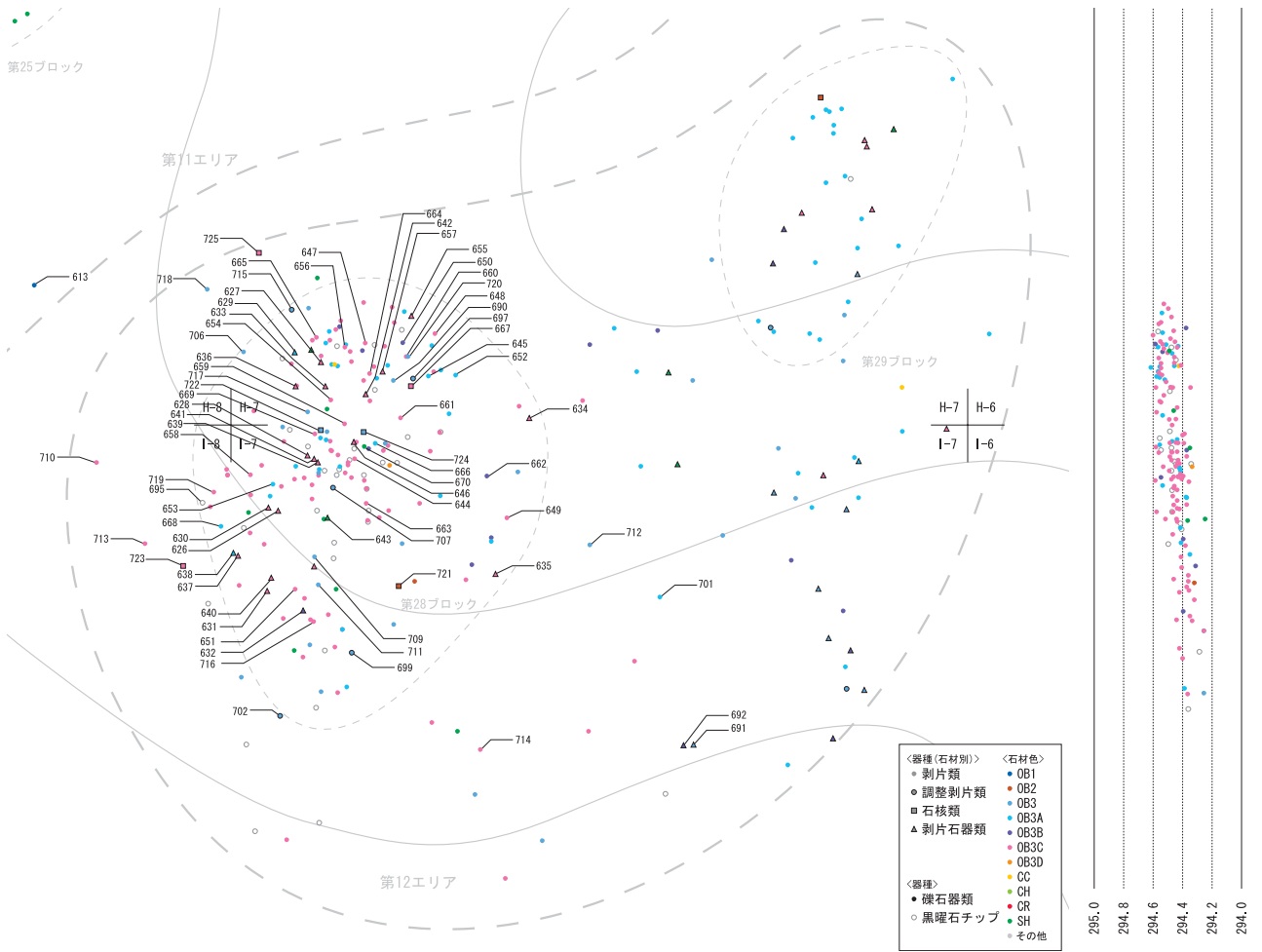
第380図 第Ⅱ文化層第11エリア第27ブロック石器出土状況図



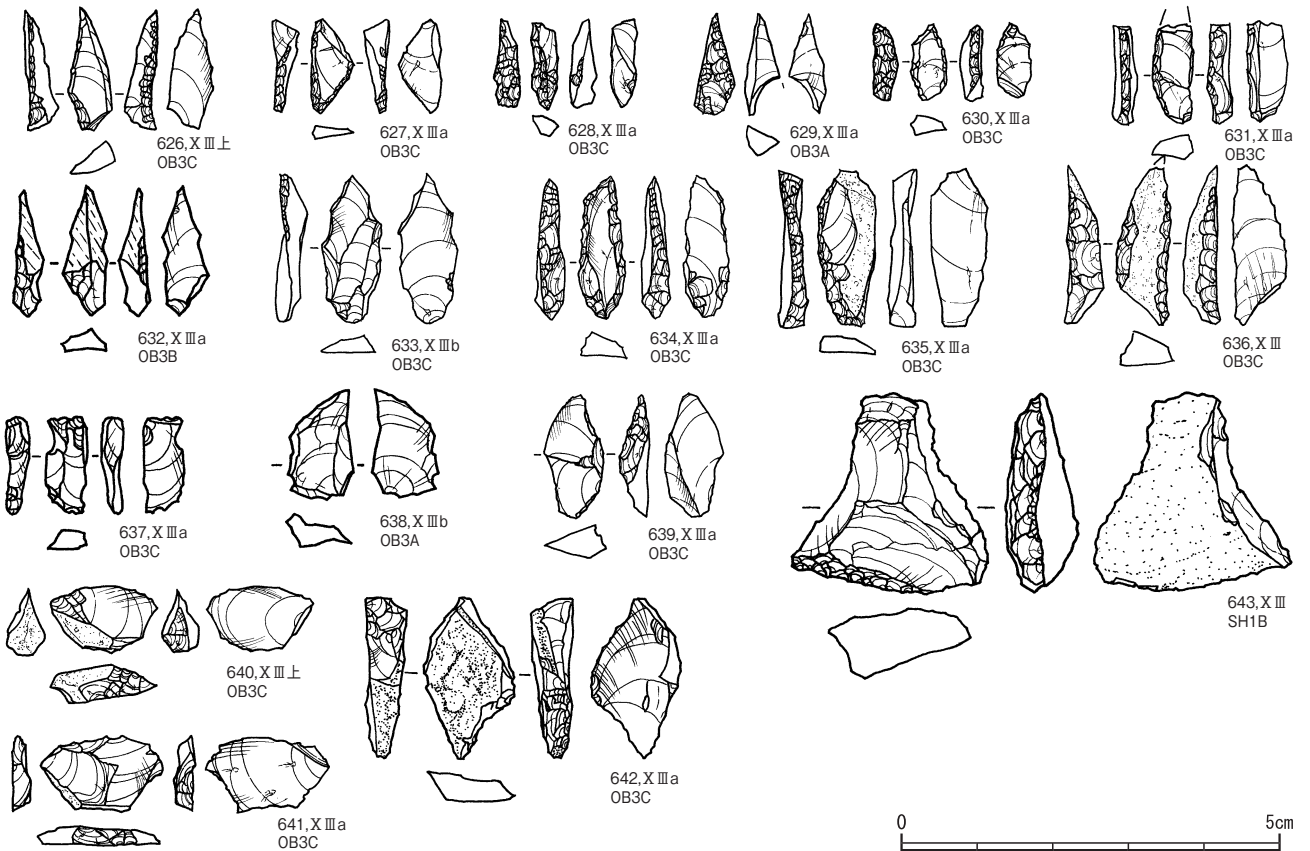
第381図 第Ⅱ文化層第11エリアブロック外出土石器実測図(1)



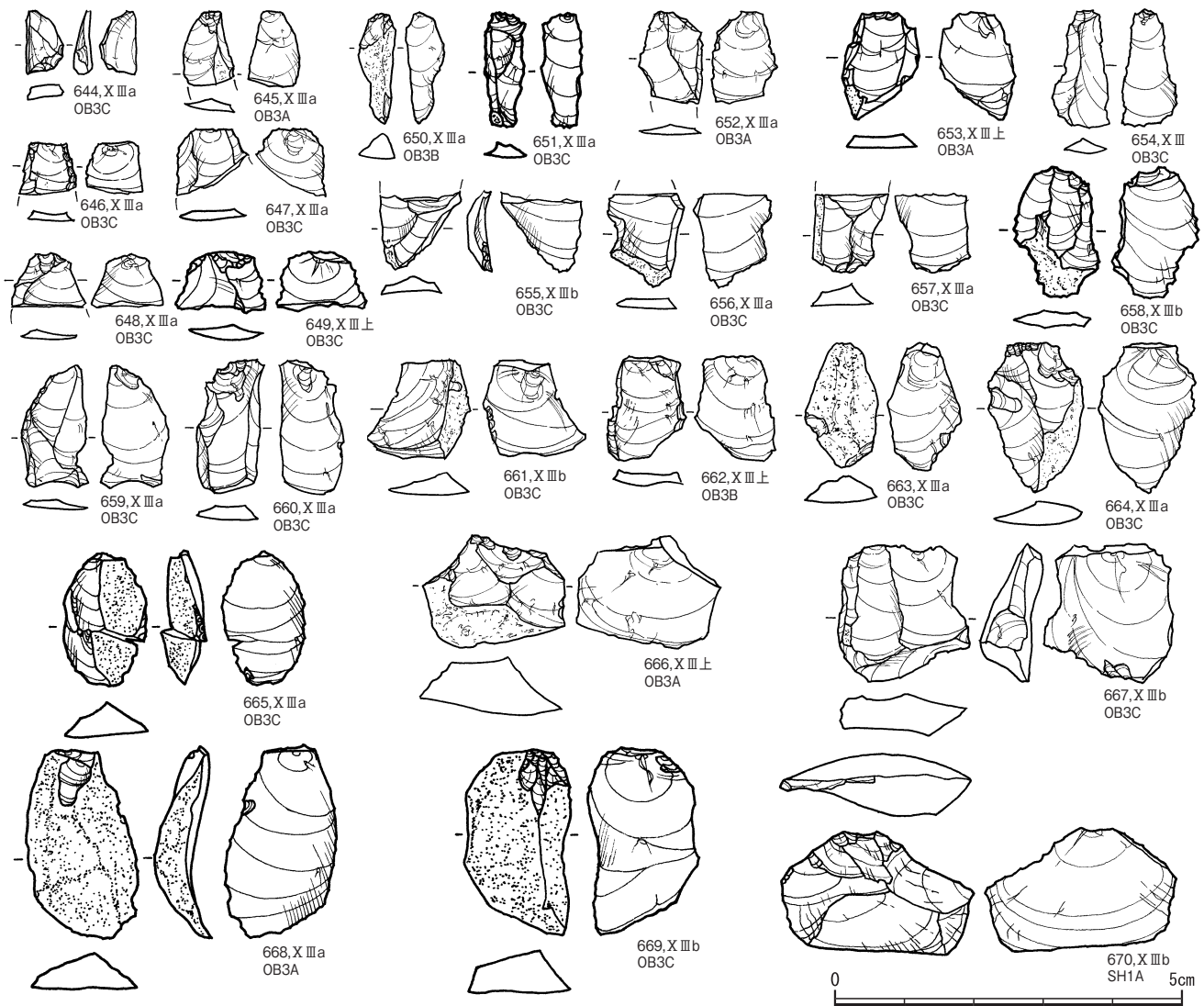
第382図 第Ⅱ文化層第11エリアブロック外出土石器実測図(2)



第383図 第Ⅱ文化層第12エリア第28ブロック石器出土状況図



第384図 第Ⅱ文化層第12エリア第28ブロック出土石器実測図(1)



第385図 第Ⅱ文化層第12エリア第28ブロック出土石器実測図(2)

第77表 第Ⅱ文化層第7エリア出土石器観察表(1)

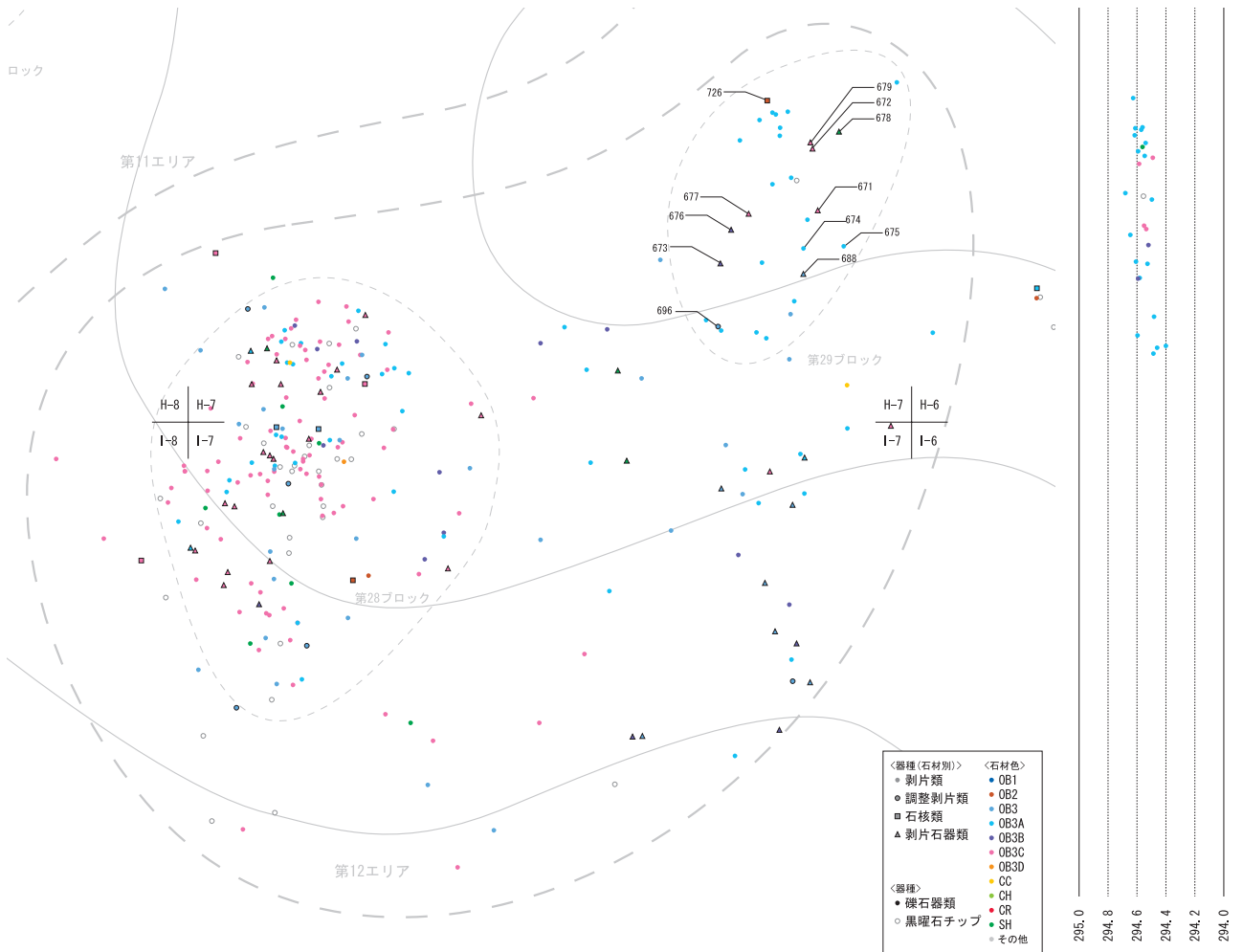
標頭No	図No	エリア	ブロック	分類L2	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)	接合No
351	439	A07	B17	台形石器	OB3A	7.8	9.9	2.5	0.2	▲4334(I-18/XⅢ)	-
351	440	A07	B17	台形石器	OB3A	11.9	10.4	5.2	0.5	▲11695(I-18/XⅢ)	-
351	441	A07	B17	台形石器	CH2A	15.5	11.7	4.6	0.9	▲11478(I-18/XⅢ)	-
351	442	A07	B17	剥片	OB3A	17.8	14.3	4.8	0.7	▲4330(I-18/XⅢ)	-
351	443	A07	B17	剥片	SH1A	38.9	25.8	9.9	7.0	▲11701(I-18/XⅢ)	-
351	444	A07	B17	石核	OB3A	12.8	20.6	9.2	2.2	▲4331(I-18/XⅢ)	-
351	445	A07	B17	二次加工剥片	CC1A	13.6	23.2	-	1.6	▲4329(I-18/XⅢ)	-
352	446	A07	B18	剥片	OB3A	11.6	12.4	1.9	0.2	▲11679(I-18/XⅢ)	-
352	447	A07	B18	剥片	SH2D	39.8	31.1	13.0	12.8	▲11666(I-17/XⅢ)	-
354	448	A07	B19	台形石器	OB3A	12.9	9.4	3.8	0.4	▲11645(J-17/XⅢ)	-
354	449	A07	B19	台形石器	OB3A	12.0	14.6	4.3	0.6	▲11633(J-17/XⅢ)	-
354	450	A07	B19	台形石器	OB3A	14.1	12.2	4.4	0.6	▲11626(J-17/XⅢ)	-
354	451	A07	B19	台形石器	SH1D	19.8	12.8	4.4	0.9	▲14635(J-17/XⅢ)	-
354	452	A07	B19	石核	OB3A	12.6	18.3	13.0	2.6	▲12454(J-17/XⅢ)	-
354	453	A07	B19	石核	OB3A	9.8	23.0	17.1	2.4	▲11621(J-17/XⅢ)	-
354	454	A07	B19	石核	OB3A	11.4	17.7	11.8	1.5	▲11494(J-17/XⅢ下)	-
354	455	A07	B19	石核	OB3A	12.9	24.5	10.5	2.4	▲11641(J-17/XⅢ)	-
354	456	A07	B19	石核	OB3B	18.3	20.6	11.2	-	▲11655(J-17/XⅢ)	No.49
356	457	A07	B00	台形石器	OB3B	11.7	10.7	4.3	0.4	▲4668(I-18/XⅢ)	-
356	458	A07	B00	台形石器	OB3A	13.1	11.7	3.6	0.5	▲4336(I-18/XⅢ)	-
356	459	A07	B00	台形石器	OB3A	17.5	11.5	2.9	0.4	▲6337(H-19/XⅢ)	-
356	460	A07	B00	台形石器	OB3A	17.6	10.5	4.1	0.8	▲6086(I-18/XⅢ)	-
356	461	A07	B00	剥片	OB3A	13.7	7.4	2.2	0.1	▲6334(H-19/XⅢ)	-
356	462	A07	B00	剥片	SH1A	13.2	14.4	2.9	0.5	▲3422(I-19/XⅢ)	-
356	463	A07	B00	剥片	OB3C	13.5	15.0	3.5	0.6	▲4335(I-18/XⅢ)	-
356	464	A07	B00	剥片	OB3	21.4	11.7	3.4	0.6	▲2608(I-20/XⅢ)	-
356	465	A07	B00	剥片	OB3A	15.4	14.4	5.4	1.2	▲11706(I-18/XⅢ)	-
356	466	A07	B00	剥片	CC1A	26.0	16.2	6.3	1.2	▲6324(H-19/XⅢ)	-
356	467	A07	B00	剥片	OB3B	7.1	18.6	18.2	1.3	▲11495(I-18/XⅢ下)	-

第78表 第Ⅱ文化層第7エリア出土石器観察表(2)

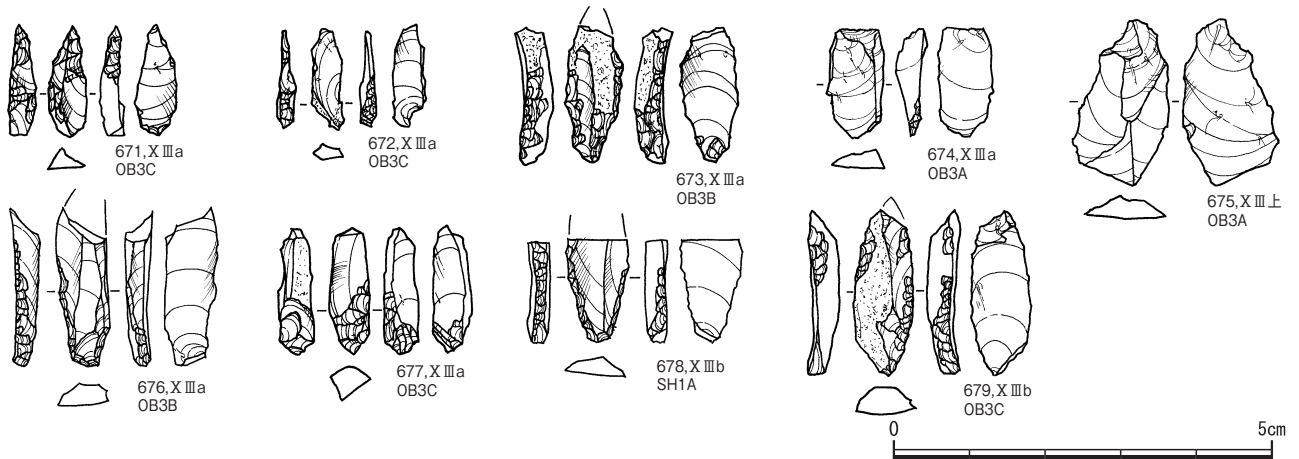
標頭No	図No	エリア	ブロック	分類L2	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)	接合No
356	468	A07	B00	石核	OB3A	13.0	27.0	11.7	2.4	▲2651(H-20/XⅢ)	-
356	469	A07	B00	ナイフ形石器	SH1A	36.9	12.2	7.4	2.5	▲6331(G-19/XⅢ)	-
356	470	A07	B00	剥片	SH1A	23.1	25.1	9.5	3.3	▲6335(H-19/XⅢ)	-
356	471	A07	B00	二次加工剥片	SH	48.9	25.5	12.1	10.2	▲6332(G-19/XⅢ)	-
357	472	A07	B00	剥片	SH3D	31.6	32.2	5.8	6.0	▲6885(H-19/XⅢ)	-
357	473	A07	B00	剥片	SH1A	49.5	28.5	8.2	11.4	▲6327(H-19/XⅢ)	-
357	474	A07	B00	剥片	SH1A	47.0	34.7	9.0	9.9	▲6365(H-17/XⅢ)	-
357	475	A07	B00	剥片	SH1A	71.9	22.6	11.1	8.5	▲2650(H-20/XⅢ)	-
357	476	A07	B00	剥片	SH1A	28.8	19.1	5.9	3.0	▲6328(H-19/XⅢ)	-
357	477	A07	B00	削器	SH1A	41.0	17.6	30.4	11.0	▲6340(H-19/XⅢ)	-
357	478	A07	B00	剥片	CC1A	53.2	31.1	19.1	25.6	▲6338(H-19/XⅢ)	-
357	479	A07	B00	剥片	SH1A	67.3	39.2	16.2	20.1	▲6319(H-19/XⅢ)	-

第79表 第Ⅱ文化層第8～第10エリア出土石器観察表

標頭No	図No	エリア	ブロック	分類L2	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)	接合No
359	480	A08	B20	剥片	OB3A	17.2	18.1	5.5	1.2	▲4740(H-11/XⅢ)	-
359	481	A08	B20	剥片	OB2B	38.4	17.7	9.0	5.1	▲4766(H-11/XⅢ)	-
360	482	A08	B00	剥片	OB2A	24.9	16.3	5.6	1.7	▲4840(H-12/XⅢ)	-
360	483	A08	B00	石核	OB2B	16.9	23.0	12.1	2.5	▲4774(H-12/XⅢ)	-
360	484	A08	B00	石核	OB1	19.3	46.6	24.4	16.6	▲4842(H-12/XⅢ)	-
362	485	A09	B00	角錐状石器	OB2A	28.2	16.8	14.6	5.5	▲8003(H-13/XⅢ)	-
362	486	A09	B00	剥片	SH1A	19.1	17.7	4.0	0.9	▲11581(J-13/XⅢ)	-
362	487	A09	B00	剥片	CH3	27.8	14.7	6.5	2.2	▲11577(J-13/XⅢ)	-
362	488	A09	B00	剥片	SH2C	28.8	30.5	8.6	5.8	▲11579(J-13/XⅢ)	-
362	489	A09	B00	剥片	SH1A	32.8	25.2	5.6	4.2	▲11578(J-13/XⅢ)	-
362	490	A09	B00	剥片	SH1A	49.5	33.2	8.5	8.6	▲11582(J-13/XⅢ)	-
362	491	A09	B00	剥片	SH1A	38.9	37.4	10.0	11.5	▲11580(J-13/XⅢ)	-
364	492	A10	B00	台形石器	OB2E	10.8	10.4	3.1	0.4	▲11534(J-11/XⅢ)	-



第386図 第Ⅱ文化層第12エリア第29ブロック石器出土状況図



第387図 第Ⅱ文化層第12エリア第29ブロック出土石器実測図

次加工剥片(729・732・733・742)と剥片, 石核(749)が採取されている。

727は小型ナイフ形石器, 728は未製品の可能性もある。732・742は台形石器及び未製品が考えられる。

石器製作に関わる資料はそろっているが, 概して製品が少ない。

第14エリア

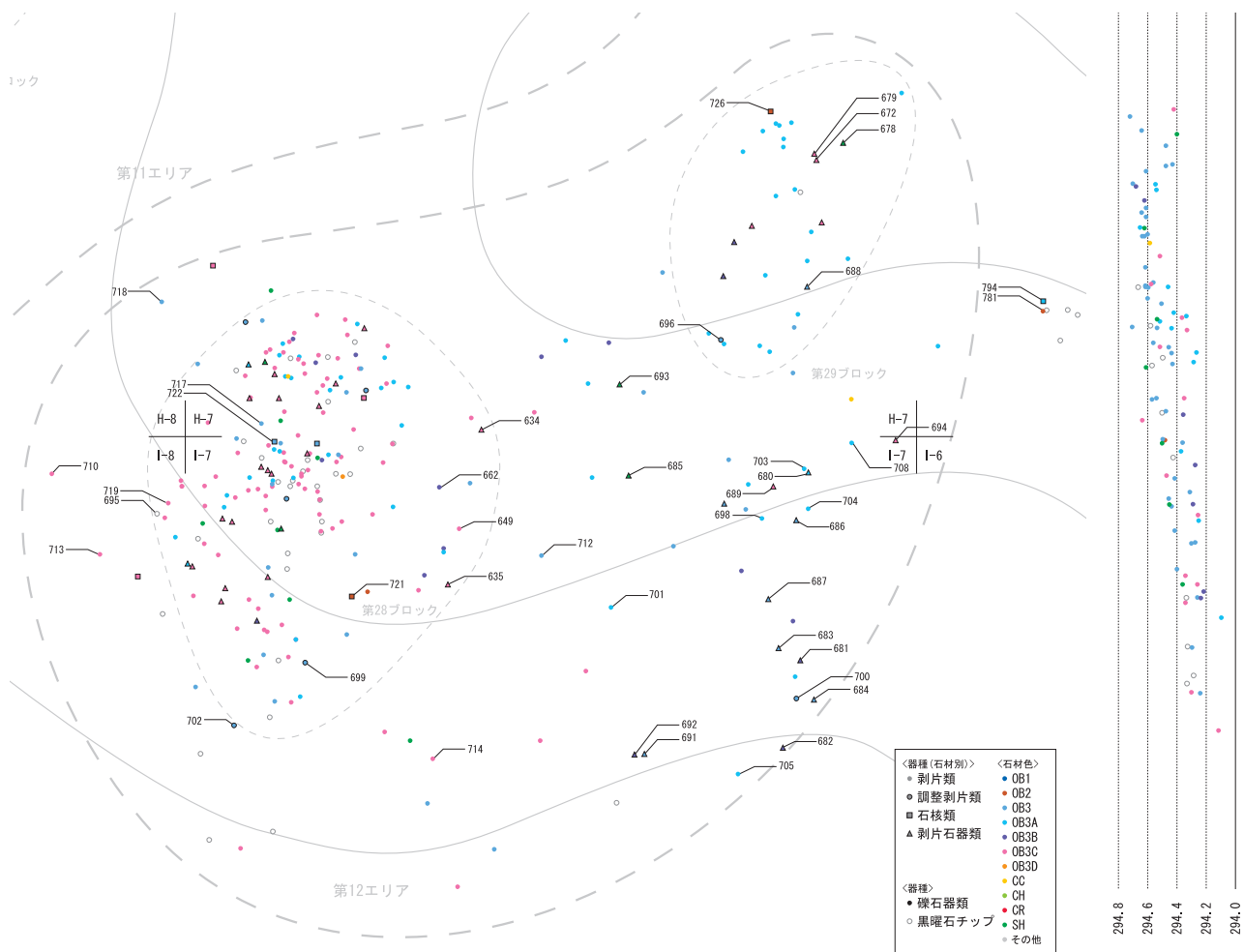
第31・第32ブロックで構成され, 台形石器は剥片素材を縦方向に用いた2点(754・759)と素材剥片を横位に用い

た(768), 二次加工剥片(755・756・761・764・767・773・774), 2点のハンマー(757・758)を確認できる。

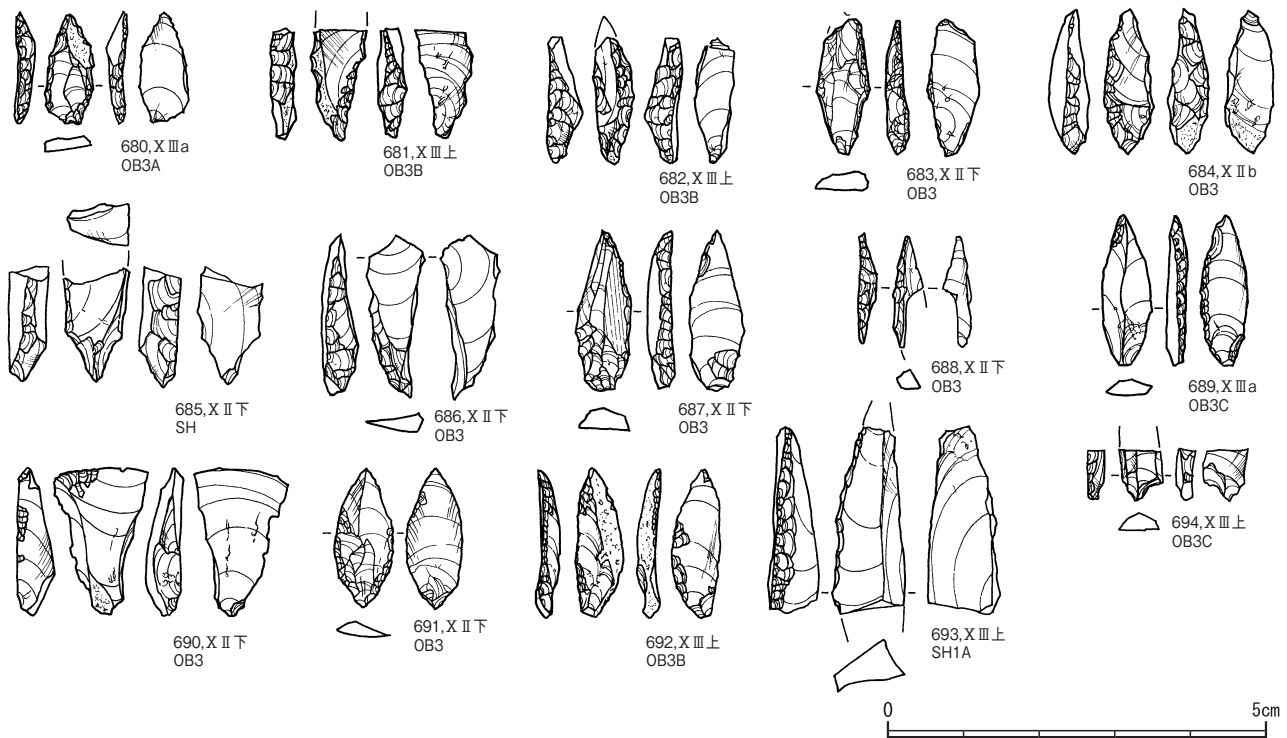
エリア外ブロック外

781の台形石器は素材剥片の形状をそのまま残し, 782は打面の除去を入念に行い刃部は強く内弯する。785の打面部は折断した後調整を加え, 対峙する側縁は腹面にも調整が及ぶ。

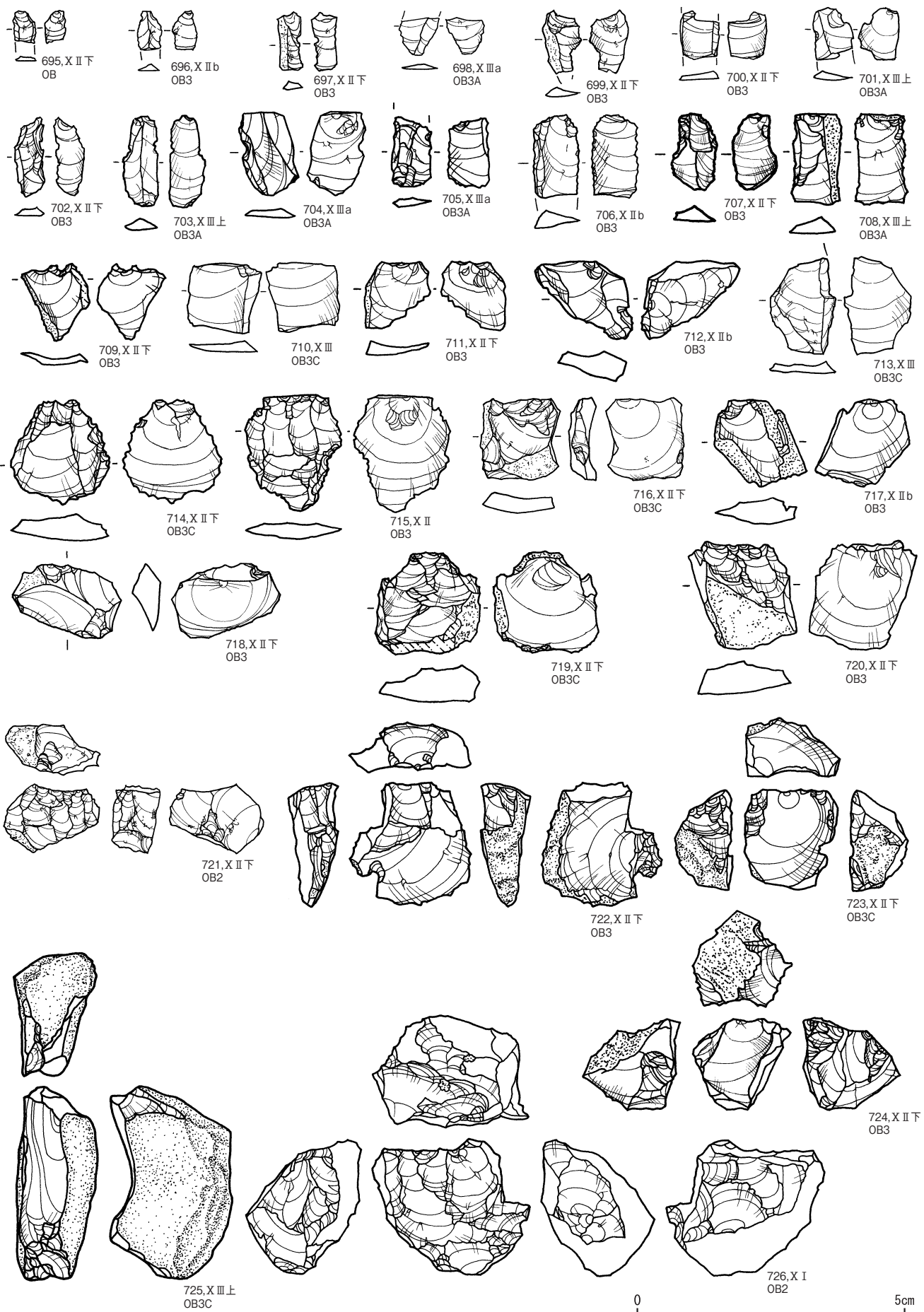
783のナイフ形石器は小型ナイフ形石器の製作と共通する。784は横長の剥片を用いた二側縁加工ナイフ形石器で,



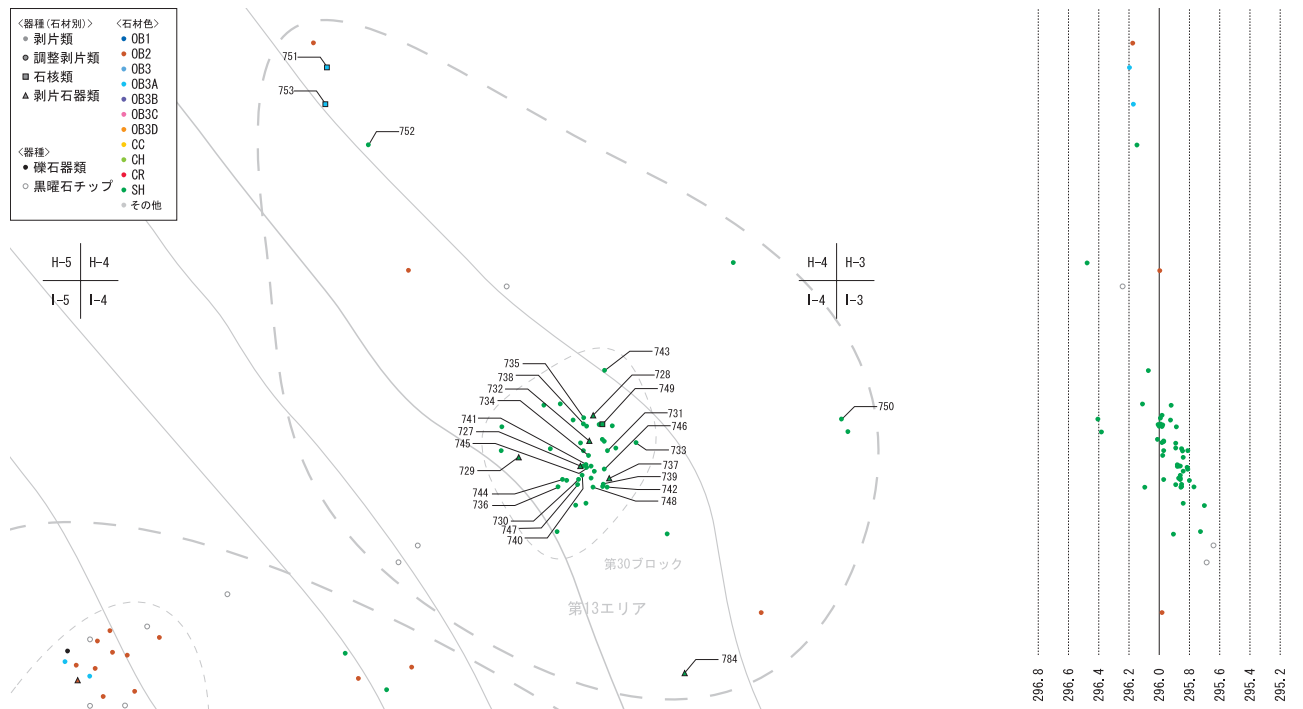
第388図 第Ⅱ文化層第12エリア石器出土状況図



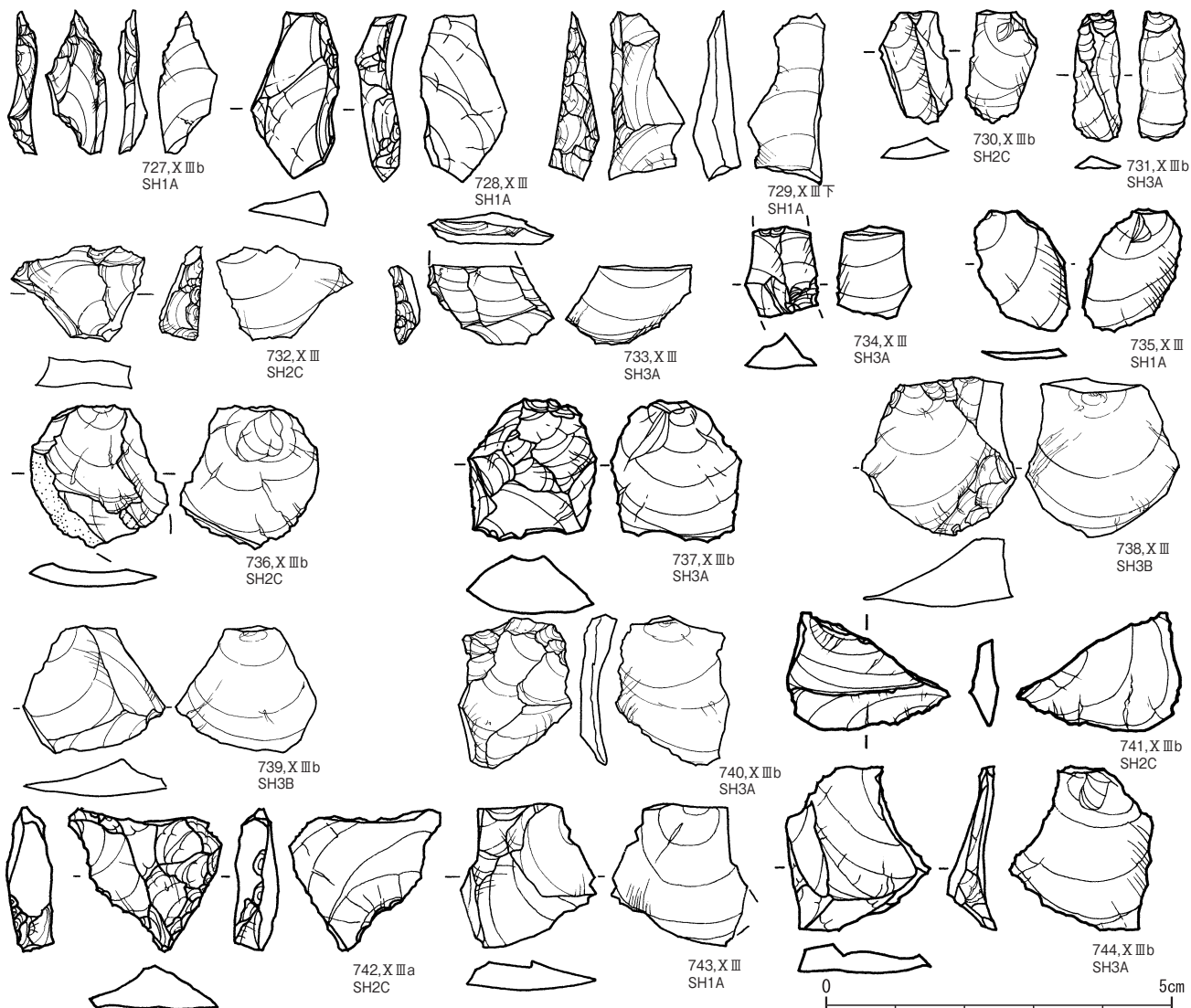
第389図 第Ⅱ文化層第12エリアブロック外出土石器実測図(1)



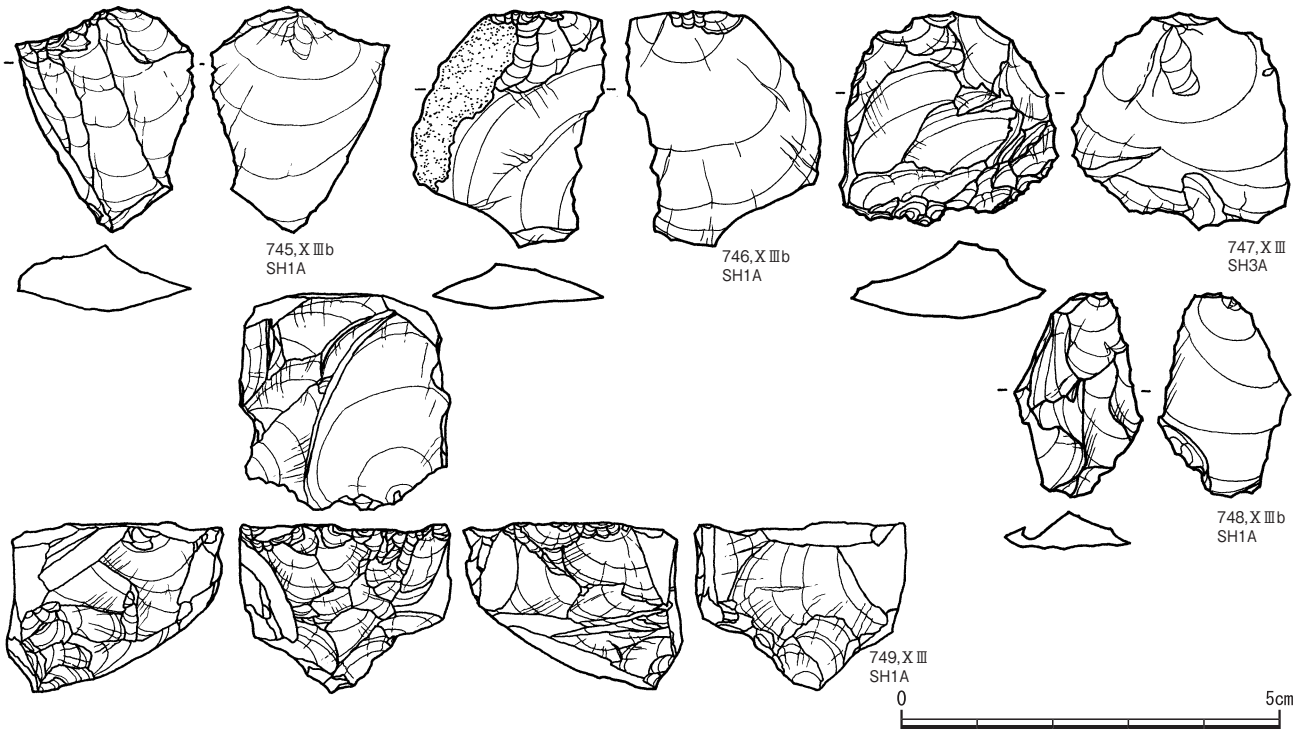
第390図 第Ⅱ文化層第12エリアブロック外出土石器実測図(2)



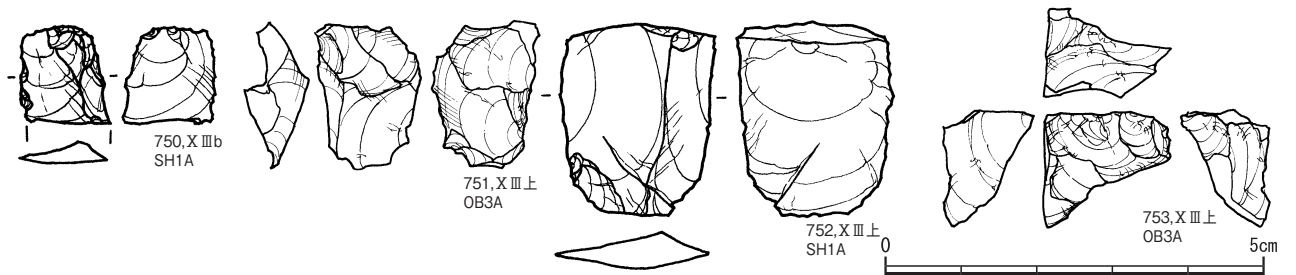
第391図 第II文化層第13エリア第30ブロック石器出土状況図



第392図 第II文化層第13エリア第30ブロック出土石器実測図(1)



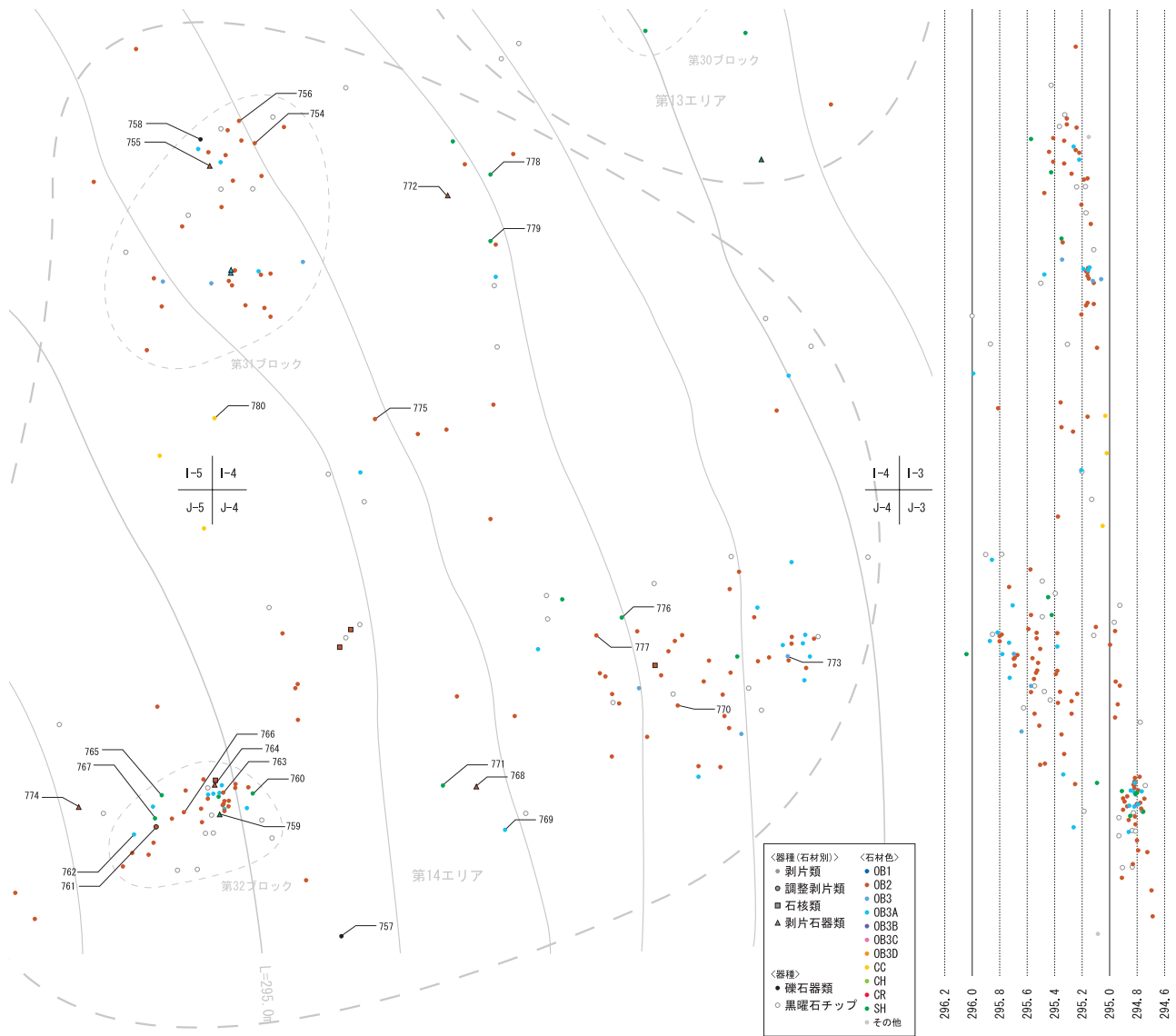
第393図 第Ⅱ文化層第13エリア第30ブロック出土石器実測図(2)



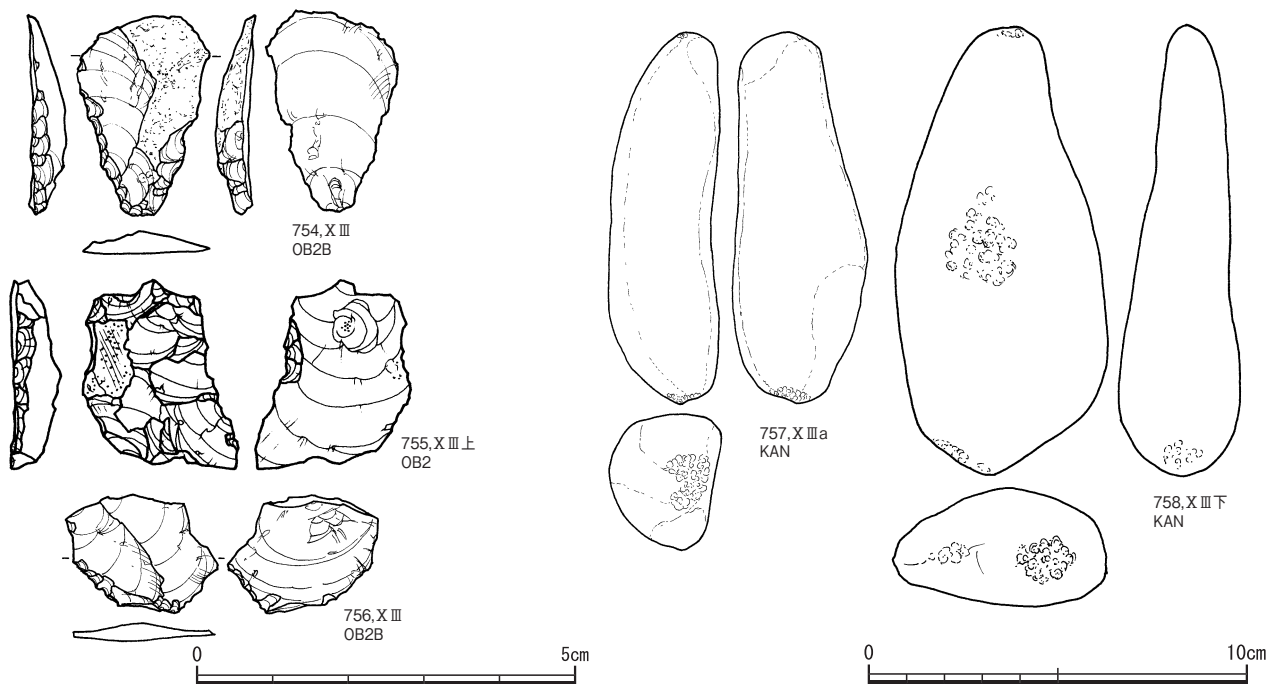
第394図 第Ⅱ文化層第13エリアブロック外出土石器実測図

791・792は角錐状石器で天地の判断が難しい。

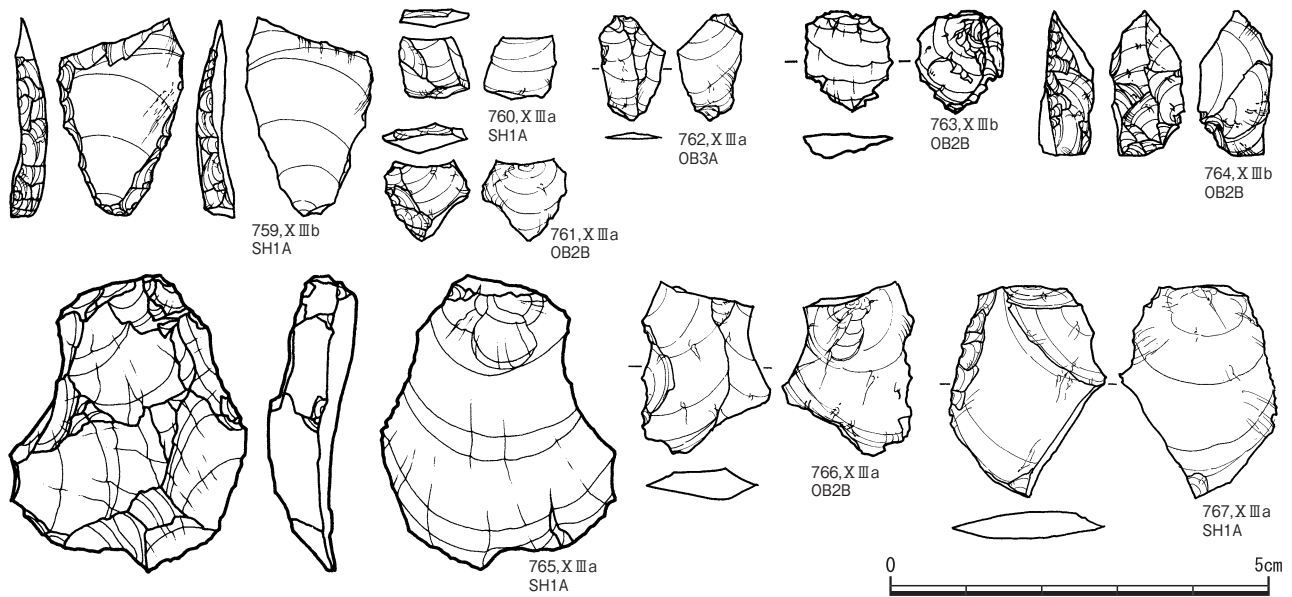
793の剥片尖頭器は、第Ⅰ文化層からの浮き上がりと判断される。



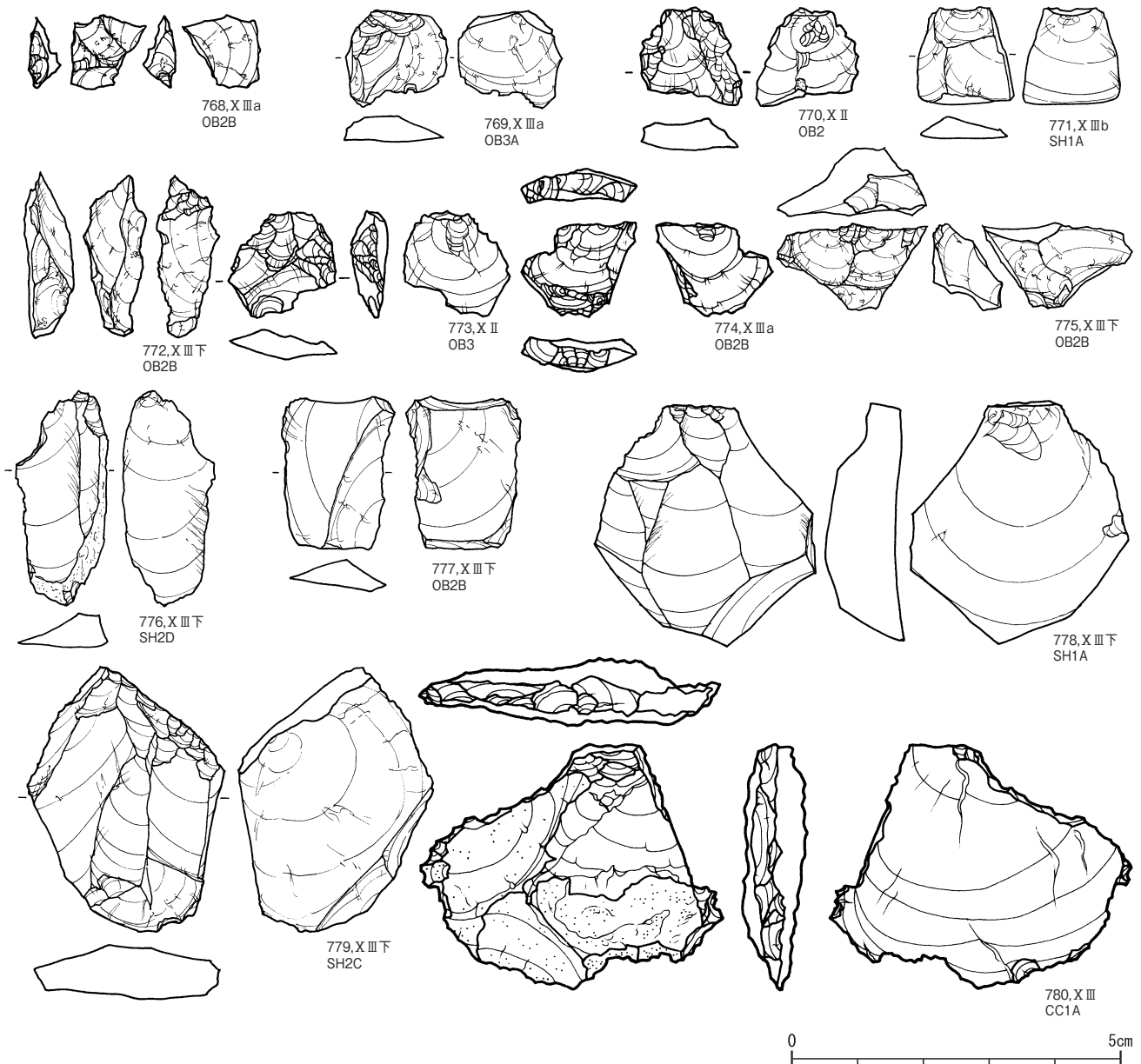
第395図 第Ⅱ文化層第14エリア石器出土状況図



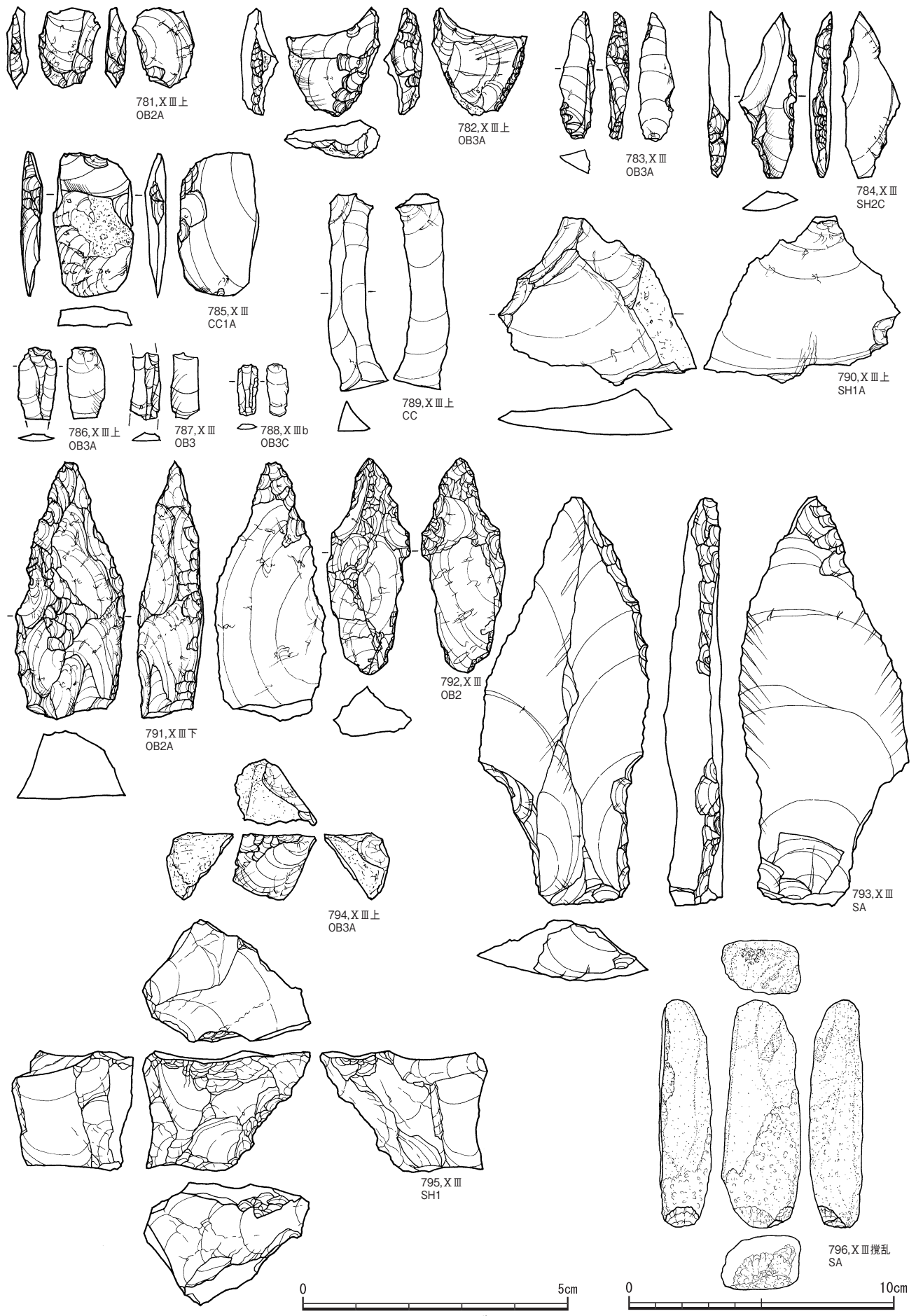
第396図 第Ⅱ文化層第14エリア第31ブロック出土石器実測図



第397図 第Ⅱ文化層第14エリア第32ブロック出土石器実測図



第398図 第Ⅱ文化層第14エリア出土石器実測図



第399図 第Ⅱ文化層エリア外ブロック外出土石器実測図

第80表 第Ⅱ文化層第11エリア出土石器観察表(1)

標記No	図No	エリア	フック	分類L2	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)	接合No
366	493	A11	B21	台形石器	SH1A	14.3	13.6	5.6	0.9	▲13989(H-8/XⅢ)	-
366	494	A11	B21	台形石器	CH2	13.7	15.4	5.6	0.8	▲13987(H-8/XⅢ)	-
366	495	A11	B21	台形石器	SH1A	24.9	13.2	4.4	0.9	▲14056(H-8/XⅢ)	-
366	496	A11	B21	剥片	SH1A	19.5	9.8	3.2	0.5	▲14060(H-8/XⅢ)	-
366	497	A11	B21	剥片	SH2A	21.9	18.5	4.6	1.5	▲14053(H-8/XⅢ)	-
366	498	A11	B21	剥片	SH1A	16.1	20.0	9.0	2.1	▲14039(H-8/XⅢ)	-
366	499	A11	B21	剥片	SH1C	36.9	19.2	8.2	5.1	▲14058(H-8/XⅢ)	No.54
366	500	A11	B21	石核	SH1B	23.5	35.2	25.1	20.7	▲14055(H-8/XⅢ)	No.53
368	501	A11	B22	台形石器	SH1A	15.2	11.1	4.6	0.7	▲14074(H-8/XⅢ)	-
368	502	A11	B22	台形石器	CH2	19.1	13.0	5.0	1.2	▲14139(H-8/XⅢ)	-
368	503	A11	B22	台形石器	SH1B	19.0	13.7	6.5	1.3	▲14110(H-8/XⅢ)	-
368	504	A11	B22	台形石器	SH2	20.1	12.3	5.5	1.2	▲13993(H-8/XⅢ)	-
368	505	A11	B22	台形石器	SH2A	16.3	12.5	3.7	0.6	▲14112(H-8/XⅢ)	-
368	506	A11	B22	剥片	SH1B	16.7	13.6	4.2	0.9	▲14137(H-8/XⅢ)	-
368	507	A11	B22	剥片	SH1B	18.2	14.2	7.7	2.1	▲14070(H-8/XⅢ)	-
368	508	A11	B22	剥片	SH2A	10.4	11.0	3.1	0.3	▲14141(H-8/XⅢ)	-
368	509	A11	B22	剥片	SH1C	10.8	13.5	1.9	0.3	▲13999(H-8/XⅢ)	-
368	510	A11	B22	剥片	SH1C	8.5	22.5	5.0	0.8	▲14095(H-8/XⅢ)	No.54
368	511	A11	B22	剥片	SH1C	7.2	23.2	3.4	0.5	▲14115(H-8/XⅢ)	No.54
368	512	A11	B22	剥片	SH1C	13.2	17.5	4.2	0.8	▲14084(H-8/XⅢ)	No.51
368	513	A11	B22	剥片	SH1C	21.3	13.9	3.5	0.8	▲14134(H-8/XⅢ)	-
368	514	A11	B22	剥片	SH1C	18.7	13.5	3.3	0.7	▲14113(H-8/XⅢ)	No.52
368	515	A11	B22	剥片	SH1A	17.9	14.6	3.3	0.7	▲14108(H-8/XⅢ)	-
368	516	A11	B22	剥片	SH1C	21.7	14.4	5.3	1.2	▲13997(H-8/XⅢ)	No.54
368	517	A11	B22	剥片	SH1C	24.6	11.3	8.5	1.7	▲14099(H-8/XⅢ)	No.52
368	518	A11	B22	剥片	SH1C	16.3	6.5	2.6	0.2	▲14098(H-8/XⅢ)	-
368	519	A11	B22	剥片	SH1C	18.3	25.0	6.0	1.7	▲14127(H-8/XⅢ)	No.52
368	520	A11	B22	剥片	SH1B	14.7	23.7	6.2	2.0	▲13994(H-8/XⅢ)	-
369	521	A11	B22	剥片	SH1C	24.7	19.2	5.3	1.7	▲14131(H-8/XⅢ)	-
369	522	A11	B22	剥片	SH1B	23.1	22.2	7.8	3.5	▲14080(H-8/XⅢ)	No.53
369	523	A11	B22	剥片	SH1C	28.8	28.9	9.8	3.9	▲14086(H-8/XⅢ)	No.51
369	524	A11	B22	剥片	SH1C	26.1	25.5	7.5	2.8	▲14101(H-8/XⅢ)	No.52
369	525	A11	B22	剥片	SH1C	29.3	21.1	10.4	3.4	▲14071(H-8/XⅢ)	No.54
369	526	A11	B22	剥片	SH1C	23.7	32.3	7.9	4.7	▲14106(H-8/XⅢ)	No.51
369	527	A11	B22	剥片	SH1C	20.8	23.6	4.4	1.8	▲14076(H-8/XⅢ)	-
369	528	A11	B22	剥片	SH1	18.4	22.5	8.4	3.0	▲14079(H-8/XⅢ)	-
369	529	A11	B22	剥片	SH1C	21.4	27.9	6.2	3.3	▲14093(H-8/XⅢ)	-
369	530	A11	B22	剥片	SH1A	27.6	18.9	5.7	2.0	▲14142(H-8/XⅢ)	-
369	531	A11	B22	剥片	SH2D	29.7	16.1	10.0	2.9	▲14077(H-8/XⅢ)	-
369	532	A11	B22	剥片	SH1C	31.5	27.0	8.8	3.8	▲14068(H-8/XⅢ)	No.51
369	533	A11	B22	剥片	SH1C	33.3	41.9	9.2	11.3	▲14091(H-8/XⅢ下)	No.51
371	534	A11	B23	台形石器	SH1B	17.2	13.2	5.2	0.9	▲14040(H-8/XⅢ)	-
371	535	A11	B23	台形石器	SH1A	23.0	16.9	7.0	2.5	▲13978(H-8/XⅢ)	-
371	536	A11	B23	台形石器	CH2	27.2	13.3	5.8	1.2	▲14064(H-8/XⅢ)	-
371	537	A11	B23	台形石器	SH2A	22.4	12.0	5.5	1.4	▲14152(H-8/XⅢ下)	-
371	538	A11	B23	台形石器	CH2	20.5	12.3	6.7	1.5	▲14043(H-8/XⅢ)	-
371	539	A11	B23	台形石器	SH1A	20.6	14.2	4.6	1.5	▲14037(H-8/XⅢ)	-
371	540	A11	B23	台形石器	SH1B	17.9	15.2	6.3	1.5	▲14030(H-8/XⅢ)	-
371	541	A11	B23	台形石器	CH2A	18.9	12.7	7.6	1.4	▲13971(H-8/XⅢ)	-
371	542	A11	B23	剥片	SH1A	16.3	18.7	5.8	1.7	▲13969(H-8/XⅢ)	-
371	543	A11	B23	剥片	SH1A	9.5	10.4	1.7	0.1	▲14049(H-8/XⅢ)	-
371	544	A11	B23	剥片	SH1B	15.4	11.8	3.7	0.5	▲14003(H-8/XⅢ)	-
371	545	A11	B23	剥片	SH1B	19.1	8.5	2.9	0.3	▲14017(H-8/XⅢ下)	-
371	546	A11	B23	剥片	SH1B	13.9	12.6	4.6	0.7	▲14153(H-8/XⅢ下)	-
371	547	A11	B23	剥片	SH1A	13.9	18.8	8.0	1.2	▲14045(H-8/XⅢ)	-
371	548	A11	B23	剥片	SH1A	14.5	8.7	3.1	0.4	▲13976(H-8/XⅢ)	-
371	549	A11	B23	剥片	SH1B	19.3	13.6	4.6	0.9	▲14046(H-8/XⅢ)	-
371	550	A11	B23	剥片	SH1A	19.7	15.2	3.5	0.8	▲14159(H-8/XⅢ)	-
371	551	A11	B23	剥片	SH1A	19.9	15.4	4.7	1.3	▲14011(H-8/XⅢ)	-
371	552	A11	B23	剥片	SH1B	19.8	17.1	3.9	0.7	▲14158(H-8/XⅢ)	-
372	553	A11	B23	剥片	SH1B	16.6	17.7	4.0	0.9	▲14149(H-8/XⅢ)	-
372	554	A11	B23	剥片	SH1A	16.5	21.4	8.3	2.6	▲14004(H-8/XⅢ)	No.57
372	555	A11	B23	剥片	SH1B	22.1	16.6	6.4	2.3	▲14041(H-8/XⅢ)	-
372	556	A11	B23	剥片	SH1A	22.6	11.6	4.7	1.1	▲13965(H-8/XⅢ)	-
372	557	A11	B23	剥片	SH1B	24.7	21.6	8.4	3.8	▲14038(H-8/XⅢ)	No.56
372	558	A11	B23	剥片	SH1B	28.9	14.0	8.2	2.9	▲14047(H-8/XⅢ)	No.55
372	559	A11	B23	剥片	SH1C	26.8	18.5	7.9	2.8	▲14066(H-8/XⅢ)	-
372	560	A11	B23	剥片	SH1A	24.0	11.3	6.6	1.4	▲14028(H-8/XⅢ)	-
372	561	A11	B23	剥片	SH1A	21.5	23.2	6.4	1.8	▲14065(H-8/XⅢ)	-
372	562	A11	B23	剥片	CH2	22.9	21.3	6.0	2.1	▲14034(H-8/XⅢ)	-
372	563	A11	B23	剥片	SH1B	21.8	23.9	8.4	4.1	▲14026(H-8/XⅢ)	-
372	564	A11	B23	石核	SH1B	23.3	39.3	42.3	50.5	▲14062(H-8/XⅢ)	-
372	565	A11	B23	石核	CH2	16.4	32.0	17.5	8.1	▲13968(H-8/XⅢ)	-
372	566	A11	B23	石核	SH1B	20.4	26.2	19.0	8.4	▲14033(H-8/XⅢ下)	No.56
374	567	A11	B24	台形石器	SH1B	16.9	15.5	7.6	1.4	▲13412(H-8/XⅢ)	-
374	568	A11	B24	台形石器	CH2A	14.3	15.7	3.9	0.6	▲13417(H-8/XⅢ)	-
374	569	A11	B24	台形石器	SH1A	27.0	20.8	7.6	3.3	▲13409(H-8/XⅢ)	-
374	570	A11	B24	剥片	SH1A	27.5	15.1	9.8	2.6	▲13403(H-8/XⅢ)	-
374	571	A11	B24	剥片	SH1B	22.6	19.7	6.9	2.1	▲12950(H-8/XⅢ上)	-

第81表 第Ⅱ文化層第11エリア出土石器観察表(2)

標記No	図No	エリア	フック	分類L2	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)	接合No
374	572	A11	B24	剥片	SH1B	24.0	21.5	7.4	2.7	▲12946(H-8/XⅢ上)	-
374	573	A11	B24	剥片	SH1A	26.8	28.4	10.2	5.3	▲13415(H-8/XⅢ)	-
374	574	A11	B24	角錐状石器	SH1B	39.8	17.5	13.1	5.8	▲12948(H-8/XⅢ上)	-
374	575	A11	B24	剥片	SH1B	26.9	36.2	9.4	7.3	▲13404(H-8/XⅢ)	-
376	576	A11	B25	台形石器	SH1B	21.4	13.9	6.6	1.5	▲13570(H-8/XⅢ)	-
376	577	A11	B25	台形石器	SH1B	17.0	17.5	6.7	1.9	▲13569(H-8/XⅢ)	-
376	578	A11	B25	台形石器	SH1B	13.4	13.0	4.2	0.4	▲13456(H-8/XⅢ)	-
376	579	A11	B25	二次加工剥片	CC1A	21.3	7.8	6.3	0.8	▲13492(H-8/XⅢ)	-
376	580	A11	B25	剥片	SH1B	20.1	9.1	3.4	0.5	▲13494(H-8/XⅢ)	-
376	581	A11	B25	剥片	SH1B	22.6	12.4	4.6	0.8	▲13572(H-8/XⅢ)	-
376	582	A11	B25	剥片	SH1B	21.2	12.8	5.5	1.1	▲13591(H-8/XⅢ下)	-
376	583	A11	B25	剥片	SH1A	16.8	12.1	4.7	0.8	▲13577(H-8/XⅢ)	-
376	584	A11	B25	剥片	CC1A	12.6	13.5	5.2	0.8	▲13593(H-8/XⅢ)	No.59
376	585	A11	B25	剥片	SH1B	16.8	19.0	5.0	1.2	▲13500(H-8/XⅢ)	No.58
376	586	A11	B25	剥片	SH1B	20.6	26.4	8.5	2.7	▲13571(H-8/XⅢ下)	-
376	587	A11	B25	剥片	SH1B	22.9	19.3	9.2	3.9	▲13496(H-8/XⅢ下)	-
376	588	A11	B25	石核	CC1A	12.5	28.9	18.5	6.3	▲13513(H-8/XⅢ)	No.59
376	589	A11	B25	石核	SH1B	18.4	21.2	11.0	3.2	▲12911(H-8/XⅢ上)	-
378	590	A11	B26	角錐状石器	SH2D	34.1	16.9	14.0	5.1	▲13532(H-8/XⅢ)	-
378	591	A11	B26	剥片	SH2B	33.5	16.7	5.8	2.4	▲13518(H-8/XⅢ)	-
378	592	A11	B26	石核	OB3A	9.6	15.0	9.6	0.9	▲13536(H-8/XⅢ)	-
378	593	A11	B26	石核	OB3A	9.8	15.2	6.8	0.9	▲13534(H-8/XⅢ)	-
378	594	A11	B26	石核	SH2B	24.2	53.8	21.8	29.6	▲13519(H-8/XⅢ)	-
379	595	A11	B27	ナイフ形石器	OB3C	11.8	5.7	4.2	0.3	▲13557(H-7/XⅢ)	-
379	596	A11	B27	剥片	OB3C	15.9	5.6	3.8	0.2	▲12911(H-7/XⅢ上)	-
379	597	A11	B27	剥片	OB3A	21.4	21.1	4.4	1.4	▲12915(H-7/XⅢ)	-
379	598	A11	B27	剥片	SH1A	33.1	29.0	11.8	9.5	▲13558(H-7/XⅢ)	-
379	599	A11	B27	石核	OB3A	18.2	18.4	13.2	2.5	▲12914(H-7/XⅢ上)	-
381	600	A11	B00	ナイフ形石器	OB3	22.1	9.9	5.4	0.9	▲12908(H-7/XⅢ下)	-
381	601	A11	B00	台形石器	SH1A	21.0	14.6	7.1	2.0	▲13543(H-8/XⅢ)	-
381	602	A11	B00	台形石器	OB3	14.7	16.2	6.3	1.5	▲12904(H-7/XⅢ下)	-
381	603	A11	B00	台形石器	CH3	14.7	13.2	5.4	1.3	▲13549(G-7/XⅢ上)	-
381	604	A11	B00	台形石器	CH2	16.3	11.9	4.3	0.8		

第83表 第Ⅱ文化層第12～第14エリア出土石器観察表（2）

種目No	図No	エリア	プロフ	分類L2	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)	接合No
385	648	A12	B28	剥片	OB3C	7.9	10.5	2.2	0.2	▲16577(H-7/XⅢa)	-
385	649	A12	B28	剥片	OB3C	8.9	13.3	2.7	0.2	▲16447(I-7/XⅢa)	-
385	650	A12	B28	剥片	OB3B	16.3	5.8	3.8	0.2	▲16575(H-7/XⅢa)	-
385	651	A12	B28	剥片	OB3C	16.8	6.3	2.2	0.2	▲16611(I-7/XⅢa)	-
385	652	A12	B28	剥片	OB3A	13.5	9.7	2.6	0.3	▲16417(H-7/XⅢa)	-
385	653	A12	B28	剥片	OB3A	15.8	11.2	2.8	0.3	▲16425(I-7/XⅢ上)	-
385	654	A12	B28	剥片	OB3C	17.1	8.1	2.3	0.2	▲14379(H-7/XⅢ)	No.62
385	655	A12	B28	剥片	OB3C	11.6	11.9	3.8	0.3	▲16739(H-7/XⅢb)	-
385	656	A12	B28	剥片	OB3C	13.8	11.4	2.2	0.3	▲16567(H-7/XⅢa)	-
385	657	A12	B28	剥片	OB3C	11.6	11.0	4.0	0.5	▲16669(H-7/XⅢa)	-
385	658	A12	B28	剥片	OB3C	19.1	12.8	2.8	0.5	▲16703(I-7/XⅢb)	-
385	659	A12	B28	剥片	OB3C	17.9	10.0	2.9	0.2	▲16589(H-7/XⅢa)	-
385	660	A12	B28	剥片	OB3C	19.5	9.5	3.1	0.5	▲16576(H-7/XⅢa)	-
385	661	A12	B28	剥片	OB3C	14.1	15.0	3.3	0.5	▲16667(H-7/XⅢb)	-
385	662	A12	B28	剥片	OB3B	15.4	11.9	3.0	0.4	▲16418(I-7/XⅢ上)	-
385	663	A12	B28	剥片	OB3C	18.6	10.8	5.4	0.7	▲16525(I-7/XⅢa)	-
385	664	A12	B28	剥片	OB3C	21.8	14.3	3.7	0.9	▲16585(H-7/XⅢa)	-
385	665	A12	B28	剥片	OB3C	19.5	12.2	6.9	1.1	▲16563(H-7/XⅢa)	-
385	666	A12	B28	剥片	OB3A	16.3	21.0	7.9	2.0	▲16422(I-7/XⅢ上)	-
385	667	A12	B28	剥片	OB3C	20.3	18.8	9.4	2.4	▲16666(H-7/XⅢb)	No.62
385	668	A12	B28	剥片	OB3A	28.1	16.4	8.6	2.4	▲16606(I-8/XⅢa)	-
385	669	A12	B28	剥片	OB3C	27.3	16.4	7.5	2.8	▲16746(I-7/XⅢb)	-
385	670	A12	B28	剥片	SH1A	18.0	27.8	9.2	3.5	▲16749(I-7/XⅢb)	-
387	671	A12	B29	ナイフ形石器	OB3C	14.8	5.8	4.0	0.2	▲16615(H-7/XⅢa)	-
387	672	A12	B29	ナイフ形石器	OB3C	13.8	4.7	2.5	0.1	▲16467(H-7/XⅢa)	-
387	673	A12	B29	ナイフ形石器	OB3B	17.9	8.0	5.4	0.6	▲16462(H-7/XⅢa)	-
387	674	A12	B29	剥片	OB3A	14.6	7.5	4.4	0.3	▲16465(H-7/XⅢa)	-
387	675	A12	B29	剥片	OB3A	22.2	13.0	4.5	0.7	▲16466(H-7/XⅢ上)	-
387	676	A12	B29	ナイフ形石器	OB3B	21.1	7.2	4.3	0.4	▲16717(H-7/XⅢa)	-
387	677	A12	B29	ナイフ形石器	OB3C	17.0	5.5	5.1	0.4	▲16519(H-7/XⅢa)	-
387	678	A12	B29	ナイフ形石器	SH1A	13.9	8.5	3.3	0.4	▲16728(H-7/XⅢb)	-
387	679	A12	B29	ナイフ形石器	OB3C	22.0	8.2	4.5	0.7	▲16729(H-7/XⅢb)	-
389	680	A12	B00	ナイフ形石器	OB3A	14.7	6.8	3.0	0.2	▲16619(I-7/XⅢa)	-
389	681	A12	B00	ナイフ形石器	OB3B	14.5	7.9	3.7	0.4	▲16455(I-7/XⅢ上)	-
389	682	A12	B00	ナイフ形石器	OB3B	16.7	5.5	5.0	0.4	▲16453(I-7/XⅢ上)	-
389	683	A12	B00	ナイフ形石器	OB3	18.3	7.2	3.4	0.3	▲16341(I-7/XⅡ下)	-
389	684	A12	B00	ナイフ形石器	OB3	19.1	6.7	5.6	0.5	▲16340(I-7/XⅡb)	-
389	685	A12	B00	ナイフ形石器	SH	15.7	8.8	5.6	0.6	▲16349(I-7/XⅡ下)	-
389	686	A12	B00	ナイフ形石器	OB3C	22.0	8.2	5.1	0.6	▲16345(I-7/XⅡ下)	-
389	687	A12	B00	ナイフ形石器	OB3	21.4	7.5	3.9	0.5	▲16343(I-7/XⅡ下)	-
389	688	A12	B00	ナイフ形石器	OB3	14.8	4.0	2.8	0.1	▲14397(H-7/XⅡ下)	-
389	689	A12	B00	ナイフ形石器	OB3C	20.1	6.5	3.1	0.4	▲16459(I-7/XⅢa)	-
389	690	A12	B00	剥片	OB3	19.8	12.7	5.3	0.8	▲14384(H-7/XⅡ下)	-
389	691	A12	B00	ナイフ形石器	OB3	18.8	7.7	-	0.2	▲16337(I-7/XⅡ下)	-
389	692	A12	B00	ナイフ形石器	OB3B	19.8	6.6	3.5	0.3	▲16452(I-7/XⅢ上)	-
389	693	A12	B00	ナイフ形石器	SH1A	25.0	9.8	7.0	1.4	▲14389(H-7/XⅢ上)	-
389	694	A12	B00	ナイフ形石器	OB3C	7.1	6.2	2.6	0.1	▲16473(I-7/XⅢ上)	-
390	695	A12	B00	細石刃	OB	6.3	4.1	0.1	0.0	▲16314(I-8/XⅡ下)	-
390	696	A12	B00	細石刃	OB3	7.5	4.9	1.4	0.0	▲14393(H-7/XⅡb)	-
390	697	A12	B00	細石刃	OB3	11.2	5.0	2.2	0.1	▲14383(H-7/XⅡ下)	-
390	698	A12	B00	細石刃	OB3A	7.0	7.3	1.2	0.0	▲16613(I-7/XⅢa)	-
390	699	A12	B00	細石刃	OB3	12.1	7.5	1.7	0.1	▲16323(I-7/XⅡ下)	-
390	700	A12	B00	細石刃	OB3	9.0	7.5	1.2	0.1	▲16339(I-7/XⅡ下)	-
390	701	A12	B00	剥片	OB3A	9.8	7.8	1.9	0.1	▲16449(I-7/XⅢ上)	-
390	702	A12	B00	細石刃	OB3	14.8	5.9	2.2	0.2	▲16325(I-7/XⅡ下)	-
390	703	A12	B00	細石刃	OB3A	17.5	7.1	2.0	0.2	▲16460(I-7/XⅢ上)	-
390	704	A12	B00	剥片	OB3A	15.9	11.2	3.0	0.4	▲16620(I-7/XⅢa)	-
390	705	A12	B00	剥片	OB3A	13.2	8.0	2.0	0.2	▲16521(I-7/XⅢa)	-
390	706	A12	B00	剥片	OB3	15.7	9.0	4.0	0.4	▲14376(H-7/XⅡb)	-
390	707	A12	B00	剥片	OB3	14.6	8.7	2.8	0.2	▲16308(I-7/XⅡ下)	-
390	708	A12	B00	剥片	OB3A	17.3	10.2	9.0	0.7	▲16474(I-7/XⅢ上)	-
390	709	A12	B00	剥片	OB3	14.4	13.0	2.8	0.2	▲16316(I-7/XⅡ下)	-
390	710	A12	B00	剥片	OB3C	13.3	14.0	2.4	0.5	▲13963(I-8/XⅢ)	-
390	711	A12	B00	剥片	OB3	13.1	12.4	2.8	0.3	▲16318(I-7/XⅡ下)	-
390	712	A12	B00	剥片	OB3	15.0	18.7	8.2	1.4	▲16333(I-7/XⅡb)	-
390	713	A12	B00	剥片	OB3C	18.5	12.7	2.3	0.4	▲13961(I-8/XⅢ)	-
390	714	A12	B00	剥片	OB3C	19.6	18.8	-	-	▲16328(I-7/XⅡ下)	-
390	715	A12	B00	剥片	OB3	22.2	18.3	4.0	1.0	▲12897(H-7/XⅡ)	-
390	716	A12	B00	剥片	OB3C	15.7	14.8	5.4	0.9	▲16320(I-7/XⅡ下)	No.62
390	717	A12	B00	剥片	OB3	16.6	17.9	5.1	1.3	▲14378(H-7/XⅡb)	-
390	718	A12	B00	剥片	OB3	14.1	20.5	5.6	1.2	▲12953(H-8/XⅡ下)	-
390	719	A12	B00	剥片	OB3C	19.3	20.0	8.0	2.6	▲16313(I-8/XⅡ下)	No.62
390	720	A12	B00	剥片	OB3	20.7	20.3	5.7	2.0	▲14382(H-7/XⅡ下)	-
390	721	A12	B00	石核	OB2	13.2	17.9	9.2	1.7	▲16331(I-7/XⅡ下)	-
390	722	A12	B00	石核	OB3	23.5	22.9	9.6	3.3	▲16302(I-7/XⅡ下)	-
390	723	A12	B00	石核	OB3C	19.1	17.8	11.2	3.0	▲13956(I-8/XⅡ下)	No.62
390	724	A12	B00	石核	OB3	17.3	18.6	18.5	4.3	▲16304(I-7/XⅡ下)	-
390	725	A12	B00	石核	OB3C	36.5	15.6	23.2	12.0	▲12954(H-7/XⅢ上)	-
390	726	A12	B00	石核	OB2	25.6	29.9	21.9	10.9	▲12900(H-7/XⅠ)	-

第84表 第Ⅱ文化層第12～第14エリア出土石器観察表（3）

種目No	図No	エリア	プロフ	分類L2	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)	接合No
392	727	A13	B30	ナイフ形石器	SH1A	20.8	8.7	4.5	0.5	▲18757(I-4/XⅢb)	No.64
392	728	A13	B30	ナイフ形石器	SH1A	24.4	12.7	7.6	3.5	▲18720(I-4/XⅢ)	No.63
392	729	A13	B30	二次加工剥片	SH1A	24.9	11.3	7.4	1.0	▲17603(I-4/XⅢ下)	-
392	730	A13	B30	剥片	SH2C	16.6	10.7	3.9	0.5	▲18745(I-4/XⅢb)	-
392	731	A13	B30	剥片	SH3A	19.0	7.3	2.4	0.3	▲18753(I-4/XⅢb)	-
392	732	A13	B30	台形石器	SH2C	13.9	19.9	6.5	1.3	▲18722(I-4/XⅢ)	-
392	733	A13	B30	二次加工剥片	SH3A	11.8	18.4	4.8	0.7	▲18727(I-4/XⅢ)	-
392	734	A13	B30	剥片	SH3A	13.7	11.0	5.2	0.5	▲18724(I-4/XⅢ)	-
392	735	A13	B30	剥片	SH1A	18.1	14.6	2.2	0.4	▲18719(I-4/XⅢ)	-
392	736	A13	B30	剥片	SH2C	21.0	20.2	3.6	1.0	▲18764(I-4/XⅢb)	-
392	737	A13	B30	微細剥片	SH3A	20.8	19.1	8.3	2.6	▲18751(I-4/XⅢb)	-
392	738	A13	B30	剥片	SH3B	23.3	22.4	11.0	3.9	▲18721(I-4/XⅢ)	-
392	739	A13	B30	剥片	SH3B	18.5	20.5	5.0	1.3	▲18749(I-4/XⅢb)	-
392	740	A13	B30	剥片	SH3A	21.8	16.6	5.5	1.1	▲18746(I-4/XⅢb)	-
392	741	A13	B30	剥片	SH2C	17.4	24.1	4.3	1.4	▲18758(I-4/XⅢb)	-
392	742	A13	B30	台形石器	SH2C	20.6	22.2	6.7	2.2	▲18731(I-4/XⅢa)	-
392	743	A13	B30	剥片	SH1A	21.1	19.9	4.1	1.3	▲18717(I-4/XⅢ)	-
392	744	A13	B30	剥片	SH3A	24.1	21.1	7.4	1.6	▲18756(I-4/XⅢb)	-
393	745	A13	B30	剥片	SH1A	30.1	23.9	10.1	4.4	▲18763(I-4/XⅢb)	No.63
393	746	A13	B30	剥片	SH1A	31.3	26.0	5.8	3.9	▲18752(I-4/XⅢb)	-
393	747	A13	B30	二次加工剥片	SH3A	29.0	29.0	9.9	5.6	▲18729(I-4/XⅢ)	-
393	748	A13	B30	剥片	SH1A	27.1	17.8	6.8	2.2	▲18748(I-4/XⅢb)	-
393	749	A13	B30	石核	SH1A	22.5	28.3	29.0	19.0	▲18738(I-4/XⅢ)	-
394	750	A13	B00	剥片	SH1A	13.1	12.6	3.2	0.5	▲18713(I-3/XⅢb)	-
394	751	A13	B00	剥片	OB3A	19.7	14.5	8.7	1.5	▲14355(H-4/XⅢ上)	-
394	752	A13	B00	剥片	SH1A	26.0	21.1	6.6	3.1	▲14353(H-4/XⅢ上)	-
394	753	A13	B00	石核	OB3A	15.5	17.1	12.2	1.6	▲14354(H-4/XⅢ上)	-
396	754	A14	B31	台形石器	OB2B	26.8	17.7	5.4	1.6	▲17682(I-4/XⅢ)	-
396	755	A14	B31	二次加工剥片	OB2	25.2	20.8	7.0	2.6	▲17720(I-4/XⅢ上)	-
396	756	A14	B31	微細剥片	OB2B	15.8	20.0	3.4	0.9	▲17681(I-4/XⅢ)	-
396	757	A14	B00	ハンマー	KAN	98.5	36.1	36.1	129.0	▲18506(J-4/XⅢa)	-
396	758	A14	B31	ハンマー	KAN	118.9	56.7	32.6	159.2	▲17743(I-5/XⅢ下)	-
398	759	A14	B32	台形石器	SH1A	26.4	17				

第4節 接合資料(第400～467図)

1 石材別接合状況(第400図)

接合作業を行った結果、171個体の接合資料を確認し、剥離過程の検討可能な資料が得られた。接合対象の出土遺物はXⅢ層を主体に置くが、一部XⅡ層出土遺物との接合資料が確認されたことから、この2つの層を接合作業の対象とした。殆どの接合資料がブロック内接合に留まるが、一部がブロック間、またはエリア間で接合しており、それぞれの相関関係を示唆すると思われる。これらの接合関係は、同一母岩接合、破損石器接合で具体的に示している。なお、石材別接合状況は第400図に示した。以下、石材別分布状況を述べる。

石材は黒曜石・玉髄・頁岩・チャートと極少数だが水晶がみられる。数量では黒曜石が大半を占める。また、調査区内では石器製作技術などから大きく5つの区域に分けられ、石材毎の分布状況にはそれぞれ特徴がある。区域間の石材交流はみられないが、各エリア段階では若干の移動がみられる。以下、区域毎の接合資料の分布状況について述べる。

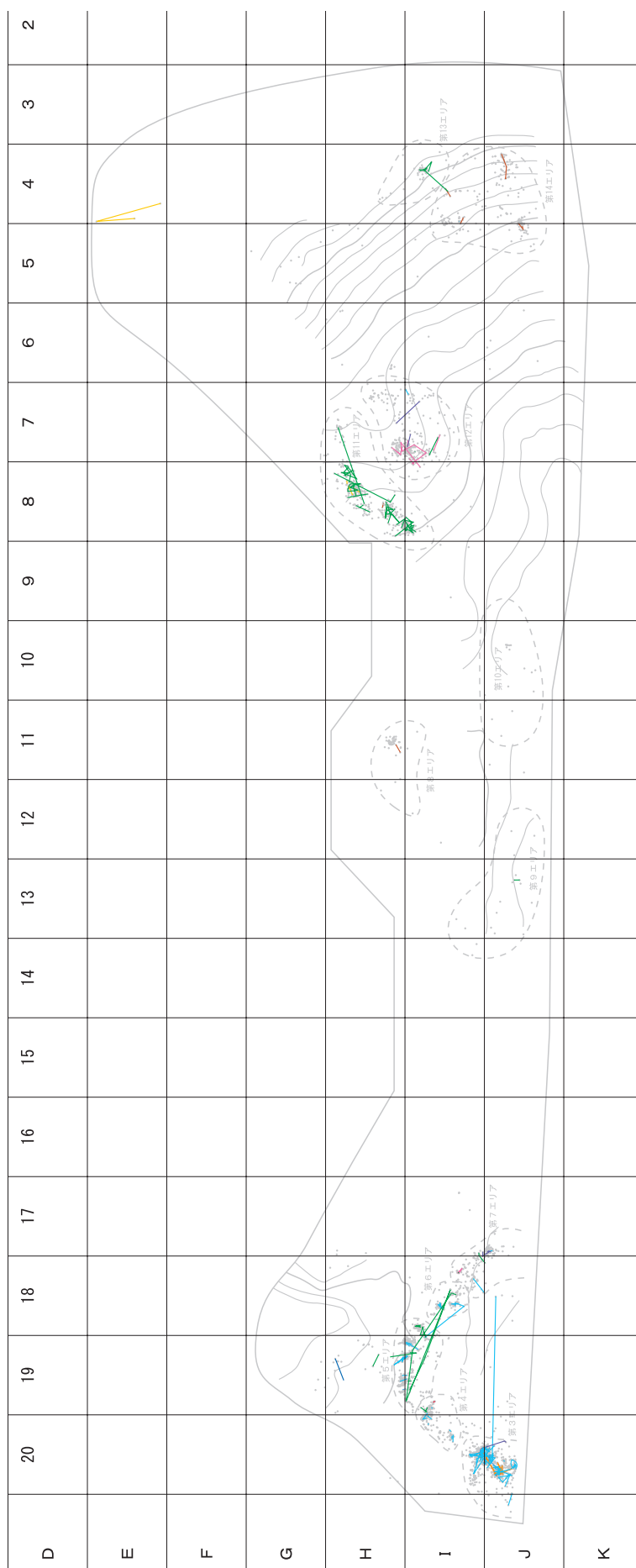
耳取遺跡17～20区に存在する第3～7エリアでは、黒曜石Ⅲ類を主体とした環状を思わせるブロック群が目される。ブロック間の石材交流は極めて弱く、ほとんどがブロック内の接合に留まっている。石核の多くが小型の角礫を素材とし、平坦な礫打面から、横広の不定形剥片を取り出し、台形石器の素材剥片を目的としている。他の石器の出土は極めて少なく、専ら台形石器を主体とする。

他の石材は、玉髄等ごくわずかで剥片剥離技術も黒曜石に準じるが、接合資料No.39は硬質頁岩を使用しているが、同一母岩は本接合資料を含めて37点しか出土していない。そのため剥片素材石核として持ち込まれたものと考えられる。また、No.39はエリア間の接合が認められ、関係する黒曜石のエリアとの同時性が検討される資料である。

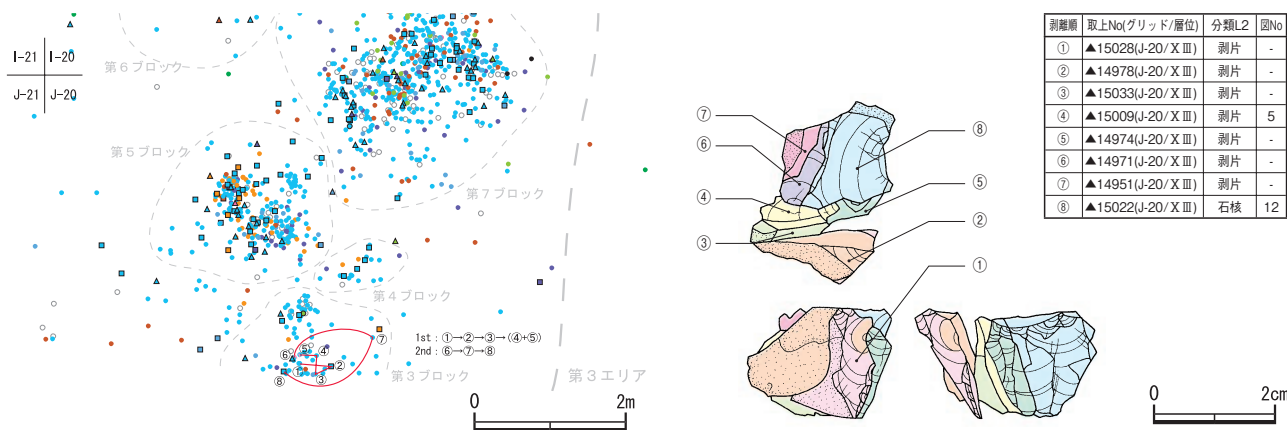
9～14区の区域に存在する第8～10エリアでは、第20ブロックを除いて散布的な状況を呈する。第20ブロックと、そのほかの出土石材との時間差などの相関関係は不明である。

H・I-8区の区域にある第11エリアでは、頁岩Ⅱ類と玉髄が主体で、黒曜石が客体的な出土状況を示す。折断技法による小型の台形石器やナイフ形石器が主体を成す。

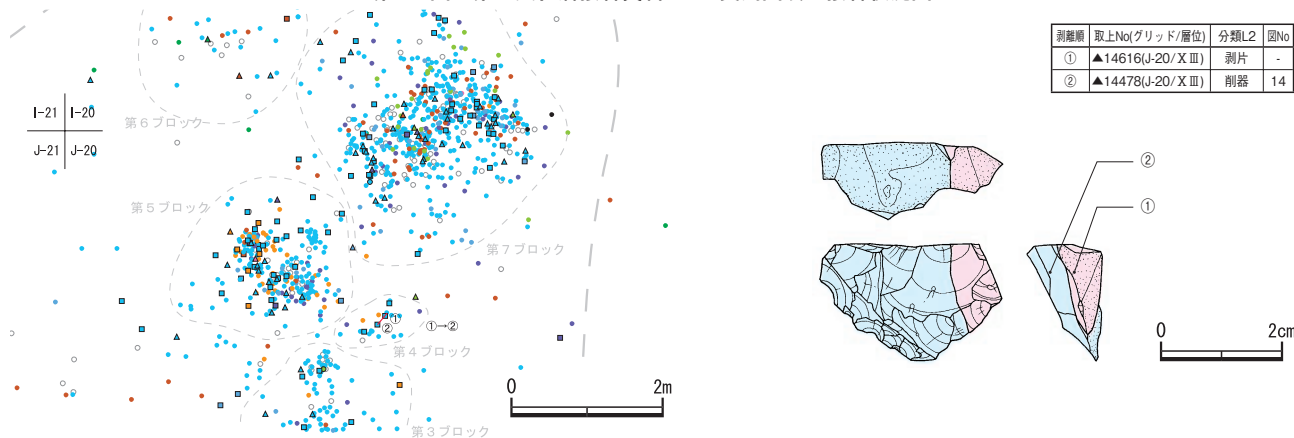
H・I-7区の区域に存在する第12エリアでは、黒曜石による小型ナイフ形石器を主体とするブロックで形成されている。また、17～20区では



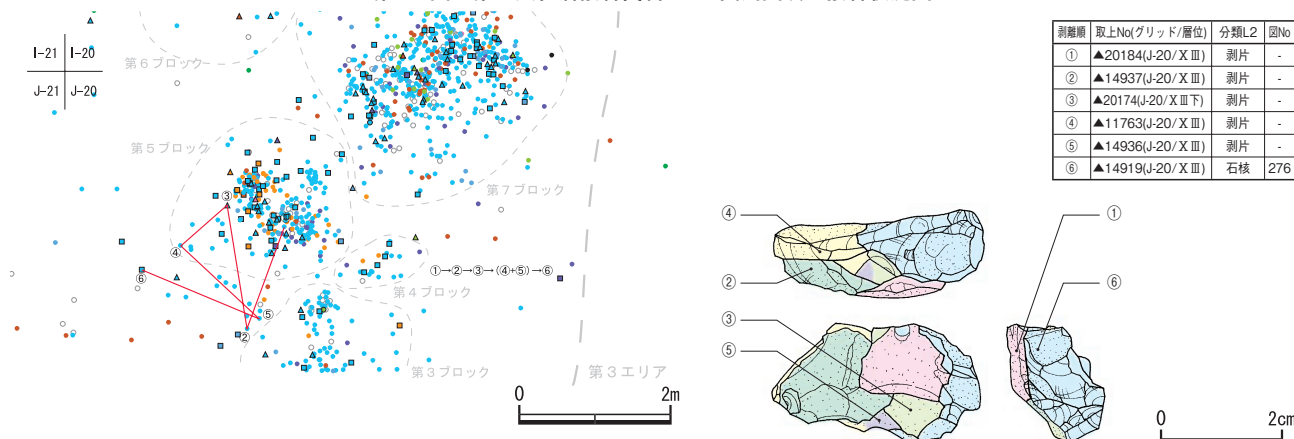
第400図 第Ⅱ文化層石材別接合状況図



第401図 第Ⅱ文化層接合資料No.1 実測図及び接合状況図



第402図 第Ⅱ文化層接合資料No.2 実測図及び接合状況図



第403図 第Ⅱ文化層接合資料No.3 実測図及び接合状況図

未調整の石核が主体であるのに比べて、石核調整段階の剥片を含む接合資料が確認されている。

3～5区の区域に存在する第13・14エリアでは、頁岩2類と黒曜石を主体としたブロックが形成される。ナイフ形石器と小型の剥片素材の台形石器が主体を成す。

2 接合資料(第401図～第466図)

接合資料No.1(第401図) [OB3A]

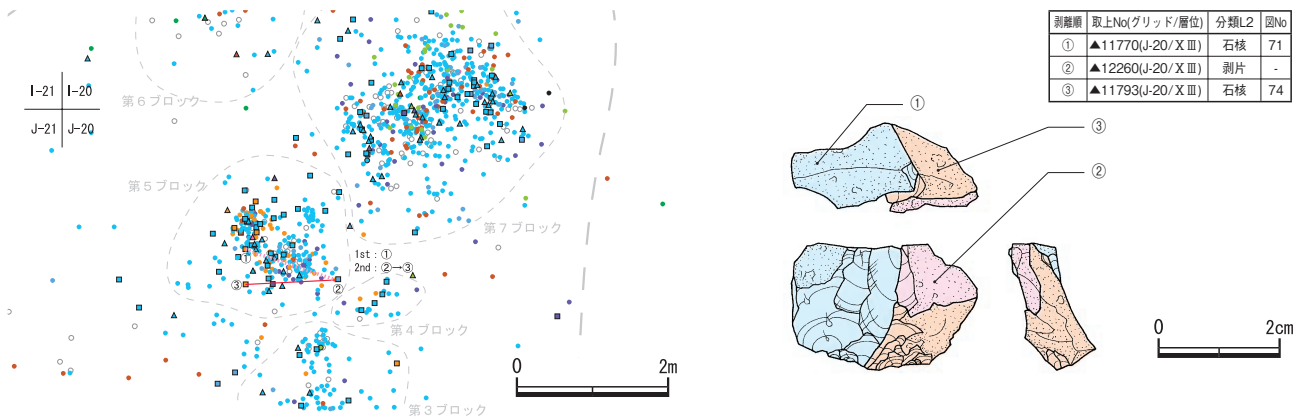
2～3cmの小角礫を素材とする石核と剥片の接合資料である。打面は一回の加撃で作出され、剥離は打点位置を適宜移しながら進行し、①以降を剥離している。

接合資料No.2(第402図) [OB3A]

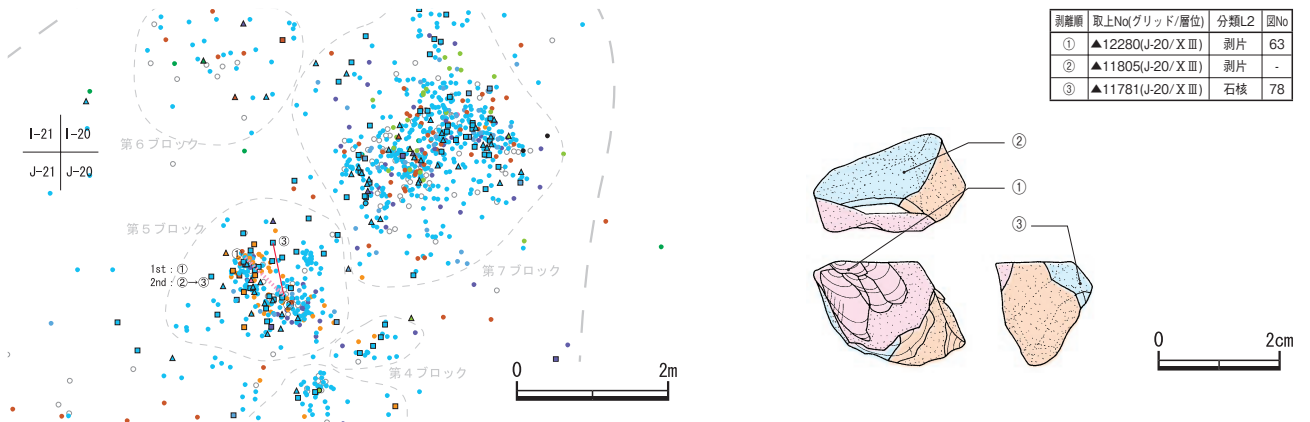
残核を削器に転用した資料の接合資料である。角礫の平坦部を打面に、剥片剥離を繰り返したものとみられる。左側縁の調整剥離との前後関係は不明だが、①は背面からの圧力で脱落している。

接合資料No.3(第403図) [OB3A]

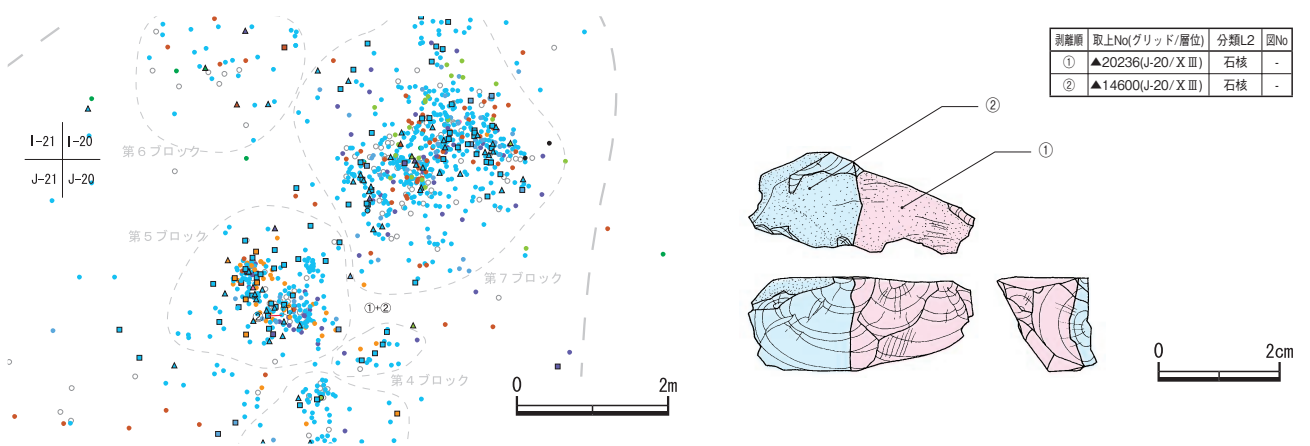
石核の原礫素材の規格が理解できる資料である。裏面左方向から縦長剥片を得ようとしたが、晶子に当たり失敗している。以後、正面上方の礫面から剥離が続けられ④は裏面まで達している。④と⑤は晶子によって破断されている。③と⑤は背面打瘤直下からの加撃によって破断されたことが確認で



第404図 第Ⅱ文化層接合資料No.4実測図及び接合状況図



第405図 第Ⅱ文化層接合資料No.5実測図及び接合状況図



第406図 第Ⅱ文化層接合資料No.6実測図及び接合状況図

きるが、偶発的な破断の可能性もある。

接合資料No. 4 (第404図) [OB3D]

扁平な角礫素材の石核と剥片の接合資料である。残された剥離面には、上下の打面転移が認められる。しかし、素材があまりにも扁平で薄いため、数回の剥離に限定されている。(②→③)と剥離し、その後の剥離で終了している。

接合資料No. 5 (第405図) [OB3A]

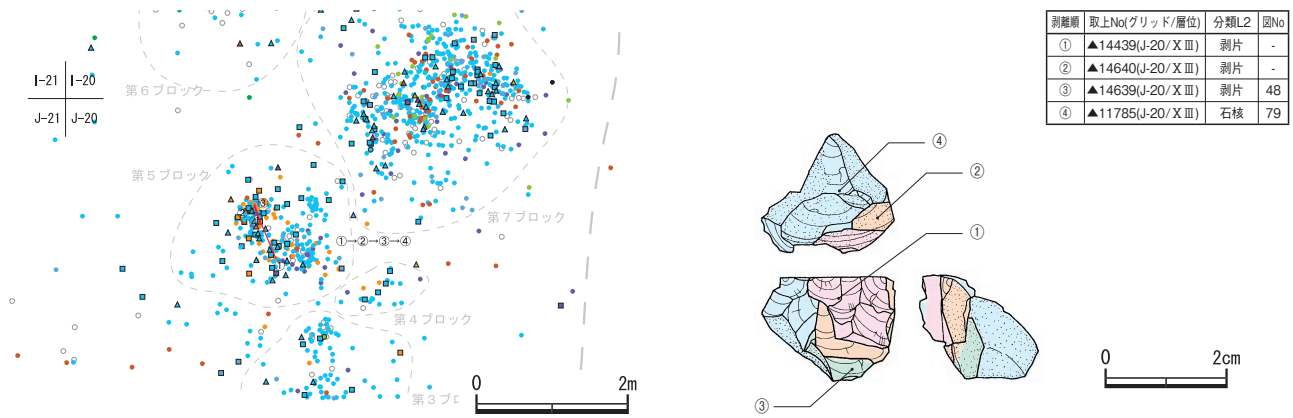
石核と剥片の接合資料で、石核は小型の角礫を素材としている。素材礫の平坦面をそのまま打面とし、①→②と剥離しているが、①と②の間に小型で横広の不定形剥片が取り出されているが、持ち出された可能性が高い。なお、③は残核として廃棄されている。

接合資料No. 6 (第406図) [OB3A]

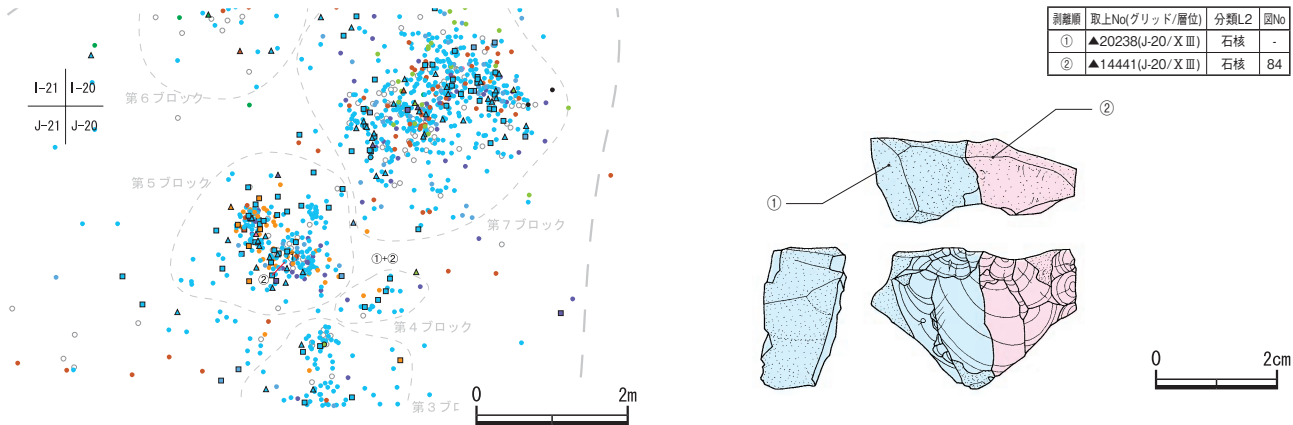
破損した石核または残核の接合資料である。丈の短い角礫を素材とし、角礫の平坦面をそのまま打面としている。正面の作業面からは同一方向に横広の不定形剥片が剥離されたことが観察できる。本遺跡に残された他の資料から類推すると、石核としての機能は残していると思われる。破碎は加撃の際、晶子によるとみられる。

接合資料No. 7 (第407図) [OB3D]

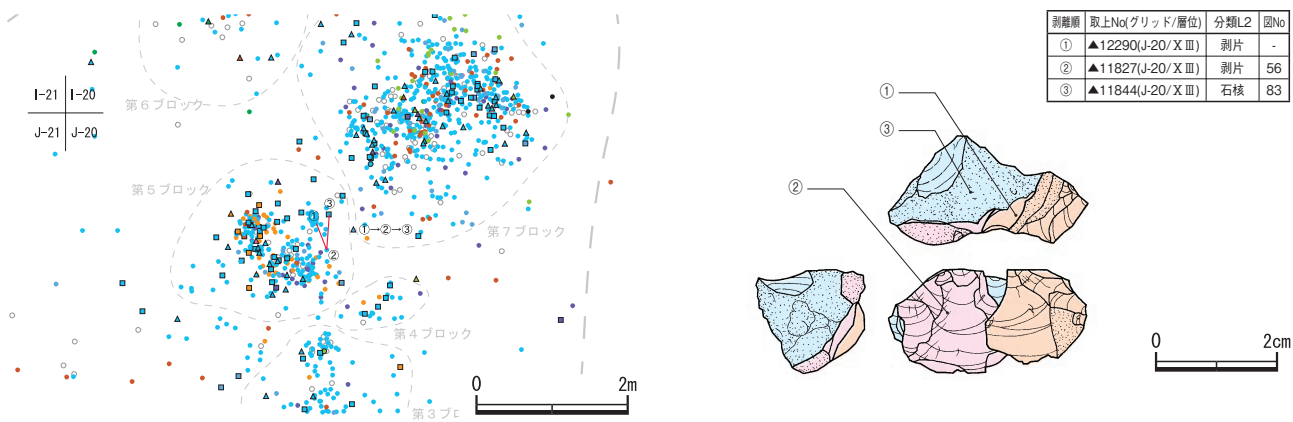
礫面を残したまま剥片剥離を行っている石核と剥片との接合資料である。礫面のほぼ平坦な部分を、打点を適宜ずらしながら剥離を行っている。背面の様子から、①以前の打面は一定の方向からの剥片剥離が行われたと思われる。③に関し



第407図 第Ⅱ文化層接合資料No.7 実測図及び接合状況図



第408図 第Ⅱ文化層接合資料No.8 実測図及び接合状況図



第409図 第Ⅱ文化層接合資料No.9 実測図及び接合状況図

ては、石核の右側縁に打点はずれる。

接合資料No.8(第408図) [OB3A]

角礫素材の破断した石核の接合資料である。剥離作業中に破砕したことで放棄されている。素材の平坦面を打面に剥片剥離を繰り返す際に偶発的に破損したと思われる。②の右側縁を打面に数回の小剥離がみられるが目的は不明である。

接合資料No.9(第409図) [OB3A]

角礫素材石核と剥片2点の接合資料である。礫面の平坦部を打面として単一方向から剥離が行われている。小型の台形石器目的剥片の獲得を試みたと思われるが、数回の試行後に廃棄されている。

接合資料No.10(第410図) [OB3A]

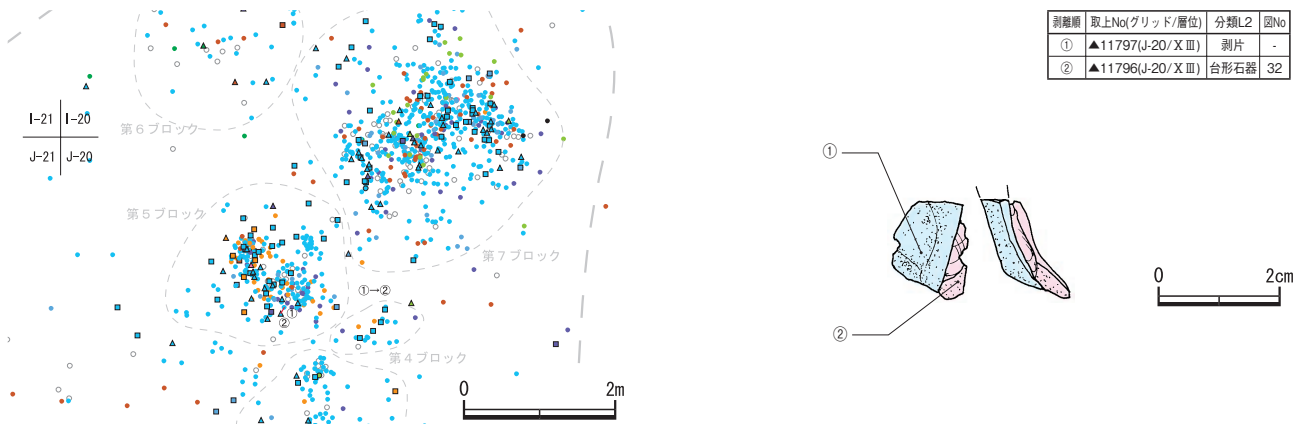
台形石器と剥片の接合資料である。礫面を多く残す石核から連続剥離されている。②は打瘤と下縁を調整された台形石器である。

接合資料No.11(第411図) [OB3A]

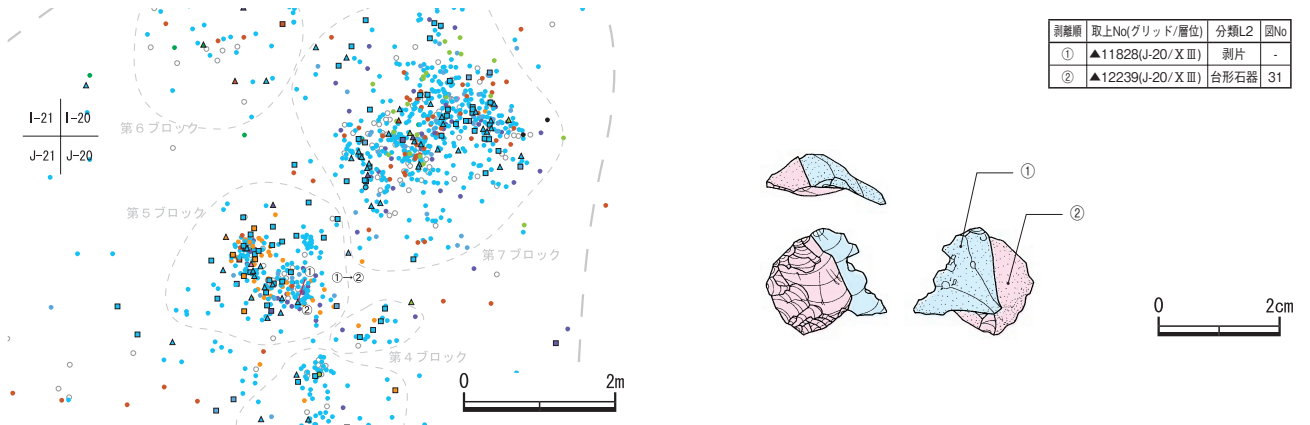
台形石器と先行する剥片の接合資料である。平坦な礫打面から①・②を剥離している。②は側縁部に微細な調整を施した台形石器である。

接合資料No.12(第412図) [OB3D]

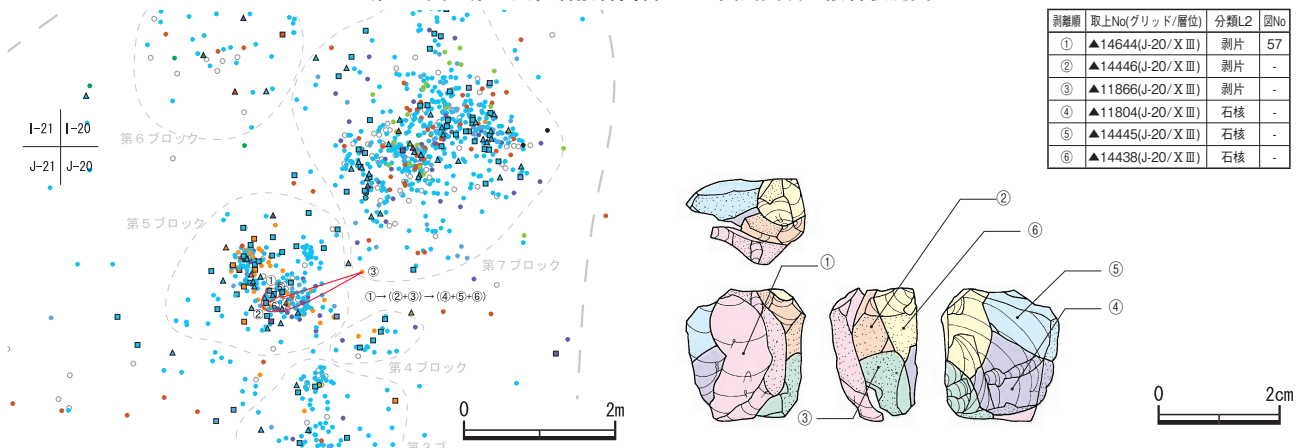
小型の角礫素材の平坦面を打面にした石核と剥片の接合資料である。同一打面より大きく3回の加撃が観察されるが、残存する剥片は晶子の影響を受けて、破砕されている。



第410図 第Ⅱ文化層接合資料No.10実測図及び接合状況図



第411図 第Ⅱ文化層接合資料No.11実測図及び接合状況図



第412図 第Ⅱ文化層接合資料No.12実測図及び接合状況図

接合資料No.13(第413図) [OB3A]

角礫素材の石核の平坦面を打面にした接合資料である。①もふくめて上面からの剥片剥離がおこなわれているが、廃棄直前に左側面からの剥片剥離が観察できる。

接合資料No.14(第414図) [OB3D]

小型の角礫素材の石核と剥片の接合資料である。平坦な礫面を打面に、主に上面からの剥片剥離が行われている。①は晶子によって偶発的に破断したものである。また、②の左側縁に二次加工がみられる。

接合資料No.15(第415図) [OB3A]

石核と剥片の接合資料で、石核は扁平な角礫を素材としている。剥片は全て同一打面からの剥離で得られている。①は

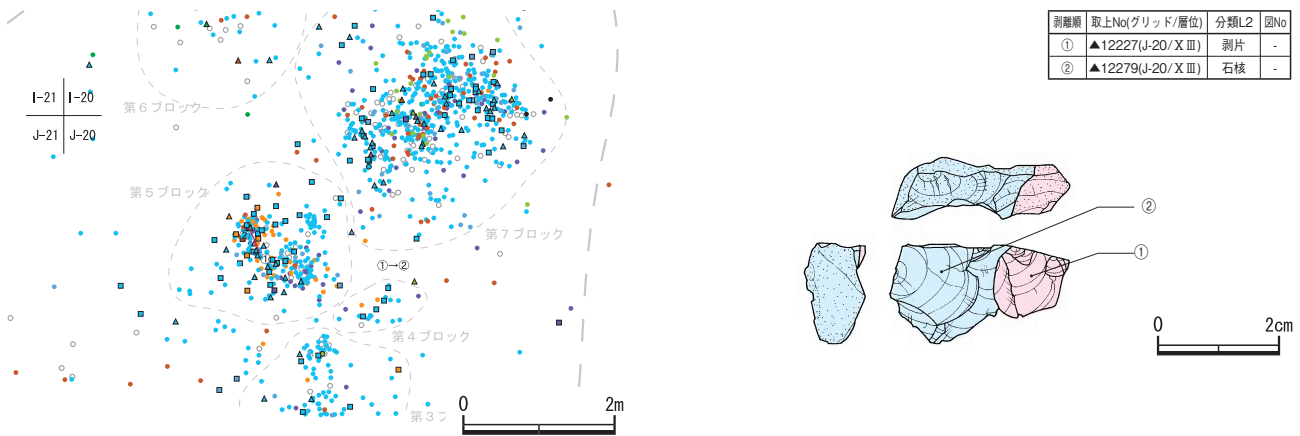
加撃の際に節理のため、脱落したものである。③は④から②を剥離する際、剥離が裏面にまで達したため、偶発的に破断したものとみられる。

接合資料No.16(第416図) [OB3A]

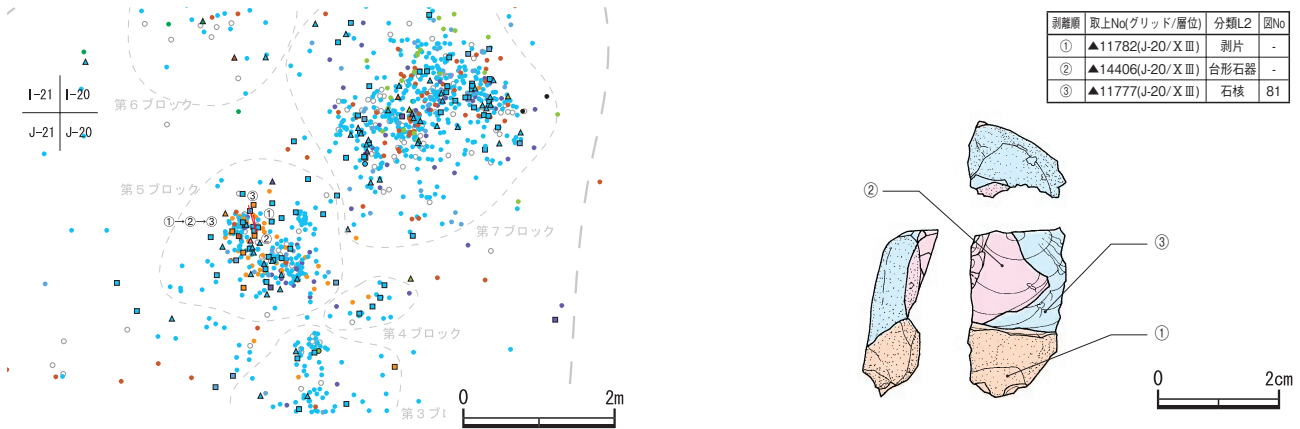
石核が三分割されている接合資料である。作業面以外は礫面が残る石核で、打面も平坦な礫面である。晶子のため偶発的な破断のあとと遺棄されている。

接合資料No.17(第417図) [OB3D]

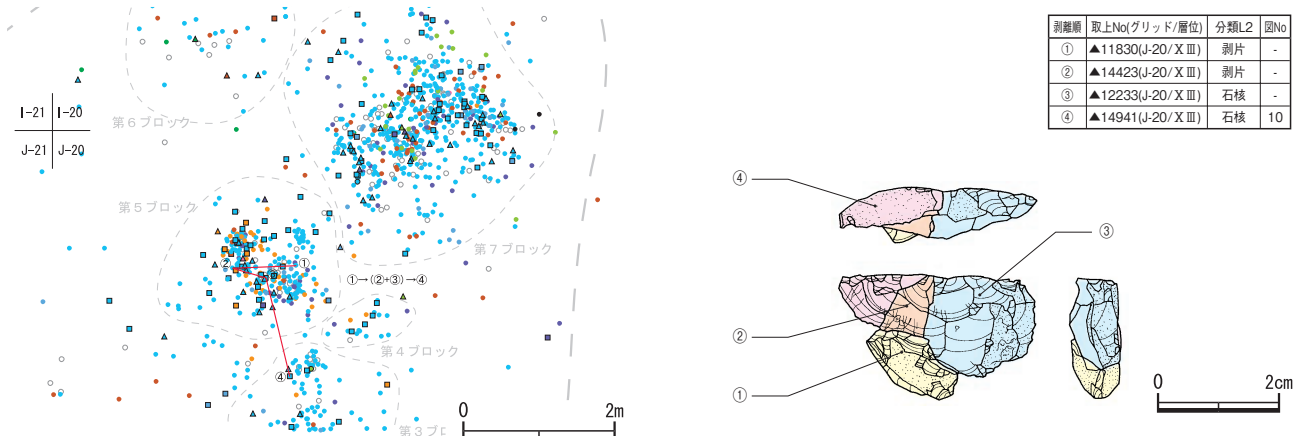
角礫の平坦面を打面に使用した石核と剥片の接合資料である。上方を打面に、2回剥片剥離を行っている。その際(②+③)は偶発的に破断したと思われる。なお、①以前は左側縁の自然面を打面にした剥片剥離が行われている。



第413図 第Ⅱ文化層接合資料No.13実測図及び接合状況図



第414図 第Ⅱ文化層接合資料No.14実測図及び接合状況図



第415図 第Ⅱ文化層接合資料No.15実測図及び接合状況図

接合資料No.18(第418図) [OB3B]

角礫の平坦面を打面とする石核と台形石器①と二次加工痕剥片②の接合資料である。①の剥離後、打面を右側縁の平坦な礫皮面に移して剥片剥離を行っている。①は剥離後に上下両端部に、②は下端部に刃潰し加工を施している。

接合資料No.19(第419図) [OB3A]

石核と剥片の接合資料である。石核素材は扁平な角礫で、礫の平坦面を打面とし剥離が進行している。その後、打面を移し、①→②の順に剥離を行った後、剥離作業を終えている。

接合資料No.20(第420図) [OB3A]

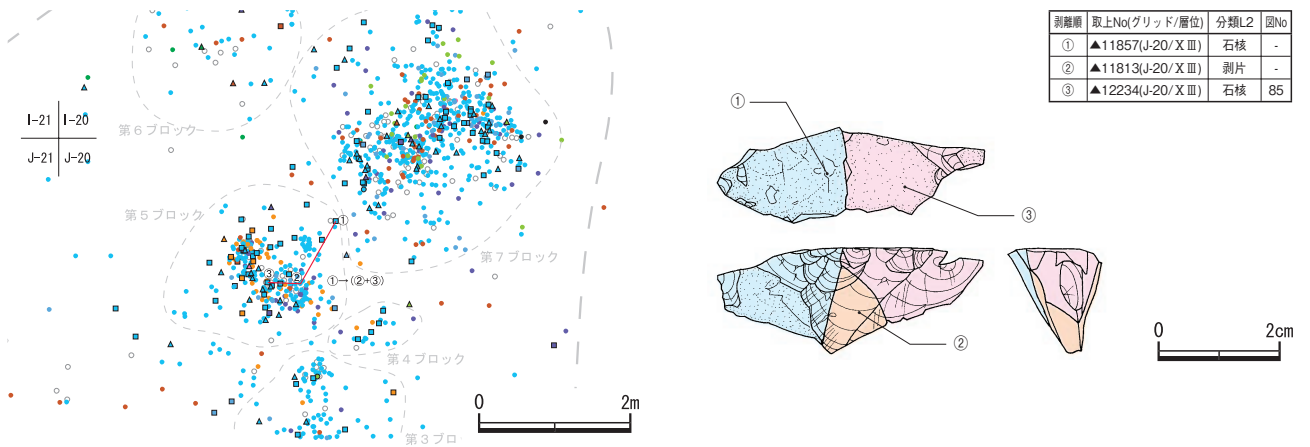
石核と剥片の接合資料である。石核素材は扁平な角礫で、礫の平坦面を打面とし、①を剥離し、左側縁の平坦面に打面を移し、更に打面を上位に移し、③を取り出している。

接合資料No.21(第421図) [OB3B]

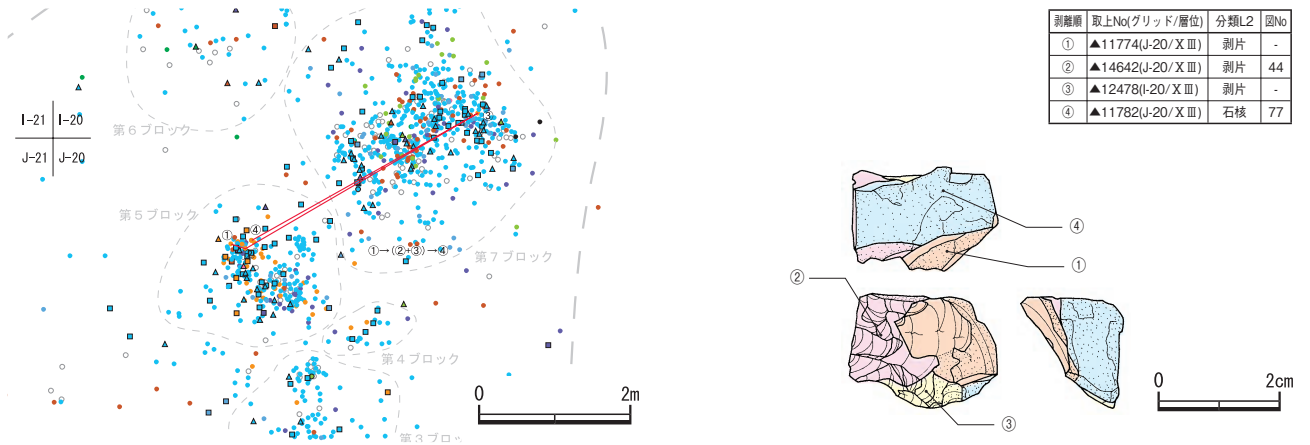
石核と剥片の接合資料である。石核素材の角礫の平坦面を打面とし、打面を起点に順次剥離が重ねられているが、②の剥離が伸びなかったため、直後に廃棄されている。

接合資料No.22(第422図) [OB3A]

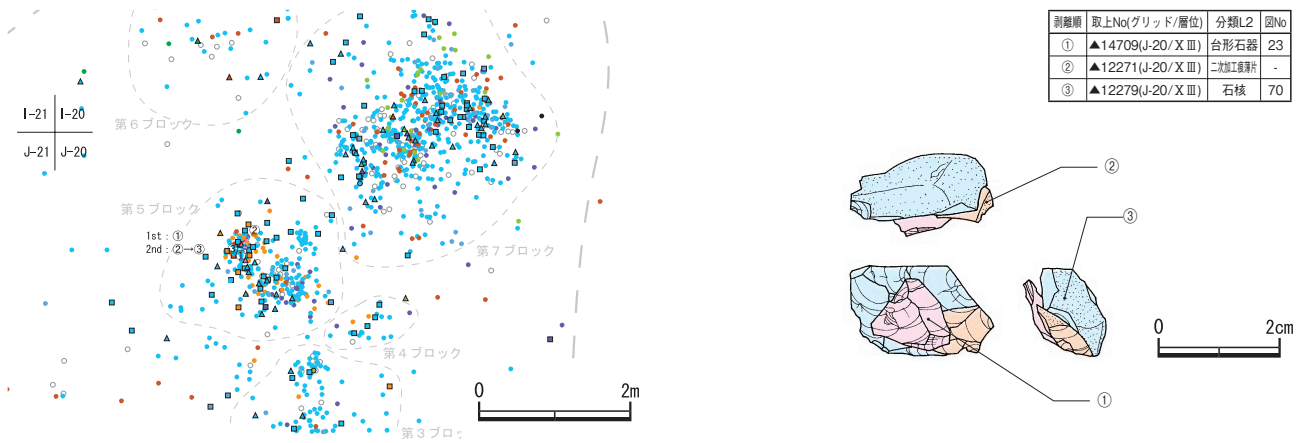
正面以外の各面はローリングの進行した自然剥離面で形成されている。右側縁を打面にしながら、数回の剥離作業を試



第416図 第Ⅱ文化層接合資料No.16実測図及び接合状況図



第417図 第Ⅱ文化層接合資料No.17実測図及び接合状況図



第418図 第Ⅱ文化層接合資料No.18実測図及び接合状況図

みているが、規則性をなして剥離した痕跡が認められないことから、廃棄したと考えられる。

接合資料No.23(第423図) [OB3B]

折断剥片2点の接合資料である。①→②の順で取り出されている①の左側縁から端部は折断された可能性が高い。

接合資料No.24(第424図) [OB3A]

下縁に自然面を残す剥片の接合資料である。連続して同一打面から剥片剥離を行った際に①は晶子のために破断したものとみられる。

接合資料No.25(第425図) [OB3A]

折断技法による台形石器目的剥片を得たと思われる接合資料である。角礫の平坦面を打面として、①を剥離後、同一打

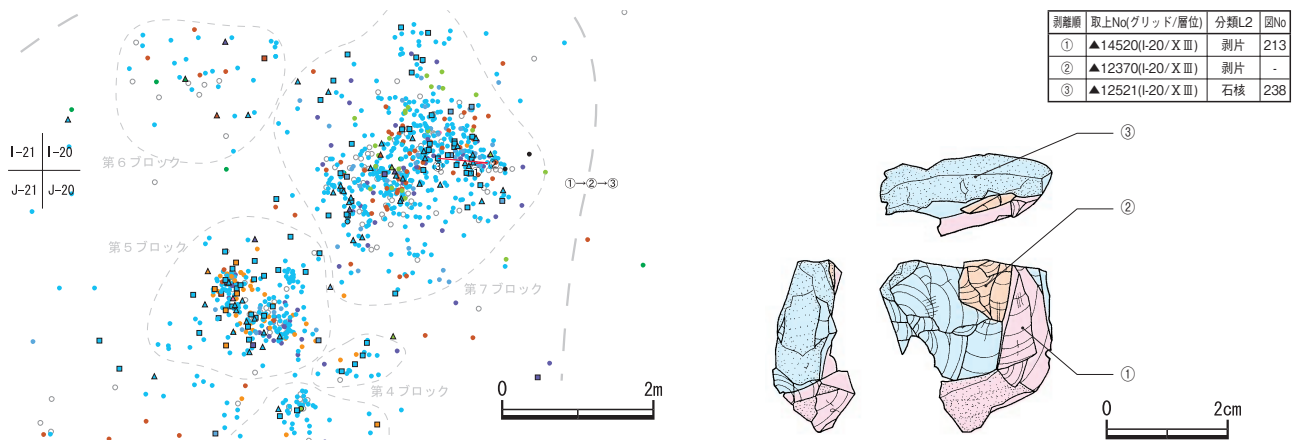
面から②→④と縦長剥片を得ている。その剥離後、②と④は折断され、特に②は三分割された可能性が高い。すなわち、②と③は同一の剥片と判断され、②と③の中間部は石器素材として消費された可能性が高い。

接合資料No.26(第426図) [OB3A]

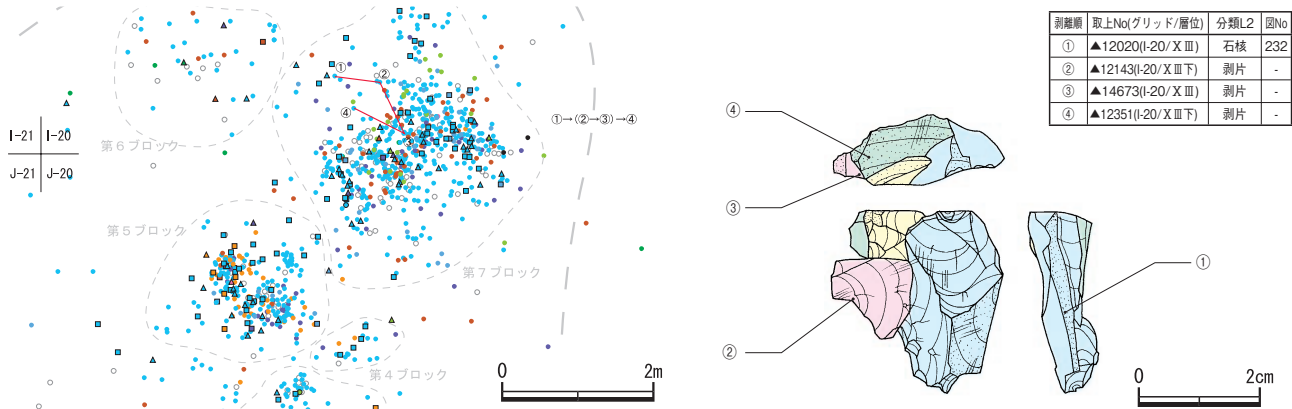
石核素材は扁平な角礫で、礫の平坦面が打面に利用されている。(①+②)を剥離する前に、左方向からの剥離作業の痕跡も認められる。その後打面を移し、2回剥片剥離を行い、③を残核として廃棄している。

接合資料No.27(第427図) [OB3A]

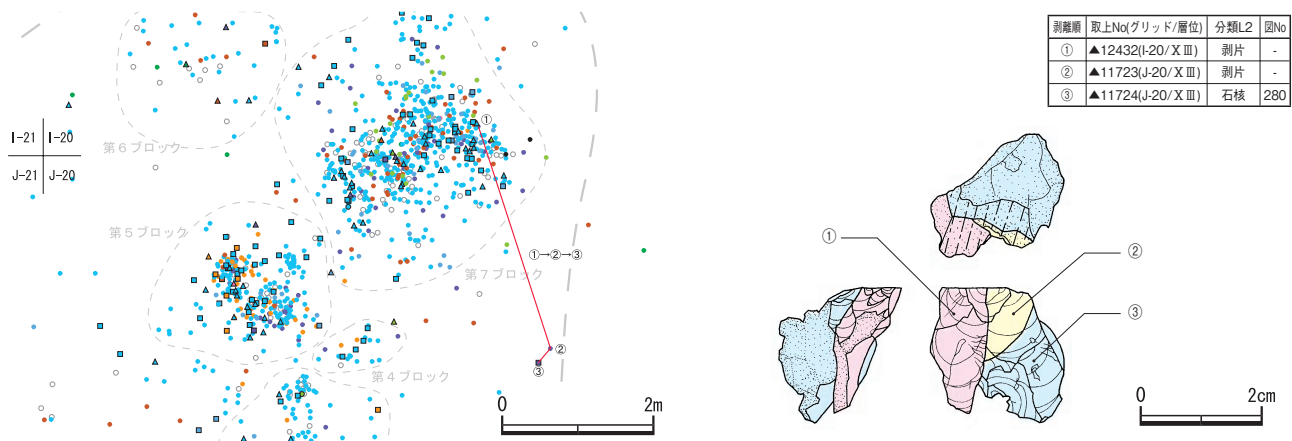
素材礫の礫皮面の除去を目的とした剥片と台形石器の接合資料である。左から①→④と連続剥離を行っている。また、



第419図 第Ⅱ文化層接合資料No.19実測図及び接合状況図



第420図 第Ⅱ文化層接合資料No.20実測図及び接合状況図



第421図 第Ⅱ文化層接合資料No.21実測図及び接合状況図

①と④には調整された打面から剥離されたことが窺える。素材の黒曜石の特徴がNo.25の資料のそれに近い。

接合資料No.28(第428図) [OB3A]

台形石器を含む剥片の接合資料である。上方の平坦な礫面を打面に①・②と縦長剥片を得た後に④の背面右側縁から加撃して、③を剥離している。③は台形石器に調整されている。また①も頭部が折断されており、末部に細かい調整痕と思われる剥離がみられるが、明確ではない。

接合資料No.29(第429図) [OB3A]

扁平な角礫を素材とした石核と剥片の接合資料である。平坦な礫面を打面に①からを剥離しているが、(②+③)は偶発的に半割されたものと思われる。③の剥離は背面の自然面に

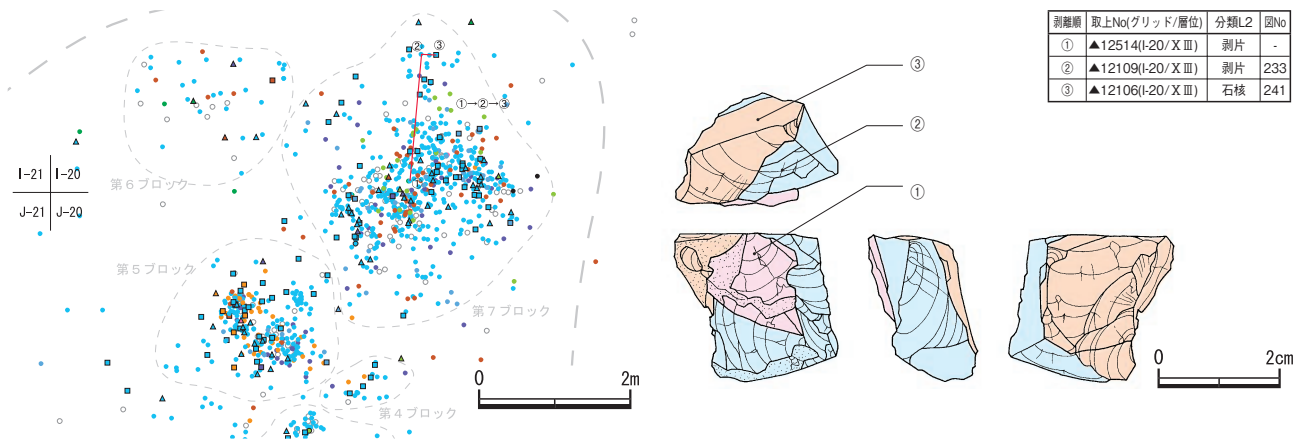
まで達しており、末端が階段状を呈する。

接合資料No.30(第430図) [OB3A]

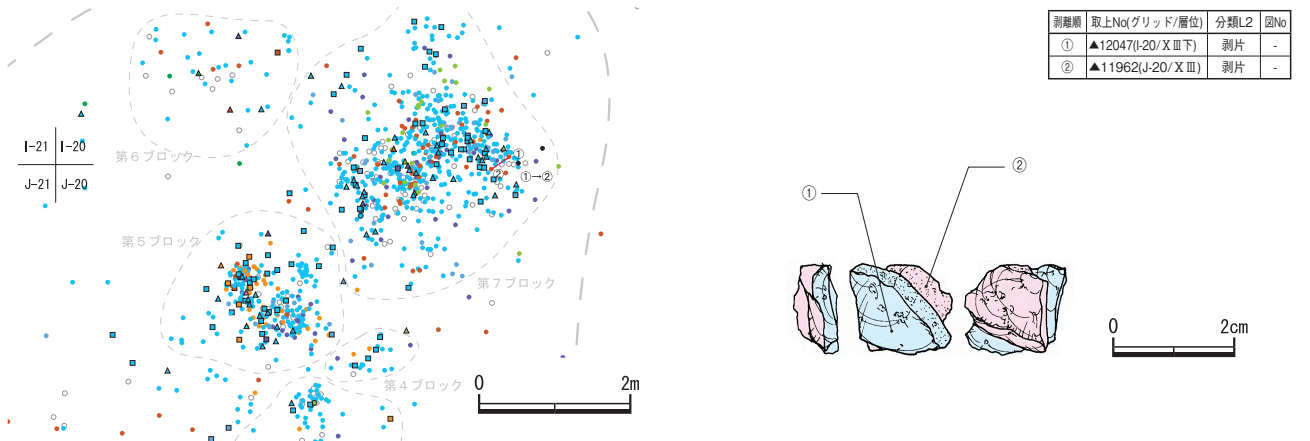
分割した角礫を素材とした石核と剥片の接合資料である。平坦な礫面を打面に剥片剥離を行ったあとに、ほぼ下縁から①を剥離し、分割した際の稜線を落とすように②を剥離している。①は剥離後、下縁の自然面等に二次加工が加えられているが、未製品に終わっていると思われる。

接合資料No.31(第431図) [OB3A]

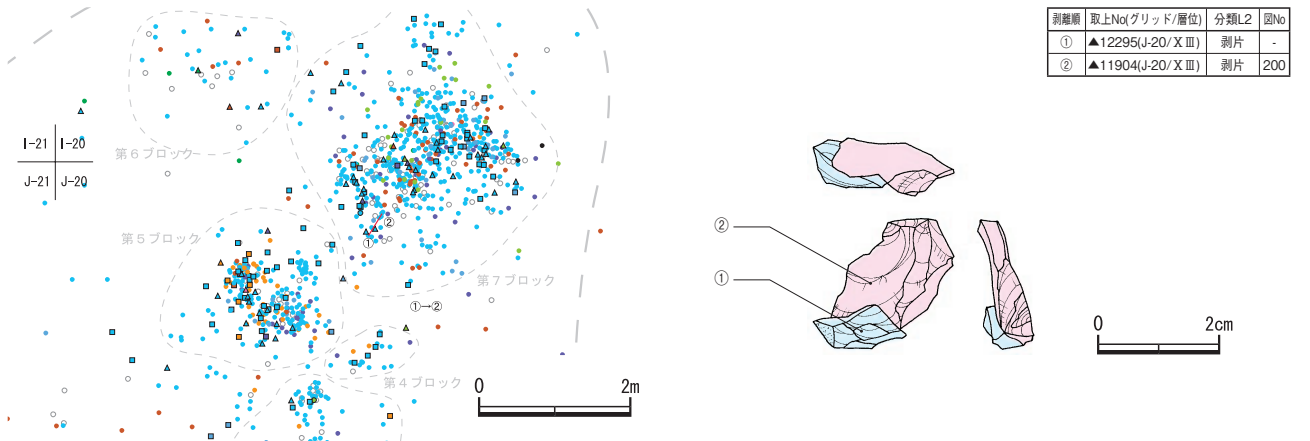
剥片2点の接合資料である。2点は平坦な礫打面からの連続剥離による剥片であるが、②の背面上部と下部に微細な剥離がみられる。



第422図 第II文化層接合資料No.22実測図及び接合状況図



第423図 第II文化層接合資料No.23実測図及び接合状況図



第424図 第II文化層接合資料No.24実測図及び接合状況図

接合資料No.32(第432図) [OB3A]

石核と剥片、二次加工痕剥片の接合資料である。石核素材は平坦な角礫で、角礫の平坦面を打面として利用されている。①→②の順で剥離しているが、②の打面は右側縁の平坦面に移動する。なお、①の左側縁部には使用による微細な剥離痕が密集している。

接合資料No.33(第433図) [OB3A]

角礫素材の石核の平坦面を打面とし、①→②→③の順で剥離が進行する。②の一側縁に二次加工による浅い角度の刃部が形成され、微細な剥離痕が多数観察される。

接合資料No.34(第434図) [OB3A]

石核と剥片の接合資料である。小型の角礫を石核の素材と

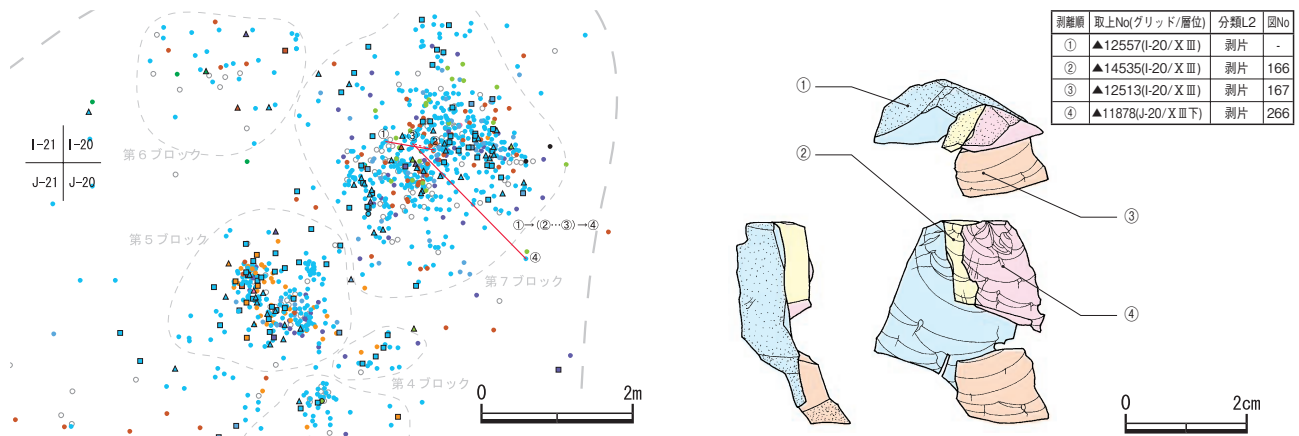
し、その平坦な礫面を打面として使われている。①に先行する剥離を含めて全てが打面を共有する。①は石核を二分する状況で剥離が行われ、その後、一回の剥離を行った時点で廃棄されている。

接合資料No.35(第435図) [OB3A]

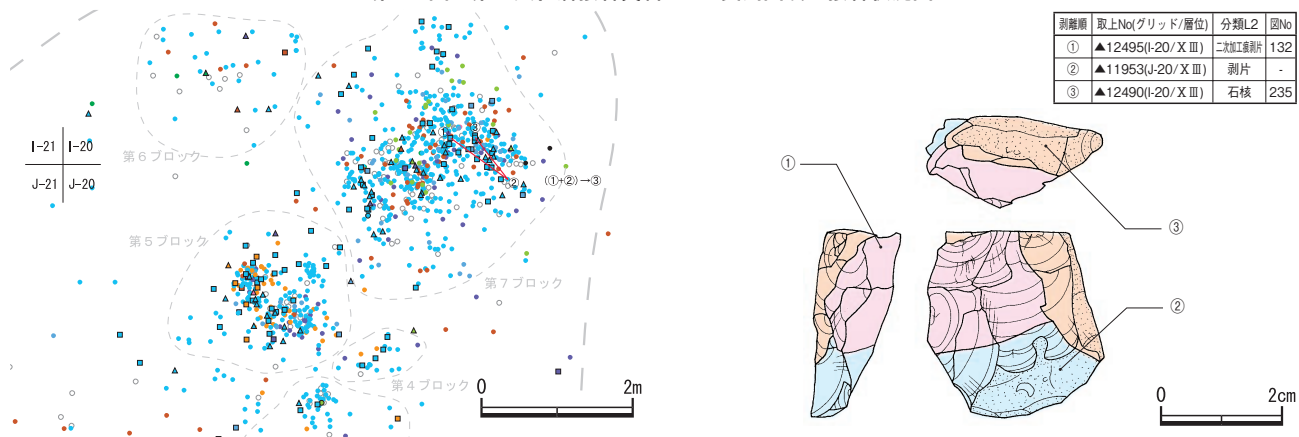
石核素材は扁平な角礫で、狭い平坦面を打点にして正面・裏面で剥離作業が行われている。おそらく(①+②)を剥離した際に上下に二分した可能性がある。

接合資料No.36(第436図) [OB3A]

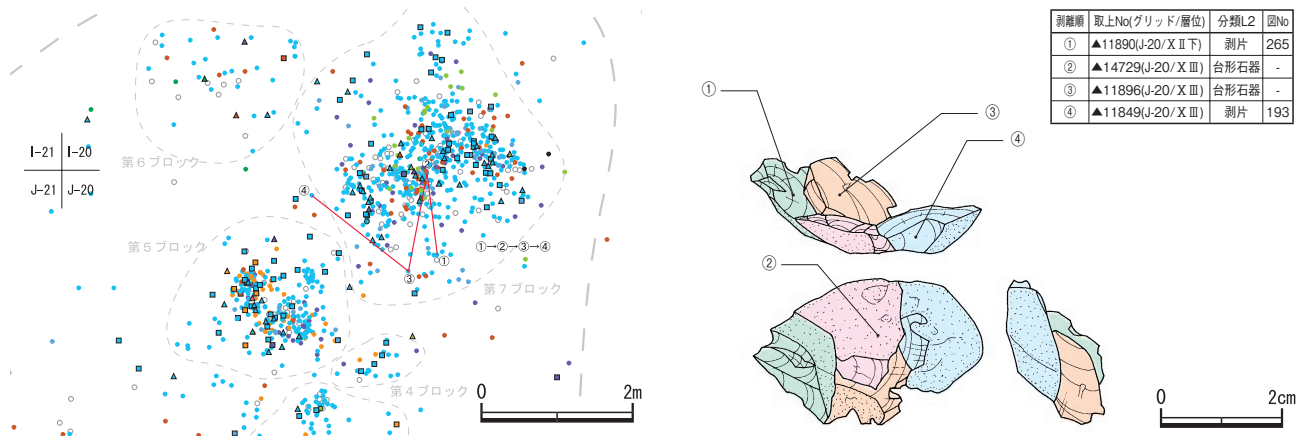
二分された剥片の接合資料である。背面から腹面末部にわたって礫面を残すことから、角礫素材の石核が用いられたと思われる。直前に同一方向からの剥離が残され、破断面の



第425図 第Ⅱ文化層接合資料No.25実測図及び接合状況図



第426図 第Ⅱ文化層接合資料No.26実測図及び接合状況図



第427図 第Ⅱ文化層接合資料No.27実測図及び接合状況図

状況から晶子のための偶発的な破断とみられる。

接合資料No.37(第437図) [OB3A]

角礫素材の石核を連続して剥離した剥片の接合資料で、台形石器④が1点含まれる。角礫の平坦面を打面に、打点をわずかにずらしながら剥片剥離を行っている。台形石器④は、得られた剥片の側縁部に刃潰し加工を行っている。なお、①の下端部に一部刃潰し加工が施されている。

接合資料No.38(第438図) [OB3A]

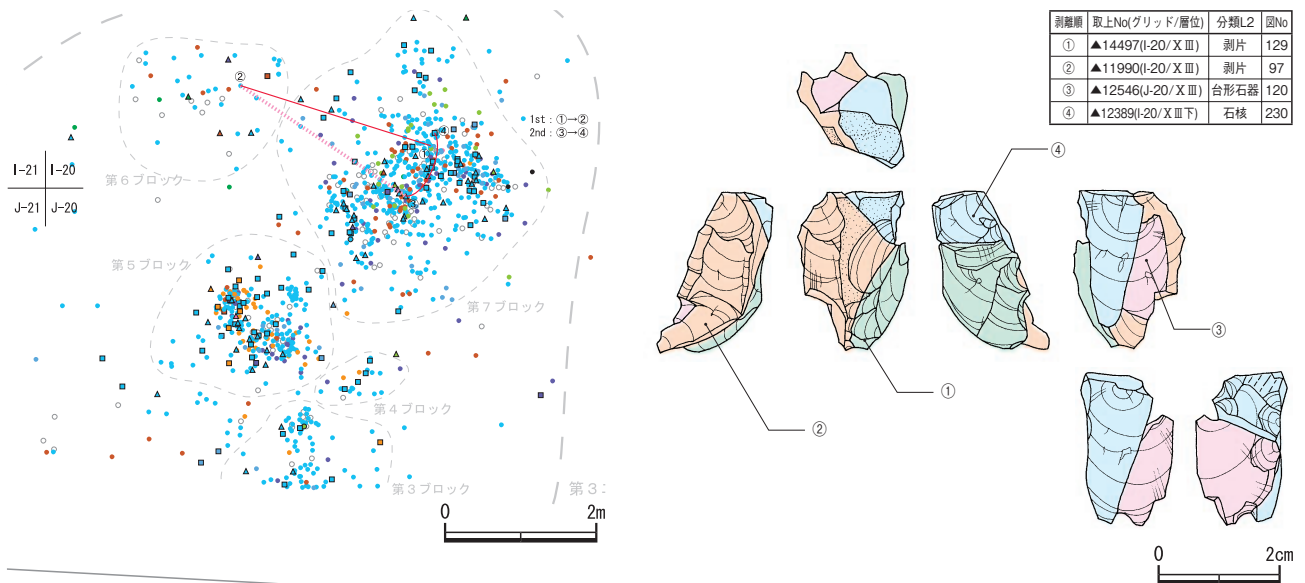
残核の接合資料と思われる。正面に数回の剥離面が残され、これ以上の作業進行は困難とみられる。裏面にも左右から数回の剥片剥離を試みた痕跡がみられる。

接合資料No.39(第439図) [SH1A]

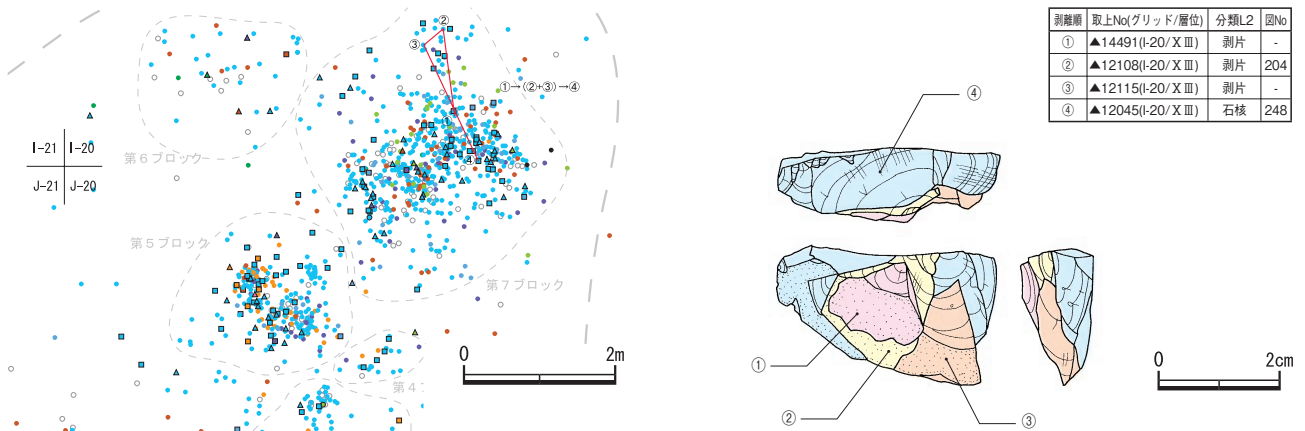
平坦な同一打面から連続して剥片を剥出した接合資料である。①が先行するが、他の5点より打面位置が低くなる。その後は打面を共有し、②→③→④→⑤→⑥と進行している。一様に横広の寸詰まり剥片を取り出している。残存する接合資料の前後にも剥離は行われたと思われるが、該当するような石核は発見できなかった。

接合資料No.40(第440図) [OB3A]

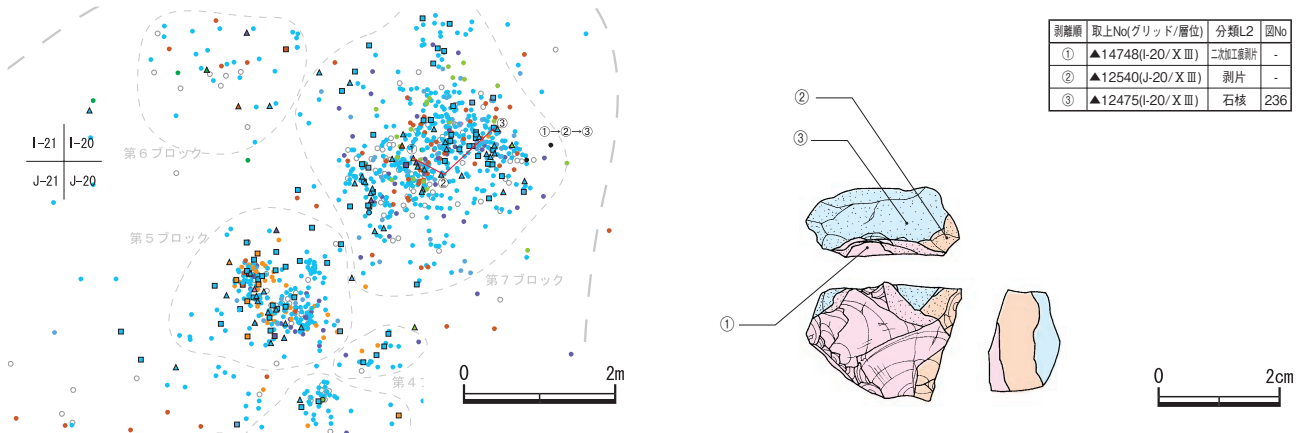
石核と台形石器の接合資料である。小型の礫を素材とする石核から剥片を剥離し、両側縁に背面方向から刃潰し加工を施して、台形石器に仕上げている。台形石器の基部には自然



第428図 第Ⅱ文化層接合資料No.28実測図及び接合状況図



第429図 第Ⅱ文化層接合資料No.29実測図及び接合状況図



第430図 第Ⅱ文化層接合資料No.30実測図及び接合状況図

面の平坦面を打面として、細かく浅い調整剥離が施されている。

接合資料No.41(第441図) [OB3A]

破損した石核の接合資料である。小型の角礫から幅広の剥片を得る目的で加撃したところ、打点から偶発的に半割されたものと思われる。

接合資料No.42(第442図) [SH2D]

削器未製品の接合資料である。側縁に礫面を残したままの

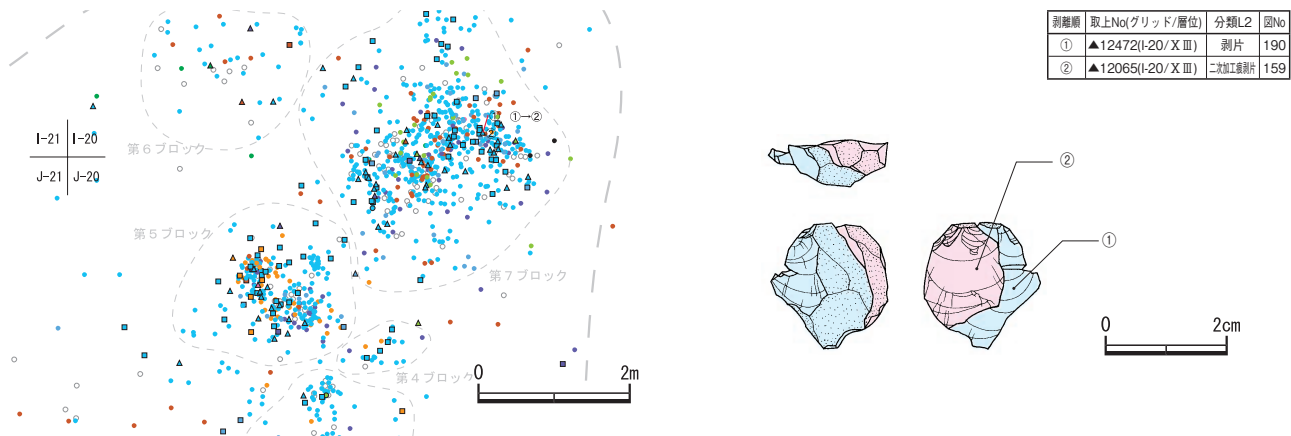
剥片の下縁を刃部調整中に、節理のため②が脱落したものである。なお表示した図は便宜上腹面を示した。

接合資料No.43(第443図) [SH]

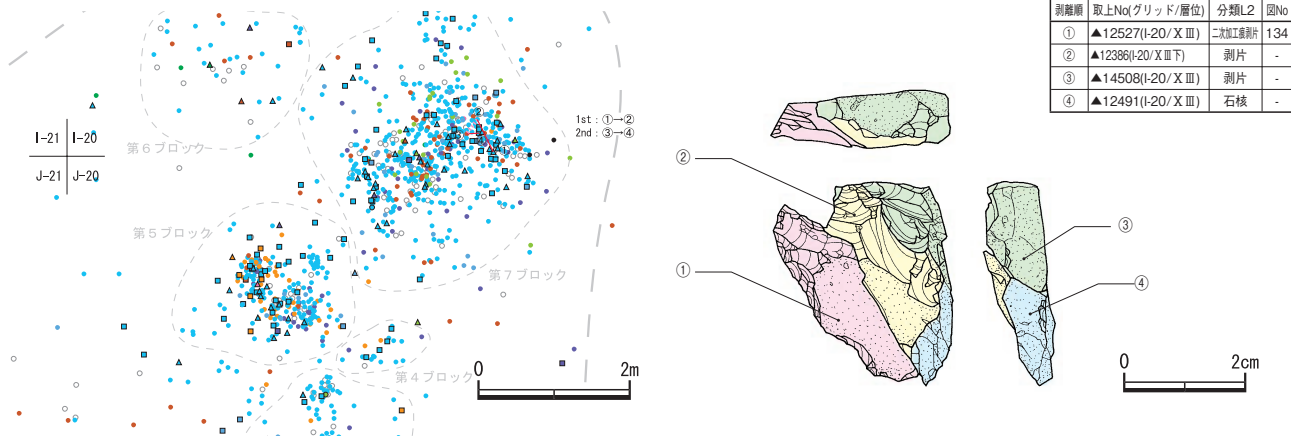
敲石の破損過程を示す資料である。まず下部からの加撃のため①と②+③に分割される。その後二分された状態でそれぞれは敲石としての機能を果たしている。

接合資料No.44(第444図) [OB3A]

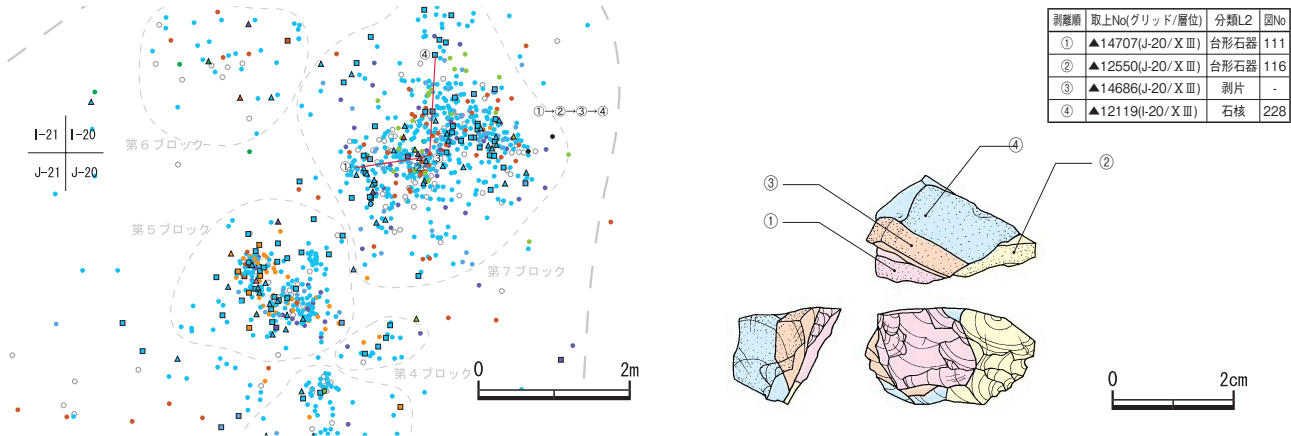
折断剥片の接合資料で、背面の末端部に一部礫面を残す剥



第431図 第Ⅱ文化層接合資料No.31実測図及び接合状況図



第432図 第Ⅱ文化層接合資料No.32実測図及び接合状況図



第433図 第Ⅱ文化層接合資料No.33実測図及び接合状況図

片を背面から二分している。分割した剥片の末端部を中心に腹面から刃潰し状の二次加工を施し、折断面はそのまま活かし、台形石器の右側縁としている。

接合資料No.45(第445図) [SH1B]

平坦面を持つ円礫を分割ないしは剥片剥離の途中で半割し、それぞれを石核とした過程を示す接合資料で、⑤と②の石核に独立する。⑤の石核からは③→④と寸詰まりの剥片を得ているが、④は折断されている。②の石核は分割面を打面とし①の小型の横広剥片を取り出している。

接合資料No.46(第446図) [OB3A]

小型の角礫を使用した石核と剥片の接合資料である。礫面を残す平坦面を打面とし、①から順次剥片剥離が進行してい

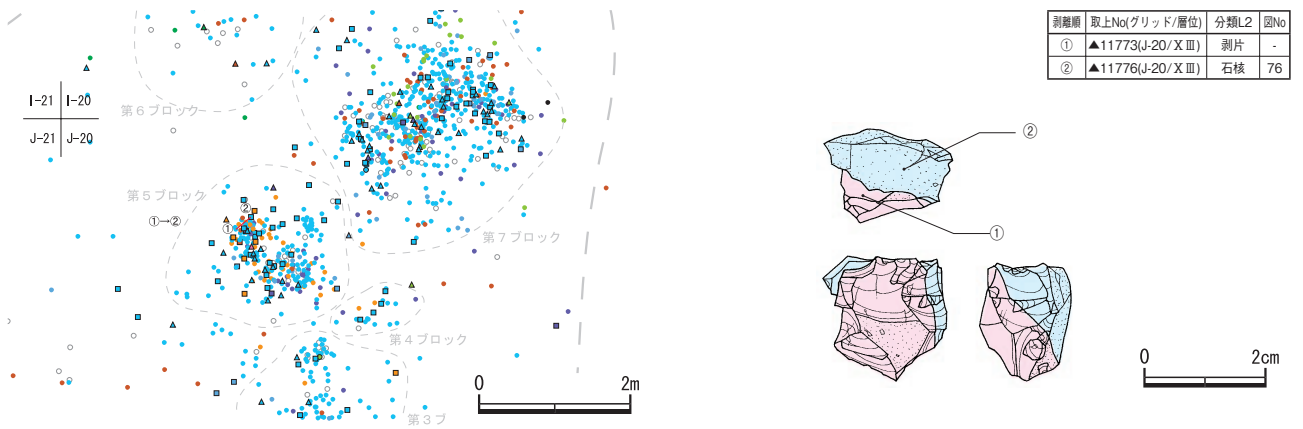
る。①は腹面からの圧力で上下に、(③→④)は背面からの圧力で左右に分割されている。

接合資料No.47(第447図) [OB3A]

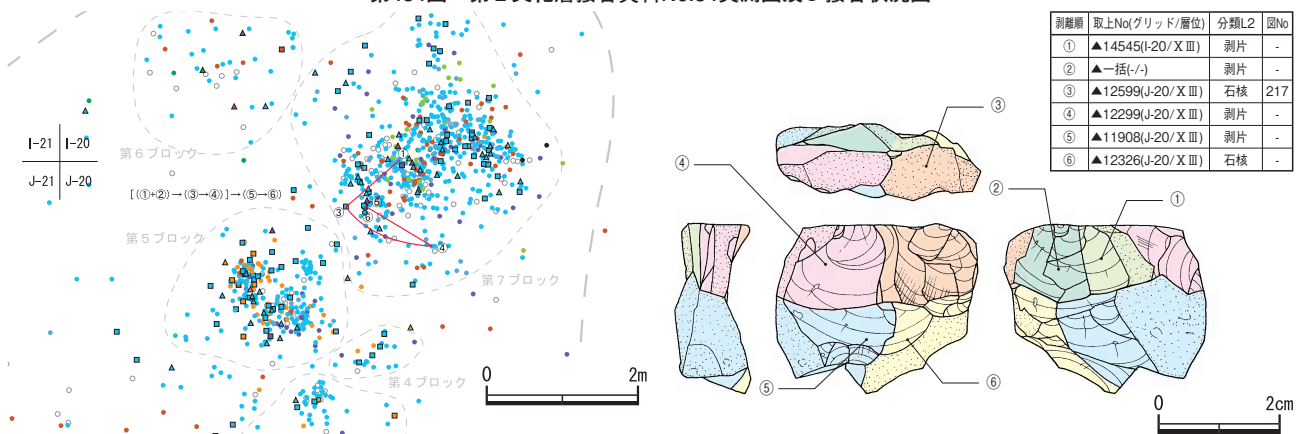
順次取り出される剥片と取り出された剥片を利用した台形石器の接合資料である。小型角礫素材の石核から、①→(②+③)→④の順で剥離が進行する。その際、全て打点の移動が行われている。④は剥離した剥片の頂部を大きく除去し、台形石器の左側縁部を形成することとなる。一方、端部は腹面から刃潰し加工が施され、右側縁を形成する。なお①の頂部にも小剥離が認められるが、目的は明確ではない。

接合資料No.48(第448図) [OB3A]

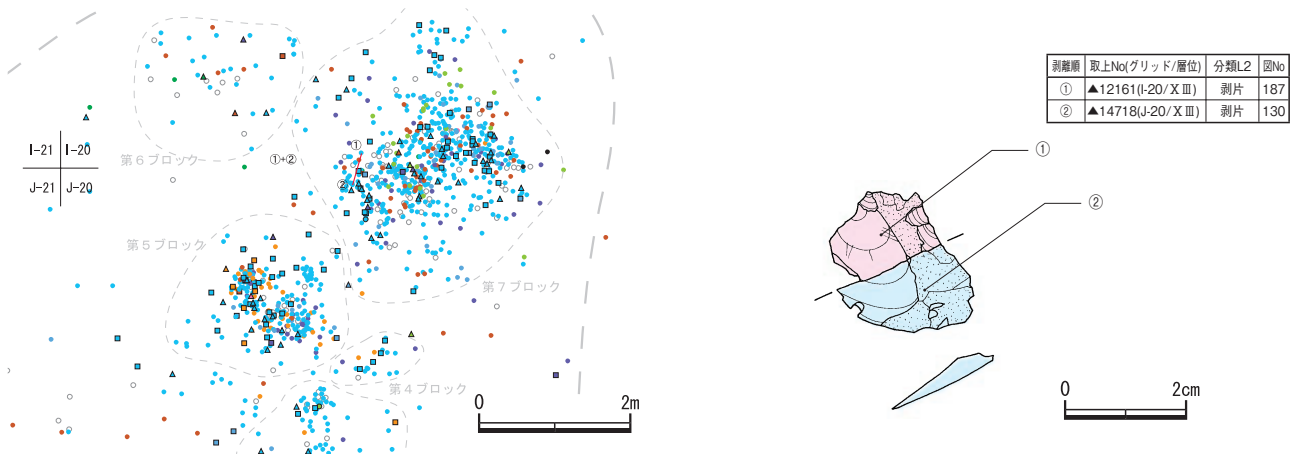
台形石器と剥片の接合資料である。極めて小さな素材を石



第434図 第Ⅱ文化層接合資料No.34実測図及び接合状況図



第435図 第Ⅱ文化層接合資料No.35実測図及び接合状況図



第436図 第Ⅱ文化層接合資料No.36実測図及び接合状況図

核に利用し、礫面の平坦部を打面にして剥離を行っている。
①は剥離後に打瘤部分を折断し、下縁に調整を施した台形石器である。②の下縁にも調整がみられる。

接合資料No.49(第449図) [OB3B]

角礫素材の石核と剥片の接合資料である。①は連続する上面からの剥離で得られた剥片を調整した台形石器で、一度右側縁に打面を移して②を剥離後に、③を大きく剥離し、裏面から数回剥離を繰り返している。

接合資料No.50(第450図) [OB1]

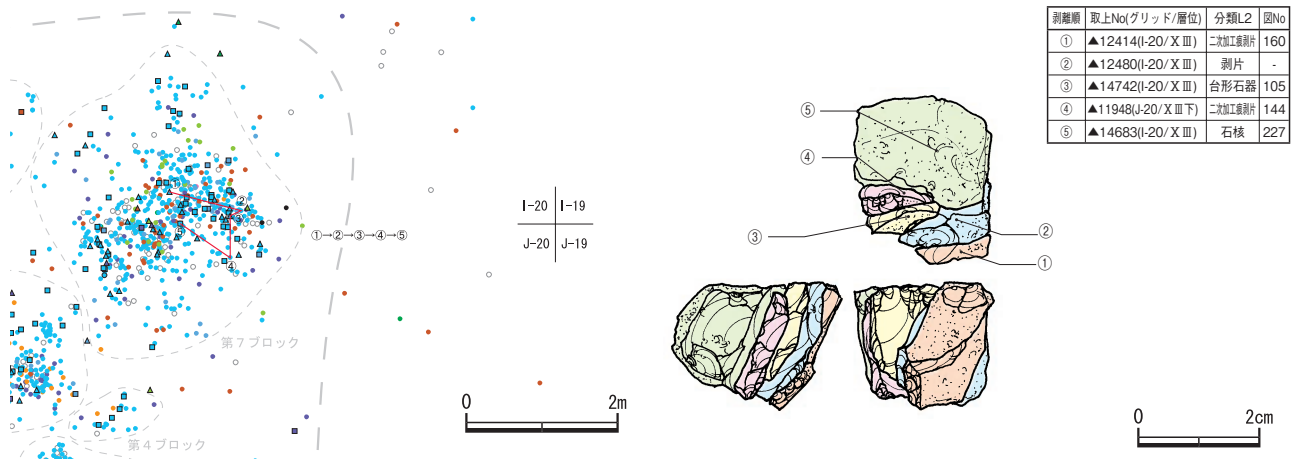
礫面を持つ横広剥片の分割資料同士の接合資料である。破断面に節理がみられ、偶発的な破断であったことが窺える。

接合資料No.51(第451図) [SH1C]

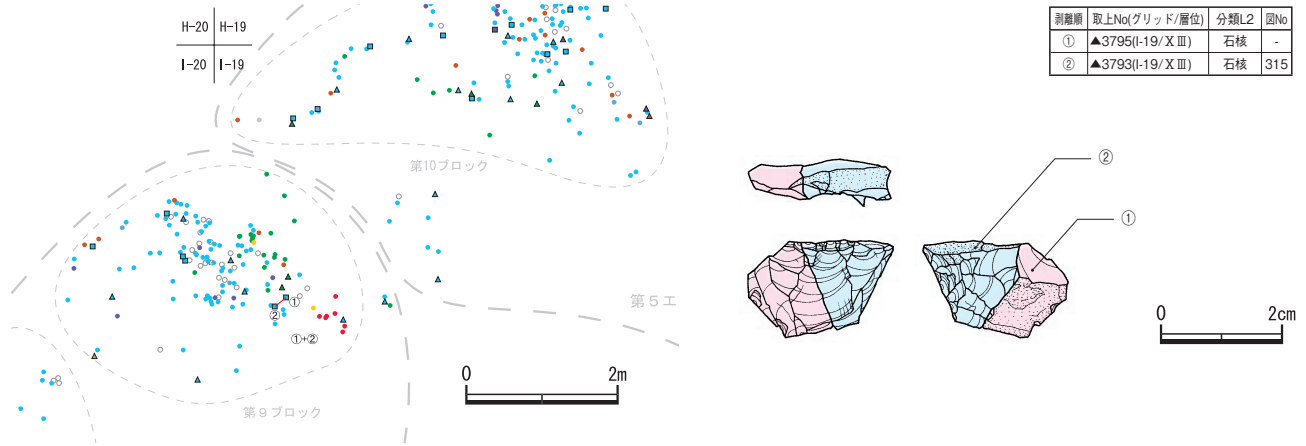
円礫を分割し、その分割面を打面として剥片剥離を開始し、その後、作業面を打面に移しながら2方向から剥片剥離を行った接合資料である。②を剥離後、その作業面を打面にして③、④と右に打点をずらしながら剥離を行っている。その後、更に大きく右側縁に打点を移しながら剥離を行い、⑦に至っている。

接合資料No.52(第452図) [SH1C]

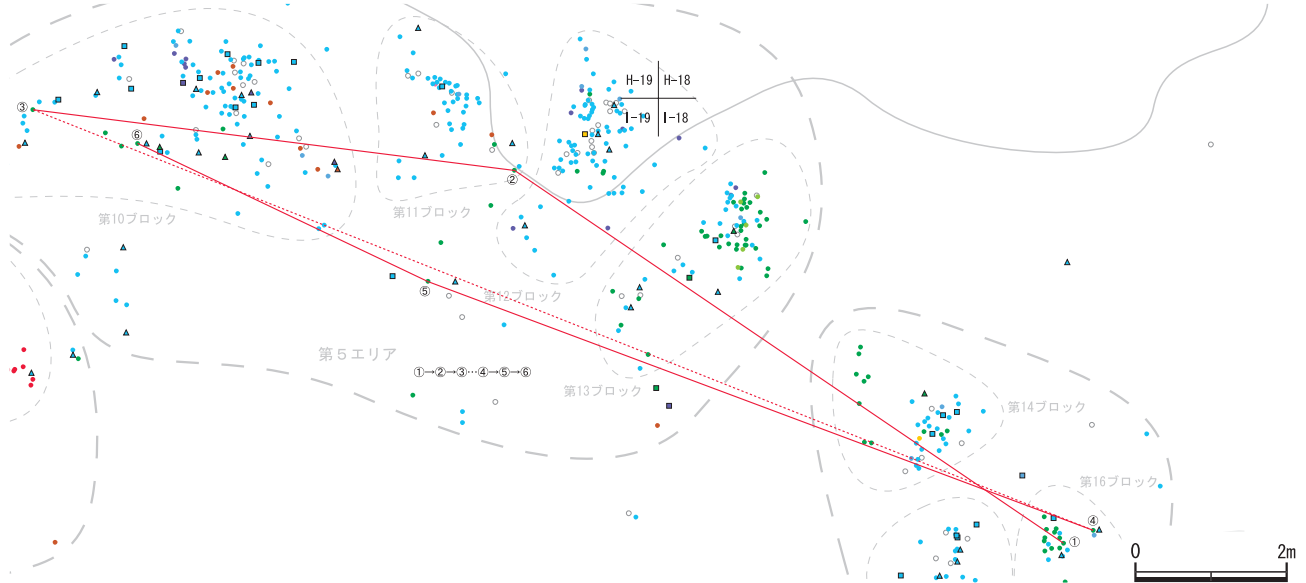
同一打面から連続剥離を行った剥片3点と打面転移剥片1点の接合資料である。下縁の平坦面を打面に①が剥離され、その後上下逆に打面を移して②以降の剥離を行っている。



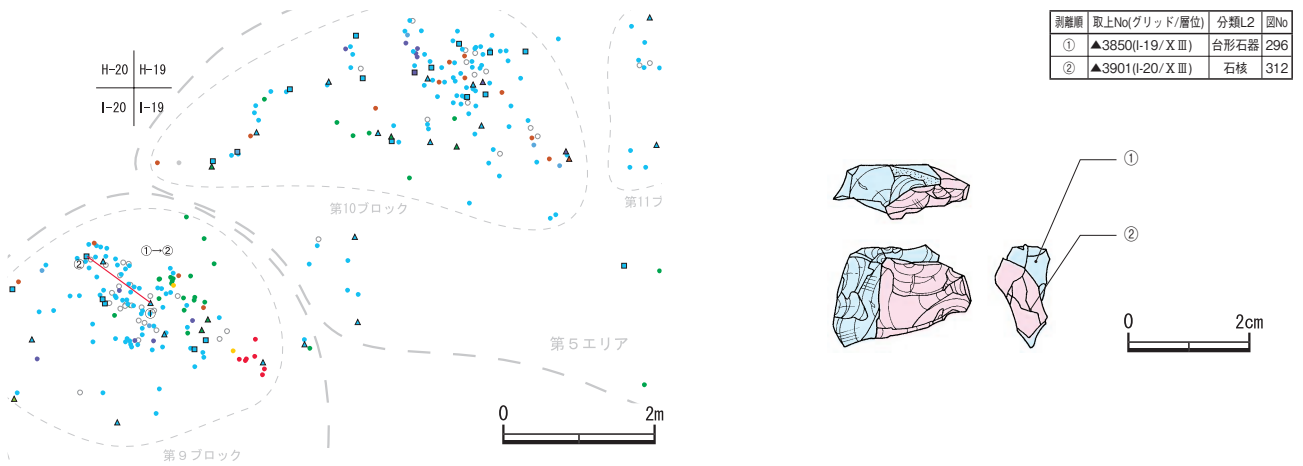
第437図 第Ⅱ文化層接合資料No.37実測図及び接合状況図



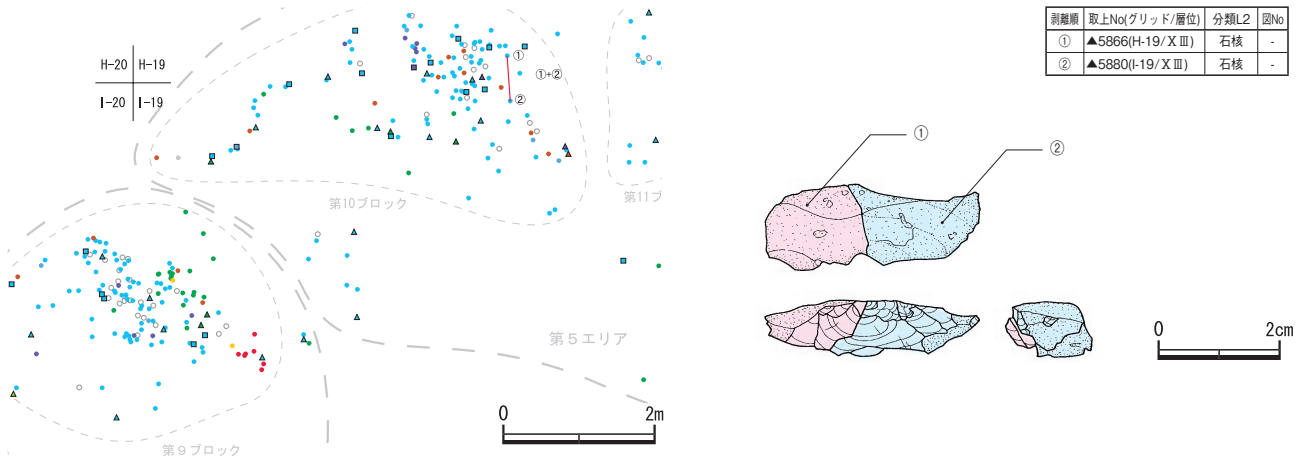
第438図 第Ⅱ文化層接合資料No.38実測図及び接合状況図



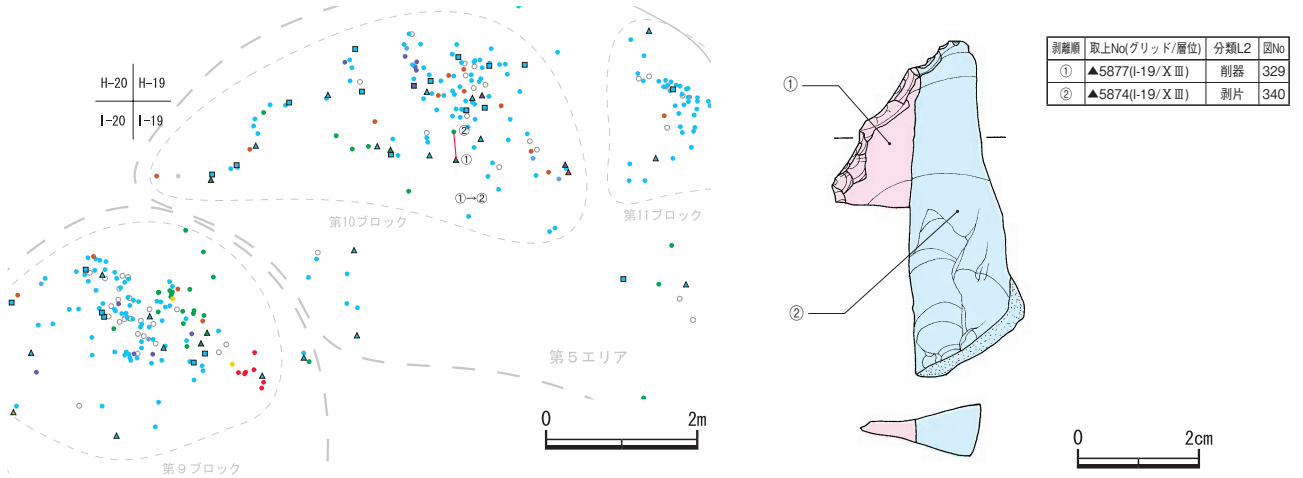
第439図 第Ⅱ文化層接合資料No.39実測図及び接合状況図



第440図 第Ⅱ文化層接合資料No.40実測図及び接合状況図



第441図 第Ⅱ文化層接合資料No.41実測図及び接合状況図



第442図 第Ⅱ文化層接合資料No.42実測図及び接合状況図

接合資料No.53(第453図) [SH1B]

円礫の頁岩素材の石核と剥片の接合資料である。左側縁を剥離作業が先行し、③→①の剥離へ移行し、正面が最終の作業面となる。取り出される剥片は丈の短い横広不定形剥片となる。

接合資料No.54(第454図) [SH1C]

剥片3点の接合資料である。(①+②)を剥離したのち、同一打面から、さらに数回剥離を施している。その後打点を移動し、③→④+⑤が剥離される。(④+⑤)はその後分割される。

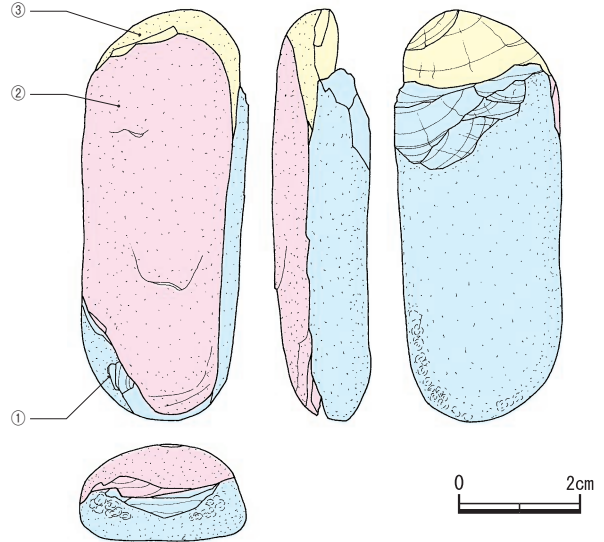
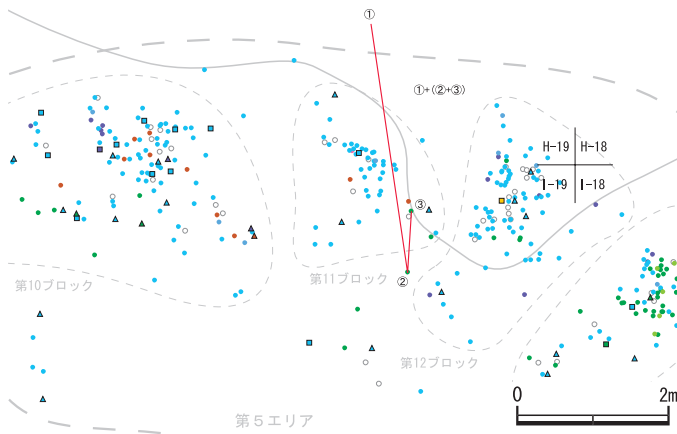
接合資料No.55(第455図) [SH1B]

頁岩の円礫素材の石核と剥片の接合資料である。円礫の礫面を除去する目的で、左から右方向へ順次作業が進行し、④の剥離後、④の剥離面を打面(右側縁)として、⑥+⑦の剥離が開始される。

接合資料No.56(第456図) [SH1B]

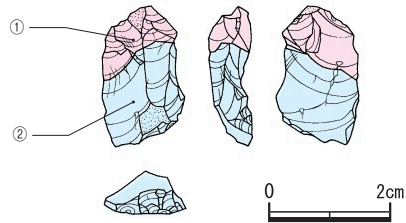
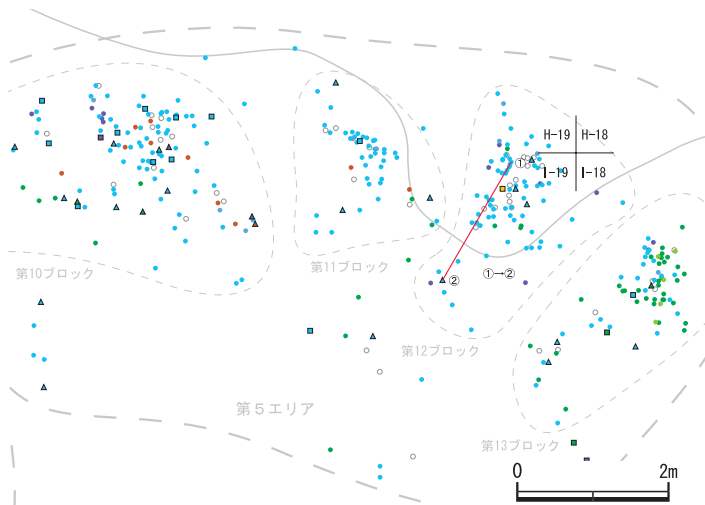
円礫を半割し、その分割面を打面にした石核と剥片の接合資料である。①→②→③の順で剥離が進行するが、打面は①の剥離面(左側縁)から、数回の剥離作業によって形成される。

剥離順	取上No(グリッド/層位)	分類L2	図No
①	▲5303(H-19/X II)	ハンマー	1862
②	▲5970(I-19/X III)	ハンマー	372
③	▲6808(I-19/X III下)	剥片	363



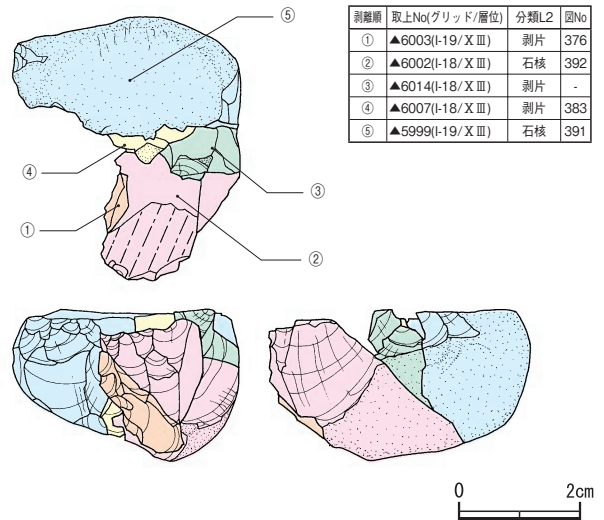
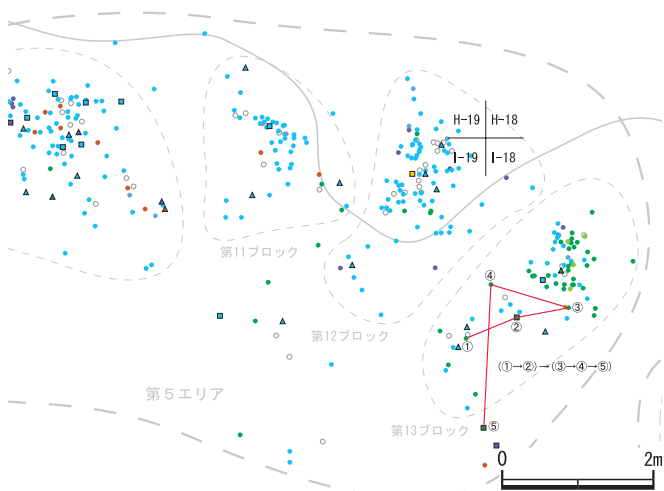
第443図 第Ⅱ文化層接合資料No.43実測図及び接合状況図

剥離順	取上No(グリッド/層位)	分類L2	図No
①	▲6822(I-19/X III下)	剥片	-
②	▲5944(I-19/X III)	台形石器	368

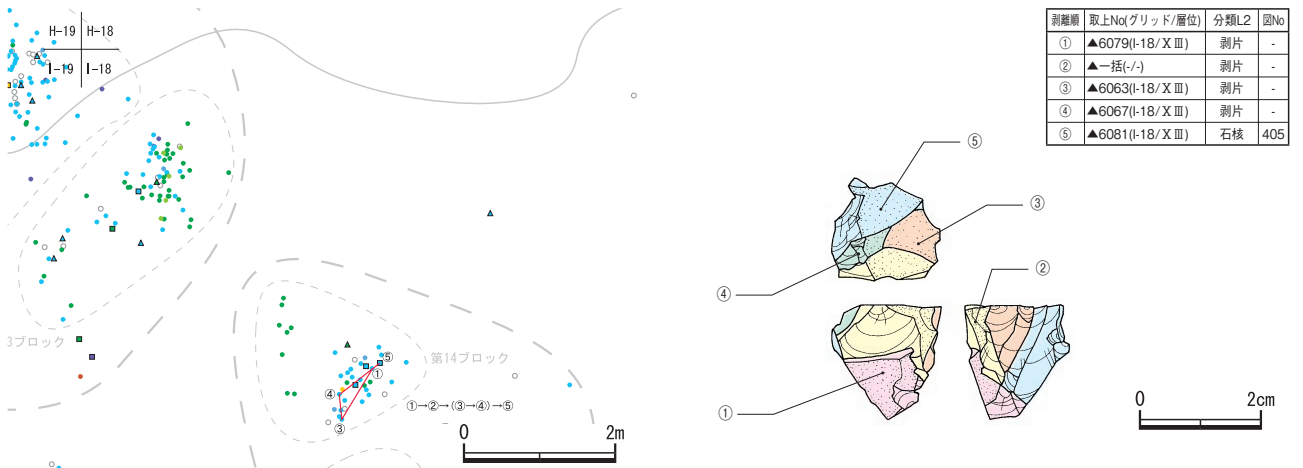


第444図 第Ⅱ文化層接合資料No.44実測図及び接合状況図

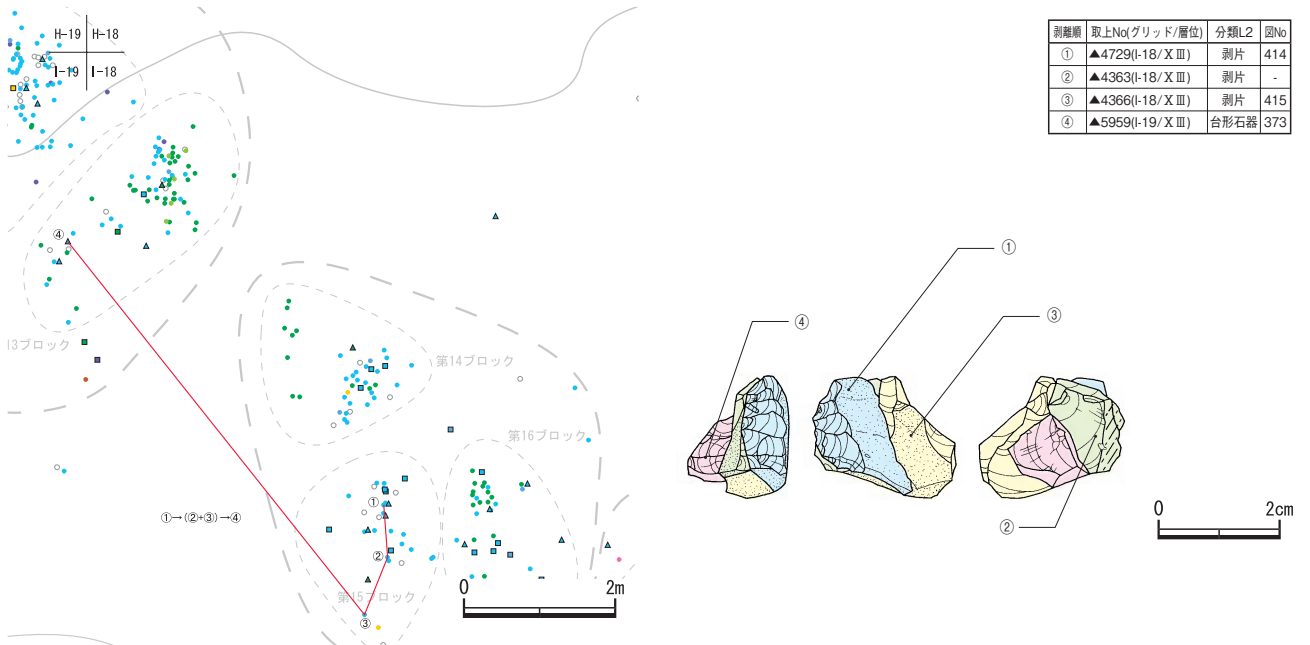
剥離順	取上No(グリッド/層位)	分類L2	図No
①	▲6003(I-19/X III)	剥片	376
②	▲6002(I-18/X III)	石核	392
③	▲6014(I-18/X III)	剥片	-
④	▲6007(I-18/X III)	剥片	383
⑤	▲5999(I-19/X III)	石核	391



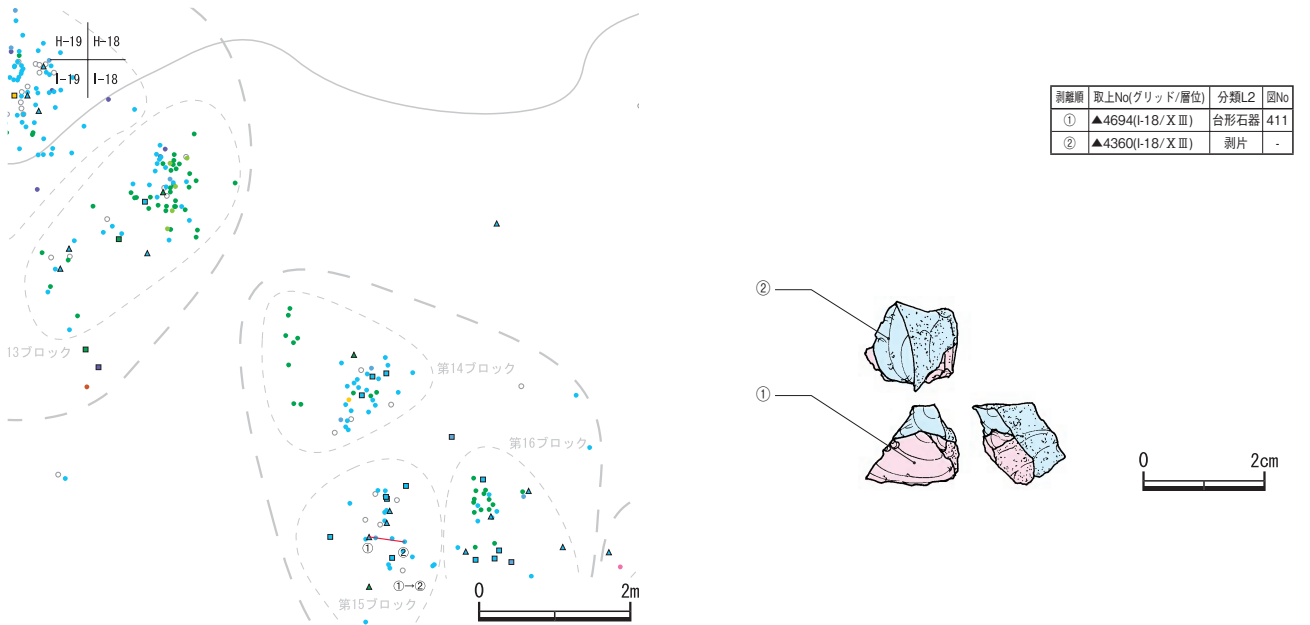
第445図 第Ⅱ文化層接合資料No.45実測図及び接合状況図



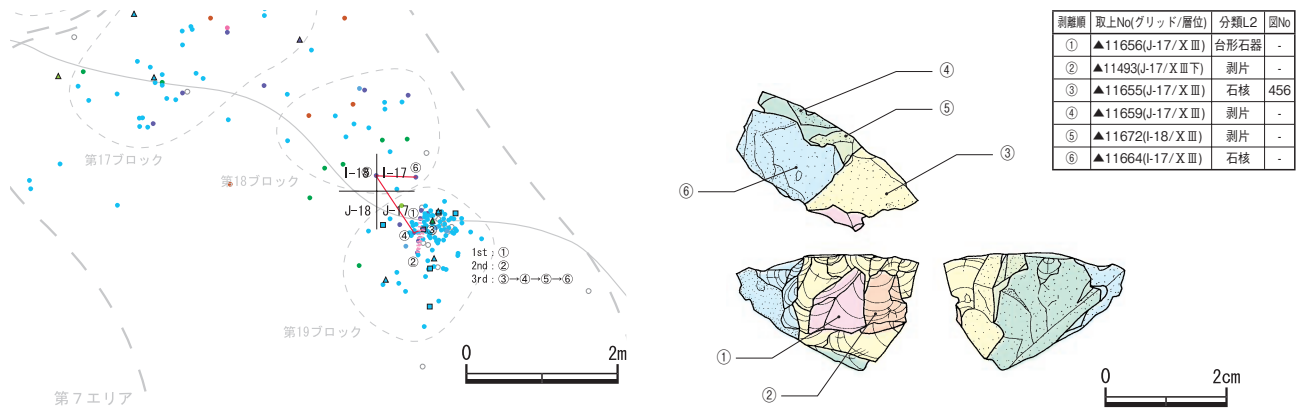
第446図 第Ⅱ文化層接合資料No.46実測図及び接合状況図



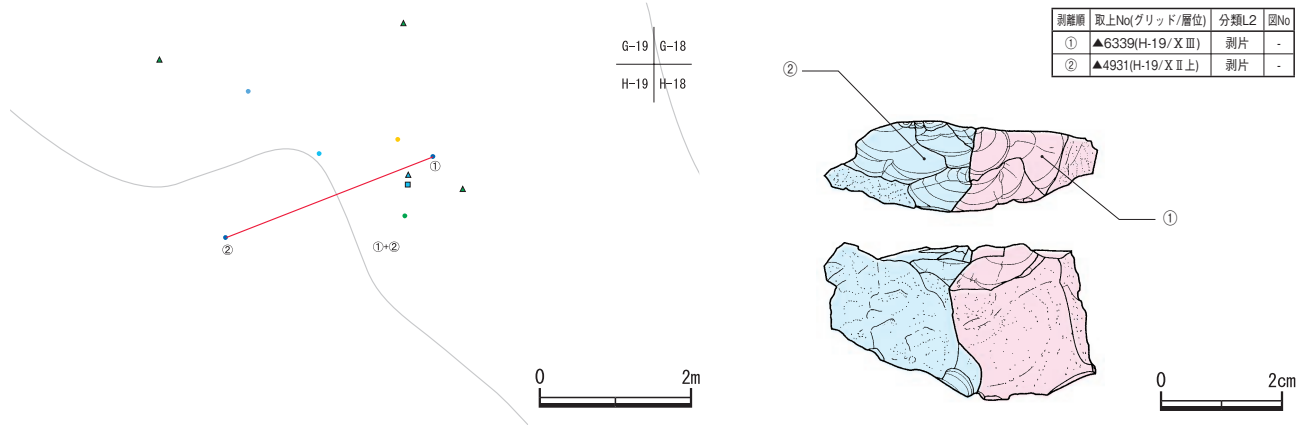
第447図 第Ⅱ文化層接合資料No.47実測図及び接合状況図



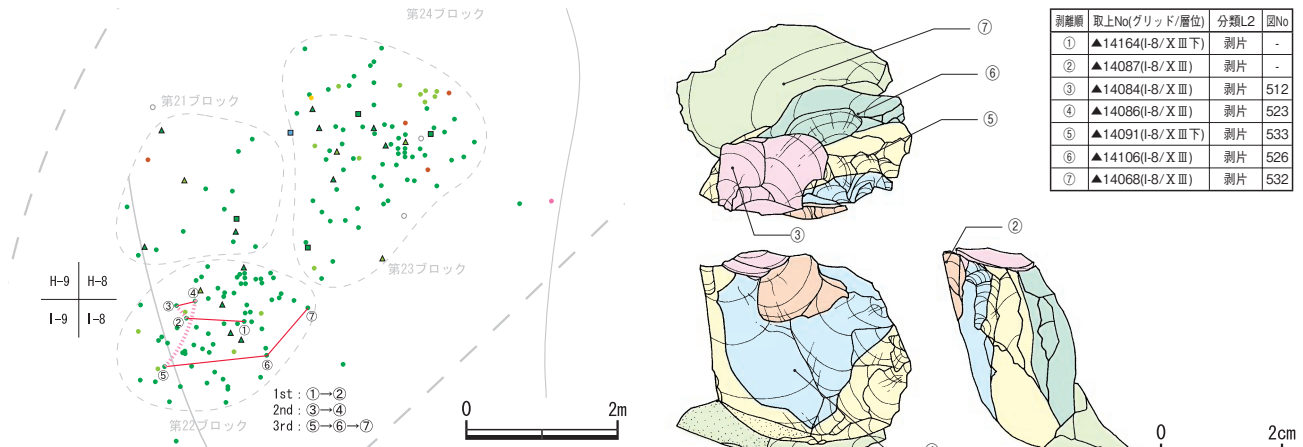
第448図 第Ⅱ文化層接合資料No.48実測図及び接合状況図



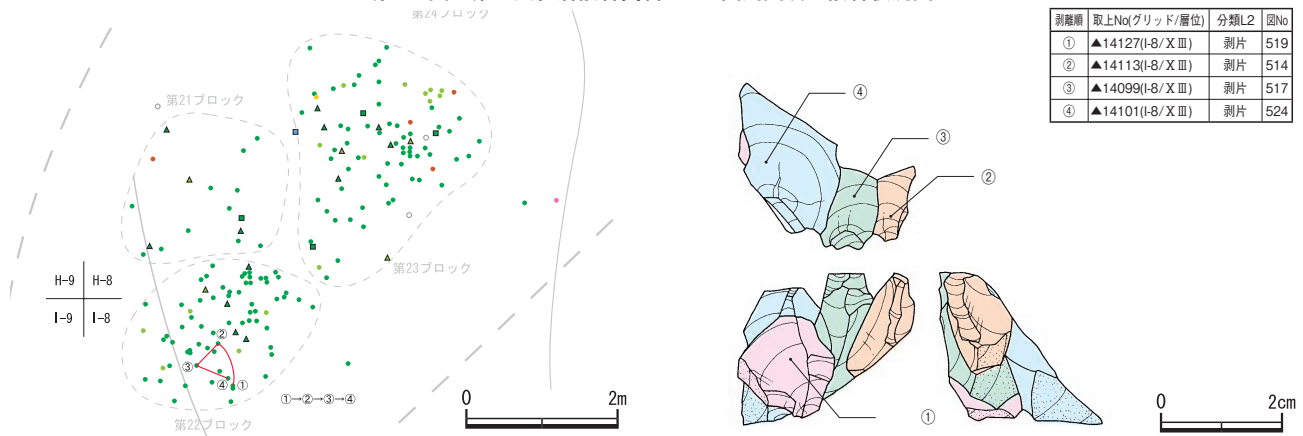
第449図 第Ⅱ文化層接合資料No.49実測図及び接合状況図



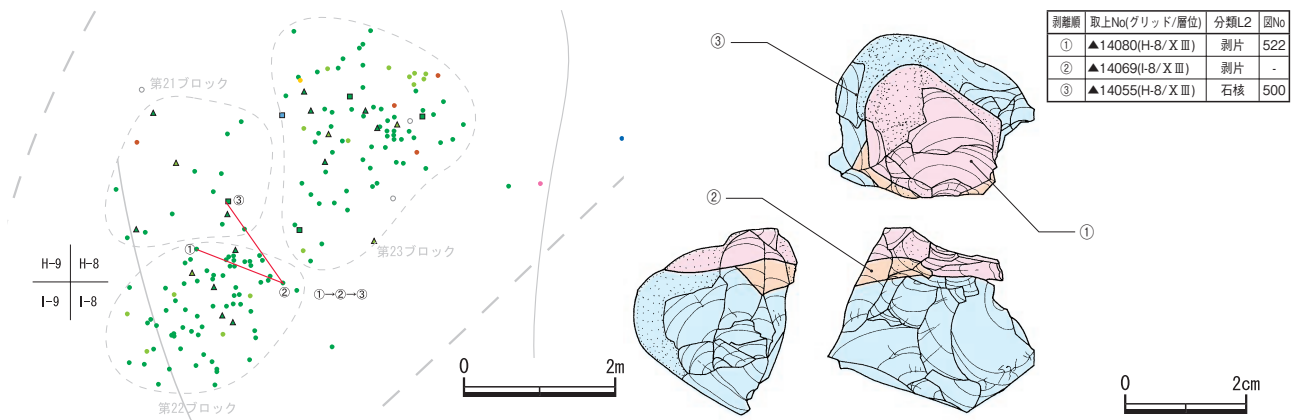
第450図 第Ⅱ文化層接合資料No.50実測図及び接合状況図



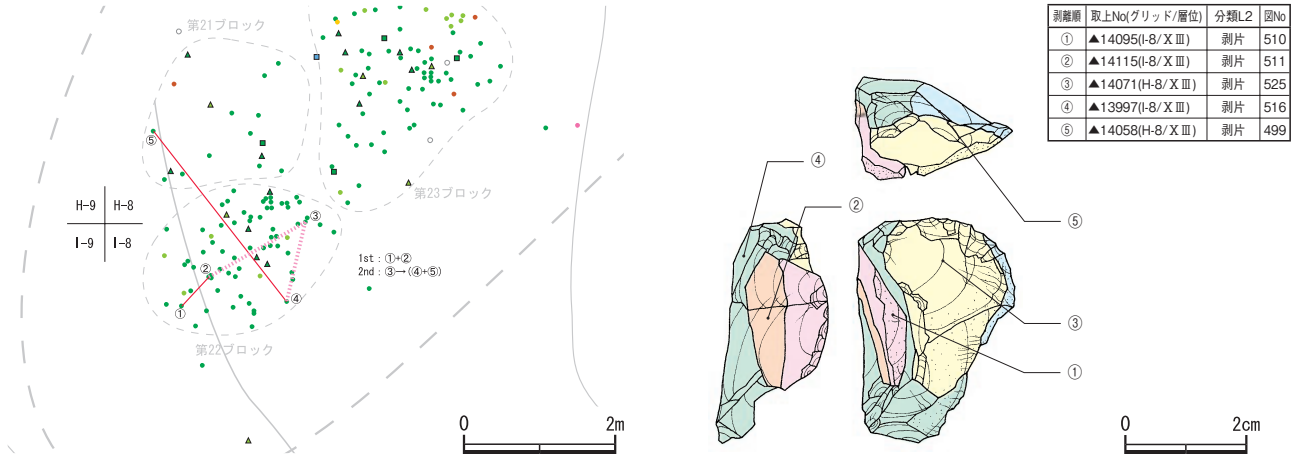
第451図 第Ⅱ文化層接合資料No.51実測図及び接合状況図



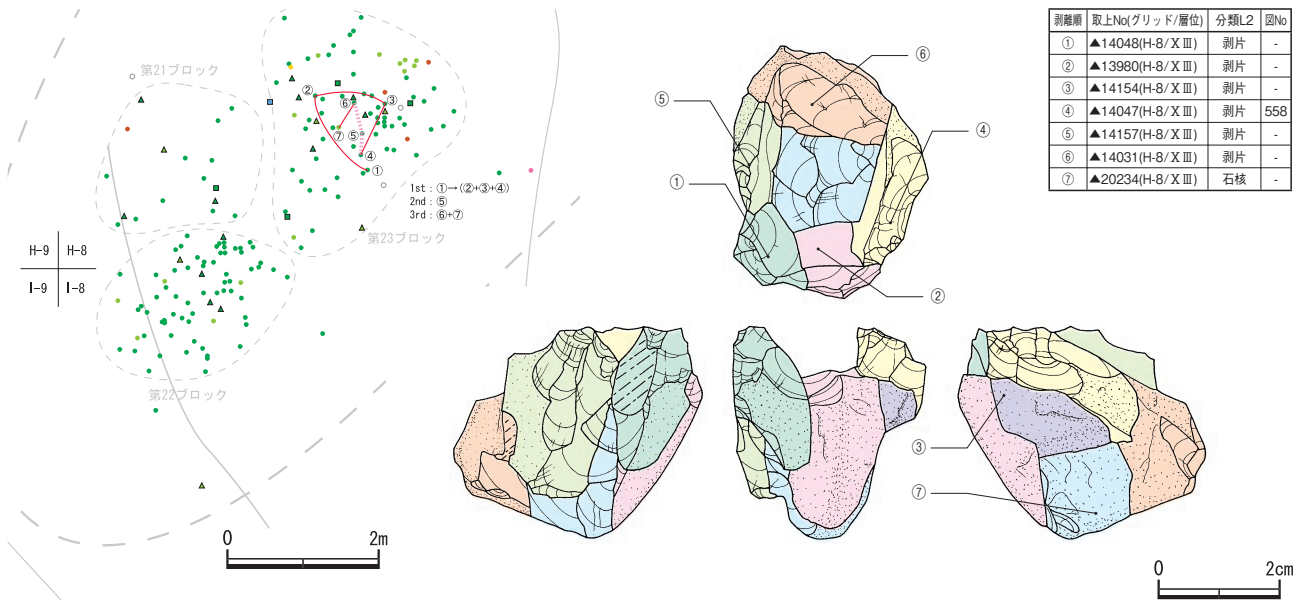
第452図 第Ⅱ文化層接合資料No.52実測図及び接合状況図



第453図 第Ⅱ文化層接合資料No.53実測図及び接合状況図



第454図 第Ⅱ文化層接合資料No.54実測図及び接合状況図



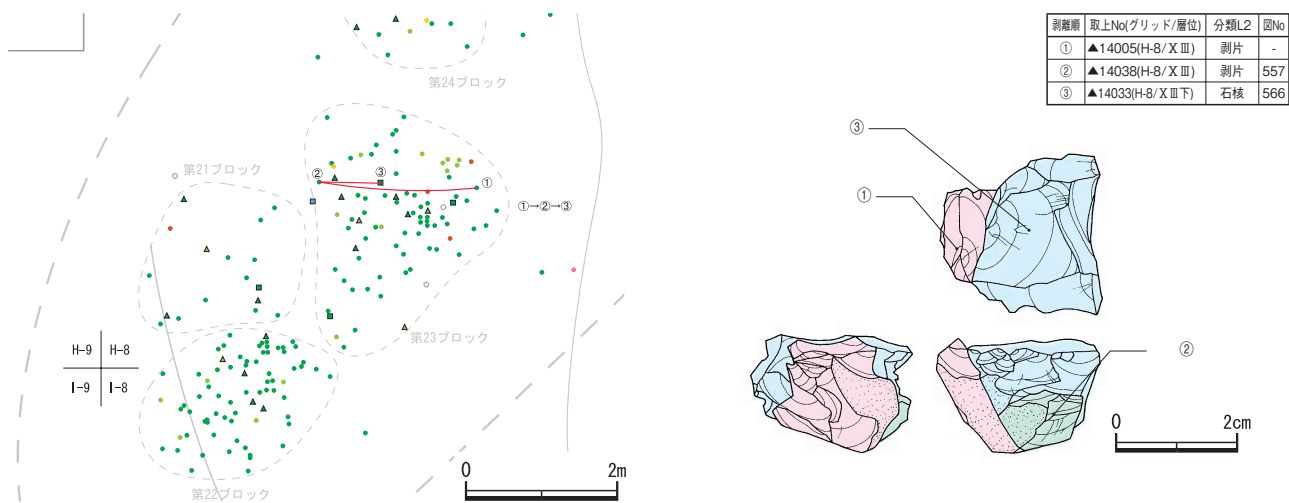
第455図 第Ⅱ文化層接合資料No.55実測図及び接合状況図

接合資料No.57(第457図) [SH1A]

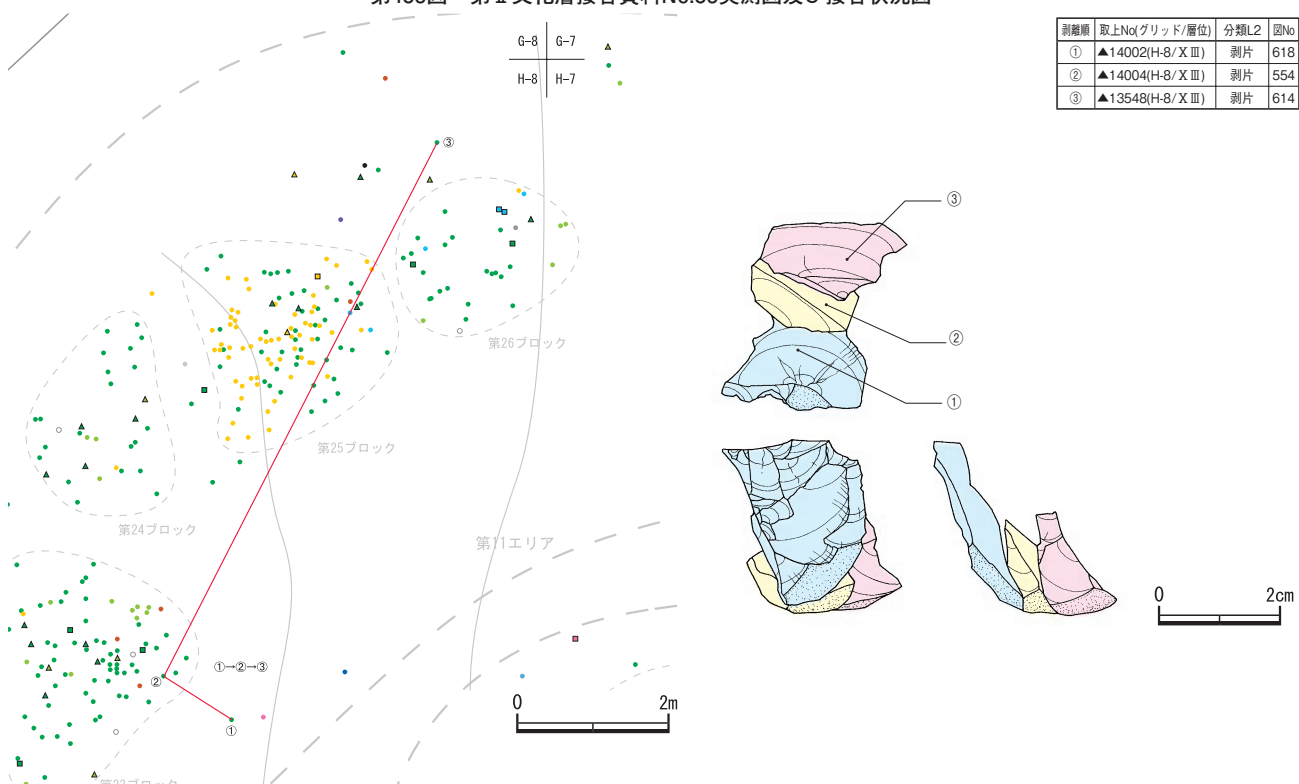
縦長剥片と折断剥片の接合資料である。石核は頁岩の円礫を分割し、その分割面を打面としたと考えられる。剥離作業は①→②→③と進行し、その間に失われているが、2点の剥片が剥離されている。①以下の剥離作業が①と打点を共有したかは明らかではないが、②以前に打面再生が行われた可能性もある。②・③はともに背面からの圧力で折断され、末端のみを残す。

接合資料No.58(第458図) [SH1B]

節理の多い原礫から、打面転移を繰り返しながら剥片剥離を行った接合資料である。下縁調整が先行した可能性がある資料で、左側縁部から①は下縁調整が先行した可能性がある。下縁部に小剥離が多数認められる。⑧を正面に図示したがポジティブ面があることから、本来は背面が剥離作業の正面となる。



第456図 第Ⅱ文化層接合資料No.56実測図及び接合状況図



第457図 第Ⅱ文化層接合資料No.57実測図及び接合状況図

接合資料No.59(第459図) [CC1A]

二次加工痕剥片とチップの接合資料である。裏面(礫面)から連続して急角度の加撃が行われている。

接合資料No.60(第460図) [OB3C]

小型のナイフ形石器のリダクションを示す接合資料である。二側縁加工ナイフ形石器の刃潰し加工段階で二分される。右側縁の刃潰し加工は最終段階に達しているが、左側縁の加工中に破断している。その後先端部を再加工して小型ナイフ形石器に再加工される。

接合資料No.61(第461図) [SH1B]

剥片と二次加工痕剥片との接合資料である。角礫の緩やかな稜の部分で打面にして、加撃し、節理面に沿って①が脱落したものとみられる。①はその後上部を右側縁に調整剥離が施されている。

接合資料No.62(第462図) [OB3C]

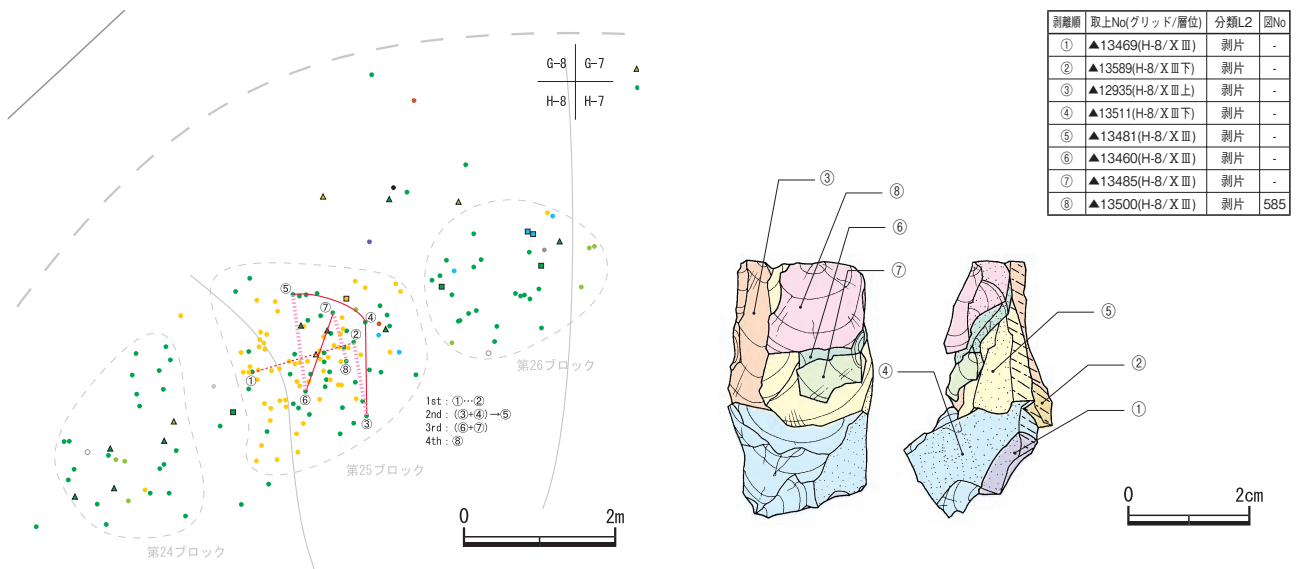
打面調整からの剥片剥離作業が窺える接合資料である。①と②が先行して剥離が開始される。両点とも礫面を打面とした剥離作業である。なお③のネガティブ面が⑧で、この面は以下の石核の打面として利用されることとなる。したがって③は素材剥片獲得を目的としたものではなく、打面形成を目的とした調整剥片の可能性が高い。なお①と②は実測後に接合した資料である。

接合資料No.63(第463図) [SH1A]

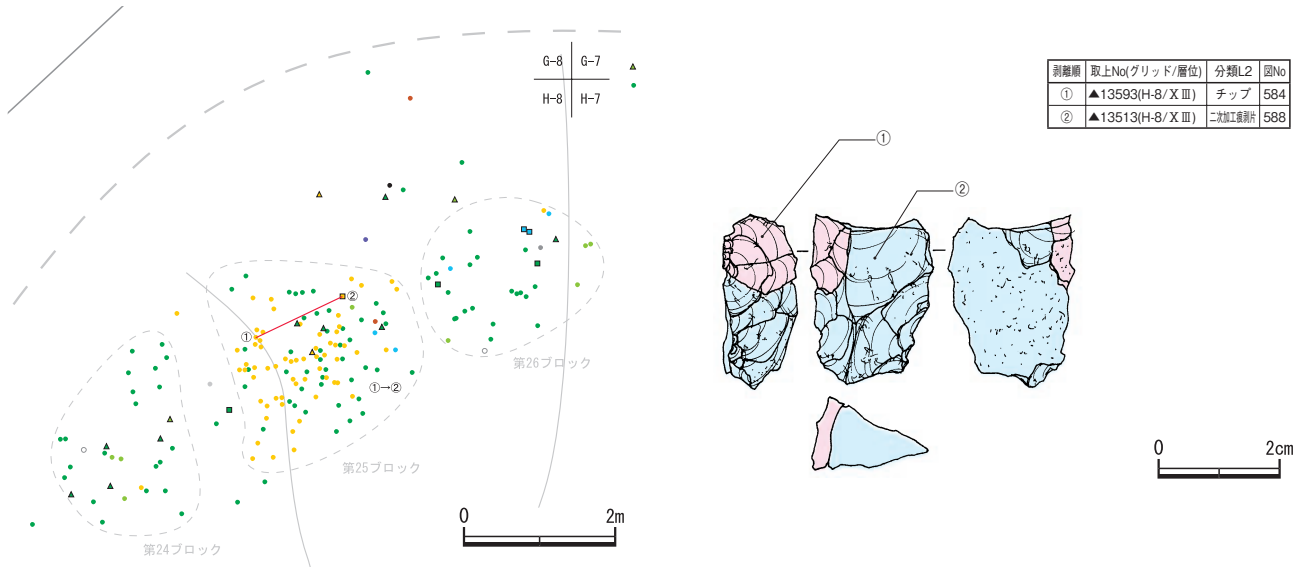
ナイフ形石器を含む接合資料である。平坦面を打面として①・②・③を剥離しているが、①は素材剥片を大きく変えることでナイフ形石器に仕上げられている。

接合資料No.64(第464図) [SH1A]

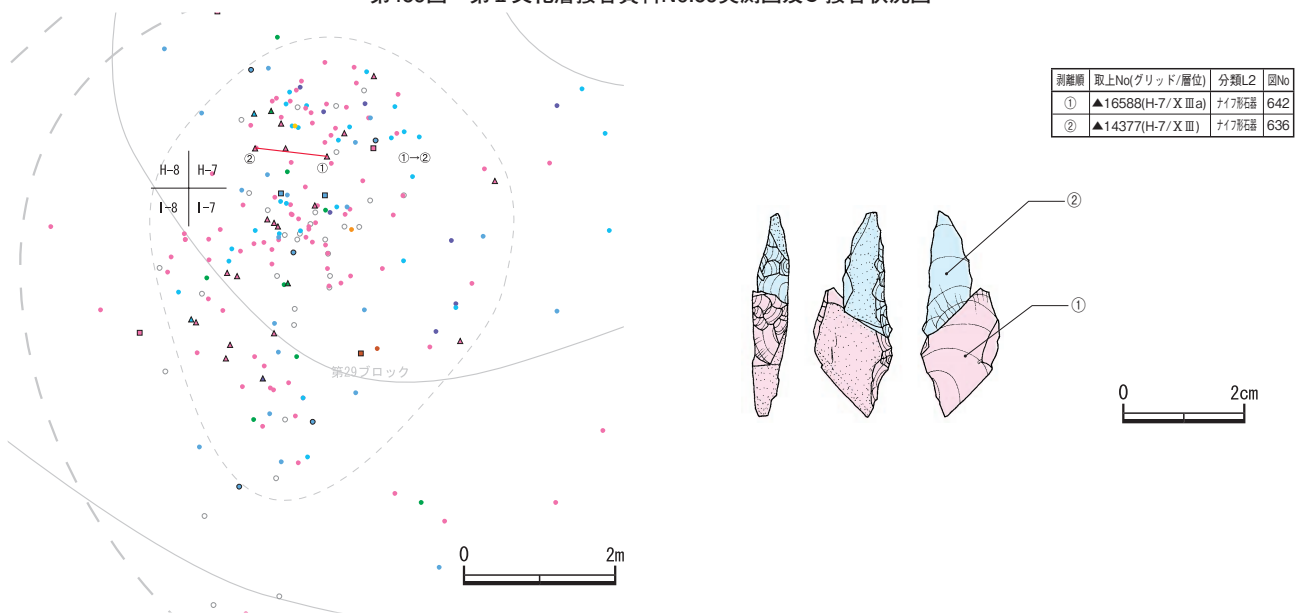
小型ナイフ形石器と剥片の接合資料である。①・②は連続



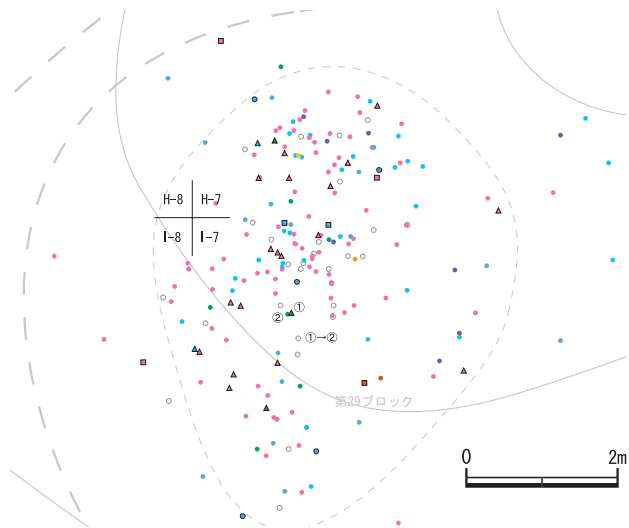
第458図 第Ⅱ文化層接合資料No.58実測図及び接合状況図



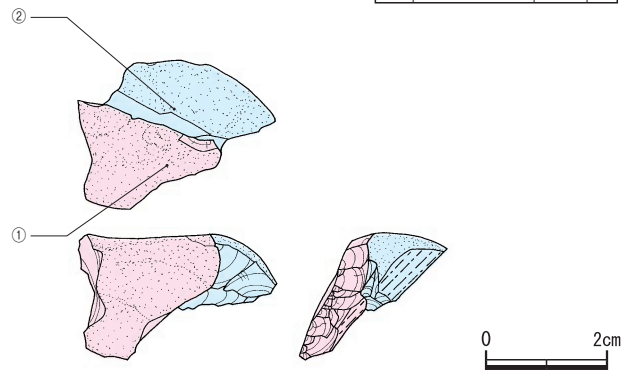
第459図 第Ⅱ文化層接合資料No.59実測図及び接合状況図



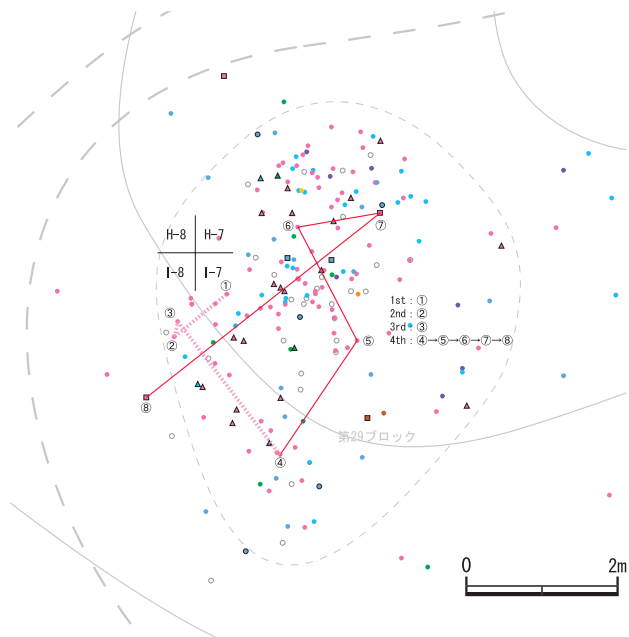
第460図 第Ⅱ文化層接合資料No.60実測図及び接合状況図



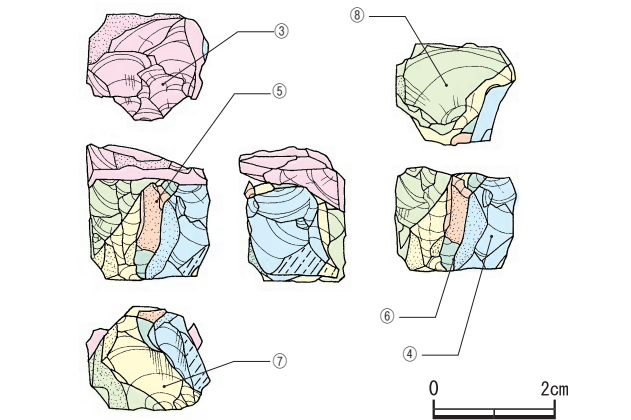
剥離順	取上No(グリッド/層位)	分類L2	図No
①	▲17080(I-7/X III)	二次加工剥片	643
②	▲16701(I-7/X IIIa)	剥片	-



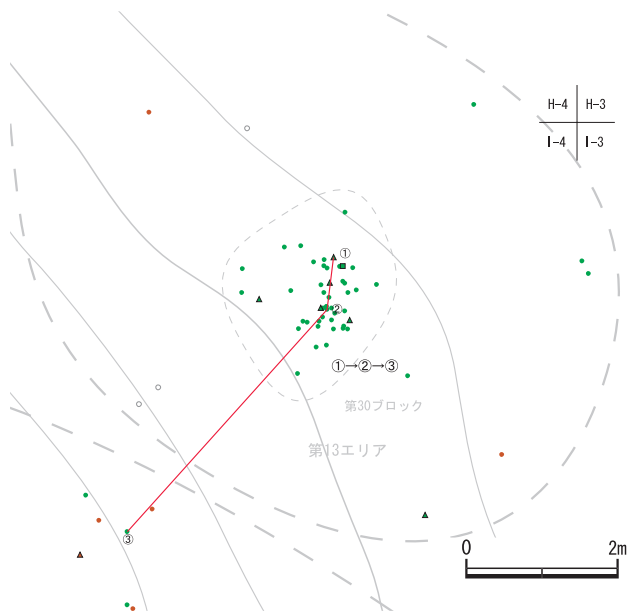
第461図 第Ⅱ文化層接合資料No.61実測図及び接合状況図



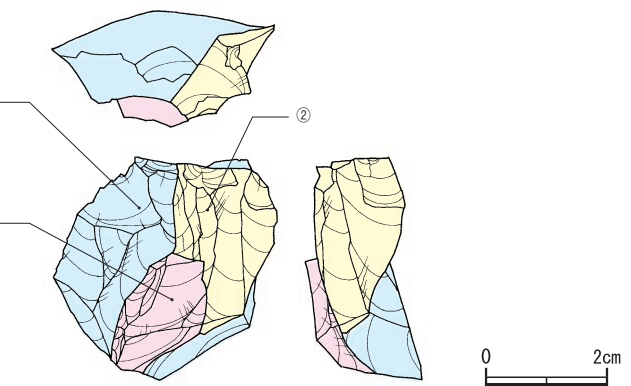
剥離順	取上No(グリッド/層位)	分類L2	図No
①	▲16424(I-7/X III上)	剥片	-
②	▲16605(I-8/X IIIa)	剥片	-
③	▲16313(I-8/X II下)	剥片	719
④	▲16320(I-7/X II下)	剥片	716
⑤	▲16522(I-7/X IIIa)	剥片	-
⑥	▲14379(H-7/X III)	剥片	654
⑦	▲16666(H-7/X IIIb)	剥片	667
⑧	▲13956(I-8/X II下)	石核	723



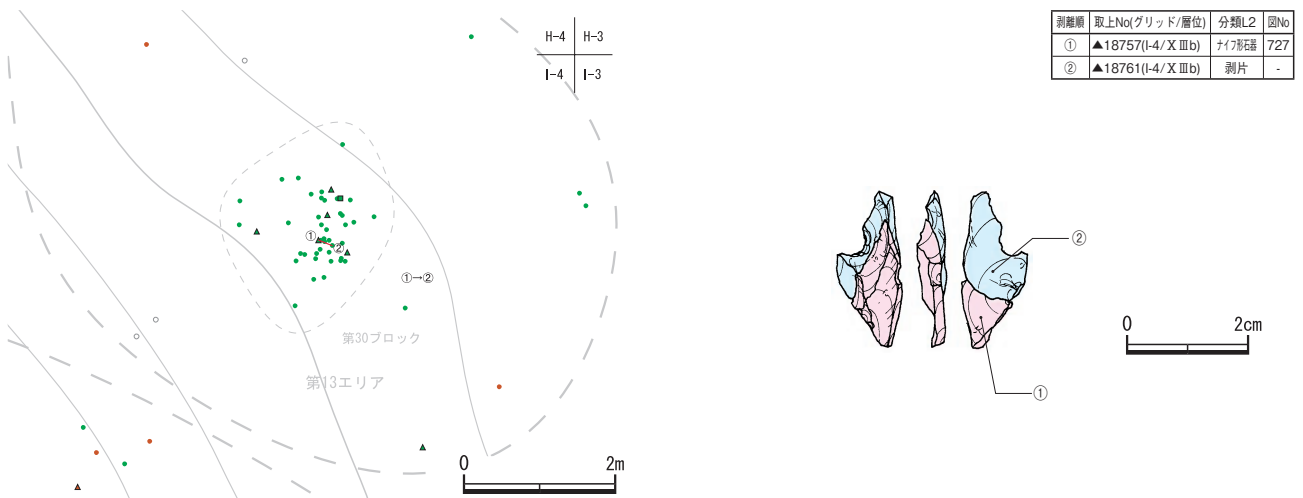
第462図 第Ⅱ文化層接合資料No.62実測図及び接合状況図



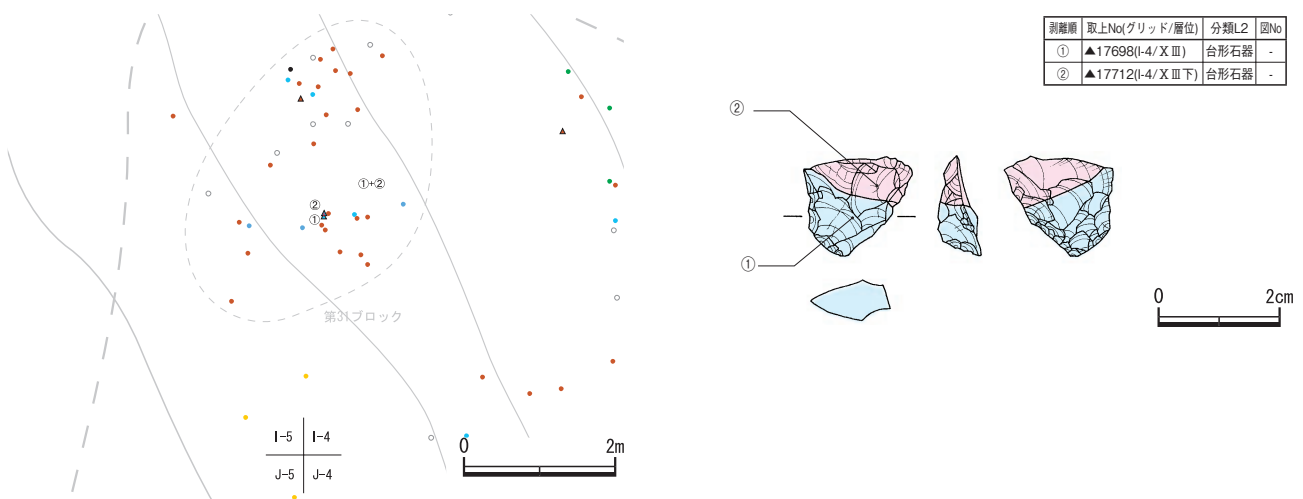
剥離順	取上No(グリッド/層位)	分類L2	図No
①	▲18720(I-4/X III)	ナイフ形礫	728
②	▲18763(I-4/X IIIb)	剥片	745
③	▲17613(I-4/X III下)	剥片	778



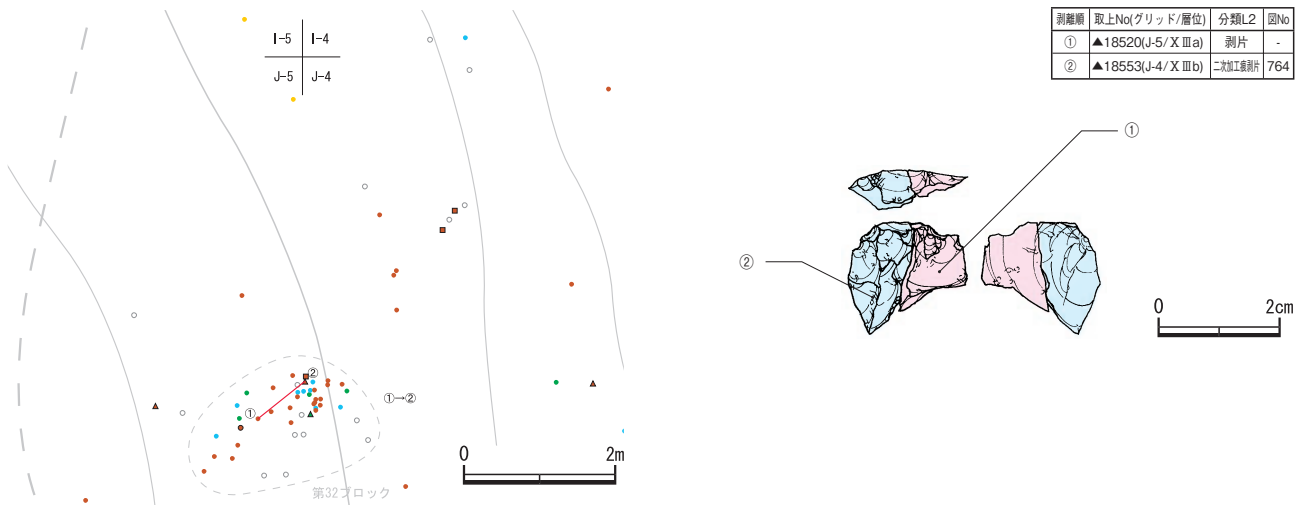
第463図 第Ⅱ文化層接合資料No.63実測図及び接合状況図



第464図 第Ⅱ文化層接合資料No.64実測図及び接合状況図



第465図 第Ⅱ文化層接合資料No.65実測図及び接合状況図



第466図 第Ⅱ文化層接合資料No.66実測図及び接合状況図

して剥がされ、打点も極めて接近する。①の小型不定形剥片の端部に刃潰し加工が認められ、これに先行する剥離の打点方向が基部方向となる。②には調整はみられない。

接合資料No.65(第465図) [OB3A]

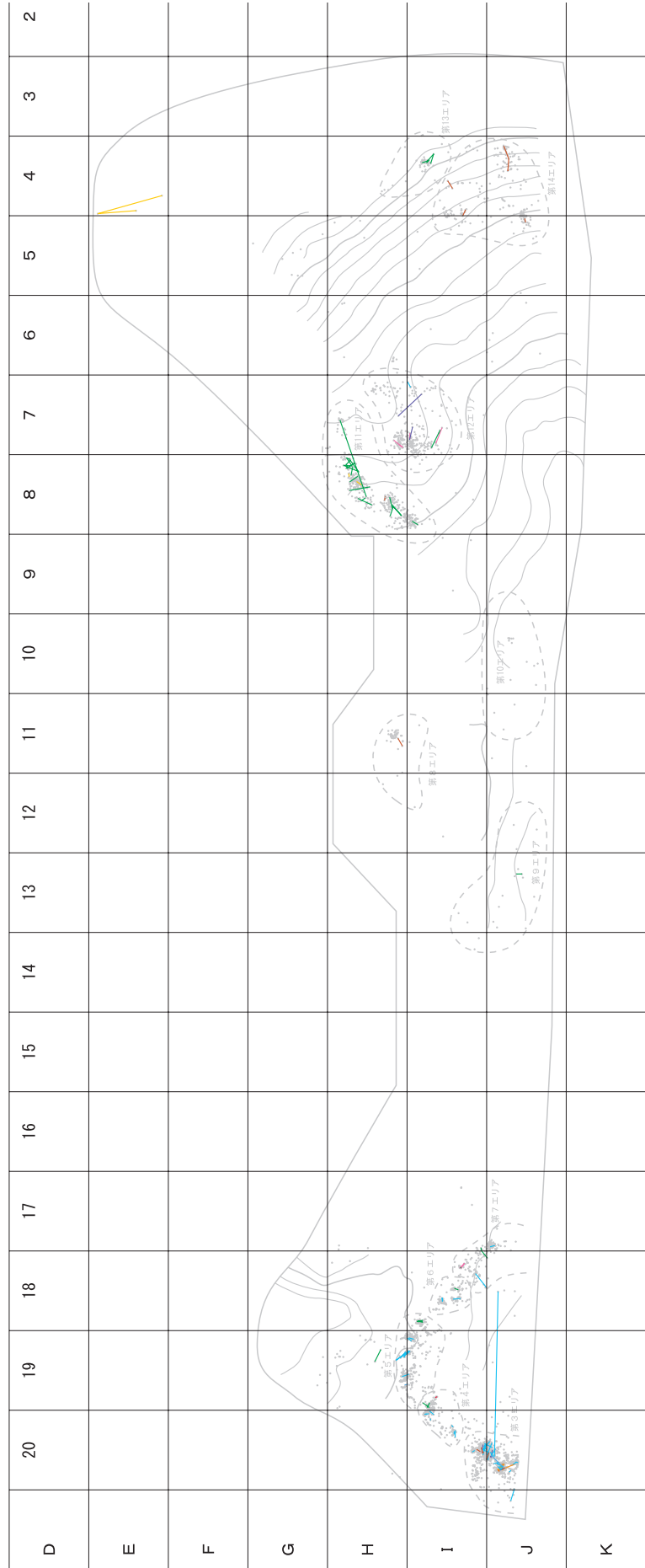
台形石器の破断した資料である。両側縁共に刃潰し加工がほぼ終了していることから、完成後の破砕で背面中心部分か

ら破断している。

台形石器は、右側縁が打面に相当すると思われる。刃潰し加工は、右側縁の中央から先端部に数回、左側縁は腹面から入念に実施している。特に、腹面への整形剥離は活発に行われ、基部周辺は薄く尖り気味な仕上げとなっている。

接合資料No.66(第466図) [OB2B]

二次加工剥片とチップ(分割)の接合資料である。素材とした不定形剥片の端部①を分割し、分割した剥離面に腹面方向から微細な調整剥離を加えている。刃部は先端部方向に設けられ、肉厚で断面三角形の小型ナイフ形石器状に仕上げている。



第467図 第Ⅱ文化層非実測接合遺物接合状況図

第3節 土器

1 土器群の概要

X層を中心として出土した土器については、縄文時代草創期に比定できる土器群である。当該期資料において69点を掲載した。これらのうち、接合可能であったのは図No18における2点である。なお資料はそのほとんどが小破片ともいえる破片資料が中心であり、接合および器形復元については良好とは言い難い状況であった。

器形については「胴部から口縁部にかけて、やや直行するもの」もしくは、「若干の外反を呈するもの」として捉えることができ、器種としては深鉢を想定できるが、いずれも小片ゆえの錯誤があるかもしれない。

胎土、調整法、粘土紐の貼り付け手法等から、大きく6つのグループとして捉えることとした。以下、分類とその概念について述べてみたい。

1類 (第498図1~14, 第503図44~50)

大きくは隆線文に属すると考えられる資料の一群である。基本的な器面調整はナデによって行われている。内面調整はていねいなナデにより行われ、指頭圧痕が所々に認められる。口縁部付近には幅5mm弱の隆起線文を3~4mmの間隔で2条程度を横位に貼付し、刻みを施す。刻みの手法は器壁に対して、直角ではなく斜位に上下から交互に行い、器壁本体にまで達する。これらは器形正位に対しても斜位の刻みを施している。なお、図No2~4において口唇部直下における隆起線文は爪によると思われる刺突が横位に施される。断面において直角の段を呈し、その下の隆線文とは異なる手法で施文しているようである。口唇部端とその下位の隆線には製作技法上の使い分けが行われている可能性がある。器壁表面は明るい褐色から赤褐色を呈するが、表面のみに焼成による厚さ0.5mm弱の赤化がみられるものの、器壁断面は主に黒色を呈する。胎土は極めて細かい細粒からなり、特に目立つ混和材などは見あたらない。その胎土成分に起因するため

か、非常にしろい印象を受ける。

2類 (第499図15~27, 第504図51~62)

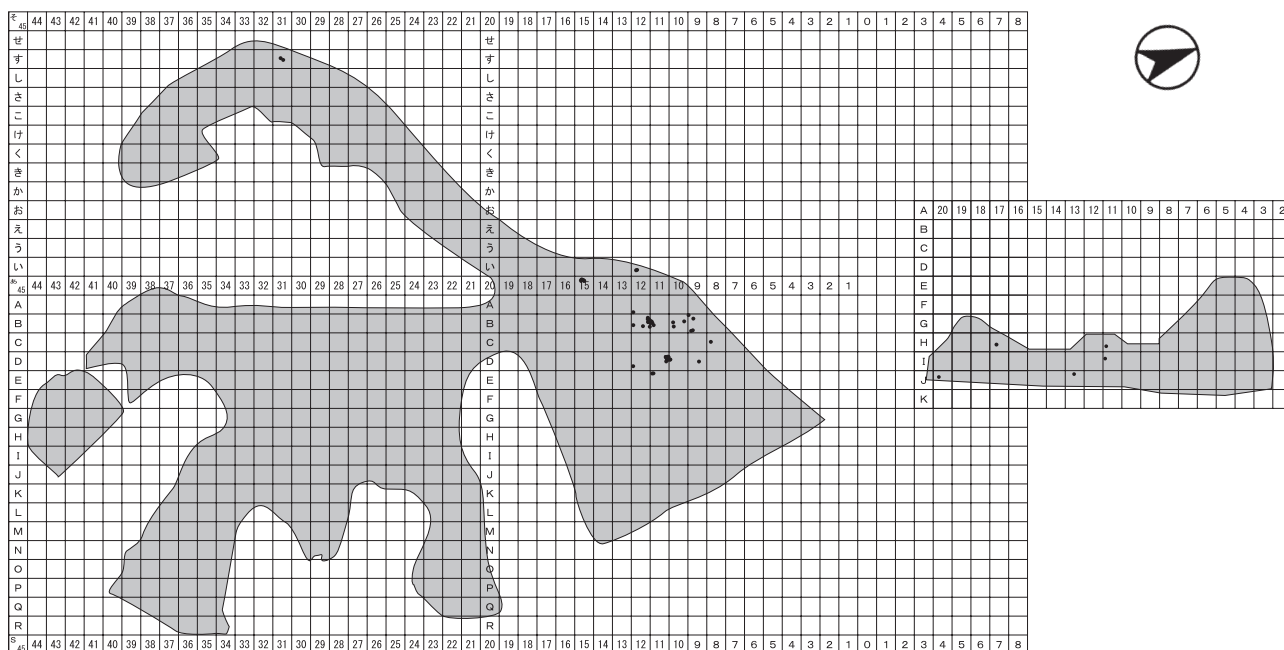
1類と同じく、隆線文系に属すると思われる一群である。基本的な器壁調整はていねいなナデにより行われ、指頭圧痕も確認できる。同時に工具によると思われる筋状の調整痕が確認できる資料も存在する。胎土は非常に細かな粒子を主体としているが、1類と同様に脆弱な印象を受ける。また、資料の器壁には層状剥離が観察でき、1片が5×3cm程度の輪積製法の結果による積層構造が想定できる。また図No25においては異なる2種類の粘土を混合した結果によると思われるマーブル状の筋が観察できる。口縁部から胴部にかけて隆線が横走する。隆線は最大で図No16において5条が確認できる。1本の隆線の幅は4~5mm程度で、6~7mmの間隔をもっている。隆線は刻みを有し、器形正位に対して斜めから垂直に、器壁に対しては直角に真上から押し当てる状態で施されており、施文具は棒状工具を想定できる。隆線は調整の後に貼り付けられ、隆線を施した後にはその周辺部に触れていないようである。特徴としては口唇部直下から下位の隆線まで一貫した手法による施文がなされていることである。図No16・17・26において補修孔がみられる。

3類 (第500図28~31)

1・2類と同様に器壁に隆線を施す点においては共通するが、隆線に刻目を施さない点において異なる。本遺跡においては最大2条の隆線が図No28に確認できる。器壁調整は基本的にナデ調整が行われており、指頭圧痕も確認できる。色調は灰褐色から淡茶褐色を呈している。胎土は主に細粒を主体として構成されているが、1・2類に比較して砂質が非常に強く、砂粒が脱落することによる崩壊を観察できる。

4類 (第501図32~34)

本来、貼付手法の観点において、二分できる一群であるが、隆線の断面が三角形を呈さない点において包括した。基本的な器面調整はていねいなナデ調整である。図No32は



第494図 草創期土器出土分布図

幅5mm程度の隆線に工具によると思われる刻目を施し、3mmの間隔を置いて2条横走する。隆線間には貼付時についたであろう爪痕が観察できるが、これらに意図は存在しないと思われる。口唇部端にも隆線と同様の手法による刻目が施される。本来の器壁に口唇上部から新たに粘土紐を貼付けた上で刻み、その後外壁面の上部から下位へと施文する順序が観察できる。なお器壁外面の刻目は、上下の隆線において対応を見せることから、一度に数条にわたっての施文が想定される。図No33・34は幅11~13mmの扁平な薄い隆線で、断面が台形状を呈し、爪による連続した刺突を施す。色調は外面が暗茶褐色、内面は明茶褐色を呈し、胎土は若干の砂質を示すが、脆弱な印象はなく、角閃石を含む特徴を有する。

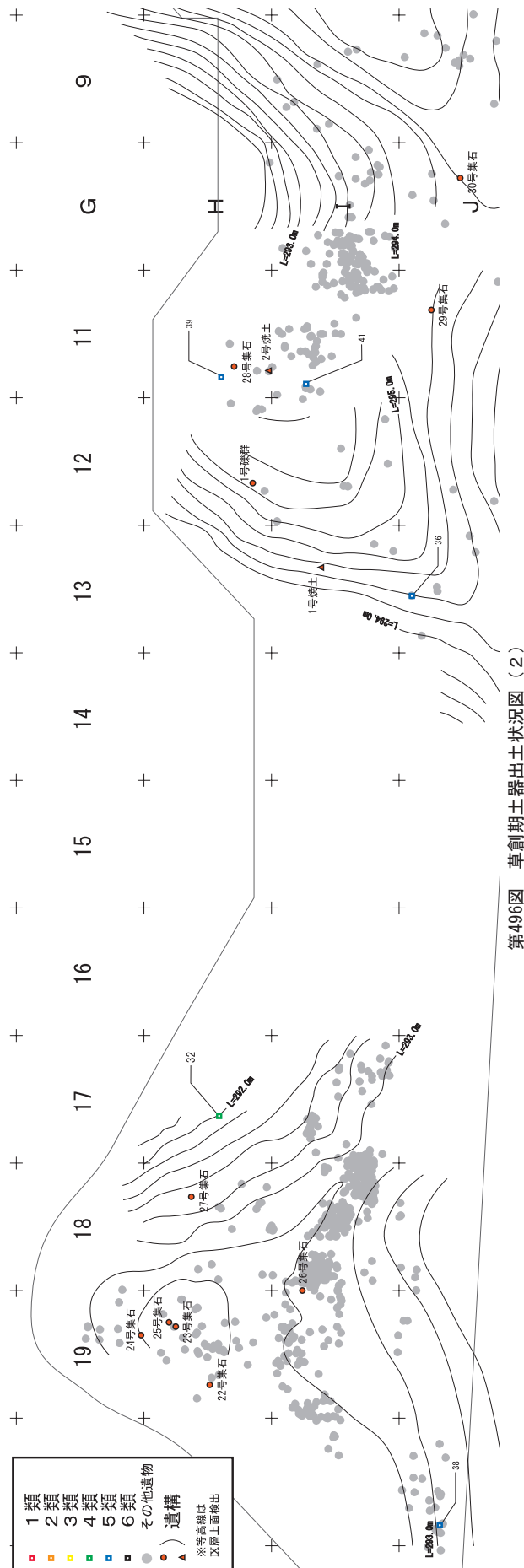
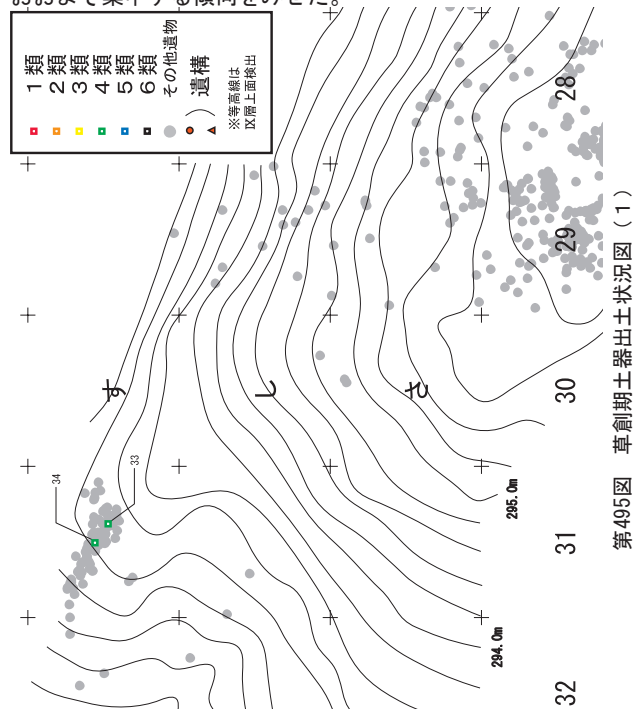
5類 (第502図35~43)

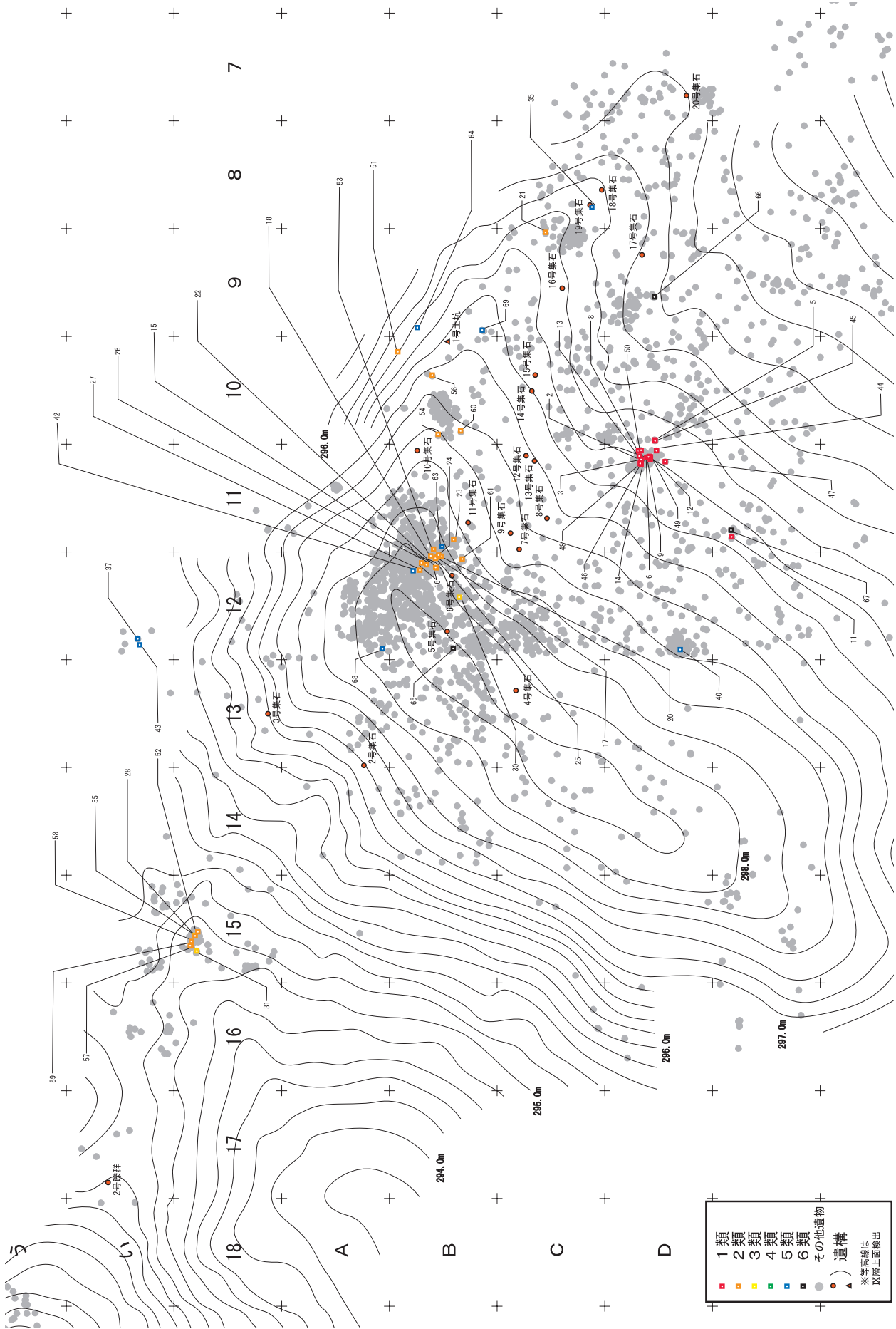
幅広の断面三角形を呈する隆線を2~4条持つ一群を包括した。図No35・36・41は口唇部上端、もしくは内面より貼り付けを施す手法であり、図No37・39・43は口唇部上端より上位を越えない手法である。なお図No37と43は同一個体である可能性が高い。これらは隆線の貼り付ける位置には差異がみられるものの、その順序は口唇部から底部に向かう点において共通する。焼成状況は良好であり、やや厚手の器壁を持ち、堅密な印象である。工具によると思われる調整痕が観察でき、色調は赤褐色から明褐色を呈する。胎土は角閃石を含む特徴を有する。

6類 (第504図65~67)

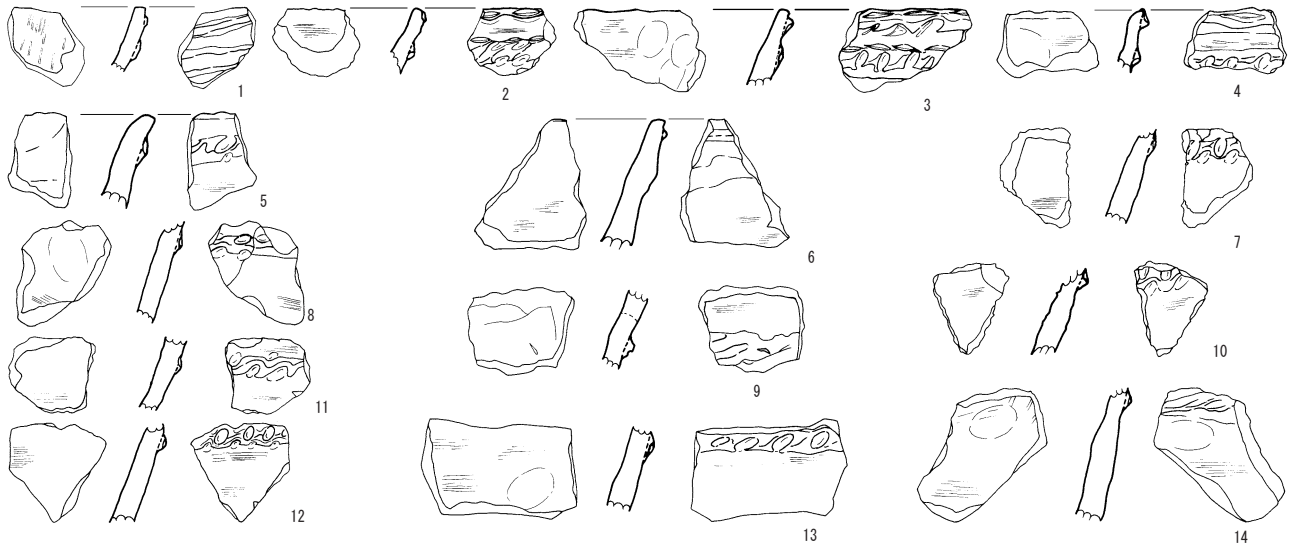
胴部もしくは小片であり、胎土の特徴においてもいずれかの類として判別が困難なものについて設けた。

以上、土器について6類に大別を試みた。資料点数としては必ずしも多くはないものの、製作技法や胎土の特徴などからグループ化が可能であり、出土地点においてもそれぞれがおおよそ集中する傾向をみせた。





第497図 草創期土器出土状況図 (3)



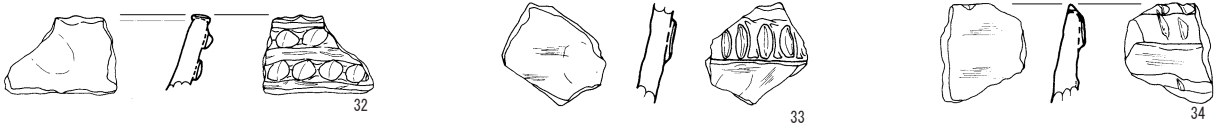
第498图 X層出土遺物実測図(1)



第499图 X層出土遺物実測図(2)



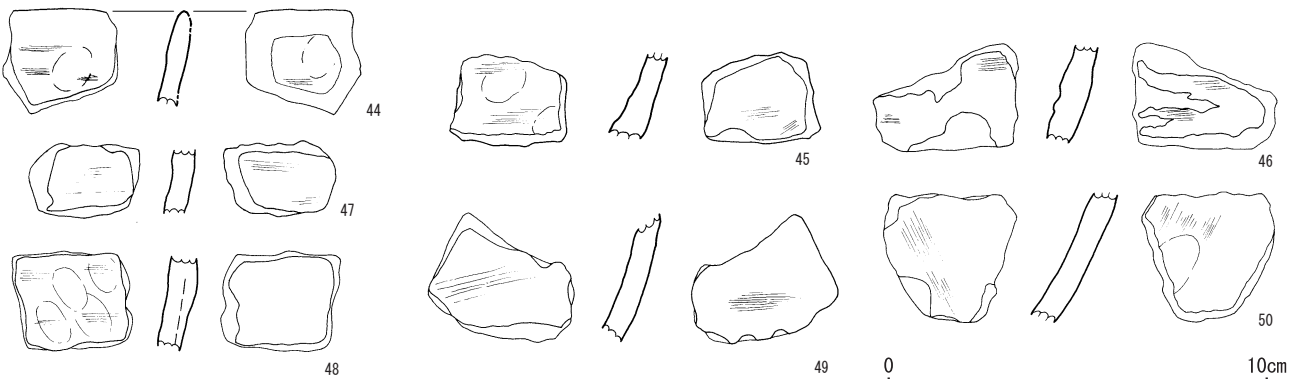
第500图 X層出土遺物実測図(3)



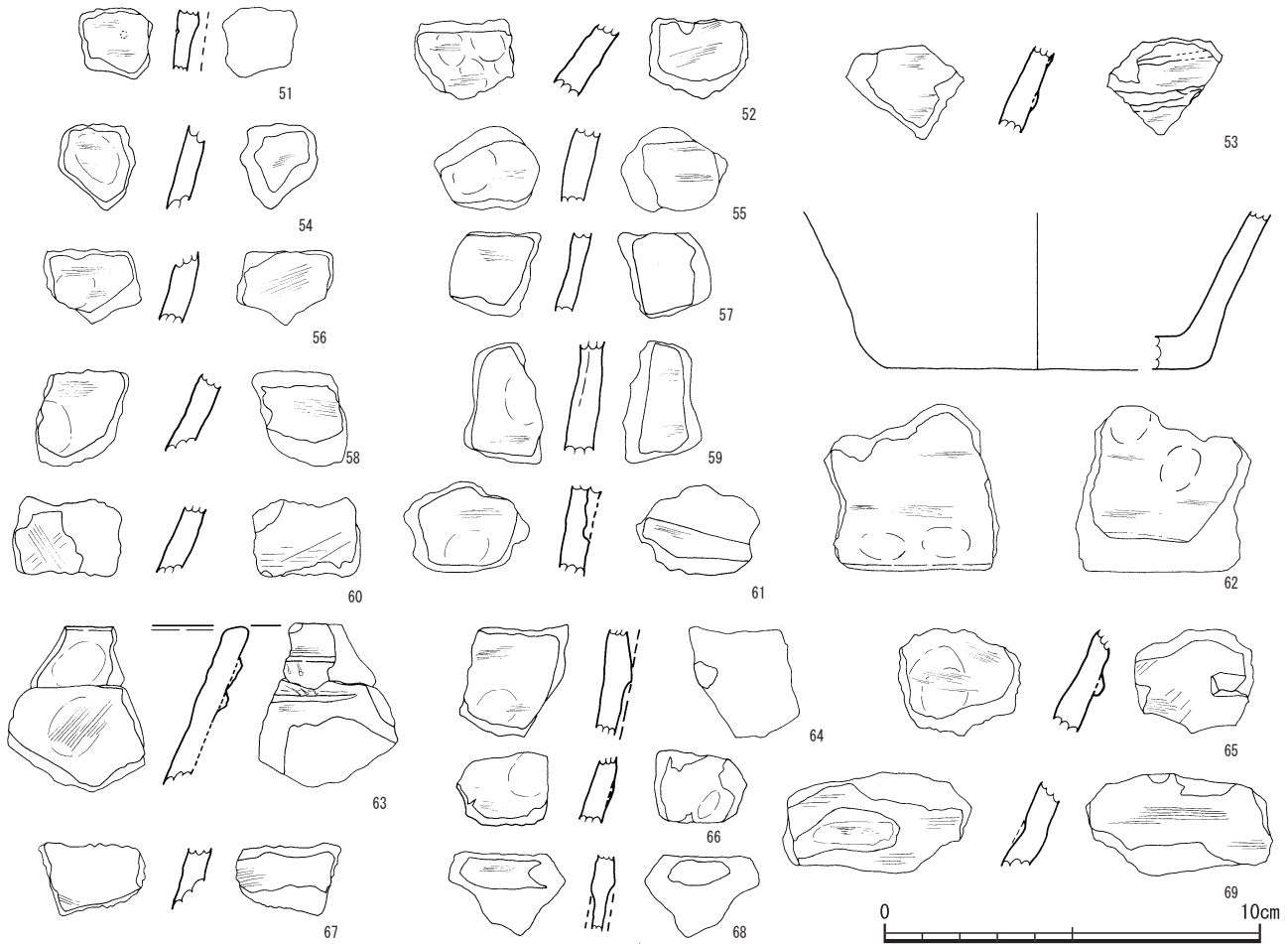
第501图 X層出土遺物実測図(4)



第502图 X層出土遺物実測図(5)



第503图 X層出土遺物実測図(6)



第504図 X層出土遺物実測図(7)

第88表 草創期土器観察表(1)

挿入 No	図 No	分類	取上番号	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
498	1	1類	○44701(D-11/X)	輝, 細	ナシ	ナシ	隆線文系交互刺突
498	2	1類	○56364(D-11/X)	輝, 細, 白	ナシ	ナシ	隆線文系交互刺突
498	3	1類	○56337(D-11/X)	輝, 白	ナシ, 指頭正値	ナシ, ヴム	隆線文系交互刺突
498	4	1類	○44700(D-11/X)	輝, 細	ナシ, 指頭正値	ナシ	隆線文系交互刺突
498	5	1類	○53853(D-10/X)	輝, 砂, 微	ナシ, 指頭正値	ナシ	隆線文系交互刺突
498	6	1類	○56324(D-11/X)	輝, 細, 微	工具調整値, 指頭正値	工具調整値目	隆線文系交互刺突
498	7	1類	○44674(D-11/X)	輝, 細	ナシ	ナシ	隆線文系交互刺突
498	8	1類	○56369(D-11/X)	輝, 細, 微	ナシ, 指頭正値	ナシ	隆線文系交互刺突
498	9	1類	○43437(D-10/X)	輝, 細	ナシ	ナシ	隆線文系交互刺突
498	10	1類	○44697(D-11/X)	輝, 細	ナシ	ナシ	隆線文系交互刺突
498	11	1類	○39290(E-11/X上)	細, 白	ナシ	ナシ	隆線文系交互刺突
498	12	1類	○43436(D-11/X)	細, 白, 微	ナシ	ナシ	隆線文系交互刺突
498	13	1類	○43430(D-11/X)	輝, 細	ナシ, 指頭正値	ナシ	隆線文系交互刺突
498	14	1類	○56328(D-11/X)	細, 微	ナシ, 指頭正値	ナシ, 指頭正値	隆線文系交互刺突
499	15	2類	○56885(B-12/X)	輝, 細	工具調整値, 指頭正値	工具調整値目	隆線文系
499	16	2類	○38040(B-12/W11), ○55970(B-12/X)	細, 白	工具調整値, 指頭正値	工具調整値目	隆線文系
499	17	2類	○55871(B-12/X)	細, 白	工具調整値, 指頭正値	工具調整値目	隆線文系
499	18	2類	○40385(B-12/X)	細, 白	ナシ	ナシ	隆線文系
499	19	2類	○44706(D-11/X)	輝, 細, 微	ナシ, 指頭正値	ナシ, 指頭正値	隆線文系
499	20	2類	○40380(B-12/X)	細, 白	工具調整値, 指頭正値	工具調整値目	隆線文系
499	21	2類	○56509(C-9/X)	輝, 細, 微	工具調整値, 指頭正値	工具調整値目	隆線文系
499	22	2類	○55969(B-12/X)	輝, 細	工具調整値, 指頭正値	工具調整値目, 指頭正値	隆線文系
499	23	2類	○56750(B-11/X)	輝, 細	ナシ, 指頭正値	ナシ	隆線文系
499	24	2類	○55909(B-12/X)	輝, 細, 白, 微	工具調整値, 指頭正値	工具調整値目, 指頭正値	隆線文系
499	25	2類	○55872(B-12/X)	輝, 細, 白	工具調整値, 指頭正値	ナシ	隆線文系
499	26	2類	○56059(B-12/X)	輝, 細, 白	工具調整値, 指頭正値	工具調整値目, 指頭正値	隆線文系
499	27	2類	○56655(B-12/X)	輝, 細, 白	工具調整値, 指頭正値	工具調整値目, 指頭正値	隆線文系
500	28	3類	◎20838(あ-15/X)	輝, 細	ナシ, 指頭正値	ナシ, ヴム	隆線文系無刺
500	29	3類	◎44882(D-11/X)	細, 白	ナシ	ナシ	隆線文系無刺
500	30	3類	○40149(B-12/X)	輝, 細, 白	ナシ	ナシ	隆線文系無刺
500	31	3類	◎20814(あ-15/X)	輝, 細	ナシ	工具調整値目	隆線文系無刺
501	32	4類	▲45716(H-17/W11)	輝, 細, 微	ナシ	ナシ	扁平隆線文系
501	33	4類	●30262(す-31/X)	角, 輝, 砂	ナシ, 指頭正値	ナシ, 指頭正値	扁平隆線文系
501	34	4類	●30236(す-31/X)	角, 輝, 砂, 微	ナシ	ナシ	扁平隆線文系

第89表 草創期土器観察表(2)

挿入 No	図 No	分類	取上番号	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
502	35	5類	○19号兼石(C-8/X)	輝, 砂, 微	工具調整値, 指頭正値	工具調整値目, 指頭正値	幅広隆線系
502	36	5類	▲3245(う-13/X)	角, 砂, 微	工具調整値, 指頭正値	工具調整値目, 指頭正値	幅広隆線系
502	37	5類	◎13853(う-12/X)	角, 砂, 微	ナシ, 指頭正値	ナシ	幅広隆線系
502	38	5類	▲11509(う-20/X)	角, 砂, 微	工具調整値, 指頭正値	ナシ	幅広隆線系
502	39	5類	▲1372(H-11/W11下)	角, 砂, 微	工具調整値, 指頭正値	工具調整値目	幅広隆線系
502	40	5類	◎39327(D-12/X上)	輝, 砂, 白, 微	工具調整値, 指頭正値	ナシ	幅広隆線系
502	41	5類	▲1387(I-11/W11下)	角, 輝, 砂	工具調整値, 指頭正値	ナシ, 指頭正値	幅広隆線系
502	42	5類	○56669(B-12/X)	角, 白, 微	工具調整値, 指頭正値	工具調整値目, 指頭正値	幅広隆線系
502	43	5類	◎15439(う-12/W11)	角, 輝, 砂, 微	工具調整値, 指頭正値	工具調整値目, 指頭正値	幅広隆線系
503	44	1類	○56319(D-11/X)	砂, 白	ナシ, 指頭正値	ナシ, 指頭正値	隆線文系交互刺突
503	45	1類	○54039(D-10/X)	砂, 白	ナシ, 指頭正値	ナシ, 指頭正値	隆線文系交互刺突
503	46	1類	○56335(D-11/X)	輝, 砂, 白	ナシ	ナシ	隆線文系交互刺突
503	47	1類	○56317(D-11/X)	輝, 砂	ナシ	ナシ	隆線文系交互刺突
503	48	1類	○56336(D-11/X)	輝, 細, 微	ナシ, 指頭正値	ナシ	隆線文系交互刺突
503	49	1類	○56322(D-11/X)	輝, 細, 白	ナシ	ナシ	隆線文系交互刺突
503	50	1類	○56370(D-11/X)	輝, 砂, 微	ナシ, 指頭正値	ナシ, 指頭正値	隆線文系交互刺突
504	51	2類	○52552(B-10/X111)	角, 細, 微	ナシ	-	隆線文系
504	52	2類	◎20846(あ-15/X)	角, 輝, 細	ナシ, 指頭正値	ナシ, 指頭正値	隆線文系
504	53	2類	○55869(B-11/X)	細, 白	ナシ	ナシ	隆線文系
504	54	2類	○52622(B-10/X)	角, 砂, 白	ナシ, 指頭正値	ナシ	隆線文系
504	55	2類	◎23492(あ-15/X)	角, 輝, 細	ナシ, 指頭正値	ナシ	隆線文系
504	56	2類	○52577(B-10/X)	角, 細, 白	ナシ, 指頭正値	ナシ	隆線文系
504	57	2類	◎20813(あ-15/X)	角, 輝, 細, 白	ナシ, 指頭正値	ナシ	隆線文系
504	58	2類	◎23453(あ-15/X)	角, 輝, 砂	ナシ, 指頭正値	ナシ	隆線文系
504	59	2類	◎20812(あ-15/X)	角, 輝, 砂	ナシ, 指頭正値	ナシ	隆線文系
504	60	2類	○52626(B-10/X)	角, 輝, 砂, 白	ナシ	ナシ	隆線文系
504	61	2類	○67645(B-12/X)	輝, 砂, 白	ナシ, 指頭正値	ナシ	隆線文系
504	62	2類	○44714(D-11/X)	輝, 砂, 微	ナシ, 指頭正値	ナシ, 指頭正値	隆線文系
504	63	5類	○55864(B-11/X)	角, 輝, 砂	ナシ, 指頭正値	-	幅広隆線系
504	64	5類	○52568(B-10/X111)	角, 砂, 白	ナシ, 指頭正値	-	幅広隆線系
504	65	6類	○67605(B-12/X)	輝, 細	ナシ, 指頭正値	ナシ	不明
504	66	6類	○56404(D-9/X)	輝, 細, 微	ナシ, 指頭正値	ナシ, 指頭正値	不明
504	67	6類	◎39283(E-11/X上)	細, 白	ナシ	ナシ	不明
504	68	5類	○40189(A-12/X)	輝, 細, 白	ナシ	ナシ	幅広隆線系
504	69	5類	○52539(B-9/X)	角, 輝, 砂, 微	工具調整値, 指頭正値	工具調整値目	幅広隆線系

第4節 石器

1 石器群の概要

細石刃文化期～縄文時代草創期該当の石器群は、直線で約500mの間に連綿として出土し、それらは一定のまとまりを成して分布する。出土石器の掲載にあたっては、第Ⅰ・第Ⅱ文化層と同様、「ブロック」・「エリア」の名称を使用するが、「ブロック」は、石器の出土状況が一定の集中状態を示す場合のみとし、遺物分布がやや散漫な状態の場合には「ブロック」の設定は行わなかった。なお、「エリア」の設定は、作業上の便宜的なものである。本遺跡の細石刃文化期～縄文時代草創期該当の石器群については、合計36のエリアを設定した。

発掘調査では、層位の観察の統一に努めたが、調査対象が広範囲に及んだため土層の堆積が必ずしも一定でなかった。そのため、ここでは便宜的にⅩ層～ⅩⅡ層までを同一の文化層として取り扱う。しかし、エリアによっては自然層位やレベルから峻別が可能な石器群も確認される。ここで設定した「文化層」は「同一時期」として認定されるものだけでなく、むしろ個別的な検討によって細分化を図ることが妥当と考えられるものも含まれる。なお、第Ⅰ・第Ⅱ文化層同様、平面・垂直分布、出土層位、石材等を挿図および観察表に掲載したので参照されたい。

石材分類については第Ⅰ・第Ⅱ文化層とほぼ同様の基準に基づくが、若干異なる点もあるので以下に再掲しておく。

黒曜石Ⅰ類(0B1)

光を通さない漆黒色で、白色の斑晶を含む。茶色の流理が散見されるものもある。上牛鼻、平木場、宇都、野下、八房側等の原産地資料に類似する。

黒曜石Ⅱ類(0B2)

光を通し、不純物を多量に含む一群である。三船、日東、五女木、小川内、芳ヶ野、荒平、小浜、長谷、小国等の原産地資料に類似する。細分は行うことができなかった。

黒曜石Ⅲ類(0B3)

不純物が少ない良質の黒曜石で鉛色～黒色を基調とする。まれに乳白色を基調とするものもある。自然面は擦りガラス状を呈するものが多く、小礫が多い。上青木、桑ノ木津留の原産地資料やいわゆる霧島系の黒曜石に類似する。細分は行うことができなかった。

黒曜石Ⅳ類(0B4)

不純物が少ない黒色の良質な黒曜石で、まれに白色の不純物を含む。腰岳の原産地資料に類似するが一部、黒曜石Ⅲ類と峻別が難しいものが存在する。

黒曜石Ⅴ類(0B5)

不純物が少ない黒色～黒灰色の黒曜石で、腰岳の原産地資料に類似しないものを一括した。まれに球状の不純物を含むものや梨肌を呈するものなどがある。針尾島周辺で産出する黒曜石の一部等に類似する。

黒曜石Ⅵ類(0B6)

青灰色の比較的良質な黒曜石を一括した。不純物や自然面等の特徴は、バリエーションに富む。長崎県の針尾島周辺で産出される黒曜石に類似するが、本遺跡では原産地不明の一群が一部に含まれている。

黒曜石Ⅶ類(0B7)

不純物をあまり含まない灰色の黒曜石である。従来椎葉川周辺の原産地資料を指標としてきたが、本遺跡では原産地不明の一群をかなり含んでいる。

玉髓(CG)

基調色が白色のものから、いわゆる鉄石英に近い赤色のものまで、数種類が出土している。細分は行うことができなかった。

チャート(CH)

数種類が出土している。細分は行うことができなかった。

水晶(CR)

数種類が出土している。細分は行うことができなかった。

頁岩(SH)

黒色で節理が発達しない硬質頁岩からやや緑がかった軟質の頁岩まで数多くの種類が使用されている。細分は行うことができなかった。

砂岩(SA)

やや明るめの黄褐色を呈するものが多く、粒子の粗いものから細かいものまで存在する。細分は行わなかった。

2 石器

第1エリア

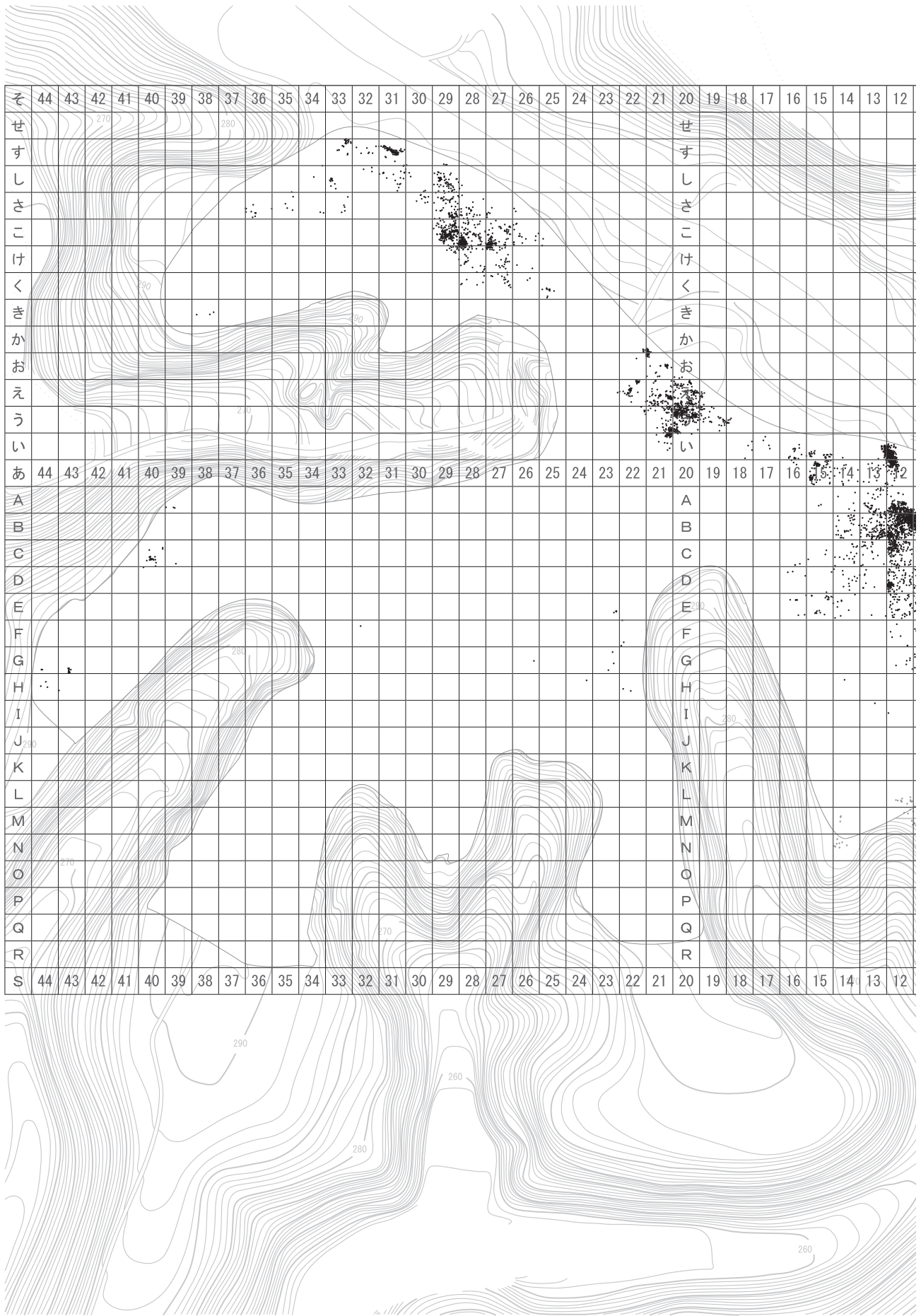
桐木遺跡G・H-43・44区に分布し、頁岩を主体に構成される。

石鏃未製品(70)と摩耗面を呈す破損品(71)、素材剥片(72～77)が出土し、未製品は黒曜石Ⅲ類、他は頁岩を使用している。6点の剥片については、どのような器種に供給されるかは明らかでない。しかし、出土している全てが頁岩で、剥片の形状からは安定した縦長の剥離技術の存在が看取される。ⅩⅠ層出土となっているが、より下層の石器文化に帰属する可能性も考えられる資料である。

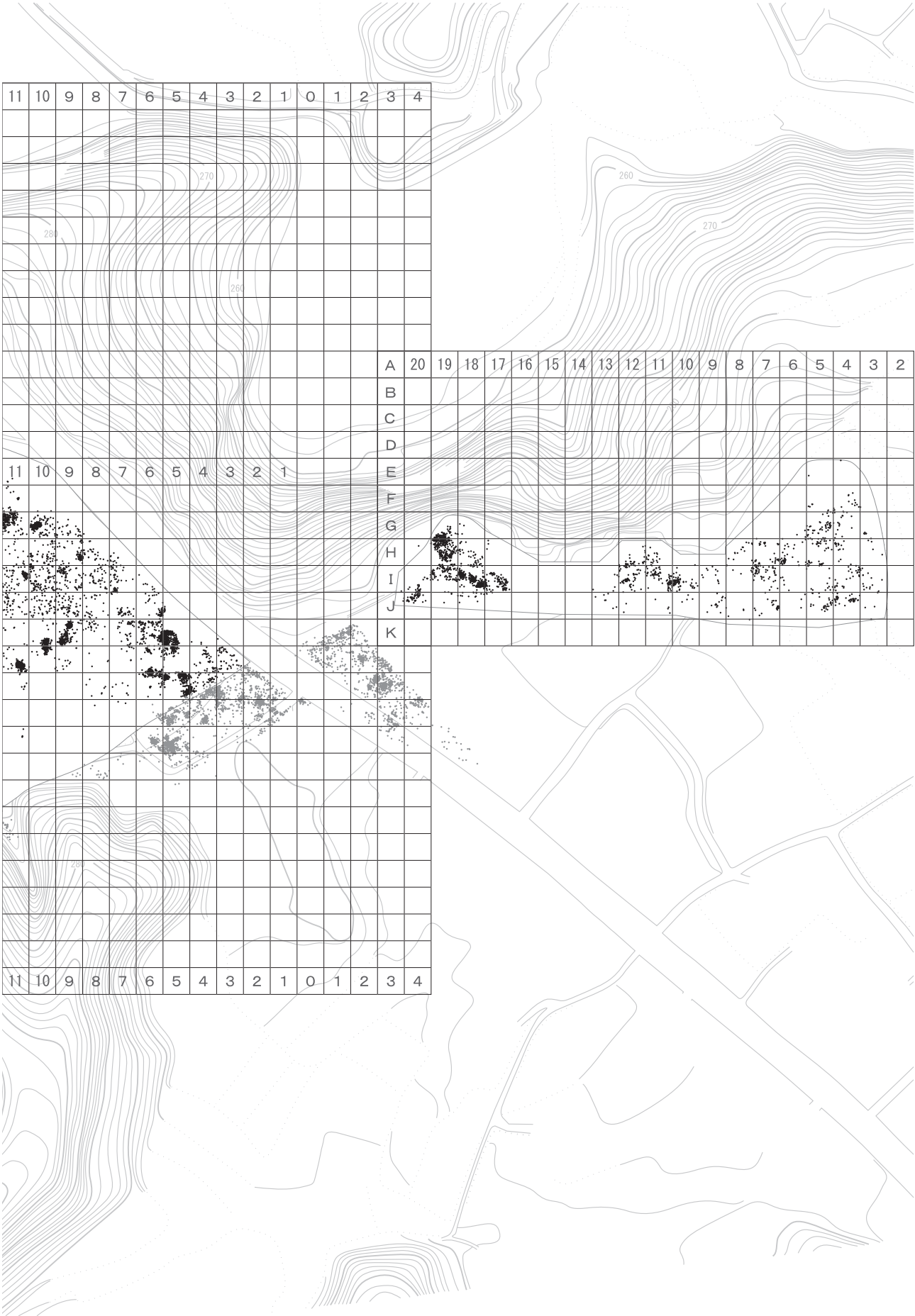
第2エリア

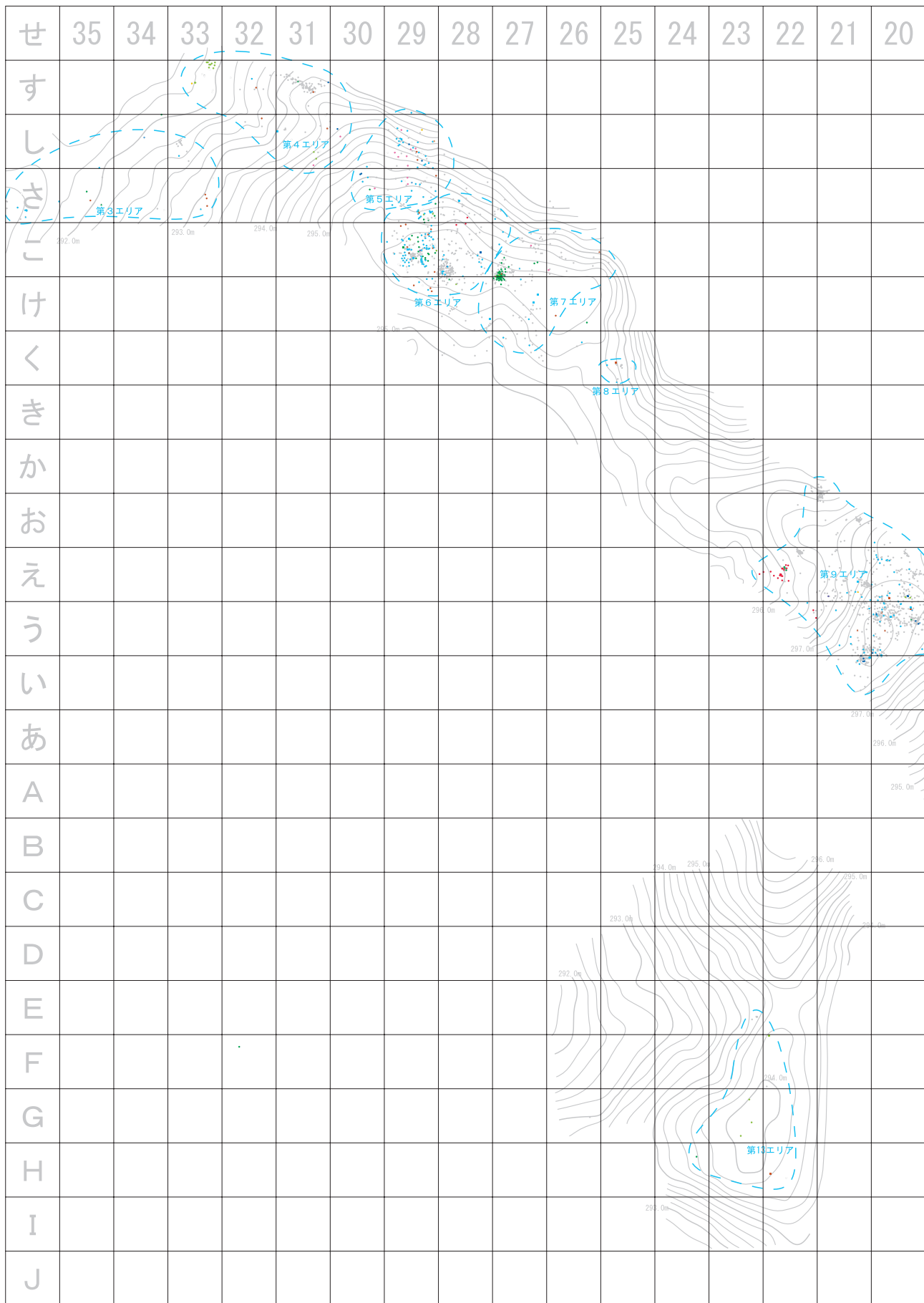
桐木遺跡A～C-39・40区に分布し、第1ブロックを中心に、エリアを構成する。頁岩Ⅰ類を主体に、チャート及び黒曜石Ⅱ類が加わる。

2点のナイフ形石器(78・79)と石鏃、細石刃及び剥片が確認できる。78・79は二側縁加工ナイフ形石器で、明らかに下層からの浮き上がりと考えられ、81～83の剥片はナイフ形石器に付随するものとみられる。84の石鏃はその形状から上層からの混入とみられる。いずれにしても、上下層の遺物が混在し、不安定な集中区であるが、ナイフ形石器が主体であること、また、使用石材が頁岩主体の石材構成であることから、石鏃・細石刃が混入したと判断したい。なお、ⅩⅠ層出

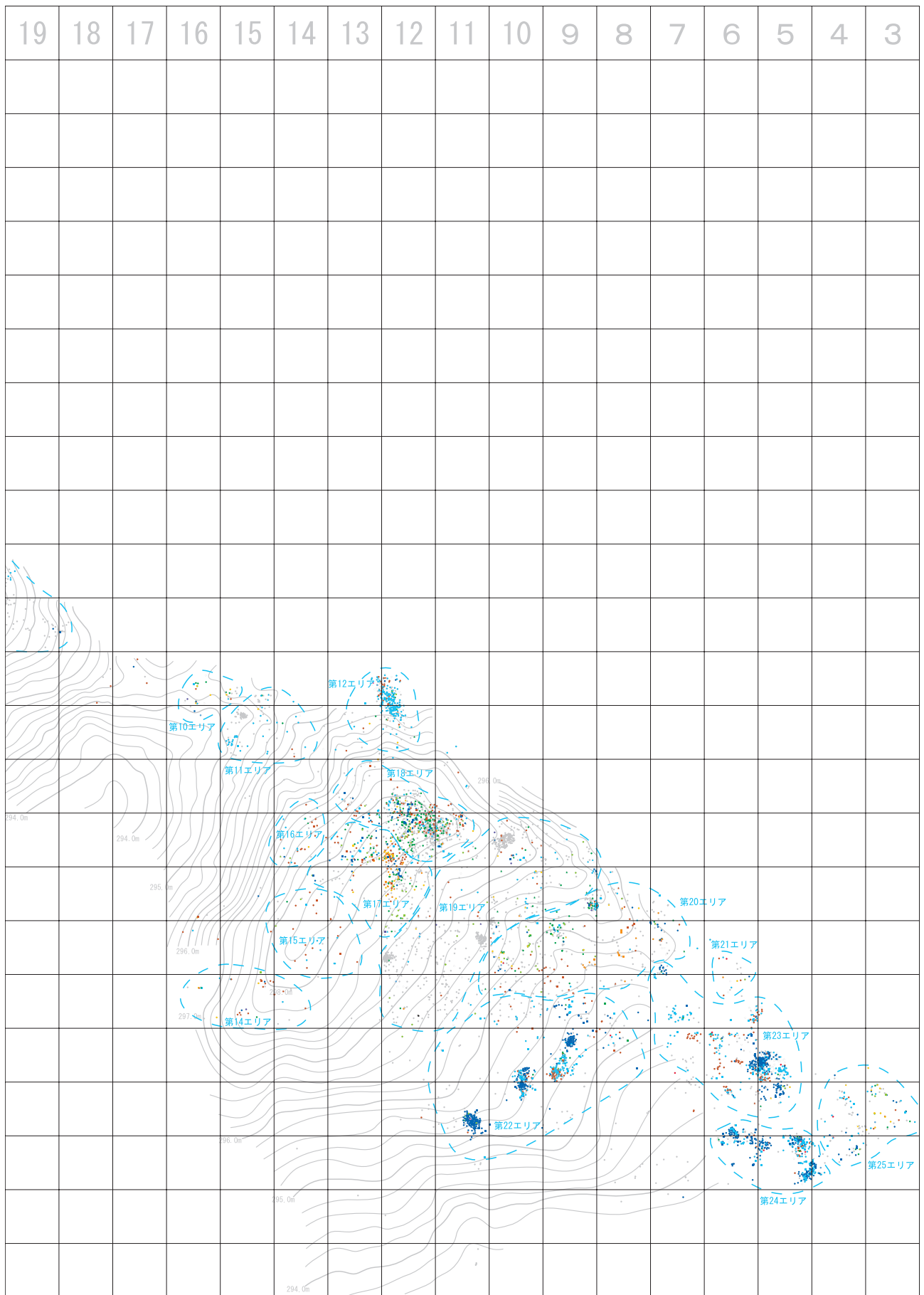


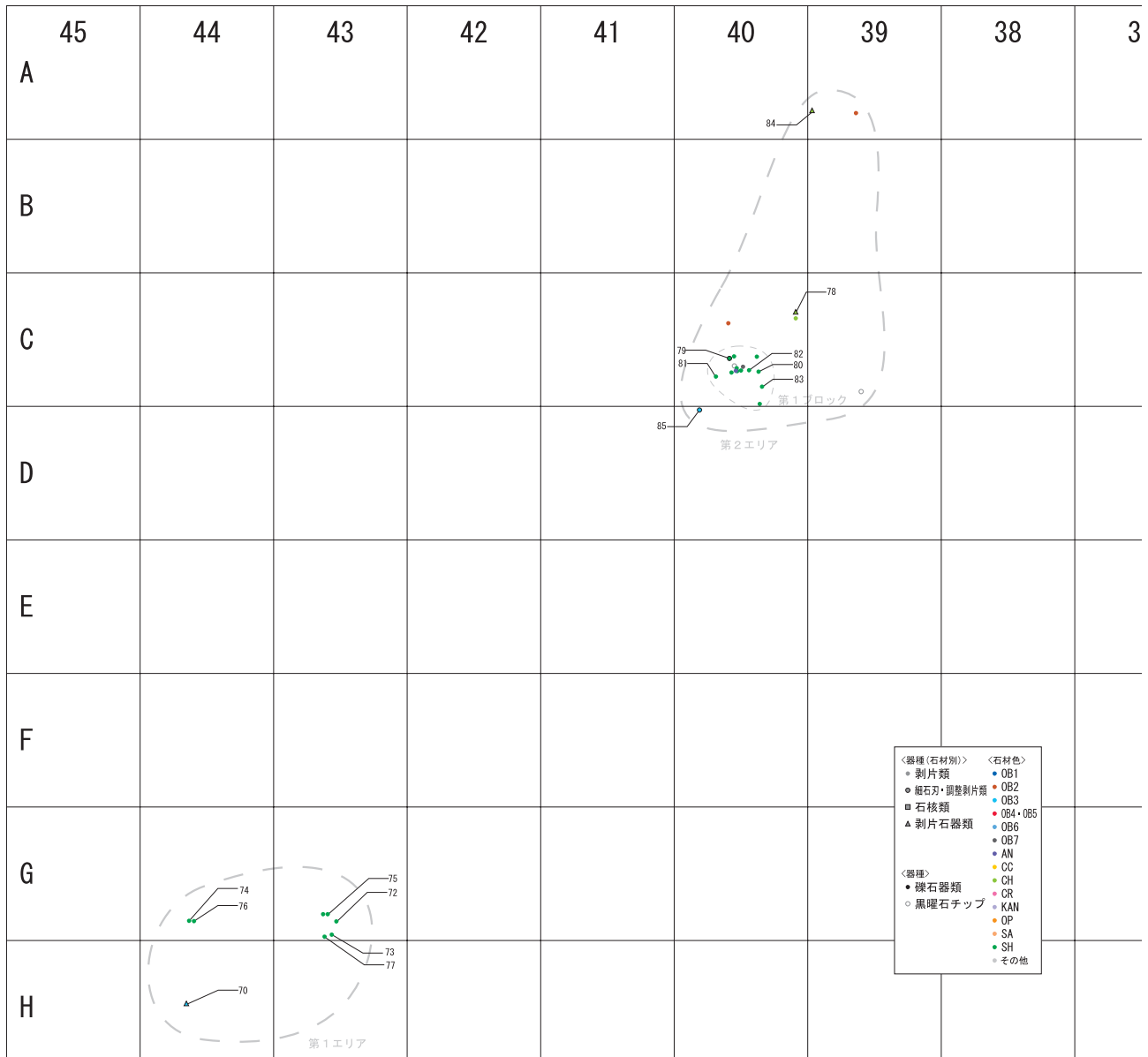
第505図 第Ⅲ文化層遺物出土状況図



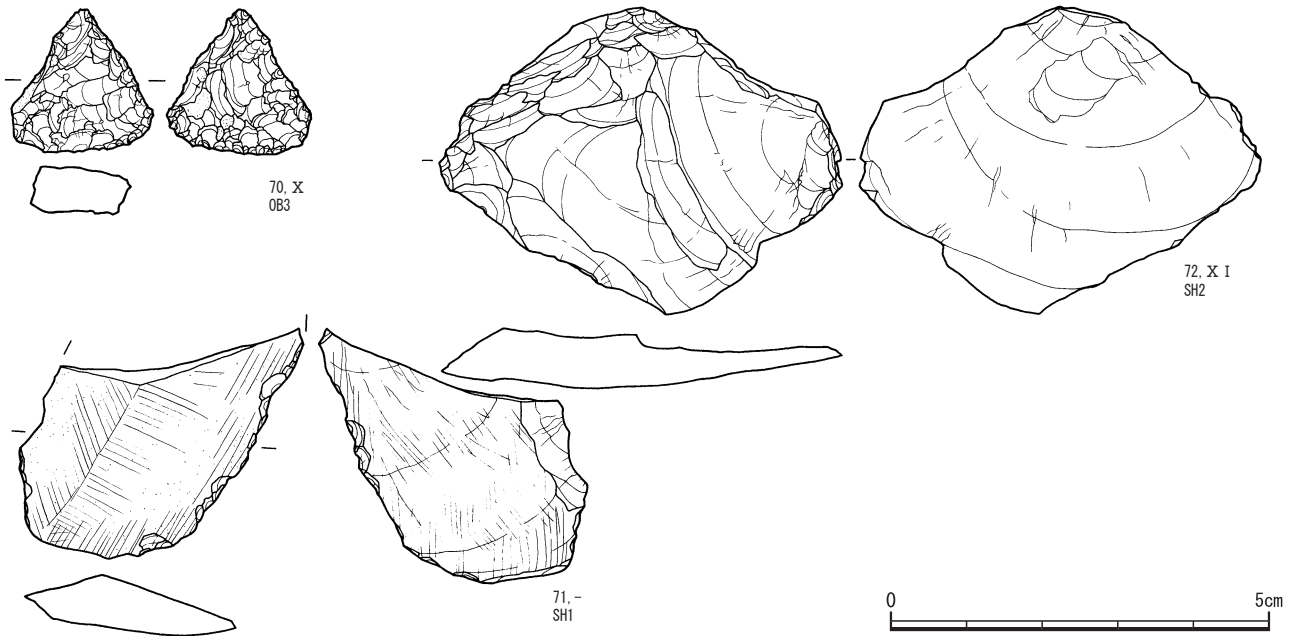


第506図 第Ⅲ文化層第3～第25エリア配置図

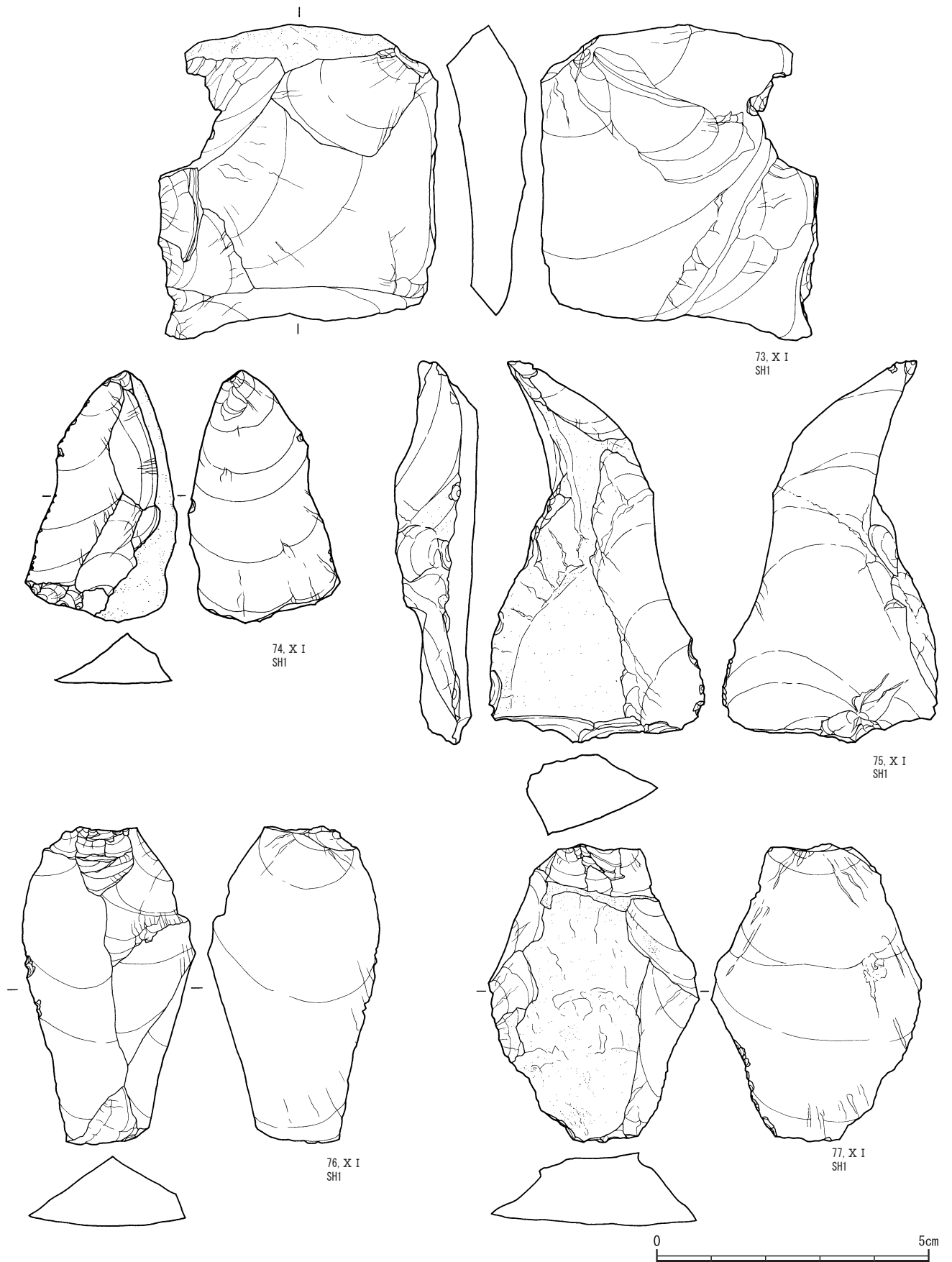




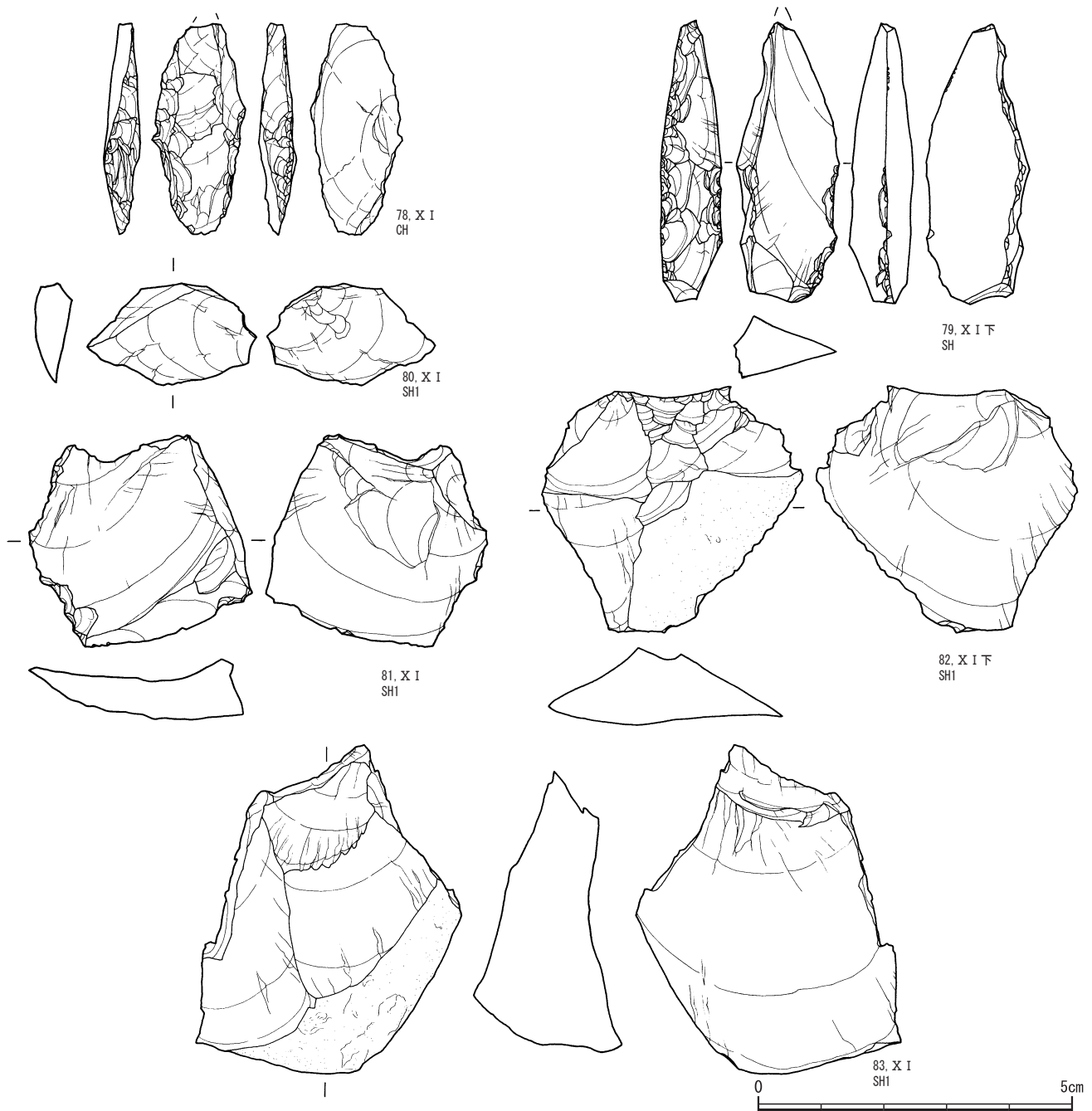
第507図 第Ⅲ文化層第1・第2エリア石器出土状況図



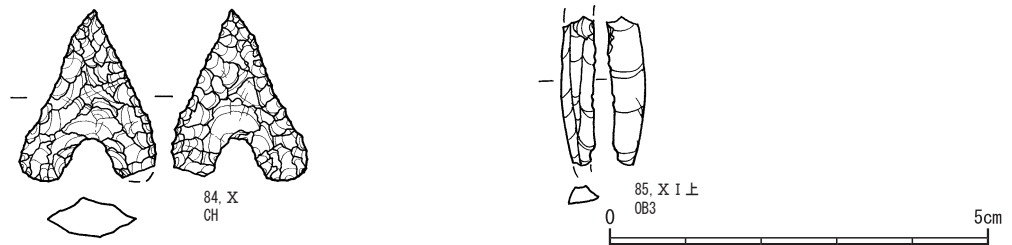
第508図 第Ⅲ文化層第1エリア出土石器実測図(1)



第509図 第Ⅲ文化層第1エリア出土石器実測図(2)



第510図 第三文化層第2エリア第1ブロック出土石器実測図



第511図 第三文化層第2エリア出土石器実測図

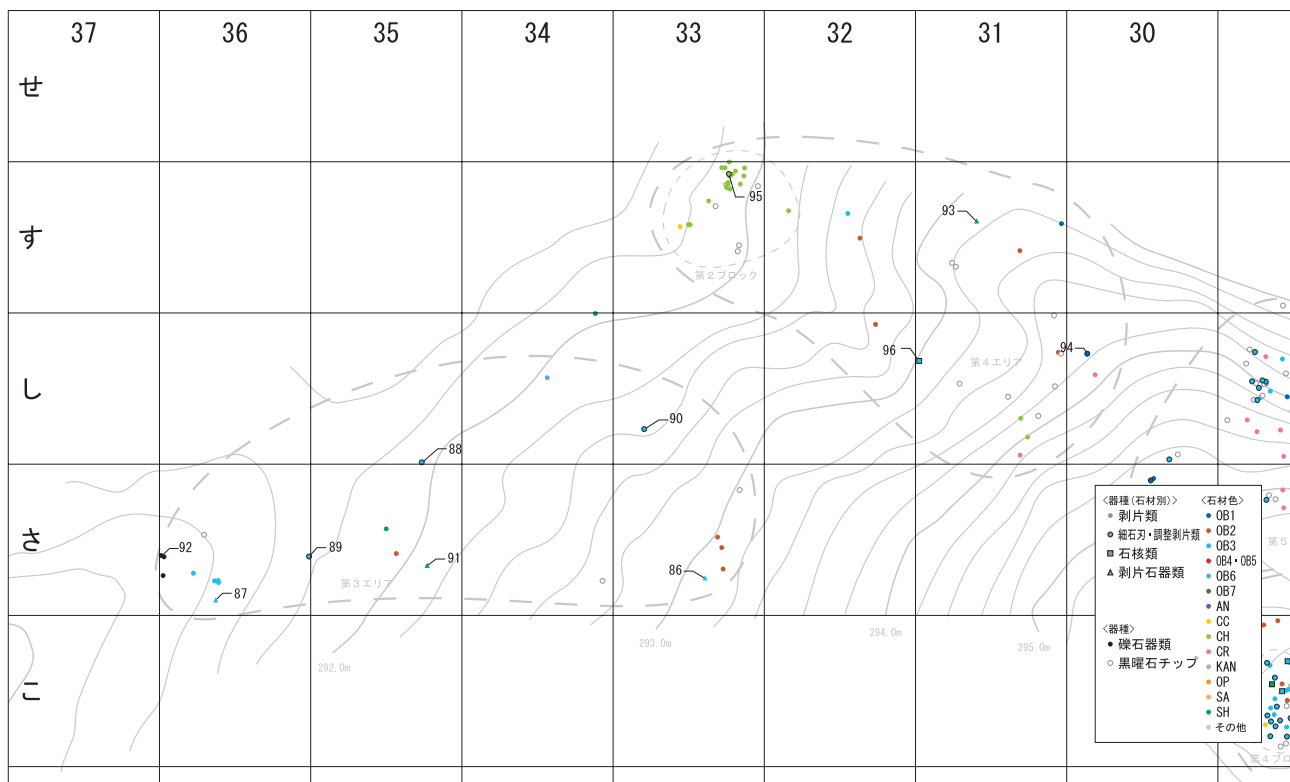
土と取り扱われているが、第1エリアも含め、出土層位を再検討する必要がある。

第3エリア

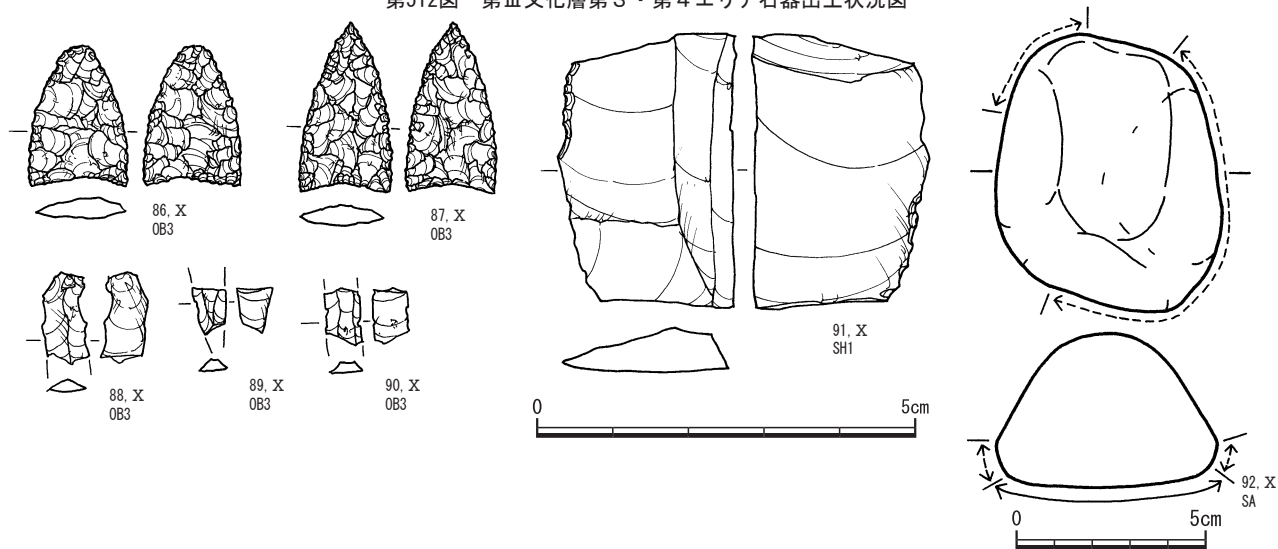
桐木遺跡さ・し-33~36区に分布し、黒曜石Ⅲ類を中心に黒曜石Ⅱ類、頁岩、砂岩で構成されるが、出土量は少ない。

石鏃2点、細石刃3点、剥片1点、磨石1点が確認でき

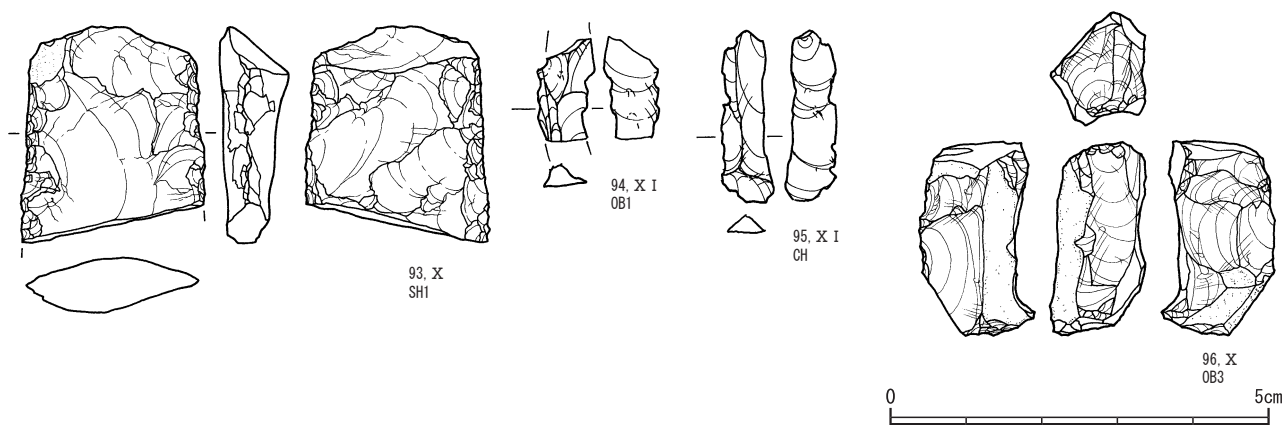
る。石鏃(86・87)は相似形で長身、抉りは浅く周辺からの剥離は深く進行し、形状調整も入念で丁寧な仕上がりを呈している。89・90の細石刃から、細石刃の三分割が読みとれる。なお、石鏃・細石刃は黒曜石Ⅲ類が用いられている。



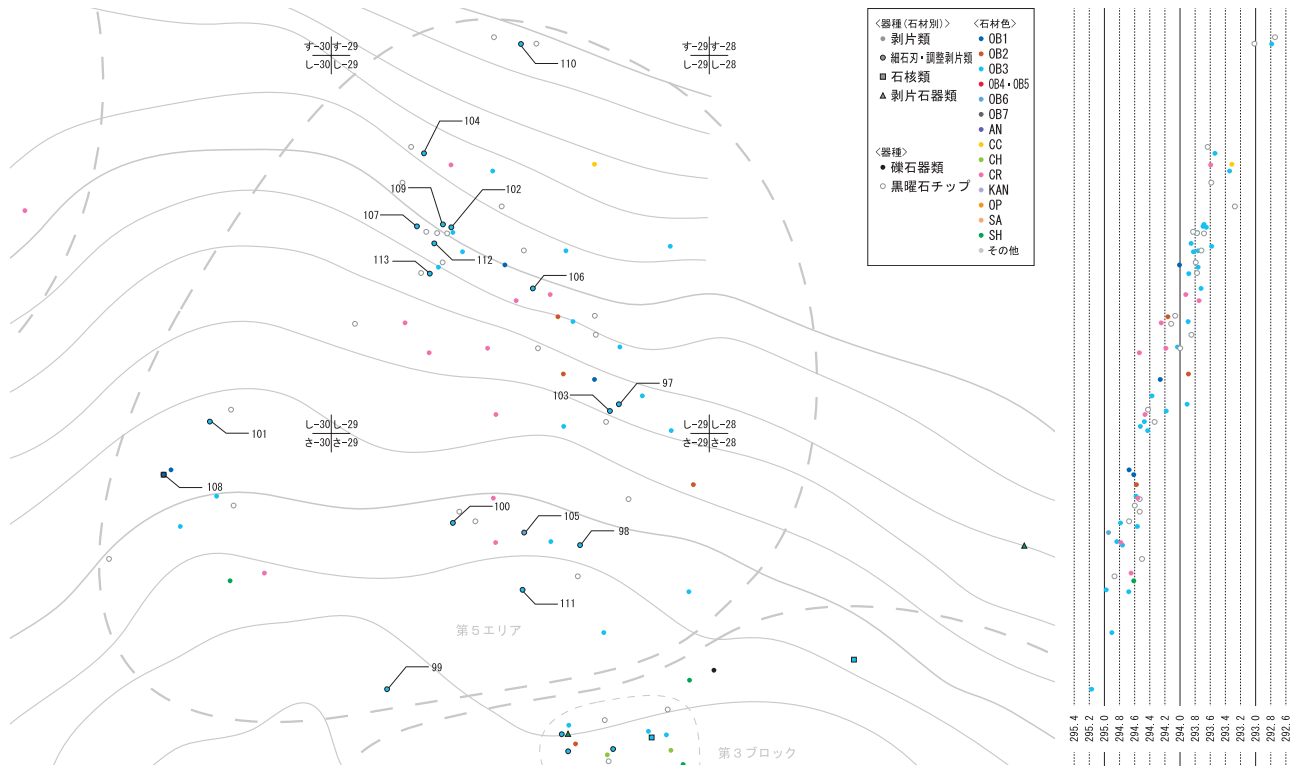
第512図 第Ⅲ文化層第3・第4エリア石器出土状況図



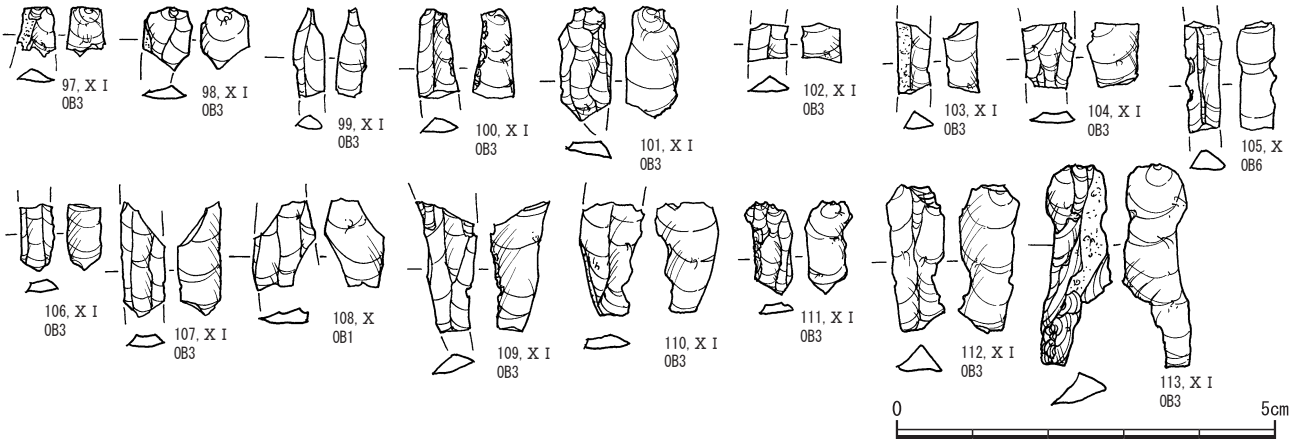
第513図 第Ⅲ文化層第3エリア出土石器実測図



第514図 第Ⅲ文化層第4エリア出土石器実測図



第515図 第三文化層第5エリア石器出土状況図



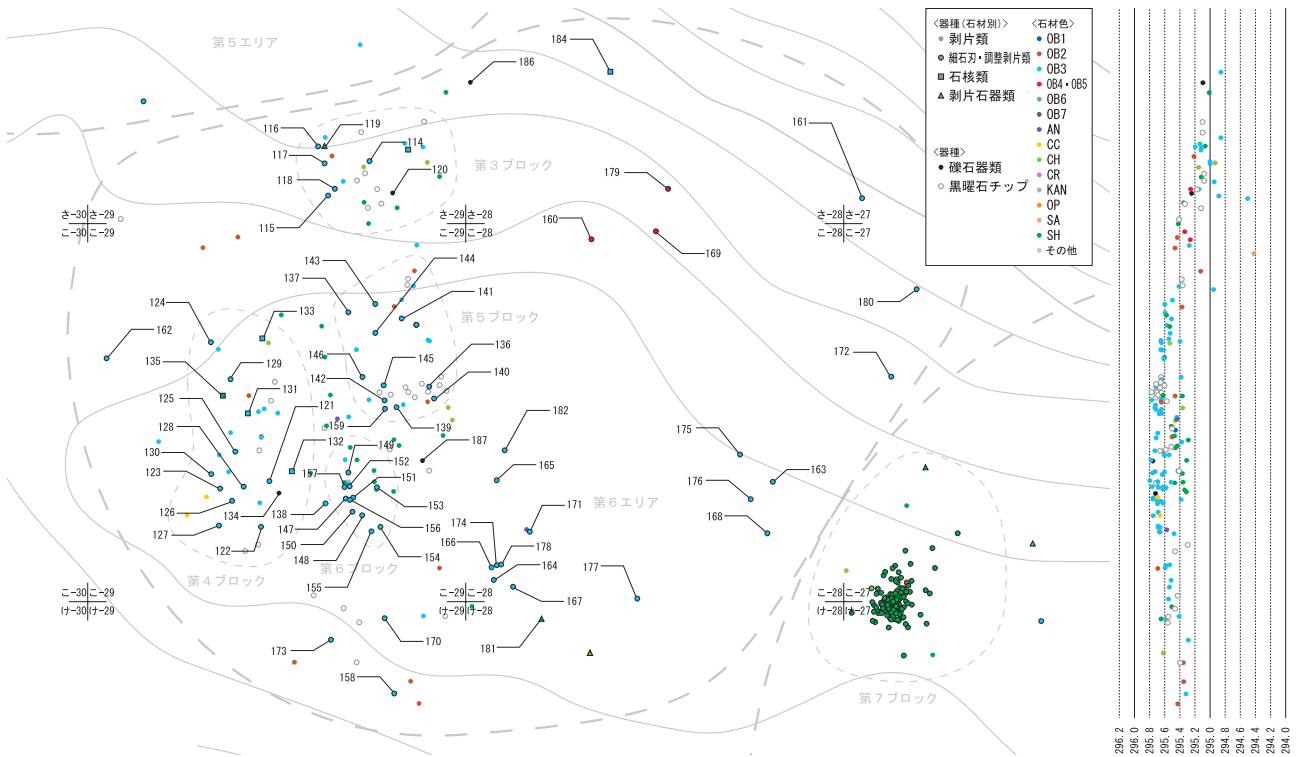
第516図 第三文化層第5エリア出土石器実測図

第90表 第三文化層第1～第3エリア出土石器観察表

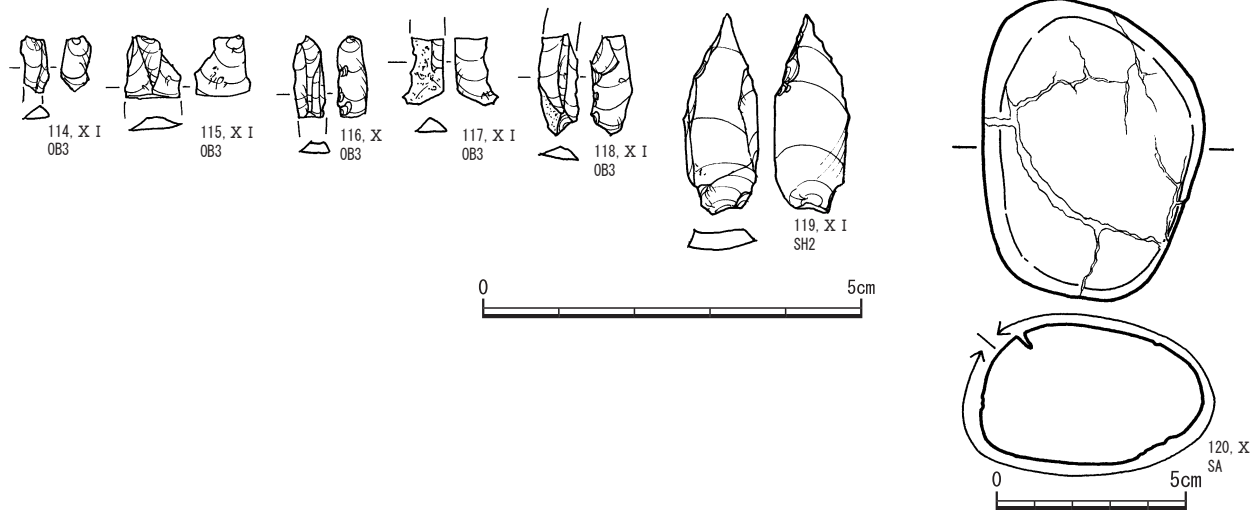
採図No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
508	70	A01	B00	石鏃	未製品	OB3	19.4	19.4	6.2	1.6	◎18903(H-44/X)
508	71	A01	B00	削器	-	SH1	33.9	35.8	8.7	7.2	●18914(-/-)
508	72	A01	B00	剥片	-	SH2	40.9	53.3	9.1	14	◎18913(G-43/X I)
509	73	A01	B00	剥片	-	SH1	58.2	51.2	14.4	40	◎18908(G-43/X I)
509	74	A01	B00	剥片	-	SH1	46.8	28.2	12.2	10	◎18916(G-44/X I)
509	75	A01	B00	剥片	-	SH1	70.4	39.8	13.2	24	◎18912(G-43/X I)
509	76	A01	B00	剥片	-	SH1	58.5	31.8	13.4	20	◎18917(G-44/X I)
509	77	A01	B00	剥片	-	SH1	55	38.9	14.4	25	◎18909(G-43/X I)
510	78	A02	B01	ナイフ形石器	-	CH	33.8	14.9	5.6	2.6	◎18941(C-40/X I)
510	79	A02	B01	ナイフ形石器	-	SH	44.8	18.6	9.4	5.9	◎18934(C-40/X I下)
510	80	A02	B01	剥片	-	SH1	16.4	27.1	7	1.9	◎18937(C-40/X I)
510	81	A02	B01	剥片	-	SH1	34	35.5	10.7	11	◎18923(C-40/X I)
510	82	A02	B01	剥片	-	SH1	39.5	41.8	12.2	15	◎18931(C-40/X I下)
510	83	A02	B01	剥片	-	SH1	52.6	42.5	23.9	42	◎18938(C-40/X I)
511	84	A02	B00	石鏃	-	CH	22.8	18.2	4.8	1.3	◎38669(A-39/X)
511	85	A02	B00	細石刃	-	OB3	19.8	5.4	2	0.14	◎18943(D-40/X I上)
513	86	A03	B00	石鏃	-	OB3	18.8	13.2	2.3	0.49	◎50176(さ-33/X)
513	87	A03	B00	石鏃	-	OB3	22.8	12.4	3	0.71	◎50181(さ-36/X)
513	88	A03	B00	細石刃	-	OB3	12.2	6.5	2.1	0.1	◎50201(L-35/X)
513	89	A03	B00	細石刃	-	OB3	6.2	4.9	0.8	0.02	◎50184(さ-36/X)
513	90	A03	B00	細石刃	-	OB3	7.5	5	1.1	0.03	◎50189(L-33/X)
513	91	A03	B00	微細剥片	-	SH1	37.6	25.2	6.5	7.3	◎50179(さ-35/X)
513	92	A03	B00	磨石	/敲	SA	74.2	60.8	41.5	210	◎50203(さ-36/X)

第91表 第三文化層第4・第5エリア出土石器観察表

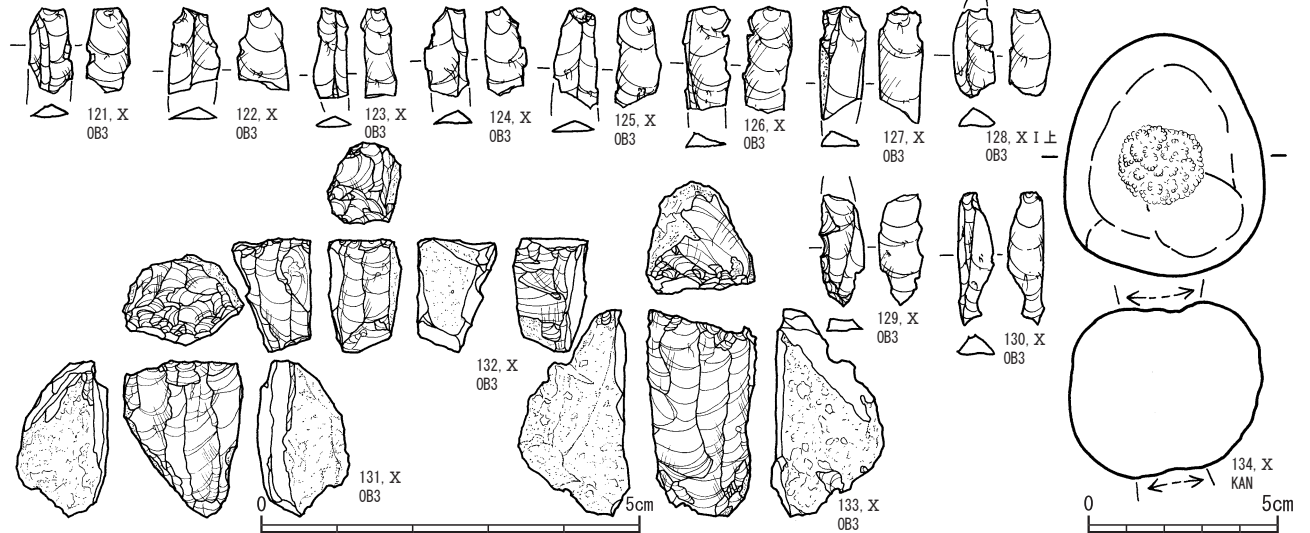
採図No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
514	93	A04	B00	二次加工剥片	-	SH1	28.8	24.7	8.8	6.3	●50273(サ-31/X)
514	94	A04	B00	細石刃	-	OB1	13.8	7.5	2.3	0.21	◎42233(L-30/X I)
514	95	A04	B02	細石刃	-	CH	22.8	7	2.5	0.21	●50572(サ-33/X I)
514	96	A04	B00	細石刃核	-	OB3	25.7	13	13.8	4.4	●50447(L-31/X)
516	97	A05	B00	細石刃	-	OB3	6.7	5.3	1.2	0.03	●51663(L-29/X I)
516	98	A05	B00	細石刃	-	OB3	8.3	6.6	1.3	0.06	●51680(さ-29/X I)
516	99	A05	B00	細石刃	-	OB3	12	4.2	1.7	0.05	●51690(さ-29/X I)
516	100	A05	B00	細石刃	-	OB3	12	5.7	1.5	0.07	●51674(さ-29/X I)
516	101	A05	B00	細石刃	-	OB3	14.9	7.2	2.5	0.17	◎50321(L-30/X I)
516	102	A05	B00	細石刃	-	OB3	5.4	5.4	1	0.02	●51623(L-29/X I)
516	103	A05	B00	細石刃	-	OB3	9.5	5	1.6	0.07	●51662(L-29/X I)
516	104	A05	B00	細石刃	-	OB3	8.7	7	1.3	0.06	●51644(L-29/X I)
516	105	A05	B00	細石刃	-	OB6	14.5	5.4	2	0.14	●51676(さ-29/X)
516	106	A05	B00	細石刃	-	OB3	8.8	4.8	1.1	0.04	●51607(L-29/X I)
516	107	A05	B00	細石刃	-	OB3	15.1	6	1.2	0.09	●51629(L-29/X I)
516	108	A05	B00	細石刃	-	OB1	12	8	1.6	0.15	◎50318(さ-30/X)
516	109	A05	B00	細石刃	-	OB3	17.3	7.9	3	0.19	●51625(L-29/X I)
516	110	A05	B00	細石刃	-	OB3	14.8	8.6	2.2	0.16	●51647(サ-29/X I)
516	111	A05	B00	細石刃	-	OB3	12.5	6.4	1.4	0.07	●51575(さ-29/X I)
516	112	A05	B00	細石刃	-	OB3	19.8	8.2	3	0.29	●51628(L-29/X I)
516	113	A05	B00	作業面調整剥片	-	OB3	27.1	9.3	6.5	0.55	●51618(L-29/X I)



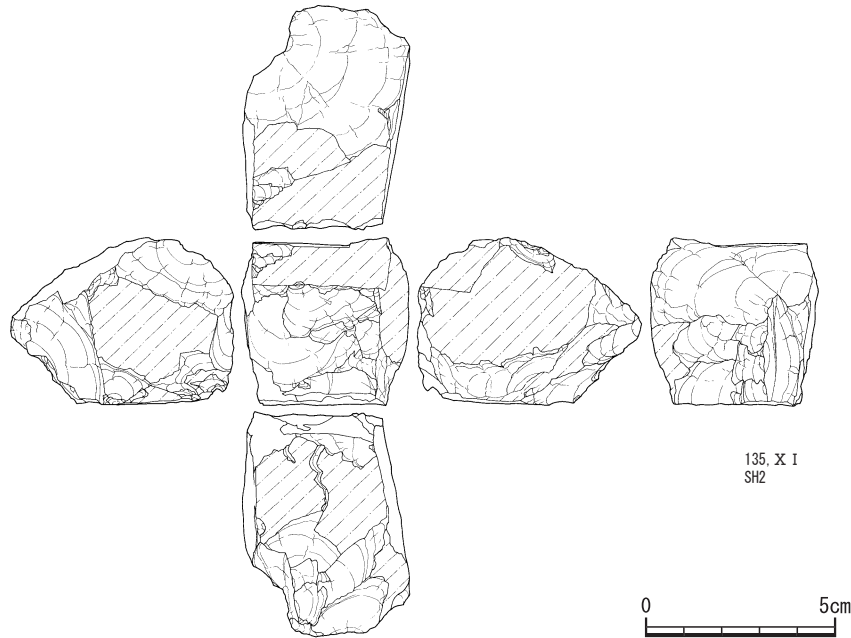
第517図 第Ⅲ文化層第6エリア石器出土状況図



第518図 第Ⅲ文化層第6エリア第3ブロック出土石器実測図



第519図 第Ⅲ文化層第6エリア第4ブロック出土石器実測図(1)



第520図 第三文化層第6エリア第4ブロック出土石器実測図(2)

第4エリア

桐木遺跡し・す-30~33区に分布し、チャートが集中して第2ブロックを構成する。

93は下半部を欠損することから、器種の認定が難しい。良質の頁岩を用い、両側縁から小剥離による二次加工が施されるが、一見、両面加工石器様の仕上がりをなす。なお、頂部の平坦面が先行することから、頭部(頂部)と判断される。

第92表 第三文化層第6エリア出土石器観察表(1)

排図No	図No	エリア	ブロック	分類2	分類3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
518	114	A06	B03	細石刃	-	OB3	7.4	4.1	0.9	0.02	●51700(さ-29/X I)
518	115	A06	B03	細石刃	-	OB3	8.3	7.6	1.6	0.08	●51696(さ-29/X I)
518	116	A06	B03	細石刃	-	OB3	10.9	4.2	1.1	0.05	●51563(さ-29/X)
518	117	A06	B03	細石刃	-	OB3	9.2	6	1.5	0.06	●51694(さ-29/X I)
518	118	A06	B03	細石刃	-	OB3	13.2	5.6	1.9	0.14	●51695(さ-29/X I)
518	119	A06	B03	ナイフ形石器	-	SH2	26.4	10.2	4.1	0.93	●51693(さ-29/X I)
518	120	A06	B03	磨石	-	SA	80.5	59.3	36.7	212	●51569(さ-29/X)
519	121	A06	B04	細石刃	-	OB3	11.4	5.9	1.5	0.08	●51524(こ-29/X)
519	122	A06	B04	細石刃	-	OB3	11.1	7	1.8	0.09	●51408(こ-29/X)
519	123	A06	B04	細石刃	-	OB3	12	4.9	1.4	0.07	●51416(こ-29/X)
519	124	A06	B04	細石刃	-	OB3	11.9	5.8	2	0.09	●51427(こ-29/X)
519	125	A06	B04	細石刃	-	OB3	13.3	6.2	1.3	0.07	●51420(こ-29/X)
519	126	A06	B04	細石刃	-	OB3	14.2	6.7	1.3	0.09	●51411(こ-29/X)
519	127	A06	B04	細石刃	-	OB3	15.5	6.1	2.9	0.16	●51412(こ-29/X)
519	128	A06	B04	細石刃	-	OB3	11.7	5.6	2.4	0.08	●51410(こ-29/X I 上)
519	129	A06	B04	細石刃	-	OB3	14.8	6.1	3.9	0.16	●51498(こ-29/X)
519	130	A06	B04	細石刃	-	OB3	17.7	5.1	3.2	0.1	●51417(こ-29/X)
519	131	A06	B04	細石刃核	-	OB3	20.9	16	12.9	3.4	●51500(こ-29/X)
519	132	A06	B04	細石刃核	-	OB3	15.2	10	10.5	1.6	●51517(こ-29/X)
519	133	A06	B04	細石刃核	-	OB3	27.5	14.8	14.7	4.9	●51496(こ-29/X)
519	134	A06	B04	凹石	-	KAN	64.7	53.4	45.5	179	●51406(こ-29/X)
520	135	A06	B04	石核	-	SH2	44.3	44.6	62	155	●51756(こ-29/X I)
521	136	A06	B05	細石刃	-	OB3	11.5	8	1.6	0.09	●51453(こ-29/X)
521	137	A06	B05	細石刃	-	OB3	10.5	7	2	0.1	●51492(こ-29/X)
521	138	A06	B06	細石刃	-	OB3	8	5.8	1.7	0.08	●51403(こ-29/X)
521	139	A06	B05	細石刃	-	OB3	10.8	3.9	1.5	0.03	●51462(こ-29/X)
521	140	A06	B05	細石刃	-	OB3	8.6	6.2	1.1	0.04	●51455(こ-29/X)
521	141	A06	B05	細石刃	-	OB3	7	5.2	1.8	0.05	●51447(こ-29/X)
521	142	A06	B05	細石刃	-	OB3	13.5	4	2.4	0.09	●51483(こ-29/X)
521	143	A06	B05	ファーストブレイク	-	OB3	13.8	5.1	3.1	0.11	●51442(こ-29/X)
521	144	A06	B05	細石刃	-	OB3	16.2	6	3.2	0.28	●51489(こ-29/X)
521	145	A06	B05	細石刃	-	OB3	19.5	5.3	3.3	0.21	●51486(こ-29/X)
521	146	A06	B05	細石刃	-	OB3	23.3	7.3	3.3	0.25	●51511(こ-29/X)
522	147	A06	B06	細石刃	-	OB3	10.9	4.8	1.5	0.05	●51469(こ-29/X)
522	148	A06	B06	細石刃	-	OB3	9.2	3.6	1	0.02	●51401(こ-29/X)
522	149	A06	B06	細石刃	-	OB3	8.3	4.6	1.4	0.06	●51473(こ-29/X)
522	150	A06	B06	細石刃	-	OB3	10.3	6.4	1.5	0.07	●51402(こ-29/X)

94・95は細石刃, 96は角礫素材の石核で、背面に横方向からの石核調整剥離が残され、打面は数回の剥離で形成された細石刃核である。

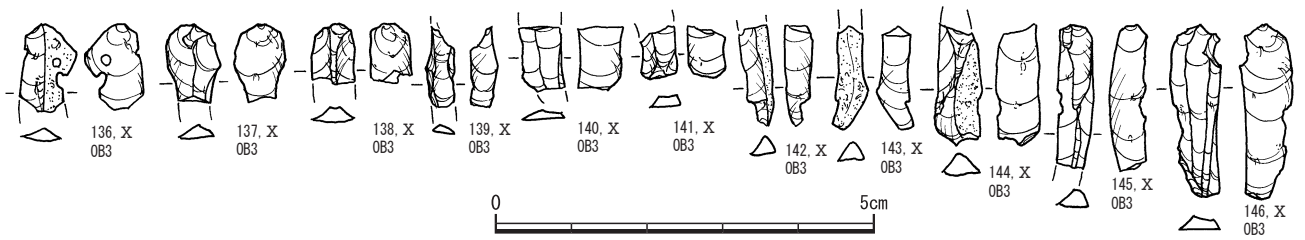
第5エリア

桐木遺跡さ~す-28~30区に分布し、黒曜石Ⅲ類を主体に頁岩、黒曜石Ⅰ類、玉髓が数点確認される。

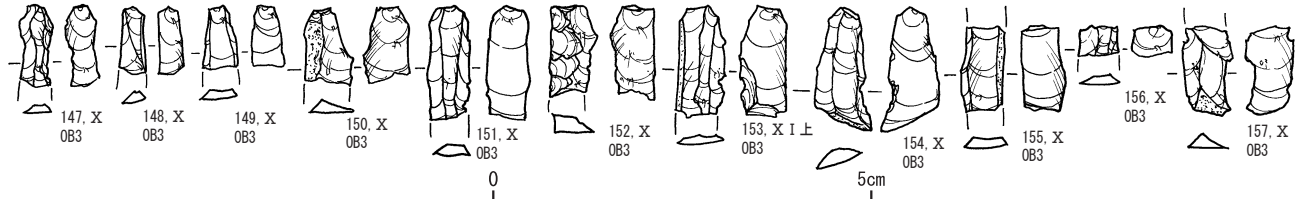
細石刃のみで構成され、頭部5点、中間部7点、尾部2

第93表 第三文化層第6エリア出土石器観察表(2)

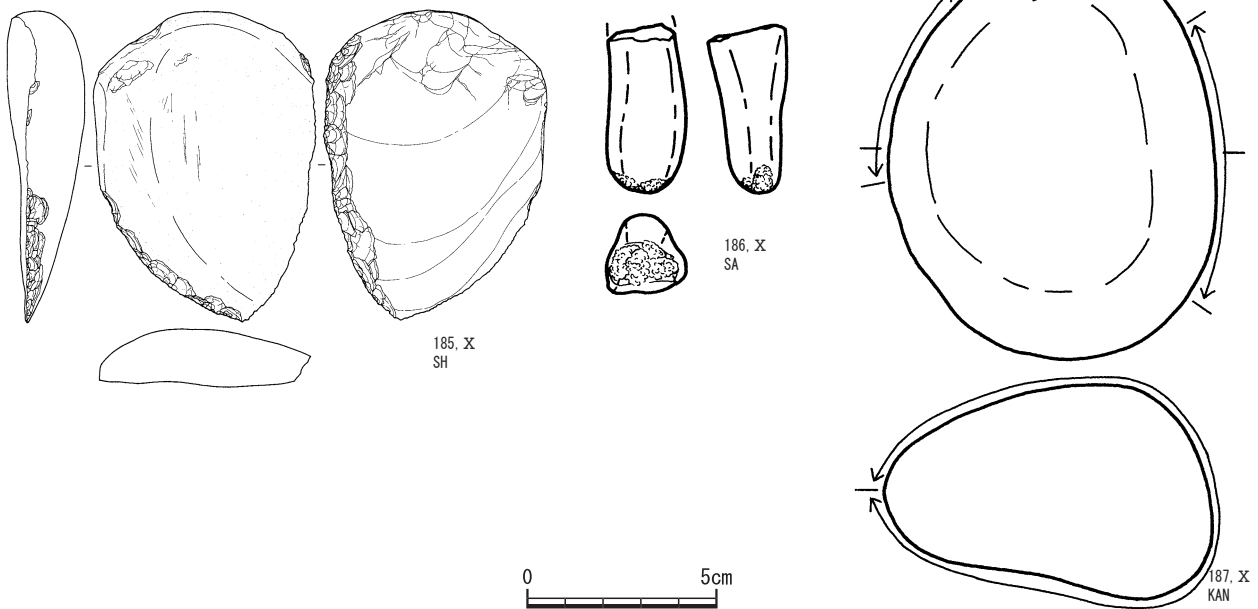
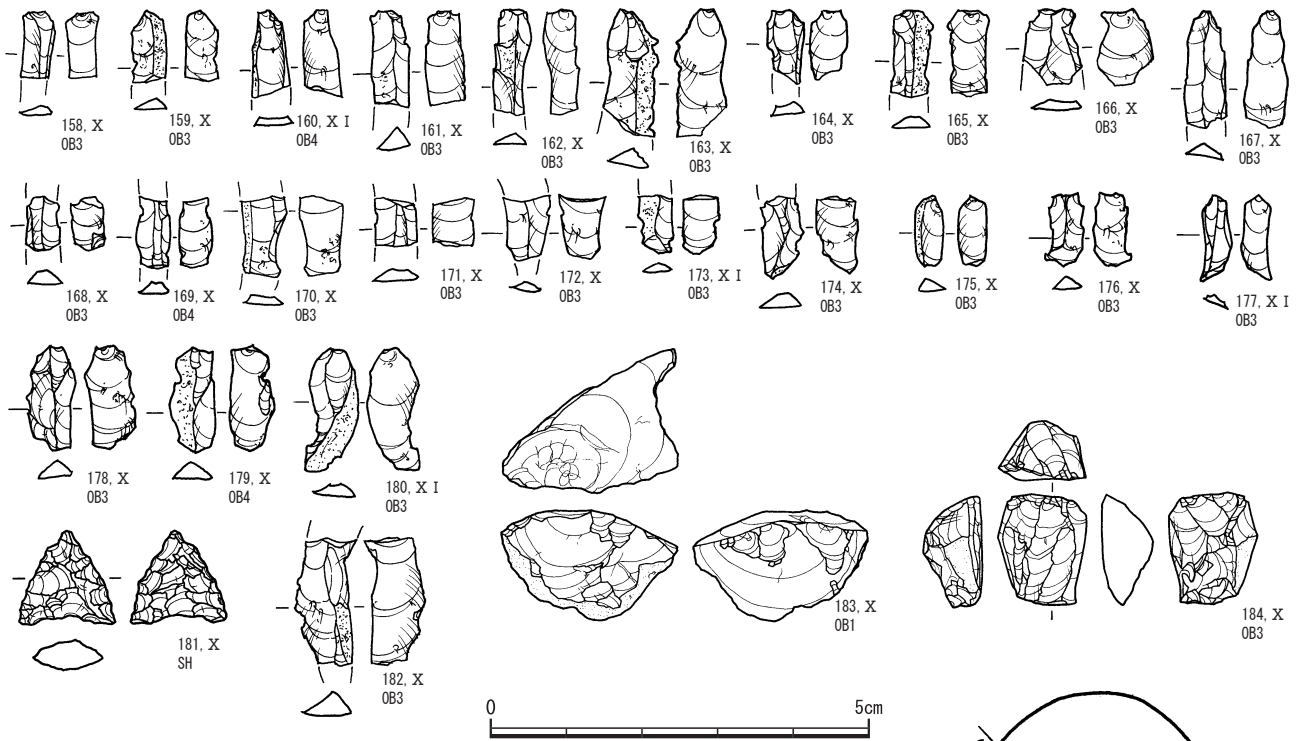
排図No	図No	エリア	ブロック	分類2	分類3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
522	151	A06	B06	細石刃	-	OB3	15.3	6	1.9	0.18	●51467(こ-29/X)
522	152	A06	B06	調整剥片	-	OB3	12.7	6.1	3.1	0.15	●51470(こ-29/X)
522	153	A06	B06	細石刃	-	OB3	15	6.5	1.4	0.11	●51465(こ-29/X I 上)
522	154	A06	B06	細石刃	-	OB3	16.7	7.9	2.8	0.15	●51399(こ-29/X)
522	155	A06	B06	細石刃	-	OB3	11.6	6.1	1.8	0.11	●51400(こ-29/X)
522	156	A06	B06	細石刃	-	OB3	4.3	5.6	1.4	0.03	●51468(こ-29/X)
522	157	A06	B06	細石刃	-	OB3	11.9	6.6	2.5	0.11	●51471(こ-29/X)
523	158	A06	B00	細石刃	-	OB3	9	4.5	2	0.06	●51770(け-29/X)
523	159	A06	B00	細石刃	-	OB3	9.4	4.7	1.8	0.06	●51487(こ-29/X)
523	160	A06	B00	細石刃	-	OB4	11.8	5.4	1.3	0.07	●9827(こ-28/X I)
523	161	A06	B00	細石刃	-	OB3	12.7	5.5	2.3	0.12	●10184(さ-27/X)
523	162	A06	B00	細石刃	-	OB3	14.1	5	2.2	0.11	●51424(こ-29/X)
523	163	A06	B00	細石刃	-	OB3	17.1	7.1	3.5	0.25	●8821(こ-28/X)
523	164	A06	B00	細石刃	-	OB3	9.3	3.3	1.7	0.06	●9162(こ-28/X)
523	165	A06	B00	細石刃	-	OB3	11.6	5.7	1.6	0.07	●8736(こ-28/X)
523	166	A06	B00	細石刃	-	OB3	10.4	7.6	1.5	0.07	●8758(こ-28/X)
523	167	A06	B00	細石刃	-	OB3	15.7	6	2.3	0.14	●9164(こ-28/X)
523	168	A06	B00	細石刃	-	OB3	7.3	4.8	1.3	0.04	●8820(こ-28/X)
523	169	A06	B00	細石刃	-	OB4	9.4	4.7	1.2	0.06	●10204(こ-28/X)
523	170	A06	B00	細石刃	-	OB3	10.7	6	1.5	0.1	●51395(け-29/X)
523	171	A06	B00	細石刃	-	OB3	6.6	5.8	1.6	0.06	●8747(こ-28/X)
523	172	A06	B00	細石刃	-	OB3	8.7	6.4	1.3	0.04	●8830(こ-27/X)
523	173	A06	B00	細石刃	-	OB3	7.9	5.1	1.8	0.06	●51771(け-29/X I)
523	174	A06	B00	細石刃	-	OB3	10.4	5.8	1.9	0.08	●8759(こ-28/X)
523	175	A06	B00	細石刃	-	OB3	9.5	4	2.1	0.05	●8823(こ-28/X)
523	176	A06	B00	細石刃	-	OB3	10	5.3	2	0.06	●9187(こ-28/X)
523	177	A06	B00	細石刃	-	OB3	11.5	4.2	1.9	0.04	●9177(こ-28/X I)
523	178	A06	B00	細石刃	-	OB3	13.9	7	2.9	0.16	●9156(こ-28/X)
523	179	A06	B00	細石刃	-	OB4	14.2	6.2	3.2	0.17	●10182(さ-28/X)
523	180	A06	B00	細石刃	-	OB3	16.3	7.2	2.3	0.16	●8831(こ-27/X I)
523	181	A06	B00	石核	-	SH	12.5	12.9	3.6	0.39	●8776(け-28/X)
523	182	A06	B00	細石刃	-	OB3	17	8.2	3.2	0.25	●8734(こ-28/X)
523	183	A06	B00	ブランク	-	OB1	15	23.3	19.7	4.5	●8825(こ-28/X)
523	184	A06	B00	細石刃核	-	OB3	14.9	11.9	7.8	1.3	●10173(さ-28/X)
523	185	A06	B00	削器	-	SH	83.1	59.6	19.4	102	●9132(さ-28/X)
523	186	A06	B00	ハンマー	-	SA	45.2	21.8	20.5	23	●9121(さ-28/X)
523	187	A06	B00	磨石	-	KAN	111.3	87.6	56	760	●51463(こ-29/X)



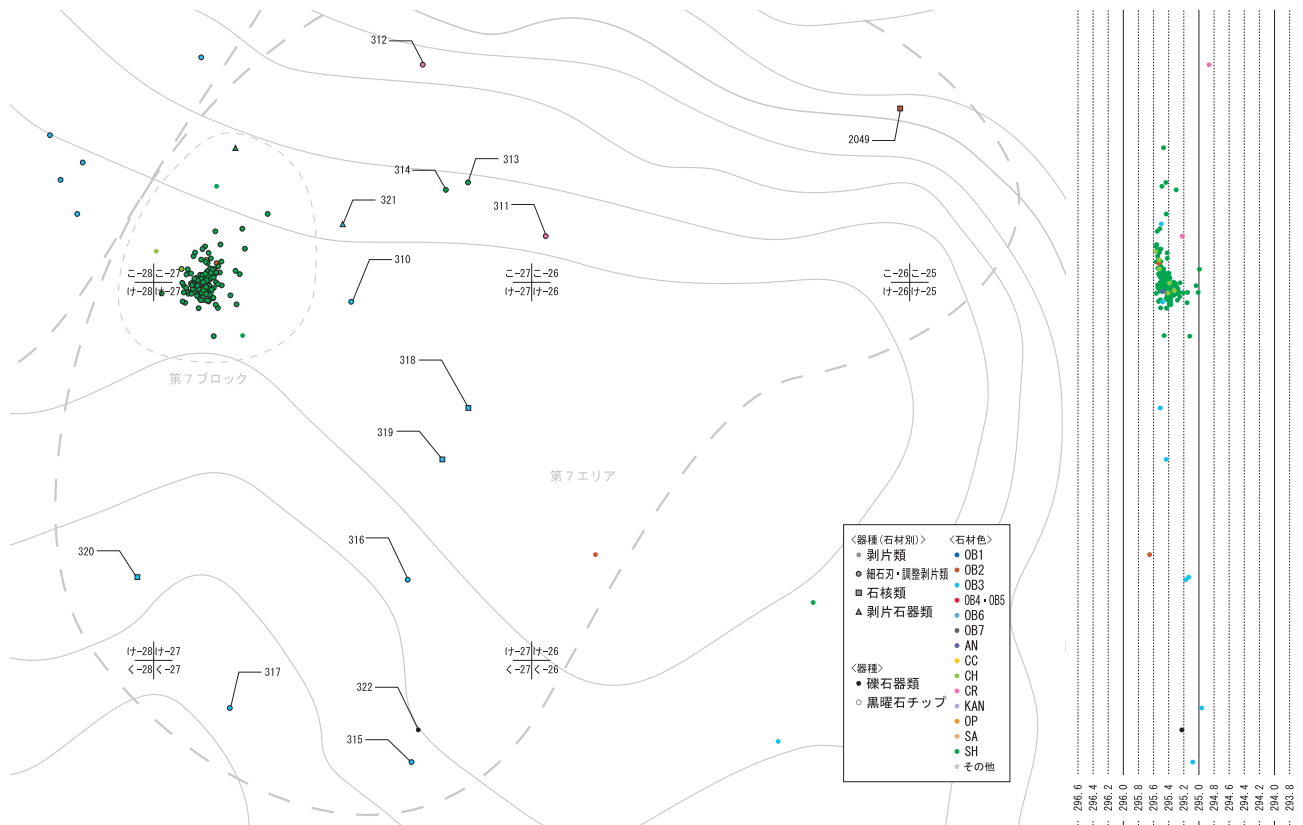
第521図 第三文化層第6エリア第5ブロック出土石器実測図



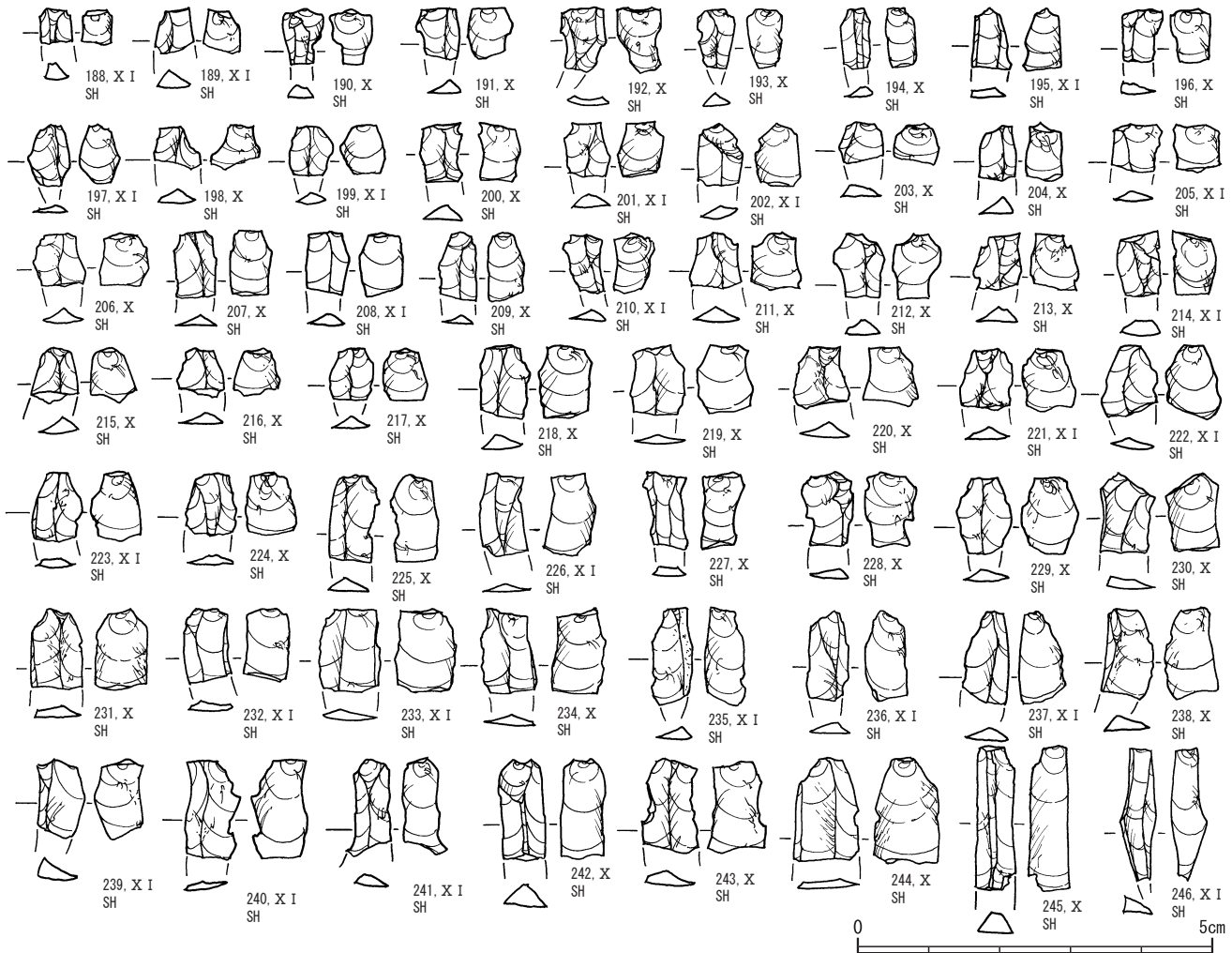
第522図 第三文化層第6エリア第6ブロック出土石器実測図



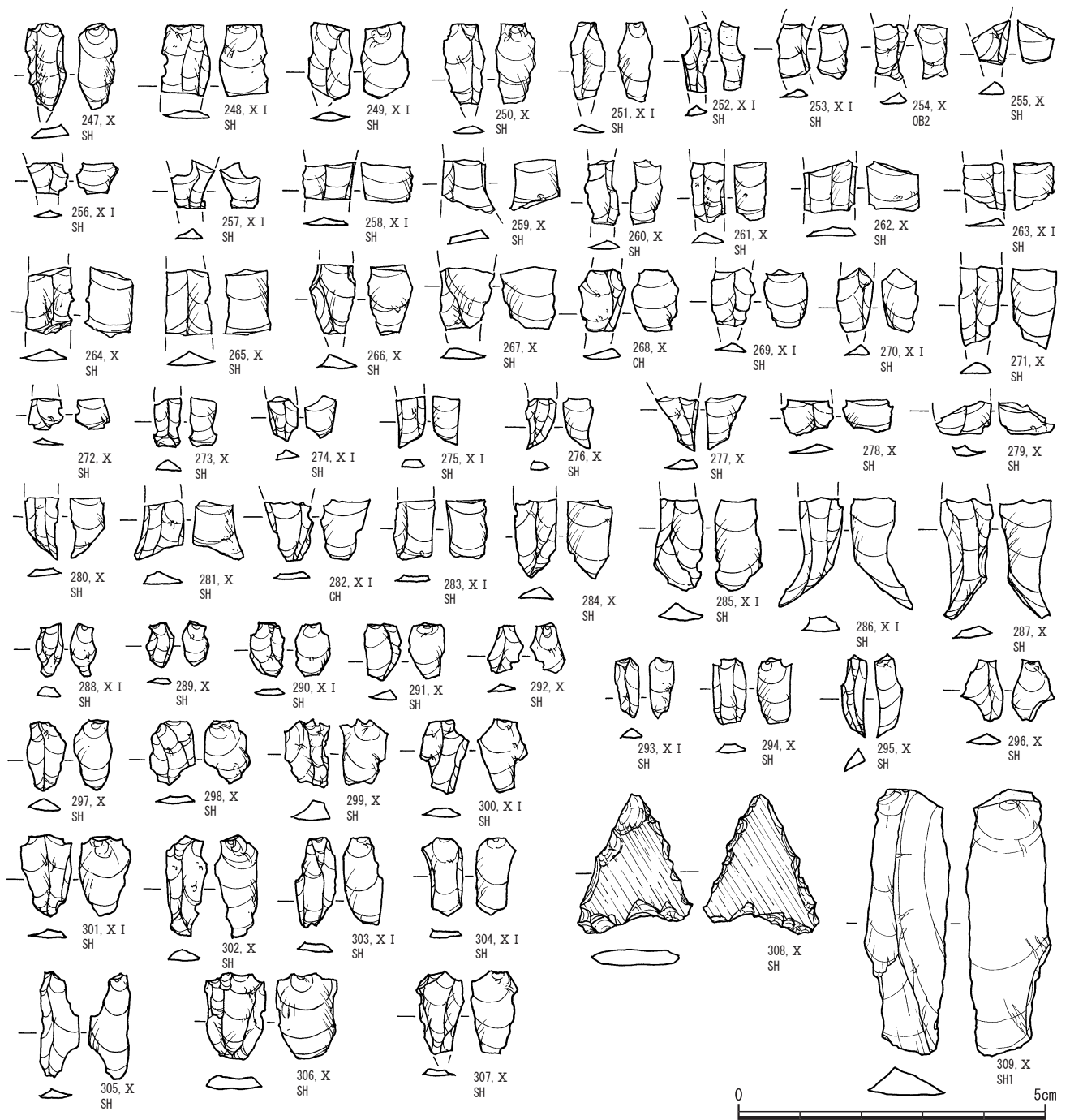
第523図 第三文化層第6エリア出土石器実測図



第524図 第三文化層第7エリア石器出土状況図



第525図 第三文化層第7エリア第7ブロック出土石器実測図(1)



第526図 第Ⅲ文化層第7エリア第7ブロック出土石器実測図(2)

点で、いわゆる細石刃の3分割の実施が推測される。100・105・109・111には微細な剥離痕が明瞭に残される。なお、頭部より中間部が多く残されている。

第6エリア

桐木遺跡け～さ-27～29区に分布し、黒曜石Ⅲ類を主体とする、第3～第6の計4ブロックで構成される。

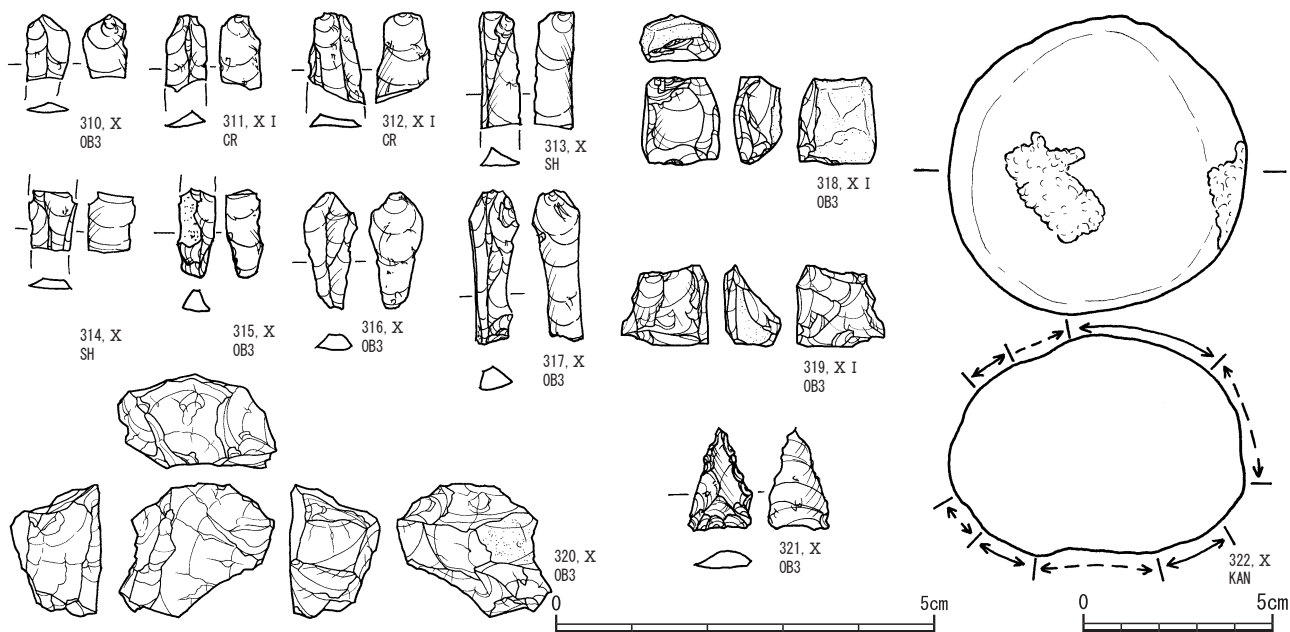
第3ブロックは細石刃と磨石、第4ブロックは細石刃と3点の細石刃核(131～133)と磨石(134)、石核(135)、第5ブロックは細石刃、第6ブロックでは細石刃のほか、細石刃核(184)、石鏃(181)等が出土している。

第3ブロックの116・118、第4ブロックの129、第6ブロックの154の細石刃では、微細な剥離痕が明瞭に残され

る。

細石刃は全てのブロックで分割され、第3・第4ブロックでは細石刃の中間部が検出されていないが、第5・第6ブロックで1点、ブロック外で6点残されている。第4～第6ブロックの細石刃は5～7mmの幅を持ち、20mmを越す縦長で端正な形状を呈している。143は背面中央稜線を挟んで礫面を残すことからファーストフレーク、152は作業面調整剥片とみられる。

131～133の細石刃核はいずれも礫面を残し、分割面を打面に同一方向に細石刃剥離を行う共通性が認められ、打面調整、頭部調整も共通する。細石刃核(132)は背面に横方向からの石核調整が見られ、左側面に先行する細石刃作業面があ



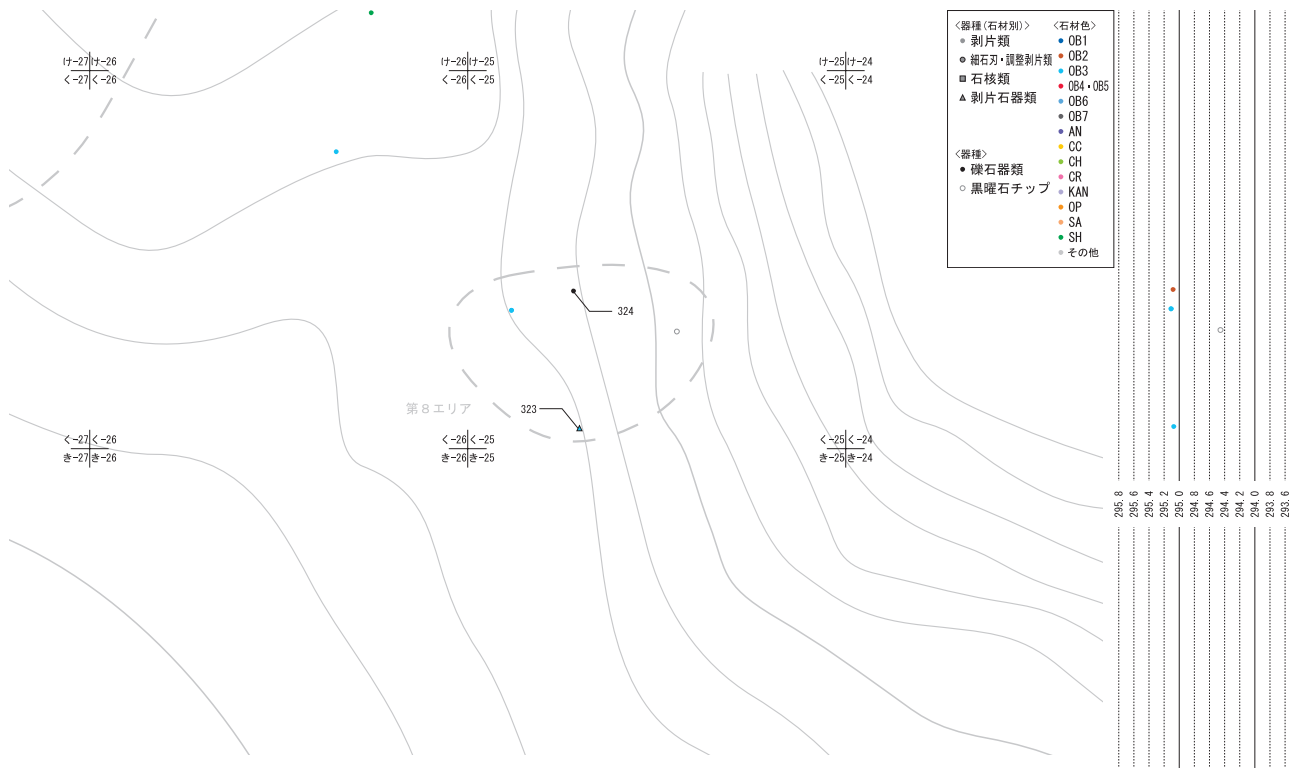
第527図 第三文化層第7エリア出土石器実測図

第94表 第三文化層第7エリア出土石器観察表(1)

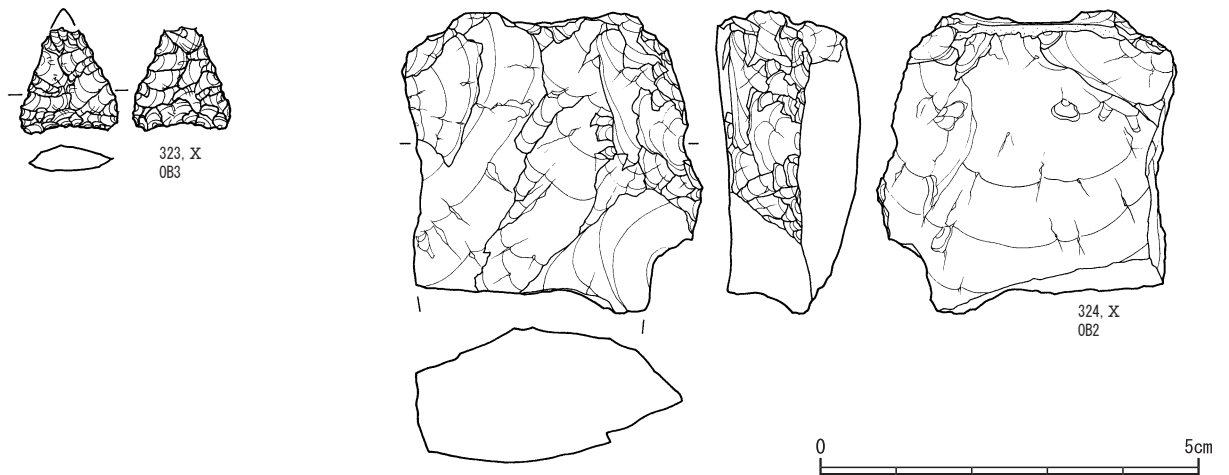
種目No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
525	188	A07	B07	細石刃	-	SH	5.1	4.5	2.2	0.05	●9810(†-27/X 1)
525	189	A07	B07	細石刃	-	SH	6.4	5.4	2	0.07	●9816(†-27/X 1)
525	190	A07	B07	細石刃	-	SH	8	6.3	2.1	0.08	●9039(†-27/X)
525	191	A07	B07	細石刃	-	SH	7.4	6.6	1.9	0.08	●9239(†-27/X)
525	192	A07	B07	細石刃	-	SH	9.4	6.5	1.8	0.08	●8885(†-27/X)
525	193	A07	B07	細石刃	-	SH	8.5	5.2	1.9	0.07	●8907(†-27/X)
525	194	A07	B07	細石刃	-	SH	8.6	4.5	1.8	0.07	●8933(†-27/X)
525	195	A07	B07	細石刃	-	SH	9	5.6	1.2	0.05	●8919(†-27/X 1)
525	196	A07	B07	細石刃	-	SH	7.8	5.8	1.6	0.07	●9037(†-27/X)
525	197	A07	B07	細石刃	-	SH	8.5	5.9	1.6	0.06	●9252(†-27/X 1)
525	198	A07	B07	細石刃	-	SH	6.5	7.2	1.9	0.05	●8957(†-27/X)
525	199	A07	B07	細石刃	-	SH	7.1	6.6	1.5	0.04	●9242(†-27/X 1)
525	200	A07	B07	細石刃	-	SH	8.5	6.1	2.6	0.12	●9034(†-27/X)
525	201	A07	B07	細石刃	-	SH	8	6.7	2.3	0.08	●10067(†-27/X 1)
525	202	A07	B07	細石刃	-	SH	9	6.6	1.8	0.07	●9309(†-27/X 1)
525	203	A07	B07	細石刃	-	SH	6	6.6	1.5	0.05	●8958(†-27/X)
525	204	A07	B07	細石刃	-	SH	8.5	5.4	2.5	0.09	●9233(†-27/X)
525	205	A07	B07	細石刃	-	SH	7	6.8	2.1	0.06	●9324(†-27/X 1)
525	206	A07	B07	細石刃	-	SH	7.7	7.1	2.4	0.1	●9314(†-27/X)
525	207	A07	B07	細石刃	-	SH	9.4	6.1	1.8	0.1	●8972(†-27/X)
525	208	A07	B07	細石刃	-	SH	9.2	6.4	2.5	0.13	●9207(†-27/X 1)
525	209	A07	B07	細石刃	-	SH	10	5.4	1.2	0.06	●8945(†-27/X)
525	210	A07	B07	細石刃	-	SH	8.8	6	1.9	0.07	●10061(†-27/X 1)
525	211	A07	B07	細石刃	-	SH	8.4	7.3	2.2	0.11	●8991(†-27/X)
525	212	A07	B07	細石刃	-	SH	9.6	7.1	2.1	0.13	●8954(†-27/X)
525	213	A07	B07	細石刃	-	SH	8.1	7	2.5	0.12	●8977(†-27/X)
525	214	A07	B07	細石刃	-	SH	9.2	6.4	2.2	0.13	●8886(†-27/X 1)
525	215	A07	B07	細石刃	-	SH	7.9	6.7	2.2	0.09	●8925(†-27/X)
525	216	A07	B07	細石刃	-	SH	6.9	6.7	2.1	0.06	●9214(†-27/X)
525	217	A07	B07	細石刃	-	SH	7.5	6.5	2.1	0.07	●8971(†-27/X)
525	218	A07	B07	細石刃	-	SH	10.4	7.8	2.2	0.12	●8992(†-27/X)
525	219	A07	B07	細石刃	-	SH	9.8	8.1	1.8	0.11	●8932(†-27/X)
525	220	A07	B07	細石刃	-	SH	8.6	8	2.2	0.1	●8900(†-27/X)
525	221	A07	B07	細石刃	-	SH	9.1	7.7	1.9	0.12	●8951(†-27/X 1)
525	222	A07	B07	細石刃	-	SH	10.7	8	1.5	0.09	●9241(†-27/X 1)
525	223	A07	B07	細石刃	-	SH	9.9	7.3	2	0.1	●9249(†-27/X 1)
525	224	A07	B07	細石刃	-	SH	9	7.4	1.7	0.1	●8975(†-27/X)
525	225	A07	B07	細石刃	-	SH	12.5	7	2.2	0.18	●8966(†-27/X)
525	226	A07	B07	細石刃	-	SH	11.8	7.6	1.9	0.15	●10142(†-27/X 1)
525	227	A07	B07	細石刃	-	SH	11.1	6.3	2.2	0.14	●8930(†-27/X)
525	228	A07	B07	細石刃	-	SH	10.7	7.5	2.2	0.12	●9216(†-27/X)
525	229	A07	B07	細石刃	-	SH	11	8.3	2	0.14	●9045(†-27/X)
525	230	A07	B07	細石刃	-	SH	11.2	7.8	2.5	0.21	●8909(†-27/X)
525	231	A07	B07	細石刃	-	SH	11.6	7.6	2.3	0.17	●8890(†-27/X)
525	232	A07	B07	細石刃	-	SH	10.4	6.7	1.6	0.09	●9248(†-27/X 1)
525	233	A07	B07	細石刃	-	SH	11.9	8.9	2	0.15	●9237(†-27/X 1)
525	234	A07	B07	細石刃	-	SH	12.1	7.8	2	0.14	●8938(†-27/X)
525	235	A07	B07	細石刃	-	SH	14.1	5.9	2.9	0.15	●9820(†-27/X 1)
525	236	A07	B07	細石刃	-	SH	12.9	6.2	2	0.14	●9322(†-27/X 1)
525	237	A07	B07	細石刃	-	SH	13.2	6.8	1.8	0.13	●8921(†-27/X 1)

第95表 第三文化層第7エリア出土石器観察表(2)

種目No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
525	238	A07	B07	細石刃	-	SH	13.1	7.7	2.1	0.15	●9036(†-27/X)
525	239	A07	B07	細石刃	-	SH	11.5	7	3	0.17	●9217(†-27/X 1)
525	240	A07	B07	細石刃	-	SH	14.1	8.2	2	0.12	●9807(†-27/X 1)
525	241	A07	B07	細石刃	-	SH	13.7	6.5	2.1	0.12	●10063(†-27/X 1)
525	242	A07	B07	細石刃	-	SH	14.3	6.6	3.8	0.27	●8913(†-27/X)
525	243	A07	B07	細石刃	-	SH	13	8.4	2.5	0.19	●8983(†-27/X)
525	244	A07	B07	細石刃	-	SH	15.2	9.5	2.1	0.21	●8862(†-27/X)
525	245	A07	B07	細石刃	-	SH	20.7	6.1	4	0.39	●8878(†-27/X)
525	246	A07	B07	細石刃	-	SH	18.9	5.2	2.9	0.2	●9326(†-27/X 1)
526	247	A07	B07	細石刃	-	SH	14.2	6.4	2	0.15	●8917(†-27/X)
526	248	A07	B07	細石刃	-	SH	11.9	8	2.1	0.18	●10143(†-27/X 1)
526	249	A07	B07	細石刃	-	SH	12.6	8	2.4	0.16	●9218(†-27/X 1)
526	250	A07	B07	細石刃	-	SH	13.3	6.6	1.6	0.09	●8899(†-27/X)
526	251	A07	B07	細石刃	-	SH	13.2	5.7	1.6	0.09	●9210(†-27/X 1)
526	252	A07	B07	細石刃	-	SH	11.5	4.4	1.4	0.05	●9809(†-27/X 1)
526	253	A07	B07	細石刃	-	SH	9.1	5.2	1.2	0.06	●9814(†-27/X 1)
526	254	A07	B07	細石刃	-	OB2	9	5.6	1.4	0.06	●8912(†-27/X)
526	255	A07	B07	細石刃	-	SH	7.3	6	2	0.08	●9044(†-27/X)
526	256	A07	B07	細石刃	-	SH	5.2	7	0.7	0.02	●9319(†-27/X 1)
526	257	A07	B07	細石刃	-	SH	7.6	6.6	1.6	0.06	●9312(†-27/X 1)
526	258	A07	B07	細石刃	-	SH	6.8	8.6	1.3	0.09	●8964(†-27/X 1)
526	259	A07	B07	細石刃	-	SH	8.4	8.2	2.2	0.12	●8931(†-27/X)
526	260	A07	B07	細石刃	-	SH	10.7	5.4	1.2	0.06	●8937(†-27/X)
526	261	A07	B07	細石刃	-	SH	9.6	5.4	1	0.05	●8908(†-27/X)
526	262	A07	B07	細石刃	-	SH	8.3	8.8	1.4	0.13	●8881(†-27/X)
526	263	A07	B07	細石刃	-	SH	7.9	6.7	1	0.04	●10065(†-27/X 1)
526	264	A07	B07	細石刃	-	SH	11.7	8.1	1.7	0.16	●9032(†-27/X)
526	265	A07	B07	細石刃	-	SH	10.9	7.6	2.1	0.22	●8935(†-27/X)
526	266	A07	B07	細石刃	-	SH	11.7	7.5	2.4	0.18	●8879(†-27/X)
526	267	A07	B07	細石刃	-	SH	10.3	9.3	1.6	0.13	●8952(†-27/X)
526	268	A07	B07	細石刃	-	CH	10.3	7.8	1.9	0.15	●8960(†-27/X)
526	269	A07	B07	細石刃	-	SH	9.5	7.3	1.1	0.08	●9209(†-27/X 1)
526	270	A07	B07	細石刃	-	SH	10.5	6.2	1.9	0.11	●9804(†-27/X 1)
526	271	A07	B07	細石刃	-	SH	13.3	7.6	2	0.15	●8956(†-27/X)
526	272	A07	B07	細石刃	-	SH	5.2	5.8	1	0.04	●8942(†-27/X)
526	273	A07	B07	細石刃	-	SH	8.4	4.8	1.2	0.04	●9230(†-27/X)
526	274	A07	B07	細石刃	-	SH	7.1	5.2	1.3	0.04	●9330(†-27/X 1)
526	275	A07	B07	細石刃	-	SH	8.1	4.6	1.5	0.06	●9251(†-27/X 1)
526	276	A07	B07	細石刃	-	SH	8.4	5.1	1.5	0.05	●8980(†-27/X)
526	277	A07	B07	細石刃	-	SH	9.2	6.9	1.9	0.07	●8962(†-27/X)
526	278	A07	B07	細石刃	-	SH	5.5	8.4	0.8	0.03	●9035(†-27/X)
526	279	A07	B07	細石刃	-	SH	5.4	9.2	1.5	0.05	●8903(†-27/X)
526	280	A07	B07	細石刃	-	SH	10	5.8	1.8	0.06	●8928(†-27/X)
526	281	A07	B07	細石刃	-	SH	9.8	8.4	2.8	0.18	●8989(†-27/X)
526	282	A07	B07	細石刃	-	CH	10	8.3	1.3	0.08	●9808(†-27/X 1)
526	283	A07	B07	細石刃	-	SH	9.8	6.9	1.6	0.1	●9315(†-27/X 1)
526	284	A07	B07	細石刃	-	SH	13	7.5	2.6	0.21	●9031(†-27/X)
526	285	A07	B07	細石刃	-	SH	15.1	7.9	2.6	0.24	●10064(†-27/X 1)
526	286	A07	B07	細石刃	-	SH	18.4	10.3	3.2	0.3	●10141(†-27/X 1)
526	287	A07	B07	細石刃	-	SH	19.5	8.6	2.8	0.29	●8961(†-27/X)



第528図 第三文化層第8エリア石器出土状況図



第529図 第三文化層第8エリア出土石器実測図

る。なお、他の2点は、細石刃剥離作業面以外は、礫面をそのまま残している。183は細石刃核ブランクで、円礫を分割するが、右側縁部と打面の先後関係は明確でない。細石刃核(184)は直行する2面の細石刃剥離作業面を持ち、先行した作業面を打面に、正面で最終剥離を行っている。

186の小型棒状ハンマーは欠損するが、良質と言える。石鏃(181)の共存性に関しては、補強材料を見い出せないが、使用石材が頁岩であることを考慮すると、縄文時代草創期の所産の可能性は高い。

第7エリア

桐木遺跡く~こ-26~28区に分布し、頁岩中心の第7ブロックをエリア内に組成する。

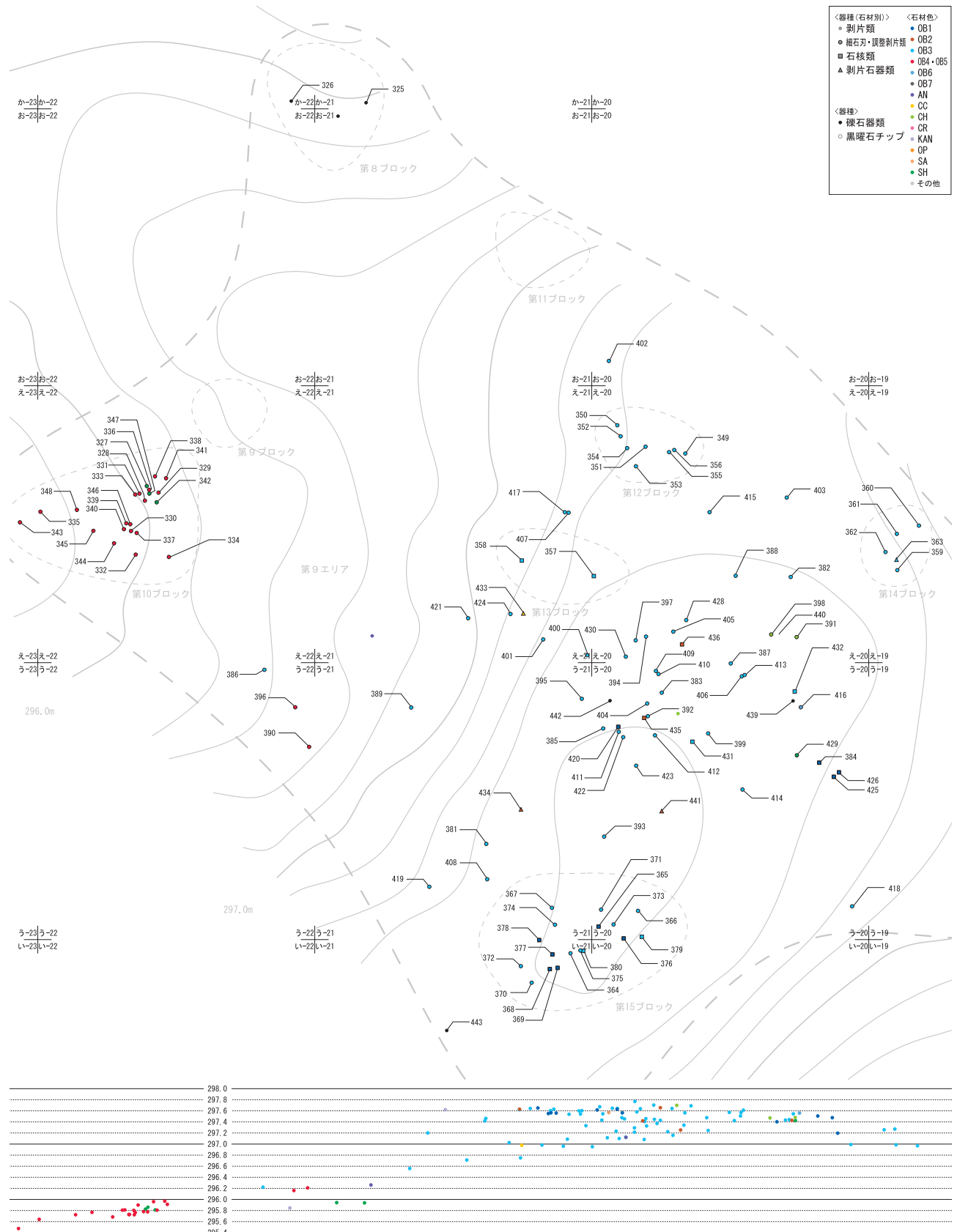
磨製石鏃(308)1点を含むものの、本遺跡では幅広の細石刃が最も安定して集中するブロックである。多数の細石刃が

残されるがこれに対応する細石刃核は確認されていない。使用石材は頁岩で、(250・254・268・282)の4点は頁岩以外を使用している。

細石刃は分割されたものがほとんどであり、特に頭部の比率が高いが、残された中間部資料から類推すると、長さ10mm、幅7~8mm程の中間部が目的とする規格と言えそうである。すなわち、264・265の中間部が期待した細石刃と考えられる。なお、289~292等は調整剥片とみられる。

磨製石鏃の両面は丹念な研磨作業が認められ、周縁は粗い整形剥離で仕上げられているが、研磨と剥離の先後関係は明らかでない。

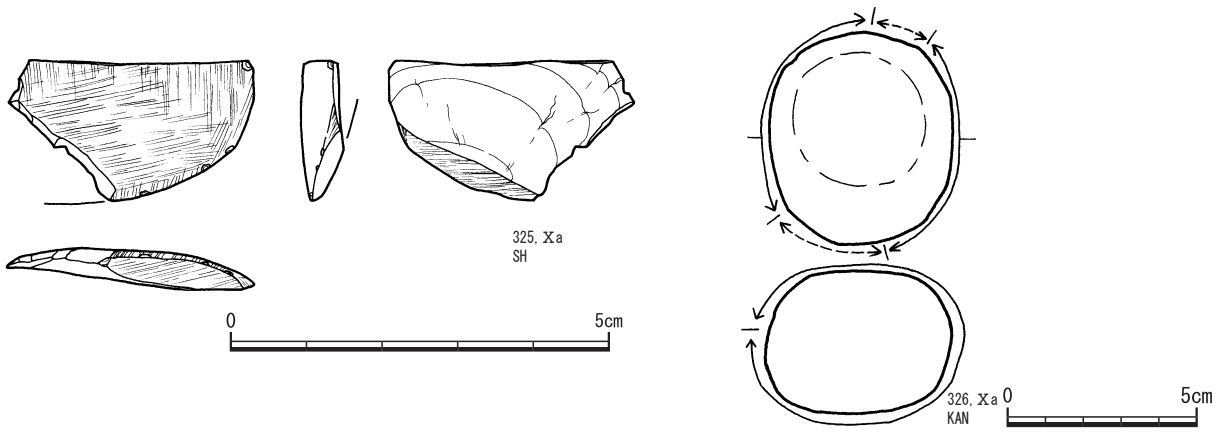
ブロック外の細石刃(315)、細石刃核(318・319)、細石刃核ブランク(320)は黒曜石Ⅲ類で、黒曜石Ⅲ類を中心に頁岩、水晶が石材として用いられている。2点の細石刃核も黒曜石



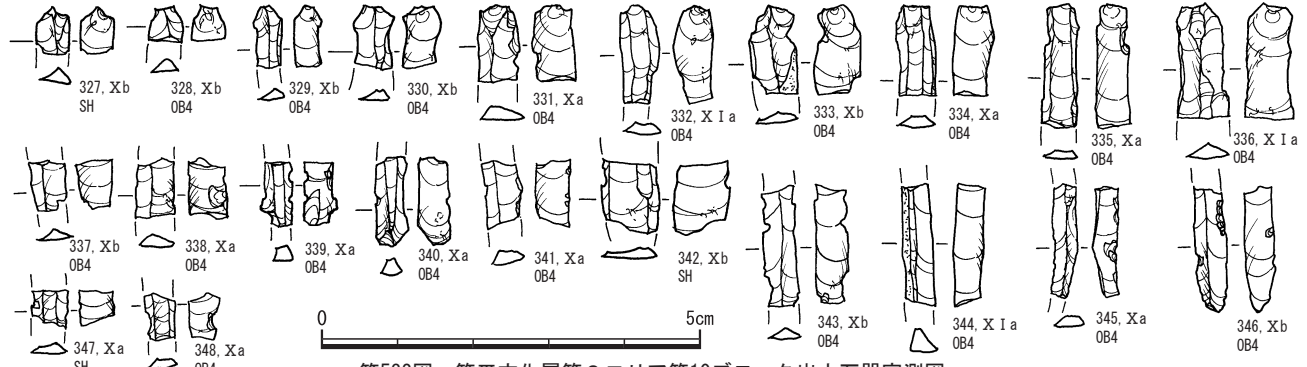
第530図 第Ⅲ文化層第9エリア石器出土状況図

Ⅲ類を用い、318は背面に礫面を残し、319は横方向からの石核整形を行っているが、打面が稜線状をなし打面確保の困難が予測されることから残核の可能性もある。321の石鏃は、腹面はそのままだに背面にのみ整形剥離が見られる。

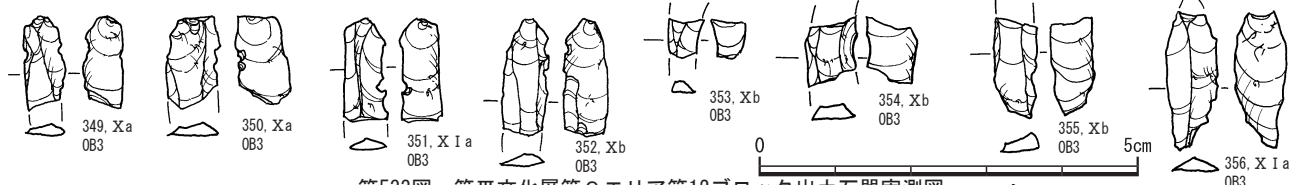
第8エリア
桐木遺跡く-25区に少量確認される。
使用石材は、石鏃(323)が黒曜石Ⅲ類、剥片(324)が黒曜石Ⅱ類である。石鏃の先端部は欠損するが、欠損後、再加工を



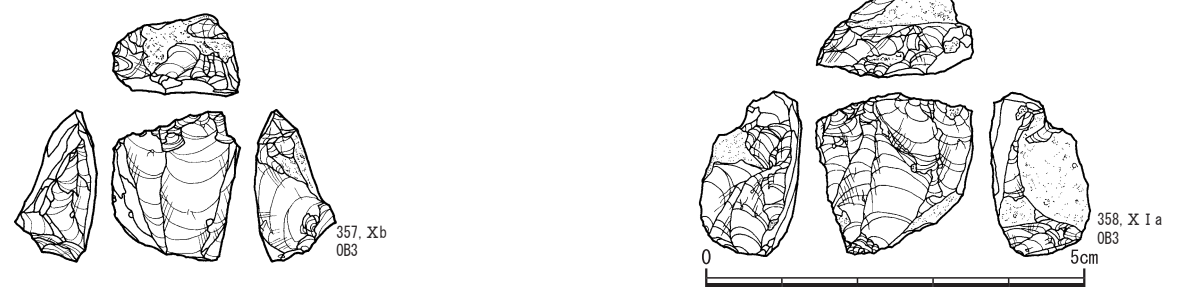
第531図 第三文化層第9エリア第8ブロック出土石器実測図



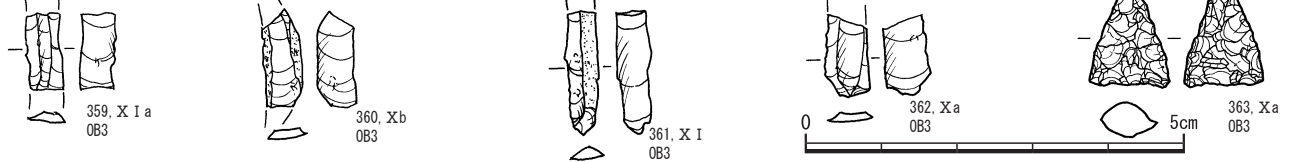
第532図 第三文化層第9エリア第10ブロック出土石器実測図



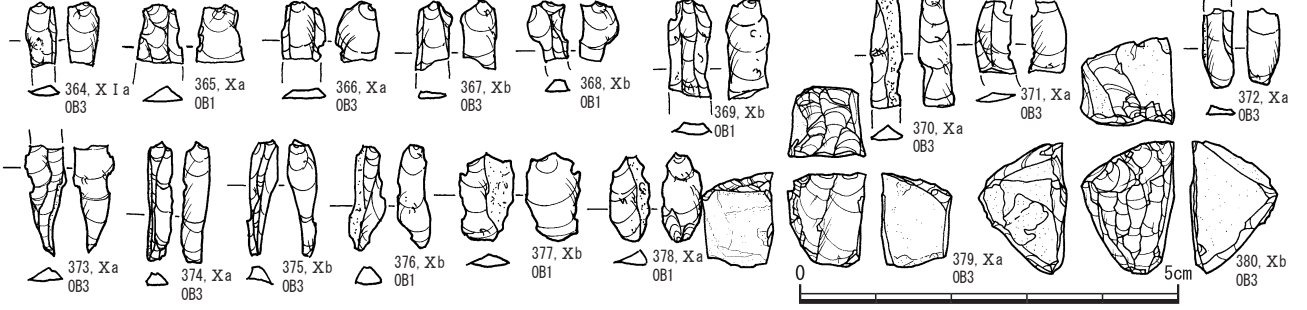
第533図 第三文化層第9エリア第12ブロック出土石器実測図



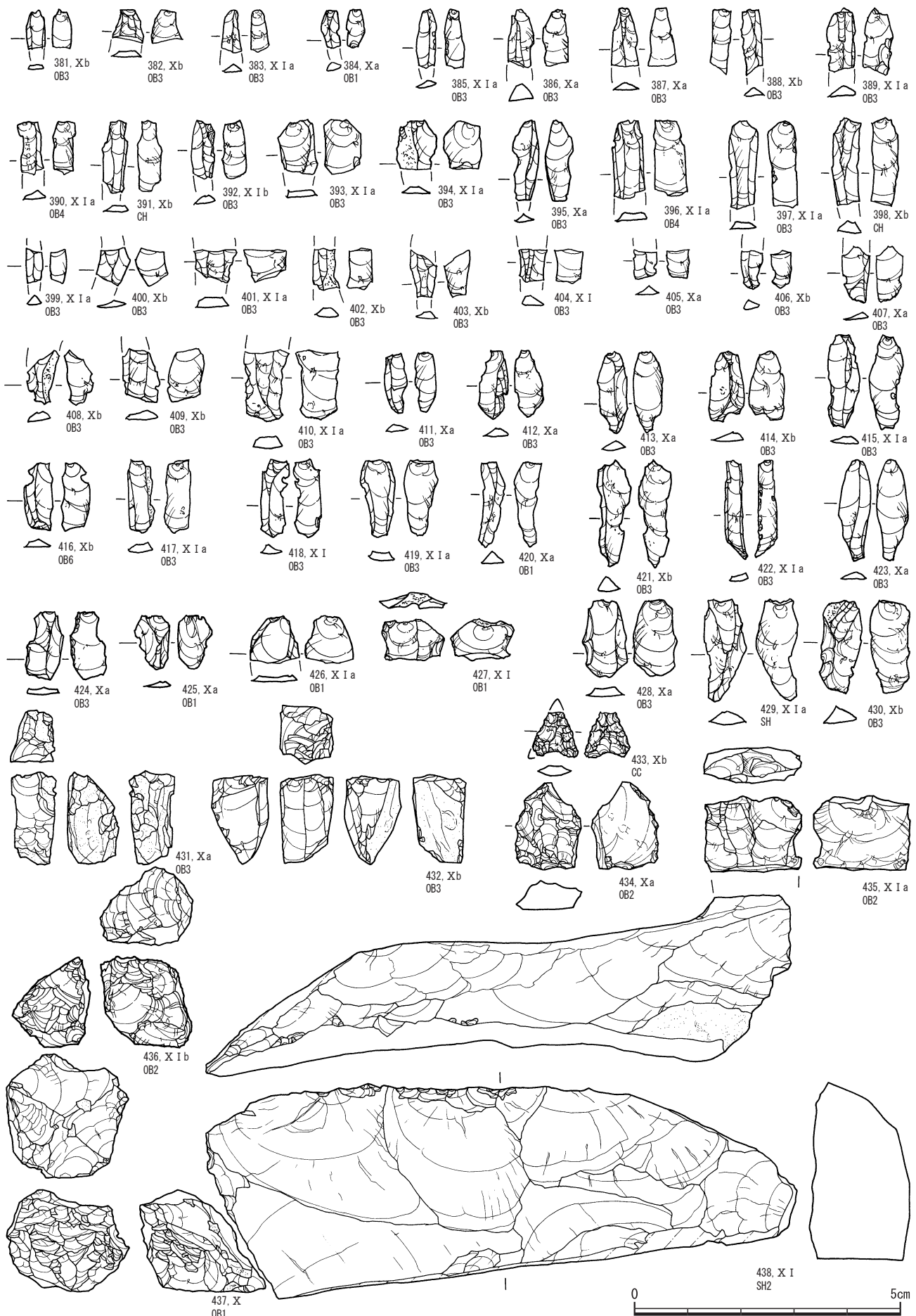
第534図 第三文化層第9エリア第13ブロック出土石器実測図



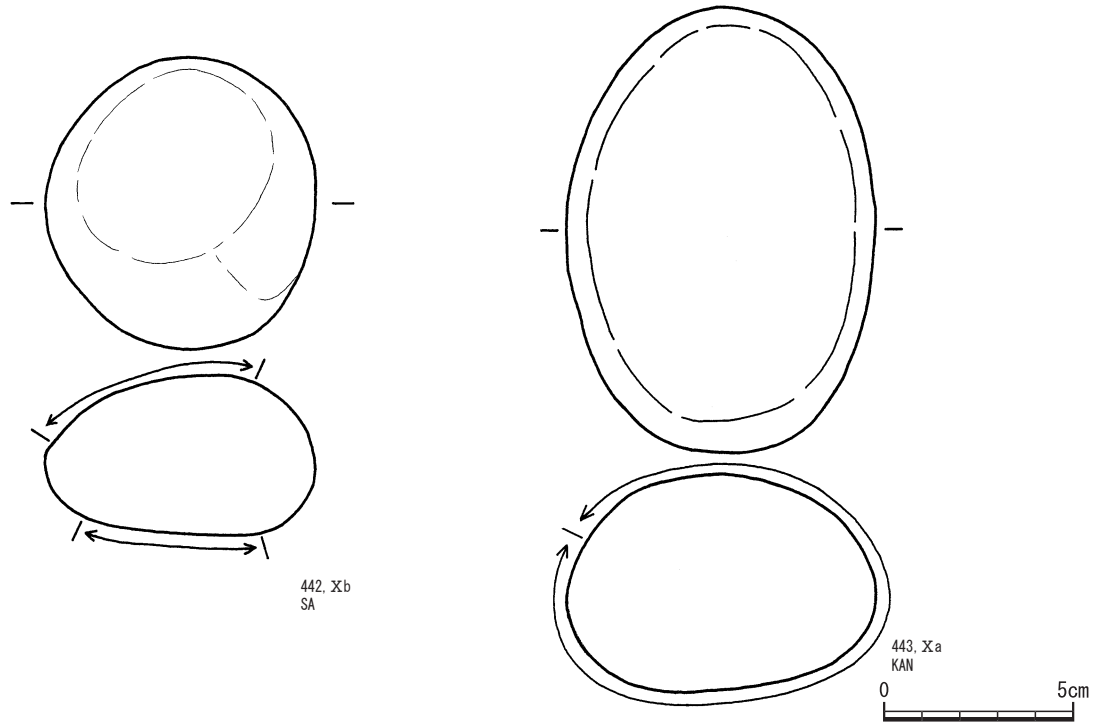
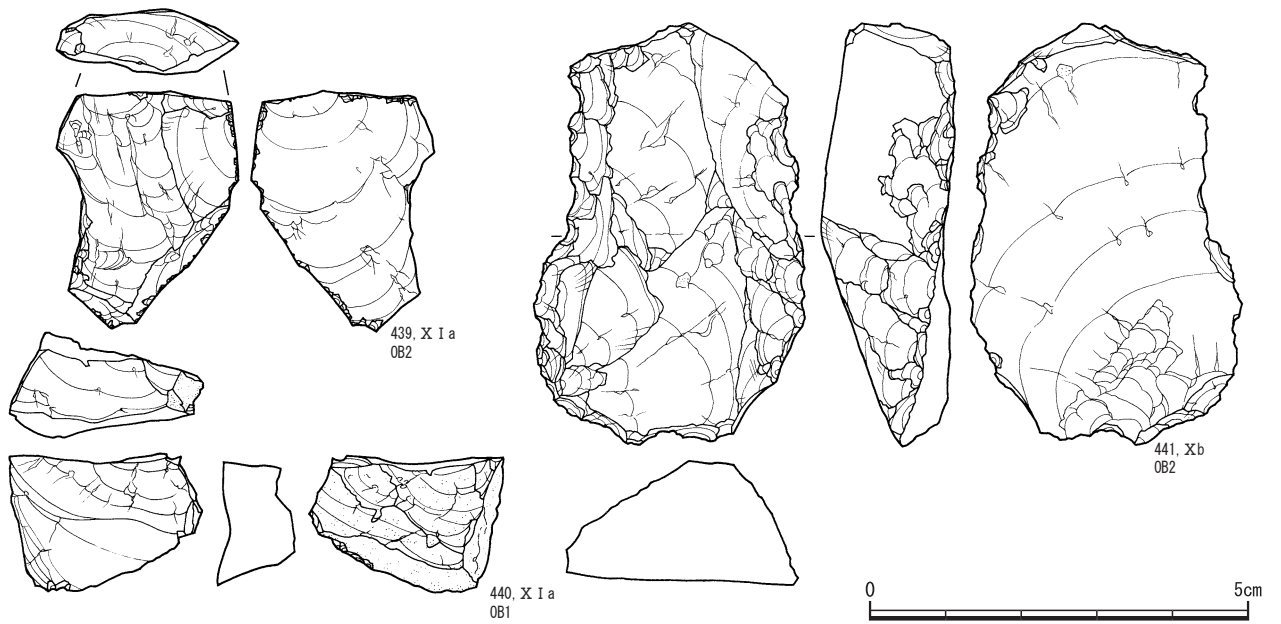
第535図 第三文化層第9エリア第14ブロック出土石器実測図



第536図 第三文化層第9エリア第15ブロック出土石器実測図



第537図 第三文化層第9エリア出土石器実測図(1)



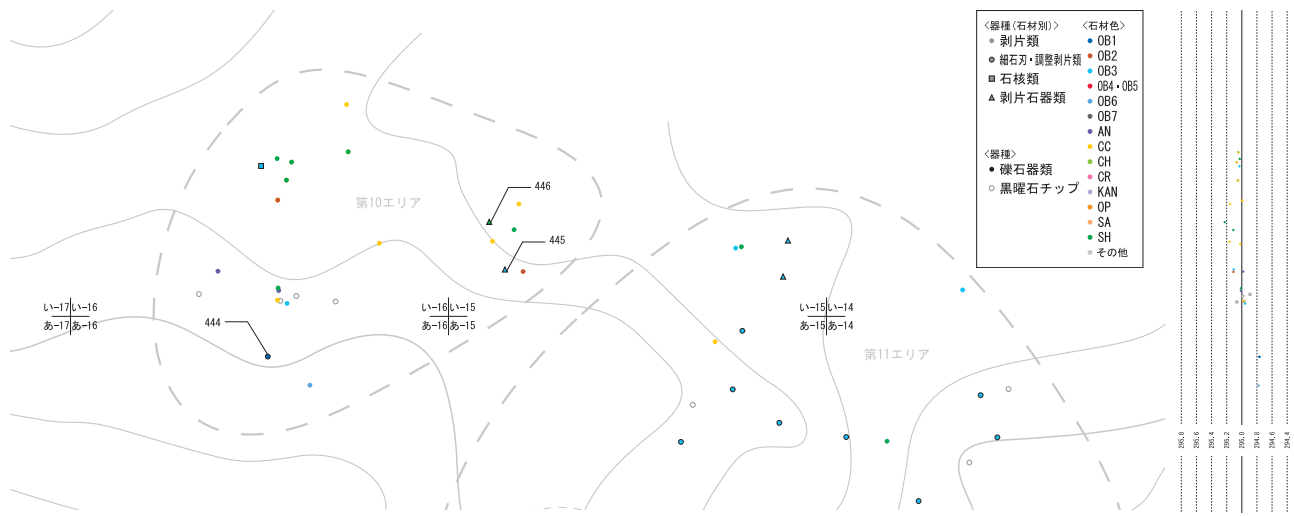
第538図 第三文化層第9エリア出土石器実測図(2)

第96表 第三文化層第7エリア出土石器観察表(3)

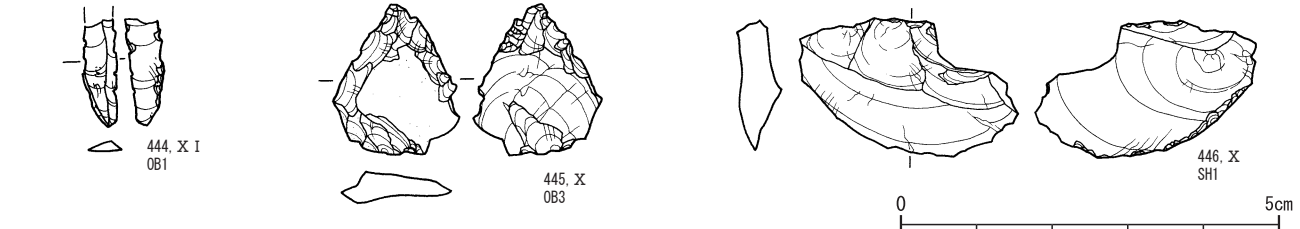
標本No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
526	288	A07	B07	細石刃	-	SH	8.7	4.4	1.6	0.04	●9238(14-27/X1)
526	289	A07	B07	細石刃	-	SH	7.6	4.5	1.1	0.02	●8970(14-27/X)
526	290	A07	B07	細石刃	-	SH	8.8	5.8	1.5	0.05	●9321(14-27/X1)
526	291	A07	B07	細石刃	-	SH	9.3	6	1.9	0.09	●8911(12-27/X)
526	292	A07	B07	細石刃	-	SH	8.3	5.9	1.6	0.04	●8959(12-27/X)
526	293	A07	B07	細石刃	-	SH	10	4.2	1	0.03	●9332(12-27/X1)
526	294	A07	B07	細石刃	-	SH	10.9	5.9	2.4	0.12	●9213(14-27/X)
526	295	A07	B07	細石刃	-	SH	13.8	4.7	3	0.11	●8939(14-27/X)
526	296	A07	B07	細石刃	-	SH	10.2	7.1	1.5	0.07	●9215(14-27/X)
526	297	A07	B07	細石刃	-	SH	11.7	6.4	1.7	0.08	●9234(12-27/X)
526	298	A07	B07	細石刃	-	SH	10.4	7.7	1.7	0.11	●9235(12-27/X)
526	299	A07	B07	細石刃	-	SH	10.9	8	2.5	0.15	●8887(12-27/X)
526	300	A07	B07	細石刃	-	SH	12.1	8.3	2.1	0.12	●9817(14-27/X1)
526	301	A07	B07	細石刃	-	SH	13.1	8.7	2	0.18	●9226(12-27/X1)
526	302	A07	B07	細石刃	-	SH	16.8	7.1	2.1	0.17	●8963(12-27/X)
526	303	A07	B07	細石刃	-	SH	14.5	6.7	2.2	0.16	●9041(14-27/X1)
526	304	A07	B07	細石刃	-	SH	12.8	6.7	1.4	0.09	●9806(14-27/X1)
526	305	A07	B07	細石刃	-	SH	17.4	7	2.1	0.13	●8906(12-27/X)

第97表 第三文化層第7エリア出土石器観察表(4)

標本No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
526	306	A07	B07	細石刃	-	SH	14.2	10.1	2	0.26	●8882(12-27/X)
526	307	A07	B07	細石刃	-	SH	13.7	7.8	1.8	0.13	●8981(14-27/X)
526	308	A07	B07	石鏃	-	SH	22.9	19.1	2	0.92	●8864(12-27/X)
526	309	A07	B07	削片	-	SH1	43.7	14.1	6.1	3.4	●8871(12-27/X)
527	310	A07	B00	細石刃	-	OB3	8.6	6	1.7	0.06	●8851(14-27/X)
527	311	A07	B00	細石刃	-	CR	10.1	5.7	1.9	0.08	●8437(12-26/X1)
527	312	A07	B00	細石刃	-	CR	12.1	7.3	1.3	0.09	●9302(12-27/X1)
527	313	A07	B00	細石刃	-	SH	15.7	5.5	2.5	0.21	●8843(12-27/X)
527	314	A07	B00	細石刃	-	SH	8.2	6.4	1.7	0.12	●8844(12-27/X)
527	315	A07	B00	細石刃	-	OB3	11.8	5.2	2.6	0.1	●8374(12-27/X)
527	316	A07	B00	細石刃	-	OB3	15.7	7.3	2.9	0.21	●9339(14-27/X)
527	317	A07	B00	細石刃	-	OB3	20.2	6.9	4.9	0.32	●8382(12-27/X)
527	318	A07	B00	細石刃核	-	OB3	11.8	10.5	6.1	0.87	●8848(14-27/X1)
527	319	A07	B00	細石刃核	-	OB3	10.8	11.8	7.1	0.69	●8361(14-27/X1)
527	320	A07	B00	ブランク	-	OB3	17.9	20.7	13.1	3.5	●8387(14-28/X)
527	321	A07	B00	石鏃	-	OB3	13.5	8.3	2.3	0.21	●8861(12-27/X)
527	322	A07	B00	凹石	-	KAN	79.6	79.4	59.5	475	●8373(12-27/X)



第539図 第三文化層第10エリア石器出土状況図



第540図 第三文化層第10エリア出土石器実測図

第98表 第三文化層第8エリア出土石器観察表

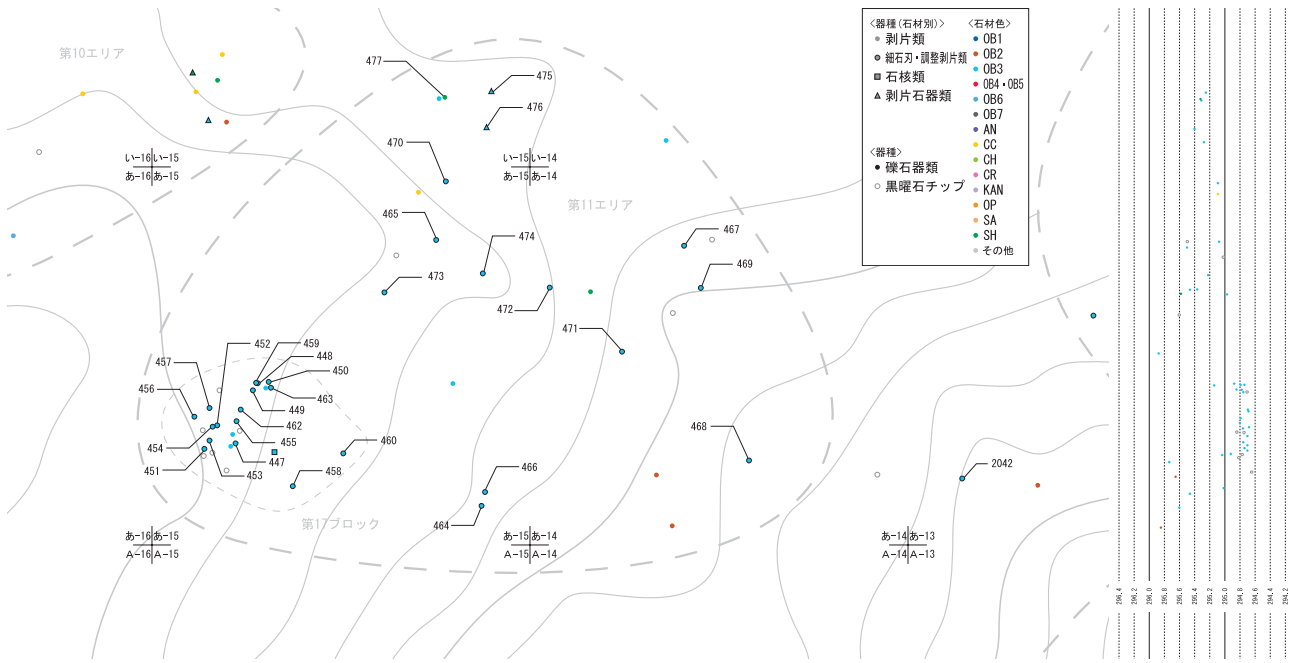
種別No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
529	323	A08	B00	石鏃	-	OB3	13.9	13.1	3.6	0.49	●51599(く-25/X)
529	324	A08	B00	剥片	-	OB2	40.3	39.9	18.3	31	●51590(く-25/X)

第100表 第三文化層第9エリア出土石器観察表(2)

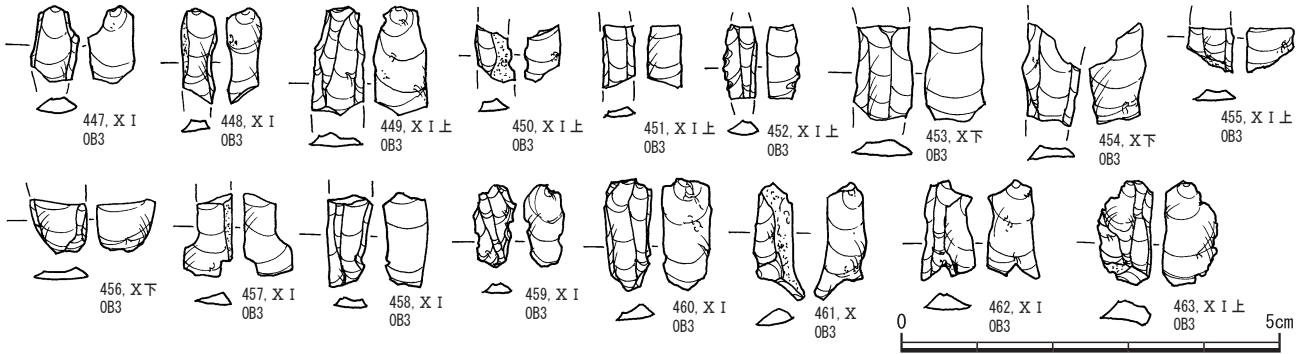
種別No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
535	362	A09	B14	細石刃	-	OB3	10.8	6.6	1.6	0.05	●7609(え-19/Xa)
535	363	A09	B14	石鏃	-	OB3	13.1	10.7	4.6	0.48	●7611(え-19/Xa)
536	364	A09	B15	細石刃	-	OB3	8.5	4.4	1.7	0.04	●7444(い-21/X I a)
536	365	A09	B15	細石刃	-	OB1	7.8	6.4	1.7	0.08	●7371(う-20/Xa)
536	366	A09	B15	細石刃	-	OB3	8.2	6	1	0.04	●7366(う-20/Xa)
536	367	A09	B15	細石刃	-	OB3	9.3	5	1	0.03	●7446(う-21/Xb)
536	368	A09	B15	細石刃	-	OB1	8	5.3	1.5	0.05	●7411(い-21/Xb)
536	369	A09	B15	細石刃	-	OB1	13.4	5.9	1.8	0.12	●7404(い-21/Xb)
536	370	A09	B15	細石刃	-	OB3	15.4	4.9	1.5	0.1	●7431(い-21/Xb)
536	371	A09	B15	細石刃	-	OB3	9.6	5.2	1.2	0.03	●7398(う-20/Xa)
536	372	A09	B15	細石刃	-	OB3	10.3	4.5	1.3	0.03	●7433(い-21/Xa)
536	373	A09	B15	細石刃	-	OB3	14.4	5.6	2.4	0.1	●7369(う-20/Xa)
536	374	A09	B15	細石刃	-	OB3	16.2	4	3.3	0.1	●7385(う-21/Xa)
536	375	A09	B15	ファーストフレグ	-	OB3	15.6	4.1	3	0.07	●7392(い-21/Xb)
536	376	A09	B15	細石刃	-	OB1	13.9	4.6	3.7	0.17	●7360(う-20/Xb)
536	377	A09	B15	細石刃	-	OB1	11.8	7.5	2	0.09	●7414(い-21/Xa)
536	378	A09	B15	細石刃	-	OB1	11.9	5.5	2	0.11	●7420(い-21/Xa)
536	379	A09	B15	細石刃核	-	OB3	12.6	10.6	9.2	1.4	●7363(う-20/Xa)
536	380	A09	B15	細石刃核	-	OB3	17.8	12.5	11.6	2.4	●7391(い-21/Xa)
537	381	A09	B00	細石刃	-	OB3	7.6	3.8	0.8	0.02	●7454(う-21/Xb)
537	382	A09	B00	細石刃	-	OB3	6.5	6	1.4	0.04	●7634(え-20/Xb)
537	383	A09	B00	細石刃	-	OB3	8.1	3.6	1.2	0.03	●7966(う-20/X I a)
537	384	A09	B00	細石刃	-	OB1	7.4	3.7	0.8	0.02	●7769(う-20/Xa)
537	385	A09	B00	細石刃	-	OB3	11.3	4	1.3	0.03	●8029(う-20/X I a)
537	386	A09	B00	細石刃	-	OB3	10.8	5	2.6	0.1	●7493(う-22/Xa)
537	387	A09	B00	細石刃	-	OB3	11.1	6.2	1.3	0.06	●7659(う-20/Xa)
537	388	A09	B00	細石刃	-	OB3	12.4	4.2	1.2	0.04	●7637(え-20/Xb)
537	389	A09	B00	細石刃	-	OB3	12.7	5.9	2.2	0.11	●8054(う-21/X I a)
537	390	A09	B00	細石刃	-	OB4	10.1	4.5	1.6	0.07	●8046(う-22/X I a)
537	391	A09	B00	細石刃	-	CH	13.5	4.8	1.4	0.09	●7650(え-20/Xb)
537	392	A09	B00	細石刃	-	OB3	11.2	4.8	1.7	0.08	●7972(う-20/X I b)
537	393	A09	B00	細石刃	-	OB3	10.5	7.2	2	0.11	●8044(う-20/X I a)
537	394	A09	B00	細石刃	-	OB3	9.2	7.4	1.6	0.09	●7951(い-21/X I a)
537	395	A09	B00	細石刃	-	OB3	15.5	5.4	1.8	0.07	●7814(う-21/Xa)
537	396	A09	B00	細石刃	-	OB4	14.4	6.6	1.6	0.13	●7492(う-22/X I a)
537	397	A09	B00	細石刃	-	OB3	16.5	5.8	2.5	0.17	●7950(え-20/X I a)
537	398	A09	B00	細石刃	-	CH	16.8	5.4	2.1	0.16	●7646(え-20/Xb)
537	399	A09	B00	細石刃	-	OB3	6.6	3.3	1.2	0.02	●7983(う-20/X I a)
537	400	A09	B00	細石刃	-	OB3	7.4	6.3	0.7	0.03	●7812(え-21/Xb)
537	401	A09	B00	細石刃	-	OB3	6.3	8.2	1.7	0.09	●8059(え-21/X I a)
537	402	A09	B00	細石刃	-	OB3	7.9	5.1	1.5	0.05	●7328(お-20/Xb)
537	403	A09	B00	細石刃	-	OB3	8.9	5.1	1.6	0.06	●7594(え-20/Xb)

第99表 第三文化層第9エリア出土石器観察表(1)

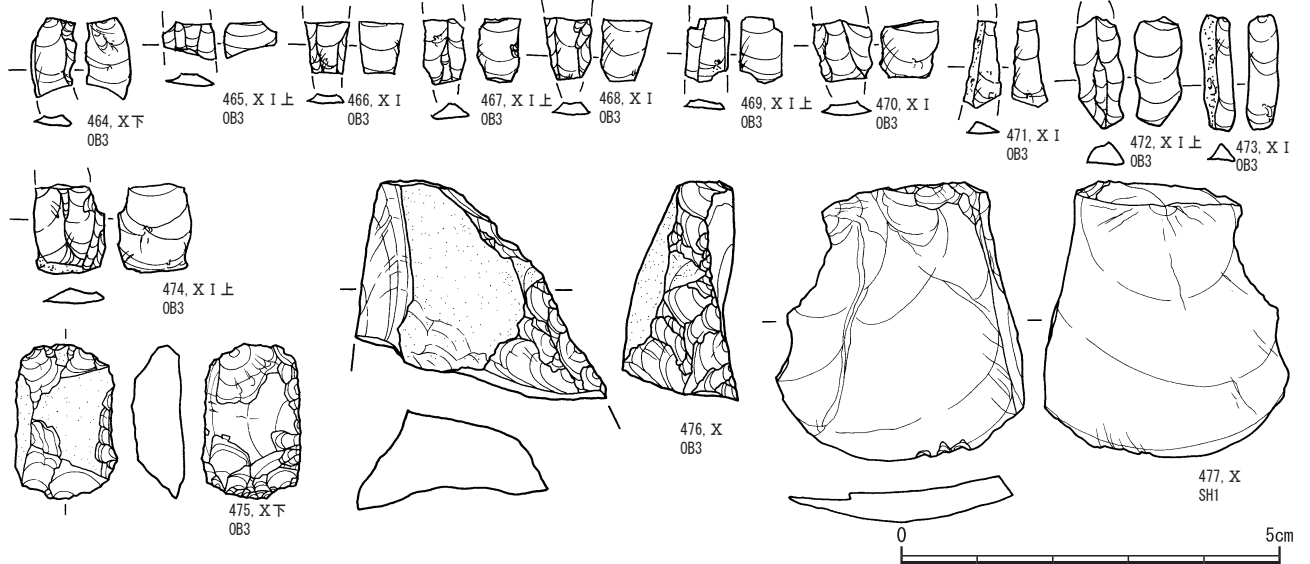
種別No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
531	325	A09	B08	磨製石斧	-	SH	18.9	32.7	5.3	3.3	●7889(か-21/Xa)
531	326	A09	B08	磨石	/骸	KAN	56.8	49.1	38	141	●7902(か-22/Xa)
532	327	A09	B10	細石刃	-	SH	6.4	4.7	1.7	0.05	●7236(え-22/Xb)
532	328	A09	B10	細石刃	-	OB4	4.9	4.7	1.7	0.03	●7243(え-22/Xb)
532	329	A09	B10	細石刃	-	OB4	8.3	3.9	1	0.03	●7239(え-22/Xb)
532	330	A09	B10	細石刃	-	OB4	8.4	5.4	2	0.07	●7249(え-22/Xb)
532	331	A09	B10	細石刃	-	OB4	10.3	6	1.4	0.07	●7241(え-22/Xa)
532	332	A09	B10	細石刃	-	OB4	13.2	5.5	1.5	0.09	●7251(え-22/X I a)
532	333	A09	B10	細石刃	-	OB4	12.1	6.4	1.4	0.09	●7242(え-22/Xb)
532	334	A09	B10	細石刃	-	OB4	12.1	5.7	1.7	0.12	●7252(え-22/Xa)
532	335	A09	B10	細石刃	-	OB4	16.7	5	1.2	0.11	●7255(え-22/Xa)
532	336	A09	B10	細石刃	-	OB4	15.6	6.6	2.2	0.2	●7238(え-22/X I a)
532	337	A09	B10	細石刃	-	OB4	6.7	5	1.2	0.03	●7250(え-22/Xb)
532	338	A09	B10	細石刃	-	OB4	8.3	5.4	1.6	0.07	●7233(え-22/Xa)
532	339	A09	B10	細石刃	-	OB4	8.5	4.7	1.7	0.06	●7246(え-22/Xa)
532	340	A09	B10	細石刃	-	OB4	11.8	4.6	1.7	0.09	●7248(え-22/Xa)
532	341	A09	B10	細石刃	-	OB4	9.1	4.9	1.5	0.16	●7234(え-22/Xa)
532	342	A09	B10	細石刃	-	SH	10	7.8	1.4	0.08	●7244(え-22/Xb)
532	343	A09	B10	細石刃	-	OB4	15.8	4.7	1.1	0.07	●7496(え-23/Xb)
532	344	A09	B10	細石刃	-	OB4	16.4	4.5	2	0.14	●7495(え-22/X I a)
532	345	A09	B10	細石刃	-	OB4	14.8	3.7	1.3	0.08	●7253(え-22/Xa)
532	346	A09	B10	細石刃	-	OB4	16.7	4.4	1.1	0.07	●7247(え-22/Xb)
532	347	A09	B10	細石刃	-	SH	4.9	4.9	1	0.03	●7240(え-22/Xa)
532	348	A09	B10	細石刃	-	OB4	6.3	4.3	0.9	0.02	●7254(え-22/Xa)
533	349	A09	B12	細石刃	-	OB3	12.3	5.5	1.2	0.07	●7581(え-20/Xa)
533	350	A09	B12	細石刃	-	OB3	11.8	7.5	1.7	0.14	●7331(え-20/Xa)
533	351	A09	B12	細石刃	-	OB3	13.9	5.9	2	0.12	●7920(え-20/X I a)
533	352	A09	B12	細石刃	-	OB3	15.7	6.1	2.3	0.16	●7332(え-20/Xb)
533	353	A09	B12	細石刃	-	OB3	5.3	4.7	1.6	0.03	●7334(え-20/Xb)
533	354	A09	B12	細石刃	-	OB3	9	6.9	2	0.1	●7333(え-20/Xb)
533	355	A09	B12	細石刃	-	OB3	13.1	6.1	2	0.14	●7582(え-20/Xb)
533	356	A09	B12	細石刃	-	OB3	11.8	7.1	3	0.17	●7921(え-20/X I a)
534	357	A09	B13	細石刃核	-	OB3	19.9	17.2	10	3	●10274(え-20/Xb)
534	358	A09	B13	細石刃核	-	OB3	21.6	21	12.4	5.1	●8057(え-21/X I a)
535	359	A09	B14	細石刃	-	OB3	10.3	5	1.6	0.07	●7938(え-19/X I a)
535	360	A09	B14	細石刃	-	OB3	12.9	5.4	1.9	0.13	●7612(え-19/Xb)
535	361	A09	B14	細石刃	-	OB3	16.5	4.9	1.6	0.11	●10212(え-19/X I)



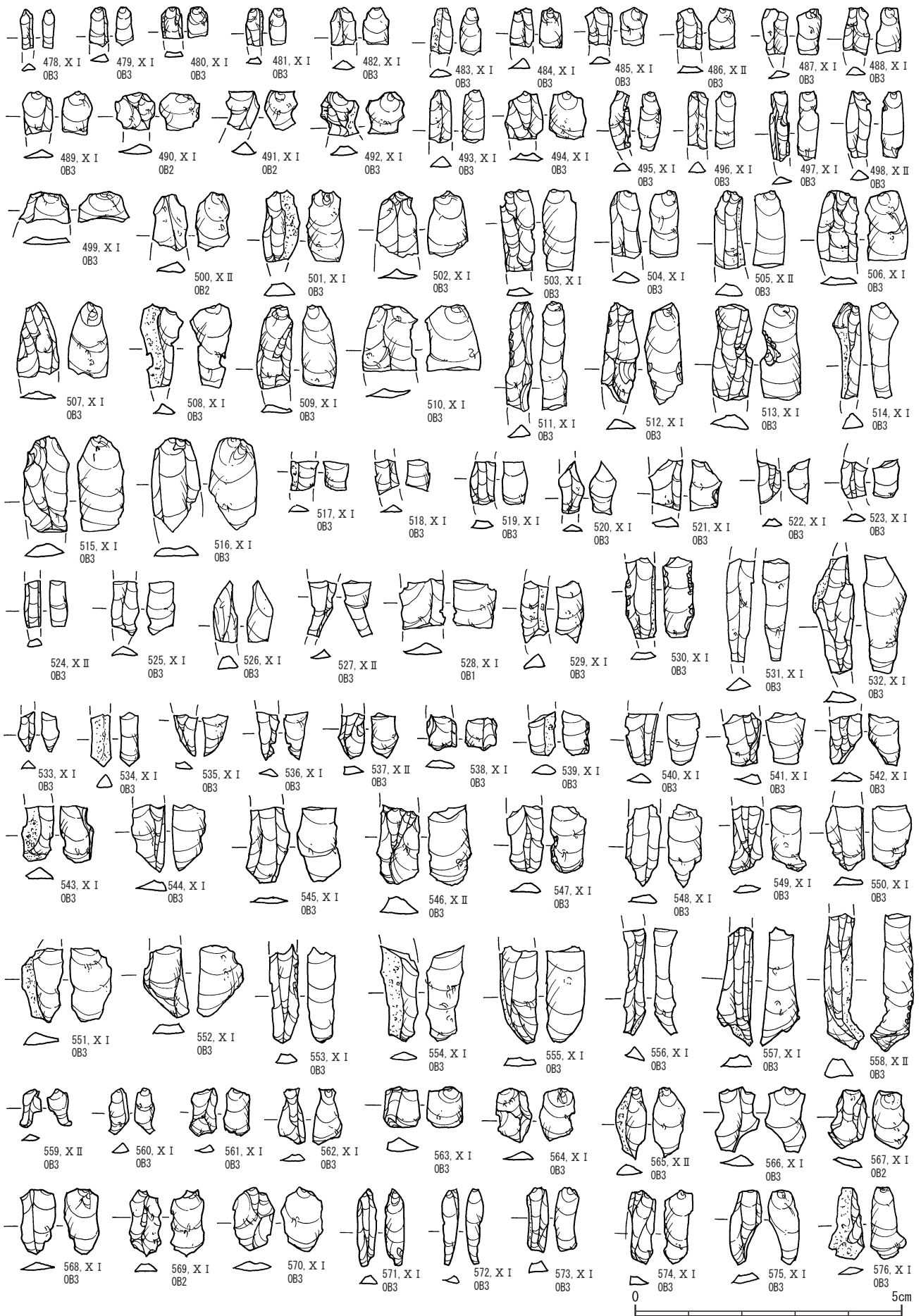
第541図 第三文化層第11エリア石器出土状況図



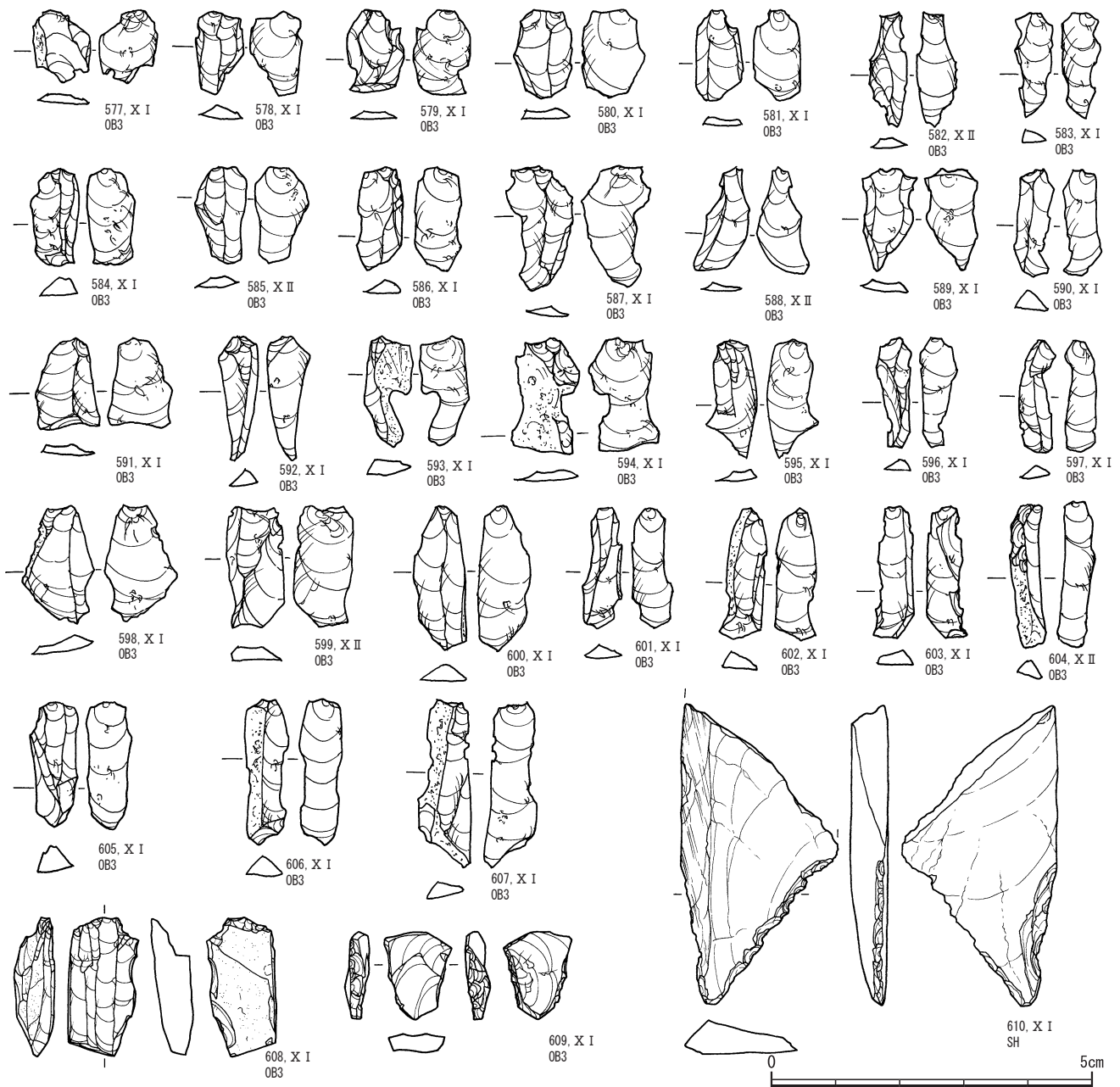
第542図 第三文化層第11エリア第17ブロック出土石器実測図



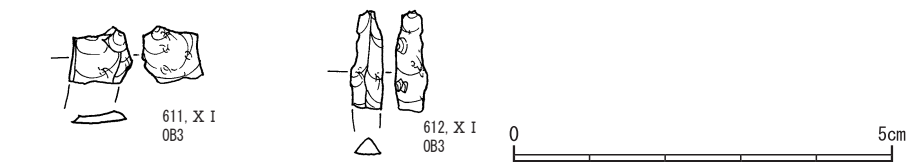
第543図 第三文化層第11エリア出土石器実測図



第545図 第三文化層第12エリア第18ブロック出土石器実測図(1)



第546図 第三文化層第12エリア第18ブロック出土石器実測図(2)



第547図 第三文化層第12エリア出土石器実測図

の形状にも特徴が指摘でき、総じて細身(4mm)で長身を呈している。一方、第12ブロックの細石刃石材は在地石材の黒曜石Ⅲ類に限られる。

第13ブロックの細石刃核(357)は左側面、底面に先行する細石刃作業面が残され、底面は右側面を打面とし、左側面は最終作業面と打面を共有している。358も左側面は底面を、底面は正面を打面とした先行する細石刃作業面を残し、最終段階で上面を新に打面設定し、正面作業面を確保している。両石核からは、やや幅広の細石刃が生産されている。使用石

材は、黒曜石Ⅲ類である。

第14ブロックは黒曜石Ⅲ類を使用し、363の石鏃の断面は分厚く残される。第15ブロックの379・380の細石刃核は黒曜石Ⅲ類、細石刃は黒曜石Ⅰ類と黒曜石Ⅲ類が混在する。379は細身の角礫を素材に、打面が先行した細石刃作業面となる。380も同様の素材を選択し、底面に正面を打面とした先行する細石刃作業面が残される。

ブロック外の石鏃(433)は玉髓を使用している。434は石鏃未製品と判断しているが黒曜石Ⅱ類を使用している。細石

第101表 第三文化層第9エリア出土石器観察表(3)

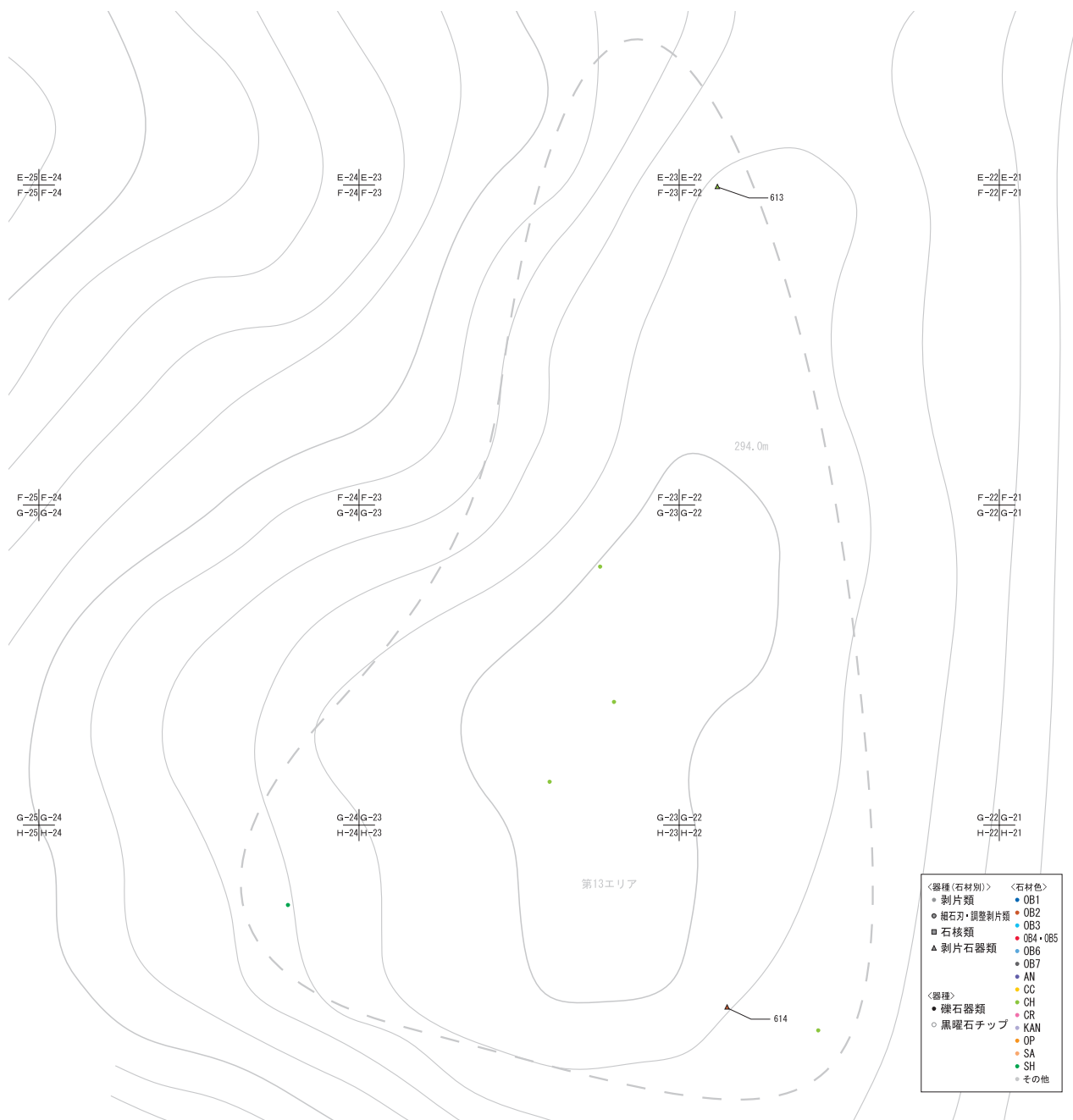
挿入No	図No	エリア	フロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
537	404	A09	B00	細石刃	-	OB3	6.6	5.5	1.5	0.04	●7700(う-20/X)
537	405	A09	B00	細石刃	-	OB3	5.5	4.4	1.1	0.03	●7663(え-20/Xa)
537	406	A09	B00	細石刃	-	OB3	7.2	4.1	1.1	0.03	●7821(う-20/Xb)
537	407	A09	B00	細石刃	-	OB3	10.7	5.2	1.1	0.02	●7462(え-21/Xa)
537	408	A09	B00	細石刃	-	OB3	10.5	5.7	2.4	0.06	●7456(う-21/Xb)
537	409	A09	B00	細石刃	-	OB3	10.2	7.1	1.3	0.08	●7964(う-20/Xb)
537	410	A09	B00	細石刃	-	OB3	13.3	8.5	2.4	0.2	●7965(う-20/X I a)
537	411	A09	B00	細石刃	-	OB3	11.5	4.2	2	0.03	●7704(う-20/Xa)
537	412	A09	B00	細石刃	-	OB3	12.8	5.6	3.1	0.14	●7726(う-20/Xa)
537	413	A09	B00	細石刃	-	OB3	15.5	5.8	2.4	0.1	●7682(う-20/Xa)
537	414	A09	B00	細石刃	-	OB3	13.1	6.9	1.8	0.09	●7749(う-20/Xb)
537	415	A09	B00	細石刃	-	OB3	17.9	6.6	2.2	0.13	●7928(え-20/X I a)
537	416	A09	B00	細石刃	-	OB6	13.1	5.6	2	0.09	●7655(う-20/Xb)
537	417	A09	B00	細石刃	-	OB3	13.9	5.2	1.8	0.11	●8058(え-21/X I a)
537	418	A09	B00	細石刃	-	OB3	14.9	5.4	1.6	0.06	●10193(う-20/X I)
537	419	A09	B00	細石刃	-	OB3	14.4	6.6	2.8	0.14	●8074(う-21/X I a)
537	420	A09	B00	細石刃	-	OB1	16.2	5.3	2	0.09	●7703(う-20/Xa)
537	421	A09	B00	細石刃	-	OB3	20.4	6.4	4.2	0.36	●7479(え-21/Xa)
537	422	A09	B00	細石刃	-	OB3	18.4	4.4	2.5	0.1	●8033(う-20/X I a)
537	423	A09	B00	細石刃	-	OB3	19.2	6.2	2.3	0.08	●7730(う-20/Xa)
537	424	A09	B00	細石刃	-	OB3	13	7.1	1.7	0.12	●7482(え-21/Xa)
537	425	A09	B00	細石刃	-	OB1	10.2	6.7	1.4	0.06	●7779(う-20/Xa)
537	426	A09	B00	細石刃	-	OB1	9.1	9.3	1.2	0.09	●8020(う-20/X I a)
537	427	A09	B00	作業面再生剥片	-	OB1	8.1	12.1	3	0.26	●8077(う-19/X I)
537	428	A09	B00	細石刃	-	OB3	14.5	8.5	2.4	0.2	●7662(え-20/Xa)
537	429	A09	B00	細石刃	-	SH	19.3	8.1	2.9	0.28	●8015(う-20/X I a)
537	430	A09	B00	作業面再生剥片	-	OB3	17.6	7.7	3.6	0.31	●7667(え-20/Xb)
537	431	A09	B00	細石刃核	-	OB3	17.5	8.7	10.5	1.3	●7714(う-20/Xa)
537	432	A09	B00	細石刃核	-	OB3	16.9	10.3	10	1.1	●7656(う-20/Xb)
537	433	A09	B00	石鏃	-	CC	8.8	8.8	2	0.12	●7483(え-21/Xa)
537	434	A09	B00	石鏃	未製品	OB2	16.6	13	6.8	1.3	●7817(う-21/Xa)
537	435	A09	B00	細石刃核	-	OB2	14.2	18.4	6.6	2	●7971(う-20/X I a)
537	436	A09	B00	ブランク	-	OB2	17.4	17.3	14.5	3.8	●7959(え-20/X I b)
537	437	A09	B00	ブランク	-	OB1	19.4	23.3	23.5	8.3	●8080(う-18/X)
537	438	A09	B00	石核	-	SH2	40.7	111.4	19	110	●8076(う-19/X I)
538	439	A09	B00	剥片	-	OB2	32.1	24.4	8.1	4.9	●8007(う-20/X I a)
538	440	A09	B00	ブランク	-	OB1	18.4	25.7	13.1	5.7	●7943(え-20/X I a)
538	441	A09	B00	掻器	-	OB2	55.9	36.2	16	30	●7737(う-20/Xb)
538	442	A09	B00	磨石	/蔽	SA	78	72.3	42.8	340	●7670(う-20/Xb)
538	443	A09	B00	磨石	-	KAN	118.6	82.6	58.4	750	●7442(え-21/Xa)

第102表 第三文化層第10・第11エリア出土石器観察表

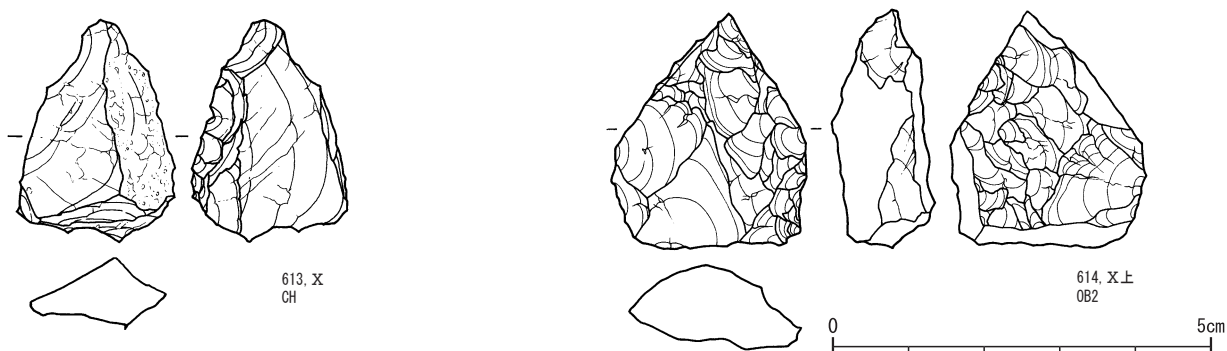
挿入No	図No	エリア	フロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
540	444	A10	B00	細石刃	-	OB1	14.3	5.4	1.7	0.08	◎10366(あ-16/X I)
540	445	A10	B00	石鏃	未製品	OB3	20.2	17.3	3.7	1	◎20788(え-15/X)
540	446	A10	B00	微細剥片	-	SH1	18.4	29.4	6.9	2.5	◎20785(え-15/X)
542	447	A11	B17	細石刃	-	OB3	10.4	6.4	2.1	0.12	◎23482(あ-15/X I)
542	448	A11	B17	細石刃	-	OB3	12.8	4.8	1.5	0.1	◎23485(あ-15/X I)
542	449	A11	B17	細石刃	-	OB3	14.5	7.3	1.6	0.14	◎20888(あ-15/X I上)
542	450	A11	B17	細石刃	-	OB3	7.7	5	1.5	0.04	◎20885(あ-15/X I上)
542	451	A11	B17	細石刃	-	OB3	8.5	4.8	1.1	0.05	◎20896(あ-15/X I上)
542	452	A11	B17	細石刃	-	OB3	10.1	4.5	1.6	0.08	◎20900(あ-15/X I上)
542	453	A11	B17	細石刃	-	OB3	12.7	8.3	1.6	0.16	◎20897(あ-15/X下)
542	454	A11	B17	細石刃	-	OB3	13.5	7.6	2	0.1	◎20899(あ-15/X下)
542	455	A11	B17	細石刃	-	OB3	6	6.4	1.6	0.06	◎20887(あ-15/X I上)
542	456	A11	B17	細石刃	-	OB3	7.1	7.9	2	0.07	◎20902(あ-15/X下)
542	457	A11	B17	細石刃	-	OB3	11	6.7	1.8	0.08	◎20903(あ-15/X I)
542	458	A11	B17	細石刃	-	OB3	12.6	6.2	1.7	0.11	◎20877(あ-15/X I)
542	459	A11	B17	細石刃	-	OB3	11	5.5	1	0.04	◎23496(あ-15/X I)
542	460	A11	B17	細石刃	-	OB3	14.9	6.8	2.3	0.14	◎23480(あ-15/X I)
542	461	A11	B17	細石刃	-	OB3	15.7	7.1	4.7	0.22	●20886(あ-15/X)
542	462	A11	B17	細石刃	-	OB3	13.1	7.2	2.5	0.17	◎23483(あ-15/X I)
542	463	A11	B17	細石刃	-	OB3	14.1	7.5	3.8	0.25	◎20884(あ-15/X I上)
543	464	A11	B00	細石刃	-	OB3	10.9	6.2	2.1	0.08	◎20875(あ-15/X下)
543	465	A11	B00	細石刃	-	OB3	5	7.2	1.6	0.04	◎20865(あ-15/X I上)
543	466	A11	B00	細石刃	-	OB3	7	6	1	0.04	◎23479(あ-15/X I)
543	467	A11	B00	細石刃	-	OB3	8.7	5.9	2.1	0.08	◎13415(あ-14/X I上)
543	468	A11	B00	細石刃	-	OB3	8.4	7	1.6	0.09	◎16568(あ-14/X I)
543	469	A11	B00	細石刃	-	OB3	9	5.8	1	0.04	◎13416(あ-14/X I上)
543	470	A11	B00	細石刃	-	OB3	7.8	8	1.4	0.1	◎23476(あ-15/X I)
543	471	A11	B00	細石刃	-	OB3	11.7	4.9	1.3	0.06	◎13409(あ-14/X I)
543	472	A11	B00	細石刃	-	OB3	14.5	6.4	3.2	0.16	◎13419(あ-14/X I上)
543	473	A11	B00	細石刃	-	OB3	15.5	4.5	3	0.14	◎23477(あ-15/X I)
543	474	A11	B00	作業面再生剥片	-	OB3	12	9.9	3.4	0.31	◎20869(あ-15/X I上)
543	475	A11	B00	楔形石器	-	OB3	20.6	13.4	8.7	2.2	◎20806(え-15/X下)
543	476	A11	B00	削器	-	OB3	29.2	33.3	14.9	9	◎20805(え-15/X)
543	477	A11	B00	剥片	-	SH1	36.7	32.5	8.1	6.4	◎20802(え-15/X)

第103表 第三文化層第12エリア出土石器観察表(1)

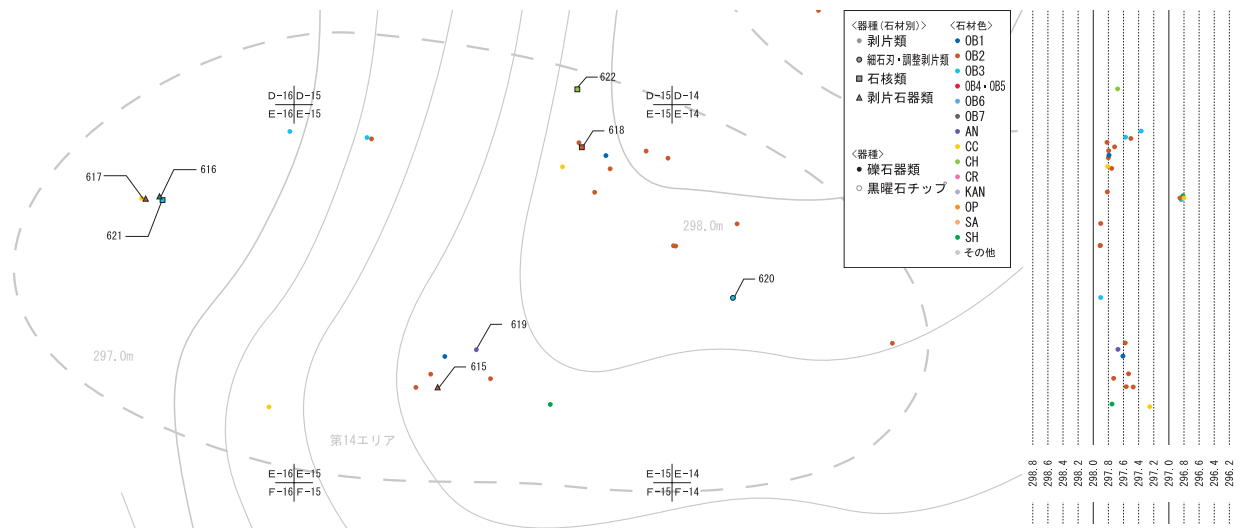
挿入No	図No	エリア	フロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
545	478	A12	B18	細石刃	-	OB3	7.5	2.5	1.1	0.01	◎23894(え-12/X I)
545	479	A12	B18	細石刃	-	OB3	7.4	3.5	1.1	0.05	◎23888(え-12/X I)
545	480	A12	B18	細石刃	-	OB3	6	4	0.7	0.01	◎23918(え-12/X I)
545	481	A12	B18	細石刃	-	OB3	7	3.4	0.9	0.01	◎20753(え-12/X I)
545	482	A12	B18	細石刃	-	OB3	7.2	5.1	1.1	0.03	◎20783(え-12/X I)
545	483	A12	B18	細石刃	-	OB3	9	4.2	1	0.02	◎19964(え-12/X I)
545	484	A12	B18	細石刃	-	OB3	7.7	4.4	1.3	0.03	◎23950(あ-12/X I)
545	485	A12	B18	細石刃	-	OB3	7.4	5.3	1.6	0.06	◎23941(あ-12/X I)
545	486	A12	B18	細石刃	-	OB3	8	5.2	1.1	0.04	◎25032(え-12/X II)
545	487	A12	B18	細石刃	-	OB3	8.8	4.8	1.4	0.04	◎20745(え-12/X I)
545	488	A12	B18	細石刃	-	OB3	8.8	4.8	1.7	0.08	◎23892(え-12/X I)
545	489	A12	B18	細石刃	-	OB3	8.4	5.9	2	0.08	◎19914(あ-12/X I)
545	490	A12	B18	細石刃	-	OB2	7.2	7.7	1.8	0.09	◎23846(え-12/X I)
545	491	A12	B18	細石刃	-	OB2	7.6	6.3	1.8	0.05	◎23807(え-13/X I)
545	492	A12	B18	細石刃	-	OB3	8.1	7.3	2	0.07	◎20771(え-12/X I)
545	493	A12	B18	細石刃	-	OB3	10.1	4.3	2.1	0.09	◎23919(え-12/X I)
545	494	A12	B18	細石刃	-	OB3	9.2	7.1	1.3	0.08	◎23872(え-12/X I)
545	495	A12	B18	細石刃	-	OB3	11.3	4.4	1.1	0.04	◎23958(あ-12/X I)
545	496	A12	B18	細石刃	-	OB3	10.9	4	1.8	0.06	◎19913(あ-12/X I)
545	497	A12	B18	細石刃	-	OB3	13.2	4.2	1.1	0.04	◎13879(え-12/X I)
545	498	A12	B18	細石刃	-	OB3	12.8	4.4	1.9	0.07	◎25035(え-12/X II)
545	499	A12	B18	細石刃	-	OB3	6	9.8	2.2	0.09	◎23940(あ-12/X I)
545	500	A12	B18	細石刃	-	OB2	11.1	6.6	1.7	0.11	◎25017(え-12/X II)
545	501	A12	B18	細石刃	-	OB3	13.6	7.2	2.7	0.21	◎23921(え-12/X I)
545	502	A12	B18	細石刃	-	OB3	12.5	7.7	2.2	0.15	◎19931(あ-12/X I)
545	503	A12	B18	細石刃	-	OB3	15.4	6.5	1.8	0.12	◎23815(え-13/X I)
545	504	A12	B18	細石刃	-	OB3	12.7	5.6	1.3	0.07	◎19933(あ-12/X I)
545	505	A12	B18	細石刃	-	OB3	14.6	6.2	1.7	0.14	◎25008(え-12/X II)
545	506	A12	B18	細石刃	-	OB3	13.3	8.1	7.6	0.23	◎20776(え-12/X I)
545	507	A12	B18	細石刃	-	OB3	14.5	7.7	2.1	0.18	◎19936(あ-12/X I)
545	508	A12	B18	細石刃	-	OB3	16	8	2	0.18	◎19965(え-12/X I)
545	509	A12	B18	細石刃	-	OB3	15.6	6.7	2	0.13	◎23855(あ-12/X I)
545	510	A12	B18	細石刃	-	OB3	12.6	10.6	2.6	0.24	◎19917(あ-12/X I)
545	511	A12	B18	細石刃	-	OB3	20.5	5.2	2.4	0.14	◎23875(え-12/X I)
545	512	A12	B18	細石刃	-	OB3	19.3	7.4	2	0.17	◎23820(え-13/X I)
545	513	A12	B18	細石刃	-	OB3	18.2	7.8	2.5	0.24	◎23856(え-12/X I)
545	514	A12	B18	細石刃	-	OB3	18.1	5.8	4.1	0.21	◎23832



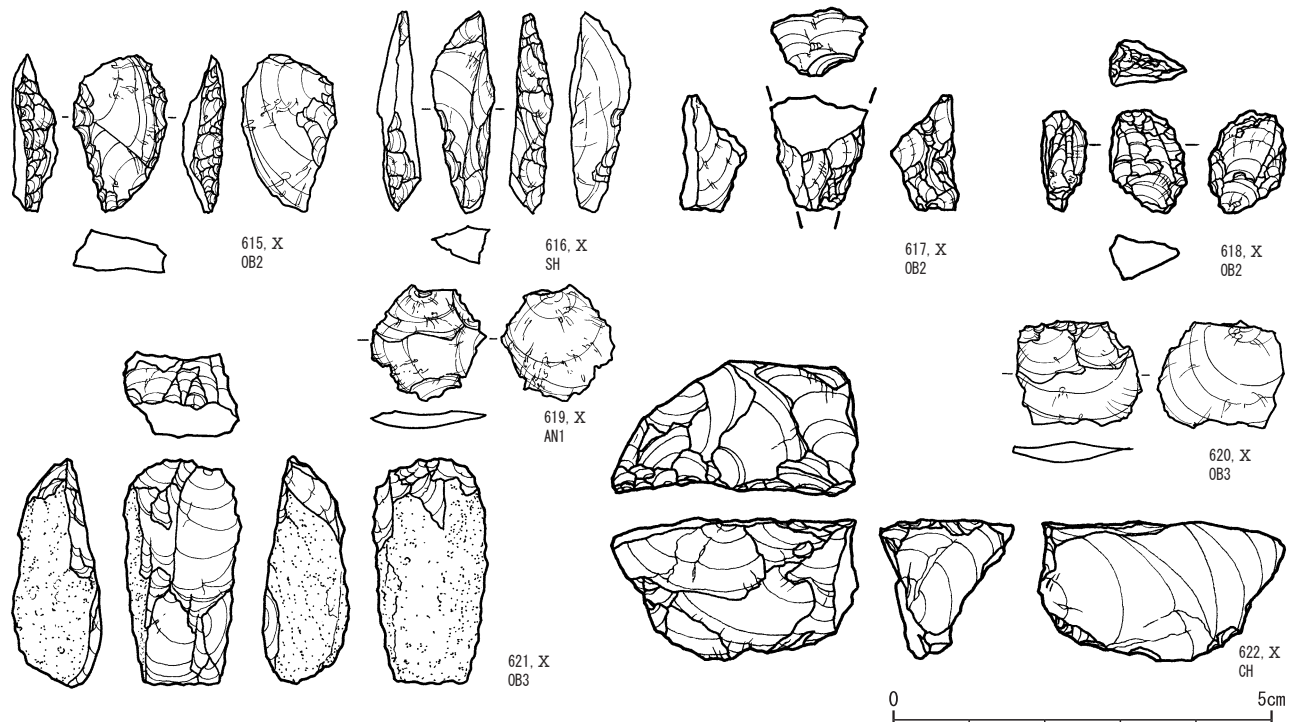
第548図 第Ⅲ文化層第13エリア石器出土状況図



第549図 第Ⅲ文化層第13エリア出土石器実測図



第550図 第三文化層第14エリア石器出土状況図



第551図 第三文化層第14エリア出土石器実測図

刃核(431)は狭小な角礫素材、432は剥片素材で左側面は剥離面をそのまま残し、右側面にも細石刃作業面が確保される。2点とも、黒曜石Ⅲ類を使用する。細石刃核ブランク(437)は黒曜石Ⅰ類、436は黒曜石Ⅱ類を使用し、両面加工様の石核整形の意図が感じられる。441は黒曜石Ⅱ類を用いた搔器で、右側面の刃部加工剥離は深く進行する。

第10エリア

桐木遺跡あ・い-15・16区に分布し、出土量は少ないが、頁岩・玉髄・黒曜石Ⅰ類・黒曜石Ⅱ類と使用石材は豊富である。

445は黒曜石Ⅲ類で、石鏃未製品と判断しているが、背面の大剥離面は自然剥離とみられローリングが著しい。

第11エリア

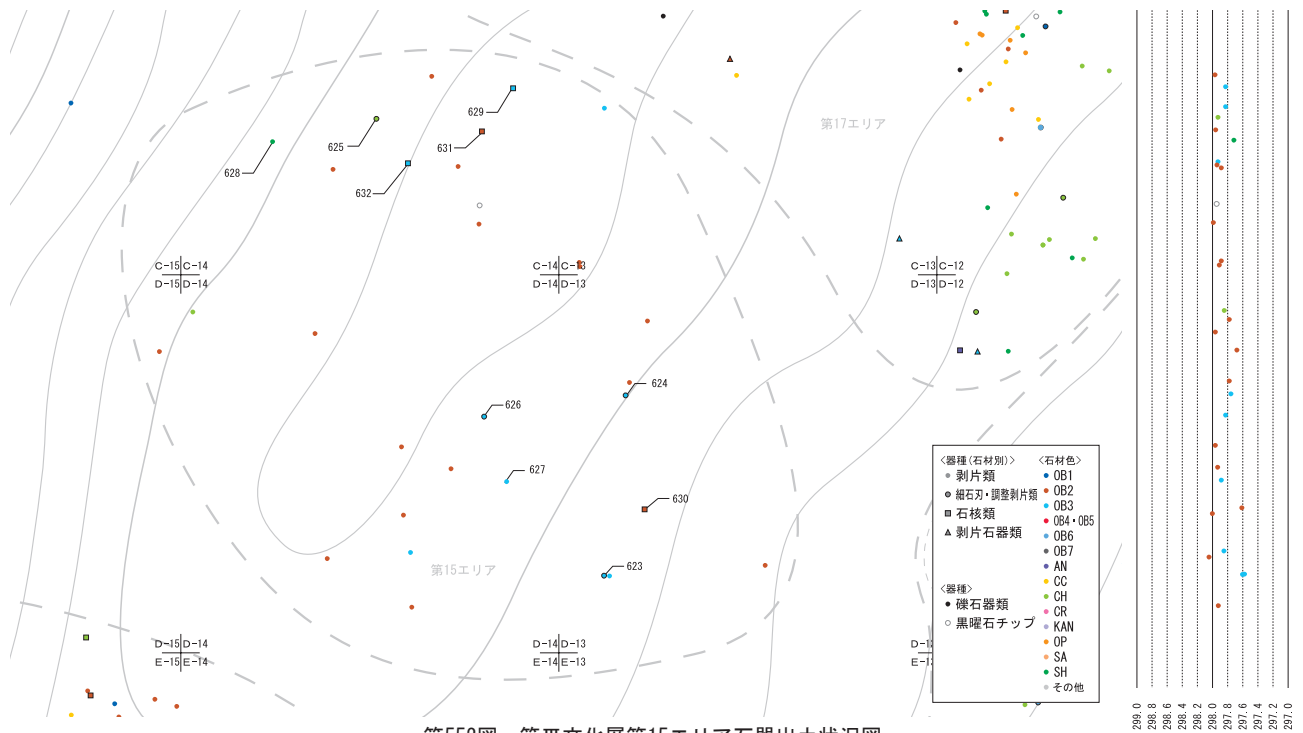
桐木遺跡あ・い-14・15区に分布し、黒曜石Ⅲ類が集中す

る第17ブロックを中心に構成する。なお、エリア内は黒曜石Ⅲ類を主体に、玉髄・黒曜石Ⅱ類が数点含まれる。

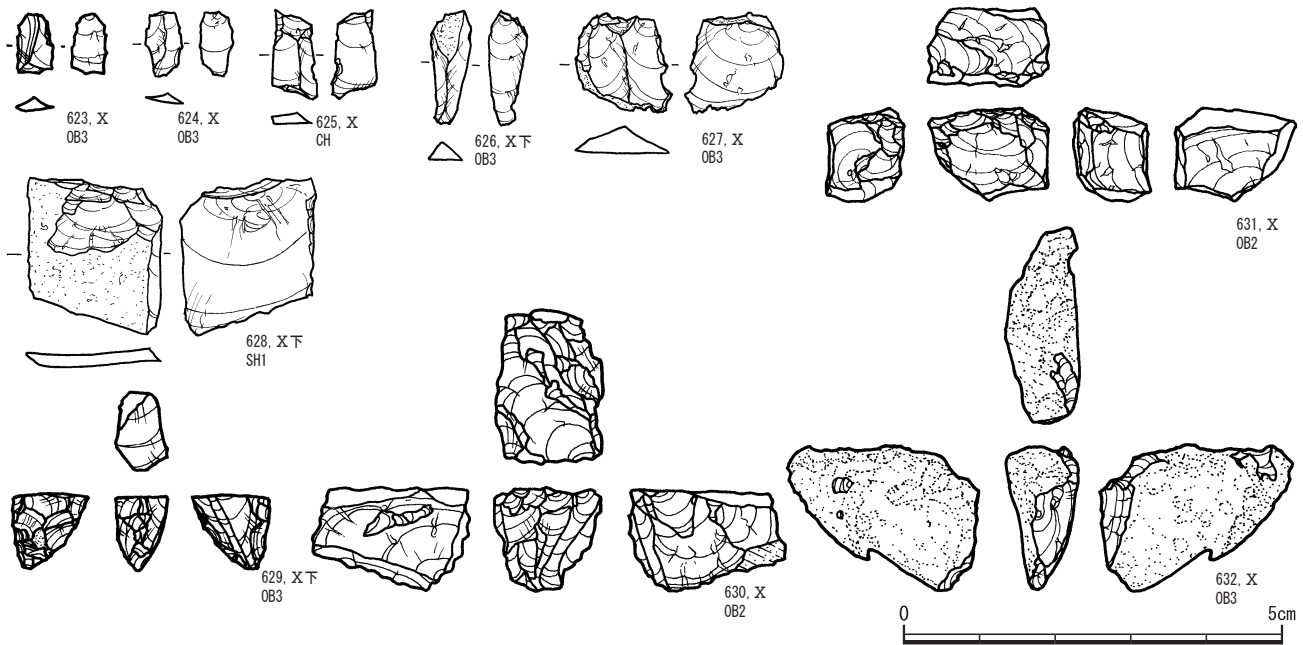
第17ブロックの細石刃は黒曜石Ⅲ類、ブロック外の475は楔形石器、476は削器で黒曜石Ⅲ類、剥片(477)は頁岩を使用している。細石刃は分割され中間部が目立つ。474は作業面再生剥片とみられる。

第12エリア

桐木遺跡あ・い-12・13区に分布し、エリアの中心の第18ブロックでは、調整剥片を含め130点の細石刃が確認され、全て黒曜石Ⅲ類が使用されている。細石刃の分割率は高く、中間部の残存は低い。分割された細石刃は、幅5~10mm、長さ20mm以上に集約され、559~576の小型の一群は調整剥片の可能性を示している。細石刃核(608)は角礫素材で黒曜石Ⅲ類を使用し、これ以上の打面確保は困難とみられる。細



第552図 第Ⅲ文化層第15エリア石器出土状況図



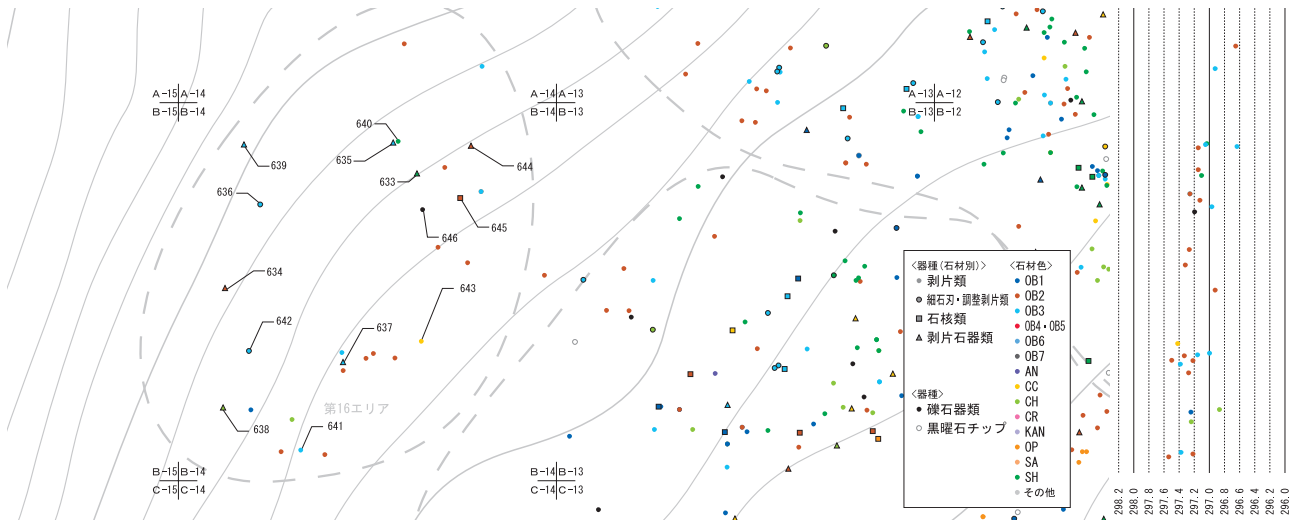
第553図 第Ⅲ文化層第15エリア出土石器実測図

第104表 第Ⅲ文化層第12エリア出土石器観察表 (2)

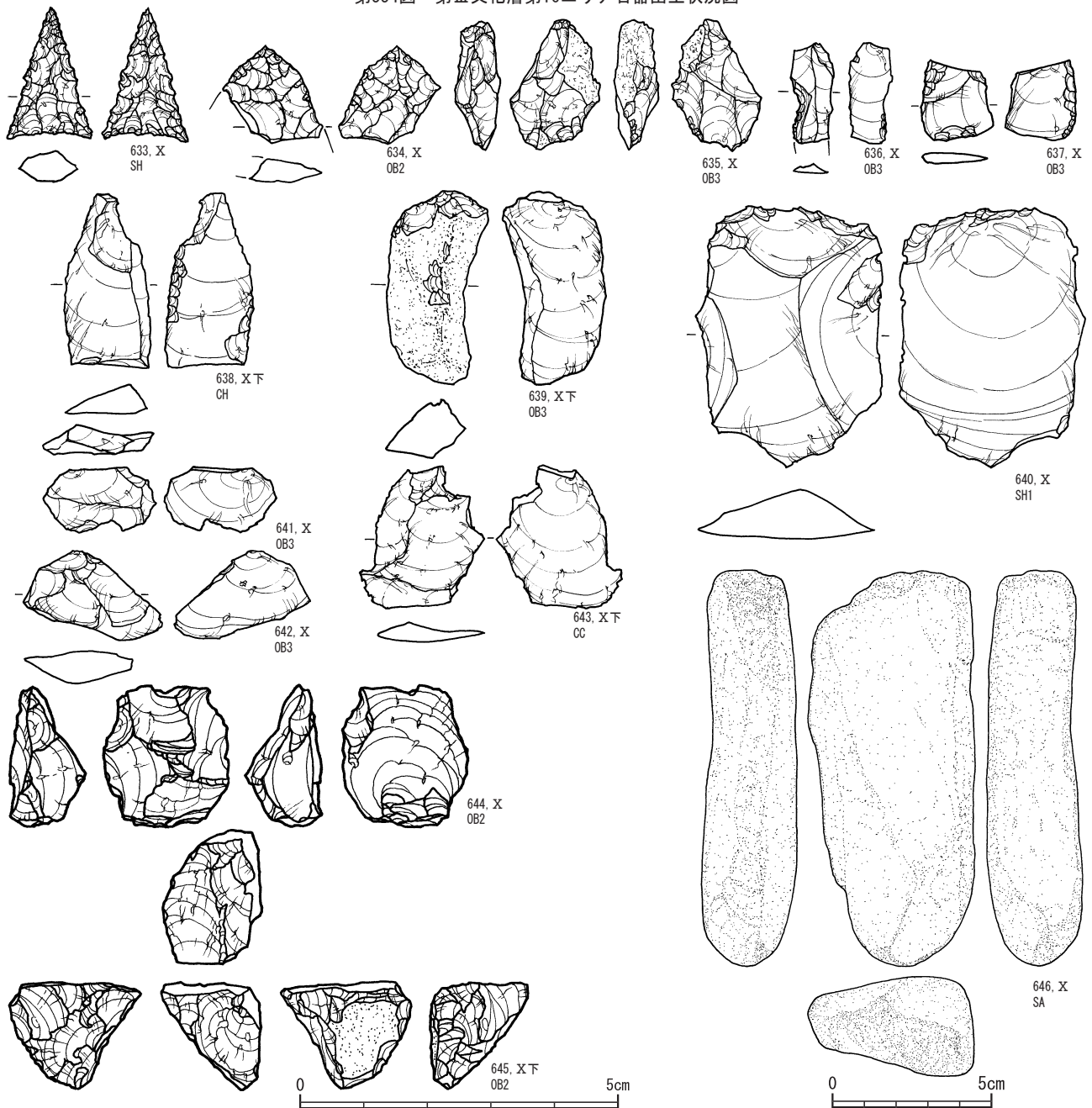
排図No	図No	エリア	フロク	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
545	555	A12	B18	細石刃	-	OB3	18.2	7.5	3.2	0.33	◎19905(あ-12/X I)
545	556	A12	B18	細石刃	-	OB3	20.3	4.6	2.8	0.15	◎19962(い-12/X I)
545	557	A12	B18	細石刃	-	OB3	22.5	7.5	6.7	0.44	◎23900(い-12/X I)
545	558	A12	B18	細石刃	-	OB3	26	8.1	6	0.49	◎24991(い-13/X II)
545	559	A12	B18	細石刃	-	OB3	7.1	4.8	1.1	0.02	◎25031(い-12/X II)
545	560	A12	B18	細石刃	-	OB3	8.8	4	1.2	0.02	◎23907(い-12/X I)
545	561	A12	B18	細石刃	-	OB3	9.1	5.1	1	0.03	◎19970(い-12/X I)
545	562	A12	B18	細石刃	-	OB3	10.7	5.7	1.4	0.05	◎23876(い-12/X I)
545	563	A12	B18	細石刃	-	OB3	7.8	6.9	2.9	0.13	◎23952(あ-12/X I)
545	564	A12	B18	細石刃	-	OB3	10.1	6.9	1.4	0.07	◎23922(あ-12/X I)
545	565	A12	B18	細石刃	-	OB3	13.4	6.2	1.9	0.08	◎25043(い-13/X II)
545	566	A12	B18	細石刃	-	OB3	12.4	7.8	1.7	0.12	◎23813(い-12/X I)
545	567	A12	B18	細石刃	-	OB2	11.1	7	2	0.11	◎23831(い-12/X I)
545	568	A12	B18	細石刃	-	OB2	12.6	6.8	1.7	0.09	◎19939(あ-12/X I)
545	569	A12	B18	細石刃	-	OB2	12.6	6.5	2	0.12	◎23923(い-12/X I)
545	570	A12	B18	細石刃	-	OB3	12.3	8.1	2.7	0.15	◎23961(あ-12/X I)

第105表 第Ⅲ文化層第12エリア出土石器観察表 (3)

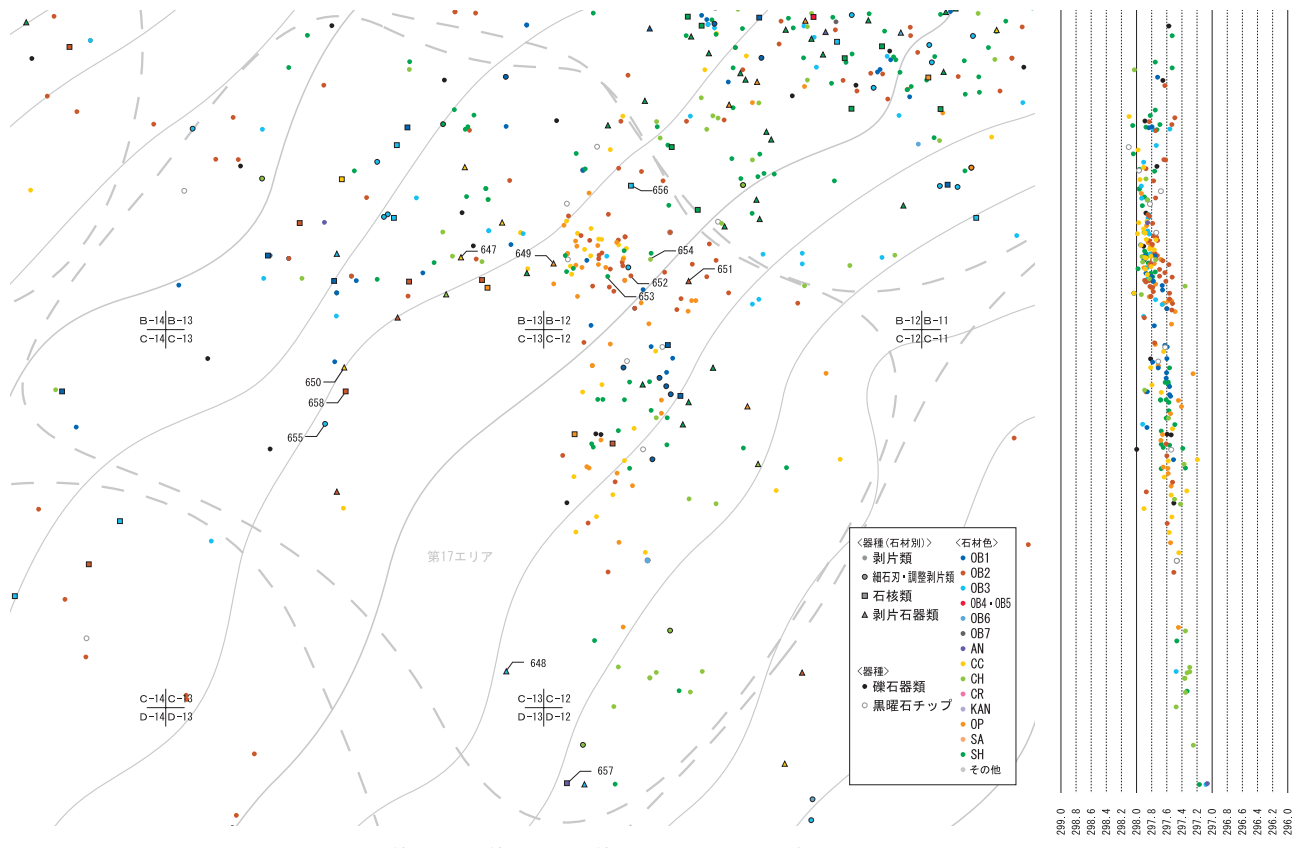
排図No	図No	エリア	フロク	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
545	571	A12	B18	細石刃	-	OB3	14.6	3.8	2	0.07	◎23960(あ-12/X I)
545	572	A12	B18	細石刃	-	OB3	14.4	3.5	1.8	0.04	◎19974(い-12/X I)
545	573	A12	B18	細石刃	-	OB3	12.1	4.8	3.2	0.12	◎23847(い-12/X I)
545	574	A12	B18	細石刃	-	OB3	14	5.6	1.4	0.1	◎23939(あ-12/X I)
545	575	A12	B18	細石刃	-	OB3	14.2	6	2.8	0.11	◎23912(い-12/X I)
545	576	A12	B18	細石刃	-	OB3	13.8	6.8	2	0.09	◎20743(い-12/X I)
546	577	A12	B18	細石刃	-	OB3	11.6	9.3	1.7	0.13	◎23980(あ-12/X I)
546	578	A12	B18	細石刃	-	OB3	13.4	8.3	2.5	0.12	◎23963(あ-12/X I)
546	579	A12	B18	細石刃	-	OB3	13.4	9.1	1.9	0.1	◎23868(い-12/X I)
546	580	A12	B18	細石刃	-	OB3	13.9	10	2.1	0.21	◎23938(あ-12/X I)
546	581	A12	B18	細石刃	-	OB3	14.3	7.5	1.1	0.08	◎19960(い-12/X I)
546	582	A12	B18	細石刃	-	OB3	18	6.5	2	0.1	◎25010(い-12/X II)
546	583	A12	B18	細石刃	-	OB3	16.6	6.3	2.8	0.17	◎23947(あ-12/X I)
546	584	A12	B18	細石刃	-	OB3	15.2	7.7	3	0.18	◎23932(あ-12/X I)
546	585	A12	B18	細石刃	-	OB3	15.2	8.6	2.9	0.18	◎24996(あ-12/X II)
546	586	A12	B18	細石刃	-	OB3	16.5	7.5	3.6	0.21	◎23839(い-12/X I)



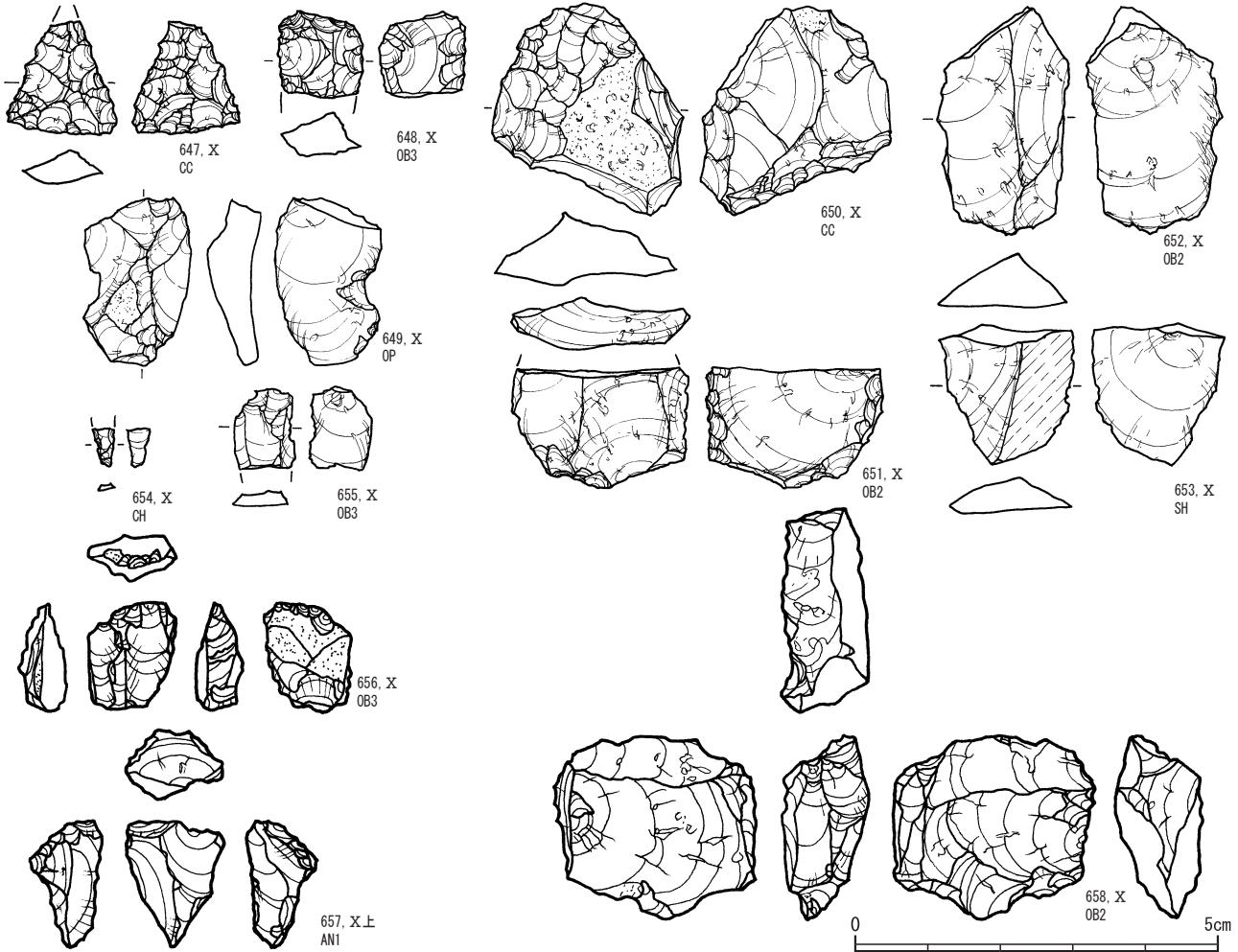
第554図 第三文化層第16エリア石器出土状況図



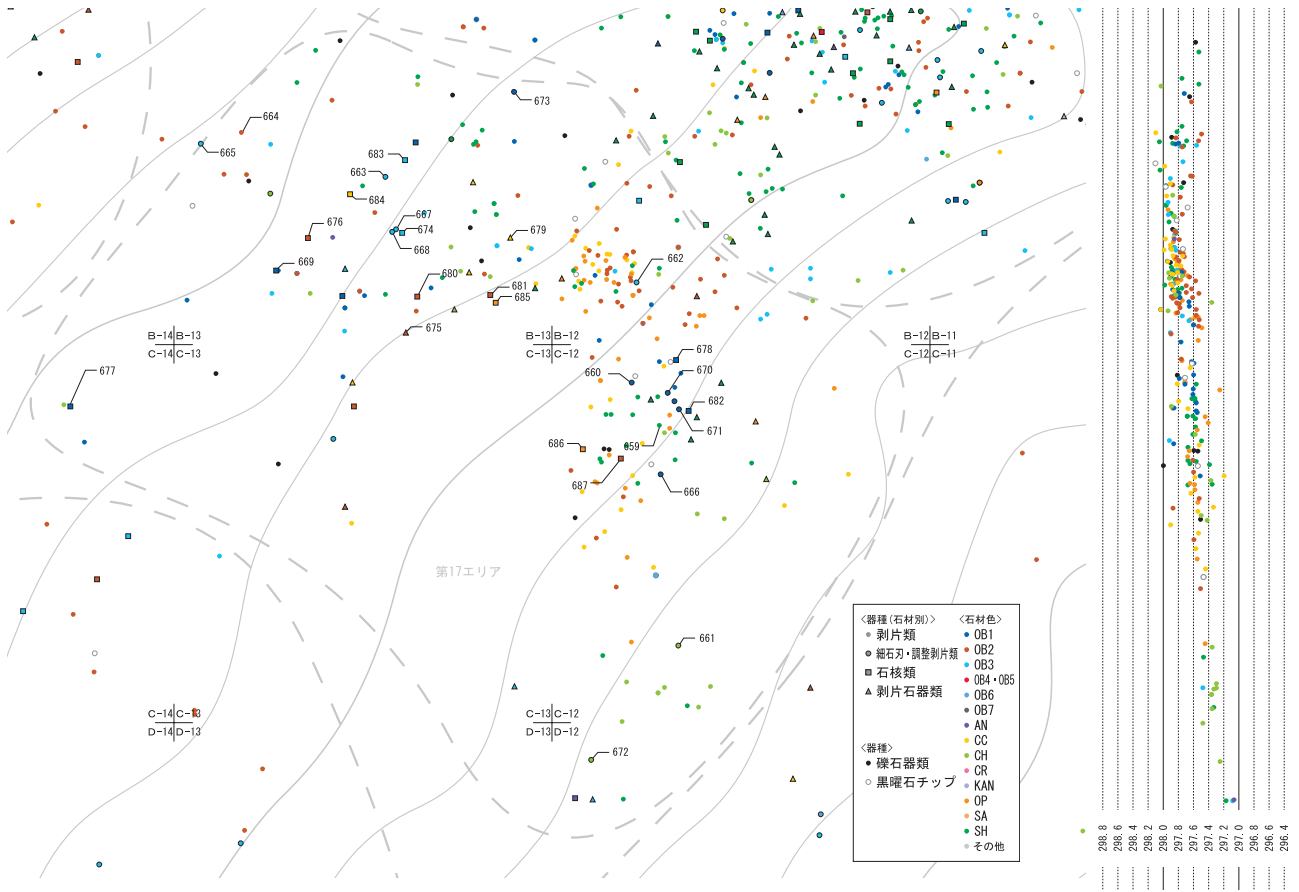
第555図 第三文化層第16エリア出土石器実測図



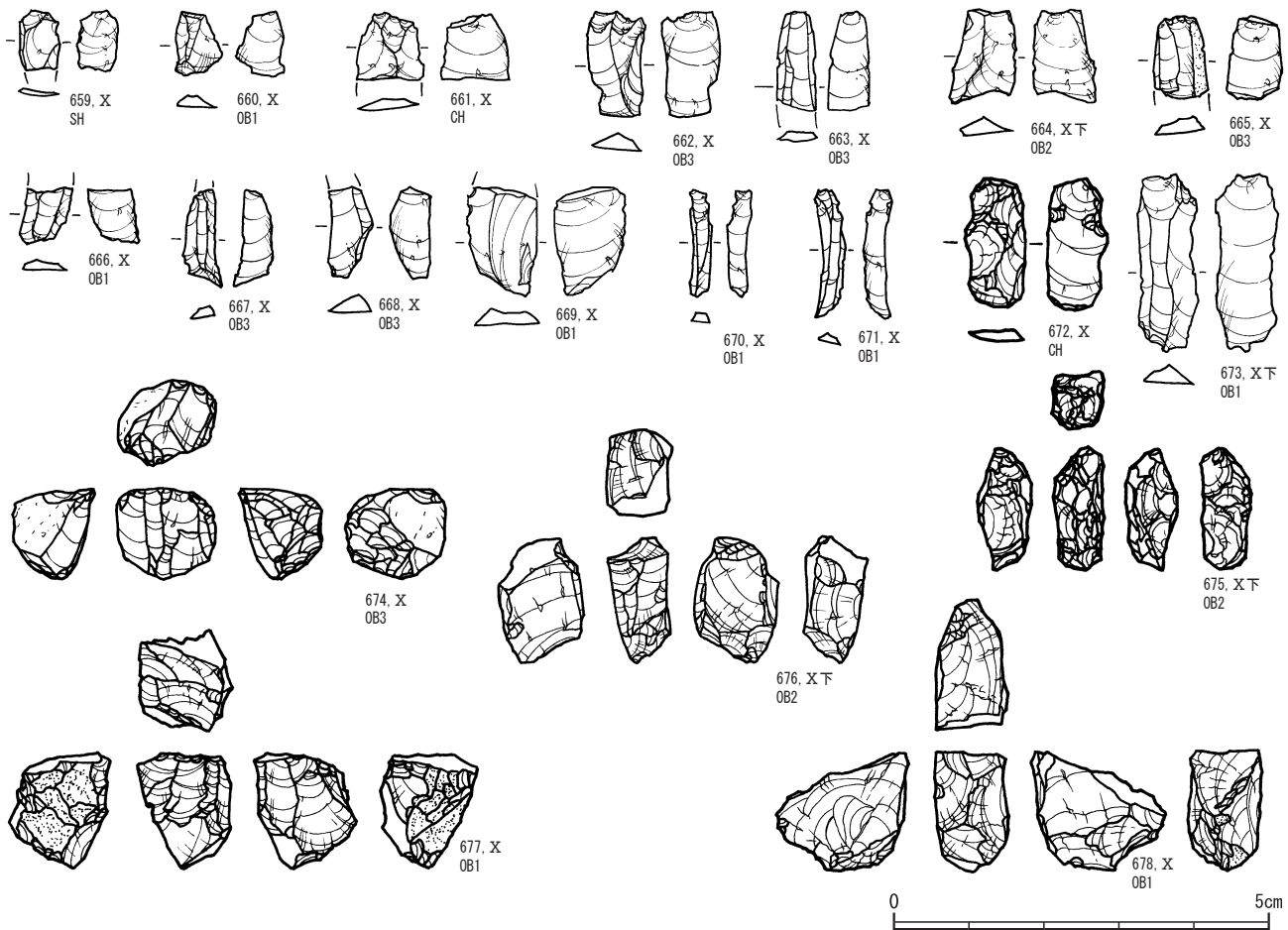
第556図 第三文化層第17エリア石器出土状況図(1)



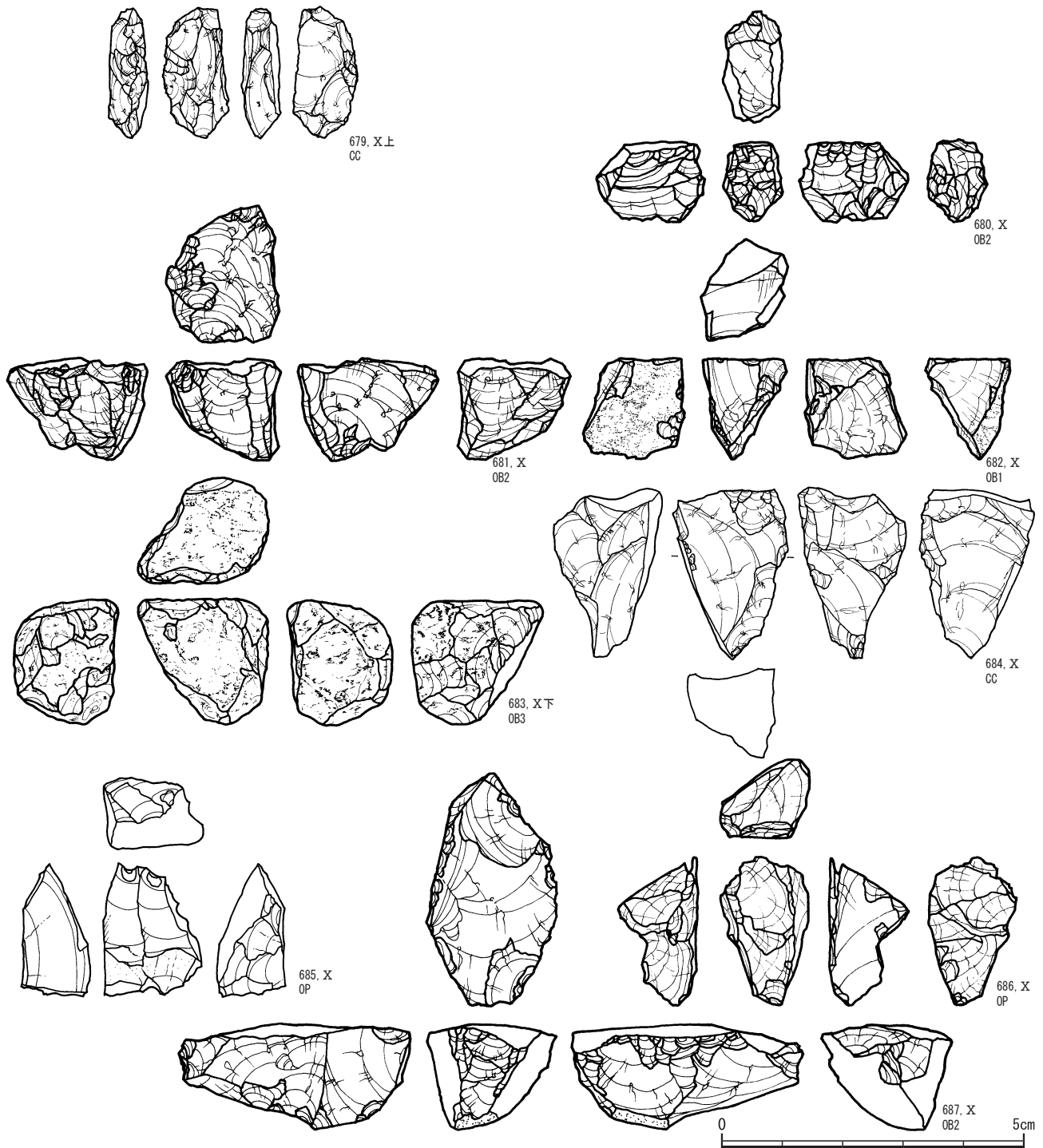
第557図 第三文化層第17エリア出土石器実測図(1)



第558図 第Ⅲ文化層第17エリア石器出土状況図 (2)



第559図 第Ⅲ文化層第17エリア出土石器実測図 (2)



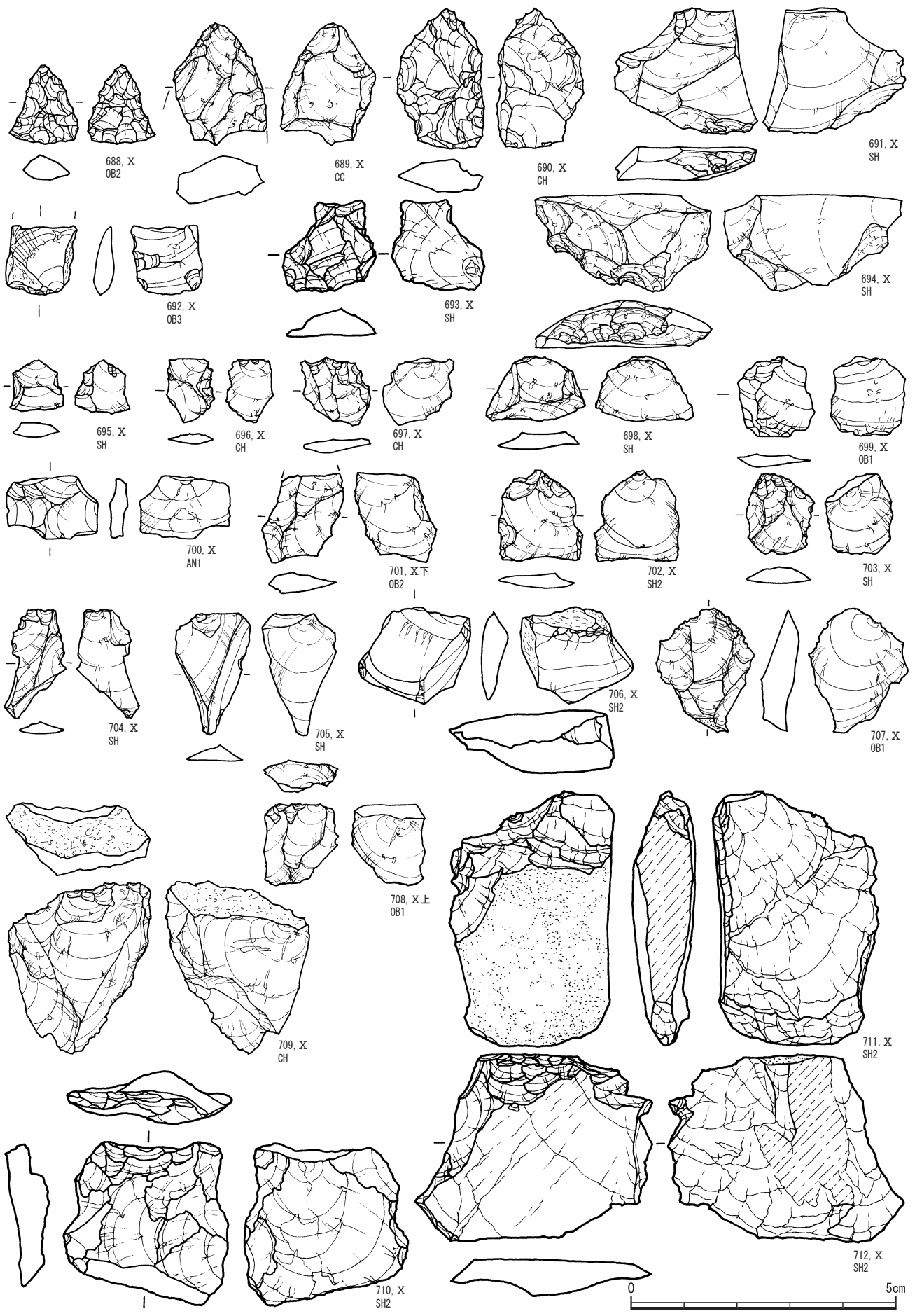
第560図 第三文化層第17エリア出土石器実測図(3)

第106表 第三文化層第12エリア出土石器観察表(4)

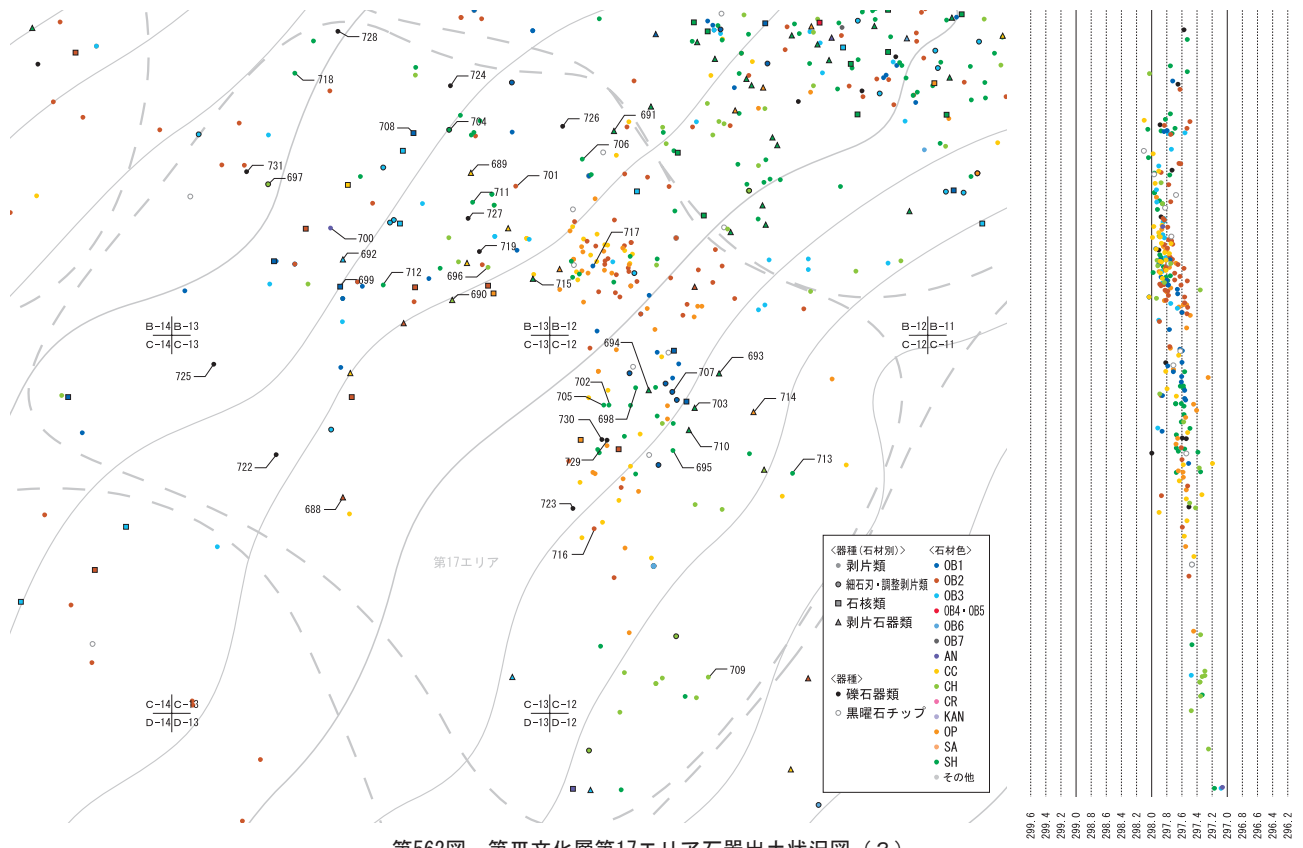
挿入No	図No	エリア	フロック	分類2	分類3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
546	587	A12	B18	細石刃	-	OB3	19.1	11	2.8	0.29	◎20744(Ⅱ-12/X I)
546	588	A12	B18	細石刃	-	OB3	16.9	8.4	2	0.09	◎25004(Ⅱ-12/X II)
546	589	A12	B18	細石刃	-	OB3	16.1	8.5	3	0.17	◎19955(あ-12/X I)
546	590	A12	B18	細石刃	-	OB3	16.7	6.3	3.5	0.22	◎23885(Ⅱ-12/X I)
546	591	A12	B18	細石刃	-	OB3	14.2	10.3	2.1	0.18	◎19957(Ⅱ-12/X I)
546	592	A12	B18	細石刃	-	OB3	19.5	6.9	2.4	0.22	◎23882(Ⅱ-12/X I)
546	593	A12	B18	細石刃	-	OB3	17.3	8	3	0.23	◎23935(あ-12/X I)
546	594	A12	B18	ファーストフレイク	-	OB3	17.9	11.2	2.7	0.34	◎19929(あ-12/X I)
546	595	A12	B18	細石刃	-	OB3	18.7	8.2	2.6	0.19	◎20737(Ⅱ-12/X I)
546	596	A12	B18	細石刃	-	OB3	17.4	6.1	2.3	0.1	◎23927(あ-12/X I)
546	597	A12	B18	細石刃	-	OB3	17.5	5.1	2.2	0.13	◎23816(Ⅱ-12/X I)
546	598	A12	B18	細石刃	-	OB3	18.4	11.5	3.3	0.33	◎23931(あ-12/X I)
546	599	A12	B18	細石刃	-	OB3	19	9.5	4.3	0.56	◎25024(Ⅱ-12/X II)

第107表 第三文化層第12エリア出土石器観察表(5)

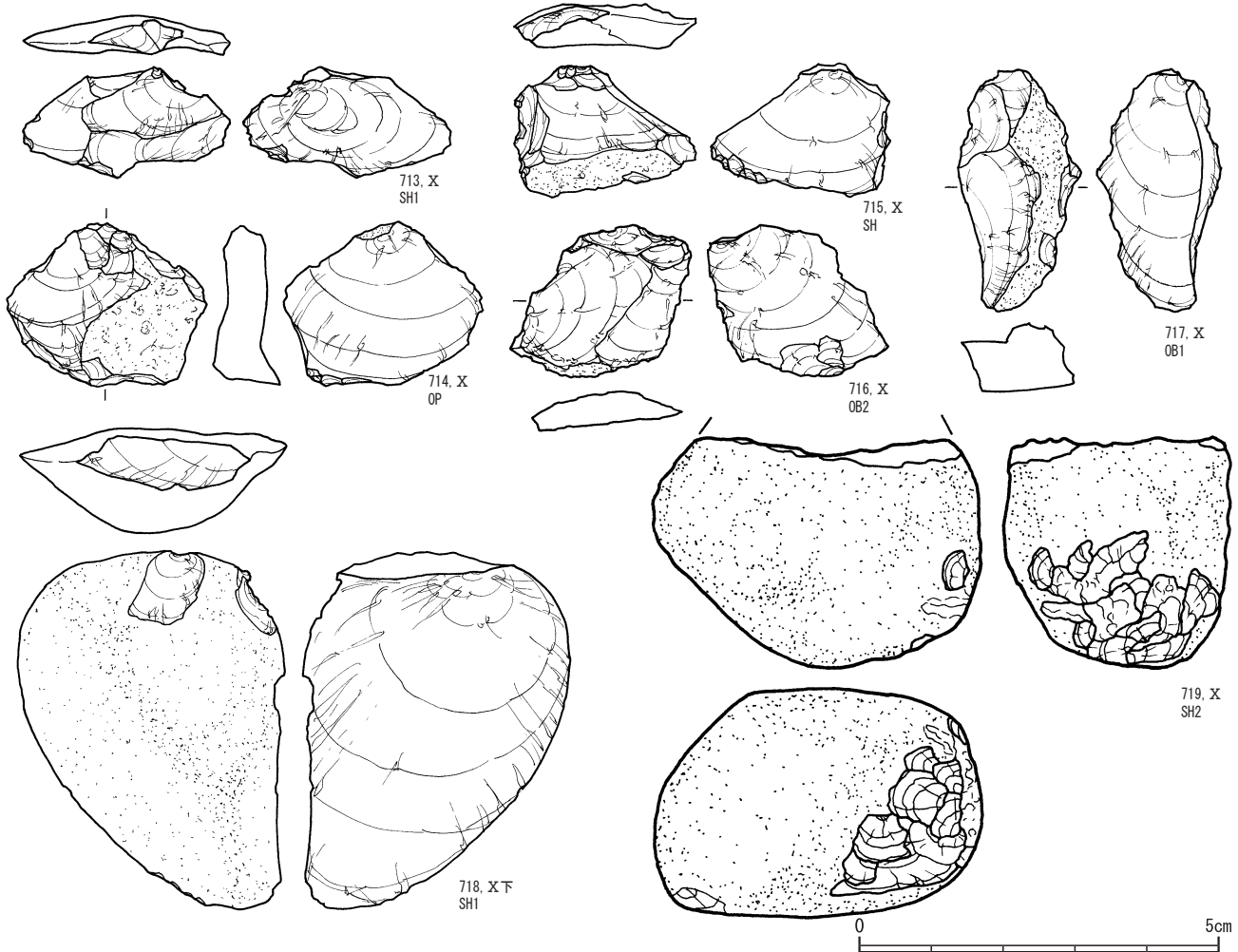
挿入No	図No	エリア	フロック	分類2	分類3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
546	600	A12	B18	細石刃	-	OB3	22.8	8.5	4.2	0.35	◎19980(Ⅱ-12/X I)
546	601	A12	B18	細石刃	-	OB3	19	6.7	2.9	0.19	◎23956(あ-12/X I)
546	602	A12	B18	細石刃	-	OB3	20.9	6.7	2.5	0.2	◎19915(あ-12/X I)
546	603	A12	B18	細石刃	-	OB3	20.7	6.5	3	0.22	◎20752(Ⅱ-12/X I)
546	604	A12	B18	スポール	-	OB3	22.9	6.1	4.8	0.25	◎24964(Ⅱ-13/X II)
546	605	A12	B18	細石刃	-	OB3	20.1	7.3	8	0.42	◎23824(Ⅱ-13/X I)
546	606	A12	B18	細石刃	-	OB3	23	6.9	4.1	0.42	◎23848(Ⅱ-12/X I)
546	607	A12	B18	細石刃	-	OB3	25.9	8.4	6	0.5	◎19975(Ⅱ-12/X I)
546	608	A12	B18	細石刃核	-	OB3	21.7	11.2	6.5	1.4	◎20779(Ⅱ-12/X I)
546	609	A12	B18	台形石器	-	OB3	13.9	10.8	3.1	0.41	◎20754(Ⅱ-12/X I)
546	610	A12	B18	二次加工産物片	-	SH	47	24.5	5.8	5.3	◎19902(あ-12/X I)
547	611	A12	B00	細石刃	-	OB3	7.6	8.2	1.7	0.08	◎23930(あ-13/X I)
547	612	A12	B00	細石刃	-	OB3	13.5	4.5	2.6	0.1	◎13424(あ-13/X I)



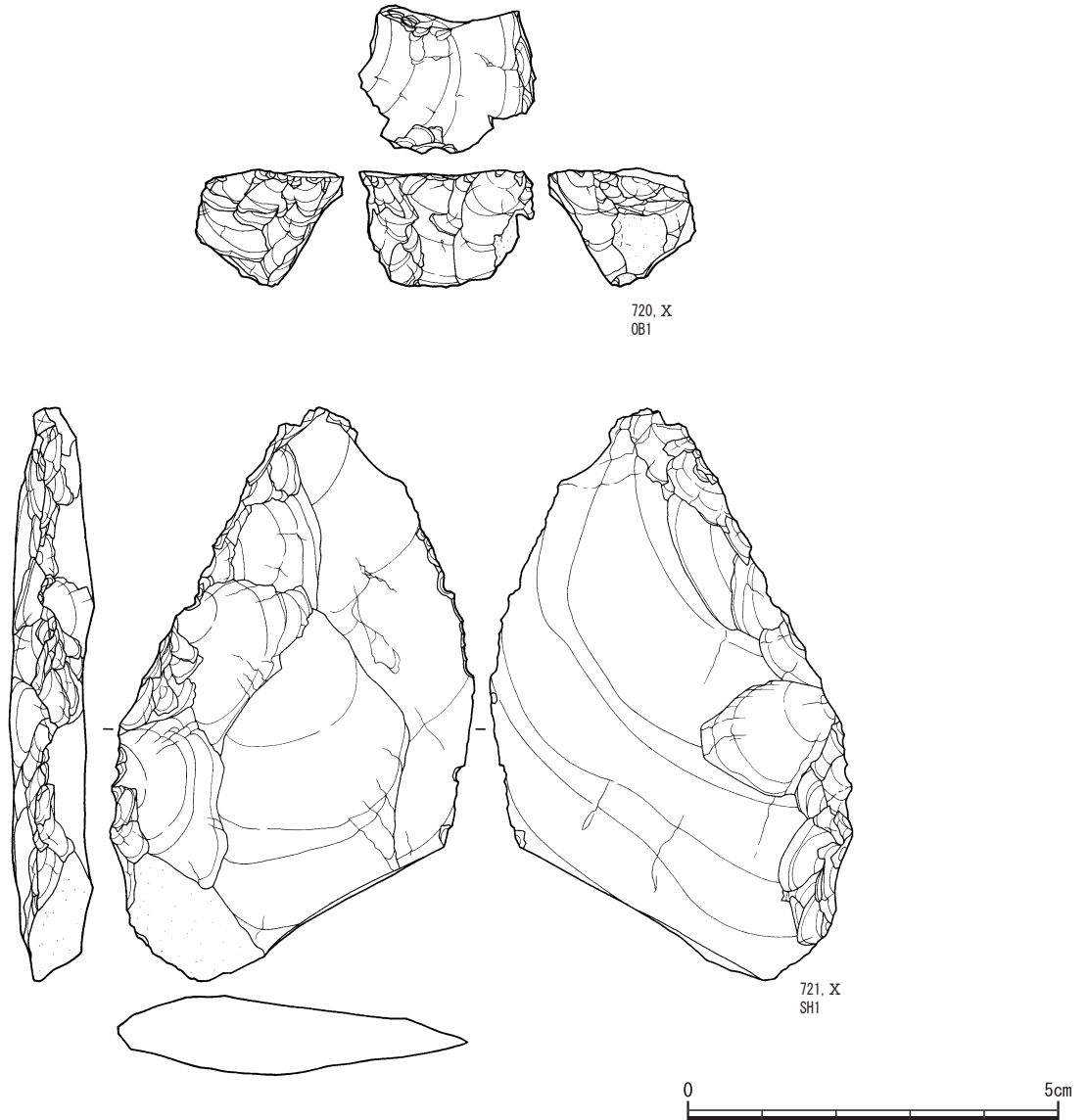
第561図 第Ⅲ文化層第17エリア出土石器実測図(4)



第562図 第三文化層第17エリア石器出土状況図(3)



第563図 第三文化層第17エリア出土石器実測図(5)



第564図 第Ⅲ文化層第17エリア出土石器実測図(6)

石刃作業面の剥離痕からは、狭小な細石刃が取り出されたとみられる。したがって、ブロック内から出土している幅広細石刃に対応する細石刃核は、エリア内に残されていない可能性が高い。

609は小型の台形石器で、下層からの浮き上がりと判断できる。

第13エリア

桐木遺跡E～H-22～24区に分布し、チャートと黒曜石Ⅱ類が確認される。

2点とも石鏃未製品と判断され、613はチャート、614は黒曜石Ⅱ類が利用されている。613は腹面の左側縁と基部に、614は両面を整形した痕跡を残している。なお、整形加工状況と形状から石鏃未製品と判断される。

第14エリア

桐木遺跡D・E-14～16区に分布し、出土量は少ないが、黒曜石Ⅰ類・黒曜石Ⅱ類・黒曜石Ⅲ類・玉髄・頁岩・チャートが散在している。

細石刃核(621)を除き、615は台形石器(黒曜石Ⅱ類)、616はナイフ形石器(頁岩)、617は角錐状石器(黒曜石Ⅱ類)で下位の文化層に帰属すると判断できる。細石刃核は角礫を素材に、打面調整を行いながら幅広の細石刃を剥離したと推測される。

第15エリア

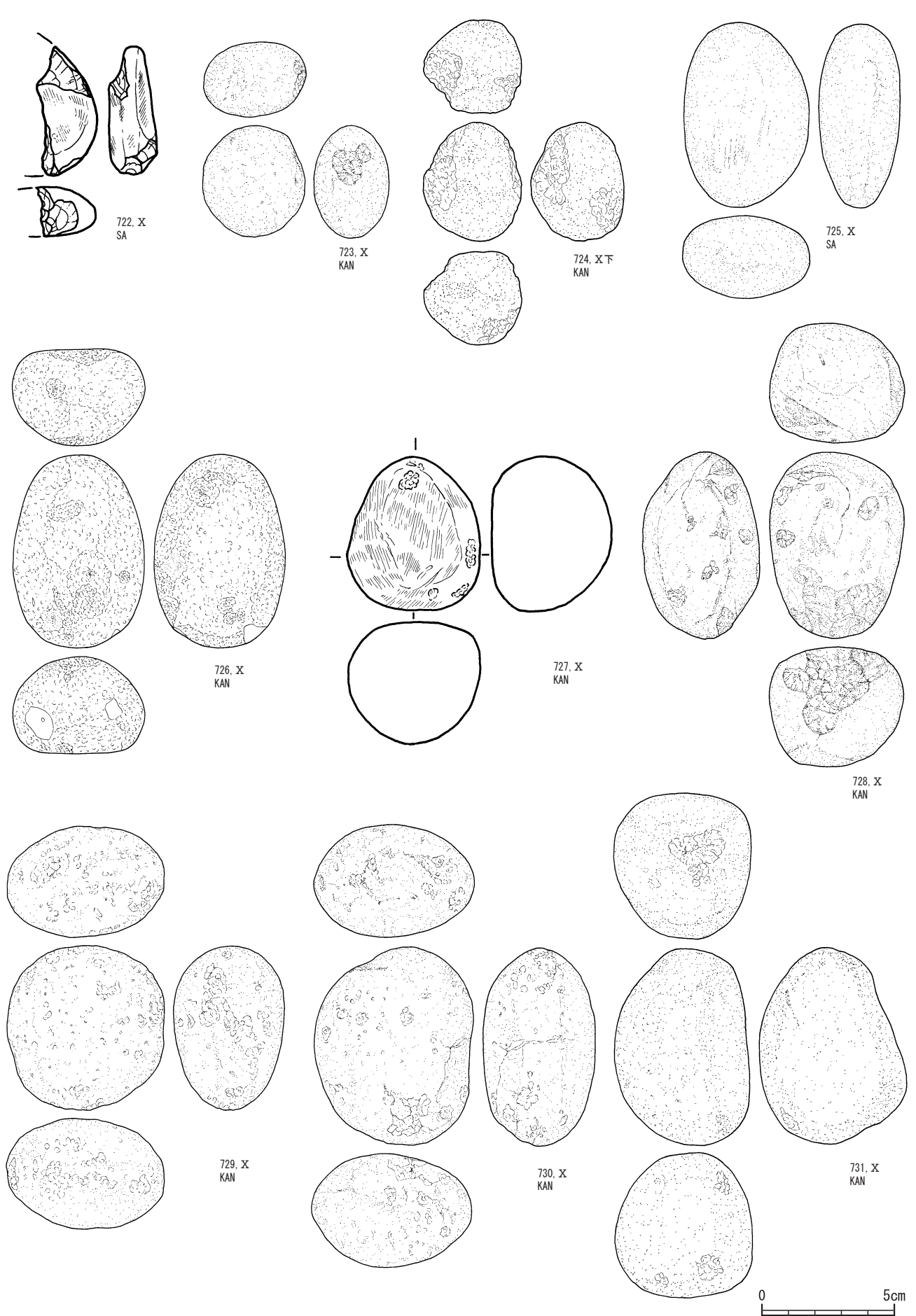
桐木遺跡C・D-13～15区に分布し、黒曜石Ⅱ類に黒曜石Ⅲ類が加わる。

631は細石刃核ブランク、629は細石刃核の下半部破損品、630は細石刃核ブランクあるいは細石刃核、632は素材原礫で、打面予定部を1回剥離している。

第16エリア

桐木遺跡A・B-14・15区で、黒曜石Ⅱ類・黒曜石Ⅲ類・頁岩・玉髄が混在する。

633(頁岩)、635(黒曜石Ⅲ類)、638(チャート)、640(頁岩)、643(玉髄)、他は黒曜石Ⅱ類と黒曜石Ⅲ類で多彩な石材構成である。636は細石刃、635・644は楔形石器、645は剥片素



第565図 第三文化層第17エリア出土石器実測図（7）

材の細石刃核ブランクと判断している。長身な石鏃(633)の基部からの剥離は奥まで延びている。634は石鏃の破損品で、2点の基部はわずかに内弯する程度である。

第17エリア

桐木遺跡B~D-12~14区に分布し、第18エリアと接するが、玉髓を多用することからエリアを区分した。玉髓を中心に黒曜石Ⅰ類・黒曜石Ⅱ類・黒曜石Ⅲ類・頁岩・チャートが使用される。

648は腹面の剥離面を多く残す二次加工品であるが、器種は不明である。また、天地逆の可能性も高い。647は平基の

石鏃で玉髓、688は黒曜石Ⅱ類を用いる。650・689は玉髓、690はチャートで石鏃未製品の可能性が高い。細石刃や656・674の細石刃核、658・678等の細石刃核ブランクから、細石刃製作関連の遺物(657~687)と、石鏃未製品と不定形剥片からは石鏃製作関連(648~651、688~718)遺物が混在していると判断される。683は黒曜石Ⅲ類の素材原礫である。

658の細石刃核ブランクは剥片素材で、ブランク形成は、細石刃作業面と背面が先行し打面部の剥離がそれに続き、その後の剥離で両側面が形成される。また、右側面には下縁調整剥離が確認される。674の細石刃剥離は右側面が先行し、

第108表 第三文化層第13エリア出土石器観察表

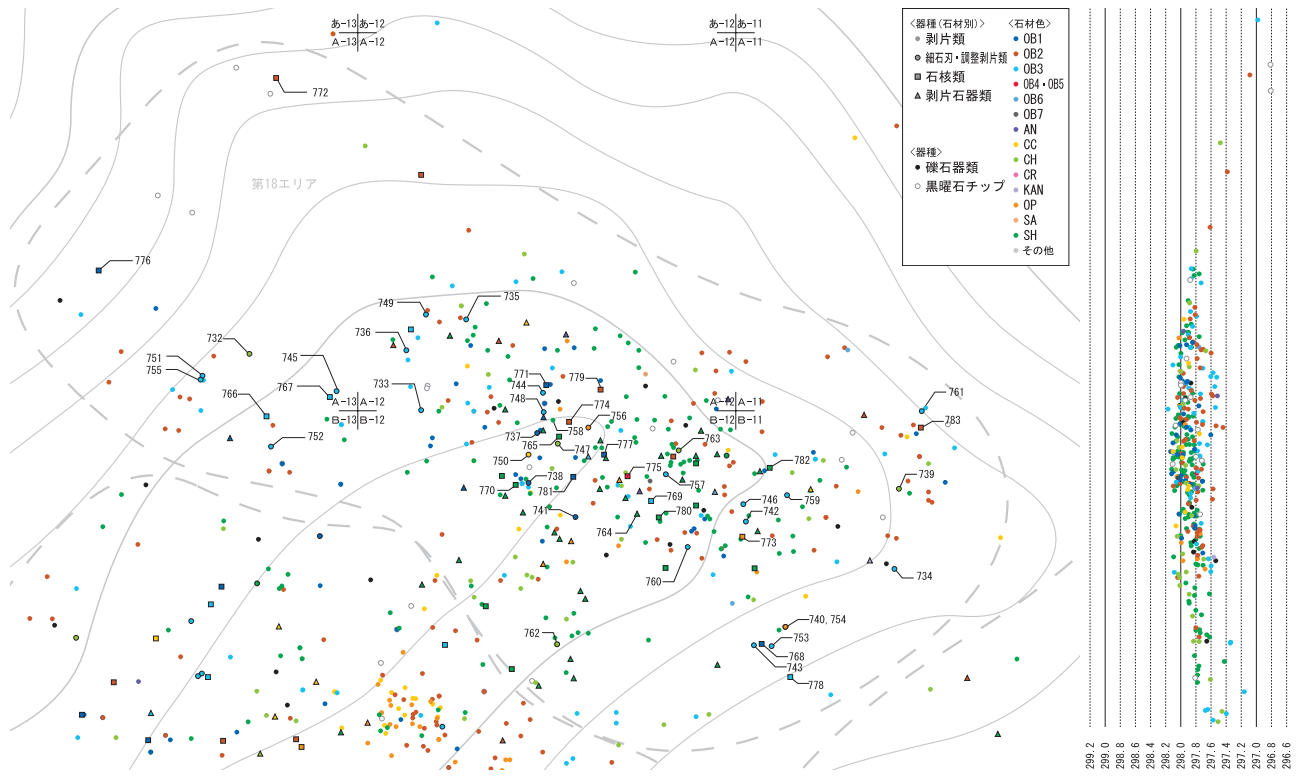
排図No	図No	エリア	フロック	分類2	分類3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
549	613	A13	B00	石鏃	未製品	CH	29.5	20.8	12.2	5.1	O71811(F-22/X)
549	614	A13	B00	石鏃	未製品	OB2	31.5	26.2	12.4	9.3	O71761(H-22/X上)

第109表 第三文化層第14~第17エリア出土石器観察表

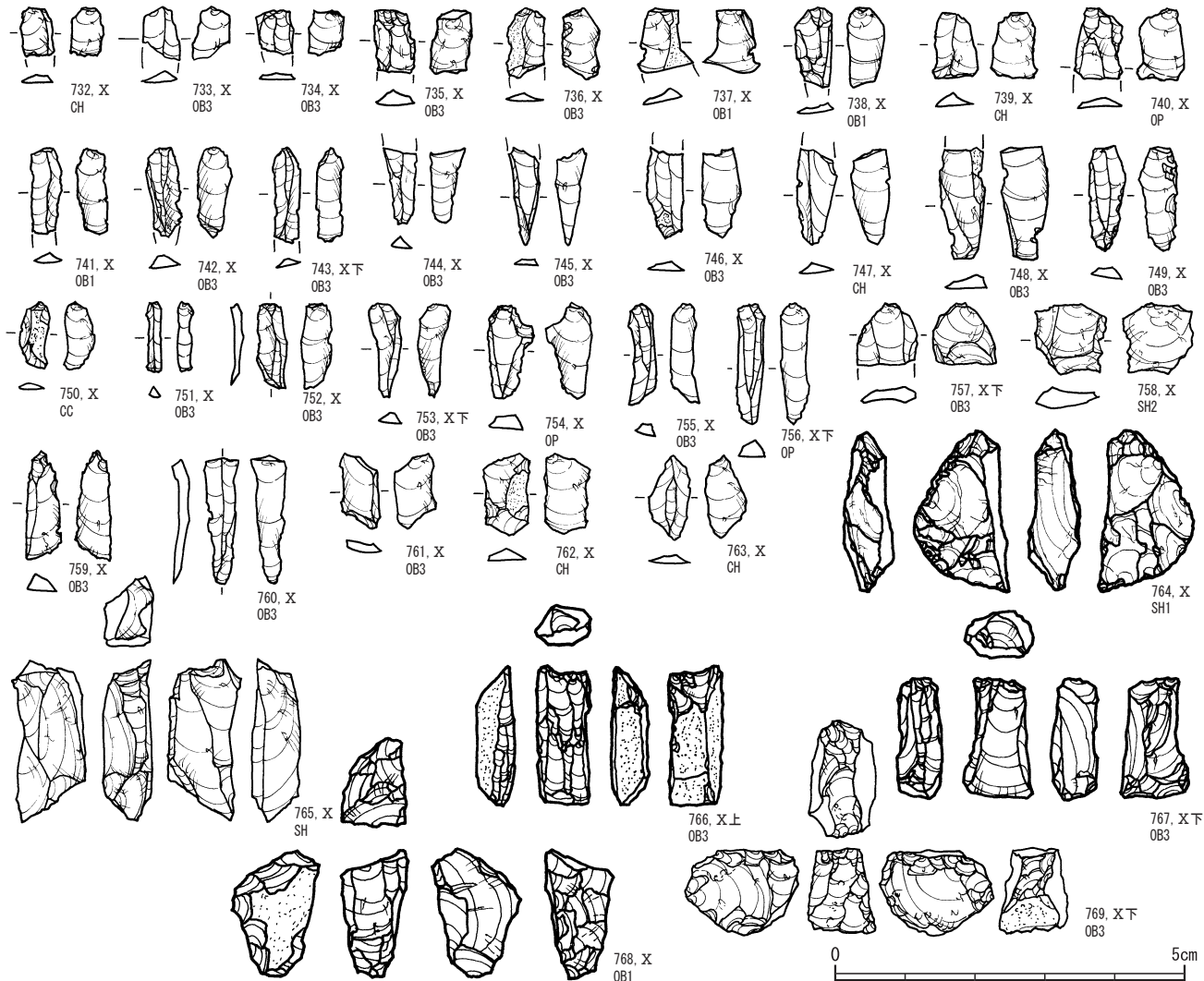
排図No	図No	エリア	フロック	分類2	分類3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
551	615	A14	B00	台形石器	-	OB2	21	12.8	5.8	1.3	O57766(E-15/X)
551	616	A14	B00	ナイフ形石器	-	SH	26.6	8.3	5.2	0.98	O57784(E-16/X)
551	617	A14	B00	角錐状石器	-	OB2	15.5	13.1	5.8	1.3	O57785(E-16/X)
551	618	A14	B00	ブランク	-	OB2	14	10.5	5.9	0.62	O57749(E-15/X)
551	619	A14	B00	剥片	-	ANI	15.5	15.2	2.4	0.38	O57756(E-15/X)
551	620	A14	B00	調整剥片	-	OB3	14.8	16.9	3.4	0.71	O57737(E-14/X)
551	621	A14	B00	細石刃核	-	OB3	30.1	15.9	11.4	6.5	O57783(E-16/X)
551	622	A14	B00	石核	-	CH	19.2	33	17	9.6	O57778(D-15/X)
553	623	A15	B00	細石刃	-	OB3	8.3	5.1	1.6	0.06	O57524(D-13/X)
553	624	A15	B00	細石刃	-	OB3	8.8	4.7	1.3	0.05	O57495(D-13/X)
553	625	A15	B00	細石刃	-	CH	11.9	6.2	1.8	0.12	O57559(C-14/X)
553	626	A15	B00	細石刃	-	OB3	15.5	5.3	4.2	0.19	O57556(D-14/X下)
553	627	A15	B00	剥片	-	OB3	13.5	13.2	4.7	0.69	O57560(D-14/X)
553	628	A15	B00	剥片	-	SH1	21	18.2	3.2	1.3	O57802(C-14/X下)
553	629	A15	B00	細石刃核	-	OB3	10.2	7.4	9.6	0.57	O57555(C-14/X下)
553	630	A15	B00	細石刃核	-	OB2	14.1	14.5	20	4.2	O57492(D-13/X)
553	631	A15	B00	ブランク	-	OB2	12.6	16.3	10.6	2.6	O57534(C-14/X)
553	632	A15	B00	原礫	-	OB3	19.3	10	26.6	3.5	O57551(C-14/X)
553	633	A16	B00	石鏃	-	SH	21.4	13.7	4.5	0.71	O56138(B-14/X)
555	634	A16	B00	石鏃	-	OB2	15.6	16.2	4	0.76	O57713(B-14/X)
555	635	A16	B00	楔形石器	-	OB3	20.9	14.3	7.4	1.6	O56136(B-14/X)
555	636	A16	B00	細石刃	-	OB3	16.1	7.1	2	0.2	O57714(B-14/X)
555	637	A16	B00	削器	-	OB3	12.8	11.4	2.1	0.3	O57703(B-14/X)
555	638	A16	B00	微細剥離痕剥片	-	CH	27.6	14.2	5	1.6	O57711(B-14/X下)
555	639	A16	B00	微細剥離痕剥片	-	OB3	30.7	16.6	10	3.9	O57715(B-14/X下)
555	640	A16	B00	剥片	-	SH1	41.1	29.6	10.1	11	O56137(B-14/X)
555	641	A16	B00	剥片	-	OB3	10.5	17.8	4	0.57	O57706(B-14/X)
555	642	A16	B00	調整剥片	-	OB3	14	21.6	4.7	0.79	O57712(B-14/X)
555	643	A16	B00	剥片	-	CC	22.7	20	3.5	1.1	O57698(B-14/X下)
555	644	A16	B00	楔形石器	-	OB2	22.6	20.1	13	4.3	O56132(B-14/X)
555	645	A16	B00	ブランク	-	OB2	17.3	16.1	22.4	4.2	O56129(B-14/X下)
555	646	A16	B00	敲石	-	SA	124.7	53.1	32.4	276	O56128(B-14/X)
557	647	A17	B00	石鏃	-	CC	15.7	15	5	0.92	O57585(B-13/X)
557	648	A17	B00	二次加工痕剥片	-	OB3	12	12.2	7.1	0.84	O57476(C-13/X)
557	649	A17	B00	微細剥離痕剥片	-	OP	23.3	15	7.5	1.7	O67639(B-12/X)
557	650	A17	B00	二次加工痕剥片	-	CC	28.9	26.5	8.7	5.6	O57483(C-13/X)
557	651	A17	B00	微細剥離痕剥片	-	OB2	17	24.7	7.3	2.7	O67556(B-12/X)
557	652	A17	B00	剥片	-	OB2	31.6	19	9.5	3.7	O67587(B-12/X)
557	653	A17	B00	剥片	-	SH	19.8	18.5	5.9	1.7	O67625(B-12/X)
557	654	A17	B00	チップ	-	CH	5.6	3.3	1	0.01	O67580(B-12/X)
557	655	A17	B00	細石刃	-	OB3	11.7	8.8	2	0.19	O57487(C-13/X)
557	656	A17	B00	細石刃核	-	OB3	15.1	12.5	6.4	1.1	O67596(B-12/X)
557	657	A17	B00	石核	-	ANI	17.6	13.9	9.5	1.4	O39301(D-12/X上)
557	658	A17	B00	ブランク	-	OB2	25.7	12.5	28	7.8	O57484(C-13/X)
559	659	A17	B00	チップ	-	SH	8.3	5.7	0.9	0.04	O40083(C-12/X)
559	660	A17	B00	細石刃	-	OB1	8.9	6.7	1.4	0.06	O40091(C-12/X)
559	661	A17	B00	細石刃	-	CH	9	9.4	2.3	0.12	O40036(C-12/X)
559	662	A17	B00	細石刃	-	OB3	14.3	8	2	0.18	O40170(B-12/X)
559	663	A17	B00	細石刃	-	OB3	13.5	5.7	1	0.07	O57600(B-13/X)
559	664	A17	B00	剥片	-	OB2	12.6	8.6	3	0.26	O57655(B-13/X下)
559	665	A17	B00	細石刃	-	OB3	11.4	7.6	2.3	0.22	O57656(B-13/X)
559	666	A17	B00	細石刃	-	OB1	7.4	7.1	0.9	0.03	O40065(C-12/X)
559	667	A17	B00	細石刃	-	OB3	13.1	5.5	2.8	0.11	O57597(B-13/X)
559	668	A17	B00	細石刃	-	OB3	12.5	5.7	3	0.15	O57596(B-13/X)
559	669	A17	B00	ブランク	-	OB1	14.5	9.6	3	0.37	O56110(B-13/X)
559	670	A17	B00	細石刃	-	OB1	14.4	3.5	2.4	0.05	O40100(C-12/X)

第110表 第三文化層第17エリア出土石器観察表

排図No	図No	エリア	フロック	分類2	分類3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
559	671	A17	B00	細石刃	-	OB1	17.5	4.1	2.7	0.08	O40103(C-12/X)
559	672	A17	B00	調整剥片	-	CH	17.9	8.5	2.4	0.32	O53967(D-12/X)
559	673	A17	B00	細石刃	-	OB1	23.9	8.6	3.1	0.57	O56288(B-13/X下)
559	674	A17	B00	細石刃核	-	OB3	12.5	13.6	11.2	1.8	O57598(B-13/X)
559	675	A17	B00	二次加工痕剥片	-	OB2	16.9	7.3	7	0.82	O57685(B-13/X下)
559	676	A17	B00	細石刃核	-	OB2	17	8.7	11.1	1.7	O56092(B-13/X下)
559	677	A17	B00	細石刃核	-	OB1	15.7	12.9	14.2	2.5	O57528(C-14/X)
559	678	A17	B00	ブランク	-	OB1	16.3	10.4	18.3	2.7	O40095(C-12/X)
560	679	A17	B00	二次加工痕剥片	-	CC	21.9	10.9	6.6	1.6	O57578(B-13/X上)
560	680	A17	B00	ブランク	-	OB2	13.5	10.3	18.3	2.6	O57590(B-13/X)
560	681	A17	B00	細石刃核	-	OB2	17.3	19.4	23.1	7	O57520(B-13/X)
560	682	A17	B00	ブランク	-	OB1	17.1	14.3	16.9	3.6	O40104(C-12/X)
560	683	A17	B00	原礫	-	OB3	21.2	21.9	18	8.5	O56087(B-13/X下)
560	684	A17	B00	石核	-	CC	28.2	19.2	17.2	8	O56085(B-13/X)
560	685	A17	B00	細石刃核	-	OP	22.3	16.6	11.6	2.6	O57657(B-13/X)
560	686	A17	B00	両極石核	-	OP	24.9	15	13.6	2.5	O53946(C-12/X)
560	687	A17	B00	ブランク	-	OB2	17.8	21.8	38.6	12	O53950(C-12/X)
561	688	A17	B00	石鏃	-	OB2	15.2	13	4.5	0.65	O57489(C-13/X)
561	689	A17	B00	石鏃	未製品	CC	23.4	18.1	9.5	3.5	O57617(B-13/X)
561	690	A17	B00	二次加工痕剥片	-	CH	26.7	16.7	8.5	3.2	O57567(B-13/X)
561	691	A17	B00	微細剥離痕剥片	-	SH	23.9	27.1	6.6	3.7	O40316(B-12/X)
561	692	A17	B00	微細剥離痕剥片	-	OB3	13.3	13.7	5	0.84	O56080(B-13/X)
561	693	A17	B00	二次加工痕剥片	-	SH	17.3	17.9	5	1.1	O40108(C-12/X)
561	694	A17	B00	挟入石器	-	SH	18.5	33.9	9.1	5.6	O53937(C-12/X)
561	695	A17	B00	チップ	-	SH	10.3	10.5	2.3	0.19	O40068(C-12/X)
561	696	A17	B00	チップ	-	CH	12.1	9.2	2	0.23	O57584(B-13/X)
561	697	A17	B00	作業面再生剥片	-	CH	12.8	13.7	2.2	0.34	O56114(B-13/X)
561	698	A17	B00	剥片	-	SH	12.5	18.7	3.6	0.76	O53938(C-12/X)
561	699	A17	B00	ブランク	-	OB1	15.1	14.4	3.7	0.63	O56078(B-13/X)
561	700	A17	B00	剥片	-	ANI	12.1	17.4	3.2	0.71	O56083(B-13/X)
561	701	A17	B00	剥片	-	OB2	17.2	15.7	4.3	0.88	O57615(B-13/X下)
561	702	A17	B00	剥片	-	SH2	17.4	16.3	3.4	0.87	O53945(C-12/X)
561	703	A17	B00	微細剥離痕剥片	-	SH	15.6	13	4.1	0.63	O40105(C-12/X)
561	704	A17	B00	細石刃	-	SH	20.7	12	3.8	0.48	O56316(B-13/X)
561	705	A17	B00	剥片	-	SH	23.2	14.2	3	0.73	O53944(C-12/X)
561	706	A17	B00	剥片	-	SH2	18.4	21.5	5.8	1.8	O40179(B-12/X)
561	707	A17	B00	作業面調整剥片	-	OB1	23.7	19	7.1	2.3	O40102(C-12/X)
561	708	A17	B00	ブランク	-	OB1	15.6	14.1	6	1	O56279(B-13/X上)
561	709	A17	B00	剥片	-	CH	32.8	27.5	13.6	11	O40025(C-12/X)
561	710	A17	B00	二次加工痕剥片	-	SH2	31	31.3	8	6.7	O40079(C-12/X)
561	711	A17	B00	剥片	-	SH2	48.3	31.7	11.4	18	O57609(B-13/X)
561	712	A17	B00	剥片	-	SH2	35.7	44.8	10	12	O57593(B-13/X)
563	713	A17	B00	剥片	-	SH1	15.6	29.1	5.5	2.1	O40114(C-12/X)
563	714	A17	B00	微細剥離痕剥片	-	OP	23.1	28	9.1	2.7	O40109(C-12/X)
563	715	A17	B00	微細剥離痕剥片	-	SH	18.7	25.2	5.7	2.6	O57682(B-13/X)
563	716	A17	B00	剥片	-	OB2	21.3	25.3	7.9	2.8	O40045(C-12/X)
563	717	A17	B00	剥片	-	OB1	34	17.6	12	5.4	O40174(B-12/X)
563	718	A17	B00	剥片	-	SH1	49.9	37.5	13.9	24	O57652(B-13/X下)
563	719	A17	B00	ハンマー	-	SH2	32.4	46.1	32.1	69	O57680(B-13/X)



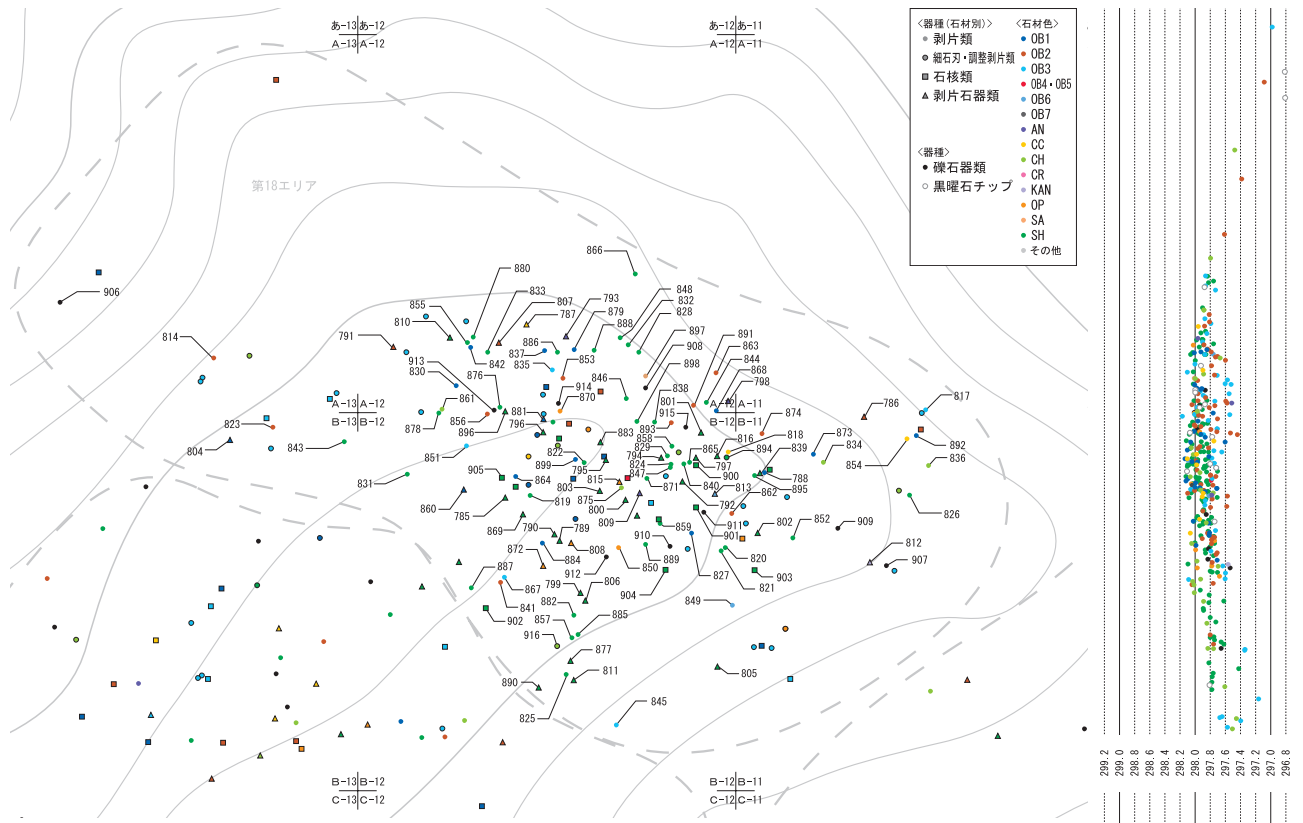
第566図 第Ⅲ文化層第18エリア石器出土状況図(1)



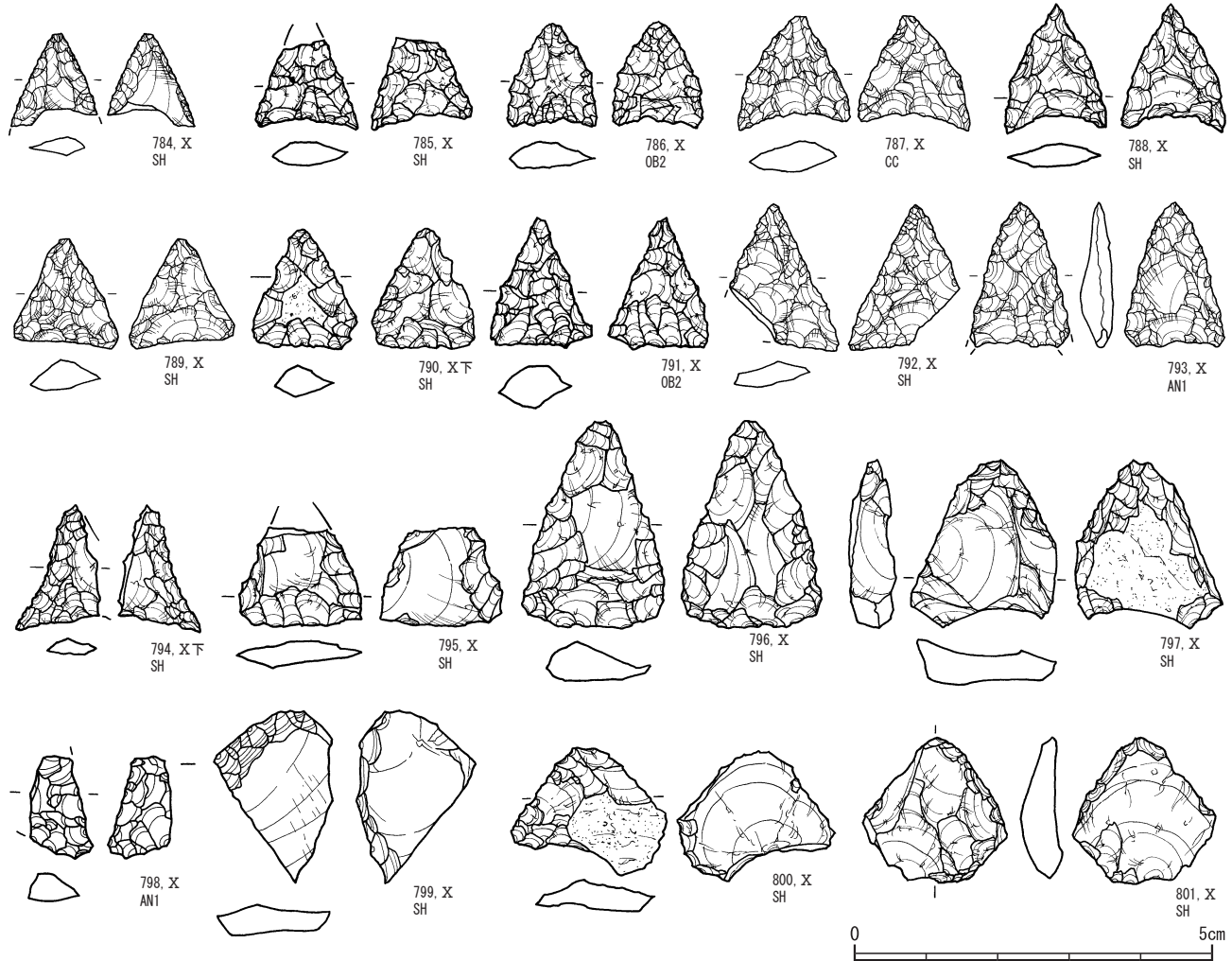
第567図 第Ⅲ文化層第18エリア出土石器実測図(1)



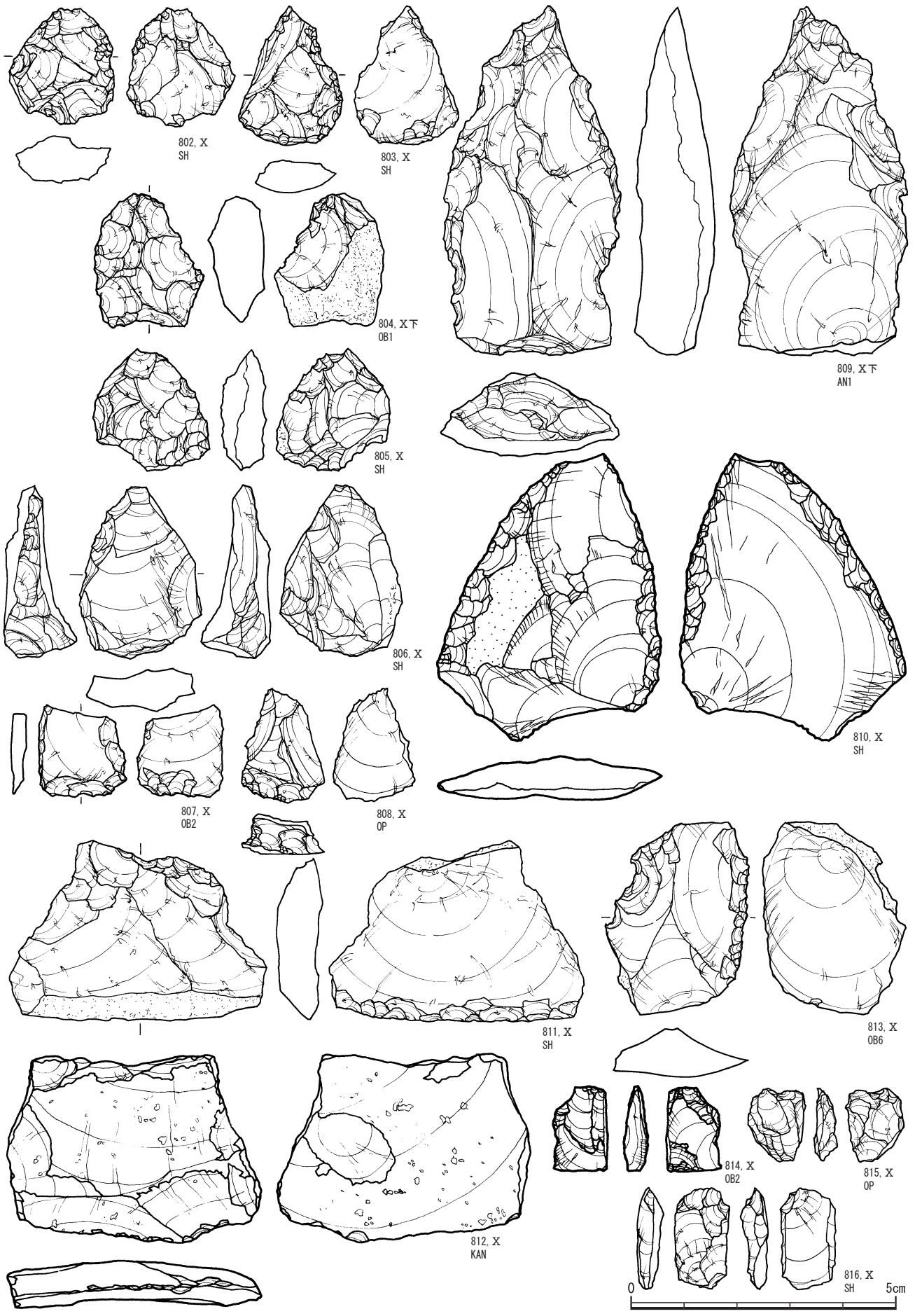
第568図 第Ⅲ文化層第18エリア出土石器実測図(2)



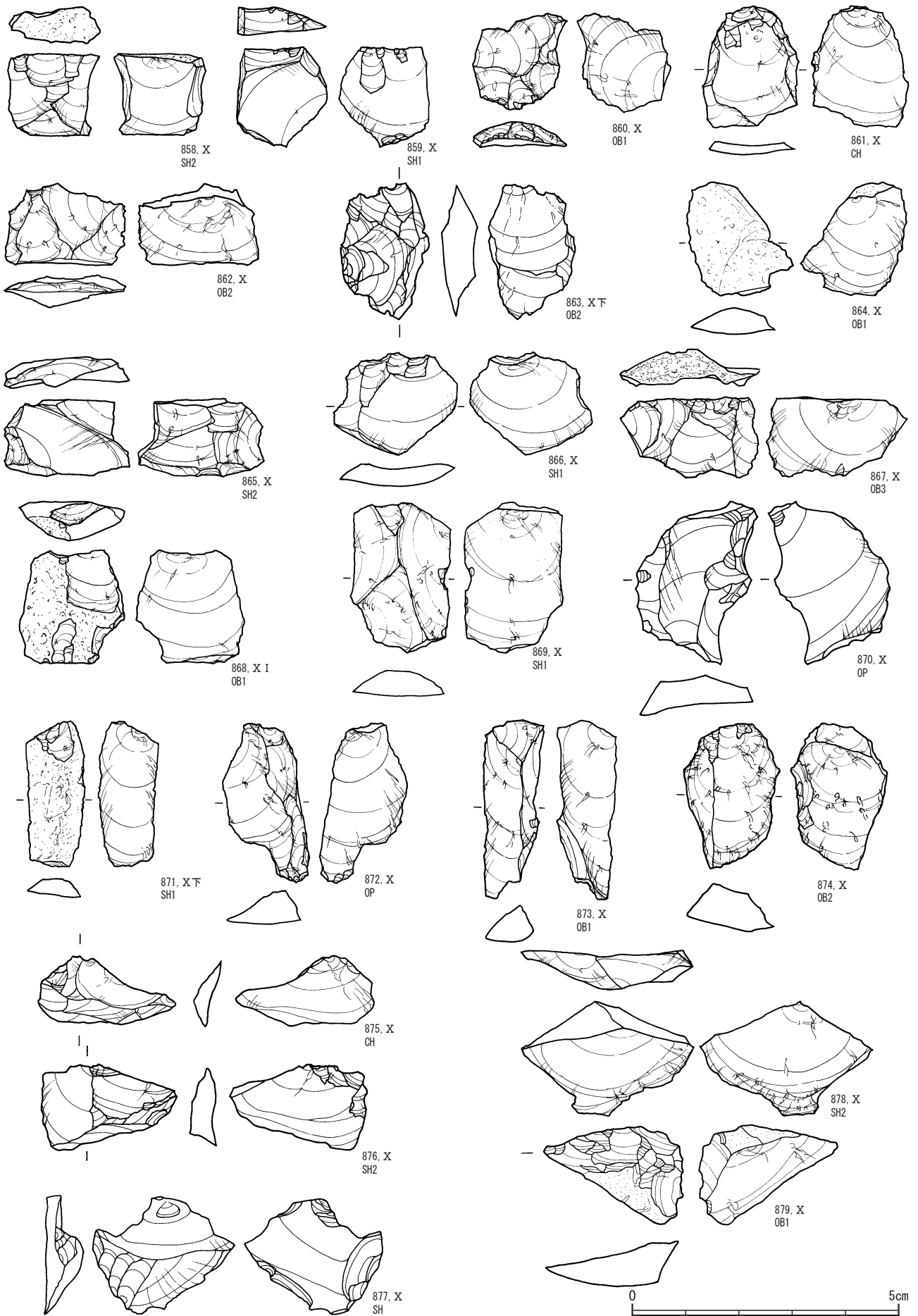
第569図 第三文化層第18エリア石器出土状況図(2)



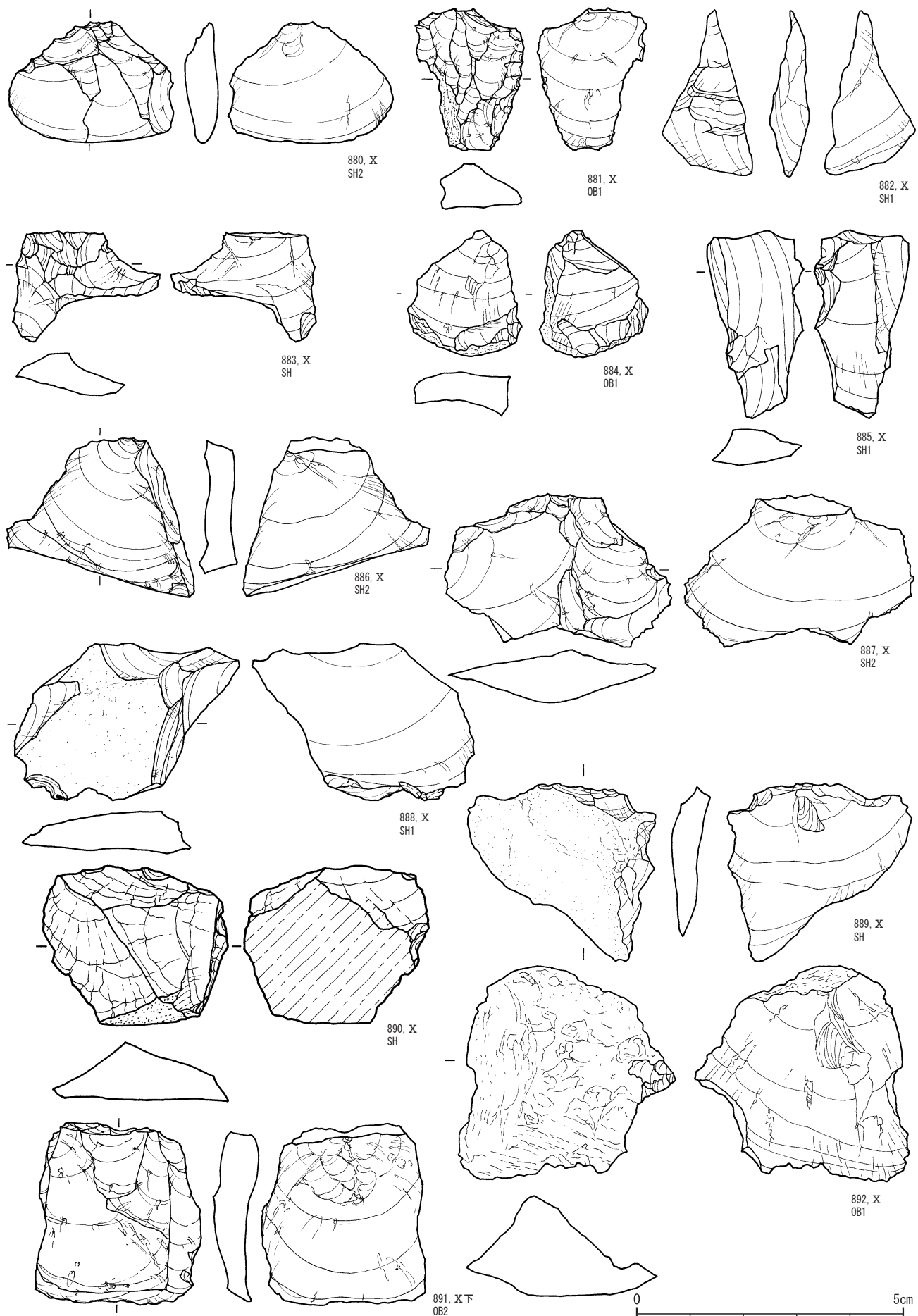
第570図 第三文化層第18エリア出土石器実測図(3)



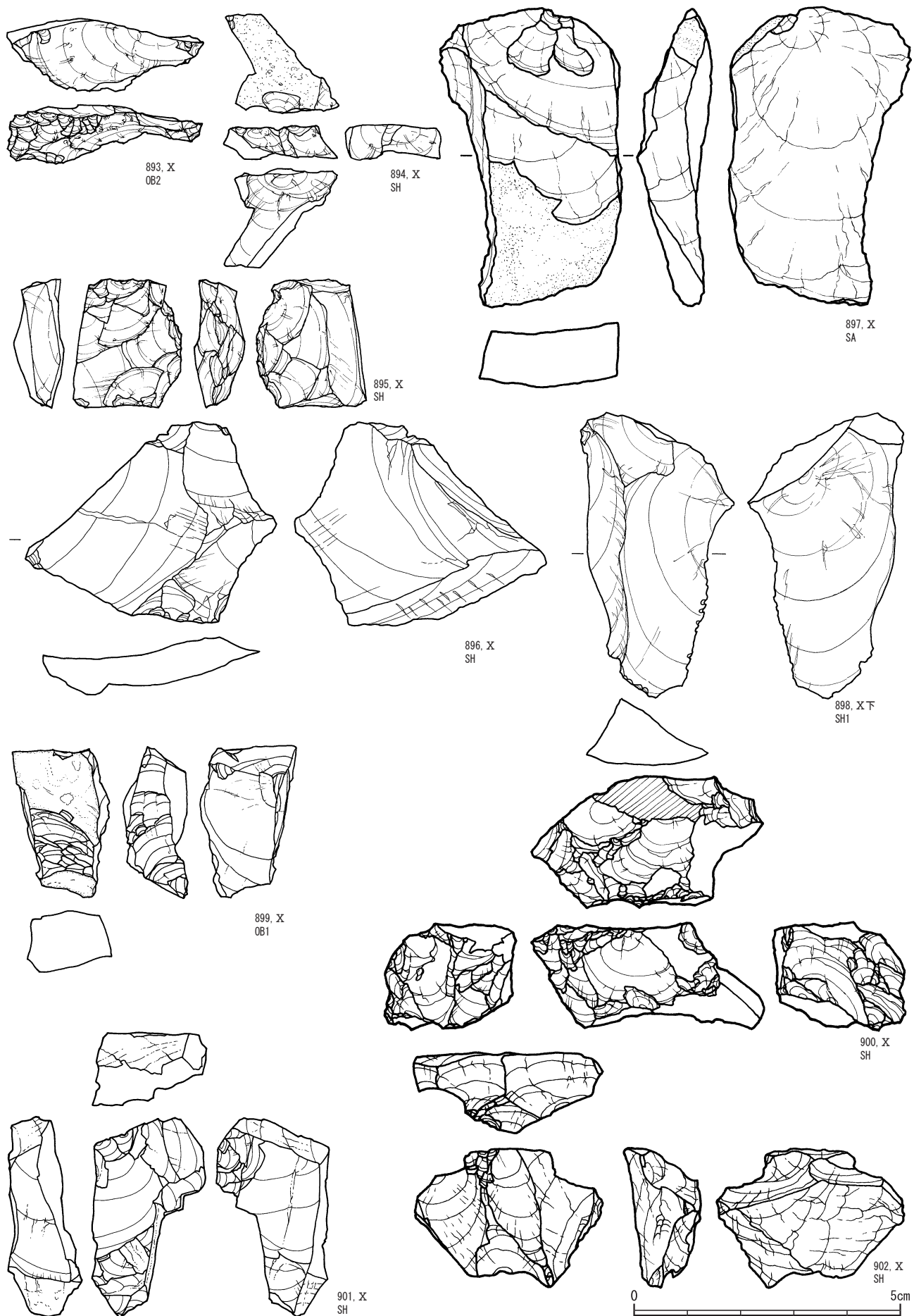
第571図 第Ⅲ文化層第18エリア出土石器実測図(4)



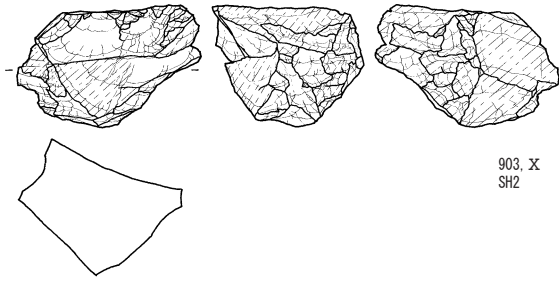
第573図 第Ⅲ文化層第18エリア出土石器実測図(6)



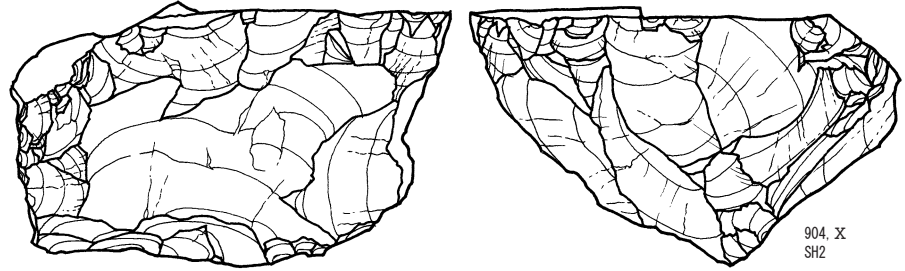
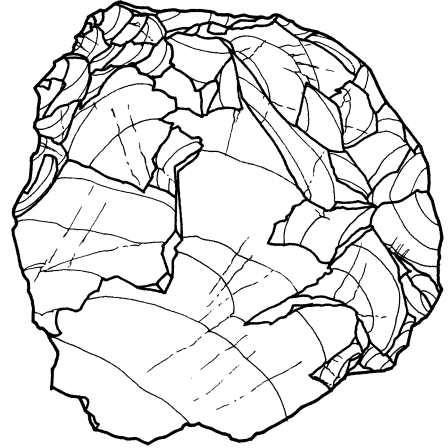
第574図 第三文化層第18エリア出土石器実測図(7)



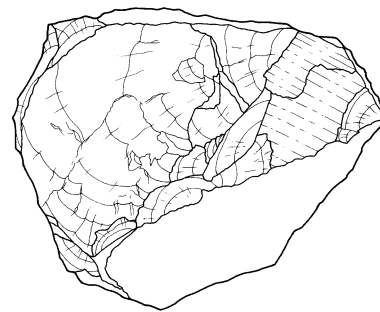
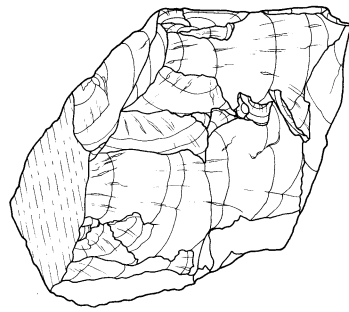
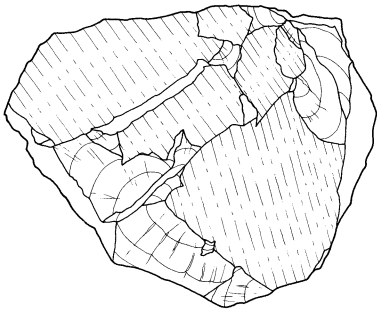
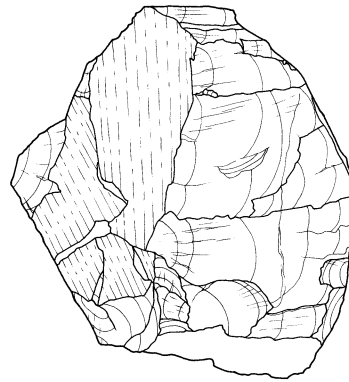
第575図 第Ⅲ文化層第18エリア出土石器実測図(8)



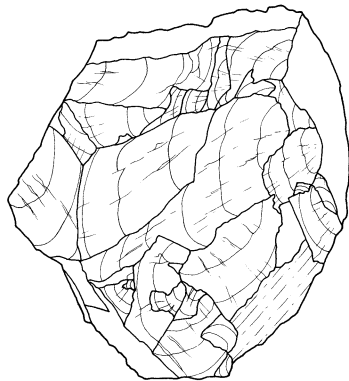
903. X
SH2



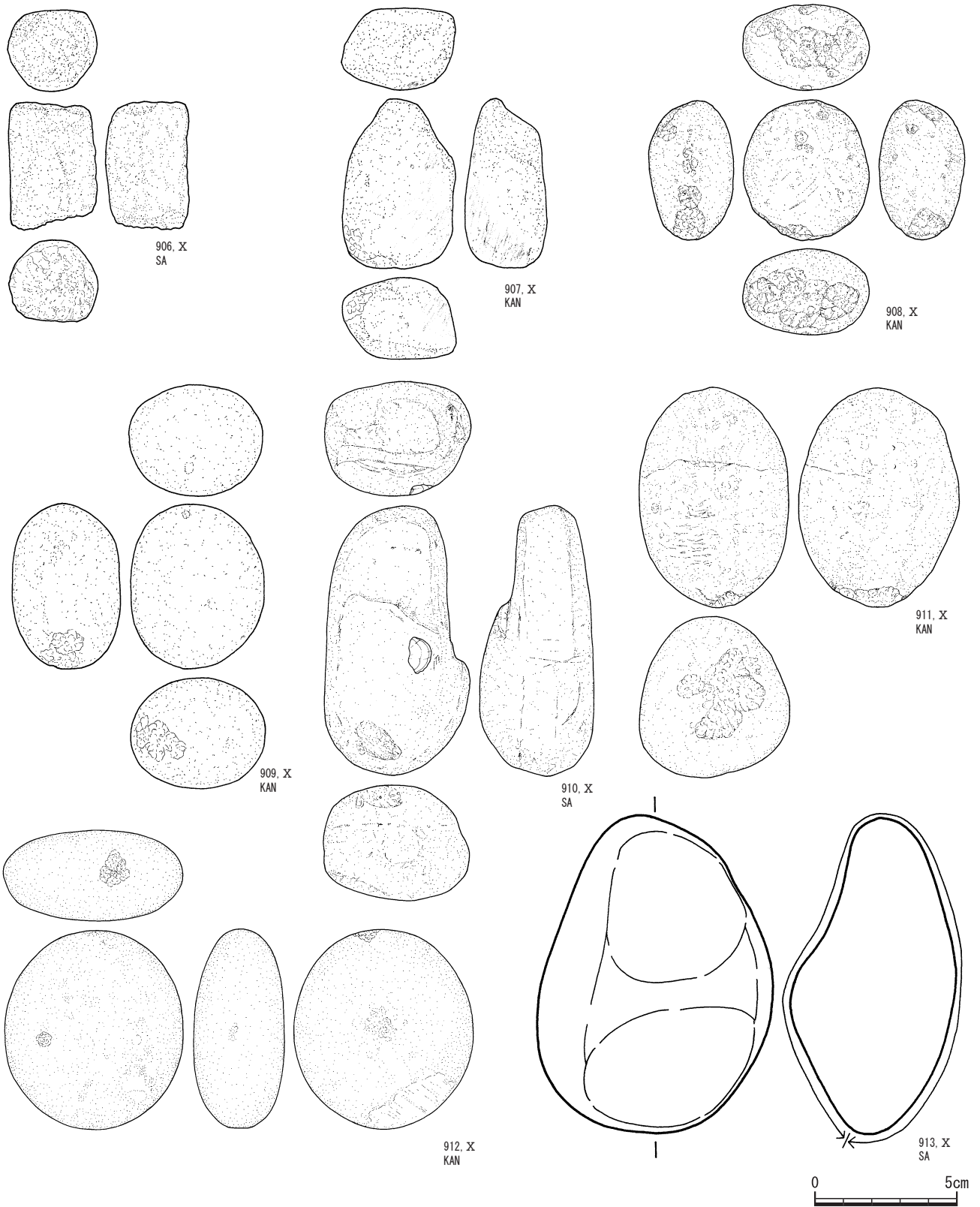
904. X
SH2



905. X
SH2



第576図 第Ⅲ文化層第18エリア出土石器実測図(9)



第577図 第Ⅲ文化層第18エリア出土石器実測図(10)

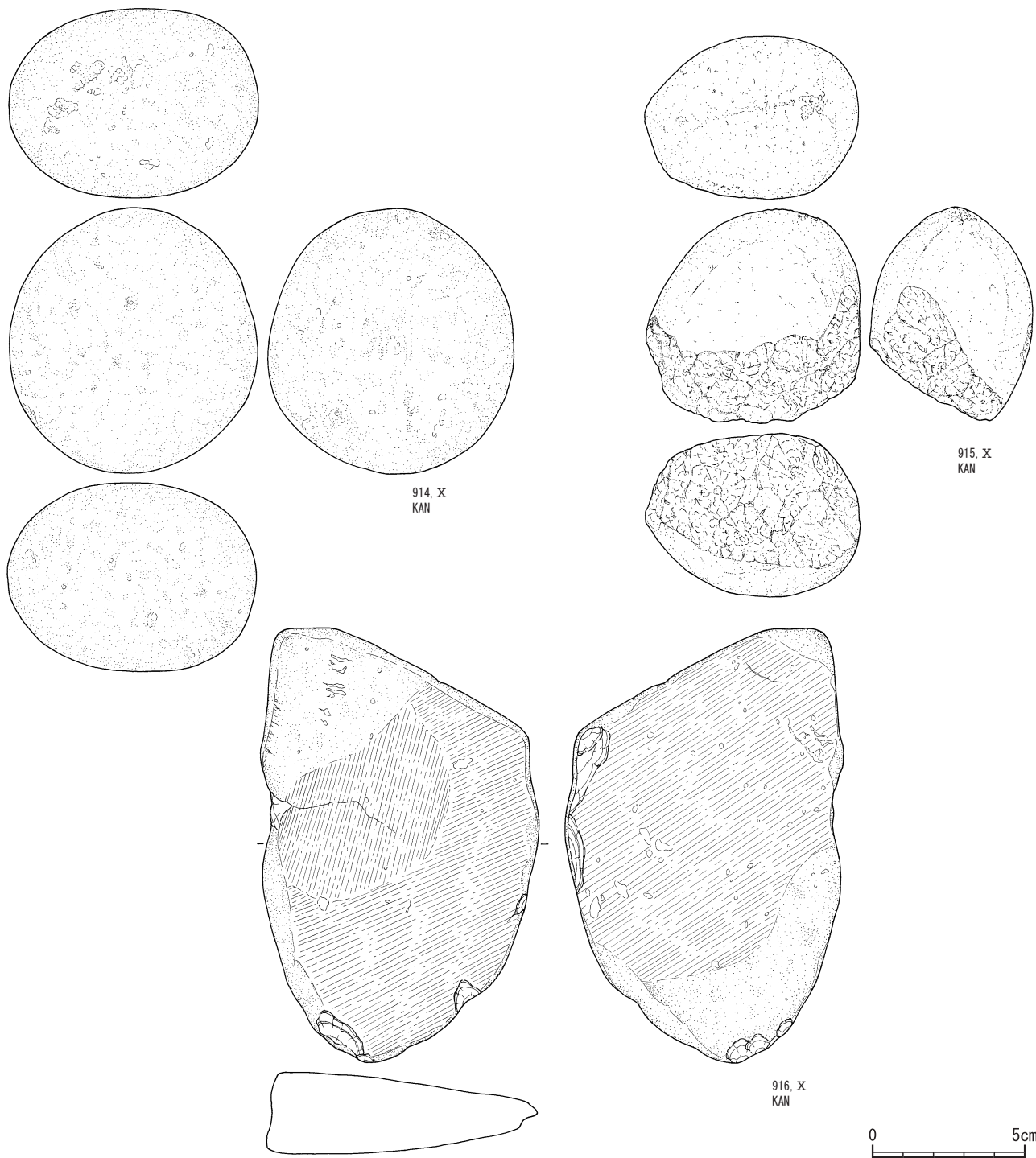
打面部が後続、最終が正面となる。676は剥片素材で、下縁調整が確認される。剥片素材の680の石核調整は、打面からの剥離と下縁調整を併用する。細石刃核ブランク(687)の整形は、打面方向からを専らとする。683は黒曜石Ⅲ類の素材原礫である。やや大型の剥片は頁岩・チャートで占められる。719・722等のハンマー・敲石等が多いのもこのエリアの

特徴である。

第18エリア

桐木遺跡A・B-11～13区に分布し、第17エリアと接するが頁岩の使用が高く、玉髓が減少する。黒曜石はⅠ類・Ⅱ類・Ⅲ類が使用される。

細石刃製作関連(732～783)と、石鏃及び石鏃製作関連(784



第578図 第三文化層第18エリア出土石器実測図(11)

第111表 第三文化層第18エリア出土石器観察表(1)

種目No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
567	732	A18	B00	細石刃	-	CH	7.1	5.1	1.7	0.05	○57632(A-13/X)
567	733	A18	B00	細石刃	-	OB3	7.8	5.6	0.9	0.04	○40192(A-12/X)
567	734	A18	B00	細石刃	-	OB3	6.7	5.3	2.1	0.05	○41295(B-11/X)
567	735	A18	B00	細石刃	-	OB3	9.3	6.3	2.7	0.17	○56189(A-12/X)
567	736	A18	B00	細石刃	-	OB3	10.4	5.6	1.3	0.1	○56197(A-12/X)
567	737	A18	B00	細石刃	-	OB1	9.2	8.4	1.9	0.09	○56266(B-12/X)
567	738	A18	B00	細石刃	-	OB1	11.6	5.5	1.3	0.09	○56261(B-12/X)
567	739	A18	B00	細石刃	-	CH	9.6	6.9	2.1	0.11	○55785(B-11/X)
567	740	A18	B00	細石刃	-	OP	10.5	7	2.3	0.13	○56748(B-11/X)
567	741	A18	B00	細石刃	-	OB1	12.5	4.8	2.8	0.1	○40356(B-12/X)
567	742	A18	B00	細石刃	-	OB3	13.2	5.2	1.3	0.1	○56727(B-11/X)
567	743	A18	B00	細石刃	-	OB3	13.7	4.1	1.5	0.07	○57659(B-11/X下)
567	744	A18	B00	細石刃	-	OB3	10.9	5.3	2	0.07	○56273(A-12/X)
567	745	A18	B00	細石刃	-	OB3	14.1	4.6	1.1	0.05	○57628(A-13/X)

第112表 第三文化層第18エリア出土石器観察表(2)

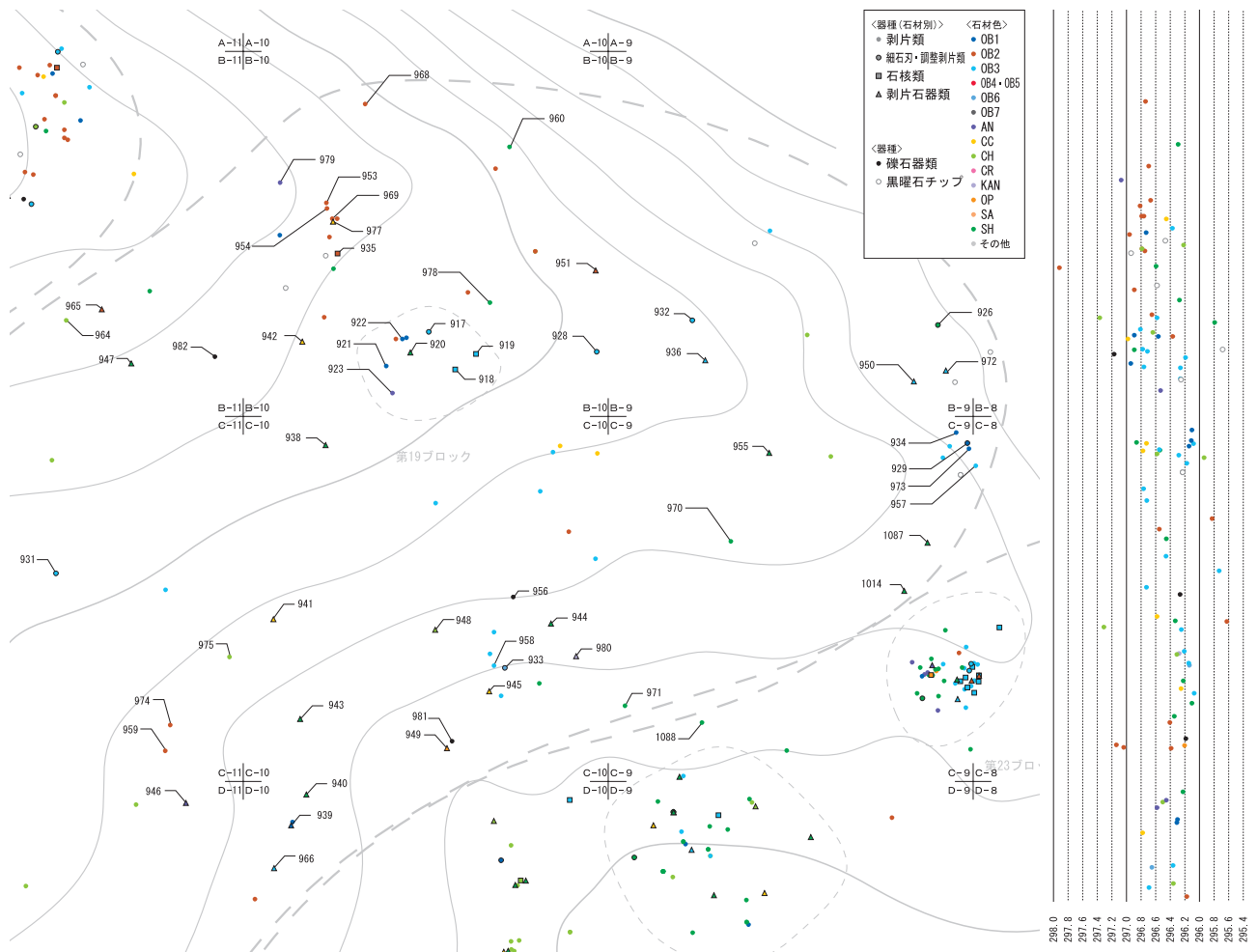
種目No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
567	746	A18	B00	細石刃	-	OB3	13.1	5.8	1.2	0.07	○56725(B-11/X)
567	747	A18	B00	細石刃	-	CH	13.8	5.8	2.5	0.13	○40347(B-12/X)
567	748	A18	B00	細石刃	-	OB3	16.4	7.1	2.8	0.26	○56600(B-12/X)
567	749	A18	B00	細石刃	-	OB3	15	5.8	2.1	0.16	○40185(A-12/X)
567	750	A18	B00	細石刃	-	CC	9.9	4.6	0.9	0.05	○40341(B-12/X)
567	751	A18	B00	細石刃	-	OB3	10.2	2.6	1.3	0.03	○57637(A-13/X)
567	752	A18	B00	細石刃	-	OB3	12.4	4.6	1.3	0.05	○56275(B-13/X)
567	753	A18	B00	細石刃	-	OB3	13.5	4.9	1.5	0.07	○57658(B-11/X下)
567	754	A18	B00	細石刃	-	OP	14	6.9	2	0.15	○56748(B-11/X)
567	755	A18	B00	細石刃	-	OB3	14.4	4.3	2	0.1	○57638(A-13/X)
567	756	A18	B00	細石刃	-	OP	17.6	4.4	2.4	0.14	○56635(B-12/X下)
567	757	A18	B00	細石刃	-	OB3	9	9.2	2.7	0.26	○56646(B-12/X下)
567	758	A18	B00	剥片	-	SH2	10.3	10.2	2.8	0.29	○56602(B-12/X)
567	759	A18	B00	細石刃	-	OB3	15.9	5.4	2.5	0.15	○56717(B-11/X)

第113表 第三文化層第18エリア出土石器観察表（3）

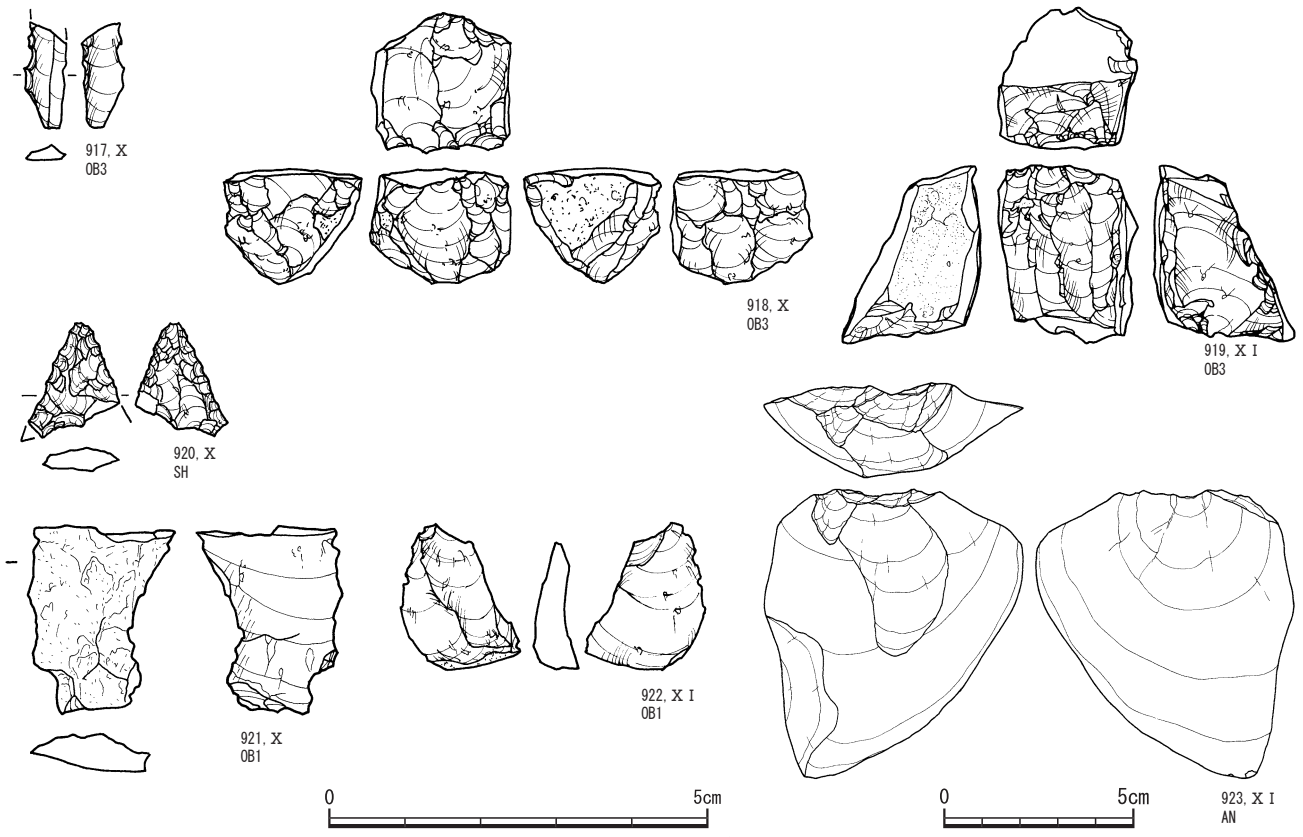
補遺No	図No	エリア	フロッグ	分類2	分類3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
567	760	A18	B00	細石刃	-	OB3	18.4	5.3	2.3	0.1	O56060(B-12/X)
567	761	A18	B00	細石刃	-	OB3	10.9	6.2	1.5	0.09	O56702(B-11/X)
567	762	A18	B00	細石刃	-	CH	11.7	6.8	1.7	0.13	O40154(B-12/X)
567	763	A18	B00	細石刃	-	CH	12	6.2	1	0.06	O40421(B-12/X)
567	764	A18	B00	二次加工戻り片	-	SH1	23.5	14.1	6.9	1.8	O40398(B-12/X)
567	765	A18	B00	細石刃核	-	SH	23.2	7.4	9.1	1.9	O40346(B-12/X)
567	766	A18	B00	細石刃核	-	OB3	20.2	8.2	5.5	1	O56301(B-13/X上)
567	767	A18	B00	細石刃核	-	OB3	17.5	10.3	6.1	1.2	O57629(A-13/X下)
567	768	A18	B00	細石刃核	-	OB1	18.5	10	9	2.1	O56753(B-11/X)
567	769	A18	B00	細石刃核	-	OB3	12.6	10.1	11.1	1.9	O56650(B-12/X下)
568	770	A18	B00	ブランク	-	SH2	11.6	6.4	10.9	9.2	O56260(B-12/X)
568	771	A18	B00	細石刃核	-	OB1	15.9	11.7	11.6	2.3	O56272(A-12/X)
568	772	A18	B00	細石刃核	-	OB2	17.9	11.8	12.9	3.4	⑩13408(A-13/X上)
568	773	A18	B00	細石刃核	-	OP	12.7	17	14.3	1.9	O55853(B-11/X)
568	774	A18	B00	細石刃核	-	OB2	17.3	16.1	14.7	4.2	O56604(B-12/X)
568	775	A18	B00	細石刃核	-	OB4	18.7	13.1	13.3	2.7	O56631(B-12/X下)
568	776	A18	B00	細石刃核	-	OB1	20.2	14.3	14	3.4	O56148(A-13/X)
568	777	A18	B00	細石刃核	-	OB1	14.8	15.7	20.1	3.3	O40359(B-12/X)
568	778	A18	B00	原礫	-	OB3	23.5	23.4	21	12	O56752(B-11/X)
568	779	A18	B00	細石刃核	-	OB2	17.5	13.1	24.8	5.6	O56010(A-12/X)
568	780	A18	B00	細石刃核	-	SH	35.5	16.5	16.8	7.1	O55972(B-12/X)
568	781	A18	B00	ブランク	-	OB1	20.8	15.5	24.9	7.5	O40350(B-12/X)
568	782	A18	B00	ブランク	-	SH	26.6	13.6	27.1	10	O55842(B-11/X)
568	783	A18	B00	ブランク	-	OB2	20.2	21	23.2	9.5	O56763(B-11/X)
570	784	A18	B00	石鏃	-	SH	13.1	12.3	2.5	0.26	O40319(B-12/X)
570	785	A18	B00	石鏃	-	SH	13.1	14.2	3.8	0.52	O56245(B-12/X)
570	786	A18	B00	石鏃	-	OB2	15	12.9	3.7	0.55	O55831(B-11/X)
570	787	A18	B00	石鏃	-	CC	16.2	15.8	5.2	0.78	O40224(A-12/X)
570	788	A18	B00	石鏃	-	SH	18	14.7	3	0.56	O56724(B-11/X)
570	789	A18	B00	石鏃	-	SH	15.5	14.8	5	0.75	O40353(B-12/X)
570	790	A18	B00	石鏃	-	SH	17.1	14.5	4.3	0.91	O56687(B-12/X下)
570	791	A18	B00	石鏃	-	OB2	18.6	14.2	6	1	O56199(A-12/X)
570	792	A18	B00	石鏃	-	SH	20.5	15.6	4.1	0.73	O40413(B-12/X)
570	793	A18	B00	石鏃	-	AN1	20.4	14.2	5.1	1.1	O40248(A-12/X)
570	794	A18	B00	石鏃	-	SH	17.9	11.7	3	0.04	O56641(B-12/X下)
570	795	A18	B00	石鏃	未製品	SH	14	17.3	3.2	0.74	O55984(B-12/X)
570	796	A18	B00	石鏃	-	SH	29.1	19.8	7.3	3.4	O56603(B-12/X)
570	797	A18	B00	石鏃	未製品	SH	23.8	20.8	6.5	3.1	O55945(B-12/X)
570	798	A18	B00	石鏃	未製品	AN1	14.5	9.2	4.1	0.46	O56035(A-12/X)
570	799	A18	B00	微細刺離痕剥片	-	SH	24.3	16.9	4.7	1.6	O55977(B-12/X)
570	800	A18	B00	石鏃	未製品	SH	18.4	22.3	4	1.4	O56629(B-12/X)
570	801	A18	B00	石鏃	未製品	SH	20.6	20.2	5	1.8	O56057(B-12/X)
571	802	A18	B00	石鏃	未製品	SH	22.6	20.7	9.2	3.6	O55852(B-11/X)
571	803	A18	B00	石鏃	未製品	SH	26.3	19.9	9.9	3.7	O40358(B-12/X)
571	804	A18	B00	石鏃	未製品	OB1	25.4	20.9	12.1	5.1	O56276(B-13/X下)
571	805	A18	B00	石鏃	未製品	SH	23.3	21.7	8.8	4.2	O67526(B-12/X)
571	806	A18	B00	石鏃	未製品	SH	32.6	24.3	12.7	8	O55975(B-12/X)
571	807	A18	B00	二次加工戻り片	-	OB2	17.7	16.6	3	1.1	O56175(A-12/X)
571	808	A18	B00	二次加工戻り片	-	OP	21.6	15.6	6.3	1.4	O40355(B-12/X)
571	809	A18	B00	斧形石器	-	AN1	66	34.2	15.5	31	O56648(B-12/X下)
571	810	A18	B00	削器	-	SH	54.4	43	7.4	15	O40203(A-12/X)
571	811	A18	B00	削器	-	SH	34.3	48.4	9	12	O40146(B-12/X)
571	812	A18	B00	削器	-	KAN	36	48.2	7.4	14	O55798(B-11/X)
571	813	A18	B00	削器	-	OB6	36.7	27.3	10.2	9	O56670(B-12/X)
571	814	A18	B00	商標剥片	-	OB2	16.2	10.8	4.6	0.66	O57634(A-13/X)
571	815	A18	B00	楔形石器	-	OP	14	11.1	4.8	0.42	O40366(B-12/X)
571	816	A18	B00	楔形石器	-	SH	19.4	10.7	4.8	1.3	O40433(B-12/X)
572	817	A18	B00	チップ	-	OB3	12.2	7.3	1.1	0.08	O56701(A-11/X)
572	818	A18	B00	チップ	-	CC	12.1	9.3	1.6	0.18	O40429(B-12/X)
572	819	A18	B00	チップ	-	SH	10.9	11	1.9	0.18	O40339(B-12/X)
572	820	A18	B00	剥片	-	SH1	14.6	8.7	3.1	0.29	O40389(B-12/X)
572	821	A18	B00	チップ	-	SH	11.6	7.7	1.8	0.18	O40388(B-12/X)
572	822	A18	B00	剥片	-	SH2	11	14.1	0.9	0.19	O40349(B-12/X)
572	823	A18	B00	剥片	-	OB2	8.9	10.2	2.5	0.28	O56302(B-13/X)
572	824	A18	B00	剥片	-	SH	11.3	16	2.5	0.34	O40414(B-12/X)
572	825	A18	B00	剥片	-	SH	14.3	12.9	2.7	0.49	O40147(B-12/X)
572	826	A18	B00	剥片	-	SH2	12.6	15.2	2.7	0.36	O55789(B-11/X)
572	827	A18	B00	剥片	-	OB1	12.4	16.3	9.4	0.71	O56678(B-12/X)
572	828	A18	B00	剥片	-	SH2	16	10.7	3.8	0.4	O56027(A-12/X)
572	829	A18	B00	剥片	-	SH1	13.3	14.9	4.3	0.71	O56642(B-12/X下)
572	830	A18	B00	剥片	-	OB1	16.3	11.1	4.6	0.81	O40200(A-12/X)
572	831	A18	B00	剥片	-	SH2	10.8	13.6	4.2	0.54	O40308(B-12/X)
572	832	A18	B00	剥片	-	SH	16.7	15.4	3.5	0.76	O40284(A-12/X)
572	833	A18	B00	剥片	-	SH2	16.5	12.9	2.5	0.34	O56173(A-12/X)
572	834	A18	B00	剥片	-	CH	15.1	14.3	3.7	0.63	O56712(B-11/X)
572	835	A18	B00	剥片	-	OB3	14.7	12.4	3.8	0.49	O40245(A-12/X)
572	836	A18	B00	剥片	-	CH	12.2	13.7	3.1	0.5	O56705(B-11/X)
572	837	A18	B00	剥片	-	OB1	14.8	16.9	2.8	0.55	O56269(A-12/X)
572	838	A18	B00	剥片	-	SH2	16.6	17	3	0.63	O56638(B-12/X下)

第114表 第三文化層第18エリア出土石器観察表（4）

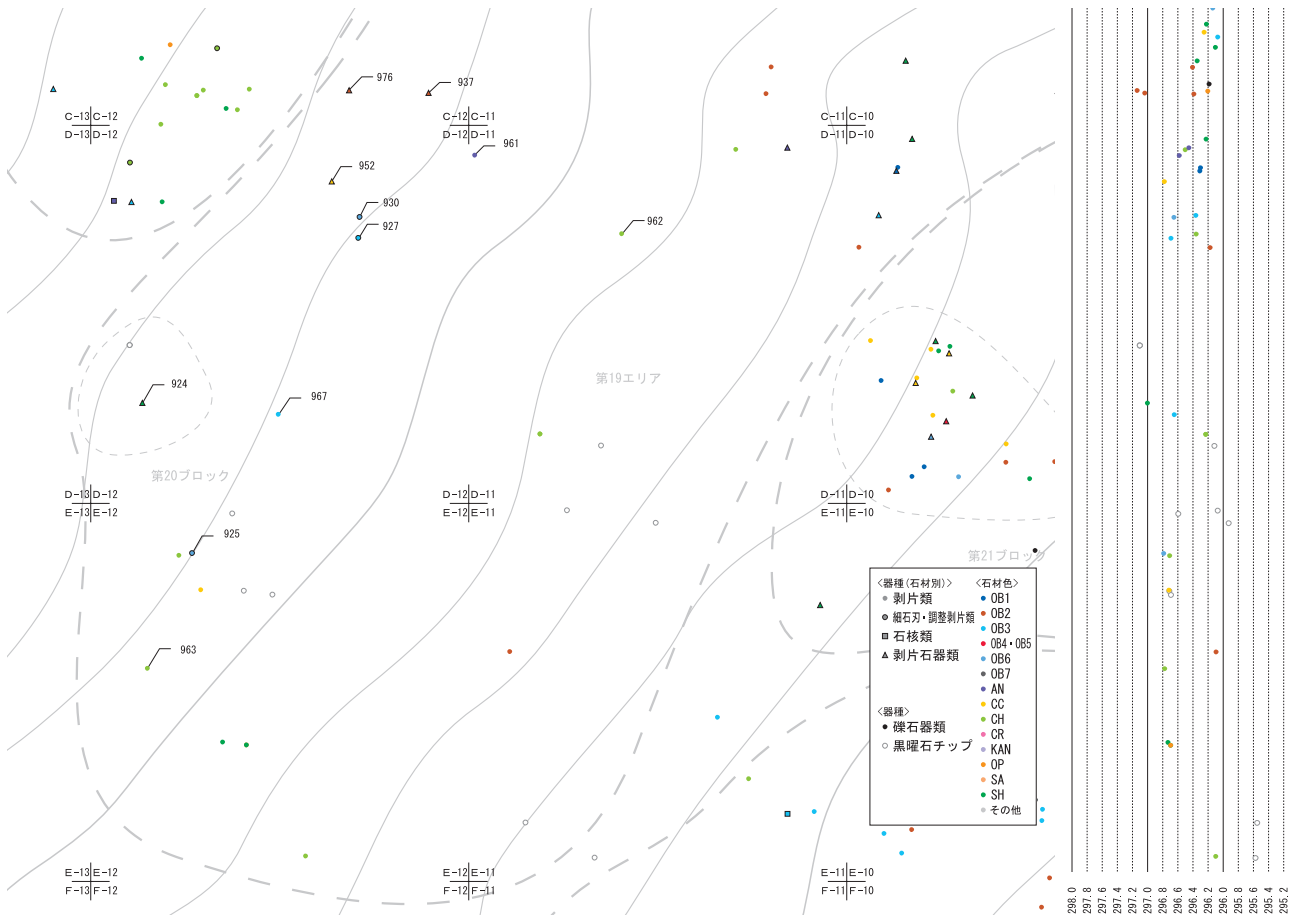
補遺No	図No	エリア	フロッグ	分類2	分類3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
572	839	A18	B00	剥片	-	OB1	19.9	13.5	5.3	1.1	O56723(B-11/X)
572	840	A18	B00	剥片	-	SH	22	13.8	4	0.77	O56664(B-12/X)
572	841	A18	B00	剥片	-	OB2	23.6	10.9	5.9	1.1	O40321(B-12/X)
572	842	A18	B00	剥片	-	OB1	20.2	13.8	4.1	0.97	O56185(A-12/X)
572	843	A18	B00	剥片	-	SH2	14.5	16.9	2.7	0.53	O56307(B-13/X)
572	844	A18	B00	剥片	-	SH2	12.6	18.2	3	0.67	O40293(A-12/X)
572	845	A18	B00	剥片	-	OB3	11.4	18.5	7.2	1.2	O40143(B-12/X)
572	846	A18	B00	剥片	-	SH2	16.4	16.2	4.9	0.85	O56278(A-12/X)
572	847	A18	B00	剥片	-	SH2	21.2	12.7	6.1	1.2	O55951(B-12/X)
572	848	A18	B00	剥片	-	SH2	19.2	14.4	6.3	0.97	O40282(A-12/X)
572	849	A18	B00	剥片	-	OB6	21.5	16.8	5.5	1.6	O56766(B-12/X)
572	850	A18	B00	剥片	-	OP	14.2	18.9	5.9	1	O40373(B-12/X)
572	851	A18	B00	剥片	-	OB3	15	19.5	5.7	1.1	O56237(B-12/X)
572	852	A18	B00	剥片	-	SH1	22.5	19.5	2.4	0.48	O56066(B-11/X)
572	853	A18	B00	剥片	-	OB2	19.3	15.4	5.8	1.4	O56008(A-12/X)
572	854	A18	B00	剥片	-	CC	23.6	14.7	4.1	1.1	O55781(B-11/X)
572	855	A18	B00	剥片	-	SH1	29.3	16.8	3.3	0.83	O56186(A-12/X)
572	856	A18	B00	剥片	-	OB2	19.5	19.5	5.5	2	O56039(A-12/X)
572	857	A18	B00	剥片	-	SH2	21.5	14.2	6.3	1.5	O56000(B-12/X)
573	858	A18	B00	剥片	-	SH2	15.5	17.4	7	2.1	O40415(B-12/X)
573	859	A18	B00	剥片	-	SH1	19	17.1	6	1.9	O40396(B-12/X)
573	860	A18	B00	微細刺離痕剥片	-	OB1	18.8	17.7	4.1	1	O56235(B-12/X)
573	861	A18	B00	剥片	-	CH	22.9	18.4	3	1.2	O40198(A-12/X)
573	862	A18	B00	剥片	-	OB2	15.4	22.7	5.3	1.6	O56758(B-12/X)
573	863	A18	B00	剥片	-	OB2	25.4	16.5	7.2	2.3	O56039(A-12/X下)
573	864	A18	B00	剥片	-	OB1	21.4	20.1	6.9	2.1	O40338(B-12/X)
573	865	A18	B00	剥片	-	SH2	14.9	23.8	4.9	1.7	O40423(B-12/X)
573	866	A18	B00	剥片	-	SH1	19.5	23.2	3.8	1.7	O40254(A-12/X)
573	867	A18	B00	剥片	-	OB3	15.2	26.7	5.5	1.6	O40322(B-12/X)
573	868	A18	B00	剥片	-	OB1	21.4	20.5	6.5	2.8	O56032(A-12/X I)
573	869	A18	B00	微細刺離痕剥片	-	SH1	28.4	18.7	7.2	3.2	O56256(B-12/X)
573	870	A18	B00	剥片	-	OP	30.8	23	8.8	2.3	O56005(A-12/X)
573	871	A18	B00	剥片	-	SH1	27.4	11.5	4.2	1.4	O56645(B-12/X下)
573	872	A18	B00	微細刺離痕剥片	-	OP	30.2	16.6	7	1.7	O40326(B-12/X)
573	873	A18	B00	剥片	-	OB1	33.8	11.4	6.7	2.9	O55834(B-11/X)
573	874	A18	B00	剥片	-	OB2	27.7	18.4	8.9	3.3	O56722(B-11/X)
573	875	A18	B00	剥片	-	CH	13.4	26.2	3.4</		



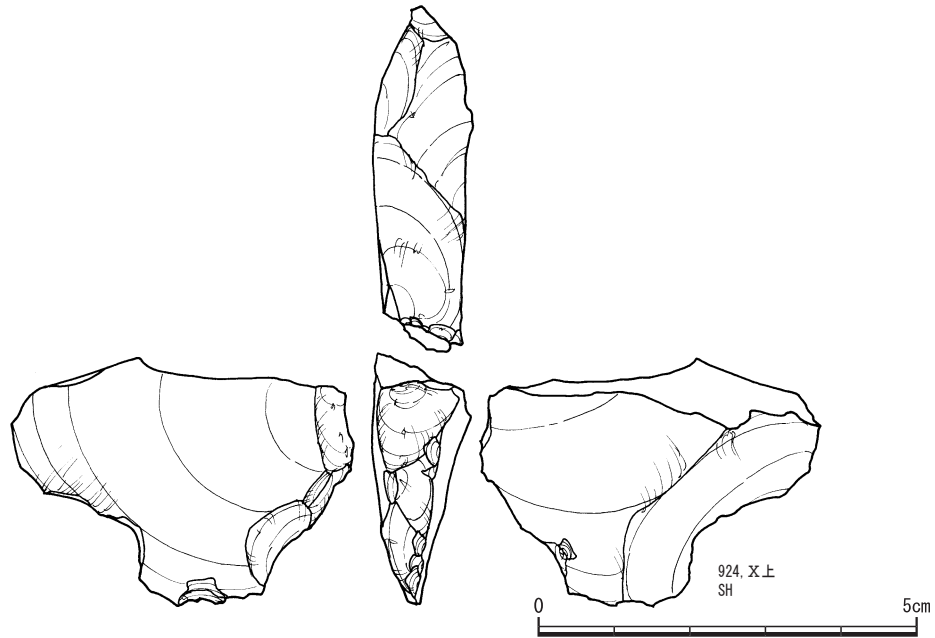
第579図 第三文化層第19エリア石器出土状況図(1)



第580図 第三文化層第19エリア第19ブロック出土石器実測図



第581図 第三文化層第19エリア石器出土状況図(2)



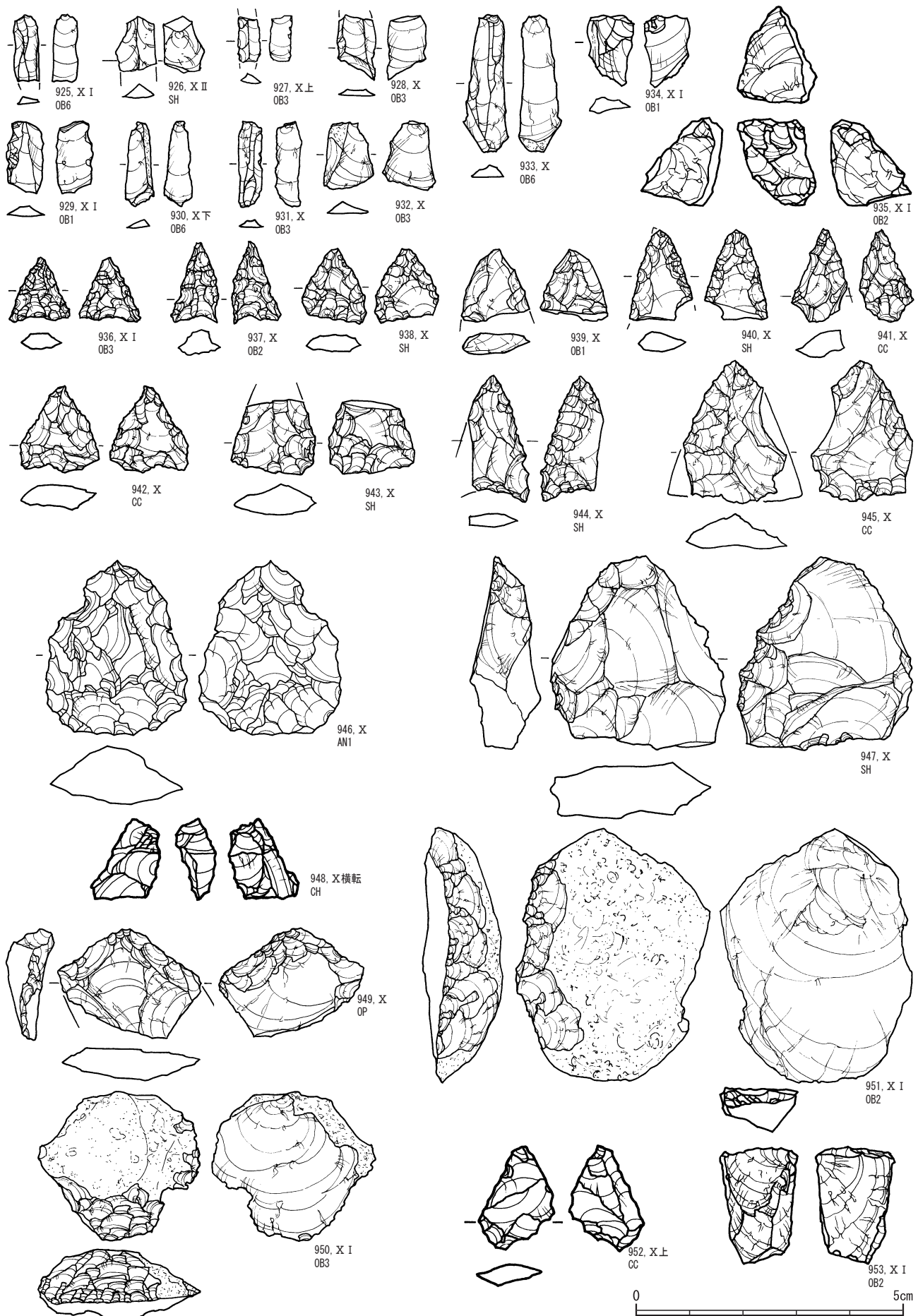
第582図 第三文化層第19エリア第20ブロック出土石器実測図

～916)が混在する可能性が高い。なお、ハンマー及び敲石等は第17エリアでの出現と軌を一にすることから、石鏃製作に付随する可能性が高い。

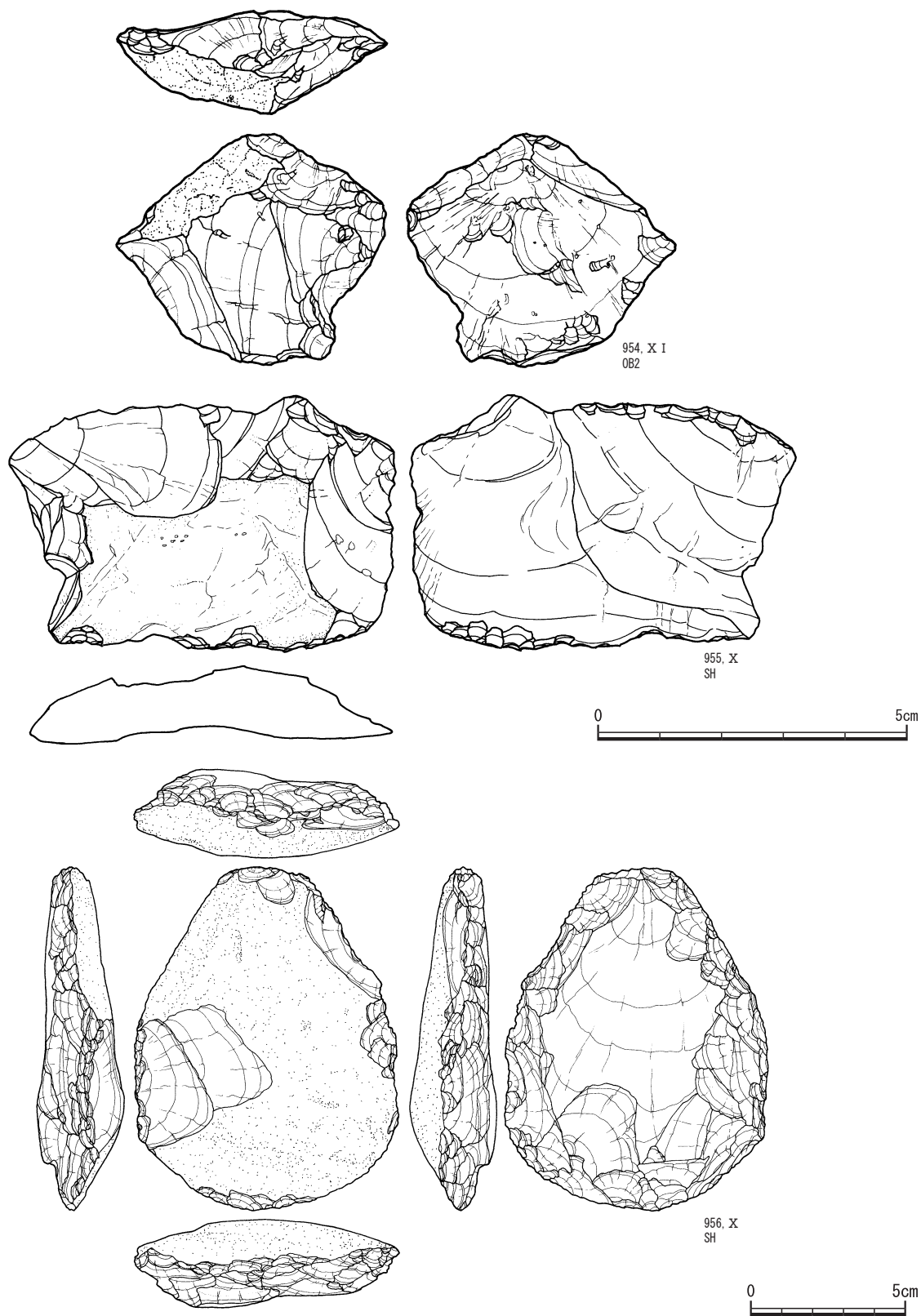
細石刃核(766・767)は黒曜石Ⅲ類で、766は狭小な角礫素材を使用している。この狭い作業面選択は、767～769の細石刃核、770の細石刃核ブランクにも共通する。778は黒曜石

Ⅲ類の素材原礫、782は頁岩の両面加工品で細石刃核ブランクと判断した。772は剥片素材の細石刃核で、正面と背面に細石刃作業面を持ち背面が先行する。779も剥片素材で、右側面は剥離面、左側面は打面からの石核整形と下縁調整を行う。

石鏃関連の使用石材は784・785(頁岩)、786(黒曜石Ⅱ類)、



第583図 第三文化層第19エリア出土石器実測図(1)



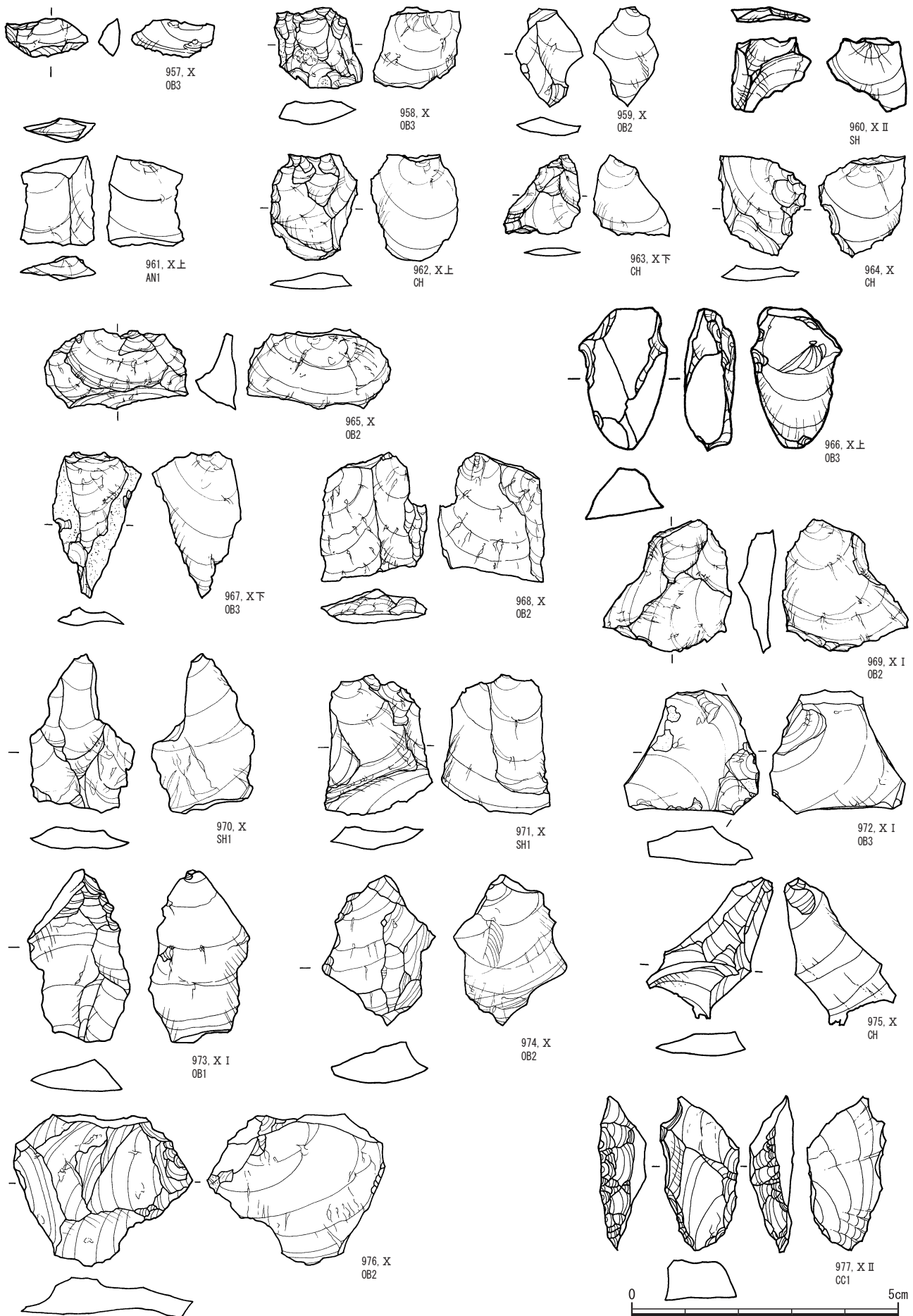
第584図 第Ⅲ文化層第19エリア出土石器実測図(2)

787(玉髓), 788~790(頁岩), 791(黒曜石Ⅱ類), 792(頁岩), 793(安山岩), 794~797(頁岩), 798(安山岩), 799~803(頁岩), 804(黒曜石Ⅰ類), 805・806(頁岩), 807(黒曜石Ⅱ類), 808(タンパク石), 809(安山岩), 810(頁岩)であり, 頁岩に比重を置く石材選択が認められる。

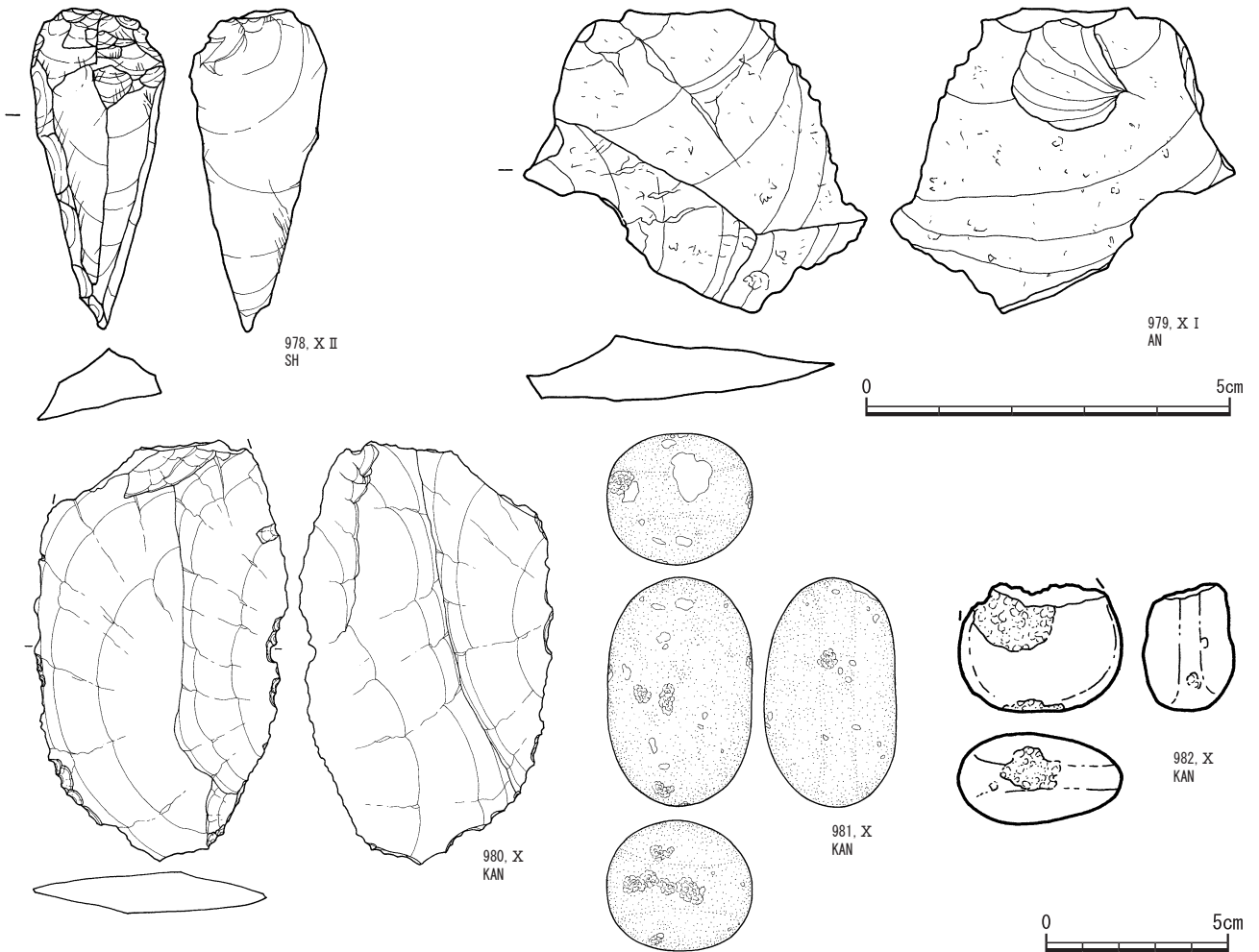
784・795・800等は素材剥離面を多く残し, 元々薄い剥片

を選択している。完成品とみられる石鏃(784~794)の基部は若干内湾形状に仕上げていることから, 795~807は未製品と判断して良さそうである。

809は先端部を両面から鋭利に調整し, 打面部も整形していることから, 斧形石器と判断する。810~813は削器, 815・816・895は楔形石器を想定している。石核の900・



第585図 第三文化層第19エリア出土石器実測図(3)



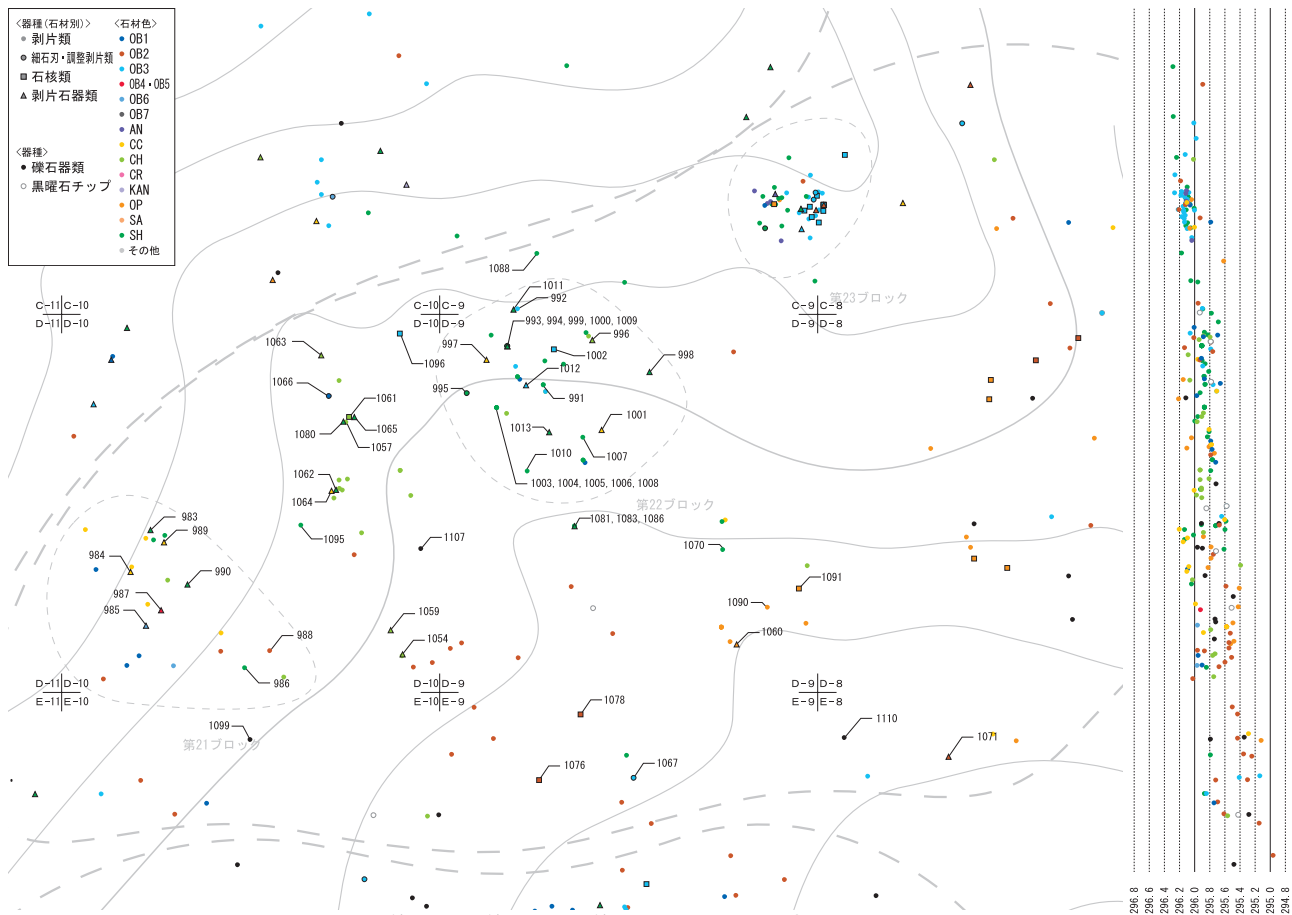
第586図 第三文化層第19エリア出土石器実測図(4)

第115表 第三文化層第19エリア出土石器観察表(1)

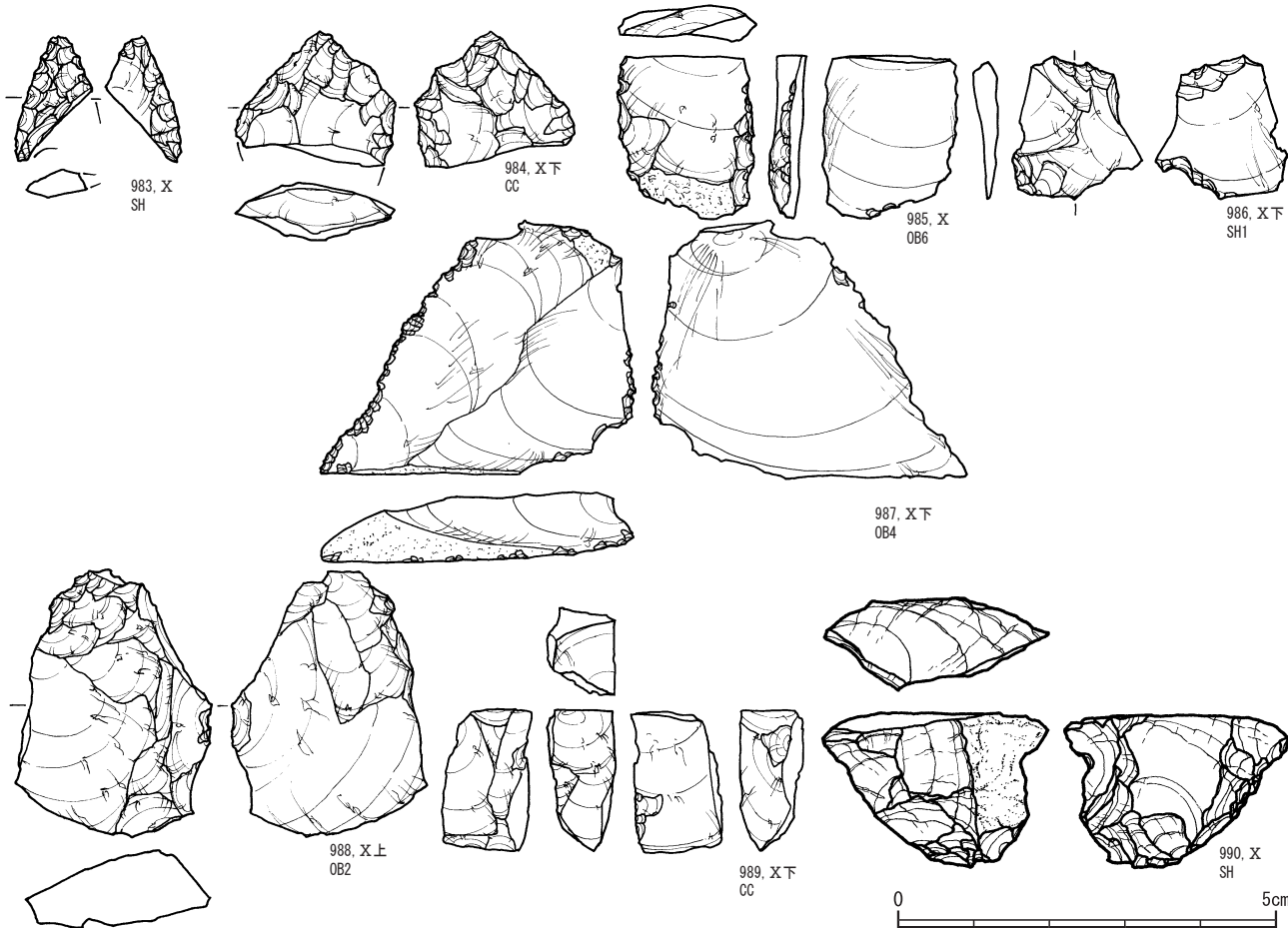
排図No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
580	917	A19	B19	細石刃	-	OB3	14.1	5.9	1.8	0.12	O51556(B-10/X)
580	918	A19	B19	細石刃核	-	OB3	15.6	18.7	18	5.4	O51558(B-10/X)
580	919	A19	B19	細石刃核	-	OB3	23.7	18.7	18.5	7.5	O52631(B-10/X I)
580	920	A19	B19	石鏃	-	SH	15.2	12.4	2.7	0.41	O51460(B-10/X)
580	921	A19	B19	剥片	-	OB1	25.2	19.5	6	2.4	O51459(B-10/X)
580	922	A19	B19	剥片	-	OB1	19.6	16.1	5.8	1.2	O52629(B-10/X I)
580	923	A19	B19	剥片	-	AN	76.4	68.5	24	114	O52633(B-10/X I)
582	924	A19	B20	抉入石器	-	SH	33.4	13.3	46	14	O39336(D-12/X上)
583	925	A19	B00	細石刃	-	OB6	12.9	5.1	1.6	0.11	O41387(E-12/X I)
583	926	A19	B00	細石刃	-	SH	10.8	7.9	3.6	0.18	O52647(B-9/X II)
583	927	A19	B00	細石刃	-	OB3	9	4.9	1.5	0.06	O39388(D-12/X上)
583	928	A19	B00	細石刃	-	OB3	12.2	7.5	1.3	0.07	O51553(B-10/X)
583	929	A19	B00	細石刃	-	OB1	13.8	7.2	2	0.16	O46688(C-9/X I)
583	930	A19	B00	細石刃	-	OB6	16.1	5.5	2.3	0.14	O39387(D-12/X下)
583	931	A19	B00	細石刃	-	OB3	16.2	5.2	1.7	0.13	O67519(C-11/X)
583	932	A19	B00	細石刃	-	OB3	13.2	10.1	2.9	0.22	O52640(B-9/X)
583	933	A19	B00	細石刃	-	OB6	25.9	8.2	6.5	0.64	O53905(C-10/X)
583	934	A19	B00	剥片	-	OB1	13.7	8.8	3.1	0.33	O46686(C-9/X I)
583	935	A19	B00	ブランク	-	OB2	16.5	14.9	11.9	2.3	O52621(B-10/X I)
583	936	A19	B00	石鏃	-	OB3	12.3	11.8	3	0.26	O52641(B-9/X I)
583	937	A19	B00	石鏃	-	OB2	15.6	9.5	4.7	0.43	O40016(C-12/X)
583	938	A19	B00	石鏃	-	SH	14.1	12.2	3.2	0.47	O53930(C-10/X)
583	939	A19	B00	石鏃	-	OB1	13.6	12.8	4.3	0.65	O53869(D-10/X)
583	940	A19	B00	石鏃	-	SH	17	12	3.6	0.61	O53870(D-10/X)
583	941	A19	B00	石鏃	-	CC	17.5	10.3	4.9	0.67	O53887(C-10/X)
583	942	A19	B00	石鏃	-	CC	16.5	14.9	4.4	0.94	O52627(B-10/X)
583	943	A19	B00	石鏃	-	SH	14	16.3	5.7	1.3	O53878(C-10/X)
583	944	A19	B00	石鏃	-	SH	23.6	12	3	0.72	O53912(C-10/X)
583	945	A19	B00	石鏃	未製品	CC	26.6	19.1	6.3	2.6	O53907(C-10/X)
583	946	A19	B00	石鏃	-	AN1	32.9	26.9	11.4	7.9	O56378(D-11/X)
583	947	A19	B00	石鏃	未製品	SH	36.5	33	12.1	14	O56693(B-11/X)
583	948	A19	B00	二次加工剥片	-	CH	15.3	13.5	6.8	0.86	O35422(C-10/X横転)
583	949	A19	B00	石鏃	未製品	OP	20.6	27.3	7.8	3.3	O53893(C-10/X)

第116表 第三文化層第19エリア出土石器観察表(2)

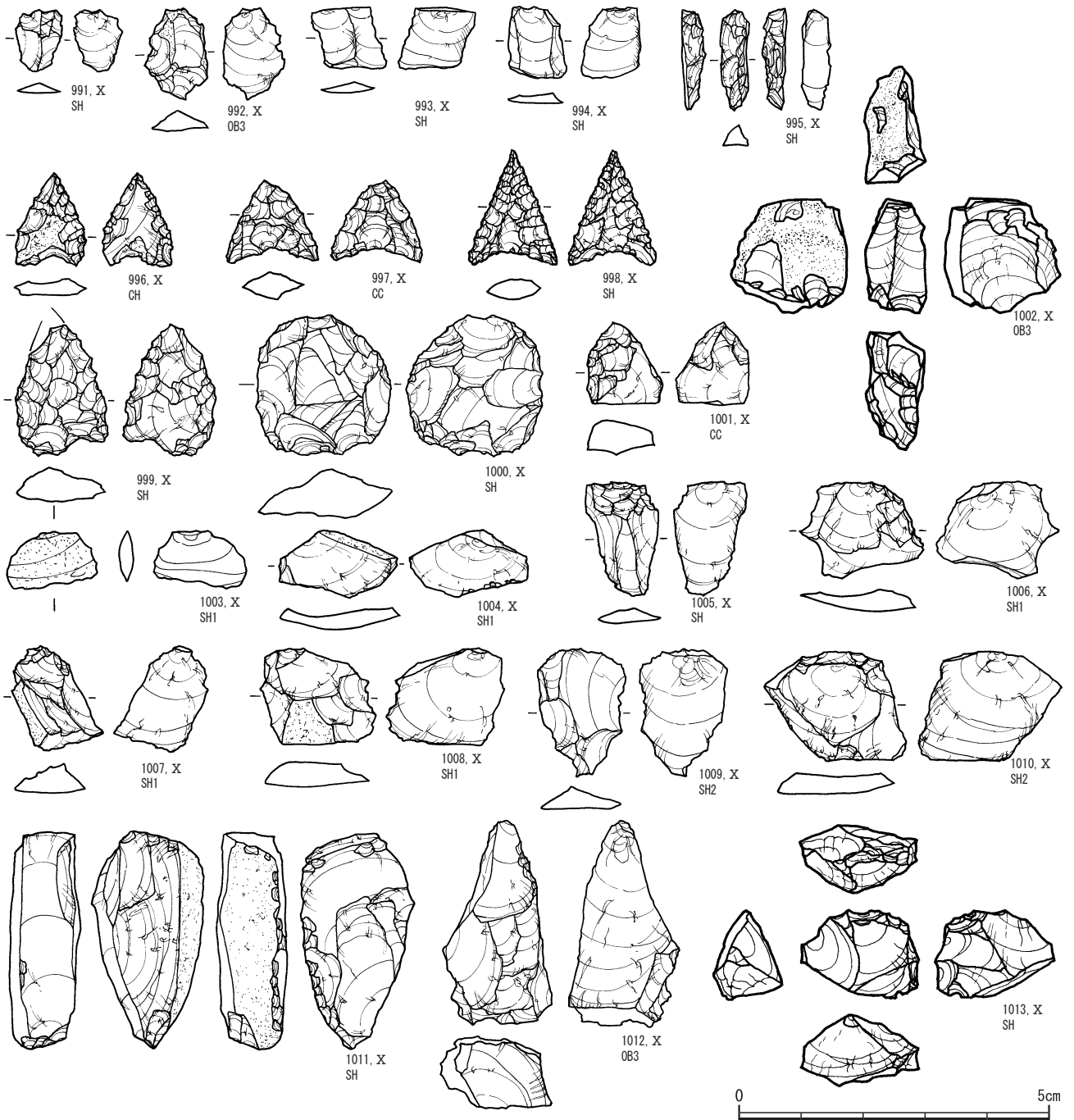
排図No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
583	950	A19	B00	搔器	-	OB3	28.3	30.8	11.2	8.1	O52645(B-9/X I)
583	951	A19	B00	削器	-	OB2	47.7	36.2	14.2	24	O52666(B-10/X I)
583	952	A19	B00	微細剥離痕剥片	-	CC	20.1	14.4	3.8	0.75	O39384(D-12/X上)
583	953	A19	B00	剥片	-	OB2	22.1	14.8	8.3	2.4	O52615(B-10/X I)
584	954	A19	B00	剥片	-	OB2	38.1	43.8	16.6	17	O52614(B-10/X I)
584	955	A19	B00	削器	-	SH	41.6	62.7	11	24	O56562(C-9/X)
584	956	A19	B00	打製石斧	-	SH	111.4	85.7	28.6	269	O57791(C-10/X)
585	957	A19	B00	剥片	-	OB3	7.4	15.7	4.5	0.37	O56510(C-8/X)
585	958	A19	B00	剥片	-	OB3	15.5	16.7	4.1	0.98	O53909(C-10/X)
585	959	A19	B00	剥片	-	OB2	18.9	12.4	4	0.52	O56382(C-11/X)
585	960	A19	B00	剥片	-	SH	14.1	15.1	3	0.36	O52573(B-10/X II)
585	961	A19	B00	剥片	-	AN1	17.4	14.6	4.3	1.1	O39426(D-11/X上)
585	962	A19	B00	剥片	-	CH	20.2	16.6	4.1	1.1	O39415(D-11/X上)
585	963	A19	B00	剥片	-	CH	15.5	14.6	2.4	0.38	O41391(E-12/X下)
585	964	A19	B00	剥片	-	CH	19.4	16.4	3.4	1.1	O41340(B-11/X)
585	965	A19	B00	微細剥離痕剥片	-	OB2	15.3	27.2	7	2.6	O56694(B-11/X)
585	966	A19	B00	抉入石器	-	OB3	26.7	17.4	9	3.7	O53857(D-10/X上)
585	967	A19	B00	剥片	-	OB3	27.7	16.9	6.5	1.3	O39445(D-12/X下)
585	968	A19	B00	剥片	-	OB2	24.6	20.1	6.7	2.7	O52591(B-10/X)
585	969	A19	B00	剥片	-	OB2	24.9	23.8	6.2	2.4	O52605(B-10/X I)
585	970	A19	B00	剥片	-	SH1	30.1	19.6	5	1.9	O56563(C-9/X)
585	971	A19	B00	剥片	-	SH1	26.4	20.6	4.7	2.5	O56451(C-9/X)
585	972	A19	B00	二次加工剥片	-	OB3	23.5	25.7	6.8	37	O51414(B-9/X I)
585	973	A19	B00	剥片	-	OB1	32.6	19.2	7	3.1	O46689(C-9/X I)
585	974	A19	B00	剥片	-	OB2	28.6	21.5	9.1	3.6	O56383(C-11/X)
585	975	A19	B00	剥片	-	CH	27.9	21.2	6.7	1.8	O56388(C-11/X)
585	976	A19	B00	微細剥離痕剥片	-	OB2	28.6	33.6	9.4	6.2	O40017(C-12/X)
585	977	A19	B00	ナイフ形石器	-	CC1	29.1	15	8.4	3.3	O52192(B-10/X II)
586	978	A19	B00	剥片	-	SH	44.6	19	8.9	5.1	O52196(B-10/X II)
586	979	A19	B00	剥片	-	AN	42.2	47.6	12.8	15	O46677(B-10/X I)
586	980	A19	B00	削器	-	KAN	116.8	70.1	13.1	93	O53900(C-10/X)
586	981	A19	B00	ハンマー	-	KAN	63.4	40	36.6	139	O53894(C-10/X)
586	982	A19	B00	ハンマー	-	KAN	36	45.6	25.4	49	O41339(B-11/X)



第587図 第三文化層第20エリア石器出土状況図(1)



第588図 第三文化層第20エリア第21ブロック出土石器実測図



第589図 第Ⅲ文化層第20エリア第22ブロック出土石器実測図

904・905は頁岩で、多くの剥片と共に石鏃製作に関連すると考えられる。敲石や摩耗面をもつ石皿(916)も同様である。

第19エリア

桐木遺跡B～E-8～12区の北向きの緩やかな斜面に分布し、第19ブロックと第20ブロックを含んでいる。

第19ブロックでは石鏃と細石刃、細石刃核2点が確認できる。エリア内は、細石刃関連(917～919・925～935)と石鏃及び石鏃製作関連(920～923・936～947・949)遺物が混在する可能性がある。

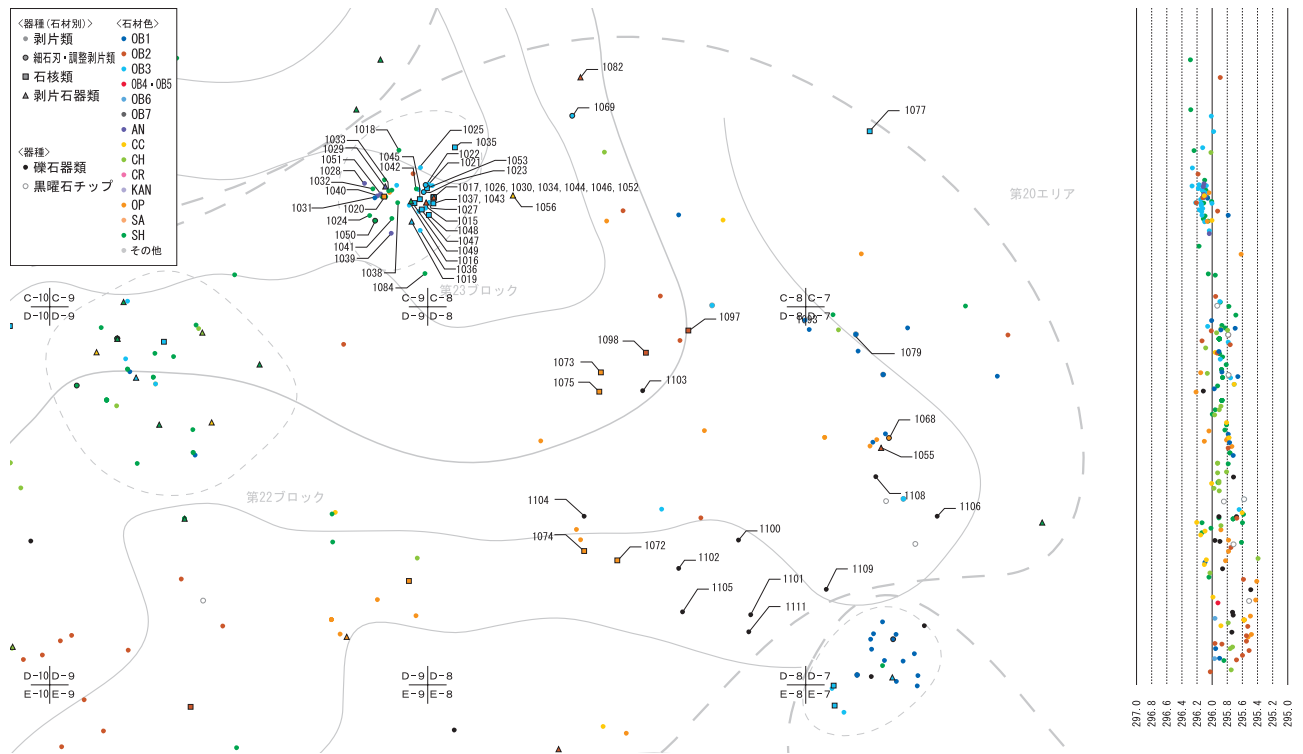
細石刃核(919)は黒曜石Ⅲ類で、背面・底面・右側縁は剥離面で構成する。細石刃剥離作業面は正面だけで、打面調整を伴っている。

石鏃関連の使用石材は920(頁岩)、936(黒曜石Ⅲ類)、937(黒曜石Ⅱ類)、938(頁岩)、939(黒曜石Ⅰ類)、940(頁岩)、941・942(玉髓)、943(頁岩)、945(玉髓)、946(安山岩)、947(頁岩)、949(タンパク石)であり、頁岩と玉髓が拮抗する。石鏃の形状は、基部が若干内弯する傾向が看取される。

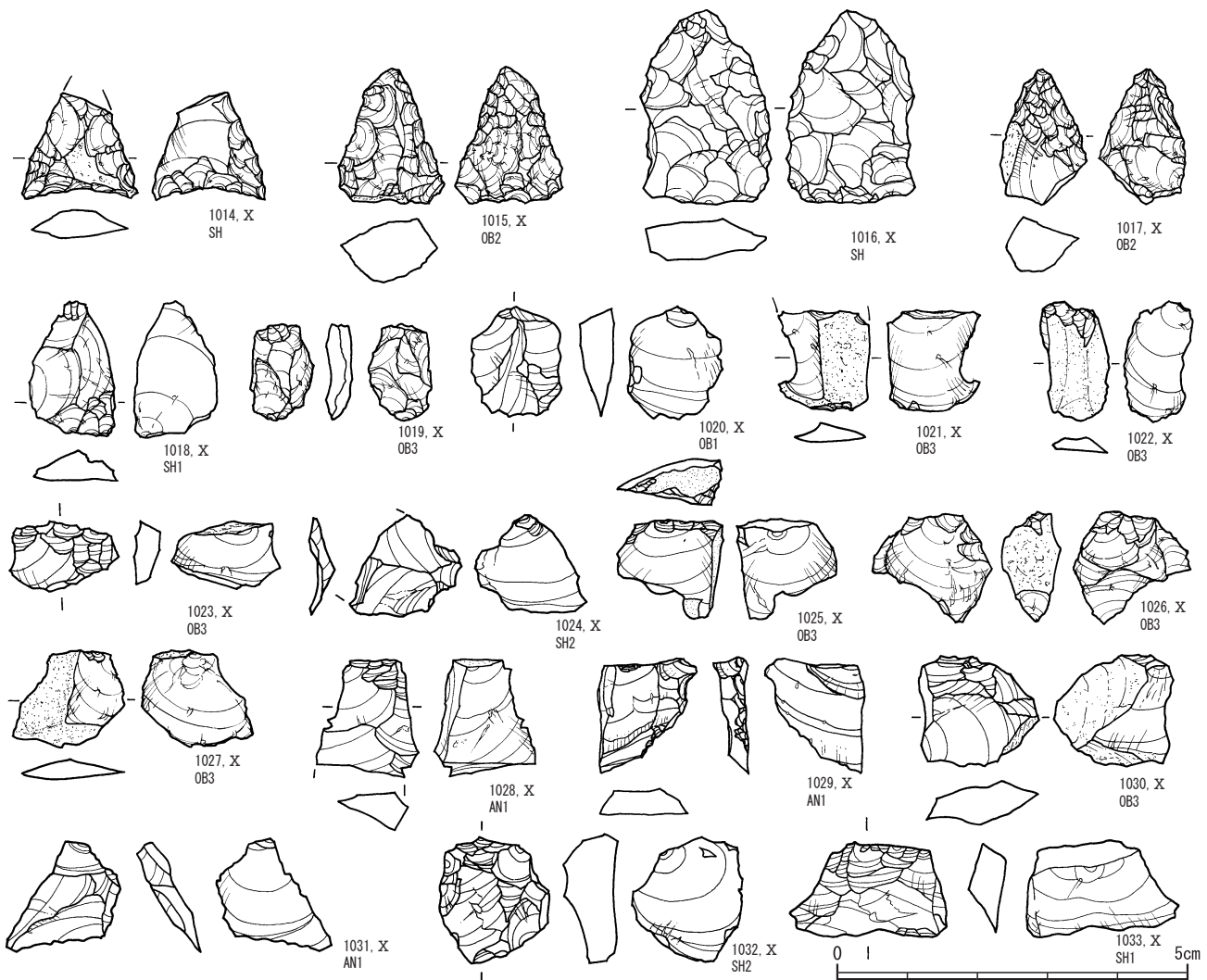
950・951は礫分割剥片を使用した削器で、類似した刃部形成が見られる。956も礫分割剥片を使用した斧型石器で洋梨型を呈し、主に背面から腹面方向への整形剥離で側縁部から刃部まで仕上げている。最大長111.4mm、最大幅85.7mm、最大厚28.6mmを計る。

第20エリア

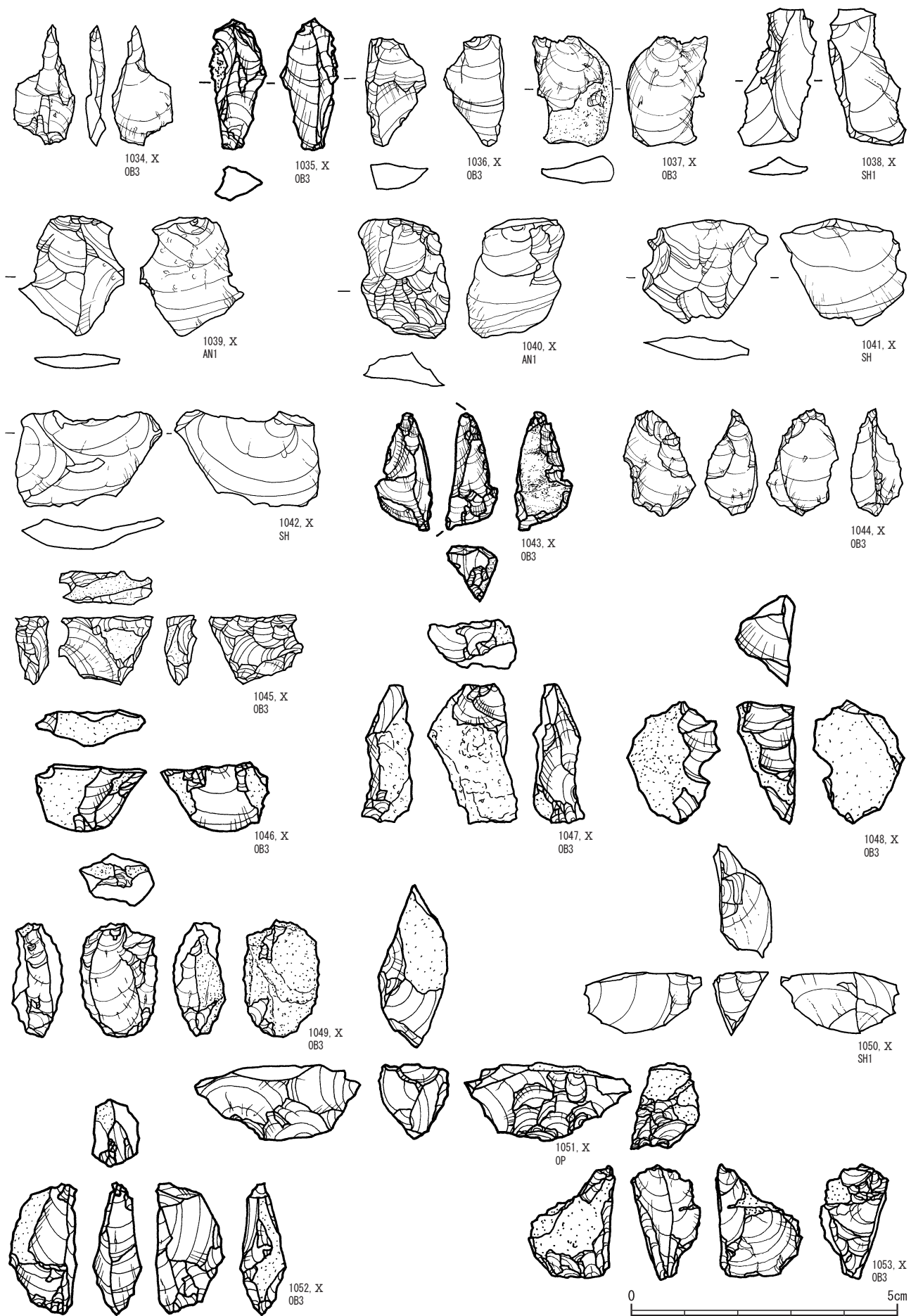
桐木遺跡C～E-7～11区に分布し、第21～第23の3ブ



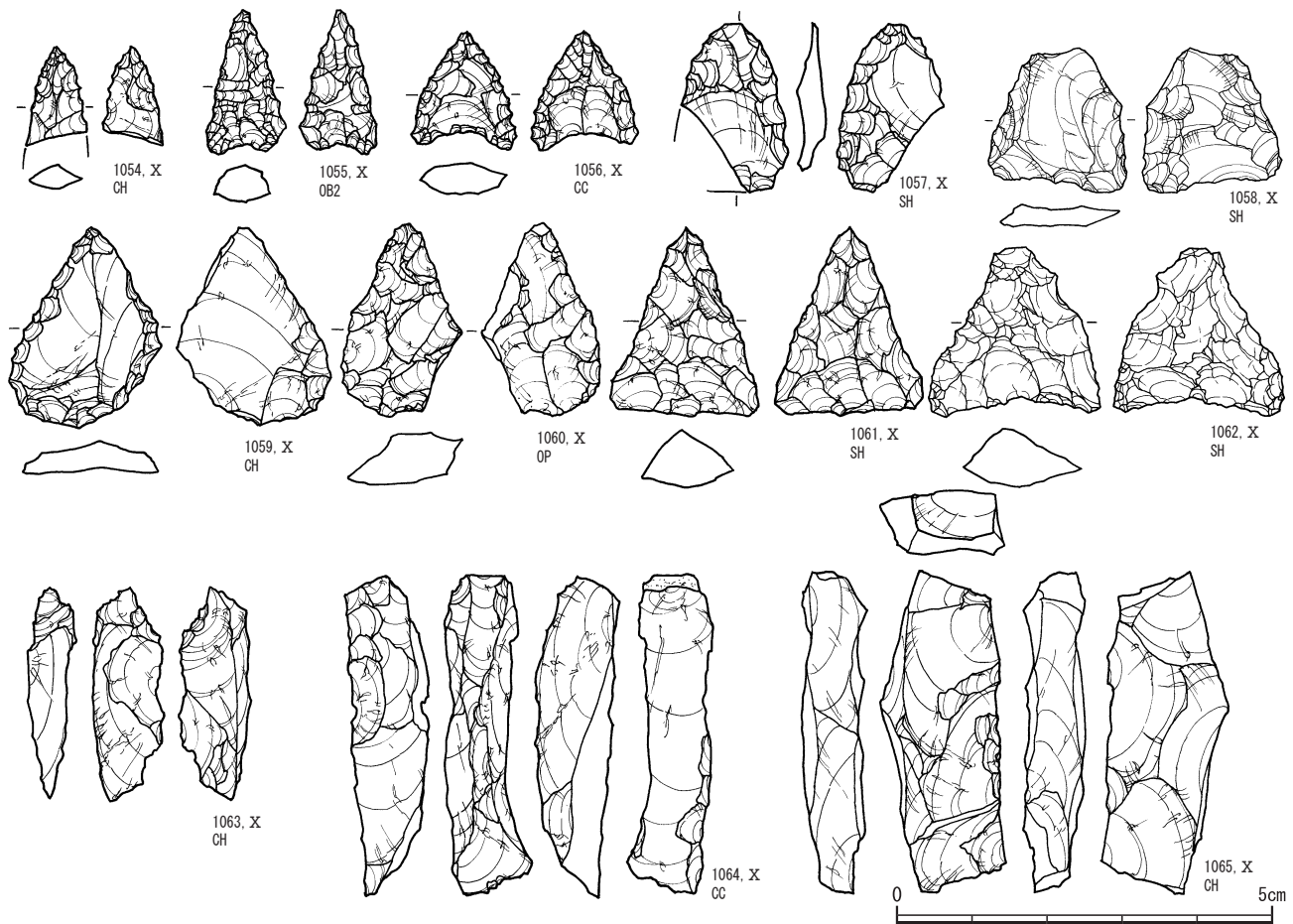
第590図 第三文化層第20エリア石器出土状況図(2)



第591図 第三文化層第20エリア第23ブロック出土石器実測図(1)



第592図 第三文化層第20エリア第23ブロック出土石器実測図(2)



第593図 第三文化層第20エリア出土石器実測図(1)

第117表 第三文化層第20エリア出土石器観察表(1)

拝図No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
588	983	A20	B21	石鏃	-	SH	16.9	10.3	3.8	0.41	○53973(D-10/X)
588	984	A20	B21	石鏃	未製品	CC	18.3	21.4	8.6	2.6	○53979(D-10/X下)
588	985	A20	B21	二次加工産剥片	-	OB6	21.8	18.1	5.7	1.8	○53982(D-10/X)
588	986	A20	B21	剥片	-	SH1	19.3	17.8	4	1	○54002(D-10/X下)
588	987	A20	B21	微細剥離産剥片	-	OB4	34.5	41.9	7.5	7.9	○53990(D-10/X下)
588	988	A20	B21	剥片	-	OB2	35.4	26.1	10.3	8.1	○54003(D-10/X上)
588	989	A20	B21	楔形石器	-	CC	18.9	9.4	10.8	2.7	○53977(D-10/X下)
588	990	A20	B21	挟入石器	-	SH	20.5	30	16.1	6.9	○53994(D-10/X)
589	991	A20	B22	チップ	-	SH	10.1	8	2.2	0.12	○56432(D-9/X)
589	992	A20	B22	剥片	-	OB3	15	10.1	4.4	0.53	○57672(C-9/X)
589	993	A20	B22	細石刃	-	SH	10.2	12.6	3.6	0.25	○56448(D-9/X)
589	994	A20	B22	細石刃	-	SH	11.6	9.8	1.7	0.2	○56448(D-9/X)
589	995	A20	B22	スポール	-	SH	16.4	5	4.4	0.3	○56440(D-9/X)
589	996	A20	B22	石鏃	-	CH	15.3	11.6	2.7	0.41	○56423(D-9/X)
589	997	A20	B22	石鏃	-	CC	13.5	14.9	4.5	0.53	○56449(D-9/X)
589	998	A20	B22	石鏃	-	SH	18.7	14.3	2.8	0.48	○56481(D-9/X)
589	999	A20	B22	石鏃	未製品	SH	21.4	15.2	6.5	1.9	○56448(D-9/X)
589	1000	A20	B22	石鏃	未製品	SH	23	22.3	8.9	4.6	○56448(D-9/X)
589	1001	A20	B22	石鏃	未製品	CC	13.6	12	5.1	0.86	○56410(D-9/X)
589	1002	A20	B22	細石刃	-	OB3	18.7	10.2	9.4	3.6	○56430(D-9/X)
589	1003	A20	B22	剥片	-	SH1	9.6	15.2	1.9	0.24	○56437(D-9/X)
589	1004	A20	B22	剥片	-	SH1	11	19.3	4.1	0.58	○56437(D-9/X)
589	1005	A20	B22	剥片	-	SH	18.5	12	2.7	0.42	○56437(D-9/X)
589	1006	A20	B22	剥片	-	SH1	15.8	19.9	3.2	0.79	○56437(D-9/X)
589	1007	A20	B22	剥片	-	SH1	17.2	15.4	5	0.78	○56411(D-9/X)
589	1008	A20	B22	剥片	-	SH1	16	19.2	3.9	1.1	○56437(D-9/X)
589	1009	A20	B22	剥片	-	SH2	20.8	14.3	5.4	0.91	○56448(D-9/X)
589	1010	A20	B22	剥片	-	SH2	17.8	23.3	4.5	1.4	○56407(D-9/X)
589	1011	A20	B22	楔形石器	-	SH	35	18.6	11.5	9	○57673(C-9/X)
589	1012	A20	B22	微細剥離産剥片	-	OB3	33.5	18.1	11.4	4.6	○56444(D-9/X)
589	1013	A20	B22	二次加工産剥片	-	SH	14.6	19.4	11.7	2.8	○56414(D-9/X)
591	1014	A20	B23	石鏃	-	SH	15.6	16.3	3.2	0.77	○56511(C-9/X)
591	1015	A20	B23	石鏃	-	OB2	19.8	15.6	8.7	2	○56584(C-9/X)
591	1016	A20	B23	石鏃	未製品	SH	27.8	18.6	6	3.6	○56544(C-9/X)
591	1017	A20	B23	石鏃	未製品	OB2	19.5	12.6	7.7	1.3	○56588(C-8/X)
591	1018	A20	B23	剥片	-	SH1	19.7	12.1	5	0.8	○56522(C-9/X)

第118表 第三文化層第20エリア出土石器観察表(2)

拝図No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
591	1019	A20	B23	楔形石器	-	OB3	13.9	9.3	3.9	0.44	○56583(C-9/X)
591	1020	A20	B23	剥片	-	OB1	16.3	13.8	5.3	0.89	○56531(C-9/X)
591	1021	A20	B23	剥片	-	OB3	14.7	13.5	3.2	0.48	○56593(C-8/X)
591	1022	A20	B23	ファーストフレイク	-	OB3	17.4	10	2.5	0.41	○57676(C-9/X)
591	1023	A20	B23	調整剥片	-	OB3	9.8	15.8	3.5	0.38	○56547(C-9/X)
591	1024	A20	B23	剥片	-	SH2	14.2	16.2	2.8	0.44	○56575(C-9/X)
591	1025	A20	B23	剥片	-	OB3	14.5	14.5	6.5	1.1	○56512(C-9/X)
591	1026	A20	B23	両極石核	-	OB3	15.8	8.7	8.4	1.3	○56588(C-8/X)
591	1027	A20	B23	剥片	-	OB3	14.1	16.2	2.9	0.51	○56590(C-8/X)
591	1028	A20	B23	剥片	-	AN1	16.9	14.7	5	0.95	○56528(C-9/X)
591	1029	A20	B23	削器	-	AN1	16.6	14.5	4.8	0.92	○56540(C-9/X)
591	1030	A20	B23	剥片	-	OB3	16.2	17.3	7.3	1.5	○56588(C-8/X)
591	1031	A20	B23	剥片	-	AN1	16.3	16.7	3.2	0.66	○56530(C-9/X)
591	1032	A20	B23	剥片	-	SH2	18.1	16	7.9	2.2	○56529(C-9/X)
591	1033	A20	B23	剥片	-	SH1	14	21.9	5.5	1.4	○56538(C-9/X)
592	1034	A20	B23	細石刃	-	OB3	22.6	11.5	3.5	0.57	○56588(C-8/X)
592	1035	A20	B23	両極石核	-	OB3	25.2	11.2	7.9	1.6	○57679(C-8/X)
592	1036	A20	B23	両極剥片	-	OB3	21.2	11.5	5.4	0.94	○56558(C-9/X)
592	1037	A20	B23	両極剥片	-	OB3	20.8	15.4	5.1	1.4	○56591(C-8/X)
592	1038	A20	B23	剥片	-	SH1	25.9	14.9	5.4	1.1	○56542(C-9/X)
592	1039	A20	B23	剥片	-	AN1	22.5	19.7	4.5	1.2	○56555(C-9/X)
592	1040	A20	B23	剥片	-	AN1	22.6	18.5	5.7	1.7	○56535(C-9/X)
592	1041	A20	B23	剥片	-	SH	20.2	23.8	5.8	1.9	○56552(C-9/X)
592	1042	A20	B23	剥片	-	SH	18.3	27.5	5.7	2	○56514(C-9/X)
592	1043	A20	B23	両極石核	-	OB3	22.3	10	11.8	1.3	○56591(C-8/X)
592	1044	A20	B23	両極剥片	-	OB3	20.5	9.9	15.2	1.6	○56588(C-8/X)
592	1045	A20	B23	両極石核	-	OB3	13.2	17.9	6.1	1.2	○56571(C-9/X)
592	1046	A20	B23	石核	-	OB3	13.3	20.6	6.8	1.3	○56588(C-8/X)
592	1047	A20	B23	両極石核	-	OB3	26.6	17.1	11	3.3	○56546(C-9/X)
592	1048	A20	B23	石核	-	OB3	23.3	11.4	17.1	3	○56596(C-8/X)
592	1049	A20	B23	両極石核	-	OB3	22	14.8	9.2	2.8	○56545(C-9/X)
592	1050	A20	B23	調整剥片	-	SH1	12.3	10.6	11.4	1.7	○56554(C-9/X)
592	1051	A20	B23	プランク	-	OP	14.4	14.6	13.4	4.4	○56534(C-9/X)
592	1052	A20	B23	両極石核	-	OB3	25.2	9	12.8	2.4	○56588(C-8/X)
592	1053	A20	B23	両極石核	-	OB3	21.9	13.4	17.1	3.2	○56585(C-9/X)



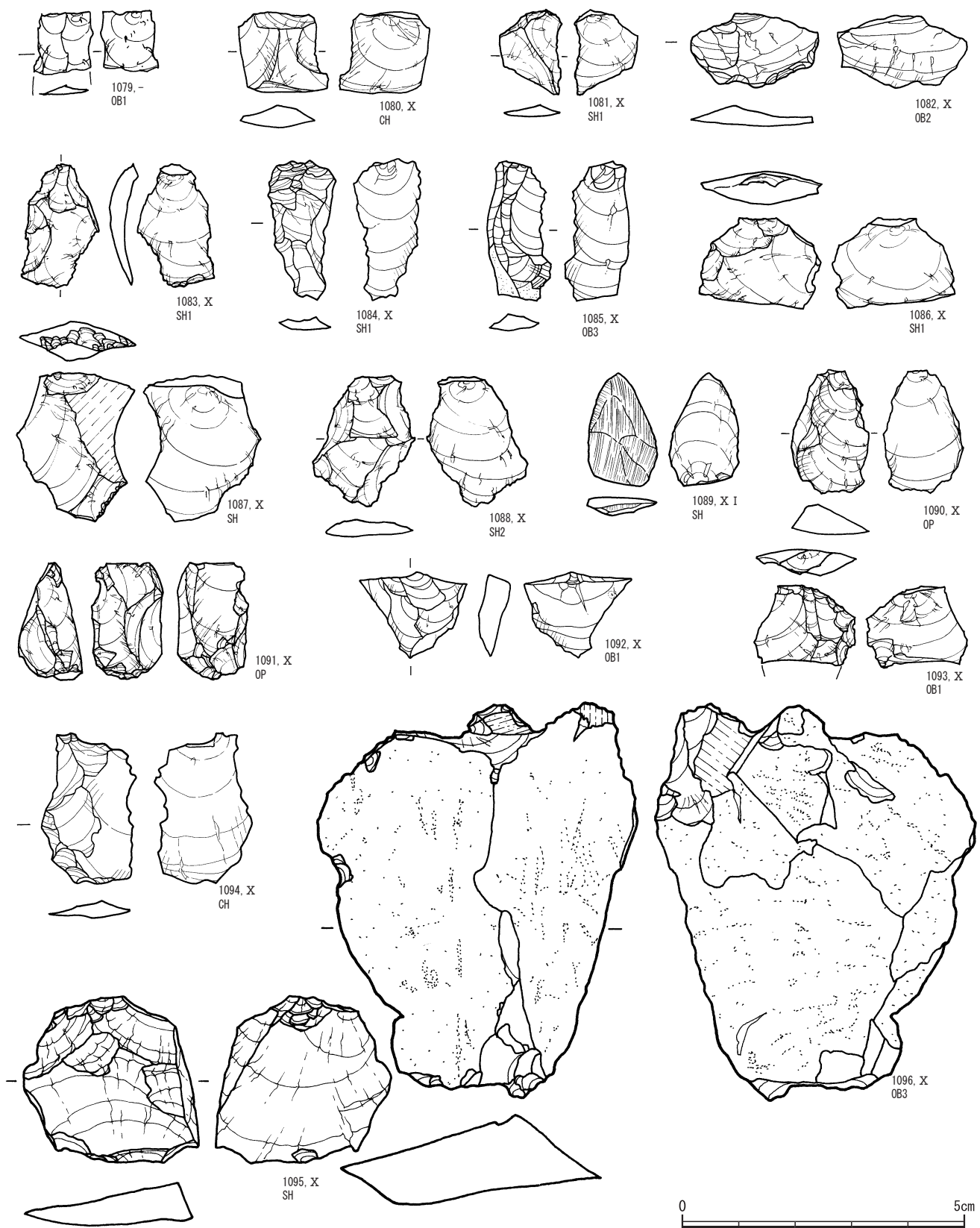
第594図 第三文化層第20エリア出土石器実測図(2)

ロックで構成する。

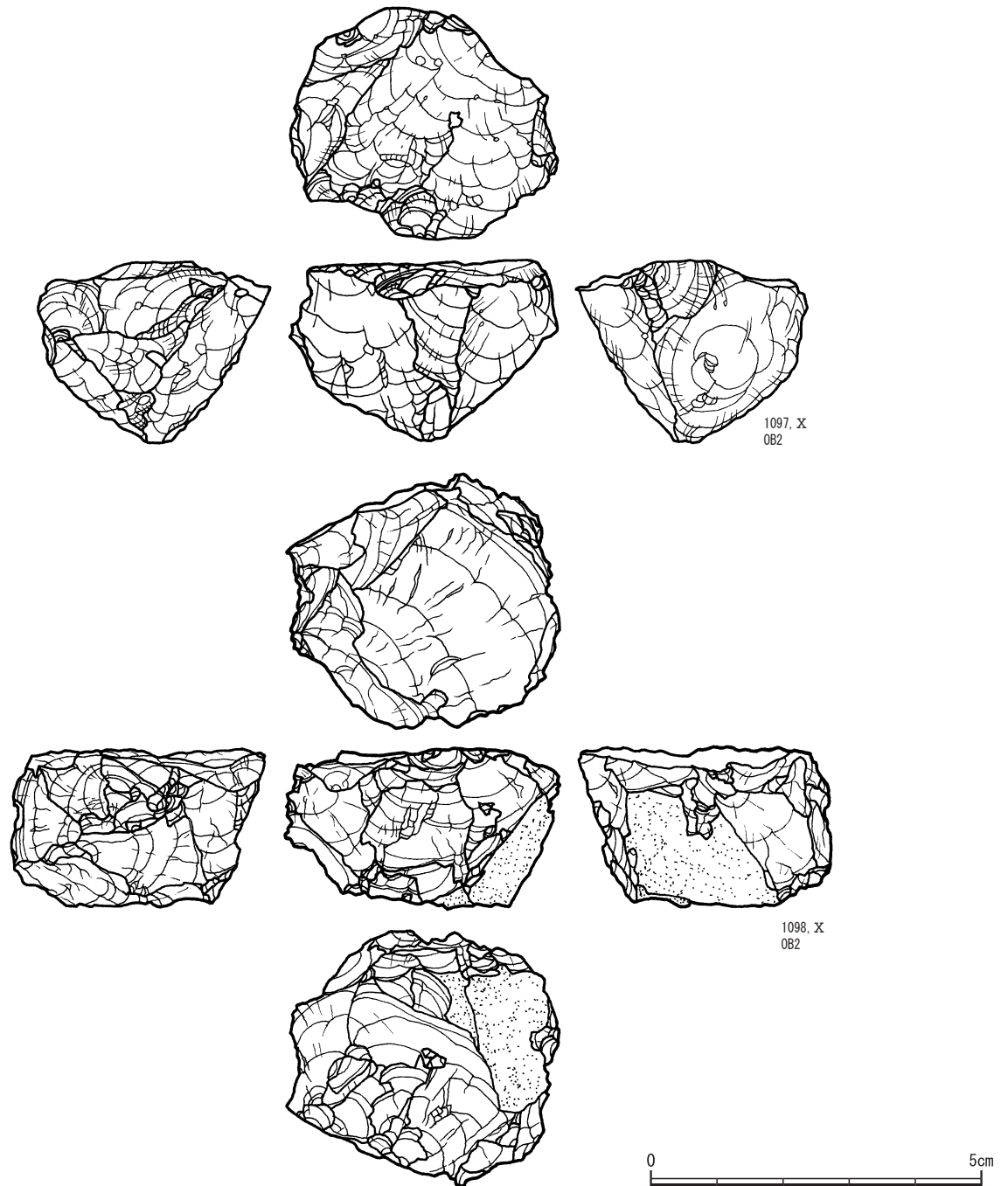
第21ブロックの使用石材は983(頁岩), 984(玉髓), 988(黒曜石Ⅱ類)である。第22ブロックは996(チャート), 997(玉髓), 998~1000(頁岩), 1001(玉髓)を使用する。第23ブロックは1014(頁岩), 1015(黒曜石Ⅱ類), 1016(頁岩), 1017(黒曜石Ⅱ類)で、ブロック外は1054(チャート), 1055(黒曜石Ⅱ類), 1056(玉髓), 1057・1058(頁岩), 1059(チャート), 1060(タンパク石), 1061・1062(頁岩)を石材としている。

ブロック外の一部(1066~1078)は、細石刃との関連を色濃く呈している。1072は打面の細石刃剥離作業が先行し、剥片素材の1074は打面からの石核整形が行われる。1077の左側面は打面から、右側縁は下縁からの石核調整を見せ、側面観は舟形を呈している。1078の細石刃核ブランクは、打面からの石核整形で、広い底面の舟形である。

1097・1098は黒曜石Ⅱ類の石核で、分割面を打面とし、丈の短い不定形剥片を取り出している。敲石及び摩耗面を持つ



第595図 第三文化層第20エリア出土石器実測図(3)



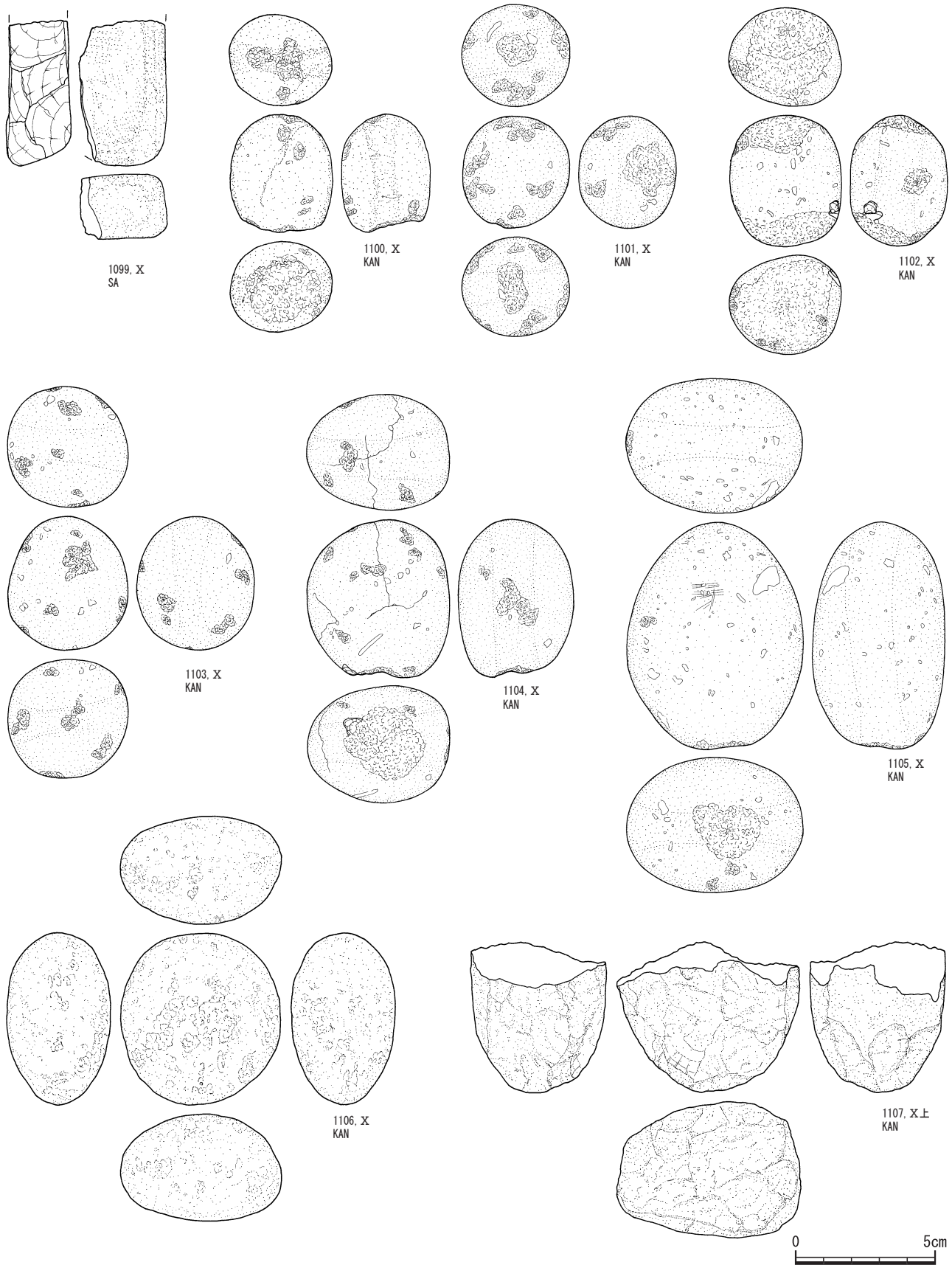
第596図 第Ⅲ文化層第20エリア出土石器実測図(4)

第119表 第Ⅲ文化層第20エリア出土石器観察表(3)

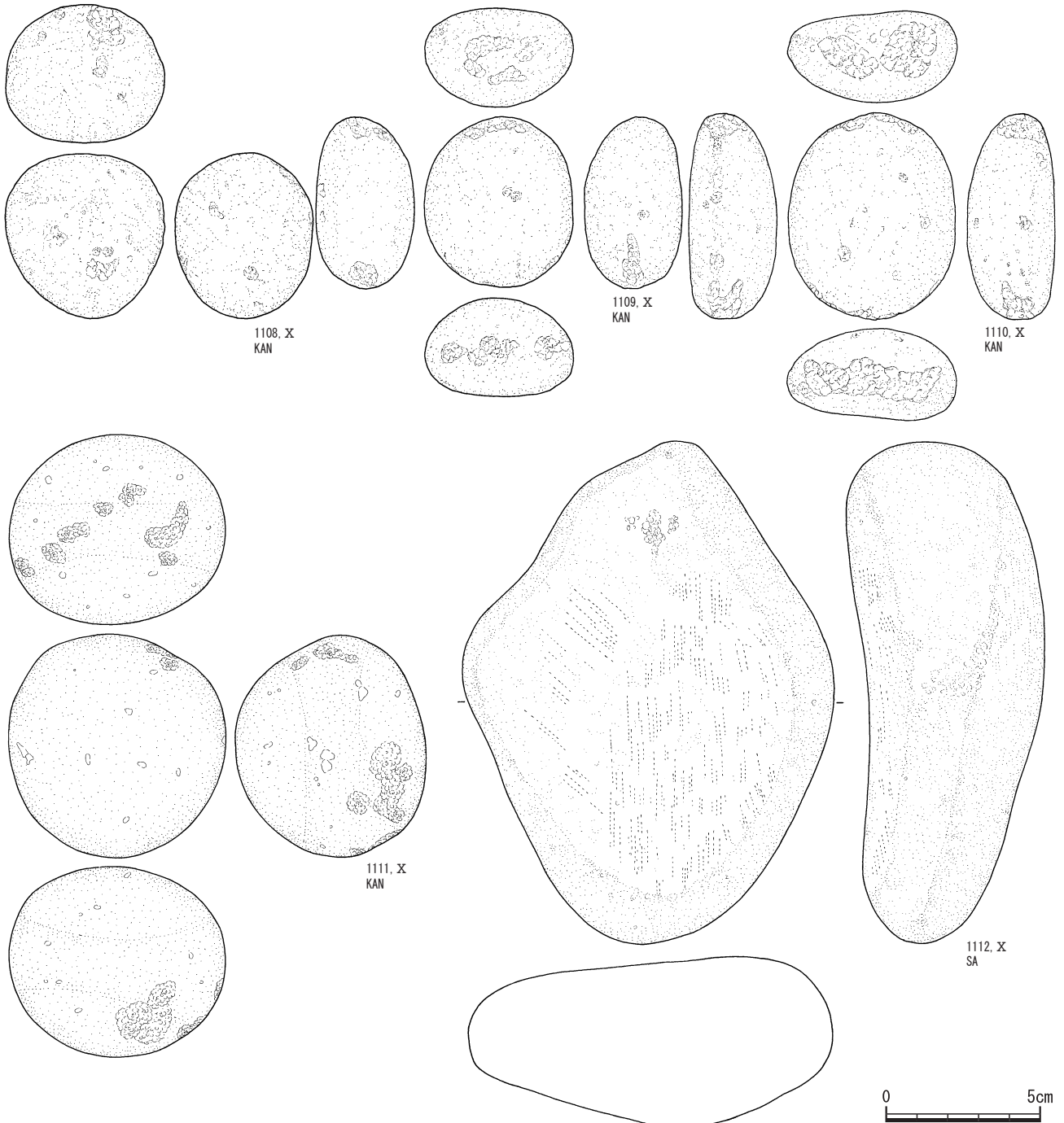
種目No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
593	1054	A20	B00	石鏃	-	CH	13.5	8.3	3.1	0.27	○54043(D-10/X)
593	1055	A20	B00	石鏃	-	OB2	19.4	10.5	4.8	0.7	○55289(D-7/X)
593	1056	A20	B00	石鏃	-	CC	16	15.3	3.8	0.68	○56496(C-8/X)
593	1057	A20	B00	石鏃	-	SH	22.6	14.4	3.6	1	○53843(D-10/X)
593	1058	A20	B00	石鏃	未製品	SH	19.4	18.8	4.5	1.3	○43456(E-11/X)
593	1059	A20	B00	石鏃	未製品	CH	26.5	20.8	4.3	2.1	○54016(D-10/X)
593	1060	A20	B00	石鏃	-	OP	25.9	16	6.8	1.7	○56464(D-9/X)
593	1061	A20	B00	石鏃	-	SH	25.4	19.9	7.2	2.5	○53840(D-10/X)
593	1062	A20	B00	石鏃	未製品	SH	22.5	22.9	7.6	2.7	○53830(D-10/X)
593	1063	A20	B00	二次加工産剥片	-	CH	28.6	9.9	5.4	1.4	○53846(D-10/X)
593	1064	A20	B00	微細剥離産剥片	-	CC	42.7	11.6	10.5	4.4	○53829(D-10/X)
593	1065	A20	B00	石核	-	CH	43.1	17.3	8.3	7.3	○53841(D-10/X)
594	1066	A20	B00	細石刃	-	OB1	7.2	4.2	1.5	0.05	○53844(D-10/X)
594	1067	A20	B00	細石刃	-	OB3	18.3	9.4	3.8	0.32	○53717(E-9/X)
594	1068	A20	B00	細石刃	-	OP	21.6	9.1	3.5	0.38	○55291(D-7/X)
594	1069	A20	B00	ファーストフレイク	-	OB3	22.3	7.2	3.6	0.62	○57680(C-8/X下)
594	1070	A20	B00	剥片	-	SH2	13.6	14.2	3.4	0.37	○56468(D-9/X)
594	1071	A20	B00	微細剥離産剥片	-	OB2	18.9	27.5	4.3	1.5	○55636(E-8/X)

第120表 第Ⅲ文化層第20エリア出土石器観察表(4)

種目No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
594	1072	A20	B00	細石刃核	-	OP	18.1	16.2	40	4.2	○62296(D-8/X)
594	1073	A20	B00	石核	-	OP	15.4	26.1	11.7	2.7	○62313(D-8/X)
594	1074	A20	B00	細石刃核	-	OP	16.7	13.2	21.3	2.4	○62294(D-8/X)
594	1075	A20	B00	ブランク	-	OP	15.9	14	22.6	4.3	○62312(D-8/X)
594	1076	A20	B00	細石刃核	-	OB2	16.4	15.4	11.5	2.2	○53755(E-9/X下)
594	1077	A20	B00	細石刃核	-	OB3	14.8	15.7	29.5	5.4	○62329(C-7/X)
594	1078	A20	B00	ブランク	-	OB2	14.5	24.4	37.7	13	○53753(E-9/X)
595	1079	A20	B00	剥片	-	OB1	11	10.5	1.8	0.2	○73037(D/7)
595	1080	A20	B00	剥片	-	CH	14.7	16.3	4.6	1	○53842(D-10/X)
595	1081	A20	B00	剥片	-	SH1	15.4	11.4	3.1	0.34	○56401(D-9/X)
595	1082	A20	B00	微細剥離産剥片	-	OB2	13.2	23.1	4.1	1.1	○56499(C-8/X)
595	1083	A20	B00	微細剥離産剥片	-	SH1	22.1	13.9	4.5	0.7	○56401(D-9/X)
595	1084	A20	B00	剥片	-	SH1	25.2	12.1	3.7	0.69	○56559(C-9/X)
595	1085	A20	B00	剥片	-	OB3	25	11.6	4.3	0.85	○53798(E-10/X)
595	1086	A20	B00	剥片	-	SH1	16.2	21.9	6.1	2.3	○56401(D-9/X)
595	1087	A20	B00	微細剥離産剥片	-	SH	26.1	21	7.1	2.1	○54123(C-9/X)
595	1088	A20	B00	剥片	-	SH2	23.2	18.1	1.4	0.97	○56487(C-9/X)
595	1089	A20	B00	磨製石斧	-	SH	20.2	12.6	2.8	0.42	○53763(E-10/X I)



第597図 第三文化層第20エリア出土石器実測図(5)



第598図 第Ⅲ文化層第20エリア出土石器実測図(6)

第121表 第Ⅲ文化層第20エリア出土石器観察表(5)

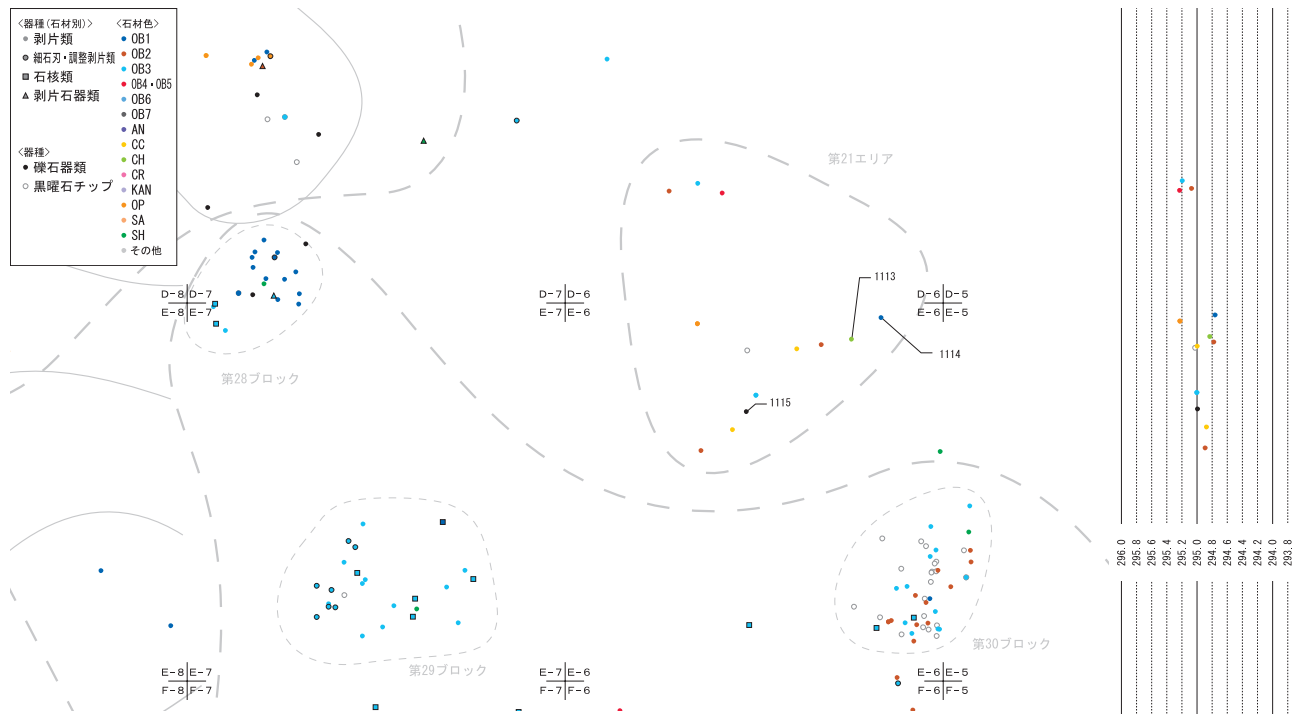
標本No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
595	1090	A20	B00	剥片	-	OP	22	14.4	5.1	1.1	○56475(D-9/X)
595	1091	A20	B00	両極石核	-	OP	20.9	12.8	12.5	2.2	○56473(D-9/X)
595	1092	A20	B00	剥片	-	OB1	15.4	19.3	5.6	0.98	○53801(E-10/X)
595	1093	A20	B00	剥片	-	OB1	14.7	18.1	4.6	0.99	○62325(D-8/X)
595	1094	A20	B00	剥片	-	CH	27	17.5	4.3	1.4	○53816(E-10/X)
595	1095	A20	B00	剥片	-	SH	29.9	31.4	6.8	5.6	○54009(D-10/X)
595	1096	A20	B00	原礫	-	OB3	70.7	57.3	15	46	○53847(D-10/X)
596	1097	A20	B00	石核	-	OB2	27.7	40.9	35.2	29	○62316(D-8/X)
596	1098	A20	B00	石核	-	OB2	24.8	42	40.2	44	○62314(D-8/X)
597	1099	A20	B00	砥石	-	SA	52.6	31.6	23.4	64	○53806(E-10/X)
597	1100	A20	B00	ハンマー	-	KAN	42.6	37.1	32.2	71	○62303(D-8/X)
597	1101	A20	B00	ハンマー	-	KAN	40.5	38.7	35.4	74	○62300(D-8/X)
597	1102	A20	B00	ハンマー	-	KAN	47.5	40.3	35.4	96	○62302(D-8/X)
597	1103	A20	B00	ハンマー	-	KAN	48.4	43.3	42.8	124	○62311(D-8/X)
597	1104	A20	B00	ハンマー	-	KAN	57	51.5	42	160	○62291(D-8/X)

第122表 第Ⅲ文化層第20エリア出土石器観察表(6)

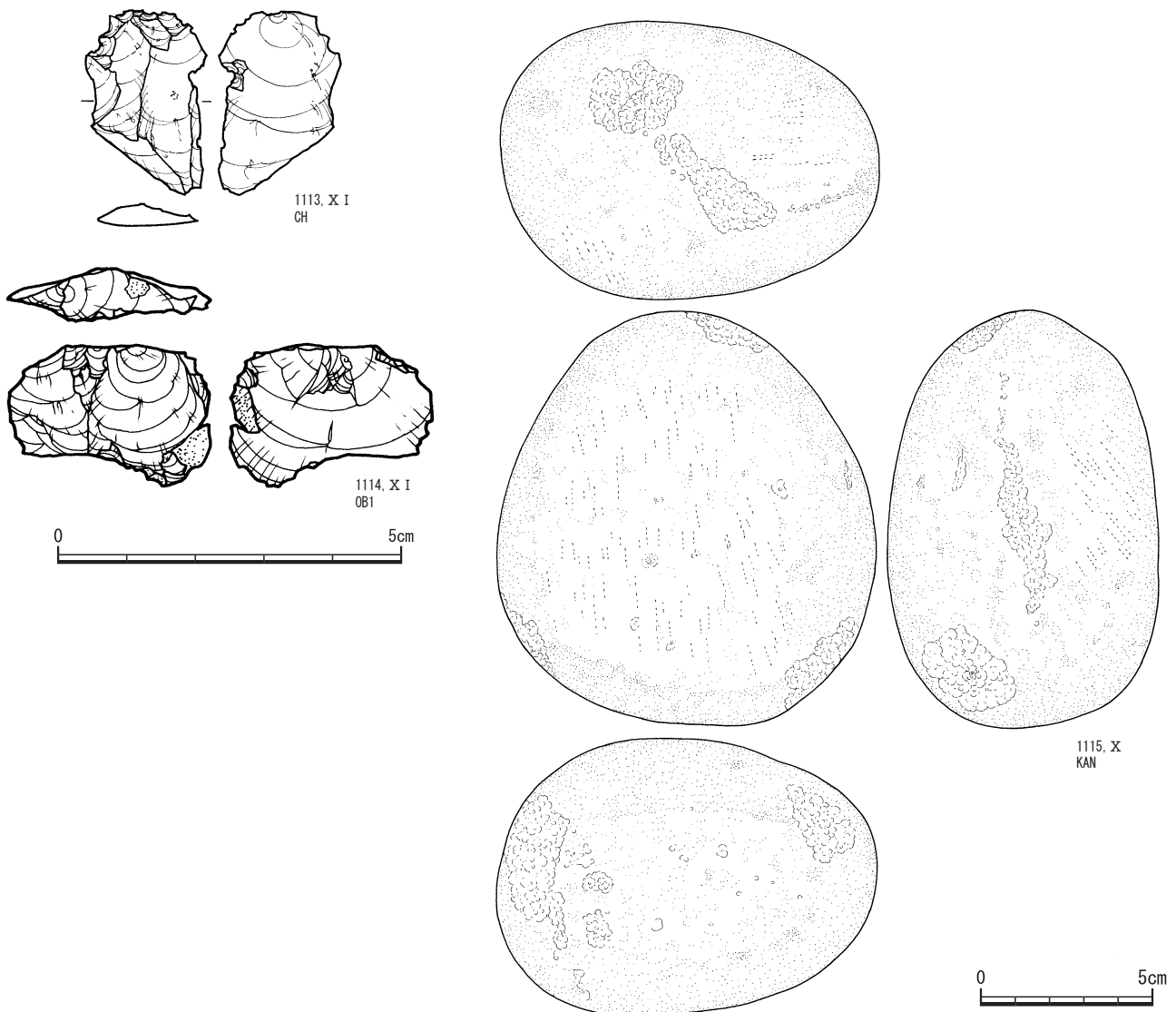
標本No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
597	1105	A20	B00	ハンマー	-	KAN	84.8	63.5	48	340	○62297(D-8/X)
597	1106	A20	B00	磨石	/ 砥	KAN	61.8	57.6	38.2	170	○55272(D-7/X)
597	1107	A20	B00	磨石	/ 砥	KAN	54.3	65.9	49.6	211	○54014(D-10/X上)
598	1108	A20	B00	ハンマー	-	KAN	53.8	52.1	47	177	○55278(D-7/X)
598	1109	A20	B00	磨石	/ 砥	KAN	55.7	48.7	32.2	126	○55267(D-7/X)
598	1110	A20	B00	磨石	/ 砥	KAN	67.7	54.5	29	164	○55630(E-8/X)
598	1111	A20	B00	ハンマー	-	KAN	73	70.8	62.8	430	○62298(D-8/X)
598	1112	A20	B00	石皿	-	SA	163.9	121.1	66.6	1370	○53796(E-10/X)

第123表 第Ⅲ文化層第21エリア出土石器観察表

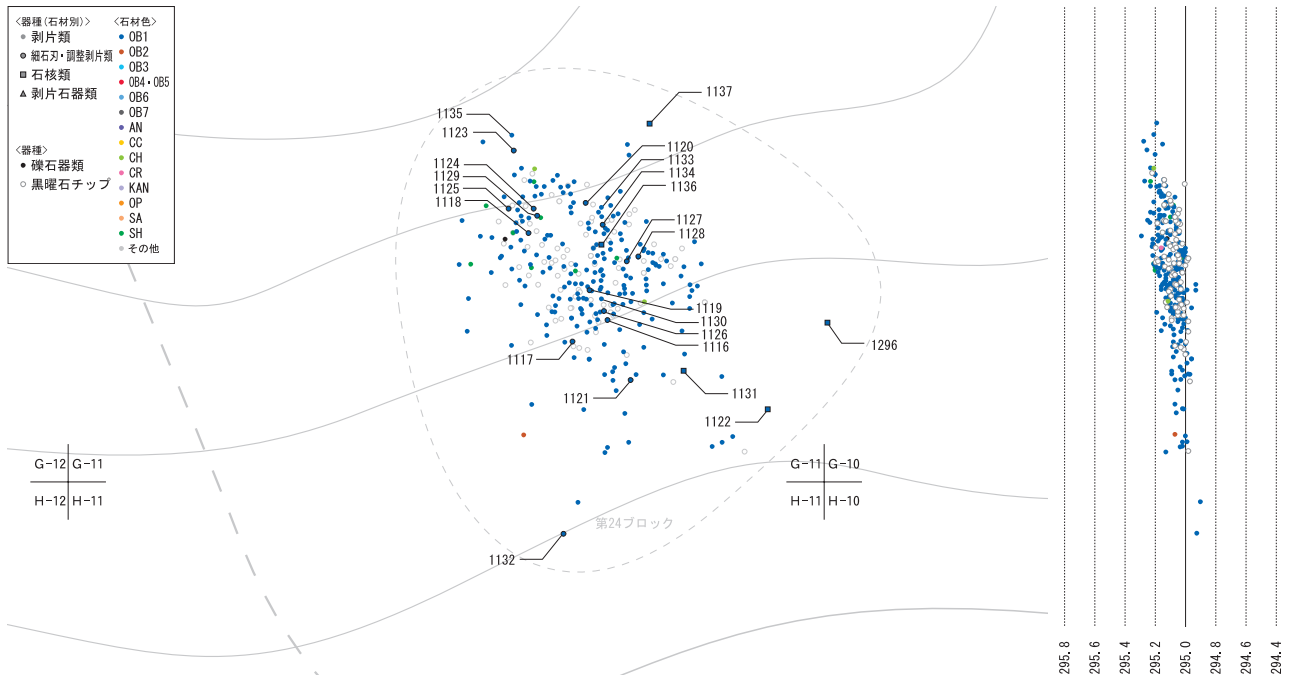
標本No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
600	1113	A21	B00	剥片	-	CH	26.9	18.1	5.8	1.7	○61843(E-6/X 1)
600	1114	A21	B00	剥片	-	OB1	20.9	29.8	7.3	3.8	○61704(E-6/X 1)
600	1115	A21	B00	ハンマー	-	KAN	121.1	111	80.2	1500	○61131(E-6/X)



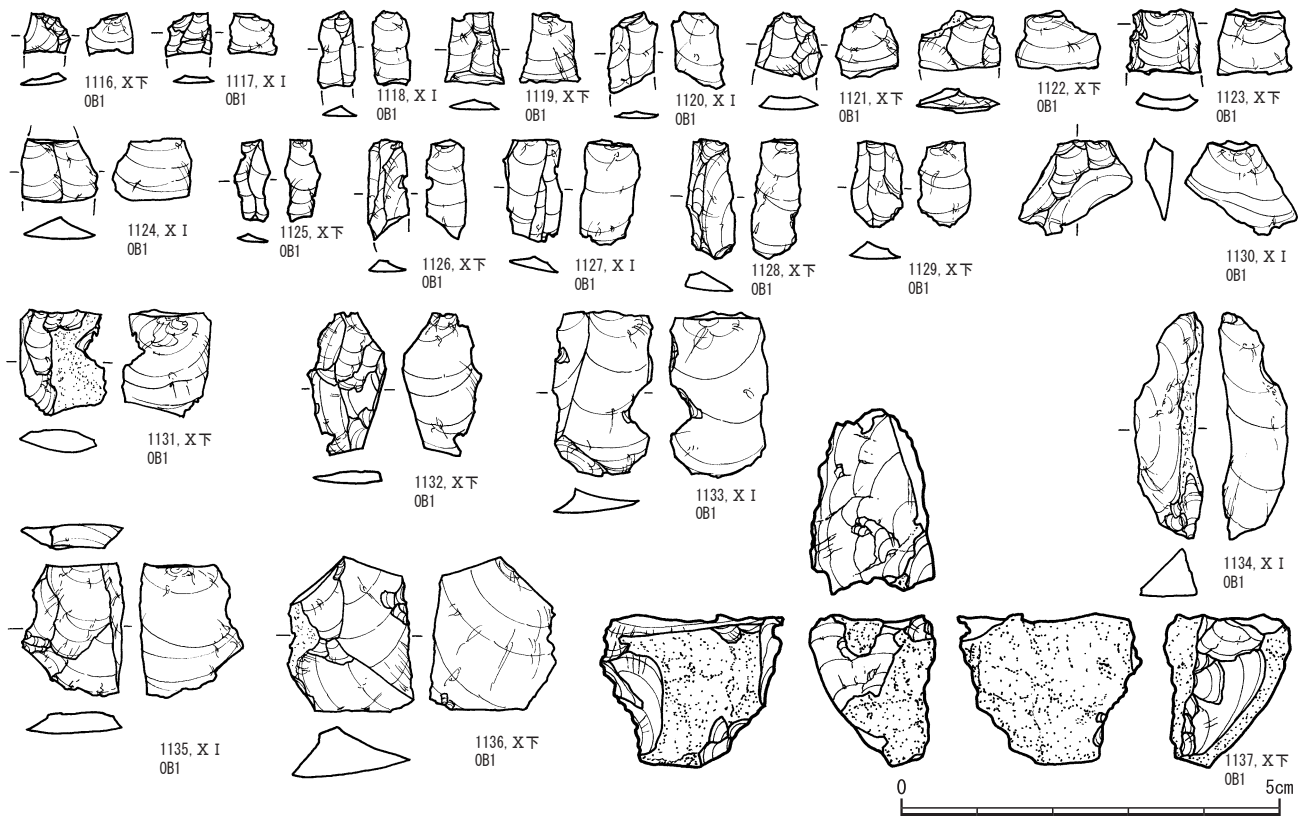
第599図 第Ⅲ文化層第21エリア石器出土状況図



第600図 第Ⅲ文化層第21エリア出土石器実測図



第601図 第Ⅲ文化層第22エリア石器出土状況図(1)



第602図 第Ⅲ文化層第22エリア第24ブロック出土石器実測図

1112の在り方は、先の第18エリアと同様である。

第20エリアについても総じて石鏃製作に関わると判断したい。

第21エリア

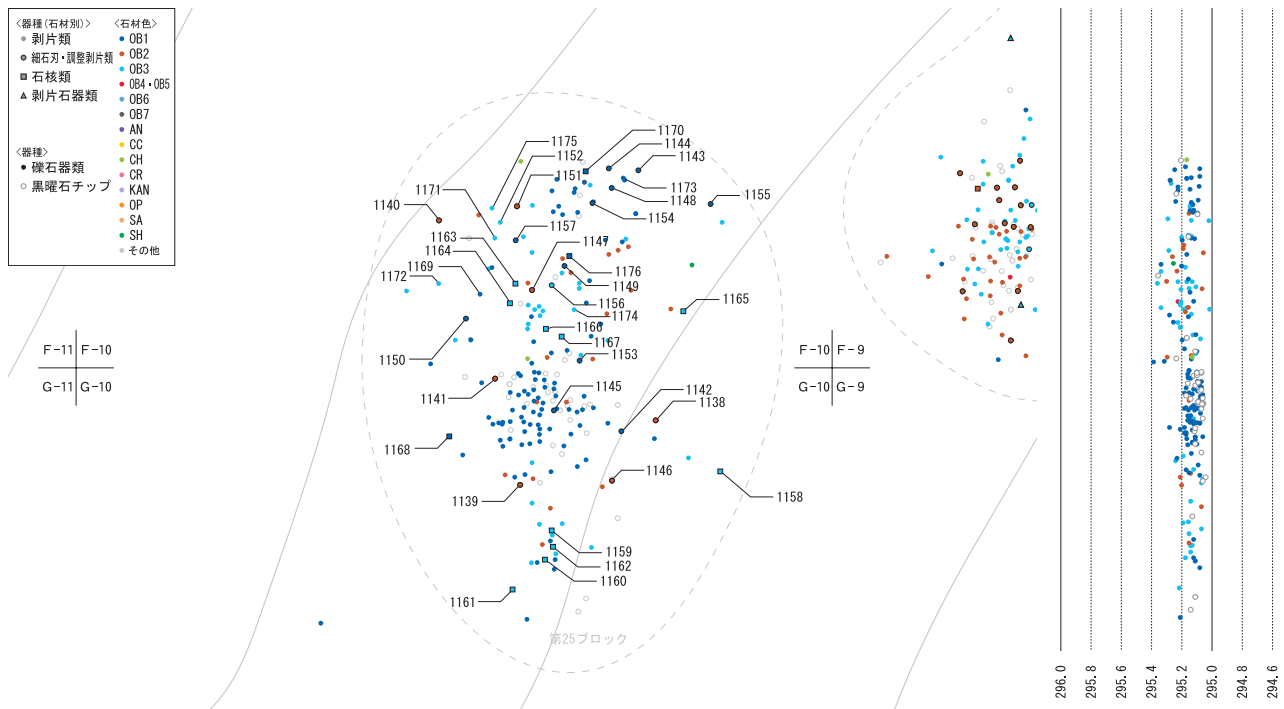
桐木遺跡D・E-6区に分布し、出土遺物が散在する。

第22エリア

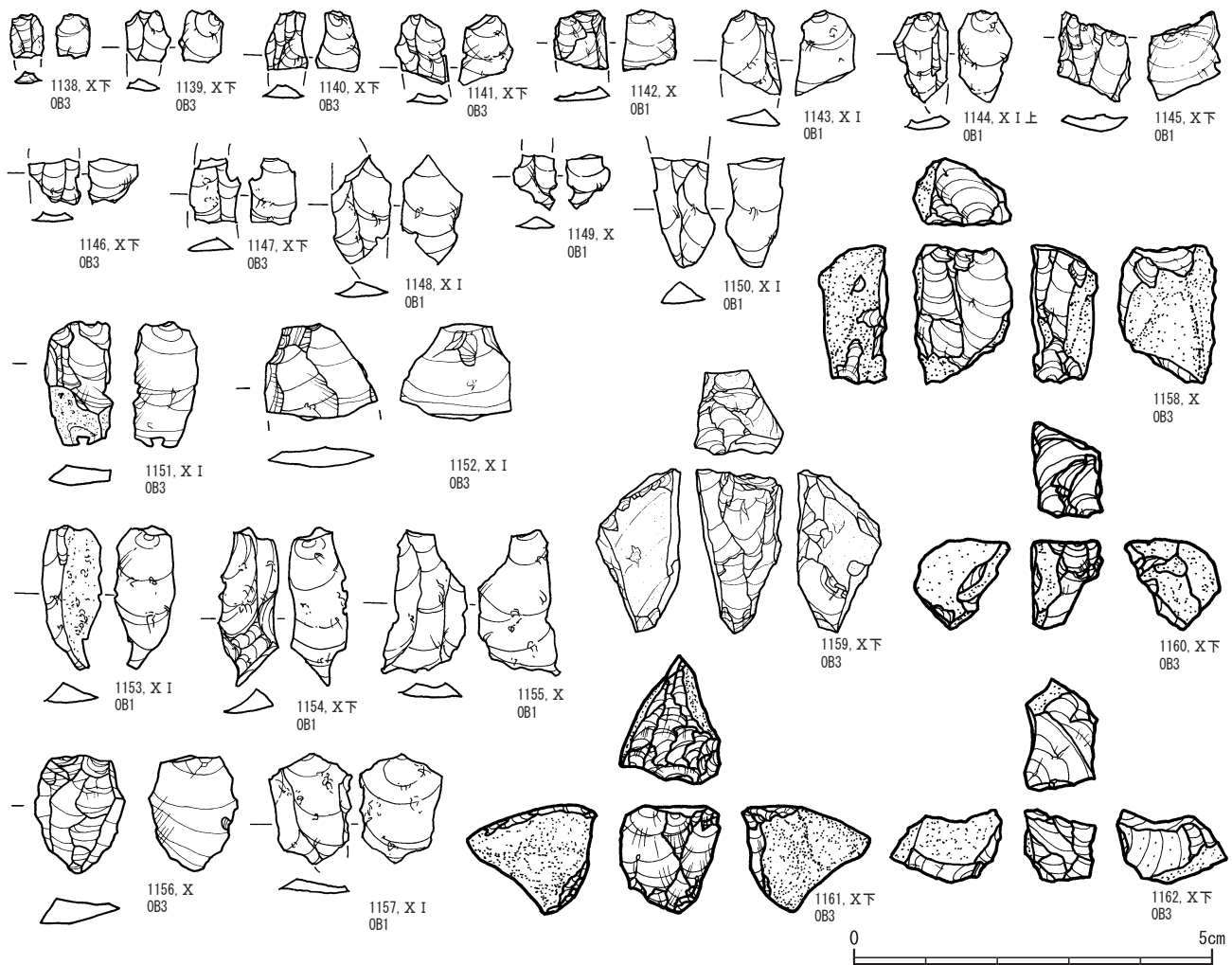
桐木遺跡E～H-8～11区に分布し、第24～第27の4ブロックで構成される。ブロック間の石材使用に明らかな差異

がみられる。すなわち、第24・第27ブロックで黒曜石Ⅰ類、第25ブロックで黒曜石Ⅰ類と黒曜石Ⅲ類、第26ブロックで黒曜石Ⅱ類と黒曜石Ⅲ類・頁岩が使用されている。次に、黒曜石Ⅰ類を多用した第24と第27ブロックを細石刃製作ブロック、第25・第26ブロックは細石刃製作と不定形剥片製作の混在ブロック、ブロック外は不定形剥片とその関連と判断できる。

第24ブロックの1137は細石刃核ブランクとみられる。第25



第603図 第三文化層第22エリア石器出土状況図(2)

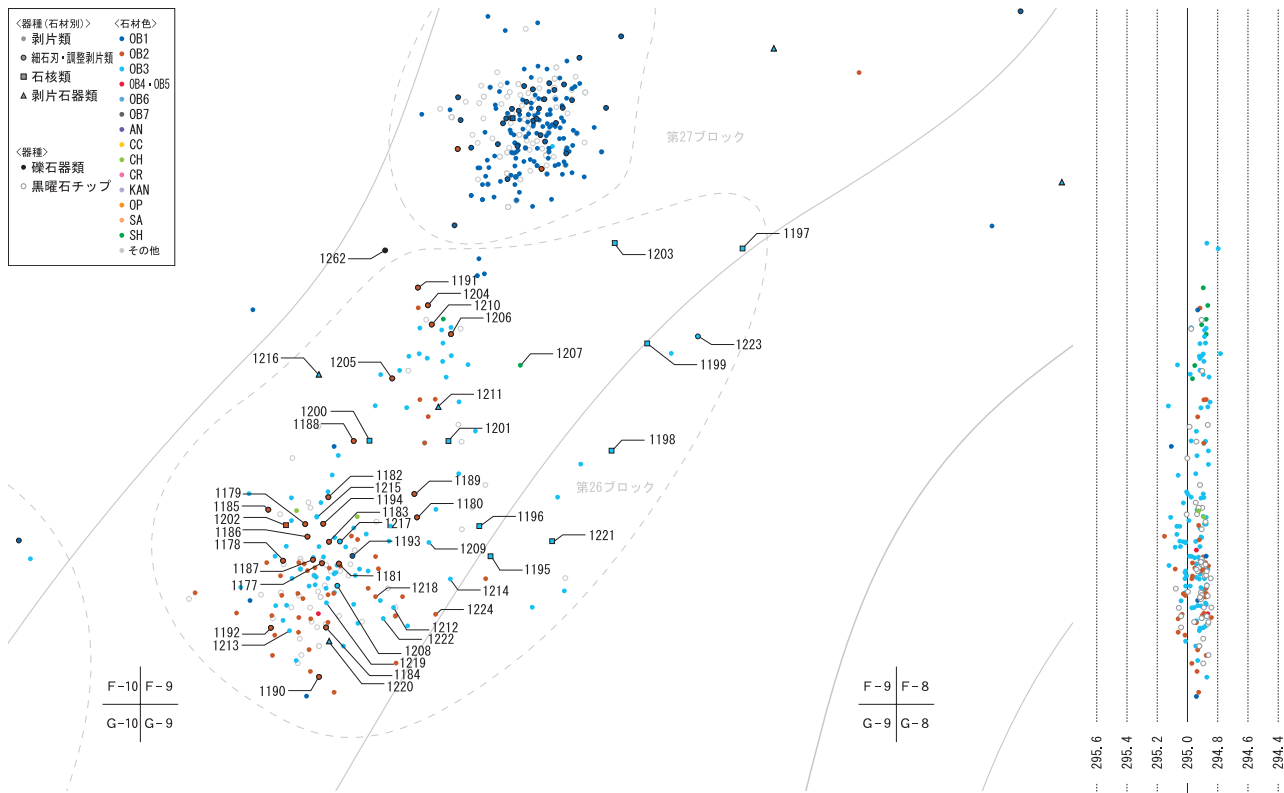


第604図 第三文化層第22エリア第25ブロック出土石器実測図(1)

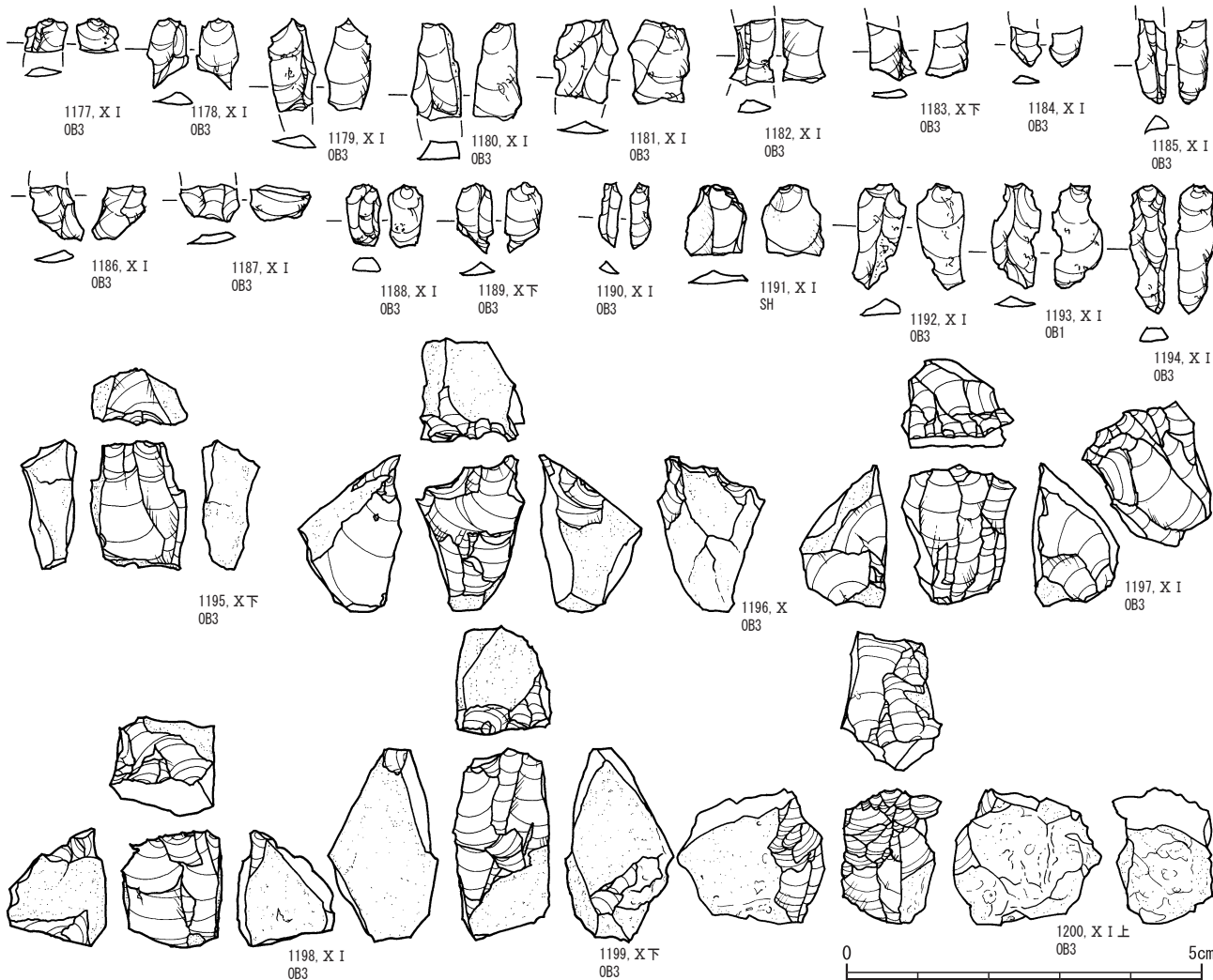


第605図 第Ⅲ文化層第22エリア第25ブロック出土石器実測図(2)

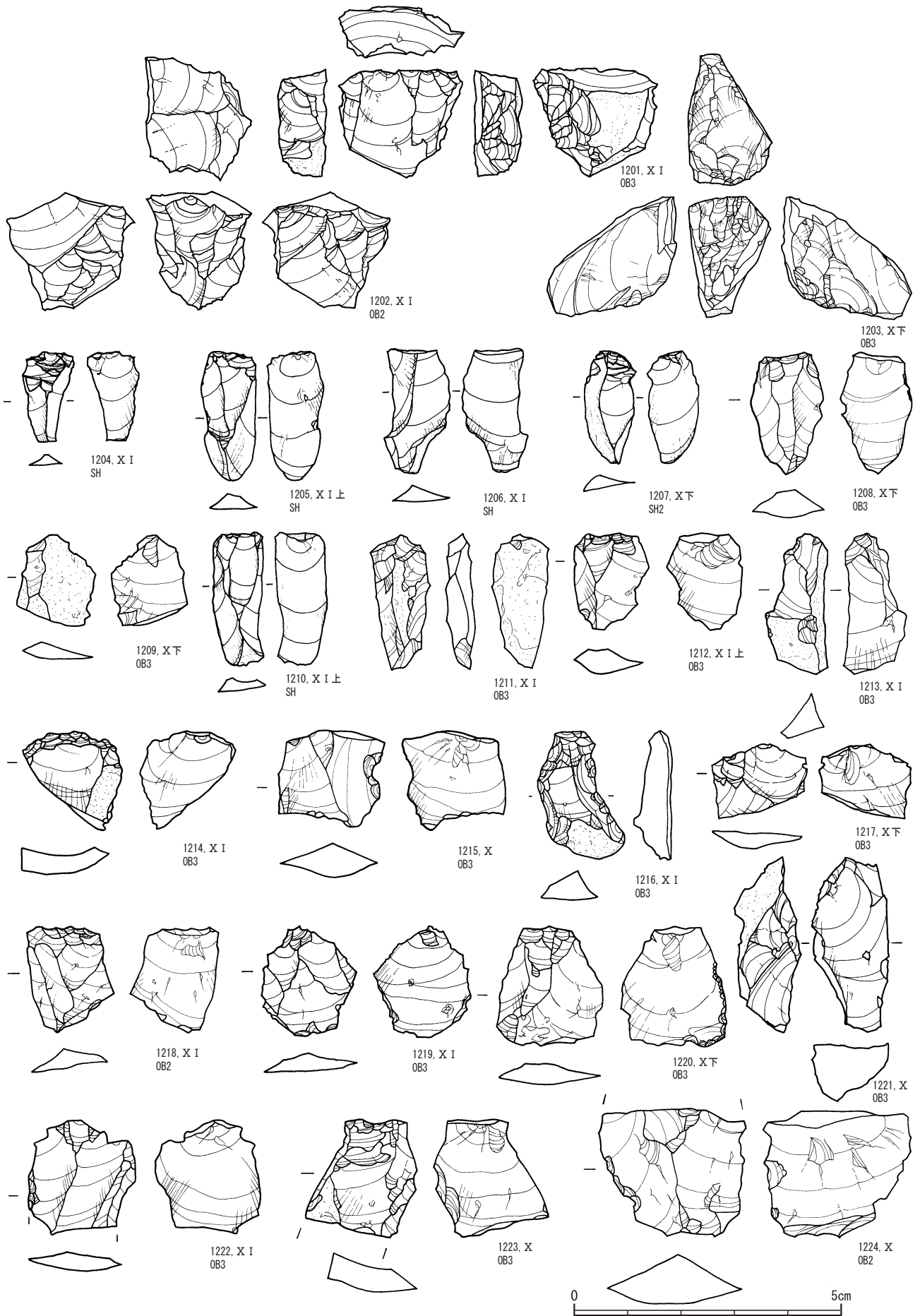
- | | | | |
|-----------|-----------|-------|---------|
| 〈器種(石材別)〉 | | 〈石材色〉 | |
| ● | 剥片類 | ● | OB1 |
| ○ | 細石刃・調整剥片類 | ● | OB2 |
| ■ | 石核類 | ● | OB3 |
| ▲ | 剥片石器類 | ● | OB4・OB5 |
| | | ● | OB6 |
| | | ● | OB7 |
| | | ● | AN |
| | | ● | CC |
| | | ● | CH |
| | | ● | CR |
| | | ● | OP |
| | | ● | SA |
| | | ● | SH |
| | | ● | その他 |



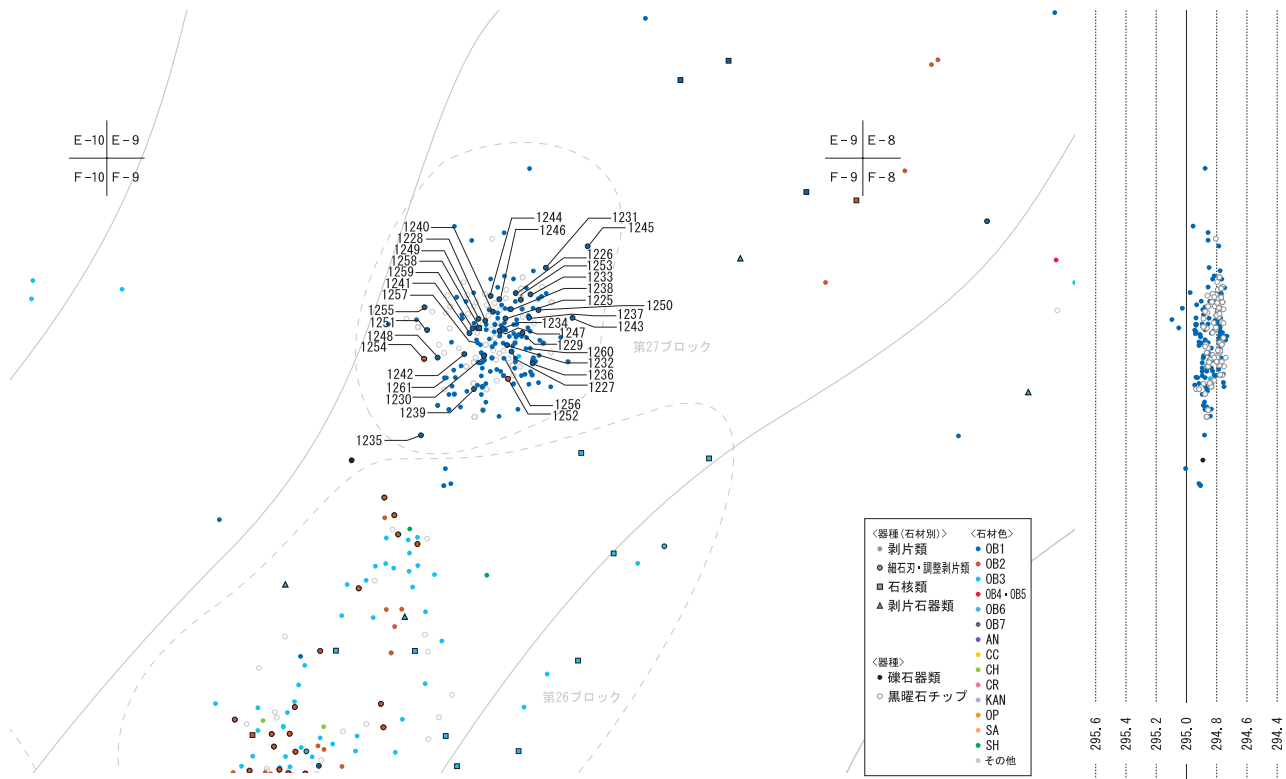
第606図 第Ⅲ文化層第22エリア石器出土状況図(3)



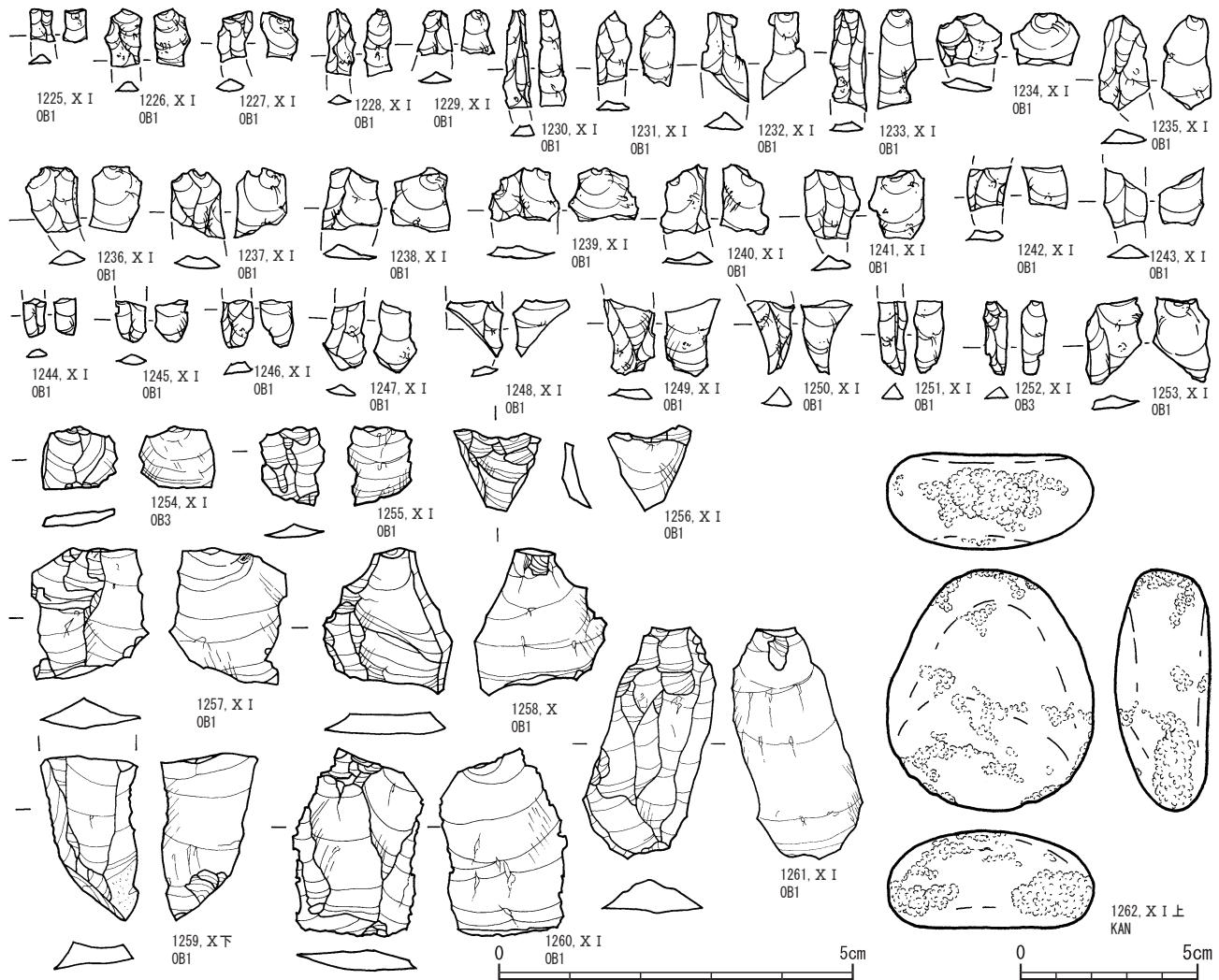
第607図 第Ⅲ文化層第22エリア第26ブロック出土石器実測図(1)



第608図 第Ⅲ文化層第22エリア第26ブロック出土石器実測図(2)



第609図 第三文化層第22エリア石器出土状況図(4)



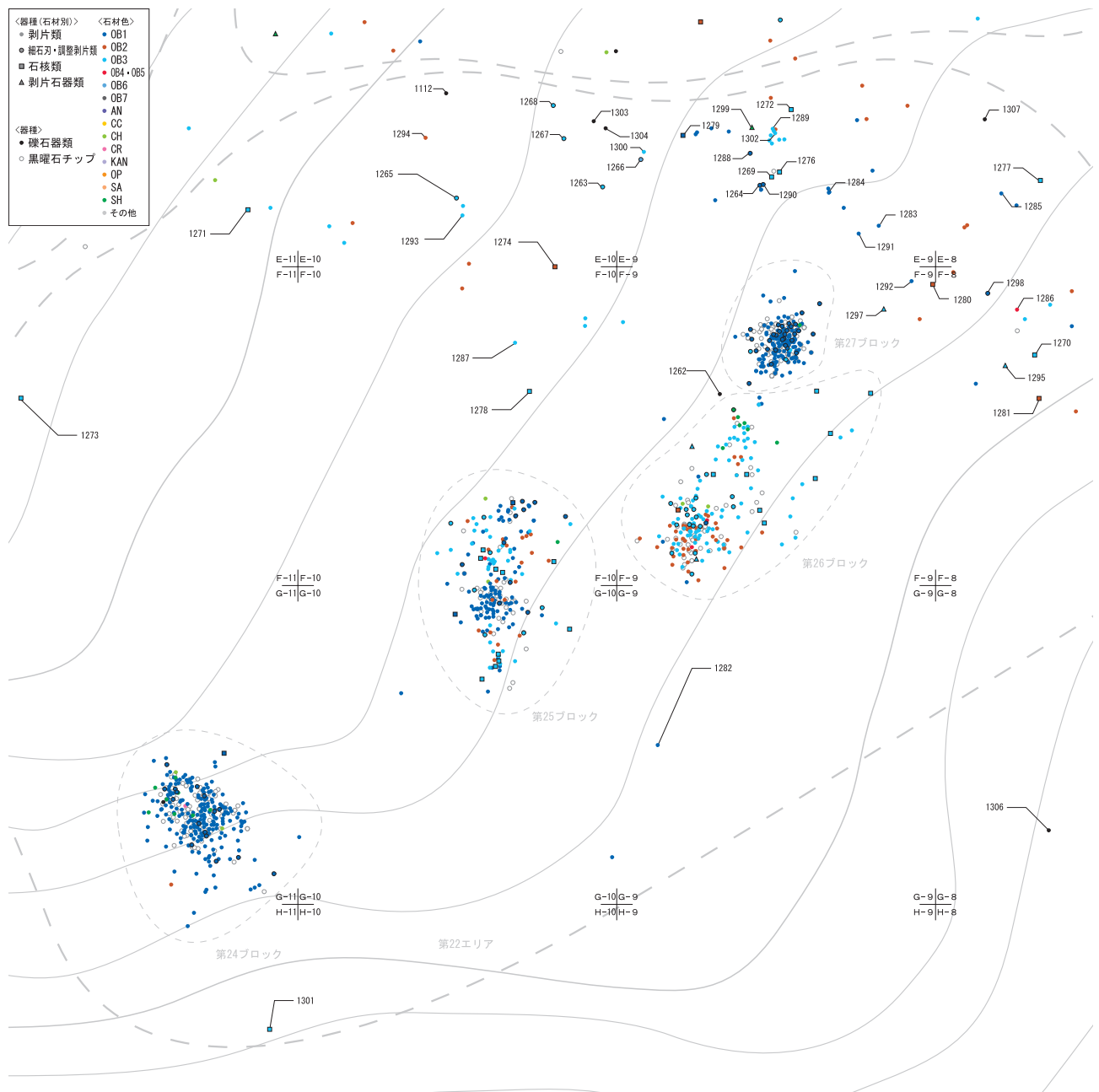
第610図 第三文化層第22エリア第27ブロック出土石器実測図

第124表 第三文化層第22エリア出土石器観察表(1)

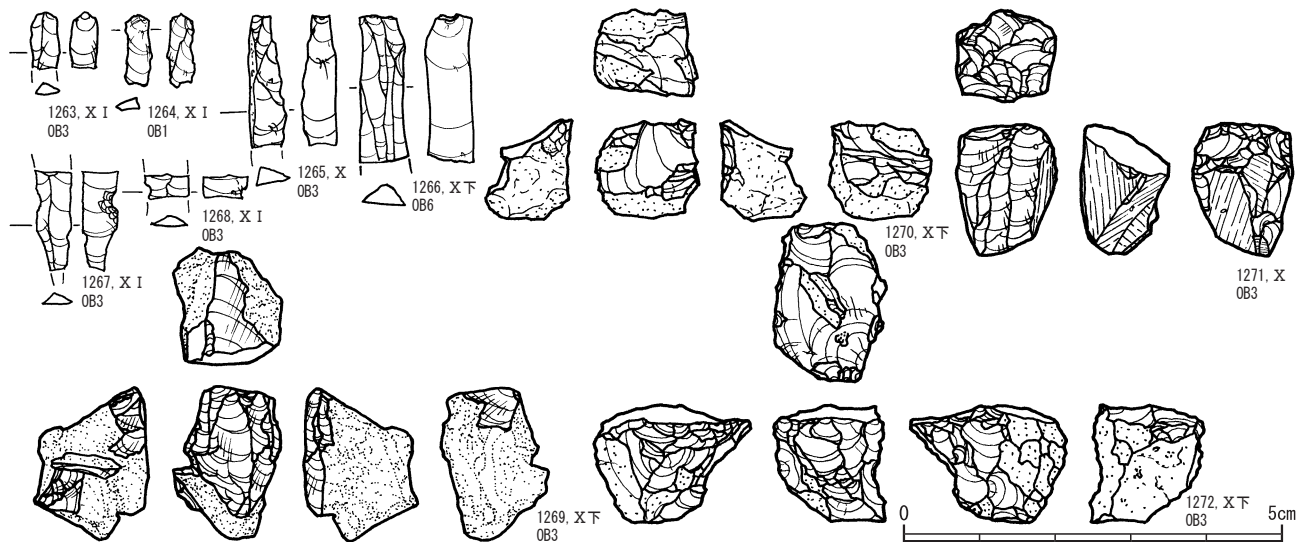
挿入No	図No	エリア	フロッグ	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
602	1116	A22	B24	細石刃	-	OB1	5.8	6.3	1.4	0.05	O67314(G-11/X下)
602	1117	A22	B24	細石刃	-	OB1	5.7	6.6	1.2	0.04	O67768(G-11/X上)
602	1118	A22	B24	細石刃	-	OB1	10	5.3	1.4	0.06	O67730(G-11/X上)
602	1119	A22	B24	細石刃	-	OB1	9.5	8.2	1	0.08	O67289(G-11/X下)
602	1120	A22	B24	細石刃	-	OB1	10.4	7.2	1.5	0.1	O67706(G-11/X上)
602	1121	A22	B24	細石刃	-	OB1	8.8	8.5	1.8	0.14	O67325(G-11/X下)
602	1122	A22	B24	細石刃	-	OB1	8.1	11.4	3.3	0.22	O67142(G-11/X下)
602	1123	A22	B24	細石刃	-	OB1	8.9	9.9	3.1	0.21	O67188(G-11/X下)
602	1124	A22	B24	細石刃	-	OB1	8.4	10.7	3.8	0.24	O67723(G-11/X上)
602	1125	A22	B24	細石刃	-	OB1	11	4.9	1.3	0.05	O67232(G-11/X下)
602	1126	A22	B24	細石刃	-	OB1	13.4	5.5	2	0.14	O67316(G-11/X下)
602	1127	A22	B24	細石刃	-	OB1	14.1	8.2	2.3	0.21	O67680(G-11/X上)
602	1128	A22	B24	ファーストブレード	-	OB1	16	6.7	3.2	0.26	O67115(G-11/X下)
602	1129	A22	B24	細石刃	-	OB1	11.5	7.2	1.9	0.13	O67243(G-11/X下)
602	1130	A22	B24	剥片	-	OB1	12.6	15	3.8	0.46	O6756(G-11/X上)
602	1131	A22	B24	細石刃	-	OB1	14.3	11.9	3.1	0.45	O67147(G-11/X下)
602	1132	A22	B24	剥片	-	OB1	19	10.7	2.1	0.32	O67334(H-11/X下)
602	1133	A22	B24	剥片	-	OB1	22.2	13.2	4.2	0.98	O67696(G-11/X上)
602	1134	A22	B24	ファーストブレード	-	OB1	30.2	9.4	7.3	1.4	O67699(G-11/X上)
602	1135	A22	B24	剥片	-	OB1	18	13.9	3.3	0.8	O67719(G-11/X上)
602	1136	A22	B24	剥片	-	OB1	20.5	16.9	6.7	1.6	O67173(G-11/X下)
602	1137	A22	B24	ブランク	-	OB1	20.3	17	25.1	7.1	O67102(G-11/X下)
604	1138	A22	B25	細石刃	-	OB3	6.3	5	1.8	0.03	O67059(G-10/X下)
604	1139	A22	B25	細石刃	-	OB3	7.4	6.4	1.2	0.03	O67403(G-10/X下)
604	1140	A22	B25	細石刃	-	OB3	8.6	6.3	1.7	0.08	O71447(F-10/X下)
604	1141	A22	B25	細石刃	-	OB3	10	7.8	1.6	0.09	O67041(G-10/X下)
604	1142	A22	B25	細石刃	-	OB1	8.8	7.7	1.8	0.12	O67058(G-10/X)
604	1143	A22	B25	細石刃	-	OB1	12.1	8.5	2.5	0.21	O71575(F-10/X上)
604	1144	A22	B25	細石刃	-	OB1	12.9	7.6	1.5	0.12	O71419(F-10/X上)
604	1145	A22	B25	細石刃	-	OB1	12.5	10.3	2.3	0.2	O67076(G-10/X下)
604	1146	A22	B25	細石刃	-	OB3	6.5	7.1	1.1	0.03	O67068(G-10/X下)
604	1147	A22	B25	細石刃	-	OB3	9.4	6.8	1.4	0.06	O71462(F-10/X下)
604	1148	A22	B25	細石刃	-	OB1	15.2	8.6	2.5	0.22	O71573(F-10/X上)
604	1149	A22	B25	細石刃	-	OB1	7.8	6.3	1.2	0.04	O71469(F-10/X)
604	1150	A22	B25	細石刃	-	OB1	15.4	8.3	2.6	0.28	O71455(F-10/X上)
604	1151	A22	B25	細石刃	-	OB3	17.8	9.3	2.8	0.36	O71437(F-10/X上)
604	1152	A22	B25	剥片	-	OB3	13.6	15.7	2	0.5	O71440(F-10/X上)
604	1153	A22	B25	ファーストブレード	-	OB1	20.2	8.6	3.5	0.42	O71505(F-10/X上)
604	1154	A22	B25	ファーストブレード	-	OB1	22.3	8.4	9	0.43	O71425(F-10/X下)
604	1155	A22	B25	細石刃	-	OB1	20.6	11.7	3.3	0.52	O71483(F-10/X)
604	1156	A22	B25	剥片	-	OB3	16.3	12.6	3.2	0.53	O71467(F-10/X)
604	1157	A22	B25	剥片	-	OB1	15.5	11.8	2.7	0.39	O71906(F-10/X上)
604	1158	A22	B25	細石刃	-	OB3	19.7	14.1	9.7	2.5	O67062(G-10/X)
604	1159	A22	B25	細石刃	-	OB3	23.1	12.2	12.1	2.7	O67209(G-10/X下)
604	1160	A22	B25	細石刃	-	OB3	12.7	10.4	10.5	1.4	O67215(G-10/X下)
604	1161	A22	B25	細石刃	-	OB3	15.3	14.3	18	2.7	O67223(G-10/X下)
604	1162	A22	B25	石核	-	OB3	10.5	10.3	14.7	1.3	O67213(G-10/X下)
605	1163	A22	B25	ブランク	-	OB3	16.1	18.1	14.9	4.3	O71457(F-10/X下)
605	1164	A22	B25	細石刃	-	OB3	22.2	16.6	17.9	5.9	O71458(F-10/X)
605	1165	A22	B25	細石刃	-	OB3	21.9	22	22	10	O71487(F-10/X下)
605	1166	A22	B25	石核	-	OB3	21.4	21.5	12	4.8	O71498(F-10/X下)
605	1167	A22	B25	細石刃	-	OB3	26.1	22	15.1	7.4	O71493(F-10/X上)
605	1168	A22	B25	ブランク	-	OB1	26.3	35.2	38.3	29	O67037(G-10/X下)
605	1169	A22	B25	剥片	-	OB1	15.9	14.4	4.1	0.77	O71456(F-10/X上)
605	1170	A22	B25	ブランク	-	OB1	15	22	4.3	1.5	O71421(F-10/X下)
605	1171	A22	B25	剥片	-	OB3	17	22.4	5.3	1.3	O71444(F-10/X上)
605	1172	A22	B25	剥片	-	OB3	22.3	16.3	5	0.95	O71449(F-10/X上)
605	1173	A22	B25	剥片	-	OB1	20.6	20.2	6.2	1.7	O71574(F-10/X上)
605	1174	A22	B25	剥片	-	OB3	19.1	24.8	7.5	3	O71492(F-10/X下)
605	1175	A22	B25	剥片	-	OB3	29	20.3	10.2	3.5	O71439(F-10/X上)
605	1176	A22	B25	剥片	-	OB1	38.4	25.3	6.5	4.3	O71472(F-10/X下)
607	1177	A22	B26	細石刃	-	OB3	5.1	6.1	1.5	0.04	O71559(F-9/X上)
607	1178	A22	B26	細石刃	-	OB3	10.2	6.1	1.9	0.06	O71583(F-9/X上)
607	1179	A22	B26	細石刃	-	OB3	13.1	6.6	1.7	0.1	O71900(F-9/X上)
607	1180	A22	B26	細石刃	-	OB3	13.9	7	2.5	0.21	O71606(F-9/X上)
607	1181	A22	B26	細石刃	-	OB3	11.9	8.8	3.6	0.25	O71561(F-9/X上)
607	1182	A22	B26	細石刃	-	OB3	9.3	6.3	1.4	0.09	O71564(F-9/X上)
607	1183	A22	B26	細石刃	-	OB3	8	6.1	1.1	0.04	O71241(F-9/X下)
607	1184	A22	B26	細石刃	-	OB3	5.7	4.8	0.5	0.01	O71549(F-9/X上)
607	1185	A22	B26	細石刃	-	OB3	12.1	4.6	2	0.08	O71599(F-9/X上)
607	1186	A22	B26	細石刃	-	OB3	7.8	7.8	1.8	0.06	O71899(F-9/X上)
607	1187	A22	B26	細石刃	-	OB3	5.2	8.7	1.8	0.06	O71558(F-9/X上)
607	1188	A22	B26	細石刃	-	OB3	9.1	5.1	2	0.09	O71905(F-9/X上)
607	1189	A22	B26	細石刃	-	OB3	10	5.4	1.4	0.05	O71278(F-9/X下)

第125表 第三文化層第22エリア出土石器観察表(2)

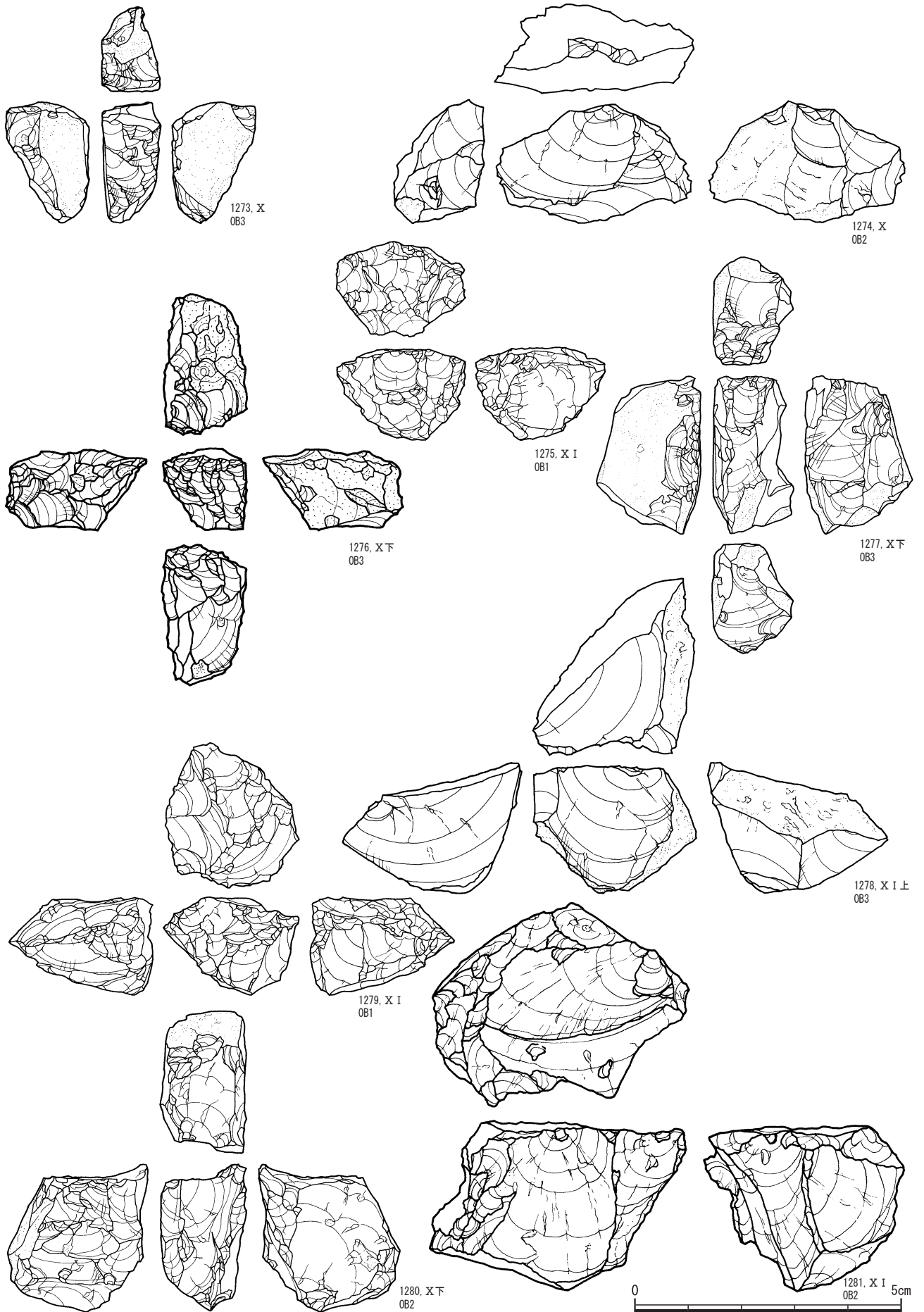
挿入No	図No	エリア	フロッグ	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
607	1190	A22	B26	細石刃	-	OB3	9.4	3.1	1.3	0.03	O71544(F-9/X上)
607	1191	A22	B26	細石刃	-	SH	10.3	8.9	1.7	0.14	O71325(F-9/X上)
607	1192	A22	B26	細石刃	-	OB3	15.1	6.9	3.2	0.25	O71577(F-9/X上)
607	1193	A22	B26	細石刃	-	OB1	14.9	7.3	1.8	0.11	O71894(F-9/X上)
607	1194	A22	B26	細石刃	-	OB3	18.4	5.9	2.6	0.14	O71901(F-9/X上)
607	1195	A22	B26	細石刃	-	OB3	18.3	13.7	8.1	1.8	O71289(F-9/X下)
607	1196	A22	B26	細石刃	-	OB3	22.1	15.5	13.4	3.5	O71290(F-9/X)
607	1197	A22	B26	細石刃	-	OB3	20	16.3	12.5	3.4	O71338(F-9/X上)
607	1198	A22	B26	細石刃	-	OB3	16.8	14.4	14.5	3.3	O71333(F-9/X上)
607	1199	A22	B26	細石刃	-	OB3	27.2	13.9	15	5.2	O71337(F-9/X下)
607	1200	A22	B26	細石刃	-	OB3	19.2	14.3	19.7	4.4	O71230(F-9/X上)
608	1201	A22	B26	石核	-	OB3	20.5	23.4	9.4	4.2	O71297(F-9/X上)
608	1202	A22	B26	石核	-	OB2	22.2	20	23.3	8.2	O71601(F-9/X上)
608	1203	A22	B26	細石刃	-	OB3	22.8	15.6	23.5	5.6	O71344(F-9/X下)
608	1204	A22	B26	剥片	-	SH	16.9	9.9	2.7	0.26	O71286(F-9/X上)
608	1205	A22	B26	剥片	-	SH	24.3	10.9	4.1	0.74	O71305(F-9/X上)
608	1206	A22	B26	剥片	-	SH	23.4	12.5	2.8	0.56	O71319(F-9/X上)
608	1207	A22	B26	剥片	-	SH2	21.2	9.8	3.7	0.59	O71331(F-9/X下)
608	1208	A22	B26	剥片	-	OB3	23	13.6	4.6	1.1	O71248(F-9/X下)
608	1209	A22	B26	剥片	-	OB3	17.1	14.5	4.1	0.79	O71280(F-9/X上)
608	1210	A22	B26	剥片	-	SH	25	10	4.1	0.63	O71321(F-9/X上)
608	1211	A22	B26	剥片	-	OB3	25.2	10.9	4.8	1.2	O71566(F-9/X上)
608	1212	A22	B26	剥片	-	OB3	18.4	14.4	4.1	0.82	O71267(F-9/X上)
608	1213	A22	B26	剥片	-	OB3	26.6	12	7.6	1.4	O71548(F-9/X上)
608	1214	A22	B26	剥片	-	OB3	18.5	18.2	4.4	1.2	O71281(F-9/X上)
608	1215	A22	B26	剥片	-	OB3	18.8	19.6	7.2	1.9	O71234(F-9/X)
608	1216	A22	B26	剥片	-	OB3	24.2	16.5	6.8	1.7	O71225(F-9/X上)
608	1217	A22	B26	剥片	-	OB3	14.1	17.5	3.5	0.74	O71240(F-9/X下)
608	1218	A22	B26	剥片	-	OB2	19.9	16.8	5.6	1.3	O71270(F-9/X上)
608	1219	A22	B26	剥片	-	OB3	21.1	18.5	4	1.1	O71592(F-9/X上)
608	1220	A22	B26	微細剥離剥片	-	OB3	22.8	20	4	1.5	O71257(F-9/X下)
608	1221	A22	B26	剥片	-	OB3	32.9	14.7	11.9	4.4	O71285(F-9/X)
608	1222	A22	B26	剥片	-	OB3	21.4	19.9	3.4	1	O71262(F-9/X上)
608	1223	A22	B26	剥片	-	OB3	22.2	21.7	6	2.5	O71335(F-9/X)
608	1224	A22	B26	剥片	-	OB2	23.9	27.9	10.7	5.1	O71265(F-9/X)
610	1225	A22	B27	細石刃	-	OB1	4.9	3.5	1.2	0.02	O71832(F-9/X上)
610	1226	A22	B27	細石刃	-	OB1	8.3	5.3	1.3	0.04	O71674(F-9/X上)
610	1227	A22	B27	細石刃	-	OB1	7	5.4	1.8	0.07	O71643(F-9/X上)
610	1228	A22	B27	細石刃	-	OB1	9.7	4.1	1.1	0.04	O71679(F-9/X上)
610	1229	A22	B27	細石刃	-	OB1	6.4	4.8	1.5	0.04	O71641(F-9/X上)
610	1230	A22	B27	細石刃	-	OB1	1				



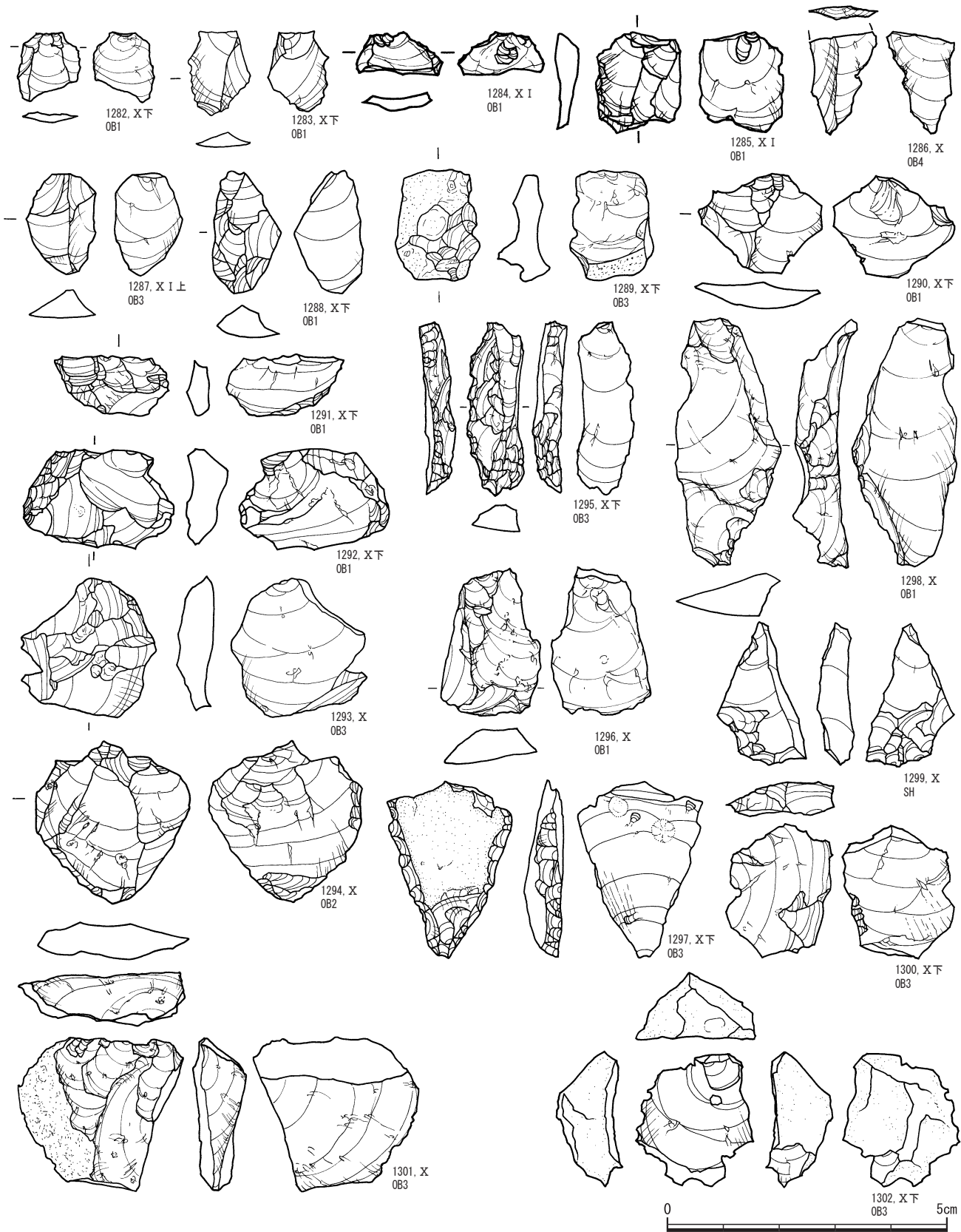
第611図 第三文化層第22エリア石器出土状況図(5)



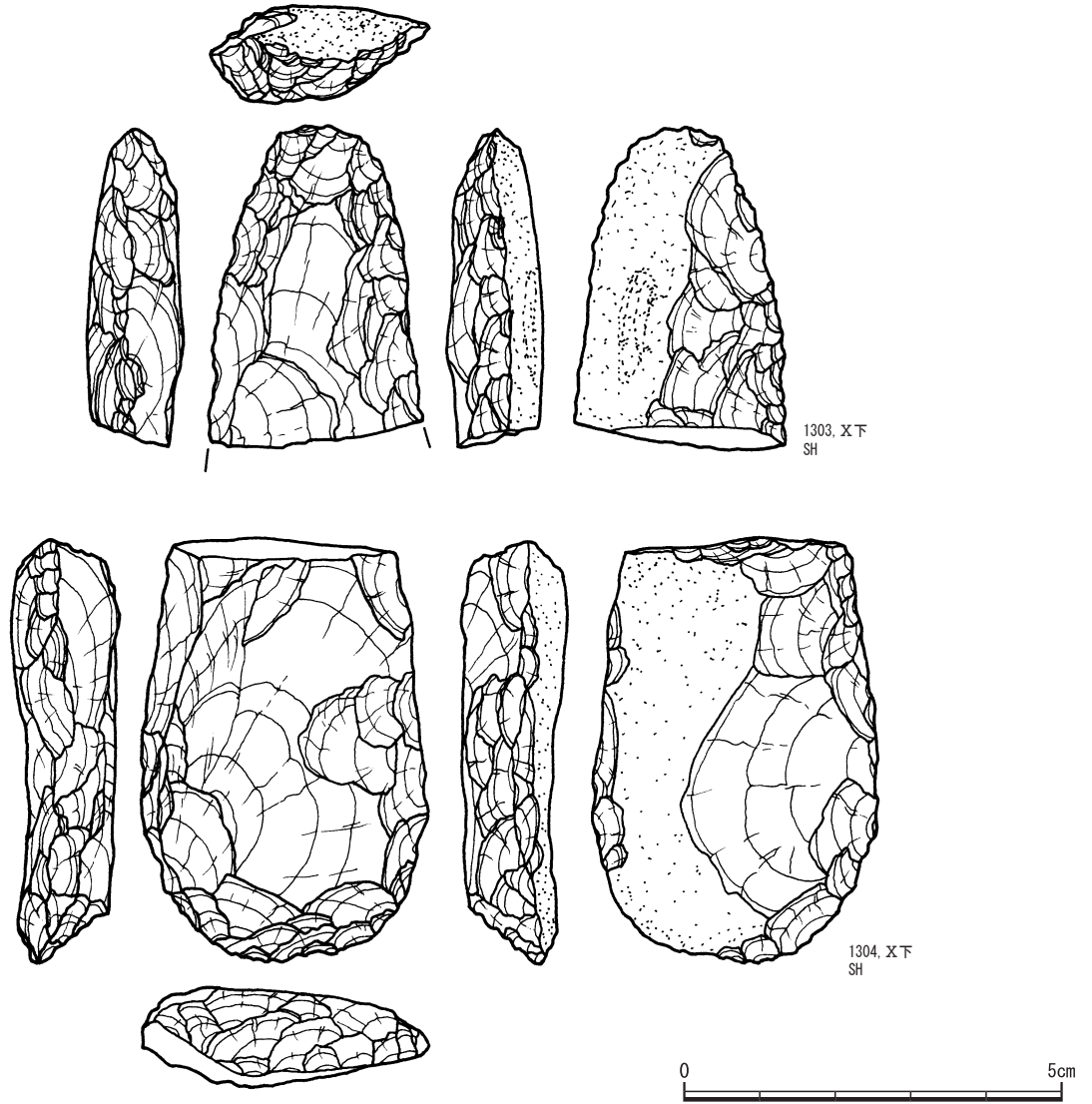
第612図 第三文化層第22エリア出土石器実測図(1)



第613図 第Ⅲ文化層第22エリア出土石器実測図(2)



第614図 第三文化層第22エリア出土石器実測図(3)



第615図 第Ⅲ文化層第22エリア出土石器実測図(4)

ブロックの1161は打面が先行する細石刃剥離作業面、1158の細石刃核は角礫素材で、底面に右側縁を打面とする先行する細石刃作業面が残される。1159も角礫素材で、素材規制から狭小な作業面を設置している。1163は細石刃核ブランク、1165も打面が先行する細石刃作業面となる。第26ブロックの1195・1198～1200は角礫素材、1197も角礫素材であるが、打面は正面の最終作業面に先行する細石刃作業面で、右側面も底面を打面として細石刃剥離作業を行った可能性がある。

1203は剥片素材の細石刃核で、右側面には下縁調整が確認される。なお、細石刃作業面の観察からは、幅の狭い細石刃が取り出されている。ブロック外の1269・1271も狭小な細石刃剥離作業面をもつ細石刃核で、1273・1277・1280は細石刃核ブランクと判断している。

第26ブロックの石核(1201・1202)からは、小型不定形剥片が剥ぎ取られと判断され、ブロック外の1275・1278の石核も同様である。

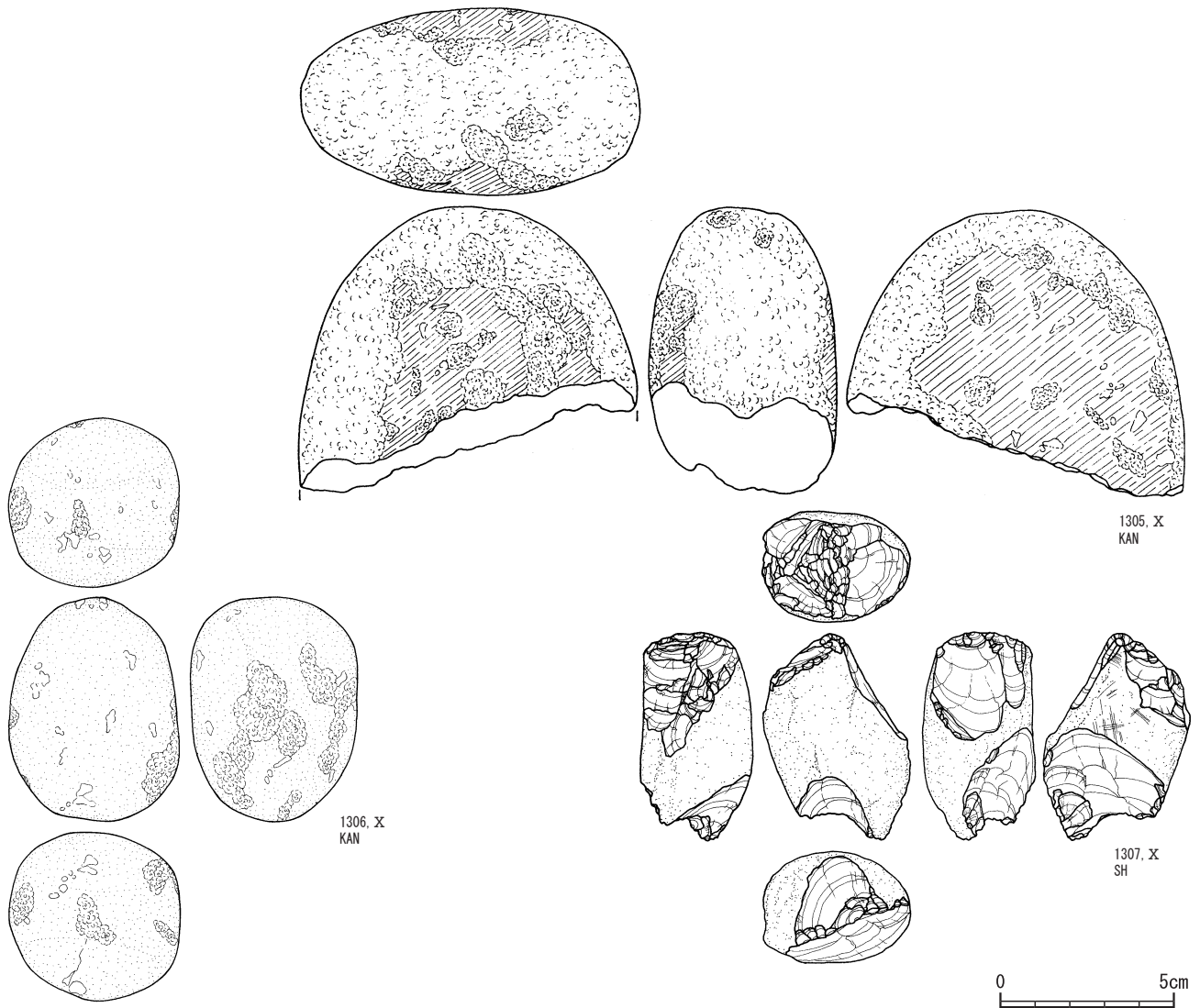
1303・1304は接合する。素材剥片は礫面を残し、正面左側縁部の大剥離(平坦面)は先行する剥離面で、本素材剥片確保

の打面である。整形は周縁整形を前提としながら礫面を活かす工程が取られ、打面側の厚みを減じることが剥離作業の中心となり、礫面側(裏面)の剥離がそれに該当する。なお、礫面の頂部(1303)を研磨した可能性と、第1剥離面と礫面の境界付近に摩耗痕跡が観察される。最長97mmと小振りであり、いわゆる斧型石器と考えられる。

1307のハンマーの損傷は激しい。

第23エリア

桐木遺跡D～G-5～7区に分布し、第28～第36の9ブロックで構成する。黒曜石が多用されるが、ブロック間で使用される黒曜石の組成は、第22エリアと同様に大きな違いを見せている。列挙すると、第28ブロック(黒曜石Ⅰ類>黒曜石Ⅲ類)、第29ブロック(黒曜石Ⅲ類)、第30ブロック(黒曜石Ⅰ類=黒曜石Ⅲ類)、第31ブロック(黒曜石Ⅰ類>黒曜石Ⅱ類>黒曜石Ⅲ類)、第32ブロック(黒曜石Ⅰ類>黒曜石Ⅲ類)、第33ブロック(黒曜石Ⅰ類>黒曜石Ⅲ類>黒曜石Ⅱ類)、第34ブロック(黒曜石Ⅲ類>頁岩)、第35ブロック(黒曜石Ⅰ類)、第36ブロック(黒曜石Ⅰ類>頁岩>玉髓・チャート)となる。



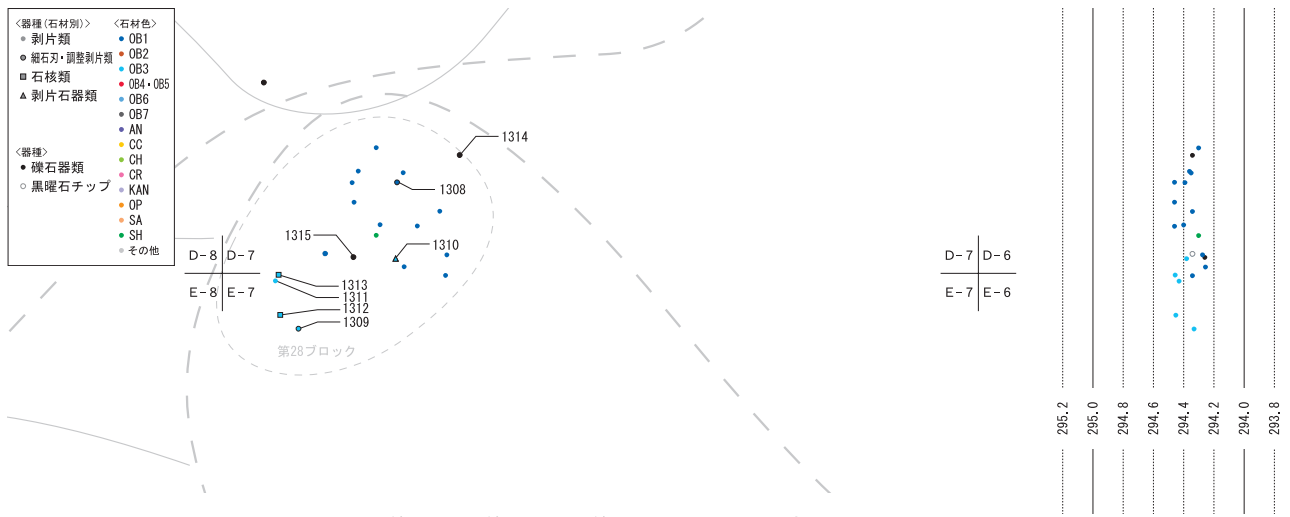
第616図 第三文化層第22エリア出土石器実測図(5)

第126表 第三文化層第22エリア出土石器観察表(3)

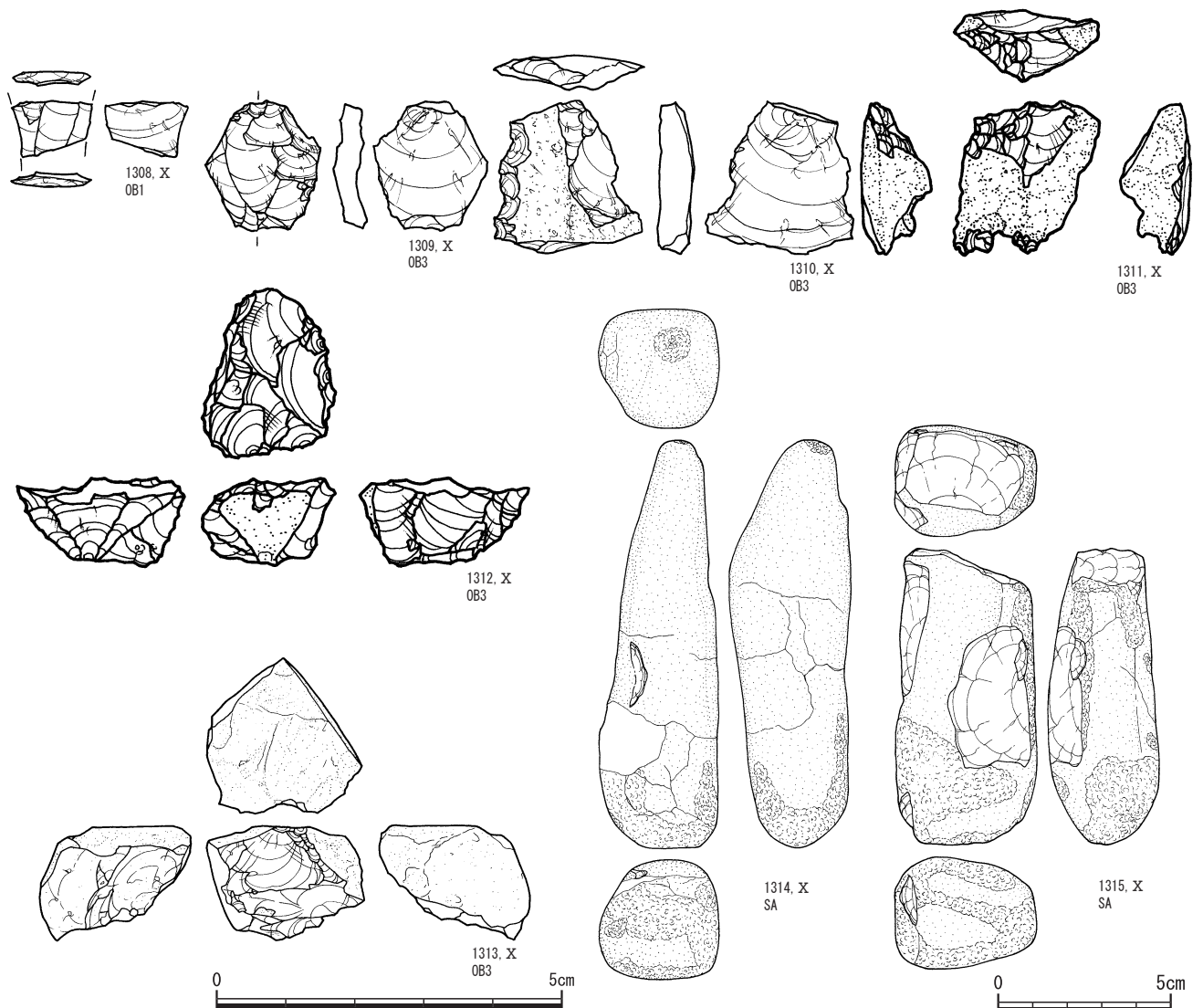
挿図No	図No	エリア	ブロック	分類2	分類3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
612	1263	A22	B00	細石刃	-	OB3	7.6	3.9	1.3	0.03	○53779(E-10/X I)
612	1264	A22	B00	細石刃	-	OB1	10	3.9	1.7	0.05	○53824(E-9/X I)
612	1265	A22	B00	ファーストラーク	-	OB3	17.4	4.9	3.2	0.17	○53793(E-10/X)
612	1266	A22	B00	細石刃	-	OB6	19.8	6.7	3.1	0.35	○53776(E-9/X下)
612	1267	A22	B00	細石刃	-	OB3	13.3	5.2	1.8	0.09	○53782(E-10/X I)
612	1268	A22	B00	細石刃	-	OB3	3.3	6.1	1	0.01	○53783(E-10/X I)
612	1269	A22	B00	細石刃核	-	OB3	20.6	14.6	16.2	3.3	○53736(E-9/X下)
612	1270	A22	B00	フランク	-	OB3	13.4	14.1	10.5	1.8	○67363(F-8/X下)
612	1271	A22	B00	細石刃核	-	OB3	17.7	13.7	12.4	2.6	○43464(E-11/X)
612	1272	A22	B00	細石刃核	-	OB3	15.8	15.2	21.3	4.3	○53746(E-9/X下)
613	1273	A22	B00	フランク	-	OB3	22.8	11.3	15.4	3.8	○71516(F-11/X)
613	1274	A22	B00	石核	-	OB2	22.5	36.9	15.7	12	○71408(F-10/X)
613	1275	A22	B00	石核	-	OB1	17.3	24.3	17.5	6.3	○62767(F-8/X I)
613	1276	A22	B00	細石刃核	-	OB3	15.7	16.1	27.1	6.1	○53737(E-9/X下)
613	1277	A22	B00	フランク	-	OB3	29.7	16.2	20.5	9.2	○67385(E-8/X下)
613	1278	A22	B00	石核	-	OB3	24.3	30.8	30.6	17	○71412(F-10/X I上)
613	1279	A22	B00	フランク	-	OB1	18.6	25.7	27.3	9.9	○53772(E-9/X I)
613	1280	A22	B00	フランク	-	OB2	27.7	16.4	16.6	13	○71340(F-9/X下)
613	1281	A22	B00	石核	-	OB2	32.1	48.4	36.1	44	○62765(F-8/X I)
614	1282	A22	B00	剥片	-	OB1	12.8	11.2	2.1	0.21	○67417(G-9/X下)
614	1283	A22	B00	剥片	-	OB1	14.6	11.1	3.4	0.35	○53726(E-9/X下)
614	1284	A22	B00	剥片	-	OB1	8	15.7	2.9	0.29	○53825(E-9/X I)
614	1285	A22	B00	剥片	-	OB1	18.2	15.4	3.6	0.9	○67384(E-8/X I)

第127表 第三文化層第22エリア出土石器観察表(4)

挿図No	図No	エリア	ブロック	分類2	分類3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
614	1286	A22	B00	剥片	-	OB4	18.5	12.3	2.2	0.31	○67372(F-8/X)
614	1287	A22	B00	剥片	-	OB3	18.6	12.3	5.1	0.87	○71411(F-10/X I上)
614	1288	A22	B00	スポール	-	OB1	22.1	12.6	6.9	1.4	○53751(E-9/X下)
614	1289	A22	B00	剥片	-	OB3	19.9	15.2	10.8	2.2	○53745(E-9/X下)
614	1290	A22	B00	打面調整剥片	-	OB1	18.5	22	4.2	1.2	○53735(E-9/X下)
614	1291	A22	B00	剥片	-	OB1	11.4	21.2	4	0.87	○53727(E-9/X下)
614	1292	A22	B00	剥片	-	OB1	18.3	27.1	9	2.9	○71341(F-9/X下)
614	1293	A22	B00	剥片	-	OB3	24.9	24.5	6	2.7	○53790(E-10/X)
614	1294	A22	B00	剥片	-	OB2	29	27.7	6.9	4.8	○43474(E-10/X)
614	1295	A22	B00	削器	-	OB3	31.2	10.5	6	1.6	○67359(F-8/X下)
614	1296	A22	B00	剥片	-	OB1	26.9	18.4	7.7	2.9	○67355(G-10/X)
614	1297	A22	B00	ナイフ形石器	-	OB3	31.7	22.5	6.3	3.4	○71343(F-9/X下)
614	1298	A22	B00	スポール	-	OB1	44.6	18.9	10.6	0.31	○67373(F-8/X)
614	1299	A22	B00	二次加工剥片	-	SH	25.7	15.9	7.9	2.1	○53748(E-9/X)
614	1300	A22	B00	剥片	-	OB3	24	20.3	6	2.4	○53775(E-9/X下)
614	1301	A22	B00	石核	-	OB3	27.7	29.7	9.1	5.9	○67660(H-11/X)
614	1302	A22	B00	剥片	-	OB3	24	21.4	11.3	4.3	○53743(E-9/X下)
615	1303	A22	B00	打製石斧	-	SH	43.2	28.3	12.5	17	○53781(E-10/X下)
615	1304	A22	B00	打製石斧	-	SH	56.7	38.2	13.8	41	○53780(E-10/X下)
616	1305	A22	B00	磨石	/磨	KAN	82.9	97.7	54.8	430	○66966(H-8/X)
616	1306	A22	B00	ハンマー	-	KAN	66.4	49.3	48	212	○66980(G-8/X)
616	1307	A22	B00	ハンマー	-	SH	59.9	42.6	33.3	80	○67389(E-8/X)

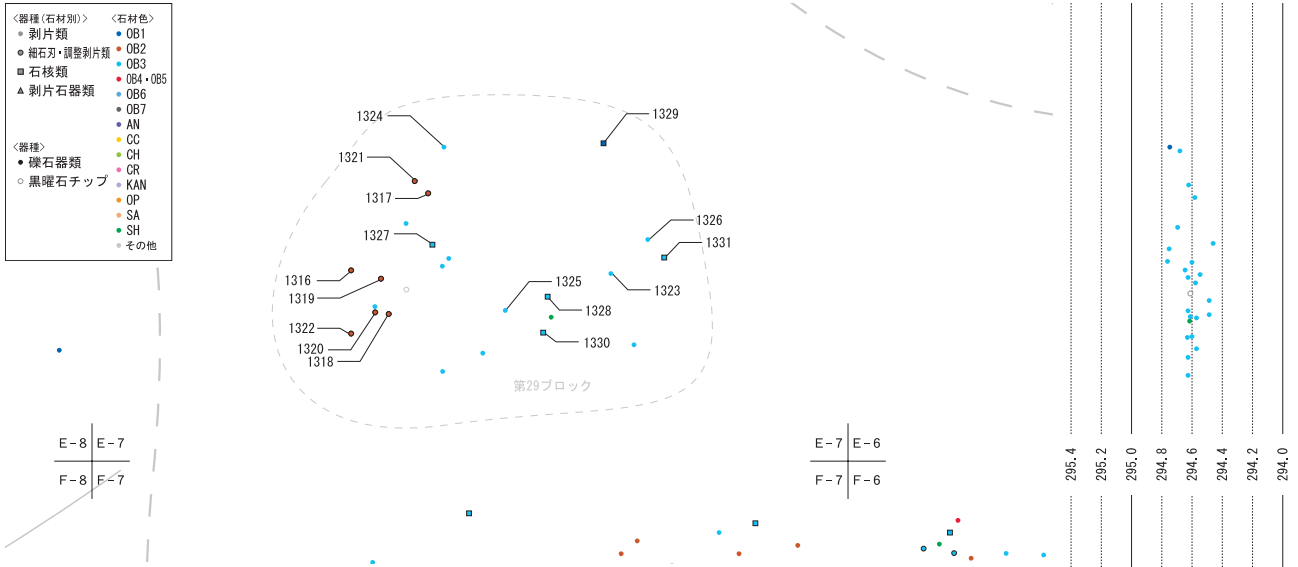


第617図 第三文化層第23エリア石器出土状況図(1)

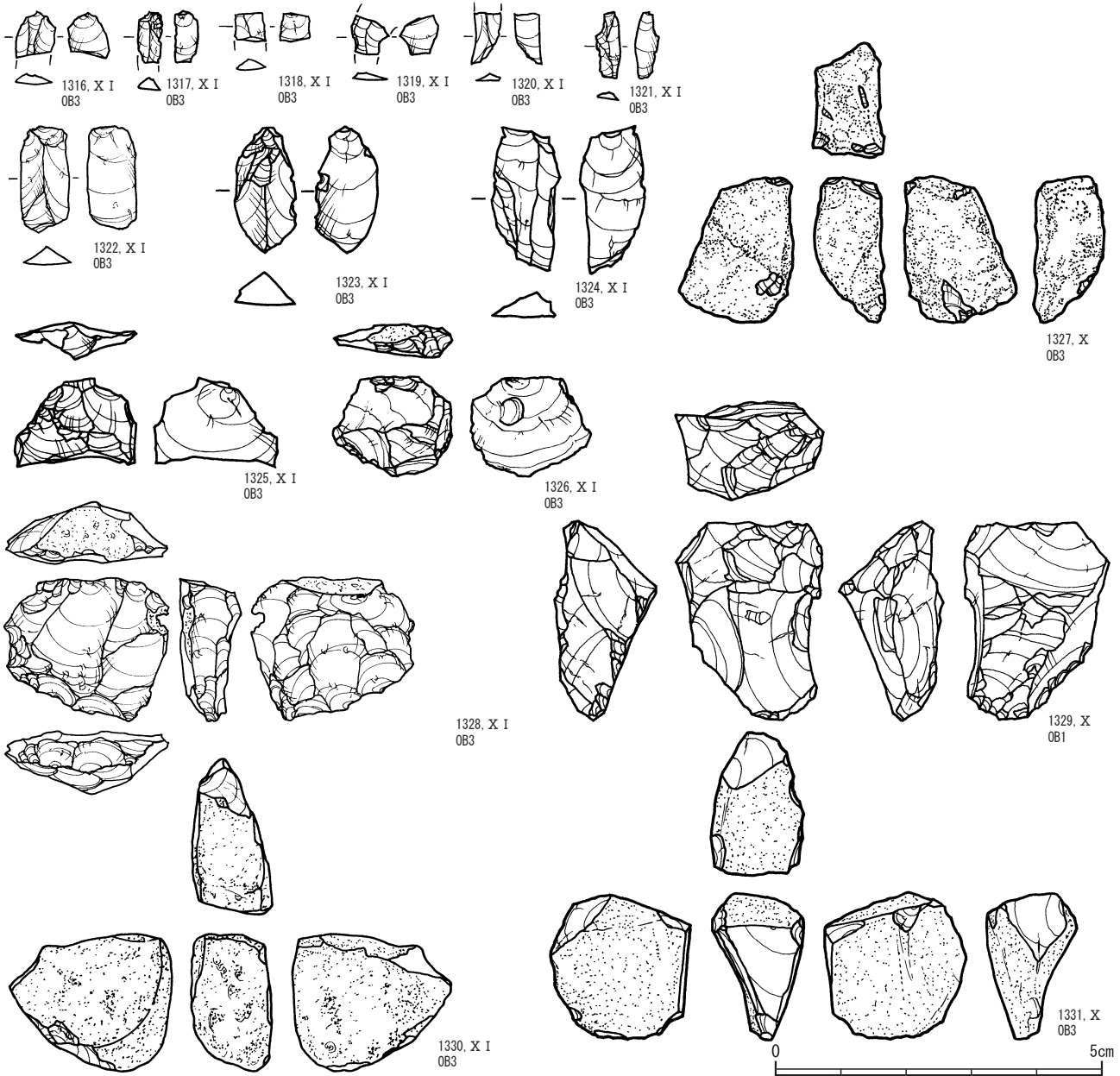


第618図 第三文化層第23エリア第28ブロック出土石器実測図

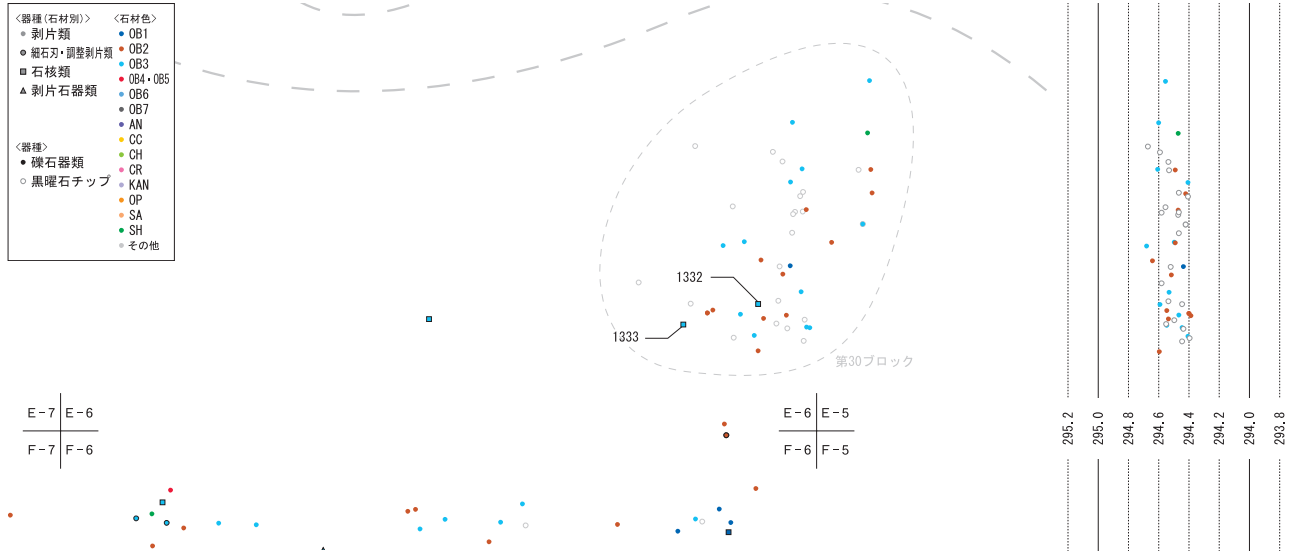
- | | | | |
|-------------|-------|-------|-------|
| 〈器種(石材別)〉 | | 〈石材色〉 | |
| ● 剥片類 | ● OB1 | ● OB2 | ● OB3 |
| ○ 細石刃・調整剥片類 | ● OB4 | ● OB5 | ● OB6 |
| ■ 石核類 | ● OB7 | ● AN | ● CC |
| ▲ 剥片石器類 | ● CH | ● CR | ● KAN |
| | ● OP | ● SA | ● SH |
| | ● その他 | | |



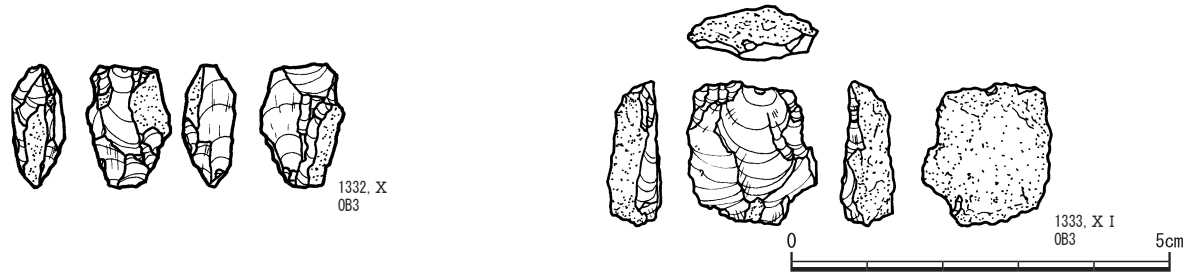
第619図 第三文化層第23エリア石器出土状況図(2)



第620図 第三文化層第23エリア第29ブロック出土石器実測図



第621図 第三文化層第23エリア石器出土状況図(3)



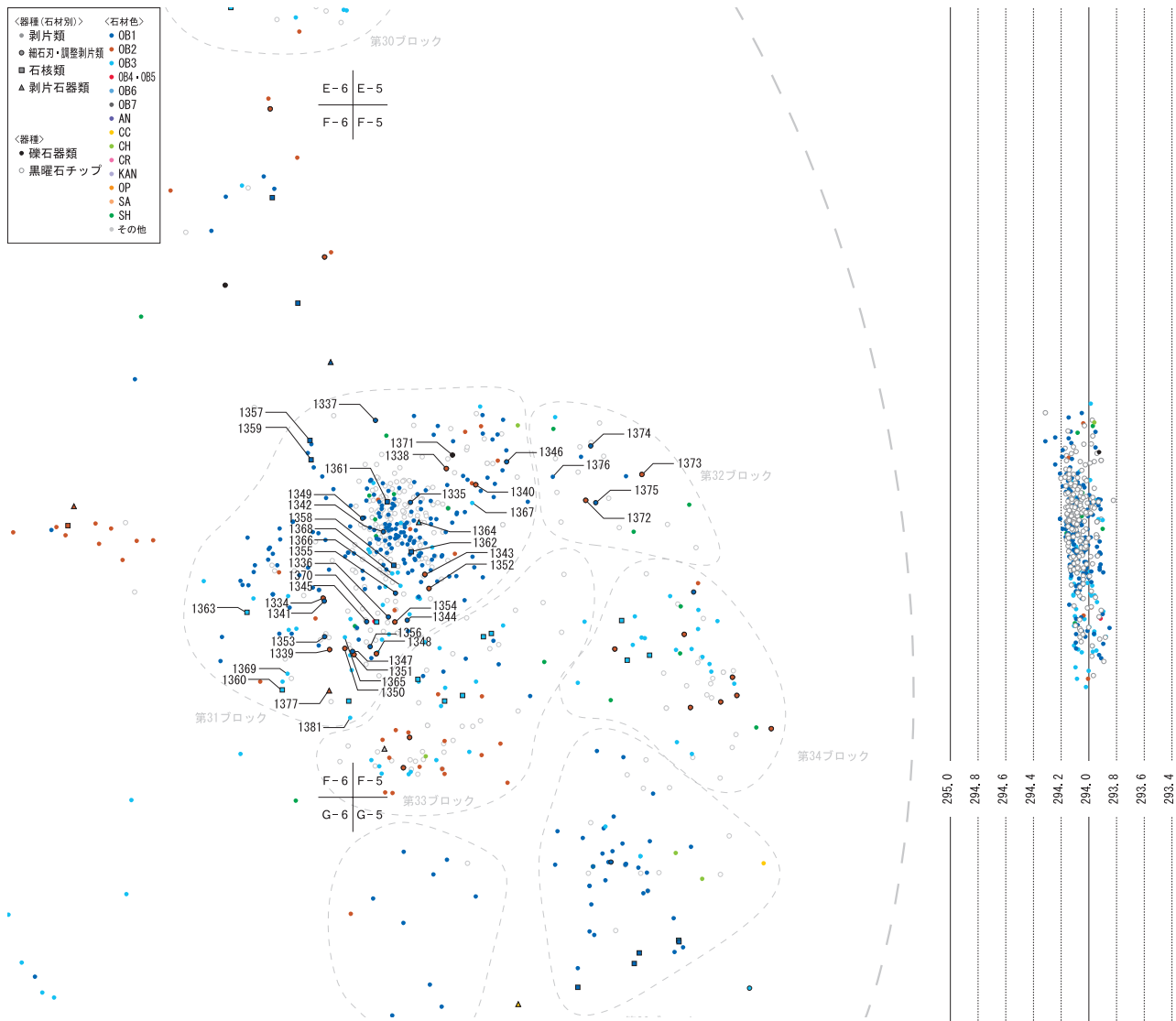
第622図 第三文化層第23エリア第30ブロック出土石器実測図

第128表 第三文化層第23エリア出土石器観察表(1)

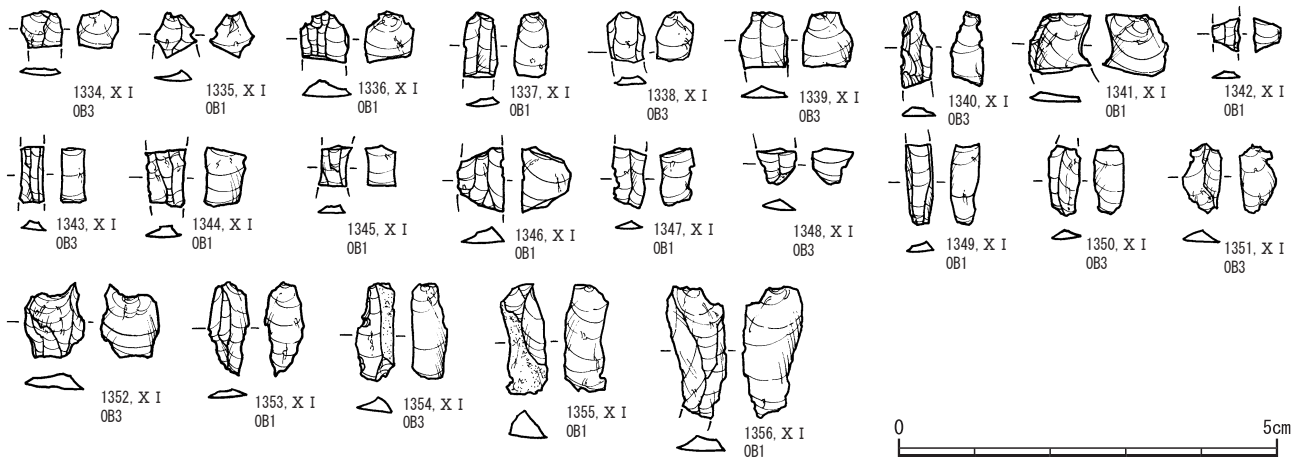
種目No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
618	1308	A23	B28	細石刃	-	OB1	8.4	12.2	2	0.19	O62354(D-7/X)
618	1309	A23	B28	剥片	-	OB3	19	16.7	5	1.4	O62336(E-7/X)
618	1310	A23	B28	二次加工産剥片	-	OB3	22.2	21.7	5	2.3	O62342(D-7/X)
618	1311	A23	B28	剥片	-	OB3	22.6	21.5	10.2	3.2	O62338(E-7/X)
618	1312	A23	B28	石核	-	OB3	13	19.7	24.5	5	O62337(E-7/X)
618	1313	A23	B28	石核	-	OB3	16.8	23	22.4	6.4	O62339(E-7/X)
618	1314	A23	B28	ハンマー	棒状埋拵	SA	118.5	35	34.2	167	O62357(D-7/X)
618	1315	A23	B28	ハンマー	棒状埋拵	SA	86.2	41.3	32.6	160	O62341(D-7/X)
620	1316	A23	B29	細石刃	-	OB3	7.1	6.6	1.6	0.06	O61709(E-7/X 1)
620	1317	A23	B29	細石刃	-	OB3	8.2	3.9	2.3	0.08	O61707(E-7/X 1)
620	1318	A23	B29	細石刃	-	OB3	4.6	4.8	2	0.06	O61714(E-7/X 1)
620	1319	A23	B29	細石刃	-	OB3	6.3	6.2	1.1	0.02	O61710(E-7/X 1)
620	1320	A23	B29	細石刃	-	OB3	8.1	4.4	2.4	0.06	O61712(E-7/X 1)
620	1321	A23	B29	細石刃	-	OB3	10.4	3.9	1.3	0.04	O61706(E-7/X 1)
620	1322	A23	B29	細石刃	-	OB3	16	7.8	4.1	0.39	O61711(E-7/X 1)
620	1323	A23	B29	剥片	-	OB3	19.7	9.9	5.9	0.66	O61722(E-7/X 1)
620	1324	A23	B29	剥片	-	OB3	22.9	10.3	4.5	0.79	O61705(E-7/X 1)
620	1325	A23	B29	剥片	-	OB3	14	19.2	4.5	0.77	O61848(E-7/X 1)
620	1326	A23	B29	剥片	-	OB3	15.6	18.6	4.3	1.1	O61846(E-7/X 1)
620	1327	A23	B29	原礫	-	OB3	22.5	11.3	15.3	3.7	O61127(E-7/X)
620	1328	A23	B29	ブランク	-	OB3	22.3	25.2	9.4	4.3	O61847(E-7/X 1)
620	1329	A23	B29	ブランク	-	OB1	30.7	22.8	13.7	8.8	O61216(E-7/X)
620	1330	A23	B29	原礫	-	OB3	21.3	12.7	25.1	6.2	O61720(E-7/X 1)
620	1331	A23	B29	原礫	-	OB3	22.8	14.4	21.8	5.7	O61209(E-7/X)
622	1332	A23	B30	細石刃核	-	OB3	16.5	11.5	6.6	0.97	O61120(E-6/X)
622	1333	A23	B30	石核	-	OB3	19.2	17.5	7.2	2	O61677(E-6/X 1)
624	1334	A23	B31	細石刃	-	OB3	5.3	5.6	1.2	0.02	O62871(F-6/X 1)
624	1335	A23	B31	細石刃	-	OB1	6.2	6	1.3	0.03	O61077(F-5/X 1)
624	1336	A23	B31	細石刃	-	OB1	7	6.7	2.1	0.09	O61772(F-5/X 1)
624	1337	A23	B31	細石刃	-	OB1	8.7	4.7	1.8	0.06	O61088(F-5/X 1)
624	1338	A23	B31	細石刃	-	OB3	6.7	5.1	0.9	0.02	O61391(F-5/X 1)
624	1339	A23	B31	細石刃	-	OB3	7.4	6.8	1.7	0.08	O62806(F-6/X 1)
624	1340	A23	B31	細石刃	-	OB3	10	4.6	1.4	0.1	O61095(F-5/X 1)
624	1341	A23	B31	細石刃	-	OB1	8.4	8.8	1.4	0.1	O62811(F-6/X 1)
624	1342	A23	B31	細石刃	-	OB1	4.7	3.8	1	0.02	O61600(F-5/X 1)
624	1343	A23	B31	細石刃	-	OB3	7.4	3.6	1	0.03	O61572(F-5/X 1)
624	1344	A23	B31	細石刃	-	OB1	8	5.8	2	0.09	O61004(F-5/X 1)
624	1345	A23	B31	細石刃	-	OB1	5.6	4.3	1.1	0.02	O61009(F-5/X 1)
624	1346	A23	B31	細石刃	-	OB1	8.8	6.7	2	0.1	O61102(F-5/X 1)

第129表 第三文化層第23エリア出土石器観察表(2)

種目No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
624	1347	A23	B31	細石刃	-	OB1	7.8	4.7	1.1	0.03	O61002(F-6/X 1)
624	1348	A23	B31	細石刃	-	OB3	5	5.7	1.2	0.04	O62561(F-5/X 1)
624	1349	A23	B31	細石刃	-	OB1	10.9	4	1.4	0.04	O61603(F-5/X 1)
624	1350	A23	B31	細石刃	-	OB3	9.2	4.2	1.8	0.06	O61001(F-6/X 1)
624	1351	A23	B31	細石刃	-	OB3	9.1	5	1.8	0.05	O61561(F-5/X 1)
624	1352	A23	B31	細石刃	-	OB3	9.9	8	2	0.13	O61570(F-5/X 1)
624	1353	A23	B31	細石刃	-	OB1	12.6	5.4	1.6	0.08	O62870(F-6/X 1)
624	1354	A23	B31	細石刃	-	OB3	12.8	4.9	2.5	0.13	O61006(F-5/X 1)
624	1355	A23	B31	ファーストフレイク	-	OB1	14.3	6.1	4.3	0.31	O61022(F-5/X 1)
624	1356	A23	B31	細石刃	-	OB1	17.5	8.1	2.1	0.27	O61774(F-5/X 1)
625	1357	A23	B31	細石刃核	-	OB1	14	9.4	11.4	2.2	O62874(F-6/X 1)
625	1358	A23	B31	細石刃核	-	OB1	11.6	14.8	11.5	1.3	O61577(F-5/X 1)
625	1359	A23	B31	細石刃核	-	OB1	9.3	8.9	10.9	1	O62830(F-6/X 1)
625	1360	A23	B31	細石刃核	-	OB3	19.9	9.9	10.6	1.5	O61939(F-6/X)
625	1361	A23	B31	細石刃核	-	OB1	19	13.2	20.6	4.6	O61377(F-5/X 1)
625	1362	A23	B31	細石刃核	-	OB1	21.3	13.8	22.2	6	O61590(F-5/X 1)
625	1363	A23	B31	細石刃核	-	OB3	18.6	14.3	11.6	3.8	O61815(F-6/X 1)
625	1364	A23	B31	掻器	-	OB3	24.2	17.9	6	2.1	O60531(F-5/X 1上)
625	1365	A23	B31	剥片	-	OB3	11.4	13.4	4.1	0.42	O61775(F-6/X 1)
625	1366	A23	B31	剥片	-	OB3	12.8	15.1	7.4	0.97	O61573(F-5/X 1)
625	1367	A23	B31	剥片	-	OB3	10.4	13.5	2.7	0.36	O60515(F-5/X 1上)
625	1368	A23	B31	剥片	-	OB3	16.5	14.8	3.7	0.53	O61576(F-5/X 1)
625	1369	A23	B31	剥片	-	OB3	19	11.5	4.5	0.74	O61938(F-6/X)
625	1370	A23	B31	石核	-	OB3	22.2	29.4	12.9	6.8	O61281(F-5/X 1)
625	1371	A23	B31	ハンマー	-	SA	53.8	45.8	42.2	134	O60514(F-5/X 1上)
626	1372	A23	B32	細石刃	-	OB3	4.3	4.3	1	0.01	O61114(F-5/X 1)
626	1373	A23	B32	細石刃	-	OB3	14.1	4.1	2	0.11	O61301(F-5/X 1)
626	1374	A23	B32	剥片	-	OB1	11.6	9.4	1.9	0.16	O61112(F-5/X 1)
626	1375	A23	B32	剥片	-	OB1	19.3	17.5	3.8	0.93	O60519(F-5/X 1上)
626	1376	A23	B32	剥片	-	OB1	21.6	16.6	4.5	1.2	O61108(F-5/X 1)
628	1377	A23	B33	石礫	-	OB2	12.8	9.8	2.2	0.25	O62798(F-6/X 1)
628	1378	A23	B33	細石刃	-	OB3	14.1	4.4	2.3	0.11	O61780(F-5/X 1)
628	1379	A23	B33	細石刃	-	OB3	12.1	7.3	3.5	0.23	O62562(F-5/X 1)
628	1380	A23	B33	剥片	-	OB3	10.2	10	4.7	0.27	O61509(F-5/X 1)
628	1381	A23	B33	剥片	-	OB3	22.6	10.6	5	0.95	O60996(F-6/X 1)
628	1382	A23	B33	剥片	-	OB2	22	14.3	5.1	1.2	O60985(F-5/X 1)
628	1383	A23	B33	剥片	-	OB3	11.7	13.5	2.7	0.41	O61522(F-5/X 1)
628	1384	A23	B33	細石刃核	-	OB3	10	12.1	15.5	1.9	O61266(F-5/X 1)
628	1385	A23	B33	細石刃核	-	OB3	17.2	7.5	7.1	2	O61284(F-5/X 1)



第623図 第三文化層第23エリア石器出土状況図(3)

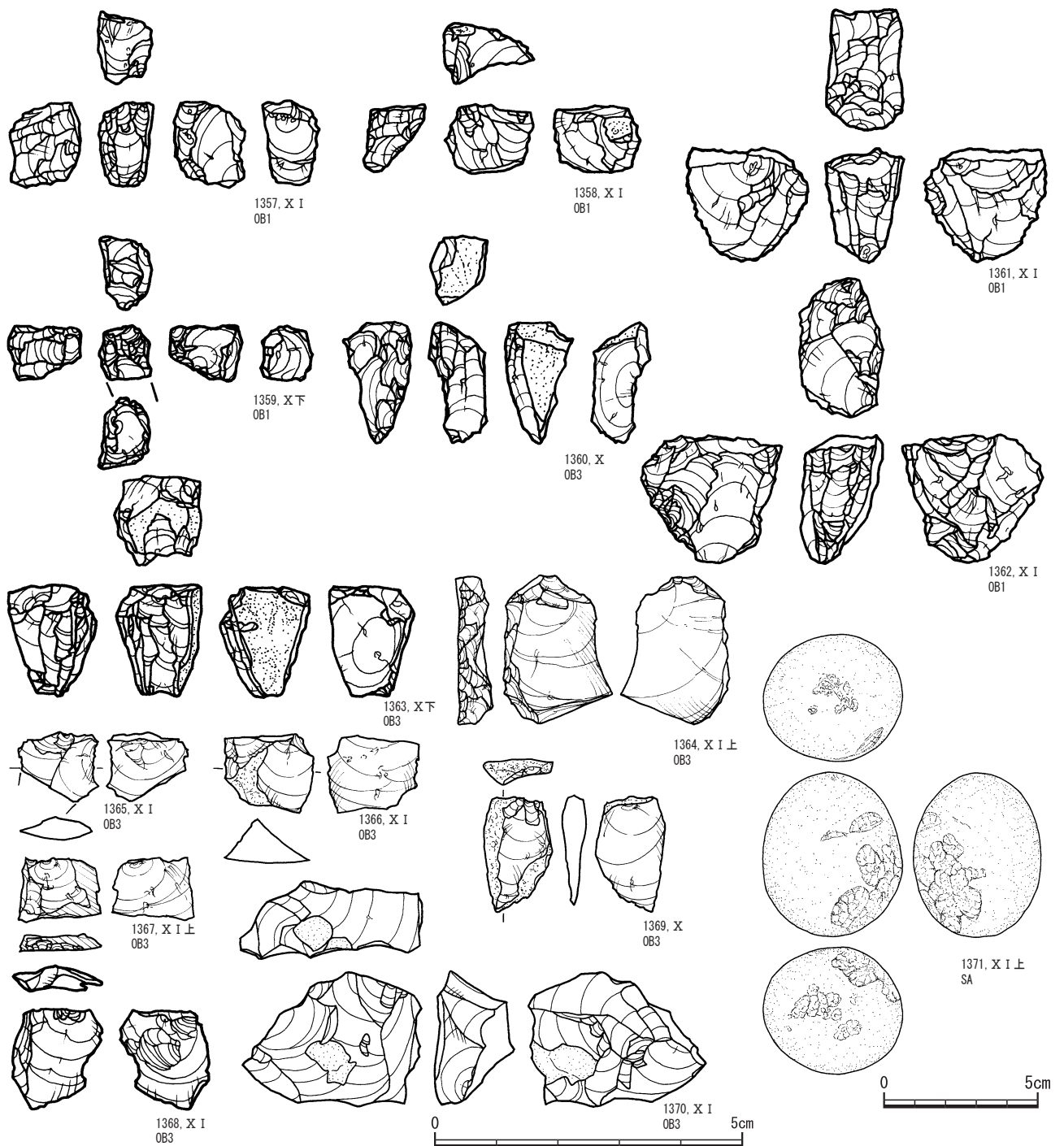


第624図 第三文化層第23エリア第31ブロック出土石器実測図(1)

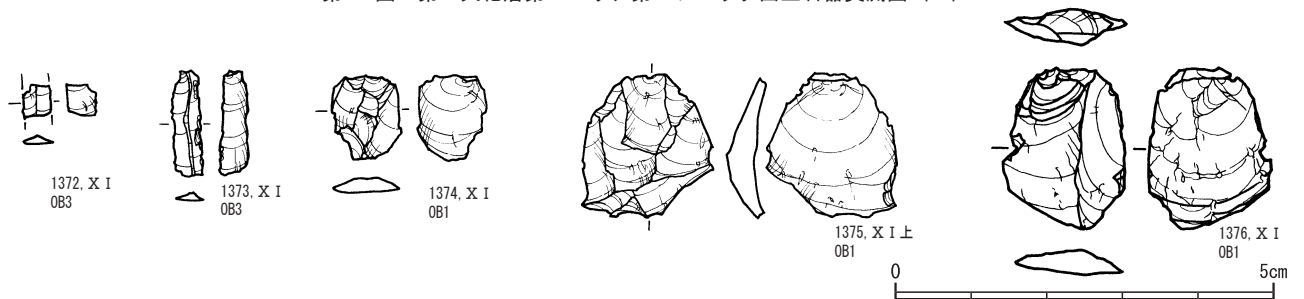
第29・第31～第36ブロックは細石刃関連、第35ブロックは石鏃関連のブロックと判断できる。

第29ブロックの1327・1330・1331は細石刃核素材原礫で、1329は細石刃核ブランク、1328は小剥片剥離後、底面を刃部加工した削器の可能性もある。第31ブロックの1357の右側面は、最終作業面を打面とした先行する細石刃作業面で、1358

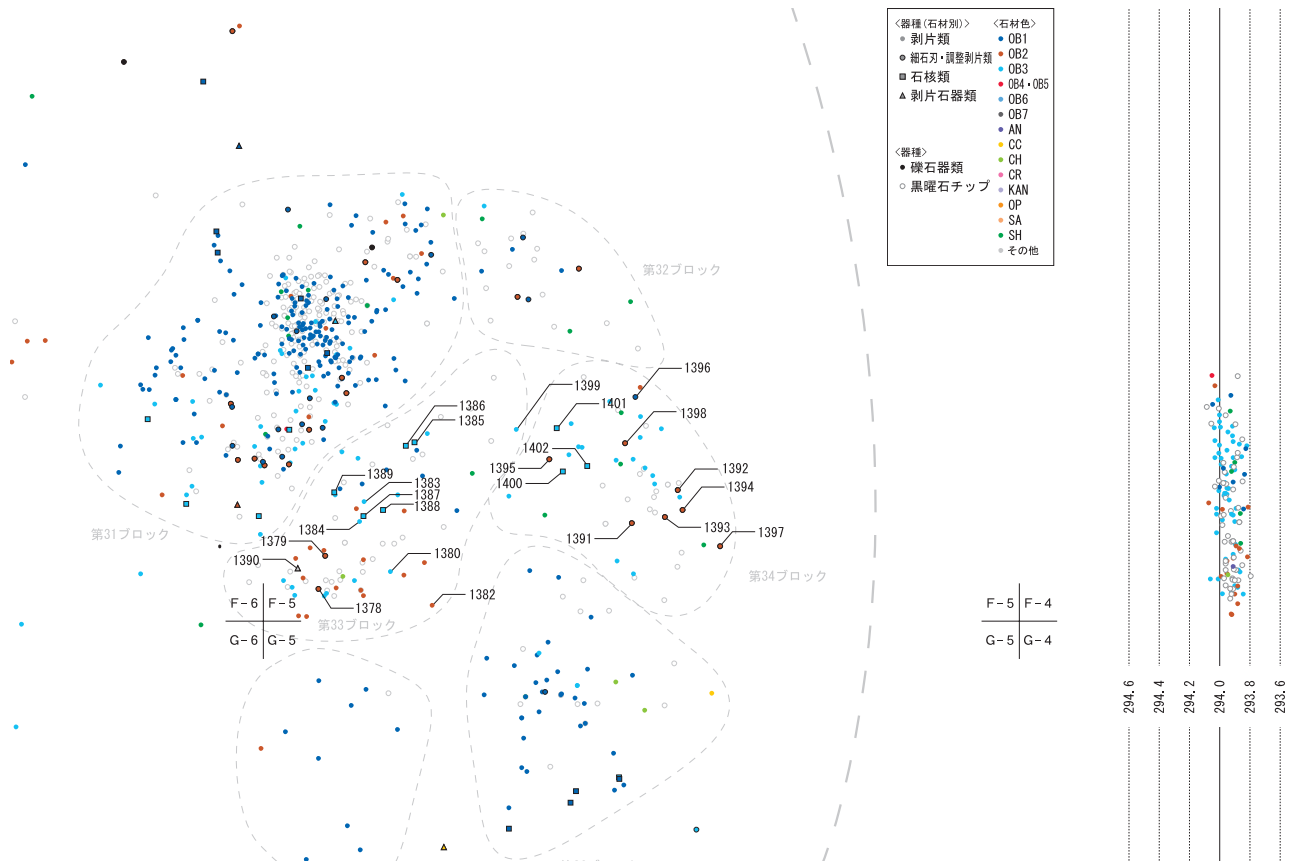
も同様である。第32ブロックの1361は剥片素材で、両側面は剥離面がそのまま残される。1359・1360は図の表示が十分でないが細石刃核の破損品である。1362は剥片素材で、右側面は素材剥離面を残すが、左側面は周縁から石核整形を行っている。1363も剥片素材で、同一打面であるが左側面の細石刃剥離作業が先行し、打面調整後、正面最終作業面を設けて



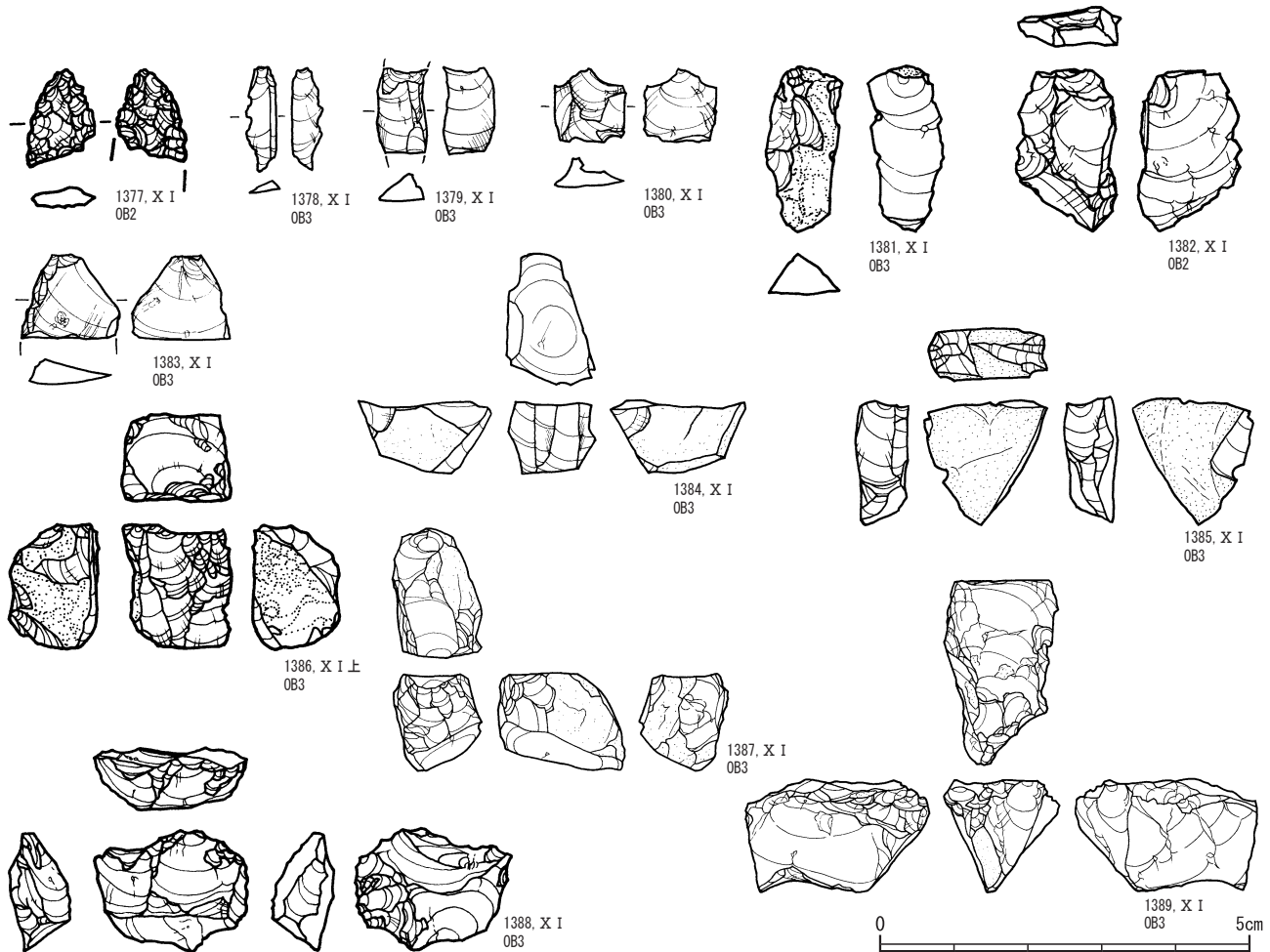
第625図 第三文化層第23エリア第31ブロック出土石器実測図(2)



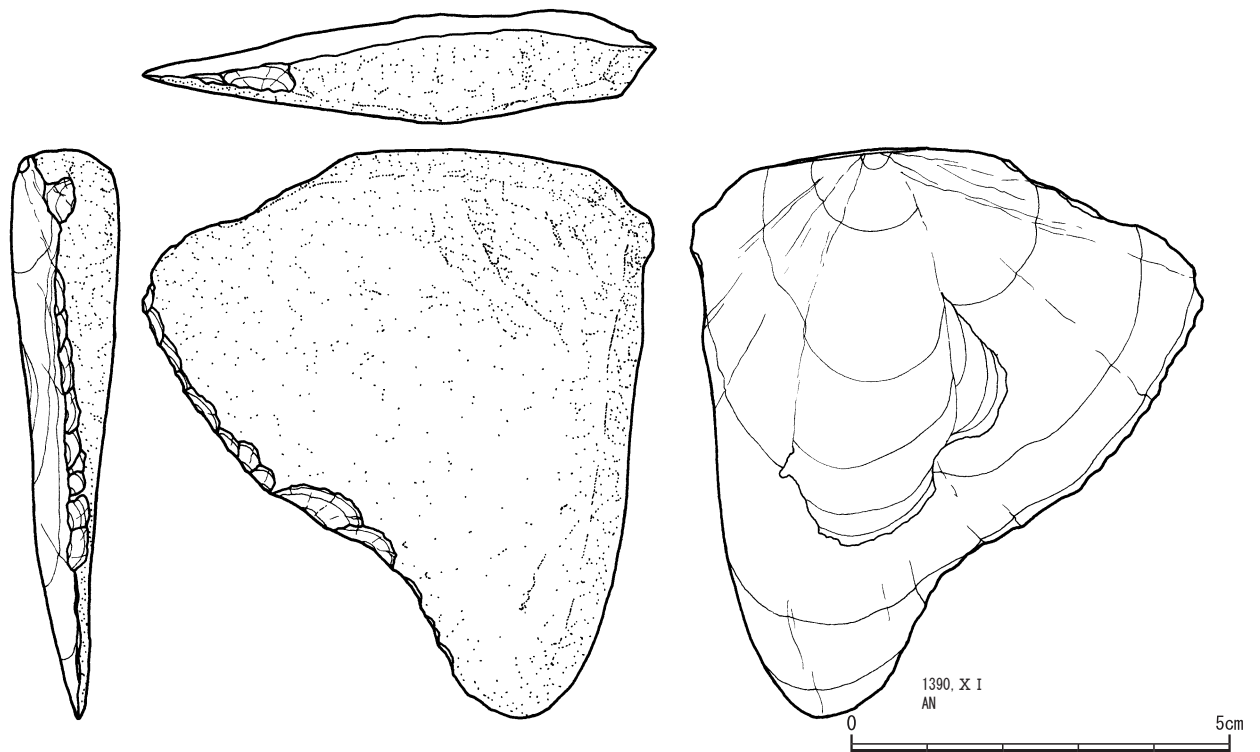
第626図 第三文化層第23エリア第32ブロック出土石器実測図



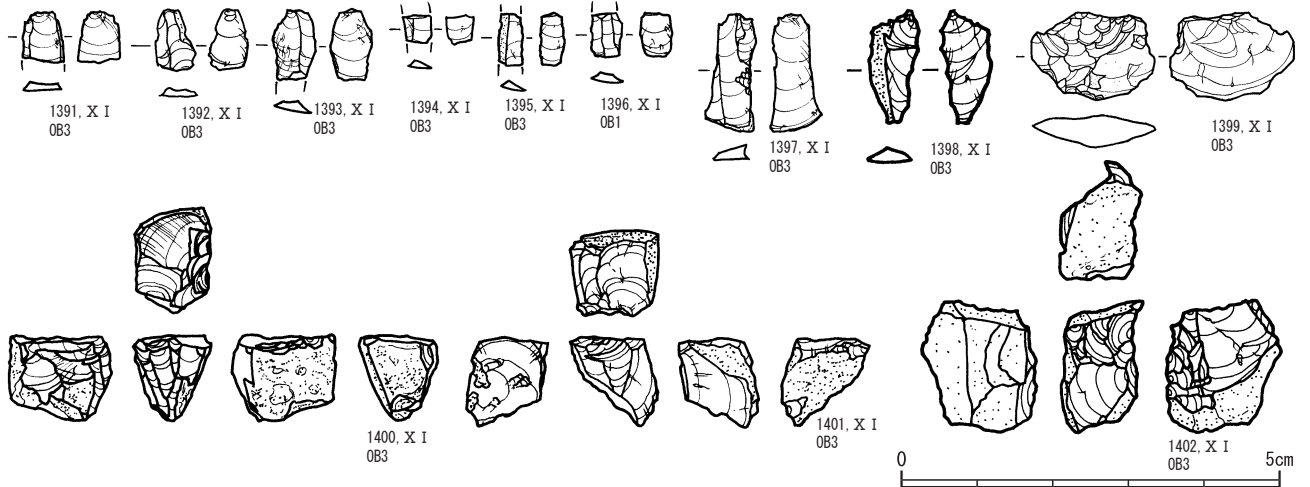
第627図 第三文化層第23エリア石器出土状況図(4)



第628図 第三文化層第23エリア第33ブロック出土石器実測図(1)



第629図 第Ⅲ文化層第23エリア第33ブロック出土石器実測図(2)



第630図 第Ⅲ文化層第23エリア第34ブロック出土石器実測図

いる。第33ブロックの1386は角礫の分割素材で、1385は角礫素材で作業面の幅は極めて狭い。背面・打面も先行して剥離作業を実施している。1377の石鏃は黒曜石Ⅱ類を使用しているが、帰属に不安がある。第34ブロックの1400は、角礫の分割素材で打面調整後破棄、1401は、剥片素材で頭部調整後破棄、1402は細石刃核ブランクである。第36ブロックの1408・1410～1413は細石刃核ブランクである。

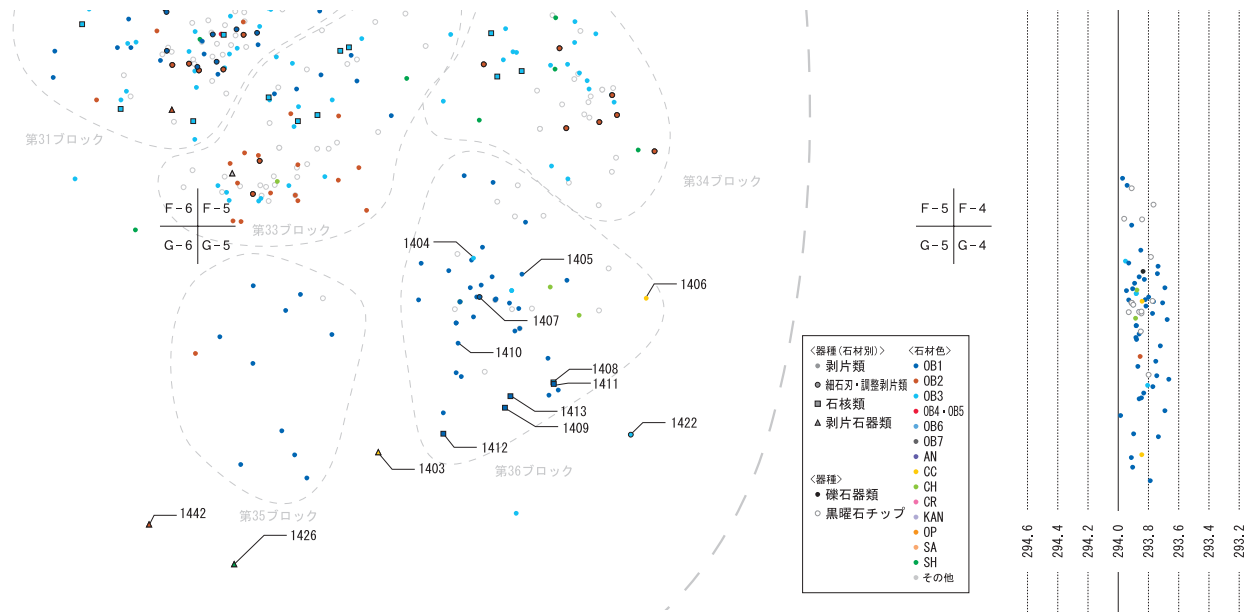
ブロック外の1426は頁岩、1428は黒曜石Ⅲ類で石鏃未製品、1430・1434は黒曜石Ⅲ類で、1430は石核調整剥片、1434は細石刃核の作業面再生剥片とみられる。1421は両面に残る礫面から扁平な礫素材を選択したとみられるが、石核調整は周縁から両面加工状に実施している。

第24エリア

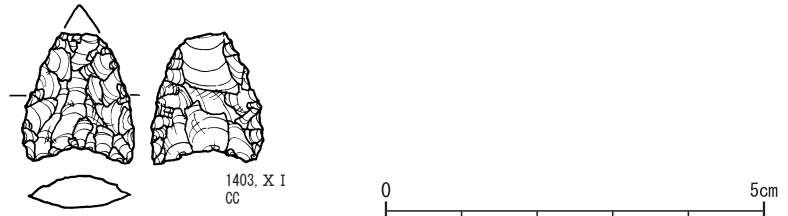
桐木遺跡G・H-4～6区に分布し、第37～第41の5ブ

ロックで構成される。使用石材は黒曜石Ⅰ類と黒曜石Ⅲ類が主体をなし、全て細石刃の製作に関わるブロックと判断できる。

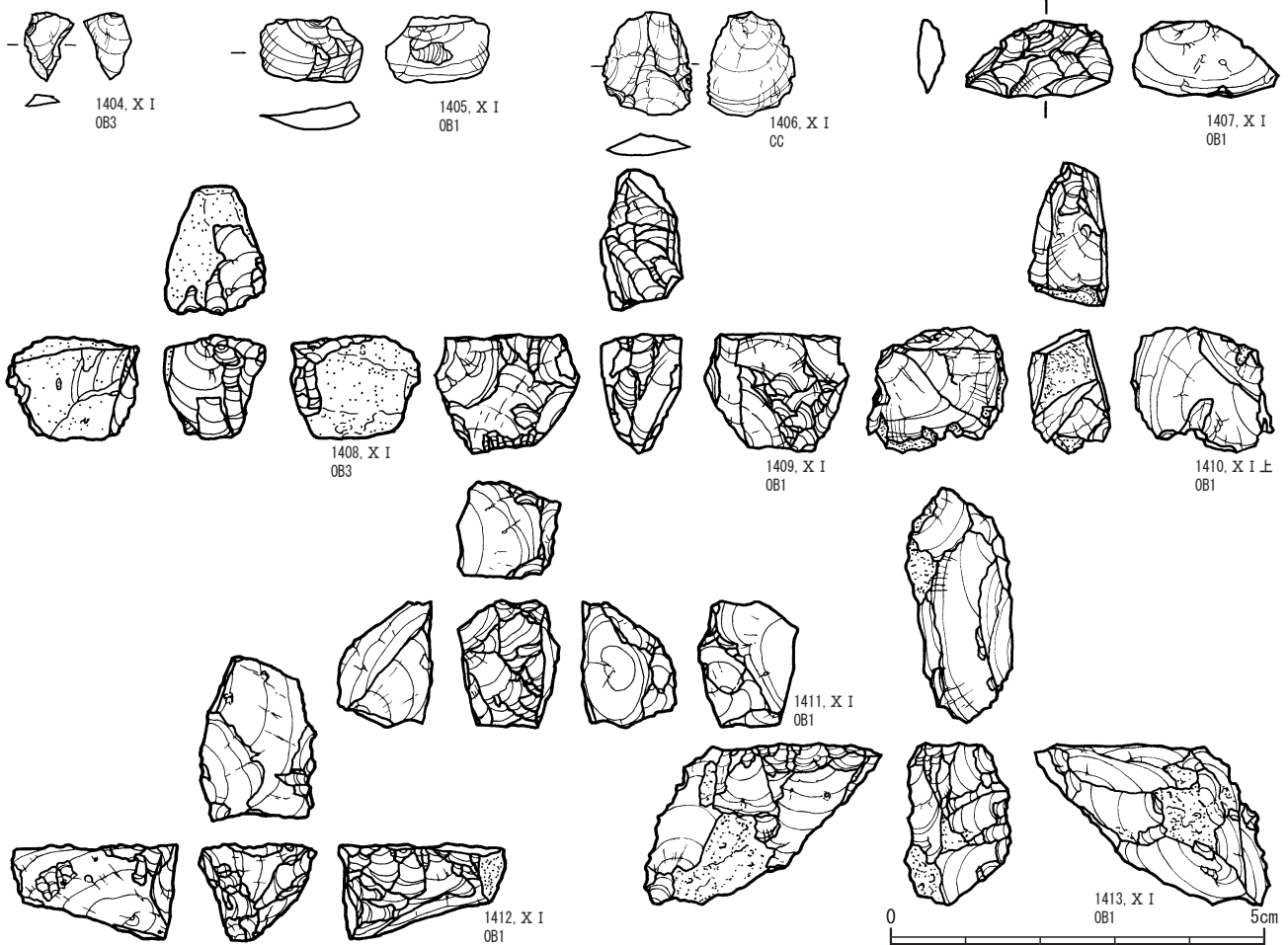
第37ブロックの1457は作業面再生剥片、細石刃核(1459・1463)は剥片素材、1460は角礫素材で狭小な剥離作業面を設けている。1461は打面と底面が先行する剥離面、1458と1462は礫素材で近似する。1464～1476の12点は細石刃核ブランクとみられる。なお、1456は、細石刃核ブランク整形剥片の可能性が考えられる。第38ブロックの1486・1487は作業面再生剥片、第39ブロックの1494～1497は黒曜石Ⅰ類を使用した剥片素材の細石刃核で、剥離面がそのまま両側面を形成している。第40ブロックの1536～1540・1542・1543・1546・1547は細石刃核で、1536・1538・1540の3点は残核である。1546は黒曜石Ⅳ類の剥片を素材とし、下縁(底面)調整(片面加工)が



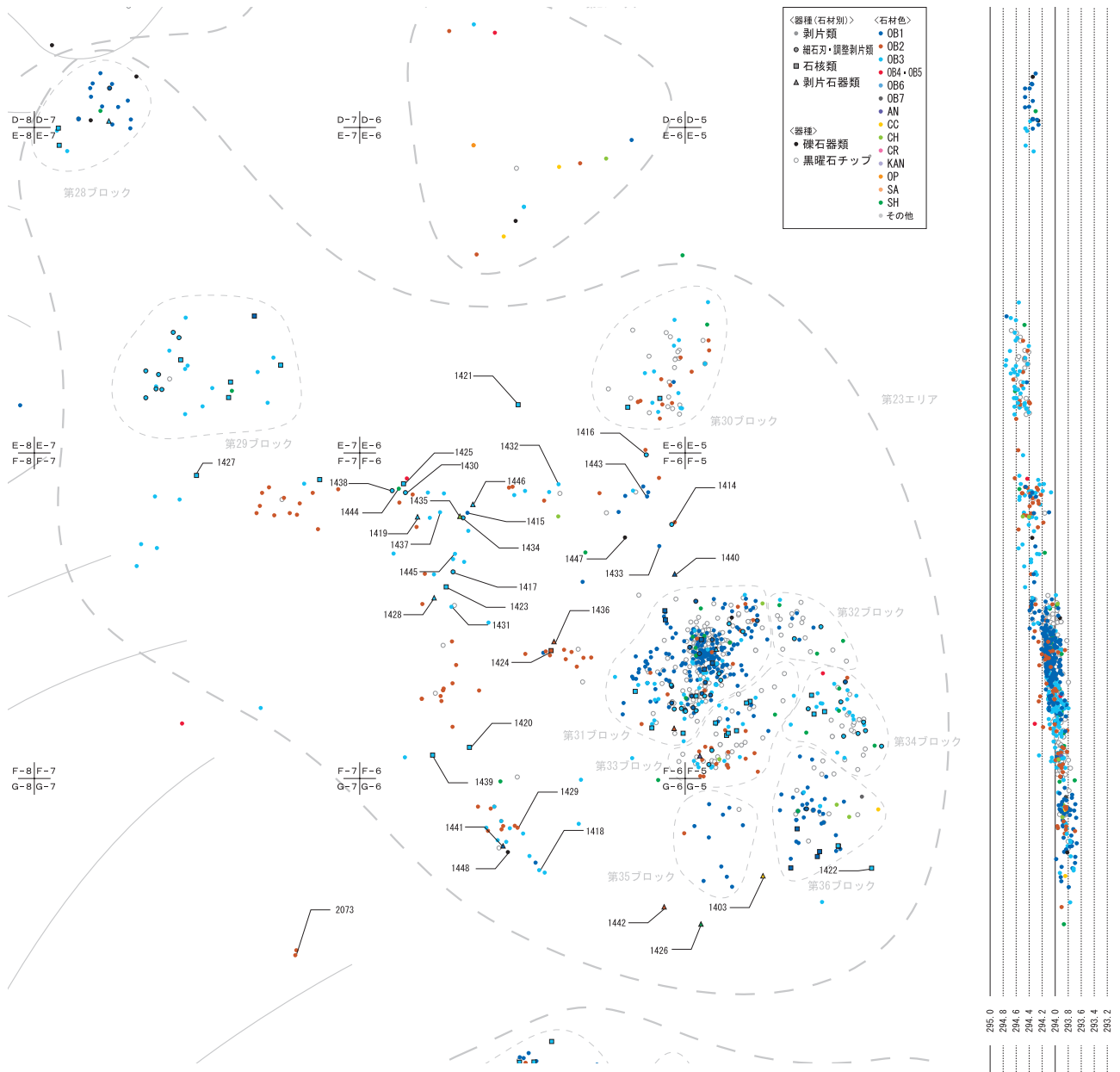
第631図 第Ⅲ文化層第23エリア石器出土状況図 (5)



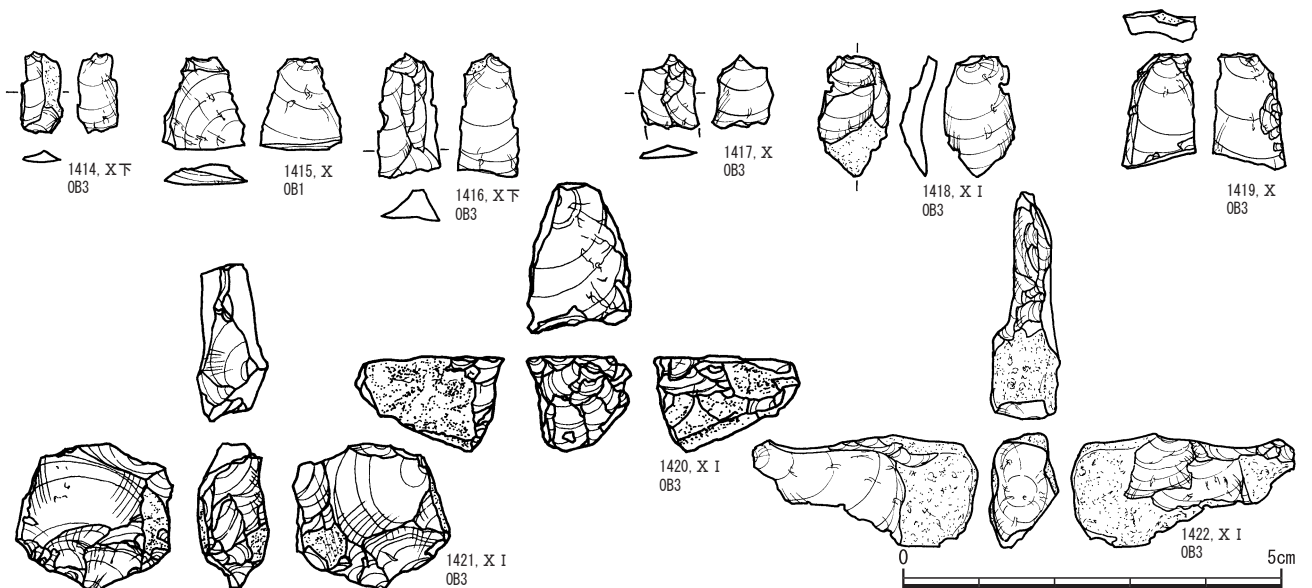
第632図 第Ⅲ文化層第23エリア第35ブロック出土石器実測図



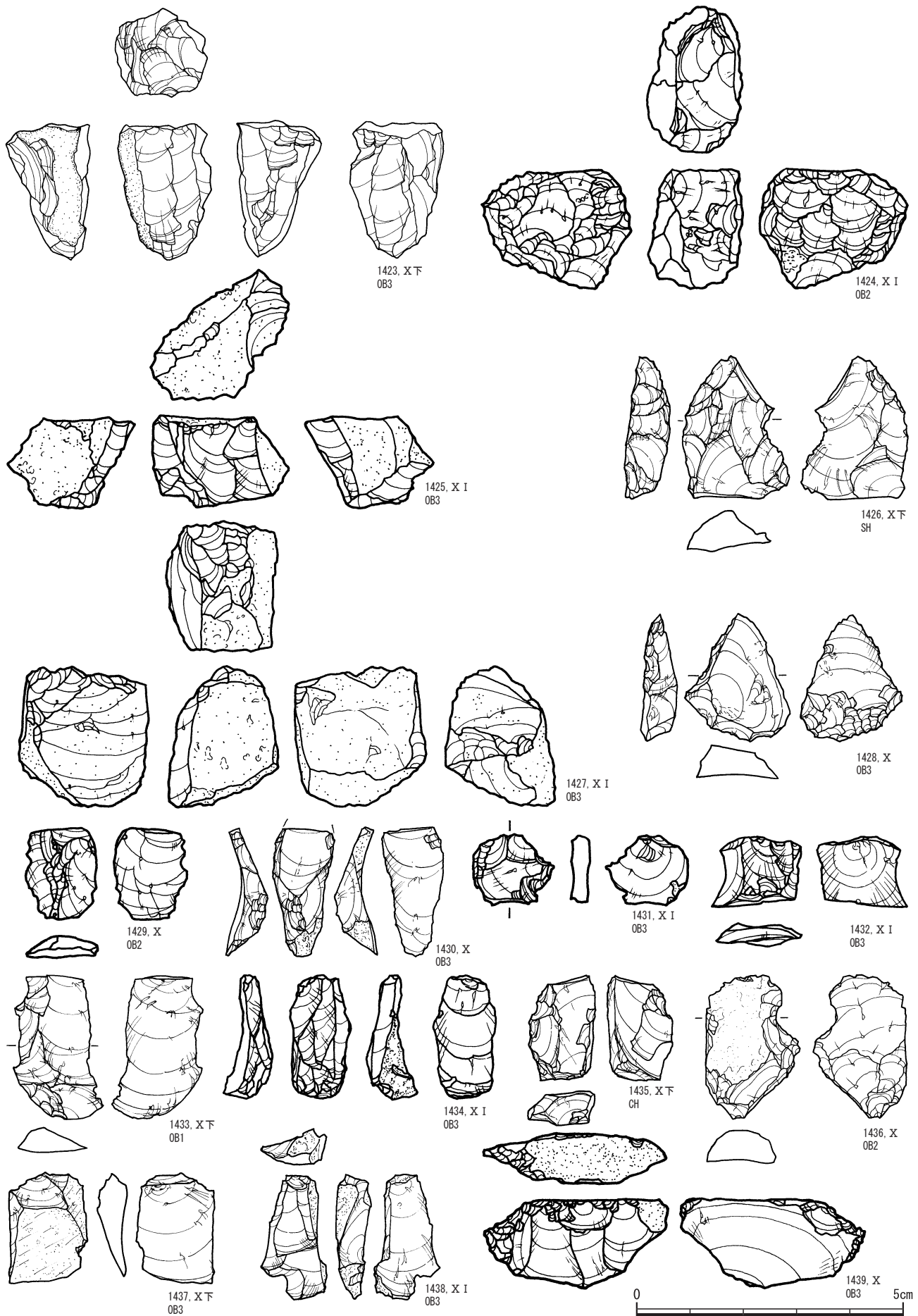
第633図 第Ⅲ文化層第23エリア第36ブロック出土石器実測図



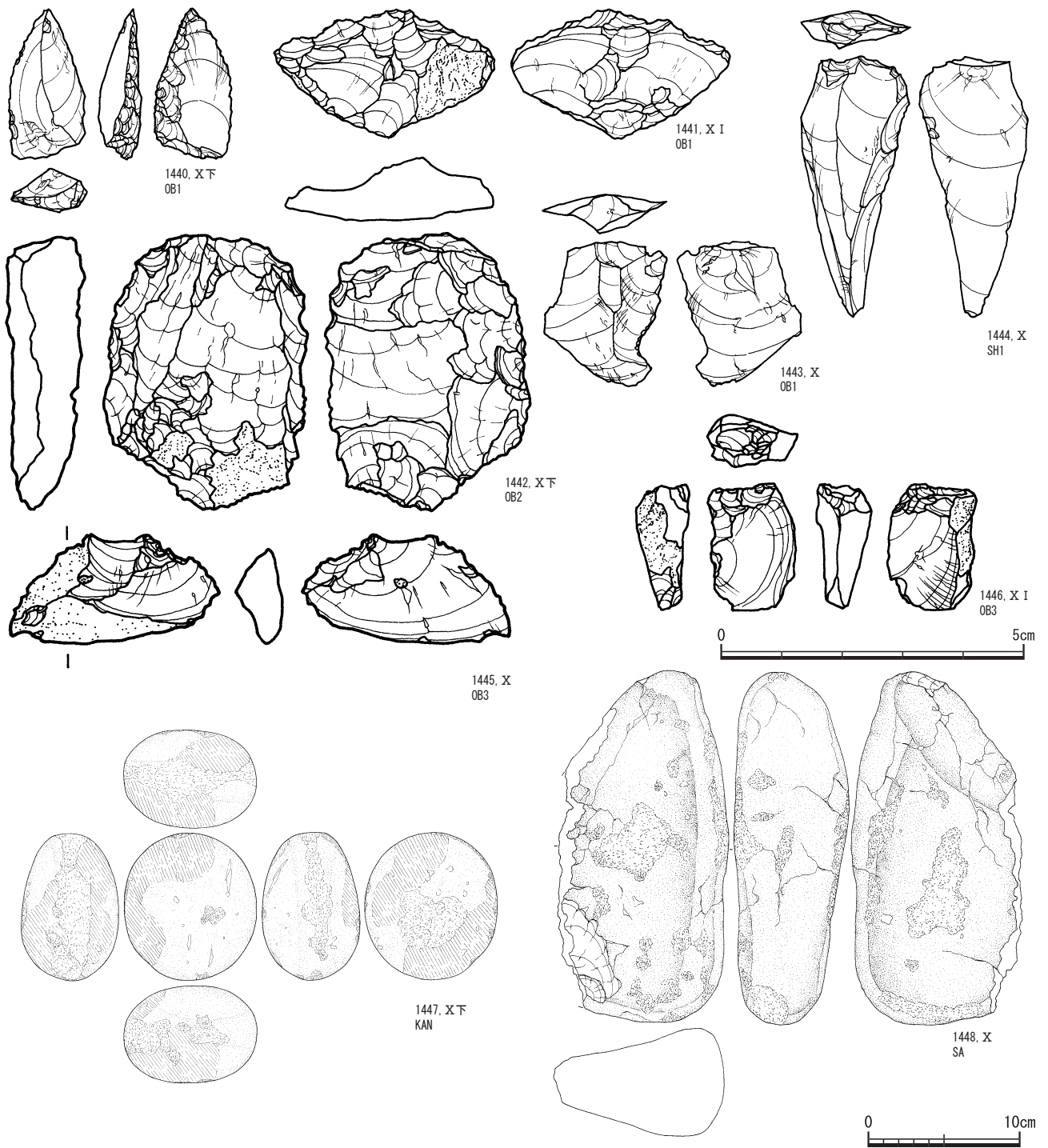
第634図 第Ⅲ文化層第23エリア石器出土状況図(6)



第635図 第Ⅲ文化層第23エリア出土石器実測図(1)



第636図 第三文化層第23エリア出土石器実測図(2)



第637図 第Ⅲ文化層第23エリア出土石器実測図(3)

第130表 第Ⅲ文化層第23エリア出土石器観察表(3)

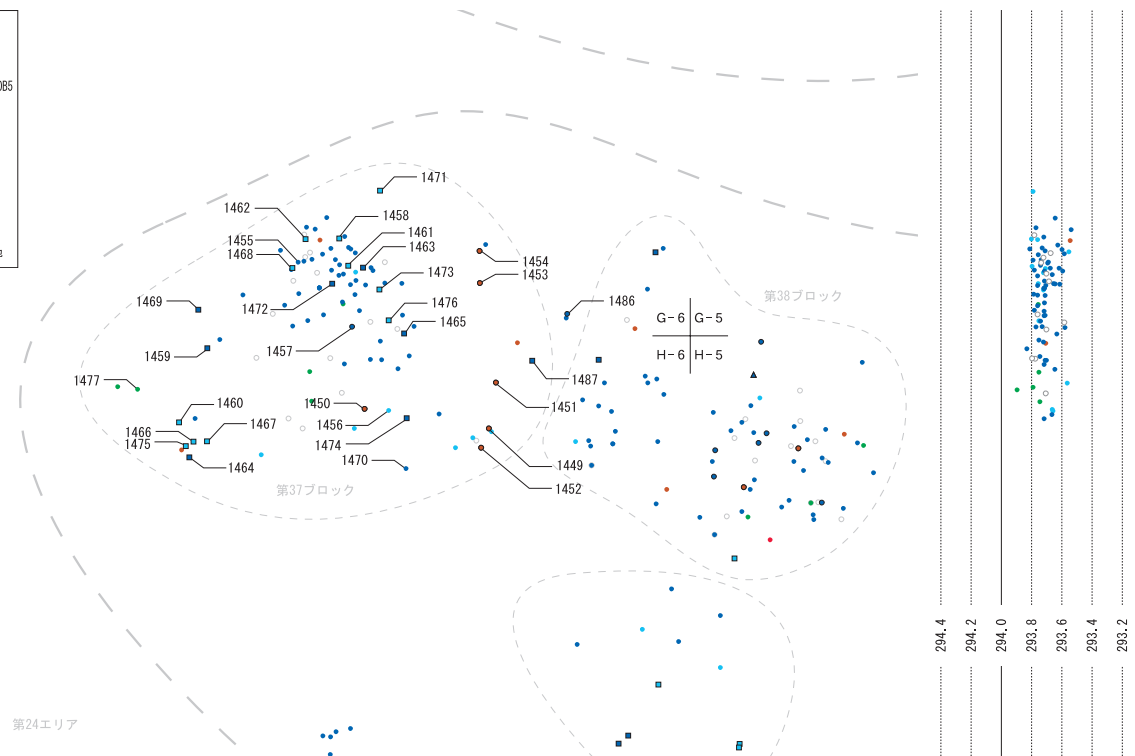
種別No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
628	1386	A23	B33	細石刃核	-	OB3	17.1	15.1	13.1	2.8	○60540(F-5/X1上)
628	1387	A23	B33	細石刃核	-	OB3	13.3	12.2	11.1	3	○61521(F-5/X1)
628	1388	A23	B33	ブランク	-	OB3	16.8	21.1	7.4	2.3	○60987(F-5/X1)
628	1389	A23	B33	ブランク	-	OB3	15.4	15.9	24.8	4.9	○61273(F-5/X1)
629	1390	A23	B33	削器	-	AN	75.6	68	15	62	○61519(F-5/X1)
630	1391	A23	B34	細石刃	-	OB3	7.1	5.8	1.8	0.06	○61536(F-5/X1)
630	1392	A23	B34	細石刃	-	OB3	8.2	5.4	1	0.03	○61246(F-5/X1)
630	1393	A23	B34	細石刃	-	OB3	9.7	5.8	1.7	0.07	○61542(F-5/X1)
630	1394	A23	B34	細石刃	-	OB3	4.2	3.9	1	0.01	○61541(F-5/X1)
630	1395	A23	B34	細石刃	-	OB3	7.3	3.5	1.2	0.03	○61251(F-5/X1)
630	1396	A23	B34	細石刃	-	OB1	6.1	4.6	1.5	0.05	○61552(F-5/X1)
630	1397	A23	B34	細石刃	-	OB3	15.7	7.1	3.9	0.25	○61242(F-5/X1)
630	1398	A23	B34	細石刃	-	OB3	15.3	7.2	2.9	0.14	○61551(F-5/X1)
630	1399	A23	B34	削片	-	OB3	11.8	16.6	3.7	0.52	○61286(F-5/X1)

第131表 第Ⅲ文化層第23エリア出土石器観察表(4)

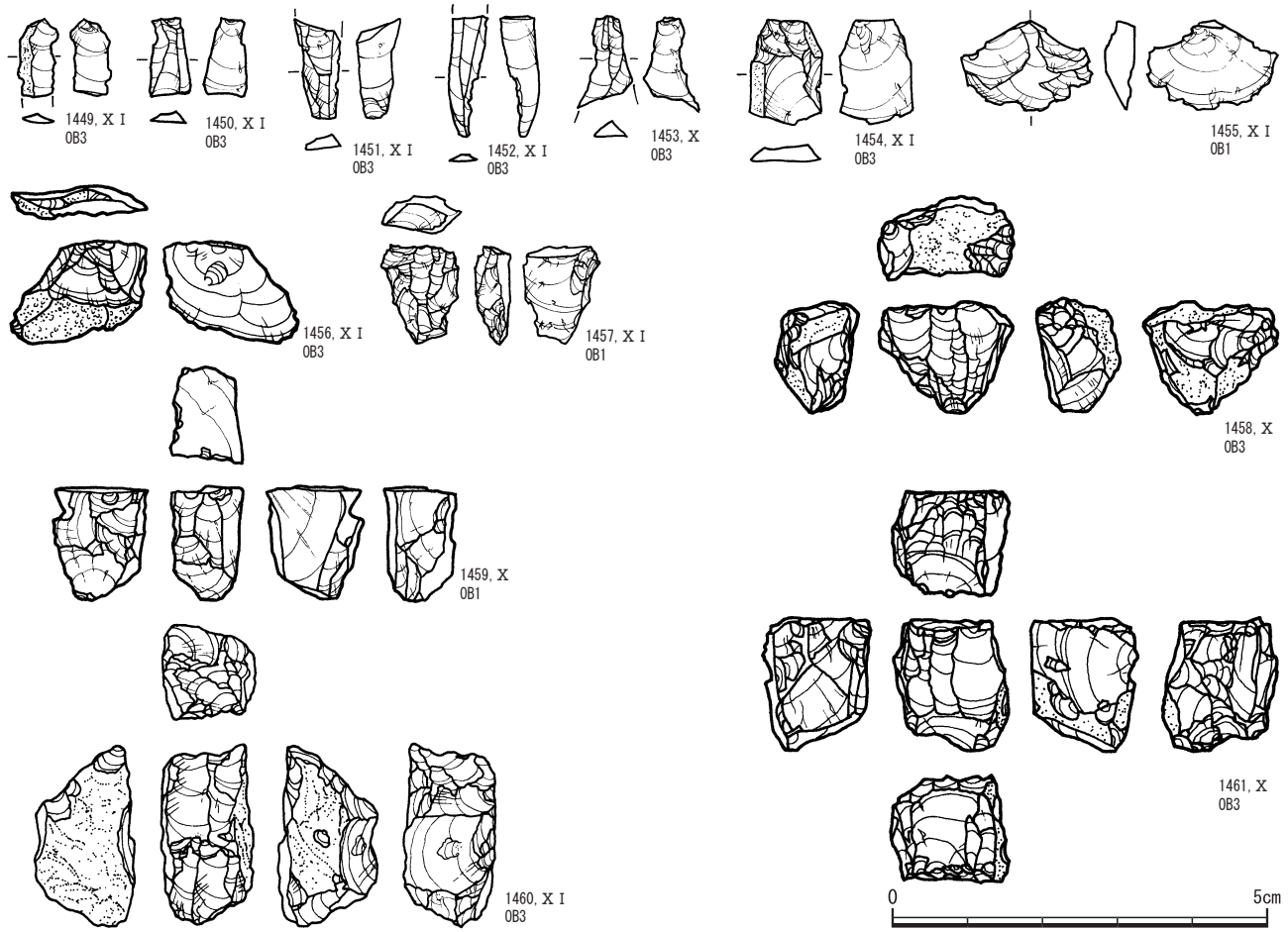
種別No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
630	1400	A23	B34	細石刃核	-	OB3	11.6	10.7	13.4	1.7	○61530(F-5/X1)
630	1401	A23	B34	細石刃核	-	OB3	12.1	12	10	1.3	○61531(F-5/X1)
630	1402	A23	B34	ブランク	-	OB3	17.8	11.2	15.1	2.7	○61249(F-5/X1)
632	1403	A23	B35	石鏃	-	CC	17.6	15.2	3.8	0.87	○62463(G-5/X1)
633	1404	A23	B36	チップ	-	OB3	9.1	6.6	1.8	0.08	○61505(G-5/X1)
633	1405	A23	B36	削片	-	OB1	9.2	14.1	3.4	0.41	○61232(G-5/X1)
633	1406	A23	B36	削片	-	CC	14.2	11.9	3	0.41	○61227(G-5/X1)
633	1407	A23	B36	作業面再生削片	-	OB1	10.6	19.8	1.6	0.64	○60983(G-5/X1)
633	1408	A23	B36	ブランク	-	OB3	14.3	13.9	14.6	3.2	○61496(G-5/X1)
633	1409	A23	B36	細石刃核	-	OB1	16.3	11.1	17.1	3.6	○62698(G-5/X1)
633	1410	A23	B36	ブランク	-	OB1	16.9	11.2	17.4	2.9	○60551(G-5/X1上)
633	1411	A23	B36	ブランク	-	OB1	17.4	13.9	10.4	3	○62554(G-5/X1)
633	1412	A23	B36	ブランク	-	OB1	13.4	16.1	19.6	4.3	○62462(G-5/X1)
633	1413	A23	B36	ブランク	-	OB1	22.1	14.6	29.7	7.2	○61223(G-5/X1)

- | | |
|-------------|-----------|
| ◦ 剥片類 | ● OB1 |
| ● 細石刃・調整剥片類 | ● OB2 |
| ■ 石核類 | ● OB3 |
| ▲ 剥片石器類 | ● OB4・OB5 |
| | ● OB6 |
| | ● OB7 |
| | ● AN |
| | ● CC |
| | ● CH |
| | ● CR |
| | ● KAN |
| | ● OP |
| | ● SA |
| | ● SH |
| | ● その他 |

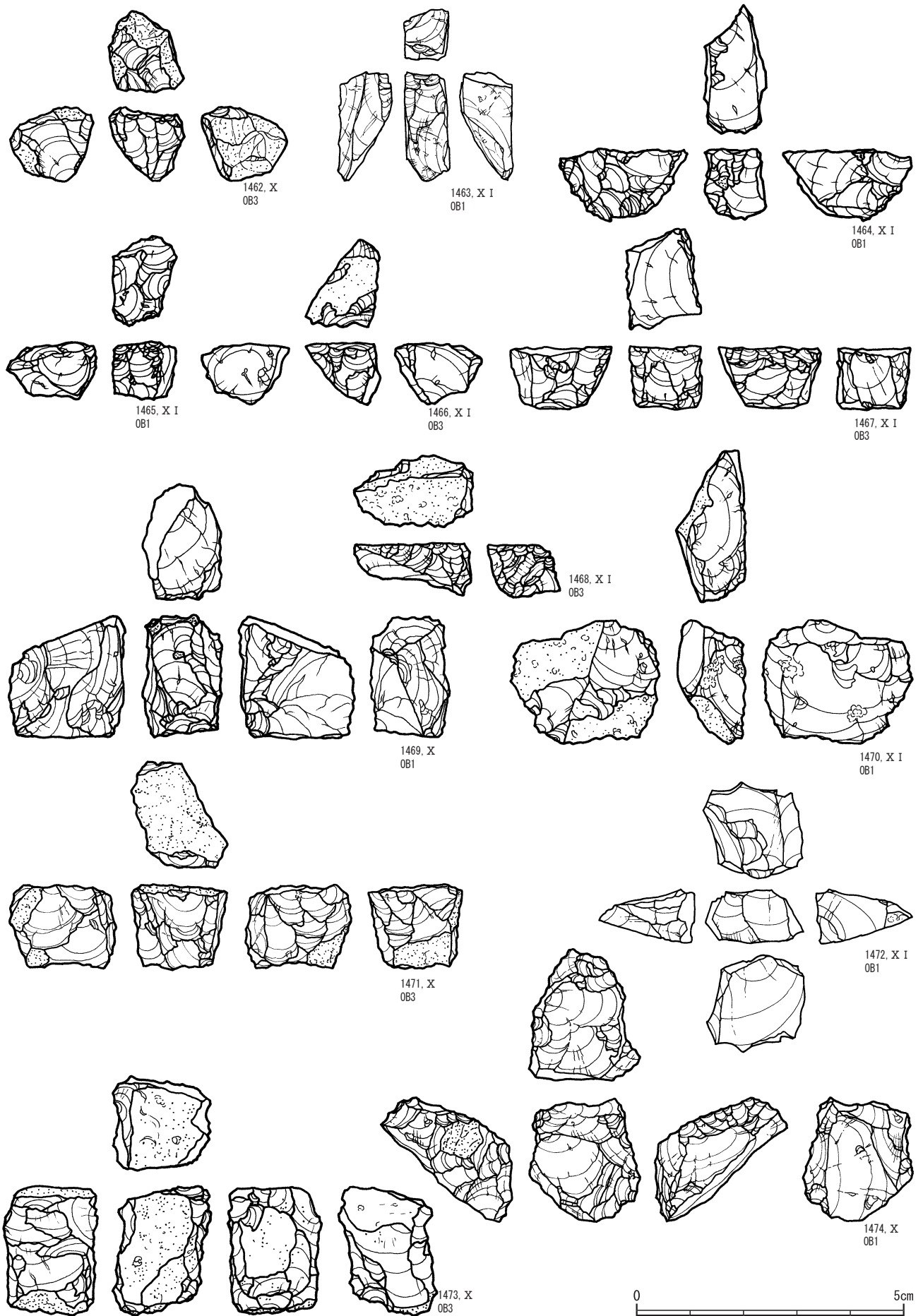
G-7 G-6
H-7 H-6



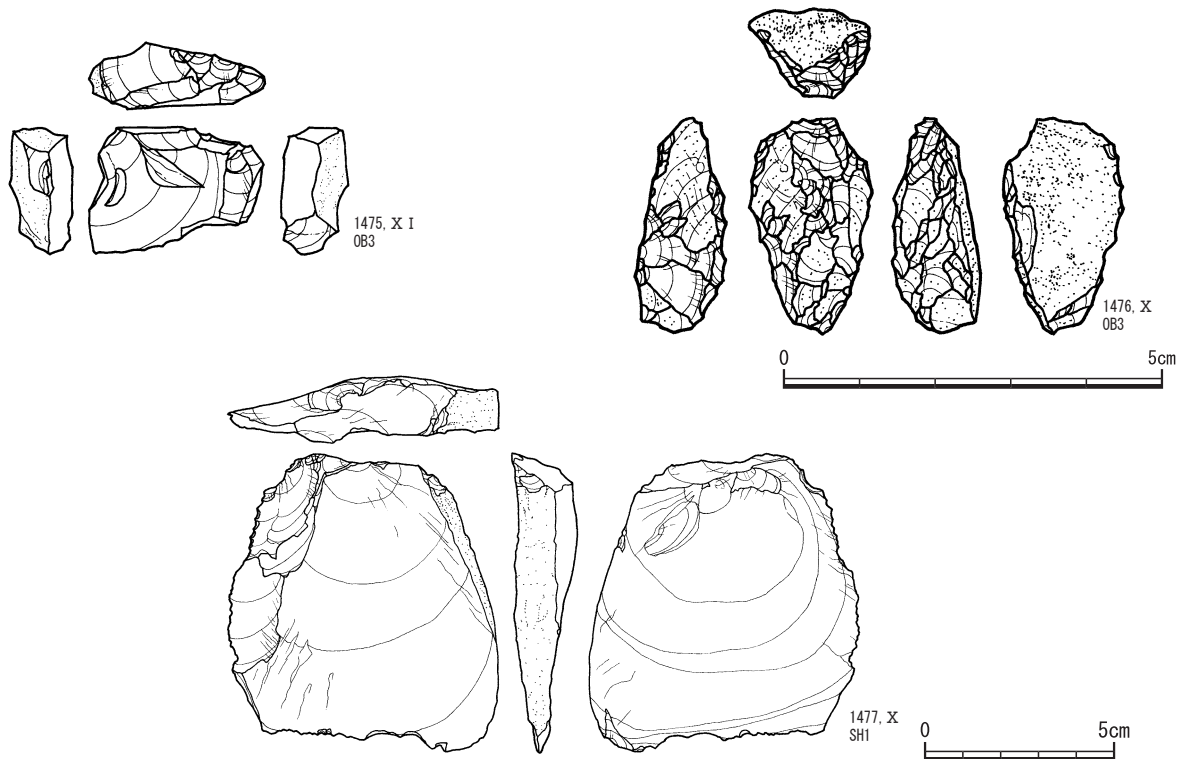
第638図 第三文化層第24エリア石器出土状況図(1)



第639図 第三文化層第24エリア第37ブロック出土石器実測図(1)



第640図 第Ⅲ文化層第24エリア第37ブロック出土石器実測図（2）



第641図 第三文化層第24エリア第37ブロック出土石器実測図(3)

第132表 第三文化層第23エリア出土石器観察表(5)

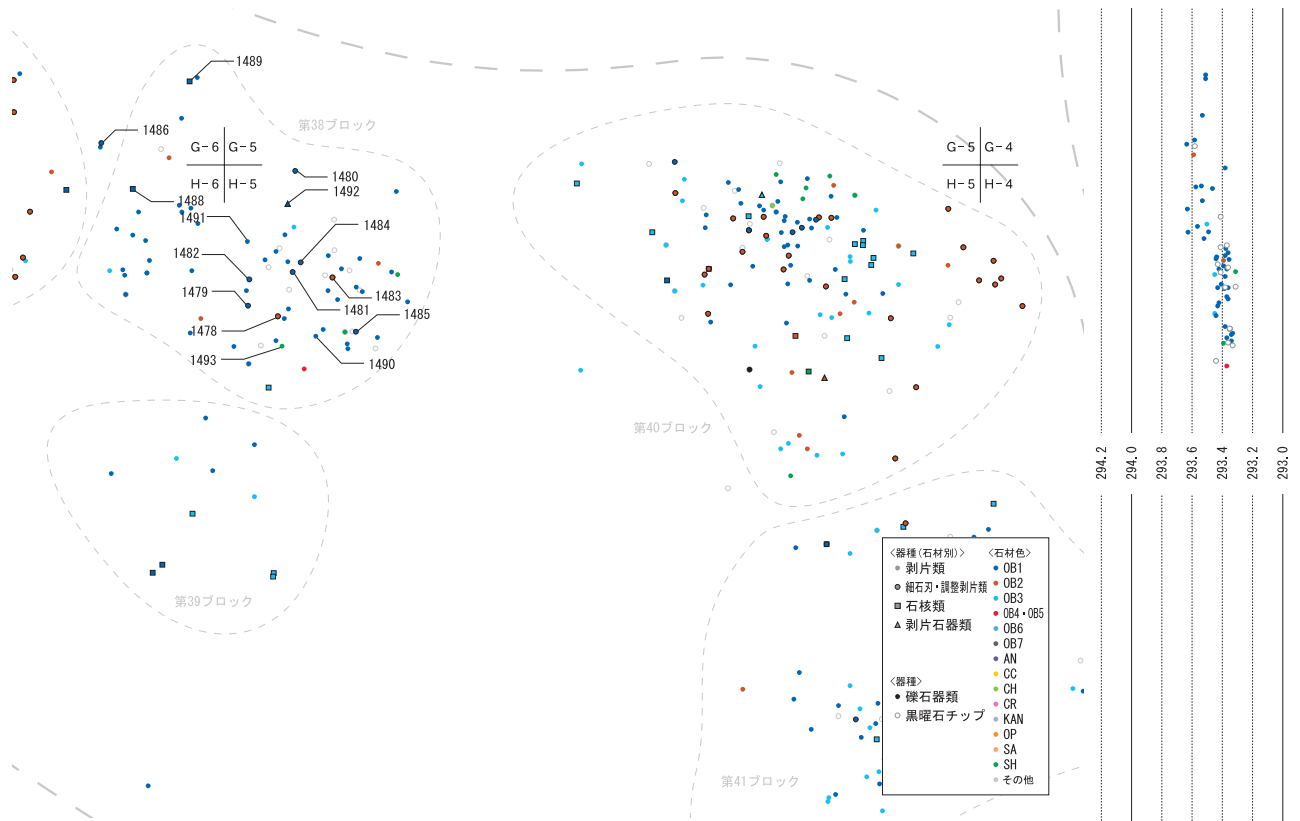
排図No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
635	1414	A23	B00	細石刃	-	OB3	10.7	5.6	2	0.06	○62836(F-6/X下)
635	1415	A23	B00	剥片	-	OB1	12.5	10.9	2.4	0.25	○61971(F-6/X)
635	1416	A23	B00	細石刃	-	OB3	16.5	8.4	4.3	0.51	○62839(F-6/X下)
635	1417	A23	B00	細石刃	-	OB3	9.9	8.3	2	0.12	○61976(F-6/X)
635	1418	A23	B00	剥片	-	OB3	16.2	9.6	9.2	0.4	○62490(G-6/X I)
635	1419	A23	B00	微細剥離成剥片	-	OB3	15.6	9.8	3.5	0.49	○61983(F-6/X)
635	1420	A23	B00	ブランク	-	OB3	12.9	14.1	18.8	3.1	○62047(F-6/X I)
635	1421	A23	B00	ブランク	-	OB3	19.4	9.7	18.4	2.9	○61680(G-6/X I)
635	1422	A23	B00	ブランク	-	OB3	15.5	9.4	9.5	2.8	○62547(G-5/X I)
636	1423	A23	B00	細石刃核	-	OB3	25.8	17.8	16.7	5.88	○61823(F-6/X下)
636	1424	A23	B00	ブランク	-	OB2	22.8	18.2	27.6	12	○62048(F-6/X I)
636	1425	A23	B00	ブランク	-	OB3	17.6	26	24.3	6.7	○62010(F-6/X I)
636	1426	A23	B00	石鏃	未製品	SH	27.1	20.3	7.9	3.7	○62484(G-5/X下)
636	1427	A23	B00	原礫	-	OB3	26.9	21	23.3	16	○62028(F-7/X I)
636	1428	A23	B00	石鏃	未製品	OB3	24	19.3	6.4	2.2	○61992(F-6/X)
636	1429	A23	B00	剥片	-	OB2	17.6	14.1	4.2	0.93	○61931(G-6/X)
636	1430	A23	B00	スポール	-	OB3	24.5	11.8	7.8	1.2	○61987(F-6/X)
636	1431	A23	B00	剥片	-	OB3	13.5	15.8	3.1	0.55	○62565(F-6/X I)
636	1432	A23	B00	剥片	-	OB3	13.5	17.2	4.3	0.81	○62005(F-6/X I)
636	1433	A23	B00	剥片	-	OB1	27	17.3	6.9	1.9	○62835(F-6/X下)
636	1434	A23	B00	調整剥片	-	OB3	23.4	12.1	8.2	1.6	○62008(F-6/X I)
636	1435	A23	B00	二次加工成剥片	-	CH	19.9	12.5	6	2.2	○61821(F-6/X下)
636	1436	A23	B00	挟入石器	-	OB2	27.1	17.8	8	3.4	○61958(F-6/X)
636	1437	A23	B00	剥片	-	OB3	20.9	15	5.7	1.3	○61822(F-6/X下)
636	1438	A23	B00	調整剥片	-	OB3	23.7	12.6	11.6	1.1	○62011(F-6/X I)
636	1439	A23	B00	石核	-	OB3	17.2	35.1	9	4.3	○61999(F-6/X)
637	1440	A23	B00	二次加工成剥片	-	OB1	25.1	13.1	6.6	1.5	○62834(F-6/X下)
637	1441	A23	B00	二次加工成剥片	-	OB1	21.6	36.4	9.6	6.1	○62493(G-6/X I)
637	1442	A23	B00	削器	-	OB2	46.3	34.3	14	20	○62478(G-6/X下)
637	1443	A23	B00	剥片	-	OB1	24.2	20.7	6.8	2	○61960(F-6/X)
637	1444	A23	B00	剥片	-	SH1	43.2	18.2	6.4	3.2	○61986(F-6/X)
637	1445	A23	B00	剥片	-	OB3	18.4	34.8	7.4	3.4	○61974(F-6/X)
637	1446	A23	B00	二次加工成剥片	-	OB3	21.4	14.9	8.8	2.2	○62007(F-6/X I)
637	1447	A23	B00	磨石	/敲	KAN	97.5	87.9	62.4	775	○61793(F-6/X下)
637	1448	A23	B00	石皿	-	SA	232.8	114	75.2	2100	○61932(G-6/X)

第133表 第三文化層第24エリア出土石器観察表(1)

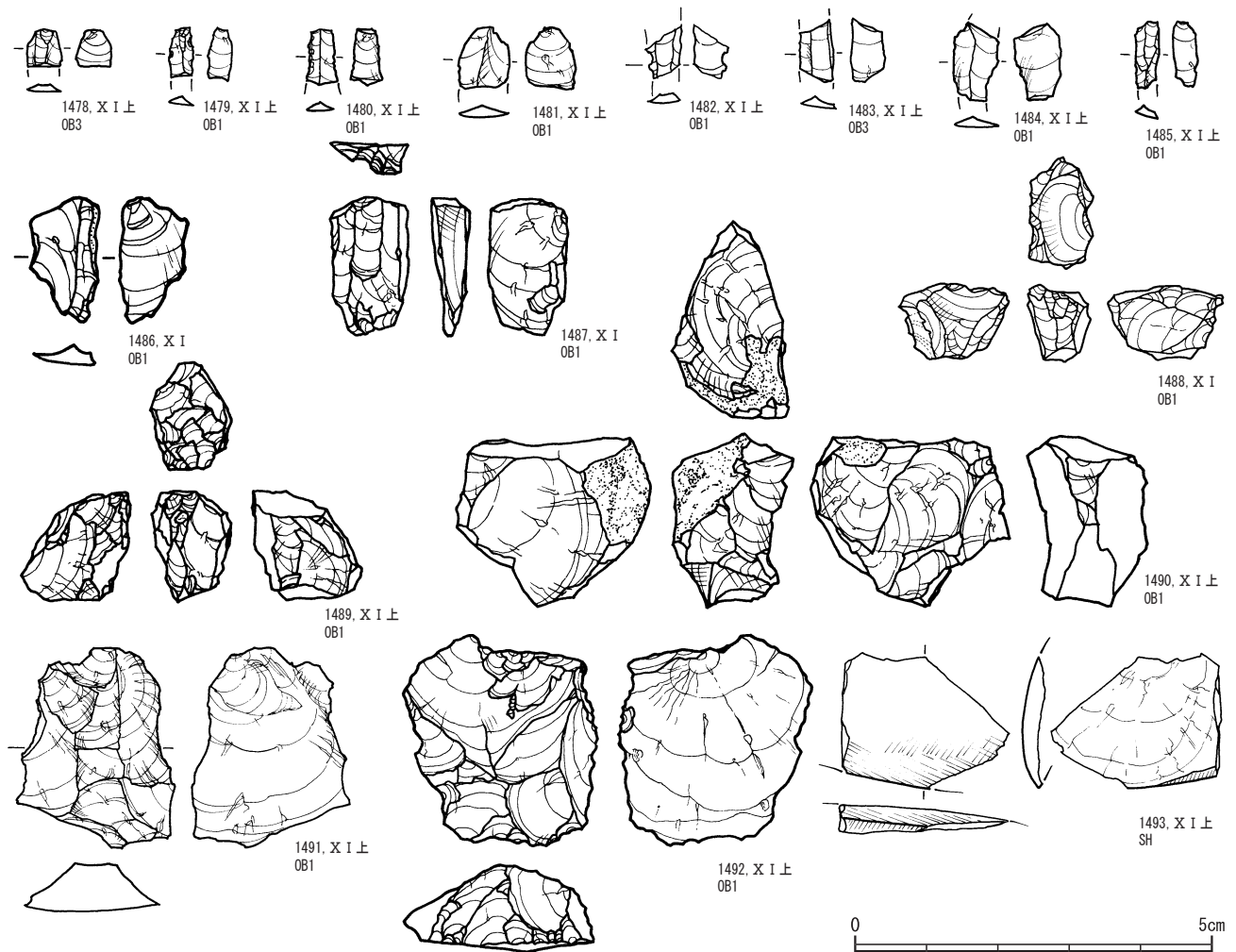
排図No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
639	1449	A24	B37	細石刃	-	OB3	10.4	5.7	1.6	0.07	○65389(H-6/X I)
639	1450	A24	B37	細石刃	-	OB3	10.8	6	2.1	0.12	○62519(H-6/X I)
639	1451	A24	B37	細石刃	-	OB3	13.5	6	2.3	0.15	○62532(H-6/X I)
639	1452	A24	B37	細石刃	-	OB3	16.3	5.5	2.2	0.09	○65370(H-6/X I)
639	1453	A24	B37	細石刃	-	OB3	12.8	7.7	4.8	0.16	○61919(G-6/X)
639	1454	A24	B37	剥片	-	OB3	14.1	10	2.7	0.29	○62531(G-6/X I)

第134表 第三文化層第24エリア出土石器観察表(2)

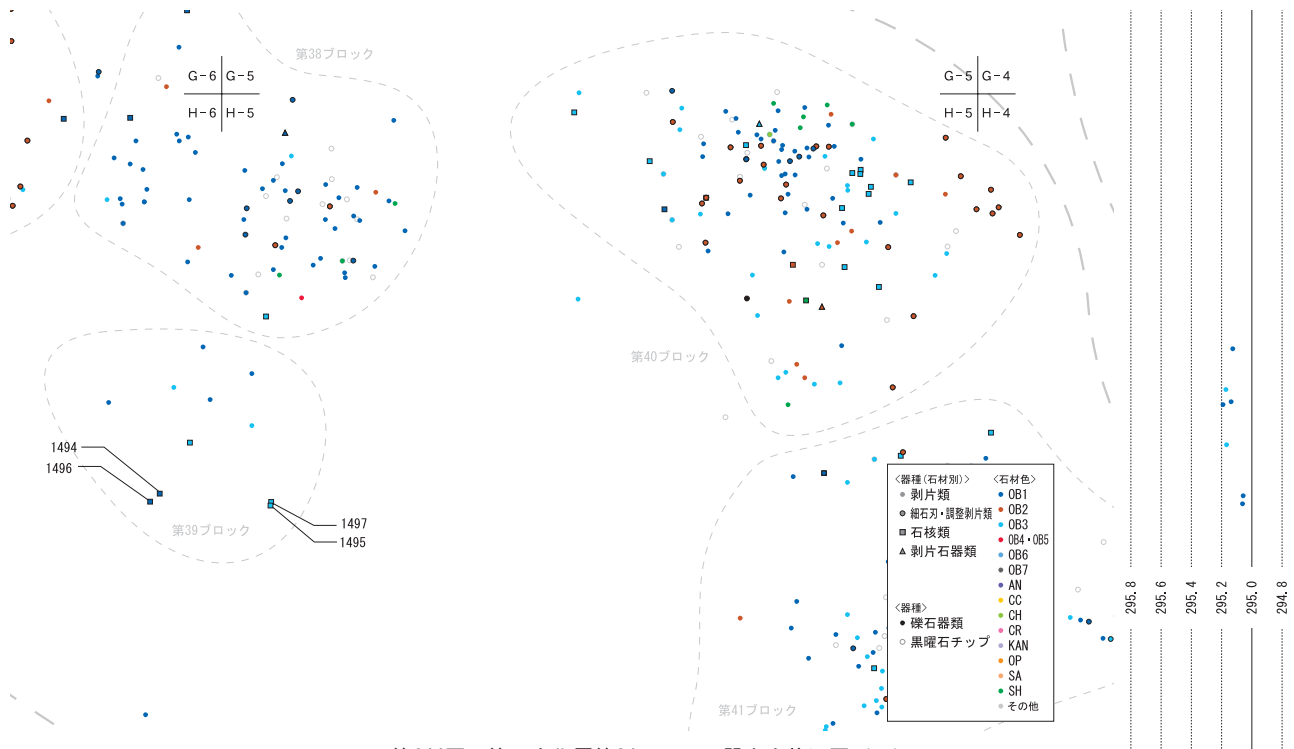
排図No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
639	1455	A24	B37	剥片	-	OB1	12.1	17.7	4	0.59	○62510(G-6/X I)
639	1456	A24	B37	剥片	-	OB3	14.2	18.5	3.5	0.63	○62520(H-6/X I)
639	1457	A24	B37	作業面再生剥片	-	OB1	13.2	10.4	10.1	0.65	○62516(G-6/X I)
639	1458	A24	B37	細石刃核	-	OB3	15.3	18.2	10.2	2.7	○61899(G-6/X)
639	1459	A24	B37	細石刃核	-	OB1	15.6	10	13.1	2.1	○61870(H-6/X)
639	1460	A24	B37	細石刃核	-	OB3	24.3	12.6	14.1	4.5	○65356(H-6/X I)
639	1461	A24	B37	細石刃核	-	OB3	17.9	15.8	14.8	4.9	○61907(G-6/X)
640	1462	A24	B37	細石刃核	-	OB3	14.2	14.5	14.7	2.4	○61901(G-6/X)
640	1463	A24	B37	細石刃核	-	OB1	20.7	8.7	11.1	1.8	○62527(G-6/X I)
640	1464	A24	B37	ブランク	-	OB1	13.7	11.9	24.2	3.4	○65358(H-6/X I)
640	1465	A24	B37	ブランク	-	OB1	11.3	12.3	17.7	2.3	○62521(G-6/X I)
640	1466	A24	B37	ブランク	-	OB3	12	14.4	17.7	1.5	○65359(H-6/X I)
640	1467	A24	B37	ブランク	-	OB3	12.3	14	19	3.9	○65361(H-6/X I)
640	1468	A24	B37	ブランク	-	OB3	10.2	22.2	15.7	2.9	○62511(G-6/X I)
640	1469	A24	B37	ブランク	-	OB1	23.3	15.4	21.4	8.2	○61877(G-6/X)
640	1470	A24	B37	剥片	-	OB1	23.6	13.1	27.4	7	○65366(H-6/X I)
640	1471	A24	B37	ブランク	-	OB3	16.4	18.2	23.5	5.4	○61906(G-6/X)
640	1472	A24	B37	ブランク	-	OB1	10.3	18.5	18.2	3.2	○62553(G-6/X I)
640	1473	A24	B37	ブランク	-	OB3	24.7	18.8	16	9.2	○61912(G-6/X)
640	1474	A24	B37	ブランク	-	OB1	23.4	21.1	23.6	8.9	○61854(H-6/X)
641	1475	A24	B37	ブランク	-	OB3	17	23.3	8.6	3.4	○65360(H-6/X I)
641	1476	A24	B37	ブランク	-	OB3	28.8	16.7	11.1	4.4	○61915(G-6/X)
641	1477	A24	B37	剥片	-	SH1	79.2	71.7	17.8	78	○61872(H-6/X)
643	1478	A24	B38	細石刃	-	OB3	5.4	5.3	1	0.05	○63360(H-5/X I上)
643	1479	A24	B38	細石刃	-	OB1	7.7	3.7	1.2	0.04	○63363(H-5/X I上)
643	1480	A24	B38	細石刃	-	OB1	8.2	4.7	1.5	0.06	○63345(H-5/X I上)
643	1481	A24	B38	細石刃	-	OB1	8.9	7.3	1.5	0.1	○63356(H-5/X I上)
643	1482	A24	B38	細石刃	-	OB1	7.7	5.1	1.8	0.02	○63361(H-5/X I上)
643	1483	A24	B38	細石刃	-	OB3	9.1	5.1	1.2	0.07	○63389(H-5/X I上)
643	1484	A24	B38	細石刃	-	OB1	11.1	6.9	1.4	0.09	○63355(H-5/X I上)
643	1485	A24	B38	細石刃	-	OB1	9.3	3.7	2	0.06	○63377(H-5/X I上)
643	1486	A24	B38	作業面再生剥片	-	OB1	17.9	10	1.9	0.31	○62538(G-6/X I)
643	1487	A24	B38	作業面再生剥片	-	OB1	19.7	11.4	6	1.1	○62533(H-6/X I)
643	1488	A24	B38	細石刃核	-	OB1	11.1	9.1	15	1.6	○62537(H-6/X I)
643	1489	A24	B38	細石刃核	-	OB1	15.9	11.5	11.8	2.4	○63403(G-6/X I上)
643	1490	A24	B38	ブランク	-	OB1	24.8	17.3	26	9.5	○63373(H-5/X I上)
643	1491	A24	B38	剥片	-	OB1	28.3	22.3	7	3.6	○63349(H-5/X I上)
643	1492	A24	B38	搔器	-	OB1	29.8	27.5	12	7.9	○63346(H-5/X I上)
643	1493	A24	B38	剥片	研磨	SH	19.1	24	4	1.3	○63366(H-5/X I上)
645	1494	A24	B39	細石刃核	-	OB1	17.4	13.9	18	2.8	○65389(H-6/X I)
645	1495	A24	B39	細石刃核	-	OB3	20.8	14.4	9.8	2.4	○63372(H-5/X I上)
645	1496	A24	B39	細石刃核	-	OB1	20	14.5	23	5.7	○65390(H-6/X I)
645	1497	A24	B39	細石刃核	-	OB3	22.6	10.5	13	3.1	○63371(H-5/X I上)



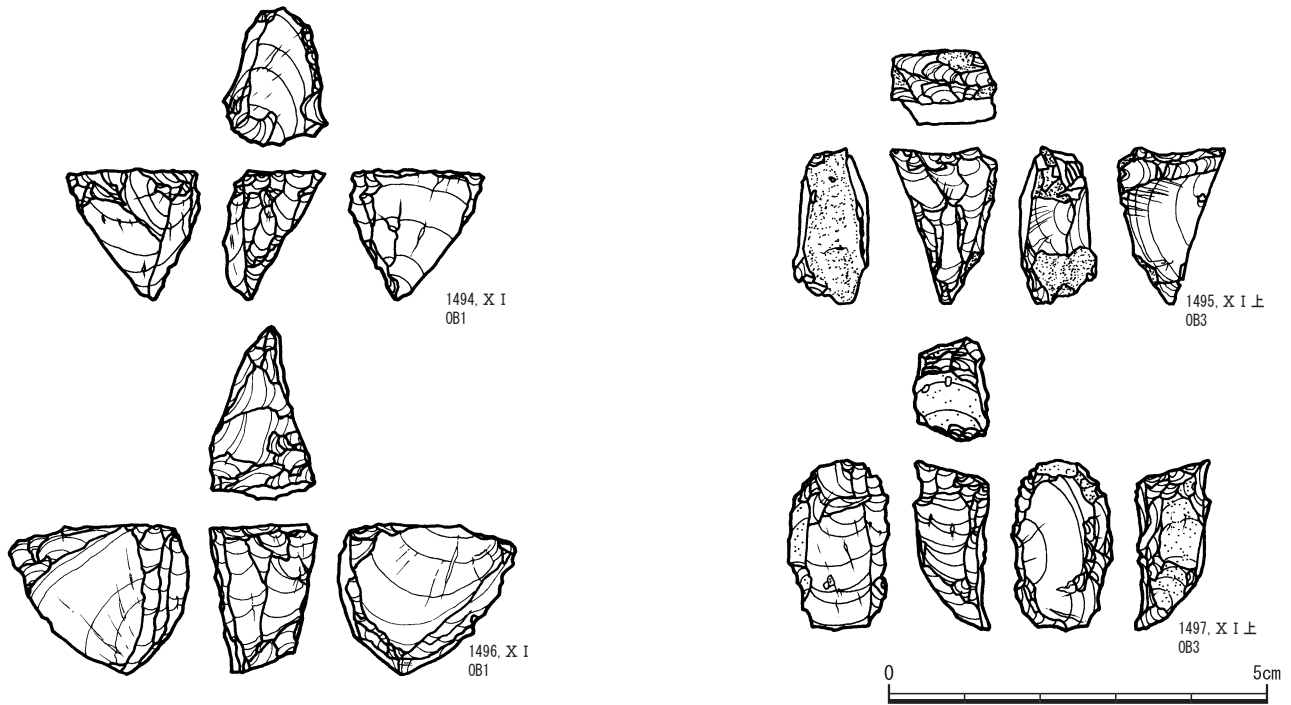
第642図 第三文化層第24エリア石器出土状況図(2)



第643図 第三文化層第24エリア第38ブロック出土石器実測図



第644図 第三文化層第24エリア石器出土状況図(3)



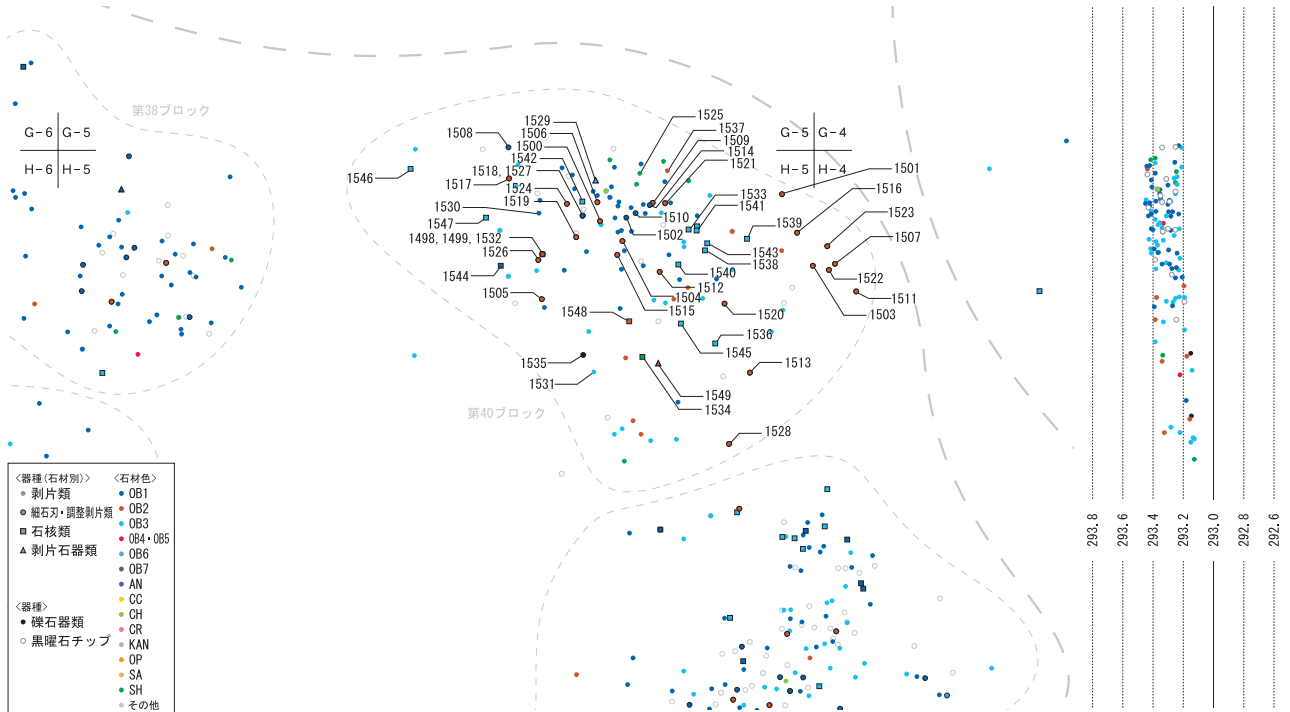
第645図 第三文化層第24エリア第39ブロック出土石器実測図

第135表 第三文化層第24エリア出土石器観察表(3)

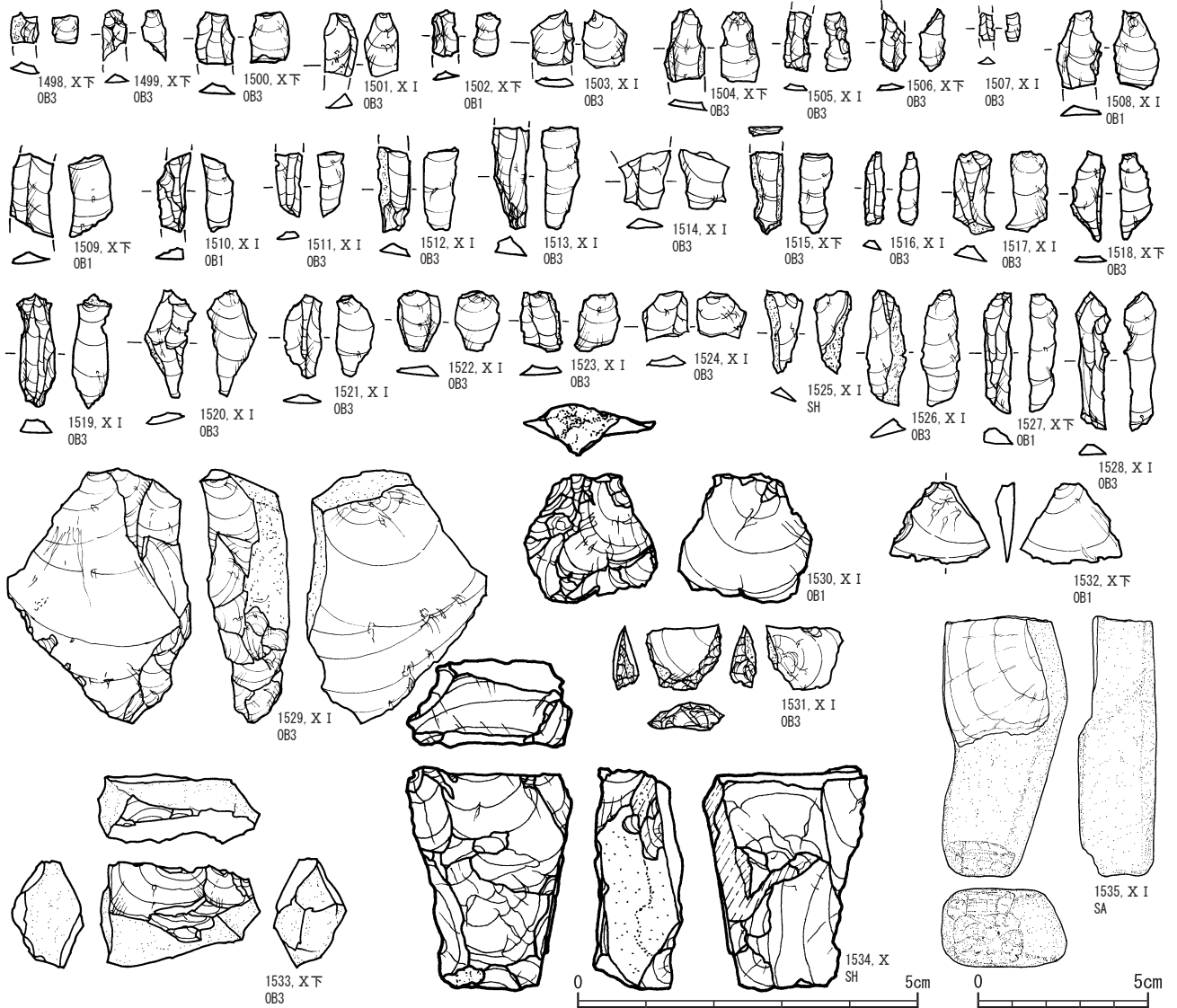
種目No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
647	1498	A24	B40	細石刃	-	OB3	4.3	4	1.5	0.03	○63110(H-5/X下)
647	1499	A24	B40	細石刃	-	OB3	7.7	3.8	0.8	0.03	○63110(H-5/X下)
647	1500	A24	B40	細石刃	-	OB3	7.7	6.1	1.6	0.07	○63124(H-5/X下)
647	1501	A24	B40	細石刃	-	OB3	9.5	5.1	2.2	0.08	○62755(H-5/X上)
647	1502	A24	B40	細石刃	-	OB1	6.6	4.1	2.1	0.05	○63094(H-5/X下)
647	1503	A24	B40	細石刃	-	OB3	8.7	6.7	0.9	0.06	○62757(H-5/X上)
647	1504	A24	B40	細石刃	-	OB3	10.5	5.9	1.8	0.1	○63098(H-5/X下)
647	1505	A24	B40	細石刃	-	OB3	8.9	4.1	1.2	0.06	○63405(H-5/X上)
647	1506	A24	B40	細石刃	-	OB3	9.3	4	1.1	0.03	○63125(H-5/X下)
647	1507	A24	B40	細石刃	-	OB3	4.4	2.3	1	0.02	○62759(H-4/X上)
647	1508	A24	B40	細石刃	-	OB1	11.7	6.8	1.5	0.08	○63146(G-5/X上)
647	1509	A24	B40	細石刃	-	OB1	12.3	6.6	2	0.13	○63091(H-5/X下)

第136表 第三文化層第24エリア出土石器観察表(4)

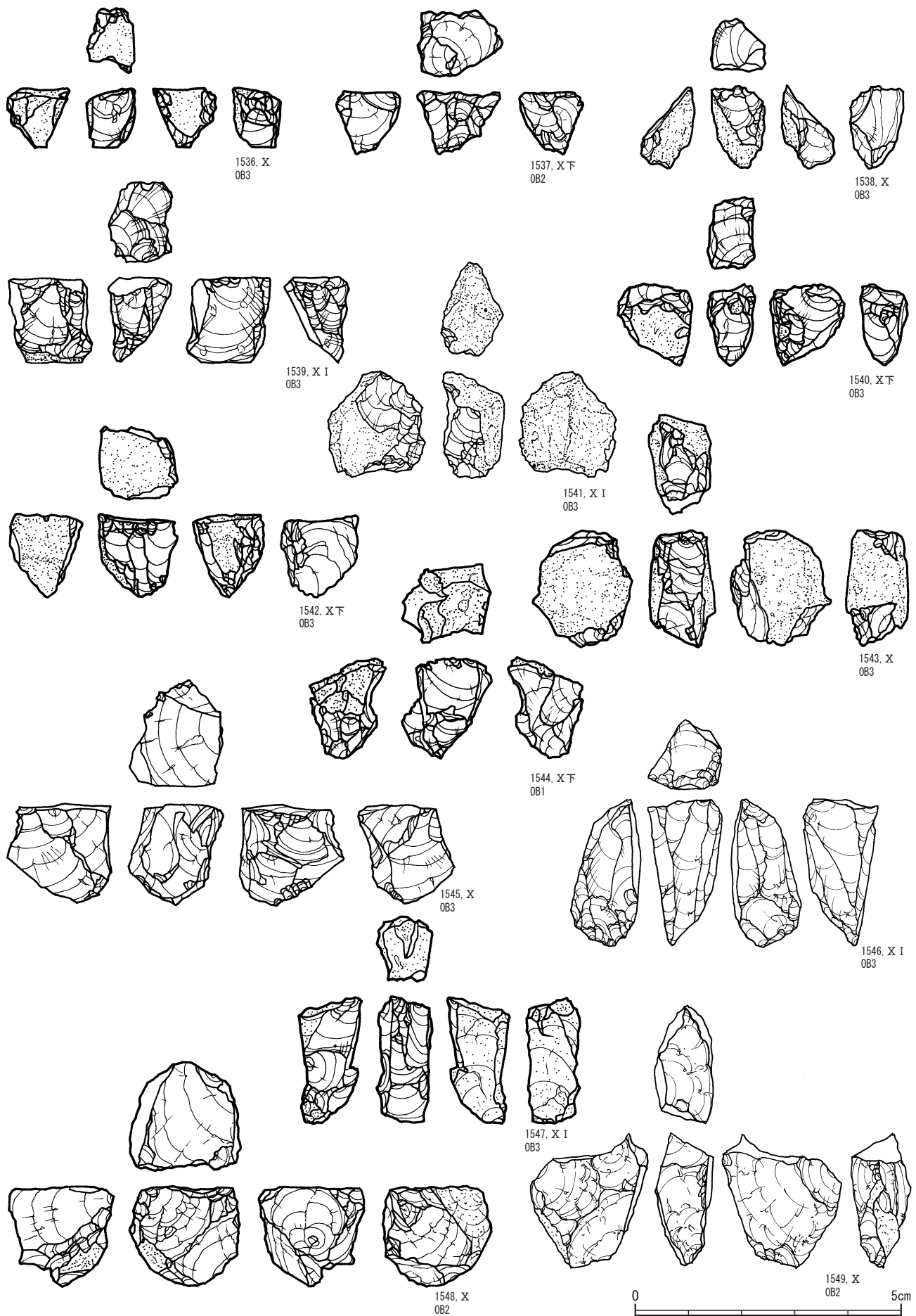
種目No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
647	1510	A24	B40	細石刃	-	OB1	11.7	4.8	1.8	0.09	○63424(H-5/X上)
647	1511	A24	B40	細石刃	-	OB3	9.8	4.1	1	0.03	○62761(H-4/X上)
647	1512	A24	B40	細石刃	-	OB3	12.4	5.3	2.5	0.14	○63419(H-5/X上)
647	1513	A24	B40	細石刃	-	OB3	15.4	5.8	1	0.25	○62751(H-5/X上)
647	1514	A24	B40	細石刃	-	OB3	9	7.6	2	0.06	○73523(H-5/X上)
647	1515	A24	B40	細石刃	-	OB3	12	5.2	1.5	0.1	○63097(H-5/X下)
647	1516	A24	B40	細石刃	-	OB3	10.9	3.3	1	0.04	○62756(H-5/X上)
647	1517	A24	B40	細石刃	-	OB3	12.1	6.3	2	0.12	○63148(H-5/X上)
647	1518	A24	B40	細石刃	-	OB3	13	5	1	0.08	○63121(H-5/X下)
647	1519	A24	B40	細石刃	-	OB3	17	6	3.2	0.23	○63422(H-5/X上)
647	1520	A24	B40	細石刃	-	OB3	15.8	7.4	2	0.16	○63067(H-5/X上)
647	1521	A24	B40	細石刃	-	OB3	12.2	5.8	1	0.08	○63412(H-5/X上)



第646図 第Ⅲ文化層第24エリア石器出土状況図(4)

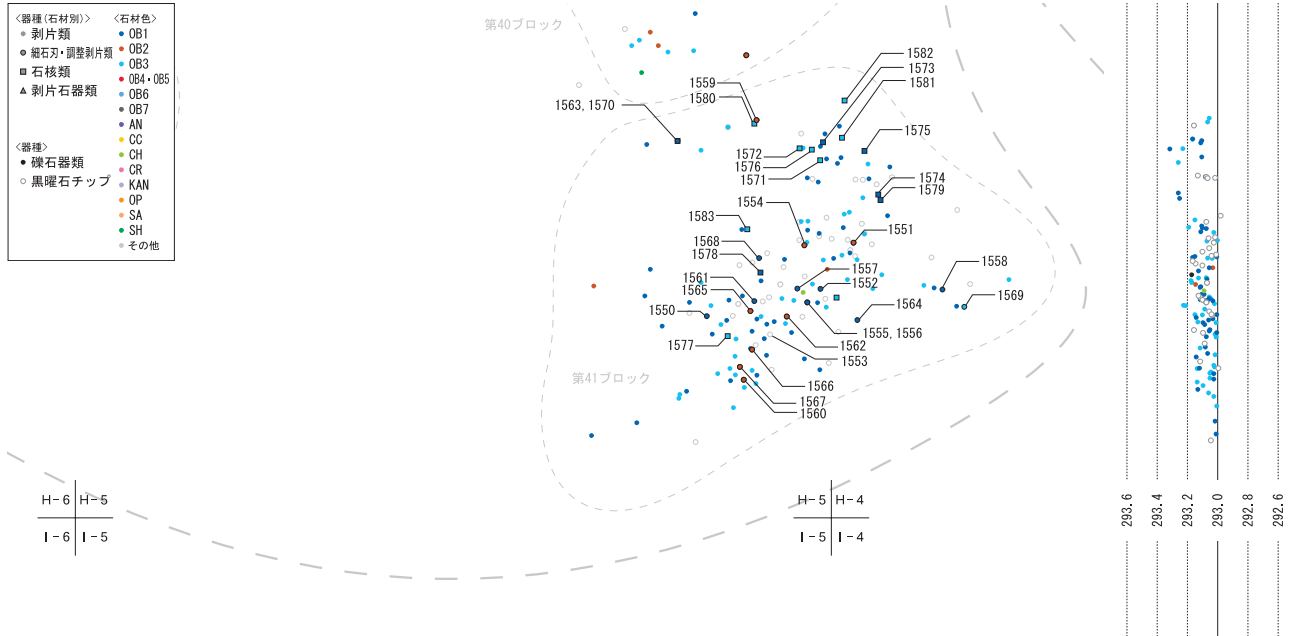


第647図 第Ⅲ文化層第24エリア第40ブロック出土石器実測図(1)

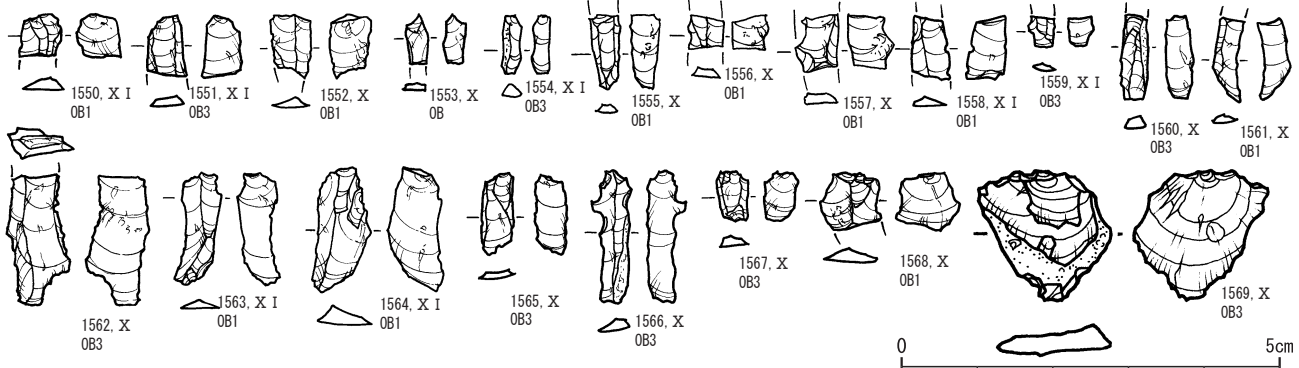


第648図 第三文化層第24エリア第40ブロック出土石器実測図(2)

- <器種(石材別)>
- 剥片類
 - 細石刃・調整剥片類
 - 石核類
 - ▲ 剥片石器類
- <器種>
- 礫石器類
 - 黒曜石チップ
- <石材色>
- OB1
 - OB2
 - OB3
 - OB4・OB5
 - OB6
 - OB7
 - AN
 - CC
 - CH
 - CR
 - KAN
 - OP
 - SA
 - SH
 - その他



第649図 第三文化層第24エリア石器出土状況図(5)



第650図 第三文化層第24エリア第41ブロック出土石器実測図(1)

第137表 第三文化層第24エリア出土石器観察表(5)

排図No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
647	1522	A24	B40	細石刃	-	OB3	9.1	6.7	1.3	0.07	○62758(H-4/X1)
647	1523	A24	B40	細石刃	-	OB3	8.8	6.8	1	0.08	○62760(H-4/X1)
647	1524	A24	B40	細石刃	-	OB3	7	7.4	1.6	0.05	○73344(H-5/X1)
647	1525	A24	B40	細石刃	-	SH	12.4	5.6	1.9	0.07	○63138(H-5/X1)
647	1526	A24	B40	細石刃	-	OB3	17.4	5.9	2	0.15	○63406(H-5/X1)
647	1527	A24	B40	細石刃	-	OB1	17.6	4.5	3	0.2	○63121(H-5/X下)
647	1528	A24	B40	細石刃	-	OB3	20.7	4.9	1.5	0.11	○63027(H-5/X1)
647	1529	A24	B40	剥片	-	OB3	37.4	26.8	12	9.4	○63131(H-5/X1)
647	1530	A24	B40	剥片	-	OB1	19.2	19.9	6.9	1.5	○63115(H-5/X1)
647	1531	A24	B40	台形石器	-	OB3	9.6	11.5	3.9	0.32	○63057(H-5/X1)
647	1532	A24	B40	剥片	-	OB1	12.1	15.2	3.1	0.35	○63110(H-5/X下)
647	1533	A24	B40	石核	-	OB3	15.6	23.7	9	3.5	○63084(H-5/X下)
647	1534	A24	B40	石核	-	SH	33.3	24.7	13	13	○63061(H-5/X)
647	1535	A24	B40	敲石	排状剥片	SA	76.9	36.9	22	98	○63058(H-5/X1)
648	1536	A24	B40	細石刃核	-	OB3	11.5	9.6	13	1.3	○63065(H-5/X)
648	1537	A24	B40	ブランク	-	OB2	12.2	15.9	12	1.6	○63141(H-5/X下)
648	1538	A24	B40	細石刃核	-	OB3	15.7	10.4	10.5	1.2	○63077(H-5/X)
648	1539	A24	B40	細石刃核	-	OB3	16.2	12.3	14.5	2.5	○62754(H-5/X1)
648	1540	A24	B40	細石刃核	-	OB3	15.7	9.4	13	2	○63081(H-5/X下)
648	1541	A24	B40	ブランク	-	OB3	20.2	11.9	20	3.8	○63416(H-5/X1)
648	1542	A24	B40	細石刃核	-	OB3	16	15.3	13	2.9	○63123(H-5/X下)
648	1543	A24	B40	細石刃核	-	OB3	22.3	12.7	17.9	0.92	○63078(H-5/X)
648	1544	A24	B40	細石刃核	-	OB1	19.3	17.2	14	3.2	○63112(H-5/X下)
648	1545	A24	B40	ブランク	-	OB3	19.3	18.2	20	5.5	○63070(H-5/X)
648	1546	A24	B40	細石刃核	-	OB3	27.6	14.4	12.5	4.5	○63152(H-5/X1)
648	1547	A24	B40	細石刃核	-	OB3	24	10.9	11	3	○63114(H-5/X1)
648	1548	A24	B40	ブランク	-	OB2	19.1	21.1	20.1	7.9	○63104(H-5/X)
648	1549	A24	B40	ブランク	-	OB2	25.5	11.7	21.9	5.1	○63062(H-5/X)
650	1550	A24	B41	細石刃	-	OB1	6	6.1	1.9	0.06	○62989(H-5/X1)
650	1551	A24	B41	細石刃	-	OB3	8.4	5.6	1.3	0.07	○63036(H-4/X1)
650	1552	A24	B41	細石刃	-	OB1	8.7	5.7	2	0.06	○62934(H-5/X)

第138表 第三文化層第24エリア出土石器観察表(6)

排図No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
650	1553	A24	B41	チップ	-	OB	6.7	3.3	1.1	0.03	○62955(H-5/X)
650	1554	A24	B41	細石刃	-	OB3	7.9	2.7	2.1	0.02	○73174(H-5/X1)
650	1555	A24	B41	細石刃	-	OB1	10	4.1	0.9	0.04	○75429(H-5/X)
650	1556	A24	B41	細石刃	-	OB1	4.9	5	1.2	0.03	○75430(H-5/X)
650	1557	A24	B41	細石刃	-	OB1	7.4	6.3	1.9	0.08	○62938(H-5/X)
650	1558	A24	B41	細石刃	-	OB1	8.7	5.6	1.4	0.06	○62792(H-4/X1)
650	1559	A24	B41	細石刃	-	OB3	4.2	3.7	1.1	0.05	○63026(H-5/X1)
650	1560	A24	B41	細石刃	-	OB3	11.2	4	2.7	0.1	○62965(H-5/X)
650	1561	A24	B41	細石刃	-	OB1	11	4.6	1.7	0.05	○62950(H-5/X)
650	1562	A24	B41	細石刃	-	OB3	17.4	8.7	3.2	0.27	○62945(H-5/X)
650	1563	A24	B41	細石刃	-	OB1	15.1	5.9	2.2	0.15	○63045(H-5/X1)
650	1564	A24	B41	細石刃	-	OB1	16.6	7.6	3	0.34	○62769(H-4/X1)
650	1565	A24	B41	細石刃	-	OB3	10.7	4.6	1.5	0.06	○62952(H-5/X)
650	1566	A24	B41	細石刃	-	OB3	17.6	5.5	3	0.16	○62960(H-5/X)
650	1567	A24	B41	細石刃	-	OB3	6.7	4.8	1.8	0.05	○62971(H-5/X)
650	1568	A24	B41	細石刃	-	OB1	7.9	8.7	2.2	0.12	○63004(H-5/X)
650	1569	A24	B41	調整剥片	-	OB3	17.5	18.1	4.2	0.93	○62647(H-4/X)
651	1570	A24	B41	細石刃核	-	OB3	13.2	10	10.5	1.3	○63045(H-5/X1)
651	1571	A24	B41	細石刃核	-	OB3	12.9	11.4	12.1	1.4	○62739(H-5/X1)
651	1572	A24	B41	細石刃核	-	OB3	13.5	11.5	11.9	1.9	○62740(H-5/X1)
651	1573	A24	B41	細石刃核	-	OB1	14.1	14	12.6	2.8	○63023(H-5/X1)
651	1574	A24	B41	細石刃核	-	OB1	18.3	11.3	11	3	○62843(H-4/X)
651	1575	A24	B41	細石刃核	-	OB1	16.6	13.4	13.1	2.6	○62641(H-4/X)
651	1576	A24	B41	細石刃核	-	OB3	13.4	11.7	18.8	2.5	○62741(H-5/X1)
651	1577	A24	B41	細石刃核	-	OB3	20.9	11.8	10.6	2.5	○62970(H-5/X)
651	1578	A24	B41	細石刃核	-	OB1	19.1	14	16.6	5	○63003(H-5/X)
651	1579	A24	B41	ブランク	-	OB1	21.5	12.5	21.5	6.1	○62644(H-4/X)
651	1580	A24	B41	細石刃核	-	OB3	23.5	14.2	15.7	4.9	○63025(H-5/X1)
651	1581	A24	B41	細石刃核	-	OB3	15.8	17.1	12.5	3.7	○62745(H-4/X1)
651	1582	A24	B41	細石刃核	-	OB3	19.6	16.1	13.2	3.3	○62747(H-4/X下)
651	1583	A24	B41	細石刃核	-	OB3	18.3	15.1	15.6	3.6	○63005(H-5/X)



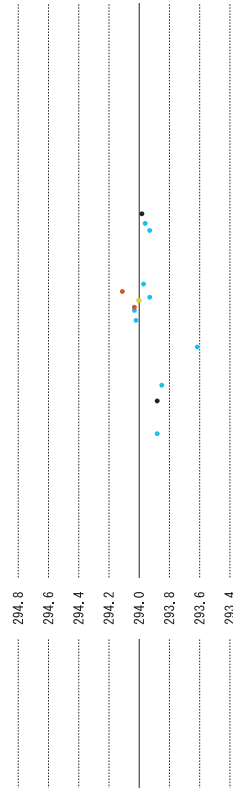
第651図 第三文化層第24エリア第41ブロック出土石器実測図(2)

F-5 | F-4
G-5 | G-4

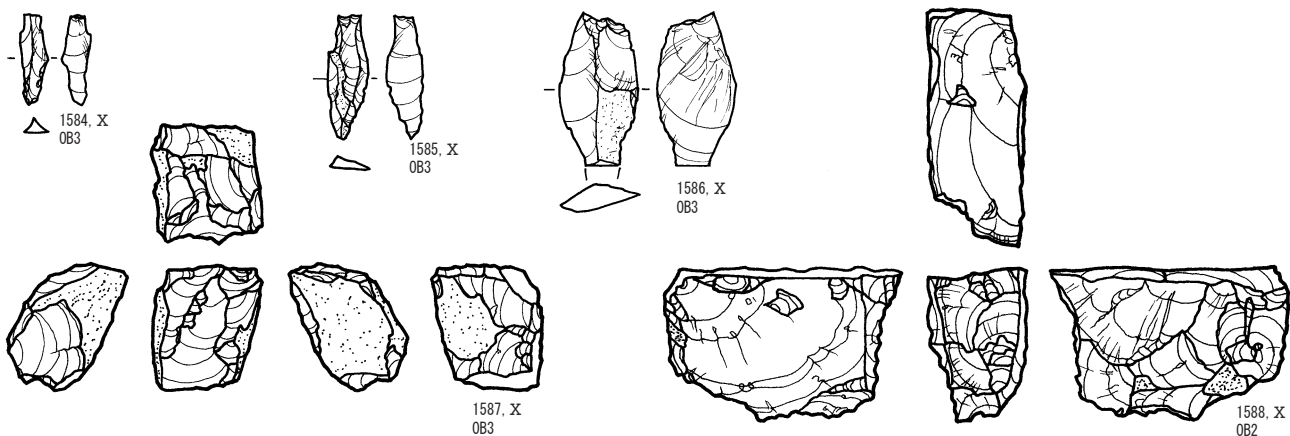
F-4 | F-3
G-4 | G-3

- | | | | |
|-------------|-----------|-------|-------|
| 〈器種(石材別)〉 | | 〈石材色〉 | |
| ● 剥片類 | ● OB1 | ● OB2 | ● OB3 |
| ● 楕石刃・調整剥片類 | ● OB4・OB5 | ● OB6 | ● OB7 |
| ■ 石核類 | ● AN | ● CC | ● CH |
| ▲ 剥片石器類 | ● CR | ● OP | ● SA |
| | ● SH | ● その他 | |
| 〈器種〉 | | | |
| ● 礫石器類 | ● KAN | | |
| ○ 黒曜石チップ | | | |

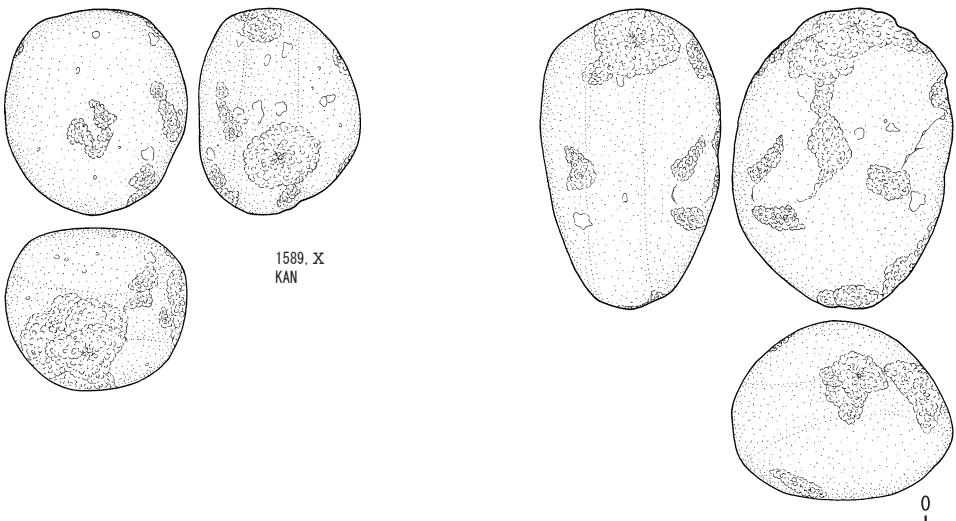
第42ブロック



第652図 第Ⅲ文化層第25エリア石器出土状況図(1)

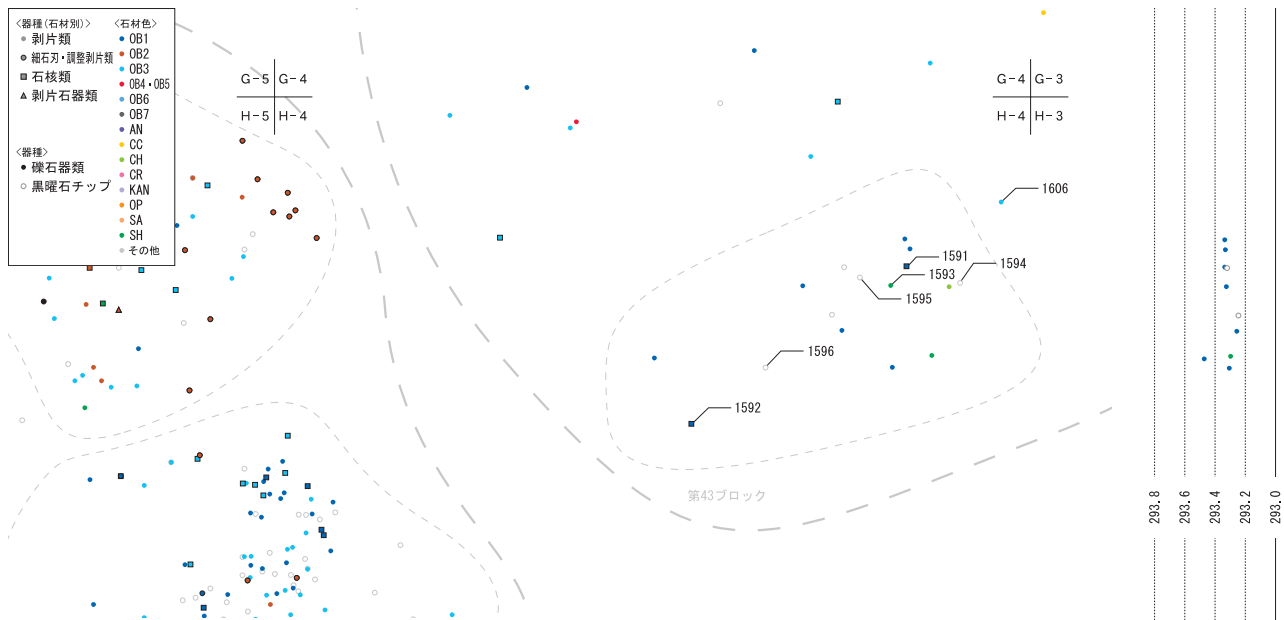


0 5cm

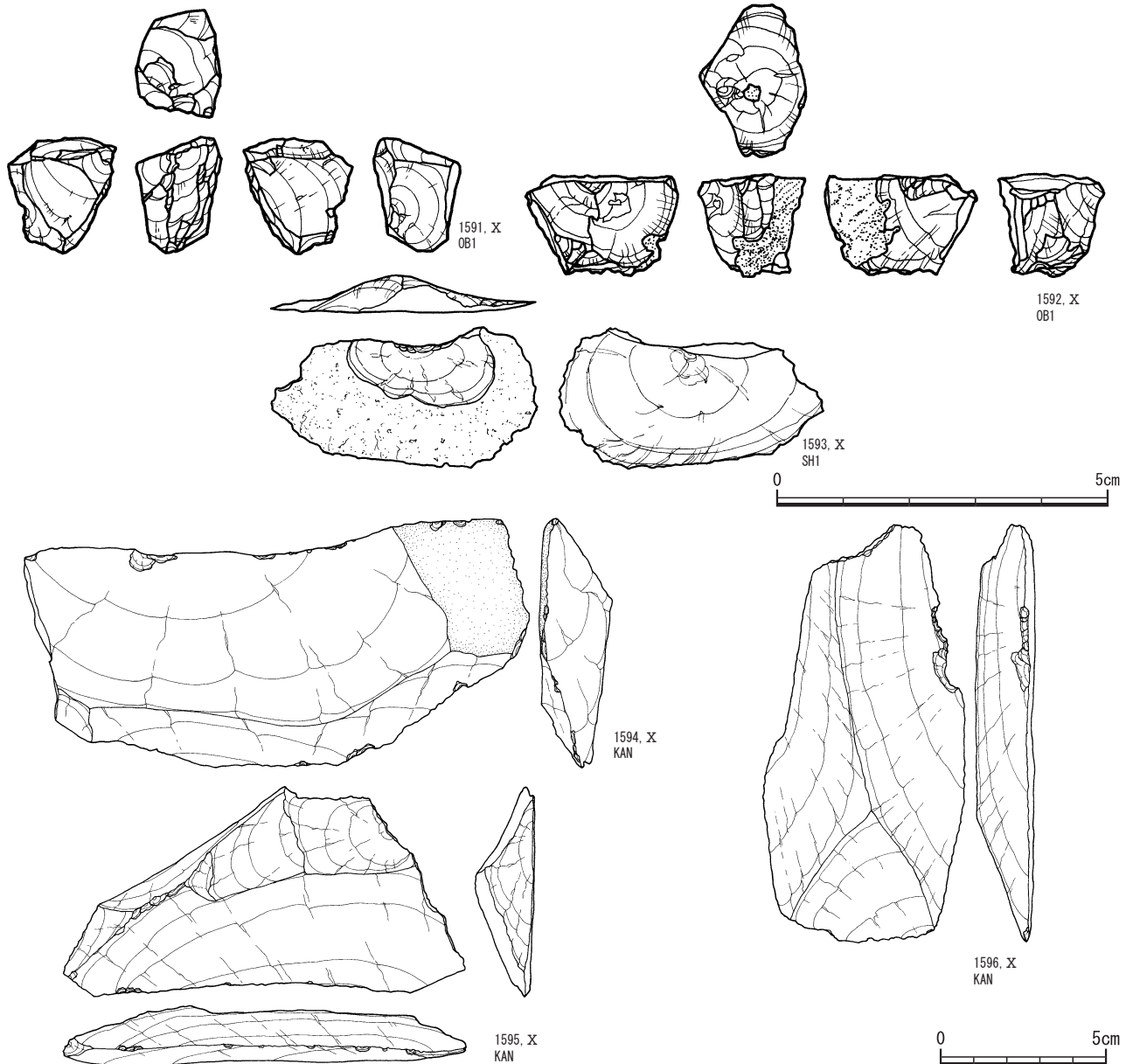


0 5cm

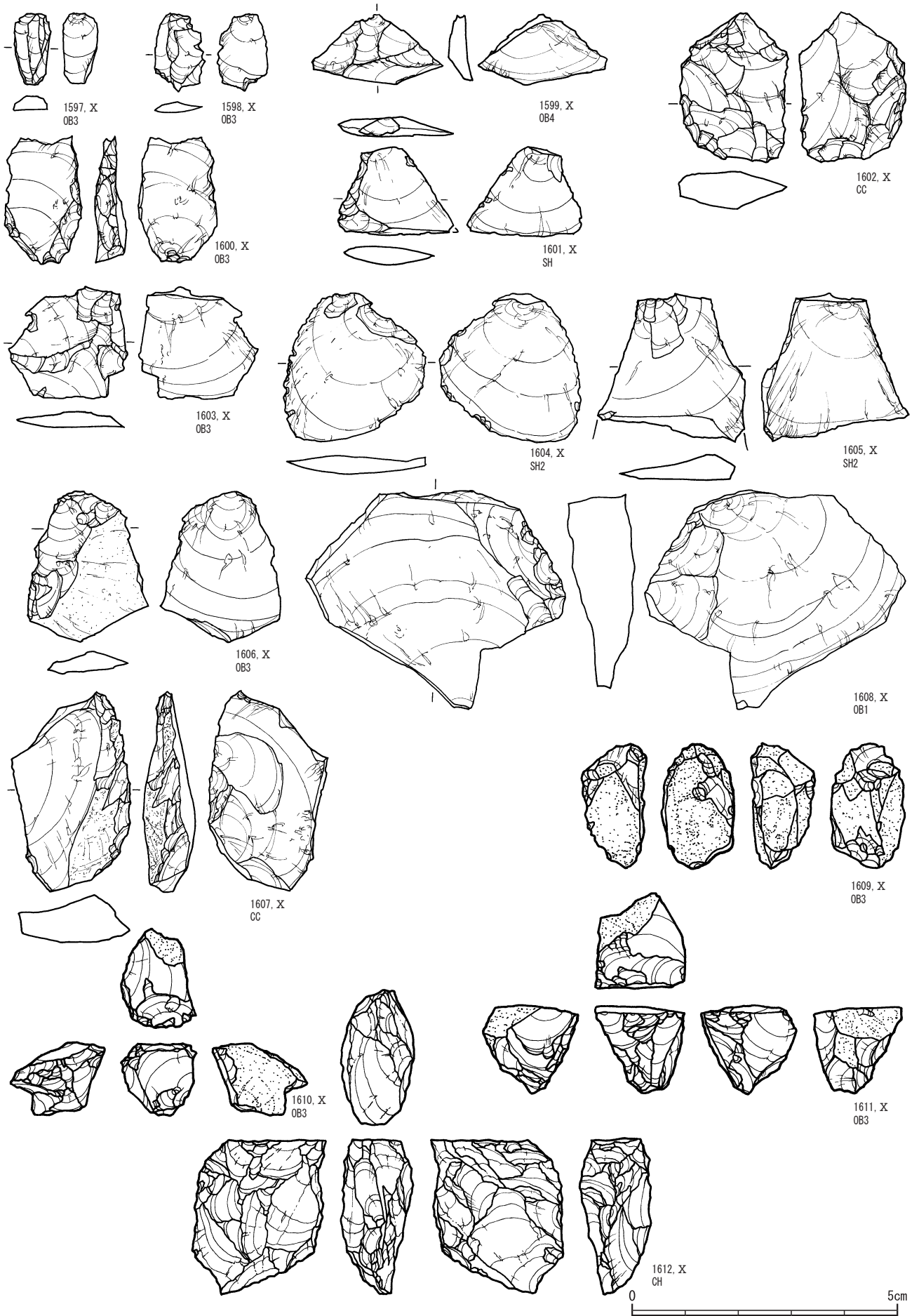
第653図 第Ⅲ文化層第25エリア第42ブロック出土石器実測図



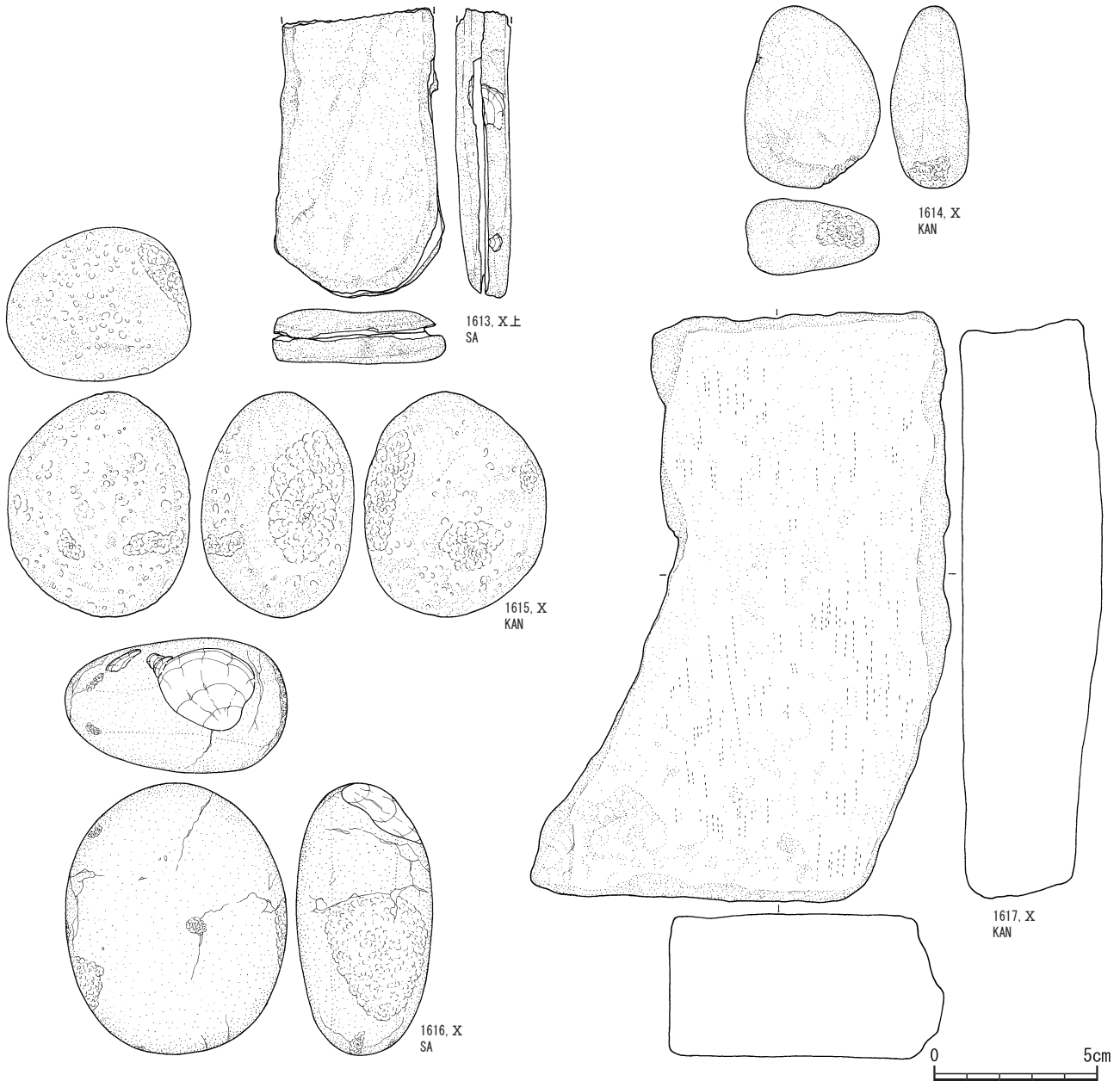
第654図 第三文化層第25エリア石器出土状況図(2)



第655図 第三文化層第25エリア第43ブロック出土石器実測図



第656図 第Ⅲ文化層第25エリア出土石器実測図(1)



第657図 第Ⅲ文化層第25エリア出土石器実測図(2)

第139表 第Ⅲ文化層第25エリア出土石器観察表(1)

挿図No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
653	1584	A25	B42	細石刃	-	OB3	12.1	4.1	2	0.08	○62409(G-4/X)
653	1586	A25	B42	ファーストフレク	-	OB3	20.5	10.6	4	0.63	○62430(G-4/X)
653	1587	A25	B42	細石刃核	-	OB3	16.9	15	14	4	○62418(G-4/X)
653	1588	A25	B42	ブランク	-	OB2	20.7	13.6	31	8.8	○62405(G-4/X)
653	1589	A25	B42	ハンマー	-	KAN	54.7	48.5	44	140	○62412(G-4/X)
653	1590	A25	B42	ハンマー	-	KAN	79.6	58.5	49.2	280	○62431(G-4/X)
655	1591	A25	B43	細石刃核	-	OB1	17.9	13.3	15.5	3.4	○62658(H-4/X)
655	1592	A25	B43	細石刃核	-	OB1	15.8	16.5	22.1	5.2	○62444(H-4/X)
655	1593	A25	B43	剥片	-	SH1	21.4	40.2	5	3.5	○62441(H-4/X)
655	1594	A25	B43	剥片	-	KAN	75.3	153.1	22	193	○62439(H-4/X)
655	1595	A25	B43	剥片	-	KAN	63.8	123.2	18.2	99	○62442(H-4/X)
655	1596	A25	B43	剥片	-	KAN	126.6	61.3	18.4	117	○62443(H-4/X)
656	1597	A25	B00	細石刃	-	OB3	13.4	6.8	4	0.37	○62393(G-3/X)
656	1598	A25	B00	剥片	-	OB3	14.8	9.7	2	0.28	○62382(G-3/X)
656	1599	A25	B00	剥片	-	OB4	13.5	24.5	4	0.87	○62637(H-4/X)
656	1600	A25	B00	剥片	-	OB3	23.8	15.1	5.9	1.7	○62389(G-3/X)

第140表 第Ⅲ文化層第25エリア出土石器観察表(2)

挿図No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
656	1601	A25	B00	二次加工産剥片	-	SH	17.2	21.8	3.5	1.4	○62367(G-3/X)
656	1602	A25	B00	石鏃	未製品	CC	28.5	20.3	6.9	4.2	○62428(G-4/X)
656	1603	A25	B00	剥片	-	OB3	21.3	22.7	3.5	1.4	○62638(H-4/X)
656	1604	A25	B00	剥片	-	SH2	28.3	26.9	6.2	3.1	○62361(G-3/X)
656	1605	A25	B00	剥片	-	SH2	28.1	28	6	4	○62382(G-3/X)
656	1606	A25	B00	剥片	-	OB3	28.6	22.9	3.8	2.7	○62659(H-4/X)
656	1607	A25	B00	二次加工産剥片	-	CC	37.9	22.8	10.1	7.6	○62420(G-4/X)
656	1608	A25	B00	二次加工産剥片	-	OB1	41.4	49.4	11.5	21	○62365(G-3/X)
656	1609	A25	B00	原礫	-	OB3	23.7	14.4	12	3.6	○62672(G-3/X)
656	1610	A25	B00	ブランク	-	OB3	14	14.6	19.1	2.7	○62448(H-4/X)
656	1611	A25	B00	細石刃核	-	OB3	16.8	17.2	17.6	3.8	○62651(H-4/X)
656	1612	A25	B00	ブランク	-	CH	29.4	14	23.8	11	○62373(G-3/X)
657	1613	A25	B00	砥石	-	SA	89.3	53.2	19.6	107	○62676(G-3/X上)
657	1614	A25	B00	ハンマー	-	KAN	56.4	41.7	24	69	○62436(F-4/X)
657	1615	A25	B00	磨石	/敲	KAN	69.6	56.2	46.6	190	○62414(G-4/X)
657	1616	A25	B00	磨石	-	SA	83.7	68.2	43.6	263	○62416(G-4/X)
657	1617	A25	B00	台石	-	KAN	181.7	129.3	47	1550	○62452(G-3/X)

確認でき、剥離作業は打面・右側縁・正面で行われている。1541・1545・1548・1549の4点は細石刃核ブランクとなる。第41ブロックの1570・1571は背面にも打面を共有する作業面を持つ。1573は底面に背面を打面とした先行する作業面を持ち、正面の剥離に伴う打面は調整打面である。1582は打面部の剥離作業が先行するが、当初の石核整形は左側面に素材剥離面、右側縁は下縁部からの整形剥離(片面加工)を実施したと判断できる。1575は剥片素材の細石刃核、1579は剥片素材の細石刃核ブランクである。

第25エリア

桐木遺跡F～H-3・4区に分布し、第42・第43の2ブロックで構成され、多様な石材使用がみられる。細石刃製作に関わるエリアであるが、一部石鏃製作関連石器が混在すると思われる。

1587は角礫素材の細石刃核、1588・1612は剥片素材の細石刃核ブランク、1591・1592は剥片素材の細石刃核、1609は原礫である。ブロック外の1609は黒曜石Ⅲ類を素材としている。1612は主に打面方向から石核整形を行った細石刃核ブランクである。

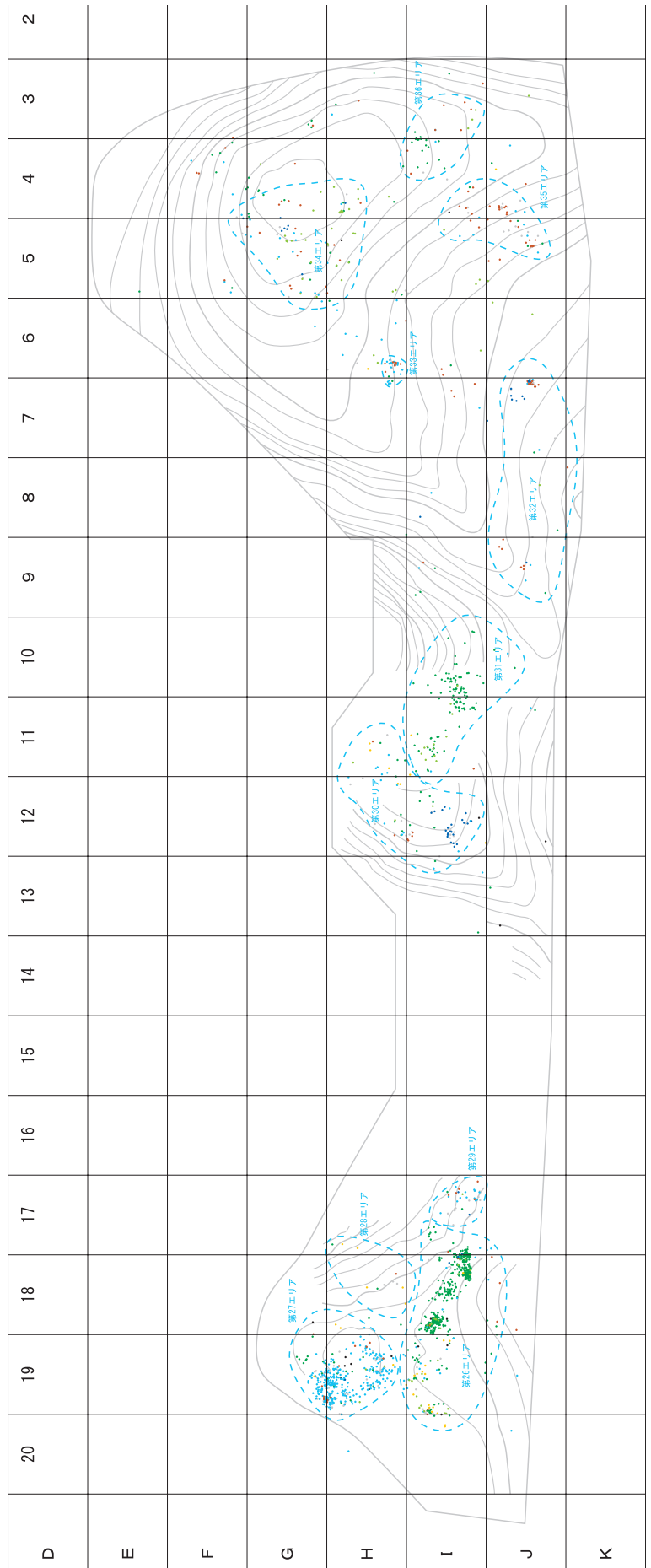
1602は玉髓製の石鏃製作関連資料とみられ、1606・1608の剥片もその可能性が高く、1613～1615のハンマー、敲石、石皿も同様である。

第26エリア

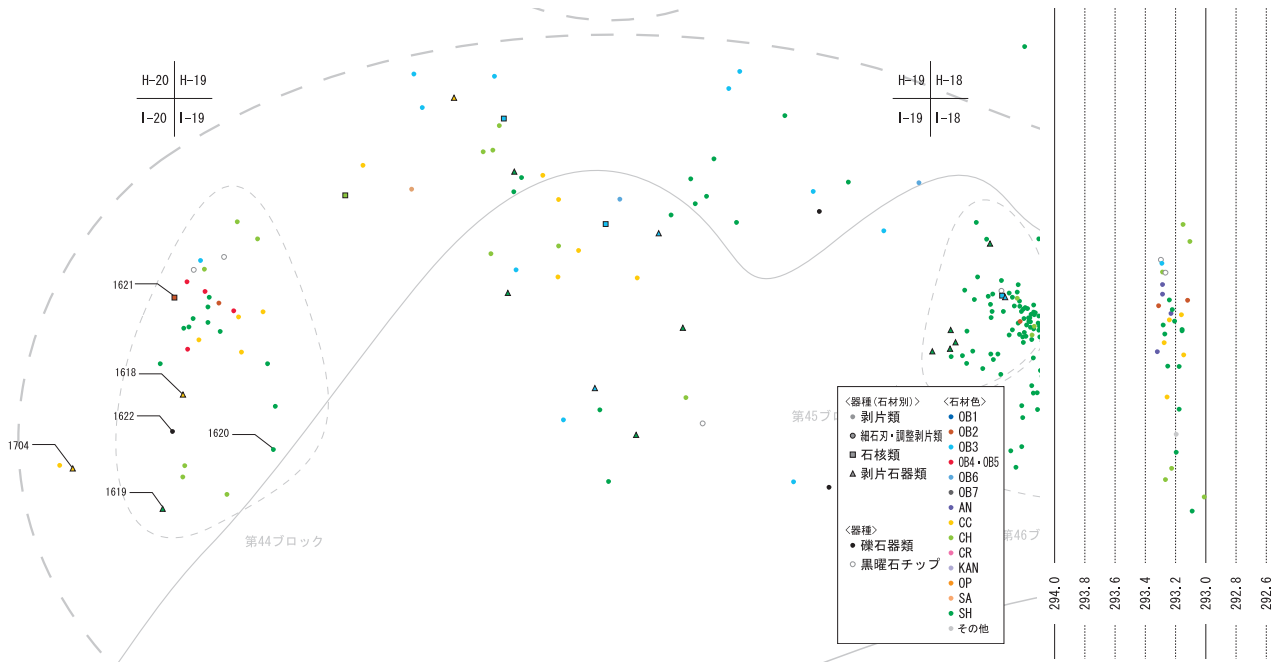
耳取遺跡H～J-17～20区に展開し、第44～第50の7ブロックで構成される石鏃製作関連のエリアで、各ブロックはその色彩が強いが、ブロック外の一部で下層の石器群が混入している。第45・第46ブロックは頁岩主体のブロックで、頁岩の使用度が極端に高くなっている。

1618は玉髓、1619は頁岩で、基部の挟りは浅い。1621の石核は、黒曜石Ⅱ類の円礫を分割し分割面を打面としたもので、不定型な小剥片を取り出している。1622は磨石で、中央部が若干窪む状況がみられるが、石皿様の機能も想定される。1623は頁岩製の両面加工品で、周縁から粗い整形剥離が施されている。1624も同じ石材を用い、中央部がやや膨らむ剥片の腹面の打面を中心に調整剥離が見られる。1636～1638は同一母岩とみられる頁岩を用いた、石鏃未製品と判断している。1655の正面と側面に、明瞭な衝撃痕が残される。衝撃痕は深く鋭く刻まれ、石器製作に付随する台石または敲石と想定している。1656は砥石の可能性はある。

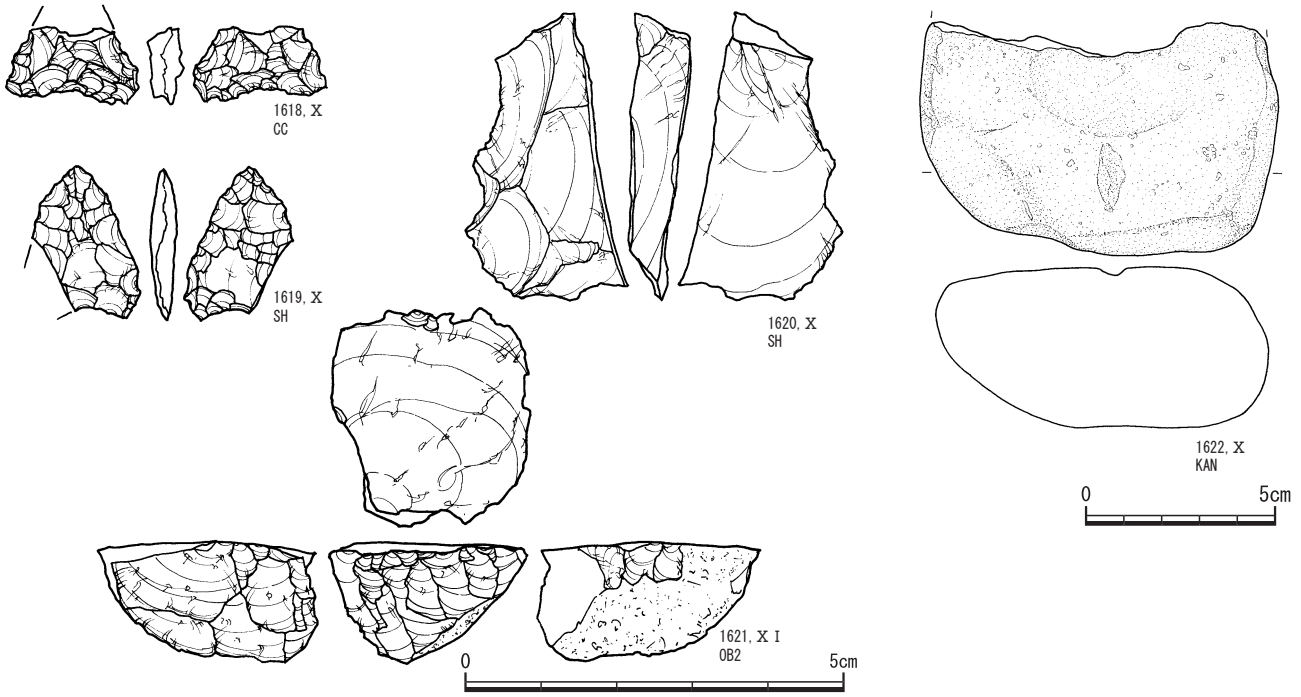
第47ブロックの1657は平基の石鏃で、最大幅はほぼ基部に設定され、長軸最大値は最大幅の



第658図 第三文化層第26～第36エリア配置図



第659図 第Ⅲ文化層第26エリア石器出土状況図(1)



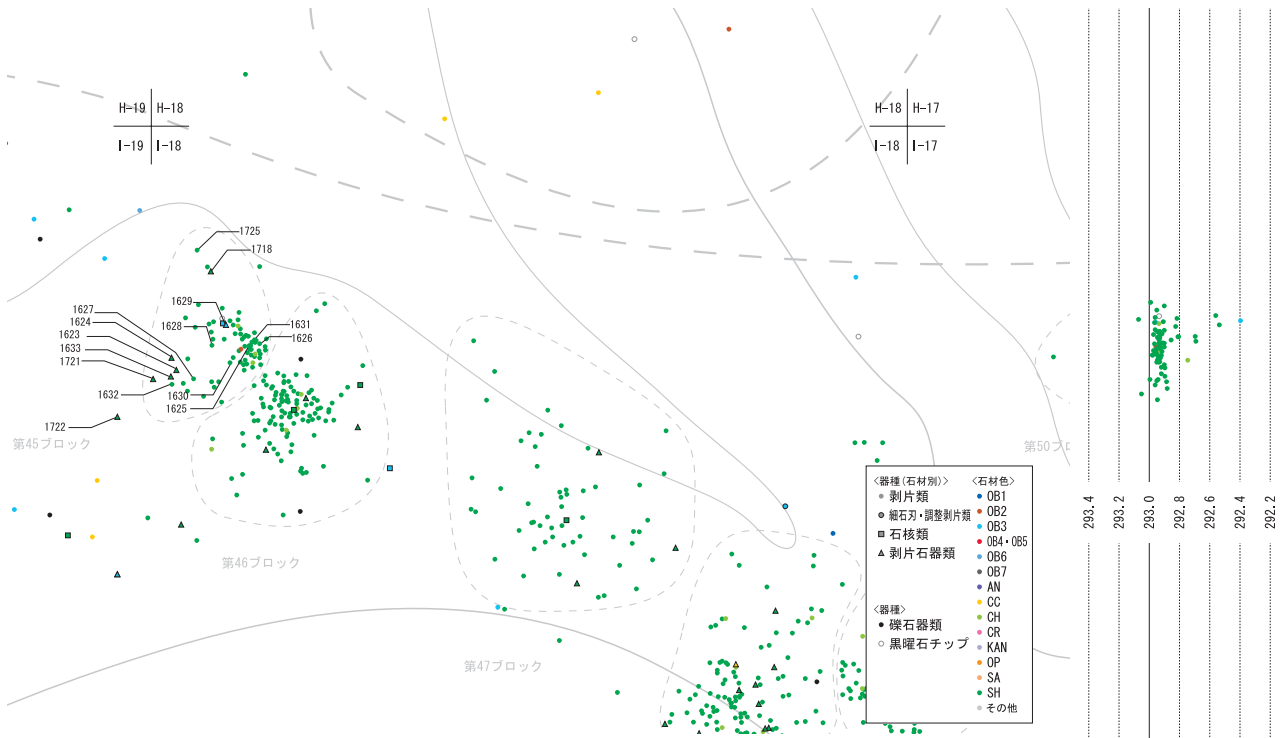
第660図 第Ⅲ文化層第26エリア第44ブロック出土石器実測図

第141表 第Ⅲ文化層第26エリア出土石器観察表(1)

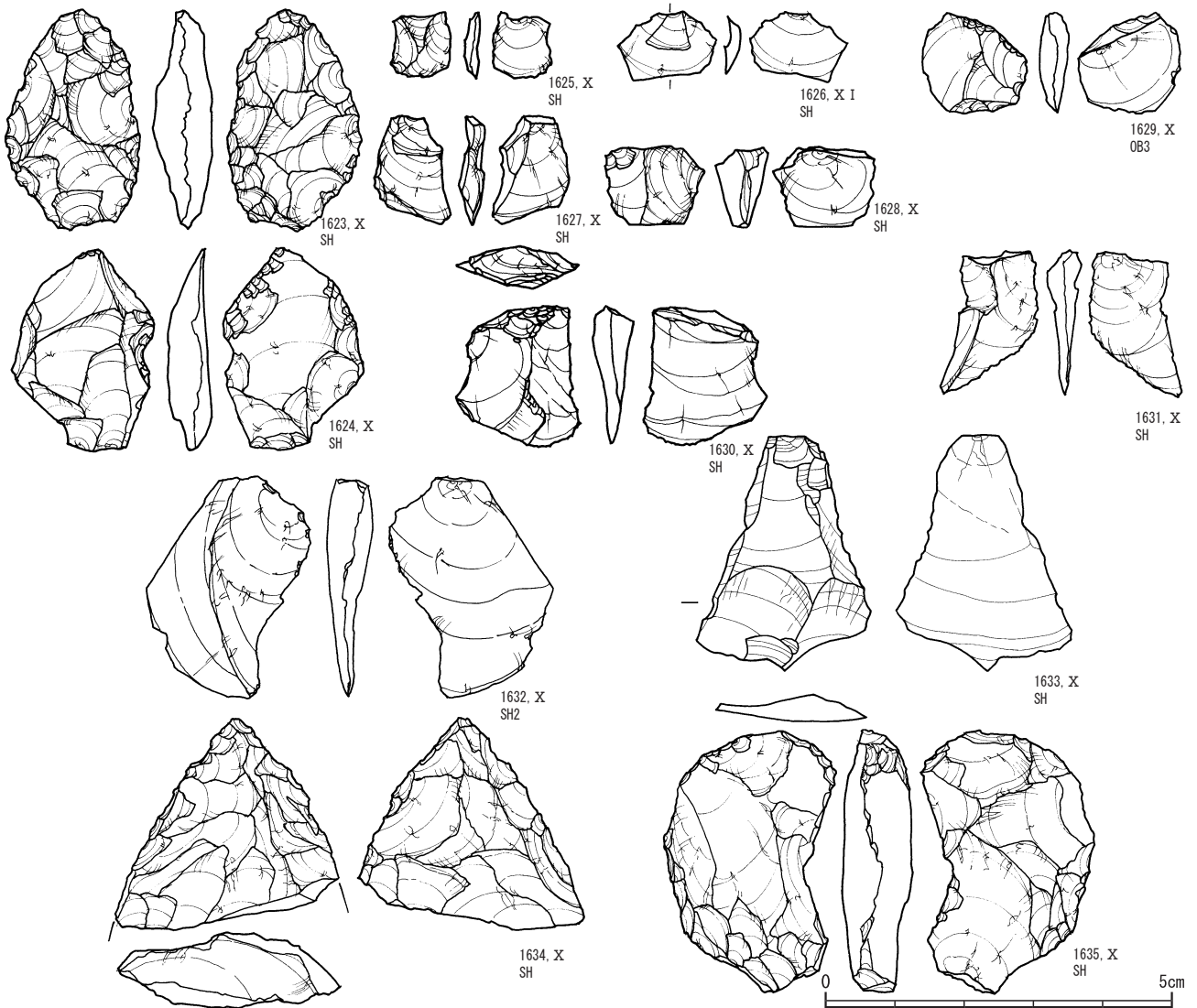
検出No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
660	1618	A26	B44	石鏃	-	CC	10.2	17.8	4.8	0.74	▲3601(1-19/X)
660	1619	A26	B44	石鏃	-	SH	20.5	14.7	3.8	0.91	▲3424(1-20/X)
660	1620	A26	B44	剥片	-	SH	38.4	21.9	7.5	5.2	▲3652(1-19/X)
660	1621	A26	B44	石核	-	OB2	16.3	26.5	29.1	11	▲3654(1-19/X I)
660	1622	A26	B44	礫石	-	KAN	62	95	47.6	420	▲3626(1-20/X)
662	1623	A26	B45	二次加工剥片	-	SH	32.3	19.7	8.8	5.1	▲5132(1-18/X)
662	1624	A26	B45	二次加工剥片	未製品	SH	29.4	20.6	6.2	3.6	▲5133(1-18/X)
662	1625	A26	B45	剥片	-	SH	9.6	8.7	2.5	0.2	▲4525(1-18/X)
662	1626	A26	B45	剥片	-	SH	10.3	14.3	2.5	0.23	▲5068(1-18/X I)
662	1627	A26	B45	剥片	-	SH	15.9	11.3	3.9	0.55	▲4397(1-18/X)
662	1628	A26	B45	剥片	-	SH	11.8	15	7.8	1.1	▲4385(1-18/X)
662	1629	A26	B45	台形石器	-	OB3	14.8	15	4.4	0.85	▲4243(1-18/X)
662	1630	A26	B45	剥片	-	SH	20.2	18.1	6	1.4	▲4266(1-18/X)
662	1631	A26	B45	剥片	-	SH	21.2	13.6	13	0.74	▲4250(1-18/X)
662	1632	A26	B45	剥片	-	SH2	32.1	23.9	5	3.2	▲5130(1-18/X)
662	1633	A26	B45	微細剥片	-	SH	34.3	25.5	4	2.7	▲5131(1-18/X)

第142表 第Ⅲ文化層第26エリア出土石器観察表(2)

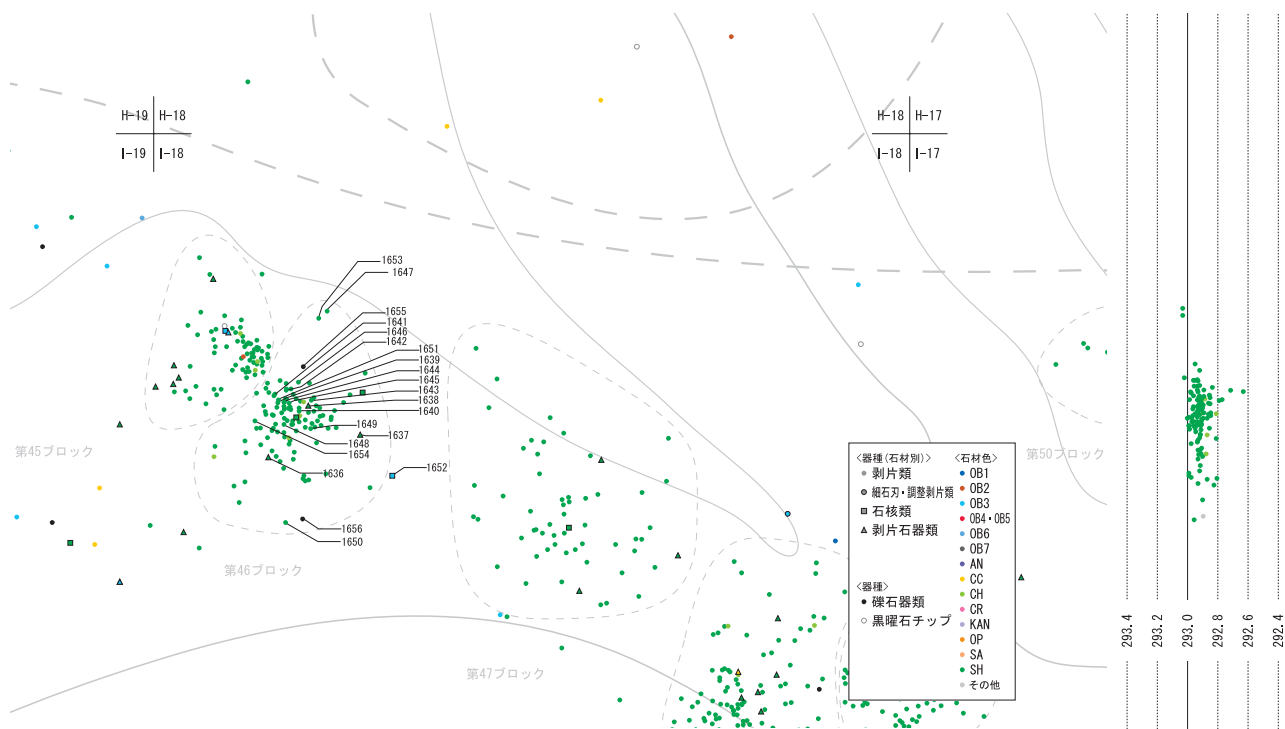
検出No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
662	1634	-	-	二次加工剥片	未製品	SH	30.9	32.6	11.2	8.7	▲26号集石001(1-18・19/X)
662	1635	-	-	削器	-	SH	38.3	25.3	10.5	10	▲26号集石002(1-18・19/X)
664	1636	A26	B46	二次加工剥片	未製品	SH	38	30.8	10.2	11	▲4162(1-18/X)
664	1637	A26	B46	二次加工剥片	未製品	SH	42.1	28	9.8	9.2	▲4128(1-18/X)
664	1638	A26	B46	二次加工剥片	未製品	SH	33.1	35.9	16	16	▲4199(1-18/X)
664	1639	A26	B46	剥片	-	SH	29.3	22.8	6.8	2.8	▲4200(1-18/X)
665	1640	A26	B46	剥片	-	SH	19.3	4.3	1.5	0.11	▲4290(1-18/X)
665	1641	A26	B46	剥片	-	SH	18.3	11.1	2.5	0.43	▲4140(1-18/X)
665	1642	A26	B46	剥片	-	SH	12.2	14.3	3.5	0.44	▲4522(1-18/X)
665	1643	A26	B46	剥片	-	SH	17.8	14.1	4	0.71	▲4413(1-18/X)
665	1644	A26	B46	剥片	-	SH	23.7	17.4	3.8	1.3	▲4401(1-18/X)
665	1645	A26	B46	剥片	-	SH	18	15.7	3.8	0.8	▲4521(1-18/X)
665	1646	A26	B46	剥片	-	SH	16.7	17.8	4	0.9	▲4193(1-18/X)
665	1647	A26	B46	剥片	-	SH	16.4	14.3	4.8	0.6	▲4137(1-18/X)
665	1648	A26	B46	剥片	-	SH	14.4	15.9	2.6	0.5	▲4277(1-18/X)
665	1649	A26	B46	剥片	-	SH	18.7	13	6.4	1.2	▲4144(1-18/X)



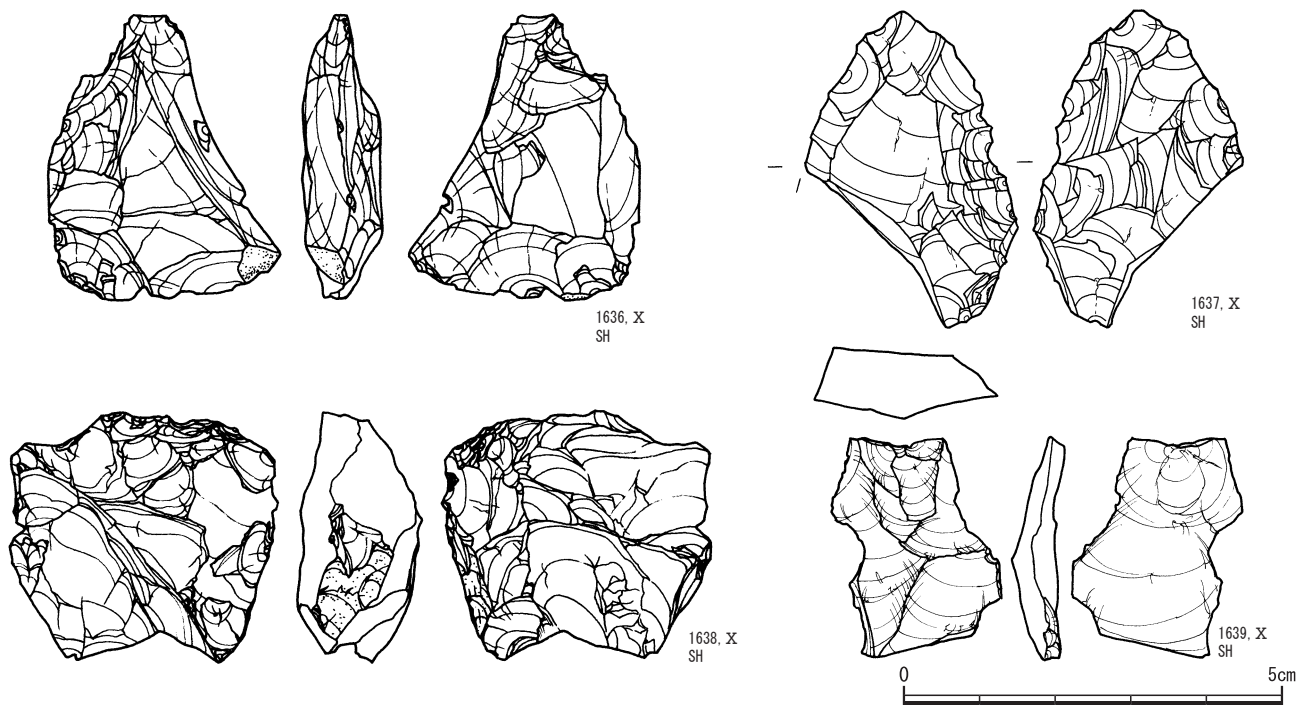
第661図 第三文化層第26エリア石器出土状況図(2)



第662図 第三文化層第26エリア第45ブロック出土石器実測図



第663図 第Ⅲ文化層第26エリア石器出土状況図(3)



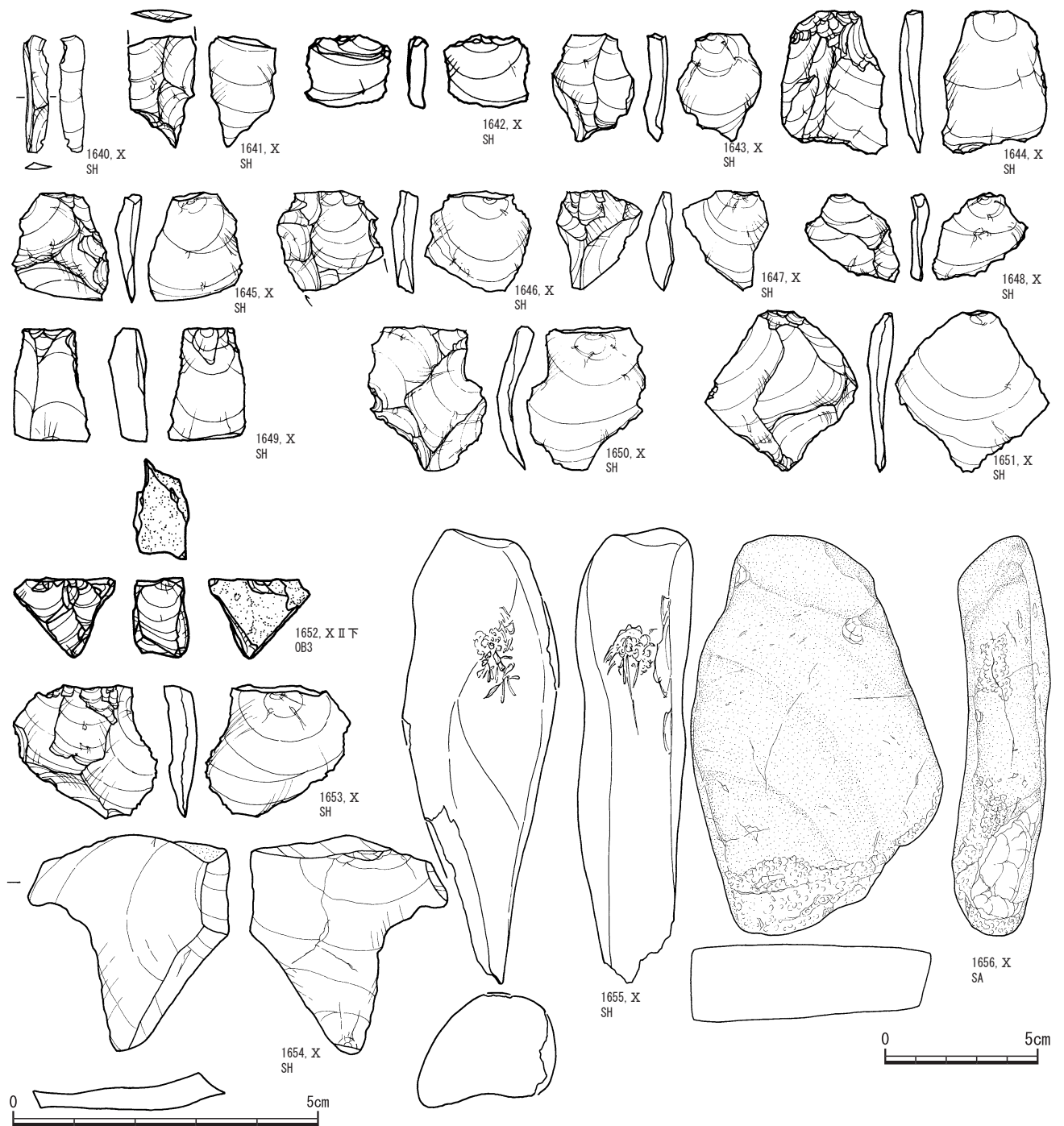
第664図 第Ⅲ文化層第26エリア第46ブロック出土石器実測図(1)

第143表 第Ⅲ文化層第26エリア出土石器観察表(3)

検出No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
665	1650	A26	B46	剥片	-	SH	23.7	19.6	3.6	1.5	▲4155(I-18/X)
665	1651	A26	B46	剥片	-	SH	26.8	25.4	4	1.7	▲4275(I-18/X)
665	1652	A26	B46	ブランク	-	OB3	13.4	9.5	16.5	1.7	▲5064(I-18/X II下)
665	1653	A26	B46	剥片	-	SH	21.9	24	4.8	2.3	▲4136(I-18/X)
665	1654	A26	B46	剥片	-	SH	36.2	32.6	5.5	4.5	▲4146(I-18/X)
665	1655	A26	B46	台石	-	SH	149.5	51.9	37.2	326	▲4134(I-18/X)
665	1656	A26	B46	台石	-	SA	131.4	83.1	21.6	435	▲4154(I-18/X)
667	1657	A26	B47	石鏃	-	SH	20.7	11.2	3.8	0.9	▲4091(I-18/X)
667	1658	A26	B47	石鏃	-	SH	15.7	13.8	4.2	0.86	▲4314(I-18/X)
667	1659	A26	B47	二次加工剥片	-	SH	32.9	21	9	5.1	▲4095(I-18/X)
667	1660	A26	B47	剥片	-	SH	34.7	21	7.8	4	▲4105(I-18/X)
667	1661	A26	B47	剥片	-	SH	18.9	18	7	1.8	▲4094(I-18/X)
667	1662	A26	B47	剥片	-	SH	20.1	17.1	4.5	1.5	▲4111(I-18/X)

第144表 第Ⅲ文化層第26エリア出土石器観察表(4)

検出No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
667	1663	A26	B47	剥片	-	SH	26.1	19.2	4.8	2.3	▲4100(I-18/X)
667	1664	A26	B47	剥片	-	SH	19.3	23.6	5.5	1.5	▲4102(I-18/X)
667	1665	A26	B47	剥片	-	SH	13.4	14.5	4	0.59	▲4112(I-18/X)
667	1666	A26	B47	剥片	-	SH	17.6	18.3	4	0.9	▲4320(I-18/X)
667	1667	A26	B47	剥片	-	SH	27.4	12.4	4.8	1.6	▲4301(I-18/X)
667	1668	A26	B47	剥片	-	SH	31.7	13.7	4	1.3	▲4323(I-18/X)
667	1669	A26	B47	剥片	-	SH	28.3	26.7	5.5	3.2	▲4122(I-18/X)
667	1670	A26	B47	剥片	-	SH	32.7	26.8	7.5	5.4	▲4104(I-18/X)
667	1671	A26	B47	剥片	-	SH	35.6	30.3	8.5	6.6	▲4107(I-18/X)
669	1672	A26	B48	石鏃	-	CC	20.1	10.9	2.9	0.63	▲3555(I-18/X)
669	1673	A26	B48	二次加工剥片	-	SH	19.5	16.4	3.2	1.3	▲3390(I-18/X)
669	1674	A26	B48	二次加工剥片	未製品	SH	29.8	20.8	9.2	4.8	▲3368(I-18/X)
669	1675	A26	B48	二次加工剥片	未製品	SH	39.7	22.1	6.9	5.1	▲3378(I-18/X)

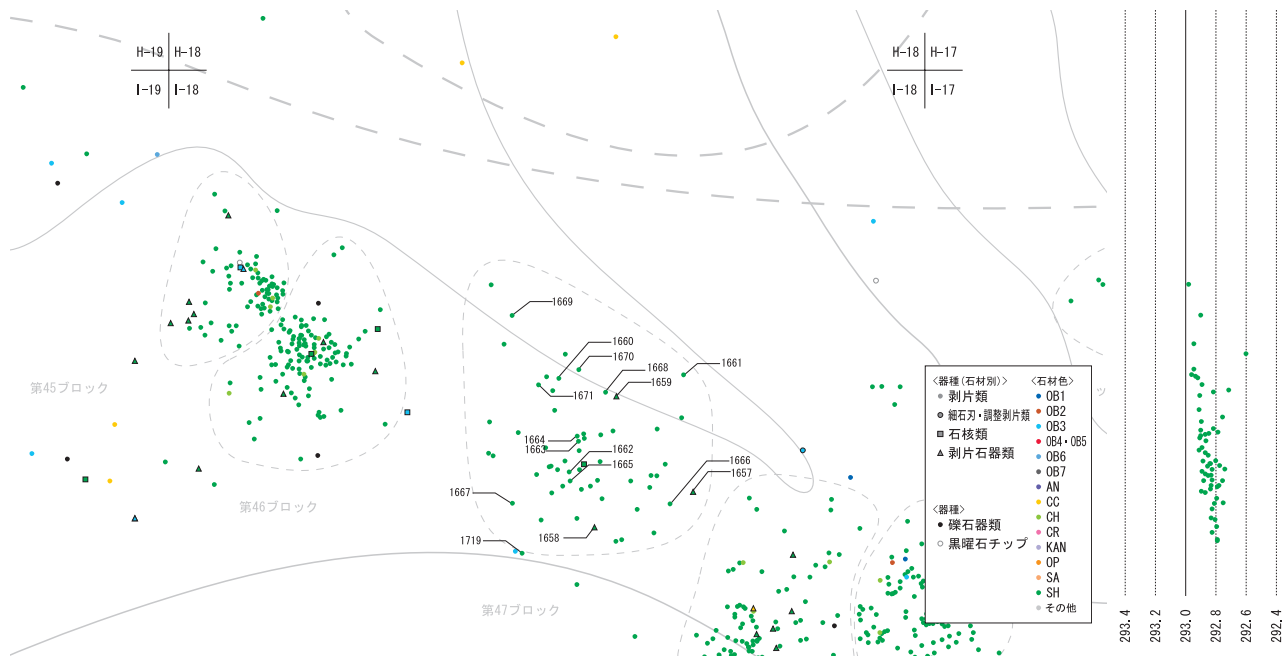


第665図 第Ⅲ文化層第26エリア第46ブロック出土石器実測図(2)

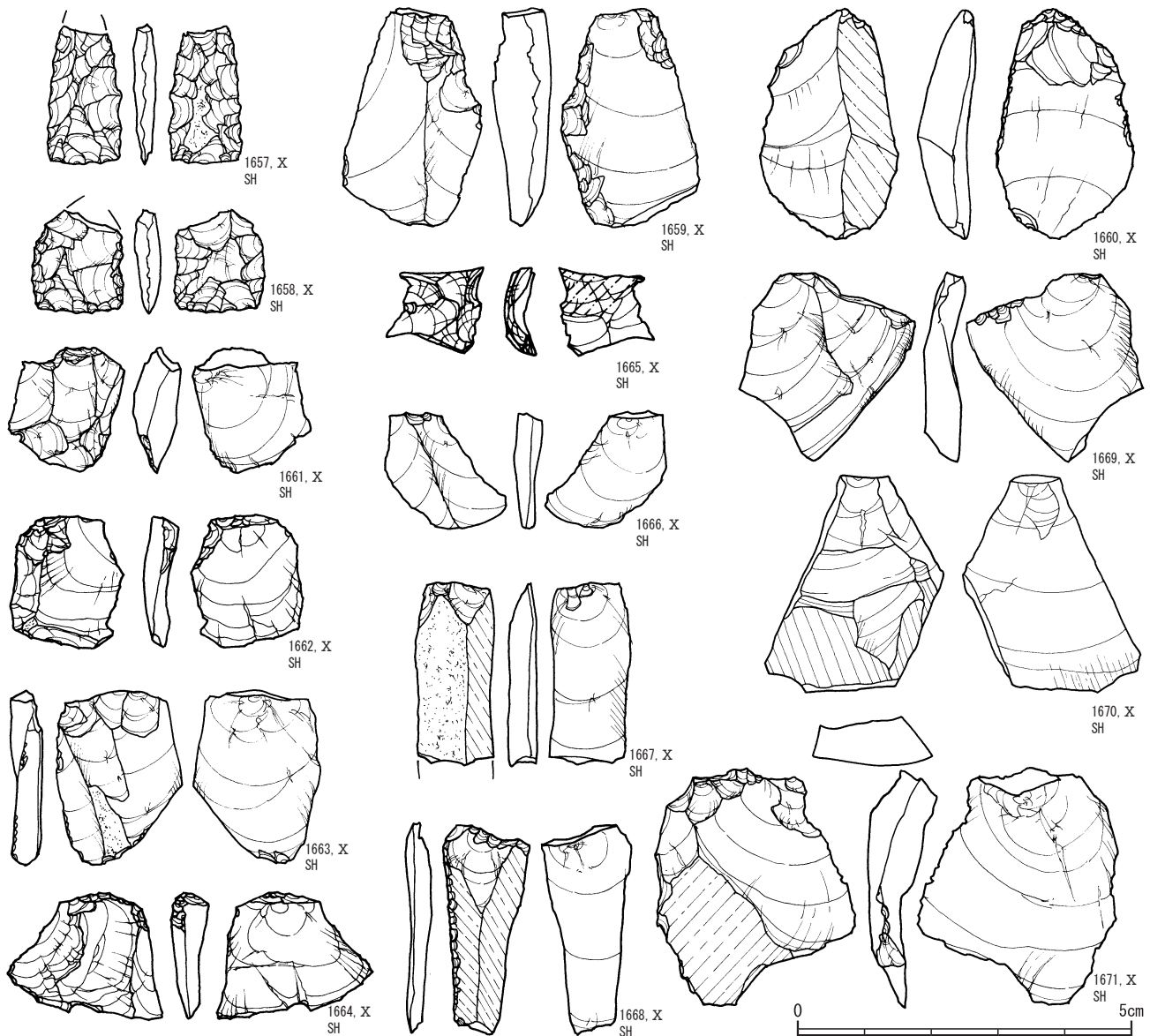
2.5倍近くに達している。腹面の中央部に素材剥片の剥離面(節理面)を残し、周縁から丁寧な整形剥離が行われ、薄く(3mm)、シンメトリーに仕上げている。1672は玉髓を用い、最大幅が基部より上位に設けられている。この2点に関しては、長身の石鏃に帰属する。第48ブロックの1673は、基部の両端がやや丸みを成し、背面の中央部が限りなく礫面に近く、意図的に薄い素材を選択したと判断できる。また、1673の素材は、第47ブロックの1658及びブロック外の1701と母岩を同一にするとみられる。この3点の石器は、薄い素材剥片を用いている点や周縁からの整形剥離が背面では深く進行し、他方腹面では主要剥離面を広く残す等共通する手法が認

められ、強い規格性が指摘できる。また、先端方向が欠損することも共通しており、機能あるいは使用方法に起因した可能性もある。

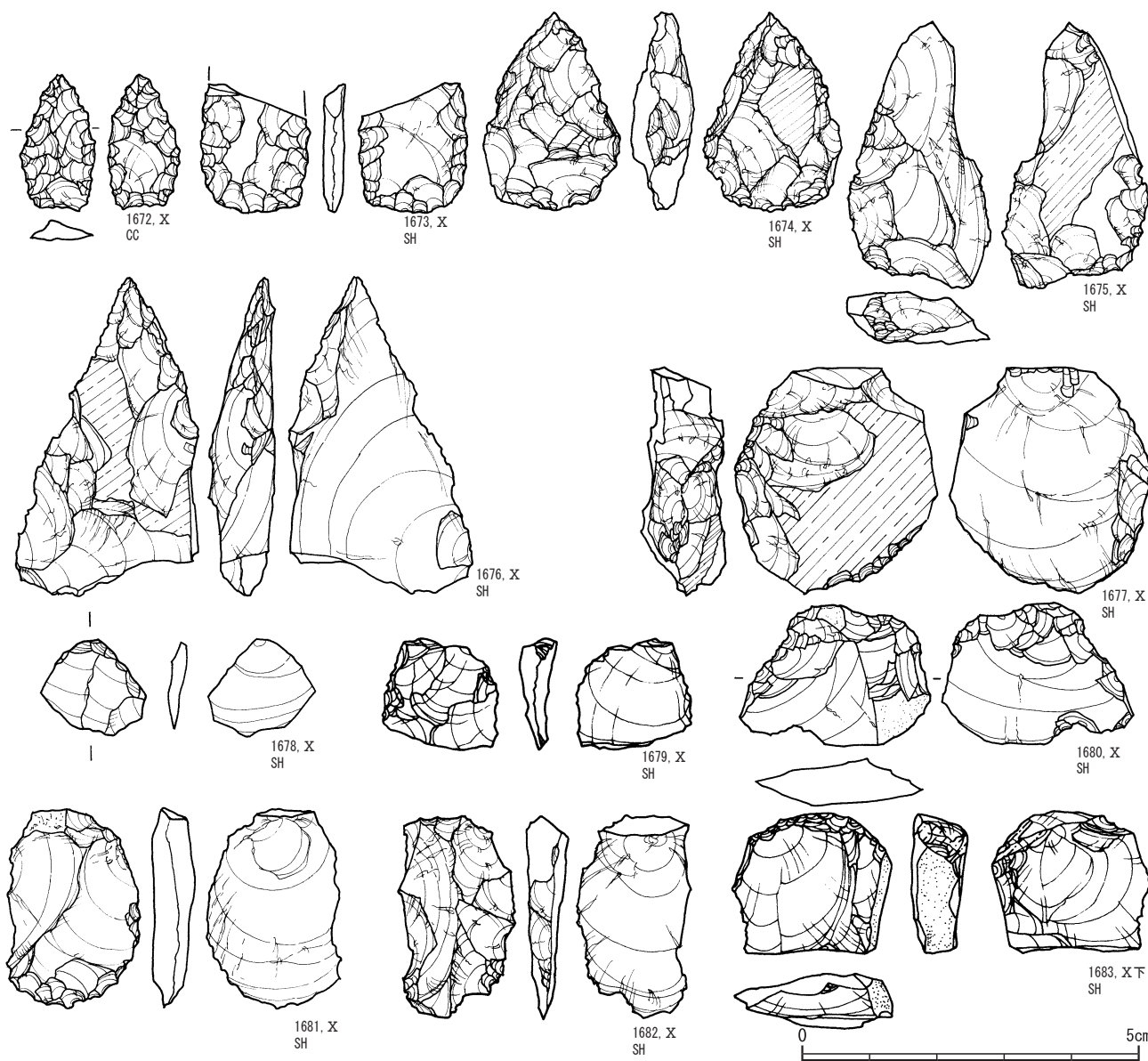
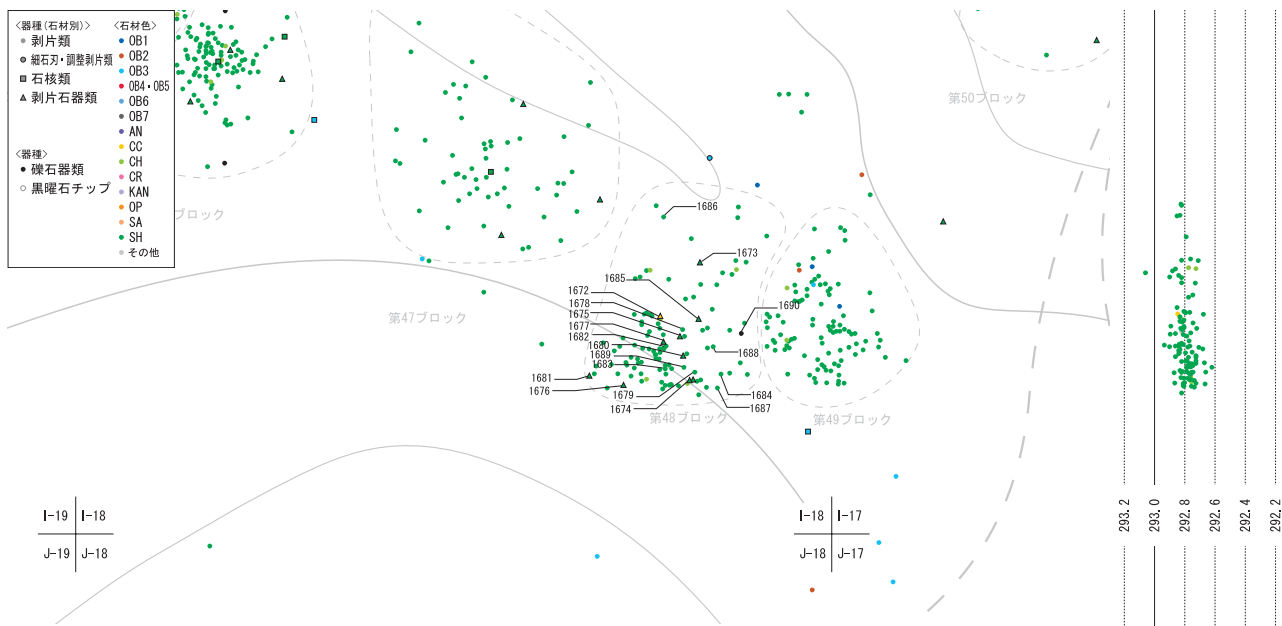
第48ブロックの使用石材は先の1672を除き、他は全て同一の頁岩を使用している。1674はその形状から石鏃未製品とみられ、右側縁・特に基部方向から素材の厚みを減じる整形剥離を実施している。1675も基部と左側縁に整形剥離がみられるが、左側縁上位の剥離アクシデントで放棄したとみられる。1676は先行する整形剥離を全てこの剥片で断ち切っている。第50ブロックの1699は分厚い素材剥片の周縁部から、両面加工石器様の整形剥離を行い、特に、左側縁部の削平を試

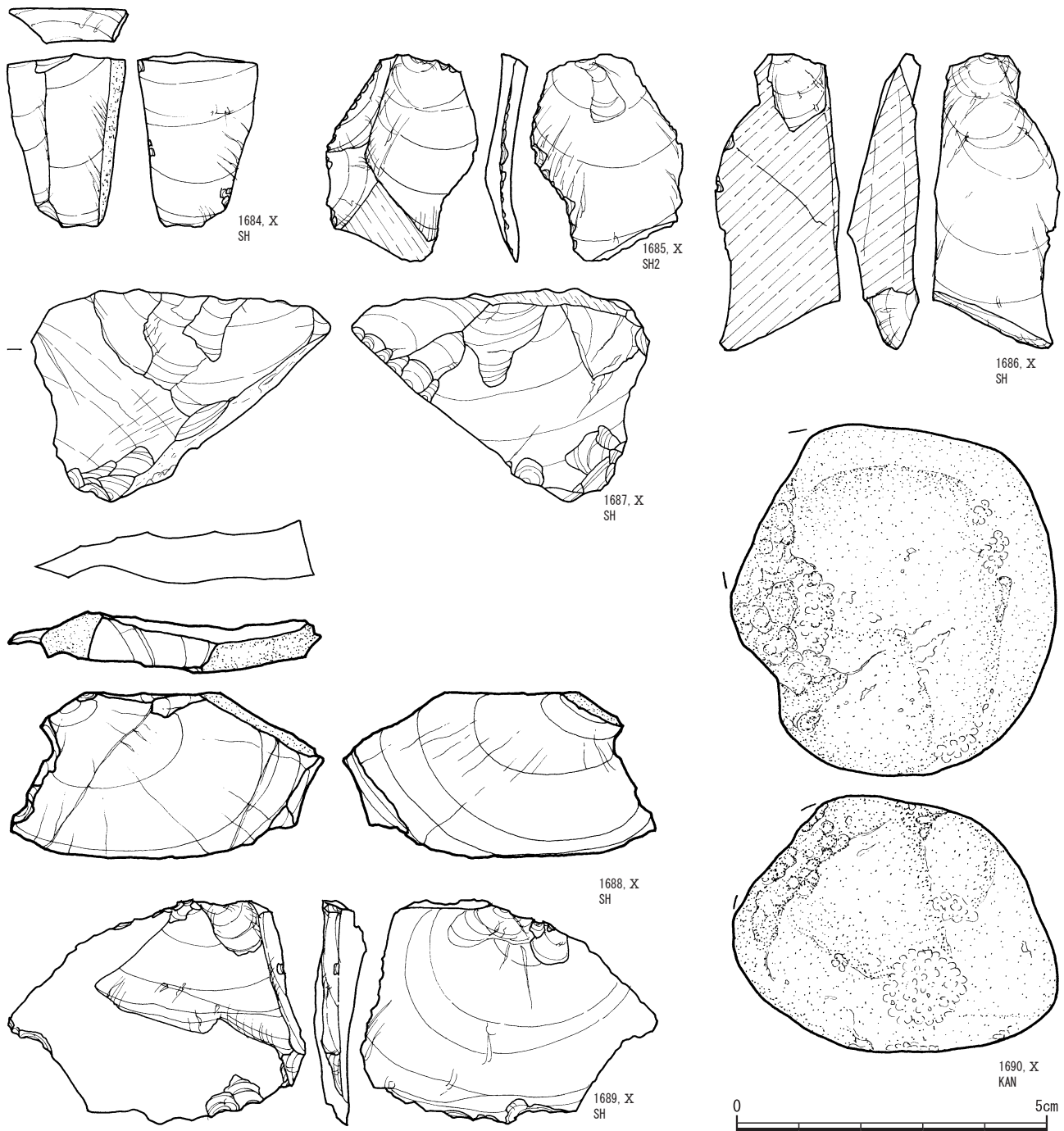


第666図 第Ⅲ文化層第26エリア石器出土状況図(4)



第667図 第Ⅲ文化層第26エリア第47ブロック出土石器実測図





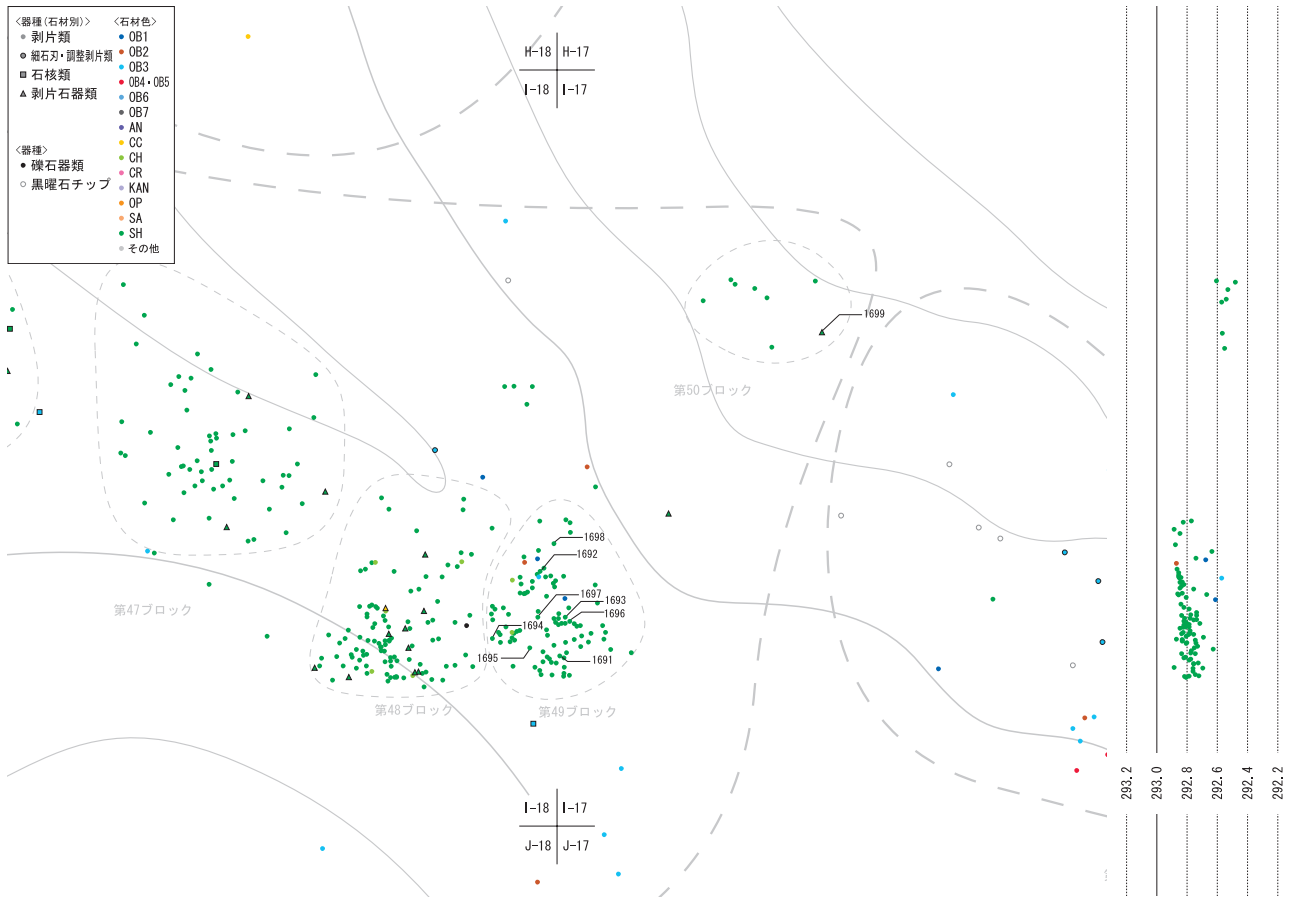
第670図 第三文化層第26エリア第48ブロック出土石器実測図(2)

第145表 第三文化層第26エリア出土石器観察表(5)

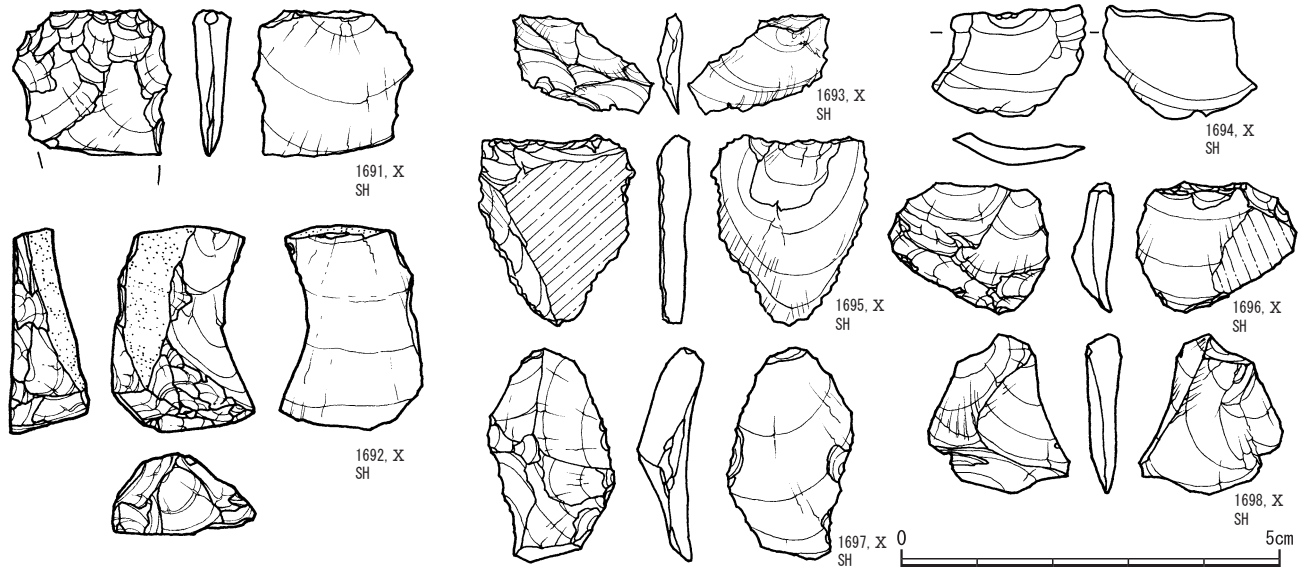
採回No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
669	1676	A26	B48	二次加工産剥片	未製品	SH	47.2	27.5	10	7.8	▲3406(I-18/X)
669	1677	A26	B48	楔形石器	-	SH	33.7	30.2	12.5	13	▲3375(I-18/X)
669	1678	A26	B48	剥片	-	SH	14.7	16.1	2.5	0.32	▲3537(I-18/X)
669	1679	A26	B48	剥片	-	SH	16.7	17.4	5	1	▲3367(I-18/X)
669	1680	A26	B48	二次加工産剥片	-	SH	21.6	28.7	6.5	3.8	▲3372(I-18/X)
669	1681	A26	B48	削器	-	SH	29.9	20.2	6	3.7	▲3409(I-18/X)
669	1682	A26	B48	剥片	-	SH	30.3	17.2	6.5	2.8	▲3374(I-18/X)
669	1683	A26	B48	剥片	-	SH	21.2	23.9	8.2	4.4	▲4327(I-18/X下)
670	1684	A26	B48	剥片	-	SH	28.4	19.6	5.5	3.7	▲3362(I-18/X)
670	1685	A26	B48	微細剥離産剥片	-	SH2	33.6	24.8	4.5	3.3	▲3377(I-18/X)
670	1686	A26	B48	剥片	-	SH	47.8	20.6	11	9.1	▲4089(I-18/X)
670	1687	A26	B48	剥片	-	SH	34.6	48.2	12	15	▲3363(I-18/X)
670	1688	A26	B48	剥片	-	SH	27.1	50.7	7	8.4	▲3383(I-18/X)
670	1689	A26	B48	剥片	-	SH	36.5	48.1	7	10	▲3539(I-18/X)
670	1690	A26	B48	ハンマー	-	KAN	57.1	52.7	41.6	176	▲3358(I-18/X)
672	1691	A26	B49	剥片	-	SH	19.6	21.5	4	1.6	▲4590(I-17/X)
672	1692	A26	B49	剥片	-	SH	27.4	19.2	11	4.8	▲4582(I-18/X)

第146表 第三文化層第26エリア出土石器観察表(6)

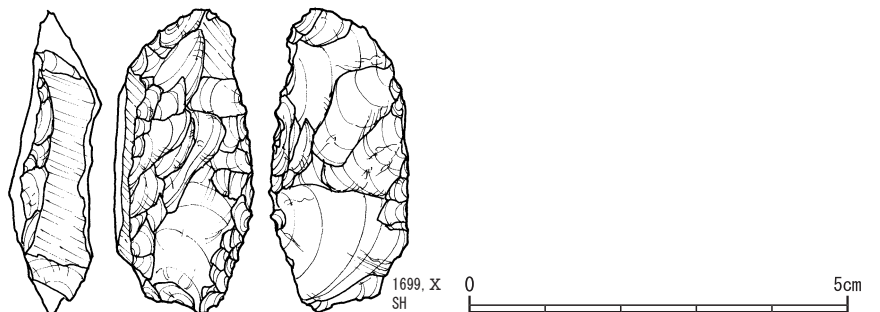
採回No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
672	1693	A26	B49	剥片	-	SH	13.4	18.8	3.3	0.58	▲4598(I-17/X)
672	1694	A26	B49	剥片	-	SH	15.1	20.5	3.9	0.63	▲3353(I-18/X)
672	1695	A26	B49	剥片	-	SH	25.4	21	4.6	2	▲4326(I-18/X)
672	1696	A26	B49	剥片	-	SH	17.5	21.4	6.8	1.4	▲4640(I-17/X)
672	1697	A26	B49	剥片	-	SH	28.1	17	8.6	2.4	▲4651(I-18/X)
672	1698	A26	B49	剥片	-	SH	21.4	19.3	4.9	1.1	▲4583(I-18/X)
673	1699	A26	B50	二次加工産剥片	未製品	SH	40.3	18.7	11.4	9	▲4548(I-17/X)
675	1700	A26	B00	石鏃	-	SH	21.4	15.4	3.7	0.93	▲4807(I-19/X)
675	1701	A26	B00	二次加工産剥片	-	SH	22.7	15.3	6.2	1.8	▲11348(J-18/X)
675	1702	A26	B00	二次加工産剥片	-	SH	22	24.4	7.9	3.9	▲4838(I-19/X)
675	1703	A26	B00	石鏃	未製品	OB3	30	25.2	7.3	4.4	▲4809(I-19/X)
675	1704	A26	B00	二次加工産剥片	-	CC	19	7	3.2	0.35	▲3597(I-20/X)
675	1705	A26	B00	細石刃	-	OB3	9.2	7	2.1	0.12	▲5056(I-18/X I)
675	1706	A26	B00	台形石器	-	OB3	11.3	10.4	3.1	0.44	▲5322(I-19/X II)
675	1707	A26	B00	剥片	-	OB6	16.2	12.4	2.8	0.43	▲4794(I-19/X)
675	1708	A26	B00	剥片	-	OB3	16.4	12.4	4.1	0.49	▲5304(H-19/X II)
675	1709	A26	B00	剥片	-	OB3	18.2	11.8	4.8	0.72	▲5305(H-19/X II)



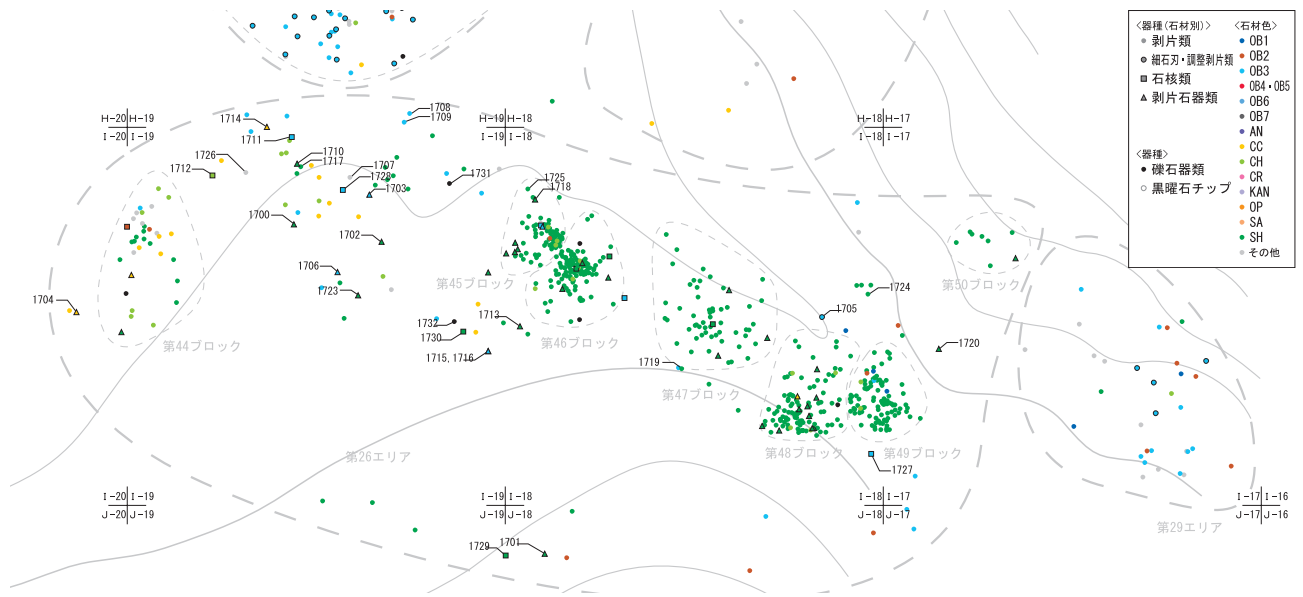
第671図 第Ⅲ文化層第26エリア石器出土状況図(6)



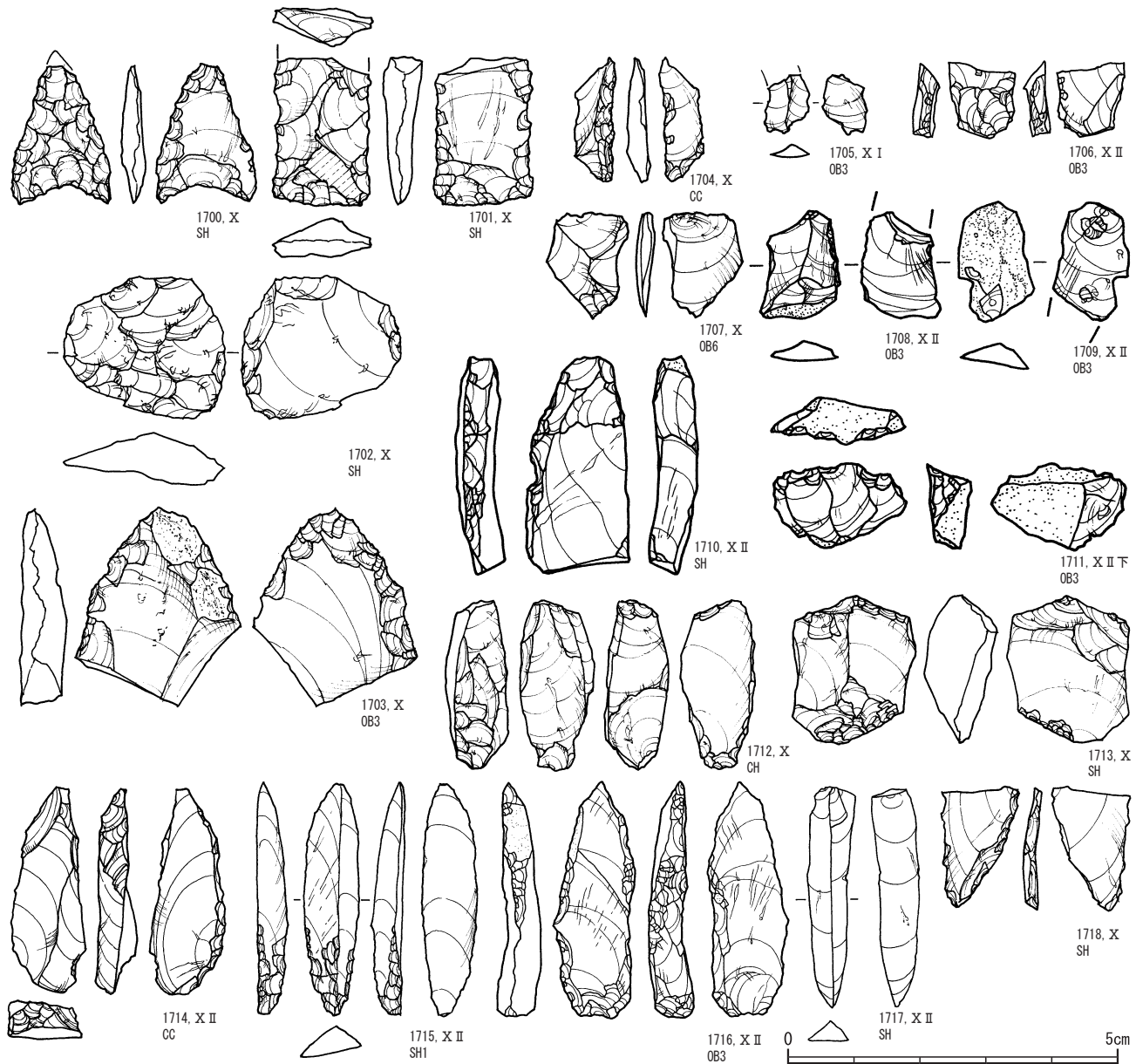
第672図 第Ⅲ文化層第26エリア第49ブロック出土石器実測図



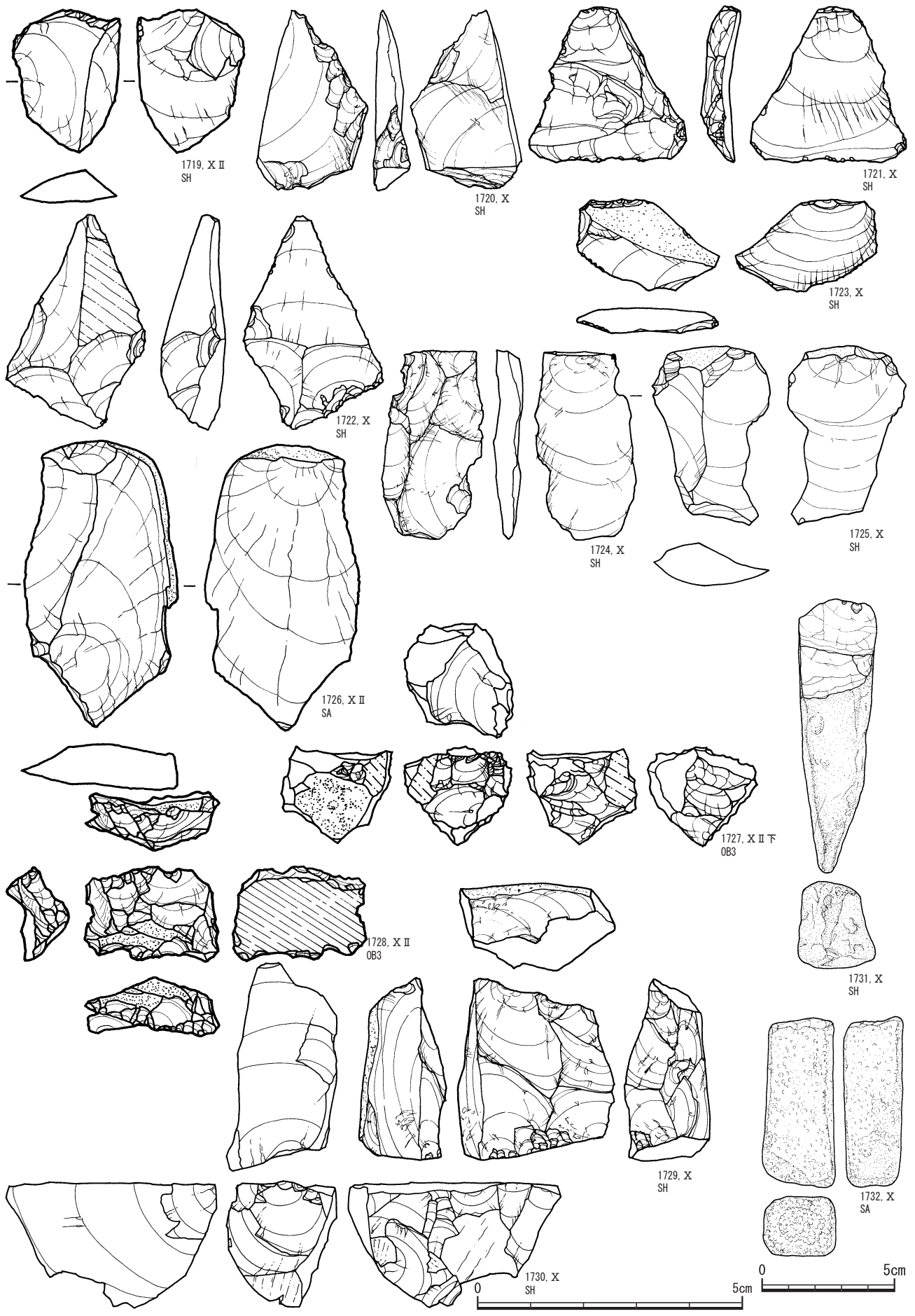
第673図 第Ⅲ文化層第26エリア第50ブロック出土石器実測図



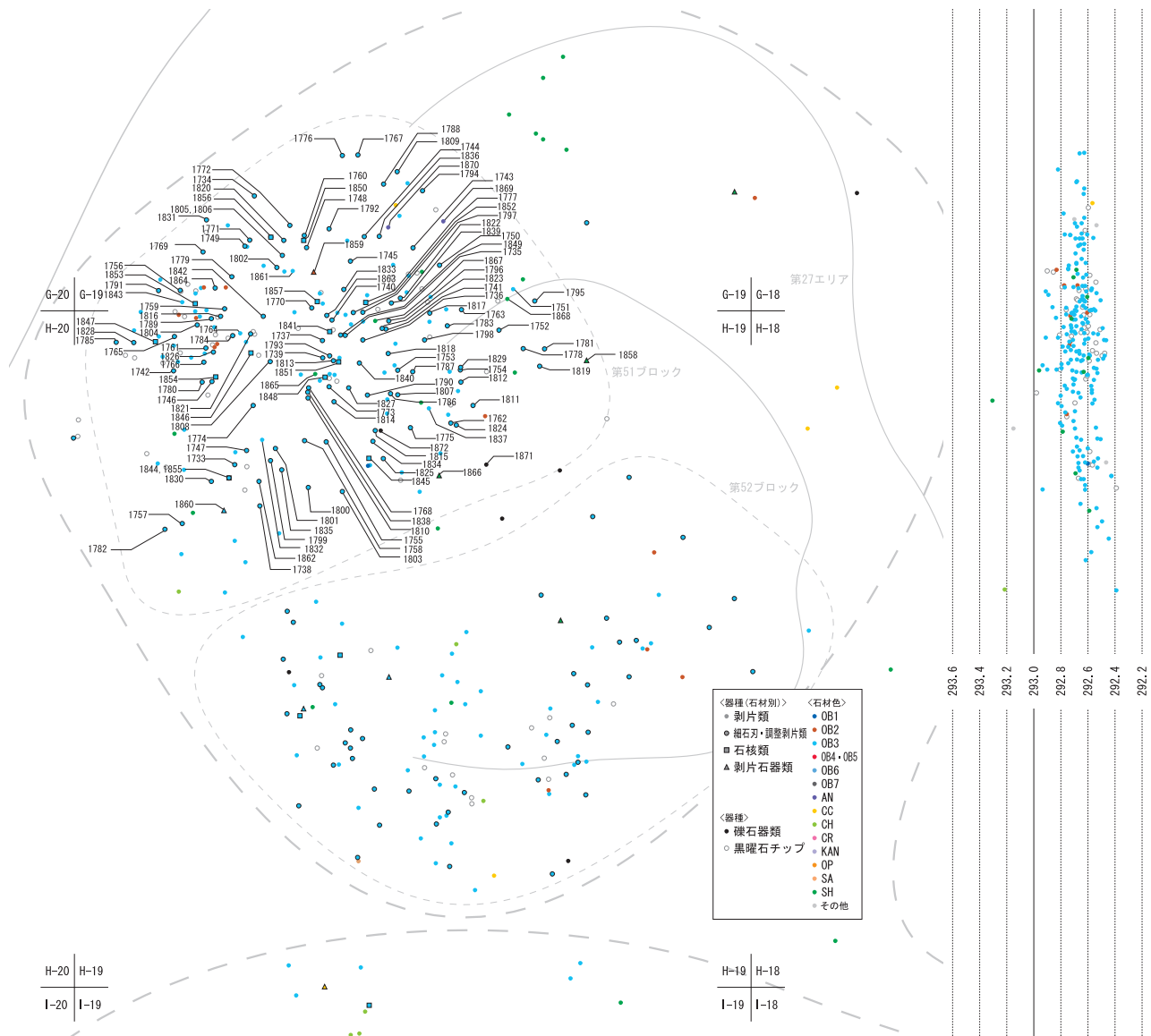
第674図 第三文化層第26エリア石器出土状況図(7)



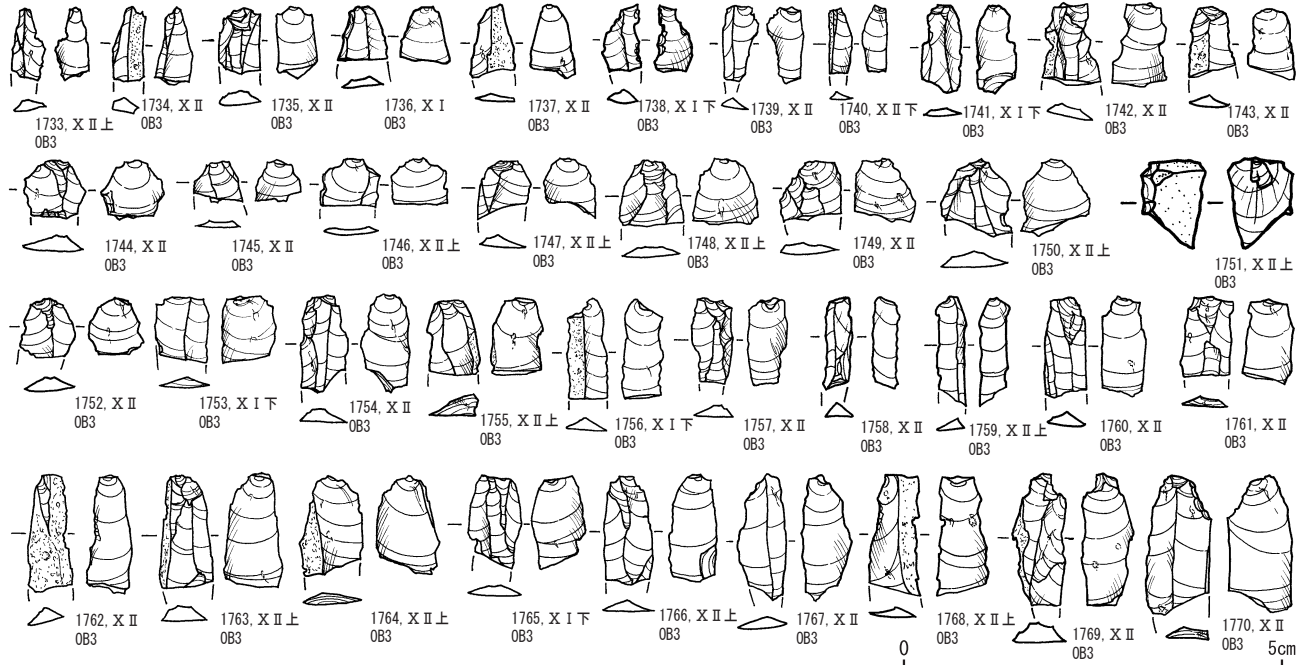
第675図 第三文化層第26エリア出土石器実測図(1)



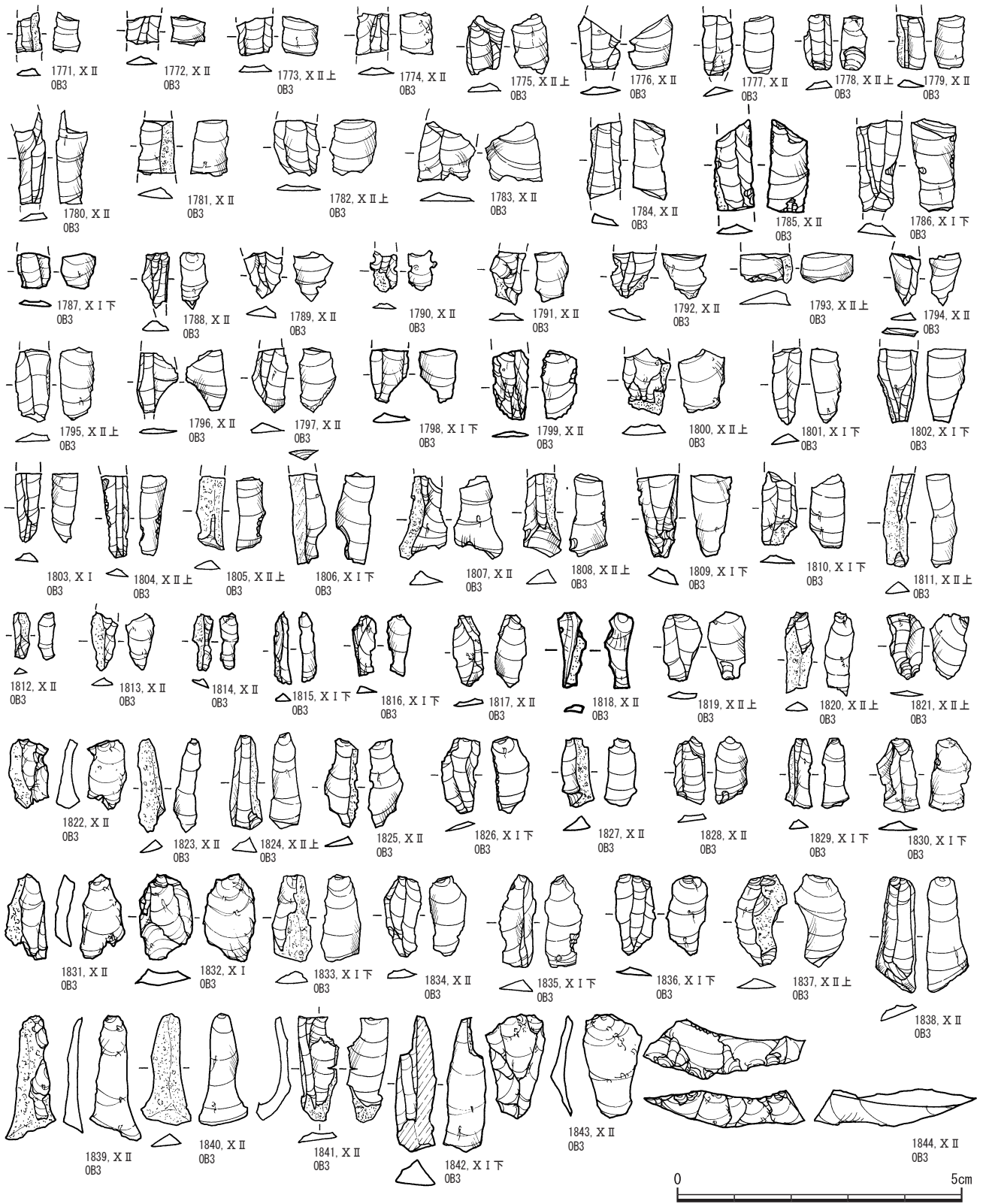
第676図 第Ⅲ文化層第26エリア出土石器実測図(2)



第677図 第三文化層第27エリア石器出土状況図(1)



第678図 第三文化層第27エリア第51ブロック出土石器実測図(1)



第679図 第三文化層第27エリア第51ブロック出土石器実測図(2)

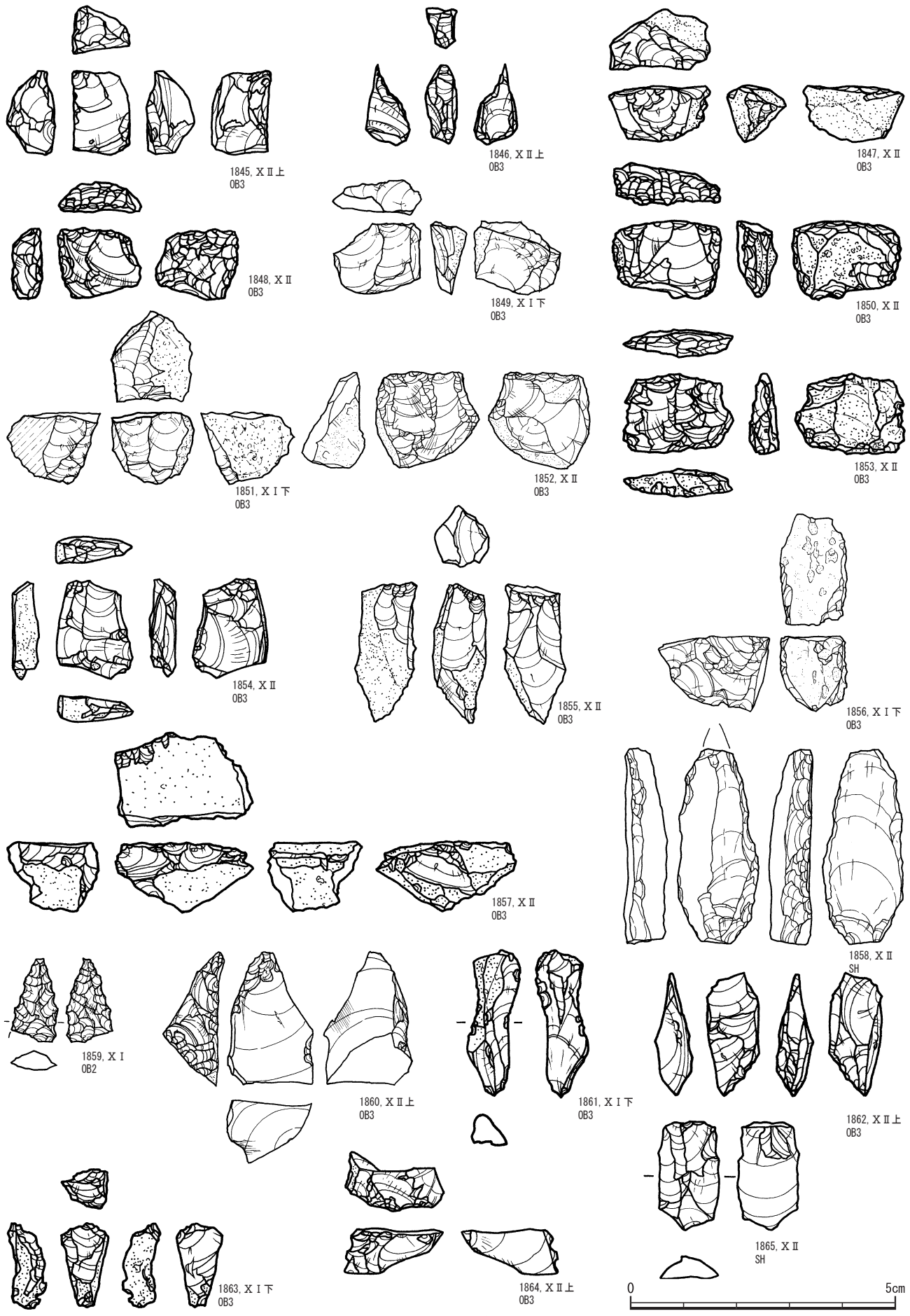
みている。

ブロック外の1700は、第47ブロック1657と同一石材で、薄い素材剥片を用い、最終的に腹面の平坦面を活かす手法が取られる。1703は黒曜石Ⅲ類で、尖頭状石器様の整形剥離を持つ。1704は玉髄製のナイフ形石器、1706は黒曜石Ⅲ類の台形石器、1712はチャート・1713は頁岩で楔形石器、1711・

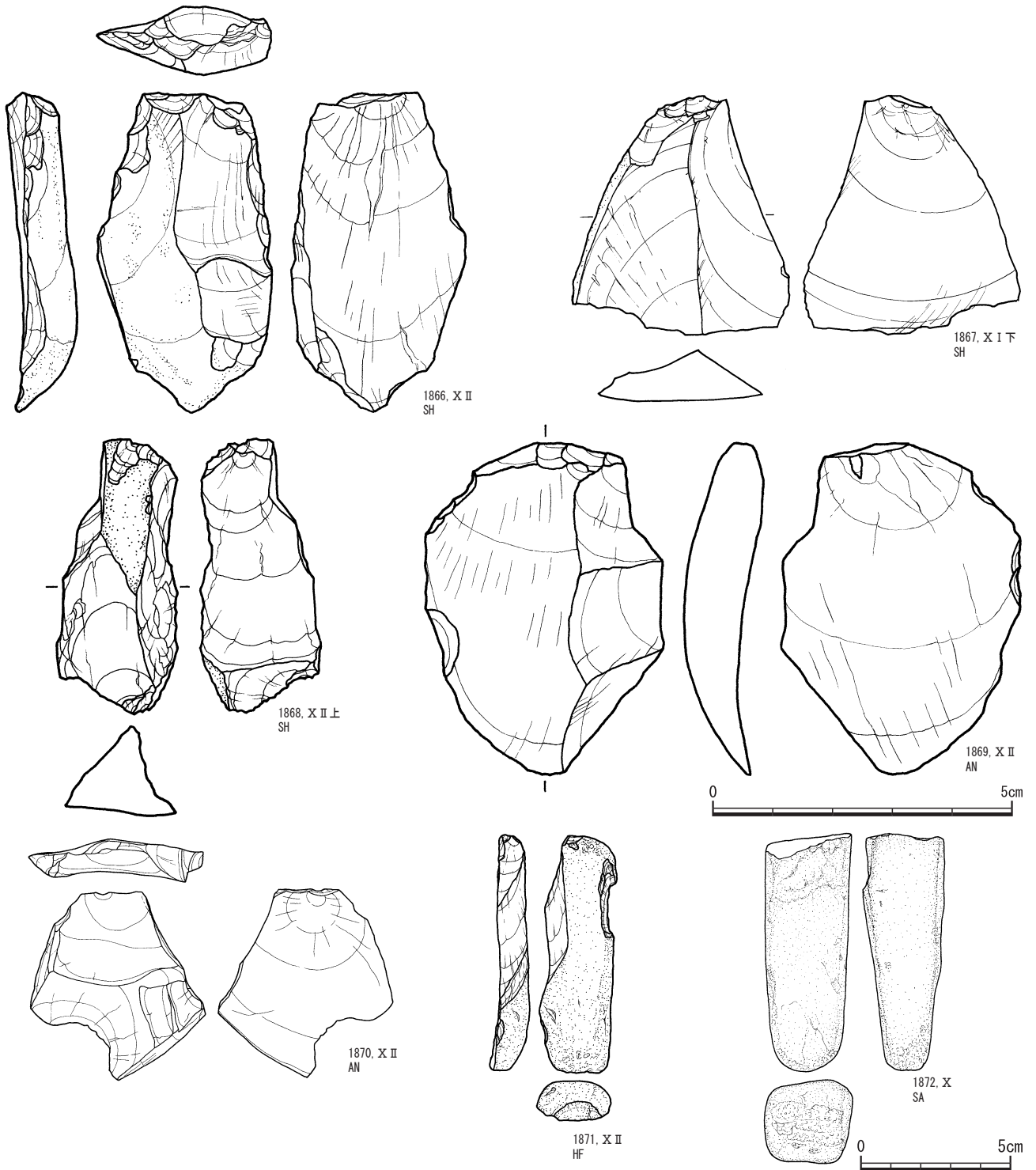
1727・1728は石核、1714は玉髄・1715は頁岩・1716は黒曜石Ⅲ類のナイフ形石器、1717は砂岩の細石刃である。

第27エリア

耳取遺跡G・H-18・19区に分布し、第51・第52の2ブロックで構成される。使用石材は、黒曜石Ⅲ類が主体で、ブロック内では黒曜石Ⅱ類と玉髄が数点確認され、ブロック外



第680図 第三文化層第27エリア第51ブロック出土石器実測図(3)



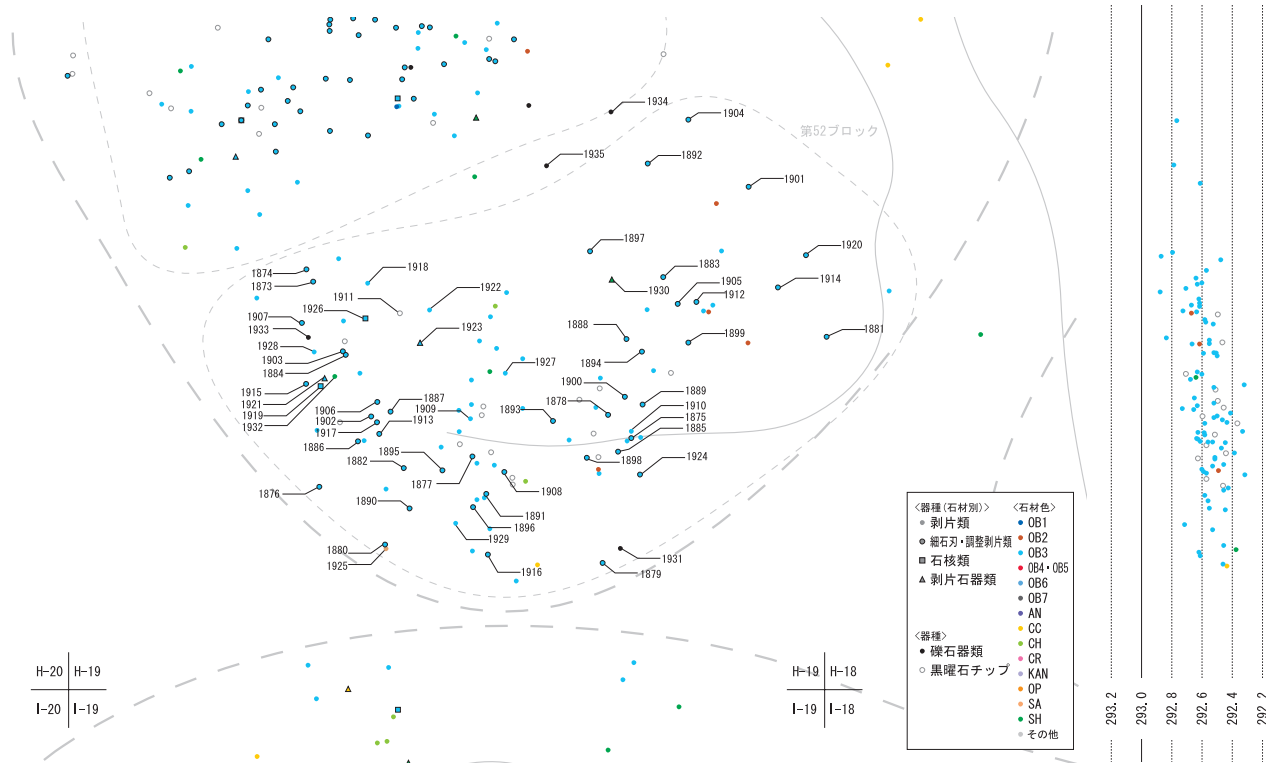
第681図 第三文化層第27エリア第51ブロック出土石器実測図(4)

第147 第三文化層第26エリア出土石器観察表(7)

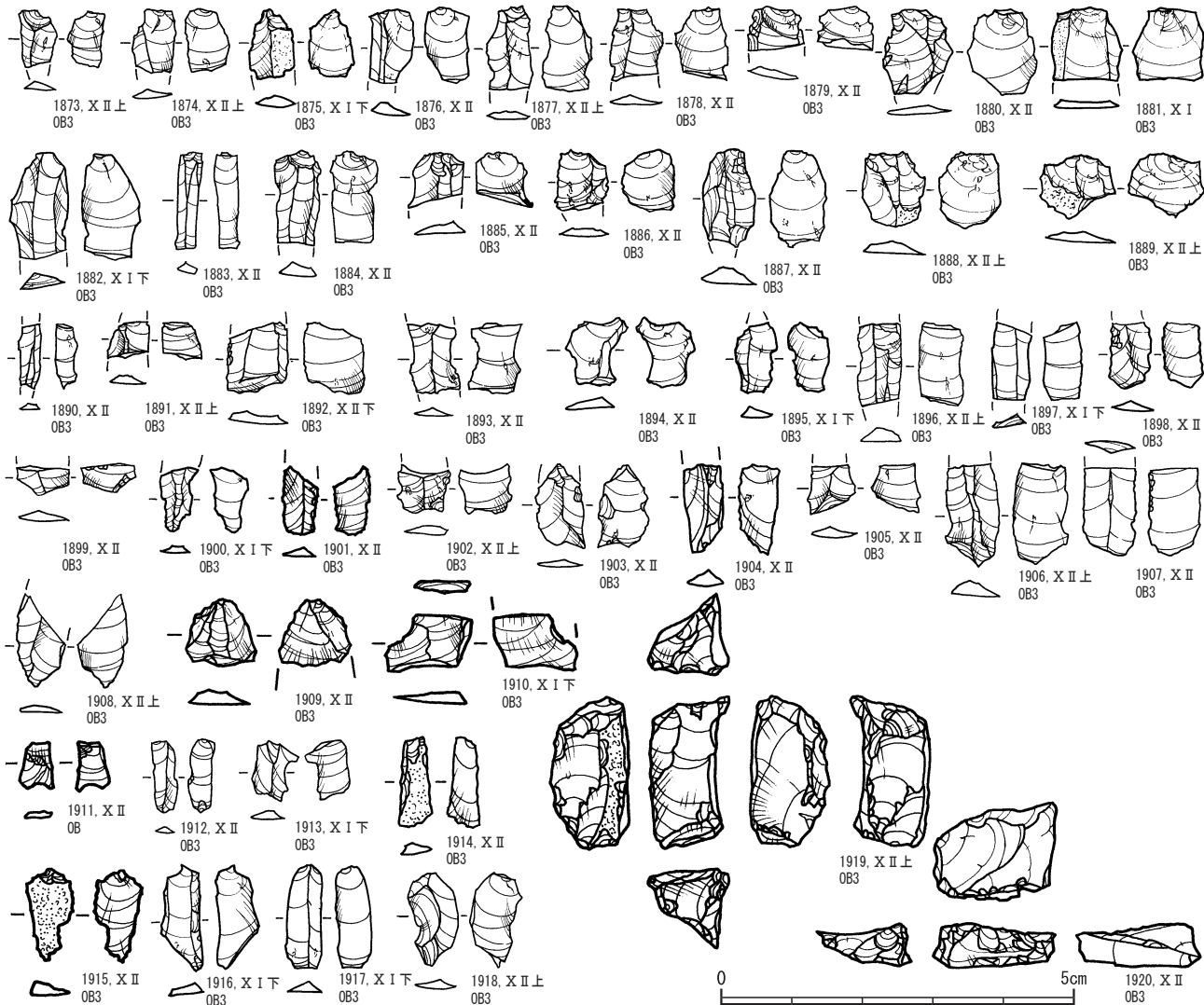
挿入No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
675	1710	A26	B00	二次加工痕剥片	-	SH	33.1	16	6.1	3.8	▲5321(I-19/X II)
675	1711	A26	B00	細石刃核	-	OB3	13.4	20.8	19.7	1.1	▲5309(I-19/X II下)
675	1712	A26	B00	両極石核	-	CH	25.8	11.6	9.1	3.7	▲3624(I-19/X)
675	1713	A26	B00	楔形石器	-	SH	22.4	18.8	10.2	3.6	▲4298(I-18/X)
675	1714	A26	B00	ナイフ形石器	-	CC	31.4	11.7	10.4	1.9	▲5311(H-19/X II)
675	1715	A26	B00	ナイフ形石器	-	SH1	35.4	8.7	4.9	1.3	▲4371(I-19/X II)
675	1716	A26	B00	ナイフ形石器	-	OB3	35.7	12.5	6.6	2.2	▲4371(I-19/X II)
675	1717	A26	B00	剥片	-	SH	33.1	7.4	3.9	0.72	▲5320(I-19/X II)
675	1718	A26	B00	二次加工痕剥片	-	SH	19.1	12.1	3	0.45	▲4240(I-18/X)
676	1719	A26	B00	剥片	-	SH	27.4	20.6	6.4	3.6	▲4356(I-18/X II)
676	1720	A26	B00	削器	-	SH	33.9	21.2	6.7	4.2	▲4538(I-17/X)
676	1721	A26	B00	微細剥離痕剥片	-	SH	29.6	29.6	6.6	4	▲5129(I-18/X)

第148表 第三文化層第26エリア出土石器観察表(8)

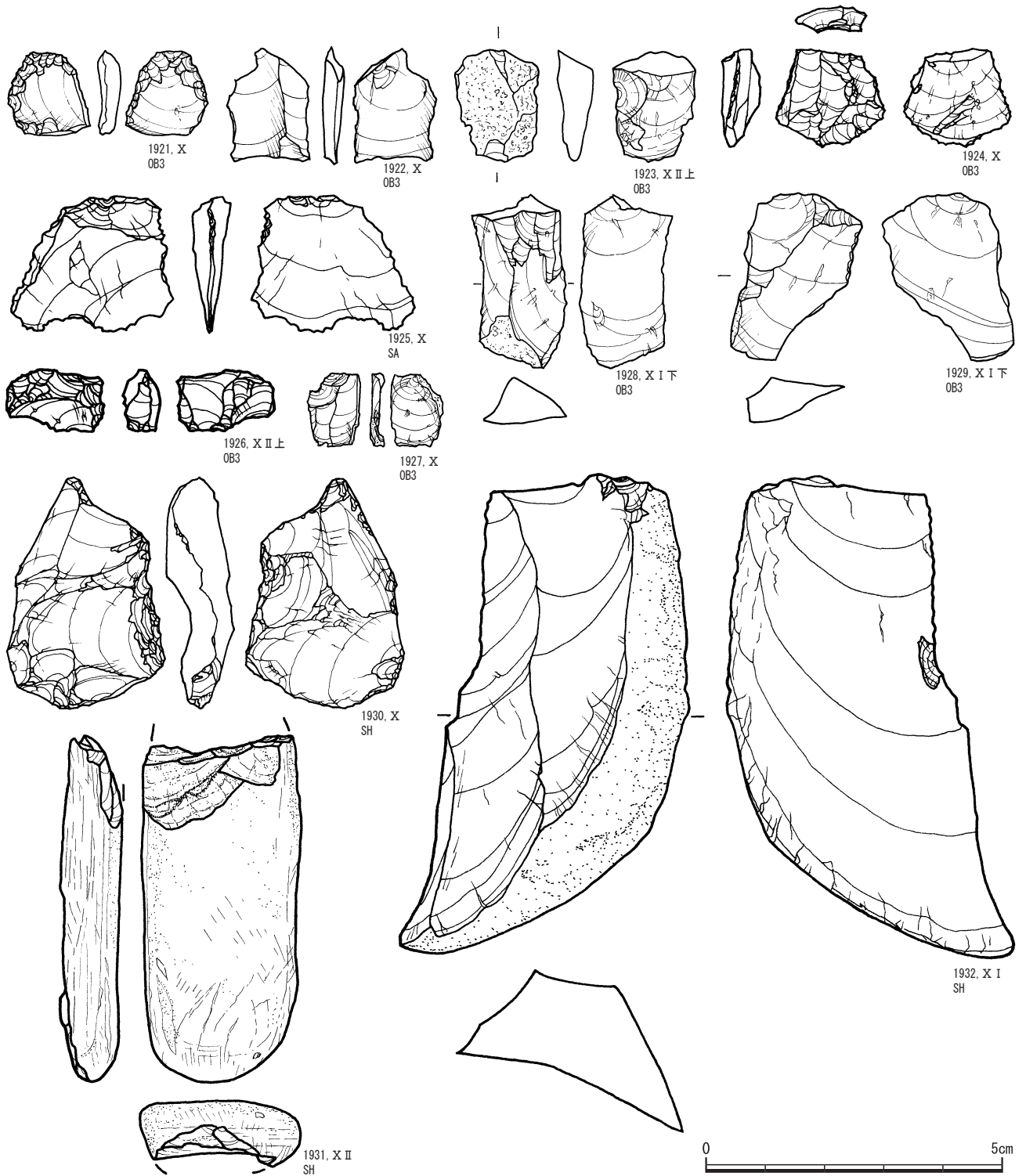
挿入No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
676	1722	A26	B00	二次加工痕剥片	-	SH	40.5	26.7	12.4	7.5	▲5127(I-19/X)
676	1723	A26	B00	微細剥離痕剥片	-	SH	17.7	27	4.6	1.6	▲5626(I-19/X)
676	1724	A26	B00	剥片	-	SH	35.8	19.4	5.6	3.7	▲4086(I-18/X)
676	1725	A26	B00	剥片	-	SH	33.9	22.6	9	4.6	▲4177(I-18/X)
676	1726	A26	B00	剥片	-	SA	54.3	29.6	11	18	▲3699(I-19/X II)
676	1727	A26	B00	石核	-	OB3	18.9	20.6	20	6.9	▲11459(I-18/X II下)
676	1728	A26	B00	細石刃核	-	OB3	18.2	25.7	8.4	3	▲5074(I-19/X II)
676	1729	A26	B00	石核	-	SH	34.6	30.2	15.8	18	▲11349(J-18/X)
676	1730	A26	B00	石核	-	SH	24	21.1	40	17	▲5121(I-19/X)
676	1731	A26	B00	ハンマー	-	SH	103.8	29.6	39.8	102	▲4836(I-19/X)
676	1732	A26	B00	ハンマー	精製調整	SA	64.2	27.8	23.2	76	▲5119(I-19/X)



第682図 第Ⅲ文化層第27エリア石器出土状況図(2)



第683図 第Ⅲ文化層第27エリア第52ブロック出土石器実測図(1)

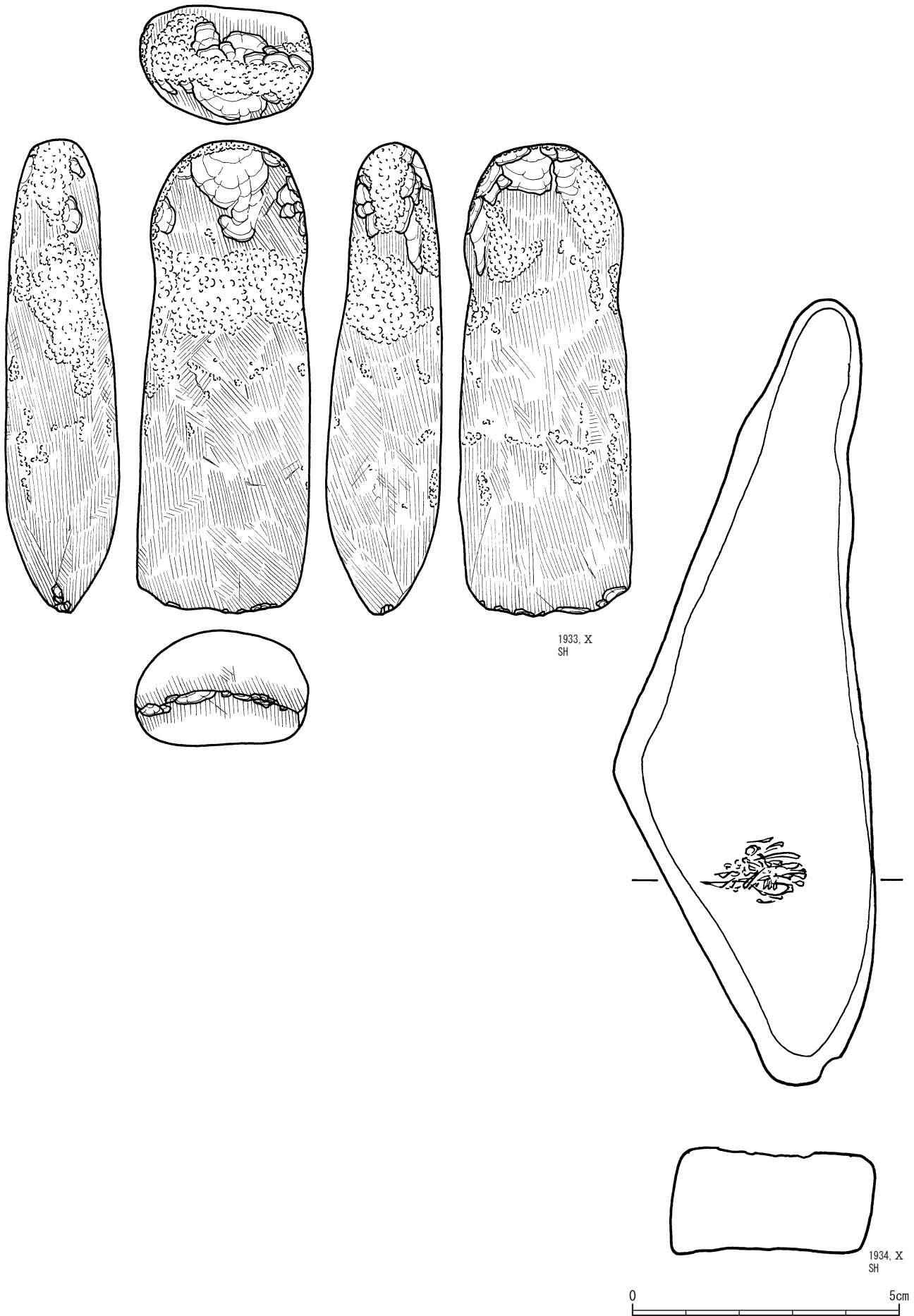


第684図 第三文化層第27エリア第52ブロック出土石器実測図(2)

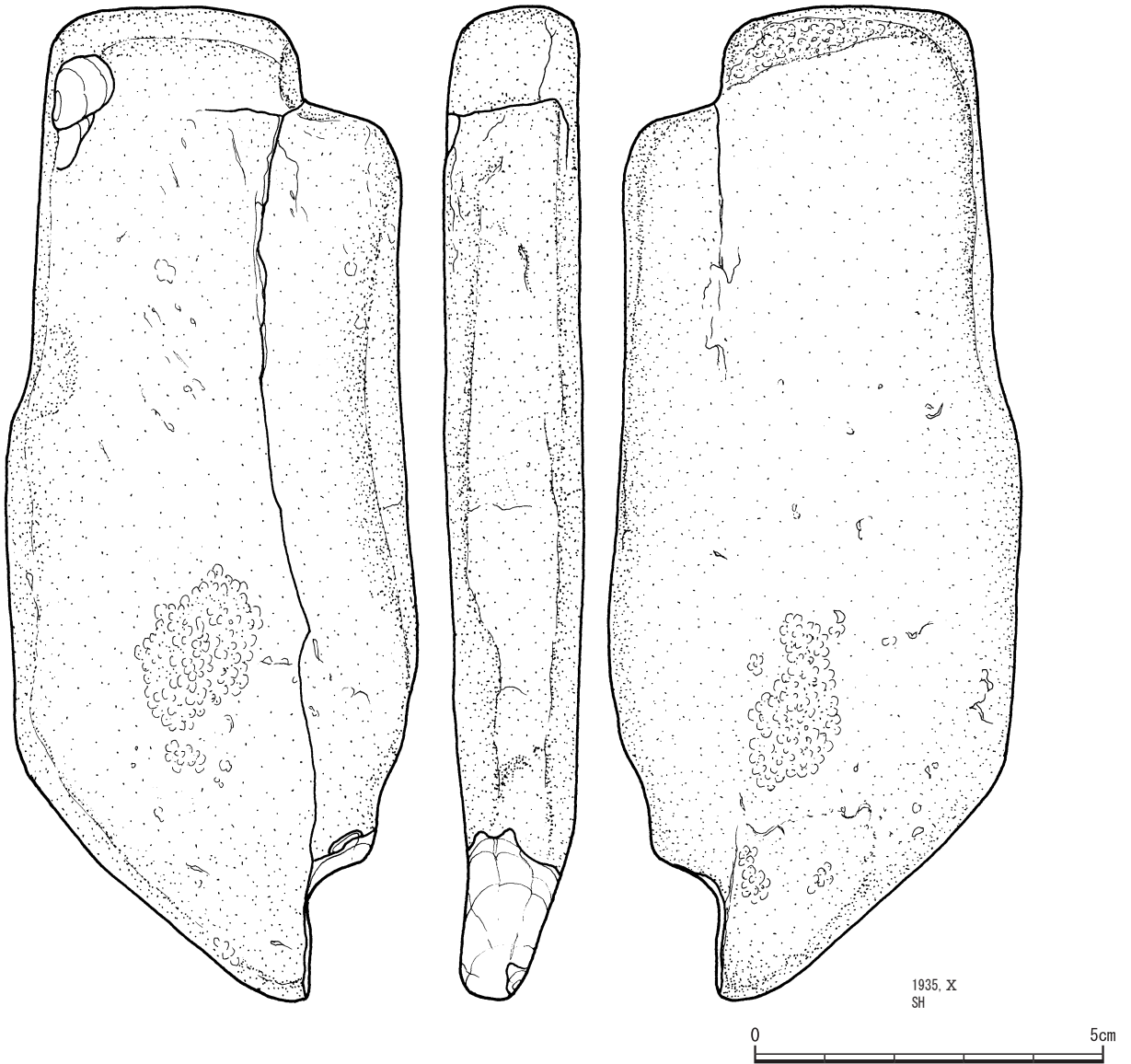
では頁岩が確認されている。なお、出土層位はX II層が主体で、先の第26エリアとは20cm程のレベル差があり、第26エリアに先行する石器群である。

第51ブロックの1844は打面及び作業面再生剥片、1845は角礫素材の細石刃核で、右側面に底面を打面とした先行する細石刃作業面が残る。なお、背面には、横方向からの石核調整剥離が見られる。1846は作業面再生剥片、1847は角礫素材の細石刃核である。1848は調整打面細石刃核で、背面は横方向からの剥離で石核調整が行われている。なお、細石刃剥離終

了後は、横方向からの小剥離を設け、削器として再生している。1849は背面に下縁部から石核調整を持つもので、打面は横方向からの1回の加撃で造られる。1850は角礫素材で、背面は礫面で構成し、打面調整は頻繁に実施している。1852は角礫素材で、礫面が背面の一部・左側面・底面に残される。なお、背面は横方向からの数回の加撃で整形される。1851は角礫素材で、打面の一部・右側縁・底面に礫面を残す。1853はほぼ残核状態で、打面は残存しない。背面と底面に礫面を残す。1855は4分の1分割礫素材で、有効作業面は限定され



第685図 第三文化層第27エリア第52ブロック出土石器実測図(3)



第686図 第三文化層第27エリア第52ブロック出土石器実測図(4)

第149表 第三文化層第27エリア出土石器観察表(1)

種別No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
678	1733	A27	B51	細石刃	-	OB3	9.8	4.7	1.4	0.03	▲4961(H-19/X II上)
678	1734	A27	B51	細石刃	-	OB3	10.4	5.2	2.5	0.09	▲5163(G-19/X II)
678	1735	A27	B51	細石刃	-	OB3	9.7	5.6	1.8	0.11	▲5223(H-19/X II)
678	1736	A27	B51	細石刃	-	OB3	7.6	6.8	1.4	0.06	▲4913(H-19/X I)
678	1737	A27	B51	細石刃	-	OB3	9.9	6.2	1.3	0.08	▲5225(H-19/X II)
678	1738	A27	B51	細石刃	-	OB3	9	5.2	1.8	0.08	▲4956(H-19/X I下)
678	1739	A27	B51	細石刃	-	OB3	10.3	5.1	1.6	0.07	▲5258(H-19/X II)
678	1740	A27	B51	細石刃	-	OB3	9	3.5	1.6	0.03	▲5653(H-19/X II下)
678	1741	A27	B51	細石刃	-	OB3	11.8	5.5	1.2	0.06	▲4911(H-19/X I下)
678	1742	A27	B51	細石刃	-	OB3	11.2	7.4	2.5	0.15	▲5247(H-19/X II)
678	1743	A27	B51	細石刃	-	OB3	9.5	6.5	2	0.1	▲5193(G-19/X II)
678	1744	A27	B51	細石刃	-	OB3	8.1	8.5	2.2	0.13	▲5192(G-19/X II)
678	1745	A27	B51	細石刃	-	OB3	5.7	6.2	1.1	0.03	▲4859(G-19/X II)
678	1746	A27	B51	細石刃	-	OB3	6.3	7.6	1.1	0.03	▲4891(H-19/X II上)
678	1747	A27	B51	細石刃	-	OB3	7.9	7.1	1.6	0.05	▲4953(H-19/X II上)
678	1748	A27	B51	細石刃	-	OB3	8.8	8.8	1.5	0.1	▲4862(G-19/X II上)
678	1749	A27	B51	細石刃	-	OB3	8.5	8.2	1.7	0.07	▲5168(G-19/X II)
678	1750	A27	B51	細石刃	-	OB3	10.4	9.3	2.3	0.15	▲5153(G-19/X II上)
678	1751	A27	B51	剥片	-	OB3	12.3	8.9	2.8	0.17	▲5150(G-19/X II上)
678	1752	A27	B51	細石刃	-	OB3	7.7	7.5	1.9	0.12	▲5205(H-19/X II)
678	1753	A27	B51	細石刃	-	OB3	9	7.4	1.6	0.08	▲4946(H-19/X I下)
678	1754	A27	B51	細石刃	-	OB3	13.1	6.7	1.7	0.12	▲5209(H-19/X II)
678	1755	A27	B51	細石刃	-	OB3	10.3	7.1	3	0.19	▲4948(H-19/X II上)
678	1756	A27	B51	細石刃	-	OB3	13.3	5.6	1.9	0.12	▲4875(G-19/X I下)
678	1757	A27	B51	細石刃	-	OB3	11.6	5.4	2.4	0.13	▲5281(H-19/X II)
678	1758	A27	B51	細石刃	-	OB3	12.3	3.8	2	0.08	▲5705(H-19/X II)

第150表 第三文化層第27エリア出土石器観察表(2)

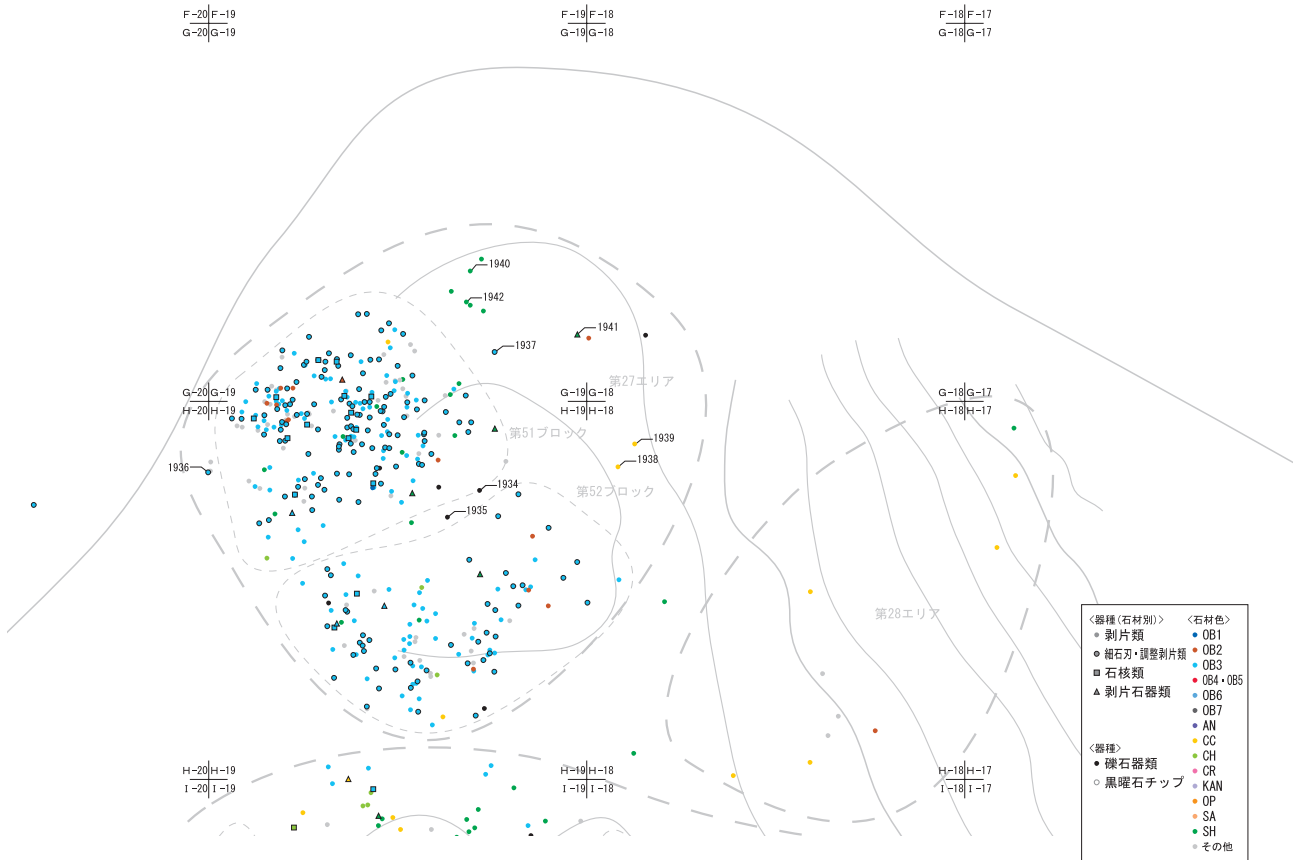
種別No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
678	1759	A27	B51	細石刃	-	OB3	14.4	4.3	1.9	0.08	▲4879(G-19/X II上)
678	1760	A27	B51	細石刃	-	OB3	13.5	6.1	1.6	0.13	▲5165(G-19/X II)
678	1761	A27	B51	細石刃	-	OB3	11.5	7	3.3	0.22	▲5251(H-19/X II)
678	1762	A27	B51	ファーストフレイク	-	OB3	15.8	6.2	2.4	0.2	▲5214(H-19/X II)
678	1763	A27	B51	細石刃	-	OB3	15.3	7.9	2	0.21	▲4934(G-19/X II上)
678	1764	A27	B51	細石刃	-	OB3	13.1	8.5	2.2	0.23	▲4895(H-19/X II上)
678	1765	A27	B51	細石刃	-	OB3	12.4	7.3	1.6	0.14	▲4873(H-19/X I下)
678	1766	A27	B51	細石刃	-	OB3	14.4	6.6	1.8	0.16	▲4890(H-19/X II上)
678	1767	A27	B51	細石刃	-	OB3	16.8	6.9	1.7	0.14	▲5161(G-19/X II)
678	1768	A27	B51	細石刃	-	OB3	16	7.1	1.8	0.2	▲4921(H-19/X II上)
678	1769	A27	B51	細石刃	-	OB3	17.7	7.1	3.3	0.36	▲5172(G-19/X II)
678	1770	A27	B51	細石刃	-	OB3	18.3	8.8	2	0.38	▲5184(G-19/X II)
679	1771	A27	B51	細石刃	-	OB3	7.2	5	2	0.05	▲5169(G-19/X II)
679	1772	A27	B51	細石刃	-	OB3	5.5	6.2	1.3	0.04	▲5164(G-19/X II)
679	1773	A27	B51	細石刃	-	OB3	7.1	6.5	1.2	0.06	▲4919(H-19/X II上)
679	1774	A27	B51	細石刃	-	OB3	7.8	6.1	1.3	0.03	▲5704(H-19/X II)
679	1775	A27	B51	細石刃	-	OB3	10.8	6.7	1.7	0.09	▲4947(H-19/X II上)
679	1776	A27	B51	細石刃	-	OB3	9.8	8	1.4	0.09	▲5162(G-19/X II)
679	1777	A27	B51	細石刃	-	OB3	10.4	5.5	1.6	0.07	▲5188(H-19/X II)
679	1778	A27	B51	細石刃	-	OB3	9.6	5	2.2	0.1	▲4937(H-19/X II上)
679	1779	A27	B51	細石刃	-	OB3	9.6	5.4	1.9	0.1	▲5173(G-19/X II)
679	1780	A27	B51	細石刃	-	OB3	16.6	5.7	1.9	0.12	▲5248(H-19/X II)
679	1781	A27	B51	細石刃	-	OB3	10	6.8	2.4	0.12	▲5207(H-19/X II)
679	1782	A27	B51	細石刃	-	OB3	10	8.3	0.9	0.06	▲4968(H-19/X II上)
679	1783	A27	B51	細石刃	-	OB3	10.6	10.1	1.6	0.13	▲5204(H-19/X II)
679	1784	A27	B51	細石刃	-	OB3	14.3	6.1	2.4	0.15	▲5229(H-19/X II)

第151表 第三文化層第27エリア出土石器観察表(3)

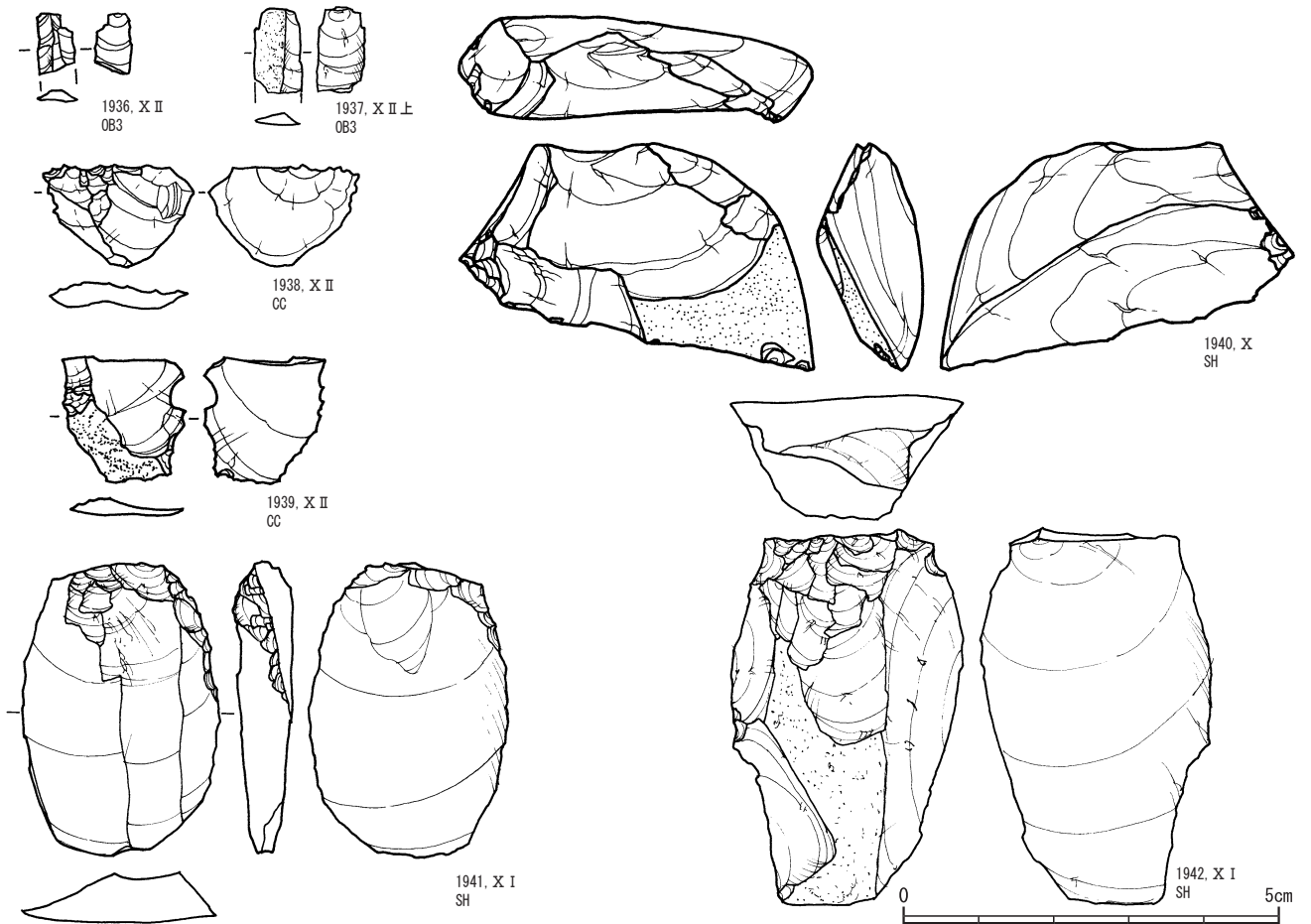
探洞No	図No	エリア	フロア	分類2	分類3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
679	1785	A27	B51	細石刃	-	OB3	16.5	7.6	1.9	0.15	▲6886(H-19/X II)
679	1786	A27	B51	細石刃	-	OB3	16.5	8.1	2.1	0.3	▲4927(H-19/X I下)
679	1787	A27	B51	細石刃	-	OB3	6.4	6.2	0.7	0.02	▲4945(H-19/X I下)
679	1788	A27	B51	細石刃	-	OB3	10	5.1	1.9	0.06	▲5160(G-19/X II)
679	1789	A27	B51	細石刃	-	OB3	8.8	7	1.9	0.09	▲5231(H-19/X II)
679	1790	A27	B51	細石刃	-	OB3	7.7	5.3	1.6	0.02	▲5264(H-19/X II)
679	1791	A27	B51	細石刃	-	OB3	9.3	6.4	3.1	0.07	▲5175(G-19/X II)
679	1792	A27	B51	細石刃	-	OB3	8.2	7.9	2	0.05	▲4861(G-19/X II)
679	1793	A27	B51	細石刃	-	OB3	5.5	9.4	2.6	0.13	▲4914(H-19/X II上)
679	1794	A27	B51	細石刃	-	OB3	9.4	5.7	1.2	0.03	▲5156(G-19/X II)
679	1795	A27	B51	細石刃	-	OB3	12.9	6.3	2.1	0.16	▲5148(G-19/X II上)
679	1796	A27	B51	細石刃	-	OB3	10.9	7.4	1.1	0.04	▲5221(H-19/X II)
679	1797	A27	B51	細石刃	-	OB3	11.6	6.6	2.1	0.12	▲5187(H-19/X II)
679	1798	A27	B51	細石刃	-	OB3	9.7	6.9	1.9	0.08	▲4938(H-19/X I下)
679	1799	A27	B51	細石刃	-	OB3	12.4	6.6	1.1	0.09	▲5706(H-19/X II)
679	1800	A27	B51	細石刃	-	OB3	11.8	8.9	1.9	0.21	▲4950(H-19/X II上)
679	1801	A27	B51	細石刃	-	OB3	13.4	5.6	1.8	0.14	▲4952(H-19/X I下)
679	1802	A27	B51	細石刃	-	OB3	13.2	7	1.4	0.14	▲4865(G-19/X I下)
679	1803	A27	B51	細石刃	-	OB3	12.4	4.8	2	0.06	▲4949(H-19/X I)
679	1804	A27	B51	細石刃	-	OB3	14.3	4.9	1.5	0.09	▲4884(H-19/X II上)
679	1805	A27	B51	ファストフレイク	-	OB3	13.1	5.3	1.7	0.13	▲4864(G-19/X II上)
679	1806	A27	B51	細石刃	-	OB3	16.2	7	1.9	0.14	▲4868(G-19/X I下)
679	1807	A27	B51	細石刃	-	OB3	14.7	8.7	2.6	0.24	▲5215(H-19/X II)
679	1808	A27	B51	細石刃	-	OB3	14.8	6.8	2.6	0.22	▲4897(H-19/X II上)
679	1809	A27	B51	細石刃	-	OB3	14.5	7.4	3	0.27	▲4855(G-19/X I下)
679	1810	A27	B51	細石刃	-	OB3	13.1	6.4	1.5	0.13	▲4922(H-19/X I下)
679	1811	A27	B51	細石刃	-	OB3	16.6	5.5	2.7	0.16	▲4942(H-19/X II上)
679	1812	A27	B51	細石刃	-	OB3	8.5	3.2	1.2	0.02	▲5210(H-19/X II)
679	1813	A27	B51	細石刃	-	OB3	10.7	5.6	2	0.05	▲5259(H-19/X II)
679	1814	A27	B51	細石刃	-	OB3	10.2	3.5	1.9	0.04	▲5263(H-19/X II)
679	1815	A27	B51	細石刃	-	OB3	12.4	3.3	1.9	0.04	▲4929(H-19/X I下)
679	1816	A27	B51	細石刃	-	OB3	10.9	4.4	1.9	0.07	▲4880(H-19/X I下)
679	1817	A27	B51	細石刃	-	OB3	13	5.7	1.5	0.12	▲5202(H-19/X II)
679	1818	A27	B51	ファストフレイク	-	OB3	13.5	5.3	1.9	0.09	▲5218(H-19/X II)
679	1819	A27	B51	ファストフレイク	-	OB3	12.1	6.8	1.5	0.08	▲4938(H-19/X II上)
679	1820	A27	B51	ファストフレイク	-	OB3	14.9	5.4	2.3	0.17	▲4863(G-19/X II上)
679	1821	A27	B51	剥片	-	OB3	11.7	7	1.5	0.08	▲4893(H-19/X II上)
679	1822	A27	B51	細石刃	-	OB3	12.6	7.3	4.1	0.22	▲5200(G-19/X II)
679	1823	A27	B51	細石刃	-	OB3	16.6	4.9	2.4	0.16	▲5220(H-19/X II)
679	1824	A27	B51	細石刃	-	OB3	16.9	5.7	2.2	0.18	▲4943(H-19/X II上)
679	1825	A27	B51	細石刃	-	OB3	15.7	6.3	1.9	0.16	▲5267(H-19/X II)
679	1826	A27	B51	細石刃	-	OB3	13.6	6.8	1.5	0.13	▲4888(H-19/X I下)
679	1827	A27	B51	細石刃	-	OB3	12.1	5.8	2.9	0.14	▲5262(H-19/X II)
679	1828	A27	B51	細石刃	-	OB3	12	5.9	1.2	0.07	▲5237(H-19/X II)
679	1829	A27	B51	細石刃	-	OB3	12.5	5	2.2	0.09	▲4940(H-19/X I下)
679	1830	A27	B51	細石刃	-	OB3	13	7.5	2	0.14	▲4960(H-19/X I下)
679	1831	A27	B51	細石刃	-	OB3	14.9	8.3	4.4	0.22	▲5170(G-19/X II)
679	1832	A27	B51	剥片	-	OB3	15.6	9.4	3	0.32	▲5278(H-19/X I)
679	1833	A27	B51	細石刃	-	OB3	15.5	7.2	2.8	0.25	▲4901(G-19/X I下)
679	1834	A27	B51	細石刃	-	OB3	14.2	6.6	1.7	0.15	▲5265(H-19/X II)
679	1835	A27	B51	細石刃	-	OB3	16.4	6.8	2.4	0.21	▲4951(H-19/X I下)
679	1836	A27	B51	細石刃	-	OB3	14.3	7.5	1.9	0.17	▲4858(G-19/X I下)
679	1837	A27	B51	剥片	-	OB3	16.5	9.3	2.5	0.27	▲4944(H-19/X II上)
679	1838	A27	B51	細石刃	-	OB3	20.4	7.6	2.1	0.35	▲5254(H-19/X II)
679	1839	A27	B51	ファストフレイク	-	OB3	22.6	9.7	4.3	0.27	▲5199(G-19/X II)
679	1840	A27	B51	ファストフレイク	-	OB3	20	8.7	2.4	0.27	▲4924(H-19/X II)
679	1841	A27	B51	細石刃	-	OB3	18.5	7.5	5.8	0.35	▲4907(H-19/X II)
679	1842	A27	B51	ファストフレイク	-	OB3	23.8	7.7	4.5	0.54	▲4898(H-19/X I下)
679	1843	A27	B51	剥片	-	OB3	18.5	10.6	4.6	0.41	▲5181(G-19/X II)
679	1844	A27	B51	打面再生剥片	-	OB3	7	28.6	10.9	0.87	▲5277(H-19/X II)
680	1845	A27	B51	細石刃核	-	OB3	16.1	11.5	8.8	1.7	▲4930(H-19/X II上)
680	1846	A27	B51	細石刃核	-	OB3	15.1	6.3	7.7	0.54	▲4896(H-19/X II上)
680	1847	A27	B51	細石刃核	-	OB3	11	19.3	11.3	2	▲5243(H-19/X II)
680	1848	A27	B51	細石刃核	-	OB3	13.6	16	6.5	1.2	▲5256(H-19/X II)
680	1849	A27	B51	細石刃核	-	OB3	14.1	16.6	6.6	1.3	▲4905(H-19/X I下)
680	1850	A27	B51	細石刃核	-	OB3	15.1	20.9	7.4	2.2	▲5166(G-19/X II)
680	1851	A27	B51	細石刃核	-	OB3	13.8	15.8	17.5	3.6	▲4915(H-19/X I下)
680	1852	A27	B51	細石刃核	-	OB3	18.4	19.4	11.7	3.2	▲5189(G-19/X II)
680	1853	A27	B51	細石刃核	-	OB3	15.5	21	5.5	1.5	▲5182(G-19/X II)
680	1854	A27	B51	細石刃核	-	OB3	19.1	14.5	5.1	1.4	▲5249(H-19/X II)
680	1855	A27	B51	石核	-	OB3	26.6	10.5	11.4	2.7	▲5277(H-19/X II)
680	1856	A27	B51	石核	-	OB3	14.4	12.9	20.1	4.1	▲4868(G-19/X I下)
680	1857	A27	B51	ブランク	-	OB3	13.6	26.8	12.6	4.9	▲5185(G-19/X II)
680	1858	A27	B51	ナイフ形石器	-	SH	37	15.4	7.7	5.1	▲5206(H-19/X II)
680	1859	A27	B51	石鏃	-	OB2	16	9.1	3.8	0.42	▲4900(G-19/X I)
680	1860	A27	B51	二次加工剥片	-	OB3	25.3	16.9	11.2	3	▲4959(H-19/X II上)
680	1861	A27	B51	剥片	-	OB3	28.1	10.4	7.5	1.3	▲4867(G-19/X I下)
680	1862	A27	B51	折断剥片	-	OB3	23.5	10.4	6.4	1.2	▲4955(H-19/X II上)

第152表 第三文化層第27エリア出土石器観察表(4)

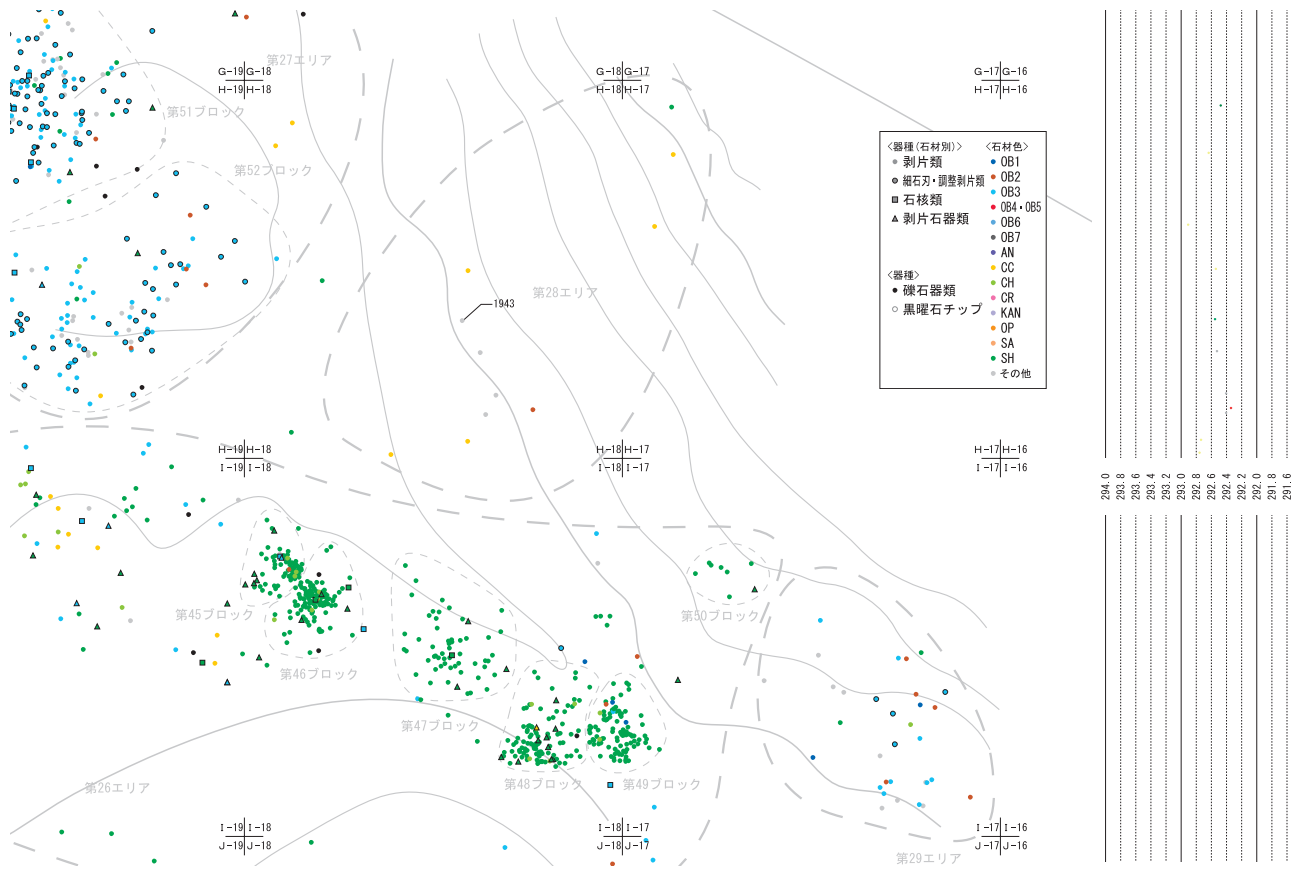
探洞No	図No	エリア	フロア	分類2	分類3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
680	1863	A27	B51	作業面再生剥片	-	OB3	16.1	9.1	6.8	0.68	▲4904(H-19/X I下)
680	1864	A27	B51	作業面再生剥片	-	OB3	9	18.5	10.5	0.88	▲4877(G-19/X II上)
680	1865	A27	B51	剥片	-	SH	20.6	12	5.2	1.2	▲5255(H-19/X II)
681	1866	A27	B51	二次加工剥片	-	SH	53.7	29.5	12	15	▲5271(H-19/X II)
681	1867	A27	B51	剥片	-	SH	40.2	36.4	9	12	▲4910(H-19/X I下)
681	1868	A27	B51	剥片	-	SH	46.2	20.5	14.9	12	▲5151(G-19/X II上)
681	1869	A27	B51	剥片	-	AN	58.2	40.4	12	23.18	▲5154(G-19/X II)
681	1870	A27	B51	剥片	-	AN	63.2	58.7	11.6	27.94	▲5159(G-19/X II)
681	1871	A27	B51	ハンマー	-	HF	80	26.4	13.8	27	▲5274(H-19/X II)
681	1872	A27	B51	ハンマー	-	SA	80	29.2	28.4	88	▲4210(H-19/X)
683	1873	A27	B52	細石刃	-	OB3	8.1	5.5	1.5	0.06	▲4972(H-19/X II上)
683	1874	A27	B52	細石刃	-	OB3	9.2	6.5	1.8	0.1	▲4971(H-19/X II上)
683	1875	A27	B52	細石刃	-	OB3	9.7	6.7	2	0.12	▲5019(H-19/X I下)
683	1876	A27	B52	細石刃	-	OB3	11	6.5	2	0.13	▲5291(H-19/X II)
683	1877	A27	B52	細石刃	-	OB3	12.2	7.3	1.5	0.1	▲4992(H-19/X II上)
683	1878	A27	B52	細石刃	-	OB3	10.6	7.7	1.4	0.1	▲5315(H-19/X II)
683	1879	A27	B52	細石刃	-	OB3	6.4	8.1	1.8	0.04	▲5302(H-19/X II)
683	1880	A27	B52	細石刃	-	OB3	12.3	10	1.5	0.15	▲5294(H-19/X II)
683	1881	A27	B52	細石刃	-	OB3	10.6	10.2	1.5	0.27	▲6846(H-18/X I)
683	1882	A27	B52	細石刃	-	OB3	15.2	8.5	2.2	0.25	▲4987(H-19/X I下)
683	1883	A27	B52	細石刃	-	OB3	13.8	3.8	1.5	0.07	▲5022(H-19/X II)
683	1884	A27	B52	細石刃	-	OB3	13.1	6.9	2	0.16	▲5285(H-19/X II)
683	1885	A27	B52	細石刃	-	OB3	8	8.2	2	0.08	▲5078(H-19/X II)
683	1886	A27	B52	ファストフレイク	-	OB3	9	7.7	1.4	0.11	▲5290(H-19/X II)
683	1887	A27	B52	ファストフレイク	-	OB3	13.8	8.3	2.3	0.27	▲5289(H-19/X II)
683	1888	A27	B52	細石刃	-	OB3	10.9	9.1	2.2	0.19	▲5013(H-19/X II上)
683	1889	A27	B52	細石刃	-	OB3	9.3	11.1	2.3	0.18	▲5011(H-19/X II上)
683	1890	A27	B52	細石刃	-	OB3	9.3	3.4	1.2	0.03	▲5293(H-19/X II)
683	1891	A27	B52	細石刃	-	OB3	5.5	5.8	1.2	0.04	▲4999(H-19/X II上)
683	1892	A27	B52	細石刃	-	OB3	10.4	8.8	2	0.11	▲5645(H-19/X II下)
683	1893	A27	B52	細石刃	-	OB3	10.1	7.6	1.6	0.11	▲5312(H-19/X II)
683	1894	A27	B52	細石刃	-	OB3	10	9.5	2	0.09	▲5319(H-19/X II)
683	1895	A27	B52	細石刃	-	OB3	10	6.1	2	0.08	▲4988(H-19/X I下)
683	1896	A27	B52	細石刃	-	OB3	11.9	6.5	2.6	0.19	▲5001(H-19/X II上)
683	1897	A27	B52	細石刃	-	OB3	11.2	5.7	1.8	0.1	▲5015(H-19/X I下)
683	1898</										



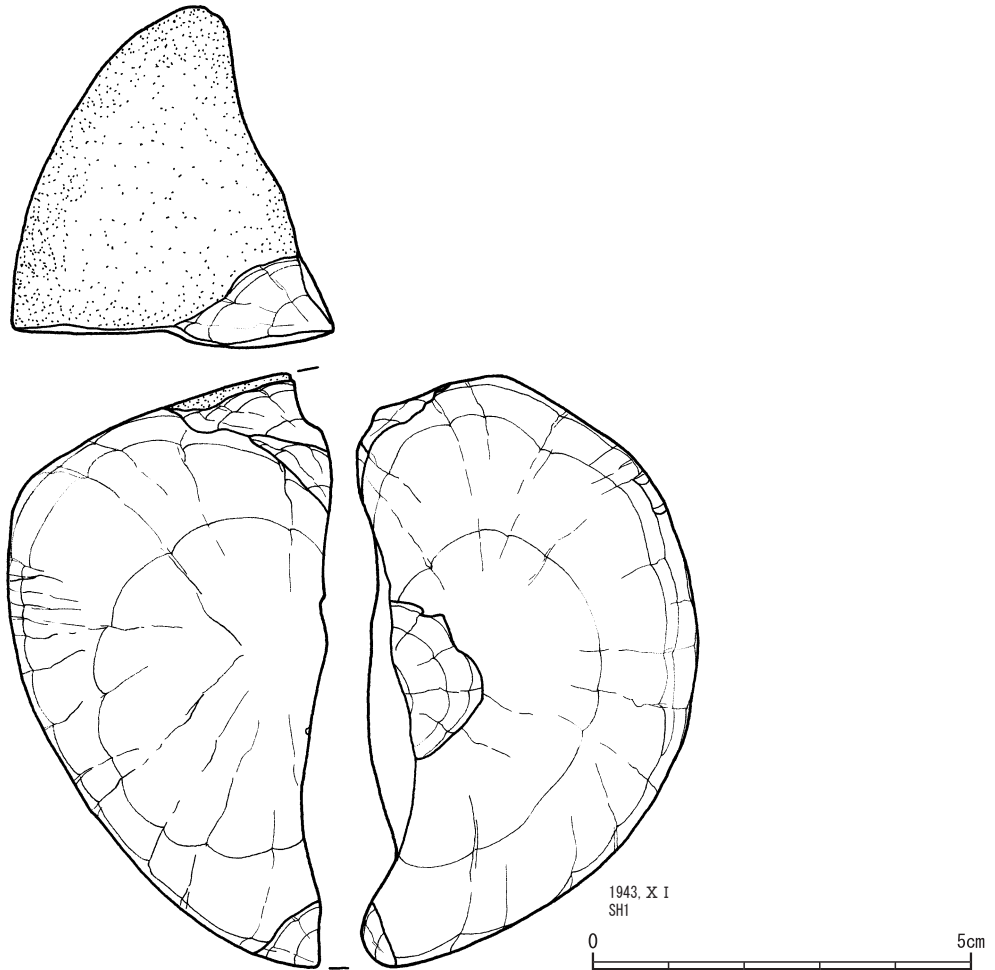
第687図 第Ⅲ文化層第27エリア石器出土状況図(3)



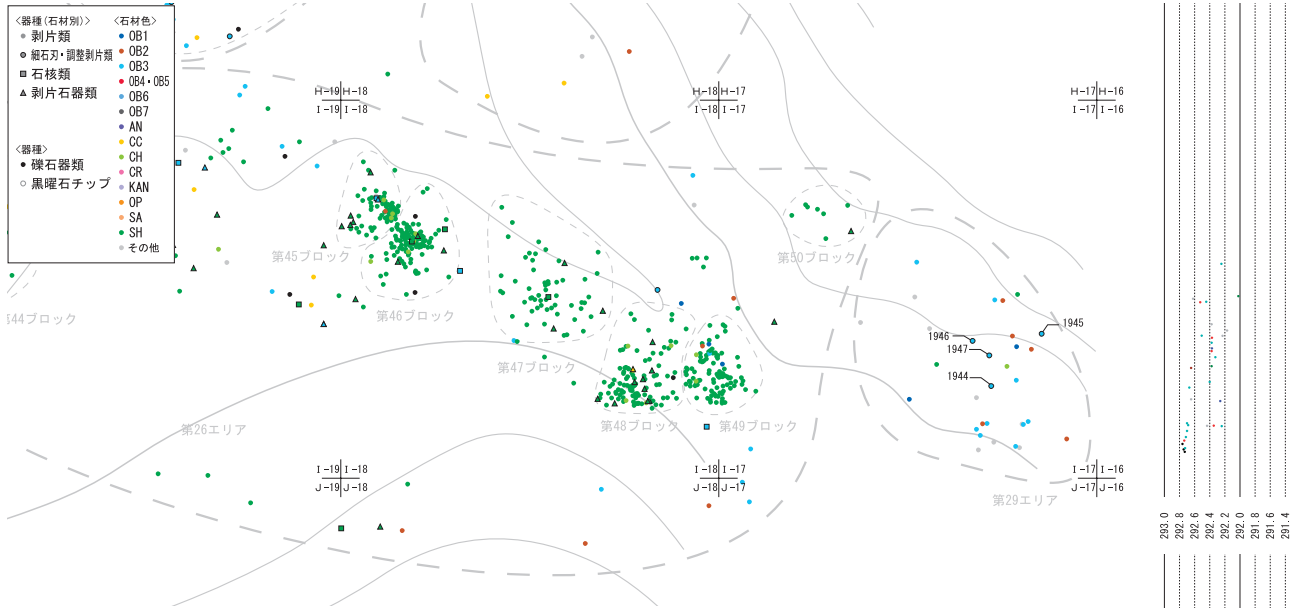
第688図 第Ⅲ文化層第27エリア出土石器実測図



第689図 第Ⅲ文化層第28エリア石器出土状況図



第690図 第Ⅲ文化層第28エリア出土石器実測図



第691図 第三文化層第29エリア石器出土状況図



第692図 第三文化層第29エリア出土石器実測図

第153表 第三文化層第27エリア出土石器観察表 (5)

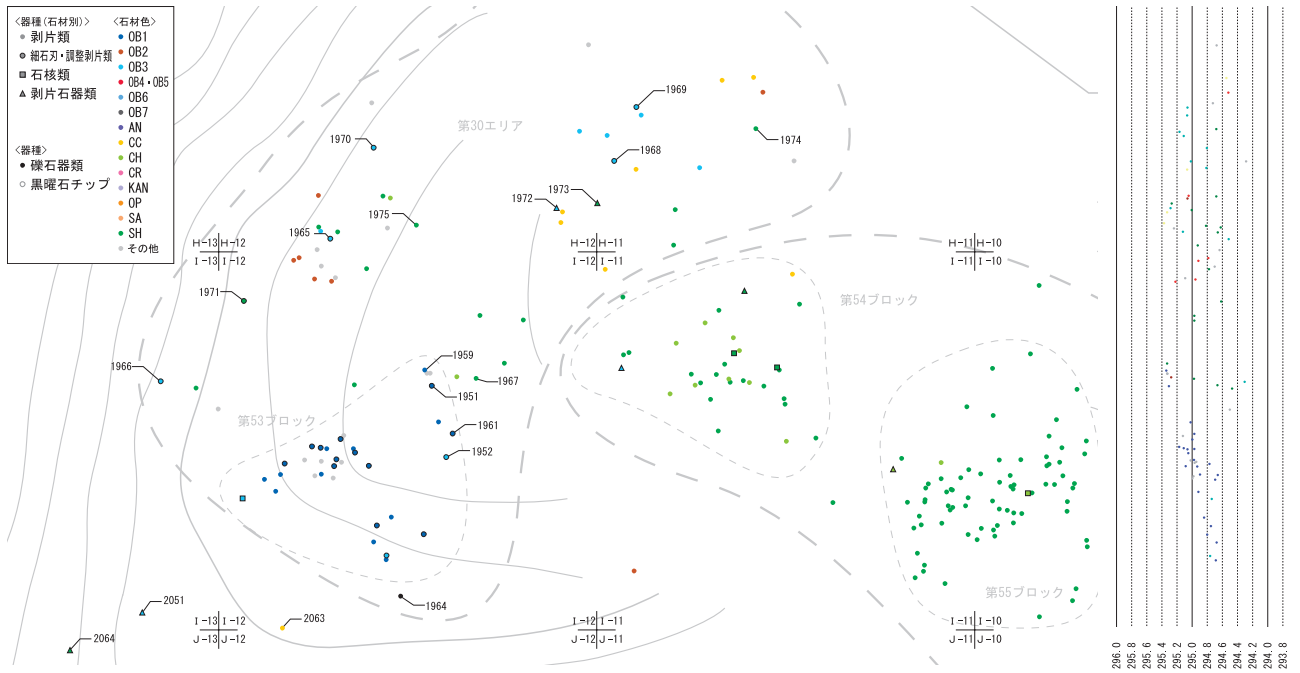
種目No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
688	1936	A27	B00	細石刃	-	OB3	8.3	5.2	1.6	0.04	▲6888(H-20/X II)
688	1937	A27	B00	細石刃	-	OB3	11.6	6.7	1.9	0.15	▲5147(G-19/X II上)
688	1938	A27	B00	剥片	-	CC	13.8	20.2	3.6	0.67	▲5698(H-18/X II)
688	1939	A27	B00	剥片	-	CC	17.2	16.4	2.4	0.68	▲5696(H-18/X II)
688	1940	A27	B00	剥片	-	SH	30.6	47.4	13.9	15	▲5622(G-19/X)
688	1941	A27	B00	二次加工剥片	-	SH	39.6	26.9	7.5	8.4	▲5137(G-19/X I)
688	1942	A27	B00	剥片	-	SH	50.5	31.8	16	26	▲5141(G-19/X I)

第154表 第三文化層第28・第29エリア出土石器観察表

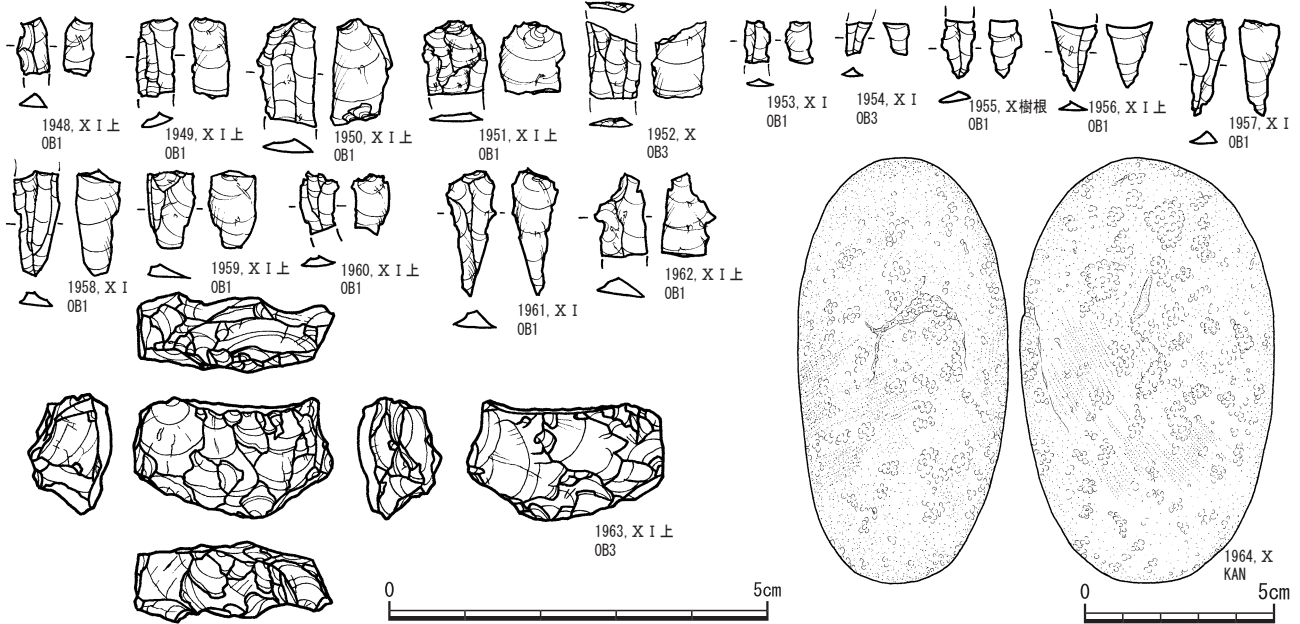
種目No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
690	1943	A28	B00	分割礫	-	SH1	78.8	43.2	43	149	▲5034(H-18/X I)
692	1944	A29	B00	細石刃	-	OB3	9.8	8	3	0.16	▲4565(I-17/X)
692	1945	A29	B00	細石刃	-	OB3	13.3	8.9	2.5	0.24	▲4572(I-17/X)
692	1946	A29	B00	細石刃	-	OB3	8.8	8	1.5	0.11	▲5092(I-17/X I)
692	1947	A29	B00	細石刃	-	OB3	13	4.3	1.2	0.04	▲4715(I-17/X II)
694	1948	A30	B53	細石刃	-	OB1	7.8	4.2	2	0.1	▲4016(I-12/X I上)
694	1949	A30	B53	細石刃	-	OB1	10.8	5.5	1.6	0.09	▲4033(I-12/X I上)
694	1950	A30	B53	細石刃	-	OB1	14.3	8.4	1.8	0.31	▲4034(I-12/X I上)
694	1951	A30	B53	細石刃	-	OB1	9.7	8.8	1	0.18	▲4007(I-12/X I上)
694	1952	A30	B53	細石刃	-	OB3	10.3	7.4	1.2	0.11	▲3691(I-12/X)
694	1953	A30	B53	細石刃	-	OB1	5.8	3.9	1.2	0.01	▲4021(I-12/X I)
694	1954	A30	B53	細石刃	-	OB3	4.4	3.6	1.2	0.01	▲4012(I-12/X I)
694	1955	A30	B53	細石刃	-	OB1	7.9	4.6	1.4	0.03	▲4025(I-12/X樹根)
694	1956	A30	B53	細石刃	-	OB1	8.8	6.2	1.2	0.04	▲4024(I-12/X I上)
694	1957	A30	B53	細石刃	-	OB1	12.9	5.5	2	0.08	▲4014(I-12/X I)

第155表 第三文化層第30・第31エリア出土石器観察表

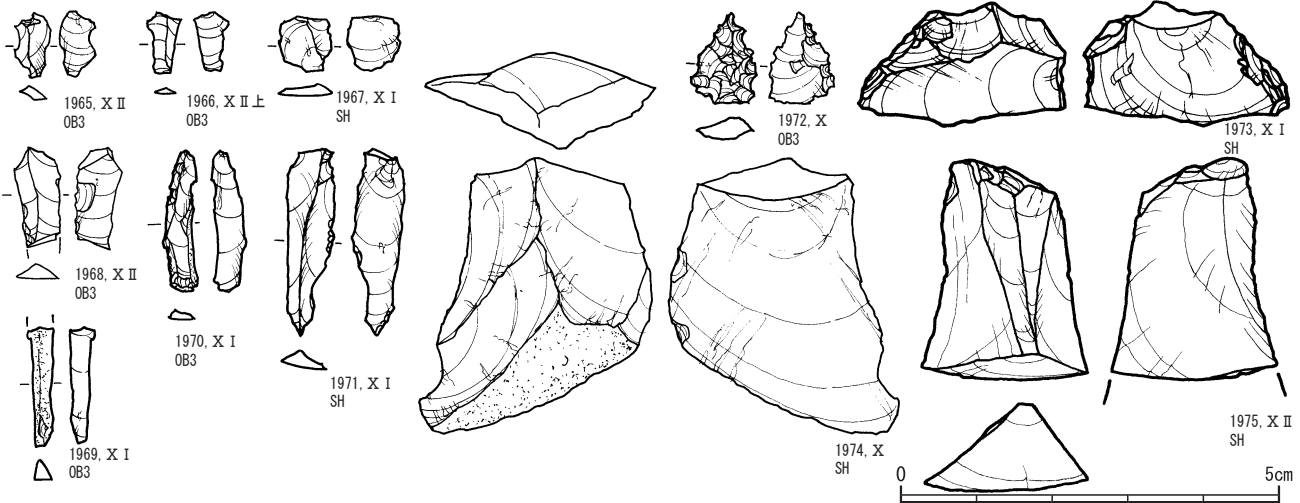
種目No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
694	1958	A30	B53	細石刃	-	OB1	14.1	6	1.8	0.12	▲4011(I-12/X I)
694	1959	A30	B53	剥片	-	OB1	10.5	6.5	1.8	0.13	▲4004(I-12/X I上)
694	1960	A30	B53	細石刃	-	OB1	8.2	5.2	1.8	0.06	▲4018(I-12/X I上)
694	1961	A30	B53	細石刃	-	OB1	16.9	6.3	2.2	0.22	▲4009(I-12/X I)
694	1962	A30	B53	細石刃	-	OB1	11.2	7.3	2.1	0.14	▲4032(I-12/X I上)
694	1963	A30	B53	細石刃核	-	OB3	16.2	26.3	11.5	4.9	▲4038(I-12/X I上)
694	1964	A30	B53	ハンマー	-	KAN	112.6	67.5	58	535	▲3692(I-12/X)
695	1965	A30	B00	細石刃	-	OB3	8.9	5	2	0.05	▲5853(H-12/X II)
695	1966	A30	B00	細石刃	-	OB3	8	4.8	0.9	0.02	▲5852(I-13/X II上)
695	1967	A30	B00	剥片	-	SH	7.4	7.3	1.8	0.11	▲4041(I-12/X I)
695	1968	A30	B00	細石刃	-	OB3	13.6	6.4	2.2	0.13	▲4447(H-11/X II)
695	1969	A30	B00	ファーストフレーク	-	OB3	15.6	3.6	2.2	0.12	▲3963(H-11/X I)
695	1970	A30	B00	細石刃	-	OB3	18.9	4.9	1.6	0.12	▲3949(H-12/X I)
695	1971	A30	B00	細石刃	-	SH	24.9	7.3	2.4	0.39	▲4044(I-12/X I)
695	1972	A30	B00	石鏃	-	OB3	12.4	8.8	3	0.28	▲3956(H-12/X)
695	1973	A30	B00	微細剥離剥片	-	SH	16.8	27.5	7	2.1	▲3959(H-11/X I)
695	1974	A30	B00	剥片	-	SH	36.7	30.7	13.4	9.4	▲3968(H-11/X)
695	1975	A30	B00	剥片	-	SH	29.4	22.3	12	6.6	▲4435(H-12/X II)
697	1976	A31	B54	剥片	-	CH	10.1	5.7	3.2	0.11	▲4472(I-11/X I)
697	1977	A31	B54	石鏃	-	OB3	19.3	11.5	5.3	0.79	▲4453(I-11/X)
697	1978	A31	B54	二次加工剥片	-	SH	18.8	17.9	4.5	1.5	▲3974(I-11/X)
698	1979	A31	B55	微細剥離剥片	-	CH	55.5	41.5	15.6	27	▲11331(I-11/X)
698	1980	A31	B55	石核	-	CH	51	76.7	49.5	167	▲11254(I-10/X)
699	1981	A31	B00	石鏃	-	OB3	18.3	9.5	3.3	0.4	▲15291(J-10/X)
699	1982	A31	B00	石核	-	SH	31.1	31.6	39.9	50	▲15269(I-10/X)



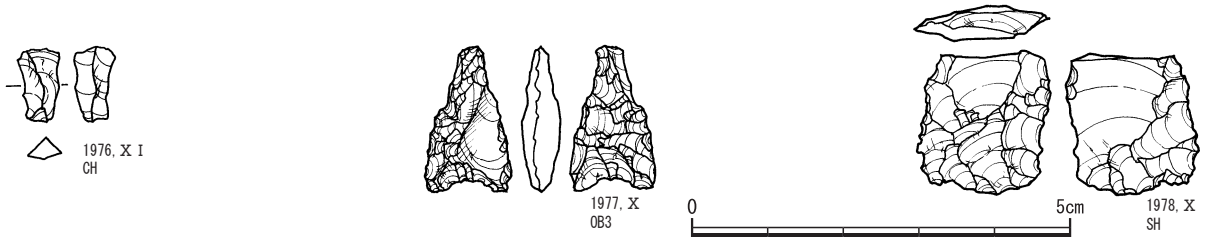
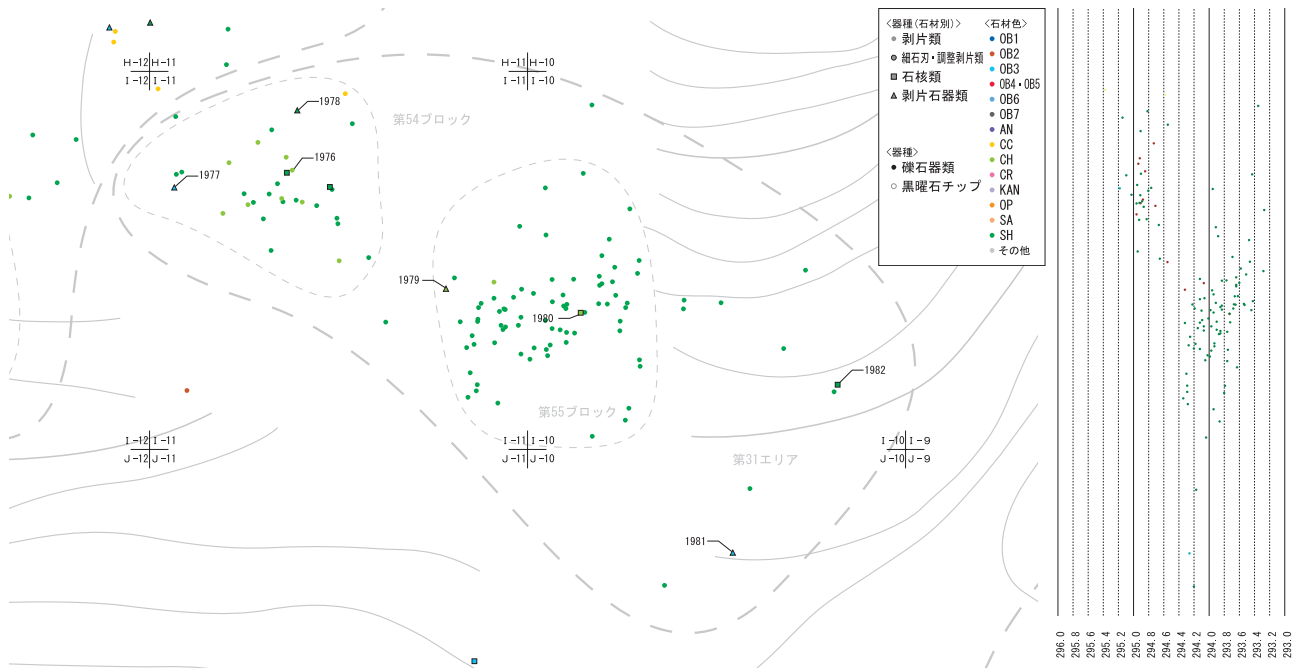
第693図 第三文化層第30エリア石器出土状況図



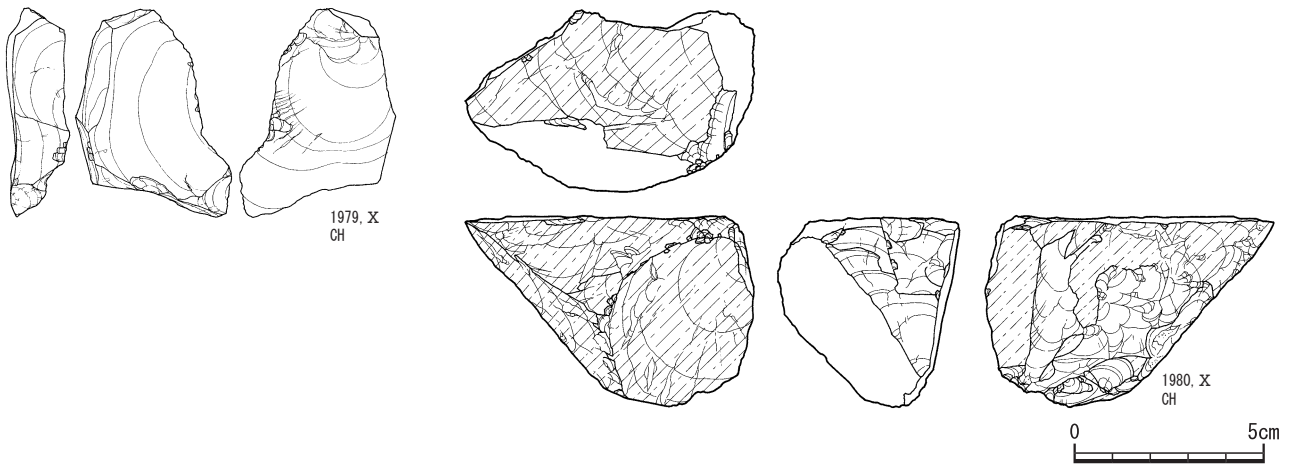
第694図 第三文化層第30エリア第53ブロック出土石器実測図



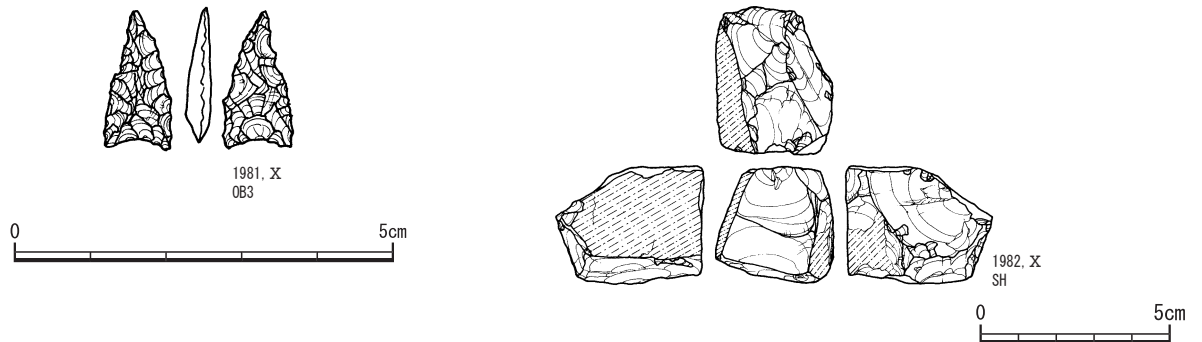
第695図 第三文化層第30エリア出土石器実測図



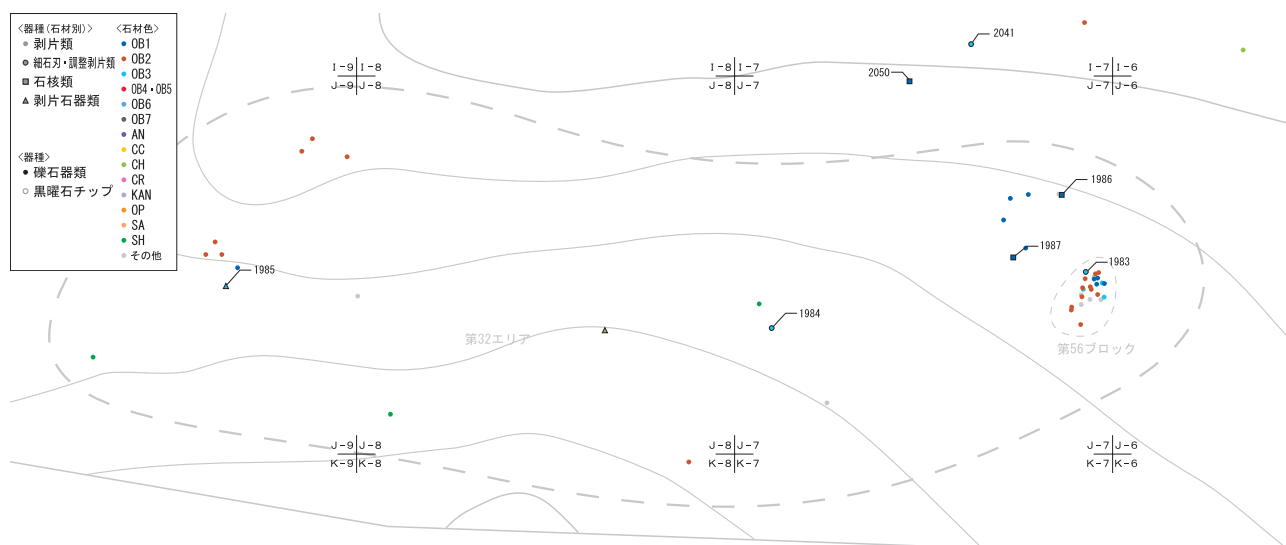
第697図 第三文化層第31エリア第54ブロック出土石器実測図



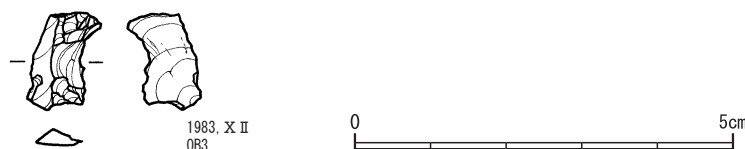
第698図 第三文化層第31エリア第55ブロック出土石器実測図



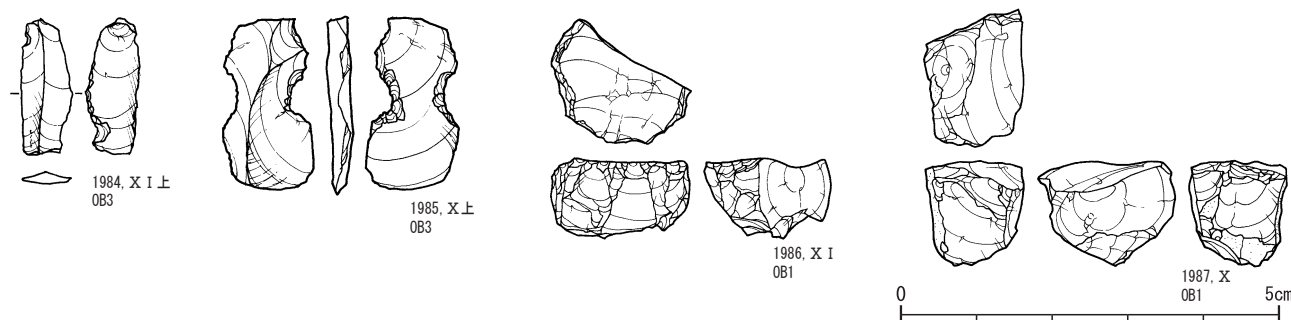
第699図 第三文化層第31エリア出土石器実測図



第700図 第Ⅲ文化層第32エリア石器出土状況図



第701図 第Ⅲ文化層第32エリア第56ブロック出土石器実測図



第702図 第Ⅲ文化層第32エリア出土石器実測図

る。1854もほぼ残核状態で、背面の剥離は、石核調整と判断される。最終作業面の打面確保は、打面調整を実施し、作業面の高さを減じながら進行した可能性がある。1856は分割素材の細石刃核ブランクである。1859は上層から、1858は下層からの混入とみられる。

第52ブロックの1920は打面再生剥片で、1919の細石刃作業面の幅は狭い。なお、細石刃関連では、黒曜石Ⅲ類が使用される。1933は黒色頁岩を用いた最大長8.9cm、最大幅3.2cm、最大厚2.1cmの小型丸鑿型石斧で、剥離整形後に敲打整形、研磨の順に仕上げている。1934は、平坦面に本体より硬度の高いもの(加工対象物)の衝撃痕ないしは引っ掻き痕が観察される。1935も先の1934と同様な位置に敲打痕あるいは衝撃痕が残される。

この第51・第52ブロックでは、基本的に黒曜石Ⅲ類を主体とした細石刃製作が行われたと判断できる。

第28エリア

耳取遺跡G～I-17・18区に分布するが、出土遺物は少ない。なお、XⅡ層が主体である。

剥片1点が確認できる。

第29エリア

耳取遺跡J-17区に分布し、黒曜石Ⅱ類と黒曜石Ⅲ類が使用されるが、出土量は少ない。

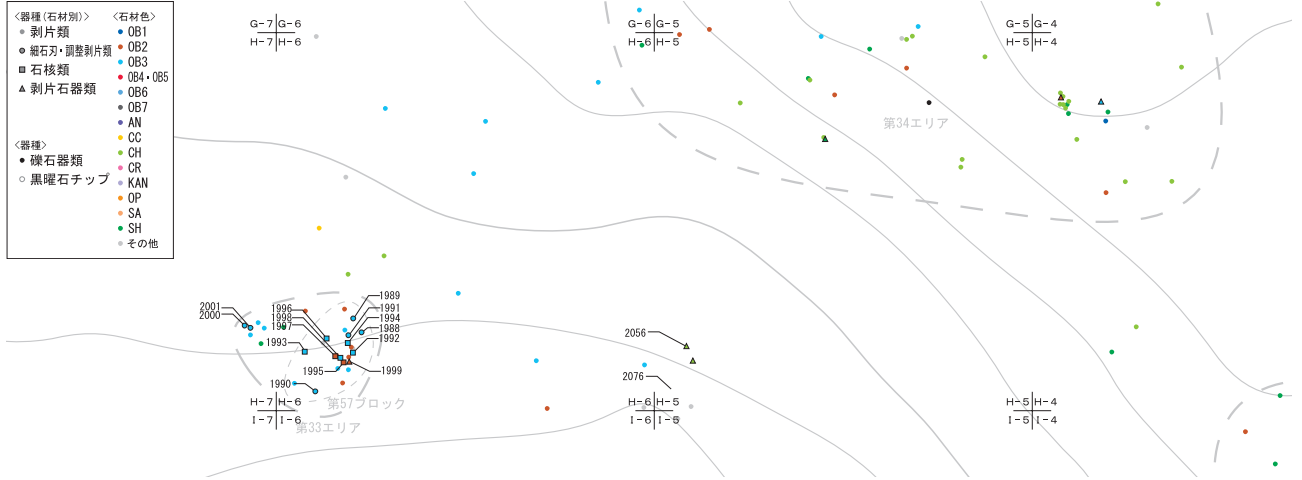
黒曜石Ⅲ類を使用した細石刃が出土し、細石刃の3分割が見られ、頭部だけが残される。残された細石刃は幅の広いもので、出土位置は第27ブロック同様下層に所属する。

第30エリア

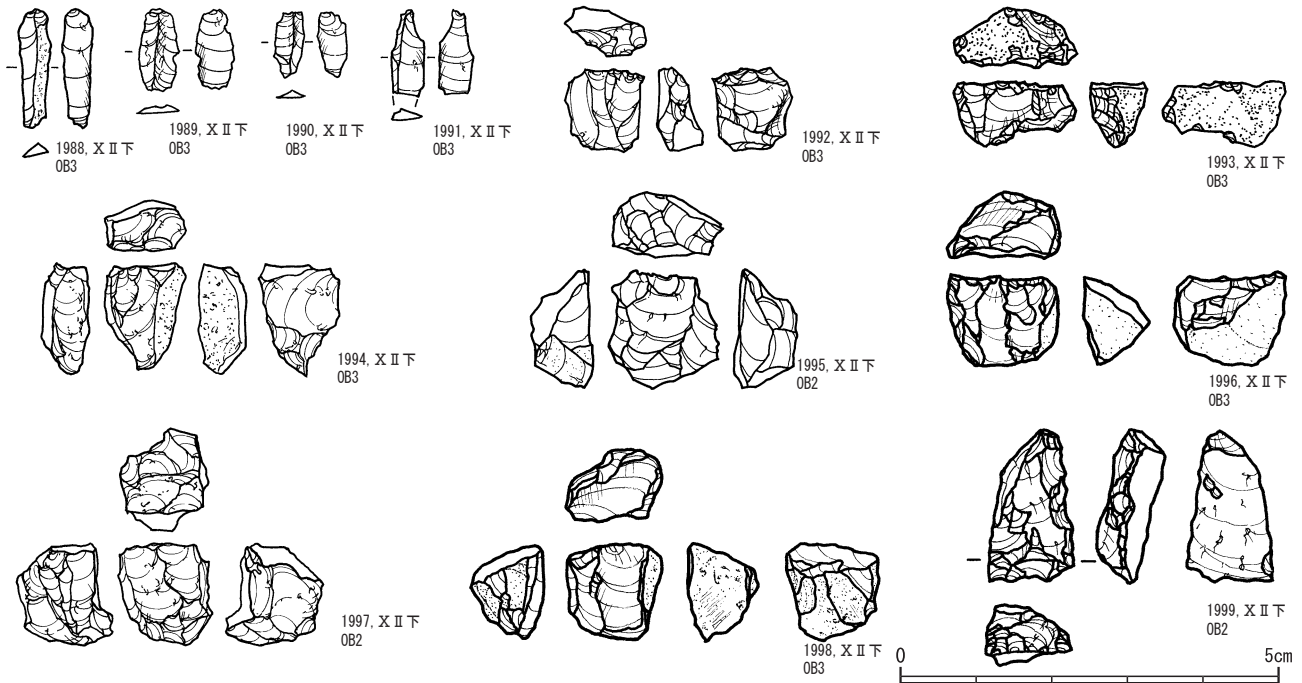
耳取遺跡H・I-11～13区に分布し、第31エリアと接し境界は明確でないが、使用石材の違いから区分している。黒曜石Ⅰ類を用いる第53ブロックを中心に構成する。なお、ブロック外では、頁岩・玉髓・黒曜石Ⅱ類等の石材が散在している。

黒曜石Ⅰ類を主体とする細石刃ブロックである。黒曜石Ⅲ類を使用した1963は剥片素材の細石刃核で、底面は作業面方向から、背面は右側面からの石核整形がみられる。ブロック外の細石刃は、黒曜石Ⅲ類と頁岩が使用され、第53ブロックとは異なった石材利用を見せる。

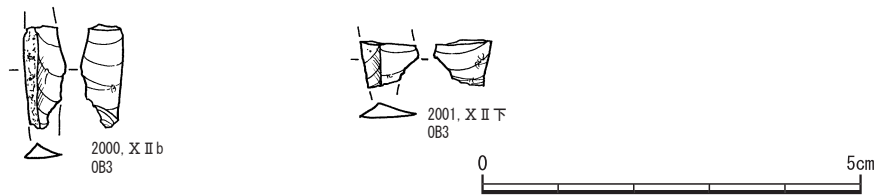
- <器種(石材別)>
- 剥片類
 - 剥石刃・調整剥片類
 - 石核類
 - ▲ 剥片石器類
- <器種>
- 礫石器類
 - 黒曜石チップ
- <石材色>
- OB1
 - OB2
 - OB3
 - OB4・OB5
 - OB6
 - OB7
 - AN
 - CC
 - CH
 - CR
 - KAN
 - OP
 - SA
 - SH
 - その他



第703図 第三文化層第33エリア石器出土状況図



第704図 第三文化層第33エリア第57ブロック出土石器実測図



第705図 第三文化層第33エリア出土石器実測図

第156表 第三文化層第32エリア出土石器観察表

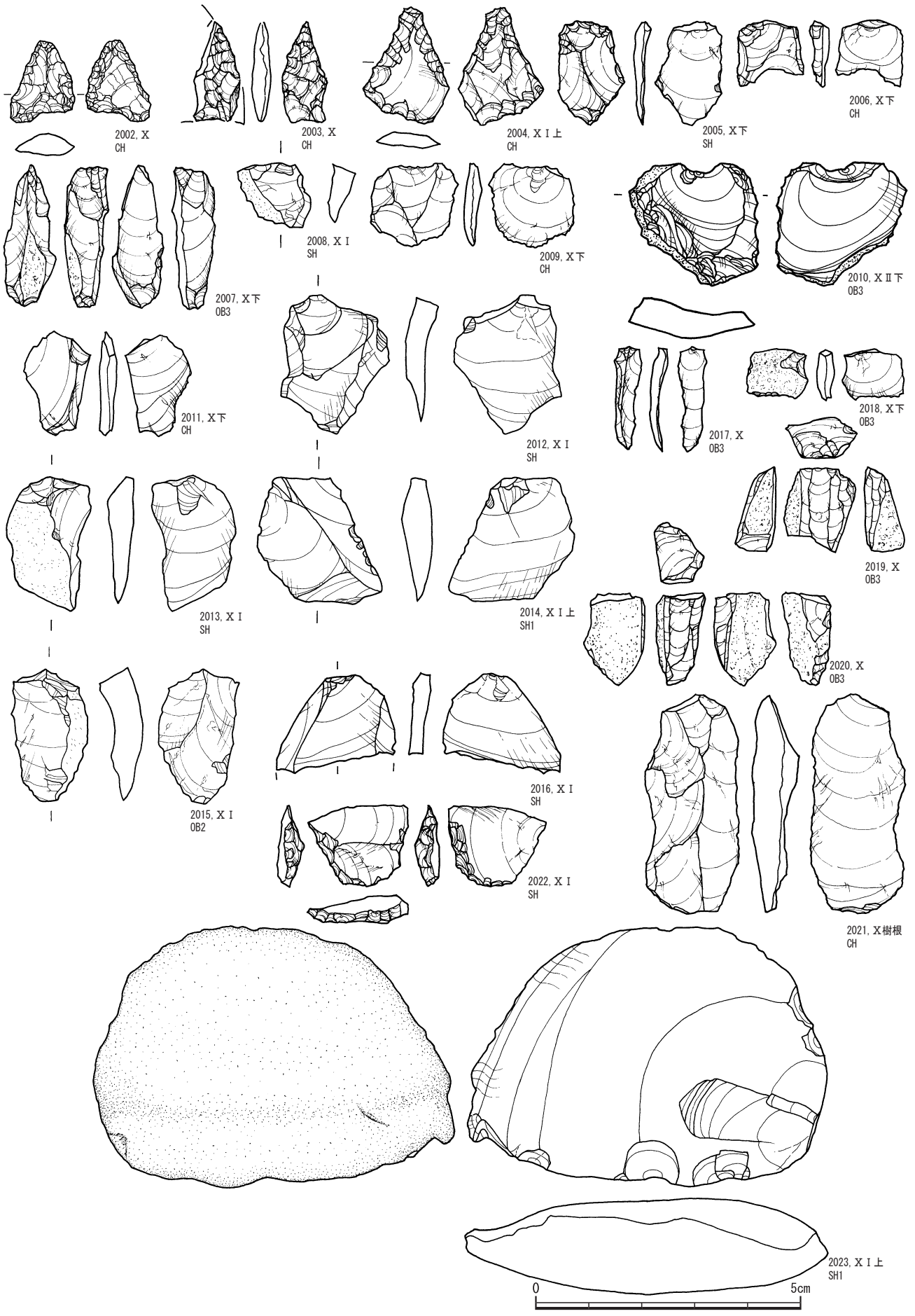
種別No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
701	1983	A32	B56	ファーストブレイク	-	OB3	13	10	2.4	0.2	▲18240(J-7/X II)
702	1984	A32	B00	細石刃	-	OB3	18.1	7.4	1.9	0.19	▲18263(J-7/X I上)
702	1985	A32	B00	挟入石器	-	OB3	23	12.6	3.4	0.92	▲18195(J-9/X上)
702	1986	A32	B00	細石刃核	-	OB1	10.8	18.5	18.8	2.7	▲17500(J-7/X I)
702	1987	A32	B00	石核	-	OB1	14.1	13.3	18.7	3.5	▲12615(J-7/X)

第157表 第三文化層第33エリア出土石器観察表(1)

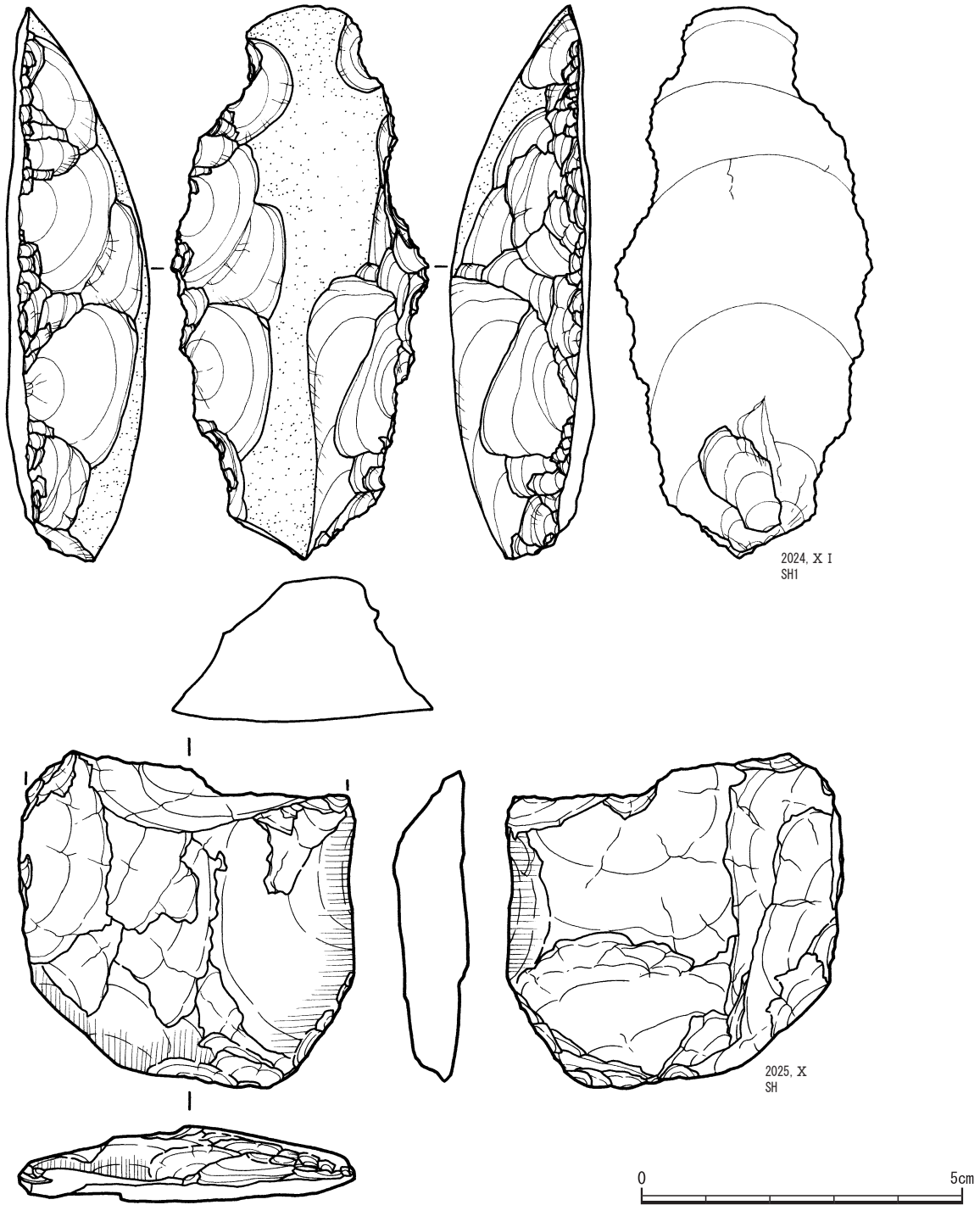
種別No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
704	1988	A33	B57	細石刃	-	OB3	15.9	4.3	1.5	0.14	▲16371(H-6/X II下)
704	1989	A33	B57	細石刃	-	OB3	10.7	5.3	1.4	0.04	▲16370(H-6/X II下)
704	1990	A33	B57	細石刃	-	OB3	8.8	4.1	1.5	0.03	▲16361(H-6/X II下)

第158表 第三文化層第33エリア出土石器観察表(2)

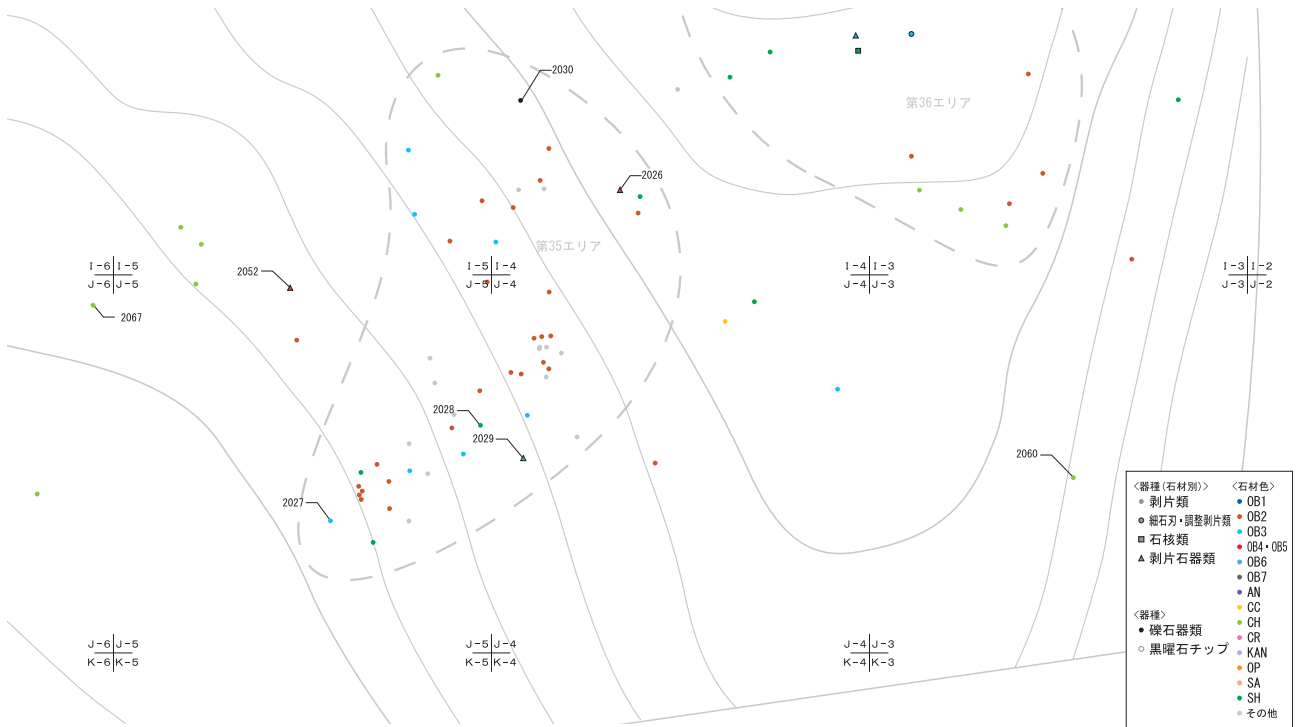
種別No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
704	1991	A33	B57	細石刃	-	OB3	11.2	4.8	1.6	0.08	▲16373(H-6/X II下)
704	1992	A33	B57	細石刃核	-	OB3	11.3	11.3	6.6	0.46	▲16376(H-6/X II下)
704	1993	A33	B57	細石刃核	-	OB3	8.8	16.4	8.2	0.93	▲16357(H-6/X II下)
704	1994	A33	B57	細石刃核	-	OB3	14.5	11.2	7	0.88	▲16374(H-6/X II下)
704	1995	A33	B57	石核	-	OB2	15.9	14.9	8.3	1.8	▲16555(H-6/X II下)
704	1996	A33	B57	細石刃核	-	OB3	12.4	15.3	9	1.2	▲16549(H-6/X II下)
704	1997	A33	B57	細石刃核	-	OB2	13.8	12.5	13.6	1.9	▲16552(H-6/X II下)
704	1998	A33	B57	細石刃核	-	OB3	13.2	12.7	9.4	1.4	▲16554(H-6/X II下)
704	1999	A33	B57	二次加工剥片	-	OB2	20.4	11.8	6.7	1.4	▲16556(H-6/X II下)
705	2000	A33	B00	細石刃	-	OB3	13.8	5.8	2	0.1	▲16350(H-7/X II b)
705	2001	A33	B00	細石刃	-	OB3	6.2	7.8	2	0.03	▲16351(H-7/X II下)



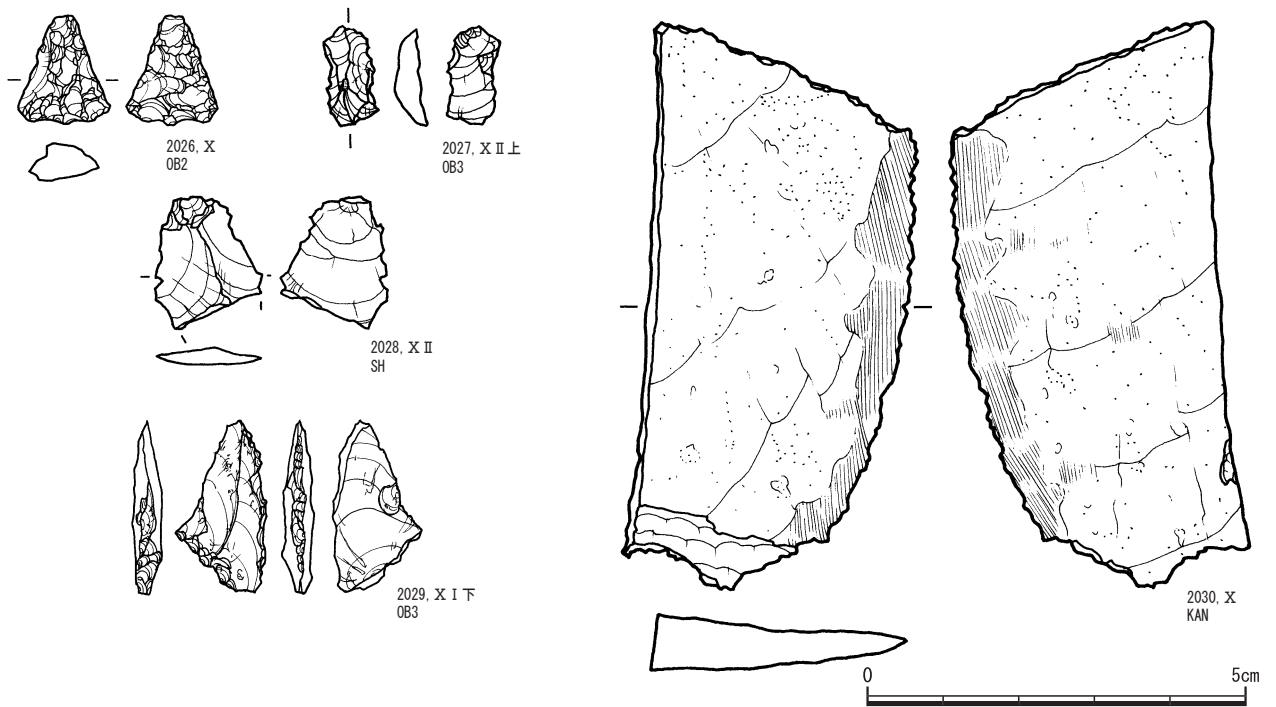
第707図 第Ⅲ文化層第34エリア出土石器実測図（1）



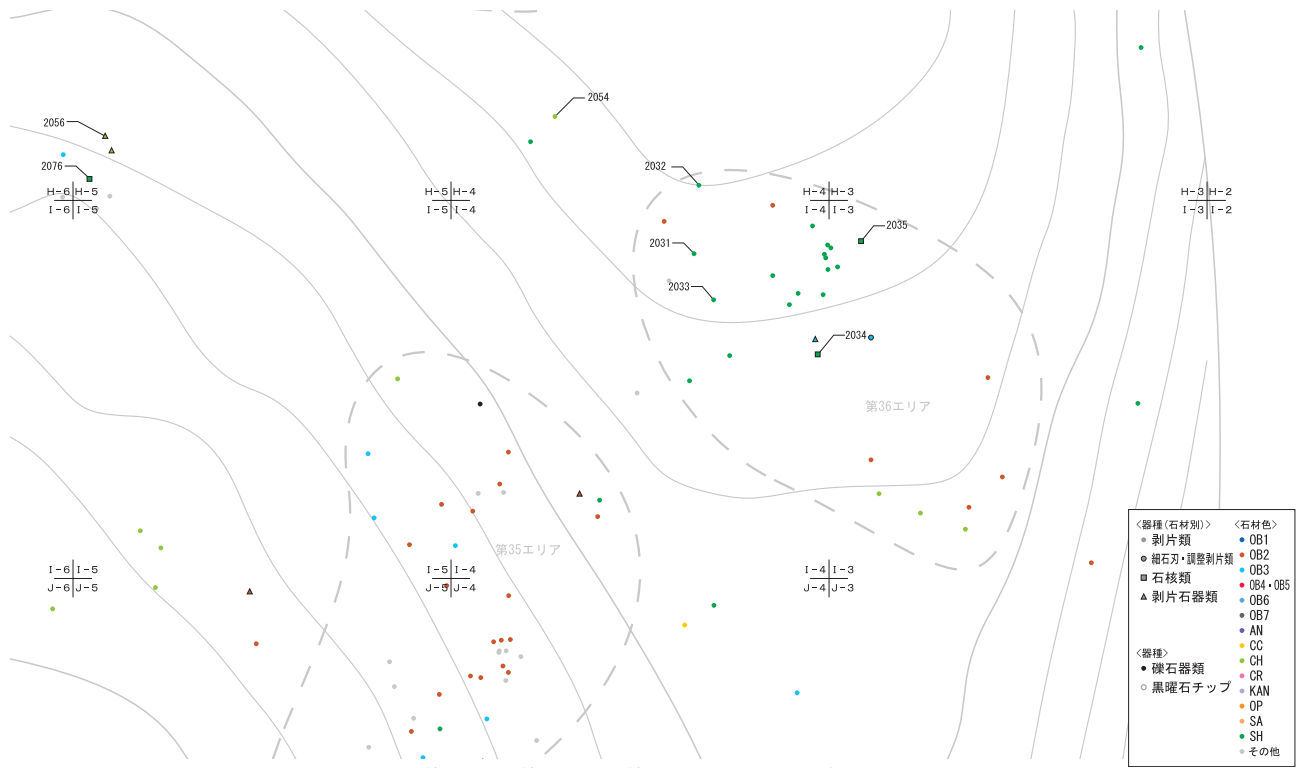
第708図 第三文化層第34エリア出土石器実測図（2）



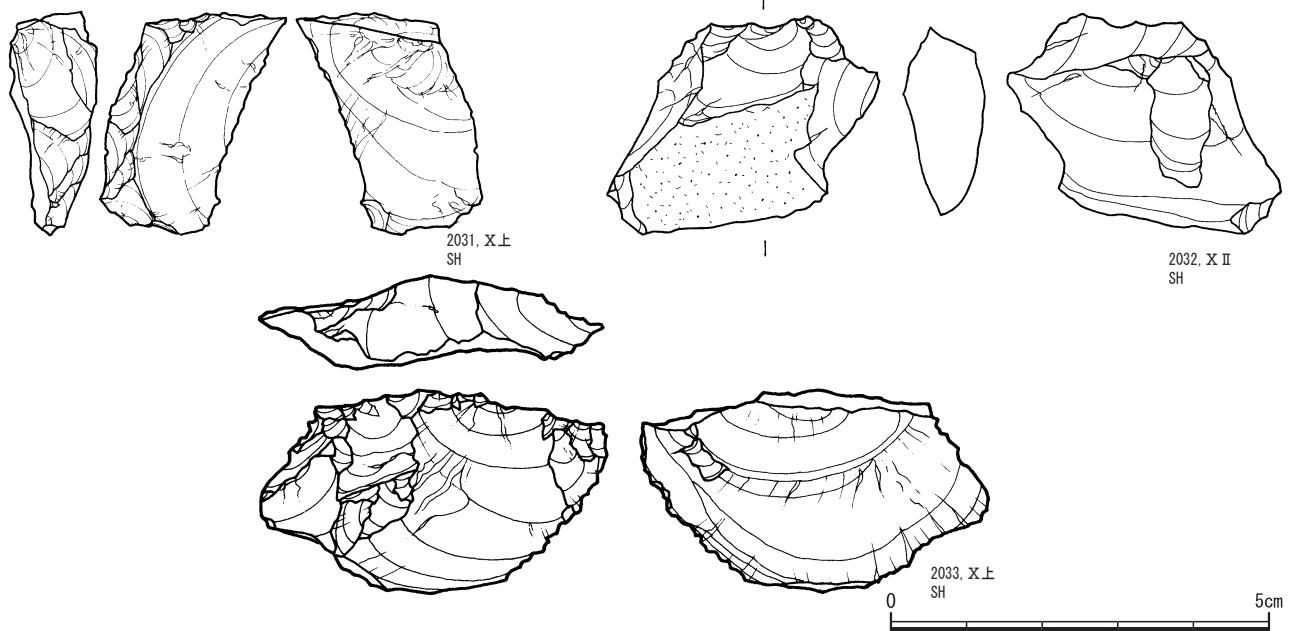
第709図 第Ⅲ文化層第35エリア石器出土状況図



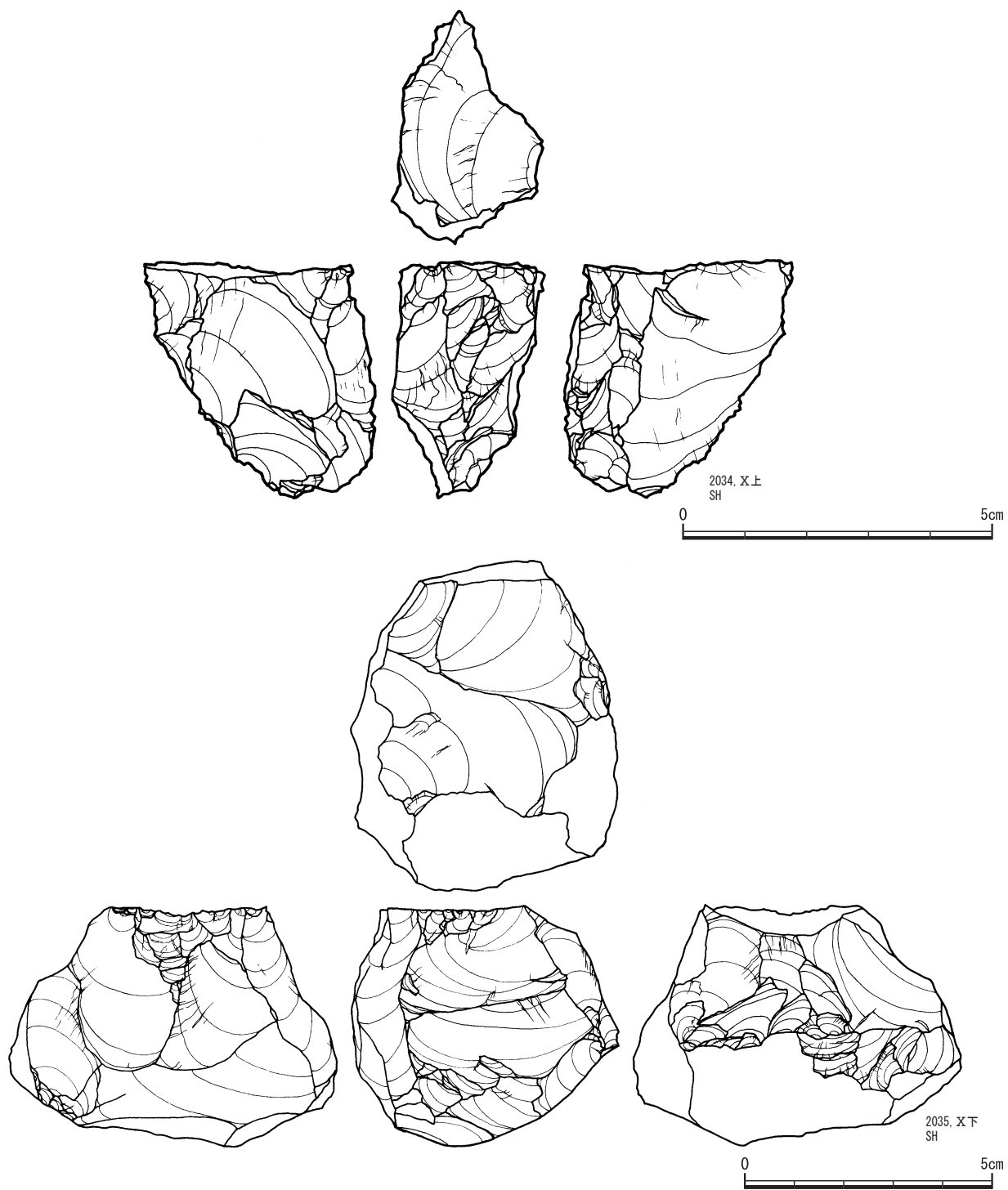
第710図 第Ⅲ文化層第35エリア出土石器実測図



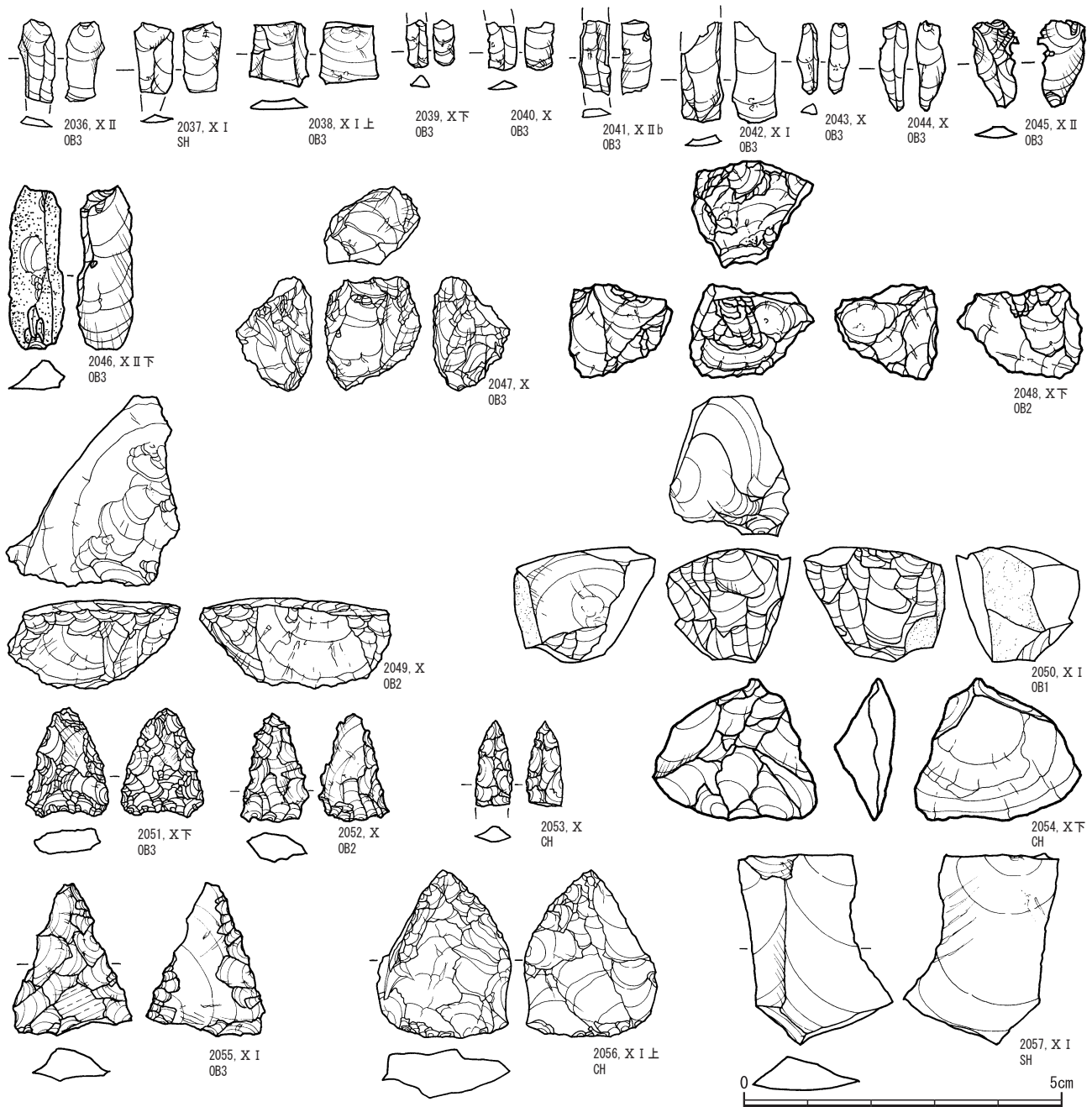
第711図 第三文化層第36エリア石器出土状況図



第712図 第三文化層第36エリア出土石器実測図(1)



第713図 第Ⅲ文化層第36エリア出土石器実測図（2）



第714図 第三文化層エリア外ブロック外出土石器実測図(1)

第159表 第三文化層第34エリア出土石器観察表(1)

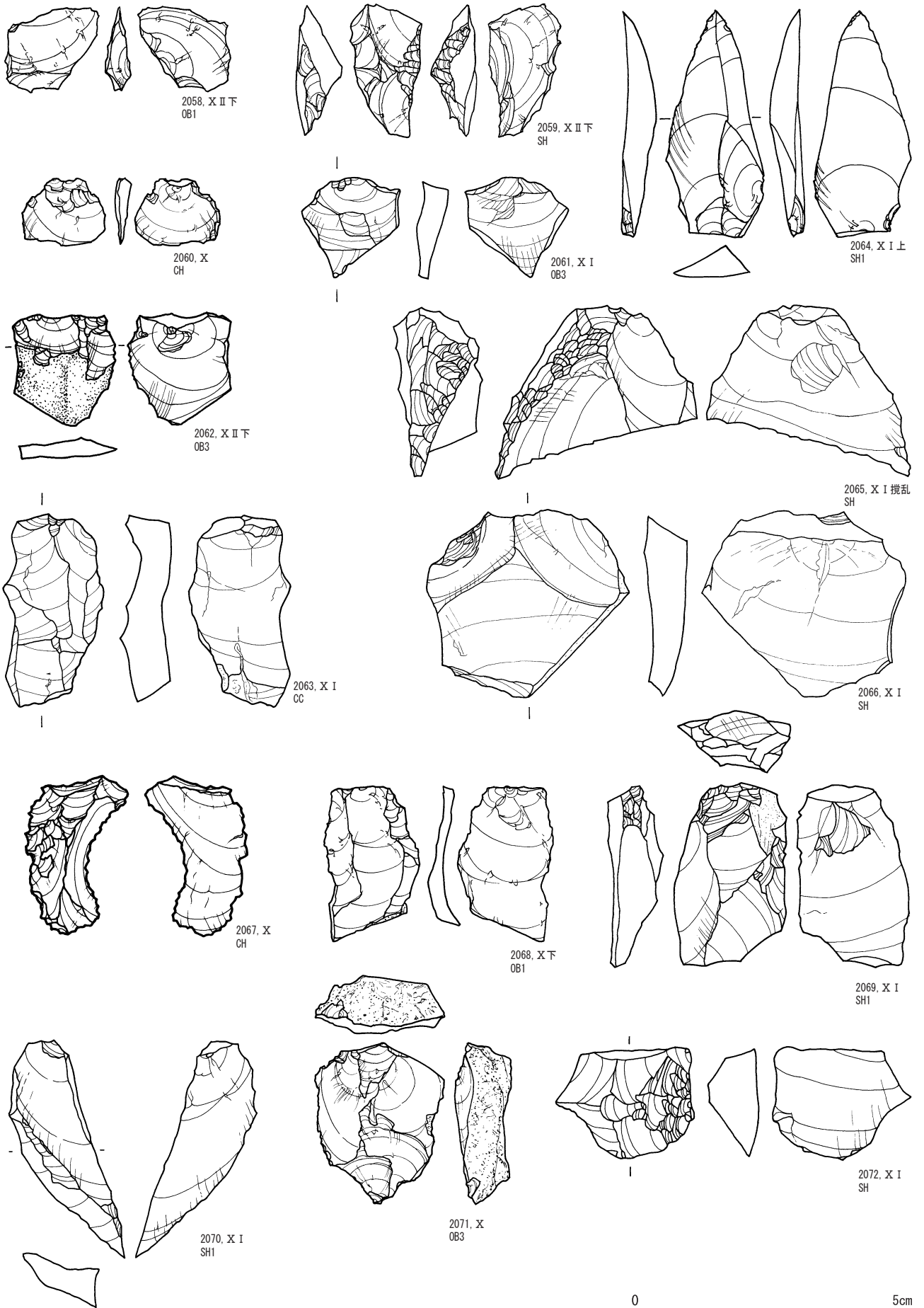
挿入No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
707	2002	A34	B00	石鏃	-	CH	15.6	12.5	4.5	0.64	▲13936(G-5/X)
707	2003	A34	B00	石鏃	-	CH	19.1	8.8	3.5	0.53	▲13931(G-5/X)
707	2004	A34	B00	石鏃	未製品	CH	22.3	16.4	2.9	0.98	▲10549(G-4/X I上)
707	2005	A34	B00	剥片	-	SH	19.8	12.9	3.2	0.58	▲13172(H-4/X下)
707	2006	A34	B00	剥片	-	CH	12.8	13	3.6	0.47	▲13173(H-4/X下)
707	2007	A34	B00	楔形石器	-	OB3	26.9	8.4	9.7	1.4	▲13002(H-4/X下)
707	2008	A34	B00	剥片	-	SH	12.4	14	4.4	0.46	▲12720(F-4/X I)
707	2009	A34	B00	剥片	-	CH	16	16.4	3.2	0.67	▲13147(H-4/X下)
707	2010	A34	B00	剥片	-	OB3	23.7	25	6.2	4.1	▲17540(G-5/X II下)
707	2011	A34	B00	剥片	-	CH	19.3	12.7	3.6	0.62	▲16216(G-5/X下)
707	2012	A34	B00	剥片	-	SH	26.4	20.5	6	2	▲12717(G-4/X I)
707	2013	A34	B00	剥片	-	SH	25.8	16.1	5.5	1.4	▲12718(G-4/X I)
707	2014	A34	B00	微細剥離痕剥片	-	SH1	23.6	24	6.1	2.3	▲10579(G-4/X I上)
707	2015	A34	B00	剥片	-	OB2	25.6	15.5	7.8	2.3	▲12711(G-4/X I)
707	2016	A34	B00	剥片	-	SH	19.3	22.5	3.8	1.3	▲12722(G-4/X I)
707	2017	A34	B00	細石刃	-	OB3	20	5.7	3	0.15	▲16213(G-5/X)
707	2018	A34	B00	剥片	-	OB3	9.8	11.9	3.8	0.38	▲16215(G-5/X下)
707	2019	A34	B00	細石刃核	-	OB3	16.1	13.8	7.9	1.3	▲16235(G-5/X)
707	2020	A34	B00	細石刃核	-	OB3	17.8	9.5	11.9	1.8	▲16249(F-4/X)

第160表 第三文化層第34エリア出土石器観察表(2)

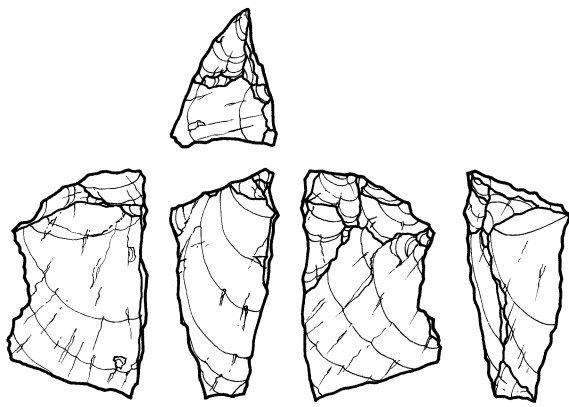
挿入No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
707	2021	A34	B00	剥片	-	CH	41.6	18.3	8.7	5.6	▲16994(H-4/X樹根)
707	2022	A34	B00	台形石器	-	SH	15.4	18.7	5	1.2	▲12712(G-4/X I)
707	2023	A34	B00	剥片	-	SH1	49.3	68.1	18.4	60	▲10580(G-4/X I上)
708	2024	A34	B00	削器	-	SH1	86.2	40.5	24	66.65	▲17496(H-5/X I)
708	2025	A34	B00	打製石斧	-	SH	52.6	53	11.3	29	▲17330(H-5/X)

第161表 第三文化層第35エリア出土石器観察表

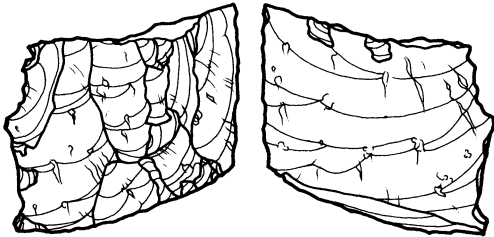
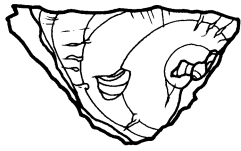
挿入No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
710	2026	A35	B00	石鏃	-	OB2	14.7	12.3	5.4	0.63	▲16146(I-4/X)
710	2027	A35	B00	剥片	-	OB3	13.2	7.3	3.7	0.3	▲18442(J-5/X II上)
710	2028	A35	B00	剥片	-	SH	17.7	14.4	2.5	0.5	▲17985(J-5/X II)
710	2029	A35	B00	ナイフ形石器	-	OB3	22.4	11.9	4.1	0.8	▲18429(J-4/X I下)
710	2030	A35	B00	刃部磨製石器	-	KAN	75.2	40	7.7	27	▲16144(I-4/X)
712	2031	A36	B00	剥片	-	SH	29.5	24.8	11.4	5.6	▲18636(I-4/X上)
712	2032	A36	B00	剥片	-	SH	29.3	36.4	11	9	▲13702(H-4/X II)
712	2033	A36	B00	剥片	-	SH	27.2	46.4	11.1	15	▲18635(I-4/X上)
713	2034	A36	B00	石核	-	SH	38.6	25	38	28	▲18633(I-4/X上)
713	2035	A36	B00	石核	-	SH	48.9	54.4	66.2	201	▲18622(I-3/X下)



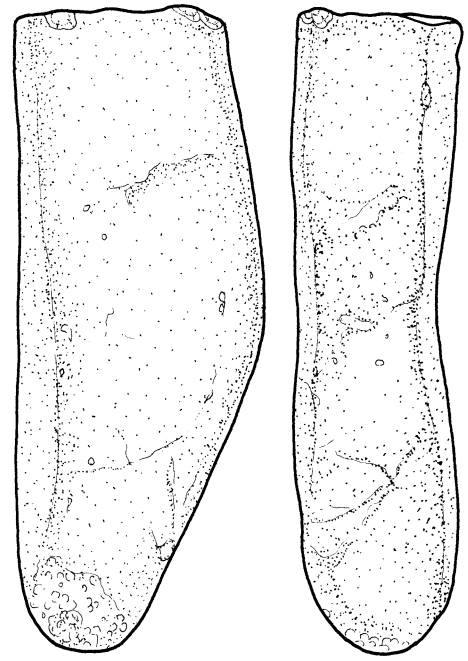
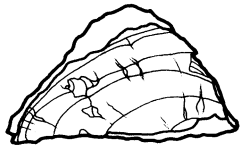
第715図 第Ⅲ文化層エリア外ブロック外出土石器実測図(2)



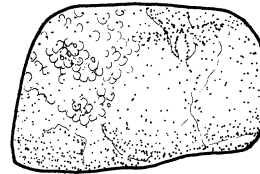
2073. X
OB2



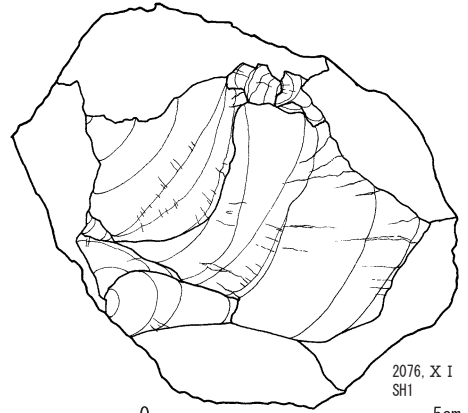
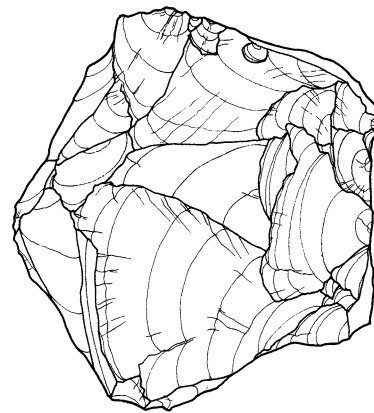
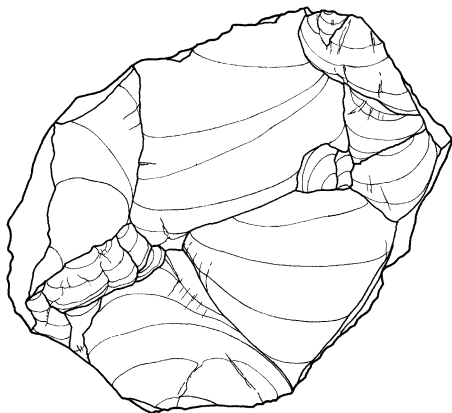
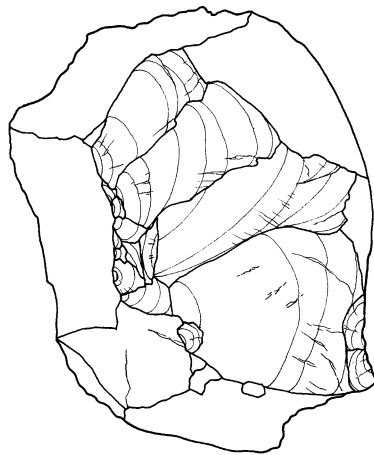
2074. X I 攪乱
OB2



2075. X
SA



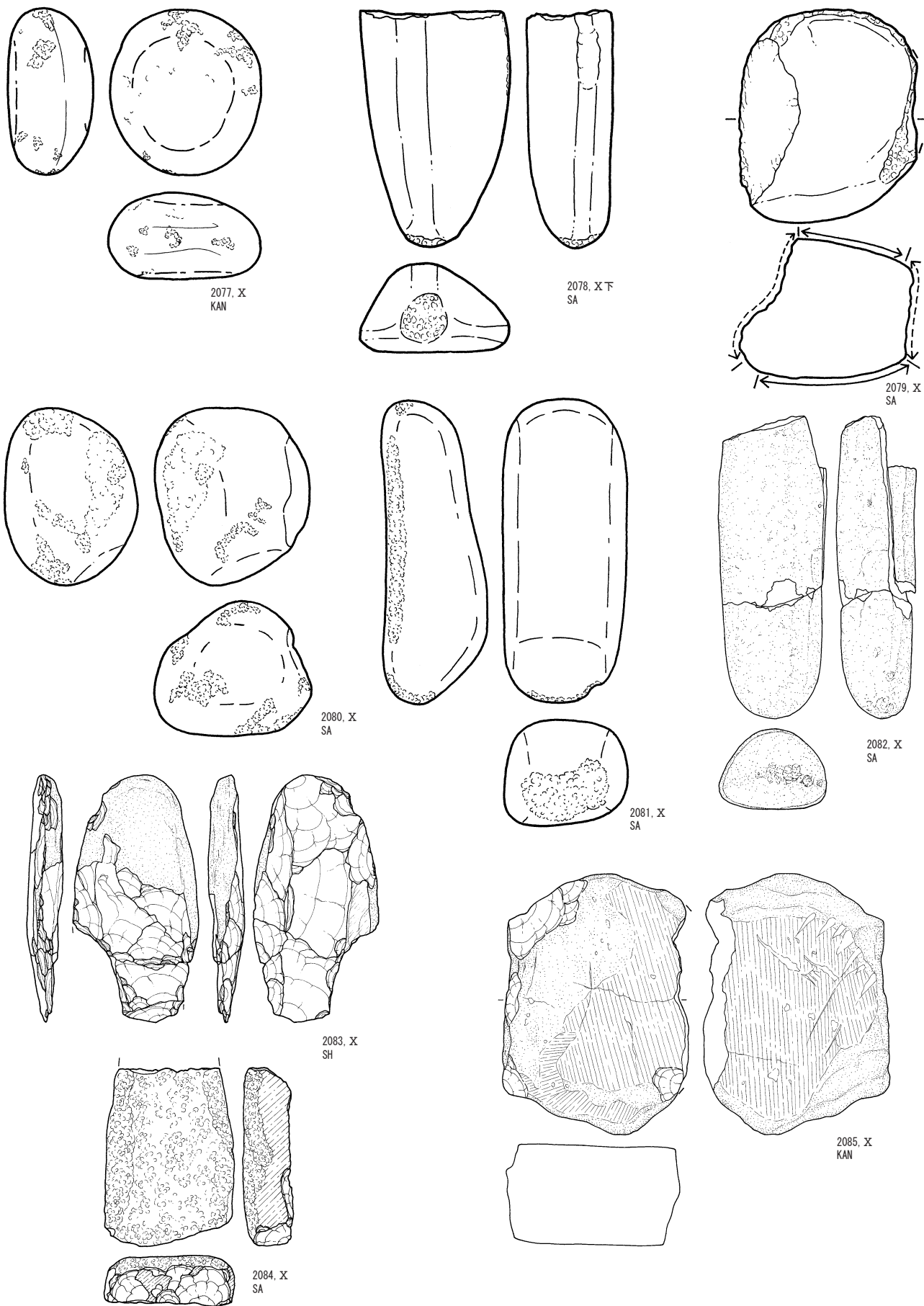
0 5cm



2076. X I
SH1

0 5cm

第716図 第Ⅲ文化層エリア外ブロック外出土石器実測図(3)



第717図 第Ⅲ文化層エリア外ブロック外出土石器実測図(4)

第162表 第三文化層エリア外ブロック外出土石器観察表(1)

採掘No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
714	2036	A00	B00	細石刃	-	OB3	12.7	6.4	2.0	0.07	▲2691(H-20/X II)
714	2037	A00	B00	細石刃	-	SH	11.3	6.2	1.7	0.09	●9313(-/X I)
714	2038	A00	B00	細石刃	-	OB3	10	9.5	2.7	0.19	○61734(D-7/X I上)
714	2039	A00	B00	細石刃	-	OB3	7.4	3.6	1.1	0.02	○41224(-/X下)
714	2040	A00	B00	細石刃	-	OB3	7.8	4.8	1.2	0.03	◎41252(-/X)
714	2041	A00	B00	細石刃	-	OB3	12	5	1.9	0.1	▲16381(I-7/X IIb)
714	2042	A00	B00	細石刃	-	OB3	16.1	7.2	1.8	0.11	◎13411(あ-13/X I)
714	2043	A00	B00	細石刃	-	OB3	11.3	3.5	1.7	0.05	◎41250(-/X)
714	2044	A00	B00	細石刃	-	OB3	14.4	4.8	2.5	0.07	◎41249(-/X)
714	2045	A00	B00	細石刃	-	OB3	13.9	7.7	2.0	0.12	▲15311(I-9/X II)
714	2046	A00	B00	剥片	-	OB3	26	9.1	4.4	0.97	▲17541(G-6/X II下)
714	2047	A00	B00	細石刃核	-	OB3	18.1	15.3	11.5	2.3	●50212(-/X)
714	2048	A00	B00	細石刃核	-	OB2	15	19.9	16.0	3.9	○57832(C-16/X下)
714	2049	A00	B00	ブランク	-	OB2	14.2	27.3	30.5	8.7	●8406(C-26/X)
714	2050	A00	B00	細石刃核	-	OB1	18.1	19.8	21.6	8.2	▲14363(J-7/X I)
714	2051	A00	B00	石鏃	-	OB3	17.3	13.2	4.0	0.72	▲8009(I-13/X下)
714	2052	A00	B00	石鏃	-	OB2	17.1	11.3	4.7	0.59	▲16139(J-5/X)
714	2053	A00	B00	二次加工産剥片	-	CH	13.5	6.2	2.5	0.23	○57886(-/X)
714	2054	A00	B00	剥片	-	CH	22.7	26.5	8.6	4	▲12989(H-4/X下)
714	2055	A00	B00	石鏃	-	OB3	24.4	18.9	6.2	1.6	▲12754(H-3/X I)
714	2056	A00	B00	石鏃	未製品	CH	26.4	21.1	7.4	3.6	▲17494(H-5/X I上)
714	2057	A00	B00	剥片	-	SH	30.2	24.6	6.9	3.1	▲5612(I-13/X I)
715	2058	A00	B00	剥片	-	OB1	16.1	17.5	4.4	0.92	▲13958(I-8/X II下)
715	2059	A00	B00	ナイフ形石器	-	SH	24.9	13.7	9.4	2.2	▲13959(I-8/X II下)
715	2060	A00	B00	剥片	-	CH	12.7	16.1	2.6	0.42	▲12772(J-3/X)

第163表 第三文化層エリア外ブロック外出土石器観察表(2)

採掘No	図No	エリア	ブロック	分類L2	分類L3	石材L1	最大長	最大幅	最大厚	重量	取上No(グリッド/層位)
715	2061	A00	B00	剥片	-	OB3	18.9	19.5	4.7	1.3	▲10537(F-5/X I)
715	2062	A00	B00	剥片	-	OB3	21.2	19.6	4.6	1.4	▲13957(I-8/X II下)
715	2063	A00	B00	剥片	-	CC	36	19.3	11.8	6.8	▲11449(I-12/X I)
715	2064	A00	B00	ナイフ形石器	-	SH1	42.4	18.4	5.5	2.6	▲11515(J-13/X I上)
715	2065	A00	B00	剥片	-	SH	32.2	38.3	15.6	13	▲13201(G-3/X I攪乱)
715	2066	A00	B00	剥片	-	SH	34.9	38.2	9.7	11	▲12730(F-4/X I)
715	2067	A00	B00	剥片	-	CH	30.2	19.5	5.9	1.8	▲17498(J-6/X)
715	2068	A00	B00	微細剥離痕剥片	-	OB1	30.7	19.7	5.8	2.4	◎41234(-/X下)
715	2069	A00	B00	微細剥離痕剥片	-	SH1	34.2	21.2	9.8	6.9	▲10538(F-5/X I)
715	2070	A00	B00	剥片	-	SH1	40.5	22.8	10.2	4.6	▲12732(F-4/X I)
715	2071	A00	B00	両極石核	-	OB3	30.3	24.4	10.5	6.6	▲11350(J-20/X)
715	2072	A00	B00	剥片	-	SH	21.3	26	9.9	4.5	▲10328(E-5/X I)
716	2073	A00	B00	剥片	-	OB2	30.6	14.6	14.2	5.7	○66990(G-7/X)
716	2074	A00	B00	剥片	-	OB2	30.8	31	19.2	16	▲13203(G-3/X I攪乱)
716	2075	A00	B00	ハンマー	-	SA	85.7	33.5	22.0	97	▲3511(J-13/X)
716	2076	A00	B00	石核	-	SH1	66.9	60.3	80.0	320	▲17736(H-5/X I)
717	2077	A00	B00	磨石	/敷	KAN	61.8	56.2	31.7	149	◎10572(A-14/X)
717	2078	A00	B00	磨石	/敷	SA	87.7	56.1	31.4	193	◎41265(-/X下)
717	2079	A00	B00	磨石	/敷	SA	79	66	53.2	370	◎41228(-/X)
717	2080	A00	B00	磨石	/敷	SA	65.8	57.6	49.2	192	◎41261(-/X)
717	2081	A00	B00	敲石	排状剥離材	SA	112.3	46.6	38.1	250	◎41238(-/X)
717	2082	A00	B00	ハンマー	排状剥離材	SA	111.3	41	29.1	149	○56561(-/X)
717	2083	A00	B00	打製石斧	-	SH	91.2	46.4	13.4	54	▲11446(J-12/X)
717	2084	A00	B00	破石	-	SA	65.8	48	15.8	74	○62435(F-4/X)
717	2085	A00	B00	石皿	-	KAN	96.1	68.7	37.2	425	○62455(H-4/X)

鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 91

東九州自動車道建設（末吉財部 IC～国分 IC間）に伴う発掘調査報告書

桐木耳取遺跡

発行日 平成 17 年 3 月 31 日
発 行 鹿児島県立埋蔵文化財センター
〒 899-4461
鹿児島県国分市上之段 1175 番地 1
印 刷 洵上印刷株式会社
〒 892-0845
鹿児島県鹿児島市樋之口町 6-6